科目名	法学概論	科目名（英文）	Jurisprudence
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小野　晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○		
科目ナンバリング	JDJ1001a0		

授業概要・目的	・法は、多様な人々が共同生活を営むための相互尊重のルールであり、我々の生活を豊かにするための制度である。 ・このような法の特色と目的を踏まえつつ、現代社会の中で生じている紛争に対して、法がどのような役割を果たし、かつ、いかに争いごとを解決しているかについて、個別の法領域ごとに具体的な事件を参照しながら理解することを主な目標とする。
到達目標	この講義を通じて学生には、 ・「法」と「道徳＝倫理」の違いや法令の種類について説明できる ・婚約、婚姻、内縁、離婚、相続をめぐる論点について説明できる ・民法の財産法や刑事法の諸原理について説明ができる ようになることが期待される。
授業方法と留意点	・講義形式で行う（社会情勢上、その変更が必要な場合は遅滞なく連絡する）。 ・本講義は、ICT ツールとして Microsoft 社の teams を用いる。 ・課題提示や資料配布などは Microsoft 社 teams を通じて行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。
科目学習の効果（資格）	・公務員試験や各種資格試験に必要とされる法学の基礎的知識を身につけることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 法とは何か	・講義内容と文献の紹介 ・法と道徳の違い ・法の強制力 ・法の分類	・教科書の入手 配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約２時間）
2	憲法と法律（法令の種類）	・法治国家と法の支配 ・国際社会と法	事前：授業テーマの予習（２時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約２時間）
3	民事法①（不法行為法①）	学校における「いじめ」問題と法の役割	事前：授業テーマの予習（２時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約２時間）
4	労働法①	・ブラック企業問題と労働者保護	事前：授業テーマの予習（２時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約２時間）
5	刑事法①	・裁判員裁判の仕組みとその問題点 ・悪質動画貼り付けと器物損壊および偽計業務妨害罪 ・闇バイトを通じた犯罪関与	事前：授業テーマの予習（２時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約２時間）
6	刑事法②	・犯罪の成立要件 ・・ストーカー行為規制法の最前線	事前：授業テーマの予習（２時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約２時間）
7	労働法②	・採用内定と法的規制 ・正規雇用と非正規雇用	事前：授業テーマの予習（２時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約２時間）
8	民事法②（家族法①）	・家族の範囲	事前：授業テーマの予習（２時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約２時間）
9	民事法③（家族法②）	・家族法の基本原理 ・婚約の法的効果ほか ・婚姻（結婚）の法的要件・効果 ・夫婦の財産関係	事前：授業テーマの予習（２時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約２時間）
10	民事法④（家族法③）	・離婚の法的効果	事前：授業テーマの予習（２時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約２時間）
11	民事法⑤（家族法④）	・離婚の手続き・親子関係と親権	事前：授業テーマの予習（２時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約２時間）
12	民事法⑥（不法行為法②）	・各種ハラスメントと法 ・不法行為と損害賠償	事前：授業テーマの予習（２時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約２時間）
13	民事法⑦（財産法①）	・賃貸住宅をめぐるトラブル―敷金と敷引特約	事前：授業テーマの予習（２時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約２時間）
14	民事法⑧（財産法②）	・被災と住宅ローン減免の可否	事前：授業テーマの予習（２時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約２時間）
15	刑事法③＋行政法＋民事法⑨	・ドメスティック・バイオレンス（DV）とデート DV	事前：授業テーマの予習（２時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約２時間）

関連科目	日本国憲法、行政法、刑法、民法、国際法ほか

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新入生のためのリーガル・トピック 50	阿部昌樹・　和田仁孝	法律文化社
2			
3			

参考書

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 法学入門（第6版補訂版）（有斐閣双書） / 末川　博/編著 / 有斐閣 2 / 現代法学入門（第4版）（有斐閣双書） / 伊藤　正己＝加藤一郎/編著 / 有斐閣 3 / 判例法学（第5版） / 西村　健一郎＝西井　正弘＝初宿　正典/編著 / 有斐閣
評価方法 （基準）	・形成的評価を行うため、各回講義後に、Microsoft 社 teams を通じて Microsoft　forms から課題を配信する。各回の課題の得点を合算して評価対象とする（講義の理解度 5%＋課題の得点 95%）。定期試験は実施しない。
学生への メッセージ	・法律系の番組が好きな方、あるいは、公務員試験受験や法学系資格取得を念頭に置いている方は、ぜひ受講してみてください。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　　小野教授室
備考	課題に対するコメントは次回講義または teams を通じて行う。

科目名	法哲学総論	科目名（英文）	Philosophy of Law (General Theories)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	松島　裕一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3002a0		

授業概要・目的	法哲学とは、その名の通り、法を哲学的に考察する学問分野です。「哲学」という言葉の響きに嫌悪感や苦手意識を持っている学生がいるかもしれませんが、「哲学的に考察する」とは、言い方を換えれば、「物事を批判的に考えてみる」ことにほかなりません。 したがってこの講義では、法や正義にまつわるさまざまな問題を、条文や判例にとらわれずに――そして可能なかぎり哲学の難しい専門用語を使わずに――批判的に考えてみたいと思います。
到達目標	この授業を通じて学生には、現代社会のさまざまな問題点を正確に理解し、さらにそれらの問題に対して自分の見解を論理的に組み立てられるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	毎回配布するレジュメ（パワポ）に従って、講義を行う。オンデマンド授業とは異なり、対面の授業では可能なかぎりグループワークやディスカッションの機会を設けるつもりである。
科目学習の効果（資格）	法学検定試験や公務員試験などの教養問題に一部対応しています。また、法哲学で扱われるテーマは法科大学院入学試験の小論文（未修者コース）の素材となることが多いので、法科大学院の受験を検討している学生には受講を強く推奨します。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	法哲学とは？	授業の進め方や成績評価の方法などを説明したあと、これから学習していく「法哲学」がどのような科目なのか、なぜ法学部で法哲学を学ぶ必要があるのかを簡単に解説します。	授業開始前にレジュメで予習に取り組んでください。授業終了後に、レジュメを見直してください。また、憲法や民法などの実定法学との違いを意識しながら、「法哲学」という科目の特徴を説明できるようになること(事前・事後とも各 120 分)。
2	人工生殖とその法規制	科学技術の進展とともに人工生殖技術も劇的に発展しています。近年代理母やクローンが社会問題になっていますが、これらは全面的に禁止されるべきでしょうか？	授業開始前にレジュメで予習に取り組んでください。授業終了後に、レジュメを見直してください。また、J・S・ミルの「他者危害原理」という考え方を理解したうえで、代理母の是非について自分の見解を述べられるようになること(事前・事後とも各 120 分)。
3	死をめぐる自己決定	自分の所有物は自分の意思で自由に処分できるのが原則です。しかし、自分の命を自由に処分することは許されるでしょうか？　例えば、人間には自殺する自由があるでしょうか？	授業開始前にレジュメで予習に取り組んでください。授業終了後に、レジュメを見直してください。また、リバタリアンの自己所有権という考え方を理解したうえで、臓器売買の是非について自分の見解を述べられるようになること(事前･事後とも各 120 分)。
4	パターナリズム	他人に迷惑を掛けなければ自分の身体を自由に使用してもよいでしょうか？例えば、当事者の自由意思に基づく売春や麻薬使用は禁止されるべきことなのでしょうか？	授業開始前にレジュメで予習に取り組んでください。授業終了後に、レジュメを見直してください。また、パターリズムという考え方を理解したうえで、シートベルト着用義務の是非について自分の見解を述べられるようになること(事前・事後とも各 120 分)。
5	表現の自由	近年ヘイトスピーチが日本でも問題になっており、その法規制をめぐって賛否両論があります。はたして日本でもヘイトスピーチ規正法は必要でしょうか？またそれは本当に有効なのでしょうか？	授業開始前にレジュメで予習に取り組んでください。授業終了後に、レジュメを見直してください。また、「表現の自由の優越的地位」という考え方を理解したうえで、ヘイトスピーチ規正法の必要性について自分の見解が述べられるようになること(事前・事後とも各 120 分)。
6	死刑制度	日本では死刑制度が存置されていますが、世界的に見れば死刑廃止国が増加しています。死刑制度は本当に必要でしょうか？　必要だとすればそれはなぜでしょうか？	授業開始前にレジュメで予習に取り組んでください。授業終了後に、レジュメを見直してください。また、死刑に対するベッカリーアやカントらの考え方を理解したうえで、ヘイトスピーチ規正法の必要性について自分の見解を述べられるようになること(事前・事後とも各 120 分)。
7	動物の権利	動物はペットとして人間によって保護されていますが、他方で、医学の実験などにおいてはその命を利用されています。そもそも人間にとって動物はいかなる存在なのでしょうか？	授業開始前にレジュメで予習に取り組んでください。授業終了後に、レジュメを見直してください。また、苦痛に対するシンガーの考え方を理解したうえで、医学のための動物実験の是非について自分の見解を述べられるようになること(事前・事後とも各 120 分)。
8	格差社会における平等	近年日本では貧富の差が拡大しており、格差社会という語がキーワードになっています。はたして、国家はこうした格差を是正する必要があるでしょうか、それとも各人の努力にゆだねるべきでしょうか？	授業開始前にレジュメで予習に取り組んでください。授業終了後に、レジュメを見直してください。また、積極的差別是正措置の問題点を理解したうえで、日本への導入の可否について自分の見解を述べられるようになること(事前・事後とも各 120 分)。
9	国境を超える正義	日本は世界でも有数の豊かな国ですが、貧困に苦しむ国も世界には数多くあります。日本は貧困国を援助する義務があるでしょうか？　義務があるとすれば、それはなぜでしょうか？	授業開始前にレジュメで予習に取り組んでください。授業終了後に、レジュメを見直してください。また、国際援助に対するロールズやポッゲらの考え方を理解したうえで、日本の ODA の在り方について自分の見解を述べられるようになること(事前・事後とも各 120 分)。
10	文化の相違を超えて	世界の国々には他国の人々にはなかなか理解しがたいさまざまな風習があります。例えば、アフリカには女子割礼の風習がありますが、その風習を他国の人々が批判することは許されるでしょうか？	授業開始前にレジュメで予習に取り組んでください。授業終了後に、レジュメを見直してください。また、人権の基礎づけをめぐるさまざまな言説を理解したうえで、多文化への批判の在り方について自分の見解を述べられるようになること(事前・事後とも各 120 分)。
11	正義の戦争	世界中を見渡せば、戦争や紛争がいたる	授業開始前にレジュメで予習に取り組んでくださ

		ところで勃発しています。そもそも正しい目的を達するためであれば、戦争という手段も許されるのでしょうか？　許されるとすれば、それはなぜでしょうか？	い。授業終了後に、レジュメを見直してください。また、「正義の戦争」に対するロールズやウォルツァーの考え方を理解したうえで、いわゆるテロ戦争の是非について自分の見解を述べられるようになること(事前・事後とも各 120 分)。
12	戦争責任を問う	日本やドイツは第二次世界大戦で敗戦し、周辺国に多くの被害をもたらしました。しかし、なぜ戦争当事者ではない現世代のひとびとが前世代の犯した戦争責任を償わなければならないのでしょうか？	授業開始前にレジュメで予習に取り組んでください。授業終了後に、レジュメを見直してください。また、アイヒマン裁判の争点を理解したうえで、アイヒマンの責任の有無について自分の見解を述べられるようになること(事前・事後とも各 120 分)。
13	監視社会	いたるところに張りめぐらされた防犯カメラに象徴されるように、現代社会は監視社会とも言われます。私たちのプライバシーを侵害するかもしれない防犯カメラの設置は正当化されるでしょうか？	授業開始前にレジュメで予習に取り組んでください。授業終了後に、レジュメを見直してください。また、フーコーの「規律訓練型権力」という考え方を理解したうえで、街頭の監視カメラ設置の是非について自分の見解を述べられるようになること(事前・事後とも各 120 分)。
14	リスク社会	原発問題で明らかになったように、私たちの生活を便利にするものが、他方で私たちの生活を脅かすものに転化する可能性があります。私たちはこうしたリスクにどのように対処すべきでしょうか？	授業開始前にレジュメで予習に取り組んでください。授業終了後に、レジュメを見直してください。また、リスク社会論における「リスク」の考え方を理解したうえで、地球温暖化対策について自分の見解を述べられるようになること(事前・事後とも各 120 分)。
15	授業全体のまとめ	これまでの講義で論じてきた事柄を簡単に復習し、法の果たすべき役割について考えてみます（可能であれば、これまでの講義で論じることができなかったトピックを補足説明する予定です)。	これまで講義で取り上げた個々の概念や人物を正確に理解しなおすこと。講義で分かりにくかった箇所を事前にピックアップしておいてください。授業終了後にこれまでのレジュメを見返して復習に努めてください(事前・事後とも各 120 分)。

関連科目	直接的には法哲学各論、法思想史（西洋法思想史）と関連しますが、それ以外にも広く実定法学（憲法・民法・刑法など）の学習の一助になると思います。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	問いかける法哲学	瀧川裕英編	法律文化社
2	あぶない法哲学	住吉雅美	講談社現代新書
3			

評価方法 （基準）	期末試験は実施せず、毎回の課題（授業内での課題・発表や授業後の小テスト）100%で評価します。毎回真面目に授業に取り組めば単位取得はそれほど困難ではないかと思いますが、毎回課題を出しますので、履修予定の学生はそのつもりで授業に臨んでください。
学生への メッセージ	この法哲学総論では具体的な問題を取り上げますが、それらに唯一の正解は存在しません。重要なのは答えではなく、それを支える論理です。「法律で決まっているから」や「最高裁判所が判決で言っているから」という回答は法哲学という科目では通用しませんので、そのつもりで受講してください。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　松島准教授室
備考	対面授業ですので、可能なかぎりグループワークやディスカッションを取り入れたいと思いますが、コロナの感染状況によっては、濃厚接触を避けるために、いわゆる通常の講義になるかもしれません。課題については Teams などを通じて返却予定。 また、授業の進捗状況および受講生の興味関心によっては、シラバスの内容に変更が生じるかもしれないので（例えば、いくつかのテーマを割愛して、全体でのディスカッションの時間に当てることもありうる)、その点はあらかじめご了承ください。

科目名	法哲学各論	科目名（英文）	Philosophy of Law (Particular Issues)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	松島　裕一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3003a0		

授業概要・目的	法哲学とは、その名の通り、法を哲学的に考察する学問分野ですが、より具体的には、「法とは何か」、「法はいかに解釈すべきか」、「何が正義にかなっているか」といった法律学全般にかかわる基礎的な問題を扱う科目です。 この講義では、法哲学の主要三部門と見なされている伝統的なテーマ──「法の一般理論」、「法学方法論」、「正義論（法価値論）」──にそくして法哲学の基本的事項を学習するとともに、普段の実定法の学習ではあまり意識されることのない「法（法律学）のあるべき姿」について考えてみたいと思います。
到達目標	この講義を通じて学生には、法哲学の基本事項を理解するとともに、そうした法哲学上の知識を手がかりにして自分の意見を論理的に組み立てられるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	対面授業で行います。授業で使用するレジュメや課題はMicrosoft Teamsを通じて配布しますので、この授業を受講する学生は必ずチームに加入すること。
科目学習の効果（資格）	法学検定試験や公務員試験などの教養問題に一部対応しています。また、法哲学で扱われるテーマは法科大学院入学試験の小論文（未修者コース）の素材となることが多いので、法科大学院の受験を検討している学生には受講を強く推奨します。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	法哲学とは？	授業の進め方や成績評価の方法などを説明したあと、これから学習していく「法哲学」がどのような科目であるかを簡単に解説します。その際、法哲学の基本的な参考文献を紹介します。	毎回、事前に教科書の該当箇所を読んできてください。また、講義終了後に参考文献およびレジュメを見直してください。各回のキーワードを掲げておきますので、事前・事後学習の参考にしてください(各回とも事前学習と事後学習に各120分)。
2	法哲学の来歴	法哲学は、別名、法理学とも呼ばれます。そこで、この二つの名称のちがいに着目して、英米と大陸（ドイツ）における同科目の基本的な相違点と、それが日本に導入された経緯について説明します。	【キーワード】 基礎法学、レヒト（Recht）、正義論（法価値論）、法学方法論、法の一般理論（法概念論）、法哲学（Rechtsphilosophie）、法理学（Jurisprudence）、穂積陳重、尾高朝雄
3	正義論①　西洋における正義観念	西洋法思想において「正義」（dikaiosyne, iustitia, justice）がどのように理解されていたかを、古代ギリシア・ローマや中世の法思想にさかのぼって概観し、現代正義論の思想史的背景を確認します。	【キーワード】 ニコマコス倫理学、分配的正義、匡正的正義、比例的平等、算術的平等、ウルピアヌス、ユスティティア
4	正義論②　ロールズ『正義論』	現代正義論に多大なインパクトを与えたロールズ『正義論』を学習します。まず彼の基本的なアイデア（原初状態・正と善の区別など）を確認し、そのあとで彼の主張する「正義の二原理」を検討してみます。	【キーワード】 価値相対主義、功利主義、善に対する正義の優先性、無知のヴェール、マクシミンルール、反照的均衡、格差原理、富の再配分
5	正義論③　リバタリアニズム	ロールズへの批判的主張として、リバタリアニズム（自由至上主義）を取り上げます。この講義では、おもにノージックの主張を検討しながら、課税や刑罰権といった国家の役割について考えてみる予定です。	【キーワード】 無政府資本主義、最小国家論、古典的自由主義、自己所有権テーゼ、労働価値説、超最小国家、最小国家、自生的秩序
6	正義論④　共同体主義	ロールズへのもうひとつの批判的主張として、共同体主義を取り上げます。共同体主義の代表的論者の基本的立場や哲学的背景を学習するとともに、それらの学習を通じてロールズ『正義論』のより深い理解を目指します。	【キーワード】 『リベラリズムと正義の限界』、「負荷なき自我」と「位置ある自我」、共通善、美徳なき時代、ウォルツァー、テイラー、アリストテレス『政治学』
7	正義論⑤　現代正義論への視座	現代正義論を補完する議論として、ハーバーマスの討議倫理、キムリッカの多文化主義、 バトラーらのフェミニズムを紹介します。これらの議論を知ることで、現代社会に求められている多様な「正義」について考えてみます。	【キーワード】 コミュニケーション的行為の理論、語用論、手続的正義、フェミニズム（の諸派）、多文化主義と文化相対主義
8	法学方法論①　ハートの司法裁量論	まず、現代の法学方法論の前史として、19世紀までの法律学の状況を簡単に説明します。そのあとで、H・L・A・ハートが『法の概念』で展開した司法裁量論の概要を説明し、その問題点を検討します。	【キーワード】 概念法学、自由法運動、法的三段論法、分析法理学、司法裁量論、疑わしい半影部分、法の開かれた構造
9	法学方法論②　ドゥウォーキンの法理論	この回ではドゥウォーキンの法解釈にかんする理論を、前回のハートとの対比を通じて学習します。はたして難事件（hard case）においても、唯一の正しい法解釈は存在するのでしょうか？考えてみましょう。	【キーワード】 権利論（Taking Rights Seriously）、ルールと原理、法の帝国（Law's Empire）、内的視点、統合性としての法、原意主義
10	法学方法論③　ドイツにおける議論の理論	ドイツでは法学方法論をめぐって、さまざまな理論が提唱されています。この講義では、エッサー、クリーレらの法律学的ヘルメノイティク、フィーヴェクのトピク論、アレクシーの法的議論の理論を学習します。	【キーワード】 理解の循環構造、実践哲学の復権、体系思考と問題思考、レトリック、発見の過程と正当化の過程、特殊事例テーゼ
11	法学方法論④　日本の法解	これまで学習した英米とドイツの解釈	【キーワード】

		釈論争	理論と照らし合わせながら、戦後日本の法学解釈論争を学習します。法解釈とはいかなる作業であるかを検討し、あわせて法律学における「客観性」についても考えてみます。	来栖三郎「わくの理論」、川島武宜「科学としての法律学」、星野英一「利益衡量論」、平井宜雄「法政策学」
	12	法の一般理論①　自然法論	20 世紀にいたるまでの自然法論の思想史的系譜を簡単に振り返ったあとで、ラートブルフの再生自然法論、フラーの「法の内面道徳」、フィニスの新しい自然法論を学習し、自然法論の可能性とその限界を考察します。	【キーワード】 「制定法を超える法」と「制定法の形をした不法」、手続的自然法論、ハート＝フラー論争、トマス・アクィナス
	13	法の一般理論②　法実証主義	代表的な現代の法実証主義者として、ケルゼン、ハート、ラズの三人を取り上げます。彼らの主張と自然法論者の主張とを比較検討することを通じて、「法と道徳」のあり方について考えてみます。	【キーワード】 方法二元論、純粋法学、根本規範、法＝主権者命令説、ルールとしての法、承認のルール、自然法の最小限の内容
	14	法の一般理論③　法の三類型モデル	日本を代表する法哲学者である田中成明の「法の三類型モデル」を手がかりにしながら、現代社会における法の変容や、日本社会における「法の支配」の問題などを考察します。	【キーワード】 法の規範的機能と社会的機能、自立型法（普遍主義型法）・管理型法・自治型法、法の支配、司法制度改革
	15	授業全体のまとめ	これまでの講義で論じてきた事柄を簡単に復習し、「法のあるべき姿」というものについて考えてみます（可能であれば、これまでの講義で論じることができなかったトピックを補足説明する予定です）。	これまで講義で論じてきた個々の概念や人物を正確に理解しなおすとともに、法哲学全体の中でそれらの概念相互の関係性をしっかり把握すること（講義で理解が難しかった箇所を事前にピックアップしておくこと）。

関連科目	直接的には「法哲学総論」、「法思想史（西洋法思想史）」と関連しますが、それ以外にも広く実定法学（憲法・民法・刑法など）の学習の一助になると思います。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	法思想史（有斐閣アルマ）	中山・浅野・松島・近藤	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	法哲学	瀧川裕英ほか	有斐閣
2	法哲学（有斐閣アルマ）	平野仁彦ほか	有斐閣
3	20 世紀の法思想	中山竜一	岩波書店

評価方法 （基準）	期末試験は実施せず、毎回の課題（小テスト）100%で評価します。毎回真面目に授業に取り組めば単位取得はそれほど困難ではないかと思いますが、毎回課題を出しますので、履修予定の学生はそのつもりで授業に臨んでください。
学生への メッセージ	この「法哲学各論」の講義では「法哲学総論と比べてかなり難解で抽象的なテーマを扱う予定なので、法哲学に興味のない学生には、率直に言って、退屈な授業内容になるかもしれません。具体例を用いてできるだけ分かりやすく説明するように心がけますので、皆さんも理解できない点が出てきたら遠慮なく質問してください。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　松島准教授室
備考	受講者が極端に少ない場合（おおむね 10 名以下）には、ゼミ方式で授業を行う可能性があります。また、授業の進捗状況によっては、多少シラバスの内容に変更が生じるかもしれないので、その点はあらかじめご了承ください。課題については Teams などを通じて返却予定。 教科書は必須なので、必ず毎回持参するようにしてください。ちなみに、教科書は「法思想史（西洋法思想史）」（２回生配当）と共通です。法思想史（西洋法思想史）では教科書の前半部分を、法哲学各論では後半部分を扱います。

科目名	法思想史	科目名（英文）	History of Legal Thought
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	松島　裕一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2004a0		

授業概要・目的	法思想史とは、過去の思想家たちが法や正義をどのように理解してきたかを考察する学問分野です。この講義では、西洋世界に地域を限定したうえで、古典古代から 19 世紀までに登場したさまざまな法思想を駆け足で見ていきます（20 世紀以降の新しい法思想は法哲学各論で扱います）。 個々の思想家にかんする知識をたんに丸暗記するのではなく、各法思想に含まれる普遍性と特殊性──いつの時代においても通用する普遍的なアイデアとその時代にしか通用しない特殊なアイデア──を的確に見極めつつ、現代の法思想の礎を確認することが、この講義の目的です。
到達目標	この講義を通じて学生には、法思想史（西洋）の基本事項を理解することに加え、過去の思想家たちの知識を手掛かりにして自分の意見を論理的に組み立てられるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	対面授業で行います。授業で使用するレジュメや課題は Microsoft Teams を通じて配布しますので、この授業を受講する学生は必ずチームに加入すること。
科目学習の効果（資格）	法学検定試験や公務員試験などの教養問題に一部対応しています。また、法科大学院入学試験の小論文（未修者コース）のヒントになる前提知識が獲得できると思います。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	法思想史とは？	授業の進め方や成績評価の方法などを説明したあと、これから学習していく「法思想史」がどのような科目なのか、なぜ法学部で西洋法思想の歴史を学ぶ必要があるのかを簡単に解説します。	毎回、教科書の該当箇所を読んできてください。また、講義終了後に配布したプリントおよびレジュメを見直してください。各回の講義のキーワードを掲げておきますので、事前・事後学習の参考にしてください(各回とも事前学習と事後学習に各 120 分)。
2	古代ギリシアの法思想①	「哲学」という独特の思考様式がなぜ古代ギリシアで誕生したのか、そして、それが後代の西洋世界にどのような影響を及ぼしたのかを学習します。哲学以前のホメロス・ヘシオドスの叙事詩も簡単に紹介します。	【キーワード】 『イリアス』と『オデュッセイア』、『神統記』と『労働と日』、神話学的思考と哲学的思考テミス、ノモス、ディケー、ソロン、ソフィスト
3	古代ギリシアの法思想②	プラトンの前期著作を通じてソクラテスが追究した正しい生き方を概観するとともに、中後期著作でプラトン自身が構想した独創的な正義論・国家論の概要をを学習します。	【キーワード】 ソクラテス裁判、クセノポン、クリトン、アカデメイア、対話篇の時代区分、善のイデア、哲人王、『国家』と『法律』
4	古代ギリシアの法思想③	万学の祖アリストテレスの著作集はいずれも重要ですが、この回の講義では論理学関連の著作からは論理的思考の芽生え、『ニコマコス倫理学』からは正義論、『政治学』からは国制論をそれぞれ学習します。	【キーワード】 リュケイオン、オルガノン、シュロギスモス、一般的正義と特殊的正義、分配的正義と匡正的正義、衡平、「国制」
5	古代ローマの法思想	現代の法律学の基礎をなすローマ法がどのような経緯で誕生し、またそれにはどのような事柄が規定されているのかを学習します。また、当時のローマで栄えたストア派の法思想についても簡単に説明します。	【キーワード】 12 表法、市民法と万民法、解答権、自然法と万民法、ウルピアヌスとパウルス、キケロ、ユスティニアヌス法典
6	古代から中世へ	西洋の法思想に今なお強い影響力を及ぼし続けているキリスト教の成立とその教義をごく簡単に説明したうえで、最大の教父哲学者アウグスティヌスの法思想を『神の国』を中心に解説します。	【キーワード】 ナザレのイエス、ペテロとパウロ、旧約聖書と新約聖書、コイネー、三位一体説、『告白』、永久法・自然法・世俗法
7	中世の法思想	ローマ帝国の衰退からいわゆる 12 世紀ルネサンスにおけるローマ法の復活にいたるまでの歴史的経緯を説明し、あわせて中世最大の哲学者トマス・アクィナスの法思想を解説します。	【キーワード】 12 世紀ルネサンス、ボローニャ大学、註釈学派(glossatores)、註解学派(commetatores)、学説彙纂、標準注釈、ドミニコ会、神学大全
8	中世から近代へ	中学高校の世界史でも必ず取り上げられる「ルネサンス」と「宗教改革」ですが、これらの出来事がそれ以降の法思想にどのような影響を与えたのかを、中世の法思想との対比を通じて学習します。	【キーワード】 ルネサンス（再生）、ルター、カルヴァン、マキアヴェッリ、ボダン、グロティウス、サラマンカ学派（ビトリアとスアレス）
9	近代イギリスの法思想①	第 9 回から第 11 回までは社会契約説を学習します。まずこの回の講義ではホッブズ『リヴァイアサン』を取り上げ、彼の法思想を当時のイングランドの社会背景とあわせて学習します。	【キーワード】 ピューリタン革命と名誉革命、自己保存権、自然状態の悲惨さ、ホッブズの自然法（特に第１～第３の自然法の内容）
10	近代イギリスの法思想②	社会契約論を代表する第二の思想家としてジョン・ロックを取り上げ、『統治論』で示されている法思想を学習します。ロックからやや時代が下りますが、ヒュームやベンサムの法思想も簡単に紹介します。	【キーワード】 ロックの自然法、固有権（プロパティ）、抵抗権、スコットランド啓蒙、ヒュームの社会契約批判、ベンサム「功利主義」、J・S・ミル「他者危害原理」
11	近代フランスの法思想	社会契約論の最後の論者としてルソーを取り上げ、『社会契約論』で展開されている「一般意志」という考え方を学習します。あわせてモンテスキュー『法の精神』における権力分立の思想も解説します。	【キーワード】 『不平等起源論』、一般意志（特にその問題点）、法律の一般性、人民主権、フランス革命へのルソーの影響力、モンテスキューの権力分立論

	12	近代ドイツの法思想①	ドイツ観念論の系譜を簡単に説明したうえで、カント『人倫の形而上学』とヘーゲル『法の哲学』を中心的に取り上げ、彼らの法思想のエッセンスを解説します。	【キーワード】 ドイツ啓蒙期自然法論（プーフェンドルフ・トマジウス・ヴォルフ）、カントの三批判、定言命法、合法性と道徳性、根源契約、ヘーゲルの社会契約批判
	13	近代ドイツの法思想②	19 世紀のドイツで展開された法思想を学習します。具体的にはサヴィニーに代表される歴史法学に始まり、ヴィントシャイトの概念法学を経て、イェーリングらに至る道のりを学習します。	【キーワード】 法典論争、サヴィニーにおける歴史的方法と体系的方法、概念法学、イェーリングの概念法学批判、自由法運動、利益法学
	14	近代ドイツの法思想③	20 世紀ドイツを代表する法哲学者であるラートブルフ、ケルゼン、シュミットの三人を取り上げ、ワイマール期からナチズム期の「危機の時代」に彼らがどのような法理論を展開したのかを学習します。	【キーワード】 価値相対主義、再生自然法論、純粋法学、『民主主義の本質と価値』、決断主義、友と敵、政治神学、具体的秩序思想
	15	授業全体のまとめ	これまでの講義で論じてきた事柄を簡単に復習し、各法思想の普遍性と特殊性について考えてみます（可能であれば、これまでの講義で論じることができなかったトピックを補足説明する予定です）。	個々の概念や人物の正確な理解に努めるとともに、西洋史の大きな流れのなかで各法思想の特徴を述べられるようになること（講義で理解が難しかった箇所を事前にピックアップしておくこと）。

関連科目	直接的には法哲学総論、法哲学各論、日本法思想史、西洋の裁判の歴史などと関連しますが、それ以外にも広く実定法学（憲法・民法・刑法など）の学習の一助になると思います。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	法思想史（有斐閣アルマ）	中山・浅野・松島・近藤	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	増補新版　法とは何か　法思想史入門	長谷部恭男	河出書房新社
2	法思想史入門	西村清貴	成文堂
3	法思想史を読み解く	戒能通弘ほか	法律文化社

評価方法 （基準）	期末試験は実施せず、毎回の課題（小テスト）100%で評価します。毎回真面目に授業に取り組めば単位取得はそれほど困難ではないかと思いますが、毎回課題を出しますので、履修予定の学生はそのつもりで授業に臨んでください。
学生への メッセージ	この西洋法思想史の講義では、西洋における法思想の「古典」と呼ばれる著作を毎時間取り上げます。授業では各法思想の要点しか説明できませんので、興味のある古典作品が出てきたらぜひ積極的に読書をしてほしいと思います。時代を超えて読み継がれてきた古典作品と向き合うことは、学生の皆さんにとってきっと有意義な読書体験になるはずです。 ＊2023 年度以降、科目名を「法思想史」から「西洋法思想史」に改めました。併せて、「日本法思想史」の授業も新設しましたので、日本の法思想に興味を持った学生はそちらも受講してみてください。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　松島准教授室
備考	教科書は必須なので、必ず毎回持参するようにしてください。また、授業の進捗状況によっては、多少シラバスの内容に変更が生じるかもしれないので、その点はあらかじめご了承ください。課題については Teams などを通じて返却予定。

科目名	法社会学	科目名（英文）	Sociology of Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	萩原　守
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3005a0		

授業概要・目的	法学は元々社会との接点があってこそ、価値が生じる学問分野である。そこでこの授業では、過去における現実の社会と法との密接な関わり具合を受講者に学んでもらうこととする。具体的には、担当教員の専門分野を生かして、18 世紀のモンゴル遊牧民社会で起こった現実の刑事事件とその裁判を細かく分析し、清代モンゴルの遊牧民社会と法のあり方を理解できるようにしたい。
到達目標	この講義を通じて学生には、法と社会との関わり方を、具体例を示しつつ理解できるようになり、かつその理論的な側面を自ら説明できるだけの知識を身につけることが期待される。
授業方法と留意点	現在の所、通常の対面形式の授業を想定しているが、社会情勢により、授業形態を変更する可能性もある。この授業は、講義形式の授業である。可能な限り毎回出席して、しっかりとノートを取ることが必要である。
科目学習の効果（資格）	歴史上における社会と法との密接な関わりを学び取ることができるため、社会科系の教職を目指す学生には、大きな効果が期待できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	社会史、女性史と法学	法学、法制史、社会史、女性史などの研究分野について、その研究手法や注意点等を紹介する	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく（2 時間）
2	清朝支配下におけるモンゴルの法と裁判①	清王朝が支配下の諸民族集団に対して制定した種々の法について詳しく解説する	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく（2 時間）
3	清朝支配下におけるモンゴルの法と裁判②	現在までに明らかになっている清代の各地域での裁判制度を概説する	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく（2 時間）
4	清朝支配下におけるモンゴルの法と裁判③	現在までに明らかになっている清代の各地域での法と裁判との研究状況を概説する	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく
5	遊牧民社会の日常	世界各地に居住している遊牧民の日常生活を概説する	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく（2 時間）
6	清代モンゴルの身分制度と行政制度	清代モンゴルの複雑な身分制度とそれに応じた複雑な法典とを概説する	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく（2 時間）
7	18 世紀末の外モンゴル地域で発生した「ダシジドの事件」①	ダシジドの幼年期以来の人生を短く要約していく	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく（2 時間）
8	「ダシジドの事件」②	シングルマザーとなった平民ダシジドが巻き込まれた冤罪、人身売買に伴って起こしてしまった事件等を詳しく解説する	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく（2 時間）
9	「ダシジドの事件」③	ダシジドの起こした事件に関する各段階での裁判とその判決文を詳細に検討していく	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく（2 時間）
10	「ダシジドの事件」④	「ダシジドの事件」の最終判決とその判決が有する歴史学的・政治史的・法制史的な意義を検討する	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく（2 時間）
11	「ダシジドの事件」⑤	「ダシジドの事件」における人身売買と婚姻の問題を法的に検討する	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく（2 時間）
12	18 世紀末の外モンゴル地域で発生した「オンボフの事件」①	オンボフの近辺で起こった馬泥棒の事件とその後のオンボフの運命を短く要約する	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく（2 時間）
13	「オンボフの事件」②	不法裁判によって身分を落とされたオンボフが起こしてしまった事件の詳細を解説する	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく（2 時間）
14	「オンボフの事件」③	「オンボフの事件」が裁かれていく過程で下された各級の判決文を細かく検討する	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく（2 時間）
15	「オンボフの事件」④	「オンボフの事件」から理解できる当時のモンゴル人社会と、法制の変遷問題を検討する	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく（2 時間）

関連科目	東洋法制史、日本法制史、比較法史

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	清代モンゴルの裁判と裁判文書	萩原守	創文社
2	大清律　刑律 1、2	谷井俊仁・谷井陽子	平凡社東洋文庫
3	中国法制史　基本資料の研究	滋賀秀三	東京大学出版会

評価方法（基準）	学期末に試験を行う。成績評価は、主としてこの期末試験から判断する。
学生へのメッセージ	なるべく具体的な講義を実施するので、恐れずに参加してほしい。いつでも質問できるような柔らかい雰囲気の授業にしたい。
担当者の	11 号館の 10 階にある萩原研究室

研究室等	
備考	

科目名	近世日本の法文化	科目名（英文）	Law and Culture in Tokugawa Japan
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	萩原　守
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1006a0		

授業概要・目的

日本の法制は、古代から明治初期までは中国・朝鮮からの強い影響を受け、それ以降は西洋からの強い影響を受けてきた。しかしながら、そこにはやはり古代から近現代まで続く日本法制史ならではの特徴が見られ、それらを総合的に把握しておくことが現代日本の社会と法制を理解するための必須条件となる。そこで、この授業で受講者は、古代から近現代に至るまでの各時期における日本の法制を年代順に学びとり、日本法制史の持つ特徴を詳しく理解することになる。

この授業の目的は現代日本の社会や社会規範が形成されてきた過去の経緯を深く理解することである。

到達目標

古代日本の法制史においては、遣隋使や遣唐使によってもたらされた中国法が日本に与えた影響を即座に指摘した上で日本法制史の持つ特徴を検討できるようになることが目標である。中世においては、日本法制史が持つ強い特徴を、中国や西洋諸国と比較しつつ明瞭に述べることができるようになること。近世（江戸時代）においては、中国法（明律、清律）からの強い影響を再び受けるようになった事情やドイツ、イタリアなどと若干類似する「地方分権」状態が日本に独特の近代化をもたらした点などを詳細に指摘できるようになることが目標である。近代法制史においては、英米型の法制を採用せずにドイツ型の法制を採用したことがもたらした功罪をすぐに指摘できるようになることが目標である。

授業方法と留意点

この授業は通常の講義科目である。できるだけ毎回出席して、詳細にノートを取ることが必要となる。また聞き逃した点や理解できなかった点は、そのつど細かく質問して聞き直すことが必要となる。とりわけ、ノートを取ることが絶対の条件となる。

科目学習の効果（資格）

教職課程履修者にとっては重要科目。間接的には公務員試験や諸資格試験にも繋がっている。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	律令以前の法と社会	中国・朝鮮から律令が導入される以前における日本の法と社会のあり方を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（２時間）
2	中国の隋唐時代における律令の編纂	7回に渡って編纂された隋唐時代の中国の律令を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（２時間）
3	律令法体制下の行政・支配機構と社会	律令導入後の日本の行政機構や日本社会の有り様を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（２時間）
4	平安時代の法と社会	導入された律令体制から徐々に日本独自の体制へと社会と法が変化していく様子を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（２時間）
5	鎌倉期の法と社会	鎌倉幕府による法とその下での裁判の有り様を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（２時間）
6	室町期の法と社会	室町期における幕府や寺社勢力による法制を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（２時間）
7	戦国大名の支配と法	戦国期から織田・豊臣政権期にかけての法と社会を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（２時間）
8	幕藩体制下の法と裁判	江戸時代における法のあり方と裁判制度を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（２時間）
9	幕藩体制下の社会	江戸時代における社会、身分、世帯等を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（２時間）
10	幕藩体制から明治維新期への変革	江戸期から明治期に移行する際の政治上、法制上における大きな変革の有り様を詳しく学びとる	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（２時間）
11	世界史的な見地から見た明治維新への評価	日本の近代化の始まりとしての明治維新を、世界史的にどう評価すべきなのかを詳しく学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（２時間）
12	日本への西洋法の導入問題	中国法の強い影響下にあった日本の法制が欧米の法の影響下に入っていく際の諸問題を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（２時間）
13	大日本帝国憲法	英米法とドイツ法のどちらを導入するかという問題が決着した明治 14 年の政変などを学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（２時間）
14	統帥権問題	第二次世界大戦の泥沼へと日本が陥っていった法制上の問題を詳しく学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（２時間）
15	日本国憲法と戦後の日本社会	戦後、新たに導入された日本国憲法と戦後の日本社会の問題を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（２時間）

関連科目

東洋法制史、法と社会、比較法史

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	概説　日本法制史	出口雄一他	弘文堂
2	日本法制史	湯淺弘他	青林書院
3			

評価方法（基準）

主として定期試験の結果から評価するが、良い答案を書くためには、当然、毎回の出席とノート筆記、また予習復習が絶対条件となる。

学生へのメッセージ

あまり難しく考えないで気軽に受講してみてほしい。また法制史は、基礎法学の一つであると同時に、歴史学の一つでもあるため、歴史の好きな人は特に歓迎するが、日本史を学んだことのない人でも理解できように、わかりやすい授業を心がけたい。授業中にノートを取ることは必須である。また、疑問点があれば、すぐに質問して解決しておくことが必要。

担当者の研究室等

11 号館の 10 階にある萩原守研究室

備考	

科目名	西洋の裁判の歴史	科目名（英文）	History of Trial in Western Society
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小宮山　直子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1012a0		

授業概要・目的	この授業では、ヨーロッパにおける中世から近代にいたる法の歴史を概説します。ヨーロッパ法が日本近代法の形成に大きな影響を与えたことを念頭におきつつ、フランス・ドイツを中心に、法の歴史的展開および法文化の特徴を、当時の社会とのかかわりを含めて考察します。授業全体の後半は、近代法の展開に焦点をあてます。また、各時代の裁判の特徴と著名な裁判例もとりあげます。
到達目標	ヨーロッパ法の歴史について基礎的な知識を身につけ、さらに歴史的視点を踏まえて現代法を考察していく力を養うことを目標とします。
授業方法と留意点	各授業の最後に小テストなどの課題に取り組んでもらいます。 授業内容を自分のノートにもまとめるようにしましょう。 授業の進行にあわせて、２回分のテーマを１回にまとめることもあります。
科目学習の効果（資格）	教職科目（中学社会科・高校公民・高校地歴）に必要です。公務員試験や就職試験の一般教養（SPI 対策）としても有益です。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに―近代日本における西洋文化の受容	授業内容の概説、近代化、お雇い外国人	事前:授業のテーマに関連する文献(参考文献など)を読んでおく。(２時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(２時間)
2	中世ヨーロッパの社会と法（１）	ユスティニアヌス法典の成立、サリカ法典、ゲルマンの伝統的裁判、他	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。(２時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(２時間)
3	中世ヨーロッパの社会と法（２）	ローマ法学の復活、大学における法学教育、法学識者	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。(２時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(２時間)
4	中世ヨーロッパの社会と法（３）	封建制の構造、新しい形式の裁判	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。(２時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(２時間)
5	近世ヨーロッパの社会と法（１）	絶対主義の構造、法統一の試み	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。(２時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(２時間)
6	近世ヨーロッパの社会と法（２）	啓蒙期と法典編纂	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。(２時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(２時間)
7	英米法の歴史の概要	陪審制の成立・発展	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。(２時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(２時間)
8	フランス革命（１）	フランス革命の概要、フランス人権宣言	事前:授業のテーマに関連する文献(参考文献など)を読んでおく。(２時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(２時間)
9	フランス革命（２）	革命期の裁判制度改革（陪審制の導入）、革命期の婚姻政策	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。(２時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(２時間)
10	ナポレオンと近代市民法―フランス民法典（1804 年）	フランス民法典の成立過程、民法典の特徴、近代市民社会	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。(２時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(２時間)
11	法典論争と歴史法学派	サヴィニーとティボーの法典論争、歴史法学派	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。(２時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(２時間)
12	19 世紀フランスの社会と法	都市の衛生問題・貧困問題 労働者問題と法、裁判例	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。(２時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(２時間)
13	１９世紀ドイツの社会と法	ドイツ民法典の成立過程、その特徴	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。(２時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(２時間)
14	２０世紀の社会と法（１）	20 世紀前半・女性参政権の動向、他	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。(２時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(２時間)
15	20 世紀の社会と法（２） 全体のまとめ	戦後における家族法改革、 全体のまとめ（復習）	これまでのレジュメ及び資料を見直して、授業の全体像を再確認・整理する。重要キーワードについては、自分の言葉で説明できるよう整理する。(4 時間)

関連科目	法制史および法思想史に関連する科目
教科書	

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 概説西洋法制史 / 勝田有恒　他 / ミネルヴァ書房 2 / 法制史入門 / 三成賢次、他 / ナカニシヤ出版 3 / ローマ法とヨーロッパ / ピーター・スタイン / ミネルヴァ書房
評価方法 （基準）	授業内課題（小テスト、小レポートなど）20%と、定期試験（筆記試験）80%によって、総合的に評価します。 詳細は、授業開始の際に、説明します。
学生への メッセージ	高校の世界史の教科書(特にヨーロッパ史の箇所）を復習しておきましょう。
担当者の 研究室等	11 号館 5 階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	各授業の最後に実施する授業内課題の解答は、次の授業で解説します。 参考文献は、授業の中で随時紹介します。

科目名	西洋女性史	科目名（英文）	History of Women in Western Society
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小宮山　直子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2013a0		

授業概要・目的	前半は西洋社会における女性の地位の歴史について、西洋法史・ジェンダー法学の視点から概説します。西洋史のなかの注目すべき女性たちの生涯や権力との関連、及び女性にかかわる事件・事項について、具体的なイメージがわくようにパワーポイントなどを利用しながら講義します。また、授業後半の一部は、前半の西洋女性史からの学習を踏まえて、現代日本の家族・労働(雇用）等にかかわる諸問題をジェンダー法学の視点から考察します。
到達目標	この授業を通して学生には、西洋の中世から現代までの各時代・各社会における女性の地位と法の関わりについて、歴史の大きな流れを踏まえて説明できるようなることが期待されます。さらに、西洋史（女性史）を通して学んだ知識を、現代日本における法的諸問題の考察に反映できるようになることも期待されます。
授業方法と留意点	各授業の最後に小テストなどの課題に取り組んでもらいます。授業の進行にあわせて、２回分のテーマを１回にまとめることもあります。
科目学習の効果（資格）	公務員試験や企業採用試験の一般教養科目対策として有益である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに 前近代と近代の社会と法	授業全体の目的 ジェンダー法学について 西洋における前近代と近代の社会と法のあり様・変化の概観	事前:授業のテーマに関連する文献(参考文献など)を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
2	中世～近世の女性（１） 中世･封建社会における女性	フランス 12 世紀・アリエノール・ダキテーヌ、フランス 15 世紀・ジャンヌ・ダルク	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
3	中世～近世の女性（２） 宗教改革と女性	16 世紀、ヘンリー８世とアン・ブーリン:国王の離婚問題を契機とするローマ教会との決別、国王至上法などを考察する。	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
4	啓蒙期と女性	サロン文化とポンパドゥール夫人 近代市民社会の萌芽	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
5	フランス革命と女性	フランス革命における女性たち。王妃マリー・アントワネット、グージュ	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
6	フランス民法典と女性	フランス民法典のなかの女性･近代的家父長制の特徴（妻の行為無能力など）を考察する。	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
7	19 世紀の社会と女性（１）	19 世紀のブルジョア女性の活動について、フランスを中心に考察する。	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
8	19 世紀の社会と女性（２）	19 世紀の労働者（女性を中心に）・衛生問題について、フランスを中心に考察する	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
9	20 世紀における女性（１） 第１次フェミニズム運動の展開	女性参政権獲得をめぐる運動、女性の社会進出をフランスを中心に考察する。	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
10	20 世紀における女性（２） 第２次フェミニズム運動の展開	女性解放の進展･家族をめぐる諸改革についてフランスを中心に考察する。（シモーヌ・ヴェイユ（国家と女性の身体の問題)）	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
11	家族をめぐる問題（１）	戦前の日本における家族に関わる問題をジェンダー法学の視点から考察する	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
12	家族をめぐる問題（２）	現代日本の家族に関わる問題をジェンダー法学の視点から考察する	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
13	労働をめぐる問題	現代日本の労働（雇用）に関わる問題をジェンダー法学の視点から考察する	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
14	身体をめぐる問題	人権・ジェンダー法学の視点から、戦後日本の身体をめぐる諸政策･問題を考察する。	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
15	全体のまとめ		これまでのレジュメ及び資料を見直して、授業の全体像を再確認・整理する。重要キーワードについては、自分の言葉で説明できるよう整理する。（４時間）

関連科目	西洋法制史（西洋の裁判の歴史）
教科書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>概説西洋法制史</td><td>勝田有恒他</td><td>ミネルヴァ書房</td></tr><tr><td>2</td><td>ジェンダーの比較法史学</td><td>三成美保編</td><td>大阪大学出版会</td></tr><tr><td>3</td><td>ジェンダー法学入門（最新版）</td><td>三成美保・他著</td><td>法律文化社</td></tr></table>
評価方法 （基準）	授業内課題（小テスト、小レポートなど）３０％と、定期試験（筆記試験）７０％によって、総合的に評価します。 詳細は、授業開始の際に、説明します。
学生への メッセージ	法史をジェンダー法学の視点から楽しく深めるのに役立つ授業です。
担当者の 研究室等	11 号館 5 階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	各授業の最後に実施する課題の解答例などは、次の授業で解説します。 参考文献は、授業の中で随時紹介します。

科目名	英米法	科目名（英文）	Anglo-American Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	家本　真実
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3014a0		

授業概要・目的	日本で生活していくうえで、他国の法制度の知識が役に立つことはあまり多くないかもしれません。しかし、他国の法制度を学ぶことは、日本の法制度に対する理解を深め、さまざまな法的問題の解決法を探ることにもつながります。 そこでこの講義では、日本の法制度にも大きな影響を与えている英米法の基礎概念とアメリカの法制度を学んでいただきたいと考えています。講義では、英語の文献をいくらか参照することもありますし、映像資料も多用します。
到達目標	この授業を通じて、学生の皆さんには、アメリカ法の特徴を理解し、憲法および民事法、陪審制度といったアメリカの法制度および社会の全体像を把握できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	要点を記したレジュメを配布し、それに沿って解説をおこなうといったかたちで講義をおこないます。「英語なんて見たくもない」という方にはお勧めできない授業ですが、アメリカという国や英語に興味がある方には、法という視点からアプローチする楽しさを感じていただけるかと思います。 単位取得のためには毎回の講義内容を理解することが必須だと考えてください。 講義内容については、受講生の皆さんの理解度によっては多少変更することがあります。
科目学習の効果（資格）	英米法の基本的な考え方、アメリカの歴史や社会、法制度についての知識を得ることができます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに 訴訟社会アメリカ	この講義の内容や目的、講義の進め方について 訴訟社会といわれるアメリカの裁判について	講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2時間)
2	英米法とは	英米法の歴史と、アメリカ合衆国の生い立ち、その法体系	今回の講義内容に関する資料（前回講義終了時に指定）を読んでおくこと。(1.5時間) 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
3	判例法とは（1）	アメリカ法の特徴である判例法主義について、具体的な事例を基に学ぶ	今回の講義内容に関する資料（前回講義終了時に指定）を読んでおくこと。(1.5時間) 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
4	判例法とは（2）	アメリカ法の特徴である判例法主義について、具体的な事例を基に学ぶ	今回の講義内容に関する資料（前回講義終了時に指定）を読んでおくこと。(1.5時間) 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
5	アメリカの憲法（1）	アメリカにおける連邦と州の関係とそれぞれの権限について学ぶ	今回の講義内容に関する資料（前回講義終了時に指定）を読んでおくこと。(1.5時間) 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
6	アメリカの憲法（2）	アメリカ大統領の権限および大統領選挙について学ぶ	今回の講義内容に関する資料（前回講義終了時に指定）を読んでおくこと。(1.5時間) 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
7	アメリカの憲法（3）	アメリカの憲法（権利章典）に関する判例を読む	今回の講義内容に関する資料（前回講義終了時に指定）を読んでおくこと。(1.5時間) 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
8	差別とアメリカ	アメリカにおける人種や性別による差別について学ぶ	今回の講義内容に関する資料（前回講義終了時に指定）を読んでおくこと。(1.5時間) 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
9	銃社会アメリカ（1）	映画『ボウリング・フォー・コロンバイン』を通してアメリカの銃問題について学ぶ	今回の講義内容に関する資料（前回講義終了時に指定）を読んでおくこと。(1.5時間) 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
10	銃社会アメリカ（2）	映画『ボウリング・フォー・コロンバイン』を通してアメリカの銃を持つ権利と銃規制について学ぶ	今回の講義内容に関する資料（前回講義終了時に指定）を読んでおくこと。(1.5時間) 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
11	アメリカの民事訴訟（1）	アメリカの民事訴訟手続に特有のディスカバリー（証拠開示手続き）、クラスアクション（集団代表訴訟）について	今回の講義内容に関する資料（前回講義終了時に指定）を読んでおくこと。(1.5時間) 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
12	アメリカの民事訴訟（2）	映画 "Hot Coffee" を題材に、アメリカの民事裁判と懲罰的損害賠償について学ぶ	今回の講義内容に関する資料（前回講義終了時に指定）を読んでおくこと。(1.5時間) 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
13	アメリカの民事訴訟（3）	映画 "Hot Coffee" を題材に、アメリカの民事裁判と懲罰的損害賠償について学ぶ	今回の講義内容に関する資料（前回講義終了時に指定）を読んでおくこと。(1.5時間) 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
14	アメリカにおける市民の司法への参加（1）	映画 "Hot Coffee" からわかるアメリカの陪審制度	今回の講義内容に関する資料（前回講義終了時に指定）を読んでおくこと。(1.5時間) 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
15	アメリカにおける市民の司法への参加（2）	アメリカの民事・刑事陪審制度、アメリカの陪審制度と日本の裁判員制度の比	全講義を通して疑問や不明点がないか確認したうえで講義に臨むこと。(3時間)

		おわりに	較	講義終了後、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(3 時間)

関連科目	国際関係の科目、英語系の科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	現代アメリカ法入門	丸田隆	日本評論社
2			
3			

評価方法 (基準)	講義内で課す課題（ペーパーなど）への取り組みを 30%程度、学期末試験の成績を 70%程度の割合で、最終的な評価をおこないます。
学生への メッセージ	アメリカや英語に興味があり、積極的に学ぼうという姿勢を持つ学生（他学部の学生を含む）を歓迎します。講義中は私語を慎んでください。講義内容は、進行具合や受講生の様子によっては変更する場合もあります。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　家本准教授室
備考	課題については、次の回以降の授業で講評をおこないます。 20 年度　合格率 83.3%　（不受験率 0%）　A0.0%　B7.1%　C54.8%　D21.4%　平均 69 点　42 人登録

科目名	憲法概論	科目名（英文）	Introduction to Constitutional Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	浮田　徹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○		
科目ナンバリング	JDJ1015a0		

授業概要・目的	憲法の基本原理、基本的人権部分の総論的な領域をとりあつかいます。憲法を全体として習得したい人はこの講義をまずしっかりと勉強する必要があります。
到達目標	この授業を通じて学生には、基本的人権・統治機構、その他数多ある人権や権利に関連する法律を理解するために不可欠の土台を形成するようになることが期待される。憲法は、各項目の理解のしやすさに関し、基本原理の理解が重要になります。
授業方法と留意点	講義形式で行います。講義に必要なものはレジュメ、ノート、教科書、六法です。 レジュメは事前に moodle から入手、印刷して持参してください。 ※moodle の利用方法につき (1)moodle とは 摂南大学の採用する ICT ツールです。大学のポータルサイトなどにリンクがあります。 (2)moodle の登録方法につき 講義には自分で登録する必要があります。 ログインし、「ナビゲーション」のところにある「コース」をクリック、「コースを検索する」から 「23 憲法 1」と入力して検索し「2023 憲
科目学習の効果（資格）	様々な資格試験および公務員試験の基礎となります。 また、公務員の場合は就職後に警察学校などで科目となる場合があります。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・憲法総論	ガイダンス・憲法の位置づけ	予習：教科書の目次を一通り読んでおく(10 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(20 分)
2	憲法の基本原理	近代憲法に不可欠の要素につき学ぶ	予習：教科書の 1、2 を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
3	憲法の歴史	近代憲法の形成の歴史、日本国憲法史について学ぶ	予習：教科書の 1、2 を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
4	人権の到達範囲	人権保障の及ぶ範囲について学ぶ	予習：教科書の 6 を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
5	人権の享有主体	外国人の人権保障について学ぶ	予習：教科書の 4、5 を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
6	人権保障の限界	人権保障の限界の問題について学ぶ	予習：教科書の 3 を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
7	憲法 13 条の内容	13 条の二つの側面について学ぶ	予習：教科書の 8、9 を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
8	包括的基本権としての１３条	幸福追求権としての 13 条のしくみについて学ぶ	予習：教科書の 8、9 を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
9	新しい人権(1)	プライバシー権・名誉の権利について学ぶ	予習：教科書の 9 を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
10	新しい人権(2)	肖像権・環境権などその他新しい権利について学ぶ	予習：教科書の 9 を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
11	法の下の平等(1)	法の下の平等について、歴史的経緯から学ぶ	予習：教科書の 10 を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
12	法の下の平等(2)	法の下の平等について、特に日本国憲法 14 条の内容について学ぶ	予習：教科書の 11 を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
13	法の下の平等(3)	法の下の平等についての裁判例を学ぶ(1)	予習：教科書の 11 を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
14	法の下の平等(4)	法の下の平等についての裁判例を学ぶ(2)	予習：教科書の 12 を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
15	精神的自由総論	精神的自由とはいかなるものか、内心の自由までを学ぶ	予習：教科書の 1 を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)

関連科目	憲法 II、憲法 III と深く関連します。後期配当の憲法 II(人権各論)を理解するためにはこの講義の受講・習得が重要になります。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	憲法の時間〔第 2 版〕	井上典之編	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			

評価方法 （基準）	(1)講義ごとに課す課題 30%、(2)期末試験 70%で採点します。
学生への メッセージ	講義の進め方、評価について詳細な説明をしますので初回の講義には必ず出席すること。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　浮田准教授室
備考	講義情報を twitter にて発信していきます。それほど頻繁ではありません(@toruukita)。 教科書は後期開講の憲法 II(人権各論)と共通です。 毎回 moodl において出席者に対してフィードバックを課しますがここでの質問等については、次回の講義にて解説を行います。 (参考)2022 年度の成績の結果は以下のとおりです(およその数) 登録者 271 名　受験者 225 名　A 評価 22 名(10%)　B 評価 79 名(35%)　C 評価 49 名(22%)　D 評価 55 名(24%)　EF 評価(不合格)20 名(9%)

科目名	憲法Ⅰ（基本的人権）	科目名（英文）	Constitutional Law I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浮田　徹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2016a0		

授業概要・目的	基本的人権領域における重要な部分としての具体的な人権規定を学んでもらいます。 個別の人権規定についての理解が深まる。 「憲法 I」を履修していることを前提にして講義を行っていきます。本科目を受講する学生は前期憲法 I も登録しておくことが望ましいです。
到達目標	この授業を通じて学生には、「憲法 I」で学んだ人権の総論的な考え方を、個別の人権条項についての各論に反映させて理解できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	講義形式で行います。講義に必要なものはレジュメ、ノート、教科書、六法です。 レジュメは事前に moodle から入手、印刷して持参してください。 ※moodle の利用方法につき (1)moodle とは 摂南大学の採用する ICT ツールです。大学のトップページにリンクがあります。 (2)moodle の登録方法につき 講義には自分で登録する必要があります。 ログインし、「ナビゲーション」のところにある「コース」をクリック、「コースを検索する」から 「23 憲法 2」と入力して検索し「2023 憲法 II(人
科目学習の効果（資格）	憲法はあらゆる公務員試験および公務員として働き始めてからも科目として設定されることが多いです。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・人権学習の前提の確認	講義概要の説明と導入ための事項の確認を行う	予習：教科書の目次を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
2	表現の自由(1)	表現の自由の価値について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
3	表現の自由(2)	報道の自由について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
4	表現の自由(3)	インターネットにおける表現の問題について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
5	表現の自由(4)	集会・結社の自由について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
6	経済的自由(1)	経済活動における権利について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
7	経済的自由(2)	具体的な経済的自由の保障と規制について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
8	経済的自由(3)	具体的な経済的自由の保障と規制について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
9	財産権	所有と財産に関する権利について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
10	生存権	社会権としての生存権について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
11	生存権 2	社会権としての生存権について学ぶ 2	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
12	教育を受ける権利	公教育における国民の権利について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
13	労働基本権	労働者の権利について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
14	法定手続の保障	憲法 31 条の保障する内容について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
15	刑事手続に関する権利	32 条以下の具体的権利について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。

関連科目	憲法 I、憲法 III その他あらゆる法律科目と関連します。憲法 I とは内容的な連続性もあります。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	憲法の時間〔第 2 版〕	井上典之編	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 （基準）	課題(30%)、期末試験(70%)により評価します。			
学生への メッセージ	憲法Ⅰも履修しておいてください。			
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　浮田准教授室			
備考	「憲法 I」を履修していることを前提にして講義を行う部分もありますので本科目を受講する学生は前期憲法Ⅰも登録しておいてください。 確認ペーパー等の解答については次回講義にて解説を行います。			

科目名	憲法Ⅱ（統治機構）	科目名（英文）	Constitutional Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	浮田　徹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2017a0		

授業概要・目的	本講義では、憲法 I、II で習得した知識を土台として、基本的人権と並ぶ憲法の重要な構成要素である統治機構について学習してもらいます。憲法の統治機構の基本的な部分、応用への足がかりまでを学習することを目的としています。
到達目標	この授業を通じて学生には、日本国憲法の採用する様々な制度を理解し、全体としての統治システムの構造と作用を把握するところにあります。その上で、統治に関する憲法の規定が、単に国家の構成について定めたというだけではなく、憲法で掲げられる基本的人権などの重要な価値を保障するための組織を作り上げるものであるということを理解できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	講義形式で行います。講義に必要なものはレジュメ、ノート、教科書、六法です。 レジュメは事前に moodle から入手、印刷して持参してください。 ※moodle の利用方法につき (1)moodle とは 摂南大学の採用する ICT ツールです。ポータルサイトなどにリンクはあります。 (2)moodle の登録方法につき 講義には自分で登録する必要があります。 ログインし、「ナビゲーション」のところにある「コース」をクリック、「コースを検索する」から 「23 憲法 3」と入力して検索し「2023 憲法 3(統治
科目学習の効果（資格）	司法試験、公務員試験などの試験科目です。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	・講義の概要説明	予習：指定教科書の目次に目を通しておく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
2	統治機構総論	・権力分立概論 ・民主主義概論	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
3	立法と行政(1)	・議院内閣制	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
4	立法と行政(2)	・国会の性格、地位	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
5	立法と行政(3)	・内閣を頂点とする行政権の仕組み	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
6	司法権(1)	・裁判所の役割	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
7	司法権(2)	・違憲審査	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
8	司法権(3)	・憲法裁判	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
9	平和主義(1)	・憲法 9 条の解釈について	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
10	平和主義(2)	・自衛隊の憲法適合性、日本の安全保障	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
11	憲法改正	・現代における憲法改正論議	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
12	憲法保障	・憲法保障のシステムについて	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
13	天皇制	・日本国憲法における象徴天皇制	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
14	地方自治	・憲法上の地方自治	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
15	まとめ	・まとめ	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)

関連科目	行政法や国際法といった実定法領域のほか、政治学、行政学などひろく政治学の領域へと学習を展開する基礎となります。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新・エッセンス憲法	安藤高行編	法律文化社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
評価方法 （基準）	講義ごとに課される課題 30%、期末試験 70%で評価します。
学生への メッセージ	基本的人権だけでなく、統治機構も理解することで憲法の勉強を完成させましょう。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　浮田准教授室
備考	講義情報を twitter にて発信していきます。それほど頻繁ではありません(@toruukita)。 毎回 moodl において出席者に対してフィードバックを課しますがここでの質問等については、次回の講義にて解説を行います。 (参考)2022 年度の成績の結果は以下のとおりです(およその数) 登録者 129 名　受験者 102 名　A 評価 13 名(13%)　B 評価 13 名(13%)　C 評価 33 名(32%)　D 評価 30 名(29%)　EF 評価(不合格)13 名(13%)

科目名	行政法総論	科目名（英文）	Administrative Law (General)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	笛木　淳
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2018a0		

授業概要・目的	私たちの生活にはさまざな行政の活動が関わっています。行政法とは，そのような行政の活動やサービスの根拠や仕組みに関する法規範です。この授業では，行政プロセスを規律する法的な仕組み，ルールとしてどのようなものがあるか，具体例に即して学んでもらいます。
到達目標	この授業を通じて学生には，次の３点を達成できることが期待されます。 （１）具体例に即して，行政法の基本原理・原則を理解し，定義等を分かりやすく説明できる。 （２）具体例に即して，行政法の基本的な制度・仕組みを指摘できる。 （３）具体的問題について，行政法の原則，制度をもとに思考し，解決を提示できる。
授業方法と留意点	以下のような反転方式により授業を行います。 （１）事前学習：事前に配信・配布される動画・資料により知識の習得を図る。 この授業では予習が欠かせません。 （２）授業： (i) 知識の確認や事例演習等の〈個人ワーク〉 (ii) 教員による〈解説〉, (iii)学生個人による〈振返り〉。 （３）授業資料等 ・教科書『スタンダード行政法』と解説用資料（PPT スライド）と演習レジュメ（Word ファイル）を用います。 ・授業資料等は事前に Teams 上にアップしますので，あらかじめダウンロ
科目学習の効果（資格）	以下の資格レベルにおける行政法基礎学力の習得。 ・国家公務員試験，地方上級試験 ・行政書士など ・法学検定「スタンダード」レベル（行政法）の習得

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	ガイダンス（授業方法，学習方法，成績評価），行政（法）の意義	(ア)　事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書の序章，第 1 章第 1 節 I～III（pp. 1-16）をあらかじめ読んでおくこと（1 時間）。 (イ)　事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
2	行政法の法源，一般原則	行政法の法源，比例原則，信頼保護原則，平等原則	(ア)　事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書の第 1 章第 2 節（pp. 17-24）をあらかじめ読んでおくこと（1 時間）。 (イ)　事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
3	法律による行政の原理	法律の法規創造力，法律の優位，法律の留保	(ア)　事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書の第 1 章第 3 節 I（pp. 25-29）をあらかじめ読んでおくこと（1 時間）。 (イ)　事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
4	行政組織法	行政組織法の基本原理，行政主体，行政機関	(ア)　事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書の第 2 章（pp. 59-74）をあらかじめ読んでおくこと（1 時間）。 (イ)　事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
5	行政裁量・ 習熟度確認（小テスト）	行政裁量の意義，裁判所による司法審査との関係， 熟度確認のための演習（小テスト）	(ア)　事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第 1 章第 4 節（pp. 30-41）をあらかじめ読んでおくこと（1 時間）。 (イ)　事後学習：授業資料・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
6	行政立法	行政による基準定立，法規命令・行政規則	(ア)　事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第 3 章第 1 節（pp. 78-88）をあらかじめ読んでおくこと（1 時間）。 (イ)　事後学習：授業資料・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
7	行政行為（１）	行政行為の意義，種類，効力	(ア)　事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第 3 章第 2 節 I～III（pp . 89-102）をあらかじめ読んでおくこと（1 時間）。 (イ)　事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
8	行政行為（２）	行政行為の瑕疵，職権取消し／撤回，附款	(ア)　事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第 3 章第 2 節 IV～VI（pp. 103-115）をあらかじめ読んでおくこと（1 時間）。 (イ)　事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
9	行政手続	行政行為の手続を中心とした行政手続法。	(ア)　事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第 1 章第 5 節(pp. 42-54),第 3 章第 2 節 VIII（pp. 116-125）をあらかじめ読んでおくこと（1 時間）。 (イ)　事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。

	10	行政計画・ 習熟度確認（小テスト）	行政計画の意義， 熟度確認のための演習（小テスト）	（ア）　　事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第 3 章第 5 節（pp. 137-140）をあらかじめ読んでおくこと（1 時間）。 （イ）　　事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
	11	行政指導	行政指導の意義，手続	事前配布資料に目を通し，教科書第 3 章第 4 節（pp. 131-136）をあらかじめ読んでおくこと（1 時間）。
	12	行政上の義務履行確保	行政上の強制執行，即時強制，制裁	（ア）　　事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第 4 章（pp. 145-163）をあらかじめ読んでおくこと（1 時間）。 （イ）　　事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
	13	行政と情報（１）	行政調査，公文書管理制度，情報公開制度	（ア）　　事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第 5 章第 1 節～第 3 節（pp. 165-177）をあらかじめ読んでおくこと（1 時間）。 （イ）　　事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
	14	行政と情報（２）	個人情報保護制度の仕組み	（ア）　　事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第 5 章第 4 節（pp. 178-185）をあらかじめ読んでおくこと（1 時間）。 （イ）　　事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
	15	授業総括・ 習熟度確認（小テスト）	習熟度確認テストと授業の全体総括	（ア）　　事前学習：事前配布資料，これまでの授業範囲を復習すること。 （イ）　　事後学習：授業内の演習内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。

関連科目	憲法，民法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スタンダード行政法	村上裕章	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	行政法 Ⅰ　現代行政過程論［第 4 版］	大橋洋一	有斐閣
2	社会とつながる行政法入門［第 2 版］	大橋洋一	有斐閣
3	行政法判例 50！	大橋真由美ほか	有斐閣

評価方法
（基準）

＊前年度と成績評価方法が異なります。

・成績評価対象：第 5 回，第 10 回，第 15 回の習熟度確認小テストのみ。
・成績内訳：
　第 5 回：３０％
　第 10 回：３５％
　第 15 回：３５％
・テスト実施方法：
　毎回出される復習課題から 80%，新規問題 20%
・論述式の問題を出題する場合は，事前に問題を提示する。
・持ち込みは原則不可。

学生への メッセージ	意欲的な学習が望まれます。
担当者の 研究室等	笛木講師室（11 号館 9 階）
備考	復習課題は次回の授業で解説する。

科目名	行政法各論	科目名（英文）	Administrative Law (Specific)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	笛木　淳
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2019a0		

授業概要・目的	国家の活動により損害・損失を被った市民には，さまざまな救済の手段・仕組みが準備されており，法治国原理の実現が企図されています。この授業では，そのような仕組み・ルールである行政救済法の基本について学んでもらいます。
到達目標	この講義を通じて，学生には以下の３点を身につけることが期待されます。 （１）行政救済法にはどのような仕組みがあるか理解し，それぞれの特徴を説明する能力。 （２）行政訴訟上の具体的問題として典型的にどのようなものがあるかを理解し，これを解決するための考え方。 （３）国家賠償・損失補償の具体的問題として典型的にどのようなものがあるかを理解し，これを解決するための考え方。
授業方法と留意点	以下のような反転方式により授業を行います。 （１）事前学習：事前に配信・配布される動画・資料により知識の習得を図る。 この授業では予習が欠かせません。 （２）授業： (i) 知識の確認や事例演習等の〈個人ワーク〉 (ii) 教員による〈解説〉, (iii)学生個人による〈振返り〉。 （３）授業資料等 ・教科書『スタンダード行政法』と配布資料（PPT スライド），演習レジュメ（Word ファイル）を用います。 ・スライド資料等は事前に Teams 上にアップしますので，あらかじめダウンロー
科目学習の効果（資格）	以下の資格レベルにおける行政法基礎学力の習得。 ・国家公務員試験，地方上級試験等で問われる行政法の基礎学力の習得。 ・法学検定「スタンダード」レベル（行政法）の習得

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	ガイダンス（授業方法，学習方法，成績評価），行政救済法の全体像	(ア)　事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書の序章，第 6 章第 1 節（pp. 187-200）をあらかじめ読んでおくこと（1 時間）。 (イ)　事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
2	取消訴訟の訴訟要件（１）	抗告訴訟，訴訟要件，処分性	(ア)　事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書の第 6 章第 2 節 I（pp. 201-214）をあらかじめ読んでおくこと（1 時間）。 (イ)　事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
3	取消訴訟の訴訟要件（２）	原告適格，法律上の利益，第三者	(ア)　事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書の第 6 章第 2 節 II（pp. 214-226）をあらかじめ読んでおくこと（1 時間）。 (イ)　事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
4	取消訴訟の訴訟要件（３）	訴えの利益，提訴期間，被告適格など	(ア)　事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書の第 6 章第 2 節 III-VIII（pp. 226-238 ）をあらかじめ読んでおくこと（1 時間）。 (イ)　事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
5	取消訴訟の判決 習熟度確認（小テスト）	既判力・形成力・拘束力 熟度確認のための演習（小テスト）	(ア)　事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第 6 章第 4 節（pp. 249-252）をあらかじめ読んでおくこと（1 時間）。 (イ)　事後学習：授業資料・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
6	取消訴訟の審理	本案審理における基本的な仕組み	(ア)　事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第 6 章第 3 節（pp. 239-246）をあらかじめ読んでおくこと（1 時間）。 (イ)　事後学習：授業資料・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
7	無効等確認訴訟	無効等確認訴訟の意義・公定力，重大な違法，補充性	(ア)　事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第 6 章第 5 節 I（pp. 253-258）をあらかじめ読んでおくこと（1 時間）。 (イ)　事後学習：授業資料・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
8	義務付け訴訟・不作為の違法確認訴訟	義務付け・不作為違法確認の訴えの意義と機能	(ア)　事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第 6 章第 5 節 II~III（pp. 258-272）をあらかじめ読んでおくこと（1 時間）。 (イ)　事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。

	9	公法上の当事者訴訟	公法上の当事者訴訟の意義と機能	(ア)　事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第 6 章第 5 節 V（pp. 272-276）をあらかじめ読んでおくこと（1 時間）。 (イ)　事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
	10	客観訴訟・ 習熟度確認（小テスト）	司法権，法律上の争訟，客観訴訟 習熟度確認の演習（小テスト）	(ア)　事前学習：事前配布資料をあらかじめ読んでおくこと（1 時間）。 (イ)　事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
	11	行政の不服申立てについて	行政不服申立ての意義，基本的仕組み	(ア)　事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第 6 章第 7 節（pp. 282-295）をあらかじめ読んでおくこと（1 時間）。 (イ)　事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
	12	国家賠償訴訟（１）	公権力責任，過失，違法性	(ア)　事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第 7 章第 1 節 I～II（pp. 301-326）をあらかじめ読んでおくこと（1 時間）。 (イ)　事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
	13	国家賠償訴訟（２）	営造物責任，瑕疵概念，判例	(ア)　事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第 7 章第 1 節 III～IV（pp. 327-339）をあらかじめ読んでおくこと（1 時間）。 (イ)　事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
	14	損失補償	財産権，公用収用，特別の犠牲	(ア)　事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第 7 章第 2 節（pp. 340-353）をあらかじめ読んでおくこと（1 時間）。 (イ)　事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
	15	授業総括 習熟度確認（小テスト）	習熟度確認テストと授業の全体総括	(ア)　事前学習：事前配布資料，これまでの授業範囲を復習すること。 (イ)　事後学習：授業内の演習内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。

関連科目	憲法，民事訴訟法（履修済みか並行して履修することが望ましい）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スタンダード行政法	村上裕章	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	行政法判例５０！	大橋真由美ほか	有斐閣
2	行政法 II　現代行政救済論［第 4 版］	大橋洋一	有斐閣
3	行政法 II 行政救済法［第 6 版］	塩野宏	有斐閣

評価方法（基準）

＊前年度と成績評価方法が異なります。

・成績評価対象：第 5 回，第 10 回，第 15 回の習熟度確認小テストのみ。
・成績内訳：
　第 5 回：３０％
　第 10 回：３５％
　第 15 回：３５％
・テスト実施方法：
　毎回出される復習課題から 80%，新規問題 20%
・論述式の問題を出題する場合は，事前に問題を提示する。
・持ち込みは原則不可。

学生へのメッセージ	公務員志望者，社会問題に関心のある方の受講を歓迎します。
担当者の研究室等	笛木講師室（１１号館９階）
備考	演習課題は次回の授業で解説する。

科目名	地方自治法	科目名（英文）	Local Autonomy Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	笛木　淳
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3020a0		

授業概要・目的	我々の生活を支える行政活動・サービスは地方自治体の存在なくして語ることはできません。この講義では，そのような地方自治体が活動するための最も基本的な原理である「地方自治」とは何かを，地方自治法を中心に理解してもらうことを目的としています。
到達目標	この講義を通じて，学生には次のスキルを身につけることが期待されます。 （１）地方自治の基本的な法的ルール・仕組みを理解し、分かりやすく説明できる。 （２）地方における具体的な課題について，地方自治法に即して問題を理解し，解決できる。
授業方法と留意点	・反転授業 予め事前資料に目を通し，基礎知識を身に着けた上で授業に臨んでください。授業ではこれらの基礎知識を問う問題と，発展的な課題を扱います。 ・授業資料 レジュメは事前にパワーポイントをアップしますので，そちらをあらかじめダウンロードした上で受講してください（授業中の配布はありません)。 ・その他 授業中は，質疑応答を通じて受講生との双方向型のコミュニケーションを図り，皆さんの理解を助けるようにします。 間違いをおそれずに積極的に発言することが望まれます。
科目学習の効果（資格）	公務員試験および資格試験各種に必要な地方自治法の基礎学力の習得。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、地方自治とは何か	講義の進め方，期末試験，成績評価など。「地方自治の本旨」、地方自治の歴史	事前：教科書第１章、第２章をあらかじめ読む（特に第１章を中心に）（2時間)。 事後：講義・教科書の内容を見直し，整理・要約する（2時間)。
2	地方公共団体って何？	普通地方公共団体、特別地方公共団体	事前：教科書第３章をあらかじめ読む（2時間)。 事後：講義・教科書の内容を見直し，整理・要約する（2時間)。
3	住民って何？	住民の法的地位、住民参加の仕組み、住民投票制度について	事前：教科書第４章をあらかじめ読む（2時間)。 事後：講義・教科書の内容を見直し，整理・要約する（2時間)。
4	地方公共団体の仕事にはどのようなものがあるか	地方公共団体の処理する事務の性質（自治事務、法定受託事務）	事前：教科書第５章をあらかじめ読む（2時間)。 事後：講義・教科書の内容を見直し，整理・要約する（2時間)。
5	国と地方の関係	関与の基本類型、関与の仕組み	事前：教科書第６章をあらかじめ読む（2時間)。 事後：講義・教科書の内容を見直し，整理・要約する（2時間)。
6	自主行政権（１）	自治体の行政活動と街づくりの手法	事前：教科書第７章をあらかじめ読む（2時間)。 事後：講義・教科書の内容を見直し，整理・要約する（2時間)。
7	自主行政権（２）	情報公開・個人情報保護	事前：教科書第８章をあらかじめ読む（2時間)。 事後：講義・教科書の内容を見直し，整理・要約する（2時間)。
8	自主財政権	地方財政法 地方の財政調整・財源保障（地方交付税、国庫支出金，地方債）	事前：教科書第９章をあらかじめ読む（2時間)。 事後：講義・教科書の内容を見直し，整理・要約する（2時間)。
9	自主立法権	条例制定権の意義と限界	事前：教科書第１０章をあらかじめ読む（2時間)。 事後：講義・教科書の内容を見直し，整理・要約する（2時間)。
10	自治体の組織（１）	議会、長の法的地位，権限	事前：教科書第１１章をあらかじめ読む（2時間)。 事後：講義・教科書の内容を見直し，整理・要約する（2時間)。
11	自治体の組織（２）	委員会と委員、附属機関、監査	事前：教科書第１２章をあらかじめ読む（2時間)。 事後：講義・教科書の内容を見直し，整理・要約する（2時間)。
12	住民による自治体のチェック	住民監査請求，住民訴訟	事前：教科書第１３章をあらかじめ読む（2時間)。 事後：講義・教科書の内容を見直し，整理・要約する（2時間)。
13	公の施設の管理	公の施設の設置，管理の仕組み	事前：教科書第１４章をあらかじめ読む（2時間)。 事後：講義・教科書の内容を見直し，整理・要約する（2時間)。
14	地方公務員法	地方公務員の勤務関係，義務・責任	事前：教科書第１５章をあらかじめ読む（2時間)。 事後：講義・教科書の内容を見直し，整理・要約する（2時間)。
15	総括	これまでの講義の復習	事前：これまでの整理・要約ノートを講義前までにあらかじめ読み返す（2時間)。 事後：講義・教科書の内容を見直し，整理・要約する。演習課題に取り組む（2時間)。

関連科目	憲法、行政法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	自治体職員のためのようこそ地方自治法［第３版］	板垣勝彦	第一法規

	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	＊必要に応じて授業で指示します。		
	2			
	3			

評価方法（基準）	この授業では，予習課題または復習課題を課し，その提出内容（事前の取り組みと授業理解度）により評価します（100%）。
学生へのメッセージ	地方公務員志望者，地方行政について関心のある学生の受講を歓迎します。
担当者の研究室等	笛木講師室（11 号館 9 階）
備考	復習課題は次回の授業で解説する。

科目名	租税法Ⅰ	科目名（英文）	Tax Law Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小島　俊朗
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3021a0		

授業概要・目的	現代社会では、国民は法律（租税法)に基づいて納税の義務を負い税金を納付することになりますが、租税法は必ずしも容易に理解できるものではありません。これは、租税法が多様な経済活動を幅広く適用の対象としていることや、租税負担の公平を図るため、租税法が明確かつ一義的に規定することを要求されていることによるものです。一方、皆さん方が社会人になれば、自営業者、会社員等を問わず、税とは何らかの形で関わらざるを得ません。租税法Ⅰでは、税法の総論に関する事項と個人に関係する所得税法の仕組み、考え方について理解してもらいたいと思います。 租税法は実学の代表格です。小職は、国税庁本庁に長年勤務し、また、東京、大阪、名古屋などの国税局で部長職を歴任するなど、税務行政の企画・立案や指揮をしてきたほか、名古屋国税不服審判所等の所長として租税法の解釈・適用にも携わってきました。この授業では、法理論のみならず、それらの実務経験を踏まえた講義を行うこととしています。
到達目標	この授業を通じて学生には、次の目標を達成することが期待されます。 ①租税法に共通する原則や基本事項が理解できるようになること。 ②租税法の中でも最も基本的で身近な所得税法の概要が理解できるようになること。
授業方法と留意点	決まった教科書は使用しませんが、レジュメと参考資料を毎回配付します。なお、期末試験のほか、理解度を確認するためのテストを適時に行う予定です。 聞き慣れない用語も出てくるとは思いますが、租税法の基本的な考え方を理解することが重要ですから、要点を確実に押さえるようにしてください。
科目学習の効果（資格）	税理士試験や国税専門官を目ざす人の入門講座になると思います。また、社会人となって税金を払う立場になれば、無関心ではいられないこともありますので、この機会に税に馴染んでおくのも有益かと思います。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	私達の生活と税	税との関わり、財政の状況、税の種類、税が持っている機能	レジュメ第１回講義を見直すこと。(約１時間)
2	租税法序論（Ⅰ）	税法の体系、租税実体法と租税手続法	配布資料に基づき予習しておくことレジュメ第２回講義を見直すこと。(約２時間)
3	租税法序論（Ⅱ）	課税要件（その１）	配布資料に基づき予習しておくことレジュメ第３回講義を見直すこと。(約２時間)
4	租税法序論（Ⅲ）	課税要件（その２）/理解度チェック	配布資料に基づき予習しておくこと。レジュメ第４回講義を見直すこと。(約１時間)
5	租税法の原則	租税法律主義と租税公平主義、	配布資料に基づき予習しておくこと。レジュメ第５回講義を見直すこと。(約２時間)
6	租税法の解釈と適用	税法の解釈と適用の仕方	配布資料に基づき予習しておくこと。レジュメ第６回講義を見直すこと。(約２時間)
7	租税手続法（１）	納税義務の成立・確定、不適正申告の是正、更正等の期間制限	配布資料に基づき予習しておくこと。レジュメ第７回講義を見直すこと。(約２時間)
8	租税手続法（２）	附帯税/理解度チェック	配布資料に基づき予習しておくこと。レジュメ第８回講義を見直すこと。(約。1.5時間)
9	所得税法（１）	所得税の特色、納税義務者、包括所得概念、担税力に応じた負担、所得の帰属、権利確定主義	配布資料に基づき予習しておくこと。レジュメ第９回講義を見直すこと。(約２時間)
10	所得税法（２）	所得の区分（利子、配当、退職、給与）と計算	配布資料に基づき予習しておくこと。レジュメ第１０回講義を見直すこと。(約１時間)
11	所得税法（３）	所得の区分（事業、不動産、山林、雑）と計算	配布資料に基づき予習しておくこと。レジュメ第１１回講義を見直すこと。(約２時間)
12	所得税法（４）	所得の区分（譲渡、一時）と計算	配布資料に基づき予習しておくこと。レジュメ第１２回講義を見直すこと。(約２時間)
13	所得税法（５）	損益通算、所得控除と税額控除	配布資料に基づき予習しておくこと。レジュメ第１３回講義を見直すこと。(約１時間)
14	源泉徴収制度	制度の概要と源泉徴収の法律関係	配布資料に基づき予習しておくこと。レジュメ第１４回講義を見直すこと。(約１時間)
15	納税者の権利救済/まとめ	租税訴訟/全体のまとめ	これまでの講義内容を復習し、理解を確実にすること。(約３時間)

関連科目	憲法、民法、商法など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	税法入門	金子宏ほか	有斐閣新書
2	租税法	金子宏	弘文堂
3	図解所得税	楠 久幸	大蔵財務協会

評価方法（基準）	期末試験の点数（６０％）と小テスト及び理解度テストの総点数（40%）の合計で評価します。
学生へのメッセージ	授業内容は連続していますので、順序に沿って全部を視聴しないと理解が難しいと思います。授業は配付資料に沿って行います。参考書のうち、「税法入門」は租税法の概要を知りたい人に、「租税法」は本格的に勉強しようとする人に、図解シリーズは租税法の仕組みを速習したい人にお勧めします。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　小島教授室
備考	レジュメは比較的重要な用語を穴あきにしてありますので、講義用スライドに記載している用語で埋めて下さい。

	小テスト及び理解度テストの正解は次回の授業で解説します。 20年度　合格率81.6%　（不受験率2.6%）　A7.9%　B15.8%　C28.9%　D28.9%　平均69点　38人登録

科目名	租税法Ⅱ	科目名（英文）	Tax Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小島　俊朗
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3022a0		

授業概要・目的	現代社会では、国民は法律（租税法)に基づいて納税の義務を負い税金を納付することになりますが、租税法は必ずしも容易に理解できるものではありません。これは、租税法が多様な経済活動を幅広く適用の対象としていることや、租税負担の公平を図るため、租税法が明確かつ一義的に規定することを要求されていることによるものです。一方、皆さん方が社会人になれば、自営業者、会社員等を問わず、税とは何らかの形で関わらざるを得ません。 租税法Ⅱでは、所得税法と同様に個人に対して課税される相続税及び我が国経済の原動力である法人の利益に対して課税される法人税について学習します。いずれも所得税法と並ぶ重要な税目で、皆さんの将来に直接又は間接に影響を与えるものです。 租税法は実学の代表格です。小職は、国税庁本庁に長年勤務し、また、東京、大阪、名古屋などの国税局で部長職を歴任するなど、税務行政の企画・立案や指揮をしてきたほか、名古屋国税不服審判所等の所長として租税法の解釈・適用にも携わってきました。この授業では、法理論のみならず、それらの実務経験を踏まえた講義を行うこととしています。
到達目標	この授業を通じて学生には、次の目標を達成することが期待されます。 ①租税法に共通する原則並びに相続税法及び法人税法の固有の考え方が理解できるようになること。 ②相続税法及び法人税法の概要・仕組みが理解できるようになること。
授業方法と留意点	聞き慣れない用語も出てくるとは思いますが、租税法の基本的な考え方を理解することが重要ですから、要点を確実に押さえるようにしてください。
科目学習の効果（資格）	税理士試験や国税専門官を目ざす人の入門講座になると思います。また、社会人となって税金を払う立場になれば、無関心ではいられないこともありますので、この機会に税に馴染んでおくのも有益かと思います。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	相続税法と民法（相続編）との関係	計数で見る相続税、民法の基礎事項	民法第５編（相続）に目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。（約２時間）
2	相続税法（１）	相続税の意義・課税方式、相続税の納税義務者	相続税法に関する入門書の該当箇所に目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。(約１時間)
3	相続税法（２）	相続財産の範囲	相続税法に関する入門書の該当箇所に目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。(約１時間)
4	相続税法（３）	債務控除	相続税法に関する入門書の該当箇所に目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。(約１時間)
5	相続税法（４）	相続税の課税標準と税額の計算、各相続人の納付税額	相続税法に関する入門書の該当箇所に目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。(約１時間)
6	相続税法（５）	贈与税の意義	相続税法に関する入門書の該当箇所に目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。(約１時間)
7	相続税法（６）	贈与税の課税標準と税額の計算、相続時精算課税制度	相続税法に関する入門書の該当箇所に目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。(約１時間)
8	相続税法（７）	相続税、贈与税の申告・納付	相続税法に関する入門書の該当箇所に目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。(約１時間)
9	相続税法（８）	財産の評価	相続税法に関する入門書の該当箇所に目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。(約１時間)
10	法人の経済活動と法人税	法人税の意義、納税義務者、法人税の計算（企業会計と課税所得）	法人税法に関する入門書の該当箇所に目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。(約２時間)
11	法人税法（１）	法人税法 22 条と別段の定め	法人税法に関する入門書の該当箇所に目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。(約２時間)
12	法人税法（２）	法人税法 22 条と別段の定め（続き）	法人税法に関する入門書の該当箇所に目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。(約２時間)
13	法人税法（３）	同族会社	法人税法に関する入門書の該当箇所に目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。(約２時間)
14	法人税法（４）	国際課税	法人税法に関する入門書の該当箇所に目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。(約２時間)
15	まとめ	全体のまとめ	ノートと配付資料等を復習しておくこと。（約６時間）

関連科目：民法、会社法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	税法入門	金子宏ほか	有斐閣新書
2	租税法	金子宏	弘文堂

	3	図解相続税・贈与税	板倉 弘至	大蔵財務協会
評価方法 （基準）	期末試験の点数（60%）並びに小テスト及び理解度テスト（課題）の点数（40%）の合計で評価します。			
学生への メッセージ	授業内容は連続していますので、欠席すると理解が難しくなってきます。授業は配付資料に沿って行います。参考書のうち、「税法入門」は租税法の概要を知りたい人に、「租税法」は本格的に勉強しようとする人に、図解シリーズは租税法の仕組みを速習したい人にお勧めします。なお、租税法Ⅰを取らなかった場合でも理解できる内容です。			
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　小島教授室			
備考	レジュメの穴埋めは講義において明示します。 小テスト及び理解度テストの正解は次回の授業で解説します。			

科目名	刑法総論	科目名（英文）	Criminal Law (General)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	小野　晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2024a0		

授業概要・目的	・刑法総論は、全ての犯罪に共通する犯罪成立要件論と刑罰論に関する一般原則を探求する学問である。 ・刑法ＩＡ（総論①）では、刑法の機能、刑法の解釈と罪刑法定主義、主として単独正犯を念頭に置いた犯罪成立要件論として、構成要件論、違法性論、責任論をめぐる諸問題について概説する。 ・刑法総論は、個別の犯罪を離れた犯罪一般を考察対象とするため、抽象的な犯罪論体系に関する議論が多い。 そのため、初学者にはやや難しく感じられるかもしれないが、なるべく身近な具体例を用いて分かりやすく解説する。
到達目標	この授業を通じて学生には、 「・刑法の謙抑性、罪刑法定主義およびその派生原則を説明できる ・刑法総論をテーマとした事例における論点（問題の争点）を抽出し、それに対する判例や通説的見解の内容を説明できる ・各種公務員試験や国家試験で必要とされる刑法総論に関する知識を修得できる」 ようになることが期待される。
授業方法と留意点	・講義形式で行う（社会情勢上、その変更が必要な場合は遅滞なく連絡する）。 ・本講義は、ICT ツールとして Microsoft 社の teams を用いる。 ・課題提示や資料配布などは Microsoft 社 teams を通じて行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。 ・近時、刑事法の改正が相次いでいるので、最新の六法（有斐閣『ポケット六法』や『判例六法』、または、三省堂『デイリー六法』もしくは『模範小六法』の最新版がのぞましい）を
科目学習の効果（資格）	・「刑法総論」および「刑法各論」をしっかり受講すれば、法学検定、地方公務員上級職採用試験、労働基準監督官採用試験（大卒）、裁判所事務官採用試験、および、司法書士試験で出題される「刑法総論」の問題を確実に処理することができるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンスと文献紹介 刑法と刑法学	・授業の進め方と文献紹介 ・刑法の意義 ・刑法の機能 ・刑法学とは何か	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
2	刑法の基礎	・古典学派と近代学派 ・わが国の刑法思想と刑法学 ・刑法の法源 ・刑法の解釈 ・罪刑法定主義	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
3	刑法の法源と解釈	・罪刑法定主義 ・刑罰の正当化根拠 ・刑法の適用範囲	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
4	犯罪の基本概念	・犯罪の概念 ・犯罪論の体系 ・刑法上の行為	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
5	構成要件	・構成要件の概念 ・構成要件要素	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
6	構成要件該当性１	・実行行為とは何か ・実行行為の客観面	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
7	構成要件該当性２	・実行行為の主観面 （構成要件的故意と構成要件的錯誤）	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
8	構成要件該当性３	・刑法上の因果関係論	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
9	構成要件該当性のまとめ	・構成要件該当性に関する重要論点の総復習	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
10	違法性阻却事由１	・違法性とは何か ・正当行為と正当業務行為	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
11	違法性阻却事由２	・正当防衛 ・過剰防衛 ・誤想（過剰）防衛	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
12	違法性阻却事由３	・緊急避難 ・過剰避難 ・誤想（過剰）避難 ・超法規的違法性阻却事由	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
13	責任阻却事由１	・責任とは何か ・責任能力	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
14	責任阻却事由２	・違法性の意識とその可能性 ・期待可能性	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
15	違法性および責任阻却事由のまとめ	違法性および責任阻却事由に関する重要論点の総復習	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）

関連科目	刑事法概論、刑法各論、経済刑法、現代社会と刑事法、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><td>1</td><td>『はじめての刑法学』</td><td>佐久間修＝小野晃正＝川崎友巳＝安田拓人＝品田智史＝十河太朗＝豊田兼彦</td><td>三省堂</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>開講時に各種判例・補助教材を紹介する</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>・形成的評価を行うため、各回講義後に、Microsoft 社 teams を通じて Microsoft　forms から課題を配信する。各回の課題の得点を合算して評価対象とする（講義の理解度 5%＋課題の得点 95%）。定期試験は実施しない。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>・法律学の学習は予習よりも問題演習を中心とした復習が効果的です。
・問題演習の素材としては、公務員試験や司法書士試験で出題される刑法の問題がさしあたり有効です。
・問題集は開講時に紹介します。
・公務員（地方行政職、国家行政職、警察、消防、刑務、裁判所事務官、検察事務官）試験やロースクールをはじめとする大学院の受験を意識している学生はなるべく受講するようにしてください。
・総論上の争点とそれに対する判例ないし通説を正確に理解すれば、公務員試験はむしろ易しい類です。決して臆することなく果敢にチャレンジしてください。
・新聞、テレビ、ラジオ、ネットなど媒体は問いませんが、刑法に関する面白いネタがたくさん落ちていますので、なるべくニュースに接するようにしましょう。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>11 号館 10 階　小野教授室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>修正された構成要件論（未遂犯論と共犯論）、罪数論については刑法ⅡB（総論②）で取り扱う。
課題に対するコメントは次回講義または teams を通じて行う。</td></tr>
</table>

科目名	経済刑法	科目名（英文）	Economic Criminal Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野　晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3026a0		

授業概要・目的	・経済刑法では、経済活動を規制する刑罰法規につき、刑事実体法、刑事手続法、および、刑事学などの観点から、経済犯罪をめぐる諸問題について総合的に検討する。
到達目標	この講義を通じて学生には、 ・経済犯罪とは何かを説明できる ・論点（問題の争点）を抽出し、それに対する判例や通説的見解を説明できる ようになることが期待される。
授業方法と留意点	・講義形式で行う（社会情勢上、その変更が必要な場合は遅滞なく連絡する）。 ・本講義は、ICT ツールとして Microsoft 社の teams を用いる。 ・課題提示や資料配布などは Microsoft 社 teams を通じて行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。
科目学習の効果（資格）	・ビジネス科目ともいうべき本科目を学習することで、卒業後の進路に応じ、企業法務、行政実務及び警察実務においてすぐにでも役立つ経済刑法上の基本知識が身につく。 ・公務員試験に出題される刑法の問題を素早く解けるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 刑法の基礎理論（復習） 経済刑法の概念	・文献紹介 ・刑法の機能と解釈 ・罪刑法定主義 ・経済刑法とは何か ・刑法各論と経済刑法の関係	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
2	消費者の財産の侵害 1	振り込め詐欺	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
3	消費者の財産の侵害 2	悪質商法	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
4	「虚偽」の表示と犯罪	食品表示偽装・商標法違反・文書内容の虚偽	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
5	会社財産の侵害	不正融資・業務上横領罪・(特別) 背任罪	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
6	インターネット犯罪	不正アクセス行為・電子計算機使用詐欺罪	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
7	営業秘密の侵害	営業秘密侵害罪	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
8	金融商品取引法違反	インサイダー取引	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
9	独占禁止法と犯罪	不当取引制限罪	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
10	租税犯罪	租税ほ脱罪	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
11	マネー・ローンダリング	組織犯罪・暗号資産 没収追徴	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
12	経済犯罪に対する制裁	課徴金 法人処罰	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
13	経済法規違反手続きの諸問題①	行政手続	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
14	経済法規違反手続きの諸問題①	刑事手続	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
15	まとめ	これまでの講義の総まとめ	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）

関連科目	刑事法概論、刑法総論、刑法各論、刑事訴訟法、刑事学、会社法、独占禁止法、知的財産法ほか

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	入門経済刑法	穴沢 大輔＝長井長信	信山社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	体系経済刑法：経済活動における罪と罰	佐久間　修	中央経済社

	2			
	3			
評価方法 （基準）	・形成的評価を行うため、各回講義後に、Microsoft 社 teams を通じて Microsoft　forms から課題を配信する。各回の課題の得点を合算して評価対象とする（講義の理解度 5%＋課題の得点 95%）。定期試験は実施しない。
学生への メッセージ	・企業をめぐる犯罪を多く取り扱うので、民間企業志望者を大歓迎する。 ・公務員の職務に関するテーマが多いので、公務員志望者はできるだけ受講すること。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　小野教授室
備考	課題に対するコメントは次回講義または teams を通じて行う。

科目名	刑事政策	科目名（英文）	Criminal Policy
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	島田　良一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3027a0		

授業概要・目的	本授業では、犯罪者処遇に関する法制度や刑罰の意義・機能などについて、学説、実務の動向などを踏まえながら解説する。
到達目標	本授業を通じて学生には、刑事政策のうち、犯罪者処遇に関する法制度や刑罰の意義・機能などに関する基本的な知識を修得することが期待される。
授業方法と留意点	授業担当者作成にかかるレジュメに基づいて授業を進めていく。 なお、各回の授業テーマに応じて、視聴覚教材も使用する予定である。
科目学習の効果（資格）	資格試験や公務員試験といった「試験」には直接役に立たないが、将来、法曹三者や警察官、検察事務官、裁判所事務官、刑務官、法務教官など刑事法に関わる仕事に就こうと思っている人にはどこかで役に立つはずである。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の内容および進め方に関する説明、文献・参考書の紹介	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
2	司法的処遇について①	捜査段階（警察）における犯罪者処遇について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
3	司法的処遇について②	捜査段階（検察）における犯罪者処遇について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
4	司法的処遇について③	裁判段階における犯罪者処遇について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
5	刑罰について①	総論・自由刑について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
6	刑罰について②	財産刑について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
7	刑罰について③	死刑について①	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
8	刑罰について④	死刑について②	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
9	施設内処遇について①	刑務所における処遇について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
10	施設内処遇について②	刑務所における就労支援の取組みについて	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
11	社会内処遇について	保護観察、更生緊急保護などについて	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
12	非行少年の処遇について①	少年保護手続の概要について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
13	非行少年の処遇について	保護処分について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
14	犯罪報道をめぐる諸問題について	少年事件における実名報道など	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
15	まとめ	重要論点の再解説	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）

関連科目	刑事政策Ⅰ、刑事訴訟法、刑法総論、刑法各論、地域防犯政策など。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	刑事政策（第２版）	川出敏裕・金光旭	成文堂
2	ビギナーズ刑事政策（第３版）	守山正・安部哲夫	成文堂
3	犯罪白書（各年度版）	法務総合研究所編	法務省

評価方法（基準）	課題（78%）、レポート（22%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11号館９階　島田准教授室
備考	課題については、次回の授業の冒頭で解説する。

科目名	現代社会と刑事法	科目名（英文）	Modern Society and the Criminal Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	島田　良一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3028a0		

授業概要・目的	本授業では、社会学や人類学、生物学、心理学といった様々な学問領域に基づく犯罪学理論や各種犯罪の発生原因について、学説、実務の動向などを踏まえながら解説する。
到達目標	本授業を通じて学生には、刑事政策のうち、犯罪学理論及び各種犯罪の発生原因に関する基本的な知識を修得することが期待される。
授業方法と留意点	授業担当者作成にかかるレジュメに基づいて授業を進めていく。 なお、各回の授業テーマに応じて、視聴覚教材も使用する予定である 。
科目学習の効果（資格）	資格試験や公務員試験といった「試験」には直接役に立たないが、将来、法曹三者や警察官、検察事務官、裁判所事務官、刑務官、法務教官など刑事法に関わる仕事に就こうと思っている人にはどこかで役に立つはずである。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の内容および進め方に関する説明、文献・参考書の紹介	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
2	古典派犯罪学と実証主義について	犯罪学が誕生した経緯について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
3	犯罪生物学の展開	初期の犯罪学理論のうち、人類学や生物学を基調としたものについて	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
4	犯罪社会学の展開①	初期の犯罪社会学のうち、文化伝達の理論に基づくものについて	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
5	犯罪社会学の展開②	初期の犯罪社会学のうち、社会構造論に基づくものについて	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
6	犯罪学の新しい動向①	ラベリング理論について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
7	犯罪学の新しい動向②	コントロール理論、環境犯罪学について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
8	各種犯罪の分析①	少年非行の原因について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
9	各種犯罪の分析②	非行少年を取り巻く環境について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
10	各種犯罪の分析③	精神障害者による犯罪について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
11	各種犯罪の分析④	高齢者による犯罪について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
12	各種犯罪の分析⑤	性犯罪について①	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
13	各種犯罪の分析⑥	性犯罪について②	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
14	各種犯罪の分析⑦	ストーカー犯罪について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
15	まとめ	重要論点の再解説	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）

関連科目：刑事政策Ⅱ、刑事訴訟法、刑法総論、刑法各論、地域防犯政策など。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	刑事政策（第２版）	川出敏裕・金光旭	成文堂
2	ビギナーズ刑事政策（第３版）	守山正・安部哲夫	成文堂
3	犯罪白書（各年度版）	法務総合研究所編	法務省

評価方法（基準）	課題（78%）、レポート（22%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館９階　島田准教授室
備考	課題については、次回の授業の冒頭で解説する。

科目名	刑事訴訟法	科目名（英文）	Criminal Procedure
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	島田　良一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3029a0		

授業概要・目的	本授業では、我が国の刑事手続について、学説・判例の動向を踏まえながら解説する。一般的に、新聞やテレビ、インターネットのウェブサイト等が刑事事件・刑事裁判について報じる際、捜査機関あるいは犯罪被害者の視点で報じられることが多いように思われるが、本授業においては、刑事訴訟法が「公共の福祉の維持と個人の基本的人権の保障とを全うしつつ、事案の真相を明らかにし、刑罰法令を適正且つ迅速に適用実現する」ことをその目的としていることにも鑑み、捜査機関のみならず被疑者・被告人あるいは裁判所・裁判官、さらには裁判員の視点にも立った解説を行う予定である。
到達目標	この授業を通じて学生には、我が国の刑事手続に関する専門的知識を修得することが期待される。
授業方法と留意点	配布レジュメに基づいて授業を進めていく。
科目学習の効果（資格）	司法試験、法科大学院入学試験、裁判所事務官採用試験、法学検定など。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	刑事訴訟法・刑事手続の概要	本授業において学習する内容の概要など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと（約１時間）
2	捜査の方法・実行	任意捜査と強制捜査の区別など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと（約１時間）
3	被疑者の逮捕・勾留	逮捕・勾留の要件と手続など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと（約１時間）
4	捜索・差押え・検証など	令状主義など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと（約１時間）
5	被疑者側の防御	弁護人選任権、黙秘権、接見交通権など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと（約１時間）
6	公訴提起の手続	公訴提起、不起訴処分など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと（約１時間）
7	公訴提起の方式	起訴状の記載事項、起訴状一本主義など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと（約１時間）
8	公判のための準備活動	公判準備など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと（約１時間）
9	公判期日における手続	公判手続の概要など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと（約１時間）
10	証拠法とは	証拠法の概要、証拠能力・証明力など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと（約１時間）
11	伝聞法則	伝聞法則の意義、例外など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと（約１時間）
12	自白法則	自白の証拠能力など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと（約１時間）
13	違法収集証拠排除法則	証拠排除法則など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと（約１時間）
14	裁判	裁判の種類、成立過程など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと（約１時間）
15	まとめ	重要論点の確認	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと（約１時間）

関連科目	刑事訴訟法応用講義、刑法総論、刑法各論、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事政策、現代社会と刑事法、経済刑法など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	入門刑事手続法（第８版）	三井誠・酒巻匡	有斐閣
2	刑事訴訟法	池田公博・笹倉宏紀	有斐閣
3	リーガルクエスト刑事訴訟法（第２版）	宇藤崇・松田岳士・堀江慎司	有斐閣

評価方法（基準）	期末試験（80%）、小テスト（20%）
学生へのメッセージ	刑事訴訟法では、捜査・公判における現実の「場面」が問題となることから、そうした「場面」において、もし自分が警察官・検察官だったら、裁判官だったら、あるいは被疑者・被告人・弁護人だったらどう考えるか、それぞれの視点に立って考えてみることをお勧めする。
担当者の研究室等	11 号館９階　島田准教授室
備考	六法は必携（ただし、パソコン、スマホ等によって e-gov による法令検索が利用できるのであればそれでも可）。 小テストについては、次回の授業で解説する。

科目名	民事法概論	科目名（英文）	Introduction to Civil Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤＥＦＧＨＩＫ
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	城内　明
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○		
科目ナンバリング	JDJ1030a0		

授業概要・目的	民法総則は、民法（特に財産法）を学ぶ上での基本です。 本講義は、民法総則を学ぶことにより、民法の思考を体得することを目的とします。
到達目標	この授業を通じて学生には、民法総則の基本を正確に理解することが期待されます。
授業方法と留意点	この授業では、Teams 上にアップしたレジュメを用いて、授業を進めます。レジュメを印刷して、授業に参加してください。授業では、講義とあわせ、レジュメの穴埋めや、問題演習等も行います。六法も授業内で利用しますので、必ず、冊子体の六法(ポケット六法等)を持ってきてください。
科目学習の効果（資格）	公務員試験(地方上級・国家公務員一般職等)のほか、宅建・行政書士・司法書士・司法試験等の各種資格試験、法科大学院(ロースクール)入試等に必須。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・民法の勉強の仕方・民法総論(1)	ガイダンス・民法の勉強の仕方・民法典の構造を学ぶ	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
2	民法総論(2)	契約とは何か・意思自治の原則・契約は守られなければならない・契約自由の原則とその限界	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
3	民法総論(3)	契約の成立・意思表示の構造・意思表示の効力発生時期	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
4	意思表示の瑕疵(1)、無効と取消し	意思表示の瑕疵総説・無効と取消し	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
5	意思表示の瑕疵(2)	心裡留保・虚偽表示(1)	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
6	意思表示の瑕疵(3)	虚偽表示(2)（94 条 2 項の類推適用）	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
7	意思表示の瑕疵(4)	錯誤	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
8	意思表示の瑕疵(5)	詐欺・強迫・消費者取消権	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。。
9	中間試験	中間試験	第 1 回～第 8 回の内容を復習し、中間試験に臨むこと。
10	法律行為の有効要件(1)	確定可能性、強行法規、公序良俗①	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
11	法律行為の有効要件(2)	公序良俗②、事例問題対策①	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
12	法律行為の有効要件(3)	公序良俗③、事例問題対策②	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
13	私権行使の自由とその限界(1)	公共の福祉、信義則	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
14	私権行使の自由とその限界(2)、時効制度(1)	権利濫用の禁止、時効総論、消滅時効①	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
15	時効制度(2)	消滅時効②、事例問題対策③	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。

関連科目	法学概論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民法 1 総則（有斐閣ストゥディア）	山本敬三	有斐閣

	2	法学講義民法 ： 総則（第３版）	奥田昌道	勁草書房
	3	民法判例百選Ⅰ 総則・物権〔第９版〕	潮見佳男	有斐閣

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民法講義 1(第７版)	近江幸治	成文堂
2	民法概論 1 民法総則〔第２版〕	山野目章夫	有斐閣
3			

評価方法 （基準）	中間試験(授業内試験(50 点))・期末試験(定期試験(50 点))を実施し、その合計点で成績評価します(100%)。
学生への メッセージ	民法総則は、民法（特に財産法）を学ぶ上での基本です。 2 年次以降に債権法・物権法（・および相続法）を学ぶ予定のある人、公務員試験・資格試験・法科大学院入試等、民法が受験科目となっている試験を受験予定の人(受験する可能性のある人)は、必ず受講して下さい。なお、2 年次以降に開講される法律学特修特別講義に参加を希望する学生は、本講義の履修が必要です。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　城内准教授室
備考	中間試験は、採点後、法学部事務室にて返却します。必ず受け取ってください。 教科書は、指定の①「民法 1 総則（有斐閣ストゥディア)」あるいは②「法学講義民法総則〔第三版〕」のいずれかと、「判例百選」の 2 冊の購入をお勧めします。①②共に初学者向けのテキストですが、①の方がより易しく、②の方がより詳しいです。なお、①②の代わりに、参考書に掲げたテキストを購入しても構いません。

科目名	民法総則	科目名（英文）	Civil Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	城内　明
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2031a0		

授業概要・目的	民法総則は、民法（特に財産法）を学ぶ上での基本です。 本講義は、民法総則を学ぶことにより、民法の思考を体得することを目的とします。
到達目標	この授業を通じて学生には、民法総則の基本を正確に理解することが期待されます。
授業方法と留意点	この授業では、Teams 上にアップしたレジュメを用いて、授業を進めます。レジュメを印刷して、授業に参加してください。授業では、講義とあわせ、レジュメの穴埋めや、問題演習等も行います。六法も授業内で利用しますので、必ず、冊子体の六法(ポケット六法等)を持ってきてください。
科目学習の効果（資格）	公務員試験(地方上級・国家公務員一般職等)のほか、宅建・行政書士・司法書士・司法試験等の各種資格試験、法科大学院(ロースクール)入試等に必須。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・人(1)	ガイダンス、権利能力の始期・条件	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
2	人(2)	権利能力の終期	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
3	人(3)	意思能力・制限行為能力①(総説)	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
4	人(4)	制限行為能力②(制限行為能力者制度総説・制限行為能力者の相手方の保護)	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
5	人(5)	制限行為能力③(未成年者)	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
6	人(6)	制限行為能力④(成年後見制度①)	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
7	人(7)	制限行為能力⑤(成年後見制度②)	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
8	中間試験	中間試験	第１回～第８回の内容を復習し、中間試験に臨むこと。
9	代理(1)	代理総説・代理権①	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
10	代理(2)	代理権②／代理行為	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
11	代理(3)	無権代理総説、無権代理の相手方の保護	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
12	代理(4)	無権代理と相続、事例問題対策①	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
13	代理(5)	表見代理①、事例問題対策②	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
14	代理(6)	表見代理②　事例問題対策③	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
15	人(8)、物	法人、物	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。

関連科目	法学概論、民法Ｉa(総則)

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民法１ 総則（有斐閣ストゥディア）	山本敬三	有斐閣

	2	法学講義民法 ： 総則（第３版）	奥田昌道	勁草書房
	3	民法判例百選Ⅰ 総則・物権〔第９版〕	潮見佳男	有斐閣

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民法講義 1(第７版)	近江幸治	成文堂
2	民法概論 1 民法総則〔第２版〕	山野目章夫	有斐閣
3			

評価方法 （基準）	中間試験(授業内試験(50 点))・期末試験(定期試験(50 点))を実施し、その合計点で成績評価します(100%)。
学生への メッセージ	民法総則は、民法（特に財産法）を学ぶ上での基本です。 2 年次以降に債権法・物権法（・および相続法）を学ぶ予定のある人、公務員試験・資格試験・法科大学院入試等、民法が受験科目となっている試験を受験予定の人(受験する可能性のある人)は、必ず受講して下さい。なお、2 年次以降に開講される法律学特修特別講義に参加を希望する学生は、本講義の履修が必要です。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　城内准教授室
備考	中間試験は、採点後、法学部事務室にて返却します。必ず受け取ってください。 教科書は、指定の①「民法 1 総則（有斐閣ストゥディア)」あるいは②「法学講義民法総則〔第三版〕」のいずれかと、「判例百選」の 2 冊の購入をお勧めします。①②共に初学者向けのテキストですが、①の方がより易しく、②の方がより詳しいです。なお、①②の代わりに、参考書に掲げたテキストを購入しても構いません。

科目名	物権法	科目名（英文）	Property Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	家本　真実
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2033a0		

授業概要・目的	物権は、物を支配する権利です。たとえば、土地を所有していれば、その土地に対して所有権という物権を持っていることになり、その土地を自由に使用したり、処分したりすることができます。物権法は、民法の中でも、こうした物権に関するルールを定めた法律です。 本講義では、担保物権を除く物権法の全体像を理解することを目的とします。より理解を深めていただくために、できる限り身近な事例を挙げるとともに、条文に対する解釈や、学説、判例について紹介していきたいと考えています。
到達目標	この講義を通じて、学生の皆さんには、担保物権を除く物権法の基礎をしっかり理解し、民法における物に対する権利の考え方について全体像を把握できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	要点を記したレジュメを配布し、それに沿って解説をおこなうといったかたちで講義をおこないます。 講義は所定の講義時限におこない、レジュメにつき解説を加えます。六法を参照していただくことも多いので、書籍またはオンラインで参照できるものを必ずご用意ください。教科書は可能な限り、入手していただくことをお勧めします。
科目学習の効果（資格）	各種資格試験においては、物権法を含む民法の理解が必須となることがあります。ただし、本講義では各種資格試験の対策まではおこないません。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに 物権法概説	講義のガイダンス 物権法の全体像（物権とは何か、民法における物権法の位置づけ）	講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2時間)
2	物権変動（1）	物権変動の基本的理論	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。(1.5時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
3	物権変動（2）	不動産の物権変動における公示と登記制度	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。(1.5時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
4	物権変動（3）	不動産の物権変動における「第三者」	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。(1.5時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
5	物権変動（4）	不動産の物権変動における「取消しと登記」	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。(1.5時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
6	物権変動（5）	不動産の物権変動における「取得時効と登記」	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。(1.5時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
7	物権変動（6）	登記の効力	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。(1.5時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
8	物権変動（7）	動産の物権変動における公示と即時取得	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。(1.5時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
9	占有権（1）	占有の取得、移転、消滅	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。(1.5時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
10	占有権（2）	占有の効力	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。(1.5時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
11	所有権（1）	所有権の基本的理論、所有権の取得	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。(1.5時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
12	所有権（2）	所有権に基づく物権的請求権	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。(1.5時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
13	所有権（3）	共同所有	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。(1.5時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
14	所有権（4）	建物の区分所有	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。(1.5時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
15	用益物権 おわりに	地上権、永小作権、地役権、入会権 講義のまとめと補足	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。全講義を通して疑問や不明点がないか確認したうえで講義に臨むこと。(3時間) 講義終了後、今回の講義を復習し、疑問点を整理し

				ておくこと。(3 時間)

関連科目	民法総則、債権法、契約法、担保物権法など民法科系目全般。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民法の基礎 2－物権 （第 2 版）	佐久間 毅	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	六法		
2			
3			

評価方法（基準）	講義内で課す課題（確認テスト、ペーパーなど）への取り組みを 30%程度、学期末試験の成績を 70%程度の割合で、最終的な評価をおこないます。
学生へのメッセージ	講義中は私語を慎んでください。講義内容は、講義の進行具合に応じて変更する場合もあります。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　家本准教授室
備考	講義中に課した課題については、次の回以降の講義で講評・解説をおこないます。

科目名	不動産取引法	科目名（英文）	Real Estate Exchange Act
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中　敦
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2034a0		

授業概要・目的	・不動産取引に関する知識の習得と担保物権の果たす役割についての理解を深めることを目的とする。登記簿の見方、対抗要件とは何か、通行権などにつき一通りの理解が得られるようにし、実生活で役に立つ事柄を学習する。また、担保とは、債権、特に金銭債権の回収を確実にする方策のことであり、債権が確実に弁済されることは債権者にとって重要なことである。さらに、市場原理による経済社会にあっては、企業は新たな事業展開を迫られ、常に、資金の確保を必要とする。金融を得るには担保の提供は必須であるので、担保に関する知識は極めて重要である。 ・担保物権に関する講義は、抵当権を中心とし、仮登記担保、譲渡担保等の非典型担保や担保の対象、さらには強制執行の基本的な知識も得られるようにする。 ・授業担当者は、大阪高裁・地裁、東京地裁などの裁判官として３９年間勤務するなど、財産法等に関する民事訴訟等の判決に数多く携わってきた。この授業では、法理論のみならず、それらの実務経験を踏まえた講義も行いたい。
到達目標	この授業を通じて、学生には、不動産取引及び担保（主に担保物権）につき一通りの知識を習得し、不動産取引や担保の基礎、どのような場面でどのような役割を果たしているのか､注意すべき事柄は何かについて簡単な説明ができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	・各回の講義に関する詳細並びに関連するレジュメ又は資料は、Teams を使って該当講義分の各チャネルに掲示するので、各講義前に必ず見るようにすること。 ・授業には、プリントアウトした上記レジュメ等と六法(ポケット六法等、最新の令和５年版を推奨する)を必ず持参すること。講義はレジュメに基づいて行うが、十分な理解のためには、レジュメ及び教科書による事前学習並びに授業を踏まえた事後学習が不可欠である。それぞれ２時間を充ててほしい。事前学習及び事後学習に当たっても六法を適宜参照すること。
科目学習の効果（資格）	理解が進めば財産法全体に興味が持て、民法全般に関する応用力が養われ、民法を試験科目とする各種資格試験に対応できる。金融についての知識も得られるので、不動産関係あるいは金融関係の仕事に就くことを望む者にとっては、必須の領域であるといえよう。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス､不動産取引についての基礎知識	・授業の進め方、受講上の注意 ・不動産取引の基礎	【事前学習】レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 （各２時間）
2	不動産登記	・不動産登記に関する基礎知識	【事前学習】レジュメ及び教科書を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 （各２時間）
3	対抗要件等	・物権総論 ・対抗要件	【事前授業】レジュメ及び教科書を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、授業１～３回に関する小テストに回答する。 （各２時間）
4	通行権	・通行権総論 ・袋地通行権 ・通行地役権	【事前学習】レジュメ及び教科書を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 （各２時間）
5	農地、山林の売買	・農地・山林とは ・農地・山林の売買 ・農地・山林の売買で留意すべき事項	【事前学習】】レジュメ及び教科書を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、授業４、５回に関する小テストに回答する。 （各２時間）
6	金銭債権の実行、担保とは	・金銭債権について ・物的担保と人的担保	【事前学習】レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 （各２時間）
7	担保法概論	・債権者平等の原則と物的担保、担保物権 ・担保物権の種類 ・担保物権の効力・性質	【事前学習】】レジュメ及び教科書を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、授業６、７回に関する小テストに回答する。 （各２時間）
8	抵当権総論、抵当権の設定（抵当権１）	・抵当権とは ・抵当権の設定	【事前学習】】レジュメ及び教科書を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 （各２時間）
9	抵当権の効力、実行、物上代位（抵当権２）	・抵当権の効力 ・抵当権の実行 ・抵当権の物上代位	【事前学習】】レジュメ及び教科書を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、授業８、９回に関する小テストに回答する。 （各２時間）
10	抵当目的物の利用権､法定地上権（抵当権３）	・抵当権設定者の使用収益権 ・法定地上権	【事前学習】】レジュメ及び教科書を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 （各２時間）
11	抵当権の残りの部分（抵当権４）	・抵当権者と第三取得者の利害調整 ・抵当権に関するその余の事項 ・根抵当権	【事前学習】】レジュメ及び教科書を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、授業１０、１１回に関する小テストに回答する。 （各２時間）
12	質権	・質権の意義、効力など	【事前学習】】レジュメ及び教科書を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 （各２時間）
13	留置権・先取特権	・留置権 ・先取特権	【事前学習】】レジュメ及び教科書を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、授業１５回の授業内容に関して回答する（小テスト扱い)。 （各２時間）
14	非典型担保	・非典型担保（民法の条文にない担保物権）の意義・必要性 ・仮登記担保、譲渡担保、所有権留保	【事前学習】】レジュメ及び教科書を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、授業１２～１４回に関する小テストに回答する。 （各２時間)。
15	これまでの授業の振り返り	アンケートの希望が多かった項目を中心に授業全般を振り返る	【事前学習】レジュメを読む。 【事後学習】授業内容を確認し、これまでの授業の感想などに関する小テストに回答する。

				（各２時間）

関連科目	民法総則・物権法・債権総論、倒産法、民事保全・執行法等

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民法Ⅱ　物権　第５版	淡路剛久ほか	有斐閣Ｓシリーズ
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	講義後における Teams 上での課題(小テスト)で評価する（１００%)。課題の詳細は、別途 Teams で伝えることもあるので、注意すること。
学生への メッセージ	不動産取引の全体像を把握すること、取引社会で重要な意義を有している担保の概略を学ぶことは、仕事の上で役に立つだけでなく、自宅を購入したりする際等、社会生活を営む上で必須です。法律の学習は講義内容を理解することが第一です。担保物権は、条文が多く、判例も多いため、難しい面もありますが、本講義は、あくまでもレジュメによって基本を押さえていくことを中心に考えています。したがって、授業では、教科書すべてについて言及するものではありませんが、興味を持つ分野を探し、自分から問題意識を持って参加してください。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　田中教授室
備考	民法総則、物権法を学習しておくことが望ましい。コロナをめぐる情勢、学生の理解度、授業の進行によっては、授業の方法、順序、内容を変更することがある。 20 年度　合格率 76.9%　（不受験率 0%）　A12.6%　B 30.8%　C 16.1%　D17.5%　平均 69 点　143 人登録

科目名	債権総論	科目名（英文）	Law of Obligation: General Provisions
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大川　謙蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2035a0		

授業概要・目的	民法典における財産法には、総則・物権・債権の三つ編があります。 その中で、物権とは人と物との関係を扱う部分であり、債権とは人と人との関係を扱う部分です。 さらに、債権法の部分は大きく分けて、総論部分と各論部分に分かれます。本講義ではその総論部分を扱います。
到達目標	この授業を通じて学生には、債権法の内容を全体的に把握し日常的な取引で生じる法的問題等を考察できる知識を涵養することを目的とします。 具体的には、取引で生じる債権とはいかなる内容のもので、いかなる性質を有しているのか、合意（契約）により生じた債権が約束通りに履行されない場合にはどのような問題が生じるのか、これらの債権を確保する行為は許されるのか、それらの債権を売却するなどして有効活用することはできないのか、という点を見ていく予定です。 これにより、本講義では、社会における取引の意義を把握できるようにし、かつ、自分の判断で問題を処理できるための基本的知識の獲得をすることが期待されます。
授業方法と留意点	講義に関連する、レジュメまたは資料を使用する。教科書は適宜参照する。 レジュメはTeamsでデータ配信する予定である。情報処理室・自宅等で各自印刷して使用すること（第１回目のみ配布）。 講義は対面方式の教室で行う。Teamsに動画を後日アップロードする予定であるが、これはあくまで復習用であり、録画の品質等は担保できない。 法律科目であるので、六法（書籍の一種）が必要となる。予復習状況は備考欄も確認すること。
科目学習の効果（資格）	各種資格試験においては、債権法を含む民法の理解が必須となります。公務員試験等、民法科目が出題される場合や、銀行取引などにおいても重要となる知識を債権法は含んでいます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	債権法概論	講義のガイダンス 前・後期30回で使う内容の確認 債権各論との住み分け状況の確認	総則および債権各論部分を見直すこと。 債権総論の教科書で全体確認をすること
2	債権総論と各論	債権の全体像および契約法との関係で重要となる制度の確認	意思表示部分の予習を行っておくこと。 総務契約において生じうる問題状況の整理を行うこと。
3	債権の目的	様々な債権の性質と法制度	各契約により生み出される債権債務の内容を確認しておくこと。 各債権の特徴を押さえたうえで、そこから生じうる問題点と法制度を整理すること
4	債権の基本的効力	債権があることで認められる各効力 履行の強制	手続法の概要を確認しておくこと。 履行を強制的に実現させる形、およびそれらがどのような場面で用いられるかを整理すること。
5	債務不履行責任１	債務不履行による損害賠償請求の要件	不法行為制度と債務不履行制度の違いを整理しておくこと。 債務不履行による損害賠償請求が認められるための要件を不法行為制度と対比しながら整理すること。
6	債務不履行責任２	損害の意義	不法行為制度と債務不履行制度における損害概念の相違を整理しておくこと。 判例における損害概念を整理すること
7	債務不履行責任３	受領遅滞	履行遅滞の意義を整理しておくこと。 債務不履行制度と受領遅滞制度との違いを整理すること。
8	債務不履行責任４	賠償を調整する制度の確認	債権各論で問題となる危険負担制度を整理しておくこと。 過失相殺の意義を整理すること。
9	責任財産保全制度１	債権者代位権	担保法の概要を復習しておくこと。 責任財産の意義および債権の効力の部分を復習すること
10	責任財産保全制度２	債権者代位権の行使	代位権の要件を整理しておくこと。 相殺の意義を整理すること。
11	責任財産保全制度３	債権者代位権の転用	登記制度および賃貸借契約の内容を整理しておくこと。 転用が問題となる判例の内容を整理すること。
12	責任財産保全制度４	詐害行為取消権	債権者代位権の内容を復習しておくこと。 責任財産の意義および債権の効力の部分を復習すること
13	責任財産保全制度５	詐害行為取消権の行使	詐害行為取消権の要件を整理しておくこと。 相殺の意義を整理すること。
14	責任財産保全制度６	詐害行為取消権の意義	詐害行為取消権の法的性質を整理しておくこと。 詐害行為取消権の問題点を整理すること。
15	全体復習	前期の講義内容の総括	全体内容を復習すること。

関連科目	契約法、不法行為法、民法総則など、民法系科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民法Ⅲ－債権総論（最新版）	野村豊弘ほか	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

	2 | | | | 3 | | | |
評価方法 （基準）	Teams を使った小テストを行う（70%～80%：講義の状況により変化予定）。 教室での小テスト（20%～30%：講義の状況により変化予定）。 その合計 100 点満点計算を行う予定である。
学生への メッセージ	法律学にもかなり慣れたことだと思いますが、不十分だと思われる方も、復習をしつつ取り組んでいけば十分に理解ができますし、興味も持っていけるはずです。 講義の動画はアップロード（講義終了時まで掲載）を行います。欠席時に、オンライン上での小テスト等には各自で対応してください。 小テストの解答期間は、日曜日の 23 時 59 分までを予定し、講義後 5 日間ほどの猶予期間を設定しています。 なお、大学は対面講義が原則であることから、それ以外の欠席事由は成績評価にあたっては何らの正当性をもたないということを理解しておいてください。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　大川准教授室
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の３つから成り立っています。それぞれにつき、90 分を確保して学習をする必要があります。 予習・復習については、各講義の内容により多少の違いが出てきますので、必ず講義でそれらの対象を聞くようにしてください。事前・事後学習内容について、講義で出された課題及び指摘部分の内容については、各対応時の講義で確認・解説を行います。 受講態度のひどい学生が散見されます。受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外しますので、ご理解下さい。

科目名	債権各論	科目名（英文）	Law of Obligation: Special Provisions
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大川　謙蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2036a0		

授業概要・目的	民法典における財産法には、総則・物権・債権の三つがあります。 その中で、物権とは人と物との関係を扱う部分であり、債権とは人と人との関係を扱う部分です。 債権法の部分は大きく分けて、総論部分と各論部分に分かれます。本講義では各論部分を扱います。特に、契約を中心に確認する予定です。
到達目標	この授業を通じて学生には、債権法の内容を全体的に把握し日常的な取引で生じる法的問題等を考察できる知識を涵養する事を目的としています。 具体的には、日常的にどのような取引がなされているのか、それらの契約にはどのようなものがあるのか、それらの契約がどのような性質を含んでいるのかを確認します。 これにより、本講義では、社会における取引の意義を把握できるようにし、かつ、自分の判断で問題を処理できるための基本的知識の獲得をすることが期待されます。
授業方法と留意点	講義に関連する、レジュメまたは資料を使用する。教科書は適宜参照する。 レジュメはTeamsでデータ配信する予定である。情報処理室・自宅等で各自印刷して使用すること（第１回目のみ配布）。 講義は対面方式の教室で行う。Teamsに動画を後日アップロードする予定であるが、これはあくまで復習用であり、録画の品質等は担保できない。 法律科目であるので、六法（書籍の一種）が必要となる。 予復習については、備考欄も確認すること。
科目学習の効果（資格）	各種資格試験においては、債権法を含む民法の理解が必須となります。公務員試験等、民法科目が出題される場合や、銀行取引などにおいても重要となる知識を債権法は含んでいます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	債権各論の全体像 予復習については、備考欄も確認すること。	民法総則の内容を確認しておくこと。 教科書の目次から債権各論の全体像を確認・整理すること。
2	契約の意義	契約の意義 債権の意義 契約の成立	民法総則における意思表示制度を確認しておくこと。 契約が成立した場合の効力を整理すること。
3	債権の発生原因	契約 事務管理 不当利得 不法行為	債権の意義を確認しておくこと。 各制度の要件を整理すること。
4	契約の種類性質・法的性質	各契約の特徴とその性質	売買契約の内容を確認しておくこと。 契約の性質を整理すること。
5	特殊な契約の成立	定型約款	契約が成立する形および契約自由の原則を確認しておくこと。 約款が組み入れられる形を整理すること。
6	契約の効力１	総務契約における牽連性 原始的不能 同時履行の抗弁	無効と取消し制度の内容を確認しておくこと。 債務不履行制度の概要を整理すること。
7	契約の効力２	危険負担 第三者のためにする契約	債務不履行制度の概要を確認しておくこと。 債務不履行制度との違いから危険負担の制度を整理すること。
8	解除１	解除制度	総務契約の意義を確認しておくこと。 債務不履行制度と解除との関係を整理すること。
9	解除２	解除の効果と第三者	解除制度を確認しておくこと。 取り消しと第三者との関係と違いを整理すること。
10	贈与契約	贈与の制度	債権の発生原因を確認しておくこと。 無償契約の特徴を整理すること。
11	売買契約１	売買の意義 売買の一方の予約 手付	契約の成立の内容を確認しておくこと。 解除制度と手付との関係を整理すること
12	売買契約２	売買と契約不適合責任	債務不履行制度を確認しておくこと。 契約不適合とされる事象とそれに対応する制度との関係を整理すること。
13	売買契約３ 交換契約	担保責任としての売主の責任 交換契約の概要	契約不適合責任の内容を確認しておくこと。 財産移転型契約の全体を整理すること。
14	消費貸借契約	消費貸借契約の意義	金銭の貸し借りの状況および利息債権について確認しておくこと。 消費貸借契約の特徴を整理すること。
15	全体のまとめ	全体の復習	前期の全体を復習し、契約法の特徴を確認・整理すること。

関連科目	債権総論、不法行為法、民法総則など、民法系科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民法Ⅳ－債権各論　（最新版）	藤岡康宏ほか	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	Teams を使った小テストを行う（70%～80%：講義の状況により変化予定）。 教室での小テスト（20%～30%：講義の状況により変化予定）。 その合計 100 点満点計算を行う予定である。
学生へのメッセージ	法律学にもかなり慣れたことだと思いますが、不十分だと思われる方も、復習をしつつ取り組んでいけば十分に理解ができますし、興味も持っていけるはずです。 講義の動画はアップロード（講義終了時まで掲載）を行います。欠席時に、オンライン上での小テスト等には各自で対応してください。 小テストの解答期間は、日曜日の 23 時 59 分までを予定し、講義後 5 日間ほどの猶予期間を設定しています。 なお、大学は対面講義が原則であることから、それ以外の欠席事由は成績評価にあたっては何らの正当性をもたないということを理解しておいてください。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　大川准教授室
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の３つから成り立っています。それぞれにつき、90 分を確保して学習をする必要があります。しかし、予習・復習については、各講義の内容により多少の違いが出てきますので、必ず講義でそれらの対象を聞くようにしてください。事前・事後学習内容について、講義で出された課題及び指摘部分の内容については、各対応時の講義で確認・解説を行います。 近年、受講態度のひどい学生が散見されます。受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外しますので、ご理解下さい。 小テストや課題テス

科目名	不法行為法	科目名（英文）	Tort Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	城内　明
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3037a0		

授業概要・目的	不法行為法は、709 条というたった 1 条の条文で、交通事故、公害、医療過誤、薬害事件といった様々な現代的諸問題を解決してきました。その面白さをわかってもらえるような講義にしたいと思っています。
到達目標	この授業を通じて学生には、現代社会における不法行為法の意義について理解するようになることが期待されます。
授業方法と留意点	授業は、Teams 上にアップしたレジュメを用いて行います。各自印刷して、授業に臨んでください。
科目学習の効果（資格）	各種資格試験、および今後の市民生活において不可欠です。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・不法行為法総説	ガイダンス、不法行為とは、不法行為の判断場面、不法行為法の基本原理（過失責任主義の意義とその限界）、過失責任主義以外の帰責原理、無過失責任・中間責任	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直し、分からない内容は次回質問すること(最低 10 分)。
2	故意・過失(1)	不法行為法の目的と機能、故意/過失要件の意義、過失の概念・故意の概念、過失の判断構造①	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直し、分からない内容は次回質問すること(最低 10 分)。
3	故意・過失(2)	過失の判断構造②、前提とされる行為者の能力、責任能力、責任無能力者の監督義務者の責任	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直し、分からない内容は次回質問すること(最低 10 分)。
4	権利侵害・違法性(1)	桃中軒雲衛門事件、大学湯事件、権利侵害から違法性へ、権利侵害要件の再生	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直し、分からない内容は次回質問すること(最低 10 分)。
5	権利侵害・違法性(2)	権利の目録(人格権と財産権)①	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直し、分からない内容は次回質問すること(最低 10 分)。
6	権利侵害・違法性(3)	権利の目録(人格権と財産権)②、違法性阻却事由	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直し、分からない内容は次回質問すること(最低 10 分)。
7	因果関係(1)	相当因果関係説とその批判、事実的因果関係の判断枠組、事実的因果関係の立証(高度の蓋然性、立証困難の緩和)	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直し、分からない内容は次回質問すること(最低 10 分)。
8	因果関係(2)、共同不法行為	賠償範囲の因果関係、719 条 1 項前段・後段の共同不法行為の成立要件・共同不法行為の効果	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直し、分からない内容は次回質問すること(最低 10 分)。
9	不法行為被害者の救済方法、損害の把握	金銭賠償の原則、一時金賠償・定期金賠償、損害の種類、差額説・個別積み上げ方式による損害把握、差額説の修正	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直し、分からない内容は次回質問すること(最低 10 分)。
10	損害額の算定方法(1)	慰謝料の算定に係る問題・積極損害に係る問題・逸失利益算定方法(総論)	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直し、分からない内容は次回質問すること(最低 10 分)。
11	損害額の算定方法(2)	逸失利益算定方法に係る諸問題	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直し、分からない内容は次回質問すること(最低 10 分)。
12	賠償額の調整(1)	損益相殺・過失相殺・被害者側の過失	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直し、分からない内容は次回質問すること(最低 10 分)。
13	賠償額の調整(2)・期間制限	過失相殺規定の類推適用（素因減額）・消滅時効	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直し、分からない内容は次回質問すること(最低 10 分)。
14	特殊の不法行為（1）	物の危険の実現に基づく責任	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直し、分からない内容は次回質問すること(最低 10 分)。
15	特殊の不法行為（2）	他人の不法行為に基づく責任	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直し、分からない内容はチャット等で質問すること(最低 10 分)。

関連科目	民法総則、債権総論、債権各論等、民法科目全般。

<table>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>不法行為法　第6版</td><td>吉村良一</td><td>有斐閣</td></tr>
<tr><td>2</td><td>不法行為法 -- 民法を学ぶ 第2版</td><td>窪田充見</td><td>有斐閣</td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>期末試験を実施。基礎的内容の理解(60%)、発展的内容の理解(40%)を総合評価します。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>不法行為法は、判例・学説により大きく発展し、現在も、なお発展を続けている現在進行形の法領域です。この面白さを理解したい学生の参加を期待します。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>11号館10階　城内准教授室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>レジュメは事前にTeams上で配布します。自分でプリントアウトして持参して下さい。教室では配布しませんので、ご注意下さい。
教科書は、指定テキストのいずれかを購入することをお勧めします。</td></tr>
</table>

科目名	親族法	科目名（英文）	Family Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	田中　敦
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2038a0		

授業概要・目的	・民法典の第４編「親族」を中心に講義を行う。具体的には、夫婦、親子関係などの身分関係について、その権利と義務の視点から、基本的な検討を行う。親族関係は、社会生活を送るうえで避けては通れない、人との関係であり、日常で感じる家族などの人間関係が法的にどのようなものであるのかの把握も行う。 ・親族法については、令和４年12月に重要な法改正があった。授業では、この点についても紹介を行っていきたい。 ・授業担当者は、大阪高裁・地裁、東京地裁などの裁判官として３９年間勤務し、また、広島家庭裁判所長を経験するなど、財産法や家族法に関する民事訴訟、家事手続等に数多く携わってきた。この授業では、法理論のみならず、判例や実務経験を踏まえ、実践的な講義を行いたい。
到達目標	この授業を通じて学生には、法律の中でも最も身近な分野であるといえる家族法に関する基礎的な法的知識を自分のものにするとともに、親子、夫婦関係等、家族の在り方を自らが考える契機とすることが期待される。
授業方法と留意点	各回の講義に関する詳細並びに関連するレジュメ又は資料は、Teamsを使って該当講義分の各チャネルに掲示するので、各講義前に必ず見るようにすること。 授業に当たっては、プリントアウトした上記レジュメ等と六法（ポケット六法等、最新の令和５年版を推奨する）を持参し、指示があった際には参照すること。講義はレジュメに基づいて行うが、十分な理解のためには、レジュメ及び教科書による事前学習並びに授業を踏まえた事後学習が不可欠である。それぞれ２時間を充ててほしい。事前学習及び事後学習に当たっても六法を適宜参照すること。
科目学習の効果（資格）	日常生活において生じる、身分関係に関する問題を理解するだけでなく、資格試験などにおける民法科目の理解にも役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、家族法概論	・ガイダンス ・家族法の概略、意義、身分行為など	【事前学習】教科書及びレジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 （各２時間）
2	家族紛争の解決方法等	・氏名、戸籍 ・家族紛争の解決手続	【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 （各２時間）
3	婚姻の成立と不成立	・婚姻の成立 ・婚姻の無効、取消し	【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、１～３回授業に関する小テストに回答する。 （各２時間）
4	婚姻の効力	・婚姻の効力 ・婚姻の身分的効果	【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 （各２時間）
5	夫婦間の財産関係	・夫婦財産制 ・日常家事債務	【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、４、５回授業に関する小テストに回答する。 （各２時間）
6	離婚とは、離婚手続①	・離婚制度 ・協議離婚 ・調停離婚	【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 （各２時間）
7	離婚手続②、ＤＶ防止法	・裁判離婚 ・有責配偶者の離婚請求 ・ＤＶ防止法	【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、６、７回授業に関する小テストに回答する。 （各２時間）
8	離婚に伴う財産関係	・離婚給付 ・財産分与	【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 （各２時間）
9	離婚と子の福祉	親権、面会交流	【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、８、９回授業に関する小テストに回答する。 （各２時間）
10	親子関係①	・親子関係 ・嫡出制度	【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、授業を踏まえ、重要事項を確認する。 （各２時間）
11	親子関係②	・認知制度 ・準正	【事前学習】教科書及びレジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 （各２時間）
12	親子関係③	養子制度	【事前学習】教科書及びレジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、１０～１２回授業に関する小テストに回答する。 （各２時間）
13	法定後見	・後見 ・保佐 ・補助	【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、１５回授業で取り上げる項目に関するアンケート（小テスト扱い）に回答する。 （各２時間）
14	任意後見、扶養	・任意後見 ・扶養	【事前学習】教科書、レジュメを読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、１３、１４回授業に関する小テストに回答する。 （各２時間）
15	これまでの授業の振り返り	アンケートで希望の多かった項目を中心に授業全般を振り返る	【事前学習】これまでの授業全体の内容を確認する。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、これまでの授業に関する感想等（小テスト扱い）を回答する。

				（各２時間）

関連科目	民法に関連する講義全般。 特に、民法総則、相続法。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民法７　親族・相続　第６版	高橋朋子ほか	有斐閣アルマ
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	講義後における Teams 上での課題（小テスト）の点数で評価する（１００%）。課題の詳細は、別途 Teams で伝えることもあるので、注意すること。
学生への メッセージ	親族法は、身近な法律であるだけに、まずは、判例・通説の立場について正確な知識を持っておくことが重要です。日頃から関心と興味を持って授業に臨んで下さい。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　　田中教授室
備考	コロナをめぐる情勢、学生の理解度、授業の進行によっては、授業の方法、順序、内容を変更することがある。 20 年度　合格率 80.2%　（不受験率 0%）　A25.6%　B19.4%　C14.1%　D21.1%　平均 72 点　227 人登録

科目名	相続法	科目名（英文）	Succession Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中　敦
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3039a0		

授業概要・目的	・民法第５編の「相続」を講義する。具体的には、法定相続の仕組みと遺言について、その内容を明らかにする。親族関係を前提として財産上の権利義務を承継する相続制度を検討することを通して、身分関係法上の財産権移転の構造を理解することが目標となる。相続法は、近年重要な改正が行われたが、この改正法の内容についても学修する。 ・授業担当者は、大阪高裁、大阪地裁などの裁判官として３９年間勤務し、また、広島家庭裁判所長を歴任するなど、財産法や家族法に関する民事訴訟等の判決に数多く携わってきた。この授業では、法理論のみならず、実務経験を踏まえた講義を行っていきたい。
到達目標	この授業を通じて、学生には、日常生活で起こることがある相続に関し、民法はどのような規定を置いているのか、有効な遺言を作るにはどのような点に留意しなければならないかなどの点につき、正確な知識を習得するとともに、具体的な遺産分割の計算方法について説明できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	・各回の講義に関するレジュメ又は資料は、Teams を使って授業時間前に掲示するので、各講義前に必ず見るようにすること。 ・講義には、プリントアウトした上記レジュメ等と六法（ポケット六法等、最新の令和５年版を推奨する）を必ず持参し、参照すること。講義はレジュメに基づいて行うが、十分な理解のためには、レジュメ及び教科書による事前学習並びに授業を踏まえた事後学習が不可欠である。それぞれ２時間を充ててほしい。事前学習及び事後学習に当たっても六法を適宜参照すること。 ・相続法は、親族法の知識が前提となっている場
科目学習の効果（資格）	日常生活において生じる相続制度の理解に止まらず、資格試験などでの民法科目の理解にも役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、相続法概論	・授業の進め方、受講上の注意 ・相続法の基本	【事前学習】教科書第７章を読む。 【事後学習】授業内容を確認する。 （各２時間）
2	相続人と相続分①	相続人の範囲と順位	【事前学習】教科書第８章１を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、１、２回授業に関する小テストに回答する。 （各２時間）
3	相続人と相続分②	・代襲相続 ・相続分	【事前学習】教科書第８章２及び３を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 （各２時間）
4	相続人と相続分③	・相続欠格 ・相続廃除 ・相続回復請求権	【事前学習】教科書第８章４～６を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、３、４回授業に関する小テストに回答する。 （各２時間）
5	相続の効力①	相続の一般的効果	【事前学習】教科書第９章１を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 （各２時間）
6	相続の効力②	・相続と登記 ・祭祀財産等の承継	【事前学習】教科書第９章２～４を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、５、６回授業に関する小テストに回答する。 （各２時間）
7	相続の効力③	・遺産共有 ・遺産の管理 ・相続分の譲渡、取戻し	【事前学習】教科書第９章５～７を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 （各２時間）
8	相続の効力④	遺産分割	【事前学習】教科書第９章８を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、７、８回授業に関する小テストに回答する。 （各２時間）
9	相続の承認・放棄	・単純承認、限定承認 ・相続放棄	【事前学習】教科書第１０章を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 （各２時間）
10	財産分離、相続人の不存在	・財産分離 ・相続人の不存在 ・特別縁故者	【事前学習】教科書第１１章・第１２章を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認するとともに、９、１０回授業に関する小テストに回答する。 （各２時間）
11	遺言①	・遺言の意義 ・遺言の方式	【事前学習】教科書第１３章１、２を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認する。 （各２時間）
12	遺言②	遺言の効力	【事前学習】教科書第１３章３を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、１１、１２回授業に関する小テストに回答する。 （各２時間）
13	遺言③	・遺言による財産処分 ・遺言の執行	【事前学習】教科書第１３章４、５を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、１５回授業で取り上げる項目に関する小テスト（アンケート）に回答する。 （各２時間） 間）
14	遺留分	・遺留分とは ・遺留分の確定 ・遺留分侵害額請求権	【事前学習】教科書第１４章を読む。 【事後学習】授業を踏まえ、重要事項を確認し、１３、１４回授業に関する小テストに回答する。 （各２時間）
15	これまでの授業の振り返り	アンケートで希望の多かった項目を中心に相続法全般を振り返る	【事前学習】これまでの授業内容を振り返る。 【事後学習】授業内容を踏まえ、これまでの授業の感想等に関する小テストに回答する。

				（各２時間）

関連科目	親族法、民法総則

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民法７　親族・相続　第６版	高橋朋子ほか	有斐閣アルマ
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	講義後における Teams 上での小テスト（課題等）の点数で評価する（１００%）。詳細は、別途 Teams で伝えるので、注意すること。
学生への メッセージ	相続法に対する理解を通して、相続が持つ意義を再確認してください。また、相続法は、難しい問題点も多い科目ですから、まずは条文、レジュメを参照しつつ、判例・通説の立場に立って、基本を押さえてください。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　田中教授室
備考	コロナをめぐる情勢、学生の理解度、授業の進行によっては、授業の方法、順序、内容を変更することがある。 20 年度　合格率 77.7%　（不受験率 4.9%）　A25.2%　B10.7%　C19.4%　D22.3%　平均 70 点　103 人登録

科目名	消費者と法	科目名（英文）	Consumer and Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	城内　明
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3040a0		

授業概要・目的	本講義は、消費者問題の本質について理解を深めること、被害の発生を防ぎ、被害者の救済を図るかについての実践的な知識を身につけることを目的とします。
到達目標	この授業を通じて学生には、消費者問題の本質について理解を深め、被害の発生を防ぎ、被害者の救済を図るかについての実践的な知識を身につけることが期待されます。
授業方法と留意点	本講義は、Teams 上にアップしたレジュメを利用して実施します。レジュメは配布しませんので、各自プリントアウトしてご持参ください。
科目学習の効果（資格）	消費生活専門相談員、消費生活アドバイザー、消費生活コンサルタント、その他、今後、市民生活を送る上で不可欠。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・消費者法概説	消費者法とは何か	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
2	消費者契約法(1)	消費者契約法概説	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
3	消費者契約法(2)	誤認・困惑類型における取消し(1)	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
4	消費者契約法(3)	誤認・困惑類型における取消し(2)	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
5	消費者契約法(4)	誤認・困惑類型における取消し(3)	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
6	消費者契約法(5)	不当約款規制(1)	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
7	消費者契約法(6)	不当約款規制(2)・消費者団体訴訟	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
8	特定商取引に関する法律(1)	訪問販売(1)	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
9	特定商取引に関する法律(2)	訪問販売(2)・電話勧誘販売・訪問購入	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
10	特定商取引に関する法律(3)	連鎖販売取引	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
11	特定商取引に関する法律(4)	通信販売・ネガティブオプション	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
12	特定商取引に関する法律(5)	特定継続的役務提供・業務提供誘引販売取引	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
13	消費者信用取引	販売信用取引・消費者金融取引	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
14	商品安全と法(1)	商品安全に係る法制度概説	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
15	商品安全と法(2)	製造物責任法	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。

関連科目	民事法関連科目全般
教科書	

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>基本講義　消費者法（第5版）</td><td>中田邦博ほか</td><td>日本評論社</td></tr>
<tr><td>2</td><td>消費者法</td><td>大澤彩</td><td>商事法務</td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>消費者法(有斐閣ストゥディア)</td><td>宮下修一ほか</td><td>有斐閣</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>期末試験を実施します。基礎的内容の理解(60%)、基礎知識を応用する能力(40%)を総合評価します。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>悪徳業者は、いつ何時、あなたに襲いかかってくるかわかりません。降りかかった火の粉を払いのける術を身につけ、自分自身、家族・友人、そして社会を守ってください。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>11号館10階　城内准教授室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>教科書は、指定教科書のいずれかを購入してください。指定教科書が難しすぎる場合は、参考書指定のテキストをお使いください。</td></tr>
</table>

科目名	国際私法総論	科目名（英文）	Private International Law (General Theories)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	小山　昇
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3041a0		

授業概要・目的	国際私法は、複数の国の要素をもつ私的法律関係の問題について、最も密接な関係のある場所や地域の法律（準拠法）を適用することによって解決しようとする法律です。「牴触法」という用語が用いられ、民法のような「実質法」とは次元を異にしますので、講義ではその構造と理論の理解に力点を置きます。
到達目標	学生には、この授業を通じて、「国際私法の構造」とその「基本的考え方」を説明できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	教科書に沿っての講義になりますが、重要事項を記述した資料も配付してそれを使い、その後、区切りごとに提示する「課題」の提出を求めます。課題は、授業時間の最後の 20 分程度を使って実施し次回以降に記号を用いた評価を付して返却します。なお、対面授業ができない状況に至ったときは、Teams を使ってリアルタイムの動画配信を行います。
科目学習の効果（資格）	外国との関連のある生活関係においてどのような法律問題が生じるのか、またその解決の考え方について理解できます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	国際私法とは何か	「渉外的法律関係」とは、国際私法の定義・名称、その法的性質	教科書第１章をあらかじめ読むこと、配付資料の重要事項を確認すること（約２時間）
2	国際私法の法源①	国際私法に関係する法律	配付資料の重要事項を確認すること（約２時間）
3	国際私法の法源②	「法の適用に関する通則法」と特別法	配付資料の重要事項を確認すること（約２時間）
4	国際私法理論の歴史①	国際私法の沿革、法規分類学派	教科書第３章をあらかじめ読むこと、重要事項及び確認問題を再確認すること（約２時間）
5	国際私法理論の歴史②	「伝統的国際私法理論」とは何か	配付資料の重要事項を確認すること（約２時間）
6	法律関係の性質決定①	国際私法の基本的構造、「法性決定」とは何か	教科書第２章Ⅰ・Ⅱをあらかじめ読むこと、配付資料の重要事項を確認すること（約２時間）
7	法律関係の性質決定②	法性決定の仕方、「先決問題」と「適応問題」とは	重要事項及び確認問題を再確認すること（約２時間）
8	連結点の確定①	「連結点」とは、連結政策、連結点の主張・証明・不明	教科書第２章Ⅲをあらかじめ読むこと、配付資料の重要事項を確認すること（約２時間）
9	連結点の確定②	「属人法」の観念を理解する	教科書第４章Ⅰをあらかじめ読むこと、配付資料の重要事項を確認すること（約２時間）
10	連結点の確定③	国籍とは、わが国の国籍法の問題点	重要事項及び確認問題を再確認すること（約２時間）
11	連結点の確定④	連結点としての国籍・住所・常居所、法律回避	配付資料の重要事項を確認すること（約２時間）
12	準拠法の特定①	「反致」とは、その種類と位置づけ	教科書第２章Ⅳをあらかじめ読むこと、配付資料の重要事項を確認すること（約２時間）
13	準拠法の特定②	不統一法国法・未承認国法の指定	重要事項及び確認問題を再確認すること（約２時間）
14	準拠法の適用①	準拠法の性質、外国法の扱い	教科書第２章Ⅴをあらかじめ読むこと、配付資料の重要事項を確認すること（約２時間）
15	準拠法の適用②	国際私法上の公序とは	確認問題の復習、すべての重要事項・配付資料・確認問題を確認すること（約２時間）

関連科目	国際私法各論、国際取引法、民法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際私法入門(第８版)	澤木敬郎・道垣内正人	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜、紹介します。		
2			
3			

評価方法（基準）	評価は、数回提出を求める「課題」と定期試験の成績を合計して行います(定期試験 60%及び課題のレポート 40%)。定期試験は数回実施する「課題」の応用問題です。なお、学内で定期試験が実施できない場合は、それに代わる「総合課題」で評価します。
学生へのメッセージ	民法などの「実質法」とは次元の異なる「牴触法」の考え方を学んでください。課題の学習には、配付資料だけでなく教科書が必須です。
担当者の研究室等	11 号館９階　小山教授室
備考	質問・意見などは、授業の時以外にはメールを活用してください。 ２０１４年度以前入学生科目名　『国際私法Ⅰ』

	20年度　合格率92.9%　（不受験率7.1%）　A12.9%　B37.1%　C21.4%　D21.4%　平均76点　70人登録

科目名	国際私法各論	科目名（英文）	Private International Law (Particular Issues)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	小山　昇
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3042a0		

授業概要・目的	国際私法総論で理解した「国際私法の構造」について、単位法律関係ごとに具体的な検討をします。「実質法」上の概念と「牴触法」上の概念の違いを意識し、婚姻や親子関係、債権契約といった既に実質法で得ている知識が、国際私法ではどのように違っていて、そして区別して考えるべきかを理解することが目的となります。
到達目標	学生には、この授業を通じて、単位法律関係ごとにその準拠法と「連結政策」を検討して、「国際私法の構造」及びその中心となる具体的な問題点が説明できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	民法を始めとして関連する外国の私法にも言及しての講義を行います。重要事項を記述した資料も配付しますので教科書と含めて学習してください。一定の区切りごとに「課題」の提出を求めますが、授業時間の最後の 20 分程度を利用して実施し、次回以降に記号を用いた評価を付して返却します。なお、対面授業ができないときは、Teams を使ってリアルタイムの動画配信を行います。
科目学習の効果（資格）	国際的な人及び物の交流によって生じる具体的な法律関係の解決方法について理解でき、合わせて、日本の民事法の知識を再確認できます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	国際家族法①	婚姻の成立の準拠法	教科書第４章Ⅱをあらかじめ読み、重要事項を確認する（約２時間）
2	国際家族法②	婚姻の効力の準拠法	配付資料の重要事項を確認する（約２時間）
3	国際家族法③	離婚、別居、婚約、内縁の準拠法	配付資料の重要事項を確認する（約２時間）
4	国際家族法④	実親子関係、準正の準拠法	重要事項及び確認問題を再確認する（約２時間）
5	国際家族法⑤	養親子関係の準拠法	配付資料の重要事項を確認する（約２時間）
6	国際家族法⑥	親子関係の効力、親族関係の法律行為の方式の準拠法	配付資料の重要事項を確認する（約２時間）
7	国際家族法⑦	その他の親族関係、親族間扶養の準拠法	配付資料の重要事項を確認する（約２時間）
8	国際家族法⑧	相続、遺言、氏の準拠法、身分関係と戸籍	教科書第４章Ⅲ・Ⅳをあらかじめ読み、重要事項及び確認問題を再確認する（約２時間）
9	国際財産法①	自然人の準拠法、後見・保佐・補助の管轄権と準拠法	教科書第５章Ⅰをあらかじめ読み、重要事項を確認する（約２時間）
10	国際財産法②	法人の準拠法、外国人法	確認問題を復習し、配付資料の重要事項を確認する（約２時間）
11	国際財産法③	契約準拠法、当事者自治の原則とその制限論	教科書第５章Ⅱをあらかじめ読み、重要事項を確認する（約２時間）
12	国際財産法④	契約の方式、代理の準拠法	配付資料の重要事項を確認する（約２時間）
13	国際財産法⑤	不法行為、事務管理・不当利得の準拠法	教科書第５章Ⅲをあらかじめ読む、確認問題を復習し、配付資料の重要事項を確認する（約２時間）
14	国際財産法⑥	債権譲渡、相殺、物権、知的財産権の準拠法	教科書第５章Ⅳ・Ⅴ・Ⅵをあらかじめ読み、重要事項を確認する（約２時間）
15	国際民事手続法	国際裁判管轄、外国判決の承認と執行、国際商事仲裁、国際倒産	教科書第６章をあらかじめ読む、すべての重要事項・配付資料・確認問題を再確認する（約２時間）

関連科目	国際私法総論、国際取引法、民法総則、法人法概説、物権法、不動産取引法、債権法、不法行為法、親族法、相続法、商法、民事訴訟法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際私法入門(第８版)	澤木敬郎・道垣内正人	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜、紹介します。		
2			
3			

評価方法（基準）	評価は、課題(40%)と定期試験(60%)を合計します。定期試験は課題を使った応用問題になります。なお、学内での定期試験ができないときは「総合課題」に代えて評価することになります。
学生へのメッセージ	民法総則、物権法、債権法、親族法、相続法のすべてについて、その基本的な知識を再確認してください。配付資料だけでなく教科書を学習して課題に取り組んでください。
担当者の研究室等	11 号館９階　小山教授室
備考	質問・意見等は、授業の時以外ではメールを活用してください。 ２０１４年度以前入学生科目名　『国際私法Ⅱ』

	20 年度　合格率 80.0%　（不受験率 11.1%）　A4.4%　B8.9%　C17.8%　D48.9%　平均 64 点　45 人登録

科目名	民事訴訟法	科目名（英文）	Civil Procedure Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	萩原　佐織
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3043a0		

授業概要・目的	民法等により認められた権利が害され、私人間に紛争が生じた場合、その紛争解決手段として用いられるのが民事訴訟手続である。紛争の対象として取り扱うのが民法上の権利であるため、民法全般の復習・発展に役立つ。また、「実体法である民法」と「手続法である民事訴訟法を」含めた『民事法』としての総合的理解を図り、それらの知識を深めることを、目標とする。多様な紛争関係者を前提として適正・迅速といった対立する目的を実現しなければならないため、多面的な思考を養うことにも資する。
到達目標	この講義を通じ学生が、民事法において、実体法である民法、そして手続法である民事訴訟法、民事保全・執行法、倒産法が、それぞれどういう役割を担っているかを正確に理解し、民事法の全体像やそれぞれの機能の仕方を理解することが期待される。 そのうえで、裁判所の種類や各裁判所の役割・機能をはじめ、民事裁判全体の流れを掴み、民事裁判の仕組みや果たす役割について理解することも期待される。
授業方法と留意点	【事前準備・事前学習】 ①毎回 Teams の講義日付チャネルに各回の講義内容・参照資料や動画等が記載されているので、それを参照して各自で予習すること ②講義は、事前に Teams 上にアップされているレジュメ（約 10 頁：より具体的に理解するため「判例教室」としての判例を含む）をプリントアウトして持参し、六法を用いて行う。分かり易いようにレジュメはカラーにしてあるが、白黒で印刷しても構わない。毎回、レジュメでは、主要個所が括弧空けにされているので、事前学習としてレジュメ・教科書等の該当箇所や関連判例を読み、そ
科目学習の効果（資格）	・紛争解決手段である民事訴訟手続のしくみが理解できるようになる。 ・大学院ならびに法科大学院等への進学、裁判所職員（事務官・書記官）、司法書士、法検スタンダードコースなどの受験に対応できる知識・応用力を養われる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス ・民事訴訟法の概要 ・民事訴訟法と他の法律（憲法、民法、民事保全・執行法、倒産法）との関係	・授業の進め方、受講上の注意、評価方法等について ・裁判を受ける権利 ・訴訟と非訟	【事前学習】①毎回 Teams の講義日付チャネルに各回の講義内容・参照資料や動画等が記載されているので、それを参照して各自で予習すること（以下同様）、②Teams からレジュメをダウンロード・プリントアウトして読む。予めプリントアウトしたレジュメを講義に持参すること（以下同様）、③教科書　該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配付資料・クイズ等の復習 （事前事後学習に要する時間　各2時間､以下同様）
2	・裁判	・訴訟に勝てばどうなるのか ・訴訟には、どれだけの時間と費用がかかるか ・裁判にあたる人たち（裁判官、弁護士） ・紛争処理の方策（ADR、調停、仲裁）	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ､③Teamsの講義日付チャネルにあるFormsクイズに回答し送信すること（以下同様）、④判例：レジュメ末尾にある「判例教室」の事案を読み争点・相関関係等を理解すること（以下同様）、⑤教科書　第１編　第２章、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題を行い提出（以下同様）、③講義で学んだ判例解説を判例百選等で読み込む（以下同様） （各２時間）
3	・裁判所Ⅰ	・裁判所の種類 ・最高裁判所 ・高等裁判所	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、⑥裁判所の種類・構造・所在地、各裁判所の役割について調べる、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③講義内等でなされた前回小テスト・課題のフィードバックに基づく復習（以下同様）、③判例解説、 （各２時間）
4	・裁判所Ⅱ	・地方裁判所 ・家庭裁判所 ・簡易裁判所	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 （各２時間）
5	・上訴	・特別の不服申立て ・控訴 ・上告 ・抗告	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 （各２時間）
6	・管轄（審理・判決はどの裁判所でするのか？）	・事物管轄と土地管轄 ・合意管轄と応訴管轄 ・移送	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、

			（各 2 時間）
7	・訴えの種類	・給付の訴え、確認の訴え、形成の訴え ・訴えの併合、訴えの変更、反訴	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 （各 2 時間）
8	・当事者（訴える人、訴えられる人とは？）	・誰が当事者になれるか？（権利能力、当事者能力） ・誰が当事者になるのが正しいか？（当事者適格、選定当事者）	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 （各 2 時間）
9	・訴訟代理	・訴訟代理とは？ ・代理権の範囲	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 （各 2 時間）
10	・民事訴訟の基本原則 ・事実認定	・処分権主義 ・弁論主義 ・自由心証主義	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 （各 2 時間）
11	・訴訟審理の進め方	・訴えの提起から判決まで ・口頭弁論はどのように実地されるか？ ・争点および証拠の整理	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 （各 2 時間）
12	・事実認定と証拠	・証拠はなぜ必要なのか？ ・自由心証主義 ・証拠の種類	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 （各 2 時間）
13	・判決の成立と効力	・既判力 ・執行力 ・形成力	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 （各 2 時間）
14	・再審	・再審の訴え～確定判決を動かす方法～ ・再審訴訟の手続	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 （各 2 時間）
15	・まとめ&復習	・講義全体のまとめと復習	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 （各 2 時間）

関連科目：民法全般、民事保全・執行法、民事訴訟法、倒産法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	有斐閣ストゥディア　民事訴訟法［第 3 版］	安西・安達・村上・畑	有斐閣
2			
3			

参考書

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 民事訴訟法　判例百選〔第５版〕 / 高橋・高田・畑編 / 有斐閣 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	10 回程度を予定として講義前後に課す Teams 上における課題又は小テストにおいて総合評価する（100%）。また、講義への積極的な姿勢による加点（講義内で行う課題等）や、講義中の態度による減点を考慮する。なお事前学習を目的とする Forms クイズ等への回答に成績評価の対象となる課題点がつくことがあります（先の課題点に含む）ので、全員必ず回答するようにしてください。詳細は講義にて。
学生への メッセージ	講義中における私語・携帯等の使用については、他の学生の迷惑になるので、厳しく対処します。六法は講義で常に使用するので、必ず持参すること。民事訴訟法を学ぶことで、既に学んだ民事法全般の知識をリフレッシュかつ深めてください。
担当者の 研究室等	11 号館９階　萩原准教授室
備考	小テスト・課題等の返却及びそのフィードバックは、後日、添削・評価してから、講義内又は Teams 上において行うものとする。 適宜、Teams 上又は講義内において指導する。

科目名	倒産法	科目名（英文）	Insolvency Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	萩原　佐織
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3044a0		

授業概要・目的	個人もしくは企業が経済的に破綻した場合、適切な対応は、関係者にとっても、経済全体にとっても重要なことである。倒産処理に関する法的処理は、激しく対立する債務者と債権者間の利害を公平かつ適切に調整する極めて動的で且つ実体法と訴訟法が複雑に交錯する実際的で、興味深い分野である。当該講義は、倒産処理法の中心である破産法について検討した上、民事再生の基本的な指導理念や枠組みについて説明する。これらの学習によって民事法全体についての理解にも資する。
到達目標	倒産法というと自分には全く関係のない問題のように考える人も多いかと思いますが、教育ローン・マイホームローン・マイカーローンの返済の滞り、クレジットカード等による浪費等は誰にでも考えられることであり、自分が倒産しなくても、バイト先や勤務先の会社の業績不振による給料の未払い、就職した会社の取引会社が倒産して債権の回収に駆り出されたりと、倒産手続に巻き込まれる可能性はある。 このため、この授業を通じて学生には、転ばぬ先の杖ではないが、倒産手続の仕組みを理解し、経済的に自立した大人となるための基礎知識を得られることが期待される。
授業方法と留意点	【事前準備・事前学習】 ①毎回 Teams の講義日付チャネルに各回の講義内容・参照資料や動画等が記載されているので、それを参照して各自で予習すること ②講義は、事前に Teams 上にアップされているレジュメ（約 10 頁：より具体的に理解するため「判例教室」としての判例を含む）をプリントアウトして持参し、六法を用いて行う。分かり易いようにレジュメはカラーにしてあるが、白黒で印刷しても構わない。毎回、レジュメでは、主要個所が括弧空けにされているので、事前学習としてレジュメ・教科書等の該当箇所や関連判例を読み、そ
科目学習の効果（資格）	法科大学院への進学、裁判所職員、司法書士の試験等に有益である。金融についての理解が進むので、金融機関で働くことを望む者や、ファイナンシャルプランナー（FP）の資格取得希望者にとっても極めて有益である。また、それらを目指さない者であっても、経済的に困難な状況に陥った場合のリスク回避・倒産手続の理解・対処方法の習得として、全ての者にとって必要な知識を得ることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス ・倒産法の概要 ・倒産法と、他の法律（民法、民事訴訟法、民事保全・執行法）との関係 ・平常時と倒産時の比較の観点 ・倒産手続の種類（再建型と清算型）	・授業の進め方・受講上の注意及び評価方法等について ・個別執行（民事保全執行法）と包括執行（倒産法）との違い ・再建型（民事再生・会社更生）と清算型（破産・特別清算）	【事前学習】①毎回 Teams の講義日付チャネルに各回の講義内容・参照資料や動画等が記載されているので、それを参照して各自で予習すること（以下同様）、②Teams からレジュメをダウンロード・プリントアウトして読む。予めプリントアウトしたレジュメを講義に持参すること（以下同様）、③教科書　第１編　第１章 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配付資料・クイズ等の復習 （事前事後学習に要する時間　各2時間､以下同様）
2	・倒産の世界へようこそ	・倒産法がなかったら？ ・倒産法の必要性と存在意義	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ､③Teamsの講義日付チャネルにあるFormsクイズに回答し送信すること（以下同様）、④判例：レジュメ末尾にある「判例教室」の事案を読み争点・相関関係等を理解すること（以下同様）、⑤教科書　第１編　第１章、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題を行い提出（以下同様）、③講義内等でなされた前回小テスト・課題のフィードバックに基づく復習（以下同様）、④講義で学んだ判例解説を判例百選等で読み込
3	・倒産手続とは？ ・破産手続とは？	・倒産手続の種類 ・裁判所で行われる倒産手続 ・私的整理・倒産ＡＤＲ	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書　第２編　第２・３章 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 （各２時間）
4	・破産手続の開始	・破産手続開始要件 ・破産手続開始の申立て ・保全処分 ・破産手続開始に対する不服申立て ・手続開始決定の効果	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書　第２編　第１章 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 （各２時間）
5	・破産管財人と破産財団	・破産財団の管理/換価等および破産管財人の善管注意義務 ・破産財団の意義と範囲および係属中の訴訟手続の取扱い ・破産管財人の第三者性と手続開始後の登記等の効力 ・再生債務者財産の管理等、再生債務者の第三者性等 ・財産評定	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書　第２編　第２章 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 （各２時間）
6	・破産債権	・債権者平等の原則 ・債権の優先順位 ・財団債権と破産債権（破産手続）	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書　第２編　第３章 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、

				③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 （各 2 時間）
7	・契約関係の処理	・双務契約の一方未履行の場合 ・双務契約の双方未履行の場合 ・取戻権 ・賃貸借契約 ・請負契約	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書　第 2 編　第 4 章 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 （各 2 時間）
8	・倒産手続における担保権の取扱い	・担保権とは何か ・別除権とは何か ・別除権の行使 ・別除権となる担保権（典型担保の場合）	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書　第 2 編　第 5 章、⑥民法上等における担保制度の予習・復習 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 （各 2 時間）
9	・相殺権と相殺禁止	・相殺権の意義（民法における相殺との比較） ・相殺権の拡張 ・相殺権の制限	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書　第 2 編　第 6 章 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 （各 2 時間）
10	・否認権	・否認権の種類 ・詐害行為否認 ・偏頗行為否認	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書　第 2 編　第 7 章 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 （各 2 時間）
11	・配当と破産手続の終了 ・個人破産と免責	・破産財団の管理・換価・配当 ・破産手続の終了とその効果 ・免責許可決定 ・免責の効果	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書　第 2 編　第 8・9 章 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 （各 2 時間）
12	・民事再生手続とは？	・民事再生手続の概要 ・再生手続開始決定 ・機関 ・再生債権	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書　第 3 編　第 1・2・3・4 章 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 （各 2 時間）
13	・再生計画の作成と履行	・再生計画とは？ ・再生計画の提出・成立 ・再生計画の履行・手続の終結	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書　第 3 編　第 5 章 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 （各 2 時間）
14	・個人再生 ・民事再生と会社更生	・小規模個人再生 ・給与所得者等再生 ・住宅資金貸付債権に関する特則	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書　第 3 編　第 6 章 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 （各 2 時間）
15	・倒産法における諸問題 ・まとめ&復習	・講義全体のまとめと復習	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 （各 2 時間）

関連科目	民法全般、民事保全・執行法、民事訴訟法、民事訴訟応用講義、知的財産法、商法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	有斐閣ストゥディア　倒産法	倉部・高田・上江洲	有斐閣
2			
3			

<table>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>倒産法　判例百選〔第6版〕</td><td>伊藤眞・松下淳一編</td><td>有斐閣</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>10 回程度を予定として講義後に課す Teams 上における記述式課題又は小テストにおいて総合評価する。また、講義への積極的な姿勢による加点（講義内で行う課題等）や、講義中の態度による減点を考慮する。なお事前学習を目的とする Forms クイズ等への回答に成績評価の対象となる課題点がつくことがありますので、全員必ず回答するようにしてください。詳細は講義にて。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>講義中における私語・携帯等の使用については、他の学生の迷惑になるので、厳しく対処します。六法は講義で常に使用するので、必ず持参すること。倒産法を学ぶことで、既に学んだ民事法全般の知識をリフレッシュかつ深めてください。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>11 号館 9 階　萩原准教授室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>小テスト・課題等の返却及びそのフィードバックは、後日、添削・評価してから、講義内又は Teams 上において行うものとする。 適宜、Teams 上又は講義内において指導する。</td></tr>
</table>

科目名	民事保全・執行法	科目名（英文）	Enforcement of Judgments; Provisional Remedies
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	萩原　佐織
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3045a0		

授業概要・目的	民法等により認められた権利が害され、私人間に紛争が生じた場合、その紛争解決手段として用いられるのが民事訴訟手続、いわゆる民事裁判である。ただ、訴訟で勝訴しても、相手が応じない等の理由で、紛争が解決しない場合がある。その際の、究極の紛争解決手段が、民事保全執行手続である。当該講義では、民事保全執行手続の基礎を学ぶとともに、民法や民事訴訟法等で学んだ知識を発展・応用する能力を培うことを目的とする。紛争の対象として取り扱うのが民法上の権利であるため、民法全般の復習や応用ができ、また「実体法である民法」と「手続法である民事訴訟法・民事保全執行法」を含めた『民事法』としての総合的理解を図ることができる。
到達目標	民法と比べると、民事執行法・民事保全法には、それほど馴染みがないかもしれない。でも、民法の知識だけで、お金を貸した相手が返してくれない場合や、約束したはずの養育費が支払われない場合など、債務者が任意に支払ってくれない場合にどうやってその支払いを促すことができるのか、理解するのは難しい。 この授業を通じて学生には、将来、自分が債権者として債務者から金銭を回収したい場合はもちろん、逆に自分が債務者として金銭の支払いを促される場合においても、どのような仕組みで、どのような過程や手続を経て、その執行が強制的になされるのかを理解できるようになることが期待される。それらの知識は、転ばぬ先の杖として、経済的に自立した大人になるために必要な知識であると考える。
授業方法と留意点	【事前準備・事前学習】 ①毎回 Teams の講義日付チャネルに各回の講義内容・参照資料や動画等が記載されているので、それを参照して各自で予習すること ②講義は、事前に Teams 上にアップされているレジュメ（約 10 頁：より具体的に理解するため「判例教室」としての判例を含む）をプリントアウトして持参し、六法を用いて行う。分かり易いようにレジュメはカラーにしてあるが、白黒で印刷しても構わない。毎回、レジュメでは、主要個所が括弧空けにされているので、事前学習としてレジュメ・教科書等の該当箇所や関連判例を読み、そ
科目学習の効果（資格）	・民事保全執行手続のしくみを理解し、民事紛争解決手段の一端を知ることができる。 ・大学院ならびに法科大学院等への進学、裁判所職員（事務官・書記官）、司法書士などの受験に対応できる知識・応用力を養う。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	①　ガイダンス ②　民事執行法の概観	①　授業方法・評価方法等の説明 ②　他の法分野との関係 ③　判決手続と執行手続 ④　民事執行の沿革等	【事前学習】①毎回 Teams の講義日付チャネルに各回の講義内容・参照資料や動画等が記載されているので、それを参照して各自で予習すること（以下同様）、②Teams からレジュメをダウンロード・プリントアウトして読む。予めプリントアウトしたレジュメを講義に持参すること（以下同様）、③教科書　第 1 章 1,2、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配付資料・クイズ等の復習 （事前事後学習に要する時間　各2時間､以下同様）
2	①　執行手続の種類・態様 ②　執行手続の主体	①　強制執行の意義と種類 ②　執行当事者 ③　執行機関	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ､③Teamsの講義日付チャネルにあるFormsクイズに回答し送信すること（以下同様）、④判例：レジュメ末尾にある「判例教室」の事案を読み争点・相関関係等を理解すること（以下同様）、⑤教科書　第 1 章 3、 第 2 章 1 節、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題を行い提出（以下同様）、③講義内等でなされた前回小テスト・課題のフィードバックに基づき復習（以下同様）、④講義で学んだ判例解説を判例百選等
3	民事保全法Ⅰ	①　民事保全法の概説 ②　民事保全命令手続	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 6 章 1, 2 節、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 （各 2 時間）
4	民事保全法Ⅱ	①　不服申立手続 ②　保全執行	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書　第 6 章 3、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 （各 2 時間）
5	強制執行手続の開始	①　強制執行手続の要件 ②　債務名義とその種類	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書　第 2 章 2 節、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 （各 2 時間）
6	強制執行手続の進行	①　執行の対象 ②　財産開示手続 ③　執行手続の終了	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書　第 2 章 2 節 2、第 5 章、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、

				（各 2 時間）
	7	執行関係訴訟	①　請求異議の訴え ②　執行文付与に関する訴訟 ③　第三者異議の訴え	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書　第 2 章 3 節、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 （各 2 時間）
	8	非金銭執行の実現	①　物の引渡し・明渡しの強制執行 ②　作為・不作為の強制執行 ③　意思ｊ表示の強制執行	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書　第 3 章 2 節、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 （各 2 時間）
	9	非金銭執行の実例	①　子の引渡しと執行 ②　面会交流権と執行	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤民法上の面会交流権の予習・復習、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 （各 2 時間）
	10	動産執行	①　動産執行の意義 ②　差押え・換価・満足	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書　第 3 章 1 節 4 項、⑥民法上の動産の概念の復習、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 （各 2 時間）
	11	不動産執行Ⅰ	①　強制競売の開始 ②　売却の準備・条件・効果	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書　第 3 章 1 節 2 項、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 （各 2 時間）
	12	不動産執行Ⅱ	①　債権者の満足 ②　強制管理	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書　第 3 章 1 節 2 項、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 （各 2 時間）
	13	債権およびその他の財産権に対する強制執行	①　金銭債権に対する強制執行 ②　少額訴訟債権執行 ③　船舶・動産等の引渡請求権に対する強制執行	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書　第 3 章 1 節 5 項、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 （各 2 時間）
	14	担保権の実行としての競売等	①　担保権実行制度の意義 ②　担保不動産競売 ③　担保不動産収益執行 ④　動産競売	【事前学習】】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書　第 4 章、②レジュメ、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 （各 2 時間）
	15	まとめ&復習	①　全てのまとめ&復習	【事前学習】】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書　第 4 章、②レジュメ、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 （各 2 時間）

関連科目	民法全般、民事訴訟法、民事訴訟法応用講義、倒産法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	基礎から分かる民事執行法・民事保全法〔第 3 版〕	和田吉弘	弘文堂
2			
3			

参考書

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 民事執行・保全　判例百選〔第3版〕 / 上原・長谷部・山本編 / 有斐閣 2 / 実践　民事執行法　民事保全法〔第3版〕 / 平野哲朗 / 日本評論社 3 /	
評価方法 （基準）	10 回程度を予定として講義後に課す Teams 上における記述式課題又は小テストにおいて総合評価する。また、講義への積極的な姿勢による加点（講義内で行う課題等）や、講義中の態度による減点を考慮する。なお事前学習を目的とする Forms クイズ等への回答に成績評価の対象となる課題点がつくことがありますので、全員必ず回答するようにしてください。詳細は講義にて。
学生への メッセージ	講義中における私語・携帯等の使用については、他の学生の迷惑になるので、厳しく対処します。六法は講義で常に使用するので、必ず持参すること。民事保全執行手続を学ぶことで、既に学んだ民事法全般の知識をリフレッシュさせてください。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　萩原准教授室
備考	小テスト・課題等の返却及びそのフィードバックは、後日、添削・評価してから、講義内又は Teams 上において行うものとする。 適宜、Teams 上又は講義内において指導する。

科目名	商法総論	科目名（英文）	Commercial Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	高間　佐知子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2046a0		

授業概要・目的	この講義では、広く商法に関する法制度･法規制について学習することを目的としています。具体的に扱う内容は、商法総則および商行為となります。
到達目標	この講義の目標は、法律で定められた制度を理解できるようにすることに加え、個別の法的問題点に対して論理的に検討できるようになることです。
授業方法と留意点	講義内容に合わせてレジュメを Teams で配布するので、レジュメをもとに重要事項などをメモしながら内容を理解してください。毎回の講義後にグループで練習問題を解いてもらい、答え合わせをします。事後学習として間違えた部分はしっかりと復習してください。質問等は練習問題にある質問欄に記入してください。次回の講義で質問にはお答えします。
科目学習の効果（資格）	様々な営業に関わる法律の１つである「商法」について基礎知識および法的問題点を知ることができます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義の進め方、商法の概要	六法で商法に何が書かれているか見ておく(1 時間)
2	商法の法源	商事制定法、商慣習法、約款、法適用の順序	商慣習法や約款とは何か調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
3	商人	商人の意義、擬制商人、商人資格の得喪	商人に関する条文を見ておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
4	営業の譲渡	営業譲渡に関するルール	営業譲渡に関する条文を見ておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
5	商号①	商号の意義、選定、商号権	商号に関する条文を見ておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
6	商号②	名板貸し	名板貸しに関する条文を見ておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
7	商業登記	登記事項、手続、公示、法的効力	登記について調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
8	確認試験（中間）	第2回～第7回の講義の復習として試験を実施する。	第 2 回～第 7 回の講義内容を復習する（2 時間）
9	商行為の意義・種類	絶対的商行為、営業的商行為、附属的商行為	501 条～503 条について調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
10	商行為の通則	商行為一般に関する特則	504 条～516 条について調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
11	商事売買・交互計算	商事売買に関する特則、交互計算契約	524 条～528 条、交互計算契約について調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う(1 時間)
12	運送営業	運送営業に関するルール	570 条～594 条について見ておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
13	場屋営業	場屋営業に関するルール	場屋営業とは何か調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
14	支配人	支配人に関するルール	支配人とは何か調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
15	確認試験（期末）	第 9 回～第 14 回の講義の復習として試験を実施する。	第 9 回～第 14 回の講義内容を復習する（2 時間）

関連科目	民法、会社法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	商法総則・商行為法　基礎と展開　（第 3 版）	末永敏和	中央経済社
2			
3			

評価方法（基準）	確認試験 2 回分（中間 50%、期末 50%）で評価します。
学生へのメッセージ	第 1 回で講義の進め方を説明するので、説明を聴いた上で受講してください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階
備考	練習問題および質問は講義終了後に回収をして、次回に返却します。 確認試験を実施後、解答は Teams に掲載するので、自己採点を行って復習してください。

科目名	会社法	科目名（英文）	Corporate Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	高間　佐知子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2047a0		

授業概要・目的	この講義では、「会社法」で定められている法制度･法規制について学習することを目的としています。経済社会において会社という存在が活動するなかで、どのようにして組織されていて、またどのようにして活動しているのか、法的な観点から学びます。会社経営の要にもなるコーポレートガバナンスに対する法規定を中心に、経営者である取締役の法的責任についても言及します。
到達目標	この講義の目標は、会社法で定められた制度を理解できるようにすることに加え、会社法に関する法的問題点を理解して検討できるようになることです。
授業方法と留意点	講義内容に合わせてレジュメを配布するので、レジュメをもとに重要事項などをメモしながら内容を理解してください。毎回の講義終了後にグループで練習問題を解いて答え合わせをしてもらい、事後学習として特に間違えた部分についてはしっかり復習をしておきましょう。質問等は練習問題にある質問欄に記入してもらえれば、次回の講義でお答えします。
科目学習の効果（資格）	企業法務や会社経営に関する法律知識を身に着けることができます。関連する資格として、ビジネス実務法務検定、法学検定（中級）、行政書士、司法書士などがあります。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義の進め方、会社法の概要	六法などで会社法に何が書かれているのか見ておく（1 時間）
2	会社のしくみ・法人格	会社の種類、社員の責任、法人格否認の法理	会社の種類を調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
3	株主①	株主の権利	株主にはどのような権利があるのか考えてみる（1 時間） 練習問題トの復習を行う（1 時間）
4	株主②	株主平等の原則、株主名簿	株主平等の原則について調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
5	株式制度	株式の内容、種類株式	種類株式について調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
6	機関設計①	機関の設置強制に関するルール	会社法 327 条、328 条、402 条を学習しておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
7	機関設計②	指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社、社外取締役	指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社、社外取締役について調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
8	確認試験（中間）	第2回～第7回の内容について復習としての確認試験を実施する。	第 2 回～第 7 回の講義内容を復習する（2 時間）
9	株主総会①	招集権者、招集手続、決議権の代理行使	株主総会の開催方法を調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
10	株主総会②	決議要件、説明責任、決議の瑕疵に関する訴訟、利益供与	決議要件に関する条文を見ておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
11	取締役	取締役の選任・資格・終任、表見代表取締役	取締役に関する条文をすべて見ておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
12	取締役の義務	善管注意義務、忠実義務、競業避止義務、利益相反取引規制	取締役の義務に関する条文を見ておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
13	役員等の会社に対する責任	任務懈怠責任、責任免除・軽減制度	任務懈怠責任、責任免除・軽減制度について調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
14	第三者に対する責任、株主代表訴訟	第三者に対する責任の概要と要件、株主代表訴訟に関するルール	株主代表訴訟について調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
15	確認試験（期末）	第 9 回～第 14 回の内容について復習としての確認試験を実施する。	第 9 回～第 14 回の講義内容を復習する（2 時間）

関連科目	民法、金融商品取引法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	基礎から学べる会社法（第 5 版）	近藤光男ほか	弘文堂
2			
3			

評価方法（基準）	確認試験 2 回分（中間 50%、期末 50%）で評価します。
学生へのメッセージ	1 回目に講義の進め方を説明しますので、それを聴いた上で受講してください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階
備考	練習問題は評価に含まれませんが、毎回の授業で回収して次回に返却するかたちとします。 確認試験の解答は実施後に Teams に掲載しますので、自己採点をしてください。

科目名	有価証券法	科目名（英文）	Law of Negotiable Instruments
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高間　佐知子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2048a0		

授業概要・目的	この講義では、「手形法」および「小切手法」で定められている法制度・法規制について学習することを目的としている。企業や商人の決済手段の一つとして手形や小切手が利用されており、実際の利用方法や法規制に関する基礎知識を学ぶとともに、手形や小切手に関するトラブル事例などを検討していく。
到達目標	この講義を通じて学生には、手形法・小切手法で定められた制度を理解できるようにすることに加え、手形・小切手に関する法的問題点に対して論理的に対処できるようになることを期待しています。
授業方法と留意点	講義内容に合わせてレジュメを配布するので、レジュメをもとに重要事項などをメモしながら内容を理解してほしいです。毎回の講義後にグループで練習問題を解いてもらうので答え合わせをして、事後学習として間違えたところを中心に復習をしてください。質問等は練習問題にある質問欄に記入してもらえれば、次回の講義でお答えします。
科目学習の効果（資格）	企業法務、特に金融の分野や一般的なビジネス上の決済方法として必要な基礎知識を身にけることができます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義の進め方、手形・小切手の役割	手形・小切手がどこで使われているのか調べる（予習：1 時間、復習 2 時間）
2	手形・小切手の種類・しくみ・譲渡	手形・小切手の利害関係者と基本構造	約束手形・為替小切手・小切手の違いを調べる（予習：1 時間、復習 2 時間）
3	手形・小切手の支払義務・担保責任	手形・小切手に関する義務の発生、担保責任、遡求	手形・小切手の遡求について調べる（予習：1 時間、復習 2 時間）
4	手形・小切手の支払実務・法的性質	手形・小切手の決済実務、法的性質	手形交換所や当座勘定契約について調べる（予習：1 時間、復習 2 時間）
5	手形要件・小切手要件	手形・小切手の記載事項	手形・小切手に何を書くべきか調べる（予習：1 時間、復習 2 時間）
6	白地手形・白地小切手	白地手形・白地小切手の意義、法的問題	手形・小切手の白地について調べる（予習：1 時間、復習 2 時間）
7	無権代理・偽造	手形や小切手における無権代理や偽造の問題	無権代理と偽造について調べる（予習：1 時間、復習 2 時間）
8	確認試験（中間）	第 2 回～第 7 回の内容で復習としての確認試験を実施	第 2 回～第 7 回の講義内容を復習する（2 時間）
9	裏書①	裏書の方式・法的効力	裏書について調べる（予習：1 時間、復習 2 時間）
10	裏書②	裏書の連続、特殊な裏書	裏書の連続について調べる（予習：1 時間、復習 2 時間）
11	手形抗弁①	物的抗弁、人的抗弁	手形抗弁について調べる（予習：1 時間、復習 2 時間）
12	手形抗弁②	融通手形、書合手形、戻裏書、後者の抗弁	融通手形や書合手形について調べる（予習：1 時間、復習 2 時間）
13	手形抗弁③・善意取得	二重無権の抗弁、無権利の抗弁、善意取得	善意取得について復習する（予習：1 時間、復習 2 時間）
14	手形行為論	交付欠缺について事例検討	交付欠缺を調べる（予習：1 時間、復習 2 時間）
15	確認試験（期末）	第 9 回～第 14 回の内容で復習としての確認試験を実施	第 9 回～第 14 回の講義内容を復習する（2 時間）

関連科目	民法、会社法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	商法Ⅲ－手形・小切手	大塚龍児・林竧・福瀧博之	有斐閣
2			
3			

評価方法（基準）	確認試験 2 回分（中間 50%、期末 50%）で評価します。
学生へのメッセージ	第 1 回目に講義の進め方を説明しますので、聴いた上で受講してください。細かい規定や学説の対立が多く存在し、法律科目としては難易度がやや高いと思います。安易に受講はしないようにしましょう。
担当者の研究室等	11 号館 10 階
備考	確認試験は実施後に答えを Teams に掲載するので、自己採点をして復習をするようにしてください。

科目名	独占禁止法	科目名（英文）	Anti-Trust Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	本多　康作
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3049a0		

授業概要・目的	独占禁止法は、企業活動を規制することにより、公正かつ自由な競争を促進し、一般消費者の利益を確保するとともに、国民経済の民主的で健全な発達を促進することを目的とするものである。独占禁止法の理解には、法律の条文を直接、読み、また判決および審決における具体的な事例の検討が不可欠である。
到達目標	この授業を通じて、学生は、独占禁止法の基本的知識と応用力を取得することができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	・講義形式で行う（社会情勢上、その変更が必要な場合は遅滞なく連絡する）。 ・本講義は、ICT ツールとして Microsoft 社の teams を用いる。 ・課題提示や資料配布などは Microsoft 社 teams を通じて行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。 ・最新の六法（有斐閣『ポケット六法』や『判例六法』、または、三省堂『デイリー六法』もしくは『模範小六法』の最新版がのぞましい）を必ず持参すること。
科目学習の効果（資格）	企業に就職する者にとっては、独占禁止法の知識は有用な知識であり、また公務員にとっても、談合という不当な取引制限に対する知識の修得は職務上、重要である。独占禁止法の知識と応用力の修得により、会社や社会に対して大きく貢献できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業ルールと、独占禁止法の目的・構成と手続	最初に、本授業の授業ルールについて理解する。そのうえで、自由競争の促進と独禁法について学ぶ。	事前に教科書ｐ．１～９を読むこと（2 時間）。 事後に教科書ｐ１．～９を読むこと（2 時間）。
2	独占禁止法の基礎概念	事業者、 一定の取引分野、 競争の実質的制限、 公共の利益等について学ぶ。	事前に教科書ｐ１５．～２２を読むこと（2 時間）。 事後に教科書ｐ.15～22 を読むこと（2 時間）。
3	公正取引員会の組織と構成	公正取引員会の組織、 公正取引員会の構成等について学ぶ。	事前に教科書ｐ.35～61 を読むこと（2 時間）。 事後に教科書ｐ. 35.～61 を読むこと（2 時間）。
4	独占禁止法違反事件の処理手続	行政的救済、 刑事制裁、 民事上の救済手段等について学ぶ。	事前に教科書ｐ.62～74 を読むこと（2 時間）。 事後に教科書ｐ.62～74 を読むこと（2 時間）。
5	私的独占の禁止	私的独占の禁止の形態、 支配と排除要件、等について学ぶ。	事前に教科書ｐ.75 ～93 を読むこと（2 時間）。 事後に教科書ｐ.75～93 を読むこと（2 時間）。
6	不当な取引制限（１）	カルテルとは何かについて学ぶ。	事前に教科書ｐ.97 ～119 を読むこと（2 時間）。 事後に教科書ｐ.97～119 を読むこと（2 時間）。
7	不当な取引制限（２）	カルテルの形態 国際カルテルの規制について学ぶ。	事前に教科書ｐ.435～441 を読むこと（2 時間）。 事後に教科書ｐ.435～441 を読むこと（2 時間）。
8	不当な取引制限（３）	行政指導とカルテル 、 カルテルの適用除外等について学ぶ。	事前に教科書ｐ135.～139 を読むこと（2 時間）。 事後に教科書ｐ.135～139 を読むこと（2 時間）。
9	不当な取引制限（４）	事業者団体の活動規制、 事業者団体とは、 違法な活動類型等について学ぶ。	事前に教科書ｐ.120～134 を読むこと（2 時間）。 事後に教科書ｐ.120～134 を読むこと（2 時間）。
10	不当な取引制限（５）	政指導とカルテル カルテルの適用除外 価格の同調的引上げの理由報告制度	事前に教科書ｐ135.～19 を読むこと（2 時間）。 事後に教科書ｐ.135～139 を読むこと（2 時間）。
11	結合・集中規制（１）	合併 分割・役員兼任等　 独占的状態に対する措置について学ぶ。	事前に教科書ｐ.163～180 を読むこと（2 時間）。 事後に教科書ｐ163.～180 を読むこと（2 時間）。
12	結合・集中規制（２）	持株会社の規制・金融会社の株式保有制限・一般会社の株式保有規制等について学ぶ。	事前に教科書ｐ163.～180 を読むこと（2 時間）。 事後に教科書ｐ.163～180 を読むこと（2 時間）。
13	不公正な取引方法（１）	概説、 排他条件付取引、 再販売価格の拘束、 拘束条件付取引、 不当な差別的取扱い等について学ぶ。	事前に教科書ｐ.223～277 を読むこと（2 時間）。 事後に教科書ｐ.223～277 を読むこと（2 時間）。
14	不公正な取引方法（２）	不当対価 、 不当な顧客誘引・強制、 欺まん的顧客誘引 、 抱き合わせ販売、 取引上の地位の不当利用等について学ぶ。	事前に教科書ｐ.278～318 を読むこと（2 時間）。 事後に教科書ｐ.278～318 を読むこと（2 時間）。
15	知的財産権と独占禁止法その他	知的財産権と独占禁止法、 政府規制と独占禁止法 、 国際取引と独占禁止法等について学ぶ。	事前に教科書ｐ.319～368 を読むこと（2 時間）。 事後に教科書ｐ.319～368 を読むこと（2 時間）。

関連科目	会社法、行政法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	独占禁止法と競争政策（最新版）	岸井大太郎その他４名	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	経済法判例・審決百選（最新版）	厚谷襄児・稗貫俊文編	有斐閣
2			

	3
評価方法 （基準）	形成的評価を行うため、各回講義後に、Microsoft 社 teams を通じて Microsoft　forms から課題を配信し、その回答内容を合算して評価対象とする（講義の理解度 5%＋課題の得点 95%）。
学生への メッセージ	授業中の私語は認めない。私語をはじめ、授業態度が悪い場合は、単位を認定しない。こうした本授業を履修する際の注意事項を含む授業ルールは、初回の授業で説明する。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　本多研究室
備考	予習・復習には各 2 時間とって下さい。 なお、課題等の正解は、次回の授業で解説する。

科目名	金融商品取引法	科目名（英文）	Financial Instrument and Exchange Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高間　佐知子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3050a0		

授業概要・目的	この講義では、「金融商品取引法」で定められている法制度･法規制について学習することを目的とします。法律科目の中でも金融商品取引法は専門性が高く、法律の条文を読み解くのは少し難しいものになっています。講義内容としては、経済社会において必要不可欠となっている証券市場に関する情報開示ルールや禁止されている不正行為を中心に見ていきます。最終的に、この講義では金融商品取引法にどのような規制が何のために存在するかを明らかにしていくことを目的としています。
到達目標	この講義を通じて学生には、金融商品取引法で定められた法規制を理解できるようにすることに加え、証券市場を取り巻く法的問題点に対して論理的に検討できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	講義内容に合わせてレジュメはTeamsを利用して配布します。講義の最後にその日の復習としてグループで問題を解いてもらいます。答え合わせをして間違えた部分を中心に毎回の復習をするようにしてください。
科目学習の効果（資格）	金融の中でも証券取引に関する専門性の高い法律知識を習得し、難解な法律を読み解くことができるようにします。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義の進め方	シラバスの確認（予習 30 分）
2	金融商品市場の基本的な仕組み	社会基盤としての市場および投資活動	証券市場について大まかに調べる（予習：1 時間、復習 1 時間）
3	金融商品取引法の適用範囲	金融商品取引法の目的と適用範囲	金融商品取引法について調べる（予習：1 時間、復習 1 時間）
4	有価証券の上場と取引所	有価証券の上場	上場や証券市場について調べる（予習：1 時間、復習 1 時間）
5	企業内容の開示規制①	開示規制の概要と発行開示制度	発行開示について調べる（予習：1 時間、復習 1 時間）
6	企業内容の開示規制②	目論見書制度、発行登録制度	目論見書について調べる（予習：1 時間、復習 1 時間）
7	企業内容の開示規制③ 情報開示の公平性確保	継続開示制度、FD ルール	継続開示について調べる（予習：1 時間、復習 1 時間）
8	確認試験（中間）	第 2 回～第 7 回の総括および確認試験	第 2 回～第 7 回の授業で扱った内容すべてについて復習する（2 時間）
9	情報開示の正確性確保、課徴金制度	監査制度、行政審査、課徴金制度の概要	監査および課徴金について調べる（予習 1 時間、復習 1 時間）
10	虚偽の情報開示と法的責任	発行市場･流通市場における書類の虚偽記載等の民事責任	損害賠償請求に関する損害賠償額の立証と消滅時効について調べる（予習 1 時間、復習 1 時間）
11	インサイダー取引の規制	インサイダー取引の意義と法規制	インサイダー取引とは何か調べる（予習 1 時間、復習 1 時間）
12	相場操縦の規制	相場操縦の意義と法規制	相場操縦とは何か調べる（予習 1 時間、復習 1 時間）
13	風説の流布･偽計取引等の規制、不公正な行為の法的責任、詐欺的行為の禁止	金商法 157 条および 158 条、不公正の行為に関する民事責任と刑事責任	金商法 157 条および 158 条について調べる（予習 1 時間、復習 1 時間）
14	公開買付け制度（TOB）	公開買付けの意義と法規制	公開買付とは何か調べる（予習 1 時間、復習 1 時間）
15	確認試験（期末）	第 9 回～第 14 回の総括および確認試験	第 9 回～第 14 回の授業で扱った内容すべてについて復習する（2 時間）

関連科目	民法、会社法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	基礎から学べる金融商品取引法（第４版）	近藤光男・志谷匡史・石田眞得・釜田薫子	弘文堂
2			
3			

評価方法（基準）	確認試験を 2 回実施し、中間（50%）および期末（50%）として評価する。
学生へのメッセージ	金融や株式取引などに興味のある学生は新たな法的視点を得ることができると思います。ただし、専門的で特別な法律であることから内容的が難しいものとなりますので、そのつもりで受講してください。安易な気持ちで受講することがないようにしてください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階
備考	

科目名	保険法	科目名（英文）	Insurance Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	本多　康作
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3051a0		

授業概要・目的	保険制度とは、同種の危険にさらされた多数の経済主体を１つの団体とみて、それに属する経済主体がそれぞれ金銭を拠出することにより共同的備蓄を形成し、現実に需要が発生した主体がそこから保険金の支払いを受ける方法で需要を満たす制度である。具体的には、損害保険契約、生命保険契約および傷害疾病保険契約についての法制度を講義する。
到達目標	この授業を通じて、学生は、保険法の全体構造を理解し、かつ基礎的知識を修得することができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	・講義形式で行う（社会情勢上、その変更が必要な場合は遅滞なく連絡する）。 ・本講義は、ICT ツールとして Microsoft 社の teams を用いる。 ・課題提示や資料配布などは Microsoft 社 teams を通じて行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。 ・最新の六法（有斐閣『ポケット六法』や『判例六法』、または、三省堂『デイリー六法』もしくは『模範小六法』の最新版がのぞましい）を必ず持参すること。
科目学習の効果（資格）	保険会社に就職する者にとっては、必須の講義である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業ルールの説明と、保険システム	最初に、本授業の受講ルールについて理解する。そのうえで、保険システムの目的と機能、保険法について学ぶ。	事前に教科書２ページ～２８ページを読むこと（2時間）。 事後に教科書２ページ～２８ページを読むこと（2時間）。
2	保険監督法	総説、保険業規制の内容、保険募集規制について学ぶ。	事前に教科書２９ページ～４８ページを読むこと（2時間）。 事後に教科書２９ページ～４８ページを読むこと（2時間）。
3	損害保険契約総論（１）	損害保険契約総説、損害保険契約の意義・特徴、損害保険契約の種類、片面強行規定の特徴について学ぶ。	事前に教科書５０ページ～５８ページを読むこと（2時間）。 事後に教科書５０ページ～５８ページを読むこと（2時間）。
4	損害保険契約総論（２）	保険契約の成立、告知義務について学ぶ。	事前に教科書５９ページ～６９ページを読むこと（2時間）。 事後に教科書５９ページ～６９ページを読むこと（2時間）。
5	損害保険契約総論（３）	損害保険契約における保険事故、保険期間、保険料について学ぶ。	事前に教科書７０ページ～７５ページを読むこと（2時間）。 事後に教科書７０ページ～７５ページを読むこと（2時間）。
6	損害保険契約総論（４）	損害保険契約の構造、保険金額と保険価額、重複保険について学ぶ。	事前に教科書７６ページ～１００ページを読むこと（2時間）。 事後に教科書７６ページ～１００ページを読むこと（2時間）。
7	損害保険契約総論（５）	損害保険契約の成立の効果について学ぶ。	事前に教科書１０１ページ～１１９ページを読むこと（2時間）。 事後に教科書１０１ページ～１１９ページを読むこと（2時間）。
8	損害保険契約総論（６）	損害保険の給付について学ぶ。	事前に教科書１２０ページ～１４５ページを読むこと（2時間）。 事後に教科書１２０ページ～１４５ページを読むこと（2時間）。
9	損害保険契約総論（７）	損害保険契約の終了について学ぶ。	事前に教科書１４６ページ～１５６ページを読むこと（2時間）。 事後に教科書１４６ページ～１５６ページを読むこと（2時間）。
10	損害保険契約総論（８）	損害保険契約の処分について学ぶ。	事前に教科書１５７ページ～１６１ページを読むこと（2時間）。 事後に教科書１５７ページ～１６１ページを読むこと（2時間）。
11	損害保険契約総論（９）	保険担保について学ぶ。	事前に教科書１６２ページ～１７１ページを読むこと（2時間）。 事後に教科書１６２ページ～１７１ページを読むこと（2時間）。
12	損害保険契約各論	火災保険、責任保険、自動車保険、運送保険、海上保険、再保険について学ぶ。	事前に教科書１７４ページ～２２１ページを読むこと（2時間）。 事後に教科書１７４ページ～２２１ページを読むこと（2時間）。
13	生命保険契約（１）	総説、生命保険契約の成立について学ぶ。	事前に教科書２２４ページ～２４２ページを読むこと（2時間）。 事後に教科書２２４ページ～２４２ページを読むこと（2時間）。
14	生命保険契約（２）	生命保険契約の効力、生命保険契約に基づく給付・終了、生命保険債権の処分と差押えについて学ぶ。	事前に教科書２４３ページ～２６６ページを読むこと（2時間）。 事後に教科書２２４ページ～２４２ページを読むこと（2時間）。
15	傷害疾病保険契約	総説、保険給付の要件、傷害疾病定額保険をめぐる問題について学ぶ。	事前に教科書２６８ページ～２８３ページを読むこと（2時間）。 事後に教科書２６８ページ～２８３ページを読む

				こと（2時間）。

関連科目	民法、商法総論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	レクチャー新保険法(最新版)	今井薫・岡田豊基・梅津昭彦	法律文化社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	形成的評価を行うため、各回講義後に、Microsoft 社 teams を通じて Microsoft　forms から課題を配信し、その回答内容を合算して評価対象とする（講義の理解度 5%＋課題の得点 95%）。
学生へのメッセージ	授業中の私語は認めない。私語をはじめ、授業態度が悪い場合は、単位を認定しない。こうした本授業を履修する際の注意事項を含む授業ルールは、初回の授業で説明する。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　本多研究室
備考	課題等の正解は、次回の授業で解説する。

科目名	知的財産法	科目名（英文）	Intellectual Property Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	家本　真実
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3052a0		

授業概要・目的	スマホが生活必需品となった現在、私たちは四六時中、情報に接しています。そのような情報のなかでも、創造的に制作されて財産として保護する価値のあるものが知的財産である、ということができるでしょう。具体的には発明や著作物などですが、法的保護が与えられる知的財産は、一般の人々には関係がないと考える方もいらっしゃるかもしれません。しかし、たとえばSNSにアップロードした文章や写真などは、著作物として保護される可能性があり、実はかなり身近なものです。 そこで本講義では、知的財産法のうち重要なものを中心に学びながら、知的財産法の全体像を理解することを目的とします。より理解を深めていただくために、できる限り身近な事例を挙げるとともに、条文に対する解釈や、学説、判例について紹介していきたいと考えています。
到達目標	知的財産法の全体像を理解するとともに、知的財産法の各法律の目的や基本的な内容を理解した上で、身近な問題においても知的財産はどのように扱われており、そこに知的財産権がどのように利用されているのかということを分析できる能力を習得することを目標とします。 この講義を通じて、学生の皆さんには、知的財産法の基礎を理解し、日常生活において知的財産を正しく利用することができるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	要点を記したレジュメを配布し、それに沿って解説をおこなうといったかたちで講義をおこないます。 教科書は毎回の講義中で必ず参照するわけではありませんが、予習として事前に読んでおくよう、適宜該当箇所を指定しますし、復習にも役立てていただけると思います。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	知的財産法の全体像	講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2時間)
2	特許法（1）	特許法の全体像 特許の要件	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示)を読んでおくこと。(1.5時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
3	特許法（2）	特許権の効力	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示)を読んでおくこと。(1.5時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
4	特許法（3）	特許権の侵害と救済	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示)を読んでおくこと。(1.5時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
5	特許法（4）	特許権の発生と帰属	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示)を読んでおくこと。(1.5時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
6	特許法（5）	特許権取得の手続き	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示)を読んでおくこと。(1.5時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
7	著作権法（1）	著作権法の全体像 著作物の要件	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示)を読んでおくこと。(1.5時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
8	著作権法（2）	著作権の効力	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示)を読んでおくこと。(1.5時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
9	著作権法（3）	著作人格権の効力	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示)を読んでおくこと。(1.5時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
10	著作権法（4）	著作権の制限	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示)を読んでおくこと。(1.5時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
11	著作権法（5）	著作権の侵害と救済	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示)を読んでおくこと。(1.5時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
12	著作権法（6）	著作権の保護期間	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示)を読んでおくこと。(1.5時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
13	商標法	商標法の全体像	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示)を読んでおくこと。(1.5時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
14	不正競争防止法	不正競争防止法の全体像	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示)を読んでおくこと。(1.5時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
15	意匠法 おわりに	意匠法の全体像	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。全講義を

				通して疑問や不明点がないか確認したうえで講義に臨むこと。(3 時間)

関連科目	民法（物権法、不法行為法)、民事訴訟法、経済法、行政法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	入門知的財産法　第 3 版	平嶋 竜太ほか	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	知的財産法入門　　第 3 版	茶園 成樹	有斐閣
2			
3			

評価方法 （基準）	講義内で課す課題（確認テスト、ペーパーなど）への取り組みを 30%程度、学期末試験の成績を 70%程度の割合で、最終的な評価をおこないます。
学生への メッセージ	講義内容は、講義の進行具合に応じて変更する場合もあります。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　家本准教授室
備考	

科目名	国際取引法	科目名（英文）	International Trade Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	小山　昇
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3053a0		

授業概要・目的	国際取引に適用される法律についての一般的な問題から始め、「国際物品売買契約」とそれに関係する分野を中心に講義します。国際取引法として適用される範囲は、国際条約や国際的規則だけでなく、「国際私法」や「民法」・「商法」・「国際経済法」・「国際民事訴訟法」などにも及ぶため、その関係を明確にすることを重視します。
到達目標	学生には、この授業を通じて、国際取引法の基本的知識、特に「国際物品売買」及びそれに関係する「国際海上物品運送」、「貨物海上保険」そして「国際代金決済」についての国際ルールを説明できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	教科書の理解に加えて、国際条約や国際的規則も重要であるために、それらの資料を中心とした重要事項を記述した配付資料を使った講義になります。数回、授業時間の最後の 20 分程度を使った重要事項についての「課題」提出を求めます。なお、対面授業ができない状況に至ったときは、Teams を使ってリアルタイムの動画配信になります。
科目学習の効果（資格）	貿易関係など外国取引に関係する基本的知識が得られます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	国際取引の意義と特色	国際取引の現状、特色	教科書第１章をあらかじめ読む （約２時間）
2	国際取引に適用される法	国際取引法の定義・内容、 「牴触法」と「渉外実質法」、 統一私法	配付資料の重要事項を確認する （約２時間）
3	国際取引の当事者	個人、法人・企業 国家機関、国際法人	教科書第２章をあらかじめ読む、 配付資料の重要事項を確認する （約２時間）
4	国際物品売買①	国際売買の構造と国際契約の準拠法	教科書第３章第１・２節をあらかじめ読む、 配付資料の重要事項を確認する （約２時間）
5	国際物品売買②	当事者自治の原則、 契約準拠法の構造、 「ハーグ統一売買法」	配付資料の重要事項を確認する （約２時間）
6	国際物品売買③	「ウイーン統一売買法」、 「インコタームズ」の概要	配付資料の重要事項を確認する （約２時間）
7	国際物品売買④	国際物品売買契約の成立、 契約交渉と契約の基本的条件	重要事項を再確認する （約２時間）
8	国際物品運送①	国際物品運送の種類、 ハーグルール	教科書第３章第３節をあらかじめ読む、 配付資料の重要事項を確認する （約２時間）
9	国際物品運送②	国際海上物品運送法、 船荷証券、 国際航空運送	配付資料の重要事項を確認する （約２時間）
10	国際貨物保険①	海上保険証券	教科書第３章第４節をあらかじめ読む、 重要事項を再確認する （約２時間）
11	国際貨物保険②	貨物保険契約の内容	配付資料の重要事項を確認する （約２時間）
12	国際代金決済	代金決済の方式、 荷為替信用状	教科書第３章第５節をあらかじめ読む、 配付資料の重要事項を確認する （約２時間）
13	その他の国際取引①	プラント輸出	教科書第４章をあらかじめ読む、 重要事項を再確認する （約２時間）
14	その他の国際取引②	国際技術移転、国際投資	教科書第５章をあらかじめ読む、 配付資料の重要事項を確認する （約２時間）
15	国際取引紛争の解決	国際裁判管轄、 外国判決の承認・執行、 国際商事仲裁	教科書第６章をあらかじめ読む、 すべての確認問題・重要事項を確認する （約２時間）

関連科目	国際私法総論・各論、民法総則、債権法、商法、民事訴訟法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際取引法（第５版）	佐野寛	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜、紹介します。		
2			
3			

評価方法（基準）	評価は、提出を求める課題(40%)と定期試験(60%)の成績を合計します。定期試験は、「課題」を使った応用問題になります。
学生へのメッセージ	国際取引における主要な「グローバル・スタンダード」を知ってください。課題のレポートには、配付資料だけでなく教科書の学習が必須です。
担当者の	11 号館９階　小山教授室

研究室等	
備考	質問・意見は、授業の時以外ではメールを活用してください。 ２０１４年度以前入学生科目名　『国際取引法Ｉ』 20 年度　合格率 88.9%　（不受験率 5.6%）　A15.7%　B34.3%　C24.1%　D14.8%　平均 74 点　108 人登録

科目名	労働保護法	科目名（英文）	Labor Standards Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	寺山　洋一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2054a0		

授業概要・目的

雇用・労働関係の法律については、大別して、
① 労働者の保護を主題とする個別的な労働関係の法律
② 労働組合が主体となる集団的な労使関係の法律
③ 労働市場に関する法律
に分けることができます。

本講義では、上記①を取り扱います。
法学の基礎知識を土台として、労働契約法（就業規則の法的性質、解雇、雇止め等）、労働基準法（賃金、労働時間等）などの労働関係法律について、代表的な最高裁判決を紹介しつつ、説明を行います。

殊に、中央官庁及び議院法制局における法律その他の法令の企画・立案並びに行政訴訟事件に係る訴訟実務の経験を踏まえ、立法政策的な観点も含めて解説します。
併せて、働き方改革関連法、パワハラ関連規定などの近時の労働立法の動きについても敷衍できればと考えています。

到達目標

個別的な労働関係の法律に関する基本的な知見や知識、実務の在り方を理解した上で、就職に向けて、また、就職（起業）後において、実際に起きている雇用・労働関係をめぐる諸問題について、法的視点から考察できる能力を身につけることを目標とします。

授業方法と留意点

授業では、民法（債権法）の特別法である労働契約法、強行法規としての労働基準法その他の雇用・労働関係の法律という幅広い範囲を扱うとともに、関連条項も多岐にわたります。

履修に当たって、法律の条項や裁判例の読み方をひと通り習得しておくことにより、効果的かつ効率的に学びが深まります。

科目学習の効果（資格）

労働基準監督官試験などの公務員試験や、社会保険労務士の資格取得のためにも、有益な内容となります。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	人事労務関係法の座標	・　憲法との関連 ・　雇用契約の当事者 ・　法的責任の在り方	教科書の第１講について、授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。（計２時間）
2	「働く」をめぐる主な契約	・　雇用契約 ・　労働者派遣契約 ・　請負契約・委任契約等	教科書の第２講について、授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。（計２時間）
3	多様な働き方に応じた法制	・　契約社員 ・　パート社員 ・　派遣労働者等	教科書の第３講について、授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。（計２時間）
4	募集・採用	・　募集・採用 ・　インターンシップ ・　内定	教科書の第４講について、授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。（計２時間）
5	就労の開始	・　雇用契約書 ・　労働条件通知書 ・　試用期間	教科書の第５講について、授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。（計２時間）
6	解雇	・　整理解雇・解雇 ・　退職勧奨・希望退職	教科書の第６講について、授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。（計２時間）
7	その他の離職	・　雇止め ・　定年退職・自主退職 ・　倒産	教科書の第７講について、授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。（計２時間）
8	コンプライアンス	・　就業規則・服務規律 ・　労働条件の不利益変更 ・　懲戒処分	教科書の第８講について、授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。（計２時間）
9	賃金	・　賃金の構成 ・　賃金の支払いの５原則 ・　賞与・休業手当	教科書の第９講について、授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。（計２時間）
10	割増賃金	・　割増率 ・　算定基礎から除外される手当 ・　最低賃金	教科書の第１０講について、授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。（計２時間）
11	労働時間	・　法定労働時間 ・　フレックスタイム制 ・　みなし労働時間	教科書の第１１講について、授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。（計２時間）
12	時間外労働	・　残業 ・　３６協定 ・　上限規制	教科書の第１２講について、授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。（計２時間）
13	休憩・休日・年次有給休暇	・　休憩 ・　休日・休息 ・　年次有給休暇	教科書の第１３講について、授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。（計２時間）
14	現場の労働安全衛生	・　安全衛生管理体制 ・　労働災害	教科書の第１６講について、授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。（計２時間）
15	締めくくり考査と総括	・　既習した知識や知見が定着しているかを評定するために実施	講義内容の振返り、教科書や例題等の総ざらいを行う。（２時間）

関連科目

日本国憲法、民法（債権法）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	【電子】　人事労務関係法　令和５年度版	テラボ	斉家書房
2			
3			

<table>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>【電子】 振り返り例題　労働法　令和５年度版</td><td>テラボ</td><td>斉家書房</td></tr>
<tr><td>2</td><td>【電子】 移りゆく雇用・労働六法　令和５年度版</td><td>テラボ</td><td>斉家書房</td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>原則として、締めくくり考査（５０％）を実施します。
適時、授業中に腕試し考査を行うとともに、課題として授業外に提出物を求めること（併せて５０％）により、成績を判断します。
その際、授業中の取組姿勢なども含め、総合的に考慮して評価します。
新型コロナウイルス感染症対策等の諸事情により、上記内容の割合を変更することがあります。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td></td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>11 号館 9 階　寺山教授室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>第１回の講義時、教科書及び参考書の購入・利用について説明します。
講義中、電子書籍の教科書や参考書を参照することがありますので、各自、PC・スマートフォン等の電子機器を持ち込んでも差し支えありません。
授業外に提出物を求める課題への対応については、各課題ごとに、おおむね２時間程度を要します。
考査や課題に係る正解及び解説は、ポータルサイト上で発表します。</td></tr>
</table>

科目名	労働組合法	科目名（英文）	Labor Union Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	寺山　洋一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3055a0		

授業概要・目的	雇用・労働関係の法律については、大別して、 ①　労働者の保護を主眼とする個別的な労働関係の法律 ②　労働組合が主体となる集団的な労使関係の法律 ③　労働市場に関する法律 に分けることができます。 本講義では、上記②を取り扱います。 具体的には、関連科目である「労働保護法」に関する基礎的な知識や知見を土台として、労働組合の現状、労働協約の法的性質、不当労働行為の類型、審査手続き、救済命令などについて説明を行います。 殊に、中央官庁及び議院法制局における法律その他の法令の企画・立案並びに行政訴訟事件に係る訴訟実務の経験を踏まえ、立法政策的な観点も含めて解説します。
到達目標	労使関係法に関する基本的な知識や実務の在り方を理解した上で、就職に向けて、また、就職（起業）後において、実際に起きている労使関係をめぐる諸問題について、法的視点から考察できる能力を身につけることを目標とします。
授業方法と留意点	受講に当たっては、労働協約の効力や、労働協約と労働契約・就業規則・労使協定との差異、チェック・オフと賃金の支払い５原則との関係など、「労働保護法」に関する基礎的な知識や知見を土台とします。 「労働保護法」の内容をひと通り習得しておくことにより、効果的かつ効率的に学びが深まります。
科目学習の効果（資格）	労働基準監督官試験などの公務員試験や、社会保険労務士の資格取得のためにも、役立つ内容となります。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	労使関係法入門	・　憲法と労使関係法 ・　労使関係法の範疇	教科書の第１講について、授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。（計２時間）
2	労働組合の世界	・　労働組合の現状 ・　労働組合の要件	教科書の第２講について、授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。（計２時間）
3	労働三権	・　労働組合法の構造 ・　団結権・団体交渉権・団体行動権	教科書の第３講の１・２）について、授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。（計２時間）
4	労働委員会	・　労働委員会の役割と構成 ・　労働委員会の現状と課題	教科書の第３講の３について、授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。（計２時間）
5	労働協約の締結・期間・効力	・　労働協約の締結 ・　労働協約の期間 ・　労働協約の効力	教科書の第４講の１～４について、授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。（計２時間）
6	労働協約と就業規則等	・　労働協約の効力の及ぶ範囲 ・　労働協約と就業規則等との関係	教科書の第４講の５～７について、授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。（計２時間）
7	ユニオン・ショップ	・　ユニオン・ショップの法的位置づけ ・　尻抜けユニオン	教科書の第５講について、授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。（計２時間）
8	チェック・オフ	・　チェック・オフの法的位置づけ ・　賃金の支払いの原則との関係	教科書の第６講について、授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。（計２時間）
9	不当労働行為救済制度	・　不当労働行為の類型	教科書の第７講の１について、授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。（計２時間）
10	団体交渉の拒否	・　団体交渉の拒否 ・　不誠実な団体交渉 ・　正当な理由	教科書の第８講について、授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。（計２時間）
11	不利益取扱い	・　不利益取扱いの例 ・　「～の故をもって」 ・　黄犬契約	教科書の第９講について、授業前の下調べ、授業後の振返りを行うこと。（計２時間）
12	支配・介入	・　包括条項 ・　支配・介入 ・　便宜供与	教科書の第１０講について、授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。（計２時間）
13	審査手続き・救済	・　不当労働行為の審査手続き ・　救済命令 ・　取消訴訟	教科書の第７講の２～５について、授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。（計２時間）
14	使用者・労働者	・　使用者性をめぐる判断 ・　労働者性をめぐる判断	教科書の第１１・１２講について、授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。（計２時間）
15	締めくくり考査と総括	・　既習した知識や知見が定着しているかを評定するために実施	講義内容の振返り、教科書や例題等の総ざらいを行う。（２時間）

関連科目	日本国憲法、民法（債権法）、労働保護法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	【電子】 小規模企業のための労使関係法　令和５年度版	テラボ	斉家書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	【電子】 振り返り例題　労使関係法　令和５年度版	テラボ	斉家書房
2	【電子】 移りゆく雇用・労働六法　令和５年度版	テラボ	斉家書房
3			

評価方法	原則として、締めくくり考査（５０％）を実施します。

（基準）	適時、授業中に腕試し考査を行うとともに、課題として授業外に提出物を求めること（併せて５０％）により、成績を判断します。 その際、授業中の取組姿勢なども含め、総合的に考慮して評価します。 新型コロナウイルス感染症対策等の諸事情により、上記内容の割合を変更することがあります。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　寺山教授室
備考	第１回の講義時、教科書及び参考書の購入・利用について説明します。 講義中、電子書籍の教科書や参考書を参照することがありますので、各自、PC・スマートフォン等の電子機器を持ち込んでも差し支えありません。 授業外に提出物を求める課題への対応については、各課題ごとに、おおむね２時間程度を要します。 考査や課題に係る正解及び解説は、ポータルサイト上で発表します。

科目名	社会保障法	科目名（英文）	Social Security Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	寺山　洋一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3056a0		

授業概要・目的	社会保障法(Social Security Law)は、憲法２５条に基づき、個人ではそのリスクを負いきれない事柄に備えて、私たち国民が安心して暮らすための助け船（Safety Net）となるものです。 その領域は、年金（Pension)、医療（Health and Medical Care)、介護（Long-Term Care、Elderly Care)、福祉（Welfare)、次世代支援（Children and Child-rearing)、雇用（Employment）という手広い範囲に及び、関連する法律も極めて多岐にわたります。 社会保障法の内容を従来の大枠でとらえると、社会保険、公的扶助、社会福祉、公衆衛生という４つの分野に分けることができます。 本講義では、社会保障法の全体像や現代的な課題、各分野ごとの種々の法律や諸制度などについて縦覧します。
到達目標	社会保障法に関する知識や知見を踏まえ、就職に向けて、また、就職（起業）後において、社会保障をめぐる諸問題について、法的視点から考察できる能力を養うことを目標としています。
授業方法と留意点	講義では、次のとおり、４つの分野にわたって説明を行います。 ・　社会保険（Social Insurance　年金、医療、介護、雇用、労災） ・　公的扶助（Public Assistance　生活保護） ・　社会福祉（Social Welfare　児童福祉、高齢者福祉、障害者福祉） ・　公衆衛生（Public Health　医療、保健衛生）
科目学習の効果（資格）	地方公務員試験や、社会保険労務士、社会福祉士、医療関連職種の資格取得のためにも、役立つ内容となります。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	憲法と社会保障法	・　憲法と社会保障法 ・　社会保障法と関連制度 ・　社会保障法の全体像	授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。（計２時間）
2	社会保障のあらまし	・　少子高齢社会 ・　費用と財源 ・　現代的な課題	授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。（計２時間）
3	社会保障の現状	・　主な統計調査 ・　指標	授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。（計２時間）
4	年金	・　国民年金法 ・　厚生年金保険法	授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。（計２時間）
5	医療保険	・　健康保険法 ・　国民健康保険法	授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。（計２時間）
6	介護保険	・　介護保険法	授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。（計２時間）
7	労働保険	・　雇用保険法 ・　労働者災害補償保険法	授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。（計２時間）
8	児童をめぐる福祉	・　児童福祉法 ・　児童手当法等	授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。（計２時間）
9	障害者をめぐる福祉	・　障害者基本法 ・　障害者総合支援法等	授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。（計２時間）
10	その他の福祉	・　老人福祉法 ・　被災者生活再建支援法等	授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。（計２時間）
11	公的扶助	・　生活保護法 ・　ホームレス自立支援法等	授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。（計２時間）
12	医療・疾病	・　医療法 ・　薬機法 ・　感染症法等	授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。（計２時間）
13	保健衛生	・　健康増進法 ・　母子保健法 ・　食品衛生法等	授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。（計２時間）
14	社会保障に係る職種	・　社会保険に係る職種 ・　社会福祉に係る職種 ・　医療に係る職種	授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。（計２時間）
15	締めくくり考査と総括	・　既習した知識や知見が定着しているかを評定するために実施	講義内容の振返り、教科書や例題等の総ざらいを行う。（２時間）

関連科目	日本国憲法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	【電子】　移りゆく福祉六法　令和５年度版	テラボ	斉家書房
2	【電子】　移りゆく医療・保健衛生六法　令和５年度版	テラボ	斉家書房
3			

評価方法（基準）	原則として、締めくくり考査（５０％）を実施します。 適時、授業中に腕試し考査を行うとともに、課題として授業外に提出物を求めること（併せて５０％）により、成績を判断します。 その際、授業中の取組姿勢なども含め、総合的に考慮して評価します。

	新型コロナウイルス感染症対策等の諸事情により、上記内容の割合を変更することがあります。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　寺山教授室
備考	第１回の講義時、教科書及び参考書の購入・利用について説明します。 講義中、電子書籍の教科書や参考書を参照することがありますので、各自、PC・スマートフォン等の電子機器を持ち込んでも差し支えありません。 授業外に提出物を求める課題への対応については、各課題ごとに、おおむね２時間程度を要します。 考査や課題に係る正解及び解説は、ポータルサイト上で発表します。

科目名	環境法	科目名（英文）	Environmental Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浮田　徹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3057a0		

授業概要・目的	環境にまつわる法と制度を周辺の事情なども含めて学習してもらいます。 国家と環境の関係について、法律学的な検討だけでなくその他環境法の総合的理解に必要な観点から考察を加えます。
到達目標	この授業を通じて学生には、環境という広い領域の中の、法律・行政に関わる部分を学び整え、憲法、民法、行政法などを踏まえた上での環境に対する法の思考を形成できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	講義形式で行います。講義に必要なものはレジュメ、ノート、教科書、六法です。 レジュメは事前に moodle から入手、印刷して持参してください。 ※moodle の利用方法につき (1)moodle とは 摂南大学の採用する ICT ツールです。大学のトップページにリンクがあります。 (2)moodle の登録方法につき 講義には自分で登録する必要があります。 ログインし、「ナビゲーション」のところにある「コース」をクリック、「コースを検索する」から 「23 環境法」と入力して検索し「2023 環境法」をク
科目学習の効果（資格）	新司法試験の選択科目です。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	・講義の進め方、環境法を学ぶにあたっての前提事項の確認など	予習：教科書の目次を読んでくる（5 分） 復習・学習：講義ノートふり返り、該当部分の教科書を読んでみて内容をチェックする(20 分)
2	環境法概説	・法哲学的にみた「環境」とは	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく(20 分) 講義ノートふり返り、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする(20 分)
3	環境法と権利	・環境法における実定法的「権利」とは	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく(20 分) 講義ノートふり返り、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする(20 分)
4	環境法と環境行政①	・環境法、環境行政の歴史①	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく(20 分) 講義ノートふり返り、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする(20 分)
5	環境法と環境行政②	・環境法、環境行政の歴史②	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく(20 分) 講義ノートふり返り、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする(20 分)
6	環境と訴訟①	・四大公害裁判と民事訴訟理論の展開①	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく(20 分) 講義ノートふり返り、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする(20 分)
7	環境と訴訟②	・四大公害裁判と民事訴訟理論の展開②	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく(20 分) 講義ノートふり返り、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする(20 分)
8	環境と訴訟③	・新しい形態をとる環境訴訟	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく(20 分) 講義ノートふり返り、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする(20 分)
9	環境政策と基本法①	・環境基本法の制定とその内容①	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく(20 分) 講義ノートふり返り、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする(20 分)
10	環境政策と基本法②	・環境基本法の制定とその内容②	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく(20 分) 講義ノートふり返り、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする(20 分)
11	環境に対する事前の措置①	・環境影響評価法の導入とその仕組み①	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく(20 分) 講義ノートふり返り、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする(20 分)
12	環境に対する事前の措置②	・環境影響評価法の導入とその仕組み②	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく(20 分) 講義ノートふり返り、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする(20 分)
13	環境に対する事前の措置③	・環境影響評価法の導入とその仕組み③	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく(20 分) 講義ノートふり返り、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする(20 分)
14	領域を越えた環境問題①	・環境問題のグローバル化	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく(20 分) 講義ノートふり返り、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする(20 分)
15	領域を越える環境問題②	・領域を越えた環境問題の解決	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく(20

<table>
<tr><td></td><td><table>
<tr><td></td><td></td><td></td><td>分)
講義ノートふり返り、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする(20 分)</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td>憲法 I、憲法 II、行政法などの公法科目と関連します。法哲学、行政学や、民法(不法行為など)、民事訴訟法などとも関連します。</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td><table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>考えながら学ぶ環境法</td><td>畠山武道</td><td>三省堂</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>参考書</td><td><table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>評価方法
(基準)</td><td>毎回の小課題(30%)、期末試験(70%)で評価します。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>資料等は適宜 moodle 経由で配布します。その他詳細については初回にアップするプリントを参照すること。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>11 号館 9 階　浮田准教授室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>小課題については授業で解説します</td></tr>
</table>

科目名	国際社会と法	科目名（英文）	International Community and Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥谷部　壌
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1058a0		

授業概要・目的	この科目は、グローバル時代にあって益々その重要性を増している国際法について、総論的知識を体系的に整理して身につけることを目的とします。国際法は、国内法とは相当に異なる基本構造をもっているので、新たな気持ちで授業に臨んでもらえればと思います。
到達目標	この授業を通じて学生には、 （1）国際法の性質や特徴について、第三者に分かりやすく説明できる、 （2）国際法に関連する、教職関係の試験問題や、各種資格試験で出題される問題に解答する手がかりを得ることができる、 （3）国際法に関するニュースに触れたときに、その内容を専門的な視点から理解し、第三者に分かりやすく説明できる、 ようになることが期待される。
授業方法と留意点	この授業は、毎回、レジュメを配布して実施します。
科目学習の効果（資格）	国際機関やＮＧＯなど国際性豊かな職種を希望する学生はもちろんのこと、国家公務員をはじめとする各種公務員の教養試験や教員資格取得および大学院・法科大学院進学にも役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	・イントロダクション ・国際法の基本構造	・授業計画の説明、参考文献紹介 ・国際社会と国内社会の構造上の違い、国際法の歴史的展開、現代国際法の特徴	シラバスの講義概要に目を通しておくこと。
2	国際法の基礎	国際法の存在形式、国家責任とその解除方法	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
3	国際法の法源	慣習国際法とは？　慣習法の成立要件	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
4	条約の締結手続と条約の無効・終了	条約とは？　条約の定義、分類、条約の締結手続、条約の無効・終了	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
5	条約の留保	留保についての論争。条約法条約、留保の効果	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
6	国際法主体（１）―国	国際法主体の構成要素、国家平等	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
7	国際法主体（２）―国際組織	国際組織の発展、国連とそのファミリー、国連の表決手続	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
8	国際法主体（３）―国際連合	国連の国際法上の機能、国連の法人格と権限、	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
9	国際法主体（４）―人	国際人権法の歴史、人権の法典化、さまざまな人権条約、人権条約の国際的実施	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
10	国際法主体（５）―外国人	国籍、外国人の出入国、外交的保護	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各１時間
11	国際環境法	国際環境法の歴史、国際環境規制の特徴、環境に関する国際法の諸原則	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各１時間
12	地球温暖化と国際法	地球温暖化防止への国際社会の取組み、気候変動枠組条約、京都議定書、パリ協定	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各１時間
13	ロシアのウクライナ軍事侵攻と国際法（１）	武力不行使原則とその例外、自衛権	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各１時間
14	ロシアのウクライナ軍事侵攻と国際法（２）	国連の集団安全保障、国際連盟との比較、国連のロシアに対する対応	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各１時間
15	学期のまとめ	全体の総括	事前：これまでのレジュメの総点検を行っておく。 2 時間

関連科目	国際組織法、国際人権法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ビジュアルテキスト国際法〔第２版〕	加藤信行ほか編	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法	中間レポート（50%）及び期末試験（50%）の合計により評価する。

（基準）	
学生へのメッセージ	国際法は国内法とはその構造を相当に異にするので、戸惑うことも多いかと思いますが、毎回の授業を理解しようと努力すれば、きっと皆さんも国際法の面白さに気が付くはずです。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　鳥谷部研究室
備考	

科目名	国際法の基礎理論	科目名（英文）	Introduction to International Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	鳥谷部　壌
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2059a0		

授業概要・目的	この科目は、グローバル時代にあって益々その重要性を増している国際法について、各論の知識を体系的に整理して身につけることを目的とします。国際法は、国内法とは相当に異なる基本構造をもっているので、新たな気持ちで授業に臨んでもらえればと思います。
到達目標	この授業を通じて学生には、 （1）国際法の各論分野の性質や特徴について、第三者に分かりやすく説明できる、 （2）国際法に関連する、教職関係の試験問題や、各種資格試験で出題される問題に解答する手がかりを得ることができる、 （3）国際法に関するニュースに触れたときに、その内容を専門的な視点から理解し、第三者に分かりやすく説明できる、 ようになることが期待される。
授業方法と留意点	この授業は、毎回、レジュメを配布して実施する。
科目学習の効果（資格）	国際機関やＮＧＯなど国際性豊かな職種を希望する学生はもちろんのこと、国家公務員をはじめとする各種公務員の教養試験や教員資格取得および大学院・法科大学院進学にも役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション 国際法の基本構造	・授業計画の説明、参考文献紹介 ・国際社会と国内社会の構造上の違い、国際法の歴史的展開、現代国際法の特徴	シラバスの講義概要に目を通しておくこと。
2	国際社会で守るルール	国際法の法的拘束力、国際法の存在形式、国際法の効力、国際法上の責任	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
3	国家の誕生と消滅 国家管轄権	国とは何か、国の始まりと終わり、国家管轄権、国家免除	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
4	外交・領事関係法	外交関係と領事関係、外交特権免除と領事特権免除、その他の国家機関の特権免除	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
5	領土問題	国の領域と領域主権、領域権原と領土紛争、日本の領土問題	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
6	・特殊地域 ・宇宙	・国際河川と国際運河、南極と北極 ・宇宙条約と宇宙関連４条約	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
7	海洋法（１）	海洋法の歴史と海洋の区分、内水・領海と接続水域、国際海峡と群島水域、排他的経済水域と大陸棚	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
8	海洋法（２）	公海の秩序と公海漁業、海域の境界画定、深海底とその資源	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
9	国際犯罪	国際犯罪の概念、国による処罰、国際的な刑事裁判所、犯罪人の引渡し	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
10	紛争の平和的解決（１）	国際裁判、国際裁判以外の紛争解決	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと。 事後：レジュメの内容を確認。 各１時間
11	紛争の平和的解決（２）	国際司法裁判所の制度と手続、国連海洋法条約上の紛争解決制度	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと。 事後：レジュメの内容を確認。 各１時間
12	安全保障（１）	戦争・武力行使の違法化、武力不行使原則とその例外、自衛権、集団安全保障	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと。 事後：レジュメの内容を確認。 各１時間
13	安全保障（２）	国連平和維持活動 PKO	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと。 事後：レジュメの内容を確認。 各１時間
14	武力紛争法・軍縮法	敵対行為の規制と犠牲者の保護、大量破壊兵器、通常兵器	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと。 事後：レジュメの内容を確認。 各１時間
15	学期のまとめ	全体の総括	事前：これまでのレジュメの総点検を行っておく。 ２時間

関連科目	国際法Ｉ（総論）、国際組織法、国際人権法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『ビジュアルテキスト国際法〔第２版〕』	加藤信行ほか編	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法	中間レポート（50%）と、期末試験（50%）の合計により評価する。

（基準）	
学生へのメッセージ	国際法は国内法とはその構造を相当に異にするので、戸惑うことも多いかと思いますが、毎回の授業を理解しようと努力すれば、きっと皆さんも国際法の面白さに気が付くはずです。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　鳥谷部研究室
備考	

科目名	国際人権法	科目名（英文）	International Human Rights Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鳥谷部　壌
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2060a0		

授業概要・目的	この科目は、人権を国際的に保護するための国際法の制度について、人権諸条約を中心に学ぶ授業になります。本科目では、人権問題に国際社会がいかに対処しているのかについて、国際法の視点から基本的な知識を身につけることを目的とします。
到達目標	この授業を通じて学生には、 （1）国際人権諸条約の分類や特徴について、第三者に分かりやすく説明できる、 （2）国際人権法に関連する、教職関係の試験問題や、各種資格試験で出題される問題に解答する手がかりを得ることができる、 （3）国際人権法の観点から、日本の人権問題を指摘することができる、 ようになることが期待される。
授業方法と留意点	この授業では毎回レジュメを配布して行います。
科目学習の効果（資格）	国際機関やＮＧＯなど国際性豊かな職種を希望する学生はもちろんのこと、国家公務員をはじめとする各種公務員の教養試験や教員資格取得および大学院・法科大学院進学にも役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	・イントロダクション ・人権の国際的保障の展開	・授業計画、成績評価、参考図書等についての説明 ・国際人権保障の歴史、国際連合憲章の成立、国際人権章典	シラバスの講義概要に目を通しておくこと。
2	国際人権の中心理念	人間の尊厳と生命の尊重、平等・無差別原則と弱者の保護	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
3	国際人権規約	国際人権章典、国際人権規約の内容および実施措置	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
4	自由権規約	自由権規約の規定内容と実施措置、日本政府に対する総括所見	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
5	社会権規約	社会権規約の規定内容と実施措置、日本政府に対する総括所見	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
6	国連の人権活動	国連の人権活動の歴史、人権委員会の任務、人権理事会の創設と審査手続	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
7	難民条約体制	難民の定義、日本の難民認定制度とその問題点	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
8	・中間テストの実施とその解説 ・女性差別撤廃条約	ジェンダー・ギャップ指数、女性差別撤廃条約の規定内容とその実施制度	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
9	ヨーロッパの人権保障制度	ヨーロッパ人権条約の規定内容、ヨーロッパ人権裁判所	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
10	南北アメリカの人権保障制度	米州地域における人権保障の歴史、米州人権委員会の任務と役割、米州人権裁判所	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各１時間
11	アフリカの人権保障制度	・アフリカの人権保障の歩み、バンジュール憲章の内容、アフリカ人権裁判所	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各１時間
12	国際的な刑事裁判所	個人責任論の歴史的展開、個人の刑事責任対象犯罪、国際刑事裁判所	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各１時間
13	人種差別の禁止	人種差別撤廃条約の規定内容と実施措置	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各１時間
14	人権条約の国内裁判所における適用	人権条約の直接適用・間接適用	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各１時間
15	全体のまとめ	総復習	事前：これまでのレジュメの総点検を行っておく。 ２時間

関連科目	国際社会と法、国際法の基礎理論、国際組織法、日本国憲法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ブリッジブック国際人権法〔第２版〕	芹田健太郎ほか編	信山社
2			
3			

評価方法 （基準）	中間テスト（50%）と、期末レポート（50%）の合計により評価する。
学生への メッセージ	国際人権法は、国内の人権保障の現状を、グローバル・スタンダードに照らして再点検することにより、人権状況の改善を目指す学問です。グローバルな視点から捉えると、日本の人権状況はどのように映し出されるのでしょうか。一緒に考えてみましょう。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　鳥谷部研究室
備考	中間テストを実施した場合、その解説は、テストを実施した次の回で行う。

科目名	国際組織法	科目名（英文）	Law of International Organizations
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	鳥谷部　壌
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3061a0		

授業概要・目的	現代国際社会において、国際連合をはじめとする国際組織は、国家と並ぶ重要な地位を占めるようになっています。この科目では、そうした国際組織の設立および活動内容について、国際法の基礎知識を修得することを目的とします。
到達目標	この授業を通じて学生には、 （1）国際組織の活動を、国際法の理論や実践と結び付けて理解することができる、 （2）国際組織に関する時事ニュースについて、国際法の基礎知識を手がかりに読み解く素養を身につける、 （3）公務員試験や教職の試験に出題される国際組織に関する問題が解ける、 ようになることが期待されます。
授業方法と留意点	本科目は、基本的に毎回配布するレジュメに沿って授業を行います。
科目学習の効果（資格）	国際法の基礎知識の修得だけでなく、各種資格試験対策にも役立ちます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業計画の説明、参考文献紹介	
2	国際組織の歴史	国際組織の意義、国際組織の誕生の背景、現代の国際組織	事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各１時間
3	国際組織の概念	国際組織の分類、国際組織の組織化と国際組織の発展	事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各１時間
4	国際組織の機関と権限	主要機関と補助機関、司法機関	事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各１時間
5	国際組織の地位	国際組織の法主体性（法人格）	事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各１時間
6	国際組織の権限と責任	条約締結権、特権免除、施政権、国際請求の提起、国際裁判所における当事者能力	事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各１時間
7	国際組織と加盟国	加盟・代表権、国家・政府承認、権利停止・除名・脱退	事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各１時間
8	国際組織と NGO（民間団体）	・NGO の定義とその役割、国連経済社会理事会と NGO の協力関係、NGO の活動 ・中間テストの実施	事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各１時間
9	国際組織の意思決定	全会一致制、多数決制、加重表決制、拒否権、コンセンサス	事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各１時間
10	紛争処理	国家間紛争の処理、国際組織内の法的問題の処理、国際犯罪処罰のための司法機関	事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各１時間
11	国連と安全保障	集団安全保障	事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各１時間
12	平和維持活動（PKO）	伝統的 PKO、新しい形の PKO、PKO の活動形態	事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各１時間
13	軍備縮小および軍備管理に関する国際組織	軍縮の意義、軍縮条約、軍備管理条約	事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各１時間
14	国際連合と日本	戦後の日本と国連、国連加盟後の日本外交	事前：テキストを読んでおくこと 事後：レジュメの内容の復習 各１時間
15	学期のまとめ	全体の総括	これまでのすべてのレジメの復習と質問を準備しておくこと。 ２時間

関連科目	国際社会と法、国際法の基礎理論、国際人権法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	中間テスト（50%）と、期末レポート（50%）の合計により評価する。

学生へのメッセージ	皆さんが生活する上で、国家という存在を身近に感じる機会は少ないと思われます。まして、国際組織という存在はなおさら縁遠く感じることでしょう。しかし、新聞やニュースの国際面を見てみてください。頻繁に国際組織が登場しています。現代社会はグローバル化の時代です。世界には 100 を超える国際組織が活動しています。日本も多くの国際組織に加盟しています。国際組織の活動が私たちの生活に間接的に影響を及ぼす場合が少なくありません。国際組織の活動を通して、国際法のダイナミズムに触れてみましょう。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　鳥谷部研究室
備考	

科目名	政治学概論	科目名（英文）	Introduction to Politics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	和田　泰一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○		
科目ナンバリング	JDJ1062a0		

授業概要・目的	政治学の応用科目としては、行政学、政治思想、地方自治、国際関係などがあります。そうした応用科目を理解する前提として、政治学の基本的な知識・教養を修得している必要があります。また私たちが一市民・一有権者として正しい政治的選択を行うためには、政治の仕組みや歴史について基本的な知識・教養をあらかじめ知っておくことが必要不可欠です。 したがって政治学原論（Principles of Political Science）であるこの授業では、政治学の基本的な諸原理（Principles）にあたる内容を授業します。授業は、ABD（アクティブ・ブック・ダイアローグ）、グループワーク、プレゼンテーションなど反転授業で行いますので、事前学習が必要不可欠です。
到達目標	この授業を通じて学生の皆さんは、政治・政治学の基本的な知識・教養を獲得することができます。そうした知識・教養に基づいて、皆さんは行政学や政治思想、地方自治、国際関係といった応用的な政治学をより正確に学ぶことができます。 また ABD で知的能力を、グループワークで社会・対人関係力を、PBL のプレゼンテーションで自己制御能力・実践的能力を向上させることができます。
授業方法と留意点	反転授業で行います。教科書を買う余裕がない人、事前学習を行う余裕がない人は、受講を避けた方がよいでしょう。
科目学習の効果（資格）	公務員試験や法学基礎検定、就職活動において政治の知識・教養が一般常識として問われる場合がありますので、そうした点で役立つでしょう。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション―政治とは何か？	イントロダクションとして、本講義の内容と政治―国家の必要性について授業します。	事前学習：教科書を購入し、授業に積極的に参加するモチベーションを高める（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する（30 分）。
2	民主政治の起源①	教科書の第一章に基づき、民主制や自由主義について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第一章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
3	民主政治の起源②	教科書の第一章に基づき、民主制や自由主義について授業します。	事前学習：授業中に配布した課題を読み、インターネットや図書館などから知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
4	民主政治の変容①	教科書の第二章に基づき、現代の大規模デモクラシーや全体主義について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第二章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
5	民主政治の変容②	教科書の第二章に基づき、現代の大規模デモクラシーや全体主義について授業します。	事前学習：授業中に配布した課題を読み、インターネットや図書館などから知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
6	福祉と政治①	教科書の第三章に基づき、福祉国家や新自由主義について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第三章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
7	福祉と政治②	教科書の第三章に基づき、福祉国家や新自由主義について授業します。	事前学習：授業中に配布した課題を読み、インターネットや図書館などから知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
8	民主政治のさまざまな仕組み、議会と政党①	教科書の第四章と第六章に基づき、議院内閣制や国会、政党について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第四章・第六章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
9	民主政治のさまざまな仕組み、議会と政党②	教科書の第四章と第六章に基づき、議院内閣制や国会、政党について授業します。	事前学習：授業中に配布した課題を読み、インターネットや図書館などから知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
10	選挙①	教科書の第五章に基づき、選挙制度や投票行動について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第五章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
11	選挙②	教科書の第五章に基づき、選挙制度や投票行動について授業します。	事前学習：授業中に配布した課題を読み、インターネットや図書館などから知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
12	世論とマスメディア①	教科書の第八章に基づき、世論やマスメディアについて授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第八章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。

				事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
	13	世論とマスメディア②	教科書の第八章に基づき、世論やマスメディアについて授業します。	事前学習：授業中に配布した課題を読み、インターネットや図書館などから知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
	14	民主政治の現在①	教科書の第十一章に基づき、政治参加やジェンダーについて授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第十一章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
	15	民主政治の現在②	教科書の第十一章に基づき、政治参加やジェンダーについて授業します。	事前学習：授業中に配布した課題を読み、インターネットや図書館などから知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。

関連科目	中学・高校の公民、日本史など。大学の日本の政治など。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	政治学（第 2 版）	川出良枝・谷口将紀編	東京大学出版会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験（約 40%）、小テスト（約 20%）、授業でのプレゼンテーション（約 40%）で評価します。
学生へのメッセージ	新聞・TV・ネットなどマスメディアのニュースに日常的に触れるようにして、政治・政治学についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 11 号館 10 階　和田研究室
備考	

科目名	世界の政治と社会	科目名（英文）	Politics and Society of the World
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森　康一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1063a0		

授業概要・目的	この講義では、第二次世界大戦後から現在までの国際関係についてとりあげる。 前半では米ソを中心とする冷戦時代の国際政治を説明し、後半では冷戦後の国際関係と個別的な時事問題を考える。 歴史をふまえた上で、現在の国際政治を理解する土台を作ることを目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、第二次世界大戦後の国際政治の流れを理解し、現在の国際関係を考える基礎となる知識を身につけることが期待される。
授業方法と留意点	プリントと板書により講義形式で授業を進めます。自分のまとめノートを作るつもりで、よく講義を聞いて下さい。 また、小テストは Moodle より行うので、受講する学生は Moodle の当授業コース「【法】世界の政治（世界の政治と社会）　＜2023 年度後期 水曜２限法学部・１年生 担当：森康一＞」を検索の上、登録しておいて下さい。他学部開講の同名講義と間違えないように登録すること。 自己登録キー：1206
科目学習の効果（資格）	公務員試験や就職時に、日本と世界の関わりという点で国際情勢について問われる場面は多い。 この授業によって、現在の国際情勢を理解するうえで必要な知識を習得することができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義の目的と内容・成績評価について	講義の内容全体について	高校世界史の教科書などで、冷戦期の国際政治の流れについて一通り読んでおく（約２時間）
2	冷戦時代の国際関係（1）	ヤルタ体制および冷戦初期の国際政治について	冷戦初期の国際情勢について調べておく（約 30 分） レジュメ（第２回）を見直しておく（約１時間）
3	冷戦時代の国際関係（2）	第三世界の台頭、ヨーロッパ統合の理想と現実について	「アジア・アフリカ会議」、「非同盟諸国首脳会議」について調べておく（約 30 分） レジュメ（第３回）を見直しておく（約１時間）
4	冷戦時代の国際関係（3）	多極化とデタントについて	「キューバ危機」について調べておく（約 30 分） レジュメ（第４回）を見直しておく（約１時間）
5	冷戦時代の国際関係（4）	「新冷戦」と冷戦の終焉について	ゴルバチョフについて調べておく（約 30 分） レジュメ（第５回）を見直しておく（約１時間）
6	ポスト冷戦時代の世界秩序のゆくえ（1）	冷戦終結後の国際政治全般について	「文明の衝突」について調べておく（約 30 分） レジュメ（第６回）を見直しておく（約１時間）
7	ポスト冷戦時代の世界秩序のゆくえ（2）	ヨーロッパを中心とした冷戦終結後の国際政治について	ユーゴスラヴィアの成り立ちについて調べておく（約 30 分） レジュメ（第７回）を見直しておく（約１時間）
8	グローバルな問題群	核・食料・環境問題について	「核抑止」について調べておく（約 30 分） レジュメ（第８回）を見直しておく（約１時間）
9	同時テロと「イラク戦争」後の世界秩序	「9.11」以後の国際政治について	「9.11 テロ」について調べておく（約 30 分） レジュメ（第９回）を見直しておく（約１時間）
10	米ロの核軍縮	核問題をめぐる米ロ関係について	オバマ大統領の「プラハ演説（2009）」について調べておく（約 30 分） レジュメ（第 10 回）を見直しておく（約１時間）
11	米中関係のゆくえ	アメリカと中国の外交関係について	「ヴェトナム戦争」について調べておく（約 30 分） レジュメ（第 11 回）を見直しておく（約１時間）
12	中東問題のゆくえ	中東問題の経緯と「中東和平」の展望について	イスラエルの成り立ちについて調べておく（約 30 分） レジュメ（第 12 回）を見直しておく（約１時間）
13	緊迫する朝鮮半島情勢	韓国・北朝鮮をめぐる国際関係について	「朝鮮戦争」について調べておく（約 30 分） レジュメ（第 13 回）を見直しておく（約１時間）
14	日本の安全保障	現在の日本がかかえる国際問題について	日本の領土問題について調べておく（約 30 分） レジュメ（第 14 回）を見直しておく（約１時間）
15	まとめ	講義のまとめと試験について	講義全体を振り返り、期末試験の準備をする

関連科目	日本の政治、日本外交史、国際関係論、国際関係史

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際政治	藤原帰一	日本放送出版協会
2	国際政治学をつかむ	村田晃嗣・君塚直隆他	有斐閣
3	国際紛争	ジョゼフ・S・ナイ・ジュニア（田中明彦訳）	有斐閣

評価方法（基準）	・原則として 10 回以上出席（公欠以外の欠席が 5 回以内）の学生のみを成績評価の対象とします。 成績評価は ・平常点 20%：小テスト（第 6 回・第 11 回の授業日に Moodle から受験してもらいます。各回 10 点満点×2 回） ・期末試験 80%：論述式。5 問出題して、そのうち 2 問を選択してもらいます。40 点満点×2 問。 の合計点によって評価を行います。 期末試験において持ち込みは認めません。
学生へのメッセージ	日々ニュースや新聞にふれて、世界で起こっていることに関心を持ってください。そして、その出来事の原因や由来が何であるのか、常に問題意識を持つようにしてください。
担当者の研究室等	11 号館 5 階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）

備考	

科目名	近代日本政治史	科目名（英文）	Modern History of Japanese Politics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	和田　泰一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1064a0		

授業概要・目的	現代の日本の政治に参加するさい、今までの日本の政治の歴史や政策、また日本の政治が扱ってきた問題などを知っておくことは非常に有益です。なぜなら、それらに基づいて皆さんは自分をとりまく政治問題や政治情勢、望ましい政策や選択肢について考え、意思決定することができるからです。 この授業では、有権者である学生の皆さんに日本の政治の歴史についての基本的な知識を与えることが目的です。近代日本政治史ということで明治以降の日本の政治史が対象になりますが、より皆さんの生活に関係が深い戦後の日本政治史を中心に授業していきます。
到達目標	この授業を通じて学生の皆さんは、日本の政治の仕組み・歴史について基本的な知識・教養を獲得することが期待されます。またそうした知識・教養に基づき、実際の政治活動において①正しい政治的配分や法とは何かを思考することができ、②支持すべきより正しい政治的アクターや政策・法を判断することができ、③投票など政治活動を通じて自分の政治的意見を正しく表現することができることが期待されます。
授業方法と留意点	レジュメや資料を配布しながら、講義形式で行います。また必要に応じて映像資料を見せる場合もあります。アクティブラーニングの一環として、リアクションペーパーにある政治問題について自問自答・議論した上で自分の意見を論理的に書いてもらったり、小テストに答えてもらったりすることもあります。
科目学習の効果（資格）	公務員試験や就職活動において、日本政治史の知識・教養が一般常識として問われる場合があります。また一主権者として実際に政治活動するときには、そうした知識・教養について知っておく必要があります。そうした状況に上手く対応するために、日本の政治史について正しい知識・教養を獲得し、個々の具体的な政策・法のメリット・デメリットを正しく判断し、最終的に自分の意見を政治活動を通じて正しく表現することができます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション～「近代」とは何か？	イントロダクションとして、講義の内容と「近代(modern)」とは何を意味するのかについて授業します。	事前学習：今まで勉強してきた歴史の教科書などを再読し、授業に積極的に参加するモチベーションを高める（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
2	戦前日本の政治史①～明治･大正の政党の活動と大日本帝国憲法	政党史を中心に大正デモクラシーまでの政治史を概観し、大日本帝国憲法の政治的な重要箇所について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第二回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
3	戦前日本の政治史②～軍部の台頭	映像資料を見ながら、日本が日中戦争・太平洋戦争へと向かっていった原因の一つである軍部を考えます。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第三回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
4	戦前日本の政治史③～満州国の設立	映像資料を見ながら、なぜ日本がワシントン体制から脱して満州国設立へと向かって行ってしまったのかを考えます。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第四回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
5	戦後日本の政治史①～GHQによる日本の初期占領政策	GHQの日本占領政策と連立政権について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第五回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
6	戦後日本の政治史②～インフレ対策と逆コース	冷戦の激化にともない、GHQの日本占領政策が転換していった過程について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第六回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
7	戦後日本の政治史③～日本の独立と吉田茂の退場	サンフランシスコ平和条約締結周辺の経過と吉田保守本流の外交方針について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第七回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
8	戦後日本の政治史④～新日米安保条約と安保闘争	岸内閣を中心に、新日米安保条約の改定が望まれた理由や安保闘争の経過について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第八回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
9	戦後日本の政治史⑤～沖縄返還問題と非核三原則	佐藤内閣を中心に、当時の沖縄返還をめぐる諸問題について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第九回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
10	戦後日本の政治史⑥～派閥の強化と田中派の隆盛	自民党の派閥政治の特徴と田中派が勢力を拡大していく過程について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第十回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
11	戦後日本の政治史⑦～田中派から竹下派への禅譲	田中派から竹下派へと自民党の権力が移行していった80年代の自民党政治について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第十一回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
12	戦後日本の政治史⑧～政治	55年体制が崩壊し、細川連立内閣が成	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第十

		改革と 55 年体制の崩壊	立した 90 年代の政治史を授業します。	二回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
	13	戦後日本の政治史⑨～小泉内閣から民主党内閣へ	小泉内閣の外交や郵政民営化法案を中心に授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第十三回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
	14	戦後日本の政治史⑩～安倍内閣の諸政策	国家の自衛権とは何かを解説しながら、安倍内閣における集団的自衛権の行使の閣議決定の内容について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第十四回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
	15	まとめ	講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度解説します。	事前学習：来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめておく（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。試験に向けて教科書やノート、レジュメを読み直す（時間の許す限り）。

関連科目	中学・高校の日本史、世界史など。大学の日本の政治、政治学原論など。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	近代日本政治史	坂野潤治	岩波書店
2	現代日本政治史	廣澤孝之	晃洋書房
3			

評価方法（基準）	定期試験（70%）と小テスト（30%）で評価します。
学生へのメッセージ	新聞・TV・ネットなどマスメディアのニュースに日常的に触れるようにして、現代の日本の政治についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 11 号館 10 階　和田研究室
備考	

科目名	日本外交史	科目名（英文）	Japan Diplomatic History
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森　康一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2065a0		

授業概要・目的	開国から現代までの日本の外交史を講義する。明治維新、日清・日露戦争、第一次世界大戦、満州事変、日中戦争、第二次世界大戦、そして戦後という激動の歴史を理解することで、今後日本がとるべき方向を考える土台を培ってほしい。
到達目標	この授業を通じて学生には、明治以降の日本が歩んで来た政治・外交史を理解することにより、社会人として世に出た時に、日本の近現代史を常識として語ることのできる能力を持つことが期待される。
授業方法と留意点	プリントと板書により講義形式で授業を進めます。自分のまとめノートを作るつもりで、よく講義を聞いて下さい。 また、小テストはMoodleより行うので、受講する学生はMoodleの当授業コース「日本外交史　＜2023年度前期 金曜3限J・2 担当：森康一＞」を検索の上、登録しておいて下さい。 自己登録キー：1206
科目学習の効果（資格）	公務員試験や就職において、日本の政治・外交史が一般教養として問われる。 この授業によって、上記に際して必要な、また現代や将来の日本を考える上で必須となる歴史的な知識を得ることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義について	講義の内容全体について	幕末から現代までの日本史を、高校の教科書等であらかじめ読み直しておく
2	開国	江戸時代の末期、欧米諸国に開国を迫られた状況について	幕末の条約について調べておく（約30分） レジュメ（第2回）を見直しておく（約1時間）
3	明治維新	明治維新期の対外関係について	明治初期の諸条約について調べておく（約30分） レジュメ（第3回）を見直しておく（約1時間）
4	領土問題・条約改正問題	諸外国との領土確定交渉と条約改正の試みについて	条約改正の過程について調べておく（約30分） レジュメ（第4回）を見直しておく（約1時間）
5	大陸問題	征韓論と日朝関係について	明治六年の政変について調べておく（約30分） レジュメ（第5回）を見直しておく（約1時間）
6	日清戦争と日露戦争	日本と清、ロシアをめぐる外交関係について	日清・日露戦争の講和条約について調べておく（約30分） レジュメ（第6回）を見直しておく（約1時間）
7	第一次世界大戦前後の国際情勢と日本の対外政策	第一次世界大戦前後の外交、幣原外交について	第一次世界大戦前の国際情勢について調べておく（約30分） レジュメ（第7回）を見直しておく（約1時間）
8	満州事変	田中外交と満州事変をめぐる国際連盟の対応について	満州事変のきっかけについて調べておく（約30分） レジュメ（第8回）を見直しておく（約1時間）
9	日中戦争の始まり	日中戦争期の対外関係について	第一次近衛内閣について調べておく（約30分） レジュメ（第9回）を見直しておく（約1時間）
10	太平洋戦争への道	アメリカと敵対していく外交関係について	ハル・ノートについて調べておく（約30分） レジュメ（第10回）を見直しておく（約1時間）
11	第二次世界大戦	第二次世界大戦期の日本をとりまく国際関係について	連合国首脳の国際会議について調べておく（約30分） レジュメ（第11回）を見直しておく（約1時間）
12	第二次世界大戦後の国際社会と日本	大戦終結直後の国際関係について	冷戦初期の国際情勢について調べておく（約30分） レジュメ（第12回）を見直しておく（約1時間）
13	サンフランシスコ体制下の日本外交	日本の独立回復後の外交について	ソ連や韓国との国交回復・樹立について調べておく（約30分） レジュメ（第13回）を見直しておく（約1時間）
14	高度経済成長期以後の日本の政治と外交	最近の日本の外交について	中華人民共和国との国交樹立について調べておく（約30分） レジュメ（第14回）を見直しておく（約1時間）
15	まとめ	講義のまとめと試験について	レジュメ・ノートを整理し、試験に向けての準備をする（約4時間）

関連科目	世界の政治、日本の政治、国際関係史

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	日本外交史講義	井上寿一	岩波書店
2	日本外交史概説	池井優	慶應義塾大学出版会
3			

評価方法（基準）	・原則として10回以上出席（公欠以外の欠席が5回以下）の学生のみを成績評価の対象とします。 成績評価は 〇平常点 20%：小テスト×2回（第6回・第11回の授業日にMoodleから実施。当該日の任意の時間に受験可能。各回10点満点） 〇期末試験 80%：論述式。5問出題し、そのうち2問を選択してもらいます。各問40点満点。 の合計点によって評価を行います。 期末試験において持ち込みは認めません。
学生へのメッセージ	日々ニュースや新聞にふれて、日本や世界で起こっていることに関心を持ってください。そして、その出来事の原因や由来が何であるのか、常に問題意識を持つようにしてください。
担当者の	11号館5階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）

研究室等	
備考	

科目名	西洋政治思想史	科目名（英文）	History of Western Political Thought
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	和田　泰一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2066a0		

授業概要・目的	皆さんが憲法や法律、政治家の演説を見聞きするとき、自由・平等・正義といったさまざまな政治的概念が現れると思います。それらは空虚で意味のない言葉ではなく、古代ギリシアにおいてプラトン・アリストテレスといった政治思想家たちが発明し、それが意味する内容がさまざまに変化しつつ、ようやく現在のかたちにまで固まった言葉です。 この授業は、政治思想家たちの著作や思想を紹介しつつ、「普段なにげなく使われている基本的な政治的概念にこんな意味があったのか」、と知ってもらうべく解説するのが大きな目的です。政治的概念の深い意味に気づいてもらうことによって、皆さんが政治参加するさいに必要不可欠な論理的思考力・判断力・表現力が育成されることになります。
到達目標	この授業を通じて学生の皆さんは、西洋政治思想の概念・歴史について基本的な知識・教養を獲得することが期待されます。またそうした知識・教養に基づき、実際の政治活動において①正しい政治的配分や法とは何かを思考することができ、②支持すべきより正しい政治的アクターや政策・法を判断することができ、③投票など政治活動を通じて自分の政治的意見を正しく表現することができることが期待されます。
授業方法と留意点	レジュメや資料を配布しながら、講義形式で行います。また必要に応じて映像資料を見せる場合もあります。アクティブラーニングの一環として、リアクションペーパーにある政治問題について自問自答・議論した上で自分の意見を論理的に書いてもらったり、小テストに答えてもらったりすることもあります。また文章の読解能力・作成能力を高めるため、政治思想に関する文献を読み、レポートを提出してもらうこともあります。
科目学習の効果（資格）	公務員試験や就職活動において、西洋政治思想史の知識・教養が一般常識として問われる場合があります。また一主権者として実際に政治活動するときには、そうした知識・教養について知っておく必要があります。そうした状況に上手く対応するために、日本の政治について正しい知識・教養を獲得し、個々の具体的な政策・法のメリット・デメリットを正しく判断し、最終的に自分の意見を政治活動を通じて正しく表現することができます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション～古代から近代の政治思想家たち	イントロダクションとして、講義の内容と古代と近代の治思想家たちの概略について授業します。	事前学習：政治思想について文献を収集し、授業に積極的に参加するモチベーションを高める(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、内容を理解する（30分）。
2	プラトン	『国家』を中心に、正義の概念について考えます。	事前学習：プラトンについて文献を収集し、調べておく（60分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
3	アリストテレス	『二コマコス倫理学』『政治学』を中心に、幸福や正義の概念について、またポリスの階層秩序について考えます。	事前学習：アリストテレスについて文献を収集し、調べておく（60分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
4	キケロー	『義務について』を中心に、古代ローマの共和主義について考えます。	事前学習：キケロ―と古代ローマの歴史について文献を収集し、調べておく（60分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
5	マキャベリ	『君主論』を中心に、古代政治学との対立や国家理性について考えます。	事前学習：参考書の該当箇所（第一章）を読む（60分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
6	ホッブズ	『リヴァイアサン』を中心に、社会契約や主権者について考えます。	事前学習：参考書の該当箇所（第二章）を読む（60分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
7	ロック	『統治二論』を中心に、社会契約や所有権、立法権について考えます。	事前学習：参考書の該当箇所（第三章）を読む（60分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
8	ルソー	『社会契約論』を中心に、社会契約や自由、平等について考えます。	事前学習：参考書の該当箇所（第四章）を読む（60分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
9	カント	『啓蒙とは何か』『道徳形而上学原論』を中心に、啓蒙や意志について考えます。	事前学習：参考書の該当箇所（第六章）を読む（60分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
10	J・S・ミル	『自由論』を中心に、個性や自由について考えます。	事前学習：参考書の該当箇所（第八章）を読む（60分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
11	バーリン	『二つの自由概念』を中心に、積極的自由や消極的自由について考えます。	事前学習：参考書の該当箇所（第十章）を読む（60分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
12	ロールズ	『正議論』を中心に、自由や正義について考えます。	事前学習：参考書の該当箇所(第十一章)を読む(60分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
13	アーレント	『人間の条件』を中心に、全体主義や公的領域、活動について考えます。	事前学習：参考書の該当箇所（第九章）を読む（60分）。 事後学習授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
14	バトラー	『ジェンダー・トラブル』を中心に、フェミニズムの歴史や性差について考えます。	事前学習：バトラーについて文献を収集し、調べておく（60分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう

				一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
	15	まとめ	講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度授業します。	事前学習：来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめておく（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。試験に向けて教科書やノート、レジュメを読み直す（時間の許す限り）。

関連科目	中学・高校の公民、世界史など。大学の倫理学、哲学など。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	政治思想と啓蒙（2023 年春出版予定）	和田泰一・高山裕二編	ナカニシヤ出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	政治思想の知恵―マキャベリからサンデルまで―	仲正昌樹編	法律文化社
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験（40%）、レポート（40%）、小テスト（20%）で評価します。
学生へのメッセージ	授業中に紹介した著作を読むようにして、政治思想についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 11 号館 10 階　和田研究室
備考	

科目名	国際関係史	科目名（英文）	International History
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	河原　匡見
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2067a0		

授業概要・目的	本講義では、国際関係の歴史について、特に第２次世界大戦後“冷戦”と呼ばれた時代に焦点を当てて、それがどのように発生し、展開し、そして終結したのか、米ソ間の対立の経緯を中心に解説していく。そうして、ロシアによるウクライナ侵攻に象徴される激動する今日の世界の動きを把握するための歴史的背景を理解できるように、また現代の国際関係に対する関心と問題意識をより高められるような材料を提供したい。
到達目標	この授業を通じて学生には、現代世界の構造の歴史的な要因を、第２次世界大戦後の米ソ冷戦の展開から学び、現代世界の動きをより深く理解できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業は、対面式で実施する。毎回授業で、レジュメや資料などを配布するので、それを参考にしながら授業を聴講して理解を深めてもらう。また、必要に応じて板書を行うので、レジュメの余白などにメモ書きやノートをつけることをすすめる。
科目学習の効果（資格）	歴史（特に現代史）を見る眼と戦後の国際関係の展開に関する基礎知識の習得。また、最近の国際情勢の歴史的背景を知ることで、今後どのような展開が予想されるか、主体的に考える力を養う。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、イントロダクション	講義内容の説明（進め方、評価方法など）、講義開始前の認識度確認レポートの作成と提出	高校時代に世界史・政治経済・現代社会の科目を履修した人は、教科書の中で戦後の世界の動きを扱った箇所を読み直してみましょう。(事後学習２時間)
2	“冷戦”の概念	定義、起源や原因に関する諸説について解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習１時間)
3	戦後世界の起点	第２次世界大戦終盤の協力および戦後構想をめぐる動きについて解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習１時間)
4	米ソ対立の契機	東欧の共産化について解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習１時間)
5	米ソ対立の深化と拡大（１）/ 政治レベルの対立	米ソ間の対立が顕在化していく過程を、有力国の指導者の声明をたどりつつ解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習１時間)
6	米ソ対立の深化と拡大（２）/ 経済レベルの対立	マーシャル・プランからドイツの東西分裂にいたる過程およびアメリカの封じ込め理論の内容を解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習１時間)
7	米ソ対立の深化と拡大（３）/ 軍事レベルの対立	経済的対立が軍事的対立へと深化し、東西対立が固定化される過程を解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習１時間)
8	米ソ対立の深化と拡大（４）/ アジアの“熱戦”〈前編〉	朝鮮戦争について解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習１時間)
9	米ソ対立の深化と拡大（５）/ アジアの“熱戦”〈後編〉	前回に引き続き、朝鮮戦争について解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習１時間)
10	“雪解け”とその影響	ソ連の指導者の死去とそれが与えた国際的影響を解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習１時間)
11	ソ連の対西側積極攻勢とその影響	第２次ベルリン危機およびキューバ危機を中心に解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習１時間)
12	（第１次）冷戦の特徴および緊張緩和の時代	第１次冷戦の構造的特質の説明、および緊張緩和が到来した原因とその影響について解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習１時間)
13	新（第２次）冷戦	ソ連の核戦略の積極化とアメリカの対抗措置、それらに対する世界的な反核運動の展開、そしてソ連の指導者の交代と方針転換について解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習１時間)
14	冷戦構造の崩壊	ソ連の変革と東欧の民主化、そして東側陣営の崩壊について解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習１時間)
15	総括	講義のまとめ・講義終了時の認識度確認レポートの作成と提出・期末試験の説明	全 15 回にわたって配布したレジュメと資料を読み直してください。(事後学習８時間)

関連科目	政治学および国際関係に関連する科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義内で提出を求めるレポートなどの課題に対する評価（30%）および期末試験に対する評価（70%）の合計点によってこの科目全体の評価とする。
学生へのメッセージ	現在の国際社会の状況を理解する上で、必要不可欠の内容です。国際関係論の講義と合わせて受講するとより理解が深まると思います。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　河原教授室
備考	課題については、講義の中で解説を行う。また、質問者に対しては、メールおよび SH の時間に対応する。 19 年度　合格率 78%　（不受験率 4%）　A0%　B8%　C20%　D50%　平均 65 点　74 人登録

科目名	国際関係論	科目名（英文）	International Relations
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	河原　匡見
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2068a0		

授業概要・目的	『国際関係論』という学問について、その基本的な考え方を習得し、激動する現代の国際関係（世界の動き）に対する理解力の向上を，本講の目的とする。講義内容は、国際関係の基礎概念の説明から始め、アクターがどのように行動するのか、現実主義的アプローチに基づいてその行動態様を中心に解説していく。そうして、現実の国際関係がどのような構造で、何がどのような目的で活動しているのか、把握し理解できるよう《国際関係を見る眼》を養うような講義にしたい。
到達目標	この授業を通じて学生には、国際関係がどのように展開していくのか、その基本的なポイントについて理解できるようになるとともに、それらを踏まえて国際社会で生起しているさまざまな動きを観察できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業は、対面式で実施する。毎回授業で、レジュメや資料などを配布するので、それを参考にしながら授業を聴講して理解を深めてもらう。また、必要に応じて板書を行うので、レジュメの余白などにメモ書きやノートをつけることをすすめる。
科目学習の効果（資格）	国際関係を規定する要因などを学ぶことで、国際社会の動きを表面的だけでなくその本質を見抜く'眼'を養う。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、イントロダクション	講義内容の説明（進め方、評価方法など）、講義開始前の認識度確認レポートの作成と提出。	時事問題、特に国際関係の報道に目を向ける習慣をつけましょう。（事後学習１時間）
2	国際関係論とはどのような学問か	定義、研究方法などについての解説	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習２時間）
3	国際関係における主要な行動主体〈アクター〉（１）	行動主体〈アクター〉とは？　国際関係の行動主体としての"国家"についての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習１時間）
4	国際関係における主要な行動主体〈アクター〉（２）	国家以外の主要な行動主体〈アクター〉についての説明（１）	配布したレジュメと資料で復習してください。（事後学習１時間）
5	国際関係における主要な行動主体〈アクター〉（３）	国家以外の主要な行動主体〈アクター〉についての説明（２）	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習１時間）
6	行動主体の行動原理	"国益"と行動目標についての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習１時間）
7	行動主体の力の行使に関する概説（１）	国力とは何か？その内容についての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習１時間）
8	行動主体の力の行使に関する概説（２）	力の行使の一般論および軍事的手段についての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習１時間）
9	行動主体の力の行使に関する概説（３）	経済的手段についての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習１時間）
10	行動主体の力の行使に関する概説（４）	宣伝的手段および文化的手段についての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習１時間）
11	行動主体の力の行使に関する詳説（１）　経済制裁（前編）	経済制裁の種類、歴史的発展プロセスについての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習１時間）
12	行動主体の力の行使に関する詳説（２）　経済制裁（後編）	経済制裁の効果を左右する要因についての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習２時間）
13	行動主体の力の行使に関する詳説（３）　外交・外交交渉（前編）	外交の語義や形態の歴史についての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習１時間）
14	行動主体の力の行使に関する詳説（４）　外交・外交交渉（後編）	外交交渉についての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習１時間）
15	総括	講義のまとめ・講義終了時の認識度確認レポートの作成と提出・期末試験の説明	全 15 回の講義で配布したレジュメと資料を読み直してください。（事後学習８時間）

関連科目	政治・国際関係に関連する科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義内で提出を求めるレポートなどの課題に対する評価（30%）および期末試験に対する評価（70%）の合計点によってこの科目全体の評価とする。
学生へのメッセージ	現代において、国際関係の動向が私たちの日常生活と密接に関連しています。それゆえ、複雑な国際情勢を的確に把握し読み解く能力が求められ、この科目の履修の必要性が高まっています。国際社会では、事前に予測困難なことが相次いで起きていますが、だからこそ、国際関係を見る眼をしっかり養いましょう。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　河原教授室
備考	１９年度　合格率 97%　（不受験率 5%）　A0%　B0%　C17%　D80%　平均 63 点　60 人登録

科目名	グローバル社会論	科目名（英文）	Global Society
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	河原　匡見
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3069a0		

授業概要・目的	いま国際社会において“グローバル化”が急速に進んでいる。その結果、さまざまな領域における世界的規模での相互依存の深化と競争の激化という現象が同時に進行している。そして、経済や文化などの領域での画一化が進む一方で地球規模の問題が起きており、「世界の一体化」を進展させているようにもみえるし、より「対立の深刻化」を引き起こしているようにもみえる。本講義では、現代の国際社会の変容を読み解く上で重要な“グローバル化”という現象の内容やそれがもたらす問題をさまざまな視点から解説していく。
到達目標	この授業を通じて学生には、グローバル化を迎えた現代世界の構造の政治経済的な要因を、欧米列強の植民地活動の歴史や南北問題の経緯から学ぶとともに、近年特に問題視されている人の移動の激化や、そのほかのグローバル化の具体的な現状を統計資料などによって学び、現代世界をより一層深く理解できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業は、対面式で実施する。毎回授業で、レジュメや資料などを配布するので、それを参考にしながら授業を聴講して理解を深めてもらう。また、必要に応じて板書を行うので、レジュメの余白などにメモ書きやノートをつけることをすすめる。
科目学習の効果（資格）	国際社会の現況およびその背景的要因を知ることで、世界の動きをみる“眼”を養うとともに、問題解決への意識を育む。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、イントロダクション	講義内容の説明（進め方、評価方法など）、講義開始前の認識度確認レポートの作成と提出	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。（事後学習１時間）
2	“グローバル化”とは	基礎的な概念の説明	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習１時間）
3	グローバル化の経緯（１）	グローバル化を進めた“基層”の形成過程の説明（１）	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習１時間）
4	グローバル化の経緯（２）	グローバル化を進めた“基層”の形成過程の説明（２）	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習１時間）
5	グローバル化の経緯（３）	列強による植民地政策の展開とグローバル化の推進（１）	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料で復習してください。（事後学習１時間）
6	グローバル化の経緯（４）	列強による植民地政策の展開とグローバル化の推進（２）	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習１時間）
7	戦後のグローバル化の展開（１）	国際分業の拡大・相互依存の浸透	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習１時間）
8	戦後のグローバル化の展開（２）	南北問題の顕在化と深刻化	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習１時間）
9	戦後のグローバル化の展開（３）	新自由主義の浸透とそれへの反発	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習１時間）
10	人のグローバル化（１）	第二次世界大戦までの人の移動の歴史を概観する	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習２時間）
11	人のグローバル化（２）	第 2 次世界大戦後の人の移動の歴史を概説する	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料で復習してください。（事後学習２時間）
12	人のグローバル化（３）	深刻化する現代の移民・難民問題を概観する	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習２時間）
13	データでみるグローバル化の現状（１）	各種データによる解説	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習１時間）
14	データでみるグローバル化の現状（２）	各種データによる解説	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習１時間）
15	総括	講義のまとめ・講義終了時の認識度確認レポートの作成と提出・期末試験の説明	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、全１５回にわたって配布したレジュメと資料を読み直してください。（事後学習８時間）

関連科目	政治・国際関係に関連する科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	講義内で提出を求めるレポートなどの課題に対する評価（30%）および期末試験に対する評価（70%）の合計点によってこの科目全体の評価とする。
学生への メッセージ	ニュース報道を見る、新聞を読むなどを心がけて、私たちの住む世界の重要な動きに、ぜひ関心をもってほしいと思います。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　河原教授室
備考	20 年度　合格率 97.1%　（不受験率 2.9%）　A47.1%　B38.2%　C8.8%　D2.9%　平均 86 点　34 人登録

科目名	日本政治論	科目名（英文）	The Lectures on Japanese Politics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中沼　丈晃
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1070a0		

授業概要・目的	この講義では、いまの政治・政策の大きな課題を取り上げ、テレビのニュース番組を関心を持って見られるようになることを目的とする。選挙で投票するにあたって、政治家や政党の訴えに対して自分の意見が持てるようになってほしいと考える。
到達目標	この講義を通じて学生には、週１～２回でもテレビのニュース番組を見て、「この問題、いまそうなっているのか」と思えるよう、前提となる知識を身につけることが期待される。そして、その問題について自分の意見を持てるようにする。
授業方法と留意点	ひとつの時事のテーマを講義２回で扱う。時事を扱うため、夏までの情勢を見たあとに授業計画を確定する。講義では、簡単なレジュメを配布し、ニュース映像や新聞記事を多用する。毎回、知識の確認や自分の意見を書く課題（オンラインフォーム）を課す。受講者とのやりとりを心がける。
科目学習の効果（資格）	公務員試験では、教養科目でも社会科学や政治の時事の知識が問われる。民間企業の採用試験でも、一般常識として、政治の仕組みの基礎や時事が問われる。職業社会人と会話をするうえで、政治や政策の話題についていく最低限の知識は不可欠である。この講義では、こういった知識や常識を身につける出発点を提供したい。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	いまの政治・政策の大きな課題に目をとおしてみる。	講義で扱う時事について、学生とやりとりをしながら、いまの政治・政策の大きな課題の概要を確認する。	講義で勧めるニュース番組を通して見てみる（約１時間）。
2	日本の内閣はなぜ長続きしなかった？（１）	第二次安倍内閣以前、内閣が約１年しかもたなかった理由を探る。衆議院と参議院の「ねじれ」現象、内閣支持率の動き、無党派層の性格を解説する。	配布した新聞記事を読む。なぜ短命内閣となっていたのか自分の意見を整理して書く（約１時間）。
3	日本の内閣はなぜ長続きしなかった？（２）	第二次安倍内閣以前、内閣が約１年しかもたなかった理由を探る。衆議院と参議院の「ねじれ」現象、内閣支持率の動き、無党派層の性格を解説する。	配布した新聞記事を読む。なぜ短命内閣となっていたのか自分の意見を整理して書く（約１時間）。
4	安保法制、どう考える？（１）	2015 年、議論が紛糾した安保法制に考えるにあたって、自衛隊の創設から冷戦以降の自衛隊の役割の拡大の歴史を説明し、国際政治の文脈を意識してもらう。	配布した新聞記事を読む。自衛隊の役割の拡大に関する自分の意見を整理して書く（約１時間）。
5	安保法制、どう考える？（２）	2015 年、議論が紛糾した安保法制に考えるにあたって、自衛隊の創設から冷戦以降の自衛隊の役割の拡大の歴史を説明し、国際政治の文脈を意識してもらう。	配布した新聞記事を読む。自衛隊の役割の拡大に関する自分の意見を整理して書く（約１時間）。
6	消費税を上げるのに賛成？（１）	2019 年 10 月に 10%へ増税された消費税を扱う。日本の借金残高や、借金が増えてきた経緯を説明し、消費税導入と増税の背景を理解してもらう。	配布した新聞記事を読む。消費税増税に賛成するか、反対するか、自分の意見を整理して書く（約１時間）。
7	消費税を上げるのに賛成？（２）	2019 年 10 月に 10%へ増税された消費税を扱う。日本の借金残高や、借金が増えてきた経緯を説明し、消費税導入と増税の背景を理解してもらう。	配布した新聞記事を読む。消費税増税に賛成するか、反対するか、自分の意見を整理して書く（約１時間）。
8	尖閣諸島・竹島にこだわる？（１）	近年、日中間、日韓間で争いの種となっている領土問題を取り上げる。歴史の経緯を簡単に整理したうえで、国有化、大統領の上陸などをめぐって、どのような言い争いの構図になっているか説明する。	配布した新聞記事を読む。尖閣諸島・竹島問題に関する自分の意見を整理して書く（約１時間）。
9	尖閣諸島・竹島にこだわる？（２）	近年、日中間、日韓間で争いの種となっている領土問題を取り上げる。歴史の経緯を簡単に整理したうえで、国有化、大統領の上陸などをめぐって、どのような言い争いの構図になっているか説明する。	配布した新聞記事を読む。尖閣諸島・竹島問題に関する自分の意見を整理して書く（約１時間）。
10	日本は TPP のなかでいかに経済を持続的に発展させていくべきかと思う？（１）	原則、関税を撤廃する TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）をめぐる動向や議論を説明する。輸出国である日本にとってのメリット、食品の安全や小規模農業への影響の懸念など、TPP と生活の結びつきを理解してもらう。	配布した新聞記事を読む。日本が TPP に参加すべきかどうか、自分の意見を整理して書く（約１時間）。
11	日本は TPP のなかでいかに経済を持続的に発展させていくべきかと思う？（２）	原則、関税を撤廃する TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）をめぐる動向や議論を説明する。輸出国である日本にとってのメリット、食品の安全や小規模農業への影響の懸念など、TPP と生活の結びつきを理解してもらう。	配布した新聞記事を読む。日本が TPP に参加すべきかどうか、自分の意見を整理して書く（約１時間）。
12	原発存続に賛成する？反対する？（１）	特に東日本大震災後、存続・廃止をめぐって議論が行われている原発の問題を扱う。原発の仕組みやリスクを説明したうえで、日本における原発開発の背景と、原発をめぐる資金の流れの意味を考えてもらう。	配布した新聞記事を読む。原発を維持すべきか、廃止すべきか、自分の意見を整理して書く（約1時間）。
13	原発存続に賛成する？反対する？（２）	特に東日本大震災後、存続・廃止をめぐって議論が行われている原発の問題を扱う。原発の仕組みやリスクを説明した	配布した新聞記事を読む。原発を維持すべきか、廃止すべきか、自分の意見を整理して書く（約1時間）。

			うえで、日本における原発開発の背景と、原発をめぐる資金の流れの意味を考えてもらう。	
	14	大阪都構想をどう見る？（1）	地元大阪の政治動向を説明する。特に、既得権益の打破、有権者が決める政治を訴えて勢力を得た維新と、その主張の核となった大阪都構想について解説する。	配布した新聞記事を読む。大阪都構想に対する自分の意見を整理して書く（約1時間）。
	15	大阪都構想をどう見る？（2）	地元大阪の政治動向を説明する。特に、既得権益の打破、有権者が決める政治を訴えて勢力を得た維新と、その主張の核となった大阪都構想について解説する。	配布した新聞記事を読む。大阪都構想に対する自分の意見を整理して書く（約1時間）。

関連科目	「政治」「政策」「行政」「地方自治」と名のつく講義につながる基礎科目である。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	期末課題(70%)、講義毎回の課題(30%)の合計によって評価する。
学生へのメッセージ	どんな仕事に就いても、政治や政策の問題は避けられません。領土をめぐって中国や韓国との争いが厳しくなったり、国の借金が増え円高になり輸出に不利になったりすれば、よい製品も売れなくなります。加えて、電力の安定的な確保は、生活と仕事の最も基礎にある問題です。自分と家族を守るために、毎日の政治・政策のニュースに関心が持てるようになってほしいと考えて、講義をしていきます。
担当者の研究室等	11号館9階　中沼教授室
備考	講義毎回の課題正解の提示などはTeamsを通じて行う。 23年度より担当者交代。 21年度、「政治学概論」でほぼ同一内容で講義した 21年度　合格率83.5%　（不受験率0%）　A9.6%　B40.0%　C22.6%　D11.3%　平均76点　230人登録

科目名	政治過程論	科目名（英文）	Political Process
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	和田　泰一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2072a0		

授業概要・目的	人間が集団で生活している限り、法や条例、公共事業の影響を避けて生きることはできません。それらを決定するのが政治であり、18 歳になって選挙権を与えられた学生の皆さんはそうした政策決定過程のなかに組み込まれ、またその影響を受けながら日々の生活を送っています。 この授業では、有権者である学生の皆さんに、権力行使・選挙・政党・マスメディア・議会などさまざまな政策決定過程についての基本的な知識を与えることを大きな目的にしています。それによって皆さんは、政治参加するさいに必要不可欠な論理的思考力・判断力・表現力を身につけることができます。また時間があれば、学生の皆さんが最近のニュースを理解できるように、政治・社会に関わる時事問題についても紹介、解説することもあります。
到達目標	この授業を通じて学生の皆さんは、政治過程のアクターやシステムについて基本的な知識・教養を獲得することが期待されます。またそうした知識・教養に基づき、実際の政治活動において①正しい政治的配分や法とは何かを思考することができ、②支持すべきより正しい政治的アクターや政策・法を判断することができ、③投票など政治活動を通じて自分の政治的意見を正しく表現することができることが期待されます。
授業方法と留意点	レジュメや資料を配布しながら、講義形式で行います。また必要に応じて映像資料を見せる場合もあります。アクティブラーニングの一環として、リアクションペーパーにある政治問題について自問自答・議論した上で自分の意見を論理的に書いてもらったり、小テストに答えてもらったりすることもあります。
科目学習の効果（資格）	公務員試験や就職活動において、政治過程論の知識・教養が一般常識として問われる場合があります。また一主権者として実際に政治活動するときには、そうした知識・教養について知っておく必要があります。そうした状況に上手く対応するために、世界の政治について正しい知識・教養を獲得し、個々の具体的な政策・法のメリット・デメリットを正しく判断し、最終的に自分の意見を政治活動を通じて正しく表現することができます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション～政治過程とは何か？	イントロダクションとして、講義の内容と政治過程の現代的意義について授業します。	事前学習：政治・政治参加について文献を収集し、、授業に積極的に参加するモチベーションを高める（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）
2	権力の行使①～権力とは何か？	政策が決定されるプロセスで行使される権力について、身近な例を挙げて考えます。	事前学習：教科書の該当箇所（第一章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
3	権力の行使②～正当な権力とは何か？	マックス・ウェーバーの権力観を中心に、現代の国家で行使される権力の特徴について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第一章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
4	世論と政治文化	リップマンやガセットらの大衆社会論を参照しつつ、世論やポピュリズム、政治文化について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第四章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
5	投票行動	世論を形成する有権者の投票行動がどのように研究されてきたのかについて授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第五章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
6	現代のマスメディア	マスメディアの役割とさまざまな効果について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第五章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
7	政党と政党制	政党の機能と政党制の分類について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第八章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
8	選挙	衆議院と参議院の選挙制度、一票の格差、中選挙区制から小選挙区比例代表並立制への移行などについて授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第六章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
9	国会	国会の機能と役割について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第九章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
10	議院内閣制と大統領制	日本とアメリカの政治システムの違いについて授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第十二章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
11	内閣①～内閣のしくみ	日本の内閣制度について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第十二章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。

	12	内閣②～今世紀の行政改革	今世紀の内閣の権限強化について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第十二章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
	13	リーダーシップ	リーダシップの特徴とその機能、効果について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第十二章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
	14	官僚制	日本の官僚制の特徴について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第十章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
	15	まとめ	講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度解説します。	事前学習：来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめておく（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。テストに向けて教科書やノート、レジュメを読み直す（時間の許す限り）。

関連科目	中学・高校の公民など。大学の政治学原論、日本の政治など。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	政治過程論	伊藤光利・田中愛治・真淵勝	有斐閣アルマ
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	政治学	川出良枝・谷口将紀編	東京大学出版会
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験（70%）と小テスト（30%）で評価します。
学生へのメッセージ	新聞・TV・ネットなどマスメディアのニュースに日常的に触れるようにして、現代の政治についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 11 号館 10 階　和田研究室
備考	

科目名	公共政策の基礎	科目名（英文）	Public Policy
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	増田　知也
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2073a0		

授業概要・目的	公共政策とは、公共的な問題を解決するための方策と具体的手段の体系を意味する。社会の中には多種多様な問題が存在するが、その中でも社会が取り組むべきと考えられる公共的な問題に対応するのが公共政策である。この授業では、公共政策がなぜ必要とされるか、公共政策はどのようなプロセスで作られ、決定され、実施され、評価されるか、社会の中の様々な主体が公共政策においてどのような役割を果たしているか、公共政策をめぐる論点にはどのようなものがあるか、などの点について学ぶ。
到達目標	この授業を通じて学生には、公共政策に関する重要な概念や理論について説明することができ、社会における問題を発見・分析することができ、公共政策をめぐる主要な課題について自分の意見を述べることができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	毎回冒頭に、前回の小テストの解説と質問への応答を行う。 その後、穴埋め式のレジュメを配布し、スライドを提示しながら解説を行う。 授業後、オンラインで小テストを実施してもらう。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	公共政策とは何か	公共政策という言葉の意味と、公共政策学の特徴について学ぶ。	事前：参考書による予習（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
2	市場の失敗と政府の失敗	公共政策の必要性と、公共財について学ぶ。	事前：参考書による予習（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
3	政策過程	問題発見から政策実施、政策評価に至るプロセスについて学ぶ。	事前：参考書による予習（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
4	政策決定論	政策決定をめぐる理論について学ぶ。	事前：参考書による予習（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
5	政策実施論	政策の実施をめぐる理論について学ぶ。	事前：参考書による予習（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
6	政策評価論	政策評価をめぐる理論について学ぶ。	事前：参考書による予習（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
7	公共政策と政治	公共政策と政治の関係性について学ぶ。	事前：参考書による予習（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
8	公共政策と行政	公共政策と行政の関係性について学ぶ。	事前：参考書による予習（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
9	公共政策とマスメディア	公共政策においてマスメディアが果たす役割について学ぶ。	事前：参考書による予習（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
10	公共政策と NPO・NGO	公共政策において市民セクターが果たす役割について学ぶ。	事前：参考書による予習（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
11	公共政策と広報	パブリック・リレーションズ論について学ぶ。	事前：参考書による予習（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
12	熟議と参加	熟議民主主義論と市民参加について学ぶ。	事前：参考書による予習（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
13	環境政策	環境問題と解決のための政策について学ぶ。	事前：参考書による予習（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
14	福祉政策	福祉国家と福祉政策について学ぶ。	事前：参考書による予習（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
15	公共政策の展望	授業全体を振り返り、公共政策の今後のあり方を展望する。	事前：参考書による予習（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	入門・公共政策学	秋吉 貴雄	中央公論新社
2			
3			

評価方法（基準）	期末試験 50%、小テスト 50%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 10 階　増田講師室
備考	

科目名	行政学	科目名（英文）	Public Administration
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中沼　丈晃
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2074a0		

授業概要・目的	民主主義の国家の憲法は、議会が法律をつくると定めている。しかし現代においては、法律に反映されるべき政策は行政なくしては立案も決定もできない。しかも、行政府の官僚が大きな影響力を持っている。そこでこの講義では、まず議会と行政、政治家と官僚の関係を明らかにしたうえで、日本の行政組織のあり方を確認し、国の秩序の柱となる産業政策について日本の戦後政策の特徴を理解する。
到達目標	この授業を通じて学生には、民主主義の現代社会において、国民による選挙で選ばれた存在ではない官僚がどれくらい大きな力を持っているのか、逆に国民の世論が官僚の行動にどのように影響を与えているのか説明できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義の目的は具体的な事例を解釈することにある。それには(1)理論と知識を学び、(2)事例を理解し、(3)理論や知識で事例の意味を考えるという３段階が必要になる。
科目学習の効果（資格）	講義は大学にふさわしいものとするが、公務員試験で問われる知識に関しては注意を促すので、志望者は積極的に受講してほしい。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	映画『13 デイズ』に見る政治と行政(1)	キューバ危機をめぐるアメリカ政府の動きを見て、政策決定における政治家と官僚の関係を考える。	レジュメ p.1 を見直す 『13 デイズ』の視聴 （約 1.5 時間）
2	映画『13 デイズ』に見る政治と行政(2)	第１回の続き。	レジュメ p.2 を見直す 『13 デイズ』の視聴 （約 1.5 時間）
3	1930 年代アメリカの映像に見る政治と行政	アメリカのニューディール政策の光景を見て、政策決定における行政の役割が拡大・深化した理由を探る。	レジュメ p.3 を見直す （約１時間）
4	行政国家と政治行政融合論	現代国家が「行政国家」と呼ばれる理由と、行政国家の現実を説明する政治行政融合論を学ぶ。	レジュメ p.4-5 を見直す （約１時間）
5	ふたりの米大統領の言葉から考える政治と行政	ふたりの米大統領の対照的な言葉を読み、行政が素人仕事から政策の専門職になった背景を知る。	レジュメ p.6 を見直す （約１時間）
6	メリットシステムと政治行政二分論	専門家としての官僚を採用するメリットシステムと、その理論的根拠となった政治行政二分論を学ぶ。	レジュメ p.7 を見直す （約１時間）
7	行政組織を見る視点	行政組織を見る上で基本となる「ラインとスタッフ」「独任制と合議制」の区別をできるようにする。	レジュメ p.8 のを見直す （約１時間）
8	日本の中央行政機構(1)	内閣を中心とする日本の行政機構全体の組織を把握する。	レジュメ p.9-10 を見直す 行政組織法の整理 （約 1.5 時間）
9	日本の中央行政機構(2)	政治家たる大臣をトップとし、官僚がほとんどの職を占める各省の組織を把握する。	レジュメ p.11 を見直す 行政組織法の整理 （約 1.5 時間）
10	産業政策としての護送船団方式	産業育成を目的とした日本の省庁による「護送船団方式」と呼ばれる戦後の産業政策の構造を知る。	レジュメ p.12-13 を見直す （約１時間）
11	護送船団方式の実際と批判	医薬品販売や携帯電話メーカーの業界における護送船団方式の実際とそれへの批判を把握する。	レジュメ p.12-13 を見直す 新聞記事資料の確認 （約 1.5 時間）
12	護送船団方式以後の産業政策	英会話教室の業界を例に挙げて、近年の産業政策が消費者重視に移行しつつある背景を探る。	レジュメ p.13-14 を見直す 新聞記事資料の確認 （約 1.5 時間）
13	トラック運送業界に見る護送船団方式とその崩壊	「宅急便」が風穴をあけたトラック運送業界のケースを見てみる。	レジュメ p.14-15 を見直す 読物資料の確認 （約 1.5 時間）
14	業界との関係と行政組織の変化	業界との関係の基本方針によって行政組織のあり方がどう変化するのか知る。	レジュメ p.16 を見直す （約１時間）
15	金融庁設立に見る業界監督官庁の変化	金融業界を所管する省庁が大蔵省から金融監督庁を経て金融庁となった背景を見てみる。	レジュメ p.17 を見直す 新聞記事資料の確認 期末試験の対策 （約３時間）

関連科目	「公共政策の基礎」の発展科目である。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（毎回の課題の点数の累積、30%）と期末課題の点数（70%）の合計によって評価する。

学生への メッセージ	中身の濃い授業をコンパクトに進めます。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　中沼教授室
備考	講義毎回の課題正解の提示は Teams を通じて行う。 21 年度　合格率 93.4%　（不受験率 0%）　A32.4%　B 38.0%　C 18.8%　D 4.2%　平均 81 点　213 人登録

科目名	地方自治論	科目名（英文）	Local Self-Government
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	増田　知也
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3076a0		

授業概要・目的	授業の前半では、市町村合併を題材に地方自治の理念と制度の変遷を学ぶ。授業の後半では、自治体広報を題材に住民自治の実現に必要な要素を探る。「地方自治は民主主義の学校」と言われるように、地方自治は国全体の民主主義を支える基盤となるものである。この講義を通じて、単に知識を身につけるだけでなく、地方の政治や行政に関心を持ち、積極的に関わっていくきっかけとなることを期待する。
到達目標	この授業を通じて学生には、地方自治についての重要概念や理論について説明することができ、地方自治の主要な課題について住民自治の視点から分析することができ、地方自治の主要な課題について自分の意見を述べることができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	毎回冒頭に、前回の小テストの解説と質問への応答を行う。 その後、穴埋め式のレジュメを配布し、スライドを提示しながら解説を行う。 授業後、オンラインで小テストを実施する。
科目学習の効果（資格）	地方公務員を目指す受講生にとって、身につけておくべき知識を学ぶことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	地方自治の理念と制度	憲法における地方自治、地方自治法、補完性の原理について学ぶ。	事前：教科書第１章第１節を読む（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
2	日本の自治の歴史	古代から現代に至るまでの、自治の歴史を概観し、自治の意味を考える。	事前：教科書第１章第２節を読む（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
3	顧客主義か住民自治か	住民について「人口」、「行政サービスの受け手」、「自治を担う地域の主体」の３つの捉え方を比較する。	事前：教科書第１章第３節を読む（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
4	適正規模の理論	適正規模の捉え方や決定要因について検討する。	事前：教科書第２章を読む（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
5	スケールメリット論の検証	財政効率を主眼においた適正規模論の概要と問題点を考える。	事前：教科書第３章を読む（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
6	適正規模論への新視点	人口と歳出額の関係から、市町村合併による財政面での効果について検討する。	事前：教科書第４～6章を予習（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
7	迷惑施設問題と自治	迷惑施設問題を分析するための概念について学ぶ。	事前：事前に配布した文献を読む（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
8	住民運動と公共性	住民運動の意義と、対立が生じる原因について学ぶ。	事前：事前に配布した文献を読む（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
9	お知らせ広報と政策広報	お知らせ広報としての自治体広報の問題点と、改革の方向性について考える。	事前：事前に配布した文献を読む（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
10	住民自治の広報理論	住民自治の視点からの広報理論について学ぶ。	事前：事前に配布した文献を読む（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
11	広報・広聴と政治性	パブリック・リレーションズ概念を手がかりに、広報の類型化を行う。	事前：事前に配布した文献を読む（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
12	問題提起型広報の意義	問題提起型広報の事例を取り上げ、その特徴と実現への課題について学ぶ。	事前：事前に配布した文献を読む（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
13	問題提起型広報の効果	問題提起型広報が住民自治を促す効果について検討する。	事前：事前に配布した文献を読む（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
14	住民参加と協働	住民参加と協働の意義について学ぶ。	事前：事前に配布した文献を読む（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
15	住民自治の意義	全体を振り返りつつ、住民を主体とした地方自治について考察する。	事前:これまでのレジュメと小テストを復習する(4時間)

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	平成の大合併と財政効率	増田知也	金壽堂出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験 50%、小テスト 50%
学生へのメッセージ	地方政治・行政に関するニュースや、地元自治体の広報などに注目しながら学んでください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　増田講師室
備考	20 年度　合格率 97.3%　（不受験率 0%）　A3.6%　B38.2%　C37.3%　D18.2%　平均 75 点　110 人登録

科目名	地域防犯政策	科目名（英文）	Regional Security Policy
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	中沼　丈晃
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3077a0		

授業概要・目的	長い間、「犯罪を減らすのは警察の仕事」、「犯人を捕まえれば犯罪は減る」というのが当然と思われてきた。しかし、1990年代後半から犯罪の認知件数が急増すると、「市民を守るのは警察」、「検挙が最大の防犯」という考え方に対する疑問が出てきた。かわりに、「行政・警察・住民一体でまちを守る」、「犯罪が起きにくいまちづくりを」と言われるようになる。このように犯罪発生の問題をまちづくりの課題としてとらえ、犯罪抑止を目的として打ち出されてきた施策・事業の集まりを「地域防犯政策」と呼びたい。本講義では、地域防犯政策の展開を具体的な事例に照らして説明する。
到達目標	この講義を通じて、学生には次のことが期待される。①犯罪が増える背景には、ふつうはよいものと考えられる規制緩和、国際化、情報化という社会の動向があることを理解する。②犯罪に対する政策が、捜査・検挙と更生という事後の視点から、抑止と教育という事前の視点に重点を移している理由を考える。③自治体（特に市町村）が防犯に予算と人を投入する意義と、地域住民がボランティアで防犯に取り組む意味を知る。
授業方法と留意点	個別の政策に関する勉強なので教えるレベルは高くなる。加えて、「なぜ犯罪が増えたのか」、「どうすれば犯罪が減るのか」という問いには、明確なひとつの答えがあるわけではないので、自分の頭で考えることが大事になる。
科目学習の効果（資格）	公務員試験の課題式論文の対策に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	犯罪の種類と数え方	罪種と手口の関係、刑法犯における窃盗の数の比重、発生件数・認知件数・検挙件数・暗数といった基礎を学ぶ。	配布レジュメ・資料を見直すこと（約１時間）
2	警察の組織	公安委員会と警察本部、警察庁と警察本部、階級と専務といった組織の特徴を考える。	配布レジュメ・資料を見直すこと（約１時間）
3	刑事と生活安全との関係	刑事と生活安全の考え方の違いと協力関係を探る。	配布レジュメ・資料を見直すこと（約１時間）
4	犯罪の原因と対策	犯罪原因論と犯罪機会論を具体例を踏まえて見る。	配布レジュメ・資料を見直すこと（約１時間）
5	犯罪の増加とその背景	平成14年をピークとした犯罪増について、窃盗増加の比重と、その社会的背景を検討する。	配布レジュメ・資料を見直すこと（約１時間）
6	犯罪の減少とその背景	平成15年以降の犯罪減について、窃盗減少の比重と、その社会的背景を検討する。	配布レジュメ・資料を見直すこと（約１時間）
7	乗り物盗	自動車盗・オートバイ盗・自転車盗について、数値・加害者視点・防犯対策で考える。	配布レジュメ・資料を見直すこと（約１時間）
8	車上ねらい・部品ねらい	車上ねらい・部品ねらいについて、数値・加害者視点・防犯対策で考える。	配布レジュメ・資料を見直すこと（約１時間）
9	ひったくり・路上強盗	ひったくり・路上強盗について、数値・加害者視点・防犯対策で考える。	配布レジュメ・資料を見直すこと（約１時間）
10	性犯罪	強制性交等・強制わいせつ・公然わいせつ・迷惑行為防止条例違反について、数値・加害者視点・防犯対策で考える。	配布レジュメ・資料を見直すこと（約１時間）
11	住宅侵入盗	空き巣・忍び込み・居空き・住宅侵入強盗について、数値・加害者視点・防犯対策で考える。	配布レジュメ・資料を見直すこと（約１時間）
12	特殊詐欺	特殊詐欺について、数値・加害者視点・防犯対策で考える。	配布レジュメ・資料を見直すこと（約１時間）
13	防犯カメラ	捜査検挙の不可欠な手段となった防犯カメラについて、数値や経緯、課題を検討する。	配布レジュメ・資料を見直すこと（約１時間）
14	防犯ボランティア	平成の治安悪化とともに各地に広がった防犯ボランティアについて、数値や経緯、課題を検討する。	配布レジュメ・資料を見直すこと（約１時間）
15	まとめ	これまでのまとめをとおして、日本の地域防犯政策の特徴と今後の課題を考える。	配布レジュメ・資料を見直すこと（約１時間）

関連科目	本講義の入門編として、教養特別講義「身近な犯罪から自分、家族、まちを守る」がある。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義時に課すペーパーの累積点（30%）と、期末課題の点数（70%）の合計で評価を行う。
学生へのメッセージ	「学」（がく）というより、近年と現在の動向を考える講義なので、問題意識を持って講義に臨んでほしいです。自治体職員（公務員）や警察官志望の学生にとっては、将来の仕事を考える機会にもなると思います。

担当者の 研究室等	11 号館 9 階 中沼教授室
備考	講義毎回の課題正解は Teams で公開します。 21 年度　合格率 85.7%　（不受験率 0%）　A10.2%　B26.5%　C38.8%　D10.2%　平均 71 点　50 人登録

科目名	住民協働論	科目名（英文）	Residents Cooperative Theory
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	増田　知也
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3078a0		

授業概要・目的	協働とは、行政・企業・NPOなどが、共通の目的に向かって対等の立場で協力して活動することを意味する。行政だけが公共を担うという従来の考え方から、さまざまな主体がネットワーク化されることで公共を担っていくという考え方への変化が起こっている。この授業では、協働の担い手となる人（地域公共人材）に着目しながら、どのようにして協働型社会を形成すれば良いかを様々な面から検討する。
到達目標	この授業を通じて学生には、協働概念を理解するのに必要な概念について説明することができ、文献の要点をまとめ、分かりやすく発表することができ、地域の問題を自分の問題として考え、意見を持つことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	ABD（Active Book Dialogue）の手法を用いて、グループごとに分担して文献を要約し、発表し合う。 その後、穴埋め式のレジュメを配布し、解説を行う。 授業後に小テストを実施し、次の回の冒頭に解説と質問への回答を行う。
科目学習の効果（資格）	住民としての行政との向き合い方、自治体職員としての住民との向き合い方を学ぶことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	地域における人の力	協働における人材の重要性について、基本となる考え方を学ぶ。	事前:『地域公共人材をつくる』序章を読む（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
2	協働型社会の理論	協働型社会についての理論を学ぶ。	事前:『地域公共人材をつくる』第 1 章を読む（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
3	地域公共人材の意味	京都府における地域公共人材育成の事例から、協働のための人材育成の意味を考察する。	事前:『地域公共人材をつくる』第 2 章を読む（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
4	協働と地域公共人材	協働のための人材育成において、大学が果たす役割を考察する。	事前:『地域公共人材をつくる』第 3 章を読む（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
5	もやい直しと協働	熊本県水俣市を事例に、行政と市民が担うべき役割について考察する。	事前:『地域公共人材をつくる』第 4 章と第 7 章を読む（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
6	協働の担い手としての子どもたち	滋賀県米原市を事例に、子どもの権利と社会参加について学ぶ。熊本県氷川町宮原を事例に、子どもたちや大学生が地域活動を担うことの意味を考察する。	事前:『地域公共人材をつくる』第 5 章と第 6 章を読む（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
7	NPOと協働	兵庫県芦屋市と愛知県田原市を事例に、NPOが人材育成に果たす役割について考察する。	事前:『地域公共人材をつくる』第 8 章と第 9 章を読む（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
8	市民と企業、市民と議会の協働	京都府京都市を事例に、ソーシャルビジネスの可能性について考察する。北海道登別市を事例に、市民と議会の協働の可能性について考察する。	事前:『地域公共人材をつくる』第 10 章と第 13 章を読む（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
9	住民運動と市民活動	奈良県葛城市を事例に、住民と行政の対立を協働へと発展させる方法について考察する。広島県福山市鞆町を事例に、市民活動が果たす役割について考察する。	事前:『地域公共人材をつくる』第 11 章と第 12 章を読む（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
10	協働と地域公共人材の展望	京都府丹波・丹後地域を事例に、協働の担い手となる地域リーダーの育成方法について考察する。授業全体を振り返りつつ、今後の協働と人材育成のあり方を展望する。	事前:『地域公共人材をつくる』第 14 章と終章を読む（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
11	住民の権利と責任	憲法や地方自治法における住民の位置づけについて学ぶ。	事前:『地方自治と民主主義』第 6 章を読む（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
12	住民意識の変化と自治行政	住民の受益者化について学ぶ。	事前:『地方自治と民主主義』第 7 章を読む（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
13	住民運動の衝撃	住民運動の特色について学ぶ。	事前:『地方自治と民主主義』第 8 章を読む（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
14	住民参加への取り組み	住民参加の意義と課題について学ぶ。	事前:『地方自治と民主主義』第 9 章を読む（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
15	対立から協働へ	行政と住民の対立関係を協働関係に変えるための方法について考察する。	事前：論文「行政広報は『お知らせ』以上のものになれるか？」を読む（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	定期試験 50%、小テスト 50%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　増田講師室
備考	20 年度　合格率 91.3%　（不受験率 2.2%）　A28.3%　B50.0%　C8.7%　D4.3%　平均 81 点　46 人登録

科目名	福祉政策論	科目名（英文）	Social Protection Policy
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	増田　知也
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3079a0		

授業概要・目的	少子高齢化や格差社会が大きな問題となる中、福祉政策はますます重要性を増している。この授業では、福祉に関わる基礎知識と課題について学ぶ。教科書の内容を前提として、グループ・ディスカッションを交えながら授業を展開する。福祉政策の意義と、福祉の視点から見た政治・行政について理解を深めてほしい。
到達目標	この授業を通じて学生には、福祉政策に関する重要な概念や理論について説明することができ、福祉政策に関する文献から要点を抽出し、自分の言葉でまとめることができ、福祉政策の主要な論点について自分の意見を持ち、他者と討議することができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	毎回冒頭に、前回の小テストの解説と質問への応答を行う。 その後、スライドを提示しながら解説を行う。 授業後、オンラインで小テストを実施してもらう。
科目学習の効果（資格）	福祉関係の職業を目指す受講生にとって、最低限身につけておくべき知識を身につけることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	現代社会と福祉	日本社会が抱える問題と、社会福祉政策の概要について学ぶ。	事前：参考書による予習（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
2	福祉への社会的対応	福祉の定義を確認しつつ、福祉のための制度と思想について学ぶ。	事前：参考書による予習（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
3	福祉ニードと供給システム	福祉におけるニード概念と、資源を割り当てるための供給システムについて学ぶ。	事前：参考書による予習（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
4	福祉の計画と評価	福祉分野における計画行政の歴史と、計画の立案・評価の方法について学ぶ。	事前：参考書による予習（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
5	福祉政策と市場経済	経済理論からみた福祉政策について検討する。	事前：参考書による予習（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
6	福祉政策の歴史	国家が関与する福祉政策について、その興りと発展について学ぶ。	事前：参考書による予習（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
7	日本の福祉制度	日本における福祉制度の体系と、その特質について学ぶ。	事前：参考書による予習（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
8	労働・住宅・教育政策	労働・住宅・教育分野における福祉政策について学ぶ。	事前：参考書による予習（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
9	所得の保障	社会保険・社会手当・公的扶助からなる所得保障制度について学ぶ。	事前：参考書による予習（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
10	健康・医療・介護の保障	健康づくりの取り組みと、医療保障、介護保険などの仕組みと意義を学ぶ。	事前：参考書による予習（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
11	福祉サービスの保障	専門職による個別的な福祉サービスの必要性と、制度改革について学ぶ。	事前：参考書による予習（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
12	福祉制度の費用と財政	日本における社会福祉費用の特徴と課題について学ぶ。	事前：参考書による予習（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
13	薬学部・経済学部学生との合同ワークショップ１	ABD（アクティブブックダイアログ）の手法を用いて学習し、内容についてグループディスカッションを行う。	事前：グループワークで使用する文献にあらかじめ目を通しておく（2時間）
14	薬学部・経済学部学生との合同ワークショップ２	グループディスカッションを行った結果をスライドにまとめる。	事前：グループワークで使用する文献にあらかじめ目を通しておく（2時間）
15	薬学部・経済学部学生との合同ワークショップ３	スライドにまとめた内容をグループで発表する。	事前：グループワークで使用する文献にあらかじめ目を通しておく（2時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	反貧困：「すべり台社会」からの脱出	湯浅誠	岩波書店
2	社会福祉政策：現代社会と福祉	坂田周一	有斐閣
3			

評価方法（基準）	定期試験 50%、小テスト 30%、ふりかえりシート 20%
学生へのメッセージ	第 13 回から第 15 回は、「医療経済学」（薬学部）、「地域保健医療」（経済学部）の受講生と合同でオンラインワークショップを実施する予定です。 第 12 回までの授業では、参考書『社会福祉政策：現代社会と福祉』の流れに沿って授業を行うので、適宜予習・復習してください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　増田講師室
備考	

科目名	金融論	科目名（英文）	Money and Banking
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	堀　篤史
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3081a0		

授業概要・目的	グローバル化の中で、金融システムは刻々と変化しています。この授業では金融システムの現状だけではなく、そのあり方についても説明していきたい。
到達目標	この授業を通じて、学生には金融における仕組みについて、経済学のアプローチから理解できるようにする。 またこれから変化していく金融について、経済学の立場から自ら考察できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	レジュメを用いて講義形式で行う。金融論に必要なマクロ・ミクロ経済学の知識は講義の中で適宜説明する。 また、中学校の数学の知識（数式分野）を前提として講義を行います。これについては動画をアップしますので、必要な方は参照してください。
科目学習の効果（資格）	経済学検定

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	金融取引の基礎(1)	金融論で何を学ぶのかを説明する。 また、貨幣の機能について説明する。 金融取引の理解に必要なミクロ経済学の知識について説明する。 （消費者理論の基礎）	授業で扱った問題をやっておくこと。 moodle にアップしている動画を見ておくこと。(2時間)
2	金融取引の基礎(2)	金融取引の理解に必要なミクロ経済学の知識について説明する。 （無差別曲線、予算線、最適消費）	授業で扱った問題をやっておくこと。 動画を見ておくこと。(2時間)
3	金融取引の基礎(3)	金融取引の理解に必要なミクロ経済学の知識について説明する。 （所得や価格の変化）	授業で扱った問題をやっておくこと。 動画を見ておくこと。(2時間)
4	金融取引の基礎(4) 金融取引(1)	金融取引の理解に必要なミクロ経済学の知識について説明する。 （価格の変化） これまでの知識を利用して、金融取引の意義を経済学的に説明する。	授業で扱った問題をやっておくこと。 動画を見ておくこと。(2時間)
5	金融取引(2) 金融機関(1)	これまでの知識を利用して、金融取引の意義を経済学的に説明する。 銀行の種類などについて説明する。	動画を見ておくこと。(1時間)
6	金融機関(2) 金融システムの設計(1)	銀行や証券会社の種類、業務などについて説明する。また、信用リスクについて学習する。	前回の内容を復習しておくこと。 指定したレジュメを事前に読むこと。(1時間)
7	金融システムの設計(2) 中間テスト	平均・分散アプローチについて学習する。	動画を見ておくこと。(1時間)
8	金融システムの設計(3)	情報の非対称性の問題について説明する。スクリーニング機能やモニタリング機能について説明する。	動画をみておくこと。(1時間)
9	日本型金融システム 金融政策の理論(1)	戦後の日本の金融システムの特徴について説明する。 金融政策の理解に必要なマクロ経済学の知識について説明する。 （景気に関する指標）	授業で扱った問題をやっておくこと。 動画を見ておくこと。(2時間)
10	金融政策の理論(2)	金融政策の理解に必要なマクロ経済学の知識について説明する。 （財市場に関する分析）	前回の内容を復習しておくこと。 授業で扱った問題をやっておくこと。 動画を見ておくこと。(2時間)
11	金融政策の理論(3)	金融政策の仕組みについて説明する。 （貨幣市場の分析）	前回の内容を復習しておくこと。 動画を見ておくこと。(2時間)
12	金融政策の理論(4)	金融政策の仕組みについて説明する。 （IS－LM 分析）	前回の内容を復習しておくこと。 動画を見ておくこと。(2時間)
13	金融政策の理論(5)	金融政策の仕組みについて説明する。 （IS－LM 分析）	前回の内容を復習しておくこと。 授業で扱った問題をやっておくこと。 動画を見ておくこと。(2時間)
14	グローバル経済における金融政策(1)	外国為替市場について概観し、為替レートなどについて説明する。	前回の内容を復習しておくこと。 動画を見ておくこと。(2時間)
15	グローバル経済における金融政策(2)	変動相場制における金融政策について説明する。	前回の内容を復習しておくこと。 動画を見ておくこと。(2時間)

関連科目	マクロ経済学、ミクロ経済学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	金融論をつかむ	前多康男・鹿野嘉昭・酒井良清	有斐閣
2	現代金融論	塩澤修平	創文社
3			

評価方法（基準）	7回目の授業で行う中間テストと期末テストで評価する。(中間テスト 20%　期末テスト 80%)

学生への メッセージ	経済学の他の科目と同様に、金融論も積み重ねが大事です。毎回出席することが不可欠です。
担当者の 研究室等	11 号館 5 階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	

科目名	財政学	科目名（英文）	Public Finance
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	名方　佳寿子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3082a0		

授業概要・目的	日本における予算制度、歳出と歳入、税金のあり方、公債の特徴、地方財政制度について説明し、現在の日本が直面している財政の状況、財政赤字、高齢化に伴う社会保障、地方分権等の問題についての理解を深めます。
到達目標	現在の日本の財政が直面している財政赤字、社会保障、所得税・消費税・法人税などの税金の問題を具体的な数字を見ることによって理解し、一国民として今後の日本の将来を考えてもらう。
授業方法と留意点	10回目に中間試験を行います。 それ以外の回については、Moodleに講義関係の資料をUploadしておきます。 連絡手段にTeamsを使う可能性がありますので登録お願いいたします。
科目学習の効果（資格）	私達の身近な問題である、財政赤字、税金、社会保障の問題が詳しくわかります。また公務員試験の勉強にも役立ちます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	財政論とは？	財政学の考え方と財政の役割について説明する。	講義ノートの復習（1時間）
2	予算原則と予算制度	日本の予算制度について説明する。	講義ノートの予習（わからない単語の意味や興味のある制度について事前に調べておく）と復習（予習・復習それぞれ20～30分ずつ）
3	歳出と歳入	我が国の財政事情について説明する。	講義ノートの予習（わからない単語の意味や興味のある制度について事前に調べておく）と復習（予習・復習それぞれ20～30分ずつ）
4	社会保障制度Ⅰ	年金・医療保険・生活保護等について説明する。	講義ノートの予習（わからない単語の意味や興味のある制度について事前に調べておく）と復習（予習・復習それぞれ20～30分ずつ）
5	社会保障制度Ⅱ	年金・医療保険・生活保護等について説明する。	講義ノートの予習（わからない単語の意味や興味のある制度について事前に調べておく）と復習（予習・復習それぞれ20～30分ずつ）
6	各国の財政事情	先進国の財政事情について説明する。	講義ノートの予習（わからない単語の意味や興味のある制度について事前に調べておく）と復習（予習・復習それぞれ20～30分ずつ）
7	税金	直接税・間接税の特徴について説明する。	講義ノートの予習（わからない単語の意味や興味のある制度について事前に調べておく）と復習（予習・復習それぞれ20～30分ずつ）
8	我が国の租税制度Ⅰ	所得税、支出税、法人税について説明する。	講義ノートの予習（わからない単語の意味や興味のある制度について事前に調べておく）と復習（予習・復習それぞれ20～30分ずつ）
9	我が国の租税制度Ⅱ	消費税、贈与税、最近の税制改革について説明する。	講義ノートの予習（わからない単語の意味や興味のある制度について事前に調べておく）と復習（予習・復習それぞれ20～30分ずつ）
10	中間試験		
11	公債	我が国の公債について説明する。	講義ノートの予習（わからない単語の意味や興味のある制度について事前に調べておく）と復習（予習・復習それぞれ20～30分ずつ）
12	公債の理論	公債による経済的な影響について説明する。	講義ノートの予習（わからない単語の意味や興味のある制度について事前に調べておく）と復習（予習・復習それぞれ20～30分ずつ）
13	地方財政Ⅰ	国と地方の役割分担について説明する。	講義ノートの予習（わからない単語の意味や興味のある制度について事前に調べておく）と復習（予習・復習それぞれ20～30分ずつ）
14	地方財政Ⅱ	地方税と補助金（国庫支出金、地方交付税）について説明する。	講義ノートの予習（わからない単語の意味や興味のある制度について事前に調べておく）と復習（予習・復習それぞれ20～30分ずつ）
15	定期試験前総復習	定期試験前にこれまでの重要なポイントについて解説する。	講義ノートの予習（わからない単語の意味や興味のある制度について事前に調べておく）と復習（あわせて1.5時間）

関連科目	公共政策論、公共経済学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	中間試験（30%）、期末試験（70%）で総合的に評価します。 私語をする学生には教室からの退出・減点などの処置をとります。また授業態度が著しく悪い学生には定期試験の受験資格を認めません。課題や中間試験において不正行為が確認された場合、0点にいたします。またその不正行為が悪質な場合は定期試験の受験を認めません。
学生へのメッセージ	疑問点・わからない点があれば授業中でもかまいませんので聞いてください。学生の積極的な取り組みを応援します。

担当者の 研究室等	１号館７階　名方准教授室（経済学部）
備考	

科目名	地方財政論	科目名（英文）	Local Public Finance
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中沼　丈晃
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3083a0		

授業概要・目的	「地方でできることは地方へ」という分権化時代において、権限を委ねられる地方自治体には、法務能力と政策立案能力の双方の強化が必要になってきている。この講義では、地方自治体の財政状況から地域政策の問題点を探り、問題を生み出した構造とその改革策を理解する。
到達目標	この授業を通じて学生には次のことが期待される。①地方自治体の決算カードを見て、財務指標を計算する。②その指標から、どれくらいの政策の自由度が地方自治体に現実にあるのか判断する。③自由度の小ささは、どのような経緯によるものか理解する。④今後、自由度を広げていくには、地方と国にどのような努力が必要か考える。
授業方法と留意点	公共政策に関する基礎知識を前提に、地方財政の知識を身につけながら地域政策の現状を明らかにする。大学らしい発展科目にする考えなので、受講者には高い意識が求められる。
科目学習の効果（資格）	公務員試験で出題される行政学の一部をカバーする。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ドラマ『再生の町』に見る地方行政の危機	大阪の市役所をモデルにして作られたドラマを見て、自治体の財政危機の様子をイメージする。	ドラマ『再生の町』の視聴（約１時間）
2	自治体の財政危機と地域政策(1)	自治体財政の基本的な仕組みを理解し、財政状況から地域政策の現状を知る意義を確認する。	レジュメ p.1-2 を見直す（約１時間）
3	自治体の財政危機と地域政策(2)	大阪府の市町村の実データを使って、財政状況をはかる指標の数値を算出できるようにする。	レジュメ p.3 を見直す 決算カードの確認 （約 1.5 時間）
4	自治体の財政危機と地域政策(3)	大阪府の市町村の実データを使って、借金の累積と財政への影響を把握できるようにする。	レジュメ p.4 を見直す 決算カードの確認 （約 1.5 時間）
5	地方債の増加と建設政策(1)	地方債制度の基本を理解し、自治体が借金をして建設政策を展開する意味を知る。	レジュメ p.5-6 を見直す（約１時間）
6	地方債の増加と建設政策(2)	昭和 40 年代後半から昭和 50 年代前半まで公共事業を拡大させた補助金交付の実態を確認する。	レジュメ p.6-7 を見直す 行政投資関連資料の確認 （約 1.5 時間）
7	地方債の増加と建設政策(3)	地方交付税について、自治体間で一般財源の均衡を図る機能と、国が自治体の政策を誘導する機能を確認する。	レジュメ p.7-8 を見直す（約１時間）
8	地方債の増加と建設政策(4)	昭和 61 年頃から平成 7 年頃にかけて公共事業を拡大させた地方交付税措置という仕組みを理解する。	レジュメ p.8 を見直す 地方交付税・公債関連資料の確認 （約 1.5 時間）
9	地方財政健全化比率(1)	地方財政健全化法によって導入された、自治体の「本体」以外の会計の現状を明らかにする指標を知る。	レジュメ p.9 を見直す 新聞記事資料の確認 （約 1.5 時間）
10	地方財政健全化比率(2)	近畿の市町村の実データを使って、健全化比率で自治体の財政状況を把握できるようにする。	レジュメ p.10 を見直す 健全化比率関連資料の確認 （約 1.5 時間）
11	土地開発公社	公共事業拡大の前提にあった公有地の取得について、土地開発公社が果たした役割と抱えた負債の問題の重さを考える。	レジュメ p.11-12 を見直す 新聞記事資料の確認 （約 1.5 時間）
12	第三セクター	ビルやリゾートの開発のために自治体が第三セクターを設立した背景と、多くの第三セクターが破綻に至った経緯を知る。	レジュメ p.13-14 を見直す 新聞記事資料の確認 （約 1.5 時間）
13	公営企業	下水道・交通・病院事業などを行う自治体の公営企業について、赤字につながる問題と改革の限界を理解する。	レジュメ p.15-16 を見直す 新聞記事資料の確認 （約 1.5 時間）
14	「事業仕分け」の改革	事業の必要性を問い直す「事業仕分け」の改革について、その方法と結果を確認する。	レジュメ p.17-18 を見直す 新聞記事資料の確認 （約 1.5 時間）
15	「協働」の改革	市民の行政依存、行政の自己完結を問い直す「協働」の改革について、その背景と動向を知る。	レジュメ p.19-20 を見直す 新聞記事資料の確認 （約 1.5 時間）

関連科目	「公共政策の基礎」「行政学」「地方自治論」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	平常点（毎回の課題ペーパーの点数の累積、30%）と期末課題の点数（70%）の合計によって評価する。
学生への メッセージ	政策系の最後の科目として高いレベルで講義を展開します。特に地方公務員として地域政策をリードすることになる人が真剣に勉強する場にしたいと思います。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　中沼教授室
備考	講義毎回の課題正解は、Teams で公開します。 21 年度　合格率 76.5%　（不受験率 0%）　A13.7%　B39.2%　C19.6%　D4.0%　平均 77 点　51 人登録

科目名	法情報学	科目名（英文）	Law and Computer
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	家本　真実
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2084a0		

授業概要・目的	法学部生として学ぶにあたって、上級生になればなるほど、判例や法令といった、法律・政治関係の資料を参照する機会が増えてきます。 そこでこの講義では、法律・政治関係の資料として有用なものはどういったものか、またそれらをどこで入手することができるのかを、資料の実物を見たり、実際に作業をしてもらいながら皆さんに学んでいただきたいと思います。同時に、法情報を利用してレポートなどを作成するにあたって必要な知識とスキルを得ていただけるようにします。
到達目標	この授業を通じて、学生の皆さんには、法学部で学ぶにあたって必要となる法情報を、信頼できる情報源から得て活用するスキルを習得することが期待されます。
授業方法と留意点	毎回、こちらから配布するレジュメに沿って講義をおこなう部分と、それらの説明に基づいて受講生の皆さんが実際に作業をしていただく部分とが混在します。毎回の授業で得る知識や習得する作業が、次の授業につながっていくこととなりますので、遅刻や欠席されないことを強くお勧めします。
科目学習の効果（資格）	法学部で学ぶにあたって必要な法情報を検索し、活用することのできるスキルを身につけることができます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに 法情報とはどのようなものか	法情報はどこにどのようなかたちで存在しているのかを学ぶ。	授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2時間)
2	法令の調べ方（1）	法令とはどのようなものか、またどこに掲載されているのかを学ぶ。	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
3	法令の調べ方（2）	法律案や地自治体の法令とはどのようなものか、またどこに掲載されているのかを学ぶ。	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
4	判例の調べ方（1）	判例とはどのようなものか、過去の判決文を見ながら学ぶ。	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
5	判例の調べ方（2）	判例を収録している印刷物やデータベースの使用法、また判例批判とはどのようなものかについて学ぶ。	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
6	二次資料の調べ方（1）	二次資料とはどのようなものか、またどこに掲載されているのかを学ぶ。	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
7	二次資料の調べ方（2）	二次資料を収録している印刷物やデータベースについて、またそれらの使用法について学ぶ。	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
8	資料の引用の仕方	正しく引用する方法と、文書作成ソフト（アプリ）の関連機能について学ぶ。	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
9	外国の法情報の調べ方	外国の法情報とはどのようなものかについて学ぶ。	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
10	登記簿の見方（1）	不動産登記とはどのようなものか、また登記簿はどこで閲覧できるのかを学ぶ。	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
11	登記簿の見方（2）	商業登記など不動産以外の登記とはどのようなものかについて学ぶ。	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
12	戸籍の見方	戸籍とはどのようなものか、またその見方について学ぶ。	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
13	法学に役立つ様々な情報源	法学に役立つ情報としてどのようなものがあるか、またどこから収集すべきかについて学ぶ。	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
14	具体的事例におけるリーガル・リサーチ（1）	具体的事例において、どのようにリーガル・リサーチをおこなうべきかについて学ぶ。	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
15	具体的事例におけるリーガル・リサーチ（2） おわりに	仮のミニレポートを、これまでに学んだ技術を使用して作成しすることで、リーガル・リサーチの方法を学ぶ。	全講義を通して疑問や不明点がないか確認したうえで講義に臨むこと。(3時間) 講義終了後、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(3時間)

<table>
<tr><td>関連科目</td><td>法学部開講の法律・政治系の専門科目</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>講義内で課す課題（確認テスト、ペーパーなど）への取り組みを 50%程度、学期末試験の成績を 50%程度の割合で、最終的な評価をおこないます。
遅刻および欠席は、1 度でも、単位の取得から遠のくこととなりますので、ご注意ください。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>授業中は不要な私語を慎んでください。講義内容は、講義の進行具合に応じて変更する場合もあります。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>11 号館 9 階　家本准教授室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>講義中に課した課題については、次の回の講義で講評・解説をおこないます。</td></tr>
</table>

科目名	裁判制度特別講義	科目名（英文）	Special Lecture on Judicial System
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	家本　真実
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3085a0		

授業概要・目的	2009年に、日本でも司法制度に一般の市民が参加する裁判員制度が導入されました。現在では18歳以上の日本国籍を持つ人であれば、裁判員として刑事裁判に参加する可能性があることになります。しかし、ようやく裁判員となる可能性がある年齢に達した学生の皆さんにとっては、裁判員が刑事裁判でどのような任務を果たさなくてはならないのか、またそのような任務が司法制度においてどのような意義があるのか、よく分からないのではないでしょうか。 そこで、この授業では、裁判員制度そのものについてはもちろん、関連する刑事裁判の手続きや、外国でおこなわれている市民の司法への参加制度をあわせて学んでいただき、広く司法制度のあり方についても考えていただきたいと思います。
到達目標	この授業を通じて、学生の皆さんには、裁判員制度について基本的な理解していただくとともに、市民の司法参加制度のあり方や司法制度について考えることができる知識を得ていただくことが期待されます。
授業方法と留意点	この授業では、日本の裁判員制度について理解していただくにあたって、様々な視点からアプローチします。そのなかでは、単に教員から講義をおこなうだけでなく、受講生の皆さんが作業をしたり、意見を出したり、グループで議論したりと、自ら考えて発信する時間を設けます。したがって、ただ出席していれば良いという授業ではないことにご注意ください。 授業内容は、授業の進行具合に応じて多少変更する場合もあります。
科目学習の効果（資格）	裁判員制度、日本や外国の市民の司法参加制度、また広く司法制度について知識を深めることができます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに 司法への市民の参加	この授業の概要、講義予定 裁判員が裁判を担当する事件の例	講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2時間)
2	裁判員制度とは（1）	裁判員制度の概要	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
3	裁判員制度とは（2）	裁判員制度導入の経緯	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
4	裁判員制度とは（3）	裁判員の任務と経験者の考える裁判員制度の意義	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
5	刑事裁判手続（1）	刑事事件の捜査、手続きとその問題点	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
6	刑事裁判手続（2）	公判手続の流れと刑事裁判の原則	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
7	外国の市民の司法参加制度（1）	ヨーロッパ諸国などで採用されている参審制度について	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
8	外国の市民の司法参加制度（2）	おもに英米でおこなわれている陪審制度について	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
9	外国の市民の司法参加制度（3）	映画にみる陪審制度―無罪の推定と証拠の証明力	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
10	外国の市民の司法参加制度（4）	映画にみる陪審制度―陪審制度の意義	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
11	戦前の日本の陪審制度	日本で戦前におこなわれていた陪審制度について	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
12	裁判員制度が抱える問題点	現在の裁判員制度において指摘されている問題について考える	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
13	ある刑事事件について考えてみよう	裁判員になったつもりで、ある刑事事件について有罪か無罪かを考える	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
14	今後の裁判員制度のあり方	市民の司法参加を最大限に活かすために、今後、裁判員制度はどうあるべきかを考える	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
15	市民が司法に参加する意義 おわりに	なぜ市民が司法に参加するべきなのか 講義のまとめ	全講義を通して疑問や不明点がないか確認したうえで講義に臨むこと。(3時間) 講義終了後、今回の講義を復習し、疑問点を整理し

				ておくこと。(3 時間)

関連科目	刑法総論・各論、刑事政策などの刑事法、刑事訴訟法、英米法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	講義内で課す議論や課題（確認テスト、ペーパーなど）への取り組みを 40%程度、学期末試験の成績を 60%程度の割合で、最終的な評価をおこないます。 遅刻および欠席は、1 度でも、単位の取得から遠のくこととなりますので、ご注意ください。
学生への メッセージ	日本の裁判員制度やアメリカの陪審制度に興味のある方はぜひ履修していただければと思います。履修者が少数の場合は、授業において学生の皆さんが主体的に考える時間（履修者間で議論をおこなっていただくなど）をより多くとるようにします。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　家本准教授室
備考	講義中に課す課題については、次の回以降の授業で講評・解説をおこないます。

科目名	スポーツと法律	科目名（英文）	Sports and Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	石井　信輝
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2089a0		

授業概要・目的	スポーツに関する法令を学ぶとともに、関連する判例や諸問題を検討することを通して、スポーツ法学についての理解を深める。また、法学に関する体系的な理解の一助とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、法とスポーツ活動との様々な接点を理解するようになることが期待される。
授業方法と留意点	教科書『スポーツ法へのファーストステップ』 を用いて授業を行います。授業中に提示した課題を解決するため、および事前・事後の学習のために ICT ツールを活用していただく場合もあります。対面による授業を原則とします。
科目学習の効果（資格）	公認スポーツ指導者資格取得のための科目でもある。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	スポーツと法（１）	スポーツの概念、特性	スポーツの概念や特徴についてまとめる。
2	スポーツと法（２）	スポーツ基本法の制定（スポーツの自治とガバナンス・コンプライアンス）	関連資料に目を通すこと
3	スポーツと法（３）	スポーツ活動と関連法令	関連資料に目を通すこと。
4	スポーツに親しむ権利（１）	スポーツへのアクセス	関連資料に目を通すこと。
5	スポーツに親しむ権利（２）	スポーツ権論・習熟度の確認	前回の講義と関連づけてまとめる。
6	スポーツと教育	学校スポーツ、社会スポーツ（生涯スポーツ）の展開と関連法令	関連資料に目を通すこと。
7	スポーツに関する紛争	スポーツ仲裁制度	関連資料に目を通すこと。
8	スポーツ振興と法、これまでの講義のまとめ	スポーツの振興に関する法令、および習熟度確認	これまでの講義を体系的にまとめること。
9	スポーツと国籍	スポーツへの参加と国籍	配布資料に目を通すこと。
10	スポーツと社会的平等	スポーツとジェンダー・習熟度の確認	関連資料に目を通すこと。
11	スポーツ事故と責任（１）	スポーツ活動中（学校での活動を含む）の事故と法（民法、刑法、国家賠償法）	民法、刑法および国家賠償法の関連条項の整理。
12	スポーツ事故と責任(２)	スポーツ活動中の事故と当事者・指導者の法的責任①	配布資料に目を通すこと。
13	スポーツ事故と責任（３）	スポーツ活動中の事故と指導者・当事者の法的責任②	前回の講義と関連づけてまとめる。
14	スポーツ事故と責任（４）	フランスにけるスポーツ事故と法的責任	スポーツ事故の発生と法的責任の発生に関してまとめる
15	講義の総括と習熟度検査	講義の総括と習熟度確認試験	講義全体を体系的に整理する。

関連科目：スポーツ政策論等

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スポーツ法へのファーストステップ	石堂典秀	法律文化社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	リファレンスブック		日本スポーツ協会
2			
3			

評価方法（基準）	授業に参加する姿勢（３０％）、授業中に出される課題への回答・試験の結果（70%）をもって評価する。
学生へのメッセージ	意欲的に講義に参加してください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　石井教授室
備考	各回に 1 時間程度、すなわち半期 15 時間程度を目安に、講義の内容について事前・事後の学習を行ってください。 課題や習熟度試験については次の回の授業で解説する。 20 年度　合格率 93.2%　（不受験率 0%）　A29.5%　B31.8%　C20.5%　D11.4%　平均 77 点　44 人登録

科目名	スポーツ文化論	科目名（英文）	Cultural Aspects of Sports
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	瀬川　智広
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2090a0		

授業概要・目的	スポーツは体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、楽しみ、喜び、達成感、他者との連帯感など心身の健康保持増進に大きな効果をもたらします。またスポーツのもつ影響力は政治、経済、国際関係など現代社会のさまざまな課題を解決するために有効とされています。 本講義は、スポーツがわれわれの暮らしに密接に関わる文化的意義をもつことを理解し、スポーツの効果や影響力を活用することで人生を豊かにしたり、現代社会の課題を解決するための基礎知識を身につけることを目指します。 SDGs-3,5,10,11,16,17
到達目標	（１）スポーツの文化的意義を理解することができる。 （２）持続可能な社会を実現するためにスポーツの効果や影響力を活用するための基本的な知識を身につけている。 （３）コミュニケーション能力を身につけ、自分の考えを相手に伝えたり、他者の考えを理解、尊重することができる。 （４）自主的に学ぶ習慣を身につけている。
授業方法と留意点	パワーポイントや資料を用いた講義形式で行う。また、テーマに沿った議題についてディスカッションを行ったり、自らの考えをプレゼンテーションする機会を取り入れる。小レポートを課す。
科目学習の効果（資格）	日常生活や社会活動の様々な場面でスポーツの効果や影響力を活用するための基礎的な知識を習得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	スポーツ文化論について	オリエンテーション スポーツ文化論とは 講義全体の概要、到達目標および成績評価について説明する	事後：授業で指示する課題に取り組み、学習内容を復習する（２時間以上）
2	スポーツの歴史	スポーツの始まりと変遷について学習する （講義・個人ワーク・小レポート）	事前：指定されたテーマについて調べておく（１時間以上） 事後：授業で指示する課題に取り組み、学習内容を復習する（１時間以上）
3	武道の歴史と精神	日本の武士道に由来する武道の歴史と精神について学習する （講義・個人ワーク・小レポート）	事前：指定されたテーマについて調べておく（１時間以上） 事後：授業で指示する課題に取り組み、学習内容を復習する（１時間以上）
4	スポーツと教育	スポーツを通じた教育の変遷と今後の展望について学習する （講義・個人ワーク・小レポート）	事前：指定されたテーマについて調べておく（１時間以上） 事後：授業で指示する課題に取り組み、学習内容を復習する（１時間以上）
5	スポーツと政治・権力	スポーツと政治の関係について過去の事例を題材に学習する （講義・個人ワーク・小レポート）	事前：指定されたテーマについて調べておく（１時間以上） 事後：授業で指示する課題に取り組み、学習内容を復習する（１時間以上）
6	スポーツとメディア	スポーツとメディアの関係について学習する （講義・個人ワーク・小レポート）	事前：指定されたテーマについて調べておく（１時間以上） 事後：授業で指示する課題に取り組み、学習内容を復習する（１時間以上）
7	スポーツと産業	スポーツに関わる産業の変遷と今後の展望について学習する （講義・個人ワーク・小レポート）	事前：指定されたテーマについて調べておく（１時間以上） 事後：授業で指示する課題に取り組み、学習内容を復習する（１時間以上）
8	スポーツとテクノロジー	テクノロジーがスポーツに及ぼす影響と今後の展望について学習する （講義・個人ワーク・小レポート）	事前：指定されたテーマについて調べておく（１時間以上） 事後：授業で指示する課題に取り組み、学習内容を復習する（１時間以上）
9	スポーツをめぐる社会問題	ドーピング、差別などスポーツをめぐる社会問題について学習する （講義・個人ワーク・小レポート）	事前：指定されたテーマについて調べておく（１時間以上） 事後：授業で指示する課題に取り組み、学習内容を復習する（１時間以上）
10	スポーツの意義と社会的役割（１）	パラリンピックやアダプテッド スポーツを題材にスポーツを通じた共生社会の実現について学習する （講義・グループディスカッション）	事前：指定されたテーマについて調べておく（１時間以上） 事後：授業で指示する課題に取り組み、学習内容を復習する（１時間以上）
11	スポーツの意義と社会的役割（２）	パラスポーツを実際に体験し、スポーツを通じた共生社会の実現について学習する （実技）	事前：指定されたテーマについて調べておく（１時間以上） 事後：体験で得た知識や情報について振り返る（１時間以上）
12	スポーツの意義と社会的役割（３）	オリンピック、ワールドカップなどの国際大会を題材にスポーツの意義と社会的役割について自ら調べ発表する （発表）	事前：発表の準備をする（１時間以上） 事後：他者の発表の要点をまとめる（１時間以上）
13	スポーツと SDGs（１）	SDGs に関する基礎知識を学習し、SDGs におけるスポーツの効果や影響力について調べる （講義・グループまたは個人ワーク）	事前：指定されたテーマについて調べておく（１時間以上） 事後：授業で指示する課題に取り組み、学習内容を復習する（１時間以上）
14	スポーツと SDGs（２）	SDGs におけるスポーツの効果や影響力の活用方法について発表する （発表）	事前：発表の準備をする（１時間以上） 事後：他者の発表の要点をまとめる（１時間以上）
15	スポーツ文化論まとめ	授業のまとめ　スポーツの効果や影響力について振り返り、持続可能な社会の	事前：指定されたテーマについて予習する（２時間以上）

			実現に向けた各自の取り組みについて考える （レポート）	事後：本講義で得た知識を活用し、スポーツを通じたSDGsへの取り組みに積極的に関与する

関連科目	スポーツと健康

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スポーツの歴史と文化	新井博	道和書院
2	体育・スポーツ史概論	木村吉次	市村出版
3			

評価方法 （基準）	小レポート（５０％）、グループワーク・発表（２０％） 最終授業終了後のレポート課題（３０％）
学生への メッセージ	スポーツのもつ影響力や効果について学習し、持続可能な社会の実現にむけた行動をおこしましょう。
担当者の 研究室等	総合体育館１階
備考	学習の効果を高めることを目的とし、授業の進捗状況や理解度、時事問題と関連して授業テーマの順序を変更する場合があります。

科目名	地域とスポーツ	科目名（英文）	Community and Sports
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	石井　信輝
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2091a0		

授業概要・目的	現代社会におけるスポーツ活動が担う地域振興という役割を踏まえ、地域社会とスポーツとの関係の理解を深める。また、法・政策について体系的に理解することへの一助とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、地域社会の発展や連帯を促進という視点から、スポーツの果たす役割に関する知見を修得することが期待される。
授業方法と留意点	教科書は特に用いないが、必要に応じて資料を配布する。授業中に提示した課題を解決するため、および事前・事後の学習のために ICT ツールを活用していただく場合もあります。対面による授業を原則とします。
科目学習の効果（資格）	公認スポーツ指導者養成に関する科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	地域社会とスポーツ	地域とスポーツとの関係性について整理する。
2	地域におけるスポーツの振興（1）	地域にけるスポーツ振興方策と行政とのかかわり	関連資料に目を通す。
3	地域におけるスポーツの振興（2）	地域におけるスポーツ振興の主要課題	配布資料を理解する。
4	地域におけるスポーツの振興（3）	地域におけるスポーツ振興と民間団体の役割・習熟度の確認、これまでの到達度を評価するための試験の実施	前 2 回と今回の講義を関連づけて整理する。
5	地域スポーツの振興拠点（1）	学校スポーツ、企業スポーツ、(総合型)地域スポーツクラブ、スポーツ少年団	関連資料に目を通す。
6	地域スポーツの振興拠点（2）	諸外国における地域スポーツの振興拠点	配布資料を理解する。
7	地域スポーツの振興拠点（3）	（総合型）地域スポーツクラブ・スポーツ少年団の役割と両者の連携・統合	わが国と諸外国との相違点・類似点という視点からまとめる。
8	地域スポーツの振興拠点（4）、およびこれまでの講義のまとめ	地域スポーツクラブの役割	前 3 回の講義と今回の講義とを関連づけて整理する。
9	地域スポーツの振興と関連法令	地域スポーツ振興と関連法令	配布資料の理解。
10	地域社会の活性化とスポーツ（1）	わが国におけるスポーツ活動による地域社会活性化へ向けた取り組み	関連資料に目を通す。
11	地域社会の活性化とスポーツ（2）	諸外国におけるスポーツ活動による地域社会活性化へ向けた取り組み、これまでの到達度を評価するための試験の実施	配布資料の理解。
12	地域社会の連帯促進とスポーツ（1）	わが国におけるスポーツ活動による地域連帯促進への取り組み	関連資料に目を通す。
13	地域社会の連帯促進とスポーツ（2）	諸外国におけるスポーツ活動による地域連帯促進への取り組み	配布資料の理解。
14	地域社会の連帯促進とスポーツ（3）	わが国における取り組みと諸外国における取り組みとの比較検討	前 2 回と今回の講義とを関連づけて整理する。
15	講義の総括	講義の総括と習熟度確認のための試験の実施	これまでの講義を体系的に整理・理解する。

関連科目	スポーツ政策論等

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	リファレンスブック		日本スポーツ協会
2			
3			

評価方法（基準）	授業に参加する姿勢（３０%）、授業中に出される課題への回答・試験の結果（70%）をもって評価する。
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んでください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　石井教授室
備考	各回に 1 時間程度、すなわち半期 15 時間程度を目安に、講義の内容について事前・事後の学習を行ってください。 課題や習熟度試験の解説は次の回の授業で行う。 20 年度　合格率 93.5%　（不受験率 0%）　A22.6%　B40.3%　C11.3%　D19.4%　平均 75 点　62 人登録

科目名	スポーツマネジメント	科目名（英文）	Sports Management
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	石井　信輝
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2092a0		

授業概要・目的	スポーツを効率よくマネジメントする上で、検討すべき課題について理解を深めるとともに、スポーツマネジメントを実践するための基本的な知識を学習する。
到達目標	この授業を通じて学生には、スポーツを効率よくマネジメントする上での基本的な知識を獲得することが期待される。
授業方法と留意点	教科書は特に用いないが、必要に応じて資料を配布する。授業中に提示した課題を解決するため、および事前・事後の学習のためにICTツールを活用していただく場合もあります。対面による授業を原則とします。
科目学習の効果（資格）	公認スポーツ指導者資格取得対応科目

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	ガイダンス、スポーツマネジメントとは	スポーツマネジメントという言葉の整理。
2	マネジメントの本質（1）	マネジメントの定義、マネジメントにおける目標設定、目的・補完のマネジメント	関連資料に目を通す。
3	マネジメントの本質（2）	マネージャーの役割、心構え	マネジメントという概念をまとめる。
4	スポーツマネジメントの特徴	スポーツマネジメントの特徴、スポーツ産業が持つ特質	前2回の講義と今回とを関連づけてまとめる。
5	スポーツ施設の建設、運営および事業展開	スポーツ施設の建設と運営	配布資料の理解。
6	全体戦略の設定	ミッション・ヴィジョン・ドメイン・習熟度の確認	関連資料に目を通す。
7	スポーツとマネジメント（1）	人事マネジメント、GMの役割	これまでの講義を体系的にまとめ、理解する。
8	スポーツとマネジメント（2）	リスクマネジメント	リスクとマネジメントという意味について整理。
9	スポーツとマネジメント（3）、これまでの講義のまとめ	顧客管理および習熟度確認	これまでの講義を体系的にまとめ、理解する。
10	スポーツ事業の展開（1）	スポーツ事業の計画・運営・評価（総論、スポーツ教室の実施・運営）	関連資料に目を通す。
11	スポーツ事業の展開（2）	スポーツマーケティング	配布資料を理解する。
12	スポーツ事業の展開（3）	必要な法務の知識、必要な財務・経理・会計・税務の知識	前2回の講義を関連づけてまとめる。
13	スポーツ組織の機能・役割とその運営（1）	スポーツ組織の機能・役割	配布資料に目を通すこと。
14	スポーツ組織の機能・役割とその運営（2）	スポーツ組織の運営	前回の講義と関連づける。
15	講義のまとめ	講義の総括と習熟度の確認試験	講義全体の体系化とその理解。

関連科目	スポーツと法律等

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	リファレンスブック	日本スポーツ協会	
2			
3			

評価方法（基準）	授業に参加する姿勢（３０%）、授業中に出される課題への回答・試験の結果（70%）をもって評価する。
学生へのメッセージ	意欲を持って参加してください。
担当者の研究室等	11号館10階　石井教授室
備考	各回に1時間程度、すなわち半期で15時間程度を目安に、講義の内容について事前・事後の学習を行ってください。 課題や習熟度試験についての解説は、次の回の授業で行う。 20年度　合格率97.8%　（不受験率0%）　A15.7%　B28.1%　C34.8%　D19.1%　平均75点　89人登録

科目名	グローバル社会とスポーツ	科目名（英文）	Global Society and Sports
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	石井　信輝
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3093a0		

授業概要・目的	スポーツに関する諸問題を社会学的な視点からグローバルに検討することによって、社会とスポーツとのかかわりに対する理解を深める。また、主に法政策学の体系的な理解の一助とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、スポーツを取り巻く社会的な諸相をグローバルな観点から的確に捉え、理論的に理解するための基本的な能力を養うことが期待される。
授業方法と留意点	教科書は特に用いないが、必要に応じて資料を配布する。授業中に提示した課題を解決するため、および事前・事後の学習のために ICT ツールを活用していただく場合もあります。対面による授業を原則とします。
科目学習の効果（資格）	スポーツに関する社会学的な知識を身につけることが可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	ガイダンス、スポーツ社会学とは	スポーツ社会学という概念の整理。
2	グローバル社会とスポーツ	グローバル社会におけるスポーツの意義	関連資料に目を通すこと。
3	スポーツ人口の構造（１）	スポーツ人口構造の類型化	配布資料の理解。
4	スポーツ人口の構造（２）	年齢別、性別スポーツ参加状況・習熟度の確認	前回の講義と関連づけて今回の講義を整理する。
5	少子･高齢化とスポーツ（１）	少子化とスポーツ	配布資料の理解。
6	少子･高齢化とスポーツ（２）	高齢化とスポーツ	少子・高齢化とスポーツとの関係についてまとめる。
7	女性とスポーツ	女性のスポーツ参加	関連資料に目を通すこと。
8	日本と諸外国におけるスポーツ事情、これまでの講義のまとめ	日本と諸外国のスポーツ参加	これまでの講義を体系的に整理・理解する。
9	スポーツの社会的基盤（１）- 諸外国とわが国との比較検討 -	学校・地域のスポーツクラブ	関連資料に目を通すこと。
10	スポーツの社会的基盤（２）- 諸外国とわが国との比較検討 -	企業および民間クラブ、および習熟度を確認	前回の講義と今回の講義とを関連づけて整理する。
11	スポーツと社会化（１）	スポーツによる社会化	配布資料の理解。
12	スポーツと社会化（２）	スポーツへの社会化	前回の講義と今回の講義とを関連づけて整理する。
13	商業主義とスポーツ	商業主義のスポーツへの影響	関連資料に目を通すこと。
14	スポーツとマスメディア	マスメディアのスポーツへの影響	マスメディアという言葉の意味を検索。
15	講義のまとめ	講義の総括と到達度の確認試験	これまでの講義を体系立てて整理し理解する。

関連科目	地域とスポーツ等

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業に参加する姿勢（３０%）、授業中に出される課題への回答・試験の結果（70%）をもって評価する。
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んでほしい。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　石井教授室
備考	各回に 1 時間程度、すなわち半期で 15 時間程度を目安に、講義の内容について事前・事後の学習を行ってください。 課題や習熟度確認のための試験の解説は、次の回の授業で行う。 19 年度　合格率 100%　（不受験率 2%）　A8%　B40%　C17%　D35%　　平均 75 点　65 人登録

科目名	実定法特別講義Ⅰ	科目名（英文）	Special Lecture on Positive Law Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中　敦.北口　星.笛木　淳
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ2094a0		

授業概要・目的	本気で公務員試験（国家公務員一般職、地方上級）や法科大学院（ロースクール）入試、司法試験予備試験等を目指す学生を対象に、目的達成のために不可欠な真の実力を養うことを目的として、問題演習等を行う。
到達目標	この授業を通じて学生には、公務員試験（国家公務員一般職、地方上級）や法科大学院（ロースクール）入試、司法試験予備試験等に合格するための、正しい学習方法を習得することが期待される。
授業方法と留意点	授業は、３人の専任教員（田中・笛木・北口）によるオムニバス方式で実施。授業範囲は、憲法・民法の既修範囲とし、具体的には、憲法（基本的人権）、憲法（統治機構）、物権法、担保物権法（不動産取引法において講義）、債権総論を扱う。
科目学習の効果（資格）	公務員試験（国家公務員一般職、地方上級）や法科大学院（ロースクール）入試、司法試験予備試験等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	資格試験　合格への道（１）	摂南大学法学部の卒業生である講師が法科大学院、司法試験に合格するまでのプロセスなどの経験、計画や戦略の立て方を話し、資格試験合格への道を具体的に意識できるようにする。	授業を進めながら検討する。
2	資格試験　合格への道（２）	摂南大学法学部の卒業生である講師が法科大学院、司法試験に合格するまでのプロセスなどの経験、計画や戦略の立て方を話し、資格試験合格への道を具体的に意識できるようにする。	授業を進めながら検討する。
3	民法１（行為能力）	わかりやすい具体例を用いながら、条文の適用場面をイメージできるようにする。学生が疑問に感じやすい部分について、その疑問を解消できるようにする。必要に応じて、簡単な問題を用意し、実際に問題を解く感覚を身につける。また、「問題を解くために必要な学習」ということを理解できるようにする。	授業を進めながら検討する。
4	民法２（意思表示の瑕疵（１））	わかりやすい具体例を用いながら、条文の適用場面をイメージできるようする。学生が疑問に感じやすい部分について、その疑問を解消できるようにする。必要に応じて、簡単な問題を用意し、実際に問題を解く感覚を身につける。また、「問題を解くために必要な学習」ということを理解できるようにする。	授業を進めながら検討する。
5	民法３（意思表示の瑕疵（２））	わかりやすい具体例を用いながら、条文の適用場面をイメージできるようにする。学生が疑問に感じやすい部分について、その疑問を解消できるようにする。必要に応じて、簡単な問題を用意し、実際に問題を解く感覚を身につける。また、「問題を解くために必要な学習」ということを理解できるようにする。	授業を進めながら検討する。
6	民法４（授業開始に当たって、代理その１）	授業開始に当たってのガイダンス、代理（表見代理を除く）	事前学習：手持ちの教科書及び事前に配布するレジュメにより、テーマについてあらかじめ学習しておくこと（２時間）。 事後学習：レジュメを再読して知識を確認した上で、課題を解く（２時間）。
7	民法５（代理その２）	表見代理	事前学習：手持ちの教科書及び事前に配布するレジュメにより、テーマについてあらかじめ学習しておくこと（２時間）。 事後学習：レジュメを再読して知識を確認した上で、課題を解く（２時間）。
8	民法６（物権総論）	物権とは、物権と債権との違い、物上請求権とは	事前学習：手持ちの教科書及び事前に配布するレジュメにより、テーマについてあらかじめ学習しておくこと（２時間）。 事後学習：レジュメを再読して知識を確認した上で、課題を解く（２時間）。
9	民法７（不動産物権変動）	民法１７６条、１７７条に関する諸問題	事前学習：手持ちの教科書及び事前に配布するレジュメにより、テーマについてあらかじめ学習しておくこと（２時間）。 事後学習：レジュメを再読して知識を確認した上で、課題を解く（２時間）。
10	民法８（動産物権変動）	即時取得、占有に関する諸問題	事前学習：手持ちの教科書及び事前に配布するレジュメにより、テーマについてあらかじめ学習しておくこと（２時間）。 事後学習：レジュメを再読して知識を確認した上で、課題を解く（２時間）。
11	憲法の論述式答案の書き方入門（０）（総論）	論述式答案の書き方，勉強方法，予習方法の説明	(ア)　事前学習：法学学習に関する事前配布資料に目を通す（2時間） (イ)　事後学習：配布課題（4時間）
12	憲法論述式答案の書き方入	薬局距離制限判決をモデルにした事例	(ア)　事前学習：職業の自由に関する資料に

		門（1）（職業選択の自由の事例）	演習	目を通し，課題に取り組む（2時間） （イ）　事後学習：授業中に取り組んだ演習課題の復習・答案の再作成（4時間）
	13	論述式討案の書き方入門（2）（プライバシー権の事例）	写真撮影等の可否が問題となる裁判例をモデルとした事例演習	（ア）　事前学習：プライバシー権に関する資料に目を通し，課題に取り組む（2時間） （イ）　事後学習：授業中に取り組んだ演習課題の復習・答案の再作成（4時間）
	14	論述式討案の書き方入門（3）（集会の自由の事例）	泉佐野市民会館事件判決／上尾市福祉会館事件判決をモデルとした事例演習	（ア）　事前学習：集会の自由に関する資料に目を通し，課題に取り組む（2時間） （イ）　事後学習：授業中に取り組んだ演習課題の復習・答案の再作成（4時間）
	15	論述式討案の書き方入門（4）（思想良心の自由の事例）	日の丸・君が代事件判決をモデルにした事例演習	（ア）　事前学習：思想・良心の自由に関する資料に目を通し，課題に取り組む（2時間） （イ）　事後学習：授業中に取り組んだ演習課題の復習・答案の再作成（4時間）

関連科目	憲法Ⅰ（人権総論）、憲法Ⅱ（人権各論）、憲法Ⅲ（統治機構）、民法ⅠA（総則）、民法ⅠB（総則）、民法ⅡA（物権法）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	事前課題又は小テスト６０％、授業に取り組む姿勢４０％とする。なお、具体的な評価方法は、各担当教員により異なるため、各教員の初回授業時に確認すること。
学生へのメッセージ	本講義は、高い目標を本気で目指す学生のための特別講義です。目標が高い分、学生に対する要求も厳しくなりますが、司法試験に合格した経験を有する３名の選任教員が、実務家・研究者としての経験を踏まえて行う質の高い講義は、予備校の授業とは一線を画するものと確信しています。本気の学生の受講を期待します。
担当者の研究室等	１１号館１０階　田中教授室 １１号館９階　笛木講師室
備考	本講義は、選抜制であり、３０名を上限とする。選抜テスト（試験範囲は、憲法（基本的人権）、憲法（統治機構）、民法総則、物権法、担保物権法、債権各論）で基準点に満たない者の受講は認めない。また。憲法・民法の該当年次までの基本科目（憲法（基本的人権）、憲法（統治機構）、民法総則、物権法、担保物権法、債権各論）については、履修が必要であり、以上の科目について、単位取得ないし履修登録をしていない者の受講は認めない。選抜テストの日程はＴｅａｍｓ上で告知するので、受講を希望する者は、必ず受験すること（やむを得ない理由で

科目名	実定法特別講義Ⅱ	科目名（英文）	Special Lecture on Positive Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中　敦.城内　明.笛木　淳
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ2095a0		

授業概要・目的	この授業では、本気で公務員試験（国家公務員一般職、地方上級）や法科大学院（ロースクール）入試、司法試験予備試験等を目指す学生を対象に、目的達成のために不可欠な真の実力を養うことを目的として、問題演習等を行う。
到達目標	この授業を通じて学生には、公務員試験（国家公務員一般職、地方上級）や法科大学院（ロースクール）入試、司法試験予備試験等に合格するための、正しい学習方法を習得することが期待される。
授業方法と留意点	授業は、３人の専任教員（笛木淳講師・田中敦教授・城内准教授）によるオムニバス方式で実施。授業範囲は、憲法・民法の既修範囲とし、具体的には、憲法（基本的人権）、憲法（統治機構）、債権各論、債権総論を扱う。学生には、公務員試験（国家公務員一般職、地方上級）や法科大学院（ロースクール）入試、司法試験予備試験等に合格するための、正しい学習方法を習得することが期待される。
科目学習の効果（資格）	公務員試験（国家公務員一般職、地方上級）や法科大学院（ロースクール）入試、司法試験予備試験等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	憲法論述式計案の書き方入門（５）（政教分離原則の事例）	津地鎮祭事件判決をモデルにした事例演習	（ア）　事前学習：信教の自由／政教分離原則に関する資料に目を通し，課題に取り組む（2時間） （イ）　事後学習：授業中に取り組んだ演習課題の復習・答案の再作成（4時間）
2	憲法論述式計案の書き方入門（６）（公務員の政治活動の事例）	堀越事件判決／世田谷事件判決をモデルにした事例演習	（ア）　事前学習：公務員の政治活動に関する資料に目を通し，課題に取り組む（2時間） （イ）　事後学習：授業中に取り組んだ演習課題の復習・答案の再作成（4時間）
3	憲法論述式計案の書き方入門（７）（財産権と損失補償の事例）	損失補償の要否が問題となった裁判例をモデルにした事例演習	（ア）　事前学習：財産権と損失補償に関する資料に目を通し，課題に取り組む（2時間） （イ）　事後学習：授業中に取り組んだ演習課題の復習・答案の再作成（4時間）
4	憲法論述式計案の書き方入門（８）（「法律上の争訟」性）	「法律上の争訟」性が問題となった判例をモデルにした事例演習	（ア）　事前学習：司法権に関する資料に目を通し，課題に取り組む（2時間） （イ）　事後学習：授業中に取り組んだ演習課題の復習・答案の再作成（4時間）
5	憲法論述式計案の書き方入門（９）（議院内閣制）	議院内閣制の問題に関する論述演習	（ア）　事前学習：議院内閣制に関する資料に目を通し，課題に取り組む（2時間） （イ）　事後学習：授業中に取り組んだ演習課題の復習・答案の再作成（4時間）
6	民法１　契約関係の成立	申込と承諾による契約の成立、契約の種類（典型契約と非典型契約、双務契約と片務契約等）	事前学習：手持ちの教科書及び事前に配布するレジュメにより、テーマについてあらかじめ学習しておくこと（２時間）。 事後学習：レジュメを再読して知識を確認した上で、課題を解く（２時間）。
7	民法２　契約関係の終了（契約の解除）	解除権の発生と消滅、契約解除の効果	事前学習：手持ちの教科書及び事前に配布するレジュメにより、テーマについてあらかじめ学習しておくこと（２時間）。 事後学習：レジュメを再読して知識を確認した上で、課題を解く（２時間）。
8	民法３　契約の効力	同時履行の抗弁権、危険負担（履行拒絶権）	事前学習：手持ちの教科書及び事前に配布するレジュメにより、テーマについてあらかじめ学習しておくこと（２時間）。 事後学習：レジュメを再読して知識を確認した上で、課題を解く（２時間）。
9	民法４　財産権移転に関する契約（売買、交換、贈与）	売買を中心とする財産権移転契約に関し、売主の責任（契約不適合責任）等について学習する。	事前学習：手持ちの教科書及び事前に配布するレジュメにより、テーマについてあらかじめ学習しておくこと（２時間）。 事後学習：レジュメを再読して知識を確認した上で、課題を解く（２時間）。
10	民法５　物の賃借についての契約（賃貸借等）	賃貸借を中心とする賃借型契約（賃貸借、使用貸借、消費貸借）、特に不動産賃貸借契約の性質（信頼関係破壊の法理、借地借家法）について学習する。	事前学習：手持ちの教科書及び事前に配布するレジュメにより、テーマについてあらかじめ学習しておくこと（２時間）。 事後学習：レジュメを再読して知識を確認した上で、課題を解く（２時間）。
11	民法６　債務者の責任財産の保全	債務者の責任財産の保全制度(債権者代位権、詐害行為取消権)について学習する。	事前学習：手持ちの教科書及び事前に配布するレジュメにより、テーマについてあらかじめ学習しておくこと（２時間）。 事後学習：レジュメを再読して知識を確認した上で、課題を解く（２時間）。
12	民法７　多数当事者の債権関係(1)	多数当事者の債権関係について、基礎知識を確認した上、連帯債務を中心に学習する。	事前学習：手持ちの教科書及び事前に配布するレジュメにより、テーマについてあらかじめ学習しておくこと（２時間）。 事後学習：レジュメを再読して知識を確認した上で、課題を解く（２時間）。
13	民法８　多数当事者の債権関係(2)	多数当事者の債権関係について、保証債務を中心に学習する。	事前学習：手持ちの教科書及び事前に配布するレジュメにより、テーマについてあらかじめ学習しておくこと（２時間）。 事後学習：レジュメを再読して知識を確認した上で、課題を解く（２時間）。
14	民法９　債権譲渡(1)	債権譲渡について、基本知識を確認した上、譲渡制限付債権の譲渡を中心に、学	事前学習：手持ちの教科書及び事前に配布するレジュメにより、テーマについてあらかじめ学習してお

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><td></td><td></td><td>習する。</td><td>くこと（２時間）。
事後学習：レジュメを再読して知識を確認した上で、課題を解く（２時間）。</td></tr>
<tr><td>15</td><td>民法１０　債権譲渡(2)</td><td>債権譲渡について、対抗要件を中心に学習する。</td><td>事前学習：手持ちの教科書及び事前に配布するレジュメにより、テーマについてあらかじめ学習しておくこと（２時間）。
事後学習：レジュメを再読して知識を確認した上で、課題を解く（２時間）。</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td>憲法Ⅰ（人権総論）、憲法Ⅱ（人権各論）、憲法Ⅲ(統治機構)、民法ⅠA(総則)、民法ⅠB(総則)、民法ⅡA(物権)、民法ⅢA(債権総論①)、民法ⅢB(債権総論②)、民法ⅣA(債権各論①)、民法ⅣB(債権各論②)</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>事前課題又は小テスト６０％、授業に取り組む姿勢４０％とする。なお、具体的な評価方法は、各担当教員により異なるため、各教員の初回授業時に確認すること。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>本講義は、高い目標を本気で目指す学生のための特別講義です。目標が高い分、学生に対する要求も厳しくなりますが、３名の専任教員が、実務家・研究者としての経験を踏まえて行う質の高い講義は、予備校の授業とは一線を画するものと確信しています。本気の学生の受講を期待します。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>１１号館１０階　田中教授室、城内准教授室
１１号館９階　笛木講師室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>本講義は、選抜制であり、３０名を上限とする。後期から参加する学生については、選抜テスト（試験範囲は、憲法Ⅰ（人権総論）、憲法Ⅱ（人権各論）、憲法Ⅲ(統治機構)、民法ⅠA(総則)、民法ⅠB(総則)、民法ⅡA(物権)、民法ⅢA(債権総論①)、民法ⅣA(債権総論①)）を実施し、基準点に満たない者の受講は認めない。また。憲法・民法の該当年次までの基本科目については、履修が必要である。選抜テストの日程はＴｅａｍｓ上で告知するので、受講を希望する者は、必ず受験すること（やむを得ない理由で受験できない場合は、担当教員ま</td></tr>
</table>

科目名	実定法上級講義	科目名（英文）	Comprehensive Lecture on Positive Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	松島　裕一.前田　剛志
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ4096a0		

授業概要・目的	この実定法上級講義の講義では、法政キャリア特別講義と同様に公務員試験や法科大学院（ロー・スクール）入試などに向けた実践的な知識の習得を目的にしています。直前期にあたることになりますので、短期間で集中的に知識の獲得を目指します。受講生の要望を随時受け入れます。
到達目標	この授業を通じて学生には、公務員試験や法科大学院入学試験などの問題演習を通じて、各種試験合格に必要となる高度に専門的な法的知識を習得するようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義は、受講生の目標に応じた形で進めます。詳細は第１回の授業時に確認させていただきます。いずれにせよ、自分で予習復習することが必要になります。
科目学習の効果（資格）	公務員試験や法科大学院（ロー・スクール）入試の合格を目指す学習の一助になればと考えています。また、行政書士や法学検定試験、宅地建物取引士などに役立つ知識の獲得にも対応できるよう考えています。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義の全体像：ガイダンス	授業の進め方や全体像、試験対策に向けての一般的心構えなどの概説を行います。	各自の受験する試験の内容を具体的に確認しておくこと（約３０分）。
2	憲法①	精神的自由 思想良心の自由、表現の自由、信教の自由、集会・結社の自由など 特に、違憲審査基準の理解	精神的自由に関する違憲審査基準、関連する判例を確認し、見直しておくこと（約１時間）。
3	憲法②	その他の人権 経済的自由、幸福追求権、平等権、社会権など 特に、違憲審査基準の理解（精神的自由との比較）	経済的自由で用いられる審査基準と精神的自由で用いられる審査基準の違いを確認し、見直しておくこと（約１時間）。
4	憲法③	統治機構 国会、内閣、裁判所、財政・地方自治、憲法保障など	国会・内閣・裁判所の権能を確認し、見直しておくこと（約１時間）。
5	民法①	民法総則 意思表示、代理、時効など 特に、心裡留保・虚偽表示・錯誤、表見代理	心裡留保・虚偽表示・錯誤、表見代理の内容及び関連する判例を確認し、見直しておくこと（約１時間）。
6	民法②	物権 占有権、所有権、用益物権、担保物権など 特に民法１７７条、抵当権	物権変動の基本原則、抵当権の内容及び関連する判例を確認し、見直しておくこと（約１時間）。
7	民法③	債権総論 債務不履行、責任財産の保全、多数当事者の債権・債務関係、債権譲渡、債権の消滅など 特に、４１５条・４１６条、債権者代位権・詐害行為取消権	債務不履行の一般原則について、見直しておくこと（約１時間）。
8	民法④	債権各論① 契約の成立、契約の効力、契約各論①など 特に、解除、売買	契約の解除、売買、賃貸借、請負の内容及び関連する判例を確認し、見直しておくこと（約１時間）。
9	民法⑤	債権各論② 契約各論②、事務管理・不当利得・不法行為など 特に、賃貸借、不法行為	事務管理、不当利得、不法行為の内容及び関連する判例を確認し、見直しておくこと（約１時間）。
10	民法⑥	親族・相続 婚姻、親子、相続など	婚姻、養子、相続の内容及び関連する判例を確認し、見直しておくこと（約１時間）。
11	行政法①	行政法総論、行政組織法など 法律による行政の原理、行政主体、地方自治など	法律による行政の原理の内容を確認し、見直しておくこと（約１時間）。
12	行政法②	行政作用法 行政行為、行政上の強制手段、行政指導、行政手続など 特に、行政行為の種類	行政行為の種類、内容を見直しておくこと（約１時間）。
13	行政法③	行政救済法 行政不服申立て、行政事件訴訟、国家賠償、損失補償など 特に、取消訴訟	行政事件訴訟法に規定されている訴訟類型の要件を確認し、見直しておくこと（約１時間）。
14	その他の実定法 刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法など	憲法、民法、行政法以外で試験に関連する科目	刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法などの基本概念を見直しておくこと（約１時間）。
15	授業全体のまとめ	これまでの講義で学習してきた問題を復習したり、あまり触れられなかった問題を補足したいと考えています。	今まで学んだ部分で自分自身がわからなかった部分を見直しておくこと（約３０分）。

関連科目	直接的には、各種実定法特別講義講義と関連しますが、憲法、民法、行政法など実定法の科目とも関連しています。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
評価方法 （基準）	毎回の課題などの提出で評価し（１００％）。期末試験は実施しません。 ただ、毎回の課題提出が前提ですので、合理的理由のない課題の未提出が一定回数を超えた場合、単位取得を認めないことがあります。
学生への メッセージ	この講義では、各種の実定法特別講義と連続した形で、公務員試験や法科大学院（ロー・スクール）入学試験の対策を行いたいと考えています。また、行政書士、宅地建物取引士など資格試験の対策も考えております。直前期にあたるため、受講生の皆さんの具体的な要望にできる限り応じられるようにしたいと考えています。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　松島講師室
備考	この講義は「法律学特修コース」の学生の履修を想定しているため、かなりの量の予習･復習が必要となります。また、定員の上限を定める場合があります。「法律学特修コース」以外の学生で履修を希望する者は、履修期間内にあらかじめ担当者に相談してください。確認テストの解説については、授業内で行う。

科目名	憲法応用講義	科目名（英文）	Advanced Lecture of Constitutional Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	浮田　徹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3097a0		

授業概要・目的	憲法概論、憲法 I(基本的人権)、憲法 II(統治機構)の履修を前提として、憲法のさらなる発展的な理解を得ることを目的とします。 取り扱う領域は基本的人権が中心となります。 日本及び外国の判例を素材として、講義形式での解説、学生による報告を中心に行います。
到達目標	この授業を通じて学生には、外国の憲法の考え方と比較しつつ日本の憲法理論の理解を深められるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義、報告、ディスカッションを中心に行います。 少人数を想定しています。
科目学習の効果（資格）	科目に憲法が設定されている資格試験に対応する力をつけます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	概要の説明、報告担当の決定など	事前：なし 事後：課題ペーパー(90 分)
2	人権総論	人権理論の復習と解説	事前：配布プリントを読む(20 分) 事後：課題ペーパー(90 分)
3	裁判所による違憲審査について	アメリカ型の違憲審査基準とドイツにおける三段階審査の比較など	事前：配布プリントを読む(20 分) 事後：課題ペーパー(90 分)
4	個人の尊厳(1)	生命・身体の権利に関する判例について報告・解説・議論を行う	事前：配布プリントを読む(20 分) 事後：課題ペーパー(90 分)
5	個人の尊厳(2)	生命・身体の権利に関する判例について報告・解説・議論を行う	事前：配布プリントを読む(20 分) 事後：課題ペーパー(90 分)
6	法の下の平等(1)	法の下の平等に関する判例について報告・解説・議論を行う	事前：配布プリントを読む(20 分) 事後：課題ペーパー(90 分)
7	法の下の平等(2)	差別的取扱いに関する判例について報告・解説・議論を行う	事前：配布プリントを読む(20 分) 事後：課題ペーパー(90 分)
8	婚姻・家族に関する保護と権利	婚姻の自由に関する判例について報告・解説・議論を行う	事前：配布プリントを読む(20 分) 事後：課題ペーパー(90 分)
9	表現の自由(1)	意見表明の自由に関する判例について報告・解説・議論を行う	事前：配布プリントを読む(20 分) 事後：課題ペーパー(90 分)
10	表現の自由(2)	報道機関の自由に関する判例について報告・解説・議論を行う	事前：配布プリントを読む(20 分) 事後：課題ペーパー(90 分)
11	信教の自由	信教の自由に関する判例について報告・解説・議論を行う	事前：配布プリントを読む(20 分) 事後：課題ペーパー(90 分)
12	職業の自由(1)	職業に対する規制に関する判例について報告・解説・議論を行う	事前：配布プリントを読む(20 分) 事後：課題ペーパー(90 分)
13	職業の自由(2)	職業に対する規制に関する判例について報告・解説・議論を行う	事前：配布プリントを読む(20 分) 事後：課題ペーパー(90 分)
14	財産権(1)	所有権に関する判例について報告・解説・議論を行う	事前：配布プリントを読む(20 分) 事後：課題ペーパー(90 分)
15	財産権(2)	公用収容に関する判例について報告・解説・議論を行う	事前：配布プリントを読む(20 分) 事後：課題ペーパー(90 分)

関連科目	憲法概論、憲法 I(基本的人権)、憲法 II(統治機構)

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	各回に出される課題ペーパー(40%)、最終のレポート（60%）により評価します。
学生へのメッセージ	内容は難しくなりますが頑張りましょう。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　浮田准教授室
備考	課題のペーパーについては次の講義の最初に解説を行います。

科目名	民法応用講義Ⅰ	科目名（英文）	Advanced Civil Law Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	城内　明
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3099a0		

授業概要・目的	公務員試験(地方上級・国家公務員一般職等)や、司法試験・司法書士・行政書士・宅建等各種資格試験を視野に、問題演習を通じて民法の知識の定着を図ります。
到達目標	この授業を通じ、学生には、債権法分野について、公務員試験や各種資格試験を突破できる実力をつけることが期待されます。
授業方法と留意点	本授業では、債権法(債権総論・債権各論)の全範囲を学習済みであることを前提に、問題演習を行います。 受講生は、Teams 上にアップした当日授業分の課題をプリントアウトし、自宅で受験した上、授業に臨んでください。授業では、学生に、解答及びその理由を説明してもらいながら、問題解説を行います。各授業後、オンラインで確認テストを実施し、この点数の合計により成績評価します。 授業中に解説するといっても、15 回で債権法の全範囲をカバーするわけですから、基本事項についていちいち講義している時間はありません。課題・確認テ
科目学習の効果（資格）	公務員試験、宅建、司法試験(ロースクール)、司法書士試験、行政書士試験等。民法が受験科目となる試験全般。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	実力テスト	実力テスト・希望聴取	民法の既習内容について、復習してくること。6 時間
2	債権総論① 債権の目的・債権の効力(1)	問題演習	授業範囲につき、事前に予習し、課題を解いてくること。3 時間
3	債権総論② 債権の効力(2)	問題演習	授業範囲につき、事前に予習し、課題を解いてくること。3 時間
4	債権総論③ 多数当事者の債権関係(1)	問題演習	授業範囲につき、事前に予習し、課題を解いてくること。3 時間
5	債権総論④ 多数当事者の債権関係(2)	問題演習	授業範囲につき、事前に予習し、課題を解いてくること。3 時間
6	債権総論⑤ 債権譲渡・債務引受(1)	問題演習	授業範囲につき、事前に予習し、課題を解いてくること。3 時間
7	債権総論⑥ 債権譲渡・債務引受(2)	問題演習	授業範囲につき、事前に予習し、課題を解いてくること。3 時間
8	債権総論⑦ -債権の消滅-	問題演習	授業範囲につき、事前に予習し、課題を解いてくること。3 時間
9	債権各論① -契約の成立・契約の効力-	問題演習	授業範囲につき、事前に予習し、課題を解いてくること。3 時間
10	債権各論② -契約の解除・定型約款-	問題演習	授業範囲につき、事前に予習し、課題を解いてくること。3 時間
11	債権各論③ -贈与・売買-	問題演習	授業範囲につき、事前に予習し、課題を解いてくること。3 時間
12	債権各論④ -消費貸借・使用貸借・賃貸借(1)-	問題演習	授業範囲につき、事前に予習し、課題を解いてくること。3 時間
13	債権各論⑤ -賃貸借(2)-	問題演習	授業範囲につき、事前に予習し、課題を解いてくること。3 時間
14	債権各論⑥ -請負・委任･組合･事務管理・不当利得-	問題演習	授業範囲につき、事前に予習し、課題を解いてくること。3 時間
15	債権各論⑦ -契約法まとめ・不法行為-	問題演習	授業範囲につき、事前に予習し、課題を解いてくること。3 時間

関連科目	民法（財産法）の全科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	2 回目以降の各回授業後、オンラインで確認テストを実施します(7 点×14 回)。この合計点に授業アンケート(2 点)を加えた点数により成績評価します(100%)。
学生へのメッセージ	民法は、公務員試験や各種資格試験を突破するために鍵となる科目です。 3 年前期で、債権総論・各論を徹底的に学び直し、試験レベルの実力をつけることができれば、難関試験の突破も現実的な目標となります。大変とは思いますが、やる気のある学生のチャレンジをお待ちします。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　城内准教授室
備考	

科目名	民法応用講義Ⅱ	科目名（英文）	Advanced Civil Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大川　謙蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3100a0		

授業概要・目的	民法に関連する各講義で学んだ基礎的な知識をもとに、各種資格試験棟で取り上げられている過去問を使用しつつ、民法の判例および法理論を多角的に検討する予定である。 本講義では、民法総則を扱う予定ではあるが、応用講義Ⅰで取り上げられたものとは異なる範囲で検討を行う。
到達目標	この講義を通じて学生には、民法を様々な角度から検討を行い、民法の基本的な制度・概念の理解を正確できるようになることが期待される。基本を押さえなければ、応用・発展的問題についての理解も進まないからである。
授業方法と留意点	公務員試験等の過去問を中心に取り上げ、法制度の基本的な理解から応用的・発展的な内容についても検討していくことを考えている。細かな点は学生の目標や能力等に合わせて、調整する予定である。 本講義は、毎回ゼミ形式をとっており、毎回参加者の発言を求めている。また、一定の民法に関する知識を有する（受講したことがある）ことを前提とした講義を行うため、初学者を基本的には対象としていない点を理解したうえで受講すること。
科目学習の効果（資格）	民法の関連する試験全般

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	講義の内容、学生の目標等の確認。	民法の全体を復習しておくこと。
2	意思表示①	心裡留保・虚偽表示制度の確認。	心裡留保・虚偽表示制度部分のレジュメ・配布資料の確認と内容整理を行ってください。予復習 90 分が目安です。
3	意思表示②	錯誤制度の確認。	錯誤制度部分のレジュメ・配布資料の確認と内容整理を行ってください。予復習 90 分が目安です。
4	意思表示③	詐欺・強迫制度の確認。	詐欺・強迫制度部分のレジュメ・配布資料の確認と内容整理を行ってください。予復習 90 分が目安です。
5	権利能力①	自然人の権利能力制度の確認。	自然人の権利能力制度部分のレジュメ・配布資料の確認と内容整理を行ってください。予復習 90 分が目安です。
6	権利能力②	法人制度の確認。	法人制度部分のレジュメ・配布資料の確認と内容整理を行ってください。予復習 90 分が目安です。
7	代理①	代理制度の全般を確認。	代理制度部分のレジュメ・配布資料の確認と内容整理を行ってください。予復習 90 分が目安です。
8	代理②	無権代理の問題を確認。	無権代理制度部分のレジュメ・配布資料の確認と内容整理を行ってください。予復習 90 分が目安です。
9	代理③	無権代理と相続問題の確認。	無権代理と相続問題部分のレジュメ・配布資料の確認と内容整理を行ってください。予復習 90 分が目安です。
10	代理④	表見代理制度の確認。	表見代理制度部分のレジュメ・配布資料の確認と内容整理を行ってください。予復習 90 分が目安です。
11	条件・期限・期間	条件・期限・期間の内容の確認。	条件・期限・期間制度部分のレジュメ・配布資料の確認と内容整理を行ってください。予復習 90 分が目安です。
12	時効①	時効全般について確認。	時効全般部分のレジュメ・配布資料の確認と内容整理を行ってください。予復習 90 分が目安です。
13	時効②	取得時効制度の確認	取得時効制度部分のレジュメ・配布資料の確認と内容整理を行ってください。予復習 90 分が目安です。
14	時効③	消滅時効制度の確認。	消滅時効制度部分のレジュメ・配布資料の確認と内容整理を行ってください。予復習 90 分が目安です。
15	確認テスト	全体の復習を兼ねてテストを行う予定。	レジュメ・配布資料全体の確認と内容整理を行ってください。予復習 90 分が目安です。

関連科目	民法系科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	例年、少人数でのゼミ的な形で講義を行っていることから、講義の取り組み（80%）とそこでの回答内容（20%）で採点いたします（80%）。 期末テストは行いません。詳細については講義で確認を行うこと。
学生へのメッセージ	民法応用講義Ⅰの内容と重複しないようにする予定ではありますが、多少重複する部分も生じるかもしれません。 詳細は、初回に確認を行います。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　大川准教授室
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の３つから成り立っています。それぞれにつき、90 分を確保して学習をする必要があります。しかし、予習・復習については、各講義の内容により多少の違いが出てきますので、必ず講義でそれらの対象を聞くようにしてください。 事前・事後学習内容について、講義で出された課題及び指摘部分の内容については、各対応時の講義で確認・解説を行います。

科目名	民事訴訟法応用講義	科目名（英文）	Advanced Civil Procedure
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	萩原　佐織
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3102a0		

授業概要・目的	民法等により認められた権利が害され、私人間に紛争が生じた場合、その紛争解決手段として用いられるのが民事訴訟手続である。当該講義は、紛争解決手段としての民事訴訟手続につき、前期の民事訴訟法で学んだ知識をもとに、それらを発展・応用する能力を培うことを目的とする。紛争の対象として取り扱うのが民法上の権利であるため、民法全般の復習・発展に役立つ。また、「実体法である民法」と「手続法である民事訴訟法を」含めた『民事法』としての総合的理解を図り、それらの知識を深めることを、目的とする。
到達目標	前期の民事訴訟法では、民事法の中における民事訴訟法が果たす役割や民事裁判の全体的な流れについて学んだ。そこでは、当事者（原告・被告）がともに単数（1 人）であることを前提としていたが、本講義を通じて学生には、当事者の一方または双方が複数人である多数当事者訴訟についても学び、例えば新聞等でもよく耳にする団体訴訟等についてその仕組みと機能について理解を深めることが期待される。 また、判決の効力、証明責任や証拠提出命令、家庭紛争（家事審判・調停・人事訴訟）など、前期の民事訴訟法では触れられなかったテーマについても掘り下げ、それぞれの手続が、どのような機能と役割を担っているのか、実際の事案に即して考察し、民事訴訟手続に関する理解を深めることが記載される。
授業方法と留意点	【事前準備・事前学習】 ①毎回 Teams の講義日付チャネルに各回の講義内容・参照資料や動画等が記載されているので、それを参照して各自で予習すること ②講義は、事前に Teams 上にアップされているレジュメ（約 10 頁：より具体的に理解するため「判例教室」としての判例を含む）をプリントアウトして持参し、六法を用いて行う。分かり易いようにレジュメはカラーにしてあるが、白黒で印刷しても構わない。毎回、レジュメでは、主要個所が括弧空けにされているので、事前学習としてレジュメ・教科書等の該当箇所や関連判例を読み、そ
科目学習の効果（資格）	・紛争解決手段である民事訴訟手続のしくみが理解できるようになる。 ・大学院ならびに法科大学院等への進学、裁判所職員（事務官・書記官）、司法書士、法検スタンダードコースなどの受験に対応できる知識・応用力を養う。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス ・現在の裁判	・授業の進め方、受講上の注意、評価方法等について ・現在の裁判における状況 ・時事問題	事前学習】①毎回 Teams の講義日付チャネルに各回の講義内容・参照資料や動画等が記載されているので、それを参照して各自で予習すること（以下同様）、②Teams からレジュメをダウンロード・プリントアウトして読む。予めプリントアウトしたレジュメを講義に持参すること（以下同様）、③教科書　該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配付資料・クイズ等の復習 （事前事後学習に要する時間　各2時間､以下同様）
2	・民事訴訟の基本原則 ・訴訟の終了	・当事者の処分権主義 ・弁論主義 ・訴えの取下げ ・請求の放棄/認諾 ・訴訟上の和解	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ､③Teamsの講義日付チャネルにあるFormsクイズに回答し送信すること（以下同様）、④判例：レジュメ末尾にある「判例教室」の事案を読み争点・相関関係等を理解すること（以下同様）、⑤教科書　第１編　第２章、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題を行い提出（以下同様）、③講義内等でなされるフィードバックに基づく前回小テスト・課題の復習（以下同様）、④講義で学んだ判例解説を判例百選等で読み込
3	証拠Ⅰ ・自由心証主義 ・文書提出命令	・自由心証主義とは？ ・文書提出命令	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 （各 2 時間）
4	証拠Ⅱ ・立証困難の克服 ･証明がつかないときはどうなるのか？	・相当な損害額の認定 ・証明責任とは何か？ ・証明責任の分配 ・証明責任の転換	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 （各 2 時間）
5	判決Ⅰ ・判決の効力とは？	・既判力とは？ ・既判力の作用	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 （各 2 時間）
6	判決Ⅱ ・どの時点を基準にするか？	・基準時 ・既判力の時的限界	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、

				③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 （各 2 時間）
	7	判決Ⅲ ・判決の効力は何に対して及ぶか？	・訴訟物による限界 ・既判力の客観的範囲 ・相殺の抗弁 ・争点効	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 （各 2 時間）
	8	判決Ⅳ ・判決の効力は誰に対して及ぶか？	・既判力の及ぶ人の範囲 ・既判力の主観的範囲 ・口頭弁論終結後の承継人 ・反射効	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 （各 2 時間）
	9	判決Ⅴ ・一部請求 ・一部判決	・全部請求と一部請求 ・一部請求判決と残部請求 ・全部判決と一部判決 ・後遺症との関係（標準事後の事情変更）	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 （各 2 時間）
	10	複数請求訴訟 ・訴訟物論と請求権競合	・単純併合 ・予備的/選択的併合 ・訴えの変更 ・反訴 ・中間確認の訴え	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 （各 2 時間）
	11	複数当事者訴訟 I ・当事者の交替 ・訴訟承継	・当然承継 ・参加承継/引受承継 ・任意的当事者変更	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 （各 2 時間）
	12	複数当事者訴訟Ⅱ ・当事者が多数となる訴訟	・通常共同訴訟 ・必要的共同訴訟 ・主観的追加的/予備的併合 ・同時審判申出訴訟	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 （各 2 時間）
	13	複数当事者訴訟Ⅲ ・当事者以外が関与する訴訟	・補助参加 ・訴訟告知	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 （各 2 時間）
	14	複数当事者訴訟Ⅳ ・第三者による当事者としての訴訟参加	・独立当事者参加	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 （各 2 時間）
	15	まとめ	・復習 ・時事問題 ・最新のテーマ/判例	【事前学習】①講義内容確認・参照資料・動画、②レジュメ、③Forms クイズ、④判例、⑤教科書 該当箇所、 【事後学習】①講義におけるレジュメ・配布資料・クイズ等の復習、②Forms 上の小テスト又は課題、③前回小テスト・課題の復習、④判例解説、 （各 2 時間）

関連科目	民法全般、民事訴訟法、民事保全・執行法、倒産法、国際私法、国際取引法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	有斐閣ストゥディア　民事訴訟法［第 3 版］	安西・安達・村上・畑	有斐閣
2			
3			

<table>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>民事訴訟法　判例百選〔第５版〕</td><td>高橋・高田・畑編</td><td>有斐閣</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>10 回程度を予定として講義後に課す Teams 上における記述式課題又は小テストにおいて総合評価する。また、講義への積極的な姿勢による加点（講義内で行う課題等）や、講義中の態度による減点を考慮する。なお事前学習を目的とする Forms クイズ等への回答に成績評価の対象となる課題点がつくことがありますので、全員必ず回答するようにしてください。詳細は講義にて。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>講義中における私語・携帯等の使用については、他の学生の迷惑になるので、厳しく対処します。六法は講義で常に使用するので、必ず持参すること。紛争解決手段である民事訴訟手続を学ぶことで、既に学んだ民法全般の知識をリフレッシュさせてください。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>11 号館９階　萩原准教授室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>小テスト・課題等の返却及びそのフィードバックは、後日、添削・評価してから、講義内又は Teams 上において行うものとする。 適宜、Teams 上又は講義内において指導する。</td></tr>
</table>

科目名	刑法応用講義Ⅰ	科目名（英文）	Advanced Criminal Law I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小野　晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3103a0		

授業概要・目的	2回生配当の刑法総論において、十分な時間を割いて取り扱うことができなかった応用的論点（修正された構成要件論）について、最新の判例と学説動向を踏まえながら解説を行うとともに、こうした問題をテーマにした公務員試験（裁判所事務官・労働基準監督官・地方公務員）、司法書士および司法試験等の客観式問題を確実に正解できる力を身につけてもらうことを目的とする。
到達目標	この講義を通じて学生には、 「・未遂犯および共犯の処罰根拠を説明できる ・刑法総論をテーマとした事例における論点（問題の争点）を抽出し、それに対する判例や通説的見解の内容を説明できる ・各種公務員試験や国家試験で必要とされる刑法総論に関する知識を修得できる」 ようになることが期待される。
授業方法と留意点	・講義形式で行う（社会情勢上、その変更が必要な場合は遅滞なく連絡する）。 ・本講義は、ICTツールとしてMicrosoft社のteamsを用いる。 ・課題提示や資料配布などはMicrosoft社teamsを通じて行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。 ・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。 留意点：毎回出席することで、問題を解く際の頭の働
科目学習の効果（資格）	司法試験や法科大学院入学試験の準備、裁判所事務官・労働基準監督官・地方公務員採用試験など。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	講義の進め方の説明	教科書の入手 事前：教科書の単独正犯に関する構成要件論をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：教科書の単独正犯に関する章末問題を解くこと（2時間）
2	未遂犯	予備犯と未遂犯 未遂犯の処罰根拠 実行の着手	事前：障害未遂をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：障害未遂を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
3	不能犯	不能犯をめぐる近時の判例・学説動向	事前：不能犯をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：不能犯を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
4	中止未遂	中止未遂をめぐる近時の判例・学説動向	事前：中止未遂をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：中止未遂を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
5	共犯の基礎	狭義の共犯と広義の共犯 共犯の処罰根拠 共犯の従属性	事前：共犯の処罰根拠論をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：共犯の処罰根拠論を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
6	共同正犯１	実行共同正犯	事前：実行共同正犯をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：実行共同正犯を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
7	共同正犯２	共謀共同正犯	事前：共謀共同正犯をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：共謀共同正犯を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
8	共同正犯３	過失の共同正犯	事前：過失の共同正犯をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：過失の共同正犯を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
9	教唆犯と幇助犯	狭義の共犯をめぐる近時の学説・判例動向	事前：教唆犯と幇助犯をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：教唆犯と幇助犯を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
10	共犯をめぐる諸問題１	片面的共犯と承継的共犯をめぐる近時の学説・判例動向	事前：片面的共犯と承継的共犯をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：片面的共犯と承継的共犯を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
11	共犯をめぐる諸問題２	共犯関係からの離脱・共犯の中止犯をめぐる近時の学説・判例動向	事前：共犯からの離脱と共犯の中止をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：共犯からの離脱と共犯の中止を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
12	共犯をめぐる諸問題３	共犯の錯誤、共犯と緊急行為をめぐる近時の学説・判例動向	事前：共犯の錯誤をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：共犯の錯誤を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
13	共犯と身分	共犯と身分をめぐる近時の学説・判例動向	事前：共犯と身分をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：共犯と身分を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
14	罪数	一罪と数罪 法条競合 包括一罪 科刑上一罪 併合罪	事前：罪数論をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：罪数論を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
15	講義のまとめ	重要事項の総復習	事前：未遂犯論と共犯論をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：未遂犯論と共犯論を見直し、章末問題を解くこと（2時間）

関連科目	刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策、現代社会と刑事法など
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	刑法総論（有斐閣ストゥディア）	内田幸隆＝杉本一敏	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	刑法総論（第２版）	佐久間　修	成文堂
2	判例集および補助教材について開講時に指示する		
3			

評価方法 （基準）	・形成的評価を行うため、各回講義後に、Microsoft 社 teams を通じて Microsoft　forms から課題を配信する。各回の課題の得点を合算して評価対象とする（講義の理解度 5%＋課題の得点 95%）。定期試験は実施しない。
学生への メッセージ	・刑法が好きな学生や上記各種試験等の準備を要する学生の履修を歓迎する。ただし、少なくとも刑法総論については単位取得または同時履修しておくことが望ましい。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　小野教授室
備考	課題に対するコメントは次回講義または teams を通じて行う。

科目名	刑法応用講義Ⅱ	科目名（英文）	Advanced Criminal Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野　晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3104a0		

授業概要・目的	2回生後期配当の刑法各論において十分に時間を割いて取り扱うことができなかった応用的論点（財産犯論）について、最新の判例と学説動向を踏まえながら解説を行うとともに、こうした問題をテーマにした公務員試験（裁判所事務官・労働基準監督官・地方公務員）、司法書士および司法試験等の客観式問題を確実に正解できる力を身につけてもらうことを目的とする。
到達目標	この講義を通じて学生には、 「・各種の財産犯について、その共通点と相違点を説明できる ・財産犯をテーマとした事例における論点（問題の争点）を抽出し、それに対する判例や通説的見解の内容を説明できる ・各種公務員試験や国家試験で必要とされる財産犯に関する知識を修得できる」 ようになることが期待される。
授業方法と留意点	・講義形式で行う（社会情勢上、その変更が必要な場合は遅滞なく連絡する）。 ・本講義は、ICT ツールとして Microsoft 社の teams を用いる。 ・課題提示や資料配布などは Microsoft 社 teams を通じて行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。 ・近時、刑事法の改正が相次いでいるので、最新の六法（有斐閣『ポケット六法』や『判例六法』、または、三省堂『デイリー六法』もしくは『模範小六法』の最新版がのぞましい）を
科目学習の効果（資格）	司法試験や法科大学院入学試験の準備、裁判所事務官・労働基準監督官・地方公務員採用試験など。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	講義の進め方の説明	初回までに教科書を入手しておくこと。 事前：刑法各論の概要と保護法益論をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：刑法各論の概要と保護法益論を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
2	財産犯総論	財産犯の分類 財物の意義 財産上の利益	事前：財産犯総論をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：財産犯総論を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
3	窃盗罪１	窃取の意義	事前：窃取の意義をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：窃取の意義を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
4	窃盗罪２	不法領得の意思 窃盗罪をめぐる近時の判例・学説動向	事前：不法領得の意思をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：不法領得の意思を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
5	強盗罪１	強盗の要件	事前：強盗の要件論をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：強盗の要件論を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
6	強盗罪２	事後強盗をめぐる近時の学説・判例動向	事前：事後強盗をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：事後強盗を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
7	強盗罪３	強盗殺人・強盗致死罪ほか	事前：強盗殺人をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：強盗殺人を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
8	詐欺罪１	詐欺罪の要件	事前：詐欺罪の要件論をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：詐欺罪の要件論を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
9	詐欺罪２	詐欺罪をめぐる近時の学説・判例動向	事前：詐欺罪の学説動向をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：詐欺罪の学説動向を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
10	恐喝罪	恐喝罪をめぐる近時の学説・判例動向	事前：恐喝罪の要件をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：恐喝罪の要件を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
11	横領罪	横領罪をめぐる近時の学説・判例動向	事前：横領罪の要件をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：横領罪の要件を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
12	背任罪	背任罪をめぐる近時の学説・判例動向	事前：背任罪の要件をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：背任罪の要件を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
13	横領と背任の区別	背任罪をめぐる近時の学説・判例動向 横領と背任の区別	事前：横領と背任の区別をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：横領と背任区別を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
14	盗品等関与罪 器物損壊罪ほか	盗品等関与罪をめぐる近時の学説・判例動向	事前：盗品等関与罪をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：盗品等関与罪を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
15	まとめ	重要事項の総復習	事前：財産犯論全体をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：財産犯論全体を見直し、章末問題を解くこと（2時間）

関連科目	・刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策、現代社会と刑事法など ・財産犯の理解には、民法の知識が必要である。 とくに、典型担保、非典型担保、債権総論、契約法、不当利得については本学で開講されている民法諸科目を履修していることが望ましい。

<table>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>刑法各論（第2版）</td><td>佐久間　修</td><td>成文堂</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>判例集および補助教材について開講時に指示する</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>・形成的評価を行うため、各回講義後に、Microsoft 社 teams を通じて Microsoft　forms から課題を配信する。各回の課題の得点を合算して評価対象とする（講義の理解度 5%＋課題の得点 95%）。定期試験は実施しない。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>・刑法が好きな学生や上記各種試験等の準備を要する学生の履修を歓迎する。ただし、少なくとも刑法各論については単位取得または同時履修しておくことが望ましい。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>11 号館 10 階　小野教授室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>課題に対するコメントは次回講義または teams を通じて行う。</td></tr>
</table>

科目名	刑事訴訟法応用講義	科目名（英文）	Advanced Criminal Procedure
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	島田　良一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3105a0		

授業概要・目的	我が国の刑事手続に関する応用的問題について、学説・判例の動向を踏まえながら解説する。
到達目標	この授業を通じて学生には、我が国の刑事手続に関する専門的知識を有するとともに、そうした知識を活用し、応用的問題に対する解決案を立案できる能力を修得することが期待される。
授業方法と留意点	●授業方法 授業担当者作成にかかるレジュメに基づいて授業を進めていく。 なお、受講生が僅少の場合、受講生と相談の上、ゼミ形式で授業を行う可能性もあり。 ●留意点 本授業は「応用講義」であることから、受講生が刑事訴訟法のみならず刑事法全般について基本的知識を修得していることを前提として授業を進めていく。したがって、本授業を受講しようとする学生に対しては、刑事訴訟法や刑法における基本概念を理解していることはもちろんのこと、学説や判例についてもある程度通じていることが要求される。それゆえ、こうし
科目学習の効果（資格）	司法試験、法科大学院入学試験、裁判所事務官採用試験など。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	講義の進め方の説明や刑事訴訟法の勉強の仕方など	レジュメを通じて授業内容を振り返り、必要があれば「参考書」記載の文献も使って、重要論点を再確認すること（約１時間）
2	捜査に関する一般規範	捜査比例の原則、強制処分法定主義、任意捜査の原則、令状主義など	レジュメを通じて授業内容を振り返り、必要があれば「参考書」記載の文献も使って、重要論点を再確認すること（約１時間）
3	職務質問	所持品検査、自動車検問など	レジュメを通じて授業内容を振り返り、必要があれば「参考書」記載の文献も使って、重要論点を再確認すること（約１時間）
4	逮捕・勾留①	事件単位の原則、一罪一逮捕一勾留の原則、再逮捕・再勾留の禁止、別件逮捕・勾留など	レジュメを通じて授業内容を振り返り、必要があれば「参考書」記載の文献も使って、重要論点を再確認すること（約１時間）
5	逮捕・勾留②	前回の続き	レジュメを通じて授業内容を振り返り、必要があれば「参考書」記載の文献も使って、重要論点を再確認すること（約１時間）
6	被疑者取調べ	身柄不拘束及び身柄拘束中の被疑者の取調べ	レジュメを通じて授業内容を振り返り、必要があれば「参考書」記載の文献も使って、重要論点を再確認すること（約１時間）
7	捜索・押収	捜索・押収に関する諸問題	レジュメを通じて授業内容を振り返り、必要があれば「参考書」記載の文献も使って、重要論点を再確認すること（約１時間）
8	その他の捜査方法	写真・ビデオ撮影、GPS 装置の使用、おとり捜査、コントロールド・デリヴァリーなど	レジュメを通じて授業内容を振り返り、必要があれば「参考書」記載の文献も使って、重要論点を再確認すること（約１時間）
9	公訴提起	訴因、起訴状一本主義、予断排除の原則など	レジュメを通じて授業内容を振り返り、必要があれば「参考書」記載の文献も使って、重要論点を再確認すること（約１時間）
10	訴因・罰条の変更①	訴因変更の可否・許否・要否など	レジュメを通じて授業内容を振り返り、必要があれば「参考書」記載の文献も使って、重要論点を再確認すること（約１時間）
11	訴因・罰条の変更②	前回の続き	レジュメを通じて授業内容を振り返り、必要があれば「参考書」記載の文献も使って、重要論点を再確認すること（約１時間）
12	証拠の関連性	類似行為の事実の立証、科学的証拠など	レジュメを通じて授業内容を振り返り、必要があれば「参考書」記載の文献も使って、重要論点を再確認すること（約１時間）
13	伝聞法則	伝聞法則およびその例外など	レジュメを通じて授業内容を振り返り、必要があれば「参考書」記載の文献も使って、重要論点を再確認すること（約１時間）
14	違法収集証拠排除法則	排除法則に関する諸問題	レジュメを通じて授業内容を振り返り、必要があれば「参考書」記載の文献も使って、重要論点を再確認すること（約１時間）
15	自白法則	自白法則に関する諸問題	レジュメを通じて授業内容を振り返り、必要があれば「参考書」記載の文献も使って、重要論点を再確認すること（約１時間）

関連科目	刑事訴訟法、刑法総論、刑法各論、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事法概論、刑事政策、現代社会と刑事法、経済刑法など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	刑事訴訟法（第２版）	宇藤崇・松田岳士・堀江慎司	有斐閣
2	刑事訴訟法判例百選（第 10 版）	井上正仁・大澤裕・川出敏裕編	有斐閣

	3	判例教材刑事訴訟法（第５版）	三井誠編	東京大学出版会
評価方法 （基準）	期末レポート（70%）、講義中に行う確認テスト（30%）			
学生への メッセージ	上記「関連科目」で示した講義の履修・単位取得の有無は、必ずしも本授業を受講するに当たっての履修要件ではないが、上記「授業方法と留意点」のところで述べたような理由から、少なくとも刑事訴訟法、刑法総論、刑法各論については履修・単位取得しておくことが望ましい。			
担当者の 研究室等	11 号館９階 島田准教授室			
備考	講義の際、六法は必携（ただし、パソコン、スマホ等によって e-gov による法令検索が利用できるのであればそれでも可）。 講義中に行う確認テストについては、次回の授業で解説する。			

科目名	ボランティアと法律	科目名（英文）	Volunteers and Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	中沼　丈晃
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3109a0		

授業概要・目的	本講義は、「法律と密接に関わるボランティア活動、ボランティアが関わる現場の法律問題、ボランティア活動の盛り上がりが背景にある立法、ボランティア活動に期待する立法について、実務家と担当者が対談する。その後、履修学生と意見交換を行う」という内容で、2017 年度から 6 年にわたり、隔週などで 2 コマ連続の変則形態で開講してきた。2023 年度で最後になるにあたり、全体のまとめを行う（2023 年度は通常の毎週 1 コマ）。
到達目標	この授業を通じて学生には次のことが期待される。①ボランティア活動が「お手伝い」とは限らず、公共の目的を実現するうえで不可欠な固有の役割があることを理解する。②その役割を担ううえで、法律を正しく理解する、法律問題に備える、立法を促す、という自立的な行動が必要になる点を考える。
授業方法と留意点	2022 年度までは、隔週などで 2 コマ連続の変則形態で開講してきた。2023 年度で最後になるにあたり、全体のまとめを行う。2023 年度は通常の毎週 1 コマで開講する。
科目学習の効果（資格）	公務員試験の課題式論文や面接、集団討論に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	非行少年に手料理をふるまい続ける元保護司の思いと行動	元保護司の中本忠子さんに関する映像を見て、ボランティアの動機と役割を考える。	配布資料を読む。（約１時間）
2	発展途上国での医療ボランティアを展開する医師の思いと行動	小児科医の吉岡秀人さんに関する映像を見て、ボランティアの動機と役割を考える。	配布資料を読む。（約１時間）
3	6年間でお招きしたゲストの紹介	2017 年度から本講義にお招きしたゲストを紹介する。	配布資料を読む。（約１時間）
4	荒れた公立小学校を立て直した元校長の思いと行動	ゲストの講話記録から公立小学校の役割を考える。	配布資料を読む。（約１時間）
5	いじめ防止のために学校で講義を行う弁護士の思いと行動	ゲストの講話記録からいじめ防止への弁護士のアプローチを考える。	配布資料を読む。（約１時間）
6	閉園となった公立幼稚園の元園長の思いと行動	ゲストの講話記録から公立幼稚園の役割を考える。	配布資料を読む。（約１時間）
7	大規模自治会の会長の思いと行動	ゲストの講話記録から自治会の役割を考える。	配布資料を読む。（約１時間）
8	NPOを立ち上げ子ども食堂を開催する地域の世話役の思いと行動	ゲストの講話記録から子ども食堂の役割を考える。	配布資料を読む。（約１時間）
9	児童養護施設で働く社会福祉士の思いと行動	ゲストの講話記録から児童養護施設の役割を考える。	配布資料を読む。（約１時間）
10	自然学校の経営者の思いと行動	ゲストの講話記録から自然学校の役割を考える。	配布資料を読む。（約１時間）
11	精神科クリニックで働く精神保健福祉士と臨床心理士の思いと行動	ゲストの講話記録から精神科クリニックの役割を考える。	配布資料を読む。（約１時間）
12	介護施設の経営者の思いと行動	ゲストの講話記録から介護施設の役割を考える。	配布資料を読む。（約１時間）
13	特殊詐欺防止を訴える舞台俳優の思いと行動	ゲストの講話記録から表現者のボランティアの可能性を考える。	配布資料を読む。（約１時間）
14	ベトナム人技能実習生を支援する行政書士の思いと行動	ゲストの講話記録から行政書士の役割を考える。	配布資料を読む。（約１時間）
15	まとめ	まとめを通じて、ボランティアとは何か、ボランティアの固有の役割とは何か探る。	配布資料を読む。（約１時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	各回課題(30%)、期末課題(70%)を総合して評価する。
学生へのメッセージ	意欲的にボランティア活動をしている、したいと考えている学生に履修してほしいと思います。6 年間のまとめです。
担当者の研究室等	11 号館 9 階 中沼教授室
備考	

科目名	地域政策応用講義Ⅱ（地方政策論）	科目名（英文）	Regional Policy Application Lecture II (Local Policy Theory)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	増田　知也
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3111a0		

授業概要・目的	この授業は、「住民自治」をキーワードに、地域政策を実践的に学ぶための科目です。地方自治の現場における様々な事例を取り上げ、関連する知識と共に、常に住民を主体に考えるという視点を身につけてもらいたいと思います。
到達目標	この授業を通じて学生には、地域政策における重要用語の意味を説明することができ、住民自治の視点から地域政策を分析することができ、地域政策についての自分の意見を持ち、他者と討議することができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	ABD（Active Book Dialogue）の手法を用いて、グループごとに分担して文献を要約し、発表し合う。 その後、穴埋め式のレジュメを配布し、解説を行う。 授業後に小テストを実施し、次の回の冒頭に解説と質問への回答を行う。
科目学習の効果（資格）	将来公務員を目指す学生が地域政策の課題や重要概念について学ぶことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	地方自治に未来はあるか	内容:民主主義国家における地方自治の役割を学ぶ 方法:「授業方法と留意点」を参照	事前:『地方自治と民主主義』第 1 章を読む（2 時間） 事後:確認テストの内容について復習する（2 時間）
2	日本国憲法と地方自治	内容:日本国憲法における地方自治の位置づけを学ぶ 方法:「授業方法と留意点」を参照	事前:『地方自治と民主主義』第 2 章を読む（2 時間） 事後:確認テストの内容について復習する（2 時間）
3	望まれる地方公務員像	内容:地方公務員制度の課題について学ぶ 方法:「授業方法と留意点」を参照	事前:『地方自治と民主主義』第 23 章を読む（2 時間） 事後:確認テストの内容について復習する（2 時間）
4	地方自治に未来をあらしめるために	内容：地方自治の課題について学ぶ 方法:「授業方法と留意点」を参照	事前:『地方自治と民主主義』第 24 章を読む（2 時間） 事後:確認テストの内容について復習する（2 時間）
5	私たちと地方自治	内容：地方自治の分析視点を学ぶ 方法:「授業方法と留意点」を参照	事前:『地方自治を問いなおす』序章を読む（2 時間） 事後:確認テストの内容について復習する（2 時間）
6	地方自治とコミュニティ・ソリューション	内容:コミュニティによる問題解決の手法を学ぶ 方法:「授業方法と留意点」を参照	事前:『地方自治を問いなおす』第 1 章を読む（2 時間） 事後:確認テストの内容について復習する（2 時間）
7	迷惑施設問題と手続き的公正	内容：迷惑施設問題について学ぶ 方法:「授業方法と留意点」を参照	事前:『地方自治を問いなおす』第 2 章を読む（2 時間） 事後:確認テストの内容について復習する（2 時間）
8	グローバル化社会における地方自治	内容:グローバル化の地方自治への影響について学ぶ 方法:「授業方法と留意点」を参照	事前:『地方自治を問いなおす』第 3 章を読む（2 時間） 事後:確認テストの内容について復習する（2 時間）
9	行政現場における政策形成過程と施策形成過程	内容：政策形成過程について学ぶ 方法:「授業方法と留意点」を参照	事前:『地方自治を問いなおす』第 4 章を読む（2 時間） 事後:確認テストの内容について復習する（2 時間）
10	自治体行政と協働	内容:自治体組織における協働の課題について学ぶ 方法:「授業方法と留意点」を参照	事前:『地方自治を問いなおす』第 5 章を読む（2 時間） 事後:確認テストの内容について復習する（2 時間）
11	地域住民協議会の運営と展望	内容:地域自治組織の運営上の課題について学ぶ 方法:「授業方法と留意点」を参照	事前:『地方自治を問いなおす』第 6 章を読む（2 時間） 事後:確認テストの内容について復習する（2 時間）
12	住民自治と地域活動	内容：地域活動の課題について学ぶ 方法:「授業方法と留意点」を参照	事前:『地方自治を問いなおす』第 7 章を読む（2 時間） 事後:確認テストの内容について復習する（2 時間）
13	住民自治を支える公民館運営	内容:地方自治における公民館の役割について学ぶ 方法:「授業方法と留意点」を参照	事前:『地方自治を問いなおす』第 8 章を読む（2 時間） 事後:確認テストの内容について復習する（2 時間）
14	住民自治と行政相談委員	内容:行政相談委員が地方自治に与える影響について学ぶ 方法:「授業方法と留意点」を参照	事前:『地方自治を問いなおす』第 9 章を読む（2 時間） 事後:確認テストの内容について復習する（2 時間）
15	地方自治を問いなおす	内容：これからの地方自治を展望する 方法:「授業方法と留意点」を参照	事前:『地方自治を問いなおす』終章を読む（2 時間） 事後:確認テストの内容について復習する（2 時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	地方自治を問いなおす：住民自治の実践がひらく新地平	今川晃	法律文化社
2	地方自治と民主主義	佐藤竺	大蔵省印刷局
3			

評価方法（基準）	定期試験 50%、小テスト 50%

学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　増田講師室
備考	

科目名	スポーツ政策論	科目名（英文）	Sports Policy
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	石井　信輝
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3113a0		

授業概要・目的	現代社会におけるスポーツの意義やスポーツ（振興）政策の立案過程を踏まえたうえで、スポーツと政策との関係について理解を深める。同時に、法・政策に対する体系的な理解の一助とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、スポーツ（振興）政策が担う社会的役割に関する知見を獲得することが期待される。
授業方法と留意点	教科書は特に用いないが、必要に応じて資料を配布する。授業中に提示した課題を解決するため、および事前・事後の学習のためにICTツールを活用していただく場合もあります。対面による授業を原則とします。
科目学習の効果（資格）	公認スポーツ指導者養成に関する科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	スポーツ政策とは	スポーツ政策という概念を整理する。
2	スポーツ政策の概念	スポーツ政策の目的、意義	関連資料に目を通す。
3	スポーツ政策の体系	スポーツ政策の体系	配布資料の理解。
4	スポーツ政策の立案者	スポーツ政策を立案する組織・団体、習熟度の確認	スポーツ組織を立案する組織・団体を抜粋し整理する。
5	スポーツ活動の意義、その促進とスポーツ政策（１）	社会の中のスポーツ、スポーツの社会的意義（健康の維持増進、地域振興など）、歴史的変遷（オリンピズム、フェアプレー精神、スポーツフォーオール）	スポーツの社会的意義を整理する。
6	スポーツ活動の意義、その促進とスポーツ政策（２）	わが国におけるスポーツ振興施策、学校でのスポーツ活動の発展を促すスポーツ政策	関連資料に目を通す。
7	スポーツ活動の意義、その促進とスポーツ政策（３）	わが国におけるスポーツ振興施策、文化としてのスポーツ・健康の維持増進とスポーツ政策	配布資料を理解する。
8	スポーツ活動の意義、その促進とスポーツ政策（４）	わが国におけるスポーツ振興施策、生活の質向上とスポーツ政策	わが国におけるスポーツ政策の特徴を体系づける。
9	スポーツ活動の意義、その促進とスポーツ政策（５）	世界のスポーツ振興政策	わが国と諸外国のスポーツ政策上の特徴の理解を深める
10	スポーツ活動の意義、その促進とスポーツ政策（６）、これまでの講義のまとめ	世界のスポーツ事情と日本のスポーツ振興施策、およびこれまでの習熟度確認	前５回の講義と今回とを関連づけて整理する。
11	競技力の向上とスポーツ政策（１）	国威発揚としての国際競技力の向上政策	関連資料に目を通す。
12	競技力の向上とスポーツ政策（２）	国内の連帯促進と国際競技力の向上政策	前回の講義と関連づけて整理する。
13	社会化促進のためのスポーツ政策	社会への組み入れを促すためのスポーツ政策	配布資料の理解。
14	社会的平等とスポーツ政策	社会的平等を促進するためのスポーツ政策	関連資料に目を通す。
15	講義の総括と習熟度の検査	講義全体の総括と習熟度確認試験	これまでの講義を体系立てて復習する

関連科目	スポーツと法律等

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	リファレンスブック	日本スポーツ協会	
2			
3			

評価方法（基準）	授業に参加する姿勢（３０％）、授業中に出される課題への回答・試験の結果（70％）をもって評価する。
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んでほしい
担当者の研究室等	11号館10階　石井教授室
備考	各回に1時間程度、すなわち半期で15時間程度を目安に、講義の内容について事前・事後の学習を行ってください。 課題や習熟度確認のための試験の解説は、次の回の授業で行う。 19年度　合格率99%　（不受験率2%）　A13%　B43%　C22%　D22%　　平均78点　115人登録

科目名	スポーツビジネスと法	科目名（英文）	Sports Business and Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大川　謙蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3114a0		

授業概要・目的	スポーツはビジネスとも深くかかわっていることから、そこでは法律問題も当然に生じる。 この講義では、そのようなスポーツビジネスに関する法的問題を検討するために、スポーツの意義、各種契約、スポーツにおいて生じた事故、スポーツに関するビジネスの概要を確認する予定である。 なお、講義の流れは、民法の流れに沿い、民法総則・契約法・不法行為法などの視点から行う予定である。
到達目標	この授業を通じて、学生にはスポーツビジネス一般について知識を得て、そこで生じる法律問題を理解し、法的にどのような解決方法があるのかなどを検討できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義に関連する、レジュメまたは資料を使用する。レジュメは Teams 等でデータ配信するため、個人での印刷が必要である。情報処理室または自宅で印刷をすること。 講義は対面方式の教室で行う。 なお、Teams に動画を後日アップロードする予定であるが、これはあくまで復習用であり、録画の品質等は担保できない。
科目学習の効果（資格）	スポーツ・インストラクター、スポーツ・エージェントなど

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	スポーツビジネスと法律の概要	これまで学んできた法律知識の確認 事前・事後学習は、該当欄および備考欄を確認すること。	これまで学んできた法律科目の内容を確認すること。特に民法に関連する法律を事前に確認し、事後に各種スポーツの種類を講義内容に基づいて整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
2	自然人とスポーツ①	e スポーツのスポーツ性 性別とスポーツとの関係	事前：民法における人の概念を見直すこと。 事後：性別とスポーツとの関係について、各種競技に基づいて整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
3	自然人とスポーツ②	障害とスポーツとの関係。	事前：障害を持つ者に対する民法上の制度である制限行為能力者制度の概要を復習すること。 事後：障碍者スポーツの競技状況について講義内容に基づいて整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
4	法人とスポーツ①	スポーツ団体と各種競技の状況	事前：法人および会社制度を、一般法人法と会社法の観点から見直すこと。 事後：各競技団体におけるマネジメントの違いと特徴を、それぞれ対比してその問題点を整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
5	法人とスポーツ②	スポーツ団体の構成とスポンサー	事前：各種団体の組織と会社制度との違いを確認すること。 事後：オリンピックとパラリンピックの組織、ならびに各種スポーツ団体の関係性を整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
6	代理とスポーツ①	プロ野球におけるエージェント制度	事前：民法における代理制度の意義を確認すること。 事後：プロ野球における選手会と球団側の認識の違いを整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
7	代理とスポーツ②	サッカーにおける仲介人制度	事前：プロ野球におけるエージェント制度の整理をすること。 事後：仲介人がプロ野球の制度とどのように違っているのかを整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
8	契約とスポーツ①	スポーツにおけるビジネスの形態	事前：契約の成立のかたち、および債務不履行制度一般を確認しておくこと。 事後：伝統的なビジネスの形態と、新たな形態との違いを整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
9	契約とスポーツ②	スポーツにおける紛争の解決方法	事前：法律上の各種紛争解決手段の違いを整理すること。 事後：CAS および日本の制度について、裁判とどのように異なるのかを整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
10	契約とスポーツ③	スポーツ競技に関連する物品と規制品	事前：刑事法における各種規制品の状況を確認すること。 事後：規制品と国際的な取引状況の違いを整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習を

			すること。
11	ビジネスとスポーツ①	スポーツとオリンピックの関係	事前：法人制度とオリンピックの実施団体の内容を確認しておくこと。 事後：オリンピックの発展の歴史とその経営問題を整理しておくこと。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
12	ビジネスとスポーツ②	スポーツと選手の関係	事前：著作権制度の意義および人格権の内容を確認しておくこと。 事後：選手自身の肖像が、ビジネスの現場でどのように処理されているのかを整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
13	ビジネスとスポーツ③	選手の有する各種権利とビジネスの関係	事前：民法における不法行為制度一般を確認しておくこと。 事後：パブリシティ県の問題点を、人と物との関係に分けて整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
14	不法行為とスポーツ	スポーツにおける事故の問題	事前：安全配慮義務と不法行為との関係を整理しておくこと。 事後：学校で発生した事故についてどのように対応されるのかを整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
15	講義の全体的な復習	これまでの内容を全体的に確認する。	事前：これまでの全体を確認すること。 事後：各種テストの内容を全体的に確認すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。

関連科目：経済学、経営学、憲法、民法、商法、労働法など。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

Teams を使った小テストを行う（70%～80%：講義状況により変化する）。
講義内での小テスト（20～30%：講義状況により変化する）。
具体的には、初回等で確認すること。

学生へのメッセージ

スポーツは、自由な人格形成、健康で文化的な生活、余暇のため、重要な役割を演じるものである。
そのようなスポーツを法律との関係を把握し、スポーツの意義を確認すること。

講義の動画はアップロード（講義終了時まで掲載）を行うため、病気等の場合にオンライン上での小テスト等に対応してください。
小テストの解答期間は、日曜日の 23 時 59 分までを予定し、講義後 5 日間ほどの猶予期間を設定しています。
大学は対面講義が原則であることから、各種欠席事由は成績評価にあたっては何らの正当性をもたないということを理解しておいてください。

担当者の研究室等：11 号館 9 階　大川准教授室

備考

大学の講義は、予習・講義・復習の３つから成り立っています。それぞれにつき、90 分を確保して学習をする必要があります。しかし、予習・復習については、各講義の内容により多少の違いが出てきますので、必ず講義でそれらの対象を聞くようにしてください。
事前・事後学習内容について、講義で出された課題及び指摘部分の内容については、各対応時の講義で確認・解説を行います。

近年、受講態度のひどい学生が散見されます。受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外しますので、ご理解下さい。

科目名	フィットネストレーニングの理論と実際	科目名（英文）	Theory and Practice of Fitness Training
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	伊賀野　大
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ2115a0		

授業概要・目的	現代社会において運動を継続することは、健康で質の高い生活を送るために推奨されている。 そのために正しいトレーニングの方法や効果を知り、実践や指導ができるようになる。
到達目標	この授業を通じで学生には、フィットネストレーニングの基礎的な知識を学び、それらを目的に応じて実践できるようになることが期待される。 また身につけた技術を指導するための能力を身につけることも目標とする。
授業方法と留意点	講義形式のトレーニング理論の習得と屋内・外でのフィットネストレーニングの実習を主な授業内容とする。 そのため講義のみ、または実習のみの参加は不可。 実習に参加の際は運動に適した服装とシューズを着用すること。
科目学習の効果（資格）	日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格取得対応科目

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業主旨説明 運動と健康	運動と健康についての基礎用語の確認 次の回の授業で、解説を行う
2	身体組成	機能解剖学的身体組成の基礎知識	身体組成についての基礎知識の習得 次の回の授業で、解説を行う
3	全身持久力（１）	フィットネストレーニング 全身持久力	フィットネストレーニング、全身持久力の基礎用語の確認、実践の準備 次の回の授業で、実践指導を行う
4	全身持久力（２）	全身持久力トレーニングの実践	実技指導のフィードバック 次回、授業で各グループごとに発表を行い、意見交換を行う
5	筋力と筋持久力（１）	筋力・筋持久力	筋力・筋持久力の基礎用語の確認、実践の準備 次の回の授業で、実践指導を行う
6	筋力と筋持久力（２）	筋力トレーニングの実践 筋持久力トレーニングの実践	実技指導のフィードバック 次回、授業で各グループごとに発表を行い、意見交換を行う
7	柔軟性（１）	柔軟運動	柔軟運動の基礎用語の確認、実践の準備 次の回の授業で、実践指導を行う
8	柔軟性（２）	柔軟運動の実践	実技指導のフィードバック 次回、授業で各グループごとに発表を行い、意見交換を行う
9	調整力（１）	調整力	調整力の基礎用語の確認、実践の準備 次の回の授業で、実践指導を行う
10	調整力（２）	調整力トレーニングの実践	実技指導のフィードバック 次回、授業で各グループごとに発表を行い、意見交換を行う
11	マシーントレーニング（１）	マシーンの特性（１）	マシーントレーニングの基礎用語の確認
12	マシーントレーニング（２）	マシーンの特性（２）	マシーンで行うトレーニングメニューの確認と実践の準備 13,14回にて実習を行う
13	マシーントレーニング（３）	マシーントレーニング実習（１）	実技指導のフィードバック 次回、授業で発表を行い、意見交換を行う
14	マシーントレーニング（４）	マシーントレーニング実習（２）	実技指導のフィードバック 次回、授業で発表を行い、意見交換を行う
15	まとめ	講義内容の総括	課題提出

関連科目	スポーツ科学概論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツプログラミング、発育発達論、体力測定とスポーツ相談、スポーツ医学の基礎、スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公認スポーツプログラマー専門科目テキスト	編集・発行 公益財団法人 日本体育施設協会	印刷・製本 佐藤印刷株式会社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	単位取得条件は、実技技能および平常態度、知的理解度などを総合的に判断し、１００点中６０点で合格とする。 実技　５０%、提出物　３０%、小テスト　２０%
学生へのメッセージ	正しい理論と方法を身に着けることで、トレーニング効果はよりよいものとなります。 基本理論を身につけ、基礎を正しく指導できるよう実践していきましょう。
担当者の研究室等	総合体育館１階　体育館事務室
備考	事前・事後学習に必要な時間については、合計６０時間を目安とします。

科目名	ヘルスエクササイズの理論と実際	科目名（英文）	Theory and Practice of Health Exercise
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	瀧　千波
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ2116a0		

授業概要・目的	健康と運動との関わりについて、運動対象者に合わせたエクササイズの理論を理解し、実践を通して学んでいく。 ウォーミングアップの意義や効果を含め、有酸素運動を中心に行い、スポーツ指導の実際に活かす。 また、レクリエーション・スポーツを実践しながらルールを知り、楽しさを実感する。 SDGs-3,4,5
到達目標	この授業を通じて学生には、ヘルスエクササイズの理論と実技を身につけ、プログラム作成と実践指導ができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	実技を中心に行い、実践を通して理論について学ぶ。 実技に際しては、運動に適した服装とシューズを着用すること。
科目学習の効果（資格）	公認スポーツ指導者資格取得対応科目

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業ガイダンス	授業の進め方の説明	特になし
2	体操・ストレッチング①	筋コンディショニング、バランストレーニング、動的・静的ストレッチング	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業までに提出。
3	体操・ストレッチング②	体幹トレーニング、ヨガ	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業までに提出。
4	ウオーキング・ジョギング①	歩行・走行測定・走り方	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業までに提出。
5	ウオーキング・ジョギング②	ウオーキングエクササイズ、効率の良い歩き方	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業までに提出。
6	水泳・水中運動①	スイムフォームの指導	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業までに提出。
7	水泳・水中運動②	ウオーターエクササイズ	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業までに提出。
8	エアロビックダンス①	エアロビックダンスについての知識を学ぶ	実技指導の中で学んだことや反省点についてまとめ、次回授業までに提出。
9	エアロビックダンス②	エアロビックダンス	実技指導の中で学んだことや反省点についてまとめ、次回授業までに提出。
10	レクレーションスポーツ①	レクリエーションゲームについての知識を学ぶ	ルール、実践方法、および実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業時に提出。
11	レクレーションスポーツ②	レクリエーションゲームについての知識を学ぶ	ルール、実践方法、および実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業時に提出。
12	レクレーションスポーツ③	レクリエーションゲームについての知識を学ぶ	ルール、実践方法、および実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業時に提出。
13	レクレーションスポーツ④	レクリエーションゲームについての知識を学ぶ	ルール、実践方法、および実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業時に提出。
14	レクレーションスポーツ⑤	レクリエーションゲームについての知識を学ぶ	ルール、実践方法、および実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業時に提出。
15	総まとめ	これまでの内容のまとめテスト	これまでの内容について総復習

関連科目	スポーツプログラミング、スポーツトレーニングの基礎、発育発達論、フィットネストレーニングの理論と実際、体力測定とスポーツ相談、スポーツ医学の基礎、スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公認スポーツプログラマー専門科目テキスト		日本体育施設協会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	単位取得条件は、技能及び平常態度、知的理解度などを総合して判断する。 知識　30%、技能　40%、テスト　30%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	総合体育館１階
備考	事前・事後学習に必要な時間については、60 時間を目安とする。

科目名	スポーツ医学の理論と実際	科目名（英文）	Theory and Practice of Sports Medicine
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期集中	授業担当者	伊賀野　大
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3117a0		

授業概要・目的	運動やスポーツの実施による身体の変化と適応について、医学・運動生理学的アプローチからその基礎を学ぶ。健康管理に必要な理論と実際について理解することを目的とする。
到達目標	運動やスポーツの実践によって健康の維持・増進をはかり、心身共に充実した体力を養いながら、自らの理想とする健康を獲得するための指導・支援・助言ができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	講義および演習形式で授業を進めます。参考資料等は適宜配布します。
科目学習の効果（資格）	スポーツプログラマーに必要な医学・運動生理学の理解

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	社会的背景に基づく健康や体力のあり方について	テキストを事前に読んでおくこと（30 分）。 配付資料の内容を復習すること（30 分）。
2	体力と身体運動	体力の分類と各要素の発育・発達	配布資料の内容を予・復習すること（1 時間）。
3	運動のメカニズム 1	運動の中枢、筋の分類	配布資料の内容を予・復習すること（1 時間）。
4	運動のメカニズム 2	筋収縮の様式、筋の代謝特性 小テスト①	配布資料の内容を予・復習すること（1 時間）。
5	体力における精神的要素	メンタルストレス	配布資料の内容を予・復習すること（1 時間）。
6	精神的ストレスへの対抗手段	メンタルストレスに対する運動・スポーツの効果とその作用機序	配布資料の内容を予・復習すること（1 時間）。
7	フィットネスエクササイズの概念	体調管理の意義と方法	テキストを事前に読んでおくこと（1 時間）。 配布資料の内容を復習すること（30 分）。授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること（2 時間）。
8	フィットネスエクササイズ実施の事前準備とアフターケア	ウォーミングアップとクーリングダウン	テキストを事前に読んでおくこと（30 分）。 配布資料の内容を復習しておくこと（30 分）。
9	持久力トレーニング	全身持久力、筋持久力	テキストを事前に読んでおくこと（1 時間）。 配布資料の内容を復習すること（30 分）。
10	筋力トレーニング	マシントレーニング、筋パワー	テキストを事前に読んでおくこと（1 時間）。 配布資料の内容を復習すること（30 分）。
11	フィットネスプログラム	子ども、中年、高齢者、女性、障がい者別アプローチ	テキストを事前に読んでおくこと（1 時間）。 配布資料の内容を復習すること（30 分）。 授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること（2 時間）。
12	安全管理	RICE 処置、熱中症の種類と発生機序、その予防と対処法、AED を用いた心肺蘇生法の実際	配布資料の内容を予・復習すること（1 時間）。
13	コンディショニング 1	スポーツ実施者の食事摂取の基本、コンディショニング維持とビタミン摂取	配布資料の内容を予・復習すること（1 時間）。
14	コンディショニング 2	骨づくりとカルシウム、血予防と鉄・タンパク質摂取 小テスト②	配布資料の内容を予・復習すること（1 時間）。
15	まとめ	授業全体のまとめテスト	テキストのこれまで学習した関連項目について整理しておくこと（1 時間）。

関連科目	スポーツ医学の基礎

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公認スポーツプログラマー 専門科目 テキスト	編集・発行 公益財団法人 日本体育施設協会	印刷・製本 佐藤印刷株式会社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト 1 回（10%）、レポート 1 回（10%）まとめテスト（80%）の複数項目の合計で評価する。
学生へのメッセージ	参加型、双方向性の授業を心がけています。積極的に参加し、体の仕組みと身体運動の科学的理解を深めて下さい。
担当者の研究室等	総合体育館 1 階　非常勤講師室
備考	小テストの正解は、次の回の授業で解説する。 レポートは、評価をしたうえで次の回の授業で直接返却する。

科目名	体力測定とスポーツ相談	科目名（英文）	Physical Fitness Test and Sports Counseling
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	伊賀野　大
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3118a0		

授業概要・目的	社会的な健康志向の高まりにより日常的に運動を行う人が増えているなか、個人の身体能力向上やスポーツ参加時に生まれる悩みや疑問に対して幅広くかつ適切に対応できるようにするための知識を身につける。 運動初心者からアスリートまで多岐にわたり対応できる知識を身につけていく。
到達目標	この授業を通じて学生には、体力測定の方法と評価の原理を知り、個人の身体のサイズや行動体力を把握する能力を身につけられるようになること、またスポーツにかかわる相談事に対応し得る知識と技術を理解し実践できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義を中心に授業を行い、各テーマに沿って実践的な課題を行う
科目学習の効果（資格）	日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格取得対応科目

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業概要説明 公認スポーツプログラマーの資格とその他スポーツ関連の資格について	スポーツプログラーマーについて確認しておくこと。
2	体力測定（１）	体組成：解剖学的用語の習得	課題①　骨格と筋肉 体組成への理解を深める
3	体力測定（２）	体組成の測定と評価の方法	体組成データの確認・評価を行う
4	体力測定（３）	体力測定の意義と方法	課題②　新体力テスト実施要綱の作成 実施方法について説明を行えるように準備を行う
5	体力測定（４）	体力測定の実践と方法	課題③　体力測定：その他測定項目と方法 さまざまな測定方法について説明を行えるように準備を行う
6	体力測定（５）	測定結果の処理と評価の方法	測定データの確認・評価を行う
7	体力測定（６）	測定結果を基にした体力評価 小テスト①	体力評価表の見方と活用方法の確認を行う
8	スポーツ相談（１）	概念 領域・範囲	スポーツ相談の基礎用語の確認を行う
9	スポーツ相談（２）	必要な資料収集と記録方法 企画と運営	スポーツカルテの作成方法の確認を行う
10	スポーツ相談（３）	スポーツ相談の技術：基本的考え方と進め方	課題④　健康指導のための基礎知識：３大疾病 次回の授業で発表を行えるように
11	スポーツ相談（４）	健康指導を行うための基礎知識 スポーツ相談で利用される技術・技法	メンタルトレーニングとその方法について確認を行う
12	スポーツ相談（５）	来談者理解のための技法と実践 東大式エゴグラム	課題⑤　エゴグラムの活用方法について考える
13	スポーツ相談（６）	メンタルトレーニング実習（１） リラクゼーション	実習内容をレポートにまとめる 次回の授業内で確認を行う
14	スポーツ相談（７）	メンタルトレーニング実習（２） 競技スポーツへの応用 小テスト②	実習内容をレポートにまとめる 次回の授業内で確認を行う
15	まとめ	講義の総括を行う	今までの授業ノート及び配布資料を確認しておくこと。

関連科目	スポーツ科学概論、スポーツプログラミング、ヘルスエクササイズの理論と実際、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公認スポーツプログラマー専門科目テキスト	編集・発行 公益財団法人 日本体育施設協会	日本体育施設協会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	単位取得は、課題提出および実習、小テストによる知的理解度を総合的に判断し、１００点中６０点で合格とする。 課題　５０％、実習　２０％、小テスト　３０％
学生へのメッセージ	個人でもグループでも指導できるよう実習を交えながら行います。 いろいろな場面で応用できるよう学んでいきましょう。
担当者の研究室等	総合体育館１階　体育館事務室
備考	事前・事後学習に必要な時間については、６０時間を目安とします。

科目名	法政キャリア特別講義Ⅱ	科目名（英文）	Special Classes for Law and Politics II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高間　佐知子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ2126a0		

授業概要・目的	この講義では、「会社法」で定められている法制度･法規制について学習することを目的としています。経済社会において会社という存在が活動するなかで、どのようにして組織されていて、またどのようにして活動しているのか、法的な観点から学びます。前期科目である商法ⅡA（会社①）及び会社法とセットになる科目です。内容としては、会社の設立やファイナンスが中心となります。
到達目標	この講義の目標は、会社法で定められた制度を理解できるようにすることに加え、会社法に関する法的問題点を理解して検討できるようになることです。
授業方法と留意点	講義内容に合わせてレジュメを配布するので、レジュメをもとに重要事項などをメモしながら内容を理解してください。毎回の講義終了後にグループで練習問題を解いて答え合わせをしてもらい、事後学習として特に間違えた部分についてはしっかり復習をしておきましょう。質問等は質問票に記入してもらえれば、次回の講義でお答えします。
科目学習の効果（資格）	企業法務や会社経営に関する法律知識を身に着けることができます。関連する資格として、ビジネス実務法務検定、法学検定（中級）、行政書士、司法書士などがあります。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義の進め方、会社法の概要	六法などで会社法に何が書かれているのか見ておく（1時間）
2	株式①	株式の譲渡	株式について調べておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）
3	株式②	株式の併合・分割・無償割当て、単元株式制度	株式の大きさを変更する方法について調べておく（1時間） 練習問題トの復習を行う（1時間）
4	株式③	自己株式の取得	自己株式について調べておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）
5	計算	企業会計の意義、資本制度、剰余金の配当	資本について調べておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）
6	資金調達①	新株発行	募集株式の発行に関する条文を調べておく(1時間) 練習問題の復習を行う（1時間）
7	資金調達②	新株予約権、社債	新株予約権と社債について調べておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）
8	確認試験（中間）	第2回～第7回の内容について復習としての確認試験を実施する。	第2回～第7回の講義内容を復習する（2時間）
9	設立①	設立手続、定款の作成	設立に関する条文を調べておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）
10	設立②	出資の履行、設立時の機関	設立時の機関について調べておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）
11	設立③	設立登記、設立の瑕疵、設立関与者の責任	会社に登記について調べておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）
12	組織再編①	総論、事業譲渡	事業譲渡に関する条文を見ておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）
13	組織再編②	合併、会社分割	合併と会社分割について調べておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）
14	組織再編③	株式交換、株式移転、株式交付	株式交換、株式移転、株式交付について調べておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）
15	確認試験（期末）	第9回～第14回の内容について復習としての確認試験を実施する。	第9回～第14回の講義内容を復習する（2時間）

関連科目	商法ⅡA（会社①）、会社法、民法、金融商品取引法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	基礎から学べる会社法（第5版）	近藤光男ほか	弘文堂
2			
3			

評価方法（基準）	確認試験を2回実施し、中間（50%）および期末（50%）で評価します。
学生へのメッセージ	1回目に講義の進め方を説明しますので、その説明を聴いた上で受講してください。
担当者の研究室等	11号館10階
備考	練習問題は評価に含まれませんが、グループで管理して試験前に復習をしておきましょう。

科目名	法政キャリア特別講義Ⅳ	科目名（英文）	Special Classes for Law and Politics IV
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松島　裕一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3128a0		

授業概要・目的	この講義の目的は宅建（宅地建物取引士）資格に合格できる知識を習得することです。具体的には、過去問の問題演習を通じて、宅建試験対策を行います。 試験の内容は大きく分けて、①権利関係に関する分野、②宅建業法に関する分野、③法令上の制限に関する分野、④鑑定・需給・取引実務・税などの分野に分かれます。皆さんの予習と復習を前提として、15 回の講義で、①権利関係を除くすべての分野をひと通り学習します(権利関係については少しだけ触れますが、基本的には民法関係の授業を受講して各自でフォローしてください)。
到達目標	この講義を通じて学生には、宅地建物取引士試験に必要となる法的知識を身につけ、過去問をひと通り解けるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	例年この講義は 10 名以下の受講者ですので、ゼミ形式で実施しています（30 名を超える場合には、授業形態を工夫したいと思います)。受講生の多寡にかかわらず、授業中にかなり指名しますので、そのつもりで受講してください。また、教科書と問題集は必須なので必ず購入してください。
科目学習の効果（資格）	宅地建物取引士資格試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	宅建試験の概要と勉強の仕方	教科書はじめに（試験の概要などを説明します）	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてきてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習のそれぞれについて所要時間 120 分以上)。
2	宅建業法（１）	教科書 Part Ⅰ 宅建業法　（第１分冊）第１章～第２章	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてきてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習のそれぞれについて所要時間 120 分以上)。
3	宅建業法（２）	教科書 Part Ⅰ 宅建業法　（第１分冊）第２章～第４章	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてきてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習のそれぞれについて所要時間 120 分以上)。
4	宅建業法（３）	教科書 Part Ⅰ 宅建業法　（第１分冊）第５章～第６章	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてきてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習のそれぞれについて所要時間 120 分以上)。
5	宅建業法（４）	教科書 Part Ⅰ 宅建業法　（第１分冊）第７章～第９章	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてきてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習のそれぞれについて所要時間 120 分以上)。
6	宅建業法（５）	教科書 Part Ⅰ 宅建業法　（第１分冊）すべての復習	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてきてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習のそれぞれについて所要時間 120 分以上)。
7	宅建業法（６）	教科書 Part Ⅰ 宅建業法　（第１分冊）すべての復習	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてきてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習のそれぞれについて所要時間 120 分以上)。
8	権利関係（抄）（１）	教科書 Part Ⅲ 権利関係　（第３分冊）第８章	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてきてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習のそれぞれについて所要時間 120 分以上)。
9	権利関係（抄）（２）	教科書 Part Ⅲ 権利関係　（第４分冊）第 13 章～第 14 章	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてきてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習のそれぞれについて所要時間 120 分以上)。
10	法令上の制限（１）	教科書 Part II 法令上の制限　（第２分冊）第１章～第２章	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてきてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習のそれぞれについて所要時間 120 分以上)。
11	法令上の制限（２）	教科書 Part II 法令上の制限　（第２分冊）第３章～第４章	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてきてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習のそれぞれについて所要時間 120 分以上)。
12	法令上の制限（３）	教科書 Part II 法令上の制限　（第２分冊）第５章～第７章	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてきてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習のそれぞれについて所要時間 120 分以上)。
13	法令上の制限（４）	教科書 Part II 法令上の制限　（第２分冊）すべての復習	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてきてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習のそれぞれについて所要時間 120 分以上)。
14	その他の分野（１）	教科書 Part IV その他の分野　（第４分冊）第１章～第２章	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてきてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習のそれぞれについて所要時間 120 分以上)。
15	その他の分野（２）	教科書 Part IV その他の分野　（第４分冊）第３章～第４章	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてきてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><td></td><td></td><td></td><td>習のそれぞれについて所要時間 120 分以上)。</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td>民法全般、行政法、税法など</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>スッキリわかる宅建士 中村式戦略テキスト 2023 年度</td><td>中村喜久夫</td><td>TAC 出版</td></tr>
<tr><td>2</td><td>スッキリとける宅建士 論点別 12 年過去問題集 2023 年度</td><td>中村喜久夫</td><td>TAC 出版</td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>民法入門 第７版</td><td>川井健</td><td>有斐閣</td></tr>
<tr><td>2</td><td>都市法概説 第３版</td><td>安本典夫</td><td>法律文化社</td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>毎回の小テストの累計点で成績評価（100%）を行います。ただし、オンライン授業に切り替わるなどの理由で、小テストの実施が困難になった場合には、授業への貢献度（授業中の質疑応答等）50%と、課題への取り組み 50%によって成績評価を行います。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>たんに単位取得のみを目的とする学生には受講をお勧めしません。真剣に宅建試験の合格を目指しますので、受講生にはかなりの量の予習と復習を求めます。この点も初回の講義の際に説明いたします。

宅建は人気のある法律系の国家資格です。在学中に合格しておくことを強くお勧めします。合格すれば、就活の際に選択の幅が(少しかもしれませんが）確実に広がります。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>11 号館 9 階　松島准教授室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>これまで１５回の講義で宅建のすべての出題分野を扱っていましたが、正直なところ、時間が足りずに中途半端になっていました。ですので、ここ数年は権利関係（民法）は他の授業に委ね、普段の法学部の授業では学習しない分野（宅建業法など）を集中的に学習するようにしました。宅建受験を考えている学生は、別途民法関係の授業も積極的に履修してください。

また、この授業は教員のほうから積極的に指名するので、双方向の講義になります。もし遠隔授業に切り替わった場合には、リアルタイム配信で授業を行なう予定ですが、学生のプライバシ</td></tr>
</table>

科目名	法政キャリア特別講義Ⅵ	科目名（英文）	Special Classes for Law and Politics VI
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大仲　淳介
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3130a0		

授業概要・目的	法学を学ぶ者は、自分の意見や考えを読み手に納得してもらい、自分と同じ意見をもつよう説得できる文章を書くことができなければなりません。そこでこの授業では、このような文章を書くめに必要な能力とそのような文章の書き方を説明し、いくつかの課題文を作成してもらいます。
到達目標	この授業を通じて学生には、読み手を納得させる文章の書き方についての基礎的な知識を習得し、法的知識に基づいた自分の意見、理由、根拠の示された文章を書くことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業の前半ではその回に学習してもらう事項について、講義形式で説明します。後半では課題小論文を作成し提出してもらいます。
科目学習の効果（資格）	警察官、消防士、市役所などの公務員試験に役立ちます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	法律学と説得力のある文章　小論文と作文など	第１回配布プリントを見直し、授業中に示した次回課題について下調べをして下さい。（１時間程度）
2	法的知識に基づいた文章の作成に必要な基礎的能力１	論理的にものごとを考え判断する能力とは	第２回配布プリントを見直し、授業中に示した次回課題について下調べをして下さい。（１時間程度）
3	法的知識に基づいた文章の作成に必要な基礎的能力２	ものごとの相互の対応関係を探る能力とは	第３回配布プリントを見直し、授業中に示した次回課題について下調べをして下さい。（１時間程度）
4	法的知識に基づいた文章の作成に必要な基礎的能力３	他人が述べたことの真意を判断する能力とは	第４回配布プリントを見直し、授業中に示した次回課題について下調べをして下さい。（１時間程度）
5	法的知識に基づいた文章の作成に必要な基礎的能力４	考え方や発想を柔軟に変更して妥当な解決策を探る能力とは	第５回配布プリントを見直し、授業中に示した次回課題について下調べをして下さい。（１時間程度）
6	法的知識に基づいた文章の作成に必要な基礎的能力５	他人の文章が何を伝えるために書かれているかを理解する能力とは	第６回配布プリントを見直し、授業中に示した次回課題について下調べをして下さい。（１時間程度）
7	法的知識に基づいた文章の作成に必要な基礎的能力６	複数の資料の相互の関係を理解する能力とは	第７回配布プリントを見直し、授業中に示した次回課題について下調べをして下さい。（１時間程度）
8	法的知識に基づいた文章の作成に必要な基礎的能力７	統計学の基礎知識とは	第８回配布プリントを見直し、授業中に示した次回課題について下調べをして下さい。（１時間程度）
9	法的知識に基づいた文章と日本語１	日本文の特徴、文の単位、日本語の語順など	第９回配布プリントを見直し、授業中に示した次回課題について下調べをして下さい。（１時間程度）
10	法的知識に基づいた文章と日本語２	文の役割と文の接続、日本文と主観的表現、語調の統一など	第 10 回配布プリントを見直し、授業中に示した次回課題について下調べをして下さい。（１時間程度）
11	法的知識に基づいた文章の書き方１	課題の求めているものは何かなど	第 11 回配布プリントを見直し、授業中に示した次回課題について下調べをして下さい。（１時間程度）
12	法的知識に基づいた文章の書き方２	主題の決め方、主題を文章化するための材料の集め方など	第 12 回配布プリントを見直し、授業中に示した次回課題について下調べをして下さい。（１時間程度）
13	法的知識に基づいた文章の書き方３	意見や考えの理由と根拠、構想の立て方、構成の仕方など	第 13 回配布プリントを見直し、授業中に示した次回課題について下調べをして下さい。（１時間程度）
14	法的知識に基づいた文章の書き方４	説得力のある文章と説得力のない文章、比較的字数の少ない文章の作成など	第 14 回配布プリントを見直し、授業中に示した次回課題について下調べをして下さい。（１時間程度）
15	まとめ	法的基礎に基づいた文章のまとめ	第 15 回配布プリントを見直して下さい。（１時間程度）

関連科目	法政キャリア特別講義Ⅶ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	提出小論文によって評価します。
学生へのメッセージ	できる限り個別に対応します。
担当者の研究室等	11 号館５階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	①提出課題小論文の注意点は、個別に説明します。 ②質問は、授業において、11 号館法学部資料室において、受け付けます。

科目名	法政キャリア特別講義Ⅶ	科目名（英文）	Special Classes for Law and Politics VII
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大仲　淳介
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3131a0		

授業概要・目的	ある問題に対する自分の意見を読み手に納得させる文章を書くためには文章の形式だけでなく内容も問題になります。なぜならば仮にいくら納得させる書き方をしても書かれている内容が薄いものであれば、誰も自分に同調してくれるはずがないからです。そこでこの講義では、納得させる文章とは何かを理解してもらうために、内容に重点を置き、重要と思われる課題を取り上げてそれを説明し、小論文を作成してもらいます。
到達目標	この授業を通じて学生には、文章に関する知識を一層深め、読み手を納得させるのにふさわしい形式と内容の濃い文章が書くことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業の前半において、その回に注意してもらう事項について講義形式で説明し、後半では、その回の課題文を作成してもらいます。
科目学習の効果（資格）	警察官、消防士、市役所などの公務員試験に役立ちます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	法的思考が読み取れる文章とは？（その１）	課題の解釈と出題の意図など	第 1 回配布プリントを見直して下さい。(1 時間程度)
2	法的思考が読み取れる文章とは？（その２）	三段落構成の各段落の役割と書き方など	第２回配布プリントを見直し、授業中に示した次回の課題について下調べをして下さい。(1 時間程度)
3	法的思考が読み取れる文章とは？（その３）	四段落構成の各段落の役割と書き方など	第３回配布プリントを見直し、授業中に示した次回の課題について下調べをして下さい。(1 時間程度)
4	法的思考が読み取れる文章とは？（その４）	よりわかり易い構成、論理の飛躍など	第４回配布プリントを見直し、授業中に示した次回の課題について下調べをして下さい。(1 時間程度)
5	法的思考が読み取れる文章の内容１	「情報化」を課題として、その課題の意図及び意義についての説明と知識の確認および小論文の作成	第５回配布プリントを見直し、授業中に示した次回の課題について下調べをして下さい。(1 時間程度)
6	法的思考が読み取れる文章の内容２	「国際化」を課題として、その課題の意図及び意義についての説明と知識の確認および小論文の作成	第６回配布プリントを見直し、授業中に示した次回の課題について下調べをして下さい。(1 時間程度)
7	法的思考が読み取れる文章の内容３	「少子高齢化」を課題として、その課題の意図及び意義についての説明と知識の確認および小論文も作成	第７回配布プリントを見直し、授業中に示した次回の課題について下調べをして下さい。(1 時間程度)
8	法的思考が読み取れる文章の内容４	「災害」を課題として、その課題の意図及び意義についての説明と知識の確認および小論文も作成	第８回配布プリントを見直し、授業中に示した次回の課題について下調べをして下さい。(1 時間程度)
9	法的思考が読み取れる文章の内容５	「環境」を課題として、その課題の意図及び意義についての説明と知識の確認および小論文も作成	第９回配布プリントを見直し、授業中に示した次回の課題について下調べをして下さい。(1 時間程度)
10	法的思考が読み取れる文章の内容６	「少年犯罪」を課題として、その課題の意図及び意義についての説明と知識の確認および小論文も作成	第 10 回配布プリントを見直し、授業中に示した次回の課題について下調べをして下さい。(1 時間程度)
11	法的思考が読み取れる文章の内容７	「公権力」を課題として、その課題の意図及び意義についての説明と知識の確認および小論文の作成	第 11 回配布プリントを見直し、授業中に示した次回の課題について下調べをして下さい。(1 時間程度)
12	法的思考が読み取れる文章の内容８	「人権」を課題として、その課題の意図及び意義についての説明と知識の確認および小論文の作成	第 12 回配布プリントを見直し、授業中に示した次回の課題について下調べをして下さい。(1 時間程度)
13	法的思考が読み取れる文章の内容９	「能力」を課題として、その課題の意図及び意義についての説明と知識の確認および小論文の作成	第 13 回配布プリントを見直し、授業中に示した次回の課題について下調べをして下さい。(1 時間程度)
14	法的思考が読み取れる文章の内容１０	「地方分権」を課題として、その課題の意図及び意義についての説明と知識の確認および小論文の作成	第 14 回配布プリントを見直し、授業中に示した次回の課題について下調べをして下さい。(1 時間程度)
15	まとめ	法的思考が読み取れる文章のまとめ	第 1 回～14 回までの配布プリントをもう一度見直して下さい。(1. 5 時間程度)

関連科目	法政キャリア特別講義Ⅵ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	提出された小論文で評価します。
学生へのメッセージ	できる限り個別に対応します。
担当者の研究室等	11 号館 5 階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	①提出課題小論文の注意点は、個別に説明します。

	②質問は、授業において、11 号館 5 階法学部資料室にて、受け付けます。

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鳥谷部　壌
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として３つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （１）ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）、⑤その他、学生生活に必要な事項につい学びます。
到達目標	この演習を通じて学生には、学生生活に慣れ、勉学がスムーズに進められるよう、法学部の学生にふさわしい基礎能力を習得することが期待されます。
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	法学部生として大学生活を始めるに当たり、学習の基本的なスキルを身につけることを目標とします。	図書館の利用方法、情報処理講習、就職セミナー、スマートSPI講習、など法学部全体で実施される回もありますが、それ以外は基本的に、『First Year Study Guide 2021』に沿って実施します。	初回の授業で指示します。
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	法学部の専門科目のすべてにかかわります。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	参加態度（40%）およびゼミのなかで指示する課題（レポートなど）の達成状況（60%）をもとに評価する。
学生へのメッセージ	with コロナ時代のなか、大変な生活を強いられることもあることと推測しますが、できることからやってみましょう。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　鳥谷部研究室
備考	事前学習として、『First Year Study Guide 2021』の指示された箇所を読んでおいてください（毎回 30 分程度）。事後学習として、できれば法律と関係のある一般教養のジャンルの本を 1 冊選択し、各自で読み進めていってください（毎回 30 分～1 時間程度）。

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	笛木　淳
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	法学基礎演習（Ⅰ・Ⅱ）は，皆さんが学生生活に慣れ，大学における学習をスムーズに始められるように，次の３つを目的としています。 （１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、 （２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、 （３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 そして，（１）ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）、⑤その他、学生生活に必要なノウハウを学びます。
到達目標	この授業では，法学部における勉学をスムーズに開始できるよう，法学の基礎的な能力（いわば法学学習の「型」）を身につけることが期待されます。
授業方法と留意点	方法：演習（ゼミ）形式。プレゼンテーションとディスカッションを行ってもらいます。 留意点：（１）出席が重視されます。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。 （２）法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	法学学習の「型」（作法）を身につけよう。	まず図書館利用や情報処理講習で学習のための基本的な情報収集の方法を学んでもらいます。その上で、社会でどのようなことが問題になっているか，そこにおいて法律がどのようにかかわっているかを調べてもらい、全員で検討していく予定です。本演習で具体的に何をするかについては、初回の授業で皆さんと相談して決めます。	事前学習：初回の授業で指示しますが，新聞記事や様々な文献をあらかじめ読んできてもらうことが中心となります。 事後学習：復習課題やリポートに取り組む。
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	＊授業初回に指示します。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	＊授業初回に指示します。		
2			
3			

評価方法（基準）	発表の内容：３０％ 議論への参加・貢献：３０％ 課題：４０％
学生へのメッセージ	大学での勉強の仕方は，高校までのものとは異なり，とりわけ初年度はどうしたらいいか分からずに戸惑いや不安があるかと思います。この授業はそうした学生のために開講されるものですから，意欲的に参加し，またわからないことや悩みがあれば教員に積極的に相談してください。
担当者の研究室等	笛木講師室（11 号館９階）
備考	・ｊ事前および事後学習として、演習で扱った内容についてノートにまとめるなど、毎回２時間以上の予習および復習に取り組むこと。 ・レポート課題に対するフィードバックは翌週の授業内にて行う。

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	萩原　守
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	この授業は、法学に関する基礎的な知識を養うための演習である。そこで、担当教員の専門分野を勘案して、まずはアジアや日本の法制史等に関して日本語でわかりやすく書かれた概説書を自分で選んで読み、それを要約するという形で学んでもらう。演習なので、もちろん読んできた内容は全員の前で発表してもらう。授業の最終的な目的は、法学の学習範囲を特定のテーマのみに限定して考えることなく、より幅広い知識や問題関心を養うことである。
到達目標	この演習を通じて学生には、広くアジア各国の法制や法制史の持つ特徴を深く理解できるようになることが期待される。また、法制史に限らず、社会と法との関わりについて、幅広い問題関心を持てるようになることが到達目標である。
授業方法と留意点	最初の数回を除いて、演習形式で授業を進める。参加者数を勘案した上でアジア各国の現代の法や法制史に関する概説論文を、読解・発表してもらい、全員で議論を行う。テキストは全てプリントの形で配布するか、図書館所蔵の書籍を指定する予定なので、書籍の購入義務はない。一年生全員を対象とするような講演等が途中で入る可能性が高いため、各自の担当回数は臨機応変でいきたい。
科目学習の効果（資格）	法と社会との関わりについて、深い理解を持てるようになることが期待される。特に、社会科の教職に関心を持っている人には、大きな効果が期待できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	全員の自己紹介と担当項目の設定	担当教員と参加学生たちの問題関心を相互に紹介し合う。	自分の問題関心に基づいて、担当を希望する部分を考え始める。
2	基礎法学としての法制史	法学の一部としての基礎法学、また基礎法学の一部としての法制史という分野を解説し、担当教員の研究歴や問題関心を詳しく解説する	自分の担当を希望する部分を選び始める。
3	環境法、現代のアジア法、中国の法制史、中国女性史、日本女性史、社会史等々の候補論文・書籍の紹介	選択するテーマが決まった人から順々に準備を進めていく。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
4	環境法、現代のアジア法、中国の法制史、中国女性史、日本女性史、社会史等々の候補論文・書籍の紹介	選択するテーマが決まった人から順々に準備を進めていく。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
5	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
6	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
7	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
8	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
9	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
10	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
11	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
12	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
13	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
14	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
15	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。

関連科目	日本法制史、東洋法制史、法と社会、比較法史

<table>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>中国女性史入門</td><td>関西中国女性史研究会</td><td>人文書院</td></tr>
<tr><td>2</td><td>紅の党　完全版</td><td>朝日新聞中国総局</td><td>朝日文庫</td></tr>
<tr><td>3</td><td>サンダカン八番娼館</td><td>山崎朋子</td><td>文春文庫</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>口頭発表を 60%、質疑応答への参加度を 40%として判断するが、演習科目なので、当然出席がその全ての前提条件となる。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>あまり難しく考えすぎることなく、幅広く法制史や法と社会の理解にチャレンジしてほしい。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>11 号館の 10 階にある萩原研究室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td></td></tr>
</table>

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥谷部　壌
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として３つあります。（1）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（2）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（3）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。
到達目標	この演習を通じて学生には、学生生活に慣れ、勉学がスムーズに進められるよう、法学部の学生にふさわしい基礎能力を習得することが期待されます。
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
科目学習の効果（資格）	法学部の開講科目の学習にスムーズに入っていけるようになるでしょう。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	ゼミ計画の説明、教科書の紹介、発表割の作成	
2	所有と公共性	落としものはだれのもの？	事前：教科書の該当部分を読む＆発表があたっている人はその準備
3	動物の法的地位、自由と責任	人と動物って法律上はどんな関係？	事前：教科書の該当部分を読む＆発表があたっている人はその準備
4	自己決定、リバタリアニズム	服装の自由と制服の校則、どっちが優先？	事前：教科書の該当部分を読む＆発表があたっている人はその準備
5	法的三段論法、解釈	スマホ禁止の校則について考える	事前：教科書の該当部分を読む＆発表があたっている人はその準備
6	犯罪と刑罰、適正手続	ルールを破ってしまったらどうなるのか？	事前：教科書の該当部分を読む＆発表があたっている人はその準備
7	表現の自由、名誉、プライバシー、肖像	インスタにウソの投稿をしたらどうなるか？	事前：教科書の該当部分を読む＆発表があたっている人はその準備
8	思想良心の自由、信教の自由、消費者保護	何かを信じる自由、考える自由	事前：教科書の該当部分を読む＆発表があたっている人はその準備
9	間接民主制、選挙	代表を「選んで決める」しくみって？	事前：教科書の該当部分を読む＆発表があたっている人はその準備
10	法律と条例、成文法と不文法	異なる２つのルールがあるとき、どっちを守ればいい？	事前：教科書の該当部分を読む＆発表があたっている人はその準備
11	民事裁判	こじれたもめごと、どう解決する？	事前：教科書の該当部分を読む＆発表があたっている人はその準備
12	労働と法	バイト中の悪ふざけをネットにアップしたらどうなる？	事前：教科書の該当部分を読む＆発表があたっている人はその準備
13	競争と形式的平等・実質的平等	フェアな競争をするにはどうしたらいい？	事前：教科書の該当部分を読む＆発表があたっている人はその準備
14	法の行為規範性、多数決原理	ルールは、だれがどんなふうにつくる？	事前：教科書の該当部分を読む＆発表があたっている人はその準備
15	振り返り	全体の総括	

関連科目	法学部で開講されているすべての科目にかかわります。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	僕らが生きているよのなかのしくみは「法」でわかる	遠藤研一郎	大和書房
2			
3			

評価方法（基準）	授業態度（40%）および授業中に指示する課題（レポートなど）の達成状況（60%）をもとに評価する。
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、みなさんの学生生活にとって大切な友人となるでしょう。良好な友人関係を築いて、学生生活が実り多きものとなることを願っています。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　鳥谷部研究室
備考	

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	笛木　淳
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	法学基礎演習（Ⅰ・Ⅱ）は，皆さんが学生生活に慣れ，大学における学習をスムーズに始められるように，次の３つを目的としています。 （１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、 （２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、 （３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 そして，（１）ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）、⑤その他、学生生活に必要なノウハウを学びます。
到達目標	この授業で学生には，法学部における勉学をスムーズに開始できるよう，法学の基礎的な能力（いわば法学学習の「型」）を身につけることが期待されます。
授業方法と留意点	方法：演習（ゼミ）形式。プレゼンテーションとディスカッションを行ってもらいます。 留意点：（１）出席が重視されます。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。 （２）法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	法学学習の「型」（作法）を身につけよう。	まず図書館利用や情報処理講習で学習のための基本的な情報収集の方法を学んでもらいます。その上で、社会でどのようなことが問題になっているか，そこにおいて法律がどのようにかかわっているかを調べてもらい、全員で検討していく予定です。本演習で具体的に何をするかについては、初回の授業で皆さんと相談して決めます。	事前学習：初回の授業で指示しますが，新聞記事や様々な文献をあらかじめ読んできてもらうことが中心となります。 事後学習：復習課題やリポートに取り組む。
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	＊授業初回に指示します。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	＊授業初回に指示します。		
2			
3			

評価方法（基準）	発表の内容：３０％ 議論への参加・貢献：３０％ 課題：４０％
学生へのメッセージ	大学での勉強の仕方は，高校までのものとは異なり，とりわけ初年度はどうしたらいいか分からずに戸惑いや不安があるかと思います。この授業はそうした学生のために開講されるものですから，意欲的に参加し，またわからないことや悩みがあれば教員に積極的に相談してください。
担当者の研究室等	笛木講師室（11 号館９階）
備考	・ｊ事前および事後学習として、演習で扱った内容についてノートにまとめるなど、毎回２時間以上の予習および復習に取り組むこと。 ・レポート課題に対するフィードバックは翌週の授業内にて行う。

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	萩原　守
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	この授業は、法学に関する基礎的な知識を養うための演習である。参加学生各自が、自分の問題関心に応じて、論文・書籍・判例・ウェブページ等を読んできて、全員の前で口頭発表する。テーマが決められない学生がおれば、前期の続きのような形で、アジアや日本の法制史等に関して日本語でわかりやすく書かれた概説書を自分で選んで読み、それを要約・発表するという形で学んでもらう。授業の最終的な目的は、法学の学習範囲を特定のテーマのみに限定して考えることなく、より幅広い知識や問題関心を養うことである。
到達目標	この演習を通じて学生には、法学や法制史を幅広く理解できるようになることが期待される。すなわち、社会と法との関わりについて、幅広い問題関心を持てるようになることが到達目標である。
授業方法と留意点	最初を除いて、演習形式で授業を進める。参加者各自が論文・書籍・判例・ウェブページ等を選んで読解・要約・発表し、全員で議論を行う。後期も一年生全員を対象とするような講演等が途中で入る可能性が高いため、各自の担当回数は臨機応変でいきたい。
科目学習の効果（資格）	法と社会との関わりについて、幅広い理解を持てるようになることが期待される。特に、社会科の教職に関心を持っている人には、大きな効果が期待できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業の進め方の解説	担当教員と参加学生たちの問題関心を相互に話し合う。	自分の問題関心に基づいて、希望する書籍類を考え始める。
2	現代のアジア法、中国の法制史、中国女性史、日本女性史、社会史等々の候補論文・書籍の紹介	自分でテーマを決められなかった場合の候補論文・書籍を紹介しておく。	選択するテーマが決まった人から順々に準備を進めていく。
3	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
4	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
5	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
6	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
7	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
8	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
9	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
10	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
11	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
12	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
13	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
14	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
15	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。

関連科目	日本法制史、東洋法制史、法と社会、比較法史
教科書	

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 鹿洲公案 / 藍鼎元 / 平凡社 2 / 紅の党　完全版 / 朝日新聞中国総局 / 朝日文庫 3 / サンダカン八番娼館 / 山崎朋子 / 文春文庫
評価方法 （基準）	口頭発表を 60%、質疑応答への参加度を 40%として判断するが、演習科目なので、当然出席がその全ての前提条件となる。
学生への メッセージ	あまり難しく考えすぎることなく、幅広く法制史や法と社会の理解にチャレンジしてほしい。
担当者の 研究室等	11 号館の 10 階にある萩原研究室
備考	

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鳥谷部　壌
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	みなさんのなかには、日常生活で国際法を身近に感じる機会が存分にあるという方は決して多くはないでしょう。いきなり分厚い国際法の教科書に書いてある論点を取り上げることに抵抗を覚える学生も少なくないと思います。そこで本ゼミの内容は、主に次の３点とします。第１に、本ゼミでは、最近の時事国際問題を複数検索しその内容を調べることで、広く社会で何が起きているか、何が問題となっているか、という現状を認識することから始めます。第２に、各自が本格的に調べることを選択した時事問題について、国際法との接点を見出していきます。第３に、以上を踏まえて、条約・判例といった生の素材や、それらに分析を加えた文献を読解し、ゼミ生間で情報共有し議論し発表することを通して、国際法の視点から時事問題を分析する素養を磨きます。
到達目標	この演習を通じて、①受動的ではなく、主体的・能動的な学習態度を身に着けること、②国際法の基礎的な知識を身につけること、③2 年次後期の専門演習に余裕をもってついていけるようになること、が期待されます。
授業方法と留意点	国際法は非常に広い領域を取り扱います。国際法全体について基礎知識を備えることは並大抵のことではありません。でも、そうした基礎知識をみなさんに身に着けてもらうために様々な工夫を凝らし最大限努力します。ですので皆さんもそれに応えて下さい。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	国際法への理解を深める	国際社会に生起するさまざまな事例への理解を深めるためには、判例や過去の実行を詳しく調べることが重要です。	自分が選択した事例について、十分に調べ考える姿勢を保つことが大事です。
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	国際社会と法、国際法の基礎理論、国際組織法、国際人権法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	参加態度（40%）およびゼミのなかで指示する課題（レポートなど）の達成状況（60%）をもとに評価します。
学生へのメッセージ	国際法という分野は国内法とは相当に異なった性質をもっています。初めは取っ付きにくいと感じる方も多いでしょう。しかしながら今や、新聞やメディア等の情報媒体において、国際法に関連する出来事を目にしない日はありません。実は、みなさんの身近にも国際法は存在しているのだということを、本ゼミを通して感じてもらえればと思います。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　鳥谷部研究室
備考	

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	笛木　淳
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	法学では事例研究・判例学習が非常に重要になってきます。この授業では，2年次後期の「専門演習 Ⅰ」，3年次の「専門演習 II」，4年次の「卒業研究」に向けて，そういった事例研究を通じた公法（行政法，憲法，地方自治法）の基礎知識の習得を目指します。具体的には，判例や事例問題などの素材を通じて，具体的な問題点の把握，関連判例と学説の整理をした上で，そのプレゼンテーション及びディスカッションを行ってもらいます。
到達目標	本演習を通じて学生には各段階において次のスキルの獲得が期待されます。 ・資料の収集段階 （1）公法における重要判例の事案・判旨を正確に読み解く力 （2）ある問題について異なる見解が提示されているとき，その対立点を把握して整理する力 （3）自ら主体的に課題を発見する力 ・プレゼンテーションとディスカッションの段階 （4）自分の考えを整理・要約し，他者に伝える力 （5）他人の意見に傾聴する力
授業方法と留意点	授業方法：学生によるプレゼンテーションとディスカッション。 留意点：報告準備段階では主体性な調査・学習が，ディスカッションでは積極的な発言や学生自らによる議論の整理が求めれます。 並行して行政法総論，地方自治法を履修することが望ましいです。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	事例（判例）研究を通じた公法の基礎知識の獲得	報告担当者（グループ）を決め，判例（事案・判旨）についてのプレゼンテーションを行ってもらいます。報告の内容は判例の事案・判旨の読解，関連判例と学説の調査・整理が中心です。報告をもとに，参加者全員でディスカッションをします。 判例の調べ方，当たるべき文献，データベースの活用法などを初回に説明します。また，初回だけでなく，プレゼンテーションに対するコメントでも必要に応じて指摘します。	事前学習： 報告担当者は事案と判旨の整理，関連判例と学説の調査等報告準備を行ってもらいます。報告準備は10時間程度かかると思います。報告者以外は指定文献をあらかじめ読んで疑問点等をまとめておくこと（2時間程度） 事後学習： プレゼンテーションへのフィードバックとディスカッションにより明らかになった報告の問題点を踏まえ，再調査または再検討してもらいます（2時間程度）。
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	行政法，地方自治法，憲法 （また，民法や刑法，民事訴訟の基礎知識があると望ましいですが，必要に応じて適宜フォローに努めます。）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	初回講義で指定。学生の意見も取り入れて決定します。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	・プレゼンテーション（配布資料・報告の内容）：６０％ ・ディスカッション（議論への貢献度）：４０％
学生へのメッセージ	このプレ専門演習を通じて，試験のためではなく，自分なりの課題をもって主体的に学習すること，そして他者との議論を通じて自分の考えを明確化・修正することの楽しさ，重要性を知ってほしいと思います。また，演習は学生の積極的な参加・協力が不可欠ですので，誠実な態度で授業に臨んでください。
担当者の研究室等	笛木講師室（11号館9階）
備考	

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	萩原　守
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	この授業は、将来の卒業論文のテーマを幅広く探っていくための演習である。そのため、参加学生各自が、自分の問題関心に応じて、論文・書籍・判例・ウェブページ等を読んできて、全員の前で口頭発表を行う。テーマが決められない学生がおれば、参考用に教員が提示したアジアや日本の法制史等に関する日本語の概説書の中から自分で選んで読み、それを要約・発表するという形で学んでもらう。授業の最終的な目的は、法学の学習範囲を特定の狭いテーマのみに限定して考えることなく、より幅広い知識や問題関心を養うことである。
到達目標	この演習を通じて学生には、法学を幅広く理解できるようになることが期待される。すなわち、社会と法との関わり等について、より幅広い問題関心を持てるようになることが到達目標である。
授業方法と留意点	最初の数回を除いて、演習形式で授業を進める。参加者各自が論文・書籍・判例・ウェブページ等を選んで読解・要約・発表し、全員で議論を行う。各自の担当回数は臨機応変でいきたい。
科目学習の効果（資格）	法と社会との関わりについて、幅広い理解を持てるようになることが期待される。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業の進め方の解説	担当教員と参加学生たちの問題関心を相互に話し合う。	自分の問題関心に基づいて、希望する書籍類を考え始める。
2	現代のアジア法、中国の法制史、中国女性史、日本女性史、社会史等々の候補論文・書籍の紹介	自分でテーマを決められなかった場合の候補論文・書籍を紹介しておく。	選択するテーマが決まった人から順々に準備を進めていく。
3	現代のアジア法、中国の法制史、中国女性史、日本女性史、社会史等々の候補論文・書籍の紹介	自分でテーマを決められなかった場合の候補論文・書籍を紹介しておく。	選択するテーマが決まった人から順々に準備を進めていく。
4	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
5	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
6	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
7	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
8	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
9	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
10	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
11	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
12	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
13	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
14	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
15	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。

関連科目	日本法制史、東洋法制史、法と社会、比較法史
教科書	

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>鹿洲公案</td><td>藍鼎元</td><td>平凡社</td></tr>
<tr><td>2</td><td>東アジアの憲法制度</td><td>大村泰樹</td><td>アジア経済研究所</td></tr>
<tr><td>3</td><td>アジア諸国の司法改革</td><td>小林昌之</td><td>アジア経済研究所</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>口頭発表を 60%、質疑応答への参加度を 40%として判断するが、演習科目なので、当然出席がその全ての前提条件となる。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>あまり難しく考えすぎることなく、幅広く法と社会の理解にチャレンジしてほしい。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>11 号館の 10 階にある萩原研究室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td></td></tr>
</table>

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥谷部　壌
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	みなさんのなかには、日常生活で国際法を身近に感じる機会が存分にあるという方は決して多くはないでしょう。いきなり分厚い国際法の教科書に書いてある論点を取り上げることに抵抗を覚える学生も少なくないと思います。そこで本ゼミの内容は、主に次の３点とします。第１に、本ゼミでは、最近の時事国際問題を複数検索しその内容を調べることで、広く社会で何が起きているか、何が問題となっているか、という現状を認識することから始めます。第２に、各自が本格的に調べることを選択した時事問題について、国際法との接点を見出していきます。第３に、以上を踏まえて、条約・判例といった生の素材や、それらに分析を加えた文献を読解し、ゼミ生間で情報共有し議論し発表することを通して、国際法の視点から時事問題を分析する素養を磨きます。
到達目標	この演習を通じて、①受動的ではなく、主体的・能動的な学習態度を身に着けること、②国際法の基礎的な知識を身につけること、③3 年次の専門演習に余裕をもってついていけるようになること、が期待されます。
授業方法と留意点	国際法は非常に広い領域を取り扱います。国際法全体について基礎知識を備えることは並大抵のことではありません。でも、そうした基礎知識をみなさんに身に着けてもらうために様々な工夫を凝らし最大限努力します。ですので皆さんもそれに応えて下さい。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	国際法への理解を深める	国際社会に生起するさまざまな事例への理解を深めるためには、判例や過去の実行を詳しく調べることが重要です。	自分が選択した事例について、十分に調べ考える姿勢を保つことが大事です。
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	国際社会と法、国際法の基礎理論、国際組織法、国際人権法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	参加態度（40%）およびゼミのなかで指示する課題（レポートなど）の達成状況（60%）をもとに評価します。
学生へのメッセージ	国際法という分野は国内法とは相当に異なった性質をもっています。初めは取っ付きにくいと感じる方も多いでしょう。しかしながら今や、新聞やメディア等の情報媒体において、国際法に関連する出来事を目にしない日はありません。実は、みなさんの身近にも国際法は存在しているのだということを、本ゼミを通して感じてもらえればと思います。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　鳥谷部研究室
備考	◎事前の学習として、自身が選択したテーマに関するニュース記事や資料を読み進め、パワーポイントでスライドを作成するなど、プレゼンテーションの準備に時間を充ててください。（毎回 1 時間程度） ◎事後の学習として、自身が選択したテーマに最も近い国際判例を探し出し、当該判例の意義や問題点を把握することに努めてください。（毎回 1 時間程度）

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	笛木　淳
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	この授業は，3 年次の「専門演習 II」，4 年次の「卒業研究」に向けて，公法（行政法，地方自治法，憲法）の主要な判例や学説，法令についての学習を皆さんが主体的に深化させることを目的としています。この講義では，プレ専門演習での判例学習を通じて自分なりに発見した課題をさらに深く掘り下げるために，他の関連判例や専門文献に取り組み，プレゼンテーションとディスカッションをしていただきます。
到達目標	本演習を通じて学生には各段階で次のスキルの獲得が期待されます。 ・資料の収集段階 （1）事例研究を通じて自ら主体的に課題を発見する力 （2）発見した課題必要な資料を自ら探索・収集する力 ・プレゼンテーションとディスカッションの段階について （3）自分の考えを整理・要約し，他者に伝える力 （4）他人の意見に傾聴し，問題点を指摘する力
授業方法と留意点	授業方法：学生によるプレゼンテーションとディスカッション。 留意点：報告準備段階では主体性な調査・学習が，ディスカッションでは積極的な発言や学生自らによる議論の整理が求められます。特に行政訴訟に関する分野を研究したい方は，行政法各論を並行して受講することが望ましいです。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	事例（判例）・文献研究を通じた問題意識の掘り下げ	報告担当者（グループ）を決め，各自設定した課題（判例研究，その他の論点研究）についてのプレゼンテーションを行ってもらいます。報告の内容は判例の事案・判旨の読解，関連判例と学説の調査・整理が中心です。報告をもとに，参加者全員でディスカッションをします。	事前学習： 報告担当者は報告準備に 10 時間程度かかると思います。報告者以外は指定文献をあらかじめ読んで疑問点等をまとめておくこと（2 時間程度） 事後学習： プレゼンテーションへのフィードバックとディスカッションにより明らかになった報告の問題点を踏まえ，再調査または再検討してもらいます（2～４時間程度）。
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	行政法，地方自治法，憲法。 （また，民法や刑法の基礎知識があると望ましいですが，学習が不充分な場合にはこちらで適宜フォローに努めます。）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	初回講義で指定。学生の意見も取り入れて決定します。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	・プレゼンテーション（配布資料・報告の内容）：６０％ ・ディスカッション（議論への貢献度）：４０％
学生へのメッセージ	３年次からはいよいよ卒業論文に関連する学習が本格化することでしょう。この授業ではそうした作業にスムーズに移行できるためにできる限りの支援を提供します。とはいえ演習の主体はあくまでも学生です。意欲的で誠実な参加を期待します。
担当者の研究室等	笛木講師室（１１号館９階）
備考	

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	高間　佐知子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	世の中にある法律問題に興味を持ち、より深く自分の力で調査・検討することを目的とします。最終的に卒業論文のテーマにもできそうな問題を探すことで、自分が法律を研究することを意識するための授業となります。
到達目標	この授業を通して学生には、各自のテーマに関する専門的な参考文献を自分で検索することができ、参考文献を読んで内容を他者へ伝えるといった基本的なプレゼンテーション能力を身につけることが期待される。
授業方法と留意点	各自で興味のある法律問題について報告資料を作成し、プレゼンテーションを行ってもらいます。報告後に質疑応答を行い、理解を深めます。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	自己紹介・今後の予定の確認	事前：なし 事後：テーマ探し（1時間）
2	基礎学力調査	就職活動や公務員試験などに対応する基礎学力をテストする	事前：なし 事後：振り返り（1時間）
3	法律問題の調査①	図書館などを利用して参考文献を探して読む	事前：報告資料の調査（2時間） 事後：追加調査（1時間）
4	資料の作成①	参考文献をもとにして報告資料を作成する	事前：報告資料の作成（2時間） 事後：追加調査（1時間）
5	プレゼンテーション①	資料に基づいて報告を行う	事前：報告資料の作成（2時間） 事後：追加調査（1時間）
6	法律問題の調査②	別の参考文献を探して読む	事前：報告資料の調査（2時間） 事後：追加調査（1時間）
7	資料の作成②	参考文献をもとにして報告資料を作成する	事前：報告資料の調査（2時間） 事後：追加調査（1時間）
8	中間報告	資料に基づいて報告を行う	事前：報告のまとめ（2時間） 事後：報告の振り返り（1時間）
9	法律問題の調査③	別の参考文献を探して読む	事前：報告資料の調査（2時間） 事後：追加調査（1時間）
10	資料の作成③	参考文献をもとにして報告資料を作成する	事前：報告資料の作成（2時間） 事後：追加調査（1時間）
11	プレゼンテーション②	資料に基づいて報告を行う	事前：報告資料の作成（2時間） 事後：追加調査（1時間）
12	法律問題の調査④	別の参考文献を探して読む	事前：報告資料の調査（2時間） 事後：追加調査（1時間）
13	資料の作成④	参考文献をもとにして報告資料を作成する	事前：報告資料の作成（2時間） 事後：追加調査（1時間）
14	プレゼンテーション③	資料に基づいて報告を行う	事前：報告資料の作成（2時間） 事後：追加調査（1時間）
15	総括	半年間の振り返りと専門演習Ⅱについて	事前：報告のまとめ（2時間） 事後：報告を振り返り（1時間）

関連科目	プレ専門演習、法律科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	報告資料の適切な作成（30%）、プレゼンテーションの精度（30%）、質疑応答（20%）、積極的な受講態度（20%）によって評価していきます。
学生へのメッセージ	自分で法律学に関するテーマを見つけるところからスタートしましょう。
担当者の研究室等	11号館10階
備考	

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	萩原　守
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	この授業は、将来の卒業論文のテーマを幅広く探っていくための演習である。そのため、参加学生各自が、自分の問題関心に応じて、論文・書籍・判例・ウェブページ等を読んできて、全員の前で口頭発表を行う。テーマが決められない学生がおれば、参考用に教員が提示したアジアや日本の法制史等に関する日本語の概説書の中から自分で選んで読み、それを要約・発表するという形で学んでもらう。授業の最終的な目的は、法学の学習範囲を特定の狭いテーマのみに限定して考えることなく、より幅広い知識や問題関心を養うことである。
到達目標	この演習を通じて学生には、法学を幅広く理解できるようになることが期待される。すなわち、社会と法との関わり等について、より幅広い問題関心を持てるようになることが到達目標である。
授業方法と留意点	最初の数回を除いて、演習形式で授業を進める。参加者各自が論文・書籍・判例・ウェブページ等を選んで読解・要約・発表し、全員で議論を行う。各自の担当回数は臨機応変でいきたい。
科目学習の効果（資格）	法と社会との関わりについて、幅広い理解を持てるようになることが期待される。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業の進め方の解説	担当教員と参加学生たちの問題関心を相互に話し合う。	自分の問題関心に基づいて、希望する書籍類を考え始める。
2	現代のアジア法、中国の法制史、中国女性史、日本女性史、社会史等々の候補論文・書籍の紹介	自分でテーマを決められなかった場合の候補論文・書籍を紹介しておく。	選択するテーマが決まった人から順々に準備を進めていく。
3	現代のアジア法、中国の法制史、中国女性史、日本女性史、社会史等々の候補論文・書籍の紹介	自分でテーマを決められなかった場合の候補論文・書籍を紹介しておく。	選択するテーマが決まった人から順々に準備を進めていく。
4	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
5	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
6	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
7	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
8	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
9	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
10	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
11	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
12	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
13	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
14	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。
15	選んだ論文・書籍の口頭発表	各自の選んだ論文や書籍を要約してきて、全員の前で口頭発表する。参加者は必ず質問をする。発表者は質問に答える。	自分の担当する部分に関して予想される質問に回答できるよう、予習してくる。回答できなかった部分は、後から調べ直す。

関連科目	日本法制史、東洋法制史、法と社会、比較法史
教科書	

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>中国環境ハンドブック 2005-2006 年版</td><td>中国環境問題研究会</td><td>蒼々社</td></tr>
<tr><td>2</td><td>台湾女性史入門</td><td>台湾女性史入門編纂委員会</td><td>人文書院</td></tr>
<tr><td>3</td><td>体感するモンゴル現代史</td><td>萩原守</td><td>南船北馬舎</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>口頭発表を 60%、質疑応答への参加度を 40%として判断するが、演習科目なので、当然出席がその全ての前提条件となる。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>あまり難しく考えすぎることなく、幅広く法と社会の理解にチャレンジしてほしい。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>11 号館の 10 階にある萩原研究室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td></td></tr>
</table>

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	鳥谷部　壌
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	本ゼミは、専門演習Ｉを受講していることを前提として展開されます。本ゼミは、専門演習Ｉで修得した国際法の基礎知識を浸透させ定着化を図るとともに、国際法の応用的なアプローチについても学んでいきます。
到達目標	この演習を通じて、①受動的ではなく、主体的・能動的な学習態度を身に着けること、②国際法の主要な論点について、筋道の立った説明をすることができようになること、③卒業研究のテーマの候補を見つけること、が期待されます。
授業方法と留意点	国際法は非常に広い領域を取り扱います。国際法全体について基礎知識を備えることは並大抵のことではありません。でも、そうした基礎知識をみなさんに身に着けてもらうために様々な工夫を凝らし最大限努力します。ですので皆さんもそれに応えて下さい。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	国際法への理解を深める	国際社会で日々生じている時事問題への理解を深めるためには、判例や過去の実例を詳しく調べることが重要となります。	自分が選択した事例について、十分に調べ考える姿勢を保つことが大事です。
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	国際社会と法、国際法の基礎理論、国際組織法、国際人権法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	参加態度（40%）およびゼミのなかで指示する課題（レポートなど）の達成状況（60%）をもとに評価します。
学生へのメッセージ	本ゼミは、みなさんの学習能力やニーズに鑑みて柔軟に対応します。みなさんの良き理解者であり味方でありたいと思っています。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　鳥谷部研究室
備考	

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	笛木　淳
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	この授業は，4年次の「卒業研究」に向けて，公法（行政法，地方自治法，憲法）の主要判な判例や学説，法令についての学習を皆さんが主体的に深化させ，卒論のテーマ設定を行うことを目的としています。この講義では，「専門演習Ⅰ」での判例学習を通じて自分なりに発見した課題をさらに深く掘り下げるために，他の関連判例や専門文献に取り組み，プレゼンテーションとディスカッションをしていただきます。
到達目標	本演習を通じて学生には各段階で次のスキルの獲得が期待されます。 ・資料の収集段階 （1）事例研究を通じて自ら主体的に課題を発見する力 （2）発見した課題必要な資料を自ら探索・収集する力 ・プレゼンテーションとディスカッションの段階について （3）自分の考えを整理・要約し，他者に伝える力 （4）他人の意見に傾聴し，問題点を指摘する力
授業方法と留意点	・授業方法：学生によるプレゼンテーションとディスカッション。 ・留意点：報告準備段階では主体性な調査・学習が，ディスカッションでは積極的な発言や学生自らによる議論の整理が求められます。特に行政訴訟に関する分野を研究したい方は，行政法各論を並行して受講することが望ましいです。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	事例（判例）・文献研究を通じた問題意識の掘り下げ	報告担当者（グループ）を決め，各自設定した課題（判例研究，その他の論点研究）についてのプレゼンテーションを行ってもらいます。報告の内容は判例の事案・判旨の読解，関連判例と学説の調査・整理が中心です。報告をもとに，参加者全員でディスカッションをします。	事前学習： 報告担当者は報告準備に 10 時間程度かかると思います。報告者以外は指定文献をあらかじめ読んで疑問点等をまとめておくこと（2時間程度） 事後学習： プレゼンテーションへのフィードバックとディスカッションにより明らかになった報告の問題点を踏まえ，再調査または再検討してもらいます（2～４時間程度）。
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	行政法，地方自治法，憲法。 （また，民法や刑法の基礎知識があると望ましいですが，学習が不充分な場合にはこちらで適宜フォローに努めます。）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	初回講義で指定。学生の意見も取り入れて決定します。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	・プレゼンテーション（配布資料・報告の内容）：６０％ ・ディスカッション（議論への貢献度）：４０％
学生へのメッセージ	いよいよ卒業論文に関連する学習が本格化します。意欲的で誠実な参加を期待します。
担当者の研究室等	笛木講師室（１１号館９階）
備考	・ｊ事前および事後学習として、演習で扱った内容についてノートにまとめるなど、毎回２時間以上の予習および復習に取り組むこと。 ・レポート課題に対するフィードバックは翌週の授業内にて行う。

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	高間　佐知子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	世の中にある法律問題に興味を持ち、より深く自分の力で調査・検討することを目的とします。最終的に卒業論文のテーマにもできそうな問題を探すことで、自分が法律を研究することを意識するための授業となります。
到達目標	この授業を通して学生には、各自のテーマに関する専門的な参考文献を自分で検索することができ、参考文献を読んで内容を他者へ伝えるといった基本的なプレゼンテーション能力を身につけることが期待される。
授業方法と留意点	専門演習Ⅰから引き続き、各自で興味のある法律問題について報告資料を作成し、プレゼンテーションを行ってもらいます。報告後に質疑応答を行い、理解を深めます。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	自己紹介・今後の予定の確認	事前：なし 事後：テーマ探し（1時間）
2	基礎学力調査	就職活動や公務員試験などに対応する基礎学力をテストする	事前：なし 事後：振り返り（1時間）
3	法律問題の調査①	図書館などを利用して参考文献を探して読む	事前：報告資料の調査（2時間） 事後：追加調査（1時間）
4	資料の作成①	参考文献をもとにして報告資料を作成する	事前：報告資料の作成（2時間） 事後：追加調査（1時間）
5	プレゼンテーション①	資料に基づいて報告を行う	事前：報告資料の作成（2時間） 事後：追加調査（1時間）
6	法律問題の調査②	別の参考文献を探して読む	事前：報告資料の調査（2時間） 事後：追加調査（1時間）
7	資料の作成②	参考文献をもとにして報告資料を作成する	事前：報告資料の調査（2時間） 事後：追加調査（1時間）
8	中間報告	資料に基づいて報告を行う	事前：報告のまとめ（2時間） 事後：報告の振り返り（1時間）
9	法律問題の調査③	別の参考文献を探して読む	事前：報告資料の調査（2時間） 事後：追加調査（1時間）
10	資料の作成③	参考文献をもとにして報告資料を作成する	事前：報告資料の作成（2時間） 事後：追加調査（1時間）
11	プレゼンテーション②	資料に基づいて報告を行う	事前：報告資料の作成（2時間） 事後：追加調査（1時間）
12	法律問題の調査④	別の参考文献を探して読む	事前：報告資料の調査（2時間） 事後：追加調査（1時間）
13	資料の作成④	参考文献をもとにして報告資料を作成する	事前：報告資料の作成（2時間） 事後：追加調査（1時間）
14	プレゼンテーション③	資料に基づいて報告を行う	事前：報告資料の作成（2時間） 事後：追加調査（1時間）
15	総括	半年間の振り返りと専門演習Ⅱについて	事前：報告のまとめ（2時間） 事後：報告を振り返り（1時間）

関連科目	専門演習Ⅰ、法律科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	報告資料の適切な作成（30%）、プレゼンテーションの精度（30%）、質疑応答（20%）、積極的な受講態度（20%）によって評価していきます。
学生へのメッセージ	自分で設定したテーマについて深く追求しましょう。
担当者の研究室等	11号館10階
備考	

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	萩原　守
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	この授業は、卒業論文を作成するための演習である。本人の問題関心に基づいて、各自、テーマを設定し、少しずつ自分の卒業論文を書いていくことが目的である。
到達目標	より良い卒業論文を作成し、法学部の卒業生にふさわしい学識を身につけることが到達目標となる。
授業方法と留意点	参加者各自の問題関心に基づいて、テーマを設定し、具体的な執筆活動を始める。また定期的にこの授業で中間報告をしてもらい、参加者全員で議論を行う。
科目学習の効果（資格）	法学の中の特定の分野に関して、専門的な知識を獲得し、自分独自の見解をはっきりと打ち出せるようになる。言い換えると、法学部卒業生にふさわしい学識と能力とを備える人物となれる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	各自のテーマと方法論の紹介	参加者全員が自分のテーマと方法論を提示する。。特に、各自が持っている問題関心を述べ合い、その問題に関する研究の方法論を全員で検討する。	あらかじめ、自分の持っている問題関心や、希望を明瞭にまとめておく。
2	参加者各自による見通しの発表①	各自が持っている卒業論文への見通しを発表し、全員で議論する。	あらかじめ、自分の持っている問題関心や、希望を明瞭にまとめておく。
3	参加者各自による見通しの発表②	各自が持っている卒業論文への見通しを発表し、全員で議論する。	あらかじめ、自分の持っている問題関心や、希望を明瞭にまとめておく。
4	参加者各自による見通しの発表③	各自が持っている卒業論文への見通しを発表し、全員で議論する。	あらかじめ、自分の持っている問題関心や、希望を明瞭にまとめておく。
5	参加者各自による見通しの発表④	各自が持っている卒業論文への見通しを発表し、全員で議論する。	あらかじめ、自分の持っている問題関心や、希望を明瞭にまとめておく。
6	参加者各自による見通しの発表⑤	各自が持っている卒業論文への見通しを発表し、全員で議論する。	あらかじめ、自分の持っている問題関心や、希望を明瞭にまとめておく。
7	参加者各自による中間報告会①	各自の卒業論文の中間報告を行う。	問題関心と方法論とに基づいて、卒業論文に着手し、レジュメにまとめる。
8	参加者各自による中間報告会②	各自の卒業論文の中間報告を行う。	問題関心と方法論とに基づいて、卒業論文に着手し、レジュメにまとめる。
9	参加者各自による中間報告会③	各自の卒業論文の中間報告を行う。	問題関心と方法論とに基づいて、卒業論文に着手し、レジュメにまとめる。
10	参加者各自による中間報告会④	各自の卒業論文の中間報告を行う。	問題関心と方法論とに基づいて、卒業論文に着手し、レジュメにまとめる。
11	参加者各自による中間報告会⑤	各自の卒業論文の中間報告を行う。	問題関心と方法論とに基づいて、卒業論文に着手し、レジュメにまとめる。
12	参加者各自による中間報告会⑥	各自の卒業論文の中間報告を行う。	問題関心と方法論とに基づいて、卒業論文に着手し、レジュメにまとめる。
13	参加者各自による中間報告会⑦	各自の卒業論文の中間報告を行う。	問題関心と方法論とに基づいて、卒業論文に着手し、レジュメにまとめる。
14	参加者各自による中間報告会⑧	各自の卒業論文の中間報告を行う。	問題関心と方法論とに基づいて、卒業論文に着手し、レジュメにまとめる。
15	参加者各自による中間報告会⑨	各自の卒業論文の中間報告を行う。	問題関心と方法論とに基づいて、卒業論文に着手し、レジュメにまとめる。

関連科目	東洋法制史、日本法制史、法と社会、比較法史

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国近世の罪と罰	太田出	名古屋大学出版会
2	シャリーアとロシア帝国	堀川徹他	臨川書店
3	中国法入門	小口彦太他	三省堂

評価方法（基準）	卒業研究の評価はゼミで策定したルーブリック表に基づいて行う.
学生へのメッセージ	がんばってより良い卒業論文を書きましょう。早めに着手することが肝要です。
担当者の研究室等	11 号館の 10 階にある萩原研究室
備考	

科目名	英語Ⅰa	科目名（英文）	English Ia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田村　康子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1301c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit 1 : What's Your major?	ボキャブラリー、リスニング、文法、、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.6-11 の練習問題を行う（1時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1時間）
2	Unit 2 : How do you like your new school?	ボキャブラリー、リスニング、文法、、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.12-17 の練習問題を行う（1時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1時間）
3	Unit 3 : Let me introduce a new member to you.	ボキャブラリー、リスニング、文法、、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.18-23 の練習問題を行う（1時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1時間）
4	Unit 4 : How was your Golden Week?	ボキャブラリー、リスニング、文法、、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.24-29 の練習問題を行う（1時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1時間）
5	Unit 5 : I'm looking for a part-time job.	ボキャブラリー、リスニング、文法、、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.30-35 の練習問題を行う（1時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1時間）
6	Unit 6 : What do you call this in Japanese?	ボキャブラリー、リスニング、文法、、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.36-41 の練習問題を行う（1時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1時間）
7	Unit 7:Have you been there?	ボキャブラリー、リスニング、文法、、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.42-47 の練習問題を行う（1時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1時間）
8	復習、臨時テスト	復習と臨時テスト	テスト勉強：Unit1-7 までの復習（2時間）
9	Unit 8 : Could you tell me how to get there?	ボキャブラリー、リスニング、文法、、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.48-53 の練習問題を行う（1時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1時間）
10	Unit 9 : What do you want me to do?	ボキャブラリー、リスニング、文法、、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.54-59 の練習問題を行う（1時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1時間）
11	Unit 10 : I'm on a tight budget	ボキャブラリー、リスニング、文法、、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.60-65 の練習問題を行う（1時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1時間）
12	Unit 11 : What do you think of this program?	ボキャブラリー、リスニング、文法、、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.66-71 の練習問題を行う（1時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1時間）
13	Unit 12 : I'm reviewing what I studied.	ボキャブラリー、リスニング、文法、、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.72-77 の練習問題を行う（1時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1時間）
14	復習、臨時テスト	復習と臨時テスト	テスト勉強：Unit8-12 までの復習（2時間）
15	Unit 13 : Final exam week is so stressful!	ボキャブラリー、リスニング、文法、、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.78-83 の練習問題を行う（1時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Let's Read Aloud & Learn English 〈On Campus〉	Teruhiko　Kadoyama,　Simon	成美堂

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><td></td><td></td><td>Capper</td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition</td><td>西谷 恒志</td><td>成美堂</td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>全学共通英語課題（English Central）　20%
授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　80%</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>毎回の授業に必ず出席するとともに、予習・復習を必ず行ってください。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>7 号館 2 階　非常勤講師室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。</td></tr>
</table>

科目名	英語Ⅰb	科目名（英文）	English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田村　康子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1302c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC，英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit 1：You're Beautiful	ボキャブラリー、リスニング、文法、、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.6-13 の練習問題を行う（1時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1時間）
2	Unit 2：I Want It That Way	ボキャブラリー、リスニング、文法、、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.14-21 の練習問題を行う（1時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1時間）
3	Unit 3：The First Time	ボキャブラリー、リスニング、文法、、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.22-29 の練習問題を行う（1時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1時間）
4	Unit 4 : Complicated{The Matrix Mix}	ボキャブラリー、リスニング、文法、、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.30-37 の練習問題を行う（1時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1時間）
5	Unit 5：My Heart Will Go On	ボキャブラリー、リスニング、文法、、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.38-45 の練習問題を行う（1時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1時間）
6	Unit 6：With You	ボキャブラリー、リスニング、文法、、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.46-53 の練習問題を行う（1時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1時間）
7	Unit 7:Torn	ボキャブラリー、リスニング、文法、、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.54-61 の練習問題を行う（1時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1時間）
8	復習，　臨時テスト	復習と臨時テスト	テスト勉強：Unit1-7 までの復習（2時間）
9	Unit 8 : You Are Not Alone{Radio Edit}	ボキャブラリー、リスニング、文法、、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.62-69 の練習問題を行う（1時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1時間）
10	Unit 9：You Gotta Be	ボキャブラリー、リスニング、文法、、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.70-77 の練習問題を行う（1時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1時間）
11	Unit 10：How Crazy Are You?	ボキャブラリー、リスニング、文法、、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.78－85 の練習問題を行う（1時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1時間）
12	Unit 11 : Last Christmas[Pudding Mix]	ボキャブラリー、リスニング、文法、、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.86-93 の練習問題を行う（1時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1時間）
13	Unit 12：Desperado	ボキャブラリー、リスニング、文法、、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.94-101 の練習問題を行う（1時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1時間）
14	復習，　臨時テスト	復習と臨時テスト	テスト勉強：Unit8-12 までの復習（2時間）
15	Unit 13 : All I Want For Christmas is You	ボキャブラリー、リスニング、文法、、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.102-109 の練習問題を行う（1時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Let's Learn English with Pop Hits!	Teruhiko Kadoyama, Timothy F.	成美堂

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><td></td><td></td><td>Hawthorne</td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition</td><td>西谷 恒志</td><td>成美堂</td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>全学共通英語課題(English Central)　20%
授業への参加、貢献（臨時テスト、小テスト等も含む）　80%</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>毎回の授業に必ず出席するとともに、予習・復習を必ず行ってください。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>7 号館 2 階　非常勤講師室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。</td></tr>
</table>

科目名	英語Ⅰc	科目名（英文）	English Ic
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	抽冬　紘和
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1303c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC，英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Chapter 1 Heads Up	効率的なリーディング	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
2	Chapter 1 Heads Up	効率的なリーディング	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
3	Chapter 2 Burping Cows	フレーズリーディングを理解する	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
4	Chapter 2 Burping Cows	フレーズリーディングを理解する	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
5	Chapter 3 Going Vegetarian	フレーズリーディングを理解する	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
6	Chapter 3 Going Vegetarian	フレーズリーディングを理解する	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
7	確認テスト		
8	Chapter 4 Coffee Shop Secrets	スキャニングで情報を検索する	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
9	Chapter 4 Coffee Shop Secrets	スキャニングで情報を検索する	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
10	Chapter 5 Unusual Jobs	スキミングで概要を把握する	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
11	Chapter 5 Unusual Jobs	スキミングで概要を把握する	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
12	Chapter 6 Underwater Monsters	背景知識を活性化させる	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
13	Chapter 6 Underwater Monsters	背景知識を活性化させる	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
14	Chapter 7 Flash Fiction	背景知識を活用する	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
15	確認テスト２		

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	READING PALETTE Green	Katsuhiko Muto Timothy Kiggell	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	西垣恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題　20% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　80%
学生へのメッセージ	単語力、文法力を学びながら、英語のスキルも同時に学習し、自学習ができるようになりましょう。 頑張っていきましょう☆
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	課題、レポートおよび小テストに対するフィードバックの方法 確認テストの正解は次回の授業で解説する。

科目名	英語Ⅰd	科目名（英文）	English Id
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	抽冬　紘和
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1304c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC，英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Chapter 8 What 3 Words	内容語と機能語を区別する	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
2	Chapter 8 What 3 Words	内容語と機能語を区別する	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
3	Chapter 9 Sounds of the Sea	単語を分解して意味を考える	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
4	Chapter 9 Sounds of the Sea	単語を分解して意味を考える	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
5	Chapter 10 Rowing across the Atlantic	未知語の意味を推測する	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
6	Chapter 10 Rowing across the Atlantic	未知語の意味を推測する	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
7	確認テスト		
8	Chapter 11 Rollercops	代名詞についていく	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
9	Chapter 11 Rollercops	代名詞についていく	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
10	Chapter 12 Plant Milk	ディスコースマーカーに着目する	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
11	Chapter 12 Plant Milk	ディスコースマーカーに着目する	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
12	Chapter 13 Alien Life	エッセイ構造を理解する	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
13	Chapter 13 Alien Life	エッセイ構造を理解する	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
14	Chapter 14 Treasure Hunt	パラグラフ構造を理解する	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
15	確認テスト２		

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	READING PALETTE Green	Katsuhiko Muto Timothy Kiggell	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	西垣恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題　20% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　80%
学生へのメッセージ	単語力、文法力を学びながら、英語のスキルも同時に学習し、自学習ができるようになりましょう。 頑張っていきましょう☆
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	

科目名	英語Ⅱa	科目名（英文）	English IIa
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	近　大志
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN2305c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 日本文化・観光地を題材とした平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・自己紹介 ・授業の紹介（進め方, 評価方法など） ・課題の提示	Follow orientation instructions.
2	Lesson 1. An Attitude of Hospitality: Welcome to Japan!	・Reading ・演習	Follow instructions as provided in class.
3	Lesson 1. An Attitude of Hospitality: Welcome to Japan!	・演習 ・グループワーク	Follow instructions as provided in class.
4	Lesson 8. Omi Province and Its Military History	・小テスト① ・Reading	Follow instructions as provided in class.
5	Lesson 8. Omi Province and Its Military History	・演習 ・グループワーク	Follow instructions as provided in class.
6	Lesson 9. The Deer in Nara	・小テスト② ・Reading	Follow instructions as provided in class.
7	Lesson 9. The Deer in Nara	・演習 ・グループワーク	Follow instructions as provided in class.
8	Lesson 10. Kyoto Station	・小テスト③ ・Reading	Follow assessment instructions
9	Lesson 10. Kyoto Station	・演習 ・グループワーク	Follow assessment instructions.
10	Lesson 11. Let's Explore Osaka	・小テスト④ ・Reading	Follow instructions as provided in class.
11	Lesson 11. Let's Explore Osaka	・演習 ・グループワーク	Follow instructions as provided in class.
12	Lesson 12. Port City Kobe	・小テスト⑤ ・Reading	Follow instructions as provided in class.
13	Lesson 12. Port City Kobe	・演習 ・グループワーク	Follow instructions as provided in class.
14	Lesson 1. (revisitation)	・小テスト⑥ ・グループワーク	Follow assessment instructions.
15	Lesson 1, 8-12	・グループワーク ・授業の振り返り	Follow assessment instructions.

関連科目	他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	おもてなしの観光英語 (Hospitality English)	木戸美幸 著/ Carolyn Wright 著 / 河原俊昭 著/ 徳地慎二 著	三修社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition - (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題(EnglishCentral) ...20% 小テスト ... 30% 授業課題 ... 50%
学生へのメッセージ	I'm looking forward to teaching you this year. Please participate fully in pair and group work, and enjoy the class.

担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱa	科目名（英文）	English IIa
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	ＢＣ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田村　康子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN2305c1		

授業概要・目的	この授業では、TOEIC300ー400 点レベルの基礎的な英語力を養うことを目標に、テキストに沿って練習問題をこなしていく。TOEIC 関連の基本的な語彙や表現を覚え、E-mail、ビジネス文書などを取り上げた簡単な読解問題に親しんでもらう。また、各ユニットで説明されている英語表現を習得する。テキストに沿って聞き取りを行い、リスニング力も養成する。練習問題をたくさんこなして TOEIC の点数アップを狙う。
到達目標	受講者が、TOEIC の出題形式に慣れ、授業のみならず、自主的に TOEIC の受験勉強をすすめ、最終的には 50～100 点程度スコアを上げることが目標である。
授業方法と留意点	テキストに沿って、TOEIC のリスニング、リーディング対策を行っていく。
科目学習の効果（資格）	語彙力の強化及び TOEIC のスコアアップ。リスニング、リーディング力の向上。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit 1: 旅行①	リスニング・リーディング	事前学習:テキスト p.1-6 練習問題を行う(1j 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記(1 時間)
2	Unit 2: オフィス①	リスニング・リーディング	事前学習:テキスト p.7-12 練習問題を行う(1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記(1 時間)
3	Unit 3: レストラン	リスニング・リーディング	事前学習：テキスト p.13-18 練習問題を行う(1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記(1 時間)
4	Unit 4: 季節・天気	リスニング・リーディング	事前学習:テキスト p19-24 練習問題を行う(1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記(1 時間)
5	Unit 5: 健康	リスニング・リーディング	事前学習：テキスト p.25-30 練習問題を行う(1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記(1 時間)
6	いろいろな英語の発音に慣れよう①	リスニング・リーディング	事前学習：テキスト p.31-32 練習問題を行う(1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記(1 時間)
7	Unit 6: 旅行②	リスニング・リーディング	事前学習：テキスト p.33-38 練習問題を行う(1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記(1 時間)
8	復習、臨時テスト	復習と臨時テスト	テスト勉強：p.1-38 ま復習復習(2 時間)
9	Unit 7: 休暇	リスニング・リーディング	事前学習：テキスト p.39-44 練習問題を行う(1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記(1 時間)
10	Unit 8: オフィス②	リスニング・リーディング	事前学習：テキスト p.45-50 練習問題を行う(1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記(1 時間)
11	Unit 9: ショッピング	リスニング・リーディング	事前学習：テキスト p.51-56 練習問題を行う(1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記(1 時間)
12	Unit 10:就職活動	リスニング・リーディング	事前学習：テキスト p.57-62 練習問題を行う(1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記(1 時間)
13	いろいろな英語の発音に慣れよう②	リスニング・リーディング	事前学習：テキスト p.63-64 練習問題を行う(1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記(1 時間)
14	Unit 11: 娯楽	リスニング・リーディング	事前学習：テキスト p.65-70 練習問題を行う(1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記(1 時間)
15	Unit 12: 旅行③	リスニング・リーディング	事前学習：テキスト p.71-76 練習問題を行う(1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記(1 時間)テキスト

関連科目	他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	The TOEIC Listening & Reading Test CIRCUIT〈Updated Edition〉	鶴岡公幸、Ｍａｔｔｅｗ　Ｗｉｌｓｏｎ	松柏社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷恒志	成美堂

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 （基準）	全学共通英語課題（English Central）　20% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　80%
学生への メッセージ	毎回の授業に必ず出席し、授業内容を復習すること。 単語力を増強するため e-learning に積極的に取り組むこと。 さらに、TOEIC を受験することを勧める。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストを読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱa	科目名（英文）	English IIa
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	ＤＥＧＨＩ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤原　久仁子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN2305c1		

授業概要・目的	海外の法律に関する文章を読み、自分の考えを英語で表現するためのトレーニングを行います。 法律を切り口に、海外の生活や社会状況を知り、比較の視点を養います。
到達目標	自分の意見を表現するために必要な語彙力、文法知識を身につける。 通じる英語ではなく、その場面にふさわしい語彙やフォーマル/カジュアル度で自己表現をする力を身につける。
授業方法と留意点	授業は演習＋解説をセットにして、毎回４ページ進みます。知らない単語は調べておきましょう。
科目学習の効果（資格）	TOEIC を受験する人は個別に相談してください（金のフレーズ、公式問題集、推奨する動画、本授業を合わせて勉強してくれれば７００点までは順調に上がります。そこから先は、スピード UP とリスニング強化等のトレーニングを頑張れば８００点台になります。４００点と６００点は英語の実力的にはそれほど差がありません。６００点台と８００点台はかなりの差があります。８００点台と９００点台はもっと大きな差があって、９００点台になるにはだいぶ英語をやりこむ必要があります。そして、９００点の人と、９５０点以上の人の間にはさらにもっ

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 第１章　ドイツの法律	問題演習・グループディスカッション・フィードバック・解説・まとめのテスト	事前：知らない単語・熟語を調べておく 事後:授業で扱った範囲の文章を音声に合わせてシャドイング、リピーティングする。
2	第２章　アメリカの法律	問題演習・グループディスカッション・フィードバック・解説・まとめのテスト	事前：知らない単語・熟語を調べておく 事後:授業で扱った範囲の文章を音声に合わせてシャドイング、リピーティングする。
3	第３章　イタリアの法律	問題演習・グループディスカッション・フィードバック・解説・まとめのテスト	事前：知らない単語・熟語を調べておく 事後:授業で扱った範囲の文章を音声に合わせてシャドイング、リピーティングする。
4	第４章　ハンガリーの法律	問題演習・グループディスカッション・フィードバック・解説・まとめのテスト	事前：知らない単語・熟語を調べておく 事後:授業で扱った範囲の文章を音声に合わせてシャドイング、リピーティングする。
5	第５章　アメリカの法律	問題演習・グループディスカッション・フィードバック・解説・まとめのテスト	事前：知らない単語・熟語を調べておく 事後:授業で扱った範囲の文章を音声に合わせてシャドイング、リピーティングする。
6	第６章　イスラーム法	問題演習・グループディスカッション・フィードバック・解説・まとめのテスト	事前：知らない単語・熟語を調べておく 事後:授業で扱った範囲の文章を音声に合わせてシャドイング、リピーティングする。
7	第７章　イタリアの法律	問題演習・グループディスカッション・フィードバック・解説・まとめのテスト	事前：知らない単語・熟語を調べておく 事後:授業で扱った範囲の文章を音声に合わせてシャドイング、リピーティングする。
8	第８章　スイスの法律	問題演習・グループディスカッション・フィードバック・解説・まとめのテスト	事前：知らない単語・熟語を調べておく 事後:授業で扱った範囲の文章を音声に合わせてシャドイング、リピーティングする。
9	第９章　インドの法律	問題演習・グループディスカッション・フィードバック・解説・まとめのテスト	事前：知らない単語・熟語を調べておく 事後:授業で扱った範囲の文章を音声に合わせてシャドイング、リピーティングする。
10	第１０章　フランスの法律	問題演習・グループディスカッション・フィードバック・解説・まとめのテスト	事前：知らない単語・熟語を調べておく 事後:授業で扱った範囲の文章を音声に合わせてシャドイング、リピーティングする。
11	第１１章　イギリスの法律	問題演習・グループディスカッション・フィードバック・解説・まとめのテスト	事前：知らない単語・熟語を調べておく 事後:授業で扱った範囲の文章を音声に合わせてシャドイング、リピーティングする。
12	第１２章　バングラデシュの法律	問題演習・グループディスカッション・フィードバック・解説・まとめのテスト	事前：知らない単語・熟語を調べておく 事後:授業で扱った範囲の文章を音声に合わせてシャドイング、リピーティングする。
13	第１３章　スウェーデンの法律	問題演習・グループディスカッション・フィードバック・解説・まとめのテスト	事前：知らない単語・熟語を調べておく 事後:授業で扱った範囲の文章を音声に合わせてシャドイング、リピーティングする。
14	第１４章　オーストラリアの法律	問題演習・グループディスカッション・フィードバック・解説・まとめのテスト	事前：知らない単語・熟語を調べておく 事後:授業で扱った範囲の文章を音声に合わせてシャドイング、リピーティングする。
15	全体の総括	１分間プレゼンテーション＋総まとめのテスト	事前：推奨された動画を観ておく。 事後：推奨された教材で問題演習をする。

関連科目	なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	世界おもしろ比較文化：法律から学ぶ文化事情	Takayuki Ishii et al.	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	グループディスカッションや小テスト等毎回の授業で実施する課題に対する評価（50%）とまとめのテスト（50%）をもとに、総合的に判断する。

学生への メッセージ	一緒に楽しく英語を学んでいきましょう。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	英語に触れる時間が長ければ長いほど英語脳が発達すると信じて、片づけをしながら TED Talk、料理をしながら MSNBC News や CNN を聞きながらシャドイングをして、耳と口の筋肉を鍛えましょう。

科目名	英語Ⅱb	科目名（英文）	English IIb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	近　大志
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN2306c1		

授業概要・目的	TOEIC で評価される英語力について、特に「読む」「聴く」スキルの向上を目指す。 その他にも、「書く」「話す」活動を取り入れつつ 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) TOEIC450 点以上の実力 (2) ポップカルチャーをテーマとした平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (3) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (4) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	・演習に比重を置いた授業を実施するため、受講者の積極的な参加が望まれる。 ・授業内の課題等を期限までに提出し、English Central 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 ・３回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めないため。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・自己紹介 ・授業のガイダンス	Follow orientation instructions.
2	Chapter1. Michael Jackson	・Reading ・数えられる名詞とそうでない名詞について	Follow instructions as provided in class.
3	Chapter1. Michael Jackson	・演習問題	Follow instructions as provided in class.
4	Chapter2. The Beatles	・Reading ・代名詞の用法	Follow instructions as provided in class.
5	Chapter2. The Beatles	・演習問題	Follow instructions as provided in class.
6	Chapter3. Beyonce	・Reading ・動詞の自他	Follow instructions as provided in class.
7	Chapter3. Beyonce	・演習問題	Follow instructions as provided in class.
8	Chapter12. Aerosmith	・Reading ・接続詞	Follow instructions as provided in class.
9	Chapter12. Aerosmith	・演習問題	Follow instructions as provided in class.
10	Chapter10. Lady Gaga	・Reading ・完了形とは何か	Follow instructions as provided in class.
11	Chapter10. Lady Gaga	・演習問題	Follow instructions as provided in class.
12	Chapter13. Cyndi Lauper	・Reading ・関係節 その①	Follow instructions as provided in class.
13	Chapter13. Cyndi Lauper	・演習問題	Follow instructions as provided in class.
14	Chapter14. Tupac Shakur	・Reading ・関係節 その②	Follow instructions as provided in
15	Chapter14. Tupac Shakur	・演習問題 ・授業のレビュー	Follow instructions as provided in class.

関連科目	他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ポップ・ミュージック・ワールド	本多吉彦 著/ 狩野紀子 著/ 土屋武久 著/ Christopher Piper 著	三修社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test – Revised Edition – (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献（小テストを含む）　60% 定期試験 20%
学生へのメッセージ	I'm looking forward to teaching you this semester. Please participate fully in pair and group work, and enjoy the class.
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱb	科目名（英文）	English IIb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	ＢＣ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	後藤　一章
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN2306c1		

授業概要・目的	英語を実用的に使用するために特に必要な基礎文法項目を反復練習し、4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。構文研究に加え、それらが実際的に使用されうる様々な話題、場面、状況を想定し、必要な表現等も含めて、統合的に学習する。さらに、学生の自発的かつ計画的な語彙学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	この科目は、英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標及びテーマとする。
授業方法と留意点	文法事項を学習し、例文を反復練習する。また定着を図るために授業時に小テスト等を行う。 必ず辞書を持参してください。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標･テーマや授業内容などについて説明する。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
2	考えを文にして伝える： 英語の基本五文型	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
3	自分の立場を表明する： 肯定文と否定文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
4	相手に質問する： 疑問文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
5	知りたい内容を求める： 疑問詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
6	存在を知らせる： 存在文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
7	事象を客観的に表現する： 非人称の it	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
8	基本動詞を活用する： have と get	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
9	視点を変える： 受動態	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
10	時系列に即して述べる： 時制	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
11	文の内容を評価・判断する： 助動詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
12	文のつながりを意識する： 代名詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
13	時間や空間を指定する： 前置詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
14	語彙力テスト	語彙力テストを実施する。終了後、同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイスを行う。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
15	総括	これまでに学んだ内容を総括する。	総復習（1時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Grammar Clinic ５分間基本英文法	佐藤　誠司	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test（改訂新版）	西谷 恒志	成美堂
2			
3			

評価方法（基準）	語彙テスト（30%） 授業中のテスト・発言・討論、宿題・提出物等（70%）
学生へのメッセージ	英語力は日々の学習の積み重ねです。近道はありませんので、一日一日を大切に頑張ってください。
担当者の研究室等	7号館5階 後藤研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	英語Ⅱb	科目名（英文）	English IIb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	ＤＥＧＨＩ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	天野　貴史
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN2306c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な 4 技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。elearning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業案内	授業日程・内容・評価などの説明	テキストの予習復習（１時間）
2	Unit01	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習	テキストの予習復習（１時間）
3	Unit02	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習	テキストの予習復習（１時間）
4	Unit03	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習	テキストの予習復習（１時間）
5	振り返りテスト	Unit1-3 の振り返りテスト	テキストの予習復習（１時間）
6	Unit04	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習	テキストの予習復習（１時間）
7	Unit05	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習	テキストの予習復習（１時間）
8	Unit06	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習	テキストの予習復習（１時間）
9	振り返りテスト	Unit4-6 の振り返りテスト	テキストの予習復習（１時間）
10	Unit07	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習	テキストの予習復習（１時間）
11	Unit08	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習	テキストの予習復習（１時間）
12	Unit09	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習	テキストの予習復習（１時間）
13	振り返りテスト	Unit7-9 の振り返りテスト	テキストの予習復習（１時間）
14	Unit10	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習	テキストの予習復習（１時間）
15	まとめテスト	教科書全体のまとめテスト	テキストの予習復習（１時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Night at the Museum/映画総合教材「ナイト ミュージアム」	（著者） Robert Ben Garant Thomas Lennon　（編著）Kim R. Kanel　神谷久美子	松柏社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	振り返りテスト　30% 授業での取り組み　50% まとめテスト　20% 注意：出席率 80%未満の学生は原則として成績評価の対象外とする。
学生へのメッセージ	Prepare for your future and study and speak English today.
担当者の研究室等	7 号館 3 階　天野研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英会話Ⅰ	科目名（英文）	English Conversation Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	ＡＢ
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大江　麻里子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN2329c1		

授業概要・目的	英語で発信するための基礎作りをし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができるようになる。 ※詳しい内容は初回授業で説明します。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期はCEFR-J [A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。 ※詳しい内容は初回授業で説明します。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	テキストや授業の進め方について説明する	テキストに目を通しておくこと。
2	Chapter 1 College Life	リスニングとスピーキングの演習	テキストにでてくる新しい単語や英語表現を予習しておくこと。
3	Chapter 1 College Life	リスニングとスピーキングの演習	前回の授業で習った英語表現を暗記し、使えるようにする。また、新しい単語を調べておくこと。
4	Chapter 2 Future Plans / Jobs	リスニングとスピーキングの演習	前回の授業で習った英語表現を暗記し、使えるようにする。また、新しい単語を調べておくこと。
5	Chapter 2 Future Plans / Jobs	リスニングとスピーキングの演習	前回の授業で習った英語表現を暗記し、使えるようにする。また、新しい単語を調べておくこと。
6	Chapter 3 Part-Time Jobs and Otakatsu	リスニングとスピーキングの演習	前回の授業で習った英語表現を暗記し、使えるようにする。また、新しい単語を調べておくこと。
7	Chapter 3 Part-Time Jobs and Otakatsu	リスニングとスピーキングの演習	前回の授業で習った英語表現を暗記し、使えるようにする。また、新しい単語を調べておくこと。
8	Chapter 4 Movies	リスニングとスピーキングの演習	前回の授業で習った英語表現を暗記し、使えるようにする。また、新しい単語を調べておくこと。
9	Chapter 4 Movies	リスニングとスピーキングの演習	前回の授業で習った英語表現を暗記し、使えるようにする。また、新しい単語を調べておくこと。
10	Chapter 5 Parties and Festivals	リスニングとスピーキングの演習	前回の授業で習った英語表現を暗記し、使えるようにする。また、新しい単語を調べておくこと。
11	Chapter 5 Parties and Festivals	リスニングとスピーキングの演習	前回の授業で習った英語表現を暗記し、使えるようにする。また、新しい単語を調べておくこと。
12	Chapter 6 Friends	リスニングとスピーキングの演習	前回の授業で習った英語表現を暗記し、使えるようにする。また、新しい単語を調べておくこと。
13	Chapter 6 Friends	リスニングとスピーキングの演習	前回の授業で習った英語表現を暗記し、使えるようにする。また、新しい単語を調べておくこと。
14	前期の総まとめ	授業内で難しかったところなどを解説し、英語表現などを定着させる	前回の授業で習った英語表現を暗記し、使えるようにする。
15	まとめのテスト	テスト	総復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Activator Next	塩澤　正	金星堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業参加度（出欠状況を含む）　５０％ まとめのテスト　５０％
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7号館2階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ１５時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 ※詳しい内容は初回授業で説明します。

科目名	英会話Ⅰ	科目名（英文）	English Conversation Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	ＣＤ
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	オチエ　クリスティン
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN2329c1		

授業概要・目的	英語で発信するための基礎作りをし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができるようになる。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期はCEFR-J [A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
2	Unit 1	Lists and categories	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
3	Unit 2	Extra information and questions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
4	Unit 3	Order of importance	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
5	Unit 4	Habits	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
6	Unit 5	Future concepts, speculation.	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
7	Unit 6	Instructions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
8	Unit 7	Creative instructions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
9	Unit 8	Location and juxtaposition	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
10	Unit 9	Giving directions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
11	Unit 10	Diaries and the past	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
12	Unit 11	Story structures and formats	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
13	Unit 12	Description	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
14	Unit 13	Conversation gambits	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
15	Review	Review	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.

関連科目	―

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ＳＣＤ　Ｃａｒｎａｖａｌ	Richard Rowat	Weissman Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Evaluation will be based on quizzes, homework assignments, and class participation. Exam = 10% In-class quizzes = 10% Homework assignments = 10% Class participation and attitude = 70%
学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, read up on lessons, and do their homework will get the most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson.
担当者の研究室等	7号館2階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。

科目名	英会話Ⅰ	科目名（英文）	English Conversation Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	ＥＧＨＩ
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	花房　ともえ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN2329c1		

授業概要・目的	英語で発信するための基礎作りをし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができるようになる。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期はCEFR-J [A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and self introduction Warm-up Unit	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
2	Unit 1Tell me something about yourself.	Listening Quiz Warm-Up: Key Vocabulary, Pronunciation, Model Conversation, Grammar Exercises, Pair Dictation	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
3	Unit 1Tell me something about yourself.	Listening Quiz Vocabulary Review, Personalized Conversation, Listening Model Speech	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
4	Unit 1Tell me something about yourself.	Listening Quiz Personalized Speech Speech: Pair Discussion	Students should memorize and practice the speech before they come to class.
5	Presentation 1	Listening Quiz Speech 1 Nice To Meet You	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
6	Unit 2 Could you hand in your homework by Friday?	Listening Quiz Warm-Up: Key Vocabulary, Pronunciation, Model Conversation, Grammar Exercises, Pair Dictation	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
7	Unit 2 Could you hand in your homework by Friday?	Listening Quiz Vocabulary Review, Personalized Conversation, Listening Model Speech	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
8	Unit 2 Could you hand in your homework by Friday?	Listening Quiz Personalized Speech Speech: Pair Discussion	Students should memorize and practice the speech before they come to class.
9	Presentation 2	Listening Quiz Speech 2 My Part-Time Job	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class
10	Unit 3 Where were you when the earthquake happened?	Listening Quiz Warm-Up: Key Vocabulary, Pronunciation, Model Conversation, Grammar Exercises, Pair Dictation	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
11	Unit 3 Where were you when the earthquake happened?	Listening Quiz Vocabulary Review, Personalized Conversation, Listening Model Speech	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
12	Unit 3 Where were you when the earthquake happened?	Listening Quiz Personalized Speech Speech: Pair Discussion	Students should memorize and practice the speech before they come to class.
13	Presentation 3	Listening Quiz Speech 3 My Weekend	Students should prepare for the interview test quqestions before they come to class.
14	Review 1	Listening Quiz Review 1: Interview Test Questions, Grammar, Vocabulary, Writing 1	Students should prepare for the interview test quqestions before they come to class.
15	Review 2	Listening Quiz Review 2: Interview Test Questions, Comprehension, Writing 2	Students should prepare for the interview test quqestions before they come to class.

関連科目	―

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Get by in English 3 Pre-intermediate	Julyan Nutt, Michael Marshall, Yoko Kurahashi, Manabu Miyata	Sanshusha
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

授業への参加、貢献　　２０％
スピーチ　４０％
インタビューテスト、課題提出, Listening Quiz　４０％

学生への メッセージ	・紙の辞書か電子辞書を必ず持参してください。携帯電話やスマートフォンは指示した時以外は使用を禁止します。 ・ペア・グループワーク及びスピーチ活動への積極的・意欲的な取り組みと貢献を評価します。 間違えることを恐れず、何よりも英語を話すことを楽しむ気持ちを大切にしてください。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英会話Ⅱ	科目名（英文）	English Conversation II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	ＡＢ
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大江　麻里子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN2330c1		

授業概要・目的	英語で発信するための基礎作りをし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができるようになる。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期はCEFR-J [A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	テキストや授業の進め方について説明する	テキストに目を通しておくこと。
2	Chapter 7 Celebrations	リスニングとスピーキングの演習	テキストにでてくる新しい単語や英語表現を予習しておくこと。
3	Chapter 7 Celebrations	リスニングとスピーキングの演習	前回の授業で習った英語表現を暗記し、使えるようにする。また、新しい単語を調べておくこと。
4	Chapter 8 Travel	リスニングとスピーキングの演習	前回の授業で習った英語表現を暗記し、使えるようにする。また、新しい単語を調べておくこと。
5	Chapter 8 Travel	リスニングとスピーキングの演習	前回の授業で習った英語表現を暗記し、使えるようにする。また、新しい単語を調べておくこと。
6	Chapter 9 Food	リスニングとスピーキングの演習	前回の授業で習った英語表現を暗記し、使えるようにする。また、新しい単語を調べておくこと。
7	Chapter 9 Food	リスニングとスピーキングの演習	前回の授業で習った英語表現を暗記し、使えるようにする。また、新しい単語を調べておくこと。
8	Chapter 10 The Environment	リスニングとスピーキングの演習	前回の授業で習った英語表現を暗記し、使えるようにする。また、新しい単語を調べておくこと。
9	Chapter 10 The Environment	リスニングとスピーキングの演習	前回の授業で習った英語表現を暗記し、使えるようにする。また、新しい単語を調べておくこと。
10	Chapter 11 Business	リスニングとスピーキングの演習	前回の授業で習った英語表現を暗記し、使えるようにする。また、新しい単語を調べておくこと。
11	Chapter 11 Business	リスニングとスピーキングの演習	前回の授業で習った英語表現を暗記し、使えるようにする。また、新しい単語を調べておくこと。
12	Chapter 12 The Internet and Social Media	リスニングとスピーキングの演習	前回の授業で習った英語表現を暗記し、使えるようにする。また、新しい単語を調べておくこと。
13	Chapter 12 The Internet and Social Media	リスニングとスピーキングの演習	前回の授業で習った英語表現を暗記し、使えるようにする。また、新しい単語を調べておくこと。
14	後期の総まとめ	授業内で難しかったところなどを解説し、英語表現などを定着させる	前回の授業で習った英語表現を暗記し、使えるようにする。
15	まとめのテスト	テスト	総復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Activator Next	塩澤　正	金星堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業参加度（出欠状況を含む）　５０％ まとめのテスト　５０％
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7号館2階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ１５時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 ※詳しい内容は初回授業で説明します。

科目名	英会話Ⅱ	科目名（英文）	English Conversation II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	ＣＤ
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	オチエ　クリスティン
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN2330c1		

授業概要・目的	英語で発信するための基礎作りをし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができるようになる。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期はCEFR-J [A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検討

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Units 15 & 16	Advice	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
2	Unit 17	Comparison	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
3	Unit 18	Invention	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
4	Unit 19	Opinions: the best	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
5	Unit 20	Opinions: good or bad	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
6	Unit 21	Opinions: true or false	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
7	Unit 22	Explanations	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
8	Unit 23	Tall tales	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
9	Unit 24	Advertising	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
10	Unit 25	News	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
11	Unit 26	Evaluation	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
12	Unit 27	Research	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
13	Unit 28	Rethinking history	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
14	Unit 29	Future concepts	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
15	Evaluation and review	Evaluation and review	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ＳＣＤ　Ｃａｒｎａｖａｌ	Richard Rowat	Weissman Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Evaluation will be based on quizzes, homework assignments, and class participation. Exam = 10% In-class quizzes = 10% Homework assignments = 10% Class participation and attitude = 70%
学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, read up on lessons, and do their homework will get the most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson.
担当者の研究室等	7号館2階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。

科目名	英会話Ⅱ	科目名（英文）	English Conversation II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	ＥＧＨＩ
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	花房　ともえ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN2330c1		

授業概要・目的	英語で発信するための基礎作りをし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができるようになる。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期はCEFR-J [A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and self introduction Warm-up Activity	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
2	Unit 4 Have you ever been snowboarding?	Listening Quiz Warm-Up: Key Vocabulary, Pronunciation, Model Conversation, Grammar Exercises, Pair Dictation	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
3	Unit 4 Have you ever been snowboarding?	Listening Quiz Vocabulary Review, Personalized Conversation, Listening Model Speech	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
4	Unit 4 Have you ever been snowboarding?	Listening Quiz Personalized Speech Speech: Pair Discussion	Students should memorize and practice the speech before they come to class.
5	Presentation 1	Listening Quiz Speech 1 My hobby	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
6	Unit 5 Is it much bigger than Japan?	Listening Quiz Warm-Up: Key Vocabulary, Pronunciation, Model Conversation, Grammar Exercises, Pair Dictation	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
7	Unit 5 Is it much bigger than Japan?	Listening Quiz Vocabulary Review, Personalized Conversation, Listening Model Speech	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
8	Unit 5 Is it much bigger than Japan?	Listening Quiz Personalized Speech Speech: Pair Discussion	Students should memorize and practice the speech before they come to class.
9	Presentation 2	Listening Quiz Speech 2 My hometown	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class
10	Unit 6 Are you ready to order?	Listening Quiz Warm-Up: Key Vocabulary, Pronunciation, Model Conversation, Grammar Exercises, Pair Dictation	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
11	Unit 6 Are you ready to order?	Listening Quiz Vocabulary Review, Personalized Conversation, Listening Model Speech	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
12	Unit 6 Are you ready to order?	Listening Quiz Personalized Speech Speech: Pair Discussion	Students should memorize and practice the speech before they come to class.
13	Presentation 3	Listening Quiz Speech 3 My Favorite Restaurant	Students should prepare for the interview test quqestions before they come to class.
14	Review 1	Listening Quiz Review 1: Interview Test Questions, Grammar, Vocabulary, Writing 1	Students should prepare for the interview test quqestions before they come to class.
15	Review 2	Listening Quiz Review 2: Interview Test Questions, Comprehension, Writing 2	Students should prepare for the interview test quqestions before they come to class.

関連科目	―

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Get by in English 3 Pre-intermediate	Julyan Nutt, Michael Marshall, Yoko Kurahashi, Manabu Miyata	Sanshusha
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加、貢献　　２０％ スピーチ　４０％ インタビューテスト、課題提出, Listening Quiz　４０％

学生への メッセージ	・紙の辞書か電子辞書を必ず持参してください。携帯電話やスマートフォンは指示した時以外は使用を禁止します。 ・ペア・グループワーク及びスピーチ活動への積極的・意欲的な取り組みと貢献を評価します。 間違えることを恐れず、何よりも英語を話すことを楽しむ気持ちを大切にしてください。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	情報処理Ⅰ	科目名（英文）	Information Processing Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	学籍番号下3桁001～070
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	寺内　睦博
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JIL1309a1		

授業概要・目的	大学生活および卒業後の生活において要求される情報やデータを取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持ち、アプリケーションの機能の最低限の使い方と、それらの連携作業を実行できるようになること、およびデータサイエンスに関するエントリーレベルの知識を有するようになることが期待される。
授業方法と留意点	大学の ICT 環境を利用して、アプリケーションツールの使い方を実践的課題を通して演習形式で学ぶ。また、データサイエンスの基礎レベルを e-learning による自主学習とミニ講義、演習形式で学ぶ。e-learning は、空き時間を見つけて、なるべく毎日少しづつ均等に学修するように心がけてください。
科目学習の効果（資格）	今後の諸活動において情報リテラシー能力を活用できること。マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)等の資格取得出題範囲の約40%を学ぶ。データサイエンスのエントリーレベルの知識が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 摂南大学の ICT 環境 コンピュータの基礎 関連資格の紹介 データサイエンス	出欠管理システム メールシステム ポータルサイト Moodle への登録 OneDrive の使い方 用語解説 IT パスポートの紹介 メールへのファイル添付 e-learning の方法	事前：シラバスの確認（30分） 事後：大学の ICT 環境の確認（60分）
2	データサイエンスとは 【Word】 Word の基礎スキル	1 データサイエンスとは（イントロ） 文書の新規作成と保存 表示モード・倍率の変更 Window の分割と利用 文字列の削除、コピー、貼付け 文字列の書式設定 段落の書式設定 文書の書式（テーマ等） 文字列の検索、編集記号の表示、隠し文字	事前：授業内容の確認（10分） 事後：演習課題の完成・提出(20分) E-第1回（60分）視聴・テスト
3	社会で起きている変化 【Word】 文書の管理 文字、段落の挿入と書式設定	2 社会で起きている変化（イントロ） 文書のページ設定を行う スタイルセットを適用する ヘッダーやフッターを挿入する、変更する 印刷の設定を変更する 記号や特殊文字を挿入する 文字列を検索する、置換する 文字の効果を適用する 行間、段落間隔、インデントを設定する 書式のコピー/貼付け	事前：授業内容の確認（10分） 事後：演習課題の完成・提出(20分) E-第2回（60分）視聴・テスト
4	社会で活用されてるデータ 【Word】 セクションの挿入と設定 表やリストの作成と設定	3 社会で活用されているデータ（イントロ） ページ区切りを挿入する 段組みを設定する セクション区切りを設定する 行や列を指定して表を作成する 表のデータを並べ替える セルの余白と間隔を設定する セルを結合する、分割する 列の幅を設定する 箇条書きや段落番号を設定する リストのレベルを変更する 開始する番号の値を設定する	事前：授業内容の確認（10分） 事後：演習課題の完成・提出(20分) E-第3回（60分）視聴・テスト
5	データ・AI の活用領域 【Word】 グラフィック要素の挿入と書式	4 データ・AI の活用領域（イントロ） 図形を挿入する 図を挿入する テキストボックスを挿入する SmartArt グラフィックを挿入する 3D モデルを挿入する スクリーンショットや画面の領域を挿入する テキストボックスにテキストを追加・変更する 図形にテキストを追加・変更する オブジェクトの周囲の文字列を折り返す オブジェクトを配置する	事前：授業内容の確認（10分） 事後：演習課題の完成・提出(20分) E-第4回（60分）視聴・テスト
6	【Word】 テスト課題演習	Word 演習テスト	事前：Word の復習 事後：Word の振り返り（30分）
7	【PowerPoint】 スライドの作成	スライドの作成 テキスト 図形作成 グラフィック要素の挿入と書式設定	事前：PowerPoint の機能を調べる（30分） 事後：事後課題の完成・提出（60分）

	8	【PowerPoint】 グループ内での発表	アニメーションの設定 スライドの切り替え 発表者ツールの設定 相互発表 ルーブリック評価	事前：発表準備（60 分） 事後：PowerPoint 機能の振り返り（30 分）
	9	データ・AI 利活用のための技術 【Excel】 Excel の基礎スキル	5 データ・AI 利活用のための技術（イントロ） ブックの作成とテーマの適用 表示倍率の設定 データの移動、コピー、検索、置換 列や行の挿入、削除、コピー、表示設定 ワークシートの編集（追加、削除、移動、コピー、名称、見出し色） ブック内のデータを検索する ページ設定を変更する 行の高さや列の幅を調整する	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 5 回（60 分）視聴・テスト
	10	【Excel】 ワークシートやブックの管理 シートのデータを操作する	ブックの表示を変更する ワークシートの行や列を固定する 印刷設定を行う 印刷範囲を設定する オートフィル機能でセルにデータを入力する 形式を選択してデータを貼り付ける 複数の列や行を挿入する、削除する セルを挿入する、削除する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出(50 分)
	11	【Excel】 セルやセル範囲の表示と操作 データを視覚的にまとめる	セルの配置、文字の方向、インデントの変更 セル内のテキストを折り返して表示する セルを結合する、セルの結合を解除する 数値の書式を適用する 書式のコピー/貼り付け スパークラインを挿入する 組み込みの条件付き書式を適用する 条件付き書式を削除する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出(50 分)
	12	【Excel】 数式や関数を使用した演算の実行	セルの相対参照、絶対参照、複合参照 SUM, AVERAGE, MAX, MIN 関数の利用 COUNT, COUNTA, COUNTBLANK 関数の利用 IF 関数を使用して条件付きの計算を実行する RIGHT, LEFT, MID 関数の利用 UPPER, LOWER 関数の利用 CONCAT 関数の利用	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出(50 分)
	13	【Excel】 グラフの管理	グラフの種類と用途 グラフを作成する ソースデータの行と列を切り替える グラフにデータ範囲（系列）を追加する グラフの要素を追加する、変更する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出(50 分)
	14	【Excel】 テスト課題演習	Excel 演習テスト	事前：Excel の復習（60 分）
	15	データサイエンス・AI 演習	9 データを読む（1） データの代表値 データのばらつき 10 データを読む（2） 相関と因果 母集団と抽出 統計情報の正しい理解	事前：E-第 9 回(60 分）視聴・テスト E-第 10 回(60 分）視聴・テスト

関連科目	情報リテラシーⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 365 & 2019 対策テキスト＆問題集（FPT1913）	富士通 FOM	FOM 出版
2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 365 & 2019 対策テキスト＆問題集（FPT1912）	富士通 FOM	FOM 出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業中の実習課題（40%）、模擬試験や総合課題などの演習（40%）、プレゼンテーション（10%）、e-learning(10%)を総合的に評価する。この授業は演習中心のため、出席（課題提出）が単位取得の必要条件となる。
学生へのメッセージ	疑問を放置しないこと。何でも質問してください。
担当者の研究室等	寺内准教授室（１１号館１０階）

備考	

科目名	情報処理Ⅰ	科目名（英文）	Information Processing Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	学籍番号下３桁 071～140
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	新居　英志
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JIL1309a1		

授業概要・目的	大学生活および卒業後の生活において要求される情報やデータを取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持ち、アプリケーションの機能の最低限の使い方と、それらの連携作業を実行できるようになること、およびデータサイエンスに関するエントリーレベルの知識を有するようになることが期待される。
授業方法と留意点	大学の ICT 環境を利用して、アプリケーションツールの使い方を実践的課題を通して演習形式で学ぶ。また、データサイエンスの基礎レベルを e-learning による自主学習とミニ講義、演習形式で学ぶ。e-learning は、空き時間を見つけて、なるべく毎日少しづつ均等に学修するように心がけてください。
科目学習の効果（資格）	今後の諸活動において情報リテラシー能力を活用できること。マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)等の資格取得出題範囲の約 40%を学ぶ。データサイエンスのエントリーレベルの知識が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 摂南大学の ICT 環境 コンピュータの基礎 関連資格の紹介 データサイエンス	出欠管理システム メールシステム ポータルサイト Moodle への登録 OneDrive の使い方 用語解説 IT パスポートの紹介 メールへのファイル添付 e-learning の方法	事前：シラバスの確認（30 分） 事後：大学の ICT 環境の確認（60 分）
2	データサイエンスとは 【Word】 Word の基礎スキル	1 データサイエンスとは（イントロ） 文書の新規作成と保存 表示モード・倍率の変更 Window の分割と利用 文字列の削除、コピー、貼付け 文字列の書式設定 段落の書式設定 文書の書式（テーマ等） 文字列の検索、編集記号の表示、隠し文字	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第１回（60 分）視聴・テスト
3	社会で起きている変化 【Word】 文書の管理 文字、段落の挿入と書式設定	2 社会で起きている変化（イントロ） 文書のページ設定を行う スタイルセットを適用する ヘッダーやフッターを挿入する、変更する 印刷の設定を変更する 記号や特殊文字を挿入する 文字列を検索する、置換する 文字の効果を適用する 行間、段落間隔、インデントを設定する 書式のコピー/貼付け	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第２回（60 分）視聴・テスト
4	社会で活用されてるデータ 【Word】 セクションの挿入と設定 表やリストの作成と設定	3 社会で活用されているデータ（イントロ） ページ区切りを挿入する 段組みを設定する セクション区切りを設定する 行や列を指定して表を作成する 表のデータを並べ替える セルの余白と間隔を設定する セルを結合する、分割する 列の幅を設定する 箇条書きや段落番号を設定する リストのレベルを変更する 開始する番号の値を設定する	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第３回（60 分）視聴・テスト
5	データ・AI の活用領域 【Word】 グラフィック要素の挿入と書式	4 データ・AI の活用領域（イントロ） 図形を挿入する 図を挿入する テキストボックスを挿入する SmartArt グラフィックを挿入する 3D モデルを挿入する スクリーンショットや画面の領域を挿入する テキストボックスにテキストを追加・変更する 図形にテキストを追加・変更する オブジェクトの周囲の文字列を折り返す オブジェクトを配置する	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第４回（60 分）視聴・テスト
6	【Word】 テスト課題演習	Word 演習テスト	事前：Word の復習 事後：Word の振り返り（30 分）
7	【PowerPoint】 スライドの作成	スライドの作成 テキスト 図形作成 グラフィック要素の挿入と書式設定	事前：PowerPoint の機能を調べる（30 分） 事後：事後課題の完成・提出（60 分）

	8	【PowerPoint】 グループ内での発表	アニメーションの設定 スライドの切り替え 発表者ツールの設定 相互発表 ルーブリック評価	事前：発表準備（60 分） 事後：PowerPoint 機能の振り返り（30 分）
	9	データ・AI 利活用のための技術 【Excel】 Excel の基礎スキル	5 データ・AI 利活用のための技術（イントロ） ブックの作成とテーマの適用 表示倍率の設定 データの移動、コピー、検索、置換 列や行の挿入、削除、コピー、表示設定 ワークシートの編集（追加、削除、移動、コピー、名称、見出し色） ブック内のデータを検索する ページ設定を変更する 行の高さや列の幅を調整する	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 5 回（60 分）視聴・テスト
	10	【Excel】 ワークシートやブックの管理 シートのデータを操作する	ブックの表示を変更する ワークシートの行や列を固定する 印刷設定を行う 印刷範囲を設定する オートフィル機能でセルにデータを入力する 形式を選択してデータを貼り付ける 複数の列や行を挿入する、削除する セルを挿入する、削除する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出(50 分)
	11	【Excel】 セルやセル範囲の表示と操作 データを視覚的にまとめる	セルの配置、文字の方向、インデントの変更 セル内のテキストを折り返して表示する セルを結合する、セルの結合を解除する 数値の書式を適用する 書式のコピー/貼り付け スパークラインを挿入する 組み込みの条件付き書式を適用する 条件付き書式を削除する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出(50 分)
	12	【Excel】 数式や関数を使用した演算の実行	セルの相対参照、絶対参照、複合参照 SUM, AVERAGE, MAX, MIN 関数の利用 COUNT, COUNTA, COUNTBLANK 関数の利用 IF 関数を使用して条件付きの計算を実行する RIGHT, LEFT, MID 関数の利用 UPPER, LOWER 関数の利用 CONCAT 関数の利用	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出(50 分)
	13	【Excel】 グラフの管理	グラフの種類と用途 グラフを作成する ソースデータの行と列を切り替える グラフにデータ範囲（系列）を追加する グラフの要素を追加する、変更する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出(50 分)
	14	【Excel】 テスト課題演習	Excel 演習テスト	事前：Excel の復習（60 分）
	15	データサイエンス・AI 演習	9 データを読む（1） データの代表値 データのばらつき 10 データを読む（2） 相関と因果 母集団と抽出 統計情報の正しい理解	事前：E-第 9 回(60 分）視聴・テスト E-第 10 回(60 分）視聴・テスト

関連科目	情報リテラシーⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 365 & 2019 対策テキスト＆問題集（FPT1913）	富士通 FOM	FOM 出版
2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 365 & 2019 対策テキスト＆問題集（FPT1912）	富士通 FOM	FOM 出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業中の実習課題（40%）、模擬試験や総合課題などの演習（40%）、プレゼンテーション（10%）、e-learning(10%)を総合的に評価する。この授業は演習中心のため、出席（課題提出）が単位取得の必要条件となる。
学生へのメッセージ	疑問を放置しないこと。何でも質問してください。
担当者の研究室等	新居講師室（7 号館 5 階）

備考	

科目名	情報処理Ⅰ	科目名（英文）	Information Processing Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	学籍番号下３桁 141～210
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石原　恭子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JIL1309a1		

授業概要・目的	大学生活および卒業後の生活において要求される情報やデータを取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持ち、アプリケーションの機能の最低限の使い方と、それらの連携作業を実行できるようになること、およびデータサイエンスに関するエントリーレベルの知識を有するようになることが期待される。
授業方法と留意点	大学の ICT 環境を利用して、アプリケーションツールの使い方を実践的課題を通して演習形式で学ぶ。また、データサイエンスの基礎レベルを e-learning による自主学習とミニ講義、演習形式で学ぶ。e-learning は、空き時間を見つけて、なるべく毎日少しづつ均等に学修するように心がけてください。
科目学習の効果（資格）	今後の諸活動において情報リテラシー能力を活用できること。マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)等の資格取得出題範囲の約 40%を学ぶ。データサイエンスのエントリーレベルの知識が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 摂南大学の ICT 環境 コンピュータの基礎 関連資格の紹介 データサイエンス	出欠管理システム メールシステム ポータルサイト Moodle への登録 OneDrive の使い方 用語解説 IT パスポートの紹介 メールへのファイル添付 e-learning の方法	事前：シラバスの確認（30 分） 事後：大学の ICT 環境の確認（60 分）
2	データサイエンスとは 【Word】 Word の基礎スキル	1 データサイエンスとは（イントロ） 文書の新規作成と保存 表示モード・倍率の変更 Window の分割と利用 文字列の削除、コピー、貼付け 文字列の書式設定 段落の書式設定 文書の書式（テーマ等） 文字列の検索、編集記号の表示、隠し文字	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第１回（60 分）視聴・テスト
3	社会で起きている変化 【Word】 文書の管理 文字、段落の挿入と書式設定	2 社会で起きている変化（イントロ） 文書のページ設定を行う スタイルセットを適用する ヘッダーやフッターを挿入する、変更する 印刷の設定を変更する 記号や特殊文字を挿入する 文字列を検索する、置換する 文字の効果を適用する 行間、段落間隔、インデントを設定する 書式のコピー/貼付け	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第２回（60 分）視聴・テスト
4	社会で活用されてるデータ 【Word】 セクションの挿入と設定 表やリストの作成と設定	3 社会で活用されているデータ（イントロ） ページ区切りを挿入する 段組みを設定する セクション区切りを設定する 行や列を指定して表を作成する 表のデータを並べ替える セルの余白と間隔を設定する セルを結合する、分割する 列の幅を設定する 箇条書きや段落番号を設定する リストのレベルを変更する 開始する番号の値を設定する	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第３回（60 分）視聴・テスト
5	データ・AI の活用領域 【Word】 グラフィック要素の挿入と書式	4 データ・AI の活用領域（イントロ） 図形を挿入する 図を挿入する テキストボックスを挿入する SmartArt グラフィックを挿入する 3D モデルを挿入する スクリーンショットや画面の領域を挿入する テキストボックスにテキストを追加・変更する 図形にテキストを追加・変更する オブジェクトの周囲の文字列を折り返す オブジェクトを配置する	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第４回（60 分）視聴・テスト
6	【Word】 テスト課題演習	Word 演習テスト	事前：Word の復習 事後：Word の振り返り（30 分）
7	【PowerPoint】 スライドの作成	スライドの作成 テキスト 図形作成 グラフィック要素の挿入と書式設定	事前：PowerPoint の機能を調べる（30 分） 事後：事後課題の完成・提出（60 分）

	8	【PowerPoint】 グループ内での発表	アニメーションの設定 スライドの切り替え 発表者ツールの設定 相互発表 ルーブリック評価	事前：発表準備（60 分） 事後：PowerPoint 機能の振り返り（30 分）
	9	データ・AI 利活用のための技術 【Excel】 Excel の基礎スキル	5 データ・AI 利活用のための技術（イントロ） ブックの作成とテーマの適用 表示倍率の設定 データの移動、コピー、検索、置換 列や行の挿入、削除、コピー、表示設定 ワークシートの編集（追加、削除、移動、コピー、名称、見出し色） ブック内のデータを検索する ページ設定を変更する 行の高さや列の幅を調整する	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 5 回（60 分）視聴・テスト
	10	【Excel】 ワークシートやブックの管理 シートのデータを操作する	ブックの表示を変更する ワークシートの行や列を固定する 印刷設定を行う 印刷範囲を設定する オートフィル機能でセルにデータを入力する 形式を選択してデータを貼り付ける 複数の列や行を挿入する、削除する セルを挿入する、削除する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出(50 分)
	11	【Excel】 セルやセル範囲の表示と操作 データを視覚的にまとめる	セルの配置、文字の方向、インデントの変更 セル内のテキストを折り返して表示する セルを結合する、セルの結合を解除する 数値の書式を適用する 書式のコピー/貼り付け スパークラインを挿入する 組み込みの条件付き書式を適用する 条件付き書式を削除する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出(50 分)
	12	【Excel】 数式や関数を使用した演算の実行	セルの相対参照、絶対参照、複合参照 SUM, AVERAGE, MAX, MIN 関数の利用 COUNT, COUNTA, COUNTBLANK 関数の利用 IF 関数を使用して条件付きの計算を実行する RIGHT, LEFT, MID 関数の利用 UPPER, LOWER 関数の利用 CONCAT 関数の利用	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出(50 分)
	13	【Excel】 グラフの管理	グラフの種類と用途 グラフを作成する ソースデータの行と列を切り替える グラフにデータ範囲（系列）を追加する グラフの要素を追加する、変更する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出(50 分)
	14	【Excel】 テスト課題演習	Excel 演習テスト	事前：Excel の復習（60 分）
	15	データサイエンス・AI 演習	9 データを読む（1） データの代表値 データのばらつき 10 データを読む（2） 相関と因果 母集団と抽出 統計情報の正しい理解	事前：E-第 9 回(60 分）視聴・テスト E-第 10 回(60 分）視聴・テスト

関連科目	情報リテラシーⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 365 & 2019 対策テキスト＆問題集（FPT1913）	富士通 FOM	FOM 出版
2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 365 & 2019 対策テキスト＆問題集（FPT1912）	富士通 FOM	FOM 出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業中の実習課題（40%）、模擬試験や総合課題などの演習（40%）、プレゼンテーション（10%）、e-learning(10%)を総合的に評価する。この授業は演習中心のため、出席（課題提出）が単位取得の必要条件となる。
学生へのメッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。多くの先輩が、受講の後に独学で MOS（Microsoft Office Specialist（マイクロソフト オフィス スペシャリスト）に合格していますので、就活時のアピールの為にも頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。
担当者の研究室等	経営学部 非常勤講師室（11 号館 6 階） （火曜日 5 限 授業前のみ）

備考	

科目名	情報処理Ⅰ	科目名（英文）	Information Processing Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	学籍番号下３桁 211～
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	坂口　紫
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JIL1309a1		

授業概要・目的	大学生活および卒業後の生活において要求される情報やデータを取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持ち、アプリケーションの機能の最低限の使い方と、それらの連携作業を実行できるようになること、およびデータサイエンスに関するエントリーレベルの知識を有するようになることが期待される。
授業方法と留意点	大学の ICT 環境を利用して、アプリケーションツールの使い方を実践的課題を通して演習形式で学ぶ。また、データサイエンスの基礎レベルを e-learning による自主学習とミニ講義、演習形式で学ぶ。 e-learning は、空き時間を見つけて、なるべく毎日少しづつ均等に学修するように心がけてください。
科目学習の効果（資格）	今後の諸活動において情報リテラシー能力を活用できること。 マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)等の資格取得出題範囲の約 40%を学ぶ。 データサイエンスのエントリーレベルの知識が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 摂南大学の ICT 環境 コンピュータの基礎 関連資格の紹介 データサイエンス	出欠管理システム メールシステム ポータルサイト Moodle への登録 OneDrive の使い方 用語解説 IT パスポートの紹介 メールへのファイル添付 e-learning の方法	事前：シラバスの確認（30 分） 事後 ：大学の ICT 環境の確認（60 分）
2	データサイエンスとは 【Word】 Word の基礎スキル	1 データサイエンスとは（イントロ） 文書の新規作成と保存 表示モード・倍率の変更 Window の分割と利用 文字列の削除、コピー、貼付け 文字列の書式設定 段落の書式設定 文書の書式（テーマ等） 文字列の検索、編集記号の表示、隠し文字	事前：授業内容の確認（10 分） 事後 ：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 1 回（60 分）視聴・テスト
3	社会で起きている変化 【Word】 文書の管理 文字、段落の挿入と書式設定	2 社会で起きている変化（イントロ） 文書のページ設定を行う スタイルセットを適用する ヘッダーやフッターを挿入する、変更する 印刷の設定を変更する 記号や特殊文字を挿入する 文字列を検索する、置換する 文字の効果を適用する 行間、段落間隔、インデントを設定する 書式のコピー/貼付け	事前：授業内容の確認（10 分） 事後 ：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 2 回（60 分）視聴・テスト
4	社会で活用されてるデータ 【Word】 セクションの挿入と設定 表やリストの作成と設定	3 社会で活用されているデータ（イントロ） ページ区切りを挿入する 段組みを設定する セクション区切りを設定する 行や列を指定して表を作成する 表のデータを並べ替える セルの余白と間隔を設定する セルを結合する、分割する 列の幅を設定する 箇条書きや段落番号を設定する リストのレベルを変更する 開始する番号の値を設定する	事前：授業内容の確認（10 分） 事後 ：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 3 回（60 分）視聴・テスト
5	データ・AI の活用領域 【Word】 グラフィック要素の挿入と書式	4 データ・AI の活用領域（イントロ） 図形を挿入する 図を挿入する テキストボックスを挿入する SmartArt グラフィックを挿入する 3D モデルを挿入する スクリーンショットや画面の領域を挿入する テキストボックスにテキストを追加・変更する 図形にテキストを追加・変更する オブジェクトの周囲の文字列を折り返す オブジェクトを配置する	事前：授業内容の確認（10 分） 事後 ：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 4 回（60 分）視聴・テスト
6	【Word】	Word 演習テスト	事前：Word の復習

	テスト課題演習		事後：Word の振り返り（30 分）
7	【PowerPoint】 スライドの作成	スライドの作成 テキスト 図形作成 グラフィック要素の挿入と書式設定	事前（30 分） ：PowerPoint の機能を調べる 事後 ：事後課題の完成・提出（60 分）
8	【PowerPoint】 グループ内での発表	アニメーションの設定 スライドの切り替え 発表者ツールの設定 相互発表 ルーブリック評価	事前：発表準備（60 分） 事後 ：PowerPoint 機能の振り返り（30 分）
9	データ・AI 利活用のための技術 【Excel】 Excel の基礎スキル	5 データ・AI 利活用のための技術（イントロ） ブックの作成とテーマの適用 表示倍率の設定 データの移動、コピー、検索、置換 列や行の挿入、削除、コピー、表示設定 ワークシートの編集（追加、削除、移動、コピー、名称、見出し色） ブック内のデータを検索する ページ設定を変更する 行の高さや列の幅を調整する	事前：授業内容の確認（10 分） 事後 ：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 5 回（60 分）視聴・テスト
10	【Excel】 ワークシートやブックの管理 シートのデータを操作する	ブックの表示を変更する ワークシートの行や列を固定する 印刷設定を行う 印刷範囲を設定する オートフィル機能でセルにデータを入力する 形式を選択してデータを貼り付ける 複数の列や行を挿入する、削除する セルを挿入する、削除する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後 ：演習課題の完成・提出(50 分)
11	【Excel】 セルやセル範囲の表示と操作 データを視覚的にまとめる	セルの配置、文字の方向、インデントの変更 セル内のテキストを折り返して表示する セルを結合する、セルの結合を解除する 数値の書式を適用する 書式のコピー/貼り付け スパークラインを挿入する 組み込みの条件付き書式を適用する 条件付き書式を削除する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後 ：演習課題の完成・提出(50 分)
12	【Excel】 数式や関数を使用した演算の実行	セルの相対参照、絶対参照、複合参照 SUM, AVERAGE, MAX, MIN 関数の利用 COUNT, COUNTA, COUNTBLANK 関数の利用 IF 関数を使用して条件付きの計算を実行する RIGHT, LEFT, MID 関数の利用 UPPER, LOWER 関数の利用 CONCAT 関数の利用	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後 ：演習課題の完成・提出(50 分)
13	【Excel】 グラフの管理	グラフの種類と用途 グラフを作成する ソースデータの行と列を切り替える グラフにデータ範囲（系列）を追加する グラフの要素を追加する、変更する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後 ：演習課題の完成・提出(50 分)
14	【Excel】 テスト課題演習	Excel 演習テスト	事前：Excel の復習（60 分）
15	データサイエンス・AI 演習	9 データを読む（1） データの代表値 データのばらつき 10 データを読む（2） 相関と因果 母集団と抽出 統計情報の正しい理解	事前 ：E-第 9 回(60 分）視聴・テスト E-第 10 回(60 分）視聴・テスト

関連科目：情報リテラシーⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 365 & 2019 対策テキスト＆問題集（FPT1913）	富士通 FOM	FOM 出版
2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 365 & 2019 対策テキスト＆問題集（FPT1912）	富士通 FOM	FOM 出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業中の実習課題（40%）、模擬試験や総合課題などの演習（40%）、プレゼンテーション（10%）、 e-learning(10%)を総合的に評価する。 この授業は演習中心のため、出席（課題提出）が単位取得の必要条件となる。
学生への メッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。多くの先輩が、受講の後に独学でMOS（Microsoft Office Specialist（マイクロソフト オフィス スペシャリスト）に合格していますので、就活時のアピールの為にも頑張ってください。さらにITパスポート資格の取得も視野に入れましょう。
担当者の 研究室等	7号館2階　非常勤講師室
備考	

科目名	情報処理Ⅱ	科目名（英文）	Information Processing II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	学籍番号下３桁 141～210 学籍番号下３桁 211～
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	寺内　睦博
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JIL1310a1		

授業概要・目的	大学生活および、卒業後の社会人生活において効率的に資料収集、作成およびデータの取り扱いを行い、基礎的な分析も実施できる能力の養成を目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、Microsoft Office を用いて大学での授業のレポート課題を作成できること、情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと、アプリケーションの機能の応用的な使い方と、それらの連携作業を実施できるようになること、さらに データサイエンスの次ステップにつながる知識を有するようになることが期待される。
授業方法と留意点	大学の ICT 環境を利用して、アプリケーションツールの使い方を実践的課題を通して演習形式で学ぶ。また、データサイエンスの基礎レベルを e-learning による自主学習とミニ講義、演習形式で学ぶ。e-learning は、空き時間を見つけて、なるべく毎日少しづつ均等に学修するように心がけてください。
科目学習の効果（資格）	Microsoft Office Specialist Word、Excel が取得できるレベル。 データサイエンスの基礎的な知識が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーションと復習	ICT 学習環境の確認 社会人としての情報モラル Word と Excel の連携	事前：情報リテラシーI の復習(50 分) 事後：演習課題の完成・提出(40 分)
2	データ活用とは 【Word 応用】 効率的な文書の作成と管理 文書の共有と検査	6 データ活用とは（イントロ） 文書内の他の場所にリンクする 文書内の特定の場所やオブジェクトに移動する ページの背景要素を設定する 別のファイル形式で文書を保存する 基本的な文書プロパティを変更する ページの背景色を印刷する 電子文書を共有する 文書を検査する	事前：授業テーマの予習(10 分) 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 6 回（60 分）視聴・テスト
3	データ・AI 利活用の現場 【Word 応用】 表やリストの変換と調整	7 データ・AI 利活用の現場（イントロ） 文字列に組み込みスタイルを適用する 書式をクリアする 文字列を表に変換する 表を文字列に変換する 表全体のサイズを設定する 表を分割する タイトル行の繰返しを設定する 新しい行頭文字や番号書式を定義する アウトラインレベルに応じた番号書式を設定する リストのレベルごとに行頭文字や番号書式を変更する リストの番号を振り直す、自動的に振る	事前：授業テーマの予習(10 分) 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 7 回（60 分）視聴・テスト
4	データ・AI 利活用の最新動向 【Word 応用】 参考資料の作成と管理	8 データ・AI 利活用の最新動向（イントロ） 脚注や文末脚注を挿入する 脚注や文末脚注のプロパティを変更する 資料文献を作成する、変更する 引用文献を挿入する 参考文献一覧を挿入する 目次を挿入する ユーザー設定の目次を作成する	事前：授業テーマの予習(10 分) 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 8 回（60 分）視聴・テスト
5	データ・AI を扱う上での留意事項(1) 【Word 応用】 グラフィック要素の変更と設定	13 データ・AI を扱う上での留意事項(1)（イントロ） アート効果を適用する 図の背景を削除する 図の効果やスタイルを適用する グラフィック要素を書式設定する SmartArt グラフィックを書式設定する 3D モデルを書式設定する SmartArt グラフィックの内容を追加する、変更する オブジェクトに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習(10 分) 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 13 回（60 分）視聴・テスト
6	【Word 応用】 文書の共同作業の管理	コメントを追加する コメントを閲覧する コメントに返答する、対処する コメントを削除する 変更履歴を記録する、削除する 変更履歴を閲覧する 変更履歴を承諾する、元に戻す 変更履歴を設定する	事前：授業テーマの予習（60 分） 事後：演習課題の完成・提出(30 分)
7	【Word 応用】 テスト応用課題演習	Word 応用演習テスト	事前：Word の復習（90 分）
8	データ・AI を扱う上での留意事項(2) 【Excel 応用】	14 データ・AI を扱う上での留意事項(2)（イントロ） 名前付き範囲を定義する	事前：授業テーマの予習(10 分) 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 14 回（60 分）視聴・テスト

	名前の定義 テーブルとデータの管理	テーブルに名前を付ける セル範囲から Excel のテーブルを作成する テーブルにスタイルを適用する テーブルをセル範囲に変換する テーブルに行や列を追加する、削除する テーブルスタイルのオプションを設定する 集計行を挿入する、設定する 複数の列でデータを並べ替える レコードをフィルタする	
9	【Excel 応用】 数式における名前の利用 グラフの書式設定	数式の中で名前付き範囲やテーブル名を参照する LEN、RIGHT 関数を利用する TEXTJOIN 関数を利用する グラフシートを作成する グラフのレイアウトを適用する グラフのスタイルを適用する アクセシビリティ向上のため、グラフに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：演習課題の完成・提出(60 分)
10	データを説明する	11 データを説明する 　データを比較するためのグラフ 　時間の推移を見せるためのグラフ 　データ相互の関係を示すためのグラフ 　データの偏りを示すためのグラフ 　データの比較 　適切なグラフ表現 　優れた可視化事例	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：E-第 11 回(60 分)視聴・テスト
11	データを扱う	12 データを扱う 　売り上げを予測する 　顧客層を分析する 　顧客満足度を把握する 　顧客の不満の要因を探る	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：E-第 12 回(60 分)視聴・テスト
12	データを守る上での留意事項とまとめ 【Excel 応用】 名前の利用と表示のカスタマイズ	15 データを守る上での留意事項とまとめ（イントロ） 名前付きのセル，セル範囲，ブックの要素へ移動する ハイパーリンクを挿入する，削除する ヘッダーやフッターをカスタマイズする ウィンドウの表示を変更する ブックの基本的なプロパティを変更する 数式を表示する クイックアクセスツールバーをカスタマイズする	事前：授業テーマの予習(10 分) 事後：演習課題の完成・提出(20 分) 　E-第 15 回 (60 分) 視聴・テスト
13	【Excel 応用】 共同作業のための設定 セルのスタイルや書式設定	別のファイル形式でブックを保存する ブック内の問題を検査する ブック内のアクセシビリティの問題を検査する テキストファイルからデータをインポートする .csv ファイルからデータをインポートする セル内文字方向の傾き設定 セルの書式設定ダイアログボックスから設定する セルのスタイルを適用する セルの書式設定をクリアする	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：演習課題の完成・提出(60 分)
14	【Word/Excel 応用】 アウトライン文書作成 Excel データの文書利用	スタイルの適用と設定 アウトラインの表示と利用 文書への Excel 表や Excel グラフの挿入と設定	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：演習課題の完成・提出(60 分)
15	【Excel 応用】 テスト応用課題演習	Excel 応用演習テスト	事前：出題範囲の復習 (90 分)

関連科目：情報リテラシーⅠ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかるマスター　Microsoft Office Specialist MOS Word 365 & 2019　対策テキスト＆問題集 (FPT1913) 【前期のテキストと同じ（再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
2	よくわかるマスター　Microsoft Office Specialist MOS Excel 365 & 2019　対策テキスト＆問題集 (FPT1912) 【前期のテキストと同じ（再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			
評価方法 （基準）	授業中の実習課題（40%）、模擬試験や総合課題などの演習（40%）、e-learning(20%)を総合的に評価する。 この授業は演習中心のため、出席（課題提出）が単位取得の必要条件となる。
学生への メッセージ	疑問は放置しないこと。質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。
担当者の 研究室等	寺内准教授室（１１号館１０階）
備考	

科目名	情報処理Ⅱ	科目名（英文）	Information Processing II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	学籍番号下３桁 001～070 学籍番号下３桁 071～140
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	新居　英志
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JIL1310a1		

授業概要・目的	大学生活および、卒業後の社会人生活において効率的に資料収集、作成およびデータの取り扱いを行い、基礎的な分析も実施できる能力の養成を目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、Microsoft Office を用いて大学での授業のレポート課題を作成できること、情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと、アプリケーションの機能の応用的な使い方と、それらの連携作業を実施できるようになること、さらに データサイエンスの次ステップにつながる知識を有するようになることが期待される。
授業方法と留意点	大学の ICT 環境を利用して、アプリケーションツールの使い方を実践的課題を通して演習形式で学ぶ。また、データサイエンスの基礎レベルを e-learning による自主学習とミニ講義、演習形式で学ぶ。e-learning は、空き時間を見つけて、なるべく毎日少しづつ均等に学修するように心がけてください。
科目学習の効果（資格）	Microsoft Office Specialist Word、Excel が取得できるレベル。 データサイエンスの基礎的な知識が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーションと復習	ICT 学習環境の確認 社会人としての情報モラル Word と Excel の連携	事前：情報リテラシーI の復習(50 分) 事後：演習課題の完成・提出(40 分)
2	データ活用とは 【Word 応用】 効率的な文書の作成と管理 文書の共有と検査	6 データ活用とは（イントロ） 文書内の他の場所にリンクする 文書内の特定の場所やオブジェクトに移動する ページの背景要素を設定する 別のファイル形式で文書を保存する 基本的な文書プロパティを変更する ページの背景色を印刷する 電子文書を共有する 文書を検査する	事前：授業テーマの予習(10 分) 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 6 回（60 分）視聴・テスト
3	データ・AI 利活用の現場 【Word 応用】 表やリストの変換と調整	7 データ・AI 利活用の現場（イントロ） 文字列に組み込みスタイルを適用する 書式をクリアする 文字列を表に変換する 表を文字列に変換する 表全体のサイズを設定する 表を分割する タイトル行の繰返しを設定する 新しい行頭文字や番号書式を定義する アウトラインレベルに応じた番号書式を設定する リストのレベルごとに行頭文字や番号書式を変更する リストの番号を振り直す、自動的に振る	事前：授業テーマの予習(10 分) 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 7 回（60 分）視聴・テスト
4	データ・AI 利活用の最新動向 【Word 応用】 参考資料の作成と管理	8 データ・AI 利活用の最新動向（イントロ） 脚注や文末脚注を挿入する 脚注や文末脚注のプロパティを変更する 資料文献を作成する、変更する 引用文献を挿入する 参考文献一覧を挿入する 目次を挿入する ユーザー設定の目次を作成する	事前：授業テーマの予習(10 分) 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 8 回（60 分）視聴・テスト
5	データ・AI を扱う上での留意事項(1) 【Word 応用】 グラフィック要素の変更と設定	13 データ・AI を扱う上での留意事項(1)（イントロ） アート効果を適用する 図の背景を削除する 図の効果やスタイルを適用する グラフィック要素を書式設定する SmartArt グラフィックを書式設定する 3D モデルを書式設定する SmartArt グラフィックの内容を追加する、変更する オブジェクトに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習(10 分) 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 13 回（60 分）視聴・テスト
6	【Word 応用】 文書の共同作業の管理	コメントを追加する コメントを閲覧する コメントに返答する、対処する コメントを削除する 変更履歴を記録する、削除する 変更履歴を閲覧する 変更履歴を承諾する、元に戻す 変更履歴を設定する	事前：授業テーマの予習（60 分） 事後：演習課題の完成・提出(30 分)
7	【Word 応用】 テスト応用課題演習	Word 応用演習テスト	事前：Word の復習（90 分）
8	データ・AI を扱う上での留意事項(2) 【Excel 応用】	14 データ・AI を扱う上での留意事項(2)（イントロ） 名前付き範囲を定義する	事前：授業テーマの予習(10 分) 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 14 回（60 分）視聴・テスト

	名前の定義 テーブルとデータの管理	テーブルに名前を付ける セル範囲から Excel のテーブルを作成する テーブルにスタイルを適用する テーブルをセル範囲に変換する テーブルに行や列を追加する、削除する テーブルスタイルのオプションを設定する 集計行を挿入する、設定する 複数の列でデータを並べ替える レコードをフィルタする	
9	【Excel 応用】 数式における名前の利用 グラフの書式設定	数式の中で名前付き範囲やテーブル名を参照する LEN、RIGHT 関数を利用する TEXTJOIN 関数を利用する グラフシートを作成する グラフのレイアウトを適用する グラフのスタイルを適用する アクセシビリティ向上のため、グラフに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：演習課題の完成・提出(60 分)
10	データを説明する	11 データを説明する 　データを比較するためのグラフ 　時間の推移を見せるためのグラフ 　データ相互の関係を示すためのグラフ 　データの偏りを示すためのグラフ 　データの比較 　適切なグラフ表現 　優れた可視化事例	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：E-第 11 回(60 分)視聴・テスト
11	データを扱う	12 データを扱う 　売り上げを予測する 　顧客層を分析する 　顧客満足度を把握する 　顧客の不満の要因を探る	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：E-第 12 回(60 分)視聴・テスト
12	データを守る上での留意事項とまとめ 【Excel 応用】 名前の利用と表示のカスタマイズ	15 データを守る上での留意事項とまとめ（イントロ） 名前付きのセル，セル範囲，ブックの要素へ移動する ハイパーリンクを挿入する，削除する ヘッダーやフッターをカスタマイズする ウィンドウの表示を変更する ブックの基本的なプロパティを変更する 数式を表示する クイックアクセスツールバーをカスタマイズする	事前：授業テーマの予習(10 分) 事後：演習課題の完成・提出(20 分) 　E-第 15 回 (60 分) 視聴・テスト
13	【Excel 応用】 共同作業のための設定 セルのスタイルや書式設定	別のファイル形式でブックを保存する ブック内の問題を検査する ブック内のアクセシビリティの問題を検査する テキストファイルからデータをインポートする .csv ファイルからデータをインポートする セル内文字方向の傾き設定 セルの書式設定ダイアログボックスから設定する セルのスタイルを適用する セルの書式設定をクリアする	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：演習課題の完成・提出(60 分)
14	【Word/Excel 応用】 アウトライン文書作成 Excel データの文書利用	スタイルの適用と設定 アウトラインの表示と利用 文書への Excel 表や Excel グラフの挿入と設定	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：演習課題の完成・提出(60 分)
15	【Excel 応用】 テスト応用課題演習	Excel 応用演習テスト	事前：出題範囲の復習 (90 分)

関連科目：情報リテラシーⅠ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかるマスター　Microsoft Office Specialist MOS Word 365 & 2019　対策テキスト＆問題集 (FPT1913) 【前期のテキストと同じ（再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
2	よくわかるマスター　Microsoft Office Specialist MOS Excel 365 & 2019　対策テキスト＆問題集 (FPT1912) 【前期のテキストと同じ（再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			
評価方法 （基準）	授業中の実習課題（40%）、模擬試験や総合課題などの演習（40%）、e-learning(20%)を総合的に評価する。 この授業は演習中心のため、出席（課題提出）が単位取得の必要条件となる。
学生への メッセージ	疑問は放置しないこと。質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。
担当者の 研究室等	新居講師室（７号館５階）
備考	本人確認のため、メールで連絡するときは大学のアドレスから送信してください。

科目名	スポーツ科学概論	科目名（英文）	Introduction to Sports Science
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	瀧　千波
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH1349a1		

授業概要・目的	スポーツと運動は、日常生活の中で欠かせないものである。本授業では、スポーツや運動、身体運動に関する基礎的な知識について、最新の科学的知見をもとに学習する。ヒトの基本的な身体の構造（骨格や筋腱、神経）、及びしくみについて学ぶとともに、自分自身やスポーツ競技現場のアスリートのみならず、成長期の子どもから高齢者に至るまでの身体の変化についても理解する。その上で、それぞれの目的に合った効果的なトレーニングやエクササイズについて理解し、競技パフォーマンスの向上や生活習慣病の予防など、生涯を通じてスポーツや運動、身体運動を実践する能力や、提供できる能力を養うことを目指す。 SDGs-3,4,5
到達目標	身体の形態・機能およびスポーツによる身体の変化について、正しく理解することができる。 ヒトの身体の構造や機能のしくみを理解する。 目的（パフォーマンス向上や健康増進）に応じたトレーニングやエクササイズについて理解する。
授業方法と留意点	講義を受け、課題を課す。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	本講義の目的と意義、授業方法について説明する。	・授業ノートで復習すること。 ・講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 （事後学習時間 30 分）
2	身体のつくり	中学・高校で既知の身体のつくりについて復習する。身体のつくりについて正しく理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 （事前・事後学習時間 60 分）
3	身体を動かすしくみー筋・骨格系ー	身体が活動する際、骨や筋肉はどのようなしくみにより、どのように協調して動いているのか、正しく理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 （事前・事後学習時間 60 分）
4	身体を動かすしくみー呼吸循環器系ー	身体活動の強度が増すとき、心臓および血管系、呼吸器系がどのように応答しているのか理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 （事前・事後学習時間 60 分）
5	身体の生理機能	安静時および身体活動時における生体内部の働きと、恒常性について理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 （事前・事後学習時間 60 分）
6	スポーツ栄養	様々な運動種目のパフォーマンスを最大限に向上させるための望ましい栄養摂取について、その内容と方法を理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 （事前・事後学習時間 60 分）
7	筋力トレーニングの科学	運動種目や運動目的の違いに即した運動方法について理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 （事前・事後学習時間 60 分）
8	有酸素性トレーニングの科学	持久力を向上させるために必要な運動方法について理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 （事前・事後学習時間 60 分）
9	青少年におけるトレーニング	発育期における身体的特徴と運動との関わりについて理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 （事前・事後学習時間 60 分）
10	加齢と運動	老年期における個人差を含む身体的・脳機能の特徴、さらに老化を遅延させるための運動の役割について理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 （事前・事後学習時間 60 分）
11	運動と疲労	運動による疲労はなぜ惹起されるのか、またその回復について、理論と方法を理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 （事前・事後学習時間 60 分）
12	スポーツと環境	環境が身体に与える影響について理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 （事前・事後学習時間 60 分）
13	スポーツと遺伝	遺伝がスポーツに与える影響について理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 （事前・事後学習時間 60 分）
14	運動障害と予防	運動による内科的・外科的疾患の概要と予防方法について理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 （事前・事後学習時間 60 分）
15	リカバリーの科学	スポーツパフォーマンスを最大限に発揮するため、心身の調整について理論と方法を理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 （事前・事後学習時間 60 分）

関連科目	スポーツ科学実習Ⅰa、Ⅰb、Ⅱa、Ⅱb、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、武道論、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

<table>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>課題（20%）、出席（50%）、最終レポート（30%）により評価する。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td></td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>総合体育館１階</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>課題の正解は次回の授業で解説する。</td></tr>
</table>

科目名	スポーツ科学実習Ⅰa	科目名（英文）	Practicum in Sports Science Ia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	瀬川　智広
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH1350a1		

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、スポーツ活動を通じて基礎的な運動技術の修得を目指し、規律・規範を重んじる心を修養し、スポーツの楽しさを理解することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。 SDGs-3、4、5
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	実技形式で行う。 開講種目は、以下のとおりである。 ・屋内種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど） ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど） ※１　各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。 ※２　第１回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので必ず出席すること。 ※３　悪天候の場合は、授業計画とは異なる内容になる場合があ
科目学習の効果（資格）	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス	・履修上の注意やコース種目分け	事前：授業概要・目的などを学習する（30 分） 事後：本実習の理解を深める（30 分）
2	・体力測定①	・屋外種目	事前：運動を行い体力測定に備える（30 分） 事後：自身の体力についての振り返り（30 分）
3	・体力測定②	・屋内種目	事前：運動を行い体力測定に備える（30 分） 事後：自身の体力についての振り返り（30 分）
4	・種目の概要 ・基礎知識について ・体力測定（予備日）	・種目の概要、基礎知識の説明 ・未実施の測定項目がある場合はその項目を行う	事前：基礎知識を学習しておく（30 分） 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る（30 分）
5	・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
6	・基本技術（基礎編 1） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
7	・基本技術（基礎編 2） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
8	・基本技術（応用編 1） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
9	・基本技術（応用編 2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：全授業の総括（30 分）

関連科目	生涯スポーツ実習、スポーツと健康、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	対面授業：活動点５０％、技能点２５％、態度点２５％ ※ なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。
学生へのメッセージ	授業１回目（ガイダンス）は、総合体育館２階アリーナに集合してください。（更衣不要） 実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。（コピー不可）

担当者の 研究室等	総合体育館１階
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）を準備する

科目名	スポーツ科学実習Ｉb	科目名（英文）	Practicum in Sports Science Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	瀬川　智広
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH1351a1		

授業概要・目的	本科目では、スポーツ科学実習Ｉaで培った基礎的な技術を応用し、高度なスポーツ技術の獲得を目指す。またスポーツを通じてさらなる人間力の向上を目指し、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	実技形式で行う。 開講種目は、以下のとおりである。 ・屋内種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど） ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど） ※１　各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。 ※２　第１回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので必ず出席すること。 ※３　悪天候の場合は、授業計画とは異なる内容になる場合がある。
科目学習の効果（資格）	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス	・ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	事前：授業概要・目的などを学習する（３０分） 事後：本実習の理解を深める（３０分）
2	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく（３０分） 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る（３０分）
3	・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
4	・基本技術（基礎編1） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
5	・基本技術（基礎編2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
6	・基本技術（応用編1） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
7	・基本技術（応用編2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
8	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
9	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
15	・ゲーム ・2年次ガイダンス等	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む ・2年次ガイダンス等を行う	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（３０分） 事後：全授業の総括（３０分）

関連科目	生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	対面授業：活動点５０％、技能点２５％、態度点２５％ ※ なお、活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。
学生への	授業１回目（ガイダンス）は、総合体育館２階アリーナに集合してください。（更衣不要）

メッセージ	実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。（コピー不可）
担当者の 研究室等	総合体育館１階
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）を準備する

科目名	スポーツ科学実習Ⅱa	科目名（英文）	Practicum in Sports Science IIa
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	河瀬　泰治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH1352a1		

授業概要・目的	スポーツの基礎知識をベースに、より応用的な内容に発展させ、スポーツライフ形成の大切さを学ぶ。スポーツ活動の楽しさや身体活動の重要性を自覚するとともに、生涯スポーツ参加への意識向上と自信を深めることを目的とする。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。 SDGs-3、4、5
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	実技形式で行う。 開講種目は、以下のとおりである。 ・屋内種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど） ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど） ※１　各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。 ※２　第１回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので必ず出席すること。 ※３　悪天候の場合は、授業計画とは異なる内容になる場合がある。
科目学習の効果（資格）	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス	・ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	事前：授業概要・目的などを学習する 事後：本実習の理解を深める
2	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る
3	・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく 事後：内容の振り返り
4	・基本技術（基礎編 1） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
5	・基本技術（基礎編 2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
6	・基本技術（応用編 1） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
7	・基本技術（応用編 2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
8	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
9	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
15	・ゲーム ・授業アンケート等	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む ・授業の振り返りのためにアンケートを行う	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：全授業の総括

関連科目	生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	対面授業：活動点５０％、技能点２５％、態度点２５％ ※ なお、活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。

学生へのメッセージ	授業１回目（ガイダンス）は、総合体育館２階アリーナに集合してください。（更衣不要） 実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。（コピー不可）
担当者の研究室等	総合体育館１階
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）

科目名	スポーツ科学実習Ⅱb	科目名（英文）	Practicum in Sports Science IIb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	河瀬　泰治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH1353a1		

授業概要・目的	スポーツの基礎知識をベースに、より応用的な内容に発展させ、スポーツライフ形成の大切さを学ぶ。スポーツ活動の楽しさや身体活動の重要性を自覚するとともに、生涯スポーツ参加への意識向上と自信を深めることを目的とする。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。 SDGs-3、4、5
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	実技形式で行う。 開講種目は、以下のとおりである。 ・屋内種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど） ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど） ※１　各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。 ※２　第１回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので必ず出席すること。 ※３　悪天候の場合は、授業計画とは異なる内容になる場合がある。
科目学習の効果（資格）	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス	・ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	事前：授業概要・目的などを学習する 事後：本実習の理解を深める
2	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る
3	・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく 事後：内容の振り返り
4	・基本技術（基礎編 1） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
5	・基本技術（基礎編 2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
6	・基本技術（応用編 1） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
7	・基本技術（応用編 2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
8	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
9	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
15	・ゲーム ・授業アンケート等	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む ・授業の振り返りのためにアンケートを行う	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：全授業の総括

関連科目	生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	対面授業：活動点５０％、技能点２５％、態度点２５％ ※ なお、活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。

学生へのメッセージ	授業１回目（ガイダンス）は、総合体育館２階アリーナに集合してください。（更衣不要） 実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。（コピー不可）
担当者の研究室等	総合体育館１階
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）

科目名	哲学Ⅰ	科目名（英文）	Philosophy Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	貫井　隆
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1304a1		

授業概要・目的	この授業では、西洋哲学史上の代表的な哲学者の思想を概観する。その際に、歴史上の著名な哲学者が、どのような倫理的・道徳的主張を行ったかということを、彼らが世界をどのようなものとして捉えたかということと合わせて考える。これら二つのことは、西田幾多郎が『善の研究』の冒頭で述べるように、以下のように連関しているからである。「世界はこのようなもの、人生はこのようなものという哲学的世界観および人生観と、人間はかくせねばならぬ、かかるところに安心せねばならぬという道徳宗教の実践的要求とは密接の関係を持っている」。「われわれは何をなすべきか、どこに安心すべきかの問題を論じる前に、まず天地人生の真相はいかなるものであるか、真の実在とはいかなるものなるかを明らかにせねばならぬ」。 哲学が自分自身で森に分け入って探索することであるとすれば、哲学史はそのような探索の先人の記録である。哲学史を学ぶことは、自分自身で探索することとは異なるかもしれない。しかし、それらの知は自分自身で探索する際の豊かな道標となるはずである。
到達目標	この授業を通じて学生には、授業で扱う西洋哲学史上の人物の思想について、 ① 時代背景 ② 考えの要点 ③ 与えた影響 の３点を理解できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	Teams を使用して、該当テキストを読み進めます（毎回、ある程度の読書量があります）。定期的に Google Form 等を利用して、授業内容に関する小テストに答えてもらいます。
科目学習の効果（資格）	西洋哲学史における代表的な議論の幾つかを学ぶことによって、ものごとに対する多義的な見方を身に着け、複雑な現実を単純化せずに捉えられるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業全体の概要	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：読書課題（哲学、倫理学の古典からの抜粋であることが多い）を読むこと （予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています）
2	古代ギリシアの哲学（１）	ソクラテス以前の哲学者	1 に同じ
3	古代ギリシアの哲学（２）	ソクラテス、プラトン	1 に同じ
4	古代ギリシアの哲学（３）	アリストテレス	1 に同じ
5	キリスト教と哲学（１）	パウロ、アウグスティヌス	1 に同じ
6	キリスト教と哲学（２）	トマス・アクィナス	1 に同じ
7	近代の哲学（１）	デカルト、スピノザ、ライプニッツ	1 に同じ
8	近代の哲学（２）	ロック、バークリー、ヒューム	1 に同じ
9	ドイツ観念論の哲学（１）	カント	1 に同じ
10	ドイツ観念論の哲学（２）	ヘーゲル、マルクス	1 に同じ
11	現代の哲学（１）	ニーチェ、プラグマティズム	1 に同じ
12	現代の哲学（２）	ウィトゲンシュタイン	1 に同じ
13	現代の哲学（３）	ベルクソン、フッサール、ハイデガー	1 に同じ
14	現代の哲学（４）	レヴィナス、デリダ、ドゥルーズ、フーコー	1 に同じ
15	まとめ	授業全体の振り返り	1 に同じ

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	哲学　原典資料集	山本巍ほか	東京大学出版会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	A New History of Western Philosophy	Anthony Kenny	Oxford University Press
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト（60%） 期末テスト（40%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	課題の正答はメールを通じて返却する。

科目名	哲学Ⅱ	科目名（英文）	Philosophy II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	貫井　隆
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1305a1		

授業概要・目的	本授業は、近現代の西洋哲学史の主要な流れを概観することを目的とする。その際に、20 世紀ドイツの哲学者マルティン・ハイデガー(1889-1987)の思想を視座とする。 哲学が自分自身で森に分け入って探索することであるとすれば、哲学史はそのような探索の先人の記録である。哲学史を学ぶことは、自分自身で探索することとは異なるかもしれない。しかし、それらの知は自分自身で探索する際の豊かな道標となるはずである。
到達目標	この授業を通して学生には、 授業で扱う西洋哲学史上の人物の思想について、 ①時代背景 ②考えの要点 ③後の時代に与えた影響 の３点を理解することが期待される
授業方法と留意点	Teams を使用して、配布したテキストを読み進めます（毎回、ある程度の読書量があります)。定期的に Google Form 等を利用して、授業内容に関する小テストに答えてもらいます。
科目学習の効果（資格）	西洋哲学史における代表的な議論を学ぶことによって、ものごとに対する多義的な見方を身に着け、複雑な現実を単純化せずに捉えられるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業全体の概要	予習：特になし 復習：読書課題を読むこと （予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています)
2	近代から現代へ（１）	デカルト、カント、ヘーゲル	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：読書課題を読むこと （予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています)
3	近代から現代へ（２）	キルケゴール、ニーチェ、フロイト	2 に同じ
4	ハイデガーの前期思想（１）	『存在と時間』を中心に（１）	2 に同じ
5	ハイデガーの前期思想（２）	『存在と時間』を中心に（２）	2 に同じ
6	ハイデガーの中期思想（１）	「芸術作品の根源」を中心に（１）	2 に同じ
7	ハイデガーの中期思想（２）	「芸術作品の根源」を中心に（２）	2 に同じ
8	ハイデガーの後期思想（１）	「物」講演を中心に（１）	2 に同じ
9	ハイデガーの後期思想（２）	「物」講演を中心に（２）	2 に同じ
10	フランス現代思想（１）	デリダ、ドゥルーズ、フーコー、レヴィナス（１）	2 に同じ
11	フランス現代思想（２）	デリダ、ドゥルーズ、フーコー、レヴィナス（２）	2 に同じ
12	フランス現代思想（３）	デリダ、ドゥルーズ、フーコー、レヴィナス（３）	2 に同じ
13	思弁的実在論（１）	グレアム・ハーマンを中心に（１）	2 に同じ
14	思弁的実在論（２）	グレアム・ハーマンを中心に（２）	2 に同じ
15	まとめ	授業全体の内容の復習	2 に同じ

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	現代思想入門	千葉雅也	講談社
2	A New History of Western Philosophy	Anthony Kenny	Oxford University Press
3	ハイデガー事典	ハイデガー・フォーラム	昭和堂

評価方法（基準）	小テスト（60%) 期末テスト（40%)
学生へのメッセージ	毎回の授業ごとに、一定量の読書課題と授業後の課題があります。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	課題の正答はメールを通じて返却する。

科目名	文学	科目名（英文）	Literature
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松尾　佳津子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1403a2		

授業概要・目的	「最近余り本を読んでいないなぁ」と思っているあなた、でも、本当に読むことがずっとキライでしたか？　若い人たちの活字離れがあれこれ取り沙汰されている昨今ですが、視覚や聴覚に訴える作品とは異なり、文字を通じてしか伝えられない様々な表現や思いがあることを、ぜひ感じてほしいと願っています。現代の流行作品はきっとあなたが一人でも楽しむでしょうから、私はあなたが一人では決して開くことのないような扉を開いて、作品世界を提示しようと思っています。この講座では、俳句・和歌・短歌・詩・歌詞などの韻文作品を中心に扱います。文字作品の新たな魅力を一つでも発見して、あなた自身の言語生活の豊かな糧として下さい。
到達目標	この授業を通じて学生には、 ・表面的読解にとどまらず、作者の表現内容を読み解く力を身につけること、 ・そしてそれを基にして考え、感じる経験を積むこと、 ・さらにその考えや思いを文章化する経験値を高めること、 ・読んで「面白かった」で終わるのではなくその思いを言語化する力を身につけること これらを経験及び獲得することが期待されます。
授業方法と留意点	毎回授業中に問を提示し、それに対する回答を小レポートに記入して提出していただく形式で授業を進めます。
科目学習の効果（資格）	「日本語文章能力検定」などの公的資格もありますが、表現やことばに自覚的である感性を養うことが何よりの学習効果でしょう。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	短詩型文学の広がりを概観する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
2	短詩型文学（１）	散文文学との違いを考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
3	短詩型文学（２）	歴史的な流れを考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
4	現代詩（１）	表現の特徴を考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
5	現代詩（２）	「歌詞」を素材として考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
6	童謡（１）	子供のころに聞き覚えた歌詞を振り返る。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
7	童謡（２）	文学作品として歌詞を考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
8	短歌（１）	表現技法の特徴を考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。 ※この回から対面に変更。
9	短歌（２）	創作の過程を追体験する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
10	短歌（３）	現代の作品と古典作品の感性の差を比較する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
11	俳句（１）	表現技法の特徴を考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
12	俳句（２）	象徴表現の広がりを考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
13	俳句（３）	「俳句」から「ハイク」への広がりを考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
14	韻文の翻訳（１）	翻訳を通じて伝わるものと伝わらないものを考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
15	韻文の翻訳（２）	「現代口語表現訳」から見えてくるものを考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。

関連科目	こういった方面に興味のある人は、他に「日本語読解」などを学ぶことで、より理解を深めることができるでしょう。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			

評価方法 （基準）	◇毎回提出する小レポートが出席確認を兼ねます。 ◇最終成績は、毎回の小レポートの回答状況６割と、最終課題の結果４割で判断します。 ◇原則として小レポート提出が半分以下の場合は、最終の成績評価を行いません。
学生への メッセージ	遠いところに自分と同じ考えの人を発見する喜び。近いところに自分の思いも寄らないような発想の人に出会う楽しみ。・・・文学に触れる意味は、この二点に尽きるのではないかと、私は思っています。どうかあなたが「よい出会い」を経験できますように。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	提出された小レポートは、抄出して次回の講義で共有し、更なる学習の素材として活用します。

科目名	国語学	科目名（英文）	Japanese Language
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本　正俊
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1310a1		

授業概要・目的	国語学は、「日本語とは何か」を考える学問である。高校までの「国語」とはまったく異なるのでそのつもりで。 この授業では、世界の言語とも比較しつつ、日本語を分析することで、日本語を見つめ直すことを目的とする。 言葉について考えることは、人間について、社会について、文化について、考えることにもつながる。単に日本語についての知識を得るのではなく、広い視野をもって考える力を身につけて欲しい。
到達目標	この授業を通じて学生には、日本語の特色をいくつかあげ、具体的かつ正確に説明することができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義を中心にする。 必要な資料をプリントで配布する。講義の最後に、コメントペーパーを配布し、まとめや質問に答える作業を行う。 それに対するフィードバックは翌週に行う。
科目学習の効果（資格）	日本語に対する理解が深まる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	日本語とは何か	授業の進め方、概説 日本語について考える	事後：提示した日本語に関する疑問について考える
2	世界の中の日本語１	日本の文字について、世界の文字とあわせて考察する	事後：日本語の文字の特徴について調べる
3	世界の中の日本語２	日本語の文法的特徴について考える	事後：日本語の文法の捉え方について調べる
4	世界の中の日本語３	日本語は、世界の言葉の中でどのように位置づけられるか	事後：２～４回の内容を復習してまとめる
5	発音１	日本語の調音について詳しく知る	事後：日本語の調音について調べる
6	発音２	日本語の子音について詳しく知る	事後：日本語の子音の調音について、自身で確認しまとめる
7	拍と音節	日本語の拍と音節について考える 拍の一覧表を作成する	事後：日本語の拍について調べ、授業内容を振り返る
8	アクセント１	東西におけるアクセントの違いを見る	事後：日本語のアクセントの特徴を調べてまとめる
9	アクセント２	アクセントの高低配分について考える	事後：日本語のアクセントの法則について調べ、授業内容をまとめる
10	文法１	自動詞と他動詞について考察する	事後：授業時の課題にとりくみ、自動詞と他動詞についてまとめる
11	文法２	受身文について考察する	事後：日本語の受け身文の特徴について、課題に取り組む
12	文法３	「～た」形、「～ている」形について考察する	事後：授業時に示した課題に取り組む
13	標準語と方言	標準語と方言の関係について考える	事後：方言と標準語について調べ、授業内容を整理する
14	方言の広がり	現代語における方言の位置づけを考える	事後：授業で示した例を参考に、方言の広がりについて調べる
15	まとめ	これまでの授業内容を整理する	事後：これまでの授業内容をまとめる

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験を実施する。 定期試験の成績（60%）、授業時の課題・コメントペーパー（40%）により評価する。 （遠隔授業となった場合は、定期試験を実施しません。代わりに最終課題を課し、最終課題（50 パーセント）、授業後の課題（50 パーセント）とします。）
学生へのメッセージ	日常当たり前のように用いている「ことば」そのものに関心を持って下さい。
担当者の研究室等	7 号館 4 階（橋本研究室）
備考	コメントペーパーの回答、質問については、次回にフィードバックします。 事前事後学習時間の目安は、計約６０時間です。

科目名	日本史概論	科目名（英文）	Japanese History Introdution
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山本　康司
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1405a2		

授業概要・目的	歴史学とは、過去の諸事象を研究する学問である。物事を長期的な視野からみるという姿勢を持つことや、現在とは異なる政治・社会・文化等を知ることは、現代社会を見つめ直す際に重要な手段となる。 そのなかで、本授業では、日本の歴史の基本的な流れを理解することを目的とする。 古代から近現代まで、毎回テーマを設定し、講義を行う。 随時、最新の研究成果を紹介するとともに、歴史学の手法や考え方についても紹介する。
到達目標	この授業を通じて学生には、日本の歴史に関する正しい知識を得るとともに、歴史学的な考え方について理解できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業ごとにプリントを配付する。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	本授業の進め方や評価方法、歴史学を学ぶ意義について説明します。	シラバスを一読してくること（所要時間２０分）。
2	古代１：古代国家の形成	農耕社会の成立から、ヤマト政権の誕生、律令国家の形成までを学びます。	予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間６０分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間６０分）。
3	古代２：摂関政治から院政へ	摂関政治や院政について学びます。また、仏教や新たな文化の発達についても説明します。	予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間６０分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間６０分）。
4	古代３：武士の登場	武士の誕生と貴族社会の関係について学びます。	予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間６０分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間６０分）。
5	中世１：武家政権の成立と展開	武家政権である平氏政権や鎌倉幕府について学びます。特に、鎌倉幕府の成立過程について説明を加えます。	予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間６０分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間６０分）。
6	中世２：元寇から南北朝内乱へ	鎌倉幕府の制度や承久の乱、元寇について学び、鎌倉幕府滅亡の要因について考えます。	予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間６０分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間６０分）。
7	中世３：室町幕府の成立と展開	室町幕府の成立や、南北朝の動乱について学びます。	予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間６０分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間６０分）。
8	中世４：戦国時代へ	戦国大名の登場から天下統一までの動向を学びます。	予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間６０分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間６０分）。
9	近世１：江戸幕府の成立と展開	江戸幕府の成立過程や制度、対外政策について学びます。	予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間６０分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間６０分）。
10	近世２：江戸幕府の動揺	幕藩体制や江戸幕府の諸政策・改革について学びます。また、江戸時代の村についても説明をします。	予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間６０分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間６０分）。
11	近世３：江戸幕府の終焉	倒幕運動の広まりや、江戸幕府の対外政策・開港について学びます。	予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間６０分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間６０分）。
12	近現代１：明治政府の成立と近代国家への歩み	明治政府の諸政策を学び、近代国家への歩みについて考えます。	予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間６０分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間６０分）。
13	近現代２：日清・日露戦争と日本	日清・日露戦争や国際関係、当時の日本政治について学びます。	予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間６０分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間６０分）。
14	近現代３：第二次世界大戦	第二次世界大戦と日本の関わりについて学びます。	予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間６０分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間６０分）。
15	近現代４：戦後日本と現代社会	敗戦後の復興と現代社会への繋がりについて学びます。	予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間６０分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間６０分）。

関連科目	
教科書	

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 2 3
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 2 3
評価方法 （基準）	授業ごとのコメントペーパー　30% 期末レポート　70% コメントペーパーでは、授業の内容を理解しているかを評価する。 期末レポートでは、授業全体を通じて日本の歴史の流れを理解した上で、自らの興味・関心に基づいてレポート作成ができるかを評価する。
学生への メッセージ	積極的に学ぶ意欲を持つ学生の受講を希望します。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 また、コメントペーパーで学生の理解度を確認し、理解度の低い部分については次回の授業で解説する。

科目名	世界史概論	科目名（英文）	World History Introdution
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加来　奈奈
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1406a2		

授業概要・目的	本講義では、ヨーロッパの歴史を通じて、過去と現在の変化や諸地域における差異を検討し、現代世界の成り立ちを知るとともに、歴史を通じて現代社会の諸問題に対する批判的まなざしを涵養することを目指す。そのために、ヨーロッパ史の基礎的な知識を習得し、時代や地域の特徴と、現代社会の形成の過程を理解することを目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、ヨーロッパの歴史の重要な特徴を理解し、説明できるようになり、それを活かして現代社会の問題について能動的に考えることができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	毎回パワーポイントにもとづいて授業を進め、適宜、資料を配布する。
科目学習の効果（資格）	歴史学に関する基本的な知識を獲得するとともに、現代社会を歴史的視点から読み解く力を養う。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	学問としての歴史学について	（事前）西洋の古代、中世、近世、近代、現代という時代がいつかを調べてくる。
2	中世ヨーロッパ	中世ヨーロッパの社会	（事前）中世ヨーロッパのイメージを書きだす。 （事後）中世の身分と宗教について整理する。
3	中世ヨーロッパ	中世ヨーロッパの王権	（事前)15 世紀までのフランス王とイングランド王について調べてくる。 （事後）中世英仏の年表を作って、これまでのことを整理する。
4	近世とは	・近世の特徴 ・ハプスブルク家 ・地域の反応	（事前）ハプスブルク家について調べてくる。 （事後）近世の特徴を整理する。
5	宗教改革	・ルターの登場 ・プロテスタントの広がり ・対抗宗教改革	（事前）カトリックとプロテスタントの違いを調べる。 （事後）二つの違いを整理する。
6	宗派対立	・ネーデルラントを事例とした宗派対立の様相	（事前）ルーベンスについて調べてくる。 （事後）ヨーロッパの宗派対立と地域の特徴を整理する。
7	イングランドの宗教改革	・テューダー朝の成立 ・ヘンリ８世の改革	（事前）ヘンリ８世について調べてくる。 （事後）イングランドの国教会について整理する。
8	エリザベス１世と国際関係	・エリザベス１世の統治	（事前）エリザベス１世について調べてくる。 （事後)17 世紀ごろのヨーロッパの各国の勢力範囲について整理する。
9	啓蒙時代	・啓蒙思想 ・啓蒙専制君主	（事前）啓蒙という言葉を調べてくる。
10	啓蒙改革（１）	マリア・テレジアの改革	（事前）マリア・テレジアについて調べる。 （事後）啓蒙改革の特徴をまとめる。
11	啓蒙改革（２）	ヨーゼフ２世の改革	（事前）ヨーゼフ２世について調べてくる。 （事後）啓蒙改革の結果について考察する。
12	１９世紀のヨーロッパ	・フランス革命と共和政 ・国民国家 ・１８４８年革命	（事前）ライシテという言葉を調べてくる。(事後）スカーフ問題について考える。
13	ナショナリズムとハプスブルク	・アウスグライヒ ・民族	（事前）この時代の民族とは何かを考えてくる。(事後）東欧諸国の現在の国境を確認する。
14	第一次世界大戦	・戦争の展開 ・戦争と女性 ・戦争と民族	（事前）第一次世界大戦の流れについて確認する。 （事後）第一次世界大戦を通して起きたヨーロッパ社会の変化について考える。
15	総括	・講義全体のまとめ ・現在のヨーロッパの諸問題	（事前）全授業内容を復習しておく。 （事後）歴史を通して、現在の社会を検討する。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学で学ぶ西洋史［古代・中世］	服部良久ほか	ミネルヴァ書房
2	大学で学ぶ西洋史［近現代］	小山哲ほか	ミネルヴァ書房
3	ハプスブルク史研究入門	大津留厚ほか	昭和堂

評価方法（基準）	授業中の課題（コメントシートや小テスト）(30%)、期末テスト（70%）で評価する。
学生へのメッセージ	高校までの「歴史」は、過去の出来事・事件の年号や偉人の名前を暗記する科目だと思われがちです。しかし、大学で研究する「歴史学」は、歴史の史料や事象を通じて、その背景や理由を多角的に考えることが重要です。ヨーロッパの様々な時代や地域の特徴を学び、その違いや類似性を考察することを通して、現代社会の多様性を理解するための視点を提供できればと思います。
担当者の研究室等	7 号館 4 階加来研究室
備考	事前、事後学習に要する総時間は約 60 時間である。 フィードバックは、適宜、授業資料に組み込んで実施する。

科目名	スポーツの歴史	科目名（英文）	History of Sports
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岩瀬　雅紀
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH2360a1		

授業概要・目的	スポーツの起源や変遷、ルールといったスポーツの歴史について学ぶ。さらにオリンピック及びパラリンピックの歴史と現状を知ることでより理解を深めスポーツの歴史に対する基礎的知識ついて学習する。
到達目標	本講義を通じで受講学生にはスポーツの歴史（変遷・ルール）を理解することでスポーツと歴史の基礎的知識を習得できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	PPT や作成プリントを用いた講義を行なう。
科目学習の効果（資格）	スポーツの歴史（変遷・ルール）を理解をすることでスポーツと歴史に対する必要な教養を身につけることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	本講義を受講する上での諸注意と講義展開 本講義の意図，目的，価値 自己認識	シラバスの参照
2	.スポーツとは	スポーツの起源 スポーツの語源	講義ノートの確認（1 時間）
3	体育とは	体育の変遷	講義ノートの確認（1 時間）
4	スポーツの歴史 1	スポーツの変遷（古代）	講義ノートの確認（1 時間）
5	スポーツの歴史 2	スポーツの変遷（近代）	講義ノートの確認（1 時間）
6	スポーツの歴史 3	スポーツの変遷（日本）	講義ノートの確認（1 時間）
7	レポート課題 1	講義内容からレポート課題を 2 題出題（内容は当日発表）	講義ノートの確認（1 時間）
8	オリンピックとは	オリンピックシンボル	講義ノートの確認（1 時間）
9	オリンピックの歴史 1	オリンピックの変遷	講義ノートの確認（1 時間）
10	オリンピックの歴史 2	オリンピックの商業化	講義ノートの確認（1 時間）
11	パラリンピックとは	パラリンピックシンボル	講義ノートの確認（1 時間）
12	パラリンピックの歴史	パラリンピックの変遷	講義ノートの確認（1 時間）
13	スポーツの今後	生涯スポーツ e スポーツ	講義ノートの確認（1 時間）
14	レポート課題 2	講義内容からレポート課題を 2 題出題（内容は当日発表）	講義ノートの確認（1 時間）
15	まとめ	レポートの返却及び解説と本講義のまとめ 自己評価	講義ノートの確認（1 時間）

関連科目	スポーツ科学実習Ⅰa、Ⅰb、 Ⅱa 、Ⅱb、スポーツ科学概論、スポーツ文化論、スポーツ指導者入門、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツトレーニングの基礎、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	担当者作成のプリント		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	担当者作成のプリント		
2			
3			

評価方法（基準）	受講態度及び意欲（常識・節度ある姿勢）(20%) 講義内提出課題（必要に応じて実施する）(20%) レポート課題（2 度実施する）(60%)
学生へのメッセージ	出席状況（毎回出席）を確認し原則として出席は 2/3 以上必要とする。 受講学生各位の積極的な学びを期待する。
担当者の研究室等	総合体育館 1 階　非常勤講師室
備考	講義内では担当者作成のプリントを適宜配布する。 事前・事後の学習時間として、全 15 回で 15 時間を目安としている。 講義内提出課題及びレポート課題に関しては講義内で返却し解説をする。

科目名	地誌学	科目名（英文）	Regional Geography
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北西　諒介
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1309a1		

授業概要・目的	この授業では、地理学を「社会で起こる様々な事象に対し、地域という視点から説明を加える学問」として捉え、具体例を交えながら、地域を把握し、地誌を記述・理解するための様々な方法を紹介します。
到達目標	この授業を通じて学生には、地図を使った思考方法や地理学的なものの見方に親しむようになること、加えて、地域に対する知的関心を高め、地域を理解するための基本的な実践ができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業は講義形式で、PowerPoint のスライドを中心に進め、適宜プリントなども配布します。授業では地図をよく使うため、中学や高校の授業で使用した地図帳や、地図が見られる端末（スマートフォン等）を持参してください。また、毎回授業後に各回の内容に合わせた簡単な課題を出します。それとともに授業の感想や質問も集めますので、次回の授業の冒頭でフィードバックを行います。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	地理学の概要	授業の進め方および地理学の基本的視座と手法について概説します。	これまでに学習した「地理」や「地理学」に関する事柄について振り返る（事前学習１時間） 授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする（事後学習３時間）
2	データと主題図	主題図の作図・読図を通した地域把握の方法について紹介します。	色々な種類の地図を見て、その表現や内容の特徴について考える（事前学習１時間） 授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする（事後学習３時間）
3	都市構造と都市システム	都市に対する地理学の基本的視座を紹介します。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする（事後学習３時間）
4	集落形態と村落空間	農村に対する地理学の基本的視座を紹介します。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする（事後学習３時間）
5	郊外化と地域社会	郊外や地域コミュニティに対する地理学の基本的視座を紹介します。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする（事後学習３時間）
6	農産物の生産と消費	農産物の産地の形成要因と近年の動向について取り上げます。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする（事後学習３時間）
7	工業立地と空間的分業	工場集積の要因と企業の立地戦略について取り上げます。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする（事後学習３時間）
8	流通と商業集積	商店の立地要因やそれを支える流通網について取り上げます。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする（事後学習３時間）
9	都市計画と法規制	行政によるまちづくりや規制が地域に及ぼす影響について取り扱います。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする（事後学習３時間）
10	生活と公共サービス	公共施設へのアクセスを切り口に、地理学におけるジェンダーや身体の問題を取り扱います。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする（事後学習３時間）
11	社会問題と空間スケール	社会問題の偏った分布とスケールについて取り扱います。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする（事後学習３時間）
12	文化と景観	世界観や心象が景観とどう関わるのかについて取り上げます。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする（事後学習３時間）
13	観光地の形成	観光地に関する表象や観光行動について取り上げます。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする（事後学習３時間）
14	景観の歴史	現在の景観に残る歴史の痕跡とその読み取り方について紹介します。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする（事後学習３時間）
15	地誌と地域性	授業のまとめとして、１つの地域の地誌的記述から地域性を見出すことを試みます。	これまでの授業の内容を振り返る(事前学習1時間) 授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする（事後学習３時間）

関連科目	人文地理学、自然地理学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	地理学基礎シリーズ１ 地理学概論［第２版］	上野和彦 ・椿真智子 ・中村康子 編	朝倉書店

	2	人文地理学への招待	竹中克行 編著	ミネルヴァ書房
	3	地理学基礎シリーズ 3 地誌学概論［第 2 版］	矢ケ崎典隆 ・加賀美雅弘 ・牛垣雄矢 編著	朝倉書店
評価方法 （基準）	毎回の授業で出す小課題：60%、期末レポート課題：40%			
学生への メッセージ	高校までの「地理」の科目の知識は必ずしも必要としません。地図を読むのが苦手な学生の受講も歓迎します。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室			
備考	・授業に関する問い合わせはメールで対応します。（メールアドレスは初回授業時にお知らせします） ・参考書の購入は必須ではありません。 ・小課題は次回授業時にフィードバック（解答例の紹介）を行います。			

科目名	人文地理学	科目名（英文）	Human Geography
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	谷口　晴彦
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1308a1		

授業概要・目的	地理学の１分野である人文地理学は、都市・農村・経済・文化・歴史など人間社会における様々な事象について、空間・地域・地図を切り口に考える学問です。この授業では、人文地理学の基本的な考え方について、多様なテーマを取り上げて学習していきます。
到達目標	この授業を通じて学生には、 (1)人文地理学が対象とする多様な事象について考察することを通して、人文地理学の考え方・モノの見方を理解できるようになること、 (2)地図や地理情報の種類や役割について理解し、地図を読んで地域について考えることができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	プリントを配布し、スライド(PPT)を用いて説明する講義です。授業にはネットにつながるスマホなどの端末を持参してください。受講する皆さんには毎回、授業内容についての確認問題の回答と、質問や感想を書いてもらい、次回授業に回答や補足説明します。提出された期末レポートには個別にコメントを返す機会を設けます。
科目学習の効果（資格）	日常の生活や旅行の中で出会う様々な事象について、空間・地域・地図の視点から自由に考えることができるようになります。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業ガイダンス・人文地理学とは何か	この授業のガイダンスとして、授業の概要や学問分野としての人文地理学について説明します。	配布資料・メモを読み、授業内容を復習する（2時間）。
2	都市(1)	日本・世界の様々な都市の形（景観）・特徴を見ていき、都市の定義・特徴・内部の構造について考えます。	事前にこの回の授業内容について、用語（ネット検索/辞書）・ニュースを確認し、身近な例を考えておく（2時間）。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する（2時間）。
3	都市(2)	都市への人口集中や都市の拡大・問題について考えます。	事前にこの回の授業内容について、用語（ネット検索/辞書）・ニュースを確認し、身近な例を考えておく（2時間）。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する（2時間）。
4	農村	様々な農村の形（景観）を見ていき、農村の定義・特徴・変化・現代日本の農村の状況や多面的機能について考えます。	事前にこの回の授業内容について、用語（ネット検索/辞書）・ニュースを確認し、身近な例を考えておく（2時間）。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する（2時間）。
5	地図と地理情報(1)	身の回りの地図をはじめ様々な地図をとりあげ、その種類や特徴を見ていき、地図の定義について考えます。	事前にこの回の授業内容について、用語（ネット検索/辞書）・ニュースを確認し、身近な例を考えておく（2時間）。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する（2時間）。
6	地図と地理情報(2)	地形図の特徴や凡例を確認した上で、実際に地形図を読んで地域を読み解きます。	事前にこの回の授業内容について、用語（ネット検索/辞書）・ニュースを確認し、身近な例を考えておく（2時間）。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する（2時間）。
7	地図と地理情報(3)	細かく地形図を読んで地域を読み解きます。	事前にこの回の授業内容について、用語（ネット検索/辞書）・ニュースを確認し、身近な例を考えておく（2時間）。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する（2時間）。
8	歴史地理	様々な歴史資料から身近な地域の過去の空間を読み解きます。	事前にこの回の授業内容について、用語（ネット検索/辞書）・ニュースを確認し、身近な例を考えておく（2時間）。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する（2時間）。
9	地域文化・観光	様々な地域文化や観光の特徴や意味を考え、さらに観光によって引き起こされる問題や対立について考えます。	事前にこの回の授業内容について、用語（ネット検索/辞書）・ニュースを確認し、身近な例を考えておく（2時間）。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する（2時間）。
10	経済地理（工業）(1)	様々な工業の種類・分類について見ていきます。	事前にこの回の授業内容について、用語（ネット検索/辞書）・ニュースを確認し、身近な例を考えておく（2時間）。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する（2時間）。
11	経済地理（工業）(2)	工業の立地や集積、分業について考えます。	事前にこの回の授業内容について、用語（ネット検索/辞書）・ニュースを確認し、身近な例を考えておく（2時間）。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する（2時間）。
12	経済地理（農業・流通）	農業の特徴・広がり・変化や新しい農業について考えます。また、流通とそれを支える交通について考えます。	事前にこの回の授業内容について、用語（ネット検索/辞書）・ニュースを確認し、身近な例を考えておく（2時間）。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する（2時間）。
13	政治地理・行政地理	政治や行政について、地理学の視点から考えます。	事前にこの回の授業内容について、用語（ネット検索/辞書）・ニュースを確認し、身近な例を考えておく（2時間）。

				配布資料・メモを読んで授業内容を復習する（2 時間）。
	14	環境問題と水問題	環境問題や水問題について、地理学の視点から考えます。	事前にこの回の授業内容について、用語（ネット検索/辞書）・ニュースを確認し、身近な例を考えておく（2 時間）。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する（2 時間）。
	15	授業の総括	授業内容の総括を行います。	配布資料・メモを読んで授業全体の内容を復習し、レポートを作成する（6 時間）。

関連科目	自然地理学・地誌学・環境関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	みわたす・つなげる 人文地理学	上杉和央・香川雄一・近藤章夫編	古今書院
2	地理学基礎シリーズ 1 地理学概論［第 2 版］	上野和彦・椿真智子・中村康子編著	朝倉書店
3	図説 京阪神の地理―地図から学ぶ―	山口覚・水田憲志・金子直樹・吉田雄介・中窪啓介・矢嶋巌	ミネルヴァ書房

評価方法 （基準）	毎回の小テスト・アンケート回答：60%、期末レポート：40%
学生への メッセージ	高校で「地理」を履修していなくとも理解できる内容で構成します。 地理学に暗記は必要ないと思います。地理学的な考え方・ものの見方を学修していき、身近な地域の様々な事象について自らで考えようとする姿勢を心がけていきましょう。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の確認テストの正解と説明は回答直後に確認可能とし、寄せられた質問への回答は次回授業に行います。提出された期末レポートにはフィードバックとして個別にコメントを返す機会を設けます。授業に関する質問や相談は、メールで対応します。メールアドレスは授業時にお知らせします。

科目名	経済学入門	科目名（英文）	Introduction to Economics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	堀　篤史
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JS01311a1		

授業概要・目的	この授業では、「企業の見方」、「経済の見方」を具体的事例に即して分かりやすく解説し、経済・金融の基本的知識を習得することを目的とする。
到達目標	この授業を通じて　経済・金融のエッセンスを身に付けることで、新聞の経済面の記事をある程度理解できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	レジュメを用いて講義形式で行う。複数回にわたって１つのテーマについて講義することもあるので、復習することが必須となります。 また、中学校の数学の知識（数式分野）を前提として講義を行います。これについては動画をアップしますので、必要な方は参照してください。
科目学習の効果（資格）	経済学検定

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	なぜ、経済・金融の知識が必要なのかを説明する。また、貨幣の機能や複利計算について説明する。	
2	金融とは①	株式に関する基本的な知識について学習する。また債券や債券価格がどのように決まるかについても説明する。	授業で扱った問題を解くこと。 moodle にアップした動画を見ておくこと。(2 時間)
3	金融とは②	需要曲線・供給曲線のシフトを説明する。また、株式と債券の違いについて学習する。	授業で扱った問題を解くこと。 動画を見ておくこと。(2 時間)
4	企業分析入門①	会計に関する基本的な知識について学習する。損益計算書について説明する。	授業で扱った問題を解くこと。 動画を見ておくこと。(2 時間)
5	企業分析入門②	貸借対照表について学習する。	前回の内容を復習すること。 動画を見ておくこと。(2 時間)
6	企業分析入門③	キャッシュフロー計算書について説明する。また、具体的な事例を挙げ、企業分析の手法について学習する。	前回の内容を復習すること。 動画を見ておくこと。(2 時間)
7	市場均衡①	市場メカニズムが資源配分に与える影響について学習する。	授業で扱った問題を解くこと。 動画を見ておくこと。(2 時間)
8	市場均衡② 中間テスト	余剰について説明する。また、税金の影響について説明する。	前回の内容を復習すること。 授業で扱った問題を解くこと。 動画を見ておくこと。(2 時間)
9	市場均衡③	前回と同様に税金の影響を説明する。また、需要の価格弾力性について説明する。	前回の内容を復習すること。 授業で扱った問題を解くこと。 動画を見ておくこと。(2 時間)
10	市場均衡④	前回と同様に税金の影響、転嫁と帰着について説明する。また、消費税の軽減税率について考える。	前回の内容を復習すること。 授業で扱った問題を解くこと。 動画を見ておくこと。(2 時間)
11	国際貿易 国民経済①	関税が経済に与える影響について説明する。 経済状況を把握するための代表的な経済指標について学習する。	前回の内容を復習すること。 授業で扱った問題を解くこと。 動画を見ておくこと。(2 時間)
12	国民経済② 金融政策①	なぜ景気は変動するかについて説明する。また、金融政策に関する基本的な知識について学習する。	前回の内容を復習すること。 授業で扱った問題を解くこと。 動画を見ておくこと。(2 時間)
13	金融政策② 日本の財政①	インフレーションについて学習する。また、財政の機能について説明する。	前回の内容を復習すること。 授業で扱った問題を解くこと。 動画を見ておくこと。(2 時間)
14	日本の財政②	日本の財政状況や予算について学習する。	前回の内容を復習すること。 授業で扱った問題を解くこと。 動画を見ておくこと。(2 時間)
15	国際金融	為替相場に関する基本的な知識について学習する。	前回の内容を復習すること。 授業で扱った問題を解くこと。 動画を見ておくこと。(2 時間)

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	入門経済学	伊藤元重	日本評論社
2	初めて学ぶ人のための経済入門	松村敏・玉井義浩	培風館
3			

評価方法（基準）	8 回目の授業で行う中間テスト（20%）と前期末試験（80%）で評価する。
学生へのメッセージ	金融・経済に関する知識は、今後就職、起業の際に必要不可欠です。
担当者の研究室等	11 号館 5 階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）

備考	8回目の授業で行う中間テストについては、10回目の授業において解説する予定です。

科目名	教養経済学	科目名（英文）	Economics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	村瀬　憲昭
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JS01312a1		

授業概要・目的	本授業では、教養として身につけておくべき経済活動の仕組みの基礎について学び、身近な生活や国・地域で生じている様々な経済問題を理解する基礎的能力を身につけることを目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、国・地域で生じている様々な経済問題に関心を持ち、身近な生活と経済の関係について理解できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業中に配布した資料に基づき、経済学の基礎や時事経済問題を解説する。 また、授業中に理解度を確認するための小テスト（５回程度）を行う。
科目学習の効果（資格）	社会人として身につけておくべき基礎的な経済学の知識を得ることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション 需要と供給	経済学の定義や経済学の目的を説明する。 ミクロ経済学の基本である需要・経済分析について解説する。	授業の復習（１時間）
2	需要曲線と消費者行動 費用の構造と供給行動	需要曲線と消費者の行動について解説する。 供給曲線と、供給行動について解説する。	参考資料を用いた事前学習（１時間） 授業の復習（１時間）
3	市場取引と資源配分	市場と価格メカニズム、資源配分のゆがみ、市場競争と経済発展について解説する。	参考資料を用いた事前学習（１時間） 授業の復習（１時間）
4	独占と競争の理論	独占の理論、完全競争と独占的競争について解説する。	参考資料を用いた事前学習（１時間） 授業の復習（１時間）
5	市場の失敗	市場の失敗の例として、外部効果、公共財、費用逓減産業について解説する。	参考資料を用いた事前学習（１時間） 授業の復習（１時間）
6	不確実性と不完全情報の世界	不確実性と経済現象、情報の不完全性とその対応について解説する。	参考資料を用いた事前学習（１時間） 授業の復習（１時間）
7	ゲームの理論入門	ゲームの理論について解説する。	参考資料を用いた事前学習（１時間） 授業の復習（１時間）
8	経済をマクロからとらえる	マクロ経済学と GDP、マクロ経済における需要と供給について解説する。	参考資料を用いた事前学習（１時間） 授業の復習（１時間）
9	有効需要と乗数メカニズム	マクロで見た需要、需要の決定とマクロ経済の均衡について解説する。	参考資料を用いた事前学習（１時間） 授業の復習（１時間）
10	貨幣の機能	貨幣の定義と機能、マネーストックのメカニズム、貨幣供給と物価について解説する。	参考資料を用いた事前学習（１時間） 授業の復習（１時間）
11	マクロ経済政策	財政政策と金融政策について解説する。	参考資料を用いた事前学習（１時間） 授業の復習（１時間）
12	インフレ・デフレと失業	インフレーション、デフレーション、失業が発生する要因について解説する。	参考資料を用いた事前学習（１時間） 授業の復習（１時間）
13	高齢社会の財政運営	高齢化のもとでの財政運営について解説する。	参考資料を用いた事前学習（１時間） 授業の復習（１時間）
14	経済成長と経済発展	経済成長のメカニズム、資本蓄積と経済成長について解説する。	参考資料を用いた事前学習（１時間） 授業の復習（１時間）
15	国際経済学	為替レートと貿易、投資との関係など、国際経済学の基礎について解説する。	参考資料を用いた事前学習（１時間） 授業の復習（１時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	入門経済学（第４版）	伊藤　元重	日本評論社
2	教養としての経済学	一橋大学経済学部　編	有斐閣
3			

評価方法（基準）	期末試験 70%、小テスト 30%の割合で評価する。
学生へのメッセージ	新聞記事を読み、身近な経済に関する話題に関心を持つようにしてください。
担当者の研究室等	1 号館 7 階　村瀬研究室（経済学部）
備考	理解度を確認するための小テストの正解は次回の授業で解説する。

科目名	経営学入門	科目名（英文）	Introdution to Management
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北　真収
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JS01313a1		

授業概要・目的	経営学の基本について全体を網羅して講義を行います。授業で紹介する代表的な事例を通じて、経営学への理解を深めます。企業での企画調査や海外駐在の実務経験を講義に取り入れます。
到達目標	この授業を通して学生には、経営とは何か、何が課題なのかなど、現実に即して経営への疑問を広く理解し基礎知識を身につけるようになることが期待される。
授業方法と留意点	事例を紹介しながら経営知識を講義します。理解を助けるために DVD なども活用します。 学習課題への応答を求めるなど参加を重視します。 小テスト、中間テストの解答例は試験後に解説します。
科目学習の効果（資格）	経営学検定、中小企業診断士、公務員試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の流れ、進め方、事例紹介、成績評価について説明します	事前：シラバスを読んでおく 事後：講義内容を復習する
2	企業と社会	企業の社会的責任を中心に講義します	事前：教科書の 1 章を読んでおく（2 時間） 事後：講義内容を復習する（2 時間）
3	企業の種類	私的企業、公的企業について講義します	事前：教科書の 2 章を読んでおく（2 時間） 事後：講義内容を復習する（2 時間）
4	企業理念と企業文化	企業理念や企業文化の形成について講義します	事前：教科書の 3 章を読んでおく（2 時間） 事後：講義内容を復習する（2 時間）
5	企業統治	経営者を規律づけるしくみ（ガバナンス）を学びます	事前：教科書の 4 章を読んでおく（2 時間） 事後：講義内容を復習する（2 時間）
6	企業倫理	不祥事を未然に防ぐことについて考えます	事前：教科書の 5 章を読んでおく（2 時間） 事後：講義内容を復習する（2 時間）
7	企業戦略、競争戦略	企業の成長、競争に打ち勝つ考え方を説明します	事前：教科書の 6 章を読んでおく（2 時間） 事後：講義内容を復習する（2 時間）
8	企業財務	資金の調達、運用について説明します	事前：教科書の 7 章を読んでおく（2 時間） 事後：講義内容を復習する（2 時間）
9	合併・買収（M&A）	合併・買収の意義や効果を考えます	事前：教科書の 8 章を読んでおく（2 時間） 事後：講義内容を復習する（2 時間）
10	イノベーション	新しい事業の創出、そのプロセスについて講義します	事前：教科書の 9 章を読んでおく（2 時間） 事後：講義内容を復習する（2 時間）
11	マーケティング	製品やサービスの販売（対象や価値伝達）に関して学びます	事前：教科書の 10 章を読んでおく（2 時間） 事後：講義内容を復習する（2 時間）
12	組織の構造	企業が活動できるしくみを学びます	事前：教科書の 11 章を読んでおく（2 時間） 事後：講義内容を復習する（2 時間）
13	ものづくり	多品種少量生産を中心にものづくりの発展について学びます	事前：教科書の 12 章を読んでおく（2 時間） 事後：講義内容を復習する（2 時間）
14	仕事と生活の調和	ワークライフバランスの必要性、多様な働き方について考えます	事前：教科書の 13 章を読んでおく（2 時間） 事後：講義内容を復習する（2 時間）
15	国際経営	グローバルな経営組織や経営の現地化について講義します	事前：教科書の 14 章を読んでおく（2 時間） 事後：講義内容を復習する（2 時間）

関連科目	経営組織論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	実践に学ぶ経営学（改訂版）	風間信隆・松田健編著	文眞堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	2 回行うテスト（７０％）と課題提出（３０％）で評価します。
学生へのメッセージ	代表的な事例を使って経営知識を解説します。事例に興味を持って取り組んでください。
担当者の研究室等	寝屋川 11 号館 8 階　北　真収研究室（相談時は事前に連絡してください）
備考	テストや課題の解答例はポータルサイトで発表する。

科目名	会計学	科目名（英文）	Accounting
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐井　英子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JS02314a1		

授業概要・目的	会計情報は、債権者や投資家など特定の人々にのみ有用なものではない。今日の経済社会においては、すべての人々が企業活動と何らかの関係を持っている。企業は、地域社会をはじめ多くの関係者と利害関係を有しており、会計情報は、誰にとっても必要で有用な情報である。また、会計はビジネスの言語といわれ、知的職業人として活躍するために不可欠な知識である。会計を知らずして、経済社会を理解することはできないといえる。 本講義では、会計の意義、目的、規範、会計情報開示制度等に関する基礎的知識・用語を初心者向けに分かり易く解説し、公表されている会計情報、財務諸表をから企業の経営内容を読み取り、理解できるようになり、また、２年生以降に履修することになる上級科目のより円滑な理解に結びつくことを目的とする。
到達目標	この講義では、以下のことができるようになることを期待される。 ・会計の目的、役割を理解する。(DP2) ・我が国の会計制度、会計情報開示制度の概要を理解する。(DP2) ・自ら必要な会計情報を収集し、簡単な分析ができるようになる。 ・主用財務諸表である、貸借対照表、損益計算書を作成することができる。 ・財務諸表の内容、作成ルールを理解し、会計情報から企業内容を推察することができる。
授業方法と留意点	対面授業を実施する。 教材、課題の提出は,WebFolder を利用する。
科目学習の効果（資格）	・ビジネスマンとして必要なビジネス言語である会計リテラシィーが修得できる。 ・組織（主として企業）に関する会計情報を読み取る力を修得することにより２年次以降の学びに有用できる。 ・経営学部に関連する一連の各種資格取得のための受験準備スタートのよい契機になる。 ・会計と資格、職業についての理解が得られる。(公認会計士、税理士、国税専門官、不動産鑑定士、中小企業診断士等)

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	会計の意義と目的	会計の意義、財務会計と管理会計、会計の役割・機能	配布資料の復讐と整理（1時間）
2	わが国の会計制度	トライアングル体制、会社法会計、金融商品取引法会計、税務会計	事前学習（30分） 前回の講義、練習問題の復習 事後学習（1時間） 当日の配布資料、練習問題の見直し
3	会計情報開示制度	ディスクロージャーとは、電子開示システム	事前学習（30分） 前回の講義、練習問題の復習 事後学習(1時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し
4	会計基準	企業会計原則、会計基準の国際的統合	事前学習(30分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習（1時間） 当日の配布資料、練習問題の見直し
5	会計情報の内容（１）	会計情報の入手方法、個別財務諸表と連結財務諸表	事前学習(30分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習（90分） 当日の配布資料の見直しと提示された課題レポートの作成
6	会計情報の内容（２）	貸借対照表 様式、基本原則、分類基準	事前学習(30分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習(1時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し
7	会計情報の内容（３）	貸借対照表 資産について	事前学習（30分） 前回の講義、練習問題の復習 事後学習(90分) 当日の配布資料の見直しと提示された課題レポートの作成
8	会計情報の内容（４）	貸借対照表 負債について	事前学習（30分） 前回の講義、練習問題の復習 事後学習(1時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し
9	会計情報の内容（５）	貸借対照表 純資産について	事前学習(30分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習（1時間） 当日の配布資料、練習問題の見直し
10	まとめと確認テスト	まとめと小テスト	事前学習(９０分) 今までの配付資料、練習問題の復習 事後学習(３０分) まとめテストの見直し
11	会計情報の内容（６）	損益計算書 収益の認識と測定	事前学習(30分) まとめてストで理解できないところを調べる 事後学習(1時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し の見直し
12	会計情報の内容（７）	損益計算書 費用の認識と測定	事前学習(30分) 前回の講義、練習問題の復習

			営業損益、経常損益、純損益	事後学習(1 時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し
	13	会計情報の利用・分析	安全性分析、収益性分析	事前学習(30 分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習(90 分) 当日の配布資料の見直しと提示された課題レポートの作成
	14	会計と職業・資格	日商簿記検定、ビジネス会計検定試験、BATIC、公認会計士、税理士、国税専門官、不動産鑑定士、中小企業診断士	事前学習(30 分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習（1 時間） 当日の配布資料、練習問題の見直し
	15	授業のまとめとテスト	講義の復習とまとめテスト	事前学習（５時間） 今までの講義の復習とテスト準備

関連科目	経営学、企業簿記

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	アカウンティング	笹倉　淳史他	同文館出版
2	1からの会計	桜井　久勝	中央経済社
3			

評価方法 （基準）	授業への参加と課題の提出（40%）、期末テスト(６０％）まとめてストとして 15 回目の講義で実施する。
学生への メッセージ	毎回授業に出席して、練習問題を自分で解いて下さい。
担当者の 研究室等	佐井研究室（１１号館８階）
備考	・課題の正解は、原則として講義中、または次回の講義で解説する。

科目名	心理学Ⅰ	科目名（英文）	Psychology Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	越川　陽介
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1302a1		

授業概要・目的

本講義では、知覚や記憶のメカニズム、学習理論やコミュニケーション法を学ぶことを通して、私たちがどのように物事をとらえて感じているのかを理解し、他者を理解する上で役立つ考え方やコミュニケーション法を身につけ、自己理解や他者理解、良好な人間関係の形成に活かすことを目的とする。

これにより、現在の人間関係と今後の新たな人間関係の変化に柔軟に対応できるような人間力、他者と関わる上での心のあり方やマナーなどの態度が、より向上することを期待している。

到達目標

この講義を通じて学生には自分自身がどのように物事をとらえているのかを知ることに加えて、他者がどのように物事をとらえているのかを推察しようとする意識を身につけること、さらには自分と他者との物事のとらえ方の違いを受け入れ、他者に共感的に寄り添える力を高めて、よりよい人間関係を形成できる力を身につけることが期待される。

授業方法と留意点

本授業は講義形式の授業を行う。各授業においてテーマを設定しており、そのテーマについてパワーポイントによる講義資料を用いて授業を行う。また、授業の最後にはその日の授業内容の定着度を測る小テストを行う。授業時には事前配布した授業スライドを印刷、持参し、いつでも内容を確認することが望ましい。

小テストについては次回の授業の際に正答の提示を行いフィードバックを行う。

科目学習の効果（資格）

自己理解と他者理解、現在と今後の人間関係の形成に活かすことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	心理学とは？ 講義内容と定期試験の説明	本講義では、心理学とはどのようなものなのかを概観し、日常生活でどのように活かされているのかについて学ぶ。	心理学で、興味の持った分野を見つけて、調べて整理しておくことが望ましい(1 時間)。
2	感覚と知覚について	本講義では、知覚の種類や機能について解説し、私たちが日常生活でどのように物事を捉えているのかについて学ぶ。	五感とは何かを調べて、自分と他人でどのように感じ方が異なるのかを考えておくことが望ましい(2 時間)。
3	記憶について	本講義では、記憶の仕組みや記憶に関する疾患について学ぶ。	記憶について調べ、整理しておくことが望ましい(1 時間)。
4	わたしたちと発達について：総論編	本講義では、生涯における発達について発達理論を中心に概観を学ぶ。	発達理論について調べ、整理しておくことが望ましい(2 時間)。
5	わたしたちと発達について：認知編	本講義では、認知的な発達について学ぶ。	認知的な発達について調べ、整理しておくことが望ましい(2 時間)。
6	わたしたちと発達について：対人関係編	本講義では、対人関係の形成に関する発達について学ぶ。	対人関係の構築の仕方について調べ、整理しておくことが望ましい(2 時間)。
7	わたしたちと発達について：自己理解編	本講義では、自己を理解していく発達の過程について学ぶ。	アイデンティティについて調べ、整理しておくことが望ましい(2 時間)。
8	学習理論、子育て、人の伸ばし方について	本講義では、人や動物がどのように学習し行動を形成するのか、子どもや他人をどのように伸ばせばいいのかを学ぶ。	学習理論について調べ、整理しておくことが望ましい(2 時間)。
9	自尊心（自信）について	本講義では、生きていくうえで重要な自尊心（自信）について学ぶ。	自尊心について調べ、整理しておくことが望ましい(2 時間)。
10	性格について	本講義では、人の性格がどのように形成されるのかについて学ぶ。	性格について調べ、整理しておくことが望ましい(2 時間)。
11	社会的認知、集団の心理について	本講義では、社会的認知や集団における心理や行動について学ぶ。	集団の心理について調べ、整理しておくことが望ましい(2 時間)。
12	感情と欲求、ストレスマネジメントについて	本講義では、感情の種類や機能、人間の欲求、ストレスマネジメントについて学ぶ。	ストレスマネジメントについて調べ、整理しておくことが望ましい(2 時間)。
13	コミュニケーション、傾聴、共感について	本講義では、コミュニケーションで大切な傾聴（話の聴き方）や共感について学ぶ。	傾聴や共感について調べ、整理しておくことが望ましい(2 時間)。
14	コミュニケーション、日常生活に役立つ心理学について	本講義では、よりよい頼み方や断り方、謝り方などについて学ぶ。	アサーション、という言葉について調べ、整理しておくことが望ましい(2 時間)。
15	講義全体のまとめ	本講義では、これまでの全講義のまとめを行い、要点を振り返り、講義内容の定着を図る。	全講義のプリントを復習しておくことが望ましい(3 時間)。

関連科目

臨床心理学、発達心理学、コミュニケーション学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

まとめテスト(第 15 回時実施)60%, 毎回の小テスト 30%, 授業態度としての授業への呼応状況 10%の配分で総合的に評価を行う。
出席が 11 回以上の者が成績評価の対象となります。

学生へのメッセージ

心理学は、自己理解や他者理解を中心として、日常生活を営む上においても役立つ学問で、知れば知るほど自分の世界が広がるものです。本講義を通して、今後生きていく上で、一つでも役立つ知識や経験を得られることができればよいと思います。

担当者の研究室等

11 号館 6 階　経営学部非常勤講師室

備考	・講義時間外における質問は、講義前後の非常勤講師室、講義後の教室で時間の許す限りとします（メールでも可）。 ・事前事後学習に、毎回 30 分以上かけると、定期試験の点数も取りやすくなります。 ・小テストは全ての問題が満点になるまで回答できる様に設定する予定です。満点を目指す中でその回の授業を復習できる様にしてあります。

科目名	心理学Ⅱ	科目名（英文）	Psychology II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	越川　陽介
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1303a1		

授業概要・目的	本講義では、社会的変化を心理学的な視点で把握した上で、それらが個人や集団にどのような影響を及ぼすのかについて学ぶ。 さらに、そのような社会的変化に対して、私たちがどのように生きていけばいいのかといった視点から、自分で考えられる力、他人との関係の中でうまく生きていく力を高めることを目的とする。
到達目標	この講義を通じて学生には、社会的変化を自分とは関係の無いことと思わずに、自分にも関係のあることとして捉えられるようになること。さらに、本講義で学ぶ内容を、ただ“知る”だけではなく、自分で“考える”ことで、複雑・多様化する社会の中で生きていく力を高めることが身につくことが期待される。
授業方法と留意点	本授業は講義形式の授業を行う。各授業においてテーマを設定しており、そのテーマについてパワーポイントによる講義資料を用いて授業を行う。また、授業の最後にはその日の授業内容の定着度を測る小テストを行う。授業時に紹介する参考文献を参照し知識の定着を目指すことが望ましい。
科目学習の効果（資格）	自分自身で考える力を高め、複雑・多様化する社会の中で生きられる力を高めることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	心理学とは？ 講義内容と定期試験の説明	本講義では、最近の社会的変化を考える前に、心理学とはどのようなものなのかを概観し、日常生活でどのように活かされているのかについて学ぶ。	心理学とは、どのようなものなのかを事前に調べ、自分なりの考えを持っておくことが望ましい(1 時間)。
2	新型コロナウイルス感染症とメンタルヘルス	本講義では、危機的状況下で生じる人間の反応について学ぶ。	災害時などに生じる心の反応の特徴について調べてくることが望ましい(2 時間)。
3	未病とメンタルヘルス	本講義では、メンタルヘルスにおける健康と病気の間の未病について学ぶ。	未病とメンタルヘルスについて調べることが望ましい(2 時間)。
4	メンタルヘルスの未病のための不安との付き合い方	本講義では、見通しの立たない社会を過ごすための方法について学ぶ。	授業内で紹介するワークを実際に行い、体験したことをまとめておくことが望ましい(2 時間)。
5	睡眠とメンタルヘルス 1	本講義では、睡眠に関する知識について学ぶ。	１週間の睡眠状況についてメモしておくことが望ましい(2 時間)
6	睡眠とメンタルヘルス 2	本講義では、睡眠障害と、薬物を使わない睡眠の改善方法について学ぶ。	授業内で紹介するワークを実際に行い、体験したことをまとめておくことが望ましい(2 時間)。
7	組織と個人の心 1	本講義では、組織に生じる問題について精神分析的な側面からの解釈の方法について学ぶ。	自分が所属する組織で困ったことなどを確認することが望ましい(2 時間)。
8	組織と個人の心 2	本講義では、アセスメントツールを用いて組織のアセスメント方法について学ぶ。	自分が所属する組織で生じた問題について整理しておくことが望ましい(2 時間)。
9	モンスターペアレントやクレーマーについて	本講義では、モンスターペアレントやクレーマーの心理や社会的背景について学ぶ。	モンスターペアレントやクレーマーの心理について事前に考えておくことが望ましい(2 時間)。
10	セクシャル・マイノリティについて	本講義では、セクシャルマイノリティの歴史や背景、今後について学ぶ。	自分がセクシャルマイノリティであるとしたら、自分の周りにセクシャルマイノリティの人がいるとしたら、という視点で考えておくことが望ましい(2 時間)。
11	高齢者の発達と介護について	本講義では、高齢者の発達と介護について学ぶ。	介護に関する問題について事前に調べておくことが望ましい(2 時間)。
12	SNS（ソーシャルネットワークサービス）について	本講義では、近年発展が続いている SNS について学ぶ。	SNS のメリットとデメリット、自分が SNS についてどのように感じているかを事前に考えておくことが望ましい(2 時間)。
13	ロボット（AI）の増加や機械化について	本講義では、人とロボットの関係、今後の働き方について学ぶ。	ロボット（AI）の増加や機械化によるメリットとデメリットを事前に考えておくことが望ましい(2 時間)。
14	オンラインコミュニケーションについて	本講義では、テレワークなどのオンラインで行われるコミュニケーションについて学ぶ。	オンラインコミュニケーションのメリットとデメリットを考えておくことが望ましい(2 時間)。
15	講義全体のまとめ	本講義では、これまでの全講義のまとめを目的としたテストを行う	全講義のプリントを復習しておくことが望ましい(2 時間)。

関連科目	臨床心理学、社会心理学、コミュニケーション学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	出席回数が 11 回以上の者を評価の対象とする。 その上で、定期試験 60%，毎回の小テスト 30%，授業態度としての授業への呼応状況 10%の配分で総合的に評価を行う。
学生へのメッセージ	心理学は、自己理解や他者理解を中心として、日常生活を営む上においても役立つ学問で、知れば知るほど自分の世界が広がるものです。本講義を通して、今後生きていく上で、一つでも役立つ知識や経験を得られることができればよいなと思います。
担当者の	11 号館 6 階　経営学部非常勤講師室

研究室等	
備考	・質問は、メールにてお願いします。 ・小テストは全ての問題が満点になるまで回答できる様に設定する予定です。満点を目指す中でその回の授業を復習できる様にしてあります。

科目名	社会学Ⅰ	科目名（英文）	Sociology Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	野々村　元希
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JS01315a1		

授業概要・目的	われわれの生きる社会は、どのようなしくみによって成り立っているのか。そこにはどのような問題があり、それはなぜ生じているのか。本講義では、受講生自らがこれらの問いに向き合えるようになるために、社会学の基本的なものの見方について概説する。 前半では、社会学の関心や着眼点、ならびに基礎的な概念について解説する。後半では、それらを踏まえつつ、家族、労働、医療、福祉、教育、階層といった諸領域に関する社会学的知見を紹介し、現代社会の動向を多角的にとらえることを試みる。
到達目標	この講義を通じて、受講生は社会学の基本的な知識と考え方を身につけ、さまざまな社会制度・社会問題について、それを相対化しつつ、たんなる感情的な判断を超えた水準から考察することができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義形式の授業を行う。授業では教員の作成した資料を配布する。 基本的には教室での対面授業を行うが、事情によってはオンライン授業を行うこともある。
科目学習の効果（資格）	日々の個人的な経験を、社会構造やその変化をおさえながら把握する能力を身につけることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義への導入	授業の流れについて理解する。
2	社会学とは何か	社会学の対象と研究枠組み	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1 時間）。
3	社会学の基礎知識(1)	社会化、地位と役割	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1 時間）。
4	社会学の基礎知識(2)	逸脱行動	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1 時間）。
5	社会学の基礎知識(3)	意図せざる結果①：予言の自己成就	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1 時間）。
6	社会学の基礎知識(4)	意図せざる結果②：潜在的機能	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1 時間）。
7	家族・労働の社会学(1)	近代家族とその変容	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1 時間）。
8	家族・労働の社会学(2)	結婚、少子化	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1 時間）。
9	家族・労働の社会学(3)	共働き家族	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1 時間）。
10	家族・労働の社会学(4)	資本主義と労働	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1 時間）。
11	医療・福祉の社会学(1)	医療化	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1 時間）。
12	医療・福祉の社会学(2)	監視のテクノロジー	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1 時間）。
13	教育・階層の社会学(1)	階級と階層、格差と貧困	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1 時間）。
14	教育・階層の社会学(2)	学歴	レジュメや紹介した文献を読んで復習する（1 時間）。
15	総括	講義のまとめ	授業全体を振り返る。

関連科目	社会学Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義へのコメント（10%）：講義へのコメントを数回求め、その内容を評価する。 期末レポート（90%）：レポートのできばえを評価する。 コメントは 6 回、10 回、12 回、14 回の授業終了後に書いてもらうことを予定している（その際、Teams の「課題」機能を用いる）。 レポートの作成および提出要項ついては追って通知する。
学生へのメッセージ	本を読んだり、社会のさまざまな事柄についてゆっくり考えたりすることが好きな学生であれば楽しく過ごせると思います。関心のある人はぜひ参加してください。 同担当者の「社会学Ⅱ」を合わせて履修することが望ましいですが、未履修の人でも問題ありません。
担当者の研究室等	11 号館 6 階　経営学部非常勤講師室
備考	授業内容に関する質問等は、授業終了後に直接、もしくはメールで受けつける（メールアドレスは初回の授業で通知する）。 また、試験の講評等については、後日ウェブサイトを用いるなどして受講者に伝える。

科目名	社会学Ⅱ	科目名（英文）	Sociology II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	野々村　元希
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JS01316a1		

授業概要・目的	社会学という営みは、いかなる問題意識をもち、何をやっているのか。また、その営みによって何が明らかになってきたのか。この授業では、こうした問いに迫るために、社会学の基本的なものの見方について解説する。授業の前半では、社会学の成立の過程を思想史的にたどりつつ、他の学問とは異なる社会学に固有の関心や着眼点を考えていく。授業の後半では、社会学の巨匠たちの古典的業績を参照しつつ、現代にも通じる近代社会の諸問題について考えていく。
到達目標	この講義を通じて、受講生は社会学の基本的な知識と考え方を身につけ、近代の社会制度・社会問題について、そこにただ埋没せず、その自明性を問い直すような視座を獲得できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義形式の授業を行う。授業では教員の作成した資料を配布する。 基本的には教室での対面授業を行うが、事情によってはオンライン授業を行うこともある。
科目学習の効果（資格）	日々の個人的な経験を、社会構造やその変化をおさえながら把握する能力を身につけることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義への導入	授業の流れについて理解する。
2	社会学とは何か	社会学の関心と着眼点	レジュメや紹介した文献を読む（1時間）。
3	社会学前史（1）	17世紀と社会契約論	レジュメや紹介した文献を読む（1時間）。
4	社会学前史（2）	18世紀とスコットランド啓蒙	レジュメや紹介した文献を読む（1時間）。
5	2つの革命と社会学	19世紀とコント社会学	レジュメや紹介した文献を読む（1時間）。
6	社会学と近代化、近代社会	民主化、産業化、官僚制化、モダニズムの思潮	レジュメや紹介した文献を読む（1時間）。
7	デュルケムの社会学	デュルケム社会学の対象・方法・関心	レジュメや紹介した文献を読む（1時間）。
8	デュルケムを読む（1）	『自殺論』（1）──自己本位的自殺	レジュメや紹介した文献を読む（1時間）。
9	デュルケムを読む（2）	『自殺論』（2）──アノミー的自殺	レジュメや紹介した文献を読む（1時間）。
10	デュルケムを読む（3）	『社会分業論』（機械的連帯と有機的連帯）、「個人主義と知識人」（人格崇拝）	レジュメや紹介した文献を読む（1時間）。
11	ウェーバーの社会学	ウェーバー社会学の対象・方法・関心	レジュメや紹介した文献を読む（1時間）。
12	ウェーバーを読む（1）	『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』（1）──意図せざる帰結としての資本主義	レジュメや紹介した文献を読む（1時間）。
13	ウェーバーを読む（2）	『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』（2）──カルヴィニズム、世俗内的禁欲、鉄の檻	レジュメや紹介した文献を読む（1時間）。
14	ウェーバーを読む（3）	「社会学の基礎概念」（行為の4類型）、「客観性」論文（価値自由）、『職業としての学問』（学問の意味と専心）	レジュメや紹介した文献を読む（1時間）。
15	社会学のその後の展開、講義のまとめ	総括	授業全体を振り返る。

関連科目	社会学Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義へのコメント（10%）：講義へのコメントを数回求め、その内容を評価する。 期末レポート（90%）：レポートのできばえを評価する。 コメントは6回、10回、14回の授業終了後に書いてもらうことを予定している（その際、Teamsの「課題」機能を用いる）。 レポートの作成・提出要項ついては追って通知する。
学生へのメッセージ	社会学や社会思想史に関心があり、これらに関する本を読んだりすることが好きな学生であれば楽しく過ごせると思います。よければ参加してください。 同担当者の「社会学Ⅰ」を合わせて履修することが望ましいですが、未履修の人でも問題ありません。
担当者の研究室等	11号館6階　経営学部非常勤講師室
備考	授業内容に関する質問等は、授業終了後に直接、もしくはTeams上で受けつける。 また、試験の講評等については、後日ウェブサイトを用いるなどして受講者に伝える。

科目名	スポーツ心理学	科目名（英文）	Sports Psychology
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井　信輝
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH2357a1		

授業概要・目的	スポーツ活動を心理学的な観点から分析・検討するための基本理論や応用のための方法を学ぶ。
到達目標	この授業を通じて学生には、スポーツ活動の基礎となる運動や人について、心理学的な側面から理解を深めることができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	教科書は特に用いないが、必要に応じて資料を配布する。授業中に提示した課題を解決するため、および事前・事後の学習のために ICT ツールを活用していただく場合もあります。対面による授業を原則とします。
科目学習の効果（資格）	スポーツ活動だけではなく、日常生活にも応用できる心理学的な知見の獲得。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	スポーツ心理学の意義	スポーツ心理学の意義と学問体系を理解する。	スポーツ心理学という学問領域について整理する。(1 時間程度、以下 1～15 回目も同様)
2	スポーツ心理学の研究法	実験、調査法、観察	配布資料に目を通す。
3	スポーツと知覚	スポーツと視覚、スポーツヴィジョン	関連資料に目を通す。
4	スポーツ指導と動機づけ	動機づけの意味と、その方法論	動機付けの方法を抜粋し整理する。
5	パフォーマンス修得の意味とその段階	パフォーマンス曲線、プラトウとスランプ・習熟度の確認	スランプとプラトウの違いを整理する。
6	リーダーシップとスポーツ（1）	リーダーシップの概念	関連資料に目を通す。
7	リーダーシップとスポーツ（2）	リーダーシップの形式	配布資料の理解。
8	リーダーシップとスポーツ（3）、これまでの講義のまとめ	リーダーの役割と PM 理論	これまでの講義の整理とその理解。
9	フィードバック	フィードバックの種類と効果	フィードバックという概念の検索。
10	メンタルプラクティス	メンタルプラクティスの効果と実践方法、習熟度の確認	関連資料に目を通す。
11	スポーツとパーソナリティー	スポーツとパーソナリティーの関係	パーソナリティーという言葉の検索。
12	スポーツの経験と態度変容	態度の概念、態度変容理論、スポーツ経験と態度変容	配布資料の理解。
13	心理的技能とパフォーマンス（1）	心理的技能がパフォーマンスに与える影響	関連資料に目を通す。
14	心理的技能とパフォーマンス（2）	心理的技能とパフォーマンスとの関係	前回と講義と今回とを関連づけて整理する。
15	講義のまとめ	講義の総括と到達度の確認試験	これまでの講義を体系づけて整理する。

関連科目	スポーツに関係する科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業に参加する姿勢（３０%）、授業中に出される課題への回答・試験の結果（70%）をもって評価する。
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んでください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　石井教授室
備考	各回に 1 時間程度、すなわち半期 15 時間程度を目安に、講義の内容について事前・事後の学習を行ってください。 課題や習熟度確認試験の解説は、次の回の授業で行う。 19 年度　合格率 96%　(不受験率 4%)　A7%　B29%　C46%　D14%　平均 75 点　72 人登録

科目名	社会調査の方法	科目名（英文）	Social Research Method
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	野々村　元希
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JS02317a1		

授業概要・目的	この授業では、社会調査の概要を述べた上で、特に計量的な社会調査（量的調査）に関して、問題設定から報告書作成までのプロセスを解説する。すなわち、さまざまな社会現象に対して、問いを立て、データを集め、分析し、それによって得られた結果を解釈し、問いに対する答えを報告書にまとめるという一連の流れについて、守るべきルールや方法をおさえながら解説していく。
到達目標	この授業を通じて学生には、量的調査のデータベースを用いた情報検索の方法、ならびに量的調査を設計する方法を学ぶことを通して、データの収集、分析に関する知識と実践力を習得することが期待される。
授業方法と留意点	講義形式の授業を行う。授業では教員の作成した資料を配布する。 基本的には教室での対面授業を行うが、事情によってはオンライン授業を行うこともある。
科目学習の効果（資格）	社会調査はゼミ活動や卒業研究だけでなく、たとえば市場調査など、就職後にもさまざまな場面で実施することになりうるものである。受講生はそのための知識や技術を身につけることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義のねらいと概要	レジュメを読んで復習する（1時間）。配布した調査票を見てその構造をつかむ。
2	社会調査の概要	質的調査と量的調査、社会調査の現状	レジュメを読んで復習する（1時間）。
3	調査を企画する前に（1）	既存の文献・調査データの検索	レジュメを読んで復習する（1時間）。 ■課題あり（予定）
4	調査を企画する前に（2）	問い（リサーチ・クエスチョン）の立て方と変数、質的変数と量的変数	レジュメを読んで復習する（1時間）。
5	調査を企画する前に（3）	仮説構成、相関関係と因果関係、独立変数と従属変数	レジュメを読んで復習する（1時間）。 ■課題あり（予定）
6	調査票の作成（1）	質問文の作成、ワーディング	レジュメを読んで復習する（1時間）。
7	調査票の作成（2）	質問文への回答形式の設定、尺度構成	レジュメを読んで復習する（1時間）。 ■課題あり（予定）
8	サンプリング（1）	全数調査と標本調査、サンプリングの諸技法	レジュメを読んで復習する（1時間）。
9	サンプリング（2）	母集団と標本、ランダム･サンプリング	レジュメを読んで復習する（1時間）。 ■課題あり（予定）
10	実査の方法	他記式調査と自記式調査	レジュメを読んで復習する（1時間）。
11	実査	実査の手順、調査倫理	レジュメを読んで復習する（1時間）。
12	データファイルの作成	エディティング、コーディング、データクリーニング	レジュメを読んで復習する（1時間）。 ■課題あり（予定）
13	調査データの集計･分析（1）	1変数の分布と傾向：度数分布と記述統計	レジュメを読んで復習する（1時間）。
14	調査データの集計･分析（2）	2変数の関連：クロス表、平均値の差、相関係数	レジュメを読んで復習する（1時間）。 ■課題あり（予定）
15	調査結果の提示、総括	報告書の作成、論文･レポートの書き方、講義の振り返りとまとめ	授業全体を復習する（1時間）。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	入門・社会調査法（第2版）	轟亮・杉野勇編	法律文化社
2	新・社会調査へのアプローチ――理論と方法	大谷信介ほか	ミネルヴァ書房
3			

評価方法（基準）	週ごとに指示した課題への取り組み（30%）。 期末レポート（70%）。 レポートの作成・提出要項ついては追って通知する。
学生へのメッセージ	技法の習得・理解はもちろんですが、何を明らかにしたいのか、何のために調査するのかといった「問いの内容」がいっそう重要です。日ごろから新聞や雑誌に目を通すなどして、社会に対する関心を持つようにしてください。
担当者の研究室等	11号館6階　経営学部非常勤講師室
備考	授業内容に関する質問等は、授業終了後に直接、もしくはメールで受けつける（メールアドレスは初回の授業で通知する）。 また、試験の講評等については、後日ウェブサイトを用いるなどして受講者に伝える。

科目名	教養数学	科目名（英文）	Mathematics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	蓑茂　工将
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JNA1318a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。 一方で法律の解釈・訴訟事例では、かなりの数学的知識・論理能力が求められることがある。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度前期で確実に身につけることをこの授業の目標とする。
到達目標	基礎的な数学的知識・論理能力を身につける。1つの目安として、各種採用試験（公務員試験・教員採用試験等）の数理分野の問題には十分対応できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義形式によって進める。理解の促進と達成度合いの確認のため、演習を適時行い、レポート課題を課す。
科目学習の効果（資格）	問題を定式化し、論理的に解くことを修得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	方程式(1)	・四則応用 ・１次方程式	レポート課題
2	方程式(2)	・２次方程式	レポート課題
3	方程式(3)	・平均算 ・年齢算	レポート課題
4	割合(１)	・比 ・混合算	レポート課題
5	割合(2)	・売買算 ・仕事算	レポート課題
6	速さ(1)	・速さ ・流水算	レポート課題
7	速さ(2)	・旅人算 ・通過算	レポート課題
8	速さ(3)	・時計算	レポート課題
9	場合の数	・数え上げの原則 ・並べ方，選び方 ・順列，組み合わせ	レポート課題
10	確率	・確率の計算	レポート課題
11	図形の計量(1)	・多角形	レポート課題
12	図形の計量(2)	・平面計量(円)	レポート課題
13	整数(1)	・約数，倍数 ・剰余	レポート課題
14	整数(2)	・記数法	レポート課題
15	規則性	・数列 ・規則性の発見	レポート課題

関連科目	教養物理

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	レポート課題(40%)と期末試験(60%)で評価する。
学生へのメッセージ	授業内の演習とレポート課題で自分の理解度を把握できますので、理解の足りない部分はその都度しっかりと復習をしてください。授業時間内外を問わず、質問は大歓迎です。一緒にがんばりましょう。
担当者の研究室等	数学準備室(5 号館 1 階)
備考	事前・事後学習の総時間数の目安は 15 時間。

科目名	教養数学	科目名（英文）	Mathematics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＣＤ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松野　研
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JNA1318a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、大学入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。 一方で法律の解釈・訴訟事例では、かなりの数学的知識・論理能力が求められることがある。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度前期で確実に身につけることをこの授業の目標とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、基礎的な数学的知識・論理能力を身につけることが期待される。１つの目安として、総合適性検査 SPI・公務員試験・教員採用試験等の各種採用試験の数理分野の問題に十分に対応できるようになること。
授業方法と留意点	プリントを用いた講義と演習が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため、毎回演習を行う。
科目学習の効果（資格）	問題を定式化すること。定式化できれば論理的に解けることを体得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	方程式(1)	・四則応用 ・１次方程式	例題プリントの見直し
2	方程式(2)	・２次方程式	例題プリントの見直し及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し
3	方程式(3)	・方程式の文章題への応用	例題プリントの見直し及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し
4	割合(1)	・比 ・割合の文章題への応用（１）	例題プリントの見直し及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し
5	割合(2)	・割合の文章題への応用（２）	例題プリントの見直し及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し
6	速さ(1)	・速さ ・速さの文章題への応用（１）	例題プリントの見直し及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し
7	速さ(2)	・速さの文章題への応用（２）	例題プリントの見直し及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し
8	速さ(3)	・速さの文章題への応用（３）	例題プリントの見直し及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し
9	場合の数	・数え上げの原則 ・並べ方、選び方 ・順列、組み合わせ	例題プリントの見直し及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し
10	確率	・確率の計算	例題プリントの見直し及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し
11	図形の計量(1)	・多角形	例題プリントの見直し及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し
12	図形の計量(2)	・平面計量(円)	例題プリントの見直し及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し
13	整数(1)	・約数、倍数 ・剰余	例題プリントの見直し及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し
14	整数(2)	・記数法	例題プリントの見直し及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し
15	規則性	・数列 ・規則性の発見	例題プリントの見直し及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題演習 40%、レポート 60%
学生への	数学については各自様々な印象を抱いていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気持ちで授業に出席してください。どのような些細なこと

メッセージ	でもかまいませんので、遠慮することなくいつでも質問してください。さらに、ラーニングセンターにおける対面およびオンラインでの個別指導を積極的に活用してください。
担当者の 研究室等	5 号館 1 階
備考	事前・事後学習に毎回 1 時間以上かけること。 質問等には授業の前後に対応します。

科目名	教養数学	科目名（英文）	Mathematics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＥＧ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	髙尾　尚武
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JNA1318a1		

授業概要・目的

近年，本学入学時点では数学的知識・論理能力の不足が認められます．一方，社会においては，（特に法律の解釈・訴訟事例では）一定の数学的知識・論理能力が必要とされます．

そこで，　初等的な数学の話題を通して，大学１回生レベルの論理能力を身につけてもらうことをこの授業の目的とします．

尚，題材としては，初等整数論への入門をとりあげます．

到達目標

この授業を通じて学生には、教科書を理解する為に必要な義務教育レベルの初等数学を復習することで、指定教科書の内容を理解できるようになることが期待されます。

授業方法と留意点

授業は，講義・演習・発表を適切に組み合わせて実施します．
教科書を補足するプリントの学習を通して以下のことを行う予定です．

(1) 義務教育レベルの初等数学を復習する．

(2) (1)を使って循環小数をめぐるいくつかの現象の解明をする．

(3) 時間があれば，(2)の延長線上にある初等整数論の話題にふれる．

科目学習の効果（資格）

大学なので資格に直結するような授業は行いません．
この授業では，もっと基礎的なスキル(論理的に考え説明する)を向上させることを目指しています．
効果は個人の取り組み方次第です．

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	連立 1 次方程式とその応用(1)	掃き出し法	学習内容の復習と応用
2	連立 1 次方程式とその応用(2)	文章題	学習内容の復習と応用
3	場合の数と確率	・順列 ・組み合わせ ・確率	学習内容の復習と応用
4	数列と級数	・等差数列 ・等比数列 ・等比級数	学習内容の復習と応用
5	整数(1)	・約数と倍数 ・Euclid の互除法 ・素因数分解の一意性	学習内容の復習と応用
6	整数(2)	合同式	学習内容の復習と応用
7	整数(3)	中国剰余定理	学習内容の復習と応用
8	・ここまでの復習/補足 ・不思議な数	ここまでの復習及び不思議な数の導入を行う．	学習内容の復習と応用
9	小数	・実数の 10 進小数表示 ・有限小数の特徴づけ	学習内容の復習と応用
10	循環小数	・有理数 ・純循環小数の特徴づけ ・循環小数の特徴づけ	学習内容の復習と応用
11	循環小数の循環節	・素数の逆数の小数表示 ・循環節の長さについての 2 つの観察	学習内容の復習と応用
12	循環小数と合同式(1)	Fermat の小定理	学習内容の復習と応用
13	循環小数と合同式(2)	純循環小数	学習内容の復習と応用
14	原始根と Artin 予想(1)	原始根	学習内容の復習と応用
15	原始根と Artin 予想(2)	Artin 予想	学習内容の復習と応用

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	分数と小数から広がる整数の世界	中島匠一	技術評論社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

期末試験 70%，平常点 30%で評価します．
但し、期末試験については状況次第ではレポート等の代替手段への変更も有り得ます．

学生へのメッセージ

数学については各自様々な思いを持っているでしょうが，あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい．どのような些細なことでもかまいませんから，遠慮することなくいつでも質問してください．また，学習支援センターを積極的に利用して欲しいと思います．

但し，この講義は同名の他の講義とは内容が大きく異なります．論理的に考え説明する練習が中心となります．（数学はあくまでも題材に過ぎません．）　また，授業内容の密度は高校時代より格段に濃くなります．　授業に出ているだけで，授業内容を理解できる様になることは絶対に起こりません．日頃勉強せず試験前に纏めて勉強しても有意義な学習効果は得られません．毎回授業に出席した上で，必ず予習復習を行ってくだ

	さい. よって，単位をとるためだけに受講することは絶対にお勧めしません.(つらいだけだと思います.)
担当者の 研究室等	5 号館 1 階
備考	十分な学習効果を得るには，週約 4 時間の予習と復習が必要です. （大学設置基準に基づく目安に基づく時間です） 予習と復習の時間は各自で考えて決めてください.(学習方法を学習するのもこの授業の目的です) 尚，昨今の特殊な社会情勢及び授業の進行状況に応じて，シラバスの内容は若干変更されることがあります. 初回の授業でより具体的な授業内容と授業の進め方について説明します. （ですので、初回の授業には）必ず出席してください. このシラバスの内容は授業の進行状況に応じて若干変更

科目名	教養数学	科目名（英文）	Mathematics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＨＩ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	早味　俊夫
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JNA1318a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。 一方で法律の解釈・訴訟事例では、かなりの数学的知識・論理能力が求められることがある。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度前期で確実に身につけることをこの授業の目標とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、基礎的な数学的知識・論理能力を身につけることが期待される。 （１つの目安として、総合適性検査 SPI・公務員試験・教員採用試験等の各種採用試験の数理分野の問題に十分に対応できるようになること。）
授業方法と留意点	プリントを用いた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適宜行う。
科目学習の効果（資格）	問題を定式化すること。定式化できれば論理的に解けることを体得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	方程式(1)	・四則応用 ・１次方程式	例題プリントの見直し(1時間)
2	方程式(2)	・１次不等式 ・２次方程式 ・連立方程式	例題プリントの見直し(1時間) 及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し(1時間)
3	方程式(3)	・平均算 ・年齢算	例題プリントの見直し(1時間) 及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し(1時間)
4	割合(１)	・比 ・混合算	例題プリントの見直し(1時間) 及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し(1時間)
5	割合(2)	・売買算 ・仕事算	例題プリントの見直し(1時間) 及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し(1時間)
6	速さ(1)	・速さ ・流水算	例題プリントの見直し(1時間) 及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し(1時間)
7	速さ(2)	・旅人算 ・通過算	例題プリントの見直し(1時間) 及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し(1時間)
8	速さ(3)	・時計算	例題プリントの見直し(1時間) 及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し(1時間)
9	場合の数	・数え上げの原則 ・並べ方，選び方 ・順列，組み合わせ	例題プリントの見直し(1時間) 及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し(1時間)
10	確率	・確率の計算	例題プリントの見直し(1時間) 及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し(1時間)
11	図形の計量(1)	・多角形	例題プリントの見直し(1時間) 及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し(1時間)
12	図形の計量(2)	・平面計量(円)	例題プリントの見直し(1時間) 及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し(1時間)
13	整数(1)	・約数，倍数 ・剰余	例題プリントの見直し(1時間) 及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し(1時間)
14	整数(2)	・記数法	例題プリントの見直し(1時間) 及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し(1時間)
15	規則性	・数列 ・規則性の発見	例題プリントの見直し(1時間) 及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し(1時間)

関連科目	教養物理

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜プリントを配布する		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題演習（３０％）及び期末試験（７０％）の合計によって総合的に評価する。
学生への	数学については各自様々な思いを持っているでしょうが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもか

メッセージ	まいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。またラーニングセンター（２号館２階）を積極的に利用してほしいと思います。
担当者の 研究室等	５号館１階
備考	事前・事後学習は毎回１時間以上かけること。 課題レポートは採点して次の回の授業で返却し、適宜講義中に解説をする。

科目名	教養数学	科目名（英文）	Mathematics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	K
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	黒木　和雄
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JNA1318a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。 一方で法律の解釈・訴訟事例では、かなりの数学的知識・論理能力が求められることがある。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度前期で確実に身につけることをこの授業の目標とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、基礎的な数学的知識、数的能力、論理的思考力を身につけることが期待される。
授業方法と留意点	プリントを用いた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。 授業の流れ：①「前半：講義（例題解説）」→②「後半：演習課題に取り組む」 ※演習課題は、授業終了時に提出 ※提出課題が合格基準に達しなかった者に対しては、授業時間外に「補習授業」を実施する
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学的素養を身につけることで、各種採用試験（総合適性検査 SPI・公務員試験等）で出題される数的分野の問題に対応できるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	方程式（1）	・四則応用 ・１次方程式	「演習プリント（第１回）」の問題を解き直すこと（１時間）
2	方程式（2）	・２次方程式	「演習プリント（第２回）」の問題を解き直すこと（１時間）
3	方程式（3）	・平均算 ・年齢算	「演習プリント（第３回）」の問題を解き直すこと（１時間）
4	割合（1）	・比 ・混合算	「演習プリント（第４回）」の問題を解き直すこと（１時間）
5	割合（2）	・売買算 ・仕事算	「演習プリント（第５回）」の問題を解き直す（１時間）
6	速さ（1）	・速さ ・流水算	「演習プリント（第６回）」の問題を解き直すこと（１時間）
7	速さ（2）	・旅人算 ・通過算	「演習プリント（第７回）」の問題を解き直すこと（１時間）
8	速さ（3）	・時計算	「演習プリント（第８回）」の問題を解き直すこと（１時間）
9	場合の数	・数え上げの原則 ・並べ方、選び方 ・順列、組み合わせ	「演習プリント（第９回）」の問題を解き直すこと（１時間）
10	確率	・確率の計算	「演習プリント（第１０回）」の問題を解き直すこと（１時間）
11	図形の計量（1）	・多角形	「演習プリント（第１１回）」の問題を解き直すこと（１時間）
12	図形の計量（2）	・平面計量（円）	「演習プリント（第１２回）」の問題を解き直すこと（１時間）
13	整数（1）	・約数、倍数 ・剰余	「演習プリント（第１３回）」の問題を解き直すこと（１時間）
14	整数（2）	・記数法	「演習プリント（第１４回）」の問題を解き直すこと（１時間）
15	規則性	・数列 ・規則性の発見	「演習プリント（第１５回）」の問題を解き直すこと（１時間）

関連科目	数的能力開発Ⅰ、数的能力開発Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	「演習課題３０％」と「期末試験７０％」の合計によって評価する。
学生へのメッセージ	数学については各自さまざまな思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加してください。どのような些細なことでも構いませんので、遠慮することなくいつでも質問してください。授業時間内で理解できなかった場合は、「ラーニングセンター（学習ステーション）」を積極的に利用して、授業内容をしっかり理解していくようにしてください。
担当者の研究室等	ラーニングセンター（２号館２階）
備考	講義内の演習課題に関する補習（演習問題の解き直し等）を「ラーニングセンター（学習ステーション）」で適宜実施する。

科目名	教養物理	科目名（英文）	Physics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	島津　浩哲
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JNA1319a1		

授業概要・目的	自然は法則に従って動いている。物理学は自然の法則を理解する学問であり、人間社会の法学に対して、自然界の「法」学ともいえる。この授業では、物理学をこれまで学んでこなかった人向けに、物理学がこの世界(空間、時間、物質、エネルギー)をどのようにとらえているかということについて概観する。さらに、身近な現象を題材に、その現象を生じさせる原理や物理法則について学ぶ。
到達目標	この授業を通じて学生には、物理学分野を中心とする自然現象やこれに基づく科学技術に関する基礎知識が身につき、さらに、新しい知識や情報に対しても自らが知的好奇心をもって活用できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業では毎回テーマを選び、物理学の知識と考え方が身につくよう、その関連分野も含め講義をおこなう。数式の利用を最小限にして、物理学の基礎概念とそれがどのような実験や考え方によって得られたのかについて解説する。毎回、レポート課題があり、提出されたレポートは採点し、ICT ツールを用いてフィードバックする。
科目学習の効果（資格）	法曹界や法務の分野においても、特許、医療、環境分野をはじめ、自然現象やこれに基づく科学技術に関する知識が必要とされることがある。この授業で科学技術のうち物理学分野の基礎知識が得られる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	物理学における表現方法	時間、空間、速度、加速度、単位、次元について理解する。	予習・復習レポートの作成(1 時間)
2	私たちが見ているものは過去	相対速度、波の干渉、マイケルソン・モーリーの実験、光速一定の原理、特殊相対性理論、ローレンツ収縮、双子のパラドックス、重力波について理解する。	予習・復習レポートの作成(1 時間)
3	私たちの生きるこの世界はいかに作られたか	光の色と振動数・波長との関係、ドプラー効果、銀河、ハッブル・ルメートルの法則、ビッグバン、宇宙背景放射について理解する。	予習・復習レポートの作成(1 時間)
4	私たちの体は星くずでできている	元素周期表、恒星、太陽、超新星爆発、ブラックホール、元素生成、核分裂、核融合、質量とエネルギーの等価性、放射線について理解する。	予習・復習レポートの作成(1 時間)
5	私たちだけが特別ではない	太陽系、準惑星、天動説と地動説、ケプラーの法則、系外惑星、ハビタブルゾーンについて理解する。	予習・復習レポートの作成(1 時間)
6	月とりんごは同じ法則で運動する	ニュートンの運動の三法則、万有引力の法則、重力、キャベンディッシュの実験、等加速度運動について理解する。	予習・復習レポートの作成(1 時間)
7	変化しても変わらないもの	仕事、エネルギー、運動量保存の法則、エネルギー保存の法則について理解する。	予習・復習レポートの作成(1 時間)
8	ぶらんこをこぐには	単振動、振り子の等時性、固有振動、共鳴・共振について理解する。	予習・復習レポートの作成(1 時間)
9	空も飛べるはず	圧力、浮力、アルキメデスの原理、パスカルの原理、大気圧、ベルヌーイの定理、揚力、カルマン渦、ハニカム構造、炭素繊維について理解する。	予習・復習レポートの作成(1 時間)
10	電気を作るには	右ねじの法則、フレミングの左手の法則、モーター、レンツの法則、ファラデーの電磁誘導の法則、太陽電池、直流と交流について理解する。	予習・復習レポートの作成(1 時間)
11	光と色の世界	三原色、虹の法則、偏光、液晶、電磁波、光の粒子性と波動性、光電効果、プランク定数について理解する。	予習・復習レポートの作成(1 時間)
12	電子の発見からエレクトロニクスへ	陰極線、トムソンの実験、ミリカンの実験、ラザフォードの実験、二重スリット実験、不確定性原理、シュレディンガーの猫、トランジスタについて理解する。	予習・復習レポートの作成(1 時間)
13	熱と時間の矢	ボイル・シャルルの法則、アボガドロ定数、絶対温度、ボルツマン定数、超伝導、マイスナー効果、熱力学第二法則、エントロピー、マクスウェルの悪魔について理解する。	予習・復習レポートの作成(1 時間)
14	未来は決まっているのか	気候変動予測、ラプラスの悪魔、複雑系、カオス、バタフライ効果、ブラウン運動、ランダムウォーク、経済物理、スーパーコンピュータについて理解する。	予習・復習レポートの作成(1 時間)
15	法と科学技術	科学技術・イノベーション基本法、科学技術法制、科学技術政策、宇宙基本法、宇宙法制、宇宙政策について理解する。	復習レポートの作成(1 時間)

関連科目	教養数学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 数式なしでわかる物理学入門 / 桜井邦朋 / 祥伝社 2 / 日常の中の物理学 / 齊藤史郎 / 学術図書出版社 3 / 人物で語る物理入門（上、下） / 米沢富美子 / 岩波新書
評価方法 （基準）	毎回の予習レポート合計 50%、毎回の復習レポート合計 50%の割合で評価する。 レポートの書き方は授業において指示する。
学生への メッセージ	現代の科学技術文明は、身の回りの自然を理解することで生み出されてきました。一方、2011 年の福島第一原子力発電所の事故の後、科学のことは専門家に任せておけば大丈夫という安心感は揺らいでいます。科学は信じるものではなく、理解するものとして取り組んでください。また、レポートを仕上げる中で、理解できなかった点を洗い出し、遠慮なく質問をしたうえで、さらなる知識を積み上げてください。
担当者の 研究室等	８号館２階　物理準備室
備考	質問、相談時間: 金曜 14:50-16:20 事前と事後の学習時間: 毎回 1 時間

科目名	教養化学	科目名（英文）	Chemistry
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	竹内　健治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JNA1320a1		

授業概要・目的	化学はこの世界に存在するさまざまな物質を理解する科学です。はじめて化学を学ぶ人に対して、それぞれの物質がどのようにしてつくられ、どのような性質を示すのかなど、基本的な原理をできるだけ理論的にやさしく解説する。
到達目標	この授業を通じて学生には、身の回りの物質を新しい視点でとらえ、化学の考え方の本質を知ることができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業日に確認小テストを開示します。授業日の２３時５９分までに解答し送信してください。新型コロナウイルス感染状況により遠隔授業Teams/Moodle（教材・課題提供型授業）にて実施する場合がある。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	原子	この世界をかたちづくっている材料は原子です。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（２時間）
2	元素と周期表	元素を整理して理解する。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（２時間）
3	原子と原子のつながり	原子と原子のつながり方は、いくつかある。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（２時間）
4	モルと化学反応式	化学反応を正しい化学反応式で記述する。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（２時間）
5	濃度の表しかた	粉末試薬を水に溶かして目的濃度の水溶液を調整する。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（２時間）
6	酸化と還元	酸化と還元を定義する。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（２時間）
7	物質の性質と状態	気体、液体、個体における分子の状態の違い。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（２時間）
8	気体の性質	気体における温度、圧力、体積の関係。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（２時間）
9	化学反応と熱エネルギー	熱化学方程式を用いた化学反応と反応熱の関係。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（２時間）
10	化学反応と化学平衡	化学反応はどのようなしくみで進むのか。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（２時間）
11	水と溶液	「溶ける」とはどのような現象なのか。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（２時間）
12	透析と浸透圧	浸透、透析、浸透圧について。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（２時間）
13	放射線と放射能	放射線、放射能、ラジオアイソトープとは何か。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（２時間）
14	酸および塩基とｐH①	酸と塩基を定義する。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（２時間）
15	酸および塩基とｐH②	中和、中和滴定、緩衝作用につて。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。（２時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	はじめて学ぶ化学	野島高彦	化学同人
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テストおよび課題（４０%）、定期試験（60%）により評価する。
学生へのメッセージ	質問は適宜受け付ける。Teams の質問用チャンネルを利用してください。
担当者の研究室等	枚方学舎１号館５階生物系薬学分野生化学
備考	

科目名	教養生物	科目名（英文）	Biology
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大塚　正人
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JNA1321a1		

授業概要・目的	基礎となる生物そのものの理解を目指す。高校で生物を学んで来なかった学生も含めて、細胞、代謝、進化、系統、生態系等に関する基本的な知識を習得し、公務員試験の生物の範囲に対し、対応可能な生物学に関する基礎知識を得る。 国連の持続可能な開発目標 SDGs の６に対応する。
到達目標	この授業を通じて学生には、以下の目標を達成することが期待される。 １．現代生物学における各分野の対象と目的に至るアプローチの方法を理解する。 2. 生物とは何か、生きているということはどういうことなのかについて科学的に説明できる。 3. 主体的に自ら学ぶ態度と手法を身につける。
授業方法と留意点	講義の主役は受講者である。教員は、受講者の学びを補助するファシリテーター役に徹する（質問には答えます）。 反転授業の形式で行うので、事前課題（60 分程度）をやってくることが前提である。 とにかく Moodle を多用する。スマホもしくはタブレットが必須の講義である。スマホを充電してから講義に臨むこと。スマホの通信制限や充電不足による講義への不参加は本人に原因があるものとして処理する。
科目学習の効果（資格）	公務員試験の生物の範囲に対し、対応可能な基礎知識を得る。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに 食べることと生きることとは？	授業ガイダンス・生物学の勉強の仕方、事前課題の進め方。生物の階層性・食べることと生きること・必要な栄養素・食べ物の運命とエネルギーの関係について。	講義前に教科書 12 ページからの「はじめに」の節を最期まで読んでおくこと。予習時間 0.5 時間。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、Moodle に配信されるビデオ教材を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。
2	ヒトのカラダとエネルギーの関係 ヒトはなぜ１日３度の食事をするのか？	３度の食事とエネルギーの関係や、エネルギー通貨である ATP について。	講義前に教科書 16 ページからの第 1 章を最期まで読んでおくこと。 事前課題；：予め決められた教科書の範囲を B5 用紙 5 枚にまとめてくること。予習時間 1 時間。 予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた 講義アンケートを記入すること。事後課題んもふりかえりシートと、講義内容に関する課題をその日のうちに作成し、写メを撮り Moodle にて提出すること。 また、Moodle に配信されるビデオ教材を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。
3	糖の種類と性質 甘いのに太らない？人工甘味料と砂糖の違い	身近な糖分・糖質・炭水化物、糖の種類、構造と性質、エネルギーになる単糖類などについて。	講義前に教科書 28 ページからの第２章を最期まで読んでおくこと。 事前課題；：予め決められた教科書の範囲を B5 用紙 5 枚にまとめてくること。予習時間 1 時間。 予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた 講義アンケートを記入すること。事後課題んもふりかえりシートと、講義内容に関する課題をその日のうちに作成し、写メを撮り Moodle にて提出すること。 また、Moodle に配信されるビデオ教材を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。
4	糖からエネルギーを得るしくみ 持久系とパワー系はこれほど違う	運動の種類とエネルギーの消費、解糖系の概要、ＴＣＡ回路、電子伝達系、ATP の生成などについ。	講義前に教科書 40 ページからの第 3 章を最期まで読んでおくこと。 事前課題；：予め決められた教科書の範囲を B5 用紙 5 枚にまとめてくること。予習時間 1 時間。 予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた 講義アンケートを記入すること。事後課題んもふりかえりシートと、講義内容に関する課題をその日のうちに作成し、写メを撮り Moodle にて提出すること。 また、Moodle に配信されるビデオ教材を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。
5	脂質の構造と性質 身体に良い「あぶら」と悪い「あぶら」は何が違うの？	脂質とは、脂肪酸の種類と性質、からだの中での脂肪酸の働き、トリグリセリド以外の脂質、コレステロールの合成と体内での働きなどについて。	講義前に教科書 56 ページからの第 4 章を最期まで読んでおくこと。 事前課題；：予め決められた教科書の範囲を B5 用紙 5 枚にまとめてくること。予習時間 1 時間。 予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた 講義アンケートを記入すること。事後課題んもふりかえりシートと、講義内容に関する課題をその日のうちに作成し、写メを撮り Moodle にて提出すること。 また、Moodle に配信されるビデオ教材を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。
6	脂質の輸送と代謝 甘いものを食べるとなぜ太	体内をめぐる脂質、脂質の輸送、脂肪酸からエネルギーを取り出す、脂肪酸の合	講義前に教科書 70 ページからの第 5 章を最期まで読んでおくこと。

		る？	成などについて。	事前課題；：予め決められた教科書の範囲を B5 用紙 5 枚にまとめてくること。予習時間 1 時間。 予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた 講義アンケートを記入すること。事後課題んもふりかえりシートと、講義内容に関する課題をその日のうちに作成し、写メを撮り Moodle にて提出すること。 また、Moodle に配信されるビデオ教材を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。	
	7	ビタミンとミネラルの働き サプリメントは体にいいの？	ビタミン発見の歴史、脂溶性ビタミンと水溶性ビタミン、体内でのビタミンの働き、ミネラルの働きなどについて。	講義前に教科書 84 ページからの第 6 章を最期まで読んでおくこと。事前課題；：予め決められた教科書の範囲を B5 用紙 5 枚にまとめてくること。予習時間 1 時間。 予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた 講義アンケートを記入すること。事後課題んもふりかえりシートと、講義内容に関する課題をその日のうちに作成し、写メを撮り Moodle にて提出すること。 また、Moodle に配信されるビデオ教材を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。	
	8	第Ⅱ部 生命体をつくる情報と構造 細胞の構造と機能 昆布のダシは海の中で出ないの？	細胞の発見、構造、細胞内小器官、原核細胞と真核細胞、細胞周期などについて。	講義前に教科書 98 ページからのはじめにと教科書 100 ページからの第 7 章を最期まで読んでおくこと。 事前課題；：予め決められた教科書の範囲を B5 用紙 5 枚にまとめてくること。予習時間 1 時間。 予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた 講義アンケートを記入すること。事後課題んもふりかえりシートと、講義内容に関する課題をその日のうちに作成し、写メを撮り Moodle にて提出すること。 また、Moodle に配信されるビデオ教材を視聴することにより、さらに深い理解	
	9	DNA の構造と働き DNA、遺伝子、染色体はどう違うの？	遺伝物質の正体、DNA の二重らせん構造、DNA の複製と維持、DNA の塩基配列からアミノ酸配列へなどについて。	講義前に教科書 112 ページからの第 8 章を最期まで読んでおくこと。 事前課題；：予め決められた教科書の範囲を B5 用紙 5 枚にまとめてくること。予習時間 1 時間。 予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた 講義アンケートを記入すること。事後課題んもふりかえりシートと、講義内容に関する課題をその日のうちに作成し、写メを撮り Moodle にて提出すること。 また、Moodle に配信されるビデオ教材を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。	
	10	DNA からタンパク質へ DNA は細胞の設計図ってどういう意味？	遺伝子のスイッチを制御する仕組み、RNA ポリメラーゼ、RNA の修飾、リボゾームによるタンパク質の合成などについて。	講義前に教科書 125 ページからの第 9 章を最期まで読んでおくこと。事前課題；：予め決められた教科書の範囲を B5 用紙 5 枚にまとめてくること。予習時間 1 時間。 予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた 講義アンケートを記入すること。事後課題んもふりかえりシートと、講義内容に関する課題をその日のうちに作成し、写メを撮り Moodle にて提出すること。 また、Moodle に配信されるビデオ教材を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。	
	11	タンパク質のはたらき プロテインを飲むと筋肉が増える？	タンパク質は生まれた後目的の場所まで運ばれる、タンパク質は化学反応を触媒する、細胞内外のシグナルや物質を輸送するタンパク質たちなどについて。	講義前に教科書 138 ページからの 事前課題；：予め決められた教科書の範囲を B5 用紙 5 枚にまとめてくること。予習時間 1 時間。 予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた 講義アンケートを記入すること。事後課題んもふりかえりシートと、講義内容に関する課題をその日のうちに作成し、写メを撮り Moodle にて提出すること。 また、Moodle に配信されるビデオ教材を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。 予習し	
	12	細胞内外の情報伝達 細胞はどうやってコミュニケーションしている？	細胞同士のコミュニケーション、細胞外の情報を細胞内に伝える仕組み、タンパク質のリン酸化が伝える細胞内のシグナル、細胞膜の電位変化によるシグナル伝達などについて。	講義前に教科書 150 ページからの第１１章を最期まで読んでおくこと。 事前課題；：予め決められた教科書の範囲を B5 用紙 5 枚にまとめてくること。予習時間 1 時間。 予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた 講義アンケートを記入すること。事後課題んもふりかえりシートと、講義内容に関する課題をその日のうちに作成し、写メを撮り Moodle にて提出すること。 また、Moodle に配信されるビデオ教材を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。	

	13	細胞分裂の仕組みと制御 私たちの体の細胞は分裂し続けているの？	体細胞分裂と減数分裂、染色体の数と形、体細胞分裂における染色体の構造変化と分配機構、配偶子形成における減数分裂などについて。	講義前に教科書 163 ページからの第１２章を最期まで読んでおくこと。 事前課題；：予め決められた教科書の範囲を B5 用紙 5 枚にまとめてくること。予習時間 1 時間。 予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた 講義アンケートを記入すること。事後課題んもふりかえりシートと、講義内容に関する課題をその日のうちに作成し、写メを撮り Moodle にて提出すること。 また､Moodle に配信されるビデオ教材を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。
	14	発生と分化 1つの細胞から体ができあがる仕組み	受精卵から体ができあがる過程、細胞の運命はいつ決まるのか、発生後期における分化と器官形成、遺伝子による細胞の運命決定などについて。	講義前に教科書176ページからのはじめにと教科書 178 ページからの第１3 章を最期まで読んでおくこと。 事前課題；：予め決められた教科書の範囲を B5 用紙 5 枚にまとめてくること。予習時間 1 時間。 予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた 講義アンケートを記入すること。事後課題んもふりかえりシートと、講義内容に関する課題をその日のうちに作成し、写メを撮り Moodle にて提出すること。 また､Moodle に配信されるビデオ教材を視聴することにより、さらに深い
	15	細胞のストレス応答機構 細胞もストレスを感じる？	細胞にとってストレスとは、DNA の損傷はがんを引き起こす、活性酸素による損傷、DNA のキズを修復する仕組みなどについて。	講義前に教科書 191 ページからの第 14 章を最期まで読んでおくこと。 事前課題；：予め決められた教科書の範囲を B5 用紙 5 枚にまとめてくること。予習時間 1 時間。 予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた 講義アンケートを記入すること。事後課題んもふりかえりシートと、講義内容に関する課題をその日のうちに作成し、写メを撮り Moodle にて提出すること。 また､Moodle に配信されるビデオ教材を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学で学ぶ身近な生物学	吉村成弘	羊土社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	やさしい基礎生物学	南雲　保	羊土社
2			
3			

評価方法
（基準）

毎回の小テスト（30%）および、レポート、小論文、などの課題と講義態度（30%）、定期試験（40%）の総合点で評価する。
毎回の提出物も形成的評価として採用します。
Moodle を多用します。スマホもしくはタブレット必須の講義です。スマホを充電してから講義に臨んで下さい。

学生への
メッセージ

講義前の予習・講義課題と講義後の復習は不可欠です。講義課題をしてこないと、授業が成り立たないようになっています。
必ず教科書を読んで、講義課題をしてから、講義に参加してください。
本講義では、生物がどのようなしくみで動いているのか、最新のトピックスなども織り交ぜ、その謎を分子レベルで共同学習します。
予習・復習を忘れずに、興味を持ってしっかりと理解するように努めて下さい。

担当者の
研究室等

枚方学舎・薬学部１号館５階生化学研究室　otsuka@pharm.setsunan.ac.jp

備考

不明な点は質問してください。Teams で受け付けます。
提出された課題に対しては、Moodle でフィードバックします。

科目名	自然地理学	科目名（英文）	Physical Geography
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	谷口　晴彦
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JNA1322a1		

授業概要・目的	地理学の１分野である自然地理学は、地形・気候・水・生物などの自然環境と人々の生活・人間社会がどのようなかかわりをもっているのか、その自然環境はどのように存在しているのかについて考える学問です。この授業では、自然地理学の基本的な考え方について、多様なテーマを取り上げて学習していきます。
到達目標	この授業を通じて学生には、自然環境と人間社会のかかわりについて考察することを通して、自然地理学の考え方・モノの見方を理解できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	プリントを配布し、スライド(PPT)を用いて説明する講義です。授業にはネットにつながるスマホなどの端末を持参してください。受講する皆さんには毎回、授業内容についての確認問題の回答と、質問や感想を書いてもらい、次回授業に回答や補足説明します。提出された期末レポートには個別にコメントを返す機会を設けます。
科目学習の効果（資格）	日常生活で見られる地形や自分の体験・ニュースで知る様々な気候・自然災害について、自然環境と私たち人間の関係から考えることができるようになります。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業ガイダンス・自然地理学とは何か	この授業のガイダンスとして、授業の概要や学問分野としての自然地理学について説明します。	配布資料・メモを読んで授業内容を復習する（2時間）。
2	地球の大地形と地質時代	地球のプレートや火山などの大地形、地質時代について学びます。	事前にこの回の授業内容について、用語（ネット検索/辞書）・ニュースを確認し、身近な例を考えておく（2時間）。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する（2時間）。
3	地震・津波と自然災害	地震と津波の仕組みや、自然災害とは何か、自然災害と人の関係について考えます。	事前にこの回の授業内容について、用語（ネット検索/辞書）・ニュースを確認し、身近な例を考えておく（2時間）。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する（2時間）。
4	地表の変化(1) 中地形・小地形	岩石の変化から始まる地表の変化、身近な地域の地形について学びます。	事前にこの回の授業内容について、用語（ネット検索/辞書）・ニュースを確認し、身近な例を考えておく（2時間）。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する（2時間）。
5	地表の変化(2) 段丘・丘陵	段丘や丘陵の形成と人々の利用について考えます。	事前にこの回の授業内容について、用語（ネット検索/辞書）・ニュースを確認し、身近な例を考えておく（2時間）。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する（2時間）。
6	地表の変化(3) 平野・海岸	平野と海岸の種類・形成・変化と人々のかかわりについて学びます。	事前にこの回の授業内容について、用語（ネット検索/辞書）・ニュースを確認し、身近な例を考えておく（2時間）。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する（2時間）。
7	地図と地理情報(1)	様々な地図の種類と特徴、地図の定義を学び、自然環境と関係が深い地図を見ます。	事前にこの回の授業内容について、用語（ネット検索/辞書）・ニュースを確認し、身近な例を考えておく（2時間）。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する（2時間）。
8	地図と地理情報(2)	地形図の特徴と凡例を学び、実際に新旧の地形図を読んで自然環境を読み取ります。	事前にこの回の授業内容について、用語（ネット検索/辞書）・ニュースを確認し、身近な例を考えておく（2時間）。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する（2時間）。
9	地球の水・水循環	地球の水の存在と水循環、水の分布、水資源について学びます。	事前にこの回の授業内容について、用語（ネット検索/辞書）・ニュースを確認し、身近な例を考えておく（2時間）。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する（2時間）。
10	水利用と治水・水害と水不足	人はどのように水を利用・統制してきたか、水害や水不足について学びます。	事前にこの回の授業内容について、用語（ネット検索/辞書）・ニュースを確認し、身近な例を考えておく（2時間）。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する（2時間）。
11	身近な水利と水不足	身近な地域で見られる水利と水不足を考えます。	事前にこの回の授業内容について、用語（ネット検索/辞書）・ニュースを確認し、身近な例を考えておく（2時間）。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する（2時間）。
12	大気循環と世界の気候	地球規模の大気の循環や世界の気候について学びます。	事前にこの回の授業内容について、用語（ネット検索/辞書）・ニュースを確認し、身近な例を考えておく（2時間）。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する（2時間）。
13	気候と文化・植生・生物群系	世界の気候と人間の生活文化の関係、世界の植生や生物群系（バイオーム）について学びます。	事前にこの回の授業内容について、用語（ネット検索/辞書）・ニュースを確認し、身近な例を考えておく（2時間）。

				配布資料・メモを読んで授業内容を復習する（2 時間）。
	14	地域の気候・日本の気候	都市や地域で見られる様々な気候、日本の気候について学びます。	事前にこの回の授業内容について、用語（ネット検索/辞書）・ニュースを確認し、身近な例を考えておく（2 時間）。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する（2 時間）。
	15	気候変動と地球温暖化・授業の総括	地球の歴史の中で気候がどのように変わってきたのか、そして地球温暖化について学びます。最後に授業内容の総括を行います。	配布資料・メモを読んで授業全体の内容を復習し、レポートを作成する（6 時間）。

関連科目	人文地理学・環境関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	みわたす・つなげる 自然地理学	小野映介・吉田圭一郎編	古今書院
2	地理学基礎シリーズ 2 自然地理学概論	高橋日出男・小泉武栄編著	朝倉書店
3	地形でとらえる環境と暮らし	西城潔・藤本潔・黒木貴一・小岩直人・楮原京子	古今書院

評価方法 （基準）	毎回の小テスト・アンケート回答：60%、期末レポート：40%
学生への メッセージ	高校で「地理」を履修していなくとも理解できる内容で構成します。 自然地理学的な考え方・ものの見方を学修していき、身近にある様々な自然環境について自らで考えようとする姿勢を心がけていきましょう。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の確認テストの正解と説明は回答直後に確認可能とし、寄せられた質問への回答は次回授業に行います。提出された期末レポートにはフィードバックとして個別にコメントを返す機会を設けます。授業に関する質問や相談は、メールで対応します。メールアドレスは授業時にお知らせします。

科目名	自然地理学	科目名（英文）	Physical Geography
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	谷口　晴彦
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JNA1322a1		

授業概要・目的	地理学の１分野である自然地理学は、地形・気候・水・生物などの自然環境と人々の生活・人間社会がどのようなかかわりをもっているのか、その自然環境はどのように存在しているのかについて考える学問です。この授業では、自然地理学の基本的な考え方について、多様なテーマを取り上げて学習していきます。
到達目標	この授業を通じて学生には、自然環境と人間社会のかかわりについて考察することを通して、自然地理学の考え方・モノの見方を理解できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	プリントを配布し、スライド(PPT)を用いて説明する講義です。授業にはネットにつながるスマホなどの端末を持参してください。受講する皆さんには毎回、授業内容についての確認問題の回答と、質問や感想を書いてもらい、次回授業に回答や補足説明します。提出された期末レポートには個別にコメントを返す機会を設けます。
科目学習の効果（資格）	日常生活で見られる地形や自分の体験・ニュースで知る様々な気候・自然災害について、自然環境と私たち人間の関係から考えることができるようになります。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業ガイダンス・自然地理学とは何か	この授業のガイダンスとして、授業の概要や学問分野としての自然地理学について説明します。	配布資料・メモを読んで授業内容を復習する（2時間）。
2	地球の大地形と地質時代	地球のプレートや火山などの大地形、地質時代について学びます。	事前にこの回の授業内容について、用語（ネット検索/辞書）・ニュースを確認し、身近な例を考えておく（2時間）。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する（2時間）。
3	地震・津波と自然災害	地震と津波の仕組みや、自然災害とは何か、自然災害と人の関係について考えます。	事前にこの回の授業内容について、用語（ネット検索/辞書）・ニュースを確認し、身近な例を考えておく（2時間）。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する（2時間）。
4	地表の変化(1) 中地形・小地形	岩石の変化から始まる地表の変化、身近な地域の地形について学びます。	事前にこの回の授業内容について、用語（ネット検索/辞書）・ニュースを確認し、身近な例を考えておく（2時間）。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する（2時間）。
5	地表の変化(2) 段丘・丘陵	段丘や丘陵の形成と人々の利用について考えます。	事前にこの回の授業内容について、用語（ネット検索/辞書）・ニュースを確認し、身近な例を考えておく（2時間）。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する（2時間）。
6	地表の変化(3) 平野・海岸	平野と海岸の種類・形成・変化と人々のかかわりについて学びます。	事前にこの回の授業内容について、用語（ネット検索/辞書）・ニュースを確認し、身近な例を考えておく（2時間）。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する（2時間）。
7	地図と地理情報(1)	様々な地図の種類と特徴、地図の定義を学び、自然環境と関係が深い地図を見ます。	事前にこの回の授業内容について、用語（ネット検索/辞書）・ニュースを確認し、身近な例を考えておく（2時間）。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する（2時間）。
8	地図と地理情報(2)	地形図の特徴と凡例を学び、実際に新旧の地形図を読んで自然環境を読み取ります。	事前にこの回の授業内容について、用語（ネット検索/辞書）・ニュースを確認し、身近な例を考えておく（2時間）。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する（2時間）。
9	地球の水・水循環	地球の水の存在と水循環、水の分布、水資源について学びます。	事前にこの回の授業内容について、用語（ネット検索/辞書）・ニュースを確認し、身近な例を考えておく（2時間）。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する（2時間）。
10	水利用と治水・水害と水不足	人はどのように水を利用・統制してきたか、水害や水不足について学びます。	事前にこの回の授業内容について、用語（ネット検索/辞書）・ニュースを確認し、身近な例を考えておく（2時間）。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する（2時間）。
11	身近な水利と水不足	身近な地域で見られる水利と水不足を考えます。	事前にこの回の授業内容について、用語（ネット検索/辞書）・ニュースを確認し、身近な例を考えておく（2時間）。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する（2時間）。
12	大気循環と世界の気候	地球規模の大気の循環や世界の気候について学びます。	事前にこの回の授業内容について、用語（ネット検索/辞書）・ニュースを確認し、身近な例を考えておく（2時間）。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する（2時間）。
13	気候と文化・植生・生物群系	世界の気候と人間の生活文化の関係、世界の植生や生物群系（バイオーム）について学びます。	事前にこの回の授業内容について、用語（ネット検索/辞書）・ニュースを確認し、身近な例を考えておく（2時間）。

				配布資料・メモを読んで授業内容を復習する（2 時間）。
	14	地域の気候・日本の気候	都市や地域で見られる様々な気候、日本の気候について学びます。	事前にこの回の授業内容について、用語（ネット検索/辞書）・ニュースを確認し、身近な例を考えておく（2 時間）。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する（2 時間）。
	15	気候変動と地球温暖化・授業の総括	地球の歴史の中で気候がどのように変わってきたのか、そして地球温暖化について学びます。最後に授業内容の総括を行います。	配布資料・メモを読んで授業全体の内容を復習し、レポートを作成する（6 時間）。

関連科目	人文地理学・環境関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	みわたす・つなげる 自然地理学	小野映介・吉田圭一郎編	古今書院
2	地理学基礎シリーズ 2 自然地理学概論	高橋日出男・小泉武栄編著	朝倉書店
3	地形でとらえる環境と暮らし	西城潔・藤本潔・黒木貴一・小岩直人・楮原京子	古今書院

評価方法 （基準）	毎回の小テスト・アンケート回答：60%、期末レポート：40%
学生への メッセージ	高校で「地理」を履修していなくとも理解できる内容で構成します。 自然地理学的な考え方・ものの見方を学修していき、身近にある様々な自然環境について自らで考えようとする姿勢を心がけていきましょう。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の確認テストの正解と説明は回答直後に確認可能とし、寄せられた質問への回答は次回授業に行います。提出された期末レポートにはフィードバックとして個別にコメントを返す機会を設けます。授業に関する質問や相談は、メールで対応します。メールアドレスは授業時にお知らせします。

科目名	スポーツプログラミング	科目名（英文）	Sports Programming
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岩瀬　雅紀
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH3362a1		

授業概要・目的	スポーツを実践するにあたり年齢や健康状態など様々な条件を有する対象者に対して安全かつ効果的な運動プログラムを提供することが必要とされる。本講義では，運動やスポーツとトレーニング効果を理解し，対象者に合わせた運動処方の理論と実際について学習する。
到達目標	この授業を通じて学生には対象者に合わせたスポーツ実践のためのプログラムの作成及び実践指導を習得できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	PPT や作成プリントを用いた講義及び対象者に合わせたプログラムを作成する。
科目学習の効果（資格）	公認スポーツ指導者資格取得対応科目

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	本講義を受講する上での諸注意と講義展開 本講義の意図，目的，価値 自己認識	シラバスの参照
2	健康を目的としたフィットネスプログラム①	運動処方（種類）	講義ノートを見直す（1 時間）
3	健康を目的としたフィットネスプログラム②	運動処方（強度）	講義ノートを見直す（1 時間）
4	健康を目的としたフィットネスプログラム③	運動処方（時間・頻度）	講義ノートを見直す（1 時間）
5	運動を目的としたフィットネスプログラム①	運動処方（種類）	講義ノートを見直す（1 時間）
6	運動を目的としたフィットネスプログラム②	運動処方（強度）	講義ノートを見直す（1 時間）
7	運動を目的としたフィットネスプログラム③	運動処方（時間・頻度）	講義ノートを見直す（1 時間）
8	レポート課題 1	講義内容からレポート課題を 2 題出題（内容は当日発表）	講義ノートを見直す（1 時間）
9	中高齢者のフィットネスプログラム①	レポートの返却及び解説 運動処方（種類）	講義ノートを見直す（1 時間）
10	中高齢者のフィットネスプログラム②	運動処方（強度・時間・頻度）	講義ノートの確認（1 時間）
11	障がい者のフィットネスプログラム	運動処方（種類・強度・時間・頻度）	講義ノートを見直す（1 時間）
12	競技者のフィットネスプログラム①	運動処方（種類強度・時間・頻度）	講義ノートを見直す（1 時間）
13	競技者のフィットネスプログラム②	トレーニングの原理・原則	講義ノートを見直す（1 時間）
14	レポート課題 2	講義内容からレポート課題を 2 題出題（内容は当日発表）	講義ノートを見直す（1 時間）
15	まとめ	レポートの返却及び解説と本講義のまとめ 自己評価	講義ノートを見直す（1 時間）

関連科目	発育発達論 ヘルスエクササイズの理論と実践

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	担当者作成のプリント		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公認スポーツプログラマー専門科目テキスト	日本体育施設協会	
2	担当者作成のプリント		
3			

評価方法（基準）	受講態度及び意欲（常識・節度ある姿勢）(20%) 講義内提出課題（必要に応じて実施する）(20%) レポート課題（2 度実施する）(60%)
学生へのメッセージ	出席状況（毎回出席）を確認し原則として出席は 2/3 以上必要とする。 受講学生各位の積極的な学びを期待する。
担当者の研究室等	総合体育館 1 階　非常勤講師室
備考	講義内では担当者作成のプリントを適宜配布する。 事前・事後の学習時間として、全 15 回で 15 時間を目安としている。 講義内提出課題及びレポート課題に関しては講義内で返却し解説をする。

科目名	スポーツ栄養学	科目名（英文）	Sports Nutrition
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	古野　幸子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH2358a1		

授業概要・目的	スポーツ栄養学とはスポーツや運動によって身体活動量が多い人に対して必要な栄養学的理論・知識・スキルを体系化したものである。スポーツ栄養を活用する対象者は、アスリートに限らず、健康増進を目的としたスポーツ愛好者や、スポーツや運動をすることによって活動量が多い人全般に広がる。正しい知識を科学的根拠に基づき理解し、自らの食事を評価し実践しながら、食生活を自己管理するための能力と実践力を身につけることを目的とする。 担当教員は管理栄養士・健康運動指導士の資格を有し実際の栄養指導業務に従事、高校・大学の運動部向けにアスリート食を開発、食環境づくりに携わってきた経験を活かし、実践的な栄養教育を行う。
到達目標	スポーツ栄養学を正しく理解し、コンディショニングと競技力向上を目指した食事の実践方法を習得することができる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を進める。教科書は用いず適宜資料を配布する。 課題、小テストを課す。解答は授業内で行う。
科目学習の効果（資格）	公認スポーツ指導者資格取得対応科目

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	ガイダンス スポーツ栄養の意義と栄養摂取の基本的な考え方について説明する	事後：授業内容を振り返り、課題に取り組むこと
2	基本の食事	スポーツにおける栄養の役割とバランスの良い食事構成について学ぶ	事前：授業の下調べをしておくこと 事後：授業内容を振り返り、課題に取り組むこと
3	エネルギー	活動時のエネルギー必要量について学ぶ	事前：授業の下調べをしておくこと 事後：授業内容を振り返り、課題に取り組むこと
4	五大栄養素（1）：糖質	糖質の役割と摂取量について学ぶ	事前：授業の下調べをしておくこと 事後：授業内容を振り返り、課題に取り組むこと
5	五大栄養素（2）：脂質	脂質の役割と摂取量について学ぶ	事前：授業の下調べをしておくこと 事後：授業内容を振り返り、課題に取り組むこと
6	五大栄養素（3）：たんぱく質	たんぱく質の役割と摂取量について学ぶ	事前：授業の下調べをしておくこと 事後：授業内容を振り返り、課題に取り組むこと
7	五大栄養素（4）：ミネラル	ミネラルの役割と摂取量について学ぶ	事前：授業の下調べをしておくこと 事後：授業内容を振り返り、課題に取り組むこと
8	五大栄養素（5）：ビタミン	ビタミンの役割と摂取量について学ぶ	事前：授業の下調べをしておくこと 事後：授業内容を振り返り、課題に取り組むこと
9	水分補給	水分補給の重要性と補給方法について学ぶ	事前：授業の下調べをしておくこと 事後：授業内容を振り返り、課題に取り組むこと
10	サプリメント	サプリメントについて学び摂取と注意点を理解する	事前：授業の下調べをしておくこと 事後：授業内容を振り返り、課題に取り組むこと
11	ウエイトコントロール	ウエイトコントロールと食事について学ぶ	事前：授業の下調べをしておくこと 事後：授業内容を振り返り、課題に取り組むこと
12	トレーニング期の栄養管理	トレーニング期の食生活について学ぶ	事前：授業の下調べをしておくこと（1時間） 事後：授業内容を振り返り（1時間）、課題に取り組むこと（2時間）
13	試合期の栄養管理	試合期・遠征時の食生活について学ぶ	事前：授業の下調べをしておくこと 事後：授業内容を振り返り、課題に取り組むこと
14	スポーツ時の栄養障害	障害別の予防と改善について学ぶ	事前：授業の下調べをしておくこと 事後：授業内容を振り返り、課題に取り組むこと
15	まとめ	全体のまとめを行う	事前：これまでの内容を振り返る 事後：学んだことを実践に移す

関連科目	スポーツ医学の理論と実際、スポーツ医学の基礎、スポーツ科学概論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	リファレンスブック		日本スポーツ協会
2	新版　コンディショニングのスポーツ栄養学	樋口　満	市村出版
3	理論と実践　スポーツ栄養学	鈴木　志保子	日本文芸社

評価方法（基準）	毎回の提出物 70%、小テスト 30%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	枚方 8 号館 1 階　農学部食品栄養学科助手室
備考	

科目名	応用情報処理	科目名（英文）	Advanced Information Processing
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	寺内　睦博
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JMA2341a1		

授業概要・目的	1年次に習ったスプレッドシートを中心に、データ処理や統計処理などの実用的な応用課題に取り組み、データ分析のレベルアップを図る。
到達目標	この演習を通じて学生には、1年次の情報処理の演習で培った技能や知識に加えて、ビジネス実務におけるデータ分析および統計処理の応用的活用手法を習得することが期待される。
授業方法と留意点	大学のパソコンを利用して課題を作成します。なお進捗度合いに応じて，講義内容は適宜変更する場合があります。
科目学習の効果（資格）	Microsoft Office Expert（Excel）の基礎を学ぶことにより当該資格の取得をめざしましょう。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション: データ分析と統計処理 Excel によるデータ処理(0)	授業の進め方、評価方法、ミニ講義、基礎演習	予習：Excel 関数の確認（30 分） 復習：課題の完成・提出（60 分）
2	Excel によるデータ処理(1)	データの集計処理とピボットテーブル	予習：ピボットテーブルの確認（30 分） 復習：課題の完成・提出（60 分）
3	Excel によるデータ処理(2)	ピボットテーブルの利用 1 データの絞り込み 2 ダイス分析 3 スライス分析 4 グループ化分析 5 ドリルダウン・ドリルアップ	予習：ピボットテーブルを利用した分析手法の確認（30 分） 復習：課題の完成・提出（60 分）
4	Excel によるデータ処理(3)	階層化による分析 構成比と ABC 分析 関数を使ったデータ処理	予習：ABC 分析の確認（30 分） 復習：課題の完成・提出（60 分）
5	Excel によるデータ処理(4)	線形計画法の基本	予習：線形計画法の確認（30 分） 復習：課題の完成・提出（60 分）
6	Excel によるデータ処理(5)	線形計画法の応用	予習：線形計画法の応用方法の確認（30 分） 復習：課題の完成・提出（60 分）
7	Excel による統計処理(1)	度数分布とヒストグラム	予習：ヒストグラムの確認（30 分） 復習：課題の完成・提出（60 分）
8	Excel による統計処理(2)	記述統計と Excel 関数	予習：記述統計 1 関数の確認（30 分） 復習：課題の完成・提出（60 分）
9	Excel による統計処理(3)	2 変数の関係：散布図・相関係数	予習：相関の確認（30 分） 復習：課題の完成・提出（60 分）
10	Excel による統計処理(4)	回帰分析	予習：回帰分析の確認（30 分） 復習：課題の完成・提出（60 分）
11	Excel による統計処理(5)	ヒストグラムと確率分布 正規分布と累積確率	予習：正規分布の確認（30 分） 復習：課題の完成・提出（60 分）
12	Excel による統計処理(6)	検定(1)： 平均値・分散の差の検定（t 検定）	予習：t 検定の確認（30 分） 復習：課題の完成・提出（60 分）
13	Excel による統計処理(7)	検定(2)： 独立性・適合度の検定（カイ二乗検定）	予習：カイ 2 乗検定の確認（30 分） 復習：課題の完成・提出（60 分）
14	Excel による統計処理(8)	分散分析： 3 つ以上の分布の比較	予習：分散分析の確認（30 分） 復習：課題の完成・提出（60 分）
15	振り返りとまとめ	各自の到達レベルを確認するとともに授業の総括を行う	予習：各種の分析方法の確認（30 分） 復習：課題の完成・提出（60 分）

関連科目	情報リテラシーI，情報リテラシーII

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	できる やさしく学ぶ Excel 統計入門	羽山博	インプレス
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回の課題（60%）、振り返りテスト（40%）を総合して評価する。この授業は演習中心であるため、課題提出が単位取得の必要条件である。
学生へのメッセージ	毎回の授業が前回までの授業内容の理解を前提として進められるので，毎回、課題を完了・提出が必要となることに留意すること。
担当者の研究室等	寺内准教授室（１１号館１０階）
備考	前回の演習のポイントを次回の演習の冒頭に要約する。予習と復習を合わせて全期間で 60 時間の自習を必要とする。

科目名	スポーツ指導者入門	科目名（英文）	Sports Theory for Instructor
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	横山　喬之
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH1354a1		

授業概要・目的	スポーツ指導者とは、アスリートにとって多大な影響を与える存在である。指導者としての役割は、競技のコーチングだけにとどまらず、教育、人間形成など多岐にわたる能力を必要とする。また、昨今のスポーツ界で問題となっている体罰は、絶対に根絶するべき課題である。本科目では、スポーツ指導者として必要なスキルを身につけていくことと合わせて、指導者の倫理観とは何かを議論し、将来スポーツに関わるであろう履修学生が、良きスポーツ指導者になるための基礎を学習・理解できることを目標とする。 本科目担当者は、保健体育（高校）、柔道実技（大学）、柔道指導（国内外）の実務経験を有する。高校における実技・保健授業や課外活動などのスポーツ現場での指導経験を生かし、スポーツ指導者として必要な知識や指導法を提供する。
到達目標	この授業を通じて学生には、 ①：スポーツ指導者としての基礎を学び、指導者としての心得を理解すること ②：講義内での議論を通じ指導者目線の知識を深めること ③：コミュニケーション能力を高めること 上記のようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業は「対面方式」で行う。
科目学習の効果（資格）	スポーツ指導者の基礎的知識と指導法を学ぶ（公認スポーツ指導者資格取得対応科目）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	ガイダンス	事前：授業概要・目的を確認する（30 分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30 分）
2	スポーツとは コーチングとは	スポーツとは何かを学ぶ コーチングとは何かを学ぶ コーチングとティーチングの違いについて理解する	事前：スポーツ、コーチングについて予習しておく（30 分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30 分）
3	コーチに求められる役割(1)	スポーツ指導者について学ぶ スポーツ指導者としての心構えについて学ぶ	事前：スポーツ指導者とはどのようなものかを予習しておく（30 分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30 分）
4	コーチに求められる役割(2)	スポーツ指導者の果たすべき役割について学ぶ スポーツ現場の安全管理について学ぶ	事前：スポーツ指導者として行う内容とは何かを予習しておく（30 分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30 分）
5	コーチに求められる知識とスキル（1）	生理・体力学的基礎知識を学ぶ	事前：運動と筋肉の発達、体力について予習しておく（30 分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30 分）
6	コーチに求められる知識とスキル（2）	心理学的基礎知識を学ぶ	事前：パフォーマンスとメンタルの関係について予習しておく（30 分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30 分）
7	対他者力を磨こう	コミュニケーションスキルとは何かを学ぶ 議論を行いコミュニケーションスキルを高める	事前：コミュニケーションスキルについて予習しておく（30 分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30 分）
8	対自己力を磨こう	自分自身について理解する 自信とは何かを学ぶ	事前：自分自身はどのような人間かまとめておく（30 分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30 分）
9	スポーツ倫理について（1）	倫理観について学ぶ スポーツ倫理について学ぶ	事前：倫理とは何か予習しておく（30 分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30 分）
10	スポーツ倫理について（2）	体罰、暴力、ハラスメントとは何かについて学ぶ 実際の体罰などの社会問題について議論する	事前：過去の体罰問題について予習しておく（30 分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30 分）
11	スポーツ倫理について（3）	スポーツに内在するインテグリティについて学ぶ	事前：スポーツから得られるものとは何か予習しておく（30 分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30 分）
12	時代をリードするコーチング（1）	女性コーチについて学ぶ	事前：著名な女性コーチの種目と使命について予習しておく（30 分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30 分）
13	時代をリードするコーチング（2）	活躍しているコーチについて学ぶ	事前：日本で活躍しているコーチについて予習しておく（30 分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30 分）
14	ハイパフォーマンススポーツにおける今日的なコーチング	日本におけるハイパフォーマンススポーツについて学ぶ	事前：NTC という施設について予習しておく（30 分） 事後：内容についての振り返りをしておく（30 分）
15	スポーツ指導者入門総括	全体のまとめを行う	事前：これまでの内容を振り返る（30 分） 事後：総括を行う（30 分）

関連科目	スポーツ科学実習Ⅰa、Ⅰb・Ⅱa、Ⅱb、スポーツと健康、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、武道論、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	リファレンスブック		日本スポーツ協会
2			
3			

参考書

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 2 3
評価方法 （基準）	本科目は課題を与え、以下の割合として評価をする。 ①：スポーツ指導者の基礎・オリンピズムに関する知識：１５％ ②：ドーピング・違法薬物に関する知識：１０％ ③：生理学・体力学・栄養学に関する知識：３５％ ④：トレーニングの原理原則に関する知識：２０％ ⑤：応急処置の知識：２０％ 合計１００％として評価する。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	総合体育館１階
備考	

科目名	スポーツトレーニングの基礎	科目名（英文）	Sports Training Theory
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	伊賀野　大
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH1355a1		

授業概要・目的	スポーツトレーニングの原理・原則に基づいた指導法及び、トレーニングメニューの作成ついて学ぶ。 また、コーチングにおける心理的作用を理解し、スポーツトレーニング指導を実践する上での基礎を習得する。
到達目標	この授業を通じて学生には、スポーツ指導に役立つトレーニングの基礎的知識についての身体的、心理的理解を深めることが期待される。
授業方法と留意点	講義を中心に授業を行い、レジュメ、参考資料等は適宜配布します。 適宜授業中に簡単な小テストを行います。
科目学習の効果（資格）	公認スポーツ指導者資格取得対応科目

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	体力とは①	運動と健康、防衛体力と行動体力	授業で学んだことをもとに、精神と体力について考えをまとめておく
2	体力とは②	トレーナビリティー	スポーツパフォーマンスについて確認を行う
3	トレーニングの原理･原則①	スポーツトレーニングの３原理・５原則、特異性	課題①　スポーツと特異性 授業で学んだことをもとに、課題作成を行う
4	トレーニングの原理･原則②	筋機能と呼吸循環機能 小テスト①	トレーニングと身体機能の関係について確認をしておく
5	トレーニング処方	トレーニング計画 ウォーミングアップ、クーリングダウンの必要性	課題②　年間トレーニング計画 授業で学んだことをもとに、課題作成を行う
6	トレーニングの種類①	スポーツトレーニングの５つの内容	課題③　競技特性とトレーニング 授業で学んだことをもとに、課題作成を行う
7	トレーニングの種類②	体力トレーニングと技術トレーニング テスト①	テスト①
8	スポーツと心①	メンタルヘルス	こころとからだの関係について確認を行う
9	スポーツと心②	スポーツと心 小テスト②	コーチングとこころの関係について確認を行う
10	スポーツにおける動機づけ①	スポーツにおける動機づけとは	課題④　動機づけと運動意欲 授業で学んだことをもとに、課題作成を行う
11	スポーツにおける動機づけ②	スポーツにおける目標設定	目標達成シートの作成手順の確認を行う
12	コーチングの心理①	スポーツ技能の習得	課題⑤　技能の習得に必要な要因 授業で学んだことをもとに、課題作成を行う
13	コーチングの心理②	メンタルトレーニング	メンタルトレーニングの方法について確認を行う
14	コーチングの心理③	グループダイナミクスとチームビルディング 小テスト③	リーダシップとは何かを自身の言葉で説明できるようにする
15	コーチングの心理④	コーチング評価 テスト②	テスト②

関連科目	スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	リファレンスブック		公益財団法人日本スポーツ協会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	単位取得条件は、知的理解度、提出課題などを総合的に判断し、１００点中６０点で合格とする。 課題・提出物　５０%、テスト　３０%、小テスト２０%により評価を行う。
学生へのメッセージ	身体を動かすだけではなく、科学的に運動を考えていきましょう。さまざまな運動や競技についての理解を深め、広い視野で運動を楽しめるように学んでいきましょう。
担当者の研究室等	総合体育館１階　非常勤講師室
備考	事前・事後学習に必要な時間については、６０時間を目安とします。

科目名	発育発達論	科目名（英文）	Growth and Development Theory
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岩瀬　雅紀
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH2356a1		

授業概要・目的	身体の発育と機能の発達を理解し年齢や性別など対象に合わせた指導を行うことは大切である。具体的には発育発達期の身体的・心理的特徴を理解し，それぞれのライフステージに応じた発育発達に及ぼす運動の影響や心理的特性について学習する。
到達目標	この授業を通じて学生には発育発達期のスポーツ指導に役立つ基礎的知識の習得が期待される。
授業方法と留意点	PPT や作成プリントを用いた講義及び発育発達期に合わせた運動処方を理解する。
科目学習の効果（資格）	公認スポーツ指導者資格取得対応科目

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	本講義を受講する上での諸注意と講義展開 本講義の意図，目的，価値 自己認識	シラバスの参照
2	発育発達期における身体的特徴	筋力・持久力の発達 疾走能力・跳躍能力・投能力の発達、性別の考慮	講義ノートを見直す（1 時間）
3	発育発達期における心理的特徴	知的発達 認知発達	講義ノートを見直す（1 時間）
4	発育発達期における怪我	スポーツ外傷 スポーツ障害	講義ノートを見直す（1 時間）
5	発育発達期における病気	ストレス 気分転換 ブレッシャー	講義ノートを見直す（1 時間）
6	発育発達期のプログラム①	運動処方（種類） 有酸素運動・無酸素運動	講義ノートを見直す（1 時間）
7	発育発達期のプログラム②	運動処方（強度・時間・頻度）	講義ノートを見直す（1 時間）
8	レポート課題 1	講義内容からレポート課題を 2 題出題（内容は当日発表）	講義ノートを見直す（1 時間）
9	障がい者とスポーツ	レポートの返却及び解説 障がい者の身体的及び心理的特徴	講義ノートを見直す（1 時間）
10	高齢者とスポーツ	高齢者の身体的及び心理的特徴	講義ノートを見直す（1 時間）
11	競技者とスポーツ	競技者の身体的及び心理的特徴	講義ノートを見直す（1 時間）
12	発育発達期のプログラム③	中高年者の運動処方（種類・強度・時間・頻度）	講義ノートを見直す（1 時間）
13	発育発達期のプログラム④	競技者の運動処方（種類・強度・時間・頻度）	講義ノートを見直す（1 時間）
14	レポート課題 2	講義内容からレポート課題を 2 題出題（内容は当日発表）	講義ノートを見直す（1 時間）
15	まとめ	レポートの返却及び解説と本講義のまとめ 自己評価	講義ノートを見直す（1 時間）

関連科目	スポーツ科学概論、スポーツ指導者入門、スポーツプログラミング、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツトレーニングの基礎、スポーツ医学の基礎、スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	リファレンスブック		日本スポーツ協会
2	担当者作成のプリント		
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	担当者作成のプリント		
2			
3			

評価方法（基準）	受講態度及び意欲（常識・節度ある姿勢）(20%) 講義内提出課題（必要に応じて実施する）(20%) レポート課題（2 度実施する）(60%)
学生へのメッセージ	出席状況（毎回出席）を確認）し原則として出席は 2/3 以上必要とする。 受講学生各位の積極的な学びを期待する。
担当者の研究室等	総合体育館 1 階　非常勤講師室
備考	講義内では担当者作成のプリントを適宜配布する。 事前・事後の学習時間として、全 15 回で 15 時間を目安としている。

科目名	スポーツ医学の基礎	科目名（英文）	Fundamental Knowledge of Sports Medicine
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鈴木　雄太
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH2359a1		

授業概要・目的	スポーツ・運動と健康の関わり、および、スポーツ・運動による身体の変化と疾病への影響について、さらに、スポーツ外傷・障害の概要とその対応について述べ、予防医学としてのスポーツ医学の意義についても言及する。
到達目標	スポーツ・運動と健康の関わり、および、スポーツ・運動による身体の変化と疾病への影響について説明できること、さらに、スポーツ外傷・障害の概要とその対応について説明できることを目標とする。また、自身とその周りの人々について、運動を通した健康づくりが実践できるようにする。
授業方法と留意点	講義形式で授業を進める。なお、資料配布やＶＴＲなどを用い、教育効果を上げる。
科目学習の効果（資格）	スポーツ医学の基礎的知識とスポーツ傷害（内科的・外科的）についての理解と対処法について学ぶ。（公認スポーツ指導者資格取得対応科目）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	スポーツと健康（1）	スポーツ活動と健康の関わり	テキストP.54-63 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと（約1.5時間）
2	スポーツと健康（2）	身体活動（スポーツ活動や運動）の必要性	テキストP.64-75 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと（約1.5時間）
3	スポーツ傷害（1）	スポーツ外傷・障害	テキストP.76-82 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと（約1.5時間）
4	スポーツ傷害（2）	スポーツ外傷・障害の要因	テキストP.83-87 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと（約1.5時間）
5	救急処置（1）	手当ての基本（観察）	テキストP.88-88 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと（約1.5時間）
6	救急処置（2）	救命手当て（心肺蘇生法）	テキストP.89-95 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと（約1.5時間）
7	救急処置（3）	ＡＥＤを用いた心肺蘇生法	テキストP.96-97 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと（約1.5時間）
8	救急処置（4）	応急手当（きずと止血、包帯法、骨折固定）	テキストP.102 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと（約1.5時間）
9	救急処置（5）	ＲＩＣＥ処置	テキストP.98-101 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと（約1.5時間）
10	スポーツと水分補給	水分補給と熱中症	テキストP.111-112 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと（約1.5時間）
11	スポーツと水分補給	水分補給と熱中症	テキストP.112 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと（約1.5時間）
12	スポーツと栄養（1）	五大栄養素の役割	テキストP.104-108 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと（約1.5時間）
13	スポーツと栄養（2）	栄養とトレーニング，コンディショニング	テキストP.109-112 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと（約1.5時間）
14	ドーピング	ドーピングの定義，概要	資料 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと（約1.5時間）
15	まとめ	授業の全体のまとめ	資料 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと（約1.5時間）

関連科目	スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	リファレンスブック		日本スポーツ協会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	期末試験（60%）、授業中に実施する課題の提出状況およびその内容（40%）によって評価する。

学生への メッセージ	運動・スポーツと健康に関する身近な話題から、競技力向上のための最新スポーツ科学に関する授業です。毎回、簡単な実習、測定、調査などを行いながら、主体的な学習を通して理解を深めていきます。
担当者の 研究室等	総合体育館 1 階　非常勤講師室
備考	

科目名	スポーツ教育学	科目名（英文）	Sports Education
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	近藤　潤
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH3361a1		

授業概要・目的	スポーツはさまざまな教育効果をもたらすが、その反面、体罰の問題など社会問題も多数発生している。またスポーツプレーヤーの言動や行動がインターネットやメディアに大きく取り上げられられることも多い。本講義では、スポーツがもたらす様々な教育効果や情報が社会に与える功罪について考え、社会人として必要な基礎知識を学習することを目的とする。 担当者は大阪府立高等学校学校運営協議会の委員や交野市との地域連携講座の講師などを務め、教育にかかわる諸問題に取り組むことによってこの授業での内容をより深めることができる。
到達目標	この授業を通じて学生には、①スポーツに関わる道徳問題を理解し、②スポーツがもたらす教育効果を理解できるようになることを期待する。
授業方法と留意点	授業は講義形式で行います。 資料配布はMicrosoft Teamsを利用してオンラインで行います。チームコードは授業時に連絡します。 授業時はプレゼンテーション、ディスカッションを取り入れ、テーマについてより深い考察を行います。
科目学習の効果（資格）	スポーツの社会における功罪を知り、社会人としての基礎知識を習得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	基礎教育（1）	スポーツ教育学とは何か考える。 スポーツに期待される人間形成について学ぶ。	新聞記事の社会欄、スポーツ欄を読む。（１時間）
2	基礎教育（2）	プロファイル・自己アピールのプレゼンテーション	自己紹介文を作成する。（１時間）
3	スポーツと人格（１）	スポーツ選手に求められる人格	配布プリントの読み返し（１時間）
4	スポーツと人格（２）	スポーツ選手と犯罪について考える。	配布プリントの読み返し（１時間）
5	スポーツと教育（３）	スポーツ選手のセカンドキャリアについて学ぶ。	配布プリントの読み返し（１時間）
6	スポーツと教育（４）	プロスポーツとアマチュアリズム	配布プリントの読み返し（１時間）
7	スポーツと教育（５）	薬物問題とドーピング ディスカッション	配布プリントの読み返し（１時間）
8	スポーツと学校教育（１）	体罰問題①	配布プリントの読み返し（１時間）
9	スポーツと学校教育（２）	体罰問題② ディスカッション	配布プリントの読み返し（１時間）
10	スポーツと学校教育（３）	スポーツ特待生について	配布プリントの読み返し（１時間）
11	スポーツの功罪（１）	ジュニア期のスポーツ	配布プリントの読み返し（１時間）
12	スポーツの功罪（２）	燃え尽き症候群について考える。 ディスカッション	配布プリントの読み返し（１時間）
13	障がい者とスポーツ（１）	パラリンピック	配布プリントの読み返し（１時間）
14	障がい者とスポーツ（２）	レクリエーションからチャンピオンスポーツへ	配布プリントの読み返し（１時間）
15	障がい者とスポーツ（３）	障がい者スポーツの問題点	配布プリントの読み返し（１時間）

関連科目	スポーツ科学実習Ⅰa、Ⅰb、Ⅱa、Ⅱb、スポーツ科学概論、スポーツ文化論、スポーツ指導者入門、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツトレーニングの基礎、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点と課題レポート,プレゼンを総合して評価する。 平常点６０%、課題レポート２０%、プレゼン２０% 課題レポートは評価の上返却する。 グループによるディスカッションの後、内容をプレゼンし評価する。
学生へのメッセージ	学生諸君はこちらが与える教材だけでなくさまざまな資料を集め、より深い内容にしてください。
担当者の研究室等	総合体育館１階
備考	

科目名	時事英語Ⅰ	科目名（英文）	Journal English Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	村田　幸一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	JEN2331c1		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。 この講義では SDGs の 17 の目標についての英文記事を読み理解を深める。今トレンドの言葉なので何かしらの形で深めておくことで将来的に役に立つと考える。この講義では SDGs に関わる英語のコンテストに参加することを目標に講義を進めていく。
到達目標	(1) ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。 (2) 前期は CEFR-J [A1.3]、後期は CEFR-J [B1.1]に英語力が到達することを目標とする。 (3) SDGs コンテストに参加する。また、そのための英語のレポートを書く。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提になる。また演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 この講義では、それぞれの目標に関する英文記事を読み、その内容に関する問題に取り組んでもらう。その後答え合わせ、解説をすること
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業方法、内容評価方法についての説明	早い段階から一緒にコンテストに出場するグループ及びその内容について考えておいてください。
2	1 貧困をなくそう、2 飢餓をゼロに	①記事の読解 ②内容に関する問題 ③解説 ④課題についての調べ学習	課題の残り
3	1 貧困をなくそう、2 飢餓をゼロに	⑤グループでの発表 ⑥レポートの作成	
4	3すべての人に健康と福祉を	①記事の読解 ②内容に関する問題 ③解説 ④課題についての調べ学習	課題の残り
5	3すべての人に健康と福祉を	⑤グループでの発表 ⑥レポートの作成	
6	4 質の高い教育をみんなに	①記事の読解 ②内容に関する問題 ③解説 ④課題についての調べ学習	課題の残り
7	4 質の高い教育をみんなに	⑤グループでの発表 ⑥レポートの作成	
8	5ジェンダー平等を実現しよう、8 働きがいも経済成長も	①記事の読解 ②内容に関する問題 ③解説 ④課題についての調べ学習	課題の残り
9	5ジェンダー平等を実現しよう、8 働きがいも経済成長も	⑤グループでの発表 ⑥レポートの作成	
10	6安全な水とトイレを世界中に	①記事の読解 ②内容に関する問題 ③解説 ④課題についての調べ学習	課題の残り
11	6安全な水とトイレを世界中に	⑤グループでの発表 ⑥レポートの作成	
12	7 エネルギーをみんなに。そしてクリーンに	①記事の読解 ②内容に関する問題 ③解説 ④課題についての調べ学習	課題の残り
13	7 エネルギーをみんなに。そしてクリーンに	⑤グループでの発表 ⑥レポートの作成	
14	9産業と技術革新の基盤を作ろう	①記事の読解 ②内容に関する問題 ③解説 ④課題についての調べ学習	課題の残り
15	9産業と技術革新の基盤を作ろう	⑤グループでの発表 ⑥レポートの作成	

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	プリント提出（問題開設後回収→授業の最後に返却）20% レポート提出（授業の最後に提出（個々の課題＋全体のレポート））30% コンテスト原稿 or 試験（前期、もしくは後期、もしくはその両方コンテストに参加すること。参加しない学期は試験を受けること）50%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	

科目名	時事英語Ⅱ	科目名（英文）	Journal English II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	村田　幸一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	JEN2332c1		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。 この講義ではSDGsの17の目標についての英文記事を読み理解を深める。今トレンドの言葉なので何かしらの形で深めておくことで将来的に役に立つと考える。この講義ではSDGsに関わる英語のコンテストに参加することを目標に講義を進めていく。
到達目標	(1) ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。 (2) 前期はCEFR-J [A1.3]、後期はCEFR-J [B1.1]に英語力が到達することを目標とする。 (3) SDGsコンテストに参加する。また、そのための英語のレポートを書く。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提になる。また演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 この講義では、それぞれの目標に関する英文記事を読み、その内容に関する問題に取り組んでもらう。その後答え合わせ、解説をすること
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業方法、内容評価方法についての説明	早い段階から一緒にコンテストに出場するグループ及びその内容について考えておいてください。
2	9産業と技術革新の基盤を作ろう	①記事の読解 ②内容に関する問題 ③解説 ④課題についての調べ学習	課題の残り
3	9産業と技術革新の基盤を作ろう	⑤グループでの発表 ⑥レポートの作成	
4	10 人や国の不平等をなくそう	①記事の読解 ②内容に関する問題 ③解説 ④課題についての調べ学習	課題の残り
5	10 人や国の不平等をなくそう	⑤グループでの発表 ⑥レポートの作成	
6	11 住み続けられるまちづくりを、13 気候変動に具体的な対策を	①記事の読解 ②内容に関する問題 ③解説 ④課題についての調べ学習	課題の残り
7	11 住み続けられるまちづくりを、13 気候変動に具体的な対策を	⑤グループでの発表 ⑥レポートの作成	
8	12 つくる責任、つかう責任	①記事の読解 ②内容に関する問題 ③解説 ④課題についての調べ学習	課題の残り
9	12 つくる責任、つかう責任	⑤グループでの発表 ⑥レポートの作成	
10	14 海の豊かさを守ろう、15 陸の豊かさも守ろう	①記事の読解 ②内容に関する問題 ③解説 ④課題についての調べ学習	課題の残り
11	14 海の豊かさを守ろう、15 陸の豊かさも守ろう	⑤グループでの発表 ⑥レポートの作成	
12	16 平和と公正をすべての人に	①記事の読解 ②内容に関する問題 ③解説 ④課題についての調べ学習	課題の残り
13	16 平和と公正をすべての人に	⑤グループでの発表 ⑥レポートの作成	
14	17 パートナーシップで目標を達成しよう	①記事の読解 ②内容に関する問題 ③解説 ④課題についての調べ学習	課題の残り
15	17 パートナーシップで目標を達成しよう	⑤グループでの発表 ⑥レポートの作成	

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プリント教材		
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3
評価方法 （基準）	プリント提出（問題開設後回収→授業の最後に返却）20% レポート提出（授業の最後に提出（個々の課題＋全体のレポート））30% コンテスト原稿 or 試験（前期、もしくは後期、もしくはその両方コンテストに参加すること。参加しない学期は試験を受けること）50%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	

科目名	教養中国語Ⅰ	科目名（英文）	Chinese Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	段　飛虹
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	JCH2334e1		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。一年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準４級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	発音篇	発音 ①中国語の音節，ピンイン、声調 ②単母音	事前にテキストを目を通す、 練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
2	発音篇	発音 ③複母音 ④鼻母音	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
3	発音篇	発音 ⑤子音 ⑥音節のつづり ⑦声調記号について	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
4	第１課 お名前は何ですか？	文法 ① 人称代名詞 ② 名前の聞き方を答え方 ③ 「是」の述語文の使い方 ④ 「?」の疑問文	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題も解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
5	第２課 これは私のパソコンです。	文法 ① 指示代名詞 ② 疑問詞疑問文 ③ 「的」の使い方 ④ 副詞「也」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題も解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
6	第３課 こちらの冬は寒いです。	文法 ① 場所代名詞 ② 形容詞述語文 ③ 疑問文	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題も解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
7	第４課 私は毎日七時に起きます。	文法 ① 動詞述語文 ② 時間詞の置く場所 ③ 省略疑問文	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題も解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
8	第５課 私の家は学校から遠いです。	文法 ① 動詞「在」 ② 介詞「離」 ③ 反復疑問文 ④ 方位詞の使い方	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題も解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
9	☆　発音篇 第１～５課単元復習テスト	☆　発音篇 第１～５課単元テスト１	事前に、単元テスト１の準備をする。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
10	第６課 あなたは週に何コマの授業がありますか？	文法 ① 量詞 ② 「所有」を表現する「有」の文 ③ 疑問詞「几」と「多少」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
11	第７課 あなたは今年いくつですか？	文法 ①「存在」を表現する「有」の文 ② 年齢の聞き方 ③ 親族の名称	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
12	第８課 私たちは図書館で勉強しています。	文法 ① 介詞「在」 ② 連動文 ③ 疑問詞	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
13	第９課 あなたは昨日どこに行きましたか？	文法 ①「完了」を表現する「了」の文 ② 原因 ③「A 跟 B 一様」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
14	第１０課 私はパンを食べたいです	文法 ① 助動詞「想」 ② 選択疑問文 ③ 提案の言い方	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
15	おさらい ☆単元テスト２	☆第６～１０課復習 ☆単元テスト２	事前に、第６～１０課復習すること、単元テスト２の準備をする。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	やさしい中国語（基礎編）	張慧娟　王武雲　朱藝	郁文堂

	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日中辞典		
	2	中日辞典		
	3			

評価方法 （基準）	出席と課題の提出 50% テスト 50%で評価する。
学生への メッセージ	教科書は必ず購入してください。購入していない者には単位が認定できません。 授業中の私語は他の受講生の迷惑になりますので、控えてください。 事前・事後学習に 1 時間すること。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	

科目名	教養中国語Ⅱ	科目名（英文）	Chinese II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	段　飛虹
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	JCH2335e1		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。一年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準４級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第 11 課 母は私より背が高い。	文法 ① 比較の表現 ②「喜歓」の表現 ③「越 A 越 B」	事前にテキストを目を通す、 練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
2	第 12 課 彼女は中国に行ったことがある。	文法 ① 過去の経験を表現する「過」の文 ② 助動詞「打算」 ③ 変化を現す「了」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
3	第 13 課 私は手紙を書いている。	文法 ① 動作の進行を表現する ② 連動文 ③ 推量・確認の表現	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
4	第 14 課 私は英語を話せます。	文法 ① 助動詞「会」「能」「可以」 ② 動詞の重ね型 ③ 要請の表現	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
5	読む・書く復習１・テスト 1	第 11 課～第 14 課の読む・書く復習 ☆テスト１	事前に、第 11 課～第 14 課の読む・書く復習、準備をすること。
6	第 15 課 あなたはいつ来たのですか？	文法 ①「是～.的」の構文 ② 人民元の数え方	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
7	第 16 課 十五課を習い終えました。	文法 ① 兼語文「請」 ② 結果補語 ③ 介詞「用」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
8	第 17 課 母が私に生活用品を送ってくれました。	文法 ① 方向補語「来」「去」 ② 介詞「給」 ③「从 A 到 B」の使い方	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
9	第 18 課 私は中国語を聞いて分かります。	文法 ① 可能補語 ② 動詞＋「得/不＋了」 ③「先 A, 然后 B」の使い方	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
10	読む・書く復習２　・テスト 2	第 15 課～第 18 課の読む・書く復習 ☆テスト２	事前に、第 15～18 課の読む・書く復習、準備をすること。
11	第 19 課 兄が走るのが早い。	文法 ① 様態補語 ② 時量の表現 ③ 数量表現	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
12	第 20 課 鈴木先生は私たちにフランス語を教えます。	文法 ① 二重目的語の構文 ② 助動詞「得」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
13	第 21 課 先生は私に本を沢山読むように言っています。	文法 ① 兼語文　使役の意味の表現 ②「挺～的」 ③「多」＋動詞	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
14	第 22 課 彼女はもうすぐ中国へ帰るそうです。	文法 ① 受け身の「被」 ②「快要～了」 ③「聴説」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
15	読む・書く復習３・テスト３	第 19 課～第 22 課の読む・書く復習 ☆テスト３	事前に、第 19～22 課の読む・書く復習、準備をすること。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	やさしい中国語（基礎編）	張慧娟　王武雲　朱藝	郁文堂
2			
3			

参考書

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 日中辞典 / / 2 / 中日辞典 / / 3 / / /
評価方法 （基準）	出席と課題の提出５0% テスト 50%で評価する。
学生への メッセージ	教科書は必ず購入してください。購入していない者には単位が認定できません。 授業中の私語は他の受講生の迷惑になりますので、控えてください。 事前・事後学習に 1 時間すること。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	

科目名	キャリアデザインⅠ	科目名（英文）	Career Planning I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	水野　武
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1342a1		

授業概要・ 目的	この授業を通じて学生には １）就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 ２）基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 ３)専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 ４）講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。 ようになることが期待される。 なお、講義は担当講師の人材業界での業務及び起業経験を活かした内容も含まれる。 SDGs.4-4 SDGs.8-6
到達目標	１）摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 ２）社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 ３）調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と 留意点	講義には積極的な態度で受講すること。 なお、学籍番号により担当教員が異なるため、各自自身の担当教員・クラスを確認すること。 また、教員により課題の提出方法が異なることもあるので注意すること。
科目学習の 効果（資格）	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か？何故必要なのか？ ・公と私について考える	・自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること(事前：0.5 時間)
2	さぁ始めよう！大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身につける	・大学で学ぶ意味について考えること(事前：0.5 時間)
3	摂大学	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・学生生活における目標を考える	・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること(0.5 時間) ・大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること(事後：0.5 時間) ・大学生活での目標を考えること(0.5 時間)
4	自己効力感を高めよう	・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション	・設定された個人ワークに取り組むこと(事後：２時間)
5	SDGs について考えよう グループ課題の設定	・SDGs に対する理解を深める ・グループワーク ・グループで工程管理を考える	・SDGs とは何かについて予習をしておくこと(事前：0/5 時間) ・グループで課題に取り組むこと(2 時間)
6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える	・社会で求められる人材について考えること(事後：0.5 時間)
7	社会の仕組み①	・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(事後：0.5 時間)
8	社会の仕組み②	・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション	・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(事後：0.5 時間)
9	自分づくり①	・自分の良いところを 20 個挙げる ・ペアワーク	・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(事前：0.5 時間)
10	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学４年間の目標設定	・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること(事後：0.5 時間)
11	スケジューリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	・社会人基礎力を実践する方法を考えること(事後：0.5 時間)
12	ビブリオバトル	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(事前：１時間)
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	・プレゼンテーションの準備をすること(事前：0.5 時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後：0.5 時間)
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をすること(0.5 時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後：0.5 時間)
15	講義のおさらい	・講義４で行った個人ワークの振り返り ・講義の振り返り	・夏休み以降の大学生活の目標を考えること(0.5 時間) ・期末レポートを作成すること(1.5 時間)

関連科目	キャリアデザインⅡ 、キャリアデザインⅢ 、インターンシップ エンプロイメントデザイン Ⅰ、エンプロイメントデザインⅡ

<table>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>平常点（30%）、グループ課題(20%）、最終レポート（50%）で総合的に評価する。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>水野講師室（７号館３階）</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>必要に応じて授業内でレジュメを配布する。
なお、課題の提出方法は教員により異なる（Moodle か Web フォルダー等）ので各教員の指示に従うこと。
なお、各課題やレポートへのフィードバックは全体に対して行う。</td></tr>
</table>

科目名	キャリアデザインⅠ	科目名（英文）	Career Planning I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	石井　三恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1342a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には １）就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 ２）基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 ３)専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 ４）講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。 ようになることが期待される。 なお、講義は担当講師の民間企業、自治体、NPO 法人での業務及び海外を含む高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。 SDGs.4-4 SDGs.8-6
到達目標	１）摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 ２）社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 ３）調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	講義では資料を熟読した上で課題に挑まなければならないので、積極的な態度で受講すること。
科目学習の効果（資格）	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か？何故必要なのか？ ・公と私について考える	・事前学修：自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること(0.5 時間)
2	さぁ始めよう！大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身につける	・事前学修：大学で学ぶ意味について考えること(0.5 時間)
3	摂大学	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・学生生活において目標を考える	・事前学修：摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること(0.5 時間) ・事後学修：大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること(0.5 時間)/講義で課された課題に取り組むこと(0.5 時間/継続)
4	自己効力感を高めよう	・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション	・事後学修：設定された個人ワークに取り組むこと（２時間）
5	SDGs について考えよう グループ課題の設定	・SDGs に対する理解を深める ・グループワーク ・グループで工程管理を考える	・事前学修：SDGs とは何かについて予習をしておくこと(0.5 時間) ・事後学修：グループで課題に取り組むこと（２時間）
6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える	・事後学修：社会で求められる人材について考えること(0.5 時間)
7	社会の仕組み①	・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	・事後学修：経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(0.5 時間)
8	社会の仕組み②	・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション	・事後学修：配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(0.5 時間)
9	自分づくり①	・自分の良いところを 20 個挙げる ・ペアワーク	・事前学修：自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(0.5 時間)
10	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学４年間の目標設定	・事後学修：大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること(0.5 時間)
11	スケジューリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	・事後学修：社会人基礎力を実践する方法を考えること(0.5 時間)
12	ビブリオバトル	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	・事前学修：他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(１時間)
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること(0.5 時間) ・事後学修：他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(0.5 時間)
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること(0.5 時間) ・事後学修：他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(0.5 時間)
15	講義のおさらい	・講義４で行った個人ワークの振り返り ・講義の振り返り	・事前学修：夏休み以降の大学生活の目標を考えること(0.5 時間) ・事後学修:期末レポートを作成すること(1.5 時間)

関連科目	キャリアデザインⅡ 、キャリアデザインⅢ 、インターンシップ エンプロイメントデザイン Ⅰ、エンプロイメントデザインⅡ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業内活動（30%）、グループ課題(20%）、最終レポート（50%）で総合的に評価する。
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。
担当者の 研究室等	石井教授室（７号館５階）
備考	１．2022 年度以前入学の再履修者はこの教室で実施する。 ２．必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 ３．ミニレポートは採点した後に返却する。

科目名	キャリアデザインⅡ	科目名（英文）	Career Planning II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	水野　武
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1343a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報から的確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考えるようになることが期待される。 講義は担当者の実務経験を元に議論を進行することもある。 SDGs.4-4 SDGs.8-6
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。 受講クラスは学籍番号によって異なるので注意すること。 ※2021 年度以前の学生は再履修クラスで受講すること。
科目学習の効果（資格）	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	・大学生活１年目で経験したことを思い出しておくこと(事前：１時間) ・配布したレジュメを見直すこと(事後：0.5 時間)
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	・人はなぜ働くのかについて仕事をしている一にインタビューしてまとめ、グループ討議の準備をしておくこと(事後：２時間)
3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	・グループ討議の内容を振り返ること(0.5 時間)
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・業種・職種の概念を理解する ・川上～川下の概念の理解	・配布資料を読み返し、どのような業種・業界があるか調べること(事後：0.5 時間)
5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	・配布資料を見直し、どのような職種・会社があるのか調べること(0.5 時間)
6	自分を知る①	・特性と心がけ、自己 PR の組み立て方を学ぶ	・自身の特性について考えること(事前：0.5 時間) ・配布資料を見直し、自らの強みについて考えること(事後 1 時間)
7	自分を知る②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	・自身の学生生活を振り返ること(事前：1 時間) ・配布資料を見直し、今後の学生生活の過ごし方を考えること(0.5 時間)
8	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の習慣について振り返ること(事後：1 時間)
9	自分を高める②	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の取り組むべきことについて考えること(事後：0.5 時間)
10	自分を高める③	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	・講義の内容を日常生活で実践すること(1.5 時間)
11	自分を知る③	・モチベーションについて理解する ・自身のやる気の源泉を理解する	・自身の「やる気が出る時と出ない時」の差について考える(事前：1 時間) ・自身の「やる気の源泉」を言語化すること(0.5 時間)
12	社会を知る⑤	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る	・配付資料を見直し、自らの将来について考えること(0.5 時間)
13	自分を高める⑤	・講義⑧⑨⑩の実践報告の共有と発表	・発表及びグループ討議の準備をしておくこと(事前：１時間)
14	社会を知る⑥	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	・日本を取り巻く課題につて調べること(事前：0.5 時間)
15	授業のおさらい	・講義のおさらい	・課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと(0.5 時間)

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	グループワーク（20%）、授業参加度（30%）、レポート（50%）を総合的に評価する。
学生への	来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加す

メッセージ	ること。
担当者の 研究室等	水野講師室（７号館３階）
備考	2021 年度以前入学の再履修の者は別教室で実施する。 なお、各回の課題、中間レポートのフィードバックは全体に対して行う。

科目名	キャリアデザインⅡ	科目名（英文）	Career Planning II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	石井　三恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1343a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報から的確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考えるようになることが期待される。 なお、講義では担当者の民間企業、自治体、NPO 法人での業務及び海外を含む高等教育での教育ならびに経営の経験に基づいて議論を進めることもある。 SDGs.4-4 SDGs.8-6
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。
科目学習の効果（資格）	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	・事前学修：これまでの大学生活で経験したことを思い出しておくこと（1時間） ・事後学修：配布したレジュメを見直すこと(0.5時間)
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	・事後学修：人はなぜ働くのかについて仕事をしている人にインタビューしててまとめ、グループ討議の準備をしておくこと（2時間）
3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	・事後学修：グループ討議の内容を振り返ること(0.5時間)
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・業種・職種の概念を理解する ・川上～川下の概念の理解	・事後学修：配布資料を読み返し、どのような業種・業界があるか調べること(0.5時間)
5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	・事後学修：-配布資料を見直し、どのような職種・会社があるのか調べること(0.5時間)
6	自分を知る①	・特性と心がけ、自己 PR の組み立て方を学ぶ	・事前学修：自身の特性について考えること(0.5時間) ・事後学修：配布資料を見直し、自らの強みについて考えること（1時間）
7	自分を知る②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	・事前学修：自身の学生生活を振り返ること(0.5時間) ・事後学修：配布資料を見直し、今後の学生生活の過ごし方を考えること(0.5時間)
8	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・事後学修：講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の習慣について振り返ること(0.5時間)
9	自分を高める②	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・事後学修：講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の取り組むべきことについて考えること(0.5時間)
10	自分を高める③	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	・事前学修：リーダーシップとは何かを考える（0.5時間） ・事後学修：講義の内容を日常生活で実践すること(1.5時間)
11	自分を知る③	・モチベーションについて理解する ・自身のやる気の源泉を理解する	・事前学修：自身の「やる気が出る時と出ない時」の差について考える(0.5時間) ・事後学修：自身の「やる気の源泉」を言語化すること(0.5時間)
12	社会を知る⑤	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る	・事後学修：配付資料を見直し、自らの将来について考えること(0.5時間)
13	自分を高める⑤	・講義８、９、10 の実践報告の共有と発表	・事前学修：発表及びグループ討議の準備をしておくこと（1.5時間）
14	社会を知る⑥	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	・事前学修：日本を取り巻く課題につて調べること(0.5時間) ・事後学修：関心のあった課題について調べること（0.5時間）
15	授業のおさらい	・講義のおさらい	・事後学修：課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと(0.5時間)

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			

評価方法 （基準）	授業内活動（20%）、授業参加度（30%）、期末レポート（50%）を総合的に評価する。
学生への メッセージ	来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加すること。
担当者の 研究室等	石井教授室（７号館５階）
備考	2021 年度以前入学の再履修の者はこの教室で実施する。 課題、レポート等は Teams に示し、Teams に提出し、Temas 内で返却する。必ず、フードバックを参考にし、次の課題、レポートに臨むようにすること。

科目名	キャリアデザインⅢ	科目名（英文）	Career Planning III
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	水野　武
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1344a1		

授業概要・目的	本講義は就職活動に関する知識と実践技法も学ぶための講義である。 この科目を通じて、学生は、学生生活での学びを活かし、社会で求められ、活躍できる人材（人財）になるために何をすべきかを考えられるようになることが期待される。 なお、授業担当者の人材業界での業務経験・起業経験を講義に活かす講義の内容となる。
到達目標	自分を振り返り、社会をよく知り、選択肢を発見し、自分の特性や強みについて、他者に伝えられることができる。 その結果、満足のいく就職活動、進路選択ができるようになる。
授業方法と留意点	講義では教員と学生、学生同士で対話をしながら進行をするので、能動的な姿勢が求められる。
科目学習の効果（資格）	授業を通して自分の成長に気づき、人に自分の意志が伝えられるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目標、進め方、評価方法の解説 ・就職活動のスケジュールを知る	事後学習：配付資料を熟読すること（１時間）
2	ビジネス研究①	・業界・会社・職種を知る	事後学習：配付資料を熟読し、どんな業界があるのかを調べること（１時間）
3	ビジネス研究②	・成長企業のキーワード ・会社研究について	事後学習：配付資料を熟読し、どんな会社があるのかを調べること（１時間）
4	ビジネス研究④	・会社の経営理念について考える ・ブラック企業問題について考える ・いい会社とは何かについて考える	事後学習：配付資料を熟読し、自分のワークスタイルを考えること（１時間）
5	ビジネス研究⑤	・事業立案のフレームを学ぶ ・グループでビジネスプランを立てる	事後学習：配付資料を熟読氏、グループワークに取り組むこと（２時間）
6	営業思考を身につける	・どのような仕事に従事するでも役に立つ営業思考の基本を身につける	事前学習：プレゼンテーションの準備をしておくこと（１時間）
7	ビジネス研究⑦	・グループでプレゼンテーションを行う	事前学習：プレゼンテーションの準備をしておくこと（１時間） 事後学習：他グループのプレゼンテーションを振り返ること(0.5時間)
8	自分を知る①	・自分の将来を描いてみる	事後学習：配付資料を熟読し、自分の未来について考えること（１時間）
9	自分を知る②	・自分の強み、学生生活を振り返る	事後学習：配付資料を熟読し、自分について振り返ること(0.5時間)
10	自分を知る③	・ワークシートを使って自分の特性を確認する	事後学習：配付資料を熟読し、自分の特性について考えること(0.5時間)
11	自分のことを伝える	・エントリーシートとは何かを知る ・読み手の着眼点を理解する	事後学習エントリーシートを作成する準備をしておくこと(1時間)
12	グループでのコミュニケーション①	・グループディスカッションの種類を知る ・グループディスカッションを実際に体験してみる	事後学習：配付資料を熟読し、自身のグループへの貢献の仕方を考えること(1時間)
13	グループでのコミュニケーション②	・議論を進めるためのファシリテーション術を学ぶ	事後学習：配付資料を熟読し、グループへの貢献の仕方を考えること(1時間)
14	面接における対人コミュニケーション	・面接における対人コミュニケーションについて考える ・面接のメカニズムを知る	事後学習：配付資料を熟読し、対面での対人コミュニケーションについて考えること(1時間)
15	講義のまとめ	・成果を上げるための行動計画立案 ・講義のまとめ	・提出物など、出し忘れが無いか確認すること（１時間）

関連科目	・キャリアデザイン、インターンシップ基礎、ビジネスマナーⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ、数的能力開発、コミュニケーション能力開発、エンプロイメントデザインⅠ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義での提出物（30%）、グループ課題(20%)、期末レポート（50%）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	みなさんの将来のことを一緒に考えましょう。なお、履修人数の増減に伴うグループワーク時のグループ数により講義内容の一部に変更が生ずる可能性があるので注意すること。
担当者の研究室等	水野講師室（７号館３階）
備考	参考文献・書籍は必要に応じて適宜提示する。 なお、各回の課題および小レポートへのフィードバックは全体に対して行う。

科目名	エンプロイメントデザインⅠ	科目名（英文）	Employment Design Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	坂口　有芸
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1345a1		

授業概要・目的	この科目は学生が「協働作業」「意思決定」「創造的志向」「探求」など、エンプロイアビリティ（将来社会に出て仕事をする際に必要な能力）の獲得の必要性を認識するための科目である。 また、大教室での多くの学生と共に話を聴き、理解しようとする態度を養い、グループに分かれて他者との意見の交換を行うことで、自分には思いつかなかった考え方に気づくようになることが期待される。
到達目標	講義、個人ワーク、グループワークを通じて、目標と手段、意思決定や探求に向けて試行錯誤することができるようになることが目標である。
授業方法と留意点	「学びを通じて学び方を学ぶ」姿勢をもつことを心がける。また、講義で出た課題を実践し、振り返ることが課題となることもあるため、メモを取る習慣を身に付ける。 この科目は１年生向けの科目で、2023 年度入学生のみ履修ができる。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・科目の趣旨・目的と評価について ・受講上の注意ならびに大教室でのマナーに関して ・キーワードの調べ方とレポートに関して	・講義内容を振り返ること(0.5 時間)
2	私が NO.1 プロジェクト①	・今、自分が属しているコミュニティにおいて、何かで「NO.1 になる」ための計画を立て、実践する	・設定した課題を実践すること(２時間)
3	私が NO.1 プロジェクト②中間振り返り	・講義３で設定した個別の課題の経過、結果をグループで共有する	・グループワークでメンバーから得た知見を振り返ること(0.5 時間)
4	私がNO.プロジェクト③最終振り返り	・講義３で設定した個別の課題の結果の振り返り、共有する	・グループワークでメンバーから得た知見を振り返ること(0.5) ・第一回課題「NO.1 プロジェクトの振り返り」レポートを作成すること(２時間)
5	自身の意見を発信することを学ぶ	・意見と他者に同意する・反対することのみとの違いを理解する ・自分の意見を発信するためのスキルを学ぶ	・講義の内容を振り返り、日常生活で活かせる場面を考えること(0.5 時間)
6	議論を進めるファシリテーションの基本①	・グループで議論する際の基本的なスキルを学ぶ	・講義の内容を振り返り、学生生活で活かす場面を考えること(0.5 時間)
7	議論を進めるファシリテーションの基本②	・グループで議論する際の基本的なスキルを学ぶ	・講義の内容を振り返り、学生生活で活かす場面を考えること (0.5 時間)
8	就職活動の現状を知る①－就職部	・昨今の就職活動の事情について知る	・講義内容を振り返ること(0.5 時間)
9	就職活動の現状を知る②－就職部	・昨今の就職活動の事情について知る	・講義内容を振り返ること(0.5 時間) ・就職活動を想定して、自身が今取り組まなければならないことをレポートにまとめる(1 時間)
10	グループでリサーチプロポーザル（研究計画書）を作ろう	・グループワーク「グループで課題研究のためのリサーチプロポーザル（研究計画書)」の作成	・グループで課題に取り組むこと(２時間)
11	担当講師のキャリアについて①	・担当講師の研究内容、仕事の経歴などについての話をきく	・講義の内容を振り返ること(0.5 時間)
12	担当講師のキャリアについて②	・担当講師の研究内容、仕事の経歴などについての話をきく	・講義の内容を振り返ること(0.5 時間)
13	自身の履歴について考える	・自身のここまでの人生を振り返り「節目になった出来事」について考える	・講義全体を振り返ること ・第ニ回課題「人生すごろく」を作成すること(２時間)
14	グループで研究計画書を発表	・講義 11 で取り組んだ課題をグループごとに発表する	・自グループ、及び他グループの発表内容を振り返ること ・第三回課題「グループレポート」提出（0.5 時間）
15	講義のまとめ	・エンプロイメントデザインⅠの振り返り	・講義を振り返ること(0.5 時間)

関連科目	キャリアデザインⅠ・キャリアデザインⅡ・エンプロイメントデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回のミニッツペーパー（30%）、グループ課題（20%）、個人レポート３回（50%）を総合的に判断する。
学生へのメッセージ	自身の将来の職業選択を考えるために、様々な課題を真摯な態度で聴いてほしい。 また、自ら考え、選択し、決定していくプロセスを大切にし、行動へ繋ぐ大切を学んでほしい。

担当者の 研究室等	坂口講師室（７号館５階）
備考	教科書：各回、必要に応じ、プリント配布。 参考書：各回、必要に応じ、授業中に示す。 講師・内容は都合により変更することもある。 中間課題の評価基準・書き方に関する注意事項は講義内またはポータルサイト/Teams で伝達する。

科目名	エンプロイメントデザインⅡ	科目名（英文）	Employment Design II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	水野　武
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1346a1		

授業概要・目的	外部講師（本学卒業生を含む）をお招きし、仕事・職業観・人生経験やキャリア・パス等についてのお話を聴く。質疑応答の時間を設けているので、勇気を持って講師に質問をするだけでなく、質問時の態度や表現の仕方を学ぶ。 この講義を通じて、学生はさまざまな職業について理解し、多様な仕事術についての知識を得ること、さらには仕事観や人生観の涵養に役立てるとが期待される。
到達目標	講義を通して様々な職業についての知識を得て、多様な仕事術を理解できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	話を聴くことが主となるため、社会人としての真摯な態度での話の聴き方、メモの取り方、積極的に質問すること等の習慣を身に付けること。
科目学習の効果（資格）	人や社会に関わること、仕事力の伸ばし方について考えるきっかけとなる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション(教育イノベーションセンター)	・講義のオリエンテーション ・ゲスト講義の際の注意点（特に聴く態度）について	・事前学修：シラバスを熟読すること(１時間) ・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
2	警察官として、生きていく。大阪府警察は、この街を、人を、そしてキミの人生を、全力で守り続ける。 （警察官）	・採用担当者が大阪府警察の仕事、働く上でのやりがいなどを紹介いたします。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
3	しあわせのまちづくり ～主役は地域住民！『こどもからおとしよりまで笑顔あふれる地域づくり』の支え方～ （社会福祉協議会職員）	・地域住民にもっとも近い社会福祉法人である社会福祉 協議会の仕事と理念についてお話しします	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
4	面接担当をして気付いた学生のうちにしておくべき事 （摂大 OB/人事担当者）	就活、キャリアデザインをする上で 本当にしておくべきと感じた事を経験談を基に、営業職として、採用担当として、OB として、お話します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
5	プログラマを目指して摂南大学に入学してから NPO 代表になるまで（摂大 OB/NPO 法人代表）	・理系学部でプログラマーを目指しながらもスタープログラマーになれなかった男が、“公共性“を武器に NPO 法人を設立するまでのキャリア構築の過程をお話します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
6	「ビジネス創造に必要な力」を実例から学ぶ（IT/役員）	・現役のビジネスパーソンが日々実践している「ビジネスに必要な力」を事例を通じて解説します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
7	ホームレス状態を生み出さない日本を目指して(NPO 法人事務局長)	・大阪市で活動をする NPO 法人 Homedoor の実践を通じて、 ホームレス問題や NPO の運営の方法を学ぶ。 年間 1000 名以上の生活相談に対応するなかで見えてきた ホームレス問題の課題や今後の展望についても触れる。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
8	お坊さんから後輩のみなさんへ(摂大 OB/住職	・一人の学生が僧侶として歩みだすまでの過程を自身の学生生活の経験談を交えながらお話します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
9	)講義の中間まとめと就職活動の現状について	・講義の中間まとめ ・就職活動について(就職部)	・事前学修：講義全体を振り返り、ノートにまとめること(2時間) ・事後学修：中間レポートを作成すること(2時間)
10	働くことってどんなこと？日本で働くことと SDGs、みんなで持続可能な働き方を探していこう！(デジタルサービス)	・日本を取り巻く環境、仕事と必要なスキル、SDGs との繋がり、キャリアを自分ごととして考えるという内容をお話しします。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
11	ともに強いまちを創る～公務員という選択～ （摂南大学ＯＢ／市役所職員）	・仕事を通して社会や地域に貢献ができる、自らが成長できる、公務員のやりがいについて熱くお話します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
12	信用金庫の仕事と期待される人財 (金融/人材開発)	・仕事のやりがいとキャリアを学生の皆さんにイメージしていただけるよう、講義します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
13	社会人になって学んだことと、企業経営で大切にしているモノ （摂南大学 OB/経営者）	・社会人となる学生へ、体験談を通じて企業の中で誠実に生き抜くことを伝えます。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
14	先人(企業家)に学ぶ仕事への心構え （商工会議所/職員）	・企業家から学ぶ、仕事の心構えについてお話します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
15	講義のおさらい	・講義全体のおさらい	・事前学修：講義の全体を振り返ること(0.5時間) ・事後学修：最終課題を作成すること(1.5時間)

<table>
<tr><td>関連科目</td><td>キャリアデザインⅠ、キャリアデザインⅡ、エンプロイメントデザインⅠ</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>毎回の感想レポート（30%）、中間レポート１回（30%）、期末レポート１回(40%)を総合的に判断する。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>講師の多様な仕事に対する意識や成果の上げ方等を聴くことで、職業観の形成に役立ててほしい。また、摂大生として誠実な態度で質疑応答に臨んでほしい。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>水野講師室（７号館３階）</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>講師・内容は都合により変更することもある。
教科書：各回の講師が必要に応じ、プリント配布する。
参考書：各回の講師が必要に応じ、授業中に示す。
各回のミニッツペーパー及び中間レポートに対するフィードバックは講義内で行う。</td></tr>
</table>

科目名	インターンシップⅠ	科目名（英文）	Internship Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井　三恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JCA2506a3		

授業概要・目的	この科目を通じて、学生は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に　1）仕事の社会における役割　2）仕事の成果とは　3）仕事の責任と充実感　を直接肌で感じること　が期待される。 インターンシップⅠでは事前学修として、ビジネス組織のあり方、マナーや常識を習得する。 なお、講義では担当者の民間企業、自治体、NPO 法人での業務及び海外を含む高等教育での教育ならびに経営の経験に基づいて議論を進めることもある。 SDG s 4-4 SDG s 8-6
到達目標	この授業を通じて学生には、就職活動の流れとインターンシプの位置づけ、意義について説明することができ、インターンシップへ意欲的に自信をもって参加するためのマナーと心がまえを身につけるようになることが期待される。
授業方法と留意点	インターンシップの現場につながる講義（演習を含む）であることから、能動的に、真摯に参加することを求める。
科目学習の効果（資格）	インターンシップへ行く目的を理解し、その準備ができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	インターンシップとは	・授業オリエンテーション ・学生と社会人の違いを理解する ・インターンシップの目的を考える	・事前学修：インターンシップとは何かについて考えること（１時間） ・事後学修：配付した資料を見直して講義を振り返ること（２時間）
2	企業組織・ビジネスの理解	・組織の形態を知る ・ビジネスへの理解を深める	・事前学修：自らの興味のあるビジネスについて調べておくこと（３時間） ・事後学修：配付した資料を見直して講義を振り返ること（１時間）
3	実習参加企業について	・産業の分類を知る ・業種、内容、インターン時期等、インターン受入企業等の組織について知る	・事前学修：興味のある会社や自治体などの組織について調べること（１時間） ・事後学修：インターン受入企業等の組織のリストに目を通し、希望する実習先を吟味すること（３時間）
4	効果的なプレゼンテーションとは	・効果的なプレゼンテーションの仕方、注意点などを知る	・事前学修：効果的なプレゼンテーションについて考えること（１時間） ・事後学修：配付された資料を見直し講義を振り返ること（３時間）
5	課題のプレゼンテーション①	・第４回目の課題をプレゼンテーションする	・事前学修：第４回目の課題について、プレゼンテーションの準備をすること（３時間） ・事後学修：プレゼンテーションのポイントをまとめる（１時間）
6	社会人のマナー①	・社会人としての心構えを知る ・身だしなみ	・事前学修：マナーがなぜ大切なのかを考えること（２時間） ・事後学修:配付されたテキストを精読すること（２時間）
7	社会人のマナー②	・文書でのコミュニケーション	・事前学修：効果的なコミュニケーションについて考えること（２時間） ・事後学修：授業以降は丁寧なメールを心がけ、文書での適切な発信方法を試みること（２時間）
8	社会人のマナー③	・口頭でのコミュニケーション	・事前学修：効果的なコミュニケーションについて考えること（２時間） ・事後学修：マナーの大切さを再度考えること（２時間）
9	履歴書を記入する	・インターンシップ用の履歴書を記入する	・事前学修：履歴書を書く準備をしておくこと（２時間） ・事後学修：講義を振り返り、履歴書を下書きすること（２時間）
10	グループワーク①	・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う	・事前学修：グループ内の自分の役割を考えること（２時間） ・事後学修：グループで課題に取り組むこと（２時間）
11	グループワーク②	・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う	・事前学修：グループでプレゼンテーションを行う準備をすること（２時間） ・事後学修：自グループ及び他グループのプレゼンテーションを振り返ること（２時間）
12	事前訪問について	・事前訪問のマナーと準備について	・事前学修：インターン先の企業等の組織のことをもう一度調べること（２時間） ・事後学修：訪問時のマナーについておさらいをすること（２時間）
13	課題のプレゼンテーション②	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること（２時間） ・事後学修：プレゼンテーションの内容を内省すること（２時間）
14	課題のプレゼンテーション③	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること（２時間） ・事後学修：プレゼンテーションの内容を内省する

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><td></td><td></td><td></td><td>こと（２時間）</td></tr>
<tr><td>15</td><td>振り返りとまとめ</td><td>・授業を振り返る
・インターンシップの目的を再考する</td><td>・事前学修：インターンシップⅠで学んだことをまとめること（２時間）
・事後学修：インターンシップで何を身につけたいかをもう一度考えること（３時間）</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td>この科目を履修する学生は、「インターンシップⅡ（企業等の組織での就業体験）」を履修することが望まれる。</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>各課題 55%とレポート 45%（企業研究の PPT と企業研究レポート 25%、最終レポート 20%）を総合的に評価する。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>インターシップの流れは以下のとおりである。
※４月下旬にリスト公開→５月上旬に希望企業等の組織の絞り込み→５月下旬に就職部から受け入れ可否の回答→６月末頃に事前訪問→８月上旬からインターンシップ開始（予定）

※インターンシップ先の都合により、流れの日程等が変更する場合もある。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>石井教授室（７号館５階）</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>教科書・・・必要に応じてレジュメを配布
参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示
服　装・・・立ち居振る舞いを学ぶために、原則、スーツ着用が好ましい。

課題、レポート等は Teams に提出し、Teams 内で返却する。また、全体へのフィードバックは授業内で行う。

予習・復習に毎回２時間以上取り組むこと。グループワーク、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で６０時間程度を目安とする。

※インターンシップ先の都合により、インターンシップ参加期間等の日程が変更される場合もある。</td></tr>
</table>

科目名	インターンシップⅡ	科目名（英文）	Internship II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井　三恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JCA3507a3		

授業概要・目的	インターンシップの目的は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に社会における仕事の役割、仕事の成果、仕事に対する責任と充実感を肌で感じることである。
到達目標	この授業を通じて学生には、インターンシップ先での実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択肢や可能性について主体的に考えることができるとともに、講義での学び、経験を通じて、職業観を涵養し、それを他者に伝えるようになることが期待される。
授業方法と留意点	「事前学修→インターンシップ実習→事後学修」という流れで実施するので、必ず日程を確認しておくこと。 実習中は、大学の代表、そして実習先の一員としての意識を持って参加すること。 事前学修・事後学修はすべてスーツ着用のこと。 受講態度や規則等を著しく逸脱し、注意しても改善が見られない場合は、実習参加を許可しない場合もあることを理解しておく。 なお、直前学修および実習の有無・形態に関してはインターンシップⅠで伝達する。 Covid-19の影響により、実習が中止になることもある。
科目学習の効果（資格）	就職活動や将来を考えるうえでの貴重な出会いや気づきを得ることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	直前学修① ６月17日（土）　３限目（予定）	・インターンシップの心構え ・今後のスケジュールの確認 ＊スーツ着用のこと	・事前学習：社会人を意識したスーツ着用し、身だしなみを自分なりに整えてくること（１時間）
2	直前学修② ６月17日（土）　４限目（予定）	・報告書の書き方、注意点/マナー ・身だしなみの最終確認 ・グループワークとプレゼンテーション	・事前学習：マナーについて考えること(0.5時間) ・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
3	インターンシップ実習	・夏季休暇中に１０日間以上（原則）	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
4	インターンシップ実習	・夏季休暇中に１０日間以上（原則）	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
5	インターンシップ実習	・夏季休暇中に１０日間以上（原則）	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
6	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上（原則）	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
7	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上（原則）	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
8	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上（原則）	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
9	体験報告書の作成・提出・指導	・報告書提出 ・インターンシップ担当教員における報告書のチェックと指導 （担当教員への提出と教務課へ電子データを提出）	・事後学修：事前学修②の通りに報告書を作成するが、提出前に必ず推敲を行い、提出期限を厳守すること（２時間）
10	事後学修① ９月16日（土）　３限目（予定）	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学修：個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること (1.5時間)
11	事後学修② ９月16日（土）　４限目（予定）	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学修：個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(1.5時間)
12	事後学修③ ９月30日（土）　３限目（予定）	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学習：代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(1.5時間) ・事後学修：聴講者は他者の発表を振り返ること(1.5時間)
13	事後学修④ ９月30日（土）　４限目（予定）	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学修：代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(1.5時間) ・事後学修：聴講者は他者の発表を振り返ること(1.5時間)
14	事後学修⑤ 10月７日（土）　３限目（予定）	・インターンシップを振り返る （実習記録簿の提出）	・事前学習：実習記録簿を見直してくること（１時間）
15	事後学修⑥ 10月７日（土）　４限目（予定）	・インターンシップを振り返る	・事後学修：インターンシップの講義の全体を振り返ること（１時間）

<table>
<tr><td>関連科目</td><td>インターンシップⅠ</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>企業による報告書（20%）、体験報告書など提出物（40%）、発表を含む授業態度（投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性、グループワークの参加姿勢など）（40%）を総合的に評価する。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>１.「インターンシップⅠ」を必ず履修すること。
２.「インターンシップⅠ」の履修には、ガイダンスに出席し、履修申し込み書を提出する必要がある。
履修希望者が多い場合は、選考することもある。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>石井教授室（７号館５階）</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>教科書・・・必要に応じてレジュメを配布する。
参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示する。

課題、報告書等は指定されたところへ提出する。また、ここの発表や全体へのフィードバックは授業内で行う。

なお、振り返りの課題（体験報告書、報告プレゼンテーションのためのスライド作成など）は３時間以上かけて仕上げること。

※事前事後学修に出席する際は、必ずスーツを着用してくること。</td></tr>
</table>

科目名	日本語能力開発Ⅰ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	学籍番号下３桁 001～070
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	筒井　大祐
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1508a3		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	この授業を通じて学生には、適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。本講義は、文章作成を一方的に講義するのではなく、受講者が実際に文章を書きながら、文章作成を習得することを目指す。そのため、講義内に練習問題や課題の作成を課す。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入・講義の進め方について	授業の目的、進め方の説明	1時間の事前事後学習を目安とする。
2	わかりやすい文章とは何か	わかりやすい文章とは何かを考える	1時間の事前事後学習を目安とする。
3	文章の書き方１	レポート・論文の基本事項を確認する	1時間の事前事後学習を目安とする。
4	文章の書き方２	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	1時間の事前事後学習を目安とする。
5	事実と意見	事実と意見、説明文の書き方	1時間の事前事後学習を目安とする。
6	【課題１】意見文	意見文を書く	1時間の事前事後学習を目安とする。
7	段落	レポートなどの文章構成を学ぶ	1時間の事前事後学習を目安とする。
8	文章を引用方法（直接引用）	文章を引用する（直接引用）	1時間の事前事後学習を目安とする。
9	文章の引用方法（関節引用・要約）	文章を引用する（関節引用） 要約	1時間の事前事後学習を目安とする。
10	課題１のフィードバック	意見を書く：フィードバック	1時間の事前事後学習を目安とする。
11	【課題２】のレポートの構成を考える	問題提起 テーマに関する資料を集める	1時間の事前事後学習を目安とする。
12	【課題２】資料を引用し、意見を書く	問題提起を行ったうえで、資料を引用して意見を書く	1時間の事前事後学習を目安とする。
13	【課題３】のテーマ説明	【課題３】のレポートのテーマの説明、構成を考える	1時間の事前事後学習を目安とする。
14	【課題３】の作成	論説文を書く	レポートを作成する
15	文章作成に関するまとめ	これまでの文章作成に関して、まとめを行う	これまでの復習

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題２回（20%×2）、レポート（30%）、授業に取り組む姿勢・小テストなど（30%）により評価する。 提出が必須の課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語（話し言葉）と、レポートなどで書く日本語（書き言葉）は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、文章表現の方法を勉強していきましょう。
担当者の研究室等	7 号館２階　非常勤講師室
備考	提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	日本語能力開発Ⅰ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	学籍番号下3桁 071～140
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	南谷　静香
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1508a3		

授業概要・ 目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	この授業を通じて学生には、大学生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得することが期待される。
授業方法と 留意点	教科書に沿って、講義形式で行う。 毎回授業開始時に前回授業の復習と日本語表現の小テストを行うため、遅刻をしないこと。また、講義中はスマートフォンは鞄の中にしまっておくこと。 指示した課題を必ず提出すること。課題およびレポート未提出の場合、単位の取得を認めません。 オンライン授業については、Teamsによるリアルタイム方式で行い、課題の提出はWeb Folderとする。
科目学習の 効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 授業の内容、進め方について 「はじめに」 文章で伝えるということについて	講義	予習として教科書の「はじめに」を読む。 授業後は、教科書を用いて授業の内容を復習する（30分程度）
2	「文章の書き方」 レポート・論文の基本事項 わかりやすい文章の書き方	講義	予習として教科書の第1・2章を読む。 授業後は、教科書を用いて授業の内容を復習する（30分程度）
3	「事実と意見」 事実と意見の書き分け 説明文とは何か	講義	予習として教科書の第3章を読む。 授業後は、教科書を用いて授業の内容を復習する（30分程度）
4	課題① ある事物について、論理的に説明する	課題の作成・提出	予習として教科書の「はじめに」から第3章までをもう一度読む。 授業後は、教科書を用いて授業の内容を復習する（30分程度）
5	「構成」 レポートなどの文章の構成を学ぶ	講義	予習として教科書の第5章を読む。 授業後は、教科書を用いて授業の内容を復習する（30分程度）
6	「要約」 要旨の要約の作成方法を知る	講義	予習として教科書の第6章を読む。 授業後は、教科書を用いて授業の内容を復習する（30分程度）
7	フィードバック 課題①の返却と反省 「要約」 要約文の作成	フィードバックと実践（要約文の作成）	予習として教科書の第6章を読む。 授業後は、教科書を用いて授業の内容を復習する（30分程度） また、返却された課題を見直す（合計1時間程度）
8	「文章を引用する」 文章を引用する意方法を学ぶ	講義	予習として教科書の第7章を読む。 授業後は、教科書を用いて授業の内容を復習する（30分程度）
9	「図表を引用する」 図表を引用する方法を学ぶ	講義	予習として教科書の第8章を読む。 授業後は、教科書を用いて授業の内容を復習する（30分程度）
10	「意見を述べる」 引用をふまえた考察に基づいて意見を述べる	講義	予習として教科書の第9章を読む。 授業後は、教科書を用いて授業の内容を復習する（30分程度）
11	課題② 資料を引用して意見を述べる	課題の作成・提出	予習として教科書の第7～9章をもう一度読む。 授業後は、教科書を用いて授業の内容を復習する（30分程度）
12	小テストの復習テスト	復習テスト	返却した小テストの内容を復習してテストに臨む（1時間程度）
13	フィードバック 課題②の返却と反省	フィードバック	予習として教科書の第7・8章をもう一度読む。 授業後は、教科書を用いて授業の内容を復習する（30分程度） 返却された課題を見直す（合計1時間程度）
14	レポート これまでの講義の内容を踏まえて論説文を書く	レポートの作成・提出	予習として教科書を「はじめに」から第12章まで読む。 授業後は、「日本語文章表現確認表」を見て復習する。
15	フィードバック レポートの反省点	フィードバック	予習として教科書をすべて読み返す。 ここまでやってきた内容を総括して復習する（1時間程度）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学編	
2			
3			

<table>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>課題 2 回（20%×２）、レポート（30%）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により総合的に評価する。
課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>口語表現と文章表現の違いを理解し、読み手を意識したわかりやすい文章を書くスキルを身につけてください。
論理的な文章を書く能力は、学生生活でのレポートや論文はもちろんのこと、社会人になってからも必要なものです。積極的に課題に取り組み、実践的な能力を身につけるよう務めましょう。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>7 号館 2 階　非常勤講師室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>前もって教科書の該当箇所をしっかり読んでから講義にのぞむこと。
返却された小テストはしっかりと復習すること。
質問等は出講時に非常勤講師室にて対応。遠隔授業になった場合は、Gmail あるいは Teams で対応。</td></tr>
</table>

科目名	日本語能力開発Ⅰ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	学籍番号下3桁211～
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	南谷　静香
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1508a3		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	この授業を通じて学生には、大学生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得することが期待される。
授業方法と留意点	教科書に沿って、講義形式で行う。 毎回授業開始時に前回授業の復習と日本語表現の小テストを行うため、遅刻をしないこと。また、講義中はスマートフォンは鞄の中にしまっておくこと。 指示した課題を必ず提出すること。課題およびレポート未提出の場合、単位の取得を認めません。 オンライン授業については、Teamsによるリアルタイム方式で行い、課題の提出はWeb Folderとする。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 授業の内容、進め方について 「はじめに」 文章で伝えるということについて	講義	予習として教科書の「はじめに」を読む。 授業後は、教科書を用いて授業の内容を復習する（30分程度）
2	「文章の書き方」 レポート・論文の基本事項 わかりやすい文章の書き方	講義	予習として教科書の第1・2章を読む。 授業後は、教科書を用いて授業の内容を復習する（30分程度）
3	「事実と意見」 事実と意見の書き分け 説明文とは何か	講義	予習として教科書の第3章を読む。 授業後は、教科書を用いて授業の内容を復習する（30分程度）
4	課題① ある事物について、論理的に説明する	課題の作成・提出	予習として教科書の「はじめに」から第3章までをもう一度読む。 授業後は、教科書を用いて授業の内容を復習する（30分程度）
5	「構成」 レポートなどの文章の構成を学ぶ	講義	予習として教科書の第5章を読む。 授業後は、教科書を用いて授業の内容を復習する（30分程度）
6	「要約」 要旨の要約の作成方法を知る	講義	予習として教科書の第6章を読む。 授業後は、教科書を用いて授業の内容を復習する（30分程度）
7	フィードバック 課題①の返却と反省 「要約」 要約文の作成	フィードバックと実践（要約文の作成）	予習として教科書の第6章を読む。 授業後は、教科書を用いて授業の内容を復習する（30分程度） また、返却された課題を見直す（合計1時間程度）
8	「文章を引用する」 文章を引用する意方法を学ぶ	講義	予習として教科書の第7章を読む。 授業後は、教科書を用いて授業の内容を復習する（30分程度）
9	「図表を引用する」 図表を引用する方法を学ぶ	講義	予習として教科書の第8章を読む。 授業後は、教科書を用いて授業の内容を復習する（30分程度）
10	「意見を述べる」 引用をふまえた考察に基づいて意見を述べる	講義	予習として教科書の第9章を読む。 授業後は、教科書を用いて授業の内容を復習する（30分程度）
11	課題② 資料を引用して意見を述べる	課題の作成・提出	予習として教科書の第7～9章をもう一度読む。 授業後は、教科書を用いて授業の内容を復習する（30分程度）
12	小テストの復習テスト	復習テスト	返却した小テストの内容を復習してテストに臨む（1時間程度）
13	フィードバック 課題②の返却と反省	フィードバック	予習として教科書の第7・8章をもう一度読む。 授業後は、教科書を用いて授業の内容を復習する（30分程度） 返却された課題を見直す（合計1時間程度）
14	レポート これまでの講義の内容を踏まえて論説文を書く	レポートの作成・提出	予習として教科書を「はじめに」から第12章まで読む。 授業後は、「日本語文章表現確認表」を見て復習する。
15	フィードバック レポートの反省点	フィードバック	予習として教科書をすべて読み返す。 ここまでやってきた内容を総括して復習する（1時間程度）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学編	
2			
3			

<table>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>課題 2 回（20%×２）、レポート（30%）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により総合的に評価する。
課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>口語表現と文章表現の違いを理解し、読み手を意識したわかりやすい文章を書くスキルを身につけてください。
論理的な文章を書く能力は、学生生活でのレポートや論文はもちろんのこと、社会人になってからも必要なものです。積極的に課題に取り組み、実践的な能力を身につけるよう務めましょう。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>7 号館 2 階　非常勤講師室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>前もって教科書の該当箇所をしっかり読んでから講義にのぞむこと。
返却された小テストはしっかりと復習すること。
質問等は出講時に非常勤講師室にて対応。遠隔授業になった場合は、Gmail あるいは Teams で対応。</td></tr>
</table>

科目名	日本語能力開発Ⅰ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	学籍番号下３桁 141～210
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	澤野　加奈
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1508a3		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する力」を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	この授業を通じて学生には、適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方１	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする
2	文章の書き方２	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	1 時間の事前学習を目安とする
4	【課題１】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	1 時間の事前学習を目安とする
5	構成・要約	レポートなどの文章構成・要約を学ぶ	1 時間の事前学習を目安とする
6	フィードバック	課題１のフィードバック	課題１を見直す 1 時間の事前学習を目安とする
7	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	1 時間の事前学習を目安とする
8	文章の引用を練習する	文章の引用を練習する	1 時間の事前学習を目安とする
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	1 時間の事前学習を目安とする
10	引用の復習 意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	1 時間の事前学習を目安とする
11	【課題２】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習 1 時間の事前学習を目安とする
12	レポートの書き方１・２	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	1 時間の事前学習を目安とする
13	フィードバック	課題２のフィードバック	課題２を見直す 1 時間の事前学習を目安とする
14	【 レポート 】	レポートを提出する	レポートを作成する 1 時間の事前学習を目安とする
15	レポートの講評 小テストの復習	レポートについて講評する 小テストの復習テスト	これまでの復習 1 時間の事前学習を目安とする

関連科目	キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学　日本語文章表現の会	和泉書院
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題２回（20%×2）、レポート（30%）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により総合的に評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	事前・事後学習の総時間の目安は、１５時間。 提出課題については、個別にフィードバックをします。

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	学籍番号下３桁 071～140
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	南谷　静香
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1509a3		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活で必要な文章力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	この授業を通じて学生には、次の二点ができるようになることが期待される。 ①適切な方法を用いて、論理的な文章を書くこと。 ②グループで話し合い、まとめた内容を整理して、論理的に表現すること。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、グループワーク、プレゼンテーションなどの課題に取り組む。プレゼンテーション不参加の場合は単位取得を認めない。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 レポートの書き方（１）	授業の目的、進め方の説明 レポートの基本的ルール・構成の復習	１時間の事前事後学習を目安とする。
2	レポートの書き方（２）	資料引用の復習（文章の引用） 考察・意見の述べ方を確認する	１時間の事前事後学習を目安とする。
3	レポートの書き方（３） 敬語の基礎	資料引用の復習（図表の引用） 敬語の種類と用法を学ぶ	１時間の事前事後学習を目安とする。
4	【課題１】レポート	資料を引用して意見を述べる文章を書く	１時間の事前事後学習を目安とする。
5	課題１のフィードバック（１） ディスカッションの準備（１）	課題１のフィードバック ディスカッション資料の要約や問題点の整理を行う。	ディスカッションの準備。 １時間の事前事後学習を目安とする。
6	課題１のフィードバック（２） ディスカッション（１）	課題１のフィードバック グループ分けをしてディスカッションを行う	ディスカッションの準備。 １時間の事前事後学習を目安とする。
7	課題１のフィードバック（３） ディスカッション（２） プレゼンテーションの準備（１）	課題１のフィードバック プレゼンテーション資料の作成を行う	プレゼンテーションの準備。 １時間の事前事後学習を目安とする。
8	課題レポート２（以下、対面講義）	ディスカッションした内容をレポートにまとめる。	レポートの準備。 １時間の事前事後学習を目安とする。
9	【プレゼンテーション（1）】	グループごとにプレゼンテーションを行う	他のグループの発表資料を分析しておく。 １時間の事前事後学習を目安とする。
10	【プレゼンテーション（2）】	グループごとにプレゼンテーションを行う	他のグループの発表資料を分析しておく。 １時間の事前事後学習を目安とする。
11	【課題２】経過のまとめ 課題２の添削	ディスカッションの経過を箇条書きでまとめる 課題２を添削して返却する	ディスカッションの復習。 １時間の事前事後学習を目安とする。
12	【課題３】レポート	発表の内容をレポート形式でまとめる	これまでの復習。１時間の事前事後学習を目安とする。
13	課題３のフィードバック（１） 敬語の復習	課題３のフィードバック 敬語の練習問題を解く	レポートの書き方の復習 敬語の復習
14	課題３のフィードバック（２） 敬語の復習	課題３のフィードバック 敬語の練習問題を解く	レポートの書き方の復習 敬語の復習
15	課題３のフィードバック（３） 【復習テスト】	課題３のフィードバック 小テストの復習テスト	レポートの書き方の復習 小テストの復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学　日本語文章表現の会	和泉書院
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題３回（20%、20%、30%）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により総合的に評価する。課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。また、プレゼンテーションも必ず参加すること。不参加の場合、単位の取得を認めない。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語（話し言葉）と、レポートなどで書く日本語（書き言葉）は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語（話し言葉、書き言葉）と向き合ってください。

担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回 1 時間程度はかけること。 フィードバックは、講義内で行う。

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	学籍番号下３桁 001～070
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	澤野　加奈
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1509a3		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めるようになることが期待される。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い、まとめた内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、グループワーク、プレゼンテーションなどの課題に取り組む。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 レポートの書き方（１）	授業の目的、進め方の説明 レポートの基本的ルール・構成の復習	１時間の事前事後学習を目安とする。
2	レポートの書き方（２）	資料引用の復習（文章の引用） 考察・意見の述べ方を確認する	１時間の事前事後学習を目安とする。
3	レポートの書き方（３）	資料引用の復習（図表の引用）	１時間の事前事後学習を目安とする。
4	【課題１】レポート	資料を引用して意見を述べる文章を書く	１時間の事前事後学習を目安とする。
5	課題１のフィードバック ディスカッションの準備	課題１のフィードバック ディスカッション資料の要約や問題点の整理を行う。	ディスカッションの準備。 １時間の事前事後学習を目安とする。
6	ディスカッション（１）	グループ分けをしてディスカッションを行う	ディスカッションの準備。 １時間の事前事後学習を目安とする。
7	ディスカッション（２）	グループでディスカッションを行う	ディスカッションの準備。 １時間の事前事後学習を目安とする。
8	課題２ 中間報告文	ディスカッションした内容を報告文にまとめる。	報告文の準備。 １時間の事前事後学習を目安とする。
9	フィードバック レジュメの作成	報告文のフィードバック レジュメの作成を行なう	１時間の事前事後学習を目安とする。
10	リハーサル	グループごとにリハーサルを行う	１時間の事前事後学習を目安とする。
11	プレゼンテーション（１）	グループ単位でプレゼンテーションを行う	１時間の事前事後学習を目安とする。
12	プレゼンテーション（２）	グループ単位でプレゼンテーションを行う	１時間の事前事後学習を目安とする。
13	課題３報告文	発表内容を報告文にまとめる	１時間の事前事後学習を目安とする。
14	課題３のフィードバック メールの書き方	課題３のフィードバック メールの書き方の練習	１時間の事前事後学習を目安とする。
15	【復習テスト】	小テストの復習テスト	１時間の事前事後学習を目安とする。小テストの復習

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学　日本語文章表現の会	和泉書院
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題３回（20%、20%、30%）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により総合的に評価する。課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語（話し言葉）と、レポートなどで書く日本語（書き言葉）は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語（話し言葉、書き言葉）と向き合ってください。
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回１時間程度はかけること。 フィードバックは、講義内で行う。

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	学籍番号下３桁 211～
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	南谷　静香
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1509a3		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活で必要な文章力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	この授業を通じて学生には、次の二点ができるようになることが期待される。 ①適切な方法を用いて、論理的な文章を書くこと。 ②グループで話し合い、まとめた内容を整理して、論理的に表現すること。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、グループワーク、プレゼンテーションなどの課題に取り組む。プレゼンテーション不参加の場合は単位取得を認めない。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 レポートの書き方（１）	授業の目的、進め方の説明 レポートの基本的ルール・構成の復習	１時間の事前事後学習を目安とする。
2	レポートの書き方（２）	資料引用の復習（文章の引用） 考察・意見の述べ方を確認する	１時間の事前事後学習を目安とする。
3	レポートの書き方（３） 敬語の基礎	資料引用の復習（図表の引用） 敬語の種類と用法を学ぶ	１時間の事前事後学習を目安とする。
4	【課題１】レポート	資料を引用して意見を述べる文章を書く	１時間の事前事後学習を目安とする。
5	課題１のフィードバック（１） ディスカッションの準備（１）	課題１のフィードバック ディスカッション資料の要約や問題点の整理を行う。	ディスカッションの準備。 １時間の事前事後学習を目安とする。
6	課題１のフィードバック（２） ディスカッション（１）	課題１のフィードバック グループ分けをしてディスカッションを行う	ディスカッションの準備。 １時間の事前事後学習を目安とする。
7	課題１のフィードバック（３） ディスカッション（２） プレゼンテーションの準備（１）	課題１のフィードバック プレゼンテーション資料の作成を行う	プレゼンテーションの準備。 １時間の事前事後学習を目安とする。
8	課題レポート２（以下、対面講義）	ディスカッションした内容をレポートにまとめる。	レポートの準備。 １時間の事前事後学習を目安とする。
9	【プレゼンテーション（1）】	グループごとにプレゼンテーションを行う	他のグループの発表資料を分析しておく。 １時間の事前事後学習を目安とする。
10	【プレゼンテーション（2）】	グループごとにプレゼンテーションを行う	他のグループの発表資料を分析しておく。 １時間の事前事後学習を目安とする。
11	【課題２】経過のまとめ 課題２の添削	ディスカッションの経過を箇条書きでまとめる 課題２を添削して返却する	ディスカッションの復習。 １時間の事前事後学習を目安とする。
12	【課題３】レポート	発表の内容をレポート形式でまとめる	これまでの復習。１時間の事前事後学習を目安とする。
13	課題３のフィードバック（１） 敬語の復習	課題３のフィードバック 敬語の練習問題を解く	レポートの書き方の復習 敬語の復習
14	課題３のフィードバック（２） 敬語の復習	課題３のフィードバック 敬語の練習問題を解く	レポートの書き方の復習 敬語の復習
15	課題３のフィードバック（３） 【復習テスト】	課題３のフィードバック 小テストの復習テスト	レポートの書き方の復習 小テストの復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学　日本語文章表現の会	和泉書院
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題３回（20%、20%、30%）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により総合的に評価する。課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。また、プレゼンテーションも必ず参加すること。不参加の場合、単位の取得を認めない。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語（話し言葉）と、レポートなどで書く日本語（書き言葉）は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語（話し言葉、書き言葉）と向き合ってください。

担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回 1 時間程度はかけること。 フィードバックは、講義内で行う。

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	学籍番号下３桁 141～210
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	筒井　大祐
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1509a3		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活で必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	この授業を通じて学生には、適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができ、また、グループで話し合い、発表した内容を整理して、論理的に表現することができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。３回の課題を提出する。課題未提出の場合は、単位の取得が認められないので注意すること、プレゼンテーションに不参加の場合も単位の取得を認めない。グループワークが中心の講義なので、意欲的に参加すること。
科目学習の効果（資格）	大学生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入	授業の目的、進め方の説明	1時間の事前事後学習を目安とする。
2	敬語表現	敬語の種類と用法を学ぶ	敬語の復習、1時間の事前事後学習を目安とする。
3	グループワーク１	グループワークの進め方、テーマの説明、ディスカッションの前に個人の意見をまとめる	グループワークのテーマについて考える。1時間の事前事後学習を目安とする。
4	グループワーク１の続き	テーマに関して、グループでディスカッションをする	ディスカッションを振り返る。1時間の事前事後学習を目安とする。
5	グループワーク１の続き	テーマに関して、グループでディスカッションをする	ディスカッションを振り返る。1時間の事前事後学習を目安とする。
6	グループワーク１の続き 課題１	グループワーク１に関するレポート作成	ディンスカッションを振り返る。1時間の事前事後学習を目安とする。
7	グループワーク２	テーマの説明、ディスカッションの前に個人の意見をまとめる	ディスカッションの準備テーマの下調べ。1時間の事前事後学習を目安とする。
8	グループワーク２	グループでテーマに関してディスカッションする、ディスカッションの内容をまとめる	プレゼンテーション資料の準備。1時間の事前事後学習を目安とする。
9	グループワーク２ グループごとのプレゼンテーション	グループでディスカッションの内容をプレゼンテーションする	グループワーク、ディンスカッションを振り返る。1時間の事前事後学習を目安とする。
10	グループワーク２ 課題２	グループワーク２に関するレポート作成	グループワーク、ディンスカッションを振り返る。1時間の事前事後学習を目安とする。
11	グループワーク３	テーマの説明、ディスカッションの前に個人の意見をまとめる	発表の準備。1時間の事前事後学習を目安とする。
12	グループワーク３	グループでテーマに関してディスカッションする、ディスカッションの内容をまとめる	発表の準備と反省。1時間の事前事後学習を目安とする。
13	グループワーク３	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う。	発表の準備と反省。1時間の事前事後学習を目安とする。
14	グループワーク３ 課題３	グループワーク 3 に関するレポート作成	グループワーク、ディンスカッションを振り返る。1時間の事前事後学習を目安とする。
15	課題フィードバック まとめ	課題フィードバック	グループワーク、ディスカッションを振り返る。1時間の事前事後学習を目安とする。

関連科目	キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題（２0%、20%、30%）、授業への取り組む姿勢・小テスト・復習テスト（30%）により評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。やむを得ない場合を除いて、プレゼンテーションに不参加の場合も単位の取得を認めない。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のために、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	7号館2階　非常勤講師室
備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回１時間程度はかけること。

科目名	数的能力開発Ⅰ	科目名（英文）	Development of Arithmetic Ability I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	津村　忠
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JKY2371a1		

授業概要・目的	数的分野（算数・数学）を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。 前期は、数的能力の基礎を中心に学習します。算数・数学の基礎知識、公式など、使わないと忘れがちな内容にも取り組みます。中学や高校の授業で数学が嫌い・苦手だったという人の学び直しにも適しています。
到達目標	この授業を通して学生には、授業で取り組んだ数的問題を概ね解けるようになっていることが求められる。
授業方法と留意点	まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。 後期に開講される数的能力開発Ⅱでは、応用力が必要となる実践的な内容を扱います。Ⅰ・Ⅱの両科目の履修を推奨します。 なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の実力テスト
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
2	計数問題①	割合と比	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
3	計数問題②	割合の応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
4	計数問題③	損益算	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
5	計数問題④	速度算①	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
6	計数問題⑤	速度算②	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
7	総復習①	計数問題復習	今まで学習した問題全てを事前に復習（2時間）
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習（2時間）
9	論理問題①	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
10	論理問題②	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
11	論理問題③	確率	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
12	論理問題④	表の読み取り	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
13	論理問題⑤	推論①	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
14	論理問題⑥	推論②	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
15	総復習②	論理問題復習	全ての問題を事前に復習（2時間）

関連科目	数的能力開発Ⅱ、キャリアデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS出版事業部	PS出版事業部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、Smart SPI 10%
学生へのメッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。 毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週1時間程度の予習復習を必ず行ってください。
担当者の研究室等	7号館3階　教育イノベーションセンター
備考	Teamsコードは、コピー&ペーストでの入力をオススメします。 実施した小テスト、中間テストのフィードバック（解答・解説）はポータルサイトに掲示、 あるいは次回授業内で実施する予定です。 テキストのほか、一冊ノートを作ることを奨励します。

科目名	数的能力開発Ⅰ	科目名（英文）	Development of Arithmetic Ability I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	山岡　亮太
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JKY2371a1		

授業概要・目的	数的分野（算数・数学）を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。 前期は、数的能力の基礎を中心に学習します。算数・数学の基礎知識、公式など、使わないと忘れがちな内容にも取り組みます。中学や高校の授業で数学が嫌い・苦手だったという人の学び直しにも適しています。
到達目標	この授業を通して、授業で取り組んだ数的問題を概ね解けるようになっていることが求められる。
授業方法と留意点	まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。 後期に開講される数的能力開発Ⅱでは、応用力が必要となる実践的な内容を扱います。Ⅰ・Ⅱの両科目の履修を推奨します。 なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の実力テスト
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
2	計数問題①	割合と比	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
3	計数問題②	割合の応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
4	計数問題③	損益算	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
5	計数問題④	速度算①	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
6	計数問題⑤	速度算②	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
7	総復習①	計数問題復習	今まで学習した問題全てを事前に復習（2時間）
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習（2時間）
9	論理問題①	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
10	論理問題②	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
11	論理問題③	確率	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
12	論理問題④	表の読み取り	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
13	論理問題⑤	推論①	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
14	論理問題⑥	推論②	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
15	総復習②	論理問題復習	全ての問題を事前に復習（2時間）

関連科目	数的能力開発Ⅱ、キャリアデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS出版事業部	PS出版事業部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト　40%、中間テスト・最終テスト　50%、SmartSPI　10%
学生へのメッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。 毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週1時間程度の予習復習を必ず行ってください。
担当者の研究室等	7号館3階　教育イノベーションセンター
備考	Teamsコードは、コピー&ペーストでの入力をオススメします。 実施した小テスト、中間テストのフィードバック（解答・解説）はmoodleに掲示、あるいは次回授業内で実施する予定です。 テキストのほか、一冊ノートを作ることを奨励します。

科目名	数的能力開発Ⅰ	科目名（英文）	Development of Arithmetic Ability I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	橋本　朗子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JKY2371a1		

授業概要・目的	数的分野（算数・数学）を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。 前期は、数的能力の基礎を中心に学習します。算数・数学の基礎知識、公式など、使わないと忘れがちな内容にも取り組みます。中学や高校の授業で数学が嫌い・苦手だったという人の学び直しにも適しています。
到達目標	この授業を通して、授業で取り組んだ数的問題を概ね解けるようになっていることが求められる。
授業方法と留意点	まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。 後期に開講される数的能力開発Ⅱでは、応用力が必要となる実践的な内容を扱います。Ⅰ・Ⅱの両科目の履修を推奨します。 なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の実力テスト
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
2	計数問題①	割合と比	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
3	計数問題②	割合の応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
4	計数問題③	損益算	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
5	計数問題④	速度算①	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
6	計数問題⑤	速度算②	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
7	総復習①	計数問題復習	今まで学習した問題全てを事前に復習（2時間）
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習（2時間）
9	論理問題①	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
10	論理問題②	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
11	論理問題③	確率	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
12	論理問題④	表の読み取り	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
13	論理問題⑤	推論①	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
14	論理問題⑥	推論②	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
15	総復習②	論理問題復習	全ての問題を事前に復習（2時間）

関連科目	数的能力開発Ⅱ、キャリアデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS出版事業部	PS出版事業部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト　40%、中間テスト・最終テスト　50%、SmartSPI　10%
学生へのメッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。 毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週1時間程度の予習復習を必ず行ってください。
担当者の研究室等	7号館3階　教育イノベーションセンター
備考	Teamsコードは、コピー&ペーストでの入力をオススメします。 実施した小テスト、中間テストのフィードバック（解答・解説）はポータルサイトに掲示、 あるいは次回授業内で実施する予定です。 テキストのほか、一冊ノートを作ることを奨励します。

科目名	数的能力開発Ⅰ	科目名（英文）	Development of Arithmetic Ability I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	西脇　純一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JKY2371a1		

授業概要・目的	数的分野（算数・数学）を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よって、この授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に、受講生の数的能力を高めていくことを目指します。 前期は、数的分野の基礎を中心に学習します。算数・数学の基礎知識、公式など、使わないと忘れがちな内容にも取り組みます。中学や高校の授業で数学が嫌い・苦手だったという人の学び直しにも適しています。
到達目標	この授業を通じて、授業で扱った数的分野の問題が概ね解けるようになる。 一つの目安として、各種採用試験（総合適性検査 SPI・公務員試験等）の数的分野の問題に十分対応できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	①「まずは問題を自力で解く（取り組む）」→②「講師による解説」→③「類題を解く」という流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。 授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。 後期に開講される数的能力開発Ⅱでは、応用力が必要となる実践的な内容を扱います。Ⅰ・Ⅱの両科目の履修を推奨します。 なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学的素養を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	・実力テストの復習（１時間）
2	計算問題①	割合と比	・事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分） ・講義で取り扱った問題の復習（１時間）
3	計算問題②	割合の応用問題	・事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分） ・講義で取り扱った問題の復習（１時間）
4	計算問題③	損益算	・事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分） ・講義で取り扱った問題の復習（１時間）
5	計算問題④	速度算①	・事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分） ・講義で取り扱った問題の復習（１時間）
6	計算問題⑤	速度算②	・事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分） ・講義で取り扱った問題の復習（１時間）
7	総復習①	計数問題復習	・第６回までの講義で学習した問題すべてを事前に復習しておくこと（２時間）
8	中間テスト	中間テスト	・第７回までの講義で学習した問題すべてを事前に復習しておくこと（２時間）
9	論理問題①	集合	・事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分） ・講義で取り扱った問題の復習（１時間）
10	論理問題②	場合の数	・事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分） ・講義で取り扱った問題の復習（１時間）
11	論理問題③	確率	・事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分） ・講義で取り扱った問題の復習（１時間）
12	論理問題④	表の読み取り	・事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分） ・講義で取り扱った問題の復習（１時間）
13	論理問題⑤	推論①	・事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分） ・講義で取り扱った問題の復習（１時間）
14	論理問題⑥	推論②	・事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分） ・講義で取り扱った問題の復習（１時間）
15	総復習②	論理問題復習	・これまでの講義で学習した問題すべてを事前に復習しておくこと（２時間）

関連科目	数的能力開発Ⅱ、キャリアデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「仕事」に使える数学	深沢 真太郎	ダイヤモンド社
2			
3			

評価方法（基準）	「小テスト 40%」+「中間テスト・最終テスト 50%」+「Smart SPI 10%」
学生へのメッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。 毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週１時間程度の復習を必ず行ってください。
担当者の研究室等	ラーニングセンター（２号館２階）
備考	『厳選！数学的リテラシー問題集』をメインテキストに、オリジナル教材を必要に応じて配布します。Smart SPI も利用します。 講義内で実施する「小テスト・中間テスト」のフィードバック（解答・解説）は Moodle に提示、あるいは次回講義内で実施する予定です。

科目名	数的能力開発Ⅱ	科目名（英文）	Development of Arithmetic Ability II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	津村　忠
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JKY2372a1		

授業概要・目的	数的分野（算数・数学）を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。 後期は、より実践的な内容で数的能力を高めます。また、実践的な内容に取り組むことで、思考力が高まることも期待されます。
到達目標	この授業を通して学生には「授業で取り組んだ数的問題を概ね解けるようになること」が求められる。
授業方法と留意点	1 まずは問題を自力で解く(取り組む)→2 講師による解説→3 類題を解く という流れで、問題を確実に理解し、解けるようにして いきます。 授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。 後期に開講される数的能力開発Ⅱでは、応用力が必要となる実践的な内容を扱います。 Ⅰ・Ⅱの両科目の履修を推奨します。 なお、2 回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習（約 1 時間）
2	計数問題①	割合と比	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約 1 時間）
3	計数問題②	割合の応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約 1 時間）
4	計数問題③	損益算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約 1 時間）
5	計数問題④	速度算①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約 1 時間）
6	計数問題⑤	速度算②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約 1 時間）
7	総復習①	計数問題復習	今まで学習した問題全てを事前に復習（約 2 時間）
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習（約 2 時間）
9	論理問題①	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約 1 時間）
10	論理問題②	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約 1 時間）
11	論理問題③	確率	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約 1 時間）
12	論理問題④	表の読み取り	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約 1 時間）
13	論理問題⑤	推論①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約 1 時間）
14	論理問題⑥	推論②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（約 1 時間）
15	総復習②	論理問題復習	全ての問題を事前に復習（約 2 時間）

関連科目	数的能力開発Ⅰ、キャリアデザインⅡ、就職実践基礎

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	厳選!数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「仕事」に使える数学	深沢 真太郎	ダイヤモンド社
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、Smart SPI 10%
学生へのメッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。 毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週 1 時間程度の予習復習を必ず行ってください。
担当者の研究室等	2 号館 2 階　ラーニングセンター（旧学習支援センター）
備考	『厳選!数学的リテラシー問題集』をメインテキストに、オリジナル教材を必要に応じて配布します。Smart SPI も利用します。 講義内で実施する「小テスト・中間テスト」のフィードバック（解答・解説）は Moodle に提示、あるいは次回講義内で実施する予定です。

科目名	数的能力開発Ⅱ	科目名（英文）	Development of Arithmetic Ability II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	山岡　亮太
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JKY2372a1		

授業概要・目的	数的分野（算数・数学）を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。 後期は、より実践的な内容で数的能力を高めます。また、実践的な内容に取り組むことで、思考力が高まることも期待されます。
到達目標	この授業を通し、学生にはで取り組んだ数的問題を概ね解けるようになることが求められる。
授業方法と留意点	まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。 後期に開講される数的能力開発Ⅱでは、応用力が必要となる実践的な内容を扱います。Ⅰ・Ⅱの両科目の履修を推奨します。 なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の実力テスト
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習（1時間）
2	計数問題①	割合と比	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
3	計数問題②	割合の応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
4	計数問題③	損益算	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
5	計数問題④	速度算①	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間））
6	計数問題⑤	速度算②	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
7	総復習①	計数問題復習	今まで学習した問題全てを事前に復習（2時間）
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習（2時間）
9	論理問題①	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
10	論理問題②	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
11	論理問題③	確率	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
12	論理問題④	表の読み取り	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
13	論理問題⑤	推論①	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
14	論理問題⑥	推論②	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
15	総復習②	論理問題復習	全ての問題を事前に復習（2時間）

関連科目	数的能力開発Ⅰ、キャリアデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS出版事業部	PS出版事業部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト　40%、中間テスト・最終テスト　50%、SmartSPI　10%
学生へのメッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。 毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週1時間程度の予習復習を必ず行ってください。
担当者の研究室等	7号館3階　教育イノベーションセンター
備考	Teamsコードは、コピー&ペーストでの入力をオススメします。 授業で実施する小テストや中間テストの解答・解説はmoodleに掲示、あるいは次回授業内などで実施する予定です。 テキストのほか、一冊ノートを作ることを奨励します。

科目名	数的能力開発Ⅱ	科目名（英文）	Development of Arithmetic Ability II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	橋本　朗子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JKY2372a1		

授業概要・目的	数的分野（算数・数学）を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。 後期は、より実践的な内容で数的能力を高めます。また、実践的な内容に取り組むことで、思考力が高まることも期待されます。
到達目標	この授業を通し、学生にはで取り組んだ数的問題を概ね解けるようになることが求められる。
授業方法と留意点	まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。 後期に開講される数的能力開発Ⅱでは、応用力が必要となる実践的な内容を扱います。Ⅰ・Ⅱの両科目の履修を推奨します。 なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の実力テスト
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習（1時間）
2	計数問題①	割合と比	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
3	計数問題②	割合の応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
4	計数問題③	損益算	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
5	計数問題④	速度算①	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間））
6	計数問題⑤	速度算②	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
7	総復習①	計数問題復習	今まで学習した問題全てを事前に復習（2時間）
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習（2時間）
9	論理問題①	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
10	論理問題②	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
11	論理問題③	確率	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
12	論理問題④	表の読み取り	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
13	論理問題⑤	推論①	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
14	論理問題⑥	推論②	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10分）・講義で取り扱った問題の復習（1時間）
15	総復習②	論理問題復習	全ての問題を事前に復習（2時間）

関連科目	数的能力開発Ⅰ、キャリアデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS出版事業部	PS出版事業部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト　40%、中間テスト・最終テスト　50%、SmartSPI　10%
学生へのメッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。 毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週1時間程度の予習復習を必ず行ってください。
担当者の研究室等	7号館3階　教育イノベーションセンター
備考	Teamsコードは、コピー&ペーストでの入力をオススメします。 授業で実施する小テストや中間テストの解答・解説はポータルサイトに掲示する、あるいは次回授業内などで 実施する予定です。 テキストのほか、一冊ノートを作ることを奨励します。

科目名	数的能力開発Ⅱ	科目名（英文）	Development of Arithmetic Ability II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	黒木　和雄
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JKY2372a1		

授業概要・目的	数的分野（算数・数学）を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また、数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よって、この授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に、受講生の数的能力を高めていくことを目指します。 後期は、より実践的な内容で数的能力を高めます。また、実践的な内容に取り組むことで、論理的思考力が高まることも期待されます。
到達目標	この授業を通じて、授業で扱った数的分野の問題が概ね解けるようになる。 一つの目安として、各種採用試験(総合適性検査 SPI・公 務員試験等)の数的分野の問題に十分対応できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	①まずは問題を自力で解く（取り組む）→②講師による解説→③類題を解く　という流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。 授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。 後期に開講される数的能力開発Ⅱでは、応用力が必要となる実践的な内容を扱います。Ⅰ・Ⅱの両科目の履修を推奨します。 なお、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学的素養を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	・実力テストの復習（１時間）
2	計数問題①	割合と比	・事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分） ・講義で取り扱った問題の復習（１時間）
3	計数問題②	割合の応用問題	・事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分） ・講義で取り扱った問題の復習（１時間）
4	計数問題③	損益算	・事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分） ・講義で取り扱った問題の復習（１時間）
5	計数問題④	速度算①	・事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分） ・講義で取り扱った問題の復習（１時間）
6	計数問題⑤	速度算②	・事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分） ・講義で取り扱った問題の復習（１時間）
7	総復習①	計数問題復習	・第６回までの講義で学習した問題すべてを事前に復習しておくこと（２時間）
8	中間テスト	中間テスト	・第７回までの講義で学習した問題すべてを事前に復習しておくこと（２時間）
9	論理問題①	集合	・事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分） ・講義で取り扱った問題の復習（１時間）
10	論理問題②	場合の数	・事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分） ・講義で取り扱った問題の復習（１時間）
11	論理問題③	確率	・事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分） ・講義で取り扱った問題の復習（１時間）
12	論理問題④	表の読み取り	・事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分） ・講義で取り扱った問題の復習（１時間）
13	論理問題⑤	推論①	・事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分） ・講義で取り扱った問題の復習（１時間）
14	論理問題⑥	推論②	・事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分） ・講義で取り扱った問題の復習（１時間）
15	総復習②	論理問題復習	・これまでの講義で学習した問題すべてを事前に復習しておくこと（２時間）

関連科目	数的能力開発Ⅰ、キャリアデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	厳選!数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「仕事」に使える数学	深沢 真太郎	ダイヤモンド社
2			
3			

評価方法（基準）	「小テスト 40%」+「中間テスト・最終テスト 50%」+「Smart SPI 10%」
学生へのメッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。 毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週１時間程度の予習復習を必ず行ってください。
担当者の研究室等	ラーニングセンター（２号館２階）
備考	『厳選!数学的リテラシー問題集』をメインテキストに、オリジナル教材を必要に応じて配布します。「Smart SPI」も利用します。 講義内で実施する「小テスト・中間テスト」のフィードバック（解答・解説）は Moodle に提示、あるいは次回講義内で実施する予定です。

科目名	コミュニケーション能力開発	科目名（英文）	Development of Communication Ability
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	津村　忠
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1512a3		

授業概要・目的	社会で必要なコミュニケーションスキルを習得するための授業です。読む・書く・話す・聴くの４技能は常に求められるスキルですが、それらは「技術」として認識し、訓練することによってより実践的なものに高めることが可能です。この授業では毎回「こちらの意図を的確に伝える」技術や「相手の意図を十分に理解する」技術、すなわち「話す」「聴く」技術を高める練習をします。普段、ディスカッションをしたり、プレゼンテーションを練習する機会はあまりありません。講義を通じてこれら社会で求められる力を身につけたい人は受講をお勧めします。 講師陣はそれぞれが、人材採用・社会人教育の前線で長年実務を経験したり、航空業界で多種多様な価値観触れた経験や、様々な業界で実務経験を持ち、「話す」「聴く」技術を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使えるコミュニケーション能力の獲得を目指します。
到達目標	この授業を通じて学生には、高度なコミュニケーションスキルにより社会活動において自らが望む相応の結果を出せるようになることが期待される。 SDGs4 SDGs10
授業方法と留意点	授業は理論と実践で構成されています。コミュニケーション能力は理論を知ったうえで、アウトプットする訓練が必要です。実践については授業の性質上、ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーションになることもあります。対面時は必ずマスク着用、適度な距離を保つことに留意してください。 社会状況によってはオンラインになることもあります。情報はMicrosoft Teamsにて発信しますので、必ず確認するようにしてください。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	コミュニケーションとは	コミュニケーションの本質を考える。	事前にシラバスを熟読しておくこと。 講義内容を復習し、理解しておくこと。 (目安：30 分)
2	傾聴力、質問力を高める	聴くための技術の基本的な方法と聞いた内容を深めるための質問方法について学ぶ。	事前にコミュニケーションの本質を理解しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安：30 分)
3	ロジカルコミュニケーション	論理的に会話するための基礎を学ぶ。	事前に論理的思考方法の概略を理解しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安：1 時間)
4	コミュニケーションの技法	相手により伝わるための非言語コミュニケーションについて学ぶ。	事前に非言語コミュニケーションの概略を調査・確認しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安：1 時間)
5	プレゼンテーション①	プレゼンテーションの基礎について学ぶ。	事前にプレゼンテーションの概略を調査・確認しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安：1 時間)
6	プレゼンテーション②	プレゼンテーション（個人プレゼンの準備）	事前に前回講義に基づく実践成果を整理しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安：1 時間)
7	プレゼンテーション③	プレゼンテーション（個人プレゼン完成） ※評定あり	事前に前回講義に基づく実践成果を整理しておくこと。 講義内容を復習し、各自プレゼンテーションの準備とシナリオ作成を行うこと。 (目安：2 時間)
8	言語理解①	社会で必要とされる言語理解の基礎について学ぶ。	事前に各種言語問題に目を通しておくこと。 学習範囲を復習しておくこと。 (目安：1 時間)
9	言語理解②	社会で必要とされる言語理解の応用について学ぶ。	事前に各種言語問題に目を通しておくこと。 学習範囲を復習しておくこと。 (目安：1 時間)
10	言語理解③	社会で必要とされる言語理解の基礎と応用の演習問題を解く。 ※評定あり	事前に各種言語問題に目を通しておくこと。 学習範囲を復習しておくこと。 (目安：1 時間)
11	グループディスカッション①	グループディスカッションの基礎について学ぶ。	事前にディスカッションの概略を調査・確認しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安：1 時間)
12	グループディスカッション②	グループディスカッションの演習（基本編）で学ぶ。	事前に前回講義に基づく実践成果を整理しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安：1 時間)
13	グループディスカッション③	グループディスカッション実践演習（模擬選考） ※評定あり	事前に前回講義に基づく実践成果を整理しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安：1 時間)
14	ダイバーシティ・コミュニケーション	多様性社会の中、望まれるコミュニケーションスキルを学ぶ。	事前にダイバーシティの概略を調査・確認しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安：2 時間)
15	総合演習	これまで実施した授業の内容を踏まえ、自分を的確に且つ効果的に表現すること学び、実践する。	事前に全ての範囲を復習しておくこと。 (目安：2 時間)

			※評定あり	

関連科目	キャリアデザインⅡ、数的能力開発、就職実践基礎

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	毎回の小レポート 30 点、プレゼンテーション 15 点、言語理解 20 点、グループデイスカッション 10 点、総合演習レポート 25 点
学生へのメッセージ	人間は「社会的動物」です。他者との関係の中で生きていかねばなりません。他者との関係性を良好に保つことは、豊かな人生を送るための重要な条件になります。そのために求められるものが「コミュニケーション能力」と言われており、これはビジネスシーンにおいても同様です。コミュニケーションを楽しみながら、適切に行えるようになっていきましょう。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　教育イノベーションセンター
備考	

科目名	ビジネスマナーⅠ	科目名（英文）	Bisiness Manner Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡　亮太
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1513a3		

授業概要・目的	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性とそれを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。 組織人およびフリーランスとしての自身の経験と、人材育成・組織開発コンサルティングを行ってきたビジネス現場での経験を交えて実践的な“ビジネスマナー”をお伝えします。
到達目標	この授業を通じて学生には、クリエイティブなビジネスパースンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」を実践できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	テキストはWeb上にアップロードするので、各自で事前に必ず準備すること。※プリントアウトが望ましい 授業は講義中心で進めるが、ペアワークやグループワークも実施する。毎回、学修課題の提出があるのできちんと取り組むことが求められる。
科目学習の効果（資格）	社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ーあいさつの重要性(理論と実践)	・授業のオリエンテーション ・授業のルール ・あいさつの真の意味とは ・正しい基本姿勢を学ぶ	・事前学修：ビジネスマナーとは何かを考えること(30分) ・事後学修：ビジネスマナーとは何か、400字でまとめること(60分)
2	仕事の進め方と組織活動	・定型業務と非定型業務 ・コスト意識とエコ活動 ・仕事の基本の８つの意識 ・話し方と聞き方	・事前学修:企業のエコ活動について調べること(30分) ・事後学修：仕事とは何か、まとめること(60分)
3	目標設定とPDCAサイクル	・目標設定（MBO） ・PDCAとは ・チームと個人の役割	・事前学修：PDCAについて調べること(30分) ・事後学修：あなたの日常生活における MBO ととPDCAを考え、まとめること(60分)
4	スケジュールと出張業務	・スケジュールの作り方 ・業務としての出張-YTT方式-	・事前学修：あなたの１週間予定表を作成すること(30分) ・事後学修:あなたの予定表作成について振り返り、まとめること(60分)
5	ビジネスの場での敬語表現	・基本的な敬語表現の復習 ・ビジネスの場での使用方法-TPO をもとに-	・事前学修：敬語プリント①をすること(30分) ・事後学修:ケーススタディプリントをすること(60分)
6	電話応対	・ビジネスフォンの扱い方 ・5W2Hから6W3Hへ ・簡潔メモの作り方 ・不在処理と伝言	・事前学修：電話応対プリントをすること(30分) ・事後学修：ロールプレイングを繰り返すこと(60分)
7	来客応対	・組織図と対応 ・簡単な応対から不在処理や重複処理まで ・名刺交換 ※対面授業に切り替え	・事前学修:来客応対プリント①をすること(30分) ・事後学修:来客対応プリント②をすること(60分)
8	ホウ・レン・ソウ	・ビジネスにおける「報連相」 ・指示の受け方 ・業務の優先順位	・事前学修：報告・連絡・相談の重要性について調べること(30分) ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をすること(60分)
9	ビジネス文書の基本①	・社外文書が基本 ・商取引文書と社交文書の相違 ・社内文書と社外文書の種類 ・ファイリング	・事前学修:ビジネス文書始める前にをすること(30分) ・事後学修：ビジネス文書②をすること(60分)
10	ビジネス文書の基本②	・実践	・事前学修：ビジネス文書③をすること(30分) ・事後学修：ビジネス文書④をすること(60分)
11	ビジネス通信の基本	・通信手段（電子メール、ファックス等）の選択 ・作成上の注意点 ・郵便・宅配便の知識	・事前学修：郵便の知識プリント①をすること(30分) ・事後学修：メール文書を作成すること(60分)
12	法的業務	・押印と印鑑の意味 ・内容証明 ・個人情報保護（Pマーク） ・コンプライアンス	・事前学習：コンプライアンスについて調べること(30分) ・事後学修：個人情報保護法についてレポートを作成すること(60分)
13	設営の基本	・YTT方式からの業務遂行 ・確認の必要性 ・他部署とのコミュニケーションの必要性	・事前学修：同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめること(30分) ・事後学修：設営事例をまとめること(60分)
14	慶弔と贈答	・慶弔時の基本的マナー ・「式」について ・業務としての贈答	・事前学修：慶弔・贈答プリント①をすること(30分) ・事後学修：弔・贈答プリント②をすること(60分)
15	協働とコミュニケーション	・外国人同僚・異文化への対応 ・働き方とキャリア開発 ・公共の場でのマナー	・事前学修：グローバル社会へ対応するためには何が必要かについて考えること(30分) ・事後学修：共生関係について自らの考えをまとめること(60分)

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名

	<table><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
評価方法 （基準）	定期試験 40%、ワーク・授業内課題等 30%、複数回のレポート課題 30%を総合的に判断する。 ただし、出席不良者（欠席６回以上）は評価できないことがある。
学生への メッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなってきました。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われています。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質です。みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の重要性を理解し、社会人としての第一歩を築きましょう。
担当者の 研究室等	７号館５階　キャリア教育推進室（石井）
備考	予習・復習に毎回２時間以上取り組むことを前提とする。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とすること。質問等は、メールにて受け付ける。課題の解答例の配布や解説は、講義内で適宜行う。

科目名	文学から学ぶ	科目名（英文）	Literature
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松尾　佳津子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1301a1		

授業概要・目的	「最近余り本を読んでいないなぁ」と思っているあなた、でも、本当に読むことがずっとキライでしたか？　若い人たちの活字離れがあれこれ取り沙汰されている昨今ですが、視覚や聴覚に訴える作品とは異なり、文字を通じてしか伝えられない様々な表現や思いがあることを、ぜひ感じてほしいと願っています。現代の流行作品はきっとあなたが一人でも楽しむでしょうから、私はあなたが一人では決して開くことのないような扉を開いて、作品世界を提示しようと思っています。この講座では、俳句・和歌・短歌・詩・歌詞などの韻文作品を中心に扱います。文字作品の新たな魅力を一つでも発見して、あなた自身の言語生活の豊かな糧として下さい。
到達目標	この授業を通じて学生には、 ・表面的読解にとどまらず、作者の表現内容を読み解く力を身につけること、 ・そしてそれを基にして考え、感じる経験を積むこと、 ・さらにその考えや思いを文章化する経験値を高めること、 ・読んで「面白かった」で終わるのではなくその思いを言語化する力を身につけること これらを経験及び獲得することが期待されます。
授業方法と留意点	毎回授業中に問を提示し、それに対する回答を小レポートに記入して提出していただく形式で授業を進めます。
科目学習の効果（資格）	「日本語文章能力検定」などの公的資格もありますが、表現やことばに自覚的である感性を養うことが何よりの学習効果でしょう。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	短詩型文学の広がりを概観する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
2	短詩型文学（１）	散文文学との違いを考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
3	短詩型文学（２）	歴史的な流れを考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
4	現代詩（１）	表現の特徴を考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
5	現代詩（２）	「歌詞」を素材として考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
6	童謡（１）	子供のころに聞き覚えた歌詞を振り返る。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
7	童謡（２）	文学作品として歌詞を考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
8	短歌（１）	表現技法の特徴を考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。 ※この回から対面に変更。
9	短歌（２）	創作の過程を追体験する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
10	短歌（３）	現代の作品と古典作品の感性の差を比較する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
11	俳句（１）	表現技法の特徴を考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
12	俳句（２）	象徴表現の広がりを考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
13	俳句（３）	「俳句」から「ハイク」への広がりを考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
14	韻文の翻訳（１）	翻訳を通じて伝わるものと伝わらないものを考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
15	韻文の翻訳（２）	「現代口語表現訳」から見えてくるものを考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。

関連科目	こういった方面に興味のある人は、他に「日本語読解」などを学ぶことで、より理解を深めることができるでしょう。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			

評価方法 （基準）	◇毎回提出する小レポートが出席確認を兼ねます。 ◇最終成績は、毎回の小レポートの回答状況６割と、最終課題の結果４割で判断します。 ◇原則として小レポート提出が半分以下の場合は、最終の成績評価を行いません。
学生への メッセージ	遠いところに自分と同じ考えの人を発見する喜び。近いところに自分の思いも寄らないような発想の人に出会う楽しみ。・・・文学に触れる意味は、この二点に尽きるのではないかと、私は思っています。どうかあなたが「よい出会い」を経験できますように。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	提出された小レポートは、抄出して次回の講義で共有し、更なる学習の素材として活用します。

科目名	日本の歴史	科目名（英文）	History of Japan
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山本　康司
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1306a1		

授業概要・目的	歴史学とは、過去の諸事象を研究する学問である。物事を長期的な視野からみるという姿勢を持つことや、現在とは異なる政治・社会・文化等を知ることは、現代社会を見つめ直す際に重要な手段となる。 そのなかで、本授業では、日本の歴史の基本的な流れを理解することを目的とする。 古代から近現代まで、毎回テーマを設定し、講義を行う。 随時、最新の研究成果を紹介するとともに、歴史学の手法や考え方についても紹介する。
到達目標	この授業を通じて学生には、日本の歴史に関する正しい知識を得るとともに、歴史学的な考え方について理解できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業ごとにプリントを配付する。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	本授業の進め方や評価方法、歴史学を学ぶ意義について説明します。	シラバスを一読してくること（所要時間２０分）。
2	古代１：古代国家の形成	農耕社会の成立から、ヤマト政権の誕生、律令国家の形成までを学びます。	予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間６０分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間６０分）。
3	古代２：摂関政治から院政へ	摂関政治や院政について学びます。また、仏教や新たな文化の発達についても説明します。	予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間６０分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間６０分）。
4	古代３：武士の登場	武士の誕生と貴族社会の関係について学びます。	予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間６０分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間６０分）。
5	中世１：武家政権の成立と展開	武家政権である平氏政権や鎌倉幕府について学びます。特に、鎌倉幕府の成立過程について説明を加えます。	予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間６０分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間６０分）。
6	中世２：元寇から南北朝内乱へ	鎌倉幕府の制度や承久の乱、元寇について学び、鎌倉幕府滅亡の要因について考えます。	予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間６０分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間６０分）。
7	中世３：室町幕府の成立と展開	室町幕府の成立や、南北朝の動乱について学びます。	予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間６０分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間６０分）。
8	中世４：戦国時代へ	戦国大名の登場から天下統一までの動向を学びます。	予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間６０分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間６０分）。
9	近世１：江戸幕府の成立と展開	江戸幕府の成立過程や制度、対外政策について学びます。	予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間６０分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間６０分）。
10	近世２：江戸幕府の動揺	幕藩体制や江戸幕府の諸政策・改革について学びます。また、江戸時代の村についても説明をします。	予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間６０分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間６０分）。
11	近世３：江戸幕府の終焉	倒幕運動の広まりや、江戸幕府の対外政策・開港について学びます。	予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間６０分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間６０分）。
12	近現代１：明治政府の成立と近代国家への歩み	明治政府の諸政策を学び、近代国家への歩みについて考えます。	予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間６０分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間６０分）。
13	近現代２：日清・日露戦争と日本	日清・日露戦争や国際関係、当時の日本政治について学びます。	予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間６０分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間６０分）。
14	近現代３：第二次世界大戦	第二次世界大戦と日本の関わりについて学びます。	予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間６０分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間６０分）。
15	近現代４：戦後日本と現代社会	敗戦後の復興と現代社会への繋がりについて学びます。	予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間６０分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間６０分）。

関連科目	
教科書	

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 2 3
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 2 3
評価方法 （基準）	授業ごとのコメントペーパー　30% 期末レポート　70% コメントペーパーでは、授業の内容を理解しているかを評価する。 期末レポートでは、授業全体を通じて日本の歴史の流れを理解した上で、自らの興味・関心に基づいてレポート作成ができるかを評価する。
学生への メッセージ	積極的に学ぶ意欲を持つ学生の受講を希望します。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 また、コメントペーパーで学生の理解度を確認し、理解度の低い部分については次回の授業で解説する。

科目名	世界の歴史	科目名（英文）	History of the World
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加来　奈奈
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1307a1		

授業概要・目的	本講義では、ヨーロッパの歴史を通じて、過去と現在の変化や諸地域における差異を検討し、現代世界の成り立ちを知るとともに、歴史を通じて現代社会の諸問題に対する批判的まなざしを涵養することを目指す。そのために、ヨーロッパ史の基礎的な知識を習得し、時代や地域の特徴と、現代社会の形成の過程を理解することを目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、ヨーロッパの歴史の重要な特徴を理解し、説明できるようになり、それを活かして現代社会の問題について能動的に考えることができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	毎回パワーポイントにもとづいて授業を進め、適宜、資料を配布する。
科目学習の効果（資格）	歴史学に関する基本的な知識を獲得するとともに、現代社会を歴史的視点から読み解く力を養う。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	学問としての歴史学について	（事前）西洋の古代、中世、近世、近代、現代という時代がいつかを調べてくる。
2	中世ヨーロッパ	中世ヨーロッパの社会	（事前）中世ヨーロッパのイメージを書きだす。 （事後）中世の身分と宗教について整理する。
3	中世ヨーロッパ	中世ヨーロッパの王権	（事前)15 世紀までのフランス王とイングランド王について調べてくる。 （事後）中世英仏の年表を作って、これまでのことを整理する。
4	近世とは	・近世の特徴 ・ハプスブルク家 ・地域の反応	（事前）ハプスブルク家について調べてくる。 （事後）近世の特徴を整理する。
5	宗教改革	・ルターの登場 ・プロテスタントの広がり ・対抗宗教改革	（事前）カトリックとプロテスタントの違いを調べる。 （事後）二つの違いを整理する。
6	宗派対立	・ネーデルラントを事例とした宗派対立の様相	（事前）ルーベンスについて調べてくる。 （事後）ヨーロッパの宗派対立と地域の特徴を整理する。
7	イングランドの宗教改革	・テューダー朝の成立 ・ヘンリ８世の改革	（事前）ヘンリ８世について調べてくる。 （事後）イングランドの国教会について整理する。
8	エリザベス１世と国際関係	・エリザベス１世の統治	（事前）エリザベス１世について調べてくる。 （事後)17 世紀ごろのヨーロッパの各国の勢力範囲について整理する。
9	啓蒙時代	・啓蒙思想 ・啓蒙専制君主	（事前）啓蒙という言葉を調べてくる。
10	啓蒙改革（１）	マリア・テレジアの改革	（事前）マリア・テレジアについて調べる。 （事後）啓蒙改革の特徴をまとめる。
11	啓蒙改革（２）	ヨーゼフ２世の改革	（事前）ヨーゼフ２世について調べてくる。 （事後）啓蒙改革の結果について考察する。
12	１９世紀のヨーロッパ	・フランス革命と共和政 ・国民国家 ・１８４８年革命	（事前）ライシテという言葉を調べてくる。(事後）スカーフ問題について考える。
13	ナショナリズムとハプスブルク	・アウスグライヒ ・民族	（事前）この時代の民族とは何かを考えてくる。(事後）東欧諸国の現在の国境を確認する。
14	第一次世界大戦	・戦争の展開 ・戦争と女性 ・戦争と民族	（事前）第一次世界大戦の流れについて確認する。 （事後）第一次世界大戦を通して起きたヨーロッパ社会の変化について考える。
15	総括	・講義全体のまとめ ・現在のヨーロッパの諸問題	（事前）全授業内容を復習しておく。 （事後）歴史を通して、現在の社会を検討する。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学で学ぶ西洋史［古代・中世］	服部良久ほか	ミネルヴァ書房
2	大学で学ぶ西洋史［近現代］	小山哲ほか	ミネルヴァ書房
3	ハプスブルク史研究入門	大津留厚ほか	昭和堂

評価方法（基準）	授業中の課題（コメントシートや小テスト）(30%)、期末テスト（70%）で評価する。
学生へのメッセージ	高校までの「歴史」は、過去の出来事・事件の年号や偉人の名前を暗記する科目だと思われがちです。しかし、大学で研究する「歴史学」は、歴史の史料や事象を通じて、その背景や理由を多角的に考えることが重要です。ヨーロッパの様々な時代や地域の特徴を学び、その違いや類似性を考察することを通して、現代社会の多様性を理解するための視点を提供できればと思います。
担当者の研究室等	7 号館 4 階加来研究室
備考	事前、事後学習に要する総時間は約 60 時間である。 フィードバックは、適宜、授業資料に組み込んで実施する。

科目名	基礎英語Ⅰa	科目名（英文）	Basic English Ia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	Ａ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松浦　茂寿
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1323c1		

授業概要・目的	中学から高校にかけて学んだ文法事項の復習をはじめ、更なる文法力及び語彙力の養成、実戦形式の資格、検定練習を通し四択問題など独自の出題形式に慣れ、解答を導く知識の養成をはかる。授業のみならず家庭での予習、復習をきちんとし授業内容がよりわかるように各自、努力しよう。特に文法事項や用語等の知識は受験時に思い出せなければ役に立たないので、すぐ出てくるまで繰り返し覚えて身につけよう。
到達目標	この授業を通して、個人が今まで持っている英文法力の更なる強化を目指し、必要な場面で学んだ事がすぐ出てくるようになる事を期待する。繰り返しは地道な作業だが、最後まで諦めず頑張ろう。
授業方法と留意点	毎週、授業時に単語帳から単語テストを行う予定。簡単な文法問題中心のテキストを用い、進度に沿って課題提出を随時行うので理由のない限り出席を心がけてもらいたい。文法はルールを繰り返し覚えれば必ず身につきます。授業中に出てきた新しい単語も毎日少しずつ覚える習慣をつけよう。英語が苦手な人も余り意識せず、向上心を持ってこれからがんばろう！
科目学習の効果（資格）	高校までの基本的英文法の復習及び英検やTOEIC等の検定・資格試験にも役立つ知識の養成。 ＴＯＥＩＣテストに有効な単語力

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業方法、提出物、評価方法についての説明	―――――
2	Unit1　My Hometown　故郷を紹介しよう	be動詞	教科書p.1-6を事前に目を通して、授業後は復習する。
3	Unit2　Hobbies　趣味もいろいろ	一般動詞	教科書 p.7-12 を事前に目を通して、授業後は復習する。
4	Unit3　Shopping　買い物に行くならどこ？	名詞、代名詞	教科書p.13-18を事前に目を通して、授業後は復習する。
5	Unit4　Nature Quiz　クイズに挑戦	Wh疑問文	教科書p.19-24を事前に目を通して、授業後は復習する。
6	Unit5　Dream House　理想的な住まいとは？	前置詞	教科書p.25-30を事前に目を通して、授業後は復習する。
7	Unit6　Food　好きな食べ物は何!?	接続詞	教科書p.31-36を事前に目を通して、授業後は復習する。
8	Unit 7 First Date デートは最初が肝心	過去形	教科書p.37-42を事前に目を通して、授業後は復習する。
9	Unit8　Detective Story　探偵は真実を求める	進行形	教科書p.43-48を事前に目を通して、授業後は復習する。
10	資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する。	知らなかった項目を中心にプリントに記載された表現、文法事項、習った内容は何度も復習して覚えよう
11	資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	知らなかった項目を中心にプリントに記載された表現、文法事項、習った内容は何度も復習して覚えよう
12	資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	知らなかった項目を中心にプリントに記載された表現、文法事項、習った内容は何度も復習して覚えよう
13	資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	知らなかった項目を中心にプリントに記載された表現、文法事項、習った内容は何度も復習して覚えよう
14	資格、検定などの問題またはリスニング演習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	知らなかった項目を中心にプリントに記載された表現、文法事項、習った内容は何度も復習して覚えよう
15	総合復習	定期試験対策	試験に際して大事だと思われる教科書など前期範囲一通りの復習をします。

関連科目：なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Ace	山本厚子、大須賀直子、真野千佳子、岡本京子、Benedict ROwlett	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test　学校語彙で学ぶTOEICテスト（単語集）　改訂新版	西谷悟志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

全学共通英語課題　　20%
定期試験　　50%
授業への参加、貢献（提出物、小テスト、まとめテスト等も含む）　30%
授業評価の各割合は目安で多少変わる場合があります。
日頃の授業態度も重視します(なお、授業態度とは投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性を指す)。
今後の社会情勢及び授業形態の変化に伴い、評価方法が変更になる場合があります。

学生へのメッセージ：「明るく、元気で、感動と発見を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。また折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！

担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	事前、事後学習には毎回 1 時間以上取り組み、課題に 1 回当たり 1 時間程度かけて仕上げること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 提出物等は授業中にフィードバックする。

科目名	基礎英語Ⅰa	科目名（英文）	Basic English Ia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ローマン　レンズ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1323c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Course and Textbook Introduction, Unit 1 - What's your name? 1-7	Introducing yourself and friends; saying hello and good-bye	Follow instructions as provided in class.
2	Unit 1 - What's your name? 8-14 + Grammar worksheet unit 1	Asking for names and phone numbers	Follow instructions as provided in class.
3	Unit 2 - Where are my keys? 1-7	Naming objects	Follow instructions as provided in class.
4	Unit 2 - Where are my keys? 8-12 + Grammar worksheet unit 2	Asking for and giving the location of objects	Follow instructions as provided in class.
5	Unit 3 - Where are you from? 1-7	Talking about cities and countries; asking for and giving information about place of origin, nationality, first language, and age	Follow instructions as provided in class.
6	Unit 3 - Where are you from? 8-11 + Grammar worksheet unit 3	Describing people	Follow instructions as provided in class.
7	Video review class, unit 1-3	Reviewing grammar and vocabulary	Follow instructions as provided in class.
8	Unit 4 - Is this coat yours? 1-7	Asking about and describing clothing and colors; talking about the weather and seasons	Follow instructions as provided in class.
9	Unit 4 - Is this coat yours? 8-11 + Grammar worksheet unit 4	Finding the owners of objects	Follow instructions as provided in class.
10	Unit 5 - What time is it? 1-4	Asking for and telling time	Follow instructions as provided in class.
11	Unit 5 - What time is it? 5-10 + Grammar worksheet unit 5	Asking about and describing current activities	Follow instructions as provided in class.
12	Unit 6 - I ride my bike to school 1-5	Asking for and giving information about how people go to work or school; talking about family members	Follow instructions as provided in class.
13	Unit 6 - I ride my bike to school 6-11 + Grammar worksheet unit 6	Describing daily and weekly routines	Follow instructions as provided in class.
14	Video review class unit 4-6	Reviewing grammar and vocabulary	Follow instructions as provided in class.
15	Final class - review unit 1-6	Final review and activity	―――――

関連科目	他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Interchange Intro (5th Edition)	Jack C. Richards	Cambridge
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition （指定の単語集）	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題 20% 授業への参加 40%、態度 20% 貢献（小テスト、まとめテスト等も含む 40%） 80%

	> THIS CLASS: (Attendance 40%, Attitude, 20% Class Assignments 40%): 80% of final score.
学生への メッセージ	I'm looking forward to teaching you this year. Please participate fully in pair and group work, and enjoy the class. Please join the Teams and Moodle. I will share our Zoom class link in Teams if we need to use it!
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅰa	科目名（英文）	Basic English Ia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ブルース　ライリー
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1323c1		

授業概要・目的	この授業では、文法に関する知識、語彙力、読解力など広く総合英語力の底上げを行い、TOEIC の点数アップのみならず、英語を用いて情報を得られる力をつける。
到達目標	文型やペアワークを使いながら、総合的な英語コミュニケーション能力を向上させる。 TOEIC のボキャブラリースコアを向上させる。
授業方法と留意点	教科書は 2 冊あり、1 冊は理系向けリーディング教材（English Firsthand 1）を、もう 1 冊は単語集（TOEIC 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test）を使用する。各回の授業の冒頭では単語集を使用した単語テストを行う。単語テストは返却するので、統一単語テストに向けて復習すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、単語テスト	オリエンテーション、単語テスト 1（番号 1-42）	事後学習・・・単語集の番号 1-42 を確認。
2	単語テスト、Unit 1	単語テスト 2 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号 43-84 を覚える。Unit 1 の予習 事後学習・・・Unit 1 の復習
3	単語テスト、Unit 1	単語テスト 3 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号 85-126 を覚える。Unit 1 の予習 事後学習・・・Unit 1 の復習
4	単語テスト、Unit 2	単語テスト 4 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号 127-168 を覚える。Unit 2 の予習 事後学習・・・Unit 2 の復習
5	単語テスト、Unit 2	単語テスト 5 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号 169-212 を覚える。Unit 2 の予習 事後学習・・・Unit 2 の復習
6	単語テスト、Unit 3	単語テスト 6 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号 213-256 を覚える。Unit 3 の予習 事後学習・・・Unit 3 の復習
7	単語テスト、Unit 3	単語テスト 7 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号 257-301 を覚える。Unit 3 の予習 事後学習・・・Unit 3 の復習
8	中間試験、(Units 1-3)	試験と振り返り	事前学習・・・Unit 1-3 の復習
9	単語テスト、Unit 4	単語テスト 8 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号 302-347 を覚える。Unit 4 の予習 事後学習・・・Unit 4 の復習
10	単語テスト、Unit 4	単語テスト 9 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号 348-392 を覚える。Unit 4 の予習 事後学習・・・Unit4 の復習
11	単語テスト、Unit 5	単語テスト 10 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号 393-438 を覚える。Unit 1 の予習 事後学習・・・Unit 1 の復習
12	単語テスト、Unit 5	単語テスト 11 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号 439-480 を覚える。Unit 5 の予習 事後学習・・・Unit 5 の復習
13	単語テスト、Unit 6	単語テスト 12 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号 481-522 を覚える。Unit 6 の予習 事後学習・・・Unit 6 の復習
14	最終試験、(Units 1-6)	試験と振り返り	事後学習・・・Unit 1-6 の復習
15	復習	復習	Units 1-6

関連科目	他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Firsthand 1, 5th Edition	Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown	Pearson
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition （指定の単語集）	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	In-class material 80% English Central　20%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	

科目名	基礎英語Ⅰa	科目名（英文）	Basic English Ia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	D
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	俣野　裕美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1323c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた４技能統合型の演習授業を行う。　４技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身に付けること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	（１）大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。　また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。　同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。　また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 （２）PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 （３）学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法についての説明、実力テスト	事後学習(30 分)： 実力テストの復習
2	Unit 1: You're Beautiful	・単語テスト ・You're Beautiful をトピックに リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習(30 分)： Vocabulary Preview の暗記 事後学習(1 時間)： 文法、発音の確認
3	Unit 2: I Want It That Way	・単語テスト ・I Want It That Way をトピックに リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習(30 分)： Vocabulary Preview の暗記 事後学習(1 時間)： 文法、発音の確認
4	Unit 3: The First Time	・単語テスト ・The First Time をトピックに リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習(30 分)： Vocabulary Preview の暗記 事後学習(1 時間)： 文法、発音の確認
5	Unit 4: Complicated	・単語テスト ・Complicated をトピックに リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習(30 分)： Vocabulary Preview の暗記 事後学習(1 時間)： 文法、発音の確認
6	Unit 5: My Heart Will Go On	・単語テスト ・My Heart Will Go On をトピックに リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習(30 分)： Vocabulary Preview の暗記 事後学習(3 時間)： 文法、発音の確認、 中間テストの準備
7	中間テスト	これまで学んだ内容より、中間テスト	事後学習(30 分)： これまでの授業内容の復習
8	Unit 6: With You	・単語テスト ・With You をトピックに リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習(30 分)： Vocabulary Preview の暗記 事後学習(1 時間)： 文法、発音の確認
9	Unit 7: Torn	・単語テスト ・Torn をトピックに リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習(30 分)： Vocabulary Preview の暗記 事後学習(1 時間)： 文法、発音の確認
10	Unit 8: You Are Not Alone	・単語テスト ・You Are Not Alone をトピックに リスニング、 スピーキング、 リーディング、	事前学習(30 分)： Vocabulary Preview の暗記 事後学習(1 時間)： 文法、発音の確認

		ライティング の力を向上を目指す	
11	Unit 9: You Gotta Be	・単語テスト ・You Gotta Be をトピックに リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習(30 分)： Vocabulary Preview の暗記 事後学習(1 時間)： 文法、発音の確認
12	Unit 10: How Crazy Are You?	・単語テスト ・How Craze Are You?をトピックに リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習(30 分)： Vocabulary Preview の暗記 事後学習(1 時間)： 文法、発音の確認
13	Unit 11: Last Christmas	・単語テスト ・Last Christmas をトピックに リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習(30 分)： Vocabulary Preview の暗記 事後学習(1 時間)： 文法、発音の確認
14	Unit 12: Desperado	・単語テスト ・Desperado をトピックに リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習(30 分)： Vocabulary Preview の暗記 事後学習(3 時間)： 文法、発音の確認 期末テストの準備
15	期末テスト	これまで学んだ内容より、期末テスト	事前・事後学習(30 分)： これまでの授業内容の復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Let's Learn English with Pop Hits! （ポップスでスタート！基礎英語）	Teruhiko Kadoyama, Timothy F. Hawthorne	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-（指定の単 語集）	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法
（基準）

全学共通英語課題　20%
授業への参加、貢献（課題の提出、中間・期末・単語テスト等を含む）80%

学生への
メッセージ

・積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価します。ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをします。成績が下がるだけでなく、単位の取得に大きな影響を及ぼします。
①私語など授業を妨害するような行為は自動的に欠席とみなす。
②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。
③許可のない途中退席、テキスト忘れは、原則欠席とみなす。
（原則として欠席をレポートの提出でカバーすることはできない。）
①から③が続く場合、単位を認めない。

・原則３回以上の欠席は単位不可とします。また、遅刻は３回で１回の欠席とみなします。

・紙の辞書か電子辞書を持ってきてください。

・英語ができるようになると、自分の世界が広がります。多少の失敗は気にせず、前向きにトライし続けましょう。

・半年間、一緒に楽しく勉強したいと思います。マナーを守り、将来のために少しでも多くのことを学んでくれることを願っています。

担当者の
研究室等

7 号館 2 階　非常勤講師室

備考

毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅰa	科目名（英文）	Basic English Ia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	E
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	塩見　友里恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1323c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	英語による自己紹介 授業の進め方や評価方法の説明 事前・事後学習のやり方の説明	
2	Chapter 1: Global Perspectives	Introduction 語彙の確認 Reading グループディスカッション	予習：(1) Vocabulary List と Reading 本文に目を通し、わからない単語を調べておく。(2) 巻末の Useful Links に記載のウェブサイト等をチェックし、題材についての情報収集をする。 復習：(1)単語と本文の再確認。(2) 課題のプリントに取り組む。 （予習・復習合わせて 1 時間程度）
3	Chapter 3: Water (1)	Introduction 語彙の確認 Reading	予習: Vocabulary List と Reading 本文に目を通し、わからない単語を調べておく。 復習： 単語と本文の再確認。 （予習・復習合わせて 1 時間程度）
4	Chapter 3: Water (2)	Vocabulary Review Listening グループディスカッション	予習： 巻末の Useful Links に記載のウェブサイト等をチェックし、題材についての情報収集をする。 復習： 課題のプリントに取り組む。 （予習・復習合わせて 1 時間程度）
5	Chapter 5: Poverty (1)	Introduction 語彙の確認 Reading	予習: Vocabulary List と Reading 本文に目を通し、わからない単語を調べておく。 復習： 単語と本文の再確認。 （予習・復習合わせて 1 時間程度）
6	Chapter 5: Poverty (2)	Vocabulary Review Listening グループディスカッション	予習： 巻末の Useful Links に記載のウェブサイト等をチェックし、題材についての情報収集をする。 復習： 課題のプリントに取り組む。 （予習・復習合わせて 1 時間程度）
7	Chapter 7: Children	Introduction 語彙の確認 Reading	予習: Vocabulary List と Reading 本文に目を通し、わからない単語を調べておく。 復習： 単語と本文の再確認。 （予習・復習合わせて 1 時間程度）
8	まとめテスト 1	Chapter 1, 3, ,5, 7	
9	Chapter 9: Refugees (1)	Introduction 語彙の確認 Reading	予習: Vocabulary List と Reading 本文に目を通し、わからない単語を調べておく。 復習： 単語と本文の再確認。 （予習・復習合わせて 1 時間程度）
10	Chapter 9: Refugees (2)	Vocabulary Review Listening グループディスカッション	予習： 巻末の Useful Links に記載のウェブサイト等をチェックし、題材についての情報収集をする。 復習： 課題のプリントに取り組む。 （予習・復習合わせて 1 時間程度）
11	Chapter 11: Vegetarianism (1)	Introduction 語彙の確認 Reading	予習: Vocabulary List と Reading 本文に目を通し、わからない単語を調べておく。 復習： 単語と本文の再確認。 （予習・復習合わせて 1 時間程度）
12	Chapter 11: Vegetarianism (2)	Vocabulary Review Listening グループディスカッション	予習： 巻末の Useful Links に記載のウェブサイト等をチェックし、題材についての情報収集をする。 復習： 課題のプリントに取り組む。 （予習・復習合わせて 1 時間程度）
13	Chapter 13: Shopping (1)	Introduction 語彙の確認 Reading	予習: Vocabulary List と Reading 本文に目を通し、わからない単語を調べておく。 復習： 単語と本文の再確認。 （予習・復習合わせて 1 時間程度）
14	Chapter 13: Shopping (2)	Vocabulary Review Listening グループディスカッション	予習： 巻末の Useful Links に記載のウェブサイト等をチェックし、題材についての情報収集をする。 復習： 課題のプリントに取り組む。 （予習・復習合わせて 1 時間程度）
15	まとめテスト 2	Chapter 9, 11, 13	

関連科目	
教科書	

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>Living as Global Citizens-An Introduction to the Sustainable Development Goals</td><td>Kazuya Oseki, Kevin M. McManus</td><td>南雲堂</td></tr>
<tr><td>2</td><td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-（指定の単語集）</td><td>西谷　恒志</td><td>成美堂</td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>全学共通英語課題（EnglishCentral） ...20%
授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） ...80%</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>今日、様々な分野で話題となっている ″SDGs″ について、一緒に英語で学びましょう。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>7 号館 2 階　非常勤講師室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。</td></tr>
</table>

科目名	基礎英語Ⅰa	科目名（英文）	Basic English Ia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	G
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大江　麻里子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1323c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明	テキストにさっと目を通しておくこと
2	Chapter 1 Fake Online Reviews	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
3	Chapter 1 Fake Online Reviews	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
4	Chapter 2 Coud I Become a You Tuber?	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
5	Chapter 2 Could I Become a You Tuber?	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
6	Chapter 3 Selling Viral Videos Makes Big Money	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
7	Chapter 3 Selling Viral Videos Makes Big Money	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
8	Chapter 4 Retro Video Games Become Popular Again	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
9	Chapter 4 Retro Video Games Become Popular Again	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
10	Chapter 5 Why Don't We Ask Siri?	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
11	Chapter 5 Why Don't We Ask Siri?	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
12	Chapter 6 Uncanny Valley	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
13	Chapter 6 Uncanny Valley	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
14	前期の総復習	質疑応答	テキストの予習と単語の学習
15	まとめのテスト	これまでの内容の総復習	テキストのこれまでの内容の復習

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Trend Watching　2	Jonathan Lynch	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition	NISHIYA Koji	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題　20% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　80%
学生へのメッセージ	英語の学習はこつこつど努力することが必要です。毎回出席して、ノートをとることが求められます。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅰa	科目名（英文）	Basic English Ia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	H
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	花房　ともえ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1323c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた４技能統合型の演習授業を行う。　４技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身に付けること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法についての説明 実力テスト	・Vocabulary Quiz に向けての学習 ・授業終了時に示された課題に取り組む ・予習復習時間を２時間程度取ること
2	Unit 1: Stand by Me Ben E. King	・Vocabulary Quiz ・Vocabulary / Listening / Grammar：関係代名詞の that / Conversation	・Vocabulary Quiz に向けての学習 ・授業終了時に示された課題に取り組む ・予習復習時間を２時間程度取ること
3	Unit 1: Stand by Me Ben E. King	・Vocabulary Quiz ・Reading /Unit 1 のテーマに関連した Writing & Presentation	・Vocabulary Quiz に向けての学習 ・授業終了時に示された課題に取り組む ・予習復習時間を２時間程度取ること
4	Unit 2: Jailhouse Rock Elvis Presley	・Vocabulary Quiz ・Vocabulary / Listening / Grammar：命令文 / Conversation	・Vocabulary Quiz に向けての学習 ・授業終了時に示された課題に取り組む ・予習復習時間を２時間程度取ること
5	Unit 2:Jailhouse Rock Elvis Presley	・Vocabulary Quiz ・Reading /Unit ２のテーマに関連した Writing & Presentation	・Vocabulary Quiz に向けての学習 ・授業終了時に示された課題に取り組む ・予習復習時間を２時間程度取ること
6	Unit 3: Blowing in the Wind Bob Dylan	・Vocabulary Quiz ・Vocabulary / Listening / Grammar：現在進行形 / Conversation	・Vocabulary Quiz に向けての学習 ・授業終了時に示された課題に取り組む ・予習復習時間を２時間程度取ること
7	Unit 3: Blowing in the Wind Bob Dylan	・Vocabulary Quiz ・Reading /Unit 3 のテーマに関連した Writing & Presentation	・Vocabulary Quiz に向けての学習 ・授業終了時に示された課題に取り組む ・予習復習時間を２時間程度取ること
8	Unit 4: Puff. the Magic Dragon Peter, Paul and Mary	・Vocabulary Quiz ・Vocabulary / Listening / Grammar：習慣の would / Conversation	・Vocabulary Quiz に向けての学習 ・授業終了時に示された課題に取り組む ・予習復習時間を２時間程度取ること
9	Unit 4: Puff. the Magic Dragon Peter, Paul and Mary	・Vocabulary Quiz ・Reading / Unit 4 のテーマに関連した Writing & Presentation	・単語テストに向けての学習 ・授業終了時に示された課題に取り組む。 ・予習復習時間を２時間程度取ること
10	Unit 5: I've Gotta Get a Message to You Bee Gees	・Vocabulary Quiz ・Vocabulary / Listening / Grammar：強調構文 / Conversation	・Vocabulary Quiz に向けての学習 ・授業終了時に示された課題に取り組む ・予習復習時間を２時間程度取ること
11	Unit 5: I've Gotta Get a Message to You Bee Gees	・Vocabulary Quiz ・Reading / Unit5 のテーマに関連した Writing & Presentation	・Vocabulary Quiz に向けての学習 ・授業終了時に示された課題に取り組む ・予習復習時間を２時間程度取ること
12	Unit 6: Bridge Over Troubled Water Simon & Garfunkel	・Vocabulary Quiz ・Vocabulary / Listening / Grammar：現在完了形 / Conversation	・Vocabulary Quiz に向けての学習 ・授業終了時に示された課題に取り組む ・予習復習時間を２時間程度取ること
13	Unit 6 :Bridge Over Troubled Water Simon & Garfunkel	・Vocabulary Quiz ・Reading / Unit 6 のテーマに関連した Writing & Presentation	・Vocabulary Quiz に向けての学習 ・授業終了時に示された課題に取り組む ・発表の準備に取り組む ・予習復習時間を２時間程度取ること
14	発表	発表、相互評価と振り返り	・Vocabulary Quiz に向けての学習 ・これまで授業で学習した内容の復習 ・予習復習時間を２時間程度取ること
15	まとめテスト	復習およびまとめテスト 自己評価と振り返り	・前期の内容の復習 ・予習復習時間を２時間程度取ること

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Enjoying English through Pop Songs	Fuyuhiko Sekido, Aimei Kobayashi, Akiko Yamanaka, Kaname Yoshida	Asahi Press
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition -	西谷恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

	2			
	3			

評価方法 （基準）	全学共通英語課題　　２０％ 授業への参加、貢献（Voabulary Quiz、発表、まとめテスト、課題提出、レポート提出を含む）　８０％
学生への メッセージ	・ペア・グループワークを実施します。積極的・意欲的な取り組みと貢献を評価します。 ・紙の辞書か電子辞書を必ず持参してください。携帯電話やスマートフォンは、指示した時以外は使用を禁止します。 ・毎授業実施する Vocabulary Quiz のための計画的な自主学習、授業外課題の取り組みに加え、毎回授業に出席することを心がけてください。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅰa	科目名（英文）	Basic English Ia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	Ⅰ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	横内　美和
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1323c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた４技能統合型の演習授業を行う。　４技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身に付けること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法についての説明、実力テスト	事後学習： 実力テストの復習（60 分）
2	Unit 1: This is my first trip abroad.	・入国審査をトピックに学習 リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習： Vocabulary Preview でこれから学習する単語をチェック 事後学習： ①巻末問題 Let's Review!をする ②単語、重要表現の暗記、対話文の音読 ③文法、発音の確認 （60 分）
3	Unit 2: do you have anything to declare?	・小テスト（単語） ・税関検査をトピックに学習 リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習： Vocabulary Preview でこれから学習する単語をチェック 事後学習： ①巻末問題 Let's Review!をする ②単語、重要表現の暗記、対話文の音読 ③文法、発音の確認 （60 分）
4	Unit 3: How was your flight to Los Angeles?	・小テスト（単語） ・空港での出迎えをトピックに学習 リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習： Vocabulary Preview でこれから学習する単語をチェック 事後学習： ①巻末問題 Let's Review!をする ②単語、重要表現の暗記、対話文の音読 ③文法、発音の確認 （60 分）
5	Unit 4: Are you still feeling tired?	・小テスト（単語） ・ホームステイをトピックに学習 リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習： Vocabulary Preview でこれから学習する単語をチェック 事後学習： ①巻末問題 Let's Review!をする ②単語、重要表現の暗記、対話文の音読 ③文法、発音の確認 （60 分）
6	Unit 5: What are we going to do in the afternoon?	・小テスト（単語） ・語学研修をトピックに学習 リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習： Vocabulary Preview でこれから学習する単語をチェック 事後学習： ①巻末問題 Let's Review!をする ②単語、重要表現の暗記、対話文の音読 ③文法、発音の確認 （60 分）
7	Unit 6: It's called Mountain Grove.	・小テスト（単語） ・ホームステイをトピックに学習 リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習： Vocabulary Preview でこれから学習する単語をチェック 事後学習： ①巻末問題 Let's Review!をする ②単語、重要表現の暗記、対話文の音読 ③文法、発音の確認
8	中間テスト（Unit1～Unit6）	Unit1～Unit6 までのテキストの内容	事前学習： 今まで授業で学習した内容を復習 （3 時間） 事後学習： ①巻末問題 Let's Review!をする ②単語、重要表現の暗記、対話文の音読 ③文法、発音の確認 （30 分）
9	Unit 7: How would you like your steak?	・小テスト（単語） ・レストランをトピックに学習 リスニング、	事前学習： Vocabulary Preview でこれから学習する単語をチェック

			スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事後学習： ①巻末問題Let's Review!をする ②単語、重要表現の暗記、対話文の音読 ③文法、発音の確認 （60分）
	10	Unit8: How long have you felt this way?	・小テスト（単語） ・病院をトピックに学習 リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習： Vocabulary Preview でこれから学習する単語をチェック 事後学習： ①巻末問題Let's Review!をする ②単語、重要表現の暗記、対話文の音読 ③文法、発音の確認 （60分）
	11	Unit 9: I think I'm lost.	・小テスト（単語、英文整序問題） ・道案内をトピックに学習 リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習： Vocabulary Preview でこれから学習する単語をチェック 事後学習： ①巻末問題Let's Review!をする ②単語、重要表現の暗記、対話文の音読 ③文法、発音の確認 （60分）
	12	Unit 10: do you want me to take your picture?	・小テスト（単語） ・観光地をトピックに学習 リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習： Vocabulary Preview でこれから学習する単語をチェック 事後学習： ①巻末問題Let's Review!をする ②単語、重要表現の暗記、対話文の音読 ③文法、発音の確認 （60分）
	13	Unit 11: I've lost my phone.	・小テスト（単語） ・遺失物取扱所をトピックに学習 リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習： Vocabulary Preview でこれから学習する単語をチェック 事後学習： ①巻末問題Let's Review!をする ②単語、重要表現の暗記、対話文の音読 ③文法、発音の確認 （60分）
	14	Unit 12: I love roller coasters!	・小テスト（単語） ・遊園地をトピックに学習 リスニング、 スピーキング、 リーディング、 ライティング の力を向上を目指す	事前学習： Vocabulary Preview でこれから学習する単語をチェック 事後学習： ①巻末問題Let's Review!をする ②単語、重要表現の暗記、対話文の音読 ③文法、発音の確認 （60分）
	15	期末テスト.	Ｕｎｉｔ１からＵｎｉｔ１３までのテキストの内容	事前学習： 今まで授業で学習した内容を復習 （3時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Let's Read Aloud & Learn English: Going Abroad	角山　照彦　他	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition -	西谷恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法
（基準）

全学共通英語課題　２０％
小テスト、平常点、課題提出　６０％
定期テスト　２０％

学生へのメッセージ

・グループワークを実施する。積極的なグループへの貢献を評価する。
・辞書か電子辞書を必ず持参すること（携帯電話やスマートフォンで代用することは認めない）。
・積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価する。ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをする。成績が下がるだけでなく、単位の取得に大きな影響を及ぼす。
①私語など授業を妨害するような行為は自動的に欠席とみなす。
②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。
③許可のない途中退席、テキスト忘れは、原則欠席とみなす。
（原則として欠席をレポートの提出でカバーすることはできない。）

④総授業数の３分の２以上の出席が必要

①から③が続く場合、単位を認めない。④の条件を満たさない場合、単位は認められない。

・遅刻は３回で１回の欠席とみなします。注意しましょう。
・英語ができるようになると、必ず自分の世界が広がります。多少の失敗は気にせず、前向きにトライし続けましょう。
・半年間、一緒に楽しく勉強したいと思います。マナーを守り、将来のために少しでも多くのことを学んでくれることを期待します。

担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅰa	科目名（英文）	Basic English Ia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西谷　継治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1323c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方、予習・復習の内容、成績の基準、受講にあたっての心構えなどについて説明する。また、教科書の構成を紹介する。	教科書前文
2	Unit 1 5% of 3rd-year junior high school students get news from social media	単語小テスト及び教科書演習	事前：教科書：P.1-6 単語：NO.1-30 事後：前回単語不合格者 再提出
3	Unit 2 Nagoya firm works to brew beer that7s out of this world	単語小テスト及び教科書演習	事前：教科書：P. 7-12 単語：NO.21-50 事後：前回単語不合格者 再提出
4	Unit 3 Not just for the elite --China's ex-athletes in school sport push	単語小テスト及び教科書演習	事前：教科書：P. 13-17 単語：NO.41-70 事後：前回単語不合格者 再提出
5	Unit 4 Egypt 'dignity unwraps' mummy of famed pharaoh	単語小テスト及び教科書演習	事前：教科書：P. 19-24 単語：NO.61-90 事後：前回単語不合格者 再提出
6	Unit 5 NASA aims to make from observations from space junk collision with Moon	単語小テスト及び教科書演習	事前：教科書：P. 25-30 単語：NO.81-110 事後：前回単語不合格者 再提出
7	教科書 Unit 1-5　復習	単語小テスト及び教科書復習	事前：単語：NO.101-130 事後：前回単語不合格者 再提出
8	中間試験	Unit 1～5 までの試験	テスト勉強
9	中間試験解説及び評	単語小テスト及び教科書演習	事前：単語：NO.121-150 事後：前回単語不合格者 再提出
10	Unit 6 Hospitals to get guidelines against ransomware attacks	単語小テスト及び教科書演習	事前：教科書：P. 31-36 単語：NO.141-170 事後：前回単語不合格者 再提出
11	Unit 7 NFT museum opens its doors in United States	単語小テスト及び教科書演習	事前：教科書：P .37-42 単語：NO.161-190 事後：前回単語不合格者 再提出
12	Unit 8 Tigers breeding, exports flourish in S. Africa -- Charity	単語小テスト及び教科書演習	事前：教科書：P. 43-48 単語：NO.181-210 事後：前回単語不合格者 再提出
13	Unit 9 Spring in February -- UK plants flowering 'a month early'	単語小テスト及び教科書演習	事前：教科書：P. 49-54 単語：NO.201-230 事後：前回単語不合格者 再提出
14	教科書　Unit 6-9 復習	単語小テスト及び教科書復習	事前：Unit 6-10 復習 単語：NO.221-248 事後：前回単語不合格者 再提出
15	教科書 Unit　6-9 テスト	Unit 6～9 までの内容についてテストを行う。	事前：Unit 6-9 テスト勉強 事後：前回単語不合格者 再提出

関連科目	他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Meet the　World 2023	Yasuhiko Wakaari	SEIBIDO

	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition	NISHIYA Koji	成美堂
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	全学共通英語課題　20% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　80%
学生への メッセージ	この授業では幅広い話題に触れます。身近な話題でも、じっくりと英語で読むと新しい発見があるはずです。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅰa	科目名（英文）	Basic English Ia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田村　康子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1323c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit 1 : What's Your major?	ボキャブラリー、リスニング、文法、、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.6-11 の練習問題を行う（1時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1時間）
2	Unit 2 : How do you like your new school?	ボキャブラリー、リスニング、文法、、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.12-17 の練習問題を行う（1時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1時間）
3	Unit 3 : Let me introduce a new member to you.	ボキャブラリー、リスニング、文法、、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.18-23 の練習問題を行う（1時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1時間）
4	Unit 4 : How was your Golden Week?	ボキャブラリー、リスニング、文法、、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.24-29 の練習問題を行う（1時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1時間）
5	Unit 5 : I'm looking for a part-time job.	ボキャブラリー、リスニング、文法、、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.30-35 の練習問題を行う（1時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1時間）
6	Unit 6 : What do you call this in Japanese?	ボキャブラリー、リスニング、文法、、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.36-41 の練習問題を行う（1時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1時間）
7	Unit 7:Have you been there?	ボキャブラリー、リスニング、文法、、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.42-47 の練習問題を行う（1時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1時間）
8	復習、臨時テスト	復習と臨時テスト	テスト勉強：Unit1-7 までの復習（2時間）
9	Unit 8 : Could you tell me how to get there?	ボキャブラリー、リスニング、文法、、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.48-53 の練習問題を行う（1時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1時間）
10	Unit 9 : What do you want me to do?	ボキャブラリー、リスニング、文法、、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.54-59 の練習問題を行う（1時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1時間）
11	Unit 10 : I'm on a tight budget	ボキャブラリー、リスニング、文法、、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.60-65 の練習問題を行う（1時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1時間）
12	Unit 11 : What do you think of this program?	ボキャブラリー、リスニング、文法、、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.66-71 の練習問題を行う（1時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1時間）
13	Unit 12 : I'm reviewing what I studied.	ボキャブラリー、リスニング、文法、、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.72-77 の練習問題を行う（1時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1時間）
14	復習、臨時テスト	復習と臨時テスト	テスト勉強：Unit8-12 までの復習（2時間）
15	Unit 13 : Final exam week is so stressful!	ボキャブラリー、リスニング、文法、、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.78-83 の練習問題を行う（1時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Let's Read Aloud & Learn English <On Campus>	Teruhiko　Kadoyama,　Simon	成美堂

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><td></td><td></td><td>Capper</td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition</td><td>西谷 恒志</td><td>成美堂</td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>全学共通英語課題（English Central）　20%
授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　80%</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>毎回の授業に必ず出席するとともに、予習・復習を必ず行ってください。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>7 号館 2 階　非常勤講師室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。</td></tr>
</table>

科目名	基礎英語Ⅰb	科目名（英文）	Basic English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	石倉　綾乃
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1324c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC，英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法等の説明 文法事項等の確認	テキストの問題に目を通し、知らない文法事項について調べる 発表の準備
2	Chapter 1 基本文型	単語、文法事項の確認 発表 テキストの読解、練習問題	テキストの問題に目を通し、知らない文法事項について調べる 発表の準備
3	Chapter 2 名詞の修飾	単語、文法事項の確認 発表 テキストの読解、練習問題	テキストの問題に目を通し、知らない文法事項について調べる 発表の準備
4	Chapter 3 文と文の接続	単語、文法事項の確認 発表 テキストの読解、練習問題	テキストの問題に目を通し、知らない文法事項について調べる 発表の準備
5	ここまでのまとめ	単語、文法事項の確認 発表 テキストの読解、練習問題	テキストの問題に目を通し、知らない文法事項について調べる 発表の準備
6	Chapter 4 進行形と受動態	単語、文法事項の確認 発表 テキストの読解、練習問題	テキストの問題に目を通し、知らない文法事項について調べる 発表の準備
7	Chapter 5 知覚動詞と使役動詞	単語、文法事項の確認 発表 テキストの読解、練習問題	テキストの問題に目を通し、知らない文法事項について調べる 発表の準備
8	Chapter 6 助動詞	単語、文法事項の確認 発表 テキストの読解、練習問題	テキストの問題に目を通し、知らない文法事項について調べる 発表の準備
9	ここまでのまとめ	単語、文法事項の確認 発表 テキストの読解、練習問題	テキストの問題に目を通し、知らない文法事項について調べる 発表の準備
10	Chapter 7 その他の助動詞と「助動詞＋完了形」	単語、文法事項の確認 発表 テキストの読解、練習問題	テキストの問題に目を通し、知らない文法事項について調べる 発表の準備
11	Chapter 8 時制	単語、文法事項の確認 発表 テキストの読解、練習問題	テキストの問題に目を通し、知らない文法事項について調べる 発表の準備
12	Chapter 9 現在完了形	単語、文法事項の確認 発表 テキストの読解、練習問題	テキストの問題に目を通し、知らない文法事項について調べる 発表の準備
13	Chapter 10 前置詞	単語、文法事項の確認 発表 テキストの読解、練習問題	テキストの問題に目を通し、知らない文法事項について調べる 発表の準備
14	ここまでのまとめ	単語、文法事項の確認 発表 テキストの読解、練習問題	テストの準備
15	まとめテスト	既習内容の確認	前期の学習内容の復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Start with Grammar Review for the TOEIC L&R Test	Noboru Matsuoka / Kazuo Sobajima	松柏社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	西垣恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	全学共通英語課題（EnglishCentral）...20% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）...80%
学生への メッセージ	グループ分けや授業の進行方法、発表の内容、スケジュールについての説明を行うので、必ず初回授業に出席してください。何らかの事情で出席が難しい場合は連絡をお願いします。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅰb	科目名（英文）	Basic English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	有本　好一郎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1324c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた４技能統合型の演習授業を行う。　４技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身に付けること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	（１）大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。　また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。　同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。　また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 （２）PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 （３）学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、TOEIC の説明、英語クロスワードパズルなど	授業の進め方、評価方法、企業が要求するスコアなどを説明	教科書の（次週のユニット）、語彙の確認、リスニング、文法、長文読解、クロスワードパズルの暗記に 60 分費やすこと。
2	自己紹介についての文章を通して名詞の学習（固有名詞、複数形など）	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の（今週、次週のユニット）、語彙の確認、リスニング、文法、長文読解、クロスワードパズルの暗記に 60 分費やすこと。
3	家族､ペットについての文章を通して動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の（今週、次週のユニット）、語彙の確認、リスニング、文法、長文読解、クロスワードパズルの暗記に 60 分費やすこと。
4	趣味についての文章を通して主語＋動詞～の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の（今週、次週のユニット）、語彙の確認、リスニング、文法、長文読解、クロスワードパズルの暗記に 60 分費やすこと。
5	大学生活についての文章を通して人称代名詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の（今週、次週のユニット）、語彙の確認、リスニング、文法、長文読解、クロスワードパズルの暗記に 60 分費やすこと。
6	食物についての文章を通して疑問詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の（今週、次週のユニット）、語彙の確認、リスニング、文法、長文読解、クロスワードパズルの暗記に 60 分費やすこと。
7	コンサートについての文章を通して How＋形容詞、副詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の（今週、次週のユニット）、語彙の確認、リスニング、文法、長文読解、クロスワードパズルの暗記に 60 分費やすこと。
8	中間試験	試験後、答え合わせを行い弱点を復習	教科書の（今週、次週のユニット）、語彙の確認、リスニング、文法、長文読解、クロスワードパズルの暗記に 60 分費やすこと。
9	道案内についての文章を通して助動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の（今週、次週のユニット）、語彙の確認、リスニング、文法、長文読解、クロスワードパズルの暗記に 60 分費やすこと。
10	日本文化についての文章を通して助動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の（今週、次週のユニット）、語彙の確認、リスニング、文法、長文読解、クロスワードパズルの暗記に 60 分費やすこと。
11	ジェスチャーについての文章を通して前置詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の（今週、次週のユニット）、語彙の確認、リスニング、文法、長文読解、クロスワードパズルの暗記に 60 分費やすこと。
12	観光案内についての文章を通して時制の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の（今週、次週のユニット）、語彙の確認、リスニング、文法、長文読解、クロスワードパズルの暗記に 60 分費やすこと。
13	ネットショッピングについての文章を通して進行形の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の（今週、次週のユニット）、語彙の確認、リスニング、文法、長文読解、クロスワードパズルの暗記に 60 分費やすこと。
14	E-mail についての文章を通して数字の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の（今週、次週のユニット）、語彙の確認、リスニング、文法、長文読解、クロスワードパズルの暗記に 60 分費やすこと。
15	9－14回のまとめテストと復習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	まとめテストの準備

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Forerunner to Power-Up English	JACET リスニング研究会	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition （指定の単語集）	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	全学共通英語課題　20% まとめテスト 50%、小テスト 30%で評価を行う。
学生への メッセージ	英語習得には普段の努力が大切である、通学時にスマートフォン、ラジオ番組、コンピューターなどを積極的に活用し学習すること。　英語が得意なら未来が明るくなります。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅰb	科目名（英文）	Basic English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	土田　智佳子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1324c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業方針・評価方法などの説明	事前：教科書に目を通しておく。
2	Unit 1 Occupations	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 1 を学習する。	事前：該当 Unit の Conversation, Grammar の分からない語彙、フレーズを調べておく（1 時間） 事後：授業内で指示された課題を行う（1 時間）
3	Unit 1 Occupations	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 1 を学習する。	事前：該当 Unit の Reading、Writing を行う（1 時間） 事後：授業内で指示された課題を行う（1 時間）
4	Unit 2 At the Dinner Table	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 2 を学習する。	事前：該当 Unit の Conversation, Grammar の分からない語彙、フレーズを調べておく（1 時間） 事後：授業内で指示された課題を行う（1 時間）
5	Unit 2 At the Dinner Table	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 2 を学習する。	事前：該当 Unit の Reading、Writing を行う（1 時間） 事後：授業内で指示された課題を行う（1 時間）
6	Unit 3 Sports	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 3 を学習する。	事前：該当 Unit の Conversation, Grammar の分からない語彙、フレーズを調べておく（1 時間） 事後：授業内で指示された課題を行う（1 時間）
7	Unit 3 Sports	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 3 を学習する。	事前：該当 Unit の Reading、Writing を行う（1 時間） 事後：授業内で指示された課題を行う（1 時間）
8	中間テスト	Unit 1-3	事前：テスト勉強
9	Unit 4 Health	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 4 を学習する。	事前：該当 Unit の Conversation, Grammar の分からない語彙、フレーズを調べておく（1 時間） 事後：授業内で指示された課題を行う（1 時間）
10	Unit 4 Health	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 4 を学習する。	事前：該当 Unit の Reading、Writing を行う（1 時間） 事後：授業内で指示された課題を行う（1 時間）
11	Unit 5 What's on your playlist?	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 5 を学習する。	事前：該当 Unit の Conversation, Grammar の分からない語彙、フレーズを調べておく（1 時間） 事後：授業内で指示された課題を行う（1 時間）
12	Unit 5 What's on your playlist?	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 5 を学習する。	事前：該当 Unit の Reading、Writing を行う（1 時間） 事後：授業内で指示された課題を行う（1 時間）
13	Unit 6 At the movies	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 6 を学習する。	事前：該当 Unit の Conversation, Grammar の分からない語彙、フレーズを調べておく（1 時間） 事後：授業内で指示された課題を行う（1 時間）
14	Unit 6 At the movies	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 6 を学習する。	事前：該当 Unit の Reading、Writing を行う（1 時間） 事後：授業内で指示された課題を行う（1 時間）
15	期末テスト	Unit 4-6	事前：テスト勉強

関連科目	他の英語関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Live Escalate Book 2 : Trekking	角山照彦	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） 80%
学生へのメッセージ	英語が話せれば、読めれば、皆さんの未来へとつづく多くの可能性の扉が開きます。このクラスを通し英語の基礎力の向上と、自己学習の定着を目指しましょう。
担当者の	7 号館 2 階　非常勤講師室

研究室等	
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要す る事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 ＊授業内容や事前・事後学習は変更する可能性があります。その場合、授業内及び Teams にて告知します。

科目名	基礎英語Ⅰb	科目名（英文）	Basic English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	D
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	高橋　章夫
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1324c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。 4 技能の基礎力を固めること、 ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方、評価方法などの説明	特になし
2	Unit 1 "It's the Titanic"	Be 動詞を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	事前課題：Unit 1 の英作文の設問に解答する。(1時間) 事後課題：間違った箇所を修正するとともに授業で学習した文法を確認する。(1時間)
3	Unit 2 "A Floating Palace"	疑問文を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	事前課題：Unit 2 の英作文の設問に解答する。(1時間) 事後課題：間違った箇所を修正するとともに授業で学習した文法を確認する。(1時間)
4	Unit 3 Departure	助動詞を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	事前課題：Unit 3 の英作文の設問に解答する。(1時間) 事後課題：間違った箇所を修正するとともに授業で学習した文法を確認する。(1時間)
5	Unit 4 Iceberg (1)	第１文型と第２文型を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	事前課題：Unit 4 の英作文の設問に解答する。(1時間) 事後課題：間違った箇所を修正するとともに授業で学習した文法を確認する。(1時間)
6	Unit 5 Iceberg (2)	第３文型と第４文型を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	事前課題：Unit 5 の英作文の設問に解答する。(1時間) 事後課題：間違った箇所を修正するとともに授業で学習した文法を確認する。(1時間)
7	Unit 6 Iceberg (3)	進行形を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	事前課題：Unit 6 の英作文の設問に解答する。(1時間) 事後課題：間違った箇所を修正するとともに授業で学習した文法を確認する。(1時間)
8	Unit 7 Lifeboat	受動態を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	事前課題：Unit 7 の英作文の設問に解答する。(1時間) 事後課題：間違った箇所を修正するとともに授業で学習した文法を確認する。(1時間)
9	Unit 8 The Miracle of Philip Aks (1)	第５文型を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	事前課題：Unit 8 の英作文の設問に解答する。(1時間) 事後課題：間違った箇所を修正するとともに授業で学習した文法を確認する。(1時間)
10	Unit 9 The Miracle of Philip Aks (2)	第５文型を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	事前課題：Unit 9 の英作文の設問に解答する。(1時間) 事後課題：間違った箇所を修正するとともに授業で学習した文法を確認する。(1時間)
11	Unit 10 The Miracle of Philip Aks (3)	完了形を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	事前課題：Unit 10 の英作文の設問に解答する。(1時間) 事後課題：間違った箇所を修正するとともに授業で学習した文法を確認する。(1時間)
12	Unit 11 Mr. Smith's "White Lie"	動名詞を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	事前課題：Unit 11 の英作文の設問に解答する。(1時間) 事後課題：間違った箇所を修正するとともに授業で学習した文法を確認する。(1時間)
13	Unit 12 Together until the End of Their Lives (1)	不定詞を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	事前課題：Unit 12 の英作文の設問に解答する。(1時間) 事後課題：間違った箇所を修正するとともに授業で学習した文法を確認する。(1時間)
14	復習、まとめテスト	Unit 1-12 の復習 まとめテスト	事前課題：Unit 1-12 で学んだことを確認し、まとめテストに備える。(3時間)
15	まとめ	まとめテスト返却 解説	事後課題：間違った箇所を確認する。(1時間)

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	First Voyage 大学基本英文法＆リーディング	木村　啓子 他	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂

		Revised Edition （指定の単語集）		
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	全学共通英語課題 English Central 20% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） 80%
学生への メッセージ	毎回文法テーマに沿った問題に取り組みます。簡単な表現を応用することで、様々な場面に対応できる英語力を身につけていきましょう。教科書の問題は基礎レベルの問題ですので、より高度な表現を使用できるように、適宜ハンドアウトを配布します。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅰb	科目名（英文）	Basic English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	E
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田村　康子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1324c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit 1 : Personal Correspondence(1)	リスニング、練習問題	事前学習：テキスト p.8-9 の練習問題を行う（1 時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1 時間）
2	Unit 1 : Personal Correspondence(1)	文法、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.10-13 の練習問題を行う（1 時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1 時間）
3	Unit 2 : Personal Correspondence(2)	リスニング、文法、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.14-19 の練習問題を行う（1 時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1 時間）
4	Unit 3 : Biography(1)	リスニング、文法、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.20-25 の練習問題を行う（1 時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1 時間）
5	Unit 4 : Biography(2)	リスニング、文法、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.26-31 の練習問題を行う（1 時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1 時間）
6	Unit 5 : Events & Festivals	リスニング、練習問題	事前学習：テキスト p.32-33 の練習問題を行う（1 時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1 時間）
7	Unit 5 : Events & Festivals	文法、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.34-37 の練習問題を行う（1 時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1 時間）
8	復習、臨時テスト	復習と臨時テスト	テスト勉強：Unit1-5 までの復習（2 時間）
9	Unit 6 : Directions & Locations(1)	リスニング、文法、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.38-43 の練習問題を行う（1 時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1 時間）
10	Unit 7 : Directions & Locations(2)	リスニング、文法、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.44-49 の練習問題を行う（1 時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1 時間）
11	Unit 8 : Directions & Locations(3)	リスニング、文法、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.50-55 の練習問題を行う（1 時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1 時間）
12	Unit 9 : Occupations(1)	リスニング、文法、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.56-61 の練習問題を行う（1 時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1 時間）
13	Unit 10 : Occupations(2)	リスニング、練習問題	事前学習：テキスト p.62-63 の練習問題を行う（1 時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1 時間）
14	復習、臨時テスト	復習と臨時テスト	テスト勉強：Unit6-10 までの復習（2 時間）
15	Unit 10 : Occupations(2)	文法、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.64-67 の練習問題を行う（1 時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1 時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Power-Up English<Basic>	JACET リスニング研究会	南雲堂

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><td>2</td><td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-</td><td>西谷 恒志</td><td>成美堂</td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>全学共通英語課題（English Central）　20%
授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　80%</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>毎回の授業に必ず出席するとともに、予習・復習を必ず行ってください。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>7 号館 2 階　非常勤講師室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。</td></tr>
</table>

科目名	基礎英語Ⅰb	科目名（英文）	Basic English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	G
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ダンカン　ホワイト
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1324c1		

授業概要・目的	英語で発信するための基礎作りをし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができるようになる。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期はCEFR-J [A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
2	Unit 1	Lists and categories	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
3	Unit 2	Extra information and questions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
4	Unit 3	Order of importance	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
5	Unit 4	Habits	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
6	Unit 5	Future concepts, speculation.	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
7	Unit 6	Instructions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
8	Unit 7	Creative instructions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
9	Unit 8	Location and juxtaposition	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
10	Unit 9	Giving directions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
11	Unit 10	Diaries and the past	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
12	Unit 11	Story structures and formats	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
13	Unit 12	Description	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
14	Unit 13	Conversation gambits	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
15	Review	Review	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.

関連科目	―

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	SCD Revised　ISBN 978-4-9905671-1-8	Richard Rowat	Weissman Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Evaluation will be based on quizzes, homework assignments and class participation Exam 10% In-class quizzes 10% Homework assignments 10% Class participation and attitude, ability 70%
学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson.
担当者の研究室等	7号館2階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅰb	科目名（英文）	Basic English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	H
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	金原　真由美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1324c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 前期は、第一に英語の基本文法を確実に習得することを目標とする（不足の場合はプリント問題で補う）。第二にその知識を総動員して少し長い文章を読むことで応用力を付けます。
科目学習の効果（資格）	TOEIC，英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit 1 を始める	授業の進め方、出欠の扱い、評価方法などの説明	事前学習：文法解説を読み Exercise をする。英文読解は文意の流れを考えながら単語やフレーズを調べる。(1 時間) 事後学習：要点を書き出しまとめる(30 分)
2	２　一般動詞（現在） ３　一般動詞（過去形） １８　5 つの基本文型	文法解説 Exercises（語彙選択、並べ替え、和訳、英文読解）	事前学習：文法解説を読み Exercise をする。英文読解は文意の流れを考えながら単語やフレーズを調べる。(1 時間) 事後学習：要点を書き出しまとめる(30 分)
3	４　　進行形 ５　　未来形 １６　完了形	文法解説 Exercises（語彙選択、並べ替え、和訳、英文読解）	事前学習：文法解説を読み Exercise をする。英文読解は文意の流れを考えながら単語やフレーズを調べる。(1 時間) 事後学習：要点を書き出しまとめる(30 分)
4	６　　助動詞	文法解説 Exercises（語彙選択、並べ替え、和訳、英文読解）	事前学習：文法解説を読み Exercise をする。英文読解は文意の流れを考えながら単語やフレーズを調べる。(1 時間) 事後学習：要点を書き出しまとめる(30 分)
5	７　名詞・冠詞 ８　代名詞	文法解説 Exercises（語彙選択、並べ替え、和訳、英文読解）	事前学習：文法解説を読み Exercise をする。英文読解は文意の流れを考えながら単語やフレーズを調べる。(1 時間) 事後学習：要点を書き出しまとめる(30 分)
6	９　前置詞	文法解説 Exercises（語彙選択、並べ替え、和訳、英文読解）	事前学習：文法解説を読み Exercise をする。英文読解は文意の流れを考えながら単語やフレーズを調べる。(1 時間) 事後学習：要点を書き出しまとめる(30 分)
7	１０　形容詞・副詞 １１　比較	文法解説 Exercises（語彙選択、並べ替え、和訳、英文読解）	事前学習：文法解説を読み Exercise をする。英文読解は文意の流れを考えながら単語やフレーズを調べる。(1 時間) 事後学習：要点を書き出しまとめる(30 分)
8	授業後、中間テスト	中間テスト（前半の学習内容の確認）	中間テストの勉強（文法上の要点、英文の構造、長文の内容を見直すこと）
9	１２　命令文・感嘆文 １５　受動態	文法解説 Exercises（語彙選択、並べ替え、和訳、英文読解）	事前学習：文法解説を読み Exercise をする。英文読解は文意の流れを考えながら単語やフレーズを調べる。(1 時間) 事後学習：要点を書き出しまとめる(30 分)
10	１３　接続詞（I）	文法解説 Exercises（語彙選択、並べ替え、和訳、英文読解）	事前学習：文法解説を読み Exercise をする。英文読解は文意の流れを考えながら単語やフレーズを調べる。(1 時間) 事後学習：要点を書き出しまとめる(30 分)
11	１４　不定詞(I)･動名詞(I)	文法解説 Exercises（語彙選択、並べ替え、和訳、英文読解）	事前学習：文法解説を読み Exercise をする。英文読解は文意の流れを考えながら単語やフレーズを調べる。(1 時間) 事後学習：要点を書き出しまとめる(30 分)
12	２３　関係代名詞	文法解説 Exercises（語彙選択、並べ替え、和訳、英文読解）文法解説 Exercises（語彙選択、並べ替え、和訳、英文読解）	事前学習：文法解説を読み Exercise をする。英文読解は文意の流れを考えながら単語やフレーズを調べる。(1 時間) 事後学習：要点を書き出しまとめる(30 分)
13	２１　It の特別用法	文法解説 Exercises（語彙選択、並べ替え、和訳、英文読解）	事前学習：文法解説を読み Exercise をする。英文読解は文意の流れを考えながら単語やフレーズを調べる。(1 時間) 事後学習：要点を書き出しまとめる(30 分)
14	２４　仮定法	文法解説 Exercises（語彙選択、並べ替え、和訳、英文読解）	事前学習：文法解説を読み Exercise をする。英文読解は文意の流れを考えながら単語やフレーズを調べる。(1 時間) 事後学習：要点を書き出しまとめる(30 分)
15	まとめ（期末テスト）	期末テスト（後半の学習内容の確認）	期末テストの勉強（文法上の要点、英文の構造、長

				文の内容を見直すこと）

関連科目	他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Primer <Revised Edition>	佐藤哲三 / 愛甲ゆかり	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test一Revised Edition--(指定の単語集)	西谷恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	全学共通英語課題（English Central） 20% 授業への参加、貢献（質問に対する発言、板書、単語テスト、中間・期末テストなど含む） 80%
学生への メッセージ	進むUnitは必ずしも目次順ではありません。実際の授業の理解度に合わせて学習していきます。 英文法の基本（解説とexercisesを通して）を押さえた後はまとまった英語の文章を読んでいく。これを繰りかえすことで基礎力を身に付けていきます。事前の予習が大変重要になります。読解英文は内容を考えながら単語やフレーズの意味を引きましょう。自分で引いた単語の意味は忘れません。
担当者の 研究室等	7号館2階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅰb	科目名（英文）	Basic English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	Ⅰ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西原　菜月
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1324c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業概要及び評価方法の説明など	次回の授業に向け Unit 1 の内容を読み込んでおく。
2	Unit 1 現在形・過去形	単語の確認・英文の内容理解・リスニング	Unit 1 の単語を見直し、暗記をする。（目安：30 分~1 時間）
3	Unit 1 現在形・過去形	文法の練習問題・ライティング	Unit 1 の文法問題及びライティング問題の見直しを行う。（目安：30 分~1 時間）
4	Unit 2 未来形・進行形	小テスト(Unit 1 の単語と文法問題) 単語の確認・英文の内容理解・リスニング	Unit 2 の単語を見直し、暗記をする。（目安：30 分~1 時間）
5	Unit 2 未来形・進行形	文法の練習問題・ライティング	Unit 2 の文法問題及びライティング問題の見直しを行う。（目安：30 分~1 時間）
6	Unit 3 完了形	小テスト(Unit 2 の単語と文法問題) 単語の確認・英文の内容理解・リスニング	Unit 3 の単語を見直し、暗記をする。（目安：30 分~1 時間）
7	Unit 3 完了形	文法の練習問題・ライティング	Unit 3 の文法問題及びライティング問題の見直しを行う。（目安：30 分~1 時間）
8	まとめ(1) 中間テスト	Unit 1~3 の単語、英文内容と文法事項の確認と復習	中間テストに向け、Unit 1, 2, 3 の確認を行なっておく
9	Unit 4 受動態・使役動詞	単語の確認・英文の内容理解・リスニング	Unit 4 の単語を見直し、暗記をする。（目安：30 分~1 時間）
10	Unit 4 受動態・使役動詞	文法の練習問題・ライティング	Unit 4 の文法問題及びライティング問題の見直しを行う。（目安：30 分~1 時間）
11	Unit 5 There 構文・助動詞	小テスト(Unit 4 の単語と文法問題) 単語の確認・英文の内容理解・リスニング	Unit 5 の単語を見直し、暗記をする。（目安：30 分~1 時間）
12	Unit 5 There 構文・助動詞	文法の練習問題・ライティング	Unit 5 の文法問題及びライティング問題の見直しを行う。（目安：30 分~1 時間）
13	Unit6 冠詞・代名詞	小テスト(Unit 5 の単語と文法問題) 単語の確認・英文の内容理解・リスニング	Unit 6 の単語を見直し、暗記をする。（目安：30 分~1 時間）
14	Unit6 冠詞・代名詞	文法の練習問題・ライティング	Unit 6 の文法問題及びライティング問題の見直しを行う。（目安：30 分~1 時間）
15	まとめ(2) 期末テスト	Unit 4~6 の単語、英文内容と文法事項の確認と復習	期末テストに向け、Unit 4, 5, 6 の確認を行なっておく

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Answers to Everyday Questions 2	Arnold Arao 他	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-（指定の単語帳）	西谷　恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題（English Central）　20% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　80%
学生へのメッセージ	この授業では単語やイディオム・文法問題・リスニング・ライティングを扱い、幅広く英語を学んでいきます。単元ごとに習熟度確認のための小テストを実施しますので、授業後には復習をするよう心がけてください。外国語は一朝一夕には習得することはできませんが、日々学習を重ねることで必ず使いこなせるようになりますので一緒に頑張っていきましょう。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅰb	科目名（英文）	Basic English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松浦　茂寿
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1324c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業、提出物、評価方法の説明	―――――
2	Unit1	be 動詞	教科書 p14-16 を事前に目を通して、授業後は復習する。
3	Unit2	一般動詞(現在)	教科書 p.17-19 を事前に目を通して、授業後は復習する。
4	Unit3	一般動詞（過去）	教科書 p.20-22 を事前に目を通して、授業後は復習する。
5	Unit4	進行形	教科書 p.23-25 を事前に目を通して、授業後は復習する。
6	Unit5	未来形	教科書 p.26-28 を事前に目を通して、授業後は復習する。
7	Unit6	助動詞	教科書 p.29-31 を事前に目を通して、授業後は復習する。
8	Unit7	名詞、冠詞	教科書 p.32-34 を事前に目を通して、授業後は復習する。
9	Unit8	代名詞	教科書 p.35-37 を事前に目を通して、授業後は復習する。
10	Unit9	前置詞	教科書 p.38-40 を事前に目を通して、授業後は復習する。
11	Unit10	形容詞、副詞	教科書 p.41-43 を事前に目を通して、授業後は復習する。
12	Unit11	比較	教科書 p.44-46 を事前に目を通して、授業後は復習する。
13	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する。	知らなかった項目を中心にプリントに記載された表現、文法事項、習った内容は何度も復習して覚えよう
14	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する	知らなかった項目を中心にプリントに記載された表現、文法事項、習った内容は何度も復習して覚えよう
15	総合復習	定期試験対策	知らなかった項目を中心にプリントに記載された表現、文法事項、習った内容は何度も復習して覚えよう

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	First Primer 〈Revised Edtion〉 基礎からの英語入門 ＜改訂新版＞	佐藤哲三、アベ松伸二、愛甲ゆかり、小手川巧光、福島孝夫、重久睦美、村上美穂、新彰	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

全学共通英語課題　　20%
定期試験　　50%
授業への参加、貢献（提出物、小テスト、まとめテスト等も含む）　30%
授業評価の各割合は目安で多少変わる場合があります。
日頃の授業態度も重視します(なお、授業態度とは投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性を指す)。
今後の社会情勢及び授業形態の変化に伴い、評価方法が変更になる場合があります。

学生へのメッセージ	「明るく、元気で感動を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！
担当者の	7 号館 2 階　非常勤講師室

研究室等	
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅰb	科目名（英文）	Basic English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	抽冬　紘和
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1324c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC，英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Chapter 1 Heads Up	効率的なリーディング	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
2	Chapter 1 Heads Up	効率的なリーディング	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
3	Chapter 2 Burping Cows	フレーズリーディングを理解する	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
4	Chapter 2 Burping Cows	フレーズリーディングを理解する	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
5	Chapter 3 Going Vegetarian	フレーズリーディングを理解する	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
6	Chapter 3 Going Vegetarian	フレーズリーディングを理解する	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
7	確認テスト		
8	Chapter 4 Coffee Shop Secrets	スキャニングで情報を検索する	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
9	Chapter 4 Coffee Shop Secrets	スキャニングで情報を検索する	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
10	Chapter 5 Unusual Jobs	スキミングで概要を把握する	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
11	Chapter 5 Unusual Jobs	スキミングで概要を把握する	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
12	Chapter 6 Underwater Monsters	背景知識を活性化させる	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
13	Chapter 6 Underwater Monsters	背景知識を活性化させる	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
14	Chapter 7 Flash Fiction	背景知識を活用する	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
15	確認テスト２		

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	READING PALETTE Green	Katsuhiko Muto Timothy Kiggell	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	西垣恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題　20% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　80%
学生へのメッセージ	単語力、文法力を学びながら、英語のスキルも同時に学習し、自学習ができるようになりましょう。 頑張っていきましょう☆
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	課題、レポートおよび小テストに対するフィードバックの方法 確認テストの正解は次回の授業で解説する。

科目名	基礎英語Ⅱa	科目名（英文）	Basic English IIa
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	Ａ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松浦　茂寿
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1325c1		

授業概要・目的	中学から高校にかけて学んだ文法事項の復習をはじめ、更なる文法力及び語彙力の養成、実戦形式の資格、検定練習を通し四択問題など独自の出題形式に慣れ、解答を導く知識の養成をはかる。授業のみならず家庭での予習、復習をきちんとし授業内容がよりわかるように各自、努力しよう。特に文法事項や用語等の知識は受験時に思い出せなければ役に立たないので、すぐ出てくるまで繰り返し覚えて身につけよう。
到達目標	今まで持っている英文法力及び語彙の更なる強化を目指し、今後 TOEIC ブリッジなど資格試験など必要な場面で日本語に訳さなくても理解出来たり、学んだ事がすぐ出てくるようになる事を目標とする。
授業方法と留意点	毎週、授業時に単語帳から単語テストを行う予定。簡単な文法問題中心のテキストを用い、進度に沿って課題提出を随時行うので理由のない限り出席を心がけてもらいたい。文法はルールを繰り返し覚えれば必ず身につきます。授業中に出てきた新しい単語も毎日少しずつ覚える習慣をつけよう。英語が苦手な人も余り意識せず、向上心を持ってこれからがんばろう！
科目学習の効果（資格）	高校までの基本的英文法の復習及び英検や TOEIC 等の検定・資格試験にも役立つ知識の養成。 ＴＯＥＩＣテストに有効な単語力

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーションと前期の復習	授業方法、提出物、評価方法についての説明と復習	―――――
2	Unit9　Career　経歴を話そう	現在完了形	事前学習：教科書 p.49-54 の文法事項を読んで練習問題を解いておく（1 時間）。 事後学習：新出単語及び間違ったところを覚える（1 時間）。
3	Unit10　Parties　パーティーに行こう！	未来表現	事前学習：教科書 p.55-60 の文法事項を読んで練習問題を解いておく（1 時間）。 事後学習：：新出単語及び間違ったところを覚える（1 時間）。
4	Unit11　Rules and Regulations　ルールにもお国柄	助動詞	事前学習：教科書の p.61-66 の文法事項を読んで練習問題を解いておく（1 時間）。 事後学習：新出単語及び間違ったところを覚える（1 時間）。
5	Unit12　Invention and Discovery　発明、発見にはひらめきが大切	受動態	事前学習：教科書 p.67-72 の文法事項を読んで練習問題を解いておく（1 時間）。 事後学習：新出単語及び間違ったところを覚える（1 時間）。
6	Unit13　Movie Reviews　映画評論	形容詞、副詞	事前学習：教科書 p.73-78 の文法事項を読んで練習問題を解いておく（1 時間）。 事後学習：新出単語及び間違ったところを覚える（1 時間）。
7	Unit14　Worls Records　世界記録もさまざま	比較級、最上級	事前学習：教科書 p.79-84 の文法事項を読んで練習問題を解いておく（1 時間）。 事後学習：新出単語及び間違ったところを覚える（1 時間）。
8	Unit15 Future Dream 将来の夢を語ろう	不定詞、動名詞	事前学習：教科書 p.85-89 の文法事項を読んで練習問題を解いておく（1 時間）。 事後学習：新出単語及び間違ったところを覚える（1 時間）。
9	資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	事後学習：習った内容は何度も復習して覚えよう
10	資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	事後学習：習った内容は何度も復習して覚えよう
11	資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	事後学習：習った内容は何度も復習して覚えよう
12	資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	事後学習：習った内容は何度も復習して覚えよう
13	資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	事後学習：習った内容は何度も復習して覚えよう
14	資格、検定などの問題またはリスニング演習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	事後学習：習った内容は何度も復習して覚えよう
15	総合復習	定期試験対策	事後学習：教科書など後期範囲一通り習った内容は何度も復習して覚えよう

関連科目：基礎英語Ｉa

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Ace	山本厚子、大須賀直子、真野千佳子、岡本京子、Benedict ROwlett	成美堂
2	『The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 学校語彙で学ぶ TOEIC テスト（単語集）　改訂新版』	西谷悟志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	全学共通英語課題 20% 定期試験　　50% 授業への参加、貢献（提出物、小テスト、まとめテスト等も含む）　30% 授業評価の各割合は目安で多少変わる場合があります。 日頃の授業態度も重視します(なお、授業態度とは投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性を指す)。 今後の社会情勢及び授業形態の変化に伴い、評価方法が変更になる場合があります。
学生への メッセージ	「明るく、元気で、感動と発見を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。また折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料及びテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポート準部、宿題などに要する事前、事後学習には毎回 1 時間以上取り組み、課題に 1 回当たり 1 時間程度かけて仕上げ、それらの総時間はおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問などは出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅱa	科目名（英文）	Basic English IIa
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ローマン　レンズ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1325c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 _Please review each unit's grammar and vocabulary before and after class, and finish the grammar worksheet for each unit (
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Course and Textbook Introduction, Unit 7 - Does it have a view? 1-5	Asking about and describing houses and apartments	Follow instructions as provided in class.
2	Unit 7 - Does it have a view? 6-12 + Grammar worksheet unit 7	Talking about the furniture in a room	Follow instructions as provided in class.
3	Unit 8 - Where do you work? 1-6	Asking for and giving information about work	Follow instructions as provided in class.
4	Unit 8 - Where do you work? 7-12 + Grammar worksheet unit 8	Giving opinions about jobs; describing workday routines	Follow instructions as provided in class.
5	Unit 9 - I always eat breakfast 1-5	Count and noncount nouns; some and any	Follow instructions as provided in class.
6	Unit 9 - I always eat breakfast 6-11 + Grammar worksheet unit 9	Adverbs of frequency: always, usually, often, sometimes, hardly ever, never	Follow instructions as provided in class.
7	Video review class unit 7 - 9	Reviewing grammar and vocabulary	Follow instructions as provided in class.
8	Unit 10 - What sports do you like? 1-5	Simple present Wh-questions	Follow instructions as provided in class.
9	Unit 10 - What sports do you like? 6-12 + Grammar worksheet unit 10	'Can' for ability; yes/no and Wh-questions with 'can'	Follow instructions as provided in class.
10	Unit 11 - I'm going to have a party 1-7	The future with 'be going to'	Follow instructions as provided in class.
11	Unit 11 - I'm going to have a party 8-12 + Grammar worksheet unit 11	Yes/no and Wh-questions with 'be going to'; future time expressions	Follow instructions as provided in class.
12	Unit 12 - How do you feel? 1-5	'Have' + noun; 'feel' + adjective	Follow instructions as provided in class.
13	Unit 12 - How do you feel? 6-12 + Grammar worksheet unit 12	Negative and positive adjectives; imperatives	Follow instructions as provided in class.
14	Video review class unit 10-12	Reviewing grammar and vocabulary	Follow instructions as provided in class.
15	Final class - review unit 7-12	Final review and activity	Follow instructions as provided in class.

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Interchange Intro (5th Edition)	Jack C. Richards	Cambridge
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題 20% 授業への参加 40%、態度 20% 貢献（小テスト、まとめテスト等も含む 40%） 80% > THIS CLASS: (Attendance 40%, Attitude, 20% Class Assignments 40%): 80% of final score.
学生への	I'm looking forward to teaching you this year.

メッセージ	Please participate fully in pair and group work, and enjoy the class. Please join the Teams and Moodle for this course. I will share the Zoom link there if we need to use it!
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅱa	科目名（英文）	Basic English IIa
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ブルース　ライリー
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1325c1		

授業概要・目的	この授業では、文法に関する知識、語彙力、読解力など広く総合英語力の底上げを行い、TOEIC の点数アップのみならず、英語を用いて情報を得られる力をつける。
到達目標	文型やペアワークを使いながら、総合的な英語コミュニケーション能力を向上させる。 TOEIC のボキャブラリースコアを向上させる。
授業方法と留意点	教科書は 2 冊あり、1 冊は理系向けリーディング教材（English Firsthand 1）を、もう 1 冊は単語集（TOEIC 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test）を使用する。各回の授業の冒頭では単語集を使用した単語テストを行う。単語テストは返却するので、統一単語テストに向けて復習すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、単語テスト	オリエンテーション、単語テスト 1（番号 523-565）	事前学習・・・単語集の番号 523-565 を覚える。
2	単語テスト、Unit 7	単語テスト 2 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号 566-609 を覚える。Unit 7 の予習 事後学習・・・Unit 1 の復習
3	単語テスト、Unit 7	単語テスト 3 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号 610-653 を覚える。Unit 7 の予習 事後学習・・・Unit 1 の復習
4	単語テスト、Unit 8	単語テスト 4 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号 654-698 を覚える。Unit 8 の予習 事後学習・・・Unit 8 の復習
5	単語テスト、Unit 8	単語テスト 5 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号 699-741 を覚える。Unit 8 の予習 事後学習・・・Unit 8 の復習
6	単語テスト、Unit 9	単語テスト 6 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号 742-781 を覚える。Unit 9 の予習 事後学習・・・Unit 9 の復習
7	単語テスト、Unit 9	単語テスト 7 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号 782-821 を覚える。Unit 9 の予習 事後学習・・・Unit 9 の復習
8	単語テスト、Units 7-9	試験と振り返り	事後学習・・・Units 7-9 の復習
9	単語テスト、Unit 10	単語テスト 8 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号 822-862 を覚える。Unit 10 の予習 事後学習・・・Unit 10 の復習
10	単語テスト、Unit 10	単語テスト 9 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号 863-908 を覚える。Unit 10 の予習 事後学習・・・Unit 10 の復習
11	単語テスト、Unit 11	単語テスト 10 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号 909-951 を覚える。Unit 11 の予習 事後学習・・・Unit 11 の復習
12	単語テスト、Unit 11	単語テス 11 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号 952-991 を覚える。Unit 11 の予習 事後学習・・・Unit 11 の復習
13	単語テスト、Unit 12	単語テスト 12 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号 992-1033 を覚える。Unit 12 の予習 事後学習・・・Unit 12 の復習
14	単語テスト、Units 7-12	試験と振り返り	事後学習・・・Units 7-12 の復習
15	復習	復習	Units 7-12

関連科目	他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Firsthand 1, 5th Edition	Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown	Pearson
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition （指定の単語集）	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	In-class material 80% English Central　20%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	

科目名	基礎英語Ⅱa	科目名（英文）	Basic English IIa
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	D
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	俣野　裕美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1325c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた４技能統合型の演習授業を行う。　４技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身に付けること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法の確認	事前・事後：前期の学習内容の復習
2	Unit 1: Resellers　Good or Bad? 転売ヤーに賛成？反対？［ be 動詞 ］	単語テスト 転売ヤーをテーマに リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング、文法の確認	事前：Vocabulary Task の単語を暗記、リーディングの下読み 事後：発音、文法事項の確認
3	Unit 2: About Earphones 昨今のイヤホン事情［ 一般動詞 ］	単語テスト イヤホンをテーマに リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング、文法の確認	事前：Vocabulary Task の単語を暗記、リーディングの下読み 事後：発音、文法事項の確認
4	Unit 3: Cash Registers レジと言えば有人？それとも無人？［ 名詞・代名詞 ］	単語テスト 有人無人レジをテーマに リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング、文法の確認	事前：Vocabulary Task の単語を暗記、リーディングの下読み 事後：発音、文法事項の確認
5	Unit 4: Funny Happenings During Online Lessons オンライン授業で起きたハプニング　［ 過去形 ］	単語テスト オンライン授業をテーマに リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング、文法の確認	事前：Vocabulary Task の単語を暗記、リーディングの下読み 事後：発音、文法事項の確認
6	Unit　5:　Loose-Fitting Clothing 流行りのオーバーサイズ［ 進行形 ］	単語テスト オーバーサイズをテーマに リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング、文法の確認	事前：Vocabulary Task の単語を暗記、リーディングの下読み 事後：発音、文法事項の確認
7	Unit 6; Shrinkflation 密かな値上げが進行中［ Wh 疑問文 ］	単語テスト 値上げをテーマに リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング、文法の確認	事前：Vocabulary Task の単語を暗記、リーディングの下読み 事後：発音、文法事項の確認、 中間テストの準備
8	中間テスト	これまで学んだ内容より中間テスト	事前・事後：これまで学んだことの再確認
9	Unit　7:　Living　in　the Countryside 田舎暮らしに憧れる若者たち［ 前置詞 ］	単語テスト 田舎暮らしをテーマに リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング、文法の確認	事前：Vocabulary Task の単語を暗記、リーディングの下読み 事後：発音、文法事項の確認
10	Unit　8:　Hanging　Out　in Streets and Parks 外で友人と過ごす大学生たち［ 接続詞 ］	単語テスト 大学生をテーマに リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング、文法の確認	事前：Vocabulary Task の単語を暗記、リーディングの下読み 事後：発音、文法事項の確認
11	Unit 9 :Plant Burgers Are Popular in America 植物ベースの代替肉ハンバーガー［ 現在完了形 ］	単語テスト 代替肉をテーマに リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング、文法の確認	事前：Vocabulary Task の単語を暗記、リーディングの下読み 事後：発音、文法事項の確認
12	Unit　10:　South　Korean Culture　Is　Popular Worldwide 大人気の韓国文化　［ 未来表現 ］	単語テスト 韓国文化をテーマに リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング、文法の確認	事前：Vocabulary Task の単語を暗記、リーディングの下読み 事後：発音、文法事項の確認
13	Unit 11: Doxing ドキシングから身を守ろう［ 助動詞 ］	単語テスト ドキシングをテーマに リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング、文法の確認	事前：Vocabulary Task の単語を暗記、リーディングの下読み 事後：発音、文法事項の確認
14	Unit 12: Fast Movies ファスト映画［ 受動態 ］	単語テスト ファスト映画をテーマに リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング、文法の確認	事前：Vocabulary Task の単語を暗記、リーディングの下読み 事後：発音、文法事項の確認、期末テストの準備
15	まとめテスト	これまで学んだ内容より期末テスト	事前・事後：これまで学んだことの再確認

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	読んで発信、社会のいま Trend Scope	Jonathan Lynch / 委文　光太郎	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test – Revised Edition –	西谷恒志	成美堂

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>全学共通英語課題　20%
授業への参加、貢献（課題の提出、中間・期末・単語テスト等を含む）80%</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>・積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価します。ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをします。成績が下がるだけでなく、単位の取得に大きな影響を及ぼします。
①私語など授業を妨害するような行為は自動的に欠席とみなす。
②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。
③許可のない途中退席、テキスト忘れは、原則欠席とみなす。
（原則として欠席をレポートの提出でカバーすることはできない。）
①から③が続く場合、単位を認めない。

・原則３回以上の欠席は単位不可とします。また、遅刻は３回で１回の欠席とみなします。

・紙の辞書か電子辞書を持ってきてください。

・英語ができるようになると、自分の世界が広がります。多少の失敗は気にせず、前向きにトライし続けましょう。

・半年間、一緒に楽しく勉強したいと思います。マナーを守り、将来のために少しでも多くのことを学んでくれることを願っています。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>7 号館 2 階　非常勤講師室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。</td></tr>
</table>

科目名	基礎英語Ⅱa	科目名（英文）	Basic English IIa
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	E
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	山本　尚子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1325c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。(DP1) (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learnign 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の説明、、プリント教材を使った学習	テキストの予習と単語の学習 テキストの予習をしながら単語帳を作ること（以下同様）
2	What is "Black Friday"? (1)	現在時制・過去時制	テキストの予習と単語の学習
3	What is "Black Friday"? (2) What is a "leap year"? (1)	現在時制・過去時制 未来形・進行形	テキストの予習と単語の学習
4	What is a "leap year?" (2)	未来形・進行形	テキストの予習と単語の学習
5	Why do big ceremonies have a "red carpet"? (1)	完了形	テキストの予習と単語の学習
6	Why do big ceremonies have a "red carpet"? (2) Where did "mouthwash" come from? (1)	完了形 受動態・使役動詞	テキストの予習と単語の学習
7	Where did "mouthwash" come from? (2)	受動態・使役動詞	テキストの予習と単語の学習
8	What is a "Viking"?	There is 構文、助動詞	テキストの予習と単語の学習
9	Why are oranges "orange"?	冠詞・代名詞	テキストの予習と単語の学習
10	Where did "Vaseline" come from?	可算名詞、不可算名詞	テキストの予習と単語の学習
11	Why are flamingos "pink"?	形容詞、副詞	テキストの予習と単語の学習
12	What is a movie trailer？	比較	テキストの予習と単語の学習
13	Where did "bubble wrap" come from?	不定詞、動名詞	テキストの予習と単語の学習
14	復習	後期の内容の復習	テキストの予習と単語の学習
15	まとめテスト、質疑応答	後期内容のまとめのテスト、質疑応答	これまでの内容の復習

関連科目	他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Answers to Everyday Questions 2	Arnold Arao 他	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題（English Central）　20% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテストなども含む)　80%
学生へのメッセージ	辞書を持参して毎回出席するように心がけてください。わからないことがあれば、授業中や授業後に必ず質問をするようにしてください。毎回の予定は目安であり多少の変更もあり得ますので、授業中の説明をよく聞いておいてください。皆さんの積極的な授業参加を期待しています。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅱa	科目名（英文）	Basic English IIa
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	G
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大江　麻里子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1325c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC，英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	後期のテキストの進め方について説明する	テキストの予習
2	Chapter 7 Toddlers and Technology	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語学習
3	Chapter 7 Toddlers and Technology	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語学習
4	Chapter 8 No More Game-Changing Technology	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語学習
5	Chapter 8 No More Game-Changing Technology	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語学習
6	Chapter 9 Waiting in Line for Delicious New Food	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語学習
7	Chapter 9 Waiting in Line for Delicious New Food	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語学習
8	Chapter 10 Sympathy for the Delivery Man	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語学習
9	Chapter 10 Sympathy for the Delivery Man	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語学習
10	Chapter 11 Black Friday	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語学習
11	Chapter 11 Black Friday	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語学習
12	Chapter 12 Graduation Trips	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語学習
13	Chapter 12 Graduation Trips	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語学習
14	後期の総復習	質疑応答	後期の範囲で分からなかった点をまとめておく
15	まとめのテスト	これまでの内容の復習	テキストのこれまでの内容の復習

関連科目	他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Trend Watching　2	Jonathan Lynch	成美堂
2	The 1500Core Vocabulary for the TOEIC Test Revised Edition	NISHIYA Kojo	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題　20% 課題提出状況及び課題の正解率　80%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅱa	科目名（英文）	Basic English IIa
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	H
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	花房　ともえ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1325c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた４技能統合型の演習授業を行う。　４技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身に付けること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit 7: Take Me Home, Country Roads John Denver	授業の進め方、評価方法についての説明 ・Vocabulary / Listening / Grammar : 仮定法過去完了 / Conversation	・Vocabulary Quiz に向けての学習 ・授業終了時に示された課題に取り組む
2	Unit 7: Take Me Home, Country Roads John Denver	・Vocabulary Quiz ・Reading /Unit 7 のテーマに関連した Writing & Presentation	・Vocabulary Quiz に向けての学習 ・授業終了時に示された課題に取り組む
3	Unit 8: Imagine John Lennon	・Vocabulary Quiz ・Vocabulary / Listening / Grammar : wonder if / Conversation	・Vocabulary Quiz に向けての学習 ・授業終了時に示された課題に取り組む
4	Unit 8: Imagine John Lennon	・Vocabulary Quiz ・Reading /Unit 8 のテーマに関連した Writing & Presentation	・Vocabulary Quiz に向けての学習 ・授業終了時に示された課題に取り組む
5	Unit 9: I Need to Be in Love The Carpenters	・Vocabulary Quiz ・Vocabulary / Listening / Grammar : 仮定法過去 / Conversation	・Vocabulary Quiz に向けての学習 ・授業終了時に示された課題に取り組む
6	Unit 9：I Need to Be in Love The Carpenters	・Vocabulary Quiz ・Reading /Unit 9 のテーマに関連した Writing & Presentation	・Vocabulary Quiz に向けての学習 ・授業終了時に示された課題に取り組む ・Unit 7,8,9 の内容の復習
7	まとめテスト	Unit 7,8,9 の復習と中間まとめテスト 自己評価と振り返り	・Vocabulary Quiz に向けての学習 ・授業終了時に示された課題に取り組む
8	Unit 10: Honesty Billy Joel	・Vocabulary Quiz ・Vocabulary / Listening / Grammar : to 不定詞の形容詞的用法 / Conversation	・Vocabulary Quiz に向けての学習 ・授業終了時に示された課題に取り組む
9	Unit 10: Honesty Billy Joel	・Vocabulary Quiz ・Reading / Unit 10 のテーマに関連した Writing & Presentation	・単語テストに向けての学習 ・授業終了時に示された課題に取り組む
10	Unit 11: Hotel California Eagles	・Vocabulary Quiz ・Vocabulary / Listening / Grammar : 受動態 / Conversation	・Vocabulary Quiz に向けての学習 ・授業終了時に示された課題に取り組む
11	Unit 11：Hotel California Eagles	・Vocabulary Quiz ・Reading / Unit 11 のテーマに関連した Writing & Presentation	・Vocabulary Quiz に向けての学習 ・授業終了時に示された課題に取り組む
12	Unit 12：I Just Called to Say I Love You Stevie Wonder	・Vocabulary Quiz ・Vocabulary / Listening / Grammar : to 不定詞の副詞的用法 / Conversation	・Vocabulary Quiz に向けての学習 ・授業終了時に示された課題に取り組む
13	Unit 12：I Just Called to Say I Love You Steive Wonder	・Vocabulary Quiz ・Reading / Unit 12 のテーマに関連した Writing & Presentation	・Vocabulary Quiz に向けての学習 ・授業終了時に示された課題に取り組む ・発表の準備に取り組む
14	発表	発表、相互評価と振り返り	・Vocabulary Quiz に向けての学習 ・Unit 10,11,12 の内容の復習
15	まとめテスト	Unit 10,11,12 の復習および期末まとめテスト 自己評価と振り返り	Unit 10,11,12 の内容の復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Enjoying English through Pop Songs	Fuyuhiko Sekido, Aimei Kobayashi, Akiko Yamanaka, Kaname Yoshida	Asahi Press
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test – Revised Edition –	西谷恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

	2			
	3			
評価方法 （基準）	全学共通英語課題　　２０％ 授業への参加、貢献（Voabulary Quiz、発表、まとめテスト、課題提出、レポート提出を含む）　　８０％
学生への メッセージ	・ペア・グループワークを実施します。積極的・意欲的な取り組みと貢献を評価します。 ・紙の辞書か電子辞書を必ず持参してください。携帯電話やスマートフォンは指示した時以外は使用を禁止します。 ・毎授業実施する Vocabulary Quiz のための計画的な自主学習、授業外課題の取り組みに加え、毎回授業に出席することを心がけてください。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅱa	科目名（英文）	Basic English IIa
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	Ⅰ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	横内　美和
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1325c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価の方法などについて説明	授業内容や評価方法の確認
2	Unit1: Meeting People	小テスト（単語、文法問題） 人に会うことをトピックに英語を学習 ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング の基礎的な学力の向上と定着 トピックに関する基本的な知識や表現力を身につける	事前学習： 指定した単語の暗記、リーディング部分の単語の意味調べ 事後学習： 文法事項の確認
3	Unit2: Time to Eat	小テスト（単語、文法問題） 食事をトピックに英語を学習 ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング の基礎的な学力の向上と定着 トピックに関する基本的な知識や表現力を身につける	事前学習： 指定した単語の暗記、リーディング部分の単語の意味調べ 事後学習： 文法事項の確認
4	Unit 3: Living with Technology	小テスト（単語、文法問題） テクノロジーをトピックに英語を学習 ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング の基礎的な学力の向上と定着 トピックに関する基本的な知識や表現力を身につける	事前学習： 指定した単語の暗記、リーディング部分の単語の意味調べ 事後学習： 文法事項の確認
5	Unit4: Shopping for Clothes	小テスト（単語、文法問題） 買い物をトピックに英語を学習 ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング の基礎的な学力の向上と定着 トピックに関する基本的な知識や表現力を身につける	事前学習： 指定した単語の暗記、リーディング部分の単語の意味調べ 事後学習： 文法事項の確認
6	Unit5: A helping Hand at Home	小テスト（単語、文法問題） お手伝いをトピックに英語を学習 ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング の基礎的な学力の向上と定着 トピックに関する基本的な知識や表現力を身につける	事前学習： 指定した単語の暗記、リーディング部分の単語の意味調べ 事後学習： 文法事項の確認
7	Unit6: Going Places	小テスト（単語、文法問題） お出かけをトピックに英語を学習 ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング の基礎的な学力の向上と定着 トピックに関する基本的な知識や表現力を身につける	事後学習： これまでの授業内容の復習
8	中間テスト	これまで学んだ内容より中間テスト	事前学習： 指定した単語の暗記、リーディング部分の単語の意味調べ 事後学習：

			文法事項の確認
9	Unit7: Not Feeling So Good	小テスト（単語、文法問題） 病気をトピックに英語を学習 ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング の基礎的な学力の向上と定着 トピックに関する基本的な知識や表現力を身につける	事前学習： 指定した単語の暗記、リーディング部分の単語の意味調べ 事後学習： 文法事項の確認
10	Unit8: The Big Screen	小テスト（単語、文法問題） 映画をトピックに英語を学習 ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング の基礎的な学力の向上と定着 トピックに関する基本的な知識や表現力を身につける	事前学習： 指定した単語の暗記、リーディング部分の単語の意味調べ 事後学習： 文法事項の確認
11	Unit9: How Do You Feel?	小テスト（単語、文法問題） 感情をトピックに英語を学習 ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング の基礎的な学力の向上と定着 トピックに関する基本的な知識や表現力を身につける	事前学習： 指定した単語の暗記、リーディング部分の単語の意味調べ 事後学習： 文法事項の確認
12	Unit10: All in Good Fun	小テスト（単語、文法好き嫌い好き嫌いをトピックに英語を学習 ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング の基礎的な学力の向上と定着 トピックに関する基本的な知識や表現力を身につける	事前学習： 指定した単語の暗記、リーディング部分の単語の意味調べ 事後学習： 文法事項の確認
13	Unit11: Game Time	小テスト（単語、文法問題） スポーツをトピックに英語を学習 ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング の基礎的な学力の向上と定着 トピックに関する基本的な知識や表現力を身につける	事前学習： 指定した単語の暗記、リーディング部分の単語の意味調べ 事後学習： 文法事項の確認
14	Unit12 Rain or Shine	小テスト（単語、文法問題） 天候をトピックに英語を学習 ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング の基礎的な学力の向上と定着 トピックに関する基本的な知識や表現力を身につける	事前学習： 指定した単語の暗記、リーディング部分の単語の意味調べ 事後学習： 文法事項の確認
15	期末テスト	これまで学んだ内容より、期末テスト	事前・事後学習 これまでの授業内容の復習

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Let's Learn English through Various Subjects: From Culture to SDGs	伊藤孝治　他	大学教育出版
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

全学共通英語課題 20%
授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） 80%

学生へのメッセージ

・前期の内容よりさらに踏み込んで４技能の向上を目指します。

・積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価します。ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをします。成績が下がるだけでなく、単位の取得に大きな影響を及ぼします。
①私語など授業を妨害するような行為は自動的に欠席とみなす。
②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。

	③許可のない途中退席、テキスト忘れは、原則欠席とみなす。 （原則として欠席をレポートの提出でカバーすることはできない。） ①から③が続く場合、単位を認めない。 ・原則３回以上の欠席は単位不可とします。また、遅刻は３回で１回の欠席とみなします。 ・紙の辞書か電子辞書を持ってきてください。 ・英語ができるようになると、自分の世界が広がります。多少の失敗は気にせず、前向きにトライし続けましょう。 ・半年間、一緒に楽しく勉強したいと思います。マナーを守り、将来のために少しでも多くのことを学んでくれることを願っています。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅱa	科目名（英文）	Basic English IIa
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西谷　継治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1325c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit 11 Greater support planned for tourism on remote islands	単語小テスト及び教科書演習	事前：教科書：　P.61-66 単語：　NO.387-416
2	Unit 12 Govt eyes new guidelines for huge quake in Tokyo area	単語小テスト及び教科書演習	事前：教科書：　P.67-72 単語：　NO.397-426 事後：前回単語不合格者 再提出
3	unit 13 Disables artists increasingly getting noticed by consumers	単語小テスト及び教科書演習	事前：教科書：　P.73-78 単語：　NO.407-436 事後：前回単語不合格者 再提出
4	Unit 14 Time capsule from confederate statue reveals US Civil War artifacts	単語小テスト及び教科書演習	事前：教科書：　P.79-84 単語：　NO.417-446 事後：前回単語不合格者 再提出
5	Unit 15 Mother remembers 'brutal' soldiers who terrorised Bucha	単語小テスト及び教科書演習	事前：教科書：　P.85-90 単語：　NO.427-456 事後：前回単語不合格者 再提出
6	Unit 11-15 復習	単語小テスト及び教科書演習	事前：単語：　NO.437-466 事後：前回単語不合格者 再提出
7	中間テスト	Unit 11～15 までの内容についてテスト	事前：単語：　NO.447-476 事後：前回単語不合格者 再提出
8	中間試験解説及び評	中間試験の詳しい解説	事前：単語：　NO.457-486 事後：前回単語不合格者 再提出
9	Unit 16 Fake social media accounts aimed at Ukraine, says Meta	単語小テスト及び教科書演習	事前：教科書：　P. 91-96 単語：　NO.467-496 事後：前回単語不合格者 再提出
10	Unit 17 Mitsubishi, Mitsui to team up on CO2 storage project	単語小テスト及び教科書演習	事前：教科書：　P.97-102 単語：　NO.477-506 事後：前回単語不合格者 再提出
11	Unit 18 Airlines search for new profit streams	単語小テスト及び教科書演習	事前：教科書：　P.103-108 単語：　NO.487-516 事後：前回単語不合格者 再提出
12	Unit 19 Germany to close nuclear reactors despite energy crisis	単語小テスト及び教科書演習	事前：教科書：　P.109-114 単語：　NO.497-526 事後：前回単語不合格者 再提出
13	Unit 20 Health first, freedom second? How Covid is changing democracies	単語小テスト及び教科書演習	事前：教科書：　P.114-119 単語：　NO.507-523 事後：前回単語不合格者 再提出
14	Unit16-20 総復習	Unit16-20 総復習	事前：教科書 Unit 16～20 までの　　復習 事後：前回単語不合格者 再提出
15	Chapter 16-20 テスト	Chapter 16～20 までの内容についてテストを行う	Unit16-20 テスト勉強

関連科目	他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Meet the World 2023	Yasuhiko Wakaari	SEIBIDO
2	The 1500Core Vocabulary for the TOEIC Test Revised	NISHIYA Kojo	成美堂

		Edition		
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	全学共通英語課題　20% 課題提出状況及び課題の正解率　80%
学生への メッセージ	この授業では幅広い話題に触れます。身近な話題でも、じっくりと英語で読むと新しい発見があるはずです。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅱa	科目名（英文）	Basic English IIa
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田村　康子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1325c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit 1：You're Beautiful	ボキャブラリー、リスニング、文法、、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.6-13 の練習問題を行う（1 時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1 時間）
2	Unit 2：I Want It That Way	ボキャブラリー、リスニング、文法、、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.14-21 の練習問題を行う（1 時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1 時間）
3	Unit 3：The First Time	ボキャブラリー、リスニング、文法、、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.22-29 の練習問題を行う（1 時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1 時間）
4	Unit 4 : Complicated{The Matrix Mix}	ボキャブラリー、リスニング、文法、、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.30-37 の練習問題を行う（1 時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1 時間）
5	Unit 5：My Heart Will Go On	ボキャブラリー、リスニング、文法、、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.38-45 の練習問題を行う（1 時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1 時間）
6	Unit 6：With You	ボキャブラリー、リスニング、文法、、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.46-53 の練習問題を行う（1 時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1 時間）
7	Unit 7:Torn	ボキャブラリー、リスニング、文法、、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.54-61 の練習問題を行う（1 時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1 時間）
8	復習，　臨時テスト	復習と臨時テスト	テスト勉強：Unit1-7 までの復習（2 時間）
9	Unit 8 : You Are Not Alone{Radio Edit}	ボキャブラリー、リスニング、文法、、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.62-69 の練習問題を行う（1 時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1 時間）
10	Unit 9：You Gotta Be	ボキャブラリー、リスニング、文法、、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.70-77 の練習問題を行う（1 時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1 時間）
11	Unit 10：How Crazy Are You?	ボキャブラリー、リスニング、文法、、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.78－85 の練習問題を行う（1 時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1 時間）
12	Unit 11 : Last Christmas[Pudding Mix]	ボキャブラリー、リスニング、文法、、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.86-93 の練習問題を行う（1 時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1 時間）
13	Unit 12：Desperado	ボキャブラリー、リスニング、文法、、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.94-101 の練習問題を行う（1 時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1 時間）
14	復習，　臨時テスト	復習と臨時テスト	テスト勉強：Unit8-12 までの復習（2 時間）
15	Unit 13：All I Want For Christmas is You	ボキャブラリー、リスニング、文法、、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.102-109 の練習問題を行う（1 時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1 時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Let's Learn English with Pop Hits!	Teruhiko Kadoyama, Timothy F.	成美堂

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><td></td><td></td><td>Hawthorne</td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition</td><td>西谷 恒志</td><td>成美堂</td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>全学共通英語課題(English Central)　20%
授業への参加、貢献（臨時テスト、小テスト等も含む）　80%</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>毎回の授業に必ず出席するとともに、予習・復習を必ず行ってください。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>7 号館 2 階　非常勤講師室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。</td></tr>
</table>

科目名	基礎英語Ⅱb	科目名（英文）	Basic English IIb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	Ａ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	石倉　綾乃
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1326c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC，英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法等の説明 文法事項等の確認	発表の準備
2	Chapter 11 不定詞	単語、文法事項の確認 発表 テキストの読解、練習問題	テキストの問題に目を通し、知らない文法事項について調べる 発表の準備
3	Chapter 12 仮定法過去	単語、文法事項の確認 発表 テキストの読解、練習問題	テキストの問題に目を通し、知らない文法事項について調べる 発表の準備
4	Chapter 13 仮定法過去完了	単語、文法事項の確認 発表 テキストの読解、練習問題	テキストの問題に目を通し、知らない文法事項について調べる 発表の準備
5	Chapter 14 動名詞と分詞構文	単語、文法事項の確認 発表 テキストの読解、練習問題	テキストの問題に目を通し、知らない文法事項について調べる 発表の準備
6	ここまでのまとめ	単語、文法事項の確認 発表 テキストの読解、練習問題	テキストの問題に目を通し、知らない文法事項について調べる 発表の準備
7	Chapter 15 関係代名詞	単語、文法事項の確認 発表 テキストの読解、練習問題	テキストの問題に目を通し、知らない文法事項について調べる 発表の準備
8	Chapter 16 関係副詞	単語、文法事項の確認 発表 テキストの読解、練習問題	テキストの問題に目を通し、知らない文法事項について調べる 発表の準備
9	Chapter 17 比較	単語、文法事項の確認 発表 テキストの読解、練習問題	テキストの問題に目を通し、知らない文法事項について調べる 発表の準備
10	ここまでのまとめ	単語、文法事項の確認 発表 テキストの読解、練習問題	テキストの問題に目を通し、知らない文法事項について調べる 発表の準備
11	Chapter 18 名詞と冠詞	単語、文法事項の確認 発表 テキストの読解、練習問題	テキストの問題に目を通し、知らない文法事項について調べる 発表の準備
12	Chapter 19 数と量	単語、文法事項の確認 発表 テキストの読解、練習問題	テキストの問題に目を通し、知らない文法事項について調べる 発表の準備
13	Chapter 20 強調構文と倒置	単語、文法事項の確認 発表 テキストの読解、練習問題	テキストの問題に目を通し、知らない文法事項について調べる 発表の準備
14	ここまでのまとめ	単語、文法事項の確認 発表 テキストの読解、練習問題	テストの準備
15	まとめテスト	既習内容の確認	前期の学習内容の復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Start with Grammar Review for the TOEIC L&R Test	Noboru Matsuoka / Kazuo Sobajima	松柏社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	西垣恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	全学共通英語課題（EnglishCentral）...20%授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）...80%
学生への メッセージ	グループ分けや授業の進行方法、発表の内容、スケジュールについての説明を行うので、必ず初回授業に出席してください。何らかの事情で出席が難しい場合は連絡をお願いします。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。※専任教員は「その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	基礎英語Ⅱb	科目名（英文）	Basic English IIb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	有本　好一郎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1326c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、TOEIC の説明、英語クロスワードパズルなど	授業の進め方、評価方法、企業が要求するスコアなどを説明	教科書 U13 の単語を調べる､CD を聞く､長文の読解、文法の再確認など。 クロスワードパズル 16 の暗記
2	機内放送についての文章を通して､天候や時の表現の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書 U14 の単語を調べる､CD を聞く､長文の読解、文法の再確認など。クロスワードパズル 17 の暗記
3	空港で放送される文章を通して接続詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書 U15 の単語を調べる､CD を聞く､長文の読解、文法の再確認など。クロスワードパズル 18 の暗記
4	ホテルで使われる文章を通して不定詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書 U16 の単語を調べる､CD を聞く､長文の読解、文法の再確認など。クロスワードパズル 19 の暗記
5	レストランで使われる文章を通して形容詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書 U17 の単語を調べる､CD を聞く､長文の読解、文法の再確認など。クロスワードパズル 20 の暗記
6	買い物で使われる文章を通して頻度を表す副詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書 U18 の単語を調べる､CD を聞く､長文の読解、文法の再確認など。クロスワードパズル 21 の暗記
7	野球についての文章を通して比較級の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	中間試験の準備 クロスワードパズル 22 の暗記
8	中間試験	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書 U19 の単語を調べる､CD を聞く､長文の読解、文法の再確認など。クロスワードパズル 23 の暗記
9	ミュージカル鑑賞についての文章を通して完了形の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書 U20 の単語を調べる､CD を聞く､長文の読解、文法の再確認など。クロスワードパズル 24 の暗記
10	旅行案内についての文章を通して受動態の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書 U21 の単語を調べる､CD を聞く､長文の読解、文法の再確認など。クロスワードパズル 25 の暗記
11	問題解決についての文章を通して受動態の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書 U22 の単語を調べる､CD を聞く､長文の読解、文法の再確認など。クロスワードパズル 26 の暗記
12	体調不良についての文章を通して分詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書 U23 の単語を調べる､CD を聞く､長文の読解、文法の再確認など。クロスワードパズル 27 の暗記
13	電話の会話についての文章を通して動名詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書 U24 の単語を調べる､CD を聞く､長文の読解、文法の再確認など。クロスワードパズル 28 の暗記
14	別れの手紙の文章を通してセンスグループの学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	まとめテストの準備 クロスワードパズル 29 の暗記
15	9－14回のまとめテストと復習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	まとめテストの見直し

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Forerunner to Power-Up English	JACET リスニング研究会	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition （指定の単語集）	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題　20%、 教員評価 80%（小テスト 30%、まとめテスト 50%）で全体の評価を行う。
学生へのメッセージ	英語習得には普段の努力が大切である、通学時にスマートフォン、ラジオ番組、コンピューターなどを積極的に活用し学習すること。　英語が得意なら未来が明るくなります。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅱb	科目名（英文）	Basic English IIb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	土田　智佳子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1326c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。 4 技能の基礎力を固めること、 ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業方針・評価方法などの説明	事前：教科書に目を通しておく。
2	Unit 7 Technology in Daily Life	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 7 を学習する。	事前：該当 Unit の Conversation, Grammar の分からない語彙、フレーズを調べておく（1 時間） 事後：授業内で指示された課題を行う（1 時間）
3	Unit 7 Technology in Daily Life	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 7 を学習する。	事前：該当 Unit の Reading, Writing を行う（1 時間） 事後：授業内で指示された課題を行う（1 時間）
4	Unit 8 Social Network	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 8 を学習する。	事前：該当 Unit の Conversation, Grammar の分からない語彙、フレーズを調べておく（1 時間） 事後：授業内で指示された課題を行う（1 時間）
5	Unit 8 Social Network	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 8 を学習する。	事前：該当 Unit の Reading, Writing を行う（1 時間） 事後：授業内で指示された課題を行う（1 時間）
6	Unit 9 Looking on the Bright Side	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 9 を学習する。	事前：該当 Unit の Conversation, Grammar の分からない語彙、フレーズを調べておく（1 時間） 事後：授業内で指示された課題を行う（1 時間）
7	Unit 9 Looking on the Bright Side	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 9 を学習する。	事前：該当 Unit の Reading, Writing を行う（1 時間） 事後：授業内で指示された課題を行う（1 時間）
8	中間テスト	Unit 7-9	事前：テスト勉強
9	Unit 10 Love Affairs	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 10 を学習する。	事前：該当 Unit の Conversation, Grammar の分からない語彙、フレーズを調べておく（1 時間） 事後：授業内で指示された課題を行う（1 時間）
10	Unit 10 Love Affairs	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 10 を学習する。	事前：該当 Unit の Reading, Writing を行う（1 時間） 事後：授業内で指示された課題を行う（1 時間）
11	Unit 11 Storytelling	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 11 を学習する。	事前：該当 Unit の Conversation, Grammar の分からない語彙、フレーズを調べておく（1 時間） 事後：授業内で指示された課題を行う（1 時間）
12	Unit 11 Storytelling	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 11 を学習する。	事前：該当 Unit の Reading, Writing を行う（1 時間） 事後：授業内で指示された課題を行う（1 時間）
13	Unit 12 The Power of Words	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 12 を学習する。	事前：該当 Unit の Conversation, Grammar の分からない語彙、フレーズを調べておく（1 時間） 事後：授業内で指示された課題を行う（1 時間）
14	Unit 12 The Power of Words	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 12 を学習する。	事前：該当 Unit の Reading, Writing を行う（1 時間） 事後：授業内で指示された課題を行う（1 時間）
15	期末テスト	Unit 10-12	事前：テスト勉強

関連科目：他の英語関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Live Escalate Book 2 : Trekking	角山照彦	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） 80%
学生への メッセージ	英語が話せれば、読めれば、皆さんの未来へとつづく多くの可能性の扉が開きます。このクラスを通し英語の基礎力の向上と、自己学習の定着を目指しましょう。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要す る事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 ＊授業内容や事前・事後学習課題は変更する可能性があります。その場合、授業内及び Teams にて告知します。

科目名	基礎英語Ⅱb	科目名（英文）	Basic English IIb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	D
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	高橋　章夫
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1326c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。 4 技能の基礎力を固めること、 ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方、評価方法などの説明	特になし
2	Unit 10 The Miracle of Philip Aks (3)	完了形を中心とした問題に取り組む	事前学習課題： 教科書の設問に解答する。(1時間) 事後学習課題： 授業での解説、ヒントを参考に再度問題を見直し、復習課題に取り組む（1時間）
3	Unit 11 Mr. Smith's "White Lie"	動名詞を中心とした問題に取り組む	事前学習課題： 教科書の設問に解答する。(1時間) 事後学習課題： 授業での解説、ヒントを参考に再度問題を見直し、復習課題に取り組む（1時間）
4	Unit 12 Together until the End of Their Lives (1)	不定詞を中心とした問題に取り組む(1)	事前学習課題： 教科書の設問に解答する。(1時間) 事後学習課題： 授業での解説、ヒントを参考に再度問題を見直し、復習課題に取り組む（1時間）
5	Unit 13 Together until the End of Their Lives (2)	不定詞を中心とした問題に取り組む(2)	事前学習課題： 教科書の設問に解答する。(1時間) 事後学習課題： 授業での解説、ヒントを参考に再度問題を見直し、復習課題に取り組む（1時間）
6	Unit 14 The Californian	分詞を中心とした問題に取り組む	事前学習課題： 教科書の設問に解答する。(1時間) 事後学習課題： 授業での解説、ヒントを参考に再度問題を見直し、復習課題に取り組む（1時間）
7	Unit 15 The Carpathia	名詞節と副詞節を中心とした問題に取り組む	事前学習課題： 教科書の設問に解答する。(1時間) 事後学習課題： 授業での解説、ヒントを参考に再度問題を見直し、復習課題に取り組む（1時間）
8	Unit 16 Radio Officers	分詞構文を中心とした問題に取り組む	事前学習課題： 教科書の設問に解答する。(1時間) 事後学習課題： 授業での解説、ヒントを参考に再度問題を見直し、復習課題に取り組む（1時間）
9	Unit 17 Firemen	関係代名詞を中心とした問題に取り組む	事前学習課題： 教科書の設問に解答する。(1時間) 事後学習課題： 授業での解説、ヒントを参考に再度問題を見直し、復習課題に取り組む（1時間）
10	Unit 18 Eight Courageous Musicians (1)	関係副詞を中心とした問題に取り組む	事前学習課題： 教科書の設問に解答する。(1時間) 事後学習課題： 授業での解説、ヒントを参考に再度問題を見直し、復習課題に取り組む（1時間）
11	Unit 19 Eight Courageous Musicians (2)	関係副詞を中心とした問題に取り組む	事前学習課題： 教科書の設問に解答する。(1時間) 事後学習課題： 授業での解説、ヒントを参考に再度問題を見直し、復習課題に取り組む（1時間）
12	Unit 20 Only 705 Survivors	比較を中心とした問題に取り組む	事前学習課題： 教科書の設問に解答する。(1時間) 事後学習課題： 授業での解説、ヒントを参考に再度問題を見直し、復習課題に取り組む（1時間）
13	Unit 21 If Only...	仮定法を中心とした問題に取り組む	事前学習課題： 教科書の設問に解答する。(1時間) 事後学習課題：

			授業での解説、ヒントを参考に再度問題を見直し、復習課題に取り組む（1 時間）
14	まとめ１	Unit 10-21 の復習、およびまとめテスト	事前学習課題： Unit 10-21 の問題を見直し、そこで使われている構文で英語を書けるようにする。(3 時間)
15	まとめ２	Unit 10-21 の復習、およびまとめテストの解説	事後学習課題： まとめテストで間違いた箇所をもう一度確認し、自分の弱点を把握し、改善する。(2 時間)

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	First Voyage 大学基本英文法＆リーディング	木村　啓子 他	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test Revised Edition （指定の単語集）	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	全学共通英語課題（English Central） 20% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） 80%
学生への メッセージ	毎回文法テーマに沿った問題に取り組みます。簡単な表現を応用することで、様々な場面に対応できる英語力を身につけていきましょう。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。

科目名	基礎英語Ⅱb	科目名（英文）	Basic English IIb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	E
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田村　康子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1326c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた４技能統合型の演習授業を行う。　４技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身に付けること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit 11：Instructions	リスニング、練習問題	事前学習：テキスト p.68-69 の練習問題を行う（1 時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1 時間）
2	Unit 11：Instructions	文法、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.70-73 の練習問題を行う（1 時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1 時間）
3	Unit 12：Health & Physical Conditon	リスニング、文法、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.74-79 の練習問題を行う（1 時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1 時間）
4	Unit 13：Service Requests	リスニング、文法、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.80-85 の練習問題を行う（1 時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1 時間）
5	Unit 14：Special Orders	リスニング、文法、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.86-91 の練習問題を行う（1 時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1 時間）
6	Unit 15：Money	リスニング、練習問題	事前学習：テキスト p.92-93 の練習問題を行う（1 時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1 時間）
7	Unit 15：Money	文法、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.94-97 の練習問題を行う（1 時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1 時間）
8	復習，　臨時テスト	復習と臨時テスト	テスト勉強：Unit11-15 までの復習（2 時間）
9	Unit 16：Public Signs	リスニング、文法、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.98-103 の練習問題を行う（1 時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1 時間）
10	Unit 17：Sports	リスニング、文法、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.104-109 の練習問題を行う（1 時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1 時間）
11	Unit 18：History	リスニング、文法、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.110-115 の練習問題を行う（1 時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1 時間）
12	Unit 19：Sightseeing	リスニング、文法、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.116-121 の練習問題を行う（1 時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1 時間）
13	Unit 20：Science	リスニング、練習問題	事前学習：テキスト p.122-123 の練習問題を行う（1 時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1 時間）
14	復習，　臨時テスト	復習と臨時テスト	テスト勉強：Unit16-20 までの復習（2 時間）
15	Unit 20：Science	文法、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.124-127 の練習問題を行う（1 時間） 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記（1 時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Power-Up English〈Basic〉	JACET リスニング研究会	南雲堂

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><td>2</td><td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition</td><td>西谷 恒志</td><td>成美堂</td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>全学共通英語課題（English Central）　20%
授業への参加、貢献（臨時テスト、小テスト等も含む）　80%</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>毎回の授業に必ず出席するとともに、予習・復習を必ず行ってください。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>7 号館 2 階　非常勤講師室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。</td></tr>
</table>

科目名	基礎英語Ⅱb	科目名（英文）	Basic English IIb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	G
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ダンカン　ホワイト
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1326c1		

授業概要・目的	英語で発信するための基礎作りをし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができるようになる。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期はCEFR-J [A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検討

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Units 15 & 16	Advice	For each class: Before, listen to the unit audio recordings; view unit videos as introduction to culture. After, use text samples as guides for vocabulary and composition.
2	Unit 17	Comparison	For each class: Before, listen to the unit audio recordings; view unit videos as introduction to culture. After, use text samples as guides for vocabulary and composition.
3	Unit 18	Invention	For each class: Before, listen to the unit audio recordings; view unit videos as introduction to culture. After, use text samples as guides for vocabulary and composition.
4	Unit 19	Opinions: the best	For each class: Before, listen to the unit audio recordings; view unit videos as introduction to culture. After, use text samples as guides for vocabulary and composition.
5	Unit 20	Opinions: good or bad	For each class: Before, listen to the unit audio recordings; view unit videos as introduction to culture. After, use text samples as guides for vocabulary and composition.
6	Unit 21	Opinions: true or false	For each class: Before, listen to the unit audio recordings; view unit videos as introduction to culture. After, use text samples as guides for vocabulary and composition.
7	Unit 22	Explanations	For each class: Before, listen to the unit audio recordings; view unit videos as introduction to culture. After, use text samples as guides for vocabulary and composition.
8	Unit 23	Tall tales	For each class: Before, listen to the unit audio recordings; view unit videos as introduction to culture. After, use text samples as guides for vocabulary and composition.
9	Unit 24	Advertising	For each class: Before, listen to the unit audio recordings; view unit videos as introduction to culture. After, use text samples as guides for vocabulary and composition.
10	Unit 25	News	For each class: Before, listen to the unit audio recordings; view unit videos as introduction to culture. After, use text samples as guides for vocabulary and composition.
11	Unit 26	Evaluation	For each class: Before, listen to the unit audio recordings; view unit videos as introduction to culture. After, use text samples as guides for vocabulary and composition.
12	Unit 27	Research	For each class: Before, listen to the unit audio recordings; view unit videos as introduction to culture. After, use text samples as guides for vocabulary and composition.
13	Unit 28	Rethinking history	For each class: Before, listen to the unit audio recordings; view unit videos as introduction to culture. After, use text samples as guides for vocabulary

				and composition.
	14	Unit 29	Future concepts	For each class: Before, listen to the unit audio recordings; view unit videos as introduction to culture. After, use text samples as guides for vocabulary and composition.
	15	Evaluation and review	Evaluation and review	Prepare questions in anticipation of course summary, evaluation of comprehension and ability.

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	SCD Revised ISBN 978-4-9905671-1-8	Richard Rowat	Weissman Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法
（基準）

Evaluation will be based on quizzes, homework assignments and class participation.
Exam 20%, In-class quizzes, Homework assignments, Class participation, attitude, ability 80%
All adapted for the online learning environment.

学生への
メッセージ

Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve most from this course.
Pair and group work will form the core of each lesson.

担当者の
研究室等

7 号館 2 階　非常勤講師室

備考

毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅱb	科目名（英文）	Basic English IIb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	H
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	金原　真由美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1326c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 後期は様々なテーマに沿った長文を読んでいきます。語彙の増強と読解力を付けることを主な目的とします。各 Unit の終わりに単語小テストも行う。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス Unit 1 を始める	授業の進め方、出欠の扱い、評価方法などの説明	事前学習：単語調べ、長文の内容を掴む(Unit 1 p.7-8) 事後学習：ノート見直し整理
2	1 Noodles 動名詞の働き	単語の意味の確認 長文の内容把握（読解、T or F など） 文法に沿った英作文	事前学習：単語調べ、長文の内容を掴む、T or F、和文英訳をする (Unit 1 p.8-10) 事後学習：ノート見直し整理
3	2 Mysterious Object 受動態	単語の意味の確認 長文の内容把握（読解、T or F など） 文法に沿った英作文	事前学習：単語調べ、長文の内容を掴む、T or F、和文英訳をする (Unit 2 p.11-14) 事後学習：ノート見直し整理
4	3 Baskin-Robbins 不定詞の働き	単語の意味の確認 長文の内容把握（読解、T or F など） 文法に沿った英作文	事前学習：単語調べ、長文の内容を掴む、T or F、和文英訳をする (Unit 3 p.15-18) 事後学習：ノート見直し整理
5	4 Dealing with "Claimers" 形容詞の働き/ 主な形容詞の接尾　　辞	単語の意味の確認 長文の内容把握（読解、T or F など） 文法に沿った英作文	事前学習：単語調べ、長文の内容を掴む、T or F、和文英訳をする (Unit 4 p.19-22) 事後学習：ノート見直し整理
6	5 Haunted Campus? 頻度を表す副詞の位置	単語の意味の確認 長文の内容把握（読解、T or F など） 文法に沿った英作文	事前学習：単語調べ、長文の内容を掴む、T or F、和文英訳をする (Unit 5 p.23-26) 事後学習：ノート見直し整理
7	6 Solo Artists Are More Popular 比較級・最上級強め方/劣等比較	単語の意味の確認 長文の内容把握（読解、T or F など） 文法に沿った英作文	事前学習：単語調べ、長文の内容を掴む、T or F、和文英訳をする (Unit 6 p.27-30) 事後学習：ノート見直し整理
8	授業後、中間テスト	前半の学習内容の確認	中間テストの勉強 （特に英文構造の確認をし、段落の内容をまとめる）
9	7 Headphones つなぎの言葉①・理由を表す ・対立を表す	単語の意味の確認 長文の内容把握（読解、T or F など） 文法に沿った英作文	事前学習：単語調べ、長文の内容を掴む、T or F、和文英訳をする (Unit 7 p.31-34) 事後学習：ノート見直し整理
10	8 Where Did the Moon Come From? 現在分詞と過去分詞の働きの一つ	単語の意味の確認 長文の内容把握（読解、T or F など） 文法に沿った英作文	事前学習：単語調べ、長文の内容を掴む、T or F、和文英訳をする (Unit 8 p.35-38) 事後学習：ノート見直し整理
11	9 Road Rage つなぎの言葉② ・対立を表す despite の使い方 ・理由を表す because of の使い方	単語の意味の確認 長文の内容把握（読解、T or F など） 文法に沿った英作文	事前学習：単語調べ、長文の内容を掴む、T or F、和文英訳をする (Unit 9 p.39-42) 事後学習：ノート見直し整理
12	10 Irritating Things on the Train ～ing, ～edで終わる形容詞	単語の意味の確認 長文の内容把握（読解、T or F など） 文法に沿った英作文	事前学習：単語調べ、長文の内容を掴む、T or F、和文英訳をする (Unit 10 p.43-46) 事後学習：ノート見直し整理
13	11 Live Action Versions of Animated Movies 例示の仕方	単語の意味の確認 長文の内容把握（読解、T or F など） 文法に沿った英作文	事前学習：単語調べ、長文の内容を掴む、T or F、和文英訳をする (Unit 11 p.47-50) 事後学習：ノート見直し整理
14	12 Tapioca and Bubble Tea 時や場所を表す前置詞 at, on, in	単語の意味の確認 長文の内容把握（読解、T or F など） 文法に沿った英作文	事前学習：単語調べ、長文の内容を掴む、T or F、和文英訳をする (Unit 12 p.51-54) 事後学習：ノート見直し整理
15	まとめ（期末）テスト	後半の学習内容の確認	期末テストに向けての勉強 （特に英文構造の確認をし、段落の内容をまとめる）

関連科目	他の英語科目
教科書	

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>Read on, Think on〈Basic Level〉考える基礎英語読本</td><td>Jonathan Lynch /山本厚子/ 渡辺香名子</td><td>三修社</td></tr>
<tr><td>2</td><td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC TEST一Revised Edition--</td><td>西谷恒志</td><td>成美堂</td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>全学共通英語課題（EnglishCentral） 20%
授業への参加、貢献（問いに対する発言、単語小テスト、中間・期末まとめテスト等も含む） ...80%</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>・「音声ファイル」で必ず英文の音を何度か聴いておきましょう。音声の直ぐ後を追いかけるようにシャドウイングしましょう。
・常に辞書を引いて分からない部分を明らかにし、英文全体の内容把握を心掛けましょう。
・授業には辞書を持参すること。
・教科書の単語も常日頃から覚えるように習慣づけてください。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>7 号館 2 階　非常勤講師室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。</td></tr>
</table>

科目名	基礎英語Ⅱb	科目名（英文）	Basic English IIb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	Ⅰ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西原　菜月
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1326c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit 7 可算名詞・不加算名詞	授業概要及び評価方法の説明など 単語の確認・英文の内容理解・リスニング	Unit 7 の単語を見直し、暗記をする。(目安：30 分~1 時間)
2	Unit 7 可算名詞・不加算名詞	文法の練習問題・ライティング	Unit 7 の文法問題及びライティング問題の見直しを行う。(目安：30 分~1 時間)
3	Unit 8 形容詞・副詞	小テスト(Unit 7 の単語と文法問題) 単語の確認・英文の内容理解・リスニング	Unit 8 の単語を見直し、暗記をする。(目安：30 分~1 時間)
4	Unit 8 形容詞・副詞	文法の練習問題・ライティング	Unit 8 の文法問題及びライティング問題の見直しを行う。(目安：30 分~1 時間)
5	Unit 9 比較表現	小テスト(Unit 8 の単語と文法問題) 単語の確認・英文の内容理解・リスニング	Unit 9 の単語を見直し、暗記をする。(目安：30 分~1 時間)
6	Unit 9 比較表現	文法の練習問題・ライティング	Unit 9 の文法問題及びライティング問題の見直しを行う。(目安：30 分~1 時間)
7	まとめ(1) 中間テスト	Unit 7~9 の単語、英文内容と文法事項の確認と復習	中間テストに向け、Unit 7, 8, 9 の確認を行なっておく
8	Unit 10 不定詞・動名詞	単語の確認・英文の内容理解・リスニング	Unit 10 の単語を見直し、暗記をする。(目安：30 分~1 時間)
9	Unit 10 不定詞・動名詞	文法の練習問題・ライティング	Unit 10 の文法問題及びライティング問題の見直しを行う。(目安：30 分~1 時間)
10	Unit 11 接続詞・前置詞	小テスト(Unit 10 の単語と文法問題) 単語の確認・英文の内容理解・リスニング	Unit 11 の単語を見直し、暗記をする。(目安：30 分~1 時間)
11	Unit 11 接続詞・前置詞	文法の練習問題・ライティング	Unit 11 の文法問題及びライティング問題の見直しを行う。(目安：30 分~1 時間)
12	Unit 14 分詞・関係詞	小テスト(Unit 11 の単語と文法問題) 単語の確認・英文の内容理解・リスニング	Unit 14 の単語を見直し、暗記をする。(目安：30 分~1 時間)
13	Unit 14 分詞・関係詞	文法の練習問題・ライティング	Unit 14 の文法問題及びライティング問題の見直しを行う。(目安：30 分~1 時間)
14	Unit 15 仮定法・命令文	小テスト(Unit 14 の単語と文法問題) 単語の確認・ライティング	Unit 15 の単語を見直し、暗記をする。(目安：30 分~1 時間)
15	まとめ(2) 期末テスト	Unit 10, 11, 14, 15 の単語、英文内容と文法事項の確認と復習	期末テストに向け、Unit 10, 11, 14, 15 の確認を行なっておく

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Answers to Everyday Questions 2	Arnold Arao 他	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-（指定の単語帳）	西谷　恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題（English Central） 20% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） 80%
学生へのメッセージ	この授業では単語やイディオム・文法問題・リスニング・ライティングを扱い、幅広く英語を学んでいきます。単元ごとに習熟度確認のための小テストを実施しますので、授業後には復習をするよう心がけてください。外国語は一朝一夕には習得することはできませんが、日々学習を重ねることで必ず使いこなせるようになりますので一緒に頑張っていきましょう。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要す る事前・事後学習総時間をおお

	よそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅱb	科目名（英文）	Basic English IIb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松浦　茂寿
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1326c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	前期の復習	前期に習った内容の復習など	―――――
2	Unit13	接続詞(1)	教科書 p.50-52
3	Unit14	不定詞(1)、動名詞(1)	教科書 p.53-55
4	Unit15	受動態	教科書 p.56-58
5	Unit16	現在完了形	教科書 p.59-61
6	Unit17	接続詞(2)（時勢の一致を含む）等	教科書 p.62-64
7	Unit18	5 つの基本文型	教科書 p.65-67
8	Unit19	各種疑問文	教科書 p.68-70
9	Unit20	不定詞(2)	教科書 p.71-73
10	Unit21	It の特別用法	教科書 p.74-76
11	Unit22	分詞、動名詞(2)	教科書 p.77-79
12	Unit23	関係代名詞	教科書 p.80-82
13	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する。	―――――
14	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する	―――――
15	総合復習	定期試験対策	―――――

関連科目	他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	First Primer 〈Revised Edtion〉 基礎からの英語入門 ＜改訂新版＞	佐藤哲三、アベ松伸二、愛甲ゆかり、小手川巧光、福島孝夫、重久睦美、村上美穂、新彰	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題　　20% 定期試験　　50% 授業への参加、貢献（提出物、小テスト、まとめテスト等も含む）　30% 授業評価の各割合は目安で多少変わる場合があります。 日頃の授業態度も重視します(なお、授業態度とは投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性を指す)。 今後の社会情勢及び授業形態の変化に伴い、評価方法が変更になる場合があります。
学生へのメッセージ	「明るく、元気で感動を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅱb	科目名（英文）	Basic English IIb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	抽冬　紘和
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN1326c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC，英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Chapter 8 What 3 Words	内容語と機能語を区別する	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
2	Chapter 8 What 3 Words	内容語と機能語を区別する	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
3	Chapter 9 Sounds of the Sea	単語を分解して意味を考える	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
4	Chapter 9 Sounds of the Sea	単語を分解して意味を考える	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
5	Chapter 10 Rowing across the Atlantic	未知語の意味を推測する	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
6	Chapter 10 Rowing across the Atlantic	未知語の意味を推測する	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
7	確認テスト		
8	Chapter 11 Rollercops	代名詞についていく	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
9	Chapter 11 Rollercops	代名詞についていく	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
10	Chapter 12 Plant Milk	ディスコースマーカーに着目する	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
11	Chapter 12 Plant Milk	ディスコースマーカーに着目する	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
12	Chapter 13 Alien Life	エッセイ構造を理解する	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
13	Chapter 13 Alien Life	エッセイ構造を理解する	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
14	Chapter 14 Treasure Hunt	パラグラフ構造を理解する	事前：単語調べ（30 分） 事後：文法、単語復習（45 分）
15	確認テスト２		

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	READING PALETTE Green	Katsuhiko Muto Timothy Kiggell	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	西垣恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題　20% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　80%
学生へのメッセージ	単語力、文法力を学びながら、英語のスキルも同時に学習し、自学習ができるようになりましょう。 頑張っていきましょう☆
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	

科目名	実践英語Ⅰb	科目名（英文）	Practical English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	近　大志
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN2327c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 日本文化・観光地を題材とした平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・自己紹介 ・授業の紹介（進め方, 評価方法など） ・課題の提示	Follow orientation instructions.
2	Lesson 1. An Attitude of Hospitality: Welcome to Japan!	・Reading ・演習	Follow instructions as provided in class.
3	Lesson 1. An Attitude of Hospitality: Welcome to Japan!	・演習 ・グループワーク	Follow instructions as provided in class.
4	Lesson 8. Omi Province and Its Military History	・小テスト① ・Reading	Follow instructions as provided in class.
5	Lesson 8. Omi Province and Its Military History	・演習 ・グループワーク	Follow instructions as provided in class.
6	Lesson 9. The Deer in Nara	・小テスト② ・Reading	Follow instructions as provided in class.
7	Lesson 9. The Deer in Nara	・演習 ・グループワーク	Follow instructions as provided in class.
8	Lesson 10. Kyoto Station	・小テスト③ ・Reading	Follow assessment instructions
9	Lesson 10. Kyoto Station	・演習 ・グループワーク	Follow assessment instructions.
10	Lesson 11. Let's Explore Osaka	・小テスト④ ・Reading	Follow instructions as provided in class.
11	Lesson 11. Let's Explore Osaka	・演習 ・グループワーク	Follow instructions as provided in class.
12	Lesson 12. Port City Kobe	・小テスト⑤ ・Reading	Follow instructions as provided in class.
13	Lesson 12. Port City Kobe	・演習 ・グループワーク	Follow instructions as provided in class.
14	Lesson 1. (revisitation)	・小テスト⑥ ・グループワーク	Follow assessment instructions.
15	Lesson 1, 8-12	・グループワーク ・授業の振り返り	Follow assessment instructions.

関連科目	他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	おもてなしの観光英語 (Hospitality English)	木戸美幸 著/ Carolyn Wright 著 / 河原俊昭 著/ 徳地慎二 著	三修社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition - (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題(EnglishCentral) ...20% 小テスト ... 30% 授業課題 ... 50%
学生へのメッセージ	I'm looking forward to teaching you this year. Please participate fully in pair and group work, and enjoy the class.

担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	実践英語Ⅰb	科目名（英文）	Practical English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	ＢＣ
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	田村　康子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN2327c1		

授業概要・目的	この授業では、TOEIC300ー400 点レベルの基礎的な英語力を養うことを目標に、テキストに沿って練習問題をこなしていく。TOEIC 関連の基本的な語彙や表現を覚え、E-mail、ビジネス文書などを取り上げた簡単な読解問題に親しんでもらう。また、各ユニットで説明されている英語表現を習得する。テキストに沿って聞き取りを行い、リスニング力も養成する。練習問題をたくさんこなして TOEIC の点数アップを狙う。
到達目標	受講者が、TOEIC の出題形式に慣れ、授業のみならず、自主的に TOEIC の受験勉強をすすめ、最終的には 50～100 点程度スコアを上げることが目標である。
授業方法と留意点	テキストに沿って、TOEIC のリスニング、リーディング対策を行っていく。
科目学習の効果（資格）	語彙力の強化及び TOEIC のスコアアップ。リスニング、リーディング力の向上。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit 1: 旅行①	リスニング・リーディング	事前学習:テキスト p.1-6 練習問題を行う(1j 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記(1 時間)
2	Unit 2: オフィス①	リスニング・リーディング	事前学習:テキスト p.7-12 練習問題を行う(1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記(1 時間)
3	Unit 3: レストラン	リスニング・リーディング	事前学習：テキスト p.13-18 練習問題を行う(1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記(1 時間)
4	Unit 4: 季節・天気	リスニング・リーディング	事前学習:テキスト p19-24 練習問題を行う(1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記(1 時間)
5	Unit 5: 健康	リスニング・リーディング	事前学習：テキスト p.25-30 練習問題を行う(1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記(1 時間)
6	いろいろな英語の発音に慣れよう①	リスニング・リーディング	事前学習：テキスト p.31-32 練習問題を行う(1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記(1 時間)
7	Unit 6: 旅行②	リスニング・リーディング	事前学習：テキスト p.33-38 練習問題を行う(1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記(1 時間)
8	復習、臨時テスト	復習と臨時テスト	テスト勉強：p.1-38 ま復習復習(2 時間)
9	Unit 7: 休暇	リスニング・リーディング	事前学習：テキスト p.39-44 練習問題を行う(1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記(1 時間)
10	Unit 8: オフィス②	リスニング・リーディング	事前学習：テキスト p.45-50 練習問題を行う(1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記(1 時間)
11	Unit 9: ショッピング	リスニング・リーディング	事前学習：テキスト p.51-56 練習問題を行う(1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記(1 時間)
12	Unit 10:就職活動	リスニング・リーディング	事前学習：テキスト p.57-62 練習問題を行う(1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記(1 時間)
13	いろいろな英語の発音に慣れよう②	リスニング・リーディング	事前学習：テキスト p.63-64 練習問題を行う(1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記(1 時間)
14	Unit 11: 娯楽	リスニング・リーディング	事前学習：テキスト p.65-70 練習問題を行う(1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記(1 時間)
15	Unit 12: 旅行③	リスニング・リーディング	事前学習：テキスト p.71-76 練習問題を行う(1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記(1 時間)テキスト

関連科目	他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	The TOEIC Listening & Reading Test CIRCUIT〈Updated Edition〉	鶴岡公幸、Ｍａｔｔｅｗ　Ｗｉｌｓｏｎ	松柏社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷恒志	成美堂

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 （基準）	全学共通英語課題（English Central）　20% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　80%
学生への メッセージ	毎回の授業に必ず出席し、授業内容を復習すること。 単語力を増強するため e-learning に積極的に取り組むこと。 さらに、TOEIC を受験することを勧める。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストを読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	実践英語Ⅰb	科目名（英文）	Practical English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	ＤＥＧＨＩＫ
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	藤原　久仁子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN2327c1		

授業概要・目的	海外の法律に関する文章を読み、自分の考えを英語で表現するためのトレーニングを行います。 法律を切り口に、海外の生活や社会状況を知り、比較の視点を養います。
到達目標	自分の意見を表現するために必要な語彙力、文法知識を身につける。 通じる英語ではなく、その場面にふさわしい語彙やフォーマル/カジュアル度で自己表現をする力を身につける。
授業方法と留意点	授業は演習＋解説をセットにして、毎回４ページ進みます。知らない単語は調べておきましょう。
科目学習の効果（資格）	TOEIC を受験する人は個別に相談してください（金のフレーズ、公式問題集、推奨する動画、本授業を合わせて勉強してくれれば７００点までは順調に上がります。そこから先は、スピード UP とリスニング強化等のトレーニングを頑張れば８００点台になります。４００点と６００点は英語の実力的にはそれほど差がありません。６００点台と８００点台はかなりの差があります。８００点台と９００点台はもっと大きな差があって、９００点台になるにはだいぶ英語をやりこむ必要があります。そして、９００点の人と、９５０点以上の人の間にはさらにもっ

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 第１章　ドイツの法律	問題演習・グループディスカッション・フィードバック・解説・まとめのテスト	事前：知らない単語・熟語を調べておく 事後:授業で扱った範囲の文章を音声に合わせてシャドイング、リピーティングする。
2	第２章　アメリカの法律	問題演習・グループディスカッション・フィードバック・解説・まとめのテスト	事前：知らない単語・熟語を調べておく 事後:授業で扱った範囲の文章を音声に合わせてシャドイング、リピーティングする。
3	第３章　イタリアの法律	問題演習・グループディスカッション・フィードバック・解説・まとめのテスト	事前：知らない単語・熟語を調べておく 事後:授業で扱った範囲の文章を音声に合わせてシャドイング、リピーティングする。
4	第４章　ハンガリーの法律	問題演習・グループディスカッション・フィードバック・解説・まとめのテスト	事前：知らない単語・熟語を調べておく 事後:授業で扱った範囲の文章を音声に合わせてシャドイング、リピーティングする。
5	第５章　アメリカの法律	問題演習・グループディスカッション・フィードバック・解説・まとめのテスト	事前：知らない単語・熟語を調べておく 事後:授業で扱った範囲の文章を音声に合わせてシャドイング、リピーティングする。
6	第６章　イスラーム法	問題演習・グループディスカッション・フィードバック・解説・まとめのテスト	事前：知らない単語・熟語を調べておく 事後:授業で扱った範囲の文章を音声に合わせてシャドイング、リピーティングする。
7	第７章　イタリアの法律	問題演習・グループディスカッション・フィードバック・解説・まとめのテスト	事前：知らない単語・熟語を調べておく 事後:授業で扱った範囲の文章を音声に合わせてシャドイング、リピーティングする。
8	第８章　スイスの法律	問題演習・グループディスカッション・フィードバック・解説・まとめのテスト	事前：知らない単語・熟語を調べておく 事後:授業で扱った範囲の文章を音声に合わせてシャドイング、リピーティングする。
9	第９章　インドの法律	問題演習・グループディスカッション・フィードバック・解説・まとめのテスト	事前：知らない単語・熟語を調べておく 事後:授業で扱った範囲の文章を音声に合わせてシャドイング、リピーティングする。
10	第１０章　フランスの法律	問題演習・グループディスカッション・フィードバック・解説・まとめのテスト	事前：知らない単語・熟語を調べておく 事後:授業で扱った範囲の文章を音声に合わせてシャドイング、リピーティングする。
11	第１１章　イギリスの法律	問題演習・グループディスカッション・フィードバック・解説・まとめのテスト	事前：知らない単語・熟語を調べておく 事後:授業で扱った範囲の文章を音声に合わせてシャドイング、リピーティングする。
12	第１２章　バングラデシュの法律	問題演習・グループディスカッション・フィードバック・解説・まとめのテスト	事前：知らない単語・熟語を調べておく 事後:授業で扱った範囲の文章を音声に合わせてシャドイング、リピーティングする。
13	第１３章　スウェーデンの法律	問題演習・グループディスカッション・フィードバック・解説・まとめのテスト	事前：知らない単語・熟語を調べておく 事後:授業で扱った範囲の文章を音声に合わせてシャドイング、リピーティングする。
14	第１４章　オーストラリアの法律	問題演習・グループディスカッション・フィードバック・解説・まとめのテスト	事前：知らない単語・熟語を調べておく 事後:授業で扱った範囲の文章を音声に合わせてシャドイング、リピーティングする。
15	全体の総括	１分間プレゼンテーション＋総まとめのテスト	事前：推奨された動画を観ておく。 事後：推奨された教材で問題演習をする。

関連科目	なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	世界おもしろ比較文化：法律から学ぶ文化事情	Takayuki Ishii et al.	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	グループディスカッションや小テスト等毎回の授業で実施する課題に対する評価（50%）とまとめのテスト（50%）をもとに、総合的に判断する。

学生への メッセージ	一緒に楽しく英語を学んでいきましょう。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	英語に触れる時間が長ければ長いほど英語脳が発達すると信じて、片づけをしながら TED Talk、料理をしながら MSNBC News や CNN を聞きながらシャドイングをして、耳と口の筋肉を鍛えましょう。

科目名	実践英語Ⅱb	科目名（英文）	Practical English IIb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	近　大志
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN2328c1		

授業概要・目的	TOEIC で評価される英語力について、特に「読む」「聴く」スキルの向上を目指す。 その他にも、「書く」「話す」活動を取り入れつつ 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) TOEIC450 点以上の実力 (2) ポップカルチャーをテーマとした平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (3) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (4) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	・演習に比重を置いた授業を実施するため、受講者の積極的な参加が望まれる。 ・授業内の課題等を期限までに提出し、English Central 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 ・３回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めないため。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・自己紹介 ・授業のガイダンス	Follow orientation instructions.
2	Chapter1. Michael Jackson	・Reading ・数えられる名詞とそうでない名詞について	Follow instructions as provided in class.
3	Chapter1. Michael Jackson	・演習問題	Follow instructions as provided in class.
4	Chapter2. The Beatles	・Reading ・代名詞の用法	Follow instructions as provided in class.
5	Chapter2. The Beatles	・演習問題	Follow instructions as provided in class.
6	Chapter3. Beyonce	・Reading ・動詞の自他	Follow instructions as provided in class.
7	Chapter3. Beyonce	・演習問題	Follow instructions as provided in class.
8	Chapter12. Aerosmith	・Reading ・接続詞	Follow instructions as provided in class.
9	Chapter12. Aerosmith	・演習問題	Follow instructions as provided in class.
10	Chapter10. Lady Gaga	・Reading ・完了形とは何か	Follow instructions as provided in class.
11	Chapter10. Lady Gaga	・演習問題	Follow instructions as provided in class.
12	Chapter13. Cyndi Lauper	・Reading ・関係節 その①	Follow instructions as provided in class.
13	Chapter13. Cyndi Lauper	・演習問題	Follow instructions as provided in class.
14	Chapter14. Tupac Shakur	・Reading ・関係節 その②	Follow instructions as provided in
15	Chapter14. Tupac Shakur	・演習問題 ・授業のレビュー	Follow instructions as provided in class.

関連科目	他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ポップ・ミュージック・ワールド	本多吉彦 著/ 狩野紀子 著/ 土屋武久 著/ Christopher Piper 著	三修社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test – Revised Edition – (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献（小テストを含む）　60% 定期試験 20%
学生へのメッセージ	I'm looking forward to teaching you this semester. Please participate fully in pair and group work, and enjoy the class.
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	実践英語Ⅱb	科目名（英文）	Practical English IIb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	ＢＣ
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	後藤　一章
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN2328c1		

授業概要・目的	英語を実用的に使用するために特に必要な基礎文法項目を反復練習し、4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。構文研究に加え、それらが実際的に使用されうる様々な話題、場面、状況を想定し、必要な表現等も含めて、統合的に学習する。さらに、学生の自発的かつ計画的な語彙学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	この科目は、英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標及びテーマとする。
授業方法と留意点	文法事項を学習し、例文を反復練習する。また定着を図るために授業時に小テスト等を行う。 必ず辞書を持参してください。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標･テーマや授業内容などについて説明する。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
2	考えを文にして伝える：英語の基本五文型	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
3	自分の立場を表明する：肯定文と否定文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
4	相手に質問する：疑問文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
5	知りたい内容を求める：疑問詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
6	存在を知らせる：存在文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
7	事象を客観的に表現する：非人称の it	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
8	基本動詞を活用する：have と get	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
9	視点を変える：受動態	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
10	時系列に即して述べる：時制	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
11	文の内容を評価・判断する：助動詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
12	文のつながりを意識する：代名詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
13	時間や空間を指定する：前置詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
14	語彙力テスト	語彙力テストを実施する。終了後、同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイスを行う。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習（1時間）
15	総括	これまでに学んだ内容を総括する。	総復習（1時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Grammar Clinic ５分間基本英文法	佐藤　誠司	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test（改訂新版）	西谷 恒志	成美堂
2			
3			

評価方法（基準）	語彙テスト（30%） 授業中のテスト・発言・討論、宿題・提出物等（70%）
学生へのメッセージ	英語力は日々の学習の積み重ねです。近道はありませんので、一日一日を大切に頑張ってください。
担当者の研究室等	7号館5階 後藤研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	実践英語Ⅱb	科目名（英文）	Practical English IIb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	ＤＥＧＨＩＫ
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	天野　貴史
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		
科目ナンバリング	JEN2328c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な 4 技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。elearning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業案内	授業日程・内容・評価などの説明	テキストの予習復習（１時間）
2	Unit01	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習	テキストの予習復習（１時間）
3	Unit02	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習	テキストの予習復習（１時間）
4	Unit03	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習	テキストの予習復習（１時間）
5	振り返りテスト	Unit1-3 の振り返りテスト	テキストの予習復習（１時間）
6	Unit04	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習	テキストの予習復習（１時間）
7	Unit05	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習	テキストの予習復習（１時間）
8	Unit06	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習	テキストの予習復習（１時間）
9	振り返りテスト	Unit4-6 の振り返りテスト	テキストの予習復習（１時間）
10	Unit07	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習	テキストの予習復習（１時間）
11	Unit08	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習	テキストの予習復習（１時間）
12	Unit09	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習	テキストの予習復習（１時間）
13	振り返りテスト	Unit7-9 の振り返りテスト	テキストの予習復習（１時間）
14	Unit10	内容把握、語彙・発音、練習問題 英単語テスト準備学習	テキストの予習復習（１時間）
15	まとめテスト	教科書全体のまとめテスト	テキストの予習復習（１時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Night at the Museum/映画総合教材「ナイト ミュージアム」	（著者） Robert Ben Garant Thomas Lennon　（編著）Kim R. Kanel　神谷久美子	松柏社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	振り返りテスト　30% 授業での取り組み　50% まとめテスト　20% 注意：出席率 80%未満の学生は原則として成績評価の対象外とする。
学生へのメッセージ	Prepare for your future and study and speak English today.
担当者の研究室等	7 号館 3 階　天野研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	日本語表現Ⅰ	科目名（英文）	Japanese Expression Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	学籍番号下３桁 001～070
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	筒井　大祐
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JJA1336a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	この授業を通じて学生には、適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。本講義は、文章作成を一方的に講義するのではなく、受講者が実際に文章を書きながら、文章作成を習得することを目指す。そのため、講義内に練習問題や課題の作成を課す。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入・講義の進め方について	授業の目的、進め方の説明	1時間の事前事後学習を目安とする。
2	わかりやすい文章とは何か	わかりやすい文章とは何かを考える	1時間の事前事後学習を目安とする。
3	文章の書き方１	レポート・論文の基本事項を確認する	1時間の事前事後学習を目安とする。
4	文章の書き方２	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	1時間の事前事後学習を目安とする。
5	事実と意見	事実と意見、説明文の書き方	1時間の事前事後学習を目安とする。
6	【課題１】意見文	意見文を書く	1時間の事前事後学習を目安とする。
7	段落	レポートなどの文章構成を学ぶ	1時間の事前事後学習を目安とする。
8	文章を引用方法（直接引用）	文章を引用する（直接引用）	1時間の事前事後学習を目安とする。
9	文章の引用方法（関節引用・要約）	文章を引用する（関節引用） 要約	1時間の事前事後学習を目安とする。
10	課題１のフィードバック	意見を書く：フィードバック	1時間の事前事後学習を目安とする。
11	【課題２】のレポートの構成を考える	問題提起 テーマに関する資料を集める	1時間の事前事後学習を目安とする。
12	【課題２】資料を引用し、意見を書く	問題提起を行ったうえで、資料を引用して意見を書く	1時間の事前事後学習を目安とする。
13	【課題３】のテーマ説明	【課題３】のレポートのテーマの説明、構成を考える	1時間の事前事後学習を目安とする。
14	【課題３】の作成	論説文を書く	レポートを作成する
15	文章作成に関するまとめ	これまでの文章作成に関して、まとめを行う	これまでの復習

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題２回（20%×2）、レポート（30%）、授業に取り組む姿勢・小テストなど（30%）により評価する。 提出が必須の課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語（話し言葉）と、レポートなどで書く日本語（書き言葉）は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、文章表現の方法を勉強していきましょう。
担当者の研究室等	7 号館２階　非常勤講師室
備考	提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	日本語表現Ⅰ	科目名（英文）	Japanese Expression Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	学籍番号下3桁 071～140
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	南谷　静香
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JJA1336a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	この授業を通じて学生には、大学生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得することが期待される。
授業方法と留意点	教科書に沿って、講義形式で行う。 毎回授業開始時に前回授業の復習と日本語表現の小テストを行うため、遅刻をしないこと。また、講義中はスマートフォンは鞄の中にしまっておくこと。 指示した課題を必ず提出すること。課題およびレポート未提出の場合、単位の取得を認めません。 オンライン授業については、Teamsによるリアルタイム方式で行い、課題の提出はWeb Folderとする。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 授業の内容、進め方について 「はじめに」 文章で伝えるということについて	講義	予習として教科書の「はじめに」を読む。 授業後は、教科書を用いて授業の内容を復習する（30分程度）
2	「文章の書き方」 レポート・論文の基本事項 わかりやすい文章の書き方	講義	予習として教科書の第1・2章を読む。 授業後は、教科書を用いて授業の内容を復習する（30分程度）
3	「事実と意見」 事実と意見の書き分け 説明文とは何か	講義	予習として教科書の第3章を読む。 授業後は、教科書を用いて授業の内容を復習する（30分程度）
4	課題① ある事物について、論理的に説明する	課題の作成・提出	予習として教科書の「はじめに」から第3章までをもう一度読む。 授業後は、教科書を用いて授業の内容を復習する（30分程度）
5	「構成」 レポートなどの文章の構成を学ぶ	講義	予習として教科書の第5章を読む。 授業後は、教科書を用いて授業の内容を復習する（30分程度）
6	「要約」 要旨の要約の作成方法を知る	講義	予習として教科書の第6章を読む。 授業後は、教科書を用いて授業の内容を復習する（30分程度）
7	フィードバック 課題①の返却と反省 「要約」 要約文の作成	フィードバックと実践（要約文の作成）	予習として教科書の第6章を読む。 授業後は、教科書を用いて授業の内容を復習する（30分程度） また、返却された課題を見直す（合計1時間程度）
8	「文章を引用する」 文章を引用する意方法を学ぶ	講義	予習として教科書の第7章を読む。 授業後は、教科書を用いて授業の内容を復習する（30分程度）
9	「図表を引用する」 図表を引用する方法を学ぶ	講義	予習として教科書の第8章を読む。 授業後は、教科書を用いて授業の内容を復習する（30分程度）
10	「意見を述べる」 引用をふまえた考察に基づいて意見を述べる	講義	予習として教科書の第9章を読む。 授業後は、教科書を用いて授業の内容を復習する（30分程度）
11	課題② 資料を引用して意見を述べる	課題の作成・提出	予習として教科書の第7～9章をもう一度読む。 授業後は、教科書を用いて授業の内容を復習する（30分程度）
12	小テストの復習テスト	復習テスト	返却した小テストの内容を復習してテストに臨む（1時間程度）
13	フィードバック 課題②の返却と反省	フィードバック	予習として教科書の第7・8章をもう一度読む。 授業後は、教科書を用いて授業の内容を復習する（30分程度） 返却された課題を見直す（合計1時間程度）
14	レポート これまでの講義の内容を踏まえて論説文を書く	レポートの作成・提出	予習として教科書を「はじめに」から第12章まで読む。 授業後は、「日本語文章表現確認表」を見て復習する。
15	フィードバック レポートの反省点	フィードバック	予習として教科書をすべて読み返す。 ここまでやってきた内容を総括して復習する（1時間程度）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学編	
2			
3			

<table>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>課題 2 回（20%×２）、レポート（30%）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により総合的に評価する。
課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>口語表現と文章表現の違いを理解し、読み手を意識したわかりやすい文章を書くスキルを身につけてください。
論理的な文章を書く能力は、学生生活でのレポートや論文はもちろんのこと、社会人になってからも必要なものです。積極的に課題に取り組み、実践的な能力を身につけるよう務めましょう。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>7 号館 2 階　非常勤講師室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>前もって教科書の該当箇所をしっかり読んでから講義にのぞむこと。
返却された小テストはしっかりと復習すること。
質問等は出講時に非常勤講師室にて対応。遠隔授業になった場合は、Gmail あるいは Teams で対応。</td></tr>
</table>

科目名	日本語表現Ⅰ	科目名（英文）	Japanese Expression Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	学籍番号下３桁 141～210
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	澤野　加奈
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JJA1336a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する力」を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	この授業を通じて学生には、適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方１	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする
2	文章の書き方２	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	1 時間の事前学習を目安とする
4	【課題１】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	1 時間の事前学習を目安とする
5	構成・要約	レポートなどの文章構成・要約を学ぶ	1 時間の事前学習を目安とする
6	フィードバック	課題１のフィードバック	課題１を見直す 1 時間の事前学習を目安とする
7	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	1 時間の事前学習を目安とする
8	文章の引用を練習する	文章の引用を練習する	1 時間の事前学習を目安とする
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	1 時間の事前学習を目安とする
10	引用の復習 意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	1 時間の事前学習を目安とする
11	【課題２】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習 1 時間の事前学習を目安とする
12	レポートの書き方１・２	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	1 時間の事前学習を目安とする
13	フィードバック	課題２のフィードバック	課題２を見直す 1 時間の事前学習を目安とする
14	【 レポート 】	レポートを提出する	レポートを作成する 1 時間の事前学習を目安とする
15	レポートの講評 小テストの復習	レポートについて講評する 小テストの復習テスト	これまでの復習 1 時間の事前学習を目安とする

関連科目	キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学　日本語文章表現の会	和泉書院
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題２回（20%×2）、レポート（30%）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により総合的に評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	事前・事後学習の総時間の目安は、１５時間。 提出課題については、個別にフィードバックをします。

科目名	日本語表現Ⅰ	科目名（英文）	Japanese Expression I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	学籍番号下3桁211～
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	南谷　静香
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JJA1336a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	この授業を通じて学生には、大学生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得することが期待される。
授業方法と留意点	教科書に沿って、講義形式で行う。 毎回授業開始時に前回授業の復習と日本語表現の小テストを行うため、遅刻をしないこと。また、講義中はスマートフォンは鞄の中にしまっておくこと。 指示した課題を必ず提出すること。課題およびレポート未提出の場合、単位の取得を認めません。 オンライン授業については、Teamsによるリアルタイム方式で行い、課題の提出はWeb Folderとする。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 授業の内容、進め方について 「はじめに」 文章で伝えるということについて	講義	予習として教科書の「はじめに」を読む。 授業後は、教科書を用いて授業の内容を復習する（30分程度）
2	「文章の書き方」 レポート・論文の基本事項 わかりやすい文章の書き方	講義	予習として教科書の第1・2章を読む。 授業後は、教科書を用いて授業の内容を復習する（30分程度）
3	「事実と意見」 事実と意見の書き分け 説明文とは何か	講義	予習として教科書の第3章を読む。 授業後は、教科書を用いて授業の内容を復習する（30分程度）
4	課題① ある事物について、論理的に説明する	課題の作成・提出	予習として教科書の「はじめに」から第3章までをもう一度読む。 授業後は、教科書を用いて授業の内容を復習する（30分程度）
5	「構成」 レポートなどの文章の構成を学ぶ	講義	予習として教科書の第5章を読む。 授業後は、教科書を用いて授業の内容を復習する（30分程度）
6	「要約」 要旨の要約の作成方法を知る	講義	予習として教科書の第6章を読む。 授業後は、教科書を用いて授業の内容を復習する（30分程度）
7	フィードバック 課題①の返却と反省 「要約」 要約文の作成	フィードバックと実践（要約文の作成）	予習として教科書の第6章を読む。 授業後は、教科書を用いて授業の内容を復習する（30分程度） また、返却された課題を見直す（合計1時間程度）
8	「文章を引用する」 文章を引用する意方法を学ぶ	講義	予習として教科書の第7章を読む。 授業後は、教科書を用いて授業の内容を復習する（30分程度）
9	「図表を引用する」 図表を引用する方法を学ぶ	講義	予習として教科書の第8章を読む。 授業後は、教科書を用いて授業の内容を復習する（30分程度）
10	「意見を述べる」 引用をふまえた考察に基づいて意見を述べる	講義	予習として教科書の第9章を読む。 授業後は、教科書を用いて授業の内容を復習する（30分程度）
11	課題② 資料を引用して意見を述べる	課題の作成・提出	予習として教科書の第7～9章をもう一度読む。 授業後は、教科書を用いて授業の内容を復習する（30分程度）
12	小テストの復習テスト	復習テスト	返却した小テストの内容を復習してテストに臨む（1時間程度）
13	フィードバック 課題②の返却と反省	フィードバック	予習として教科書の第7・8章をもう一度読む。 授業後は、教科書を用いて授業の内容を復習する（30分程度） 返却された課題を見直す（合計1時間程度）
14	レポート これまでの講義の内容を踏まえて論説文を書く	レポートの作成・提出	予習として教科書を「はじめに」から第12章まで読む。 授業後は、「日本語文章表現確認表」を見て復習する。
15	フィードバック レポートの反省点	フィードバック	予習として教科書をすべて読み返す。 ここまでやってきた内容を総括して復習する（1時間程度）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学編	
2			
3			

<table>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>課題 2 回（20%×２）、レポート（30%）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により総合的に評価する。
課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>口語表現と文章表現の違いを理解し、読み手を意識したわかりやすい文章を書くスキルを身につけてください。
論理的な文章を書く能力は、学生生活でのレポートや論文はもちろんのこと、社会人になってからも必要なものです。積極的に課題に取り組み、実践的な能力を身につけるよう務めましょう。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>7 号館 2 階　非常勤講師室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>前もって教科書の該当箇所をしっかり読んでから講義にのぞむこと。
返却された小テストはしっかりと復習すること。
質問等は出講時に非常勤講師室にて対応。遠隔授業になった場合は、Gmail あるいは Teams で対応。</td></tr>
</table>

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名（英文）	Japanese Expression II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	学籍番号下３桁 001～070
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	澤野　加奈
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JJA1337a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めるようになることが期待される。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い、まとめた内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、グループワーク、プレゼンテーションなどの課題に取り組む。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 レポートの書き方（１）	授業の目的、進め方の説明 レポートの基本的ルール・構成の復習	１時間の事前事後学習を目安とする。
2	レポートの書き方（２）	資料引用の復習（文章の引用） 考察・意見の述べ方を確認する	１時間の事前事後学習を目安とする。
3	レポートの書き方（３）	資料引用の復習（図表の引用）	１時間の事前事後学習を目安とする。
4	【課題１】レポート	資料を引用して意見を述べる文章を書く	１時間の事前事後学習を目安とする。
5	課題１のフィードバック ディスカッションの準備	課題１のフィードバック ディスカッション資料の要約や問題点の整理を行う。	ディスカッションの準備。 １時間の事前事後学習を目安とする。
6	ディスカッション（１）	グループ分けをしてディスカッションを行う	ディスカッションの準備。 １時間の事前事後学習を目安とする。
7	ディスカッション（２）	グループでディスカッションを行う	ディスカッションの準備。 １時間の事前事後学習を目安とする。
8	課題２ 中間報告文	ディスカッションした内容を報告文にまとめる。	報告文の準備。 １時間の事前事後学習を目安とする。
9	フィードバック レジュメの作成	報告文のフィードバック レジュメの作成を行なう	１時間の事前事後学習を目安とする。
10	リハーサル	グループごとにリハーサルを行う	１時間の事前事後学習を目安とする。
11	プレゼンテーション（１）	グループ単位でプレゼンテーションを行う	１時間の事前事後学習を目安とする。
12	プレゼンテーション（２）	グループ単位でプレゼンテーションを行う	１時間の事前事後学習を目安とする。
13	課題３報告文	発表内容を報告文にまとめる	１時間の事前事後学習を目安とする。
14	課題３のフィードバック メールの書き方	課題３のフィードバック メールの書き方の練習	１時間の事前事後学習を目安とする。
15	【復習テスト】	小テストの復習テスト	１時間の事前事後学習を目安とする。小テストの復習

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学　日本語文章表現の会	和泉書院
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題３回（20%、20%、30%）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により総合的に評価する。課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語（話し言葉）と、レポートなどで書く日本語（書き言葉）は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語（話し言葉、書き言葉）と向き合ってください。
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回１時間程度はかけること。 フィードバックは、講義内で行う。

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名（英文）	Japanese Expression II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	学籍番号下３桁 071～140
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	南谷　静香
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JJA1337a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活で必要な文章力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	この授業を通じて学生には、次の二点ができるようになることが期待される。 ①適切な方法を用いて、論理的な文章を書くこと。 ②グループで話し合い、まとめた内容を整理して、論理的に表現すること。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、グループワーク、プレゼンテーションなどの課題に取り組む。プレゼンテーション不参加の場合は単位取得を認めない。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 レポートの書き方（１）	授業の目的、進め方の説明 レポートの基本的ルール・構成の復習	1時間の事前事後学習を目安とする。
2	レポートの書き方（２）	資料引用の復習（文章の引用） 考察・意見の述べ方を確認する	1時間の事前事後学習を目安とする。
3	レポートの書き方（３） 敬語の基礎	資料引用の復習（図表の引用） 敬語の種類と用法を学ぶ	1時間の事前事後学習を目安とする。
4	【課題１】レポート	資料を引用して意見を述べる文章を書く	1時間の事前事後学習を目安とする。
5	課題１のフィードバック（１） ディスカッションの準備（１）	課題１のフィードバック ディスカッション資料の要約や問題点の整理を行う。	ディスカッションの準備。 1時間の事前事後学習を目安とする。
6	課題１のフィードバック（２） ディスカッション（１）	課題１のフィードバック グループ分けをしてディスカッションを行う	ディスカッションの準備。 1時間の事前事後学習を目安とする。
7	課題１のフィードバック（３） ディスカッション（２） プレゼンテーションの準備（１）	課題１のフィードバック プレゼンテーション資料の作成を行う	プレゼンテーションの準備。 1時間の事前事後学習を目安とする。
8	課題レポート２（以下、対面講義）	ディスカッションした内容をレポートにまとめる。	レポートの準備。 1時間の事前事後学習を目安とする。
9	【プレゼンテーション（1）】	グループごとにプレゼンテーションを行う	他のグループの発表資料を分析しておく。 1時間の事前事後学習を目安とする。
10	【プレゼンテーション（2）】	グループごとにプレゼンテーションを行う	他のグループの発表資料を分析しておく。 1時間の事前事後学習を目安とする。
11	【課題２】経過のまとめ 課題２の添削	ディスカッションの経過を箇条書きでまとめる 課題２を添削して返却する	ディスカッションの復習。 1時間の事前事後学習を目安とする。
12	【課題３】レポート	発表の内容をレポート形式でまとめる	これまでの復習。1時間の事前事後学習を目安とする。
13	課題３のフィードバック（１） 敬語の復習	課題３のフィードバック 敬語の練習問題を解く	レポートの書き方の復習 敬語の復習
14	課題３のフィードバック（２） 敬語の復習	課題３のフィードバック 敬語の練習問題を解く	レポートの書き方の復習 敬語の復習
15	課題３のフィードバック（３） 【復習テスト】	課題３のフィードバック 小テストの復習テスト	レポートの書き方の復習 小テストの復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学　日本語文章表現の会	和泉書院
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題３回（20%、20%、30%）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により総合的に評価する。課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。また、プレゼンテーションも必ず参加すること。不参加の場合、単位の取得を認めない。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語（話し言葉）と、レポートなどで書く日本語（書き言葉）は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語（話し言葉、書き言葉）と向き合ってください。

担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回 1 時間程度はかけること。 フィードバックは、講義内で行う。

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名（英文）	Japanese Expression II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	学籍番号下３桁 141～210
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	筒井　大祐
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JJA1337a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活で必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	この授業を通じて学生には、適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができ、また、グループで話し合い、発表した内容を整理して、論理的に表現することができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。３回の課題を提出する。課題未提出の場合は、単位の取得が認められないので注意すること、プレゼンテーションに不参加の場合も単位の取得を認めない。グループワークが中心の講義なので、意欲的に参加すること。
科目学習の効果（資格）	大学生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入	授業の目的、進め方の説明	1時間の事前事後学習を目安とする。
2	敬語表現	敬語の種類と用法を学ぶ	敬語の復習、1時間の事前事後学習を目安とする。
3	グループワーク１	グループワークの進め方、テーマの説明、ディスカッションの前に個人の意見をまとめる	グループワークのテーマについて考える。1時間の事前事後学習を目安とする。
4	グループワーク１の続き	テーマに関して、グループでディスカッションをする	ディスカッションを振り返る。1時間の事前事後学習を目安とする。
5	グループワーク１の続き	テーマに関して、グループでディスカッションをする	ディスカッションを振り返る。1時間の事前事後学習を目安とする。
6	グループワーク１の続き 課題１	グループワーク１に関するレポート作成	ディンスカッションを振り返る。1時間の事前事後学習を目安とする。
7	グループワーク２	テーマの説明、ディスカッションの前に個人の意見をまとめる	ディスカッションの準備テーマの下調べ。1時間の事前事後学習を目安とする。
8	グループワーク２	グループでテーマに関してディスカッションする、ディスカッションの内容をまとめる	プレゼンテーション資料の準備。1時間の事前事後学習を目安とする。
9	グループワーク２ グループごとのプレゼンテーション	グループでディスカッションの内容をプレゼンテーションする	グループワーク、ディンスカッションを振り返る。1時間の事前事後学習を目安とする。
10	グループワーク２ 課題２	グループワーク２に関するレポート作成	グループワーク、ディンスカッションを振り返る。1時間の事前事後学習を目安とする。
11	グループワーク３	テーマの説明、ディスカッションの前に個人の意見をまとめる	発表の準備。1時間の事前事後学習を目安とする。
12	グループワーク３	グループでテーマに関してディスカッションする、ディスカッションの内容をまとめる	発表の準備と反省。1時間の事前事後学習を目安とする。
13	グループワーク３	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う。	発表の準備と反省。1時間の事前事後学習を目安とする。
14	グループワーク３ 課題３	グループワーク 3 に関するレポート作成	グループワーク、ディンスカッションを振り返る。1時間の事前事後学習を目安とする。
15	課題フィードバック まとめ	課題フィードバック	グループワーク、ディスカッションを振り返る。1時間の事前事後学習を目安とする。

関連科目	キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題（２0%、20%、30%）、授業への取り組む姿勢・小テスト・復習テスト（30%）により評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。やむを得ない場合を除いて、プレゼンテーションに不参加の場合も単位の取得を認めない。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のために、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	7号館２階　非常勤講師室
備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回１時間程度はかけること。

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名（英文）	Japanese Expression II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	学籍番号下３桁 211～
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	南谷　静香
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JJA1337a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活で必要な文章力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	この授業を通じて学生には、次の二点ができるようになることが期待される。 ①適切な方法を用いて、論理的な文章を書くこと。 ②グループで話し合い、まとめた内容を整理して、論理的に表現すること。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、グループワーク、プレゼンテーションなどの課題に取り組む。プレゼンテーション不参加の場合は単位取得を認めない。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 レポートの書き方（１）	授業の目的、進め方の説明 レポートの基本的ルール・構成の復習	1時間の事前事後学習を目安とする。
2	レポートの書き方（２）	資料引用の復習（文章の引用） 考察・意見の述べ方を確認する	1時間の事前事後学習を目安とする。
3	レポートの書き方（３） 敬語の基礎	資料引用の復習（図表の引用） 敬語の種類と用法を学ぶ	1時間の事前事後学習を目安とする。
4	【課題１】レポート	資料を引用して意見を述べる文章を書く	1時間の事前事後学習を目安とする。
5	課題１のフィードバック（１） ディスカッションの準備（１）	課題１のフィードバック ディスカッション資料の要約や問題点の整理を行う。	ディスカッションの準備。 1時間の事前事後学習を目安とする。
6	課題１のフィードバック（２） ディスカッション（１）	課題１のフィードバック グループ分けをしてディスカッションを行う	ディスカッションの準備。 1時間の事前事後学習を目安とする。
7	課題１のフィードバック（３） ディスカッション（２） プレゼンテーションの準備（１）	課題１のフィードバック プレゼンテーション資料の作成を行う	プレゼンテーションの準備。 1時間の事前事後学習を目安とする。
8	課題レポート２（以下、対面講義）	ディスカッションした内容をレポートにまとめる。	レポートの準備。 1時間の事前事後学習を目安とする。
9	【プレゼンテーション（1）】	グループごとにプレゼンテーションを行う	他のグループの発表資料を分析しておく。 1時間の事前事後学習を目安とする。
10	【プレゼンテーション（2）】	グループごとにプレゼンテーションを行う	他のグループの発表資料を分析しておく。 1時間の事前事後学習を目安とする。
11	【課題２】経過のまとめ 課題２の添削	ディスカッションの経過を箇条書きでまとめる 課題２を添削して返却する	ディスカッションの復習。 1時間の事前事後学習を目安とする。
12	【課題３】レポート	発表の内容をレポート形式でまとめる	これまでの復習。1時間の事前事後学習を目安とする。
13	課題３のフィードバック（１） 敬語の復習	課題３のフィードバック 敬語の練習問題を解く	レポートの書き方の復習 敬語の復習
14	課題３のフィードバック（２） 敬語の復習	課題３のフィードバック 敬語の練習問題を解く	レポートの書き方の復習 敬語の復習
15	課題３のフィードバック（３） 【復習テスト】	課題３のフィードバック 小テストの復習テスト	レポートの書き方の復習 小テストの復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学　日本語文章表現の会	和泉書院
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題３回（20%、20%、30%）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により総合的に評価する。課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。また、プレゼンテーションも必ず参加すること。不参加の場合、単位の取得を認めない。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語（話し言葉）と、レポートなどで書く日本語（書き言葉）は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語（話し言葉、書き言葉）と向き合ってください。

担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回 1 時間程度はかけること。 フィードバックは、講義内で行う。

科目名	コミュニケーションⅠ	科目名（英文）	Communication Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	津村　忠
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JJA2338a1		

授業概要・目的	社会で必要なコミュニケーションスキルを習得するための授業です。読む・書く・話す・聴くの４技能は常に求められるスキルですが、それらは「技術」として認識し、訓練することによってより実践的なものに高めることが可能です。この授業では毎回「こちらの意図を的確に伝える」技術や「相手の意図を十分に理解する」技術、すなわち「話す」「聴く」技術を高める練習をします。普段、ディスカッションをしたり、プレゼンテーションを練習する機会はあまりありません。講義を通じてこれら社会で求められる力を身につけたい人は受講をお勧めします。 講師陣はそれぞれが、人材採用・社会人教育の前線で長年実務を経験したり、航空業界で多種多様な価値観触れた経験や、様々な業界で実務経験を持ち、「話す」「聴く」技術を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使えるコミュニケーション能力の獲得を目指します。
到達目標	この授業を通じて学生には、高度なコミュニケーションスキルにより社会活動において自らが望む相応の結果を出せるようになることが期待される。 SDGs4 SDGs10
授業方法と留意点	授業は理論と実践で構成されています。コミュニケーション能力は理論を知ったうえで、アウトプットする訓練が必要です。実践については授業の性質上、ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーションになることもあります。対面時は必ずマスク着用、適度な距離を保つことに留意してください。 社会状況によってはオンラインになることもあります。情報はMicrosoft Teamsにて発信しますので、必ず確認するようにしてください。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	コミュニケーションとは	コミュニケーションの本質を考える。	事前にシラバスを熟読しておくこと。 講義内容を復習し、理解しておくこと。 (目安：30分)
2	傾聴力、質問力を高める	聴くための技術の基本的な方法と聞いた内容を深めるための質問方法について学ぶ。	事前にコミュニケーションの本質を理解しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安：30分)
3	ロジカルコミュニケーション	論理的に会話するための基礎を学ぶ。	事前に論理的思考方法の概略を理解しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安：1時間)
4	コミュニケーションの技法	相手により伝わるための非言語コミュニケーションについて学ぶ。	事前に非言語コミュニケーションの概略を調査・確認しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安：1時間)
5	プレゼンテーション①	プレゼンテーションの基礎について学ぶ。	事前にプレゼンテーションの概略を調査・確認しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安：1時間)
6	プレゼンテーション②	プレゼンテーション（個人プレゼンの準備）	事前に前回講義に基づく実践成果を整理しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安：1時間)
7	プレゼンテーション③	プレゼンテーション（個人プレゼン完成） ※評定あり	事前に前回講義に基づく実践成果を整理しておくこと。 講義内容を復習し、各自プレゼンテーションの準備とシナリオ作成を行うこと。 (目安：2時間)
8	言語理解①	社会で必要とされる言語理解の基礎について学ぶ。	事前に各種言語問題に目を通しておくこと。 学習範囲を復習しておくこと。 (目安：1時間)
9	言語理解②	社会で必要とされる言語理解の応用について学ぶ。	事前に各種言語問題に目を通しておくこと。 学習範囲を復習しておくこと。 (目安：1時間)
10	言語理解③	社会で必要とされる言語理解の基礎と応用の演習問題を解く。 ※評定あり	事前に各種言語問題に目を通しておくこと。 学習範囲を復習しておくこと。 (目安：1時間)
11	グループディスカッション①	グループディスカッションの基礎について学ぶ。	事前にディスカッションの概略を調査・確認しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安：1時間)
12	グループディスカッション②	グループディスカッションの演習（基本編）で学ぶ。	事前に前回講義に基づく実践成果を整理しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安：1時間)
13	グループディスカッション③	グループディスカッション実践演習（模擬選考） ※評定あり	事前に前回講義に基づく実践成果を整理しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安：1時間)
14	ダイバーシティ・コミュニケーション	多様性社会の中、望まれるコミュニケーションスキルを学ぶ。	事前にダイバーシティの概略を調査・確認しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安：2時間)
15	総合演習	これまで実施した授業の内容を踏まえ、自分を的確に且つ効果的に表現すること学び、実践する。	事前に全ての範囲を復習しておくこと。 (目安：2時間)

			※評定あり	

関連科目	キャリアデザインⅡ、数的能力開発、就職実践基礎

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	毎回の小レポート 30 点、プレゼンテーション 15 点、言語理解 20 点、グループデイスカッション 10 点、総合演習レポート 25 点
学生へのメッセージ	人間は「社会的動物」です。他者との関係の中で生きていかねばなりません。他者との関係性を良好に保つことは、豊かな人生を送るための重要な条件になります。そのために求められるものが「コミュニケーション能力」と言われており、これはビジネスシーンにおいても同様です。コミュニケーションを楽しみながら、適切に行えるようになっていきましょう。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　教育イノベーションセンター
備考	

科目名	情報リテラシーⅠ	科目名（英文）	Information Literacy Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	学籍番号下３桁 001～070
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	寺内　睦博
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JMA1339a1		

授業概要・目的	大学生活および卒業後の生活において要求される情報やデータを取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持ち、アプリケーションの機能の最低限の使い方と、それらの連携作業を実行できるようになること、およびデータサイエンスに関するエントリーレベルの知識を有するようになることが期待される。
授業方法と留意点	大学の ICT 環境を利用して、アプリケーションツールの使い方を実践的課題を通して演習形式で学ぶ。また、データサイエンスの基礎レベルを e-learning による自主学習とミニ講義、演習形式で学ぶ。e-learning は、空き時間を見つけて、なるべく毎日少しづつ均等に学修するように心がけてください。
科目学習の効果（資格）	今後の諸活動において情報リテラシー能力を活用できること。マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)等の資格取得出題範囲の約 40%を学ぶ。データサイエンスのエントリーレベルの知識が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 摂南大学の ICT 環境 コンピュータの基礎 関連資格の紹介 データサイエンス	出欠管理システム メールシステム ポータルサイト Moodle への登録 OneDrive の使い方 用語解説 IT パスポートの紹介 メールへのファイル添付 e-learning の方法	事前：シラバスの確認（30 分） 事後：大学の ICT 環境の確認（60 分）
2	データサイエンスとは 【Word】 Word の基礎スキル	1 データサイエンスとは（イントロ） 文書の新規作成と保存 表示モード・倍率の変更 Window の分割と利用 文字列の削除、コピー、貼付け 文字列の書式設定 段落の書式設定 文書の書式（テーマ等） 文字列の検索、編集記号の表示、隠し文字	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 1 回（60 分）視聴・テスト
3	社会で起きている変化 【Word】 文書の管理 文字、段落の挿入と書式設定	2 社会で起きている変化（イントロ） 文書のページ設定を行う スタイルセットを適用する ヘッダーやフッターを挿入する、変更する 印刷の設定を変更する 記号や特殊文字を挿入する 文字列を検索する、置換する 文字の効果を適用する 行間、段落間隔、インデントを設定する 書式のコピー/貼付け	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 2 回（60 分）視聴・テスト
4	社会で活用されてるデータ 【Word】 セクションの挿入と設定 表やリストの作成と設定	3 社会で活用されているデータ（イントロ） ページ区切りを挿入する 段組みを設定する セクション区切りを設定する 行や列を指定して表を作成する 表のデータを並べ替える セルの余白と間隔を設定する セルを結合する、分割する 列の幅を設定する 箇条書きや段落番号を設定する リストのレベルを変更する 開始する番号の値を設定する	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 3 回（60 分）視聴・テスト
5	データ・AI の活用領域 【Word】 グラフィック要素の挿入と書式	4 データ・AI の活用領域（イントロ） 図形を挿入する 図を挿入する テキストボックスを挿入する SmartArt グラフィックを挿入する 3D モデルを挿入する スクリーンショットや画面の領域を挿入する テキストボックスにテキストを追加・変更する 図形にテキストを追加・変更する オブジェクトの周囲の文字列を折り返す オブジェクトを配置する	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 4 回（60 分）視聴・テスト
6	【Word】 テスト課題演習	Word 演習テスト	事前：Word の復習 事後：Word の振り返り（30 分）
7	【PowerPoint】 スライドの作成	スライドの作成 テキスト 図形作成 グラフィック要素の挿入と書式設定	事前：PowerPoint の機能を調べる（30 分） 事後：事後課題の完成・提出（60 分）

	8	【PowerPoint】 グループ内での発表	アニメーションの設定 スライドの切り替え 発表者ツールの設定 相互発表 ルーブリック評価	事前：発表準備（60 分） 事後：PowerPoint 機能の振り返り（30 分）
	9	データ・AI 利活用のための技術 【Excel】 Excel の基礎スキル	5 データ・AI 利活用のための技術（イントロ） ブックの作成とテーマの適用 表示倍率の設定 データの移動、コピー、検索、置換 列や行の挿入、削除、コピー、表示設定 ワークシートの編集（追加、削除、移動、コピー、名称、見出し色） ブック内のデータを検索する ページ設定を変更する 行の高さや列の幅を調整する	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 5 回（60 分）視聴・テスト
	10	【Excel】 ワークシートやブックの管理 シートのデータを操作する	ブックの表示を変更する ワークシートの行や列を固定する 印刷設定を行う 印刷範囲を設定する オートフィル機能でセルにデータを入力する 形式を選択してデータを貼り付ける 複数の列や行を挿入する、削除する セルを挿入する、削除する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出(50 分)
	11	【Excel】 セルやセル範囲の表示と操作 データを視覚的にまとめる	セルの配置、文字の方向、インデントの変更 セル内のテキストを折り返して表示する セルを結合する、セルの結合を解除する 数値の書式を適用する 書式のコピー/貼り付け スパークラインを挿入する 組み込みの条件付き書式を適用する 条件付き書式を削除する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出(50 分)
	12	【Excel】 数式や関数を使用した演算の実行	セルの相対参照、絶対参照、複合参照 SUM, AVERAGE, MAX, MIN 関数の利用 COUNT, COUNTA, COUNTBLANK 関数の利用 IF 関数を使用して条件付きの計算を実行する RIGHT, LEFT, MID 関数の利用 UPPER, LOWER 関数の利用 CONCAT 関数の利用	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出(50 分)
	13	【Excel】 グラフの管理	グラフの種類と用途 グラフを作成する ソースデータの行と列を切り替える グラフにデータ範囲（系列）を追加する グラフの要素を追加する、変更する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出(50 分)
	14	【Excel】 テスト課題演習	Excel 演習テスト	事前：Excel の復習（60 分）
	15	データサイエンス・AI 演習	9 データを読む（1） データの代表値 データのばらつき 10 データを読む（2） 相関と因果 母集団と抽出 統計情報の正しい理解	事前：E-第 9 回(60 分）視聴・テスト E-第 10 回(60 分）視聴・テスト

関連科目	情報リテラシーⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 365 & 2019 対策テキスト＆問題集（FPT1913）	富士通 FOM	FOM 出版
2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 365 & 2019 対策テキスト＆問題集（FPT1912）	富士通 FOM	FOM 出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業中の実習課題（40%）、模擬試験や総合課題などの演習（40%）、プレゼンテーション（10%）、e-learning(10%)を総合的に評価する。この授業は演習中心のため、出席（課題提出）が単位取得の必要条件となる。
学生へのメッセージ	疑問を放置しないこと。何でも質問してください。
担当者の研究室等	寺内准教授室（１１号館１０階）

備考	

科目名	情報リテラシーⅠ	科目名（英文）	Information Literacy Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	学籍番号下3桁071～140
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	新居　英志
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JMA1339a1		

授業概要・目的	大学生活および卒業後の生活において要求される情報やデータを取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持ち、アプリケーションの機能の最低限の使い方と、それらの連携作業を実行できるようになること、およびデータサイエンスに関するエントリーレベルの知識を有するようになることが期待される。
授業方法と留意点	大学の ICT 環境を利用して、アプリケーションツールの使い方を実践的課題を通して演習形式で学ぶ。また、データサイエンスの基礎レベルを e-learning による自主学習とミニ講義、演習形式で学ぶ。e-learning は、空き時間を見つけて、なるべく毎日少しづつ均等に学修するように心がけてください。
科目学習の効果（資格）	今後の諸活動において情報リテラシー能力を活用できること。マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)等の資格取得出題範囲の約40%を学ぶ。データサイエンスのエントリーレベルの知識が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 摂南大学の ICT 環境 コンピュータの基礎 関連資格の紹介 データサイエンス	出欠管理システム メールシステム ポータルサイト Moodle への登録 OneDrive の使い方 用語解説 IT パスポートの紹介 メールへのファイル添付 e-learning の方法	事前：シラバスの確認（30分） 事後：大学の ICT 環境の確認（60分）
2	データサイエンスとは 【Word】 Word の基礎スキル	1 データサイエンスとは（イントロ） 文書の新規作成と保存 表示モード・倍率の変更 Window の分割と利用 文字列の削除、コピー、貼付け 文字列の書式設定 段落の書式設定 文書の書式（テーマ等） 文字列の検索、編集記号の表示、隠し文字	事前：授業内容の確認（10分） 事後：演習課題の完成・提出(20分) E-第1回（60分）視聴・テスト
3	社会で起きている変化 【Word】 文書の管理 文字、段落の挿入と書式設定	2 社会で起きている変化（イントロ） 文書のページ設定を行う スタイルセットを適用する ヘッダーやフッターを挿入する、変更する 印刷の設定を変更する 記号や特殊文字を挿入する 文字列を検索する、置換する 文字の効果を適用する 行間、段落間隔、インデントを設定する 書式のコピー/貼付け	事前：授業内容の確認（10分） 事後：演習課題の完成・提出(20分) E-第2回（60分）視聴・テスト
4	社会で活用されてるデータ 【Word】 セクションの挿入と設定 表やリストの作成と設定	3 社会で活用されているデータ（イントロ） ページ区切りを挿入する 段組みを設定する セクション区切りを設定する 行や列を指定して表を作成する 表のデータを並べ替える セルの余白と間隔を設定する セルを結合する、分割する 列の幅を設定する 箇条書きや段落番号を設定する リストのレベルを変更する 開始する番号の値を設定する	事前：授業内容の確認（10分） 事後：演習課題の完成・提出(20分) E-第3回（60分）視聴・テスト
5	データ・AI の活用領域 【Word】 グラフィック要素の挿入と書式	4 データ・AI の活用領域（イントロ） 図形を挿入する 図を挿入する テキストボックスを挿入する SmartArt グラフィックを挿入する 3D モデルを挿入する スクリーンショットや画面の領域を挿入する テキストボックスにテキストを追加・変更する 図形にテキストを追加・変更する オブジェクトの周囲の文字列を折り返す オブジェクトを配置する	事前：授業内容の確認（10分） 事後：演習課題の完成・提出(20分) E-第4回（60分）視聴・テスト
6	【Word】 テスト課題演習	Word 演習テスト	事前：Word の復習 事後：Word の振り返り（30分）
7	【PowerPoint】 スライドの作成	スライドの作成 テキスト 図形作成 グラフィック要素の挿入と書式設定	事前：PowerPoint の機能を調べる（30分） 事後：事後課題の完成・提出（60分）

	8	【PowerPoint】 グループ内での発表	アニメーションの設定 スライドの切り替え 発表者ツールの設定 相互発表 ルーブリック評価	事前：発表準備（60 分） 事後：PowerPoint 機能の振り返り（30 分）
	9	データ・AI 利活用のための技術 【Excel】 Excel の基礎スキル	5 データ・AI 利活用のための技術（イントロ） ブックの作成とテーマの適用 表示倍率の設定 データの移動、コピー、検索、置換 列や行の挿入、削除、コピー、表示設定 ワークシートの編集（追加、削除、移動、コピー、名称、見出し色） ブック内のデータを検索する ページ設定を変更する 行の高さや列の幅を調整する	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 5 回（60 分）視聴・テスト
	10	【Excel】 ワークシートやブックの管理 シートのデータを操作する	ブックの表示を変更する ワークシートの行や列を固定する 印刷設定を行う 印刷範囲を設定する オートフィル機能でセルにデータを入力する 形式を選択してデータを貼り付ける 複数の列や行を挿入する、削除する セルを挿入する、削除する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出(50 分)
	11	【Excel】 セルやセル範囲の表示と操作 データを視覚的にまとめる	セルの配置、文字の方向、インデントの変更 セル内のテキストを折り返して表示する セルを結合する、セルの結合を解除する 数値の書式を適用する 書式のコピー/貼り付け スパークラインを挿入する 組み込みの条件付き書式を適用する 条件付き書式を削除する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出(50 分)
	12	【Excel】 数式や関数を使用した演算の実行	セルの相対参照、絶対参照、複合参照 SUM, AVERAGE, MAX, MIN 関数の利用 COUNT, COUNTA, COUNTBLANK 関数の利用 IF 関数を使用して条件付きの計算を実行する RIGHT, LEFT, MID 関数の利用 UPPER, LOWER 関数の利用 CONCAT 関数の利用	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出(50 分)
	13	【Excel】 グラフの管理	グラフの種類と用途 グラフを作成する ソースデータの行と列を切り替える グラフにデータ範囲（系列）を追加する グラフの要素を追加する、変更する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出(50 分)
	14	【Excel】 テスト課題演習	Excel 演習テスト	事前：Excel の復習（60 分）
	15	データサイエンス・AI 演習	9 データを読む（1） データの代表値 データのばらつき 10 データを読む（2） 相関と因果 母集団と抽出 統計情報の正しい理解	事前：E-第 9 回(60 分）視聴・テスト E-第 10 回(60 分）視聴・テスト

関連科目	情報リテラシーⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 365 & 2019 対策テキスト＆問題集（FPT1913）	富士通 FOM	FOM 出版
2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 365 & 2019 対策テキスト＆問題集（FPT1912）	富士通 FOM	FOM 出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業中の実習課題（40%）、模擬試験や総合課題などの演習（40%）、プレゼンテーション（10%）、e-learning(10%)を総合的に評価する。この授業は演習中心のため、出席（課題提出）が単位取得の必要条件となる。
学生へのメッセージ	疑問を放置しないこと。何でも質問してください。
担当者の研究室等	新居講師室（7 号館 5 階）

備考	

科目名	情報リテラシーⅠ	科目名（英文）	Information Literacy Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	学籍番号下３桁 141～210
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	石原　恭子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JMA1339a1		

授業概要・目的	大学生活および卒業後の生活において要求される情報やデータを取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持ち、アプリケーションの機能の最低限の使い方と、それらの連携作業を実行できるようになること、およびデータサイエンスに関するエントリーレベルの知識を有するようになることが期待される。
授業方法と留意点	大学の ICT 環境を利用して、アプリケーションツールの使い方を実践的課題を通して演習形式で学ぶ。また、データサイエンスの基礎レベルを e-learning による自主学習とミニ講義、演習形式で学ぶ。e-learning は、空き時間を見つけて、なるべく毎日少しづつ均等に学修するように心がけてください。
科目学習の効果（資格）	今後の諸活動において情報リテラシー能力を活用できること。マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)等の資格取得出題範囲の約 40%を学ぶ。データサイエンスのエントリーレベルの知識が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 摂南大学の ICT 環境 コンピュータの基礎 関連資格の紹介 データサイエンス	出欠管理システム メールシステム ポータルサイト Moodle への登録 OneDrive の使い方 用語解説 IT パスポートの紹介 メールへのファイル添付 e-learning の方法	事前：シラバスの確認（30 分） 事後：大学の ICT 環境の確認（60 分）
2	データサイエンスとは 【Word】 Word の基礎スキル	1 データサイエンスとは（イントロ） 文書の新規作成と保存 表示モード・倍率の変更 Window の分割と利用 文字列の削除、コピー、貼付け 文字列の書式設定 段落の書式設定 文書の書式（テーマ等） 文字列の検索、編集記号の表示、隠し文字	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 1 回（60 分）視聴・テスト
3	社会で起きている変化 【Word】 文書の管理 文字、段落の挿入と書式設定	2 社会で起きている変化（イントロ） 文書のページ設定を行う スタイルセットを適用する ヘッダーやフッターを挿入する、変更する 印刷の設定を変更する 記号や特殊文字を挿入する 文字列を検索する、置換する 文字の効果を適用する 行間、段落間隔、インデントを設定する 書式のコピー/貼付け	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 2 回（60 分）視聴・テスト
4	社会で活用されてるデータ 【Word】 セクションの挿入と設定 表やリストの作成と設定	3 社会で活用されているデータ（イントロ） ページ区切りを挿入する 段組みを設定する セクション区切りを設定する 行や列を指定して表を作成する 表のデータを並べ替える セルの余白と間隔を設定する セルを結合する、分割する 列の幅を設定する 箇条書きや段落番号を設定する リストのレベルを変更する 開始する番号の値を設定する	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 3 回（60 分）視聴・テスト
5	データ・AI の活用領域 【Word】 グラフィック要素の挿入と書式	4 データ・AI の活用領域（イントロ） 図形を挿入する 図を挿入する テキストボックスを挿入する SmartArt グラフィックを挿入する 3D モデルを挿入する スクリーンショットや画面の領域を挿入する テキストボックスにテキストを追加・変更する 図形にテキストを追加・変更する オブジェクトの周囲の文字列を折り返す オブジェクトを配置する	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 4 回（60 分）視聴・テスト
6	【Word】 テスト課題演習	Word 演習テスト	事前：Word の復習 事後：Word の振り返り（30 分）
7	【PowerPoint】 スライドの作成	スライドの作成 テキスト 図形作成 グラフィック要素の挿入と書式設定	事前：PowerPoint の機能を調べる（30 分） 事後：事後課題の完成・提出（60 分）

	8	【PowerPoint】 グループ内での発表	アニメーションの設定 スライドの切り替え 発表者ツールの設定 相互発表 ルーブリック評価	事前：発表準備（60 分） 事後：PowerPoint 機能の振り返り（30 分）
	9	データ・AI 利活用のための技術 【Excel】 Excel の基礎スキル	5 データ・AI 利活用のための技術（イントロ） ブックの作成とテーマの適用 表示倍率の設定 データの移動、コピー、検索、置換 列や行の挿入、削除、コピー、表示設定 ワークシートの編集（追加、削除、移動、コピー、名称、見出し色） ブック内のデータを検索する ページ設定を変更する 行の高さや列の幅を調整する	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 5 回（60 分）視聴・テスト
	10	【Excel】 ワークシートやブックの管理 シートのデータを操作する	ブックの表示を変更する ワークシートの行や列を固定する 印刷設定を行う 印刷範囲を設定する オートフィル機能でセルにデータを入力する 形式を選択してデータを貼り付ける 複数の列や行を挿入する、削除する セルを挿入する、削除する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出(50 分)
	11	【Excel】 セルやセル範囲の表示と操作 データを視覚的にまとめる	セルの配置、文字の方向、インデントの変更 セル内のテキストを折り返して表示する セルを結合する、セルの結合を解除する 数値の書式を適用する 書式のコピー/貼り付け スパークラインを挿入する 組み込みの条件付き書式を適用する 条件付き書式を削除する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出(50 分)
	12	【Excel】 数式や関数を使用した演算の実行	セルの相対参照、絶対参照、複合参照 SUM, AVERAGE, MAX, MIN 関数の利用 COUNT, COUNTA, COUNTBLANK 関数の利用 IF 関数を使用して条件付きの計算を実行する RIGHT, LEFT, MID 関数の利用 UPPER, LOWER 関数の利用 CONCAT 関数の利用	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出(50 分)
	13	【Excel】 グラフの管理	グラフの種類と用途 グラフを作成する ソースデータの行と列を切り替える グラフにデータ範囲（系列）を追加する グラフの要素を追加する、変更する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出(50 分)
	14	【Excel】 テスト課題演習	Excel 演習テスト	事前：Excel の復習（60 分）
	15	データサイエンス・AI 演習	9 データを読む（1） データの代表値 データのばらつき 10 データを読む（2） 相関と因果 母集団と抽出 統計情報の正しい理解	事前：E-第 9 回(60 分）視聴・テスト E-第 10 回(60 分）視聴・テスト

関連科目	情報リテラシーⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 365 & 2019 対策テキスト＆問題集（FPT1913）	富士通 FOM	FOM 出版
2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 365 & 2019 対策テキスト＆問題集（FPT1912）	富士通 FOM	FOM 出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業中の実習課題（40%）、模擬試験や総合課題などの演習（40%）、プレゼンテーション（10%）、e-learning(10%)を総合的に評価する。この授業は演習中心のため、出席（課題提出）が単位取得の必要条件となる。
学生へのメッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。多くの先輩が、受講の後に独学で MOS（Microsoft Office Specialist（マイクロソフト オフィス スペシャリスト）に合格していますので、就活時のアピールの為にも頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。
担当者の研究室等	経営学部 非常勤講師室（11 号館 6 階） （火曜日 5 限 授業前のみ）

備考	

科目名	情報リテラシーⅠ	科目名（英文）	Information Literacy Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	学籍番号下３桁 211～
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	坂口　紫
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JMA1339a1		

授業概要・目的	大学生活および卒業後の生活において要求される情報やデータを取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持ち、アプリケーションの機能の最低限の使い方と、それらの連携作業を実行できるようになること、およびデータサイエンスに関するエントリーレベルの知識を有するようになることが期待される。
授業方法と留意点	大学の ICT 環境を利用して、アプリケーションツールの使い方を実践的課題を通して演習形式で学ぶ。また、データサイエンスの基礎レベルを e-learning による自主学習とミニ講義、演習形式で学ぶ。 e-learning は、空き時間を見つけて、なるべく毎日少しづつ均等に学修するように心がけてください。
科目学習の効果（資格）	今後の諸活動において情報リテラシー能力を活用できること。 マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)等の資格取得出題範囲の約 40%を学ぶ。 データサイエンスのエントリーレベルの知識が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 摂南大学の ICT 環境 コンピュータの基礎 関連資格の紹介 データサイエンス	出欠管理システム メールシステム ポータルサイト Moodle への登録 OneDrive の使い方 用語解説 IT パスポートの紹介 メールへのファイル添付 e-learning の方法	事前：シラバスの確認（30 分） 事後 ：大学の ICT 環境の確認（60 分）
2	データサイエンスとは 【Word】 Word の基礎スキル	1 データサイエンスとは（イントロ） 文書の新規作成と保存 表示モード・倍率の変更 Window の分割と利用 文字列の削除、コピー、貼付け 文字列の書式設定 段落の書式設定 文書の書式（テーマ等） 文字列の検索、編集記号の表示、隠し文字	事前：授業内容の確認（10 分） 事後 ：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 1 回（60 分）視聴・テスト
3	社会で起きている変化 【Word】 文書の管理 文字、段落の挿入と書式設定	2 社会で起きている変化（イントロ） 文書のページ設定を行う スタイルセットを適用する ヘッダーやフッターを挿入する、変更する 印刷の設定を変更する 記号や特殊文字を挿入する 文字列を検索する、置換する 文字の効果を適用する 行間、段落間隔、インデントを設定する 書式のコピー/貼付け	事前：授業内容の確認（10 分） 事後 ：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 2 回（60 分）視聴・テスト
4	社会で活用されてるデータ 【Word】 セクションの挿入と設定 表やリストの作成と設定	3 社会で活用されているデータ（イントロ） ページ区切りを挿入する 段組みを設定する セクション区切りを設定する 行や列を指定して表を作成する 表のデータを並べ替える セルの余白と間隔を設定する セルを結合する、分割する 列の幅を設定する 箇条書きや段落番号を設定する リストのレベルを変更する 開始する番号の値を設定する	事前：授業内容の確認（10 分） 事後 ：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 3 回（60 分）視聴・テスト
5	データ・AI の活用領域 【Word】 グラフィック要素の挿入と書式	4 データ・AI の活用領域（イントロ） 図形を挿入する 図を挿入する テキストボックスを挿入する SmartArt グラフィックを挿入する 3D モデルを挿入する スクリーンショットや画面の領域を挿入する テキストボックスにテキストを追加・変更する 図形にテキストを追加・変更する オブジェクトの周囲の文字列を折り返す オブジェクトを配置する	事前：授業内容の確認（10 分） 事後 ：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 4 回（60 分）視聴・テスト
6	【Word】	Word 演習テスト	事前：Word の復習

	テスト課題演習		事後：Word の振り返り（30 分）
7	【PowerPoint】 スライドの作成	スライドの作成 テキスト 図形作成 グラフィック要素の挿入と書式設定	事前（30 分） ：PowerPoint の機能を調べる 事後 ：事後課題の完成・提出（60 分）
8	【PowerPoint】 グループ内での発表	アニメーションの設定 スライドの切り替え 発表者ツールの設定 相互発表 ルーブリック評価	事前：発表準備（60 分） 事後 ：PowerPoint 機能の振り返り（30 分）
9	データ・AI 利活用のための技術 【Excel】 Excel の基礎スキル	5 データ・AI 利活用のための技術（イントロ） ブックの作成とテーマの適用 表示倍率の設定 データの移動、コピー、検索、置換 列や行の挿入、削除、コピー、表示設定 ワークシートの編集（追加、削除、移動、コピー、名称、見出し色） ブック内のデータを検索する ページ設定を変更する 行の高さや列の幅を調整する	事前：授業内容の確認（10 分） 事後 ：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 5 回（60 分）視聴・テスト
10	【Excel】 ワークシートやブックの管理 シートのデータを操作する	ブックの表示を変更する ワークシートの行や列を固定する 印刷設定を行う 印刷範囲を設定する オートフィル機能でセルにデータを入力する 形式を選択してデータを貼り付ける 複数の列や行を挿入する、削除する セルを挿入する、削除する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後 ：演習課題の完成・提出(50 分)
11	【Excel】 セルやセル範囲の表示と操作 データを視覚的にまとめる	セルの配置、文字の方向、インデントの変更 セル内のテキストを折り返して表示する セルを結合する、セルの結合を解除する 数値の書式を適用する 書式のコピー/貼り付け スパークラインを挿入する 組み込みの条件付き書式を適用する 条件付き書式を削除する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後 ：演習課題の完成・提出(50 分)
12	【Excel】 数式や関数を使用した演算の実行	セルの相対参照、絶対参照、複合参照 SUM, AVERAGE, MAX, MIN 関数の利用 COUNT, COUNTA, COUNTBLANK 関数の利用 IF 関数を使用して条件付きの計算を実行する RIGHT, LEFT, MID 関数の利用 UPPER, LOWER 関数の利用 CONCAT 関数の利用	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後 ：演習課題の完成・提出(50 分)
13	【Excel】 グラフの管理	グラフの種類と用途 グラフを作成する ソースデータの行と列を切り替える グラフにデータ範囲（系列）を追加する グラフの要素を追加する、変更する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後 ：演習課題の完成・提出(50 分)
14	【Excel】 テスト課題演習	Excel 演習テスト	事前：Excel の復習（60 分）
15	データサイエンス・AI 演習	9 データを読む（1） データの代表値 データのばらつき 10 データを読む（2） 相関と因果 母集団と抽出 統計情報の正しい理解	事前 ：E-第 9 回(60 分）視聴・テスト E-第 10 回(60 分）視聴・テスト

関連科目：情報リテラシーⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 365 & 2019 対策テキスト＆問題集（FPT1913）	富士通 FOM	FOM 出版
2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 365 & 2019 対策テキスト＆問題集（FPT1912）	富士通 FOM	FOM 出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業中の実習課題（40%）、模擬試験や総合課題などの演習（40%）、プレゼンテーション（10%）、 e-learning(10%)を総合的に評価する。 この授業は演習中心のため、出席（課題提出）が単位取得の必要条件となる。
学生への メッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。多くの先輩が、受講の後に独学でMOS（Microsoft Office Specialist（マイクロソフト オフィス スペシャリスト）に合格していますので、就活時のアピールの為にも頑張ってください。さらにITパスポート資格の取得も視野に入れましょう。
担当者の 研究室等	7号館2階　非常勤講師室
備考	

科目名	情報リテラシーⅡ	科目名（英文）	Information Literacy II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	学籍番号下３桁 141～210 学籍番号下３桁 211～
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	寺内　睦博
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JMA1340a1		

授業概要・目的	大学生活および、卒業後の社会人生活において効率的に資料収集、作成およびデータの取り扱いを行い、基礎的な分析も実施できる能力の養成を目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、Microsoft Office を用いて大学での授業のレポート課題を作成できること、情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと、アプリケーションの機能の応用的な使い方と、それらの連携作業を実施できるようになること、さらに データサイエンスの次ステップにつながる知識を有するようになることが期待される。
授業方法と留意点	大学の ICT 環境を利用して、アプリケーションツールの使い方を実践的課題を通して演習形式で学ぶ。また、データサイエンスの基礎レベルを e-learning による自主学習とミニ講義、演習形式で学ぶ。e-learning は、空き時間を見つけて、なるべく毎日少しづつ均等に学修するように心がけてください。
科目学習の効果（資格）	Microsoft Office Specialist Word、Excel が取得できるレベル。 データサイエンスの基礎的な知識が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーションと復習	ICT 学習環境の確認 社会人としての情報モラル Word と Excel の連携	事前：情報リテラシーI の復習(50 分) 事後：演習課題の完成・提出(40 分)
2	データ活用とは 【Word 応用】 効率的な文書の作成と管理 文書の共有と検査	6 データ活用とは（イントロ） 文書内の他の場所にリンクする 文書内の特定の場所やオブジェクトに移動する ページの背景要素を設定する 別のファイル形式で文書を保存する 基本的な文書プロパティを変更する ページの背景色を印刷する 電子文書を共有する 文書を検査する	事前：授業テーマの予習(10 分) 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 6 回（60 分）視聴・テスト
3	データ・AI 利活用の現場 【Word 応用】 表やリストの変換と調整	7 データ・AI 利活用の現場（イントロ） 文字列に組み込みスタイルを適用する 書式をクリアする 文字列を表に変換する 表を文字列に変換する 表全体のサイズを設定する 表を分割する タイトル行の繰返しを設定する 新しい行頭文字や番号書式を定義する アウトラインレベルに応じた番号書式を設定する リストのレベルごとに行頭文字や番号書式を変更する リストの番号を振り直す、自動的に振る	事前：授業テーマの予習(10 分) 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 7 回（60 分）視聴・テスト
4	データ・AI 利活用の最新動向 【Word 応用】 参考資料の作成と管理	8 データ・AI 利活用の最新動向（イントロ） 脚注や文末脚注を挿入する 脚注や文末脚注のプロパティを変更する 資料文献を作成する、変更する 引用文献を挿入する 参考文献一覧を挿入する 目次を挿入する ユーザー設定の目次を作成する	事前：授業テーマの予習(10 分) 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 8 回（60 分）視聴・テスト
5	データ・AI を扱う上での留意事項(1) 【Word 応用】 グラフィック要素の変更と設定	13 データ・AI を扱う上での留意事項(1)（イントロ） アート効果を適用する 図の背景を削除する 図の効果やスタイルを適用する グラフィック要素を書式設定する SmartArt グラフィックを書式設定する 3D モデルを書式設定する SmartArt グラフィックの内容を追加する、変更する オブジェクトに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習(10 分) 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 13 回（60 分）視聴・テスト
6	【Word 応用】 文書の共同作業の管理	コメントを追加する コメントを閲覧する コメントに返答する、対処する コメントを削除する 変更履歴を記録する、削除する 変更履歴を閲覧する 変更履歴を承諾する、元に戻す 変更履歴を設定する	事前：授業テーマの予習（60 分） 事後：演習課題の完成・提出(30 分)
7	【Word 応用】 テスト応用課題演習	Word 応用演習テスト	事前：Word の復習（90 分）
8	データ・AI を扱う上での留意事項(2) 【Excel 応用】	14 データ・AI を扱う上での留意事項(2)（イントロ） 名前付き範囲を定義する	事前：授業テーマの予習(10 分) 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 14 回（60 分）視聴・テスト

	名前の定義 テーブルとデータの管理	テーブルに名前を付ける セル範囲から Excel のテーブルを作成する テーブルにスタイルを適用する テーブルをセル範囲に変換する テーブルに行や列を追加する、削除する テーブルスタイルのオプションを設定する 集計行を挿入する、設定する 複数の列でデータを並べ替える レコードをフィルタする	
9	【Excel 応用】 数式における名前の利用 グラフの書式設定	数式の中で名前付き範囲やテーブル名を参照する LEN、RIGHT 関数を利用する TEXTJOIN 関数を利用する グラフシートを作成する グラフのレイアウトを適用する グラフのスタイルを適用する アクセシビリティ向上のため、グラフに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：演習課題の完成・提出(60 分)
10	データを説明する	11 データを説明する 　データを比較するためのグラフ 　時間の推移を見せるためのグラフ 　データ相互の関係を示すためのグラフ 　データの偏りを示すためのグラフ 　データの比較 　適切なグラフ表現 　優れた可視化事例	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：E-第 11 回(60 分)視聴・テスト
11	データを扱う	12 データを扱う 　売り上げを予測する 　顧客層を分析する 　顧客満足度を把握する 　顧客の不満の要因を探る	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：E-第 12 回(60 分)視聴・テスト
12	データを守る上での留意事項とまとめ 【Excel 応用】 名前の利用と表示のカスタマイズ	15 データを守る上での留意事項とまとめ（イントロ） 名前付きのセル，セル範囲，ブックの要素へ移動する ハイパーリンクを挿入する，削除する ヘッダーやフッターをカスタマイズする ウィンドウの表示を変更する ブックの基本的なプロパティを変更する 数式を表示する クイックアクセスツールバーをカスタマイズする	事前：授業テーマの予習(10 分) 事後：演習課題の完成・提出(20 分) 　E-第 15 回 (60 分) 視聴・テスト
13	【Excel 応用】 共同作業のための設定 セルのスタイルや書式設定	別のファイル形式でブックを保存する ブック内の問題を検査する ブック内のアクセシビリティの問題を検査する テキストファイルからデータをインポートする .csv ファイルからデータをインポートする セル内文字方向の傾き設定 セルの書式設定ダイアログボックスから設定する セルのスタイルを適用する セルの書式設定をクリアする	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：演習課題の完成・提出(60 分)
14	【Word/Excel 応用】 アウトライン文書作成 Excel データの文書利用	スタイルの適用と設定 アウトラインの表示と利用 文書への Excel 表や Excel グラフの挿入と設定	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：演習課題の完成・提出(60 分)
15	【Excel 応用】 テスト応用課題演習	Excel 応用演習テスト	事前：出題範囲の復習 (90 分)

関連科目：情報リテラシーⅠ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかるマスター　Microsoft Office Specialist MOS Word 365 & 2019　対策テキスト＆問題集 (FPT1913) 【前期のテキストと同じ（再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
2	よくわかるマスター　Microsoft Office Specialist MOS Excel 365 & 2019　対策テキスト＆問題集 (FPT1912) 【前期のテキストと同じ（再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			
評価方法 （基準）	授業中の実習課題（40%）、模擬試験や総合課題などの演習（40%）、e-learning(20%)を総合的に評価する。 この授業は演習中心のため、出席（課題提出）が単位取得の必要条件となる。
学生への メッセージ	疑問は放置しないこと。質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。
担当者の 研究室等	寺内准教授室（１１号館１０階）
備考	

科目名	情報リテラシーⅡ	科目名（英文）	Information Literacy II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	学籍番号下３桁 001～070 学籍番号下３桁 071～140
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	新居　英志
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JMA1340a1		

授業概要・目的	大学生活および、卒業後の社会人生活において効率的に資料収集、作成およびデータの取り扱いを行い、基礎的な分析も実施できる能力の養成を目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、Microsoft Office を用いて大学での授業のレポート課題を作成できること、情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと、アプリケーションの機能の応用的な使い方と、それらの連携作業を実施できるようになること、さらに データサイエンスの次ステップにつながる知識を有するようになることが期待される。
授業方法と留意点	大学の ICT 環境を利用して、アプリケーションツールの使い方を実践的課題を通して演習形式で学ぶ。また、データサイエンスの基礎レベルを e-learning による自主学習とミニ講義、演習形式で学ぶ。e-learning は、空き時間を見つけて、なるべく毎日少しづつ均等に学修するように心がけてください。
科目学習の効果（資格）	Microsoft Office Specialist Word、Excel が取得できるレベル。 データサイエンスの基礎的な知識が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーションと復習	ICT 学習環境の確認 社会人としての情報モラル Word と Excel の連携	事前：情報リテラシーI の復習(50 分) 事後：演習課題の完成・提出(40 分)
2	データ活用とは 【Word 応用】 効率的な文書の作成と管理 文書の共有と検査	6 データ活用とは（イントロ） 文書内の他の場所にリンクする 文書内の特定の場所やオブジェクトに移動する ページの背景要素を設定する 別のファイル形式で文書を保存する 基本的な文書プロパティを変更する ページの背景色を印刷する 電子文書を共有する 文書を検査する	事前：授業テーマの予習(10 分) 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 6 回（60 分）視聴・テスト
3	データ・AI 利活用の現場 【Word 応用】 表やリストの変換と調整	7 データ・AI 利活用の現場（イントロ） 文字列に組み込みスタイルを適用する 書式をクリアする 文字列を表に変換する 表を文字列に変換する 表全体のサイズを設定する 表を分割する タイトル行の繰返しを設定する 新しい行頭文字や番号書式を定義する アウトラインレベルに応じた番号書式を設定する リストのレベルごとに行頭文字や番号書式を変更する リストの番号を振り直す、自動的に振る	事前：授業テーマの予習(10 分) 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 7 回（60 分）視聴・テスト
4	データ・AI 利活用の最新動向 【Word 応用】 参考資料の作成と管理	8 データ・AI 利活用の最新動向（イントロ） 脚注や文末脚注を挿入する 脚注や文末脚注のプロパティを変更する 資料文献を作成する、変更する 引用文献を挿入する 参考文献一覧を挿入する 目次を挿入する ユーザー設定の目次を作成する	事前：授業テーマの予習(10 分) 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 8 回（60 分）視聴・テスト
5	データ・AI を扱う上での留意事項(1) 【Word 応用】 グラフィック要素の変更と設定	13 データ・AI を扱う上での留意事項(1)（イントロ） アート効果を適用する 図の背景を削除する 図の効果やスタイルを適用する グラフィック要素を書式設定する SmartArt グラフィックを書式設定する 3D モデルを書式設定する SmartArt グラフィックの内容を追加する、変更する オブジェクトに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習(10 分) 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 13 回（60 分）視聴・テスト
6	【Word 応用】 文書の共同作業の管理	コメントを追加する コメントを閲覧する コメントに返答する、対処する コメントを削除する 変更履歴を記録する、削除する 変更履歴を閲覧する 変更履歴を承諾する、元に戻す 変更履歴を設定する	事前：授業テーマの予習（60 分） 事後：演習課題の完成・提出(30 分)
7	【Word 応用】 テスト応用課題演習	Word 応用演習テスト	事前：Word の復習（90 分）
8	データ・AI を扱う上での留意事項(2) 【Excel 応用】	14 データ・AI を扱う上での留意事項(2)（イントロ） 名前付き範囲を定義する	事前：授業テーマの予習(10 分) 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 14 回（60 分）視聴・テスト

	名前の定義 テーブルとデータの管理	テーブルに名前を付ける セル範囲から Excel のテーブルを作成する テーブルにスタイルを適用する テーブルをセル範囲に変換する テーブルに行や列を追加する、削除する テーブルスタイルのオプションを設定する 集計行を挿入する、設定する 複数の列でデータを並べ替える レコードをフィルタする	
9	【Excel 応用】 数式における名前の利用 グラフの書式設定	数式の中で名前付き範囲やテーブル名を参照する LEN、RIGHT 関数を利用する TEXTJOIN 関数を利用する グラフシートを作成する グラフのレイアウトを適用する グラフのスタイルを適用する アクセシビリティ向上のため、グラフに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：演習課題の完成・提出(60 分)
10	データを説明する	11 データを説明する 　データを比較するためのグラフ 　時間の推移を見せるためのグラフ 　データ相互の関係を示すためのグラフ 　データの偏りを示すためのグラフ 　データの比較 　適切なグラフ表現 　優れた可視化事例	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：E-第 11 回(60 分)視聴・テスト
11	データを扱う	12 データを扱う 　売り上げを予測する 　顧客層を分析する 　顧客満足度を把握する 　顧客の不満の要因を探る	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：E-第 12 回(60 分)視聴・テスト
12	データを守る上での留意事項とまとめ 【Excel 応用】 名前の利用と表示のカスタマイズ	15 データを守る上での留意事項とまとめ（イントロ） 名前付きのセル，セル範囲，ブックの要素へ移動する ハイパーリンクを挿入する，削除する ヘッダーやフッターをカスタマイズする ウィンドウの表示を変更する ブックの基本的なプロパティを変更する 数式を表示する クイックアクセスツールバーをカスタマイズする	事前：授業テーマの予習(10 分) 事後：演習課題の完成・提出(20 分) 　E-第 15 回 (60 分) 視聴・テスト
13	【Excel 応用】 共同作業のための設定 セルのスタイルや書式設定	別のファイル形式でブックを保存する ブック内の問題を検査する ブック内のアクセシビリティの問題を検査する テキストファイルからデータをインポートする .csv ファイルからデータをインポートする セル内文字方向の傾き設定 セルの書式設定ダイアログボックスから設定する セルのスタイルを適用する セルの書式設定をクリアする	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：演習課題の完成・提出(60 分)
14	【Word/Excel 応用】 アウトライン文書作成 Excel データの文書利用	スタイルの適用と設定 アウトラインの表示と利用 文書への Excel 表や Excel グラフの挿入と設定	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：演習課題の完成・提出(60 分)
15	【Excel 応用】 テスト応用課題演習	Excel 応用演習テスト	事前：出題範囲の復習 (90 分)

関連科目：情報リテラシーⅠ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかるマスター　Microsoft Office Specialist MOS Word 365 & 2019　対策テキスト＆問題集 (FPT1913) 【前期のテキストと同じ（再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
2	よくわかるマスター　Microsoft Office Specialist MOS Excel 365 & 2019　対策テキスト＆問題集 (FPT1912) 【前期のテキストと同じ（再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			
評価方法 （基準）	授業中の実習課題（40%）、模擬試験や総合課題などの演習（40%）、e-learning(20%)を総合的に評価する。 この授業は演習中心のため、出席（課題提出）が単位取得の必要条件となる。
学生への メッセージ	疑問は放置しないこと。質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。
担当者の 研究室等	新居講師室（７号館５階）
備考	本人確認のため、メールで連絡するときは大学のアドレスから送信してください。

科目名	ビジネス実務	科目名（英文）	Practical Business Studies
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡　亮太
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JCA3348a1		

授業概要・目的	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性とそれを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。 組織人およびフリーランスとしての自身の経験と、人材育成・組織開発コンサルティングを行ってきたビジネス現場での経験を交えて実践的な“ビジネスマナー”をお伝えします。
到達目標	この授業を通じて学生には、クリエイティブなビジネスパースンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」を実践できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	テキストはWeb上にアップロードするので、各自で事前に必ず準備すること。※プリントアウトが望ましい 授業は講義中心で進めるが、ペアワークやグループワークも実施する。毎回、学修課題の提出があるのできちんと取り組むことが求められる。
科目学習の効果（資格）	社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ーあいさつの重要性(理論と実践)	・授業のオリエンテーション ・授業のルール ・あいさつの真の意味とは ・正しい基本姿勢を学ぶ	・事前学修：ビジネスマナーとは何かを考えること(30分) ・事後学修：ビジネスマナーとは何か、400字でまとめること(60分)
2	仕事の進め方と組織活動	・定型業務と非定型業務 ・コスト意識とエコ活動 ・仕事の基本の８つの意識 ・話し方と聞き方	・事前学修:企業のエコ活動について調べること(30分) ・事後学修：仕事とは何か、まとめること(60分)
3	目標設定とPDCAサイクル	・目標設定（MBO） ・PDCAとは ・チームと個人の役割	・事前学修：PDCAについて調べること(30分) ・事後学修：あなたの日常生活における MBO とPDCAを考え、まとめること(60分)
4	スケジュールと出張業務	・スケジュールの作り方 ・業務としての出張-YTT方式-	・事前学修：あなたの１週間予定表を作成すること(30分) ・事後学修:あなたの予定表作成について振り返り、まとめること(60分)
5	ビジネスの場での敬語表現	・基本的な敬語表現の復習 ・ビジネスの場での使用方法-TPO をもとに-	・事前学修：敬語プリント①をすること(30分) ・事後学修:ケーススタディプリントをすること(60分)
6	電話応対	・ビジネスフォンの扱い方 ・5W2Hから6W3Hへ ・簡潔メモの作り方 ・不在処理と伝言	・事前学修：電話応対プリントをすること(30分) ・事後学修：ロールプレイングを繰り返すこと(60分)
7	来客応対	・組織図と対応 ・簡単な応対から不在処理や重複処理まで ・名刺交換 ※対面授業に切り替え	・事前学修:来客応対プリント①をすること(30分) ・事後学修:来客対応プリント②をすること(60分)
8	ホウ・レン・ソウ	・ビジネスにおける「報連相」 ・指示の受け方 ・業務の優先順位	・事前学修：報告・連絡・相談の重要性について調べること(30分) ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をすること(60分)
9	ビジネス文書の基本①	・社外文書が基本 ・商取引文書と社交文書の相違 ・社内文書と社外文書の種類 ・ファイリング	・事前学修:ビジネス文書始める前にをすること(30分) ・事後学修：ビジネス文書②をすること(60分)
10	ビジネス文書の基本②	・実践	・事前学修：ビジネス文書③をすること(30分) ・事後学修：ビジネス文書④をすること(60分)
11	ビジネス通信の基本	・通信手段（電子メール、ファックス等）の選択 ・作成上の注意点 ・郵便・宅配便の知識	・事前学修：郵便の知識プリント①をすること(30分) ・事後学修：メール文書を作成すること(60分)
12	法的業務	・押印と印鑑の意味 ・内容証明 ・個人情報保護（Pマーク） ・コンプライアンス	・事前学習：コンプライアンスについて調べること(30分) ・事後学修：個人情報保護法についてレポートを作成すること(60分)
13	設営の基本	・YTT方式からの業務遂行 ・確認の必要性 ・他部署とのコミュニケーションの必要性	・事前学修：同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめること(30分) ・事後学修：設営事例をまとめること(60分)
14	慶弔と贈答	・慶弔時の基本的マナー ・「式」について ・業務としての贈答	・事前学修：慶弔・贈答プリント①をすること(30分) ・事後学修：弔・贈答プリント②をすること(60分)
15	協働とコミュニケーション	・外国人同僚・異文化への対応 ・働き方とキャリア開発 ・公共の場でのマナー	・事前学修：グローバル社会へ対応するためには何が必要かについて考えること(30分) ・事後学修：共生関係について自らの考えをまとめること(60分)

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名

	<table><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
評価方法 （基準）	定期試験 40%、ワーク・授業内課題等 30%、複数回のレポート課題 30%を総合的に判断する。 ただし、出席不良者（欠席６回以上）は評価できないことがある。
学生への メッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなってきました。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われています。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質です。みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の重要性を理解し、社会人としての第一歩を築きましょう。
担当者の 研究室等	７号館５階　キャリア教育推進室（石井）
備考	予習・復習に毎回２時間以上取り組むことを前提とする。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とすること。質問等は、メールにて受け付ける。課題の解答例の配布や解説は、講義内で適宜行う。

科目名	法学概論Ⅰ	科目名（英文）	Jurisprudence Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	城内　明.笛木　淳.松島　裕一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○		
科目ナンバリング	JDJ1001a0		

授業概要・目的	本授業は、3名の専任教員(松島・笛木・城内(講義順))によるオムニバス方式で実施する。 本授業では、(1)法学を学ぶにあたり、初めに学んでおくべき基礎的な知識、(2)法学部生として最低限学んでおくべき基礎的な教養を身に付けると同時に、(3)これから4年間で学ぶ法分野の見取り図を示すことを目的とする。
到達目標	この講義を通じて、学生には、法学を学ぶにあたり、初めに学んでおくべき基礎的な知識、法学部生として最低限学んでおくべき基礎的な教養を身に付けると同時に、これから4年間で学ぶ法分野の概要を理解することが期待される。
授業方法と留意点	本講義は、5回毎に担当教員が交代する。成績は、各教員が小テストや課題の評価により判定するので、例えば、1人の教員の授業はがんばって受講し、課題で満点をとったとしても、他の教員の担当箇所で0点なら、単位不授与となるので注意されたい。
科目学習の効果（資格）	法学を学ぶにあたり、初めに学んでおくべき基礎的な知識、法学部生として最低限学んでおくべき基礎的な教養を修得することができる。これから4年間で学ぶ法分野の全体像を理解し、専門科目に取り組むことができる。法学検定や公務員試験などで必要な法の基礎知識に関して、その土台となる考え方を理解することができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	法の分類 （担当：松島 裕一）	これから皆さんが4年間をかけて学習していく「法」には、さまざまな種類の法があります。この初回の授業では法律学の基本的な用語を解説しながら、法の分類方法について学習します。	授業開始までに、事前に配布済みの資料に目を通しておくこと(30分)。授業終了後に、Formsで課題(小テスト)を提示するので、期日までに提出すること。
2	法の解釈 （担当：松島 裕一）	授業前半では「六法」の使い方や条文の読み方について説明します。法律学の学習では「法の解釈」が重要となりますので、授業後半では、解釈の基本的な仕組みについて学習します。	授業開始までに、事前に配布済みの資料に目を通しておくこと(30分)。授業終了後に、Formsで課題(小テスト)を提示するので、期日までに提出すること。
3	法と判例 （担当：松島 裕一）	法律学の学習では、判例というものが欠かせません。授業前半では裁判所の仕組みや判例の調べ方について説明し、授業後半では裁判官以外の法専門職（検察官・弁護士など）について解説します。	授業開始までに、事前に配布済みの資料に目を通しておくこと(30分)。授業終了後に、Formsで課題(小テスト)を提示するので、期日までに提出すること。
4	法と道徳 （担当：松島 裕一）	社会には、法以外にも守るべき規範（ルール）があります。例えば、道徳がそれです。法と道徳の違いを学習することを通じて、法学部で学習する「法」というものの特色について考えてみます。	授業開始までに、事前に配布済みの資料に目を通しておくこと(30分)。授業終了後に、Formsで課題(小テスト)を提示するので、期日までに提出すること。
5	法の歴史 （担当：松島 裕一）	憲法・民法・刑法などの現代の日本法は、明治以降、西洋法の影響を大きく受けています。日本法の来歴を学習することを通じて、法学部生として必須の歴史的知識を身に着けます。	授業開始までに、事前に配布済みの資料に目を通しておくこと(30分)。授業終了後に、Formsで課題(小テスト)を提示するので、期日までに提出すること。
6	憲法入門(1) －立憲主義－ （担当：笛木　淳）	憲法を学習する上で欠かせない立憲主義の内容を学習します。 キーワード：国民主権，権力分立，法の支配／法治国原理	授業開始までに、事前に配布済みの資料に目を通しておくこと(30分)。授業終了後に、Formsで課題(小テスト)を提示するので、期日までに提出すること。
7	憲法入門(2) －民主政原理－ （担当：笛木　淳）	憲法のもう一つの原理である民主政原理の内容を学習します。 キーワード：民主的正統化，自己決定，自由	授業開始までに、事前に配布済みの資料に目を通しておくこと(30分)。授業終了後に、Formsで課題(小テスト)を提示するので、期日までに提出すること。
8	憲法入門(3) －基本的人権－ （担当：笛木　淳）	憲法で基本的人権が保障されるとはどういうことか学習します。 キーワード：基本的人権，公共の福祉，国家	授業開始までに、事前に配布済みの資料に目を通しておくこと(30分)。授業終了後に、Formsで課題(小テスト)を提示するので、期日までに提出すること。
9	行政法入門(1) －規制行政と法－ （担当：笛木　淳）	規制行政という類型をもとに，行政法の基本を学習します キーワード：法律による行政の原理，行政裁量，行政救済	授業開始までに、事前に配布済みの資料に目を通しておくこと(30分)。授業終了後に、Formsで課題(小テスト)を提示するので、期日までに提出すること。
10	行政法入門(2) －給付行政と法－ （担当：笛木　淳）	給付行政という類型をもとに，行政法の基本を学習します キーワード:規制と給付，社会保障給付，金銭の賦課	授業開始までに、事前に配布済みの資料に目を通しておくこと(30分)。授業終了後に、Formsで課題(小テスト)を提示するので、期日までに提出すること。
11	民法入門(1) －民法総則・物権法への招待－ （担当：城内　明）	民法総則や物権法には、何が規定されているのか、私たちの生活にどのように関わっているのかを概観します。	授業開始までに、事前に配布済みの資料に目を通しておくこと(30分)。授業終了後に、Formsで課題(小テスト)を提示するので、期日までに提出すること。
12	民法入門(2) －債権法への招待－ （担当：城内　明）	債権法には、何が規定されているのか、私たちの生活にどのように関わっているのかを概観します。	授業開始までに、事前に配布済みの資料に目を通しておくこと(30分)。授業終了後に、Formsで課題(小テスト)を提示するので、期日までに提出すること。
13	民法入門(3) －家族法への招待－ （担当：城内　明）	物権法には、何が規定されているのか、私たちの生活にどのように関わっているのかを概観します。	授業開始までに、事前に配布済みの資料に目を通しておくこと(30分)。授業終了後に、Formsで課題(小テスト)を提示するので、期日までに提出すること。
14	消費者法入門(1) （担当：城内　明）	身を守るための武器としての消費者法講座。典型的な消費者被害を例に、今日から役立つサバイバル術を伝授します。	授業開始までに、自分の身近な消費者被害の具体例を考えておくこと(30分)。授業終了後に、Formsで課題（小テスト）を提示するので、期日までに提出すること。
15	消費者法入門(2) （担当：城内　明）	身を守るための武器としての消費者法講座。典型的な消費者被害を例に、今日	授業開始までに、自分の身近な消費者被害の具体例を考えておくこと(30分)。授業終了後に、Formsで

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><td></td><td></td><td>から役立つサバイバル術を伝授します。</td><td>課題（小テスト）を提示するので、期日までに提出すること。</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td>法に関するすべての科目。</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>各学生につき、3 人の講義担当者がそれぞれ、担当した複数回の講義における受講態度及びレポート、小テストを 30 点ないし 35 点満点で総合評価し、これらを最終的に合わせた点数を最終成績とする。各担当者の成績評価の具体的基準は講義中で説明する。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>新入生は法について未だ具体的なイメージを持っていないと思います。
この講義を受講することにより、これから学ぶ「法」が、どのような特徴を持ち、どのような役割を果たしているのかを知ると共に、その「学び方」を理解して下さい。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>11 号館 9 階　松島准教授室
11 号館 10 階　城内准教授室　笛木講師室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>【重要】法学概論 1 は必修科目です。入学年度によっては、2 年次までに本科目の単位を修得しない限り、3 年次への進級ができなくなるので、学生においては十分注意して下さい。
なお、講義中の疑問点については、講義の最後に質問を受け付ける時間を設けることで対応します。</td></tr>
</table>

科目名	法学概論Ⅰ	科目名（英文）	Jurisprudence Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	K
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小野　晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○		
科目ナンバリング	JDJ1001a0		

授業概要・目的	・法は、多様な人々が共同生活を営むための相互尊重のルールであり、我々の生活を豊かにするための制度である。 ・このような法の特色と目的を踏まえつつ、現代社会の中で生じている紛争に対して、法がどのような役割を果たし、かつ、いかに争いごとを解決しているかについて、個別の法領域ごとに具体的な事件を参照しながら理解することを主な目標とする。
到達目標	この講義を通じて学生には、 ・「法」と「道徳＝倫理」の違いや法令の種類について説明できる ・婚約、婚姻、内縁、離婚、相続をめぐる論点について説明できる ・民法の財産法や刑事法の諸原理について説明ができる ようになることが期待される。
授業方法と留意点	・講義形式で行う（社会情勢上、その変更が必要な場合は遅滞なく連絡する）。 ・本講義は、ICT ツールとして Microsoft 社の teams を用いる。 ・課題提示や資料配布などは Microsoft 社 teams を通じて行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。
科目学習の効果（資格）	・公務員試験や各種資格試験に必要とされる法学の基礎的知識を身につけることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 法とは何か	・講義内容と文献の紹介 ・法と道徳の違い ・法の強制力 ・法の分類	・教科書の入手 配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約２時間）
2	憲法と法律（法令の種類）	・法治国家と法の支配 ・国際社会と法	事前：授業テーマの予習（２時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約２時間）
3	民事法①（不法行為法①）	学校における「いじめ」問題と法の役割	事前：授業テーマの予習（２時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約２時間）
4	労働法①	・ブラック企業問題と労働者保護	事前：授業テーマの予習（２時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約２時間）
5	刑事法①	・裁判員裁判の仕組みとその問題点 ・悪質動画貼り付けと器物損壊および偽計業務妨害罪 ・闇バイトを通じた犯罪関与	事前：授業テーマの予習（２時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約２時間）
6	刑事法②	・犯罪の成立要件 ・・ストーカー行為規制法の最前線	事前：授業テーマの予習（２時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約２時間）
7	労働法②	・採用内定と法的規制 ・正規雇用と非正規雇用	事前：授業テーマの予習（２時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約２時間）
8	民事法②（家族法①）	・家族の範囲	事前：授業テーマの予習（２時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約２時間）
9	民事法③（家族法②）	・家族法の基本原理 ・婚約の法的効果ほか ・婚姻（結婚）の法的要件・効果 ・夫婦の財産関係	事前：授業テーマの予習（２時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約２時間）
10	民事法④（家族法③）	・離婚の法的効果	事前：授業テーマの予習（２時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約２時間）
11	民事法⑤（家族法④）	・離婚の手続き・親子関係と親権	事前：授業テーマの予習（２時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約２時間）
12	民事法⑥（不法行為法②）	・各種ハラスメントと法 ・不法行為と損害賠償	事前：授業テーマの予習（２時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約２時間）
13	民事法⑦（財産法①）	・賃貸住宅をめぐるトラブル―敷金と敷引特約	事前：授業テーマの予習（２時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約２時間）
14	民事法⑧（財産法②）	・被災と住宅ローン減免の可否	事前：授業テーマの予習（２時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約２時間）
15	刑事法③＋行政法＋民事法⑨	・ドメスティック・バイオレンス（DV）とデート DV	事前：授業テーマの予習（２時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約２時間）

関連科目	日本国憲法、行政法、刑法、民法、国際法ほか

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 （基準）	・形成的評価を行うため、各回講義後に、Microsoft 社 teams を通じて Microsoft　forms から課題を配信する。各回の課題の得点を合算して評価対象とする（講義の理解度 5%＋課題の得点 95%）。定期試験は実施しない。			
学生への メッセージ	・法律系の番組が好きな方、あるいは、公務員試験受験や法学系資格取得を念頭に置いている方は、ぜひ受講してみてください。			
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　　小野教授室			
備考	課題に対するコメントは次回講義または teams を通じて行う。			

科目名	法学概論 I	科目名（英文）	Jurisprudence I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小野　晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○		
科目ナンバリング	JDJ1001a0		

授業概要・目的	・法は、多様な人々が共同生活を営むための相互尊重のルールであり、我々の生活を豊かにするための制度である。 ・このような法の特色と目的を踏まえつつ、現代社会の中で生じている紛争に対して、法がどのような役割を果たし、かつ、いかに争いごとを解決しているかについて、個別の法領域ごとに具体的な事件を参照しながら理解することを主な目標とする。
到達目標	この講義を通じて学生には、 ・「法」と「道徳＝倫理」の違いや法令の種類について説明できる ・婚約、婚姻、内縁、離婚、相続をめぐる論点について説明できる ・民法の財産法や刑事法の諸原理について説明ができる ようになることが期待される。
授業方法と留意点	・講義形式で行う（社会情勢上、その変更が必要な場合は遅滞なく連絡する）。 ・本講義は、ICT ツールとして Microsoft 社の teams を用いる。 ・課題提示や資料配布などは Microsoft 社 teams を通じて行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。
科目学習の効果（資格）	・公務員試験や各種資格試験に必要とされる法学の基礎的知識を身につけることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 法とは何か	・講義内容と文献の紹介 ・法と道徳の違い ・法の強制力 ・法の分類	・教科書の入手 配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
2	憲法と法律（法令の種類）	・法治国家と法の支配 ・国際社会と法	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
3	民事法①（不法行為法①）	学校における「いじめ」問題と法の役割	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
4	労働法①	・ブラック企業問題と労働者保護	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
5	刑事法①	・裁判員裁判の仕組みとその問題点 ・悪質動画貼り付けと器物損壊および偽計業務妨害罪 ・闇バイトを通じた犯罪関与	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
6	刑事法②	・犯罪の成立要件 ・・ストーカー行為規制法の最前線	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
7	労働法②	・採用内定と法的規制 ・正規雇用と非正規雇用	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
8	民事法②（家族法①）	・家族の範囲	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
9	民事法③（家族法②）	・家族法の基本原理 ・婚約の法的効果ほか ・婚姻（結婚）の法的要件・効果 ・夫婦の財産関係	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
10	民事法④（家族法③）	・離婚の法的効果	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
11	民事法⑤（家族法④）	・離婚の手続き・親子関係と親権	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
12	民事法⑥（不法行為法②）	・各種ハラスメントと法 ・不法行為と損害賠償	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
13	民事法⑦（財産法①）	・賃貸住宅をめぐるトラブル―敷金と敷引特約	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
14	民事法⑧（財産法②）	・被災と住宅ローン減免の可否	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
15	刑事法③＋行政法＋民事法⑨	・ドメスティック・バイオレンス（DV）とデート DV	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）

関連科目	日本国憲法、行政法、刑法、民法、国際法ほか

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新入生のためのリーガル・トピック 50	阿部昌樹・　和田仁孝	法律文化社
2			
3			

参考書

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 法学入門（第6版補訂版）（有斐閣双書） / 末川　博/編著 / 有斐閣 2 / 現代法学入門（第4版）（有斐閣双書） / 伊藤　正己＝加藤一郎/編著 / 有斐閣 3 / 判例法学（第5版） / 西村　健一郎＝西井　正弘＝初宿　正典/編著 / 有斐閣
評価方法 （基準）	・形成的評価を行うため、各回講義後に、Microsoft 社 teams を通じて Microsoft　forms から課題を配信する。各回の課題の得点を合算して評価対象とする（講義の理解度 5%＋課題の得点 95%）。定期試験は実施しない。
学生への メッセージ	・法律系の番組が好きな方、あるいは、公務員試験受験や法学系資格取得を念頭に置いている方は、ぜひ受講してみてください。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　　小野教授室
備考	課題に対するコメントは次回講義または teams を通じて行う。

科目名	法学概論Ⅱ	科目名（英文）	Jurisprudence II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小野　晃正.島田　良一.高間　佐知子.萩原　佐織
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○		
科目ナンバリング	JDJ1002a0		

授業概要・目的	・法は、多様な人々が共同生活を営むための相互尊重のルールであり、我々の生活を豊かにするための制度である。 ・このような法の特色と目的を踏まえつつ、現代社会の中で生じている様々な紛争に対して、法がどのような役割を果たし、かつ、いかに争いごとを解決しているかについて、個別の法領域ごとに具体的な事件を参照しながら理解することを主な目標とする。 ・前期開講の「法学概論Ⅰ」を受け、本講義では、2回生前期以降に順次開講される刑法（担当：小野）、刑事手続法・刑事政策・少年法（担当：島田）、商事法（担当：高間）、民事手続法（担当：萩原）の入門事項ないし概要を取り扱う。
到達目標	この講義を通じて学生には、 刑法、刑事手続法・刑事政策・少年法、商事法、および、民事手続法の基本構造および基本原理について説明できる ようになることが期待される。
授業方法と留意点	・講義形式で行う（社会情勢上、その変更が必要な場合は遅滞なく連絡する）。 ・本講義は、ICT ツールとして Microsoft 社の teams を用いる。 ・課題提示や資料配布などは Microsoft 社 teams を通じて行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。
科目学習の効果（資格）	・２回生以降の専門科目の理解促進、および、法学検定（ベーシック）、公務員試験および各種資格試験に必要とされる法学の基礎知識を身につけることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	刑法①(刑法の意義と罪刑法定主義)	刑法とは何か 罪刑法定主義とその派生原則	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
2	刑法②（刑罰の正当化根拠）	国家による刑罰権(生命はく奪や自由はく奪など)行使はなぜ正当化できるのか	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
3	刑法③(刑法の場所的時間的適用範囲)	日本刑法を適用する場合の場所や時間に関する規制	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
4	刑法④（刑法総論の概要）	全ての犯罪に共通する「犯罪成立要件」	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
5	刑法⑤（刑法各論の概要）	個別の犯罪ごとの「犯罪成立要件」	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
6	刑事訴訟法概説	刑事訴訟法の目的や役割について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
7	捜査について	刑事手続のうち、犯罪捜査に関する基本的事項について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
8	公訴提起・公判について	刑事手続のうち、公訴提起・公判に関する基本的事項について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
9	裁判員制度について	裁判員制度の概要について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
10	刑事政策・少年法概説	刑事政策の概要および少年法の目的や役割について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
11	商法について	代理商の概要、代理商に関するルール	代理商について調べておく（60 分）。事後学習として小テストを実施しる。
12	会社法について	会社法の概要、機関の設置義務	会社法の機関について調べておく（60 分）。事後学習として小テストを実施する。
13	金融商品取引法について	金融商品取引法の概要、インサイダー取引などの不正行為	株式投資に関する不正行為について調べておく（60 分）。事後学習として小テストを実施する。
14	民事手続法Ⅰ（民事訴訟法）	【内容】 ・民事手続法とは？ ・実体法（民法）と手続法（民事手続法）との違いとは？ 【方法】 ・予め Teams でレジュメをプリントアウトして講義に持参し、括弧部分を埋める ・予習としてなされた Forms クイズの回答・正誤を示しつつ講義を進行	【事前学習】 ① Teams でレジュメをプリントアウトして読む ② Forms クイズに回答・送信 【事後学習】 ① レジュメの事案・括弧部分を中心に復習 ② Forms による小テスト又は課題（約１時間）
15	民事手続法Ⅱ（倒産法・執行法）	【内容】 ・倒産法とは？：身を守る術としての倒産法 ・執行法とは？：生活の中での執行法 【方法】 ・予め Teams でレジュメをプリントアウトして講義に持参し、括弧部分を埋める ・予習としてなされた Forms クイズの回答・正誤等を示しつつ講義を進行	【事前学習】 ① Teams でレジュメをプリントアウトして読む ② Forms クイズに回答・送信 【事後学習】 ① レジュメの事案・括弧部分を中心に復習 ② Forms による小テスト又は課題（約１時間）

関連科目	刑法総論ⅠA、刑法総論ⅡB、刑法各論ⅠA、刑法各論ⅡB、経済刑法、刑事訴訟法Ⅰ、刑事訴訟法Ⅱ、刑事政策Ⅰ、刑事政策Ⅱ、少年法、商法Ⅰ、商法ⅡA、商法ⅡB、有価証券法、金融商品取引法、民事訴訟法Ⅰ、民事訴訟法Ⅱ、民事執行・保全法、倒産法など。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	入門刑事法（第８版）	三井誠ほか	有斐閣
2			

	3
評価方法 （基準）	講義の理解度を判断するため、各回で出題される課題の得点を合算して成績の評価をする（形成的評価）。分野ごとの配点割合は、講義回数を按分して刑法（30%）、刑事手続法・刑事政策（30%）、商事法（20%）、民事手続法（20%）とする。定期試験は実施しない。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	小野研究室（１１号館１０階）、島田研究室（１１号館９階）、萩原研究室（１１号館９階）、高間研究室（１１号館１０階）
備考	課題に対する講評は次回講義または teams 等を通じて行う。

科目名	法学概論Ⅱ	科目名（英文）	Jurisprudence II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	K
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	萩原　守
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○		
科目ナンバリング	JDJ1002a0		

授業概要・目的	この授業は、法学に関する基礎的な知識を身につけ、法学分野でのさらなる学習につなげていくための講義科目である。今年度は、担当教員の専門分野に基づいて、モンゴル民族の法制史とその研究状況とを学ぶ。授業の目的は、モンゴル法制史に関連して、中国やロシアの法制史、また日本や欧米での最新の研究史・研究状況などをしっかりと理解することである。
到達目標	この講義を通じて学生には、モンゴル・中国・ロシア等の法制史、また日本や欧米での最新の研究史・研究状況などをしっかりと理解し、それらを明瞭に説明できるようになることが期待される。これが到達目標である。
授業方法と留意点	履修に際して、高校時代に世界史を学んだ経験があればやや有利となるが、世界史を選択しなかった学生にもよくわかるような平易な授業を心がけたい。
科目学習の効果（資格）	モンゴル法制史を学ぶことによって、ロシアや中国の法制史を立体的・同時並行的に学び取ることができる。また、欧米各国や日本での研究状況が有する帝国主義時代からの歴史的背景をも学ぶことができる。特に社会科の教職を目指している学生には大きな効果が期待できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	基礎法学の中の法制史と社会史	基礎法学、法制史、社会史等の持つ相互関係を学ぶ	書き取ったノートを見てよく復習する（２時間）。理解できなかった部分は、次回の授業で質問する。
2	モンゴル法制史の時代区分と通史的研究①	モンゴル法制史の通史的な研究を行ったリャザノフスキー氏と島田正郎氏の研究を学ぶ	書き取ったノートを見てよく復習する（２時間）。理解できなかった部分は、次回の授業で質問する。
3	モンゴル法制史の時代区分と通史的研究②	モンゴル法制史の通史的な研究を行ったリャザノフスキー氏と島田正郎氏の研究を学ぶ	書き取ったノートを見てよく復習する（２時間）。理解できなかった部分は、次回の授業で質問する。
4	モンゴル帝国期の法と裁判	モンゴル人向けの『大ヤサ』と漢人向けの『大元聖政国朝典章』とを学ぶ	書き取ったノートを見てよく復習する（２時間）。理解できなかった部分は、次回の授業で質問する。
5	北元時代の法典①	マイゼツァール氏によって発見・研究された『アルタンハーンの法典』とその研究について学ぶ	書き取ったノートを見てよく復習する（２時間）。理解できなかった部分は、次回の授業で質問する。
6	北元時代の法典②	『モンゴル・オイラト法典』とその研究について学ぶ	書き取ったノートを見てよく復習する（２時間）。理解できなかった部分は、次回の授業で質問する。
7	北元時代の法典③	『白樺法典』と『ハルハジロム』とについて学ぶ	書き取ったノートを見てよく復習する（２時間）。理解できなかった部分は、次回の授業で質問する。
8	清朝治下の諸法典とモンゴル・チベット・ウイグルの独立運動	『大清律例』、『蒙古律例』、『理藩院則例』、『回疆則例』、「西蔵通制」等の民族集団別の法を学ぶ	書き取ったノートを見てよく復習する（２時間）。理解できなかった部分は、次回の授業で質問する。
9	モンゴル民族の一度目の独立	清朝末期の民族紛争から 1911 年のモンゴル独立までの過程を学ぶ	書き取ったノートを見てよく復習する（２時間）。理解できなかった部分は、次回の授業で質問する。
10	モンゴル民族の二度目の独立	ロシア革命とシベリアでの内戦、ソ連共産党の政治史、中華民国治下での軍閥抗争時代等の政治史を学ぶ	書き取ったノートを見てよく復習する（２時間）。理解できなかった部分は、次回の授業で質問する。
11	独立後のモンゴルとコミンテルン・ソ連による干渉	独立後のモンゴルの政治史と法を学ぶ	書き取ったノートを見てよく復習する（２時間）。理解できなかった部分は、次回の授業で質問する。
12	清代モンゴルの法と身分	清代モンゴルに存在した多種類の法典と複雑な身分制度を学ぶ	書き取ったノートを見てよく復習する（２時間）。理解できなかった部分は、次回の授業で質問する。
13	ザガスター氏紹介の刑事事件とその判決文①	ボン大学教授であったザガスター氏が発見・紹介した 3 件の刑事事件を学ぶ	書き取ったノートを見てよく復習する（２時間）。理解できなかった部分は、次回の授業で質問する。
14	ザガスター氏紹介の刑事事件とその判決文②	ボン大学教授であったザガスター氏が発見・紹介した 3 件の刑事事件を学ぶ	書き取ったノートを見てよく復習する（２時間）。理解できなかった部分は、次回の授業で質問する。
15	ラマ・ロプサンの事件とその判決文	ウランバートルから出版されたラマ・ロプサンの事件の判決文を学ぶ	書き取ったノートを見てよく復習する（２時間）。理解できなかった部分は、すぐに質問する。

関連科目	東洋法制史、日本法制史、法と社会、比較法史

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	内モンゴルを知るための 60 章	ボルジギン・ブレンサイン	明石書店
2	中国とモンゴルのはざまで	楊海英	岩波書店
3	チベットに舞う日本刀	楊海英	文藝春秋社

評価方法（基準）	成績の評価は、主として期末試験の結果から評価する。
学生へのメッセージ	なるべくわかりやすく話したいので、気軽に参加してほしい。わからない点は、何でも遠慮なくどんどん質問することが肝要。わからないままにしておくと、そこが試験に出る。
担当者の研究室等	11 号館の 10 階にある萩原研究室
備考	

科目名	法学概論Ⅱ	科目名（英文）	Jurisprudence II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小野　晃正.本多　康作
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○		
科目ナンバリング	JDJ1002a0		

授業概要・目的	・法は、多様な人々が共同生活を営むための相互尊重のルールであり、我々の生活を豊かにするための制度である。 ・このような法の特色と目的を踏まえつつ、現代社会の中で生じている様々な紛争に対して、法がどのような役割を果たし、かつ、いかに争いごとを解決しているかについて、個別の法領域ごとに具体的な事件を参照しながら理解することを主な目標とする。 ・前期開講の「法学概論Ⅰ」を受け、本講義では、2 回生前期以降に順次開講される刑法・刑事手続法・刑事政策・少年法（担当：小野）、基礎法学・商事法・民事手続法（担当：本多）の入門事項ないし概要を取り扱う。
到達目標	この講義を通じて学生には、 刑法、刑事手続法・刑事政策・少年法、基礎法学、商事法、および、民事手続法の基本構造および基本原理について説明できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	・講義形式で行う（社会情勢上、その変更が必要な場合は遅滞なく連絡する）。 ・本講義は、ICT ツールとして Microsoft 社の teams を用いる。 ・課題提示や資料配布などは Microsoft 社 teams を通じて行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。
科目学習の効果（資格）	・２回生以降の専門科目の理解促進、および、法学検定（ベーシック）、公務員試験および各種資格試験に必要とされる法学の基礎知識を身につけることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	刑法①（刑法の意義と罪刑法定主義）	刑法とは何か 罪刑法定主義とその派生原則	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
2	刑法②（刑罰の正当化根拠）	国家による刑罰権（生命はく奪や自由はく奪など）行使はなぜ正当化できるのか	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
3	刑法③（刑法の場所的時間的適用範囲）	日本刑法を適用する場合の場所や時間に関する規制	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
4	刑法④（刑法総論の概要）	全ての犯罪に共通する「犯罪成立要件」	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
5	刑法⑤（刑法各論の概要）	個別の犯罪ごとの「犯罪成立要件」	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
6	刑事訴訟法①	刑事訴訟法の目的や役割について	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
7	刑事訴訟法②	刑事手続のうち、犯罪捜査に関する基本的事項について	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
8	刑事訴訟法③	刑事手続のうち、公訴提起・公判に関する基本的事項について	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
9	刑事学①	犯罪原因論について 裁判員裁判について	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
10	刑事学②	刑事政策の概要および少年法の目的や役割について	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
11	基礎法学・民事法・商事法①	基礎法学・民事法・商事法の概要	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
12	基礎法学・民事法・商事法②	基礎法学・民事法・商事法の概要	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
13	基礎法学・民事法・商事法③	基礎法学・民事法・商事法の概要	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
14	基礎法学・民事法・商事法④	基礎法学・民事法・商事法の概要	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）
15	基礎法学・民事法・商事法⑤	基礎法学・民事法・商事法の概要	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間）

関連科目	刑法総論ⅠA、刑法総論ⅡB、刑法各論ⅠA、刑法各論ⅡB、経済刑法、刑事訴訟法Ⅰ、刑事訴訟法Ⅱ、刑事政策Ⅰ、刑事政策Ⅱ、少年法、法哲学Ⅰ、法哲学Ⅱ、西洋法制史、法社会学、商法Ⅰ、商法ⅡA、商法ⅡB、有価証券法、金融商品取引法、民事訴訟法Ⅰ、民事訴訟法Ⅱ、民事執行・保全法、倒産法など。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	入門刑事法（第８版）	三井誠ほか	有斐閣
	2			
	3			
評価方法 （基準）	講義の理解度を判断するため、各回で出題される課題の得点を合算して成績の評価をする（形成的評価）。配点割合は、講義の理解度（５％）、課題の累積点（９５％）とする。定期試験は実施しない。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	小野研究室（１１号館１０階）、本多研究室（１１号館９階）			
備考	課題に対する講評は次回講義または teams 等を通じて行う。 本シラバスは２０２２年度に入学した再履修生専用のものであることに注意すること。			

科目名	西洋法思想史	科目名（英文）	History of Western Legal Thought
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	松島　裕一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○		
科目ナンバリング	JDJ2005a0		

授業概要・目的	法思想史とは、過去の思想家たちが法や正義をどのように理解してきたかを考察する学問分野です。この講義では、西洋世界に地域を限定したうえで、古典古代から 19 世紀までに登場したさまざまな法思想を駆け足で見ていきます（20 世紀以降の新しい法思想は法哲学各論で扱います）。 個々の思想家にかんする知識をたんに丸暗記するのではなく、各法思想に含まれる普遍性と特殊性──いつの時代においても通用する普遍的なアイデアとその時代にしか通用しない特殊なアイデア──を的確に見極めつつ、現代の法思想の礎を確認することが、この講義の目的です。
到達目標	この講義を通じて学生には、法思想史（西洋）の基本事項を理解することに加え、過去の思想家たちの知識を手掛かりにして自分の意見を論理的に組み立てられるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	対面授業で行います。授業で使用するレジュメや課題は Microsoft Teams を通じて配布しますので、この授業を受講する学生は必ずチームに加入すること。
科目学習の効果（資格）	法学検定試験や公務員試験などの教養問題に一部対応しています。また、法科大学院入学試験の小論文（未修者コース）のヒントになる前提知識が獲得できると思います。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	法思想史とは？	授業の進め方や成績評価の方法などを説明したあと、これから学習していく「法思想史」がどのような科目なのか、なぜ法学部で西洋法思想の歴史を学ぶ必要があるのかを簡単に解説します。	毎回、教科書の該当箇所を読んできてください。また、講義終了後に配布したプリントおよびレジュメを見直してください。各回の講義のキーワードを掲げておきますので、事前・事後学習の参考にしてください(各回とも事前学習と事後学習に各 120 分)。
2	古代ギリシアの法思想①	「哲学」という独特の思考様式がなぜ古代ギリシアで誕生したのか、そして、それが後代の西洋世界にどのような影響を及ぼしたのかを学習します。哲学以前のホメロス・ヘシオドスの叙事詩も簡単に紹介します。	【キーワード】 『イリアス』と『オデュッセイア』、『神統記』と『労働と日』、神話学的思考と哲学的思考テミス、ノモス、ディケー、ソロン、ソフィスト
3	古代ギリシアの法思想②	プラトンの前期著作を通じてソクラテスが追究した正しい生き方を概観するとともに、中後期著作でプラトン自身が構想した独創的な正義論・国家論の概要をを学習します。	【キーワード】 ソクラテス裁判、クセノポン、クリトン、アカデメイア、対話篇の時代区分、善のイデア、哲人王、『国家』と『法律』
4	古代ギリシアの法思想③	万学の祖アリストテレスの著作集はいずれも重要ですが、この回の講義では論理学関連の著作からは論理的思考の芽生え、『ニコマコス倫理学』からは正義論、『政治学』からは国制論をそれぞれ学習します。	【キーワード】 リュケイオン、オルガノン、シュロギスモス、一般的正義と特殊的正義、分配的正義と匡正的正義、衡平、「国制」
5	古代ローマの法思想	現代の法律学の基礎をなすローマ法がどのような経緯で誕生し、またそれにはどのような事柄が規定されているのかを学習します。また、当時のローマで栄えたストア派の法思想についても簡単に説明します。	【キーワード】 12 表法、市民法と万民法、解答権、自然法と万民法、ウルピアヌスとパウルス、キケロ、ユスティニアヌス法典
6	古代から中世へ	西洋の法思想に今なお強い影響力を及ぼし続けているキリスト教の成立とその教義をごく簡単に説明したうえで、最大の教父哲学者アウグスティヌスの法思想を『神の国』を中心に解説します。	【キーワード】 ナザレのイエス、ペテロとパウロ、旧約聖書と新約聖書、コイネー、三位一体説、『告白』、永久法・自然法・世俗法
7	中世の法思想	ローマ帝国の衰退からいわゆる 12 世紀ルネサンスにおけるローマ法の復活にいたるまでの歴史的経緯を説明し、あわせて中世最大の哲学者トマス・アクィナスの法思想を解説します。	【キーワード】 12 世紀ルネサンス、ボローニャ大学、註釈学派(glossatores)、註解学派(commetatores)、学説彙纂、標準注釈、ドミニコ会、神学大全
8	中世から近代へ	中学高校の世界史でも必ず取り上げられる「ルネサンス」と「宗教改革」ですが、これらの出来事がそれ以降の法思想にどのような影響を与えたのかを、中世の法思想との対比を通じて学習します。	【キーワード】 ルネサンス（再生）、ルター、カルヴァン、マキアヴェッリ、ボダン、グロティウス、サラマンカ学派（ビトリアとスアレス）
9	近代イギリスの法思想①	第 9 回から第 11 回までは社会契約説を学習します。まずこの回の講義ではホッブズ『リヴァイアサン』を取り上げ、彼の法思想を当時のイングランドの社会背景とあわせて学習します。	【キーワード】 ピューリタン革命と名誉革命、自己保存権、自然状態の悲惨さ、ホッブズの自然法（特に第１～第３の自然法の内容）
10	近代イギリスの法思想②	社会契約論を代表する第二の思想家としてジョン・ロックを取り上げ、『統治論』で示されている法思想を学習します。ロックからやや時代が下りますが、ヒュームやベンサムの法思想も簡単に紹介します。	【キーワード】 ロックの自然法、固有権（プロパティ）、抵抗権、スコットランド啓蒙、ヒュームの社会契約批判、ベンサム「功利主義」、J・S・ミル「他者危害原理」
11	近代フランスの法思想	社会契約論の最後の論者としてルソーを取り上げ、『社会契約論』で展開されている「一般意志」という考え方を学習します。あわせてモンテスキュー『法の精神』における権力分立の思想も解説します。	【キーワード】 『不平等起源論』、一般意志（特にその問題点）、法律の一般性、人民主権、フランス革命へのルソーの影響力、モンテスキューの権力分立論

	12	近代ドイツの法思想①	ドイツ観念論の系譜を簡単に説明したうえで、カント『人倫の形而上学』とヘーゲル『法の哲学』を中心的に取り上げ、彼らの法思想のエッセンスを解説します。	【キーワード】 ドイツ啓蒙期自然法論（プーフェンドルフ・トマジウス・ヴォルフ）、カントの三批判、定言命法、合法性と道徳性、根源契約、ヘーゲルの社会契約批判
	13	近代ドイツの法思想②	19 世紀のドイツで展開された法思想を学習します。具体的にはサヴィニーに代表される歴史法学に始まり、ヴィントシャイトの概念法学を経て、イェーリングらに至る道のりを学習します。	【キーワード】 法典論争、サヴィニーにおける歴史的方法と体系的方法、概念法学、イェーリングの概念法学批判、自由法運動、利益法学
	14	近代ドイツの法思想③	20 世紀ドイツを代表する法哲学者であるラートブルフ、ケルゼン、シュミットの三人を取り上げ、ワイマール期からナチズム期の「危機の時代」に彼らがどのような法理論を展開したのかを学習します。	【キーワード】 価値相対主義、再生自然法論、純粋法学、『民主主義の本質と価値』、決断主義、友と敵、政治神学、具体的秩序思想
	15	授業全体のまとめ	これまでの講義で論じてきた事柄を簡単に復習し、各法思想の普遍性と特殊性について考えてみます（可能であれば、これまでの講義で論じることができなかったトピックを補足説明する予定です）。	個々の概念や人物の正確な理解に努めるとともに、西洋史の大きな流れのなかで各法思想の特徴を述べられるようになること（講義で理解が難しかった箇所を事前にピックアップしておくこと）。

関連科目	直接的には法哲学総論、法哲学各論、日本法思想史、西洋の裁判の歴史などと関連しますが、それ以外にも広く実定法学（憲法・民法・刑法など）の学習の一助になると思います。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	法思想史（有斐閣アルマ）	中山・浅野・松島・近藤	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	増補新版　法とは何か　法思想史入門	長谷部恭男	河出書房新社
2	法思想史入門	西村清貴	成文堂
3	法思想史を読み解く	戒能通弘ほか	法律文化社

評価方法 （基準）	期末試験は実施せず、毎回の課題（小テスト）100%で評価します。毎回真面目に授業に取り組めば単位取得はそれほど困難ではないかと思いますが、毎回課題を出しますので、履修予定の学生はそのつもりで授業に臨んでください。
学生への メッセージ	この西洋法思想史の講義では、西洋における法思想の「古典」と呼ばれる著作を毎時間取り上げます。授業では各法思想の要点しか説明できませんので、興味のある古典作品が出てきたらぜひ積極的に読書をしてほしいと思います。時代を超えて読み継がれてきた古典作品と向き合うことは、学生の皆さんにとってきっと有意義な読書体験になるはずです。 ＊2023 年度以降、科目名を「法思想史」から「西洋法思想史」に改めました。併せて、「日本法思想史」の授業も新設しましたので、日本の法思想に興味を持った学生はそちらも受講してみてください。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　松島准教授室
備考	教科書は必須なので、必ず毎回持参するようにしてください。また、授業の進捗状況によっては、多少シラバスの内容に変更が生じるかもしれないので、その点はあらかじめご了承ください。課題については Teams などを通じて返却予定。

科目名	日本法思想史	科目名（英文）	History of Japanese Legal Thought
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松島　裕一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○		
科目ナンバリング	JDJ2006a0		

授業概要・目的	法思想史とは、過去の思想家たちが法や正義をどのように理解してきたかを考察する学問分野です。この講義では、日本に地域を限定したうえで、おもに明治時代以降に登場したさまざまな法思想を駆け足で見ていきます。 個々の思想家にかんする知識をたんに丸暗記するのではなく、各法思想に含まれる普遍性と特殊性──いつの時代においても通用する普遍的なアイデアとその時代にしか通用しない特殊なアイデア──を的確に見極めつつ、現代の法思想の礎を確認することが、この講義の目的です。
到達目標	この講義を通じて学生には、法思想史（日本）の基本事項を理解することに加え、過去の思想家たちの知識を手掛かりにして自分の意見を論理的に組み立てられるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	対面授業で行います。授業で使用するレジュメや課題はMicrosoft Teamsを通じて配布しますので、この授業を受講する学生は必ずチームに加入すること。
科目学習の効果（資格）	法学検定試験や公務員試験などの教養問題に一部対応しています。また、法科大学院入学試験の小論文（未修者コース）のヒントになる前提知識が獲得できると思います。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	法思想史とは？	授業の進め方や成績評価の方法などを説明したあと、これから学習していく「日本法思想史」がどのような科目なのか、なぜ法思想の歴史を学ぶ必要があるのかを簡単に解説します。	事前学習として、事前に配布した資料に基づきレジュメの空欄を可能なかぎり埋めてきてください。事後学習として、授業終了後に、レジュメなどを見直しながら、課題に解答してください。（事前学習と事後学習は各120分）
2	明治以前の法思想①	いわゆる律令体制を中心に、古代日本の法思想に焦点を当てて学習する。必要なかぎりで、法家などの中国の法思想にも言及する。	事前学習として、事前に配布した資料に基づきレジュメの空欄を可能なかぎり埋めてきてください。事後学習として、授業終了後に、レジュメなどを見直しながら、課題に解答してください。（事前学習と事後学習は各120分）
3	明治以前の法思想②	平安時代から戦国時代までの、中世日本の法思想に焦点を当てて学習する。中高の歴史で学習した「御成敗式目」などの武家法に言及する予定である。	事前学習として、事前に配布した資料に基づきレジュメの空欄を可能なかぎり埋めてきてください。事後学習として、授業終了後に、レジュメなどを見直しながら、課題に解答してください。（事前学習と事後学習は各120分）
4	明治以前の法思想③	江戸時代の、近世日本の法思想に焦点を当てて学習する。明治維新前夜の日本の法制度がどのようなものであったのかを合わせて概観する。	事前学習として、事前に配布した資料に基づきレジュメの空欄を可能なかぎり埋めてきてください。事後学習として、授業終了後に、レジュメなどを見直しながら、課題に解答してください。（事前学習と事後学習は各120分）
5	明治時代の法律学と法思想①	明治維新直後から西洋法の継受へと至る、日本の法律学の歩みを学習する。いわゆるお雇い外国人であるボアソナードに詳しく触れる予定である。	事前学習として、事前に配布した資料に基づきレジュメの空欄を可能なかぎり埋めてきてください。事後学習として、授業終了後に、レジュメなどを見直しながら、課題に解答してください。（事前学習と事後学習は各120分）
6	明治時代の法律学と法思想②	いわゆる法典論争を取り上げ、その後、民法典成立後の民法学の歩みに触れる。併せて、フランス民法とドイツ民法の影響についても学習する。	事前学習として、事前に配布した資料に基づきレジュメの空欄を可能なかぎり埋めてきてください。事後学習として、授業終了後に、レジュメなどを見直しながら、課題に解答してください。（事前学習と事後学習は各120分）
7	明治時代の法律学と法思想③	大日本帝国憲法（明治憲法）の成立過程を学習し、伊藤博文らの法思想を取り上げる。また、それに必要なかぎりで、ドイツの公法学にも言及する。	事前学習として、事前に配布した資料に基づきレジュメの空欄を可能なかぎり埋めてきてください。事後学習として、授業終了後に、レジュメなどを見直しながら、課題に解答してください。（事前学習と事後学習は各120分）
8	明治時代の法律学と法思想④	憲法学と民法学以外の法分野、特に刑法学の成立とその後の発展を取り上げる。日本の刑法久我に大きな影響を及ぼしたドイツの刑法学の特徴についても詳しく学習する。	事前学習として、事前に配布した資料に基づきレジュメの空欄を可能なかぎり埋めてきてください。事後学習として、授業終了後に、レジュメなどを見直しながら、課題に解答してください。（事前学習と事後学習は各120分）
9	大正時代の法律学と法思想	いわゆる大正デモクラシーを背景にして、大正時代に発展を遂げた憲法学と民法学の基本的な特色を学習する。可能なかぎりで、それ以外の法分野も取り上げる。	事前学習として、事前に配布した資料に基づきレジュメの空欄を可能なかぎり埋めてきてください。事後学習として、授業終了後に、レジュメなどを見直しながら、課題に解答してください。（事前学習と事後学習は各120分）
10	昭和の法律学と法思想①	戦前の法思想の大きな潮流として、いわゆる国粋主義的な憲法思想とその問題点を取り上げる。併せて、有名な天皇機関説について詳述する。	事前学習として、事前に配布した資料に基づきレジュメの空欄を可能なかぎり埋めてきてください。事後学習として、授業終了後に、レジュメなどを見直しながら、課題に解答してください。（事前学習と事後学習は各120分）
11	昭和の法律学と法思想②	日本国憲法の成立以降の、日本の憲法学の展開を学習する。とりわけ憲法９条をめぐる政府解釈と学説の関係を素材にして、日本の憲法学の特色を考察する。	事前学習として、事前に配布した資料に基づきレジュメの空欄を可能なかぎり埋めてきてください。事後学習として、授業終了後に、レジュメなどを見直しながら、課題に解答してください。（事前学習と事後学習は各120分）
12	昭和の法律学と法思想③	昭和時代の民法学・刑法学の発展とその特色を学習する。また、労働法などの六法以外の法分野の発展についても取り上げる。	事前学習として、事前に配布した資料に基づきレジュメの空欄を可能なかぎり埋めてきてください。事後学習として、授業終了後に、レジュメなどを見直しながら、課題に解答してください。（事前学習と事後学習は各120分）

	13	平成の法律学①	司法制度改革を中心にして、平成時代の法律学・法思想の特色を学習する。併せて、「法の支配」の観念についても西洋との比較を交えて考察する。	事前学習として、事前に配布した資料に基づきレジュメの空欄を可能なかぎり埋めてきてください。事後学習として、授業終了後に、レジュメなどを見直しながら、課題に解答してください。（事前学習と事後学習は各 120 分）
	14	平成の法律学②	グローバル化が進展する中で、日本の法律学や法思想は今後どのように発展していくべきかを、令和のコロナ禍も踏まえつつ、検討していく。	事前学習として、事前に配布した資料に基づきレジュメの空欄を可能なかぎり埋めてきてください。事後学習として、授業終了後に、レジュメなどを見直しながら、課題に解答してください。（事前学習と事後学習は各 120 分）
	15	授業全体のまとめ	これまでの講義で論じてきた事柄を簡単に復習し、各法思想の普遍性と特殊性について考えてみます（可能であれば、これまでの講義で論じることができなかったトピックを補足説明する予定です）。	個々の概念や人物の正確な理解に努めるとともに、日本史の大きな流れのなかで各法思想の特徴を述べられるようになること（講義で理解が難しかった箇所を事前にピックアップしておくこと）。

関連科目	直接的には法哲学総論、法哲学各論、西洋法思想史、西洋の裁判の歴史などと関連しますが、それ以外にも広く実定法学（憲法・民法・刑法など）の学習の一助になると思います。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	近代法思想史入門：日本と西洋の交わりから読む	大野・森元・吉永	法律文化社
2	法思想史（有斐閣アルマ）	中山竜一ほか	有斐閣
3			

評価方法（基準）	期末試験は実施せず、毎回の課題（授業内での課題・発表や授業後の小テスト）100％で評価します。毎回真面目に授業に取り組めば単位取得はそれほど困難ではないかと思いますが、毎回課題を出しますので、履修予定の学生はそのつもりで授業に臨んでください。
学生へのメッセージ	この日本法思想史の講義では、明治以降の日本における法思想の「古典」と呼ばれる著作を毎時間取り上げます。授業では各法思想の要点しか説明できませんので、興味のある古典作品が出てきたらぜひ積極的に読書をしてほしいと思います。時代を超えて読み継がれてきた古典作品と向き合うことは、学生の皆さんにとってきっと有意義な読書体験になるはずです。 ＊この「日本法思想史」という科目は、本年度（2023 年度）からの開講になります。実際の授業の進行次第ではシラバスの内容に変更がありえますので、その点を理解したうえで授業に臨んでください。現時点では講義形式を予定していますが、場合によっては、皆さんの興味関心に即して、発表を求めるかもしれません。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　松島准教授室
備考	教科書は特に使用しませんが、『法思想史（有斐閣アルマ）』を持っている学生はぜひ持参してください。また、授業の進捗状況によっては、多少シラバスの内容に変更が生じるかもしれないので、その点はあらかじめご了承ください。課題については Teams などを通じて返却予定。

科目名	日本法制史	科目名（英文）	Japanese Legal History
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	萩原　守
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1007a0		

授業概要・目的

日本の法制は、古代から明治初期までは中国・朝鮮からの強い影響を受け、それ以降は西洋からの強い影響を受けてきた。しかしながら、そこにはやはり古代から近現代まで続く日本法制史ならではの特徴が見られ、それらを総合的に把握しておくことが現代日本の社会と法制を理解するための必須条件となる。そこで、この授業で受講者は、古代から近現代に至るまでの各時期における日本の法制を年代順に学びとり、日本法制史の持つ特徴を詳しく理解することになる。

この授業の目的は現代日本の社会や社会規範が形成されてきた過去の経緯を深く理解することである。

到達目標

古代日本の法制史においては、遣隋使や遣唐使によってもたらされた中国法が日本に与えた影響を即座に指摘した上で日本法制史の持つ特徴を検討できるようになることが目標である。中世においては、日本法制史が持つ強い特徴を、中国や西洋諸国と比較しつつ明瞭に述べることができるようになること。近世（江戸時代）においては、中国法（明律、清律）からの強い影響を再び受けるようになった事情やドイツ、イタリアなどと若干類似する「地方分権」状態が日本に独特の近代化をもたらした点などを詳細に指摘できるようになることが目標である。近代法制史においては、英米型の法制を採用せずにドイツ型の法制を採用したことがもたらした功罪をすぐに指摘できるようになることが目標である。

授業方法と留意点

この授業は通常の講義科目である。できるだけ毎回出席して、詳細にノートを取ることが必要となる。また聞き逃した点や理解できなかった点は、そのつど細かく質問して聞き直すことが必要となる。とりわけ、ノートを取ることが絶対の条件となる。

科目学習の効果（資格）

教職課程履修者にとっては重要科目。間接的には公務員試験や諸資格試験にも繋がっている。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	律令以前の法と社会	中国・朝鮮から律令が導入される以前における日本の法と社会のあり方を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（２時間）
2	中国の隋唐時代における律令の編纂	7回に渡って編纂された隋唐時代の中国の律令を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（２時間）
3	律令法体制下の行政・支配機構と社会	律令導入後の日本の行政機構や日本社会の有り様を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（２時間）
4	平安時代の法と社会	導入された律令体制から徐々に日本独自の体制へと社会と法が変化していく様子を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（２時間）
5	鎌倉期の法と社会	鎌倉幕府による法とその下での裁判の有り様を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（２時間）
6	室町期の法と社会	室町期における幕府や寺社勢力による法制を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（２時間）
7	戦国大名の支配と法	戦国期から織田・豊臣政権期にかけての法と社会を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（２時間）
8	幕藩体制下の法と裁判	江戸時代における法のあり方と裁判制度を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（２時間）
9	幕藩体制下の社会	江戸時代における社会、身分、世帯等を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（２時間）
10	幕藩体制から明治維新期への変革	江戸期から明治期に移行する際の政治上、法制上における大きな変革の有り様を詳しく学びとる	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（２時間）
11	世界史的な見地から見た明治維新への評価	日本の近代化の始まりとしての明治維新を、世界史的にどう評価すべきなのかを詳しく学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（２時間）
12	日本への西洋法の導入問題	中国法の強い影響下にあった日本の法制が欧米の法の影響下に入っていく際の諸問題を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（２時間）
13	大日本帝国憲法	英米法とドイツ法のどちらを導入するかという問題が決着した明治 14 年の政変などを学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（２時間）
14	統帥権問題	第二次世界大戦の泥沼へと日本が陥っていった法制上の問題を詳しく学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（２時間）
15	日本国憲法と戦後の日本社会	戦後、新たに導入された日本国憲法と戦後の日本社会の問題を学ぶ	自ら記入したノートや当日配布された資料を見直すこと（２時間）

関連科目

東洋法制史、法と社会、比較法史

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	概説　日本法制史	出口雄一他	弘文堂
2	日本法制史	湯淺弘他	青林書院
3			

評価方法（基準）

主として定期試験の結果から評価するが、良い答案を書くためには、当然、毎回の出席とノート筆記、また予習復習が絶対条件となる。

学生へのメッセージ

あまり難しく考えないで気軽に受講してみてほしい。また法制史は、基礎法学の一つであると同時に、歴史学の一つでもあるため、歴史の好きな人は特に歓迎するが、日本史を学んだことのない人でも理解できように、わかりやすい授業を心がけたい。授業中にノートを取ることは必須である。また、疑問点があれば、すぐに質問して解決しておくことが必要。

担当者の研究室等

11 号館の 10 階にある萩原守研究室

備考	

科目名	東洋法制史	科目名（英文）	Oriental Legal History
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	萩原　守
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1008a0		

授業概要・目的	基礎法学の一つである「法制史」の中でも、 「東洋法制史」はアジア地域の法制史を取り上げて詳しく学ぶ科目である。アジアは広く多様であり、全ての地域の法制史を学ぶことは不可能なので、この授業では、東洋法制史の中でも最も代表的な存在である中国の法制史を学ぶことにする。中国法制史は日本法制史や東アジア全体の法制史とも関わりが深く、授業に際して西洋法制史や日本法制史にもしばしば言及するため、中国法制史が有する人類史的な意義を学び取ることも、この授業の目的となる。
到達目標	この講義を通じて受講者には、古代以来近代に至るまでの中国諸王朝における法典や裁判制度の実情を詳しく学び取り、西洋法制史との対比や日本法制史への具体的な影響をすぐに指摘できるようになることが期待される。また、その学びの過程を通じて、近現代に至るまでの東アジア地域において存在していた社会規範の有り方や東アジア社会・文化の形成過程を学び取ることも期待される。これらが、この授業の到達目標である。
授業方法と留意点	この授業は、通常の講義科目である。なるべく毎回出席して、しっかりとノートを取ることが必要となる。そのために、毎回、ノートと筆記用具を持参することが絶対条件となる。
科目学習の効果（資格）	中国法制史を学ぶことによって、日本法制史への強い影響や、西洋法制史の持つ特異性（法と裁判に対する宗教の強い影響）などが、より明瞭に理解できるようになるであろう。また、社会科の教職をめざす学生には、大きな利点が得られると思われる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	中国法制史の持つ特徴	成文法と判例法、神判の有無等の多角的な側面から、中国法制史の持つ特徴を学ぶ	西洋法制史、特に英米法や大陸法との対比、魔女裁判の発生等の事柄を予習復習してほしい。
2	日本法制史や西洋法制史に見られる「神判」の事例	日本の「盟神探湯」、西洋の「異端審問」、「魔女裁判」等について、短く学ぶ	日本法制史や西洋法制史との対比を予習復習してほしい。
3	中国における成文法の出現	古代中国の春秋時代、戦国時代における成文法の出現状況を学ぶ	予習復習してほしい。
4	秦漢時代・隋唐時代の律令	1970 年代以降次々に発見され始めた『秦律』、『漢律』、隋唐時代に 7 回制定された『律令』、またそこから影響を受けた日本の律令について学ぶ	遣隋使・遣唐使たちが持ち帰った中国の律令を元にして制定された日本の律令を予習復習してほしい。
5	古代中国の刑罰体系	周代、秦漢代における刑罰の体系を学ぶ	予習復習してほしい。
6	隋唐時代の刑罰体系	隋唐時代の刑罰の体系を学ぶ	予習復習してほしい。
7	唐宋変革	唐代から宋代にかけての中国社会の一大変革を、詳しく学ぶ	中国史についての書籍を読んで予習復習してほしい。
8	宋・元時代の法典	中国史上でも例外的に律が制定されなかった時代である宋代と元代の法典、裁判制度を学ぶ	予習復習してほしい
9	明清時代の律	『明律』と『大清律例』の持つ重要な特徴を詳しく学ぶ	江戸時代から明治初期にかけての日本法制史に大きな影響を与えた明清の律を、日本法制史側からも学び取って予習復習してほしいほしい。
10	中華民国期・中華人民共和国期の法	近代に入ってから導入された西洋風の法制を学ぶ	予習復習してほしい
11	清王朝の法	清王朝治下で民族集団別に制定された各種の法典について、その研究状況をも含めて詳しく学ぶ	中国本土、モンゴル、チベット、ウイグルなど、清王朝治下にあった各地域での司法支配の状況を調べて予習復習してほしいほしい。
12	清朝の行政機構	清王朝において、徴税・司法等を担っていた複雑な行政機構について、その所在地や権限等を詳しく学ぶ	予習復習してほしい。
13	清朝の科挙制度	清王朝の官僚機構を動かしていた旗人官僚と科挙官僚の内、後者の官僚を選抜していた科挙試験について学ぶ	世界で初めて実施され始めた「官僚選抜試験」の実態をよく調べて予習復習してほしいほしい。
14	清朝の裁判制度	清王朝における基本的な裁判の制度を詳しく学ぶ	予習復習してほしい。
15	清朝の裁判機構と刑罰体系との関わり	清王朝の官僚機構と刑罰体系との有機的な関連を詳しく学ぶ	予習復習してほしい。

関連科目	法と社会、日本法制史、比較法史

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	史料からみる中国法史	石岡浩・川村康他	法律文化社
2	鹿洲公案	藍鼎元・宮崎市定	平凡社
3	科挙　中国の試験地獄	宮崎市定	中公文庫

評価方法（基準）	主として定期試験の結果から評価する。良い答案を書くためには、毎回出席して、しっかりとノートを取ることが絶対条件となる。
学生へのメッセージ	難しそうだとか思わずに、気軽に出席してほしい。歴史が好きな人には、特に勧めたい。授業中の質問を大歓迎する。
担当者の研究室等	11 号館の 10 階にある萩原研究室
備考	

科目名	西洋法制史	科目名（英文）	Western Legal History
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	小宮山　直子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1009a0		

授業概要・目的	この授業では、ヨーロッパにおける中世から近代にいたる法の歴史を概説します。ヨーロッパ法が日本近代法の形成に大きな影響を与えたことを念頭におきつつ、フランス・ドイツを中心に、法の歴史的展開および法文化の特徴を、当時の社会とのかかわりを含めて考察します。授業全体の後半は、近代法の展開に焦点をあてます。また、各時代の裁判の特徴と著名な裁判例もとりあげます。
到達目標	ヨーロッパ法の歴史について基礎的な知識を身につけ、さらに歴史的視点を踏まえて現代法を考察していく力を養うことを目標とします。
授業方法と留意点	各授業の最後に小テストなどの課題に取り組んでもらいます。 授業内容を自分のノートにもまとめるようにしましょう。 授業の進行にあわせて、２回分のテーマを１回にまとめることもあります。
科目学習の効果（資格）	教職科目（中学社会科・高校公民・高校地歴）に必要です。公務員試験や就職試験の一般教養（SPI 対策）としても有益です。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに―近代日本における西洋文化の受容	授業内容の概説、近代化、お雇い外国人	事前:授業のテーマに関連する文献(参考文献など)を読んでおく。(２時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(２時間)
2	中世ヨーロッパの社会と法（１）	ユスティニアヌス法典の成立、サリカ法典、ゲルマンの伝統的裁判、他	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。(２時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(２時間)
3	中世ヨーロッパの社会と法（２）	ローマ法学の復活、大学における法学教育、法学識者	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。(２時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(２時間)
4	中世ヨーロッパの社会と法（３）	封建制の構造、新しい形式の裁判	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。(２時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(２時間)
5	近世ヨーロッパの社会と法（１）	絶対主義の構造、法統一の試み	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。(２時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(２時間)
6	近世ヨーロッパの社会と法（２）	啓蒙期と法典編纂	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。(２時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(２時間)
7	英米法の歴史の概要	陪審制の成立・発展	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。(２時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(２時間)
8	フランス革命（１）	フランス革命の概要、フランス人権宣言	事前:授業のテーマに関連する文献(参考文献など)を読んでおく。(２時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(２時間)
9	フランス革命（２）	革命期の裁判制度改革（陪審制の導入）、革命期の婚姻政策	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。(２時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(２時間)
10	ナポレオンと近代市民法―フランス民法典（1804 年）	フランス民法典の成立過程、民法典の特徴、近代市民社会	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。(２時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(２時間)
11	法典論争と歴史法学派	サヴィニーとティボーの法典論争、歴史法学派	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。(２時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(２時間)
12	19 世紀フランスの社会と法	都市の衛生問題・貧困問題 労働者問題と法、裁判例	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。(２時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(２時間)
13	１９世紀ドイツの社会と法	ドイツ民法典の成立過程、その特徴	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。(２時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(２時間)
14	２０世紀の社会と法（１）	20 世紀前半・女性参政権の動向、他	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。(２時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(２時間)
15	20 世紀の社会と法（２） 全体のまとめ	戦後における家族法改革、 全体のまとめ（復習）	これまでのレジュメ及び資料を見直して、授業の全体像を再確認・整理する。重要キーワードについては、自分の言葉で説明できるよう整理する。(4 時間)

関連科目	法制史および法思想史に関連する科目
教科書	

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 概説西洋法制史 / 勝田有恒　他 / ミネルヴァ書房 2 / 法制史入門 / 三成賢次、他 / ナカニシヤ出版 3 / ローマ法とヨーロッパ / ピーター・スタイン / ミネルヴァ書房
評価方法 （基準）	授業内課題（小テスト、小レポートなど）20%と、定期試験（筆記試験）80%によって、総合的に評価します。 詳細は、授業開始の際に、説明します。
学生への メッセージ	高校の世界史の教科書(特にヨーロッパ史の箇所）を復習しておきましょう。
担当者の 研究室等	11 号館 5 階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	各授業の最後に実施する授業内課題の解答は、次の授業で解説します。 参考文献は、授業の中で随時紹介します。

科目名	比較法史	科目名（英文）	Comparative Legal History
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	萩原　守
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2010a0		

授業概要・目的	法の比較は、当該社会やその伝統文化の比較にもつながる重要な研究分野である。さらに、法学は元々社会と法との関わりを念頭に置いた学問体系を有している。そこでこの授業では、現実の社会実態と伝統法や外来法との関わり具合とを両方学べるような講義にしたい。具体的には、担当教員の専門分野を生かして、19 世紀のモンゴル遊牧民社会で起こった現実の刑事事件と、その裁判で適用された中国法起源の法を細かく分析することによって、清代モンゴルの遊牧民社会のあり方をより立体的に理解できるような講義にしたい。したがってこの授業の目標は、伝統的なモンゴル社会とそこに外部から新たに導入された中国法の存在とを深く理解することとなる。
到達目標	この講義を通じて学生には、中国法が周辺諸地域へと広がっていく現実の事例を、具体例を示しつつ理解し、かつその理論的な側面を自ら説明できるだけの知識を身につけることが期待される。
授業方法と留意点	現在の所、通常の対面形式の授業を想定しているが、社会情勢により、授業形態を変更する可能性もある。この授業は、講義形式の授業である。可能な限り毎回出席して、しっかりとノートを取ることが必要である。
科目学習の効果（資格）	日本法制史に普遍的に見られるような「中国法の周辺地域への伝播」の問題を扱うため、特に社会科系の教職を目指す学生には、大きな効果が期待できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	法の比較と社会史、女性史	比較法学、法制史、社会史などの研究分野について、その研究手法等を紹介する	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく（2 時間）
2	清朝支配下におけるモンゴルの法と裁判①	清王朝が支配下の諸民族集団に対して制定した種々の法の内、モンゴル人専用法である「蒙古例」について詳しく解説する	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく（2 時間）
3	清朝支配下におけるモンゴルの法と裁判②	現在までに明らかになっている清代モンゴルの裁判制度を、中国本土の制度と比較しつつ、概説する	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく（2 時間）
4	「犯罪者捕獲期限」に関する伝統的な中国法	『明律』と『大清律例』の中に収録されている「犯罪者捕獲期限」に関する法の条文を詳しく検討する	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく
5	「犯罪者捕獲期限」に関する法の起源	「犯罪者捕獲期限」に関する条文が『唐律』にまでさかのぼることができるという問題を検討する	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく（2 時間）
6	「犯罪者捕獲期限」法のモンゴルへの導入	「犯罪者捕獲期限」に関する法のモンゴルへの導入時期を細かく同定していく	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく（2 時間）
7	19 世紀末の外モンゴル地域で発生した「オドセルとナワーンの事件」①	事件の加害者オドセルが所属していたチベット仏教の活仏の旗と、同じく加害者ナワーンが所属していた大活仏の領民について詳しく検討する	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく（2 時間）
8	「オドセルとナワーンの事件」②	加害者ナワーンと被害者ダグバとが所属していたフレー（現在のウランバートル市）における僧坊、巡礼先となった五台山などを解説する	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく（2 時間）
9	「オドセルとナワーンの事件」③	巡礼の途中で起こった事件について解説する	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく（2 時間）
10	「オドセルとナワーンの事件」④	事件に関する裁判の判決文の途中経過と巡礼時に被害者が受け取っていたお布施の問題とを検討する	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく（2 時間）
11	「オドセルとナワーンの事件」⑤	首犯オドセルが収容されたフレー（現ウランバートル市）の監獄の位置を、ロシア軍が作成した当時のロシア語地図から読み解いていく	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく（2 時間）
12	「オドセルとナワーンの事件」⑥	首犯オドセルが収容されたフレー監獄の管理・運営状況を当時の記録から細かく再現していく	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく（2 時間）
13	「オドセルとナワーンの事件」⑦	加害者オドセルの脱獄にともなって緊急に発令された指名手配の状況を検討する	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく（2 時間）
14	「オドセルとナワーンの事件」⑧	オドセルの脱獄に対してその後適用された「犯罪者捕獲期限」法による期限付指名手配の実態を検討する	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく（2 時間）
15	「オドセルとナワーンの事件」⑨	オドセルが再捕獲されたとみられる記録と、予想される刑罰の問題を検討する	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく（2 時間）

関連科目：東洋法制史、日本法制史、法と社会

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中央アジアの歴史と現在　草原の叡智	松原正毅他	勉誠出版
2	ユーラシア草原からのメッセージ	松原正毅他	平凡社

	3	清代モンゴルの裁判と裁判文書	萩原守	創文社
評価方法 （基準）	学期末に試験を行う。成績評価は、主としてこの期末試験から判断する。			
学生への メッセージ	なるべく具体的な講義を実施するので、恐れずに参加してほしい。いつでも質問できるような柔らかい雰囲気の授業にしたい。			
担当者の 研究室等	11 号館の 10 階にある萩原研究室			
備考				

科目名	法と社会	科目名（英文）	Law and Society
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	萩原　守
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2011a0		

授業概要・目的	法学は元々社会との接点があってこそ、価値が生じる学問分野である。そこでこの授業では、過去における現実の社会と法との密接な関わり具合を受講者に学んでもらうこととする。具体的には、担当教員の専門分野を生かして、18 世紀のモンゴル遊牧民社会で起こった現実の刑事事件とその裁判を細かく分析し、清代モンゴルの遊牧民社会と法のあり方を理解できるようにしたい。
到達目標	この講義を通じて学生には、法と社会との関わり方を、具体例を示しつつ理解できるようになり、かつその理論的な側面を自ら説明できるだけの知識を身につけることが期待される。
授業方法と留意点	現在の所、通常の対面形式の授業を想定しているが、社会情勢により、授業形態を変更する可能性もある。この授業は、講義形式の授業である。可能な限り毎回出席して、しっかりとノートを取ることが必要である。
科目学習の効果（資格）	歴史上における社会と法との密接な関わりを学び取ることができるため、社会科系の教職を目指す学生には、大きな効果が期待できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	社会史、女性史と法学	法学、法制史、社会史、女性史などの研究分野について、その研究手法や注意点等を紹介する	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく（2 時間）
2	清朝支配下におけるモンゴルの法と裁判①	清王朝が支配下の諸民族集団に対して制定した種々の法について詳しく解説する	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく（2 時間）
3	清朝支配下におけるモンゴルの法と裁判②	現在までに明らかになっている清代の各地域での裁判制度を概説する	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく（2 時間）
4	清朝支配下におけるモンゴルの法と裁判③	現在までに明らかになっている清代の各地域での法と裁判との研究状況を概説する	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく
5	遊牧民社会の日常	世界各地に居住している遊牧民の日常生活を概説する	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく（2 時間）
6	清代モンゴルの身分制度と行政制度	清代モンゴルの複雑な身分制度とそれに応じた複雑な法典とを概説する	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく（2 時間）
7	18 世紀末の外モンゴル地域で発生した「ダシジドの事件」①	ダシジドの幼年期以来の人生を短く要約していく	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく（2 時間）
8	「ダシジドの事件」②	シングルマザーとなった平民ダシジドが巻き込まれた冤罪、人身売買に伴って起こしてしまった事件等を詳しく解説する	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく（2 時間）
9	「ダシジドの事件」③	ダシジドの起こした事件に関する各段階での裁判とその判決文を詳細に検討していく	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく（2 時間）
10	「ダシジドの事件」④	「ダシジドの事件」の最終判決とその判決が有する歴史学的・政治史的・法制史的な意義を検討する	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく（2 時間）
11	「ダシジドの事件」⑤	「ダシジドの事件」における人身売買と婚姻の問題を法的に検討する	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく（2 時間）
12	18 世紀末の外モンゴル地域で発生した「オンボフの事件」①	オンボフの近辺で起こった馬泥棒の事件とその後のオンボフの運命を短く要約する	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく（2 時間）
13	「オンボフの事件」②	不法裁判によって身分を落とされたオンボフが起こしてしまった事件の詳細を解説する	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく（2 時間）
14	「オンボフの事件」③	「オンボフの事件」が裁かれていく過程で下された各級の判決文を細かく検討する	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく（2 時間）
15	「オンボフの事件」④	「オンボフの事件」から理解できる当時のモンゴル人社会と、法制の変遷問題を検討する	講義ノートや配布プリントを読み返して、しっかりと復習をしておく（2 時間）

関連科目	東洋法制史、日本法制史、比較法史

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	清代モンゴルの裁判と裁判文書	萩原守	創文社
2	大清律　刑律 1、2	谷井俊仁・谷井陽子	平凡社東洋文庫
3	中国法制史　基本資料の研究	滋賀秀三	東京大学出版会

評価方法（基準）	学期末に試験を行う。成績評価は、主としてこの期末試験から判断する。
学生へのメッセージ	なるべく具体的な講義を実施するので、恐れずに参加してほしい。いつでも質問できるような柔らかい雰囲気の授業にしたい。
担当者の	11 号館の 10 階にある萩原研究室

研究室等	
備考	

科目名	ジェンダー法	科目名（英文）	Law and Gender
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	小宮山　直子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2012a0		

授業概要・目的	前半は西洋社会における女性の地位の歴史について、西洋法史・ジェンダー法学の視点から概説します。西洋史のなかの注目すべき女性たちの生涯や権力との関連、及び女性にかかわる事件・事項について、具体的なイメージがわくようにパワーポイントなどを利用しながら講義します。また、授業後半の一部は、前半の西洋女性史からの学習を踏まえて、現代日本の家族・労働(雇用）等にかかわる諸問題をジェンダー法学の視点から考察します。
到達目標	この授業を通して学生には、西洋の中世から現代までの各時代・各社会における女性の地位と法の関わりについて、歴史の大きな流れを踏まえて説明できるようなることが期待されます。さらに、西洋史（女性史）を通して学んだ知識を、現代日本における法的諸問題の考察に反映できるようになることも期待されます。
授業方法と留意点	各授業の最後に小テストなどの課題に取り組んでもらいます。授業の進行にあわせて、２回分のテーマを１回にまとめることもあります。
科目学習の効果（資格）	公務員試験や企業採用試験の一般教養科目対策として有益である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに 前近代と近代の社会と法	授業全体の目的 ジェンダー法学について 西洋における前近代と近代の社会と法のあり様・変化の概観	事前:授業のテーマに関連する文献(参考文献など)を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
2	中世～近世の女性（１） 中世･封建社会における女性	フランス 12 世紀・アリエノール・ダキテーヌ、フランス 15 世紀・ジャンヌ・ダルク	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
3	中世～近世の女性（２） 宗教改革と女性	16 世紀、ヘンリー８世とアン・ブーリン:国王の離婚問題を契機とするローマ教会との決別、国王至上法などを考察する。	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
4	啓蒙期と女性	サロン文化とポンパドゥール夫人 近代市民社会の萌芽	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
5	フランス革命と女性	フランス革命における女性たち。王妃マリー・アントワネット、グージュ	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
6	フランス民法典と女性	フランス民法典のなかの女性･近代的家父長制の特徴（妻の行為無能力など）を考察する。	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
7	19 世紀の社会と女性（１）	19 世紀のブルジョア女性の活動について、フランスを中心に考察する。	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
8	19 世紀の社会と女性（２）	19 世紀の労働者（女性を中心に）・衛生問題について、フランスを中心に考察する	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
9	20 世紀における女性（１） 第１次フェミニズム運動の展開	女性参政権獲得をめぐる運動、女性の社会進出をフランスを中心に考察する。	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
10	20 世紀における女性（２） 第２次フェミニズム運動の展開	女性解放の進展･家族をめぐる諸改革についてフランスを中心に考察する。（シモーヌ・ヴェイユ（国家と女性の身体の問題)）	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
11	家族をめぐる問題（１）	戦前の日本における家族に関わる問題をジェンダー法学の視点から考察する	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
12	家族をめぐる問題（２）	現代日本の家族に関わる問題をジェンダー法学の視点から考察する	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
13	労働をめぐる問題	現代日本の労働（雇用）に関わる問題をジェンダー法学の視点から考察する	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
14	身体をめぐる問題	人権・ジェンダー法学の視点から、戦後日本の身体をめぐる諸政策･問題を考察する。	事前：授業のテーマに関連する文献（参考文献・資料など）を読んでおく。（２時間） 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（２時間）
15	全体のまとめ		これまでのレジュメ及び資料を見直して、授業の全体像を再確認・整理する。重要キーワードについては、自分の言葉で説明できるよう整理する。（４時間）

関連科目	西洋法制史（西洋の裁判の歴史）
教科書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>概説西洋法制史</td><td>勝田有恒他</td><td>ミネルヴァ書房</td></tr><tr><td>2</td><td>ジェンダーの比較法史学</td><td>三成美保編</td><td>大阪大学出版会</td></tr><tr><td>3</td><td>ジェンダー法学入門（最新版）</td><td>三成美保・他著</td><td>法律文化社</td></tr></table>
評価方法 （基準）	授業内課題（小テスト、小レポートなど）３０％と、定期試験（筆記試験）７０％によって、総合的に評価します。 詳細は、授業開始の際に、説明します。
学生への メッセージ	法史をジェンダー法学の視点から楽しく深めるのに役立つ授業です。
担当者の 研究室等	11 号館 5 階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	各授業の最後に実施する課題の解答例などは、次の授業で解説します。 参考文献は、授業の中で随時紹介します。

科目名	リーガル・リサーチ	科目名（英文）	Legal Resarch
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	家本　真実
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1014a0		

授業概要・目的	法学部生として学ぶにあたって、上級生になればなるほど、判例や法令といった、法律・政治関係の資料を参照する機会が増えてきます。 そこでこの講義では、法律・政治関係の資料として有用なものはどういったものか、またそれらをどこで入手することができるのかを、資料の実物を見たり、実際に作業をしてもらいながら皆さんに学んでいただきたいと思います。同時に、法情報を利用してレポートなどを作成するにあたって必要な知識とスキルを得ていただけるようにします。
到達目標	この授業を通じて、学生の皆さんには、法学部で学ぶにあたって必要となる法情報を、信頼できる情報源から得て活用するスキルを習得することが期待されます。
授業方法と留意点	毎回、こちらから配布するレジュメに沿って講義をおこなう部分と、それらの説明に基づいて受講生の皆さんが実際に作業をしていただく部分とが混在します。毎回の授業で得る知識や習得する作業が、次の授業につながっていくこととなりますので、遅刻や欠席されないことを強くお勧めします。
科目学習の効果（資格）	法学部で学ぶにあたって必要な法情報を検索し、活用することのできるスキルを身につけることができます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに 法情報とはどのようなものか	法情報はどこにどのようなかたちで存在しているのかを学ぶ。	授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2時間)
2	法令の調べ方（1）	法令とはどのようなものか、またどこに掲載されているのかを学ぶ。	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
3	法令の調べ方（2）	法律案や地自治体の法令とはどのようなものか、またどこに掲載されているのかを学ぶ。	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
4	判例の調べ方（1）	判例とはどのようなものか、過去の判決文を見ながら学ぶ。	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
5	判例の調べ方（2）	判例を収録している印刷物やデータベースの使用法、また判例批判とはどのようなものかについて学ぶ。	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
6	二次資料の調べ方（1）	二次資料とはどのようなものか、またどこに掲載されているのかを学ぶ。	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
7	二次資料の調べ方（2）	二次資料を収録している印刷物やデータベースについて、またそれらの使用法について学ぶ。	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
8	資料の引用の仕方	正しく引用する方法と、文書作成ソフト（アプリ）の関連機能について学ぶ。	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
9	外国の法情報の調べ方	外国の法情報とはどのようなものかについて学ぶ。	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
10	登記簿の見方（1）	不動産登記とはどのようなものか、また登記簿はどこで閲覧できるのかを学ぶ。	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
11	登記簿の見方（2）	商業登記など不動産以外の登記とはどのようなものかについて学ぶ。	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
12	戸籍の見方	戸籍とはどのようなものか、またその見方について学ぶ。	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
13	法学に役立つ様々な情報源	法学に役立つ情報としてどのようなものがあるか、またどこから収集すべきかについて学ぶ。	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
14	具体的事例におけるリーガル・リサーチ（1）	具体的事例において、どのようにリーガル・リサーチをおこなうべきかについて学ぶ。	授業前に、前回の授業で指定された資料を読んでおくこと。(1.5時間) 授業終了後、次回の授業までに、今回の授業を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
15	具体的事例におけるリーガル・リサーチ（2） おわりに	仮のミニレポートを、これまでに学んだ技術を使用して作成しすることで、リーガル・リサーチの方法を学ぶ。	全講義を通して疑問や不明点がないか確認したうえで講義に臨むこと。(3時間) 講義終了後、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(3時間)

<table>
<tr><td>関連科目</td><td>法学部開講の法律・政治系の専門科目</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>講義内で課す課題（確認テスト、ペーパーなど）への取り組みを 50%程度、学期末試験の成績を 50%程度の割合で、最終的な評価をおこないます。
遅刻および欠席は、1 度でも、単位の取得から遠のくこととなりますので、ご注意ください。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>授業中は不要な私語を慎んでください。講義内容は、講義の進行具合に応じて変更する場合もあります。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>11 号館 9 階　家本准教授室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>講義中に課した課題については、次の回の講義で講評・解説をおこないます。</td></tr>
</table>

科目名	憲法Ⅰ（人権総論）	科目名（英文）	Constitutional Law I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	浮田　徹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○		
科目ナンバリング	JDJ1016a0		

授業概要・目的	憲法の基本原理、基本的人権部分の総論的な領域をとりあつかいます。憲法を全体として習得したい人はこの講義をまずしっかりと勉強する必要があります。
到達目標	この授業を通じて学生には、基本的人権・統治機構、その他数多ある人権や権利に関連する法律を理解するために不可欠の土台を形成するようになることが期待される。憲法は、各項目の理解のしやすさに関し、基本原理の理解が重要になります。
授業方法と留意点	講義形式で行います。講義に必要なものはレジュメ、ノート、教科書、六法です。 レジュメは事前に moodle から入手、印刷して持参してください。 ※moodle の利用方法につき (1)moodle とは 摂南大学の採用する ICT ツールです。大学のポータルサイトなどにリンクがあります。 (2)moodle の登録方法につき 講義には自分で登録する必要があります。 ログインし、「ナビゲーション」のところにある「コース」をクリック、「コースを検索する」から 「23 憲法 1」と入力して検索し「2023 憲
科目学習の効果（資格）	様々な資格試験および公務員試験の基礎となります。 また、公務員の場合は就職後に警察学校などで科目となる場合があります。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・憲法総論	ガイダンス・憲法の位置づけ	予習：教科書の目次を一通り読んでおく(10 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(20 分)
2	憲法の基本原理	近代憲法に不可欠の要素につき学ぶ	予習：教科書の 1、2 を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
3	憲法の歴史	近代憲法の形成の歴史、日本国憲法史について学ぶ	予習：教科書の 1、2 を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
4	人権の到達範囲	人権保障の及ぶ範囲について学ぶ	予習：教科書の 6 を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
5	人権の享有主体	外国人の人権保障について学ぶ	予習：教科書の 4、5 を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
6	人権保障の限界	人権保障の限界の問題について学ぶ	予習：教科書の 3 を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
7	憲法 13 条の内容	13 条の二つの側面について学ぶ	予習：教科書の 8、9 を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
8	包括的基本権としての１３条	幸福追求権としての 13 条のしくみについて学ぶ	予習：教科書の 8、9 を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
9	新しい人権(1)	プライバシー権・名誉の権利について学ぶ	予習：教科書の 9 を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
10	新しい人権(2)	肖像権・環境権などその他新しい権利について学ぶ	予習：教科書の 9 を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
11	法の下の平等(1)	法の下の平等について、歴史的経緯から学ぶ	予習：教科書の 10 を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
12	法の下の平等(2)	法の下の平等について、特に日本国憲法 14 条の内容について学ぶ	予習：教科書の 11 を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
13	法の下の平等(3)	法の下の平等についての裁判例を学ぶ(1)	予習：教科書の 11 を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
14	法の下の平等(4)	法の下の平等についての裁判例を学ぶ(2)	予習：教科書の 12 を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
15	精神的自由総論	精神的自由とはいかなるものか、内心の自由までを学ぶ	予習：教科書の 1 を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)

関連科目	憲法 II、憲法 III と深く関連します。後期配当の憲法 II(人権各論)を理解するためにはこの講義の受講・習得が重要になります。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	憲法の時間〔第 2 版〕	井上典之編	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			

評価方法 （基準）	(1)講義ごとに課す課題 30%、(2)期末試験 70%で採点します。
学生への メッセージ	講義の進め方、評価について詳細な説明をしますので初回の講義には必ず出席すること。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　浮田准教授室
備考	講義情報を twitter にて発信していきます。それほど頻繁ではありません(@toruukita)。 教科書は後期開講の憲法 II(人権各論)と共通です。 毎回 moodl において出席者に対してフィードバックを課しますがここでの質問等については、次回の講義にて解説を行います。 (参考)2022 年度の成績の結果は以下のとおりです(およその数) 登録者 271 名　受験者 225 名　A 評価 22 名(10%)　B 評価 79 名(35%)　C 評価 49 名(22%)　D 評価 55 名(24%)　EF 評価(不合格)20 名(9%)

科目名	憲法Ⅱ（人権各論）	科目名（英文）	Constitutional Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	浮田　徹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1017a0		

授業概要・目的	基本的人権領域における重要な部分としての具体的な人権規定を学んでもらいます。 個別の人権規定についての理解が深まる。 「憲法 I」を履修していることを前提にして講義を行っていきます。本科目を受講する学生は前期憲法 I も登録しておくことが望ましいです。
到達目標	この授業を通じて学生には、「憲法 I」で学んだ人権の総論的な考え方を、個別の人権条項についての各論に反映させて理解できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	講義形式で行います。講義に必要なものはレジュメ、ノート、教科書、六法です。 レジュメは事前に moodle から入手、印刷して持参してください。 ※moodle の利用方法につき (1)moodle とは 摂南大学の採用する ICT ツールです。大学のトップページにリンクがあります。 (2)moodle の登録方法につき 講義には自分で登録する必要があります。 ログインし、「ナビゲーション」のところにある「コース」をクリック、「コースを検索する」から 「23 憲法 2」と入力して検索し「2023 憲法 II(人
科目学習の効果（資格）	憲法はあらゆる公務員試験および公務員として働き始めてからも科目として設定されることが多いです。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・人権学習の前提の確認	講義概要の説明と導入ための事項の確認を行う	予習：教科書の目次を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
2	表現の自由(1)	表現の自由の価値について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
3	表現の自由(2)	報道の自由について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
4	表現の自由(3)	インターネットにおける表現の問題について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
5	表現の自由(4)	集会・結社の自由について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
6	経済的自由(1)	経済活動における権利について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
7	経済的自由(2)	具体的な経済的自由の保障と規制について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
8	経済的自由(3)	具体的な経済的自由の保障と規制について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
9	財産権	所有と財産に関する権利について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
10	生存権	社会権としての生存権について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
11	生存権 2	社会権としての生存権について学ぶ 2	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
12	教育を受ける権利	公教育における国民の権利について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
13	労働基本権	労働者の権利について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
14	法定手続の保障	憲法 31 条の保障する内容について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。
15	刑事手続に関する権利	32 条以下の具体的権利について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20 分)。 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60 分)。

関連科目	憲法 I、憲法 III その他あらゆる法律科目と関連します。憲法 I とは内容的な連続性もあります。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	憲法の時間〔第 2 版〕	井上典之編	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 （基準）	課題(30%)、期末試験(70%)により評価します。			
学生への メッセージ	憲法Ⅰも履修しておいてください。			
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　浮田准教授室			
備考	「憲法 I」を履修していることを前提にして講義を行う部分もありますので本科目を受講する学生は前期憲法Ⅰも登録しておいてください。 確認ペーパー等の解答については次回講義にて解説を行います。			

科目名	憲法Ⅲ（統治機構）	科目名（英文）	Constitutional Law III
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	浮田　徹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2018a0		

授業概要・目的	本講義では、憲法 I、II で習得した知識を土台として、基本的人権と並ぶ憲法の重要な構成要素である統治機構について学習してもらいます。憲法の統治機構の基本的な部分、応用への足がかりまでを学習することを目的としています。
到達目標	この授業を通じて学生には、日本国憲法の採用する様々な制度を理解し、全体としての統治システムの構造と作用を把握するところにあります。その上で、統治に関する憲法の規定が、単に国家の構成について定めたというだけではなく、憲法で掲げられる基本的人権などの重要な価値を保障するための組織を作り上げるものであるということを理解できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	講義形式で行います。講義に必要なものはレジュメ、ノート、教科書、六法です。 レジュメは事前に moodle から入手、印刷して持参してください。 ※moodle の利用方法につき (1)moodle とは 摂南大学の採用する ICT ツールです。ポータルサイトなどにリンクはあります。 (2)moodle の登録方法につき 講義には自分で登録する必要があります。 ログインし、「ナビゲーション」のところにある「コース」をクリック、「コースを検索する」から 「23 憲法 3」と入力して検索し「2023 憲法 3(統治
科目学習の効果（資格）	司法試験、公務員試験などの試験科目です。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	・講義の概要説明	予習：指定教科書の目次に目を通しておく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
2	統治機構総論	・権力分立概論 ・民主主義概論	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
3	立法と行政(1)	・議院内閣制	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
4	立法と行政(2)	・国会の性格、地位	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
5	立法と行政(3)	・内閣を頂点とする行政権の仕組み	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
6	司法権(1)	・裁判所の役割	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
7	司法権(2)	・違憲審査	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
8	司法権(3)	・憲法裁判	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
9	平和主義(1)	・憲法 9 条の解釈について	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
10	平和主義(2)	・自衛隊の憲法適合性、日本の安全保障	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
11	憲法改正	・現代における憲法改正論議	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
12	憲法保障	・憲法保障のシステムについて	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
13	天皇制	・日本国憲法における象徴天皇制	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
14	地方自治	・憲法上の地方自治	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)
15	まとめ	・まとめ	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(20 分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60 分)

関連科目	行政法や国際法といった実定法領域のほか、政治学、行政学などひろく政治学の領域へと学習を展開する基礎となります。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新・エッセンス憲法	安藤高行編	法律文化社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
評価方法 （基準）	講義ごとに課される課題 30%、期末試験 70%で評価します。
学生への メッセージ	基本的人権だけでなく、統治機構も理解することで憲法の勉強を完成させましょう。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　浮田准教授室
備考	講義情報を twitter にて発信していきます。それほど頻繁ではありません(@toruukita)。 毎回 moodl において出席者に対してフィードバックを課しますがここでの質問等については、次回の講義にて解説を行います。 (参考)2022 年度の成績の結果は以下のとおりです(およその数) 登録者 129 名　受験者 102 名　A 評価 13 名(13%)　B 評価 13 名(13%)　C 評価 33 名(32%)　D 評価 30 名(29%)　EF 評価(不合格)13 名(13%)

科目名	行政法Ⅰ（行政過程）	科目名（英文）	Administrative Law I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	笛木　淳
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2019a0		

授業概要・目的	私たちの生活にはさまざな行政の活動が関わっています。行政法とは，そのような行政の活動やサービスの根拠や仕組みに関する法規範です。この授業では，行政プロセスを規律する法的な仕組み，ルールとしてどのようなものがあるか，具体例に即して学んでもらいます。
到達目標	この授業を通じて学生には，次の３点を達成できることが期待されます。 （１）具体例に即して，行政法の基本原理・原則を理解し，定義等を分かりやすく説明できる。 （２）具体例に即して，行政法の基本的な制度・仕組みを指摘できる。 （３）具体的問題について，行政法の原則，制度をもとに思考し，解決を提示できる。
授業方法と留意点	以下のような反転方式により授業を行います。 （１）事前学習：事前に配信・配布される動画・資料により知識の習得を図る。 この授業では予習が欠かせません。 （２）授業： (i) 知識の確認や事例演習等の〈個人ワーク〉 (ii) 教員による〈解説〉, (iii)学生個人による〈振返り〉。 （３）授業資料等 ・教科書『スタンダード行政法』と解説用資料（PPT スライド）と演習レジュメ（Word ファイル）を用います。 ・授業資料等は事前に Teams 上にアップしますので，あらかじめダウンロ
科目学習の効果（資格）	以下の資格レベルにおける行政法基礎学力の習得。 ・国家公務員試験，地方上級試験 ・行政書士など ・法学検定「スタンダード」レベル（行政法）の習得

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	ガイダンス（授業方法，学習方法，成績評価），行政（法）の意義	(ア)　事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書の序章，第 1 章第 1 節 I～III（pp. 1-16）をあらかじめ読んでおくこと（1 時間）。 (イ)　事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
2	行政法の法源，一般原則	行政法の法源，比例原則，信頼保護原則，平等原則	(ア)　事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書の第 1 章第 2 節（pp. 17-24）をあらかじめ読んでおくこと（1 時間）。 (イ)　事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
3	法律による行政の原理	法律の法規創造力，法律の優位，法律の留保	(ア)　事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書の第 1 章第 3 節 I（pp. 25-29）をあらかじめ読んでおくこと（1 時間）。 (イ)　事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
4	行政組織法	行政組織法の基本原理，行政主体，行政機関	(ア)　事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書の第 2 章（pp. 59-74）をあらかじめ読んでおくこと（1 時間）。 (イ)　事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
5	行政裁量・ 習熟度確認（小テスト）	行政裁量の意義，裁判所による司法審査との関係， 熟度確認のための演習（小テスト）	(ア)　事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第 1 章第 4 節（pp. 30-41）をあらかじめ読んでおくこと（1 時間）。 (イ)　事後学習：授業資料・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
6	行政立法	行政による基準定立，法規命令・行政規則	(ア)　事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第 3 章第 1 節（pp. 78-88）をあらかじめ読んでおくこと（1 時間）。 (イ)　事後学習：授業資料・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
7	行政行為（１）	行政行為の意義，種類，効力	(ア)　事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第 3 章第 2 節 I～III（pp . 89-102）をあらかじめ読んでおくこと（1 時間）。 (イ)　事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
8	行政行為（２）	行政行為の瑕疵，職権取消し／撤回，附款	(ア)　事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第 3 章第 2 節 IV～VI（pp. 103-115）をあらかじめ読んでおくこと（1 時間）。 (イ)　事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
9	行政手続	行政行為の手続を中心とした行政手続法。	(ア)　事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第 1 章第 5 節(pp. 42-54),第 3 章第 2 節 VIII（pp. 116-125）をあらかじめ読んでおくこと（1 時間）。 (イ)　事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。

	10	行政計画・ 習熟度確認（小テスト）	行政計画の意義， 熟度確認のための演習（小テスト）	（ア）　　事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第 3 章第 5 節（pp. 137-140）をあらかじめ読んでおくこと（1 時間）。 （イ）　　事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
	11	行政指導	行政指導の意義，手続	事前配布資料に目を通し，教科書第 3 章第 4 節（pp. 131-136）をあらかじめ読んでおくこと（1 時間）。
	12	行政上の義務履行確保	行政上の強制執行，即時強制，制裁	（ア）　　事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第 4 章（pp. 145-163）をあらかじめ読んでおくこと（1 時間）。 （イ）　　事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
	13	行政と情報（１）	行政調査，公文書管理制度，情報公開制度	（ア）　　事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第 5 章第 1 節～第 3 節（pp. 165-177）をあらかじめ読んでおくこと（1 時間）。 （イ）　　事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
	14	行政と情報（２）	個人情報保護制度の仕組み	（ア）　　事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第 5 章第 4 節（pp. 178-185）をあらかじめ読んでおくこと（1 時間）。 （イ）　　事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
	15	授業総括・ 習熟度確認（小テスト）	習熟度確認テストと授業の全体総括	（ア）　　事前学習：事前配布資料，これまでの授業範囲を復習すること。 （イ）　　事後学習：授業内の演習内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。

関連科目	憲法，民法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スタンダード行政法	村上裕章	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	行政法 Ⅰ　現代行政過程論［第 4 版］	大橋洋一	有斐閣
2	社会とつながる行政法入門［第 2 版］	大橋洋一	有斐閣
3	行政法判例 50！	大橋真由美ほか	有斐閣

評価方法
（基準）

＊前年度と成績評価方法が異なります。

・成績評価対象：第 5 回，第 10 回，第 15 回の習熟度確認小テストのみ。
・成績内訳：
　第 5 回：３０％
　第 10 回：３５％
　第 15 回：３５％
・テスト実施方法：
　毎回出される復習課題から 80%，新規問題 20%
・論述式の問題を出題する場合は，事前に問題を提示する。
・持ち込みは原則不可。

学生への メッセージ	意欲的な学習が望まれます。
担当者の 研究室等	笛木講師室（11 号館 9 階）
備考	復習課題は次回の授業で解説する。

科目名	行政法Ⅱ（行政救済）	科目名（英文）	Administrative Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	笛木　淳
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2020a0		

授業概要・目的	国家の活動により損害・損失を被った市民には，さまざまな救済の手段・仕組みが準備されており，法治国原理の実現が企図されています。この授業では，そのような仕組み・ルールである行政救済法の基本について学んでもらいます。
到達目標	この講義を通じて，学生には以下の３点を身につけることが期待されます。 （１）行政救済法にはどのような仕組みがあるか理解し，それぞれの特徴を説明する能力。 （２）行政訴訟上の具体的問題として典型的にどのようなものがあるかを理解し，これを解決するための考え方。 （３）国家賠償・損失補償の具体的問題として典型的にどのようなものがあるかを理解し，これを解決するための考え方。
授業方法と留意点	以下のような反転方式により授業を行います。 （１）事前学習：事前に配信・配布される動画・資料により知識の習得を図る。 この授業では予習が欠かせません。 （２）授業： (i) 知識の確認や事例演習等の〈個人ワーク〉 (ii) 教員による〈解説〉, (iii)学生個人による〈振返り〉。 （３）授業資料等 ・教科書『スタンダード行政法』と配布資料（PPT スライド），演習レジュメ（Word ファイル）を用います。 ・スライド資料等は事前に Teams 上にアップしますので，あらかじめダウンロー
科目学習の効果（資格）	以下の資格レベルにおける行政法基礎学力の習得。 ・国家公務員試験，地方上級試験等で問われる行政法の基礎学力の習得。 ・法学検定「スタンダード」レベル（行政法）の習得

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	ガイダンス（授業方法，学習方法，成績評価），行政救済法の全体像	(ア)　事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書の序章，第 6 章第 1 節（pp. 187-200）をあらかじめ読んでおくこと（1 時間）。 (イ)　事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
2	取消訴訟の訴訟要件（１）	抗告訴訟，訴訟要件，処分性	(ア)　事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書の第 6 章第 2 節 I（pp. 201-214）をあらかじめ読んでおくこと（1 時間）。 (イ)　事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
3	取消訴訟の訴訟要件（２）	原告適格，法律上の利益，第三者	(ア)　事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書の第 6 章第 2 節 II（pp. 214-226）をあらかじめ読んでおくこと（1 時間）。 (イ)　事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
4	取消訴訟の訴訟要件（３）	訴えの利益，提訴期間，被告適格など	(ア)　事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書の第 6 章第 2 節 III-VIII（pp. 226-238 ）をあらかじめ読んでおくこと（1 時間）。 (イ)　事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
5	取消訴訟の判決 習熟度確認（小テスト）	既判力・形成力・拘束力 熟度確認のための演習（小テスト）	(ア)　事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第 6 章第 4 節（pp. 249-252）をあらかじめ読んでおくこと（1 時間）。 (イ)　事後学習：授業資料・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
6	取消訴訟の審理	本案審理における基本的な仕組み	(ア)　事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第 6 章第 3 節（pp. 239-246）をあらかじめ読んでおくこと（1 時間）。 (イ)　事後学習：授業資料・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
7	無効等確認訴訟	無効等確認訴訟の意義・公定力，重大な違法，補充性	(ア)　事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第 6 章第 5 節 I（pp. 253-258）をあらかじめ読んでおくこと（1 時間）。 (イ)　事後学習：授業資料・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
8	義務付け訴訟・不作為の違法確認訴訟	義務付け・不作為違法確認の訴えの意義と機能	(ア)　事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第 6 章第 5 節 II~III（pp. 258-272）をあらかじめ読んでおくこと（1 時間）。 (イ)　事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。

	9	公法上の当事者訴訟	公法上の当事者訴訟の意義と機能	(ア)　事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第 6 章第 5 節 V（pp. 272-276）をあらかじめ読んでおくこと（1 時間）。 (イ)　事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
	10	客観訴訟・ 習熟度確認（小テスト）	司法権，法律上の争訟，客観訴訟 習熟度確認の演習（小テスト）	(ア)　事前学習：事前配布資料をあらかじめ読んでおくこと（1 時間）。 (イ)　事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
	11	行政の不服申立てについて	行政不服申立ての意義，基本的仕組み	(ア)　事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第 6 章第 7 節（pp. 282-295）をあらかじめ読んでおくこと（1 時間）。 (イ)　事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
	12	国家賠償訴訟（１）	公権力責任，過失，違法性	(ア)　事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第 7 章第 1 節 I～II（pp. 301-326）をあらかじめ読んでおくこと（1 時間）。 (イ)　事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
	13	国家賠償訴訟（２）	営造物責任，瑕疵概念，判例	(ア)　事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第 7 章第 1 節 III～IV（pp. 327-339）をあらかじめ読んでおくこと（1 時間）。 (イ)　事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
	14	損失補償	財産権，公用収用，特別の犠牲	(ア)　事前学習：事前配布資料に目を通し，教科書第 7 章第 2 節（pp. 340-353）をあらかじめ読んでおくこと（1 時間）。 (イ)　事後学習：授業・教科書の内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。
	15	授業総括 習熟度確認（小テスト）	習熟度確認テストと授業の全体総括	(ア)　事前学習：事前配布資料，これまでの授業範囲を復習すること。 (イ)　事後学習：授業内の演習内容を見直し，整理，要約する（2 時間）。

関連科目	憲法，民事訴訟法（履修済みか並行して履修することが望ましい）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スタンダード行政法	村上裕章	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	行政法判例５０！	大橋真由美ほか	有斐閣
2	行政法 II　現代行政救済論［第 4 版］	大橋洋一	有斐閣
3	行政法 II 行政救済法［第 6 版］	塩野宏	有斐閣

評価方法（基準）

＊前年度と成績評価方法が異なります。

・成績評価対象：第 5 回，第 10 回，第 15 回の習熟度確認小テストのみ。
・成績内訳：
　第 5 回：３０％
　第 10 回：３５％
　第 15 回：３５％
・テスト実施方法：
　毎回出される復習課題から 80%，新規問題 20%
・論述式の問題を出題する場合は，事前に問題を提示する。
・持ち込みは原則不可。

学生へのメッセージ	公務員志望者，社会問題に関心のある方の受講を歓迎します。
担当者の研究室等	笛木講師室（１１号館９階）
備考	演習課題は次回の授業で解説する。

科目名	刑法ＩA（総論①）	科目名（英文）	Criminal Law Ⅰ A
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	小野　晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2025a0		

授業概要・目的	・刑法総論は、全ての犯罪に共通する犯罪成立要件論と刑罰論に関する一般原則を探求する学問である。 ・刑法ＩA（総論①）では、刑法の機能、刑法の解釈と罪刑法定主義、主として単独正犯を念頭に置いた犯罪成立要件論として、構成要件論、違法性論、責任論をめぐる諸問題について概説する。 ・刑法総論は、個別の犯罪を離れた犯罪一般を考察対象とするため、抽象的な犯罪論体系に関する議論が多い。 そのため、初学者にはやや難しく感じられるかもしれないが、なるべく身近な具体例を用いて分かりやすく解説する。
到達目標	この授業を通じて学生には、 「・刑法の謙抑性、罪刑法定主義およびその派生原則を説明できる ・刑法総論をテーマとした事例における論点（問題の争点）を抽出し、それに対する判例や通説的見解の内容を説明できる ・各種公務員試験や国家試験で必要とされる刑法総論に関する知識を修得できる」 ようになることが期待される。
授業方法と留意点	・講義形式で行う（社会情勢上、その変更が必要な場合は遅滞なく連絡する）。 ・本講義は、ICT ツールとして Microsoft 社の teams を用いる。 ・課題提示や資料配布などは Microsoft 社 teams を通じて行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。 ・近時、刑事法の改正が相次いでいるので、最新の六法（有斐閣『ポケット六法』や『判例六法』、または、三省堂『デイリー六法』もしくは『模範小六法』の最新版がのぞましい）を
科目学習の効果（資格）	・「刑法総論」および「刑法各論」をしっかり受講すれば、法学検定、地方公務員上級職採用試験、労働基準監督官採用試験（大卒）、裁判所事務官採用試験、および、司法書士試験で出題される「刑法総論」の問題を確実に処理することができるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンスと文献紹介 刑法と刑法学	・授業の進め方と文献紹介 ・刑法の意義 ・刑法の機能 ・刑法学とは何か	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
2	刑法の基礎	・古典学派と近代学派 ・わが国の刑法思想と刑法学 ・刑法の法源 ・刑法の解釈 ・罪刑法定主義	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
3	刑法の法源と解釈	・罪刑法定主義 ・刑罰の正当化根拠 ・刑法の適用範囲	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
4	犯罪の基本概念	・犯罪の概念 ・犯罪論の体系 ・刑法上の行為	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
5	構成要件	・構成要件の概念 ・構成要件要素	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
6	構成要件該当性１	・実行行為とは何か ・実行行為の客観面	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
7	構成要件該当性２	・実行行為の主観面 （構成要件的故意と構成要件的錯誤）	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
8	構成要件該当性３	・刑法上の因果関係論	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
9	構成要件該当性のまとめ	・構成要件該当性に関する重要論点の総復習	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
10	違法性阻却事由１	・違法性とは何か ・正当行為と正当業務行為	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
11	違法性阻却事由２	・正当防衛 ・過剰防衛 ・誤想（過剰）防衛	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
12	違法性阻却事由３	・緊急避難 ・過剰避難 ・誤想（過剰）避難 ・超法規的違法性阻却事由	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
13	責任阻却事由１	・責任とは何か ・責任能力	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
14	責任阻却事由２	・違法性の意識とその可能性 ・期待可能性	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
15	違法性および責任阻却事由のまとめ	違法性および責任阻却事由に関する重要論点の総復習	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）

関連科目	刑事法概論、刑法各論、経済刑法、現代社会と刑事法、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><td>1</td><td>『はじめての刑法学』</td><td>佐久間修＝小野晃正＝川崎友巳＝安田拓人＝品田智史＝十河太朗＝豊田兼彦</td><td>三省堂</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>開講時に各種判例・補助教材を紹介する</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>・形成的評価を行うため、各回講義後に、Microsoft 社 teams を通じて Microsoft　forms から課題を配信する。各回の課題の得点を合算して評価対象とする（講義の理解度 5%＋課題の得点 95%）。定期試験は実施しない。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>・法律学の学習は予習よりも問題演習を中心とした復習が効果的です。
・問題演習の素材としては、公務員試験や司法書士試験で出題される刑法の問題がさしあたり有効です。
・問題集は開講時に紹介します。
・公務員（地方行政職、国家行政職、警察、消防、刑務、裁判所事務官、検察事務官）試験やロースクールをはじめとする大学院の受験を意識している学生はなるべく受講するようにしてください。
・総論上の争点とそれに対する判例ないし通説を正確に理解すれば、公務員試験はむしろ易しい類です。決して臆することなく果敢にチャレンジしてください。
・新聞、テレビ、ラジオ、ネットなど媒体は問いませんが、刑法に関する面白いネタがたくさん落ちていますので、なるべくニュースに接するようにしましょう。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>11 号館 10 階　小野教授室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>修正された構成要件論（未遂犯論と共犯論）、罪数論については刑法ⅡB（総論②）で取り扱う。
課題に対するコメントは次回講義または teams を通じて行う。</td></tr>
</table>

科目名	刑法ＩＢ（総論②）	科目名（英文）	Criminal Law Ⅰ B
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	小野　晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2026a0		

授業概要・目的	本科目は２回生前期配当の刑法ＩＡ（総論①）の続編である。 刑法ＩＡ（総論①）で取り扱うことができなかった応用的論点（修正された構成要件論）について、最新の判例と学説動向を踏まえながら解説を行う。また、こうした問題をテーマにした公務員試験（裁判所事務官・労働基準監督官・地方公務員）、司法書士および司法試験等の客観式問題を確実に正解できる力を身につけてもらうことを目的とする。
到達目標	この講義を通じて学生には、 「・未遂犯および共犯の処罰根拠を説明できる ・刑法総論をテーマとした事例における論点（問題の争点）を抽出し、それに対する判例や通説的見解の内容を説明できる ・各種公務員試験や国家試験で必要とされる刑法総論に関する知識を修得できる」 ようになることが期待される。
授業方法と留意点	・講義形式で行う（社会情勢上、その変更が必要な場合は遅滞なく連絡する）。 ・本講義は、ICT ツールとして Microsoft 社の teams を用いる。 ・課題提示や資料配布などは Microsoft 社 teams を通じて行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。 ・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。 留意点：毎回出席することで、問題を解く際の頭の働
科目学習の効果（資格）	司法試験や法科大学院入学試験の準備、裁判所事務官・労働基準監督官・地方公務員採用試験など。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	講義の進め方の説明	教科書の入手 事前：教科書の単独正犯に関する構成要件論をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：教科書の単独正犯に関する章末問題を解くこと（2 時間）
2	未遂犯	予備犯と未遂犯 未遂犯の処罰根拠 実行の着手	事前：障害未遂をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：障害未遂を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
3	不能犯	不能犯をめぐる近時の判例・学説動向	事前：不能犯をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：不能犯を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
4	中止未遂	中止未遂をめぐる近時の判例・学説動向	事前：中止未遂をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：中止未遂を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
5	共犯の基礎	狭義の共犯と広義の共犯 共犯の処罰根拠 共犯の従属性	事前：共犯の処罰根拠論をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：共犯の処罰根拠論を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
6	共同正犯１	実行共同正犯	事前：実行共同正犯をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：実行共同正犯を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
7	共同正犯２	共謀共同正犯	事前：共謀共同正犯をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：共謀共同正犯を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
8	共同正犯３	過失の共同正犯	事前：過失の共同正犯をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：過失の共同正犯を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
9	教唆犯と幇助犯	狭義の共犯をめぐる近時の学説・判例動向	事前：教唆犯と幇助犯をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：教唆犯と幇助犯を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
10	共犯をめぐる諸問題１	片面的共犯と承継的共犯をめぐる近時の学説・判例動向	事前：片面的共犯と承継的共犯をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：片面的共犯と承継的共犯を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
11	共犯をめぐる諸問題２	共犯関係からの離脱・共犯の中止犯をめぐる近時の学説・判例動向	事前：共犯からの離脱と共犯の中止をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：共犯からの離脱と共犯の中止を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
12	共犯をめぐる諸問題３	共犯の錯誤、共犯と緊急行為をめぐる近時の学説・判例動向	事前：共犯の錯誤をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：共犯の錯誤を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
13	共犯と身分	共犯と身分をめぐる近時の学説・判例動向	事前：共犯と身分をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：共犯と身分を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
14	罪数	一罪と数罪 法条競合 包括一罪 科刑上一罪 併合罪	事前：罪数論をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：罪数論を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
15	講義のまとめ	重要事項の総復習	事前：未遂犯論と共犯論をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：未遂犯論と共犯論を見直し、章末問題を解く

				こと（2時間）

関連科目	刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策、現代社会と刑事法など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	刑法総論（有斐閣ストゥディア）	内田幸隆＝杉本一敏	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	刑法総論（第2版）	佐久間　修	成文堂
2	判例集および補助教材について開講時に指示する		
3			

評価方法（基準）	・形成的評価を行うため、各回講義後に、Microsoft 社 teams を通じて Microsoft　forms から課題を配信する。各回の課題の得点を合算して評価対象とする（講義の理解度5%＋課題の得点95%）。定期試験は実施しない。
学生へのメッセージ	・刑法が好きな学生や上記各種試験等の準備を要する学生の履修を歓迎する。ただし、少なくとも刑法総論については単位取得または同時履修しておくことが望ましい。
担当者の研究室等	11号館10階　小野教授室
備考	課題に対するコメントは次回講義または teams を通じて行う。

科目名	刑事政策Ⅰ（犯罪原因論）	科目名（英文）	Criminal Policy I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	島田　良一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2033a0		

授業概要・目的	本授業では、社会学や人類学、生物学、心理学といった様々な学問領域に基づく犯罪学理論や各種犯罪の発生原因について、学説、実務の動向などを踏まえながら解説する。
到達目標	本授業を通じて学生には、刑事政策のうち、犯罪学理論及び各種犯罪の発生原因に関する基本的な知識を修得することが期待される。
授業方法と留意点	授業担当者作成にかかるレジュメに基づいて授業を進めていく。 なお、各回の授業テーマに応じて、視聴覚教材も使用する予定である 。
科目学習の効果（資格）	資格試験や公務員試験といった「試験」には直接役に立たないが、将来、法曹三者や警察官、検察事務官、裁判所事務官、刑務官、法務教官など刑事法に関わる仕事に就こうと思っている人にはどこかで役に立つはずである。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の内容および進め方に関する説明、文献・参考書の紹介	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
2	古典派犯罪学と実証主義について	犯罪学が誕生した経緯について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
3	犯罪生物学の展開	初期の犯罪学理論のうち、人類学や生物学を基調としたものについて	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
4	犯罪社会学の展開①	初期の犯罪社会学のうち、文化伝達の理論に基づくものについて	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
5	犯罪社会学の展開②	初期の犯罪社会学のうち、社会構造論に基づくものについて	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
6	犯罪学の新しい動向①	ラベリング理論について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
7	犯罪学の新しい動向②	コントロール理論、環境犯罪学について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
8	各種犯罪の分析①	少年非行の原因について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
9	各種犯罪の分析②	非行少年を取り巻く環境について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
10	各種犯罪の分析③	精神障害者による犯罪について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
11	各種犯罪の分析④	高齢者による犯罪について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
12	各種犯罪の分析⑤	性犯罪について①	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
13	各種犯罪の分析⑥	性犯罪について②	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
14	各種犯罪の分析⑦	ストーカー犯罪について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
15	まとめ	重要論点の再解説	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）

関連科目	刑事政策Ⅱ、刑事訴訟法、刑法総論、刑法各論、地域防犯政策など。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	刑事政策（第２版）	川出敏裕・金光旭	成文堂
2	ビギナーズ刑事政策（第３版）	守山正・安部哲夫	成文堂
3	犯罪白書（各年度版）	法務総合研究所編	法務省

評価方法（基準）	課題（78%）、レポート（22%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館９階　島田准教授室
備考	課題については、次回の授業の冒頭で解説する。

科目名	刑事政策Ⅱ（犯罪対策論）	科目名（英文）	Criminal Policy II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	島田　良一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2034a0		

授業概要・目的	本授業では、犯罪者処遇に関する法制度や刑罰の意義・機能などについて、学説、実務の動向などを踏まえながら解説する。
到達目標	本授業を通じて学生には、刑事政策のうち、犯罪者処遇に関する法制度や刑罰の意義・機能などに関する基本的な知識を修得することが期待される。
授業方法と留意点	授業担当者作成にかかるレジュメに基づいて授業を進めていく。 なお、各回の授業テーマに応じて、視聴覚教材も使用する予定である。
科目学習の効果（資格）	資格試験や公務員試験といった「試験」には直接役に立たないが、将来、法曹三者や警察官、検察事務官、裁判所事務官、刑務官、法務教官など刑事法に関わる仕事に就こうと思っている人にはどこかで役に立つはずである。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の内容および進め方に関する説明、文献・参考書の紹介	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
2	司法的処遇について①	捜査段階（警察）における犯罪者処遇について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
3	司法的処遇について②	捜査段階（検察）における犯罪者処遇について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
4	司法的処遇について③	裁判段階における犯罪者処遇について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
5	刑罰について①	総論・自由刑について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
6	刑罰について②	財産刑について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
7	刑罰について③	死刑について①	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
8	刑罰について④	死刑について②	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
9	施設内処遇について①	刑務所における処遇について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
10	施設内処遇について②	刑務所における就労支援の取組みについて	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
11	社会内処遇について	保護観察、更生緊急保護などについて	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
12	非行少年の処遇について①	少年保護手続の概要について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
13	非行少年の処遇について	保護処分について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
14	犯罪報道をめぐる諸問題について	少年事件における実名報道など	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）
15	まとめ	重要論点の再解説	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約１時間）

関連科目	刑事政策Ⅰ、刑事訴訟法、刑法総論、刑法各論、地域防犯政策など。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	刑事政策（第２版）	川出敏裕・金光旭	成文堂
2	ビギナーズ刑事政策（第３版）	守山正・安部哲夫	成文堂
3	犯罪白書（各年度版）	法務総合研究所編	法務省

評価方法（基準）	課題（78%）、レポート（22%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11号館９階　島田准教授室
備考	課題については、次回の授業の冒頭で解説する。

科目名	民法ＩA（総則①）	科目名（英文）	Civil Law Ⅰ A
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤＥＦＧＨＩ
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	城内　明
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○		
科目ナンバリング	JDJ1035a0		

授業概要・目的	民法総則は、民法（特に財産法）を学ぶ上での基本です。 本講義は、民法総則を学ぶことにより、民法の思考を体得することを目的とします。
到達目標	この授業を通じて学生には、民法総則の基本を正確に理解することが期待されます。
授業方法と留意点	この授業では、Teams 上にアップしたレジュメを用いて、授業を進めます。レジュメを印刷して、授業に参加してください。授業では、講義とあわせ、レジュメの穴埋めや、問題演習等も行います。六法も授業内で利用しますので、必ず、冊子体の六法(ポケット六法等)を持ってきてください。
科目学習の効果（資格）	公務員試験(地方上級・国家公務員一般職等)のほか、宅建・行政書士・司法書士・司法試験等の各種資格試験、法科大学院(ロースクール)入試等に必須。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・民法の勉強の仕方・民法総論(1)	ガイダンス・民法の勉強の仕方・民法典の構造を学ぶ	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
2	民法総論(2)	契約とは何か・意思自治の原則・契約は守られなければならない・契約自由の原則とその限界	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
3	民法総論(3)	契約の成立・意思表示の構造・意思表示の効力発生時期	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
4	意思表示の瑕疵(1)、無効と取消し	意思表示の瑕疵総説・無効と取消し	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
5	意思表示の瑕疵(2)	心裡留保・虚偽表示(1)	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
6	意思表示の瑕疵(3)	虚偽表示(2)（94 条 2 項の類推適用）	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
7	意思表示の瑕疵(4)	錯誤	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
8	意思表示の瑕疵(5)	詐欺・強迫・消費者取消権	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。。
9	中間試験	中間試験	第 1 回～第 8 回の内容を復習し、中間試験に臨むこと。
10	法律行為の有効要件(1)	確定可能性、強行法規、公序良俗①	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
11	法律行為の有効要件(2)	公序良俗②、事例問題対策①	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
12	法律行為の有効要件(3)	公序良俗③、事例問題対策②	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
13	私権行使の自由とその限界(1)	公共の福祉、信義則	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
14	私権行使の自由とその限界(2)、時効制度(1)	権利濫用の禁止、時効総論、消滅時効①	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
15	時効制度(2)	消滅時効②、事例問題対策③	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。

関連科目	法学概論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民法 1 総則（有斐閣ストゥディア）	山本敬三	有斐閣

	2	法学講義民法 ： 総則（第３版）	奥田昌道	勁草書房
	3	民法判例百選Ⅰ 総則・物権〔第９版〕	潮見佳男	有斐閣

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民法講義 1(第７版)	近江幸治	成文堂
2	民法概論 1 民法総則〔第２版〕	山野目章夫	有斐閣
3			

評価方法 （基準）	中間試験(授業内試験(50 点))・期末試験(定期試験(50 点))を実施し、その合計点で成績評価します(100%)。
学生への メッセージ	民法総則は、民法（特に財産法）を学ぶ上での基本です。 2 年次以降に債権法・物権法（・および相続法）を学ぶ予定のある人、公務員試験・資格試験・法科大学院入試等、民法が受験科目となっている試験を受験予定の人(受験する可能性のある人)は、必ず受講して下さい。なお、2 年次以降に開講される法律学特修特別講義に参加を希望する学生は、本講義の履修が必要です。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　城内准教授室
備考	中間試験は、採点後、法学部事務室にて返却します。必ず受け取ってください。 教科書は、指定の①「民法 1 総則（有斐閣ストゥディア)」あるいは②「法学講義民法総則〔第三版〕」のいずれかと、「判例百選」の 2 冊の購入をお勧めします。①②共に初学者向けのテキストですが、①の方がより易しく、②の方がより詳しいです。なお、①②の代わりに、参考書に掲げたテキストを購入しても構いません。

科目名	民法ＩA（総則①）	科目名（英文）	Civil Law Ⅰ A
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	K
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大川　謙蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○		
科目ナンバリング	JDJ1035a0		

授業概要・目的	法律とは、社会において生じる問題を解決するために使われるものです。そのような法律も、いくつかの形で分類がなされます。そのような分類の中で、私人といわれる、一般の人たちの間の問題等を規律するものの総称が民事法と呼ばれるものであり、その中心となる法律が民法です。民法では特に財産と家族の問題が規定されています。 本講義では、上記のような民法の全体像を総則と呼ばれる部分を中心として把握する予定である。
到達目標	この講義を通じて、学生には民事法と呼ばれる私人間に問題について適用される法律の概観を確認し、今後の民事に関する法律科目を勉強するための概要を把握するようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義に関連する、レジュメまたは資料を配布する予定である。 レジュメはTeams等でデータ配信する予定である。各自、情報処理室で資料の印刷が必要であることを留意すること。 講義は対面方式の教室で行う。 法律科目であるので、六法（書籍の一種）が必要となる。 ※二つのクラスに分かれているため、自分がどちらのクラスに属するかは必ず事前に確認すること。
科目学習の効果（資格）	社会生活の基本法である民法の学習方法を知ることができ、民事法（民法、民事訴訟法、破産法等）が出題科目となっている各種資格試験の基礎となる知識を習得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	法学部がどのよなものであり、法律関係の講義がどのような問題を扱うのかなどの、概要部分を扱う予定です。	新聞などから、目次も含め、教科書から興味を持てる部分を是非見つけてください。予復習 90 分が目安です。
2	民事法とは	民事法の内容および手続法との関係などを扱う予定です。	自分の周辺でどのような「法的問題」があるのかを検討してみて下さい。予復習 90 分が目安です。
3	法律内容と民法	民事法と民法との関係、民法の構造を把握する予定です。	1 回目の内容から、自分の周りに存在する財産に関連する問題を自分なりに検討して下さい。予復習 90 分が目安です。
4	民法と契約という制度	契約という制度を通して、社会における法律関係を確認していく予定です。	現実の生活の中で、どのような契約をしているのかなどを確認して下さい。予復習 90 分が目安です。
5	人という存在	契約をすることができるのは誰なのか、また単独では契約ができない人がいるのかなどを確認する予定です。	これまでの経験から、法的に自分が置かれている立場を理解し、親の同意が必要となった契約を確認して下さい。予復習 90 分が目安です。
6	所有権を通しての物権①	人が物を所持すること、すなわち支配することを、法律はどのように考えているのかを見ていく予定です。	他人が自分の物を返さないという経験がこれまでありましたか？この法的意味を確認して下さい。予復習 90 分が目安です。
7	所有権を通しての物権②	物権がどのような問題について規律されるのかを確認する予定です。	物を所有する以外に、人と物との関係にどのようなものがあるのかを検討すること。予復習 90 分が目安です。
8	金融担保一般	民法典に存在する担保について確認をする予定です。	お金の貸し借りの構造を法的に分析すること。予復習 90 分が目安です。
9	不法行為	他人に損害を与えてしまい、賠償をしなければならないことを、法的に見ていきます。	交通事故や約束違反によって生じた損害は、賠償により回復することができるのかについて、検討すること。予復習 90 分が目安です。
10	親族法	家族関係などを確認する。	自分の周りの人たちの家族関係を、法的視点で整理すること。予復習 90 分が目安です。
11	民事手続①	実体法との違いを確認する。	実体法と訴訟法の条文を比べ、その役割の違いを見つけること。講義中の課題を再確認のこと。予復習 90 分が目安です。
12	民事手続②	権利実現の手順などを確認する。	裁判がどのような流れで実施されているのかを確認すること。教科書の該当部分を確認すること。予復習 90 分が目安です。
13	民事手続③	手続にも様々なものがあることを確認する。	勝訴したのちに、実際に権利がどのように実現されるのかを、裁判所 HP ページおよび、教科書の該当部分を確認すること。講義中の課題を再確認のこと。予復習 90 分が目安です。
14	相続法	人の死後の財産関係を簡単に扱う予定です。	人の死後に起こりうる問題等を確認すること。予復習 90 分が目安です。
15	全体の復習	民事法の構造の再確認	全体の内容を確認すること。予復習 90 分が目安です。

関連科目	憲法、商法、会社法など、法律に関連する科目。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	各回、Teams を使った小テストを行う（70～80%：講義状況により変化する）。 講義内での小テスト（20～30%）。 その合計 100 点満点計算を行う予定である。

学生への メッセージ	民事法は日常生活に関する規範である。したがって、民事法を学習することは、日常生活を法的観点から検討することでもある。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　大川准教授室
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の３つから成り立っています。それぞれにつき、90 分を確保して学習をする必要があります。しかし、予習・復習については、各講義の内容により多少の違いが出てきますので、必ず講義でそれらの対象を聞くようにしてください。事前・事後学習内容について、講義で出された課題、指摘部分及び確認テスト内容については、各対応時の講義で確認・解説を行います。 近年、受講態度のひどい学生が散見されます。受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外しますので、ご理解下さい。 19

科目名	民法ＩＢ（総則②）	科目名（英文）	Civil Law Ⅰ B
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	城内　明
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1036a0		

授業概要・目的	民法総則は、民法（特に財産法）を学ぶ上での基本です。 本講義は、民法総則を学ぶことにより、民法の思考を体得することを目的とします。
到達目標	この授業を通じて学生には、民法総則の基本を正確に理解することが期待されます。
授業方法と留意点	この授業では、Teams 上にアップしたレジュメを用いて、授業を進めます。レジュメを印刷して、授業に参加してください。授業では、講義とあわせ、レジュメの穴埋めや、問題演習等も行います。六法も授業内で利用しますので、必ず、冊子体の六法(ポケット六法等)を持ってきてください。
科目学習の効果（資格）	公務員試験(地方上級・国家公務員一般職等)のほか、宅建・行政書士・司法書士・司法試験等の各種資格試験、法科大学院(ロースクール)入試等に必須。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・人(1)	ガイダンス、権利能力の始期・条件	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
2	人(2)	権利能力の終期	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
3	人(3)	意思能力・制限行為能力①(総説)	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
4	人(4)	制限行為能力②(制限行為能力者制度総説・制限行為能力者の相手方の保護)	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
5	人(5)	制限行為能力③(未成年者)	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
6	人(6)	制限行為能力④(成年後見制度①)	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
7	人(7)	制限行為能力⑤(成年後見制度②)	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
8	中間試験	中間試験	第１回～第８回の内容を復習し、中間試験に臨むこと。
9	代理(1)	代理総説・代理権①	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
10	代理(2)	代理権②／代理行為	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
11	代理(3)	無権代理総説、無権代理の相手方の保護	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
12	代理(4)	無権代理と相続、事例問題対策①	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
13	代理(5)	表見代理①、事例問題対策②	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
14	代理(6)	表見代理②　事例問題対策③	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。
15	人(8)、物	法人、物	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業後、速やかに「今日の復習」を解き、分からない内容は質問すること(最低 10 分)。

関連科目	法学概論、民法Ⅰa(総則)

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民法１ 総則（有斐閣ストゥディア）	山本敬三	有斐閣

	2	法学講義民法 ： 総則（第３版）	奥田昌道	勁草書房
	3	民法判例百選Ⅰ 総則・物権〔第９版〕	潮見佳男	有斐閣

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民法講義 1(第７版)	近江幸治	成文堂
2	民法概論 1 民法総則〔第２版〕	山野目章夫	有斐閣
3			

評価方法 （基準）	中間試験(授業内試験(50 点))・期末試験(定期試験(50 点))を実施し、その合計点で成績評価します(100%)。
学生への メッセージ	民法総則は、民法（特に財産法）を学ぶ上での基本です。 2 年次以降に債権法・物権法（・および相続法）を学ぶ予定のある人、公務員試験・資格試験・法科大学院入試等、民法が受験科目となっている試験を受験予定の人(受験する可能性のある人)は、必ず受講して下さい。なお、2 年次以降に開講される法律学特修特別講義に参加を希望する学生は、本講義の履修が必要です。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　城内准教授室
備考	中間試験は、採点後、法学部事務室にて返却します。必ず受け取ってください。 教科書は、指定の①「民法 1 総則（有斐閣ストゥディア)」あるいは②「法学講義民法総則〔第三版〕」のいずれかと、「判例百選」の 2 冊の購入をお勧めします。①②共に初学者向けのテキストですが、①の方がより易しく、②の方がより詳しいです。なお、①②の代わりに、参考書に掲げたテキストを購入しても構いません。

科目名	民法ⅡA（物権）	科目名（英文）	Civil Law II A
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	家本　真実
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2037a0		

授業概要・目的	物権は、物を支配する権利です。たとえば、土地を所有していれば、その土地に対して所有権という物権を持っていることになり、その土地を自由に使用したり、処分したりすることができます。物権法は、民法の中でも、こうした物権に関するルールを定めた法律です。 本講義では、担保物権を除く物権法の全体像を理解することを目的とします。より理解を深めていただくために、できる限り身近な事例を挙げるとともに、条文に対する解釈や、学説、判例について紹介していきたいと考えています。
到達目標	この講義を通じて、学生の皆さんには、担保物権を除く物権法の基礎をしっかり理解し、民法における物に対する権利の考え方について全体像を把握できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	要点を記したレジュメを配布し、それに沿って解説をおこなうといったかたちで講義をおこないます。 講義は所定の講義時限におこない、レジュメにつき解説を加えます。六法を参照していただくことも多いので、書籍またはオンラインで参照できるものを必ずご用意ください。教科書は可能な限り、入手していただくことをお勧めします。
科目学習の効果（資格）	各種資格試験においては、物権法を含む民法の理解が必須となることがあります。ただし、本講義では各種資格試験の対策まではおこないません。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに 物権法概説	講義のガイダンス 物権法の全体像（物権とは何か、民法における物権法の位置づけ）	講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2時間)
2	物権変動（1）	物権変動の基本的理論	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。(1.5時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
3	物権変動（2）	不動産の物権変動における公示と登記制度	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。(1.5時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
4	物権変動（3）	不動産の物権変動における「第三者」	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。(1.5時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
5	物権変動（4）	不動産の物権変動における「取消しと登記」	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。(1.5時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
6	物権変動（5）	不動産の物権変動における「取得時効と登記」	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。(1.5時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
7	物権変動（6）	登記の効力	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。(1.5時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
8	物権変動（7）	動産の物権変動における公示と即時取得	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。(1.5時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
9	占有権（1）	占有の取得、移転、消滅	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。(1.5時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
10	占有権（2）	占有の効力	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。(1.5時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
11	所有権（1）	所有権の基本的理論、所有権の取得	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。(1.5時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
12	所有権（2）	所有権に基づく物権的請求権	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。(1.5時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
13	所有権（3）	共同所有	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。(1.5時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
14	所有権（4）	建物の区分所有	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。(1.5時間) 講義終了後、次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。(2.5時間)
15	用益物権 おわりに	地上権、永小作権、地役権、入会権 講義のまとめと補足	講義前に、今回の講義内容に関する教科書部分（前回講義終了時に指示）を読んでおくこと。全講義を通して疑問や不明点がないか確認したうえで講義に臨むこと。(3時間) 講義終了後、今回の講義を復習し、疑問点を整理し

				ておくこと。(3 時間)

関連科目	民法総則、債権法、契約法、担保物権法など民法科系目全般。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民法の基礎 2－物権 （第 2 版）	佐久間 毅	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	六法		
2			
3			

評価方法（基準）	講義内で課す課題（確認テスト、ペーパーなど）への取り組みを 30%程度、学期末試験の成績を 70%程度の割合で、最終的な評価をおこないます。
学生へのメッセージ	講義中は私語を慎んでください。講義内容は、講義の進行具合に応じて変更する場合もあります。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　家本准教授室
備考	講義中に課した課題については、次の回以降の講義で講評・解説をおこないます。

科目名	民法Ⅲ A（債権総論①）	科目名（英文）	Civil Law III A
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大川　謙蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2039a0		

授業概要・目的	民法典における財産法には、総則・物権・債権の三つ編があります。 その中で、物権とは人と物との関係を扱う部分であり、債権とは人と人との関係を扱う部分です。 さらに、債権法の部分は大きく分けて、総論部分と各論部分に分かれます。本講義ではその総論部分を扱います。
到達目標	この授業を通じて学生には、債権法の内容を全体的に把握し日常的な取引で生じる法的問題等を考察できる知識を涵養することを目的とします。 具体的には、取引で生じる債権とはいかなる内容のもので、いかなる性質を有しているのか、合意（契約）により生じた債権が約束通りに履行されない場合にはどのような問題が生じるのか、これらの債権を確保する行為は許されるのか、それらの債権を売却するなどして有効活用することはできないのか、という点を見ていく予定です。 これにより、本講義では、社会における取引の意義を把握できるようにし、かつ、自分の判断で問題を処理できるための基本的知識の獲得をすることが期待されます。
授業方法と留意点	講義に関連する、レジュメまたは資料を使用する。教科書は適宜参照する。 レジュメは Teams でデータ配信する予定である。情報処理室・自宅等で各自印刷して使用すること（第１回目のみ配布）。 講義は対面方式の教室で行う。Teams に動画を後日アップロードする予定であるが、これはあくまで復習用であり、録画の品質等は担保できない。 法律科目であるので、六法（書籍の一種）が必要となる。予復習状況は備考欄も確認すること。
科目学習の効果（資格）	各種資格試験においては、債権法を含む民法の理解が必須となります。公務員試験等、民法科目が出題される場合や、銀行取引などにおいても重要となる知識を債権法は含んでいます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	債権法概論	講義のガイダンス 前・後期 30 回で使う内容の確認 債権各論との住み分け状況の確認	総則および債権各論部分を見直すこと。 債権総論の教科書で全体確認をすること
2	債権総論と各論	債権の全体像および契約法との関係で重要となる制度の確認	意思表示部分の予習を行っておくこと。 総務契約において生じうる問題状況の整理を行うこと。
3	債権の目的	様々な債権の性質と法制度	各契約により生み出される債権債務の内容を確認しておくこと。 各債権の特徴を押さえたうえで、そこから生じうる問題点と法制度を整理すること
4	債権の基本的効力	債権があることで認められる各効力 履行の強制	手続法の概要を確認しておくこと。 履行を強制的に実現させる形、およびそれらがどのような場面で用いられるかを整理すること。
5	債務不履行責任１	債務不履行による損害賠償請求の要件	不法行為制度と債務不履行制度の違いを整理しておくこと。 債務不履行による損害賠償請求が認められるための要件を不法行為制度と対比しながら整理すること。
6	債務不履行責任２	損害の意義	不法行為制度と債務不履行制度における損害概念の相違を整理しておくこと。 判例における損害概念を整理すること
7	債務不履行責任３	受領遅滞	履行遅滞の意義を整理しておくこと。 債務不履行制度と受領遅滞制度との違いを整理すること。
8	債務不履行責任４	賠償を調整する制度の確認	債権各論で問題となる危険負担制度を整理しておくこと。 過失相殺の意義を整理すること。
9	責任財産保全制度１	債権者代位権	担保法の概要を復習しておくこと。 責任財産の意義および債権の効力の部分を復習すること
10	責任財産保全制度２	債権者代位権の行使	代位権の要件を整理しておくこと。 相殺の意義を整理すること。
11	責任財産保全制度３	債権者代位権の転用	登記制度および賃貸借契約の内容を整理しておくこと。 転用が問題となる判例の内容を整理すること。
12	責任財産保全制度４	詐害行為取消権	債権者代位権の内容を復習しておくこと。 責任財産の意義および債権の効力の部分を復習すること
13	責任財産保全制度５	詐害行為取消権の行使	詐害行為取消権の要件を整理しておくこと。 相殺の意義を整理すること。
14	責任財産保全制度６	詐害行為取消権の意義	詐害行為取消権の法的性質を整理しておくこと。 詐害行為取消権の問題点を整理すること。
15	全体復習	前期の講義内容の総括	全体内容を復習すること。

関連科目	契約法、不法行為法、民法総則など、民法系科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民法Ⅲ－債権総論（最新版）	野村豊弘ほか	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

	2 | | | | 3 | | | |
評価方法 （基準）	Teams を使った小テストを行う（70%～80%：講義の状況により変化予定）。 教室での小テスト（20%～30%：講義の状況により変化予定）。 その合計 100 点満点計算を行う予定である。
学生への メッセージ	法律学にもかなり慣れたことだと思いますが、不十分だと思われる方も、復習をしつつ取り組んでいけば十分に理解ができますし、興味も持っていけるはずです。 講義の動画はアップロード（講義終了時まで掲載）を行います。欠席時に、オンライン上での小テスト等には各自で対応してください。 小テストの解答期間は、日曜日の 23 時 59 分までを予定し、講義後 5 日間ほどの猶予期間を設定しています。 なお、大学は対面講義が原則であることから、それ以外の欠席事由は成績評価にあたっては何らの正当性をもたないということを理解しておいてください。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　大川准教授室
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の３つから成り立っています。それぞれにつき、90 分を確保して学習をする必要があります。 予習・復習については、各講義の内容により多少の違いが出てきますので、必ず講義でそれらの対象を聞くようにしてください。事前・事後学習内容について、講義で出された課題及び指摘部分の内容については、各対応時の講義で確認・解説を行います。 受講態度のひどい学生が散見されます。受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外しますので、ご理解下さい。

科目名	民法ⅢB（債権総論②）	科目名（英文）	Civil Law III B
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大川　謙蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2040a0		

授業概要・目的	民法典における財産法には、総則・物権・債権の三つ編があります。 その中で、物権とは人と物との関係を扱う部分であり、債権とは人と人との関係を扱う部分です。 さらに、債権法の部分は大きく分けて、総論部分と各論部分に分かれます。本講義ではその総論部分を扱います。
到達目標	この授業を通じて学生には、債権法の内容を全体的に把握し日常的な取引で生じる法的問題等を考察できる知識を涵養することを目的とします。 具体的には、取引で生じる債権とはいかなる内容のもので、いかなる性質を有しているのか、合意（契約）により生じた債権が約束通りに履行されない場合にはどのような問題が生じるのか、これらの債権を確保する行為は許されるのか、それらの債権を売却するなどして有効活用することはできないのか、という点を見ていく予定です。 これにより、本講義では、社会における取引の意義を把握できるようにし、かつ、自分の判断で問題を処理できるための基本的知識の獲得をすることが期待されます。
授業方法と留意点	講義に関連する、レジュメまたは資料を使用する。教科書は適宜参照する。 レジュメはTeamsでデータ配信する予定である。情報処理室・自宅等で各自印刷して使用すること（第１回目のみ配布）。 講義は対面方式の教室で行う。Teamsに動画を後日アップロードする予定であるが、これはあくまで復習用であり、録画の品質等は担保できない。 法律科目であるので、六法（書籍の一種）が必要となる。 予復習については、備考欄も確認すること。
科目学習の効果（資格）	各種資格試験においては、債権法を含む民法の理解が必須となります。公務員試験等、民法科目が出題される場合や、銀行取引などにおいても重要となる知識を債権法は含んでいます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	債権総論前期の整理	講義のガイダンス 前期の復習 予復習については、備考欄も確認すること。	前期内容の全体を確認しておくこと。 法学概論における講義内容と対比して債権各論との関係で不明確な部分を確認すること。
2	多数当事者の債権債務関係１	当事者が多数となる場面の確認 分割債権債務	売買契約の内容を確認しておくこと。 法人制度との違いを理解し、多数者関係との違いを整理しておくこと。
3	多数当事者の債権債務関係２	連帯債務１	教科書の債権の消滅原因部分を確認しておくこと。 絶対的・相対的効力事由の意義とそれらの違いを制度と共に整理すること。
4	多数当事者の債権債務関係３	連帯債務２	教科書の債権の消滅原因部分を確認しておくこと。 相殺との関係で生じる事象および不真正連帯債務の制度との違いを整理すること。
5	多数当事者の債権債務関係４	不可分債権債務 連帯債権	連帯債務の全体像を確認しておくこと。 不可分債務と連帯債務の違いを整理すること。
6	保証債務１	保証契約の意義	担保法の概要を確認しておくこと。 連帯債務と保証債務との違いを整理すること。
7	保証債務２	連帯保証 複数の保証人	通常保証制度の内容を確認しておくこと。 分別の利益制度を整理すること。
8	債権譲渡１	債権譲渡の意義	物権における対抗要件制度を復習しておくこと。 譲渡の制限の全体像を整理すること。
9	債権譲渡２	債権譲渡の対抗要件	債権譲渡の制度を確認しておくこと。 債権譲渡の対抗要件制度における各用語と制度の意義を整理すること。
10	債務引受	免責的債務引受 併存的債務引受 履行引受	債権譲渡の意義を確認しておくこと。 債権譲渡と債務引受の意義の違いと要件の違いを整理すること。
11	債権の消滅１	弁済１	債権の発生原因を確認しておくこと。 弁済において問題となる事象を整理すること。
12	債権の消滅２	弁済２ 相殺１	弁済の意義を連帯債務の部分を含め確認しておくこと。 相殺の意義および行使方法を整理すること。
13	債権の消滅３	相殺２	相殺の要件（相殺適状）を確認しておくこと。 相殺と他の制度との関連状況を整理しておくこと。
14	債権の消滅４	相殺３ その他の制度	相殺の全体像を確認しておくこと。 債権の消滅原因となる各制度の特徴を整理すること。
15	全体の復習	前・後期の全体復習	前期の内容を含め整理しておくこと。 講義で取り上げた要点をまとめること。

関連科目	契約法、不法行為法、民法総則など、民法系科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民法Ⅲ－債権総論（最新版）	野村豊弘ほか	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	Teams を使った小テストを行う（70%～80%：講義の状況により変化予定）。 教室での小テスト（20%～30%：講義の状況により変化予定）。 その合計 100 点満点計算を行う予定である。
学生へのメッセージ	法律学にもかなり慣れたことだと思いますが、不十分だと思われる方も、復習をしつつ取り組んでいけば十分に理解ができますし、興味も持っていけるはずです。 講義の動画はアップロード（講義終了時まで掲載）を行います。欠席時に、オンライン上での小テスト等には各自で対応してください。 小テストの解答期間は、日曜日の 23 時 59 分までを予定し、講義後 5 日間ほどの猶予期間を設定しています。 なお、大学は対面講義が原則であることから、それ以外の欠席事由は成績評価にあたっては何らの正当性をもたないということを理解しておいてください。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　大川准教授室
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の３つから成り立っています。それぞれにつき、90 分を確保して学習をする必要があります。しかし、予習・復習については、各講義の内容により多少の違いが出てきますので、必ず講義でそれらの対象を聞くようにしてください。事前・事後学習内容について、講義で出された課題及び指摘部分の内容については、各対応時の講義で確認・解説を行います。 近年、受講態度のひどい学生が散見されます。受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外しますので、ご理解下さい。 小テストや課題テス

科目名	民法Ⅳ A（債権各論①）	科目名（英文）	Civil Law Ⅳ A
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大川　謙蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2041a0		

授業概要・目的	民法典における財産法には、総則・物権・債権の三つがあります。 その中で、物権とは人と物との関係を扱う部分であり、債権とは人と人との関係を扱う部分です。 債権法の部分は大きく分けて、総論部分と各論部分に分かれます。本講義では各論部分を扱います。特に、契約を中心に確認する予定です。
到達目標	この授業を通じて学生には、債権法の内容を全体的に把握し日常的な取引で生じる法的問題等を考察できる知識を涵養する事を目的としています。 具体的には、日常的にどのような取引がなされているのか、それらの契約にはどのようなものがあるのか、それらの契約がどのような性質を含んでいるのかを確認します。 これにより、本講義では、社会における取引の意義を把握できるようにし、かつ、自分の判断で問題を処理できるための基本的知識の獲得をすることが期待されます。
授業方法と留意点	講義に関連する、レジュメまたは資料を使用する。教科書は適宜参照する。 レジュメはTeamsでデータ配信する予定である。情報処理室・自宅等で各自印刷して使用すること（第１回目のみ配布）。 講義は対面方式の教室で行う。Teamsに動画を後日アップロードする予定であるが、これはあくまで復習用であり、録画の品質等は担保できない。 法律科目であるので、六法（書籍の一種）が必要となる。 予復習については、備考欄も確認すること。
科目学習の効果（資格）	各種資格試験においては、債権法を含む民法の理解が必須となります。公務員試験等、民法科目が出題される場合や、銀行取引などにおいても重要となる知識を債権法は含んでいます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	債権各論の全体像 予復習については、備考欄も確認すること。	民法総則の内容を確認しておくこと。 教科書の目次から債権各論の全体像を確認・整理すること。
2	契約の意義	契約の意義 債権の意義 契約の成立	民法総則における意思表示制度を確認しておくこと。 契約が成立した場合の効力を整理すること。
3	債権の発生原因	契約 事務管理 不当利得 不法行為	債権の意義を確認しておくこと。 各制度の要件を整理すること。
4	契約の種類性質・法的性質	各契約の特徴とその性質	売買契約の内容を確認しておくこと。 契約の性質を整理すること。
5	特殊な契約の成立	定型約款	契約が成立する形および契約自由の原則を確認しておくこと。 約款が組み入れられる形を整理すること。
6	契約の効力１	総務契約における牽連性 原始的不能 同時履行の抗弁	無効と取消し制度の内容を確認しておくこと。 債務不履行制度の概要を整理すること。
7	契約の効力２	危険負担 第三者のためにする契約	債務不履行制度の概要を確認しておくこと。 債務不履行制度との違いから危険負担の制度を整理すること。
8	解除１	解除制度	総務契約の意義を確認しておくこと。 債務不履行制度と解除との関係を整理すること。
9	解除２	解除の効果と第三者	解除制度を確認しておくこと。 取り消しと第三者との関係と違いを整理すること。
10	贈与契約	贈与の制度	債権の発生原因を確認しておくこと。 無償契約の特徴を整理すること。
11	売買契約１	売買の意義 売買の一方の予約 手付	契約の成立の内容を確認しておくこと。 解除制度と手付との関係を整理すること
12	売買契約２	売買と契約不適合責任	債務不履行制度を確認しておくこと。 契約不適合とされる事象とそれに対応する制度との関係を整理すること。
13	売買契約３ 交換契約	担保責任としての売主の責任 交換契約の概要	契約不適合責任の内容を確認しておくこと。 財産移転型契約の全体を整理すること。
14	消費貸借契約	消費貸借契約の意義	金銭の貸し借りの状況および利息債権について確認しておくこと。 消費貸借契約の特徴を整理すること。
15	全体のまとめ	全体の復習	前期の全体を復習し、契約法の特徴を確認・整理すること。

関連科目	債権総論、不法行為法、民法総則など、民法系科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民法Ⅳ－債権各論　（最新版）	藤岡康宏ほか	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	Teams を使った小テストを行う（70%～80%：講義の状況により変化予定）。 教室での小テスト（20%～30%：講義の状況により変化予定）。 その合計 100 点満点計算を行う予定である。
学生へのメッセージ	法律学にもかなり慣れたことだと思いますが、不十分だと思われる方も、復習をしつつ取り組んでいけば十分に理解ができますし、興味も持っていけるはずです。 講義の動画はアップロード（講義終了時まで掲載）を行います。欠席時に、オンライン上での小テスト等には各自で対応してください。 小テストの解答期間は、日曜日の 23 時 59 分までを予定し、講義後 5 日間ほどの猶予期間を設定しています。 なお、大学は対面講義が原則であることから、それ以外の欠席事由は成績評価にあたっては何らの正当性をもたないということを理解しておいてください。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　大川准教授室
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の３つから成り立っています。それぞれにつき、90 分を確保して学習をする必要があります。しかし、予習・復習については、各講義の内容により多少の違いが出てきますので、必ず講義でそれらの対象を聞くようにしてください。事前・事後学習内容について、講義で出された課題及び指摘部分の内容については、各対応時の講義で確認・解説を行います。 近年、受講態度のひどい学生が散見されます。受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外しますので、ご理解下さい。 小テストや課題テス

科目名	民法Ⅳ B（債権各論②）	科目名（英文）	Civil Law Ⅳ B
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大川　謙蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2042a0		

授業概要・目的	民法典における財産法には、総則・物権・債権の三つがあります。 その中で、物権とは人と物との関係を扱う部分であり、債権とは人と人との関係を扱う部分です。 債権法の部分は大きく分けて、総論部分と各論部分に分かれます。本講義では各論部分を扱います。特に、契約を中心に確認する予定です。
到達目標	この授業を通じて学生には、債権法の内容を全体的に把握し日常的な取引で生じる法的問題等を考察できる知識を涵養する事を目的としています。 具体的には、日常的にどのような取引がなされているのか、それらの契約にはどのようなものがあるのか、それらの契約がどのような性質を含んでいるのかを確認します。 これにより、本講義では、社会における取引の意義を把握できるようにし、かつ、自分の判断で問題を処理できるための基本的知識の獲得をすることが期待されます。
授業方法と留意点	講義に関連する、レジュメまたは資料を使用する。教科書は適宜参照する。 レジュメはTeamsでデータ配信する予定である。情報処理室・自宅等で各自印刷して使用すること（第１回目のみ配布）。 講義は対面方式の教室で行う。Teamsに動画を後日アップロードする予定であるが、これはあくまで復習用であり、録画の品質等は担保できない。 法律科目であるので、六法（書籍の一種）が必要となる。 予復習については、備考欄も確認すること。
科目学習の効果（資格）	各種資格試験においては、債権法を含む民法の理解が必須となります。公務員試験等、民法科目が出題される場合や、銀行取引などにおいても重要となる知識を債権法は含んでいます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	前期の内容の確認および契約法の全体像を整理 予復習については、備考欄も確認すること。	前期の全体を確認しておくこと。 契約の法的性質を整理すること。
2	使用貸借契約	使用貸借の内容	消費貸借の意義を確認しておくこと。 使用貸借の特徴を整理すること。
3	賃貸借契約１	賃貸借契約の内容	双務契約の意義および使用貸借契約の内容を確認しておくこと。 賃貸借契約における権利義務内容を整理すること。
4	賃貸借契約２	賃借権の無断譲渡・転貸 賃貸人の地位の留保 賃貸借契約の終了	継続的契約の事情を確認しておくこと。 賃貸借契約関係が移転する状況を整理すること。
5	賃貸借契約３	借地借家法１ 借地関係	民法上の賃貸借契約の内容を確認しておくこと。 民法と借地借家法での内容の違いを整理すること。
6	賃貸借契約２	借地借家法２ 借家関係	借地借家法の内容を確認しておくこと。 借地借家法の特別法としての意義と民法との違いを整理すること。
7	雇用契約	雇用契約の内容	役務提供契約の内容を確認しておくこと。 民法と労働法の内容を違いを整理すること。
8	請負契約１	請負契約の内容	雇用契約の内容を確認しておくこと。 売買との違いを整理し、制作物供給契約の形も整理すること。
9	請負契約２	請負における契約不適合問題・危険負担問題	売買契約における契約不適合責任を確認しておくこと。 請負と売買で不適合責任として異なる点を整理すること。
10	委任契約１	委任における権利義務	役務提供契約の全体像を確認しておくこと。 委任における特殊性を整理すること。
11	委任契約２	医療問題	債務不履行制度、不法行為制度を確認しておくこと。 医療過誤問題を整理すること。
12	寄託契約	寄託契約の内容	賃貸借契約の内容を確認しておくこと。 賃貸借契約との違いを整理すること。
13	その他の契約	組合契約 終身定期金契約	法人制度を確認しておくこと。 契約全体を整理すること。
14	事務管理・不当利得	事務管理の概要 不当利得の概要	債権の発生原因を確認しておくこと。 不法行為制度との違いを整理すること。
15	全体のまとめ	前後期のすべての内容を確認する。	全体の復習を行うこと。

関連科目	債権総論、不法行為法、民法総則など、民法系科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民法Ⅳ－債権各論　（最新版）	藤岡康宏ほか	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Teamsを使った小テストを行う（70%～80%：講義の状況により変化予定）。 教室での小テスト（20%～30%：講義の状況により変化予定）。

	その合計 100 点満点計算を行う予定である。
学生への メッセージ	法律学にもかなり慣れたことだと思いますが、不十分だと思われる方も、復習をしつつ取り組んでいけば十分に理解ができますし、興味も持っていけるはずです。 講義の動画はアップロード（講義終了時まで掲載）を行います。欠席時に、オンライン上での小テスト等には各自で対応してください。 小テストの解答期間は、日曜日の 23 時 59 分までを予定し、講義後 5 日間ほどの猶予期間を設定しています。 なお、大学は対面講義が原則であることから、それ以外の欠席事由は成績評価にあたっては何らの正当性をもたないということを理解しておいてください。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　大川准教授室
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の３つから成り立っています。それぞれにつき、90 分を確保して学習をする必要があります。しかし、予習・復習については、各講義の内容により多少の違いが出てきますので、必ず講義でそれらの対象を聞くようにしてください。事前・事後学習内容について、講義で出された課題及び指摘部分の内容については、各対応時の講義で確認・解説を行います。 近年、受講態度のひどい学生が散見されます。受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外しますので、ご理解下さい。 小テストや課題テス

科目名	消費者法	科目名（英文）	Consumer Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	城内　明
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2046a0		

授業概要・目的	本講義は、消費者問題の本質について理解を深めること、被害の発生を防ぎ、被害者の救済を図るかについての実践的な知識を身につけることを目的とします。
到達目標	この授業を通じて学生には、消費者問題の本質について理解を深め、被害の発生を防ぎ、被害者の救済を図るかについての実践的な知識を身につけることが期待されます。
授業方法と留意点	本講義は、Teams 上にアップしたレジュメを利用して実施します。レジュメは配布しませんので、各自プリントアウトしてご持参ください。
科目学習の効果（資格）	消費生活専門相談員、消費生活アドバイザー、消費生活コンサルタント、その他、今後、市民生活を送る上で不可欠。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・消費者法概説	消費者法とは何か	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
2	消費者契約法(1)	消費者契約法概説	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
3	消費者契約法(2)	誤認・困惑類型における取消し(1)	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
4	消費者契約法(3)	誤認・困惑類型における取消し(2)	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
5	消費者契約法(4)	誤認・困惑類型における取消し(3)	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
6	消費者契約法(5)	不当約款規制(1)	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
7	消費者契約法(6)	不当約款規制(2)・消費者団体訴訟	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
8	特定商取引に関する法律(1)	訪問販売(1)	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
9	特定商取引に関する法律(2)	訪問販売(2)・電話勧誘販売・訪問購入	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
10	特定商取引に関する法律(3)	連鎖販売取引	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
11	特定商取引に関する法律(4)	通信販売・ネガティブオプション	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
12	特定商取引に関する法律(5)	特定継続的役務提供・業務提供誘引販売取引	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
13	消費者信用取引	販売信用取引・消費者金融取引	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
14	商品安全と法(1)	商品安全に係る法制度概説	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。
15	商品安全と法(2)	製造物責任法	レジュメを参照し、テキストの該当範囲に目を通しておくこと(最低 10 分)。授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低 10 分)。

関連科目	民事法関連科目全般
教科書	

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>基本講義　消費者法（第5版）</td><td>中田邦博ほか</td><td>日本評論社</td></tr>
<tr><td>2</td><td>消費者法</td><td>大澤彩</td><td>商事法務</td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>消費者法(有斐閣ストゥディア)</td><td>宮下修一ほか</td><td>有斐閣</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>期末試験を実施します。基礎的内容の理解(60%)、基礎知識を応用する能力(40%)を総合評価します。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>悪徳業者は、いつ何時、あなたに襲いかかってくるかわかりません。降りかかった火の粉を払いのける術を身につけ、自分自身、家族・友人、そして社会を守ってください。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>11号館10階　城内准教授室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>教科書は、指定教科書のいずれかを購入してください。指定教科書が難しすぎる場合は、参考書指定のテキストをお使いください。</td></tr>
</table>

科目名	商法Ⅰ（総則・商行為）	科目名（英文）	Commercial Law I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	高間　佐知子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2054a0		

授業概要・目的	この講義では、広く商法に関する法制度･法規制について学習することを目的としています。具体的に扱う内容は、商法総則および商行為となります。
到達目標	この講義の目標は、法律で定められた制度を理解できるようにすることに加え、個別の法的問題点に対して論理的に検討できるようになることです。
授業方法と留意点	講義内容に合わせてレジュメを Teams で配布するので、レジュメをもとに重要事項などをメモしながら内容を理解してください。毎回の講義後にグループで練習問題を解いてもらい、答え合わせをします。事後学習として間違えた部分はしっかりと復習してください。質問等は練習問題にある質問欄に記入してください。次回の講義で質問にはお答えします。
科目学習の効果（資格）	様々な営業に関わる法律の１つである「商法」について基礎知識および法的問題点を知ることができます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義の進め方、商法の概要	六法で商法に何が書かれているか見ておく(1 時間)
2	商法の法源	商事制定法、商慣習法、約款、法適用の順序	商慣習法や約款とは何か調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
3	商人	商人の意義、擬制商人、商人資格の得喪	商人に関する条文を見ておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
4	営業の譲渡	営業譲渡に関するルール	営業譲渡に関する条文を見ておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
5	商号①	商号の意義、選定、商号権	商号に関する条文を見ておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
6	商号②	名板貸し	名板貸しに関する条文を見ておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
7	商業登記	登記事項、手続、公示、法的効力	登記について調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
8	確認試験（中間）	第2回～第7回の講義の復習として試験を実施する。	第 2 回～第 7 回の講義内容を復習する（2 時間）
9	商行為の意義・種類	絶対的商行為、営業的商行為、附属的商行為	501 条～503 条について調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
10	商行為の通則	商行為一般に関する特則	504 条～516 条について調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
11	商事売買・交互計算	商事売買に関する特則、交互計算契約	524 条～528 条、交互計算契約について調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う(1 時間)
12	運送営業	運送営業に関するルール	570 条～594 条について見ておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
13	場屋営業	場屋営業に関するルール	場屋営業とは何か調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
14	支配人	支配人に関するルール	支配人とは何か調べておく（1 時間） 練習問題の復習を行う（1 時間）
15	確認試験（期末）	第 9 回～第 14 回の講義の復習として試験を実施する。	第 9 回～第 14 回の講義内容を復習する（2 時間）

関連科目	民法、会社法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	商法総則・商行為法　基礎と展開　（第 3 版）	末永敏和	中央経済社
2			
3			

評価方法（基準）	確認試験 2 回分（中間 50%、期末 50%）で評価します。
学生へのメッセージ	第 1 回で講義の進め方を説明するので、説明を聴いた上で受講してください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階
備考	練習問題および質問は講義終了後に回収をして、次回に返却します。 確認試験を実施後、解答は Teams に掲載するので、自己採点を行って復習してください。

科目名	商法ⅡA（会社①）	科目名（英文）	Commercial Law II A
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高間　佐知子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2055a0		

授業概要・目的	この講義では、「会社法」で定められている法制度･法規制について学習することを目的としています。経済社会において会社という存在が活動するなかで、どのようにして組織されていて、またどのようにして活動しているのか、法的な観点から学びます。会社経営の要にもなるコーポレートガバナンスに対する法規定を中心に、経営者である取締役の法的責任についても言及します。
到達目標	この講義の目標は、会社法で定められた制度を理解できるようにすることに加え、会社法に関する法的問題点を理解して検討できるようになることです。
授業方法と留意点	講義内容に合わせてレジュメを配布するので、レジュメをもとに重要事項などをメモしながら内容を理解してください。毎回の講義終了後にグループで練習問題を解いて答え合わせをしてもらい、事後学習として特に間違えた部分についてはしっかり復習をしておきましょう。質問等は練習問題にある質問欄に記入してもらえれば、次回の講義でお答えします。
科目学習の効果（資格）	企業法務や会社経営に関する法律知識を身に着けることができます。関連する資格として、ビジネス実務法務検定、法学検定（中級）、行政書士、司法書士などがあります。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義の進め方、会社法の概要	六法などで会社法に何が書かれているのか見ておく（1時間）
2	会社のしくみ・法人格	会社の種類、社員の責任、法人格否認の法理	会社の種類を調べておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）
3	株主①	株主の権利	株主にはどのような権利があるのか考えてみる（1時間） 練習問題トの復習を行う（1時間）
4	株主②	株主平等の原則、株主名簿	株主平等の原則について調べておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）
5	株式制度	株式の内容、種類株式	種類株式について調べておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）
6	機関設計①	機関の設置強制に関するルール	会社法 327 条、328 条、402 条を学習しておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）
7	機関設計②	指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社、社外取締役	指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社、社外取締役について調べておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）
8	確認試験（中間）	第2回～第7回の内容について復習としての確認試験を実施する。	第2回～第7回の講義内容を復習する（2時間）
9	株主総会①	招集権者、招集手続、決議権の代理行使	株主総会の開催方法を調べておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）
10	株主総会②	決議要件、説明責任、決議の瑕疵に関する訴訟、利益供与	決議要件に関する条文を見ておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）
11	取締役	取締役の選任・資格・終任、表見代表取締役	取締役に関する条文をすべて見ておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）
12	取締役の義務	善管注意義務、忠実義務、競業避止義務、利益相反取引規制	取締役の義務に関する条文を見ておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）
13	役員等の会社に対する責任	任務懈怠責任、責任免除・軽減制度	任務懈怠責任、責任免除・軽減制度について調べておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）
14	第三者に対する責任、株主代表訴訟	第三者に対する責任の概要と要件、株主代表訴訟に関するルール	株主代表訴訟について調べておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）
15	確認試験（期末）	第9回～第14回の内容について復習としての確認試験を実施する。	第9回～第14回の講義内容を復習する（2時間）

関連科目	民法、金融商品取引法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	基礎から学べる会社法（第5版）	近藤光男ほか	弘文堂
2			
3			

評価方法（基準）	確認試験2回分（中間50%、期末50%）で評価します。
学生へのメッセージ	1回目に講義の進め方を説明しますので、それを聴いた上で受講してください。
担当者の研究室等	11号館10階
備考	練習問題は評価に含まれませんが、毎回の授業で回収して次回に返却するかたちとします。 確認試験の解答は実施後にTeamsに掲載しますので、自己採点をしてください。

科目名	商法ⅡB（会社②）	科目名（英文）	Commercial Law II B
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高間　佐知子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2056a0		

授業概要・目的	この講義では、「会社法」で定められている法制度･法規制について学習することを目的としています。経済社会において会社という存在が活動するなかで、どのようにして組織されていて、またどのようにして活動しているのか、法的な観点から学びます。前期科目である商法ⅡA（会社①）及び会社法とセットになる科目です。内容としては、会社の設立やファイナンスが中心となります。
到達目標	この講義の目標は、会社法で定められた制度を理解できるようにすることに加え、会社法に関する法的問題点を理解して検討できるようになることです。
授業方法と留意点	講義内容に合わせてレジュメを配布するので、レジュメをもとに重要事項などをメモしながら内容を理解してください。毎回の講義終了後にグループで練習問題を解いて答え合わせをしてもらい、事後学習として特に間違えた部分についてはしっかり復習をしておきましょう。質問等は質問票に記入してもらえれば、次回の講義でお答えします。
科目学習の効果（資格）	企業法務や会社経営に関する法律知識を身に着けることができます。関連する資格として、ビジネス実務法務検定、法学検定（中級）、行政書士、司法書士などがあります。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義の進め方、会社法の概要	六法などで会社法に何が書かれているのか見ておく（1時間）
2	株式①	株式の譲渡	株式について調べておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）
3	株式②	株式の併合・分割・無償割当て、単元株式制度	株式の大きさを変更する方法について調べておく（1時間） 練習問題トの復習を行う（1時間）
4	株式③	自己株式の取得	自己株式について調べておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）
5	計算	企業会計の意義、資本制度、剰余金の配当	資本について調べておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）
6	資金調達①	新株発行	募集株式の発行に関する条文を調べておく(1時間) 練習問題の復習を行う（1時間）
7	資金調達②	新株予約権、社債	新株予約権と社債について調べておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）
8	確認試験（中間）	第2回～第7回の内容について復習としての確認試験を実施する。	第2回～第7回の講義内容を復習する（2時間）
9	設立①	設立手続、定款の作成	設立に関する条文を調べておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）
10	設立②	出資の履行、設立時の機関	設立時の機関について調べておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）
11	設立③	設立登記、設立の瑕疵、設立関与者の責任	会社に登記について調べておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）
12	組織再編①	総論、事業譲渡	事業譲渡に関する条文を見ておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）
13	組織再編②	合併、会社分割	合併と会社分割について調べておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）
14	組織再編③	株式交換、株式移転、株式交付	株式交換、株式移転、株式交付について調べておく（1時間） 練習問題の復習を行う（1時間）
15	確認試験（期末）	第9回～第14回の内容について復習としての確認試験を実施する。	第9回～第14回の講義内容を復習する（2時間）

関連科目	商法ⅡA（会社①）、会社法、民法、金融商品取引法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	基礎から学べる会社法（第5版）	近藤光男ほか	弘文堂
2			
3			

評価方法（基準）	確認試験を2回実施し、中間（50%）および期末（50%）で評価します。
学生へのメッセージ	1回目に講義の進め方を説明しますので、その説明を聴いた上で受講してください。
担当者の研究室等	11号館10階
備考	練習問題は評価に含まれませんが、グループで管理して試験前に復習をしておきましょう。

科目名	労働法Ⅰ（労働保護）	科目名（英文）	Labor Law Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	寺山　洋一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2063a0		

授業概要・目的

雇用・労働関係の法律については、大別して、
① 労働者の保護を主題とする個別的な労働関係の法律
② 労働組合が主体となる集団的な労使関係の法律
③ 労働市場に関する法律
に分けることができます。

本講義では、上記①を取り扱います。
法学の基礎知識を土台として、労働契約法（就業規則の法的性質、解雇、雇止め等）、労働基準法（賃金、労働時間等）などの労働関係法律について、代表的な最高裁判決を紹介しつつ、説明を行います。

殊に、中央官庁及び議院法制局における法律その他の法令の企画・立案並びに行政訴訟事件に係る訴訟実務の経験を踏まえ、立法政策的な観点も含めて解説します。
併せて、働き方改革関連法、パワハラ関連規定などの近時の労働立法の動きについても敷衍できればと考えています。

到達目標

個別的な労働関係の法律に関する基本的な知見や知識、実務の在り方を理解した上で、就職に向けて、また、就職（起業）後において、実際に起きている雇用・労働関係をめぐる諸問題について、法的視点から考察できる能力を身につけることを目標とします。

授業方法と留意点

授業では、民法（債権法）の特別法である労働契約法、強行法規としての労働基準法その他の雇用・労働関係の法律という幅広い範囲を扱うとともに、関連条項も多岐にわたります。

履修に当たって、法律の条項や裁判例の読み方をひと通り習得しておくことにより、効果的かつ効率的に学びが深まります。

科目学習の効果（資格）

労働基準監督官試験などの公務員試験や、社会保険労務士の資格取得のためにも、有益な内容となります。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	人事労務関係法の座標	・　憲法との関連 ・　雇用契約の当事者 ・　法的責任の在り方	教科書の第１講について、授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。（計２時間）
2	「働く」をめぐる主な契約	・　雇用契約 ・　労働者派遣契約 ・　請負契約・委任契約等	教科書の第２講について、授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。（計２時間）
3	多様な働き方に応じた法制	・　契約社員 ・　パート社員 ・　派遣労働者等	教科書の第３講について、授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。（計２時間）
4	募集・採用	・　募集・採用 ・　インターンシップ ・　内定	教科書の第４講について、授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。（計２時間）
5	就労の開始	・　雇用契約書 ・　労働条件通知書 ・　試用期間	教科書の第５講について、授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。（計２時間）
6	解雇	・　整理解雇・解雇 ・　退職勧奨・希望退職	教科書の第６講について、授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。（計２時間）
7	その他の離職	・　雇止め ・　定年退職・自主退職 ・　倒産	教科書の第７講について、授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。（計２時間）
8	コンプライアンス	・　就業規則・服務規律 ・　労働条件の不利益変更 ・　懲戒処分	教科書の第８講について、授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。（計２時間）
9	賃金	・　賃金の構成 ・　賃金の支払いの５原則 ・　賞与・休業手当	教科書の第９講について、授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。（計２時間）
10	割増賃金	・　割増率 ・　算定基礎から除外される手当 ・　最低賃金	教科書の第１０講について、授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。（計２時間）
11	労働時間	・　法定労働時間 ・　フレックスタイム制 ・　みなし労働時間	教科書の第１１講について、授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。（計２時間）
12	時間外労働	・　残業 ・　３６協定 ・　上限規制	教科書の第１２講について、授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。（計２時間）
13	休憩・休日・年次有給休暇	・　休憩 ・　休日・休息 ・　年次有給休暇	教科書の第１３講について、授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。（計２時間）
14	現場の労働安全衛生	・　安全衛生管理体制 ・　労働災害	教科書の第１６講について、授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。（計２時間）
15	締めくくり考査と総括	・　既習した知識や知見が定着しているかを評定するために実施	講義内容の振返り、教科書や例題等の総ざらいを行う。（２時間）

関連科目

日本国憲法、民法（債権法）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	【電子】　人事労務関係法　令和５年度版	テラボ	斉家書房
2			
3			

<table>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>【電子】 振り返り例題　労働法　令和５年度版</td><td>テラボ</td><td>斉家書房</td></tr>
<tr><td>2</td><td>【電子】 移りゆく雇用・労働六法　令和５年度版</td><td>テラボ</td><td>斉家書房</td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>原則として、締めくくり考査（５０％）を実施します。
適時、授業中に腕試し考査を行うとともに、課題として授業外に提出物を求めること（併せて５０％）により、成績を判断します。
その際、授業中の取組姿勢なども含め、総合的に考慮して評価します。
新型コロナウイルス感染症対策等の諸事情により、上記内容の割合を変更することがあります。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td></td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>11 号館 9 階　寺山教授室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>第１回の講義時、教科書及び参考書の購入・利用について説明します。
講義中、電子書籍の教科書や参考書を参照することがありますので、各自、PC・スマートフォン等の電子機器を持ち込んでも差し支えありません。
授業外に提出物を求める課題への対応については、各課題ごとに、おおむね２時間程度を要します。
考査や課題に係る正解及び解説は、ポータルサイト上で発表します。</td></tr>
</table>

科目名	国際法Ⅰ（総論）	科目名（英文）	International Law I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥谷部　壌
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1066a0		

授業概要・目的	この科目は、グローバル時代にあって益々その重要性を増している国際法について、総論的知識を体系的に整理して身につけることを目的とします。国際法は、国内法とは相当に異なる基本構造をもっているので、新たな気持ちで授業に臨んでもらえればと思います。
到達目標	この授業を通じて学生には、 （1）国際法の性質や特徴について、第三者に分かりやすく説明できる、 （2）国際法に関連する、教職関係の試験問題や、各種資格試験で出題される問題に解答する手がかりを得ることができる、 （3）国際法に関するニュースに触れたときに、その内容を専門的な視点から理解し、第三者に分かりやすく説明できる、 ようになることが期待される。
授業方法と留意点	この授業は、毎回、レジュメを配布して実施します。
科目学習の効果（資格）	国際機関やＮＧＯなど国際性豊かな職種を希望する学生はもちろんのこと、国家公務員をはじめとする各種公務員の教養試験や教員資格取得および大学院・法科大学院進学にも役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	・イントロダクション ・国際法の基本構造	・授業計画の説明、参考文献紹介 ・国際社会と国内社会の構造上の違い、国際法の歴史的展開、現代国際法の特徴	シラバスの講義概要に目を通しておくこと。
2	国際法の基礎	国際法の存在形式、国家責任とその解除方法	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
3	国際法の法源	慣習国際法とは？　慣習法の成立要件	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
4	条約の締結手続と条約の無効・終了	条約とは？　条約の定義、分類、条約の締結手続、条約の無効・終了	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
5	条約の留保	留保についての論争。条約法条約、留保の効果	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
6	国際法主体（１）―国	国際法主体の構成要素、国家平等	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
7	国際法主体（２）―国際組織	国際組織の発展、国連とそのファミリー、国連の表決手続	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
8	国際法主体（３）―国際連合	国連の国際法上の機能、国連の法人格と権限、	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
9	国際法主体（４）―人	国際人権法の歴史、人権の法典化、さまざまな人権条約、人権条約の国際的実施	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
10	国際法主体（５）―外国人	国籍、外国人の出入国、外交的保護	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各１時間
11	国際環境法	国際環境法の歴史、国際環境規制の特徴、環境に関する国際法の諸原則	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各１時間
12	地球温暖化と国際法	地球温暖化防止への国際社会の取組み、気候変動枠組条約、京都議定書、パリ協定	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各１時間
13	ロシアのウクライナ軍事侵攻と国際法（１）	武力不行使原則とその例外、自衛権	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各１時間
14	ロシアのウクライナ軍事侵攻と国際法（２）	国連の集団安全保障、国際連盟との比較、国連のロシアに対する対応	事前：テキストに目を通しておく。 事後：レジュメの内容を確認。 各１時間
15	学期のまとめ	全体の総括	事前：これまでのレジュメの総点検を行っておく。 2 時間

関連科目	国際組織法、国際人権法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ビジュアルテキスト国際法〔第２版〕	加藤信行ほか編	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法	中間レポート（50%）及び期末試験（50%）の合計により評価する。

（基準）	
学生へのメッセージ	国際法は国内法とはその構造を相当に異にするので、戸惑うことも多いかと思いますが、毎回の授業を理解しようと努力すれば、きっと皆さんも国際法の面白さに気が付くはずです。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　鳥谷部研究室
備考	

科目名	国際法Ⅱ（各論）	科目名（英文）	International Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鳥谷部　壌
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2067a0		

授業概要・目的	この科目は、グローバル時代にあって益々その重要性を増している国際法について、各論の知識を体系的に整理して身につけることを目的とします。国際法は、国内法とは相当に異なる基本構造をもっているので、新たな気持ちで授業に臨んでもらえればと思います。
到達目標	この授業を通じて学生には、 （1）国際法の各論分野の性質や特徴について、第三者に分かりやすく説明できる、 （2）国際法に関連する、教職関係の試験問題や、各種資格試験で出題される問題に解答する手がかりを得ることができる、 （3）国際法に関するニュースに触れたときに、その内容を専門的な視点から理解し、第三者に分かりやすく説明できる、 ようになることが期待される。
授業方法と留意点	この授業は、毎回、レジュメを配布して実施する。
科目学習の効果（資格）	国際機関やＮＧＯなど国際性豊かな職種を希望する学生はもちろんのこと、国家公務員をはじめとする各種公務員の教養試験や教員資格取得および大学院・法科大学院進学にも役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション 国際法の基本構造	・授業計画の説明、参考文献紹介 ・国際社会と国内社会の構造上の違い、国際法の歴史的展開、現代国際法の特徴	シラバスの講義概要に目を通しておくこと。
2	国際社会で守るルール	国際法の法的拘束力、国際法の存在形式、国際法の効力、国際法上の責任	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
3	国家の誕生と消滅 国家管轄権	国とは何か、国の始まりと終わり、国家管轄権、国家免除	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
4	外交・領事関係法	外交関係と領事関係、外交特権免除と領事特権免除、その他の国家機関の特権免除	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
5	領土問題	国の領域と領域主権、領域権原と領土紛争、日本の領土問題	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
6	・特殊地域 ・宇宙	・国際河川と国際運河、南極と北極 ・宇宙条約と宇宙関連４条約	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
7	海洋法（１）	海洋法の歴史と海洋の区分、内水・領海と接続水域、国際海峡と群島水域、排他的経済水域と大陸棚	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
8	海洋法（２）	公海の秩序と公海漁業、海域の境界画定、深海底とその資源	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
9	国際犯罪	国際犯罪の概念、国による処罰、国際的な刑事裁判所、犯罪人の引渡し	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと。 事後：レジュメの内容を復習。 各１時間
10	紛争の平和的解決（１）	国際裁判、国際裁判以外の紛争解決	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと。 事後：レジュメの内容を確認。 各１時間
11	紛争の平和的解決（２）	国際司法裁判所の制度と手続、国連海洋法条約上の紛争解決制度	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと。 事後：レジュメの内容を確認。 各１時間
12	安全保障（１）	戦争・武力行使の違法化、武力不行使原則とその例外、自衛権、集団安全保障	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと。 事後：レジュメの内容を確認。 各１時間
13	安全保障（２）	国連平和維持活動 PKO	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと。 事後：レジュメの内容を確認。 各１時間
14	武力紛争法・軍縮法	敵対行為の規制と犠牲者の保護、大量破壊兵器、通常兵器	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと。 事後：レジュメの内容を確認。 各１時間
15	学期のまとめ	全体の総括	事前：これまでのレジュメの総点検を行っておく。 ２時間

関連科目	国際法Ⅰ（総論）、国際組織法、国際人権法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『ビジュアルテキスト国際法〔第２版〕』	加藤信行ほか編	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法	中間レポート（50%）と、期末試験（50%）の合計により評価する。

（基準）	
学生へのメッセージ	国際法は国内法とはその構造を相当に異にするので、戸惑うことも多いかと思いますが、毎回の授業を理解しようと努力すれば、きっと皆さんも国際法の面白さに気が付くはずです。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　鳥谷部研究室
備考	

科目名	日本の政治	科目名（英文）	Japanese Politics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	中沼　丈晃
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1070a0		

授業概要・目的	この講義では、いまの政治・政策の大きな課題を取り上げ、テレビのニュース番組を関心を持って見られるようになることを目的とする。選挙で投票するにあたって、政治家や政党の訴えに対して自分の意見が持てるようになってほしいと考える。
到達目標	この講義を通じて学生には、週１～２回でもテレビのニュース番組を見て、「この問題、いまそうなっているのか」と思えるよう、前提となる知識を身につけることが期待される。そして、その問題について自分の意見を持てるようにする。
授業方法と留意点	ひとつの時事のテーマを講義２回で扱う。時事を扱うため、夏までの情勢を見たあとに授業計画を確定する。講義では、簡単なレジュメを配布し、ニュース映像や新聞記事を多用する。毎回、知識の確認や自分の意見を書く課題（オンラインフォーム）を課す。受講者とのやりとりを心がける。
科目学習の効果（資格）	公務員試験では、教養科目でも社会科学や政治の時事の知識が問われる。民間企業の採用試験でも、一般常識として、政治の仕組みの基礎や時事が問われる。職業社会人と会話をするうえで、政治や政策の話題についていく最低限の知識は不可欠である。この講義では、こういった知識や常識を身につける出発点を提供したい。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	いまの政治・政策の大きな課題に目をとおしてみる。	講義で扱う時事について、学生とやりとりをしながら、いまの政治・政策の大きな課題の概要を確認する。	講義で勧めるニュース番組を通して見てみる（約１時間）。
2	日本の内閣はなぜ長続きしなかった？（１）	第二次安倍内閣以前、内閣が約１年しかもたなかった理由を探る。衆議院と参議院の「ねじれ」現象、内閣支持率の動き、無党派層の性格を解説する。	配布した新聞記事を読む。なぜ短命内閣となっていたのか自分の意見を整理して書く（約１時間）。
3	日本の内閣はなぜ長続きしなかった？（２）	第二次安倍内閣以前、内閣が約１年しかもたなかった理由を探る。衆議院と参議院の「ねじれ」現象、内閣支持率の動き、無党派層の性格を解説する。	配布した新聞記事を読む。なぜ短命内閣となっていたのか自分の意見を整理して書く（約１時間）。
4	安保法制、どう考える？（１）	2015 年、議論が紛糾した安保法制に考えるにあたって、自衛隊の創設から冷戦以降の自衛隊の役割の拡大の歴史を説明し、国際政治の文脈を意識してもらう。	配布した新聞記事を読む。自衛隊の役割の拡大に関する自分の意見を整理して書く（約１時間）。
5	安保法制、どう考える？（２）	2015 年、議論が紛糾した安保法制に考えるにあたって、自衛隊の創設から冷戦以降の自衛隊の役割の拡大の歴史を説明し、国際政治の文脈を意識してもらう。	配布した新聞記事を読む。自衛隊の役割の拡大に関する自分の意見を整理して書く（約１時間）。
6	消費税を上げるのに賛成？（１）	2019 年 10 月に 10%へ増税された消費税を扱う。日本の借金残高や、借金が増えてきた経緯を説明し、消費税導入と増税の背景を理解してもらう。	配布した新聞記事を読む。消費税増税に賛成するか、反対するか、自分の意見を整理して書く（約１時間）。
7	消費税を上げるのに賛成？（２）	2019 年 10 月に 10%へ増税された消費税を扱う。日本の借金残高や、借金が増えてきた経緯を説明し、消費税導入と増税の背景を理解してもらう。	配布した新聞記事を読む。消費税増税に賛成するか、反対するか、自分の意見を整理して書く（約１時間）。
8	尖閣諸島・竹島にこだわる？（１）	近年、日中間、日韓間で争いの種となっている領土問題を取り上げる。歴史の経緯を簡単に整理したうえで、国有化、大統領の上陸などをめぐって、どのような言い争いの構図になっているか説明する。	配布した新聞記事を読む。尖閣諸島・竹島問題に関する自分の意見を整理して書く（約１時間）。
9	尖閣諸島・竹島にこだわる？（２）	近年、日中間、日韓間で争いの種となっている領土問題を取り上げる。歴史の経緯を簡単に整理したうえで、国有化、大統領の上陸などをめぐって、どのような言い争いの構図になっているか説明する。	配布した新聞記事を読む。尖閣諸島・竹島問題に関する自分の意見を整理して書く（約１時間）。
10	日本は TPP のなかでいかに経済を持続的に発展させていくべきかと思う？（１）	原則、関税を撤廃する TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）をめぐる動向や議論を説明する。輸出国である日本にとってのメリット、食品の安全や小規模農業への影響の懸念など、TPP と生活の結びつきを理解してもらう。	配布した新聞記事を読む。日本が TPP に参加すべきかどうか、自分の意見を整理して書く（約１時間）。
11	日本は TPP のなかでいかに経済を持続的に発展させていくべきかと思う？（２）	原則、関税を撤廃する TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）をめぐる動向や議論を説明する。輸出国である日本にとってのメリット、食品の安全や小規模農業への影響の懸念など、TPP と生活の結びつきを理解してもらう。	配布した新聞記事を読む。日本が TPP に参加すべきかどうか、自分の意見を整理して書く（約１時間）。
12	原発存続に賛成する？反対する？（１）	特に東日本大震災後、存続・廃止をめぐって議論が行われている原発の問題を扱う。原発の仕組みやリスクを説明したうえで、日本における原発開発の背景と、原発をめぐる資金の流れの意味を考えてもらう。	配布した新聞記事を読む。原発を維持すべきか、廃止すべきか、自分の意見を整理して書く（約1時間）。
13	原発存続に賛成する？反対する？（２）	特に東日本大震災後、存続・廃止をめぐって議論が行われている原発の問題を扱う。原発の仕組みやリスクを説明した	配布した新聞記事を読む。原発を維持すべきか、廃止すべきか、自分の意見を整理して書く（約1時間）。

			うえで、日本における原発開発の背景と、原発をめぐる資金の流れの意味を考えてもらう。	
	14	大阪都構想をどう見る？（1）	地元大阪の政治動向を説明する。特に、既得権益の打破、有権者が決める政治を訴えて勢力を得た維新と、その主張の核となった大阪都構想について解説する。	配布した新聞記事を読む。大阪都構想に対する自分の意見を整理して書く（約1時間）。
	15	大阪都構想をどう見る？（2）	地元大阪の政治動向を説明する。特に、既得権益の打破、有権者が決める政治を訴えて勢力を得た維新と、その主張の核となった大阪都構想について解説する。	配布した新聞記事を読む。大阪都構想に対する自分の意見を整理して書く（約1時間）。

関連科目	「政治」「政策」「行政」「地方自治」と名のつく講義につながる基礎科目である。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	期末課題(70%)、講義毎回の課題(30%)の合計によって評価する。
学生へのメッセージ	どんな仕事に就いても、政治や政策の問題は避けられません。領土をめぐって中国や韓国との争いが厳しくなったり、国の借金が増え円高になり輸出に不利になったりすれば、よい製品も売れなくなります。加えて、電力の安定的な確保は、生活と仕事の最も基礎にある問題です。自分と家族を守るために、毎日の政治・政策のニュースに関心が持てるようになってほしいと考えて、講義をしていきます。
担当者の研究室等	11号館9階　中沼教授室
備考	講義毎回の課題正解の提示などはTeamsを通じて行う。 23年度より担当者交代。 21年度、「政治学概論」でほぼ同一内容で講義した 21年度　合格率83.5%　（不受験率0%）　A9.6%　B40.0%　C22.6%　D11.3%　平均76点　230人登録

科目名	日本政治史	科目名（英文）	History of Japanese Politics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	和田　泰一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2071a0		

授業概要・目的	現代の日本の政治に参加するさい、今までの日本の政治の歴史や政策、また日本の政治が扱ってきた問題などを知っておくことは非常に有益です。なぜなら、それらに基づいて皆さんは自分をとりまく政治問題や政治情勢、望ましい政策や選択肢について考え、意思決定することができるからです。 この授業では、有権者である学生の皆さんに日本の政治の歴史についての基本的な知識を与えることが目的です。近代日本政治史ということで明治以降の日本の政治史が対象になりますが、より皆さんの生活に関係が深い戦後の日本政治史を中心に授業していきます。
到達目標	この授業を通じて学生の皆さんは、日本の政治の仕組み・歴史について基本的な知識・教養を獲得することが期待されます。またそうした知識・教養に基づき、実際の政治活動において①正しい政治的配分や法とは何かを思考することができ、②支持すべきより正しい政治的アクターや政策・法を判断することができ、③投票など政治活動を通じて自分の政治的意見を正しく表現することができることが期待されます。
授業方法と留意点	レジュメや資料を配布しながら、講義形式で行います。また必要に応じて映像資料を見せる場合もあります。アクティブラーニングの一環として、リアクションペーパーにある政治問題について自問自答・議論した上で自分の意見を論理的に書いてもらったり、小テストに答えてもらったりすることもあります。
科目学習の効果（資格）	公務員試験や就職活動において、日本政治史の知識・教養が一般常識として問われる場合があります。また一主権者として実際に政治活動するときには、そうした知識・教養について知っておく必要があります。そうした状況に上手く対応するために、日本の政治史について正しい知識・教養を獲得し、個々の具体的な政策・法のメリット・デメリットを正しく判断し、最終的に自分の意見を政治活動を通じて正しく表現することができます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション～「近代」とは何か？	イントロダクションとして、講義の内容と「近代(modern)」とは何を意味するのかについて授業します。	事前学習：今まで勉強してきた歴史の教科書などを再読し、授業に積極的に参加するモチベーションを高める（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
2	戦前日本の政治史①～明治･大正の政党の活動と大日本帝国憲法	政党史を中心に大正デモクラシーまでの政治史を概観し、大日本帝国憲法の政治的な重要箇所について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第二回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
3	戦前日本の政治史②～軍部の台頭	映像資料を見ながら、日本が日中戦争・太平洋戦争へと向かっていった原因の一つである軍部を考えます。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第三回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
4	戦前日本の政治史③～満州国の設立	映像資料を見ながら、なぜ日本がワシントン体制から脱して満州国設立へと向かって行ってしまったのかを考えます。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第四回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
5	戦後日本の政治史①～GHQによる日本の初期占領政策	GHQの日本占領政策と連立政権について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第五回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
6	戦後日本の政治史②～インフレ対策と逆コース	冷戦の激化にともない、GHQの日本占領政策が転換していった過程について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第六回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
7	戦後日本の政治史③～日本の独立と吉田茂の退場	サンフランシスコ平和条約締結周辺の経過と吉田保守本流の外交方針について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第七回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
8	戦後日本の政治史④～新日米安保条約と安保闘争	岸内閣を中心に、新日米安保条約の改定が望まれた理由や安保闘争の経過について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第八回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
9	戦後日本の政治史⑤～沖縄返還問題と非核三原則	佐藤内閣を中心に、当時の沖縄返還をめぐる諸問題について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第九回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
10	戦後日本の政治史⑥～派閥の強化と田中派の隆盛	自民党の派閥政治の特徴と田中派が勢力を拡大していく過程について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第十回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
11	戦後日本の政治史⑦～田中派から竹下派への禅譲	田中派から竹下派へと自民党の権力が移行していった80年代の自民党政治について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第十一回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
12	戦後日本の政治史⑧～政治	55年体制が崩壊し、細川連立内閣が成	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第十

		改革と 55 年体制の崩壊	立した 90 年代の政治史を授業します。	二回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
	13	戦後日本の政治史⑨～小泉内閣から民主党内閣へ	小泉内閣の外交や郵政民営化法案を中心に授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第十三回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
	14	戦後日本の政治史⑩～安倍内閣の諸政策	国家の自衛権とは何かを解説しながら、安倍内閣における集団的自衛権の行使の閣議決定の内容について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第十四回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
	15	まとめ	講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度解説します。	事前学習：来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめておく（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。試験に向けて教科書やノート、レジュメを読み直す（時間の許す限り）。

関連科目	中学・高校の日本史、世界史など。大学の日本の政治、政治学原論など。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	近代日本政治史	坂野潤治	岩波書店
2	現代日本政治史	廣澤孝之	晃洋書房
3			

評価方法（基準）	定期試験（70%）と小テスト（30%）で評価します。
学生へのメッセージ	新聞・TV・ネットなどマスメディアのニュースに日常的に触れるようにして、現代の日本の政治についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 11 号館 10 階　和田研究室
備考	

科目名	政治学原論	科目名（英文）	Political Science
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	和田　泰一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○		
科目ナンバリング	JDJ1072a0		

授業概要・目的	政治学の応用科目としては、行政学、政治思想、地方自治、国際関係などがあります。そうした応用科目を理解する前提として、政治学の基本的な知識・教養を修得している必要があります。また私たちが一市民・一有権者として正しい政治的選択を行うためには、政治の仕組みや歴史について基本的な知識・教養をあらかじめ知っておくことが必要不可欠です。 したがって政治学原論（Principles of Political Science）であるこの授業では、政治学の基本的な諸原理（Principles）にあたる内容を授業します。授業は、ABD（アクティブ・ブック・ダイアローグ）、グループワーク、プレゼンテーションなど反転授業で行いますので、事前学習が必要不可欠です。
到達目標	この授業を通じて学生の皆さんは、政治・政治学の基本的な知識・教養を獲得することができます。そうした知識・教養に基づいて、皆さんは行政学や政治思想、地方自治、国際関係といった応用的な政治学をより正確に学ぶことができます。 また ABD で知的能力を、グループワークで社会・対人関係力を、PBL のプレゼンテーションで自己制御能力・実践的能力を向上させることができます。
授業方法と留意点	反転授業で行います。教科書を買う余裕がない人、事前学習を行う余裕がない人は、受講を避けた方がよいでしょう。
科目学習の効果（資格）	公務員試験や法学基礎検定、就職活動において政治の知識・教養が一般常識として問われる場合がありますので、そうした点で役立つでしょう。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション―政治とは何か？	イントロダクションとして、本講義の内容と政治―国家の必要性について授業します。	事前学習：教科書を購入し、授業に積極的に参加するモチベーションを高める（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する（30 分）。
2	民主政治の起源①	教科書の第一章に基づき、民主制や自由主義について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第一章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
3	民主政治の起源②	教科書の第一章に基づき、民主制や自由主義について授業します。	事前学習：授業中に配布した課題を読み、インターネットや図書館などから知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
4	民主政治の変容①	教科書の第二章に基づき、現代の大規模デモクラシーや全体主義について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第二章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
5	民主政治の変容②	教科書の第二章に基づき、現代の大規模デモクラシーや全体主義について授業します。	事前学習：授業中に配布した課題を読み、インターネットや図書館などから知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
6	福祉と政治①	教科書の第三章に基づき、福祉国家や新自由主義について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第三章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
7	福祉と政治②	教科書の第三章に基づき、福祉国家や新自由主義について授業します。	事前学習：授業中に配布した課題を読み、インターネットや図書館などから知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
8	民主政治のさまざまな仕組み、議会と政党①	教科書の第四章と第六章に基づき、議院内閣制や国会、政党について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第四章・第六章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
9	民主政治のさまざまな仕組み、議会と政党②	教科書の第四章と第六章に基づき、議院内閣制や国会、政党について授業します。	事前学習：授業中に配布した課題を読み、インターネットや図書館などから知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
10	選挙①	教科書の第五章に基づき、選挙制度や投票行動について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第五章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
11	選挙②	教科書の第五章に基づき、選挙制度や投票行動について授業します。	事前学習：授業中に配布した課題を読み、インターネットや図書館などから知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
12	世論とマスメディア①	教科書の第八章に基づき、世論やマスメディアについて授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第八章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。

				事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
	13	世論とマスメディア②	教科書の第八章に基づき、世論やマスメディアについて授業します。	事前学習：授業中に配布した課題を読み、インターネットや図書館などから知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
	14	民主政治の現在①	教科書の第十一章に基づき、政治参加やジェンダーについて授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第十一章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
	15	民主政治の現在②	教科書の第十一章に基づき、政治参加やジェンダーについて授業します。	事前学習：授業中に配布した課題を読み、インターネットや図書館などから知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。

関連科目	中学・高校の公民、日本史など。大学の日本の政治など。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	政治学（第 2 版）	川出良枝・谷口将紀編	東京大学出版会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験（約 40%）、小テスト（約 20%）、授業でのプレゼンテーション（約 40%）で評価します。
学生へのメッセージ	新聞・TV・ネットなどマスメディアのニュースに日常的に触れるようにして、政治・政治学についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 11 号館 10 階　和田研究室
備考	

科目名	比較政治	科目名（英文）	Comparative Politics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森　康一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○		
科目ナンバリング	JDJ2074a0		

授業概要・目的	「比較政治」とは、複数の国家間で政治のあり方を比較した上で、そこから普遍的な理論を導き出すことを目指す学問領域である。 すなわち、社会構造や歴史と政治の関係、文化などは各国で違いがあるが、そういった相違を超えた政治の本質を探求するものである。 具体的には、政治体制・選挙制度・政党・利益集団・政治文化・中央政府と地方政府の関係などに焦点をあて、これらが国によってどう違うか比較し、その違いがどういう結果を各国にもたらしているかを学ぶ。 それによって、客観的に認識可能な要素を抽出していく。
到達目標	この授業を通じて学生には、日本や主要国の政治体制・選挙制度・政党・利益集団といった政治学の重要な項目について比較しながら理解するとともに、そのことを通じて、現代日本における課題や今後に向けての展望を持つことが期待される。
授業方法と留意点	プリントと板書により講義形式で授業を進めます。自分のまとめノートを作るつもりで、よく講義を聞いて下さい。 また、小テストはMoodleより行うので、受講する学生はMoodleの当授業コース「比較政治　＜2023年度後期 水曜3限J・2 担当：森康一＞」を検索の上、登録しておいて下さい。 自己登録キー：1206
科目学習の効果（資格）	公務員試験や就職活動において、政治学で扱う内容が一般教養として問われる。 諸外国の政治制度も重要である。 また、有権者として政治参加する際には、選挙制度等の情報について知っておくことが必要である。 この授業によって、上記に関して必要な基本的な知識を得られる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義の目的と内容・成績評価について	講義の内容全体について	新聞の政治・国際面を読む習慣をつける
2	近代議会制と執政制度	議会制度と統治形態の分類について	大統領制と議院内閣制の違いについて調べておく（約1時間）
3	選挙制度	選挙制度の分類とその特徴について	小選挙区制と比例代表制の違いについて調べておく（約1時間）
4	各国の政治制度・選挙制度①	日本の政治制度・選挙制度について（1）	日本の三権分立システムについて調べておく（約1時間）
5	各国の政治制度・選挙制度②	日本の政治制度・選挙制度について（2）	「小選挙区比例代表制」とはどういうものかについて調べておく（約1時間）
6	各国の政治制度・選挙制度③	アメリカとイギリスの政治制度・選挙制度について	アメリカの大統領制とイギリスの議院内閣制について調べておく（約1時間）
7	各国の政治制度・選挙制度④	フランスとドイツの政治制度・選挙制度について政党および政党制の分類と、各国の政党制について	フランスの半大統領制とドイツのワイマール期の政治状況について調べておく（約1時間）
8	政党	政党および政党制の分類と、各国の政党制について	政党システムとは何か？について調べておく（約1時間）
9	利益集団	日米欧における利益集団のあり方の比較について	ネオ・コーポラティズムについて調べておく（約1時間）
10	民主主義体制	民主主義体制をめぐる諸議論について	多極共存型民主主義について調べておく(約1時間)
11	非民主主義体制	非民主主義体制をめぐる諸議論について	権威主義体制について調べておく（約1時間）
12	民主化	非民主主義体制から民主主義体制への体制転換について	東欧の体制転換について調べておく（約1時間）
13	政治文化	政治文化をめぐる各国の比較について	市民文化とは何か調べておく（約1時間）
14	中央・地方関係	中央政府と地方自治体の関係をめぐる各国の比較について	日本の地方分権一括法について調べておく（約1時間）
15	まとめ	講義のまとめと、試験について	レジュメ・ノートを整理し、試験に向けての準備をする（約4時間）

関連科目	日本の政治・世界の政治・政治過程論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	比較政治制度論	建林正彦・曽我謙悟・待鳥聡史	有斐閣
2	比較政治の考え方	久保慶一・末近浩太・高橋百合子	有斐閣
3	比較政治制度論	田口富久治・中谷義和	法律文化社

評価方法（基準）	・原則として10回以上出席（公欠を除く欠席が５回以内）の学生のみを成績評価の対象とします。 ・成績評価は ○平常点 20%：小テスト×2回（第6回・第11回の授業日にMoodleから実施。当該日の任意の時間に受験可能。各回10点満点） ○期末試験 80%：論述式。5問出題し、そのうち2問を選択してもらいます。各問40点満点。 の合計点によって評価を行います。 期末試験において持ち込みは認めません。
学生へのメッセージ	日々ニュースや新聞にふれて、世界で起こっていることに関心を持ってください。 そして、その出来事の原因や由来が何であるのか、常に問題意識を持つようにしてください。
担当者の研究室等	11号館5階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）

備考	

科目名	世界の政治	科目名（英文）	World Politics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	森　康一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1075a0		

授業概要・目的	この講義では、第二次世界大戦後から現在までの国際関係についてとりあげる。 前半では米ソを中心とする冷戦時代の国際政治を説明し、後半では冷戦後の国際関係と個別的な時事問題を考える。 歴史をふまえた上で、現在の国際政治を理解する土台を作ることを目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、第二次世界大戦後の国際政治の流れを理解し、現在の国際関係を考える基礎となる知識を身につけることが期待される。
授業方法と留意点	プリントと板書により講義形式で授業を進めます。自分のまとめノートを作るつもりで、よく講義を聞いて下さい。 また、小テストは Moodle より行うので、受講する学生は Moodle の当授業コース「【法】世界の政治（世界の政治と社会）　＜2023 年度後期 水曜２限法学部・１年生 担当：森康一＞」を検索の上、登録しておいて下さい。他学部開講の同名講義と間違えないように登録すること。 自己登録キー：1206
科目学習の効果（資格）	公務員試験や就職時に、日本と世界の関わりという点で国際情勢について問われる場面は多い。 この授業によって、現在の国際情勢を理解するうえで必要な知識を習得することができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義の目的と内容・成績評価について	講義の内容全体について	高校世界史の教科書などで、冷戦期の国際政治の流れについて一通り読んでおく（約２時間）
2	冷戦時代の国際関係（1）	ヤルタ体制および冷戦初期の国際政治について	冷戦初期の国際情勢について調べておく（約 30 分） レジュメ（第２回）を見直しておく（約１時間）
3	冷戦時代の国際関係（2）	第三世界の台頭、ヨーロッパ統合の理想と現実について	「アジア・アフリカ会議」、「非同盟諸国首脳会議」について調べておく（約 30 分） レジュメ（第３回）を見直しておく（約１時間）
4	冷戦時代の国際関係（3）	多極化とデタントについて	「キューバ危機」について調べておく（約 30 分） レジュメ（第４回）を見直しておく（約１時間）
5	冷戦時代の国際関係（4）	「新冷戦」と冷戦の終焉について	ゴルバチョフについて調べておく（約 30 分） レジュメ（第５回）を見直しておく（約１時間）
6	ポスト冷戦時代の世界秩序のゆくえ（1）	冷戦終結後の国際政治全般について	「文明の衝突」について調べておく（約 30 分） レジュメ（第６回）を見直しておく（約１時間）
7	ポスト冷戦時代の世界秩序のゆくえ（2）	ヨーロッパを中心とした冷戦終結後の国際政治について	ユーゴスラヴィアの成り立ちについて調べておく（約 30 分） レジュメ（第７回）を見直しておく（約１時間）
8	グローバルな問題群	核・食料・環境問題について	「核抑止」について調べておく（約 30 分） レジュメ（第８回）を見直しておく（約１時間）
9	同時テロと「イラク戦争」後の世界秩序	「9.11」以後の国際政治について	「9.11 テロ」について調べておく（約 30 分） レジュメ（第９回）を見直しておく（約１時間）
10	米ロの核軍縮	核問題をめぐる米ロ関係について	オバマ大統領の「プラハ演説（2009）」について調べておく（約 30 分） レジュメ（第 10 回）を見直しておく（約１時間）
11	米中関係のゆくえ	アメリカと中国の外交関係について	「ヴェトナム戦争」について調べておく（約 30 分） レジュメ（第 11 回）を見直しておく（約１時間）
12	中東問題のゆくえ	中東問題の経緯と「中東和平」の展望について	イスラエルの成り立ちについて調べておく（約 30 分） レジュメ（第 12 回）を見直しておく（約１時間）
13	緊迫する朝鮮半島情勢	韓国・北朝鮮をめぐる国際関係について	「朝鮮戦争」について調べておく（約 30 分） レジュメ（第 13 回）を見直しておく（約１時間）
14	日本の安全保障	現在の日本がかかえる国際問題について	日本の領土問題について調べておく（約 30 分） レジュメ（第 14 回）を見直しておく（約１時間）
15	まとめ	講義のまとめと試験について	講義全体を振り返り、期末試験の準備をする

関連科目	日本の政治、日本外交史、国際関係論、国際関係史

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際政治	藤原帰一	日本放送出版協会
2	国際政治学をつかむ	村田晃嗣・君塚直隆他	有斐閣
3	国際紛争	ジョゼフ・S・ナイ・ジュニア（田中明彦訳）	有斐閣

評価方法（基準）	・原則として 10 回以上出席（公欠以外の欠席が 5 回以内）の学生のみを成績評価の対象とします。 成績評価は ・平常点 20%：小テスト（第 6 回・第 11 回の授業日に Moodle から受験してもらいます。各回 10 点満点×2 回） ・期末試験 80%：論述式。5 問出題して、そのうち 2 問を選択してもらいます。40 点満点×2 問。 の合計点によって評価を行います。 期末試験において持ち込みは認めません。
学生へのメッセージ	日々ニュースや新聞にふれて、世界で起こっていることに関心を持ってください。そして、その出来事の原因や由来が何であるのか、常に問題意識を持つようにしてください。
担当者の研究室等	11 号館 5 階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）

備考	

科目名	公共政策論	科目名（英文）	Public Policy
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	増田　知也
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2080a0		

授業概要・目的	公共政策とは、公共的な問題を解決するための方策と具体的手段の体系を意味する。社会の中には多種多様な問題が存在するが、その中でも社会が取り組むべきと考えられる公共的な問題に対応するのが公共政策である。この授業では、公共政策がなぜ必要とされるか、公共政策はどのようなプロセスで作られ、決定され、実施され、評価されるか、社会の中の様々な主体が公共政策においてどのような役割を果たしているか、公共政策をめぐる論点にはどのようなものがあるか、などの点について学ぶ。
到達目標	この授業を通じて学生には、公共政策に関する重要な概念や理論について説明することができ、社会における問題を発見・分析することができ、公共政策をめぐる主要な課題について自分の意見を述べることができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	毎回冒頭に、前回の小テストの解説と質問への応答を行う。 その後、穴埋め式のレジュメを配布し、スライドを提示しながら解説を行う。 授業後、オンラインで小テストを実施してもらう。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	公共政策とは何か	公共政策という言葉の意味と、公共政策学の特徴について学ぶ。	事前：参考書による予習（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
2	市場の失敗と政府の失敗	公共政策の必要性と、公共財について学ぶ。	事前：参考書による予習（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
3	政策過程	問題発見から政策実施、政策評価に至るプロセスについて学ぶ。	事前：参考書による予習（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
4	政策決定論	政策決定をめぐる理論について学ぶ。	事前：参考書による予習（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
5	政策実施論	政策の実施をめぐる理論について学ぶ。	事前：参考書による予習（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
6	政策評価論	政策評価をめぐる理論について学ぶ。	事前：参考書による予習（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
7	公共政策と政治	公共政策と政治の関係性について学ぶ。	事前：参考書による予習（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
8	公共政策と行政	公共政策と行政の関係性について学ぶ。	事前：参考書による予習（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
9	公共政策とマスメディア	公共政策においてマスメディアが果たす役割について学ぶ。	事前：参考書による予習（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
10	公共政策と NPO・NGO	公共政策において市民セクターが果たす役割について学ぶ。	事前：参考書による予習（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
11	公共政策と広報	パブリック・リレーションズ論について学ぶ。	事前：参考書による予習（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
12	熟議と参加	熟議民主主義論と市民参加について学ぶ。	事前：参考書による予習（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
13	環境政策	環境問題と解決のための政策について学ぶ。	事前：参考書による予習（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
14	福祉政策	福祉国家と福祉政策について学ぶ。	事前：参考書による予習（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
15	公共政策の展望	授業全体を振り返り、公共政策の今後のあり方を展望する。	事前：参考書による予習（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	入門・公共政策学	秋吉 貴雄	中央公論新社
2			
3			

評価方法（基準）	期末試験 50%、小テスト 50%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 10 階　増田講師室
備考	

科目名	地域政策論	科目名（英文）	Regional Policy
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	増田　知也
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2083a0		

授業概要・目的	協働とは、行政・企業・NPOなどが、共通の目的に向かって対等の立場で協力して活動することを意味する。行政だけが公共を担うという従来の考え方から、さまざまな主体がネットワーク化されることで公共を担っていくという考え方への変化が起こっている。この授業では、協働の担い手となる人（地域公共人材）に着目しながら、どのようにして協働型社会を形成すれば良いかを様々な面から検討する。
到達目標	この授業を通じて学生には、協働概念を理解するのに必要な概念について説明することができ、文献の要点をまとめ、分かりやすく発表することができ、地域の問題を自分の問題として考え、意見を持つことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	ABD（Active Book Dialogue）の手法を用いて、グループごとに分担して文献を要約し、発表し合う。 その後、穴埋め式のレジュメを配布し、解説を行う。 授業後に小テストを実施し、次の回の冒頭に解説と質問への回答を行う。
科目学習の効果（資格）	住民としての行政との向き合い方、自治体職員としての住民との向き合い方を学ぶことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	地域における人の力	協働における人材の重要性について、基本となる考え方を学ぶ。	事前:『地域公共人材をつくる』序章を読む（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
2	協働型社会の理論	協働型社会についての理論を学ぶ。	事前:『地域公共人材をつくる』第 1 章を読む（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
3	地域公共人材の意味	京都府における地域公共人材育成の事例から、協働のための人材育成の意味を考察する。	事前:『地域公共人材をつくる』第 2 章を読む（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
4	協働と地域公共人材	協働のための人材育成において、大学が果たす役割を考察する。	事前:『地域公共人材をつくる』第 3 章を読む（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
5	もやい直しと協働	熊本県水俣市を事例に、行政と市民が担うべき役割について考察する。	事前:『地域公共人材をつくる』第 4 章と第 7 章を読む（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
6	協働の担い手としての子どもたち	滋賀県米原市を事例に、子どもの権利と社会参加について学ぶ。熊本県氷川町宮原を事例に、子どもたちや大学生が地域活動を担うことの意味を考察する。	事前:『地域公共人材をつくる』第 5 章と第 6 章を読む（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
7	NPOと協働	兵庫県芦屋市と愛知県田原市を事例に、NPOが人材育成に果たす役割について考察する。	事前:『地域公共人材をつくる』第 8 章と第 9 章を読む（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
8	市民と企業、市民と議会の協働	京都府京都市を事例に、ソーシャルビジネスの可能性について考察する。北海道登別市を事例に、市民と議会の協働の可能性について考察する。	事前:『地域公共人材をつくる』第 10 章と第 13 章を読む（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
9	住民運動と市民活動	奈良県葛城市を事例に、住民と行政の対立を協働へと発展させる方法について考察する。広島県福山市鞆町を事例に、市民活動が果たす役割について考察する。	事前:『地域公共人材をつくる』第 11 章と第 12 章を読む（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
10	協働と地域公共人材の展望	京都府丹波・丹後地域を事例に、協働の担い手となる地域リーダーの育成方法について考察する。授業全体を振り返りつつ、今後の協働と人材育成のあり方を展望する。	事前:『地域公共人材をつくる』第 14 章と終章を読む（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
11	住民の権利と責任	憲法や地方自治法における住民の位置づけについて学ぶ。	事前:『地方自治と民主主義』第 6 章を読む（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
12	住民意識の変化と自治行政	住民の受益者化について学ぶ。	事前:『地方自治と民主主義』第 7 章を読む（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
13	住民運動の衝撃	住民運動の特色について学ぶ。	事前:『地方自治と民主主義』第 8 章を読む（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
14	住民参加への取り組み	住民参加の意義と課題について学ぶ。	事前:『地方自治と民主主義』第 9 章を読む（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）
15	対立から協働へ	行政と住民の対立関係を協働関係に変えるための方法について考察する。	事前：論文「行政広報は『お知らせ』以上のものになれるか？」を読む（2時間） 事後：小テストの内容について復習する（2時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	定期試験 50%、小テスト 50%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　増田講師室
備考	20 年度　合格率 91.3%　（不受験率 2.2%）　A28.3%　B50.0%　C8.7%　D4.3%　平均 81 点　46 人登録

科目名	スポーツ法学	科目名（英文）	Sports Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	石井　信輝
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2087a0		

授業概要・目的	スポーツに関する法令を学ぶとともに、関連する判例や諸問題を検討することを通して、スポーツ法学についての理解を深める。また、法学に関する体系的な理解の一助とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、法とスポーツ活動との様々な接点を理解するようになることが期待される。
授業方法と留意点	教科書『スポーツ法へのファーストステップ』 を用いて授業を行います。授業中に提示した課題を解決するため、および事前・事後の学習のために ICT ツールを活用していただく場合もあります。対面による授業を原則とします。
科目学習の効果（資格）	公認スポーツ指導者資格取得のための科目でもある。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	スポーツと法（１）	スポーツの概念、特性	スポーツの概念や特徴についてまとめる。
2	スポーツと法（２）	スポーツ基本法の制定（スポーツの自治とガバナンス・コンプライアンス）	関連資料に目を通すこと
3	スポーツと法（３）	スポーツ活動と関連法令	関連資料に目を通すこと。
4	スポーツに親しむ権利（１）	スポーツへのアクセス	関連資料に目を通すこと。
5	スポーツに親しむ権利（２）	スポーツ権論・習熟度の確認	前回の講義と関連づけてまとめる。
6	スポーツと教育	学校スポーツ、社会スポーツ（生涯スポーツ）の展開と関連法令	関連資料に目を通すこと。
7	スポーツに関する紛争	スポーツ仲裁制度	関連資料に目を通すこと。
8	スポーツ振興と法、これまでの講義のまとめ	スポーツの振興に関する法令、および習熟度確認	これまでの講義を体系的にまとめること。
9	スポーツと国籍	スポーツへの参加と国籍	配布資料に目を通すこと。
10	スポーツと社会的平等	スポーツとジェンダー・習熟度の確認	関連資料に目を通すこと。
11	スポーツ事故と責任（１）	スポーツ活動中（学校での活動を含む）の事故と法（民法、刑法、国家賠償法）	民法、刑法および国家賠償法の関連条項の整理。
12	スポーツ事故と責任(２)	スポーツ活動中の事故と当事者・指導者の法的責任①	配布資料に目を通すこと。
13	スポーツ事故と責任（３）	スポーツ活動中の事故と指導者・当事者の法的責任②	前回の講義と関連づけてまとめる。
14	スポーツ事故と責任（４）	フランスにけるスポーツ事故と法的責任	スポーツ事故の発生と法的責任の発生に関してまとめる
15	講義の総括と習熟度検査	講義の総括と習熟度確認試験	講義全体を体系的に整理する。

関連科目：スポーツ政策論等

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スポーツ法へのファーストステップ	石堂典秀	法律文化社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	リファレンスブック		日本スポーツ協会
2			
3			

評価方法（基準）	授業に参加する姿勢（３０％）、授業中に出される課題への回答・試験の結果（70%）をもって評価する。
学生へのメッセージ	意欲的に講義に参加してください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　石井教授室
備考	各回に 1 時間程度、すなわち半期 15 時間程度を目安に、講義の内容について事前・事後の学習を行ってください。 課題や習熟度試験については次の回の授業で解説する。 20 年度　合格率 93.2%　（不受験率 0%）　A29.5%　B31.8%　C20.5%　D11.4%　平均 77 点　44 人登録

科目名	法律学特修特別講義Ⅰ	科目名（英文）	Special Lecture on Positive Law I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中　敦.北口　星.笛木　淳
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2094a0		

授業概要・目的	本気で公務員試験（国家公務員一般職、地方上級）や法科大学院（ロースクール）入試、司法試験予備試験等を目指す学生を対象に、目的達成のために不可欠な真の実力を養うことを目的として、問題演習等を行う。
到達目標	この授業を通じて学生には、公務員試験（国家公務員一般職、地方上級）や法科大学院（ロースクール）入試、司法試験予備試験等に合格するための、正しい学習方法を習得することが期待される。
授業方法と留意点	授業は、３人の専任教員（田中・笛木・北口）によるオムニバス方式で実施。授業範囲は、憲法・民法の既修範囲とし、具体的には、憲法（基本的人権）、憲法（統治機構）、物権法、担保物権法（不動産取引法において講義）、債権総論を扱う。
科目学習の効果（資格）	公務員試験（国家公務員一般職、地方上級）や法科大学院（ロースクール）入試、司法試験予備試験等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	資格試験　合格への道（１）	摂南大学法学部の卒業生である講師が法科大学院、司法試験に合格するまでのプロセスなどの経験、計画や戦略の立て方を話し、資格試験合格への道を具体的に意識できるようにする。	授業を進めながら検討する。
2	資格試験　合格への道（２）	摂南大学法学部の卒業生である講師が法科大学院、司法試験に合格するまでのプロセスなどの経験、計画や戦略の立て方を話し、資格試験合格への道を具体的に意識できるようにする。	授業を進めながら検討する。
3	民法１（行為能力）	わかりやすい具体例を用いながら、条文の適用場面をイメージできるようにする。学生が疑問に感じやすい部分について、その疑問を解消できるようにする。必要に応じて、簡単な問題を用意し、実際に問題を解く感覚を身につける。また、「問題を解くために必要な学習」ということを理解できるようにする。	授業を進めながら検討する。
4	民法２（意思表示の瑕疵（１））	わかりやすい具体例を用いながら、条文の適用場面をイメージできるようする。学生が疑問に感じやすい部分について、その疑問を解消できるようにする。必要に応じて、簡単な問題を用意し、実際に問題を解く感覚を身につける。また、「問題を解くために必要な学習」ということを理解できるようにする。	授業を進めながら検討する。
5	民法３（意思表示の瑕疵（２））	わかりやすい具体例を用いながら、条文の適用場面をイメージできるようにする。学生が疑問に感じやすい部分について、その疑問を解消できるようにする。必要に応じて、簡単な問題を用意し、実際に問題を解く感覚を身につける。また、「問題を解くために必要な学習」ということを理解できるようにする。	授業を進めながら検討する。
6	民法４（授業開始に当たって、代理その１）	授業開始に当たってのガイダンス、代理（表見代理を除く）	事前学習：手持ちの教科書及び事前に配布するレジュメにより、テーマについてあらかじめ学習しておくこと（２時間）。 事後学習：レジュメを再読して知識を確認した上で、課題を解く（２時間）。
7	民法５（代理その２）	表見代理	事前学習：手持ちの教科書及び事前に配布するレジュメにより、テーマについてあらかじめ学習しておくこと（２時間）。 事後学習：レジュメを再読して知識を確認した上で、課題を解く（２時間）。
8	民法６（物権総論）	物権とは、物権と債権との違い、物上請求権とは	事前学習：手持ちの教科書及び事前に配布するレジュメにより、テーマについてあらかじめ学習しておくこと（２時間）。 事後学習：レジュメを再読して知識を確認した上で、課題を解く（２時間）。
9	民法７（不動産物権変動）	民法１７６条、１７７条に関する諸問題	事前学習：手持ちの教科書及び事前に配布するレジュメにより、テーマについてあらかじめ学習しておくこと（２時間）。 事後学習：レジュメを再読して知識を確認した上で、課題を解く（２時間）。
10	民法８（動産物権変動）	即時取得、占有に関する諸問題	事前学習：手持ちの教科書及び事前に配布するレジュメにより、テーマについてあらかじめ学習しておくこと（２時間）。 事後学習：レジュメを再読して知識を確認した上で、課題を解く（２時間）。
11	憲法の論述式答案の書き方入門（０）（総論）	論述式答案の書き方，勉強方法，予習方法の説明	(ア)　事前学習：法学学習に関する事前配布資料に目を通す（2時間） (イ)　事後学習：配布課題（4時間）
12	憲法論述式答案の書き方入	薬局距離制限判決をモデルにした事例	(ア)　事前学習：職業の自由に関する資料に

		門（1）（職業選択の自由の事例）	演習	目を通し，課題に取り組む（2時間） （イ）　事後学習：授業中に取り組んだ演習課題の復習・答案の再作成（4時間）
	13	論述式討案の書き方入門（2）（プライバシー権の事例）	写真撮影等の可否が問題となる裁判例をモデルとした事例演習	（ア）　事前学習：プライバシー権に関する資料に目を通し，課題に取り組む（2時間） （イ）　事後学習：授業中に取り組んだ演習課題の復習・答案の再作成（4時間）
	14	論述式討案の書き方入門（3）（集会の自由の事例）	泉佐野市民会館事件判決／上尾市福祉会館事件判決をモデルとした事例演習	（ア）　事前学習：集会の自由に関する資料に目を通し，課題に取り組む（2時間） （イ）　事後学習：授業中に取り組んだ演習課題の復習・答案の再作成（4時間）
	15	論述式討案の書き方入門（4）（思想良心の自由の事例）	日の丸・君が代事件判決をモデルにした事例演習	（ア）　事前学習：思想・良心の自由に関する資料に目を通し，課題に取り組む（2時間） （イ）　事後学習：授業中に取り組んだ演習課題の復習・答案の再作成（4時間）

関連科目	憲法Ⅰ（人権総論）、憲法Ⅱ（人権各論）、憲法Ⅲ（統治機構）、民法ⅠA（総則）、民法ⅠB（総則）、民法ⅡA（物権法）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	事前課題又は小テスト６０％、授業に取り組む姿勢４０％とする。なお、具体的な評価方法は、各担当教員により異なるため、各教員の初回授業時に確認すること。
学生へのメッセージ	本講義は、高い目標を本気で目指す学生のための特別講義です。目標が高い分、学生に対する要求も厳しくなりますが、司法試験に合格した経験を有する３名の選任教員が、実務家・研究者としての経験を踏まえて行う質の高い講義は、予備校の授業とは一線を画するものと確信しています。本気の学生の受講を期待します。
担当者の研究室等	１１号館１０階　田中教授室 １１号館９階　笛木講師室
備考	本講義は、選抜制であり、３０名を上限とする。選抜テスト（試験範囲は、憲法（基本的人権）、憲法（統治機構）、民法総則、物権法、担保物権法、債権各論）で基準点に満たない者の受講は認めない。また。憲法・民法の該当年次までの基本科目（憲法（基本的人権）、憲法（統治機構）、民法総則、物権法、担保物権法、債権各論）については、履修が必要であり、以上の科目について、単位取得ないし履修登録をしていない者の受講は認めない。選抜テストの日程はＴｅａｍｓ上で告知するので、受講を希望する者は、必ず受験すること（やむを得ない理由で

科目名	法律学特修特別講義Ⅱ	科目名（英文）	Special Lecture on Positive Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中　敦.城内　明.笛木　淳
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2095a0		

授業概要・目的	この授業では、本気で公務員試験（国家公務員一般職、地方上級）や法科大学院（ロースクール）入試、司法試験予備試験等を目指す学生を対象に、目的達成のために不可欠な真の実力を養うことを目的として、問題演習等を行う。
到達目標	この授業を通じて学生には、公務員試験（国家公務員一般職、地方上級）や法科大学院（ロースクール）入試、司法試験予備試験等に合格するための、正しい学習方法を習得することが期待される。
授業方法と留意点	授業は、３人の専任教員（笛木淳講師・田中敦教授・城内准教授）によるオムニバス方式で実施。授業範囲は、憲法・民法の既修範囲とし、具体的には、憲法（基本的人権）、憲法（統治機構）、債権各論、債権総論を扱う。学生には、公務員試験（国家公務員一般職、地方上級）や法科大学院（ロースクール）入試、司法試験予備試験等に合格するための、正しい学習方法を習得することが期待される。
科目学習の効果（資格）	公務員試験（国家公務員一般職、地方上級）や法科大学院（ロースクール）入試、司法試験予備試験等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	憲法論述式討案の書き方入門（５）（政教分離原則の事例）	津地鎮祭事件判決をモデルにした事例演習	（ア）　事前学習：信教の自由／政教分離原則に関する資料に目を通し，課題に取り組む（2時間） （イ）　事後学習：授業中に取り組んだ演習課題の復習・答案の再作成（4時間）
2	憲法論述式討案の書き方入門（６）（公務員の政治活動の事例）	堀越事件判決／世田谷事件判決をモデルにした事例演習	（ア）　事前学習：公務員の政治活動に関する資料に目を通し，課題に取り組む（2時間） （イ）　事後学習：授業中に取り組んだ演習課題の復習・答案の再作成（4時間）
3	憲法論述式討案の書き方入門（７）（財産権と損失補償の事例）	損失補償の要否が問題となった裁判例をモデルにした事例演習	（ア）　事前学習：財産権と損失補償に関する資料に目を通し，課題に取り組む（2時間） （イ）　事後学習：授業中に取り組んだ演習課題の復習・答案の再作成（4時間）
4	憲法論述式討案の書き方入門（８）（「法律上の争訟」性）	「法律上の争訟」性が問題となった判例をモデルにした事例演習	（ア）　事前学習：司法権に関する資料に目を通し，課題に取り組む（2時間） （イ）　事後学習：授業中に取り組んだ演習課題の復習・答案の再作成（4時間）
5	憲法論述式討案の書き方入門（９）（議院内閣制）	議院内閣制の問題に関する論述演習	（ア）　事前学習：議院内閣制に関する資料に目を通し，課題に取り組む（2時間） （イ）　事後学習：授業中に取り組んだ演習課題の復習・答案の再作成（4時間）
6	民法１　契約関係の成立	申込と承諾による契約の成立、契約の種類（典型契約と非典型契約、双務契約と片務契約等）	事前学習：手持ちの教科書及び事前に配布するレジュメにより、テーマについてあらかじめ学習しておくこと（２時間）。 事後学習：レジュメを再読して知識を確認した上で、課題を解く（２時間）。
7	民法２　契約関係の終了（契約の解除）	解除権の発生と消滅、契約解除の効果	事前学習：手持ちの教科書及び事前に配布するレジュメにより、テーマについてあらかじめ学習しておくこと（２時間）。 事後学習：レジュメを再読して知識を確認した上で、課題を解く（２時間）。
8	民法３　契約の効力	同時履行の抗弁権、危険負担（履行拒絶権）	事前学習：手持ちの教科書及び事前に配布するレジュメにより、テーマについてあらかじめ学習しておくこと（２時間）。 事後学習：レジュメを再読して知識を確認した上で、課題を解く（２時間）。
9	民法４　財産権移転に関する契約（売買、交換、贈与）	売買を中心とする財産権移転契約に関し、売主の責任（契約不適合責任）等について学習する。	事前学習：手持ちの教科書及び事前に配布するレジュメにより、テーマについてあらかじめ学習しておくこと（２時間）。 事後学習：レジュメを再読して知識を確認した上で、課題を解く（２時間）。
10	民法５　物の賃借についての契約（賃貸借等）	賃貸借を中心とする賃借型契約（賃貸借、使用貸借、消費貸借）、特に不動産賃貸借契約の性質（信頼関係破壊の法理、借地借家法）について学習する。	事前学習：手持ちの教科書及び事前に配布するレジュメにより、テーマについてあらかじめ学習しておくこと（２時間）。 事後学習：レジュメを再読して知識を確認した上で、課題を解く（２時間）。
11	民法６　債務者の責任財産の保全	債務者の責任財産の保全制度(債権者代位権、詐害行為取消権)について学習する。	事前学習：手持ちの教科書及び事前に配布するレジュメにより、テーマについてあらかじめ学習しておくこと（２時間）。 事後学習：レジュメを再読して知識を確認した上で、課題を解く（２時間）。
12	民法７　多数当事者の債権関係(1)	多数当事者の債権関係について、基礎知識を確認した上、連帯債務を中心に学習する。	事前学習：手持ちの教科書及び事前に配布するレジュメにより、テーマについてあらかじめ学習しておくこと（２時間）。 事後学習：レジュメを再読して知識を確認した上で、課題を解く（２時間）。
13	民法８　多数当事者の債権関係(2)	多数当事者の債権関係について、保証債務を中心に学習する。	事前学習：手持ちの教科書及び事前に配布するレジュメにより、テーマについてあらかじめ学習しておくこと（２時間）。 事後学習：レジュメを再読して知識を確認した上で、課題を解く（２時間）。
14	民法９　債権譲渡(1)	債権譲渡について、基本知識を確認した上、譲渡制限付債権の譲渡を中心に、学	事前学習：手持ちの教科書及び事前に配布するレジュメにより、テーマについてあらかじめ学習してお

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><td></td><td></td><td>習する。</td><td>くこと（２時間）。
事後学習：レジュメを再読して知識を確認した上で、課題を解く（２時間）。</td></tr>
<tr><td>15</td><td>民法１０　債権譲渡(2)</td><td>債権譲渡について、対抗要件を中心に学習する。</td><td>事前学習：手持ちの教科書及び事前に配布するレジュメにより、テーマについてあらかじめ学習しておくこと（２時間）。
事後学習：レジュメを再読して知識を確認した上で、課題を解く（２時間）。</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td>憲法Ⅰ（人権総論）、憲法Ⅱ（人権各論）、憲法Ⅲ(統治機構)、民法ⅠA(総則)、民法ⅠB(総則)、民法ⅡA(物権)、民法ⅢA(債権総論①)、民法ⅢB(債権総論②)、民法ⅣA(債権各論①)、民法ⅣB(債権各論②)</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>事前課題又は小テスト６０％、授業に取り組む姿勢４０％とする。なお、具体的な評価方法は、各担当教員により異なるため、各教員の初回授業時に確認すること。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>本講義は、高い目標を本気で目指す学生のための特別講義です。目標が高い分、学生に対する要求も厳しくなりますが、３名の専任教員が、実務家・研究者としての経験を踏まえて行う質の高い講義は、予備校の授業とは一線を画するものと確信しています。本気の学生の受講を期待します。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>１１号館１０階　田中教授室、城内准教授室
１１号館９階　笛木講師室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>本講義は、選抜制であり、３０名を上限とする。後期から参加する学生については、選抜テスト（試験範囲は、憲法Ⅰ（人権総論）、憲法Ⅱ（人権各論）、憲法Ⅲ(統治機構)、民法ⅠA(総則)、民法ⅠB(総則)、民法ⅡA(物権)、民法ⅢA(債権総論①)、民法ⅣA(債権総論①)）を実施し、基準点に満たない者の受講は認めない。また。憲法・民法の該当年次までの基本科目については、履修が必要である。選抜テストの日程はＴｅａｍｓ上で告知するので、受講を希望する者は、必ず受験すること（やむを得ない理由で受験できない場合は、担当教員ま</td></tr>
</table>

科目名	北河内を知る	科目名（英文）	Introduction to Kita-kawachi Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	増田　知也.小林　基
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：A○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TLO1453a1,L 科：LLO1355a1,D 科・S 科：ILO1362a1,P 科：YLO1418a2,J 科：JLO1364a1,W 科：WLO1343a1,N 科：NLO1344a1		

授業概要・目的	摂南大学と大学が立地する「北河内」に焦点をあて、この地域の市町村の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」から、地方自治体の現状と課題をグループディスカッションを行いながら学び、地域との関わり方を考える。 授業では、自らが問題意識や疑問をもちながら地域の現状を分析し、多くの疑問点（質問）をだすこと。さらに疑問点（質問）に優先順位をつけ、それに基づいた学修・調査・研究を行うことのトレーニングを行う。 またグループワークで互いに議論しながら、ひとつの方向性を見出す大切さを経験する。 この授業は授業担当者として、北河内７市の「行政実務者」が担当する。
到達目標	北河内地域の歴史、文化、産業、まちづくりを知り、地域に対する愛着を醸成し、社会の一員として地域とのかかわりの大切さを認識する。 さらに地域おける課題を発見し解決できる能力に必要な「考える力、判断する力、表現する力」を身につける。
授業方法と留意点	北河内地域の市町村の行政実務者をを学外講師とするオムニバス講義である。授業は、土曜日に集中的に実施し、毎回の授業で「自己学習・グループ学習」「質疑」「グループワーク・成果物のプレゼンテーション」を行う。
科目学習の効果（資格）	ソーシャルイノベーション副専攻の必須科目である。「北河内を知る」を通じて、地域の課題を発見して解決する能力を身につけることに努力する。さらに、外部講師の方々と交流を深め、地域貢献活動に参画し、自ら考え行動することで、生涯にわたり学習する基盤が培われる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 1 限	授業の進め方、成績評価方法 グループワークの進め方等を学ぶ	事前課題：北河内について調べる（３０分） 事後課題:授業の進め方について確認する（３０分）
2	チームビルディング 2 限	チームをつくり、相互理解を深める。	事前課題:チームでの取組が円滑にいくにはどのようなことが大切か考える。 事後課題：チームビルディングの成果をまとめる（３０分）
3	北河内地域に関する講演 1 限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する（１時間）
4	北河内地域に関する講演 2 限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する（１時間）
5	グループワーク・プレゼンテーション 3 限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題:討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（３０分）
6	北河内地域に関する講演 1 限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する（１時間）
7	北河内地域に関する講演 2 限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する（１時間）
8	グループワーク・プレゼンテーション 3 限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題:討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（３０分）
9	北河内地域に関する講演 1 限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する（１時間）
10	北河内地域に関する講演 2 限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事後課題:討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（３０分）
11	グループワーク・プレゼンテーション 3 限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する。	事後課題:討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（３０分）
12	北河内地域に関する講演 1 限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する（１時間）
13	グループワーク・プレゼンテーション 最終発表会について 2 限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する。 また、最終発表会についての説明を行う。	事後課題:討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（３０分）
14	最終発表会 1 限	アクションプランをプレゼンテーションし、意見交換により、より深い学びを行う	事後課題:討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる。また、プレゼンテーションの練習を十分に行う（１０時間）
15	最終発表会 2 限	アクションプランをプレゼンテーションし、意見交換により、より深い学びを行う	事後課題:討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる。また、プレゼンテーションの練習を十分に行う（１０時間）

関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻科目

<table>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>個人レポートの評価（40%）、グループごとの聴講および討議の態度のルーブリック評価（30%）、グループワークの成果物（30%）</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>地域創生の第一歩を踏み出してみませんか？</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>増田知也（法学部・法律学科）　11 号館 10 階</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>学外講師のご都合により、授業計画の内容や実施日、順序等を変更すること、学外の方が聴講すること、授業の様子をカメラ・ビデオで撮影することがあります。ご了解下さい。</td></tr>
</table>

科目名	ソーシャル・イノベーション実務総論	科目名（英文）	Social Innovation Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井　三恵
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：A○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TLO1454a1,L 科：LLO1356a1,D 科・S 科：ILO1363a1,P 科：YLO1419a2,J 科：JLO1365a1,W 科：WLO1344a1,N 科：NLO1345a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、以下の４点のようになることが期待される。 １）ICT 部門が急速な発展を遂げているビジネス社会にあって、ビジネスパーソン自身のあり方も大きく変わってきていることを理解する。 ２）ライフスタイルの変化は、単にキャリアパスを視野に入れるのではなく、個として生きる視点を組み込む必要性を意識せざるを得ないことを理解する。 ３）グローバル社会において必要とされるビジネス実務ならびにビジネス実務能力とは何かを学ぶ。 ４）変化するビジネス環境の現状と課題について考察し、社会に貢献し、革新を起こすクリエイティビティを発揮する自らの職業観を確立する。 なお、講義は担当講師の民間企業、自治体、NPO 法人での業務及び高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。 SDGs-9
到達目標	１）ビジネスに必要なビジネス実務能力を理解し、計画的に身につける必要性を学ぶ。 ２）社会に貢献するためのビジネスという概念から、「異世代・異文化（多様性）を主体的に理解する力」、「地域社会の課題を主体的に発見する力」、「主体的に課題を解決し、新しい価値を生み出す力」（３つの力）を理解できる。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。 また、座学の後、グループワークを通して課題を議論し、もしくは事前に与えた課題に関してのプレゼンテーションを行うこともある。
科目学習の効果（資格）	2019 年度以前の入学生においては、「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・ソーシャル・イノベーション実務総論の概要を説明する。 ・グループワークならびにプレゼンテーションに関して説明する。 ・自己紹介後、グループ形成をする。	・事前学修：自己紹介の原案を考えること（２時間） ・事後学修：「ビジネスのイメージは？」というテーマでルールを守って自由に書くこと（２時間）
2	ビジネスの定義	・ビジネスとは何かを考察する。 ・イノベーションが繰り返し唱えられる理由について考察する。	・事前学修：テキストの指定個所を熟読し、ノートにまとめること（２時間） ・事後学修：ソーシャルイノベーションカンパニーの実例を調べる（２時間）
3	組織の種類　－営利組織と非営利組織－	・阪神淡路大震災後、急速に進化した NPO 組織について考える。 ・営利組織と非営利組織について、ディベートを行う。	・事前学修：NPO について調べること（２時間） ・事後学修として、営利・非営利組織の対照表を作成すること（２時間）
4	ビジネス環境をとらえる①－経済のグローバル化と高度情報化－	・グローバル化の明暗について考察する。	・事前学修：グローバル化とは何か、新聞記事等の情報を集めること（２時間） ・事後学修：日本のグローバル化に関する小レポートを作成すること（２時間）
5	ビジネス環境をとらえる②－地球環境問題と少子高齢社会－	・地球環境問題とジェンダーエンパワーメント指数について考察する。	・事前学修：ジェンダーエンパワーメント指数を調べ、そこから考えたことをまとめること（２時間） ・事後学修：地球市民として考えたことをまとめること（２時間）
6	ビジネス現場をとらえる－オフィスからワークプレイスへ－	・「四角いオフィスから無限大の空間」というテーマで自由に考える。	・事前学修：将来の働き方をイメージし、まとめること（２時間） ・事後学修：グループで話し合ったことを主に、個人の意見をまとめたレポートを作成すること（２時間）
7	ビジネス実務能力	・「働くために必要な能力とは」、というテーマで考える。	・事前学習：働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、　どのように身につけるかを自身の優先順位、番号をつけた　個条書きにすること（２時間） ・事後学修　：・自分に必要な「ビジネス実務能力」をノートにまとめること（２時間）
8	ビジネス実務の基本①－仕事の進め方－	・企業等のビジネス組織で必要とされている「ビジネス実務能力」とは何かを理解する。 ・優先順位の付け方等、具体的な進め方や対応の科学的対処法を学ぶ。	・事前学修：働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身につけるかをまとめること。問題プリント①を解くこと（２時間） ・事後学修：自分に必要な「ビジネス実務能力」をまとめること。問題プリント②を解くこと（２時間）
9	ビジネス実務の基本②－ビジネスと諸活動－	・自己を取り巻く環境の中で、企業等のビジネス組織が展開している諸活動を理解する。	・事前学修：CSR について調べ、まとめること（２時間） ・事後学修：一企業の CSR を選び、レポートを作成すること（２時間）
10	ビジネス実務の基本③－ビジネスと経営資源－	・経営資源としての人的資源を中心に学ぶ。	・事前学修：男女共同参画社会に関して調べ、まとめること（２時間） ・事後学修：・人的資源としてのヒト、あなたの目標を書いてみること（２時間）
11	自己実現とキャリアプランニング　－セルフマネジメントと自己啓発－	・自己啓発の必要性を理解し、ライフデザインの中のキャリアデザインを考える。 ・社会の中における自己を位置づける。	・事前学修：・テキストの指定個所（pp.164-174）を熟読し、ノートにまとめること（２時間） ・事後学修:再度自己振り返りシートを作成し直し、職業を通した自己意識をレポートにまとめる。 と（２時間）

	12	ビジネス実務の基本④－ビジネスと PDCA サイクル/マーケティング活動とコストパフォーマンスー	・PDCA サイクルを理解する。 ・マーケティングとコストの関係について理解する。	・事前学修：業界内の２社の CM を比較し、その特徴をノートにまとめること（２時間） ・事後学修：次回のグループワークのために、3 つの NPO の資料（スライド 12～13）をしっかり読み込むこと（２時間）
	13	ビジネスプラン①－起業への意識と「寄付の教室」－	・寄付行為の意味を考える。	・事前学修：寄付の意味を考え、まとめること（２時間） ・事後学修：寄付行為を行う基準を考えること（２時間）
	14	ビジネスプラン②－プレゼンテーション	・作成したビジネスプランに基づいて発表する。	・事前学修：各自がテーマを見つけ、企画書を作成し、発表練習すること（２時間） ・事後学修：ビジネスプランの再考をする（２時間）
	15	ビジネスプラン②－プレゼンテーション発表と授業の総まとめ	・イノベーションの意味を再考する。 ・VUCA の時代において、新たなビジネスの創出について考える。	・事前学修：この授業の学びをまとめること（２時間） ・事後学修を：新たな発見をすること（２時間）

関連科目	2019 年度以前の学生においては、「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の科目。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ビジネス実務総論	全国大学実務教育協会	紀伊国屋書店
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	20 歳のときに知っておきたかったこと	ティナ・シーリグ	阪急コミュニケーションズ
2	イノベーションと企業家精神	P.F.ドラッカー	ダイヤモンド社
3	「デザイン思考」を超えるデザイン思考	DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部	ダイヤモンド社

評価方法 （基準）	・グループワーク（30%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（40%）を総合的に評価する。 ・毎回、座学ののち、グループワークとプレゼンを繰り返す予定であるので、準備を怠ることがないように注意する。
学生への メッセージ	私たちが生きている社会を「ビジネス」という視点で見つめなおしたとき、異なったものが見えてきます。私たちの生活を豊かにしてくれる企業等のビジネス組織へただ何となく参加するのではなく、その実態を理解し、自ら参画することを選びませんか。さまざまな組織ではさまざまな働き方がありますが、基本はビジネス実務能力が求められています。それを理解したうえで、従来の社会の上に新しい視点を作り上げていきましょう。
担当者の 研究室等	石井教授室（７号館５階）
備考	予習・復習に毎回２時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。

科目名	日本語読解Ｆ Ⅰ	科目名（英文）	Japanese Reading FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木　成美
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：E○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,DP8◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△0：DP8○		
科目ナンバリング	FF01314a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	・主に講義形式で行う。 ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。（発音テストに変更する可能性有） ・Teams を使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。 ・小テストの FB に関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。
科目学習の効果（資格）	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習
3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習
4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認
6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ（話す）、タスク	語彙テストの内容確認
8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習
9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認
11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
12	ローソクの進化①	語彙テスト、内容まとめ（話す）、タスク	語彙テストの内容確認
13	「割り勘」は当然？①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
14	「割り勘」は当然？②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目	日本語読解ＦⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、提出物（30%）、小テスト（30%）
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3)新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週 1 時間。

科目名	日本語読解ＦⅡ	科目名（英文）	Japanese Reading FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木　成美
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅲ○,Ⅳ○,R科：A◎,A科：C◎,M科：B2◎,E科：E○,C科：Ⅲ○,Ⅵ○,L科：DP1◎,DP7△,DP8△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1◎,DP8◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎,DP8△0：DP8○		
科目ナンバリング	FF02315a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	・主に講義形式で行う。 ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。（発音テストに変更する可能性有） ・Teams を使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。 ・小テストの FB に関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。
科目学習の効果（資格）	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
2	統計と数字①	読解、内容理解、内容をまとめ（話す）	授業内で使用したプリントを使い復習
3	統計と数字②	語彙テスト、内容まとめ（話す）	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認
4	背理法①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
5	背理法②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認
6	「待つ」こと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
7	「待つ」こと②	語彙テスト、内容まとめ（話す）、タスク	語彙テスト内容確認
8	ついでに何をする？①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
9	ついでに何をする？②	語彙テスト、内容まとめ（話す）、タスク	語彙テスト内容確認
10	ウイルス発見！①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
11	ウイルス発見！②	語彙テスト、内容まとめ（話す）、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認
12	大学で学ぶこと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
13	大学で学ぶこと②	語彙テスト、内容まとめ（話す）、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認
14	何のために「学ぶ」のか	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目	日本語読解ＦⅠ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、提出物（30%）、小テスト（30%）
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3)新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週 1 時間。

科目名	日本語表現作文Ｆ Ⅰ	科目名（英文）	Japanese Reading and Writing FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木　成美
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：E○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,DP8◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△0：DP8○		
科目ナンバリング	FF01318a1		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。
到達目標	・レポート・論文の文体で書ける。 ・読んだ内容を要約できる。 ・段落分けして書ける。 ・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 ・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。
授業方法と留意点	・主に講義形式で行う。 ・授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。 ・Teams を使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。 ・提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。
科目学習の効果（資格）	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題
6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題
8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題
11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題
14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目	日本語表現作文ＦⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、提出物（60%）
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3)作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週 1 時間。

科目名	日本語表現作文ＦⅡ	科目名（英文）	Japanese Reading and Writing FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木　成美
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅲ○,Ⅳ○,R科：A◎,A科：C◎,M科：B2◎,E科：E○,C科：Ⅲ○,Ⅵ○,L科：DP1◎,DP7△,DP8△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1◎,DP8◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎,DP8△0：DP8○		
科目ナンバリング	FF02319a1		

授業概要・目的	この授業では、実際にレポートを作成することを通し、レポート・論文の書き方を守ってレポートが作成できるようになることを目指す。
到達目標	・レポート・論文の文体で書ける。 ・レポート・論文の書き方を守って書ける。 ・アウトラインに沿って書ける。 ・信頼性の高い資料を集められる。
授業方法と留意点	・主に講義形式で行う。 ・授業では、テーマを決め、実際にレポートを作成していく。 ・オンライン授業になった場合、プリントはパワーポイントに変更する。 ・提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。
科目学習の効果（資格）	レポートが書けるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	前期で使用したプリントを使い復習
2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	資料を集める
5	資料を整理する	集めた資料を整理する	授業内で使用したプリントを使い復習
6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	授業内で使用したプリントを使い復習
7	序論①	序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
8	序論②	序論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習
9	本論①	本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
10	本論②	本論の内容と書き方（考察、結論提示）を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
11	本論③	本論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習
12	結論①	結論の内容と書き方（全体のまとめ、今後の課題）を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
13	結論②	結論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習
14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	授業内で使用したプリントを使い復習
15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	発表のＦＢを元に復習

関連科目	日本語表現作文ＦⅠ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、提出物（60%）
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう！
担当者の研究室等	7号館2階　非常勤講師室
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3)作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週１時間。

科目名	日本語文法ＦⅠ	科目名（英文）	Japanese Grammar FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木　成美
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：E○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,DP8◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△0：DP8○		
科目ナンバリング	FF01316a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	・主に講義形式で行う。教員による解説と練習を繰り返しながら進める。 ・Teams を使用する場合、授業内プリントはパワーポイントに変更する。 ・小テストの FB に関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。
科目学習の効果（資格）	高度な日本語運用能力

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
2	渡り鳥はなぜ迷わない？	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
3	フリーズする脳	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
4	「科学」の定義①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
5	「科学」の定義②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
6	現代の若者のマナー①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
7	現代の若者のマナー②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
8	親孝行な男の子	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
9	言語と文化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
10	言語と文化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
11	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
12	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
13	「割り勘」は当然？①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
14	「割り勘」は当然？②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
15	総復習	総復習	第１回～第１４回までの文法を中心としたプリントを使い復習

関連科目	日本語文法ＦⅡ、日本語読解ＦⅠ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、提出物（30%）、小テスト（30%）
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3)授業内で使用したプリントを使い文法の確認（復習）。目安は毎週１時間。

科目名	日本語文法ＦⅡ	科目名（英文）	Japanese Grammar FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木　成美
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：E○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,DP8◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△0：DP8○		
科目ナンバリング	FF02317a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	・主に講義形式で行う。教員による解説と練習を繰り返しながら進める。 ・オンライン授業に変更になった場合、プリントの代わりにパワーポイントを使用する。 ・小テストの FB に関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。
科目学習の効果（資格）	高度な日本語運用能力

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
5	背理法②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
8	ついでに何をする？①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
9	ついでに何をする？②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目	日本語文法ＦⅠ、日本語読解ＦⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、提出物（30%）、小テスト（30%）
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3)授業内で使用したプリントを使い文法の確認（復習）。目安は毎週 1 時間。

科目名	日本事情ＦⅠ	科目名（英文）	Japanese Culture and Society FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇　薫
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅲ○,Ⅳ○,R科：A◎,A科：C◎,M科：B2◎,E科：E○,C科：Ⅲ○,Ⅵ○,L科：DP1◎,DP7△,DP8△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1◎,DP8◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎,DP8△0：DP8○		
科目ナンバリング	FF01312a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。（1）映画についての情報・その他背景知識について説明　（2）映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題　（3）テーマについてディスカッション　（4）「書く」練習 提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。
科目学習の効果（資格）	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）(1.5 時間)
2	映画１：テーマ「大学生活」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）、プリントの課題(1.5 時間)
3	映画１：テーマ「大学生活」	内容理解、タスク	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）、プリントの課題(1.5 時間)
4	映画１：テーマ「大学生活」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）　(計２時間)
5	映画２：テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）、プリントの課題(計２時間)
6	映画２：テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）、プリントの課題(1.5 時間)
7	映画２：テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く）(計２時間)
8	テーマ１・２に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）(計２時間)
9	映画３：テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）、プリントの課題(計２時間)
10	映画３：テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）、プリントの課題(1.5 時間)
11	映画３：テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）　(計２時間)
12	映画について発表（１）	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック（計２時間）
13	映画について発表（２）	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック　(計２時間)(計２時間)
14	映画について発表（３）	発表、質疑応答	原稿修正、レポート(計２時間)
15	総まとめ	ディスカッション	サイトに投稿する(計２時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文、専門日本語、日本語会話

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
3			

評価方法 （基準）	各課題及びレポート（80%),授業への参加度（20%）により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関で多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説をしながら、インタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	7 号館 4 階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本事情ＦⅡ	科目名（英文）	Japanese Culture and Society FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇　薫
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅲ○,Ⅳ○,R科：A◎,A科：C◎,M科：B2◎,E科：E○,C科：Ⅲ○,Ⅵ○,L科：DP1◎,DP7△,DP8△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1◎,DP8◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎,DP8△0：DP8○		
科目ナンバリング	FF02313a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	・各映画について次のように進めます。（1）映画についての情報・その他背景知識について説明　（2）映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題　（3）テーマについてディスカッション　（4）「書く」練習 提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。
科目学習の効果（資格）	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）(1.5 時間)
2	映画１：テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）、プリントの課題(1.5 時間)
3	映画１：テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）、プリントの課題(1.5 時間)
4	映画１：テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）　(計２時間)
5	映画２：テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）、プリントの課題(計２時間)
6	映画２：テーマ「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）、プリントの課題(1.5 時間)
7	映画２：テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く）(計２時間)
8	テーマ１・２に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）(計２時間)
9	映画３：テーマ「言葉」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）、プリントの課題(計２時間)
10	映画３：テーマ「言葉」	内容理解、タスク	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）、プリントの課題(1.5 時間)
11	映画３：テーマ「言葉」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）　(計２時間)
12	日本での経験	内容について検討	テーマを考える、内容について調べる（計 1.5 時間）
13	日本での経験	ディスカッション、文章作成	受講生の文章にコメントする（計 1.5 時間）
14	日本での経験	作文内容についてグループワーク、文章修正	文章修正、発表準備（計 1.5 時間）
15	発表　（新聞に投稿する）	発表、質疑応答、	文章修正、投稿する（計 1.5 時間）

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文、専門日本語、日本語会話

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
3			

評価方法 （基準）	各課題及びレポート（80%),授業への参加度（20%）により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関での多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説しながらインタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	７号館４階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本語総合ＦⅠ	科目名（英文）	Comprehensive Japanese FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鎌田　美保
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅲ○,Ⅳ○,R科：A◎,A科：C◎,M科：B2◎,E科：E○,C科：Ⅲ○,Ⅵ○,L科：DP1◎,DP7△,DP8△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1◎,DP8◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎,DP8△0：DP8○		
科目ナンバリング	FF01320a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 課題のフィードバックは授業中に行う。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
13	発表準備１	発表資料の作成	発表資料の作成（残り）
14	発表準備２	発表資料の修正	発表練習（文体に気を付ける）
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
担当者の研究室等	鎌田講師室（２号館２階）
備考	事前事後学習時間の目安は毎週１時間。

科目名	日本語総合ＦⅡ	科目名（英文）	Comprehensive Japanese FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鎌田　美保
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：E○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,DP8◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△0：DP8○		
科目ナンバリング	FF02321a1		

授業概要・目的	発表に適したレジュメの作成方法を学ぶ。 アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	資料を読み、内容を理解し、他者にわかりやすく発表できる。 発表に適した資料を作成することができる 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	様々な文章を読み、その内容をレジュメにまとめ、口頭で発表する。 課題のフィードバックは授業中に行う。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 レジュメ作成について	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
2	トピック１	他者にわかりやすいレジュメ	
3	トピック２-1	文章を読み、レジュメを作成する	レジュメ作成
4	トピック 2-２	作成したレジュメを用い、発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
5	トピック 2-３	作成したレジュメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる
6	トピック 3-1	文章を読み、レジュメを作成する	レジュメ作成
7	トピック 3-2	作成したレジュメを用い、発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
8	トピック 3-3	作成したレジュメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる
9	トピック 4-１	ABD について	
10	トピック４－２	本を読み、発表用資料を作成する	授業で使用した語彙を復習し、覚える
11	トピック４－３	資料を用い、発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
12	トピック５－１	文章を読み、レジュメを作成する	レジュメ作成
13	トピック５－２	作成したレジュメを用い、発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
14	トピック５－３	作成したレジュメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる
15	まとめ	これまでの授業のふりかえり、今後に向けて	

関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、発表 40%で判断する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
担当者の研究室等	鎌田講師室（２号館２階）
備考	事前事後学習時間の目安は毎週１時間。

科目名	専門日本語ＦⅠ	科目名（英文）	Japanese for Specific Purposes FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩谷　尚子
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：E○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,DP8◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△0：DP8○		
科目ナンバリング	FF01322a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、E メールの書き方、自己 PR の書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。 ハンドアウトを使用する。
科目学習の効果（資格）	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習
2	E メールの書き方１	E メールの基本	E メールで使われる形式、表現等の復習
3	E メールの書き方２	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習
4	E メールの書き方３	依頼メール１	依頼メールに必要な語彙、表現の復習
5	E メールの書き方４	依頼メール２	依頼メールの書き方の復習
6	E メールの書き方５	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールで必要な語彙、表現の復習
7	話し方１	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習
8	話し方２	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習
9	話し方３	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習
10	自己 PR１	自己 PR とは何か	自己 PR で必要な項目を復習
11	自己 PR２	自己 PR 例の検討、修正１	自己 PR で必要な語彙、表現の復習
12	自己 PR３	自己 PR 例の検討、修正２	自己 PR で必要な語彙、表現の復習
13	自己 PR４	自分の自己 PR を書く１	自己 PR で必要な形式、書き方の復習
14	自己 PR５	自分の自己 PR を書く２	自己 PR の書き方の復習
15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

関連科目	専門日本語ＦⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み、課題の提出物等（40%）、定期試験（60%）により総合的に判断する。
学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。 またその際に必要な表現をしっかり確認してください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3)事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。

科目名	専門日本語ＦⅡ	科目名（英文）	Japanese for Specific Purposes FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	乾　友紀
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅲ○,Ⅳ○,R科：A◎,A科：C◎,M科：B2◎,E科：E○,C科：Ⅲ○,Ⅵ○,L科：DP1◎,DP7△,DP8△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1◎,DP8◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎,DP8△0：DP8○		
科目ナンバリング	FF02323a1		

授業概要・目的	日本での就職活動及びビジネス場面において必要な表現・言葉遣いについて学び、メールやエントリーシート、電話応対、プレゼンテーションなどで求められる日本語力を身につける。外国人が日本で働く上で直面しそうな問題を想定してその対処について考える。
到達目標	就職活動やビジネス場面で必要な日本語表現を使用することができる。 異文化接触場面における課題に対処することができる。
授業方法と留意点	教師が準備した資料をもとに講義、ディスカッション、ロールプレイ等を行う。
科目学習の効果（資格）	日本の就職活動及びビジネス日本語・ビジネスマナーについて知識を得ることによって、日本企業で働く上で求められる知識や日本語力を身につけることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 授業の説明 日本語のレベルチェック	授業の説明 日本語レベルチェックテストの実施	授業で確認した語彙、表現の復習
2	日本の就職活動の流れ 日本の企業文化	日本の就職活動について概観し、企業文化について学ぶ	授業で提示した課題
3	就職活動におけるメールの書き方	就職活動におけるメールの書き方を学ぶ	語彙、表現力の復習 授業で提示した課題
4	エントリーシート（履歴書、自己 PR、志望動機）の書き方	エントリーシートの書き方を学ぶ	語彙、表現の復習 授業で提示した課題
5	集団面接(グループディスカッション)	グループディスカッション	語彙、表現の復習 授業で提示した課題
6	個人面接における日本語表現	面接での受け答えに使用する日本語を学ぶ	語彙、表現の復習 授業で提示した課題
7	ビジネスマナー	異文化ビジネスコミュニケーションについて学ぶ	語彙、表現の復習 授業で提示した課題
8	初対面での日本語表現	自己紹介をする	語彙、表現の復習 授業で提示した課題
9	電話応対における日本語表現	電話応対に使用する日本語を学ぶ	語彙、表現の復習 授業で提示した課題
10	アドバイスする／受ける時の日本語表現	アドバイスをする／受ける時の日本語を学ぶ	語彙、表現の復習 授業で提示した課題
11	会議に参加する（報告をする・自分の意見を述べる）時の日本語表現	会議で使用する日本語を学ぶ	語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
12	依頼をする時の日本語表現	依頼をする時の日本語表現を学ぶ	語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
13	許可を求める時の日本語表現	許可を求める時の日本語表現を学ぶ	語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
14	発表準備	資料作成	発表資料を作成する
15	発表	授業を通して学んだ知識やスキルについて発表する	今学期に学んだことを振り返る。

関連科目	専門日本語ＦⅠ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み、課題の提出物等（50%）、発表（20%）、期末レポート（30%）により総合的に判断する。
学生へのメッセージ	授業では積極的に発言することが求められます。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	(1)事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 (2)受講生数や授業進度、参加学生のニーズによって授業内容を変更することがある。 (3)授業外の質問等には、メールで対応する。

科目名	日本語会話ＦⅠ	科目名（英文）	Japanese Conversation FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	原田　佳代子
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：E○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,DP8◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△0：DP8○		
科目ナンバリング	FF01324a1		

授業概要・目的	この授業は大学の授業や日常生活に必要な会話の能力を身につけることを目的としています。 特に、「身近な話題についてディスカッションを行い、適切な結論が導けるようになること」を目指します。 授業の概要は以下の通りです。 ・学生同士のディスカッションを行う。 ・身の回りのテーマを中心に扱う。 主に留学生同士の会話になりますが、教員が適宜フィードバックを行い、他の授業で日本人を相手に日本語でディスカッションを行うことができるようになることを目指します。
到達目標	１．身近な話題について、根拠を示して説得力のある意見を述べることができる ２．身近な話題について、自分とは異なる意見であっても尊重し、適切に理解することができる。また、必要に応じて質問をして、理解を補うことができる ３．身近な話題について、グループで協力して、論点を整理し、適切に結論を導くことができる ４．ディスカッションの方法や姿勢、マナーを身につける
授業方法と留意点	ペアワークなどを通して、受講生が「話す」ことを中心とする。 教材はプリントを配布する。 教員は適宜フィードバックを行う。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業概要説明 ウォーミングアップ ディスカッションの基本	授業の進め方、自己紹介	自己紹介の準備。（自分の興味関心について話せるようにしておく。）
2	ディスカッションの基本	意見と根拠を言う	授業中に配布したプリントを完成させる。
3	ディスカッションの基本	質問する	授業中に配布したプリントを完成させる。
4	ディスカッション①	自分の意見を整理する。	授業中に配布したプリントを完成させる。
5	ディスカッション①	意見を整理して報告する	授業中に配布したプリントを完成させる。
6	ディスカッション①	整理した意見をもとにディスカッションの練習を行う。	授業中に配布したプリントを完成させる。
7	ディスカッション①	ディスカッションの小テスト	授業中に配布したプリントを完成させる。
8	ディスカッション②	テーマについてメリット・デメリットを挙げる テーマについて意見と根拠をまとめる	授業中に配布したプリントを完成させる。
9	ディスカッション②	意見と根拠に対して質問する／質問に答える	授業中に配布したプリントを完成させる。
10	ディスカッション②	意見と根拠に対して反論する／再反論する	授業中に配布したプリントを完成させる。
11	ディスカッション②	結論を出す。	授業中に配布したプリントを完成させる。
12	ディスカッション②	ディスカッションにおける役割について学ぶ	授業中に配布したプリントを完成させる。
13	ディスカッション②	ディスカッションの練習	授業中に配布したプリントを完成させる。
14	ディスカッション②	ディスカッションの小テスト	授業中に配布したプリントを完成させる。
15	ディスカッション②	ディスカッションの振り返り	授業中に配布したプリントを完成させる。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	入社 1 年目から差がつくロジカル・シンキング練習帳	グロービズ	東洋経済新報社
2			
3			

評価方法（基準）	課題 30%、授業への取り組み 30%、小テスト（2 回）40%で判断する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 参考書は、授業で習ったことが分からない時やもっと勉強したいときに読む本です。最初から買う必要はありません。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	試験はディスカッション形式とし、適宜フィードバックを行なう。 授業時間外の相談はメールにて行うが、必要に応じて別途指示する。

科目名	日本語会話ＦⅡ	科目名（英文）	Japanese Conversation FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加藤　恵美子
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：E○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,DP8◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△0：DP8○		
科目ナンバリング	FF02325a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 オンライン授業になった場合は授業中はカメラを ON にすることを求めます。 カメラのない学生は、必ず事前に用意をしておくこと。 課題のフィードバックは授業中に行う。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
13	発表準備１	発表資料の作成	発表資料の作成（残り）
14	発表準備２	発表資料の修正	発表練習（文体に気を付ける）
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 口頭発表は、最終授業日に行なう。

科目名	日本語読解Ｒ	科目名（英文）	Japanese Reading R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木　成美
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：E○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,DP8◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△0：DP8○		
科目ナンバリング	RRE1328a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	・主に講義形式で行う。 ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。（発音テストに変更する可能性有） ・Teams を使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。 ・小テストの FB に関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。
科目学習の効果（資格）	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習
3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習
4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認
6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ（話す）、タスク	語彙テストの内容確認
8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習
9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認
11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
12	ローソクの進化①	語彙テスト、内容まとめ（話す）、タスク	語彙テストの内容確認
13	「割り勘」は当然？①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
14	「割り勘」は当然？②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目	日本語読解ＦⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、提出物（30%）、小テスト（30%）
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3)新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週 1 時間。

科目名	日本語表現作文R	科目名（英文）	Japanese Reading and Writing R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木　成美
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅲ○,Ⅳ○,R科：A◎,A科：C◎,M科：B2◎,E科：E○,C科：Ⅲ○,Ⅵ○,L科：DP1◎,DP7△,DP8△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1◎,DP8◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎,DP8△0：DP8○		
科目ナンバリング	RRE1330a1		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。
到達目標	・レポート・論文の文体で書ける。 ・読んだ内容を要約できる。 ・段落分けして書ける。 ・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 ・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。
授業方法と留意点	・主に講義形式で行う。 ・授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。 ・Teams を使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。 ・提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。
科目学習の効果（資格）	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題
6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題
8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題
11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題
14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目	日本語表現作文ＦⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、提出物（60%）
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。
担当者の研究室等	7号館２階　非常勤講師室
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3)作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週１時間。

科目名	日本語文法R	科目名（英文）	Japanese Grammar R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木　成美
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：E○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,DP8◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△0：DP8○		
科目ナンバリング	RRE1329a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	・主に講義形式で行う。教員による解説と練習を繰り返しながら進める。 ・オンライン授業に変更になった場合、プリントの代わりにパワーポイントを使用する。 ・小テストの FB に関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。
科目学習の効果（資格）	高度な日本語運用能力

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
5	背理法②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
8	ついでに何をする？①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
9	ついでに何をする？②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目	日本語文法ＦⅠ、日本語読解ＦⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、提出物（30%）、小テスト（30%）
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3)授業内で使用したプリントを使い文法の確認（復習）。目安は毎週 1 時間。

科目名	日本事情ＲⅠ	科目名（英文）	Japanese Culture and Society RI
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇　薫
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：E○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,DP8◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△0：DP8○		
科目ナンバリング	RRE1326a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。（1）映画についての情報・その他背景知識について説明　（2）映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題　（3）テーマについてディスカッション　（4）「書く」練習 提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。
科目学習の効果（資格）	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）(1.5 時間)
2	映画１：テーマ「大学生活」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）、プリントの課題(1.5 時間)
3	映画１：テーマ「大学生活」	内容理解、タスク	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）、プリントの課題(1.5 時間)
4	映画１：テーマ「大学生活」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）　(計２時間)
5	映画２：テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）、プリントの課題(計２時間)
6	映画２：テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）、プリントの課題(1.5 時間)
7	映画２：テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く）(計２時間)
8	テーマ１・２に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）(計２時間)
9	映画３：テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）、プリントの課題(計２時間)
10	映画３：テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）、プリントの課題(1.5 時間)
11	映画３：テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）　(計２時間)
12	映画について発表（１）	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック（計２時間）
13	映画について発表（２）	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック　(計２時間)(計２時間)
14	映画について発表（３）	発表、質疑応答	原稿修正、レポート(計２時間)
15	総まとめ	ディスカッション	サイトに投稿する(計２時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文、専門日本語、日本語会話

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
3			

評価方法 （基準）	各課題及びレポート（80%),授業への参加度（20%）により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関で多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説をしながら、インタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	7 号館 4 階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本事情ＲⅡ	科目名（英文）	Japanese Culture and Society RII
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇　薫
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：E○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,DP8◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△0：DP8○		
科目ナンバリング	RRE2327a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	・各映画について次のように進めます。（1）映画についての情報・その他背景知識について説明　（2）映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題　（3）テーマについてディスカッション　（4）「書く」練習 提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。
科目学習の効果（資格）	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）(1.5 時間)
2	映画１：テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）、プリントの課題(1.5 時間)
3	映画１：テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）、プリントの課題(1.5 時間)
4	映画１：テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）　(計２時間)
5	映画２：テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）、プリントの課題(計２時間)
6	映画２：テーマ「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）、プリントの課題(1.5 時間)
7	映画２：テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く）(計２時間)
8	テーマ１・２に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）(計２時間)
9	映画３：テーマ「言葉」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）、プリントの課題(計２時間)
10	映画３：テーマ「言葉」	内容理解、タスク	テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）、プリントの課題(1.5 時間)
11	映画３：テーマ「言葉」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）　(計２時間)
12	日本での経験	内容について検討	テーマを考える、内容について調べる (計 1.5 時間)
13	日本での経験	ディスカッション、文章作成	受講生の文章にコメントする (計 1.5 時間)
14	日本での経験	作文内容についてグループワーク、文章修正	文章修正、発表準備 (計 1.5 時間)
15	発表　（新聞に投稿する）	発表、質疑応答、	文章修正、投稿する (計 1.5 時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文、専門日本語、日本語会話

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
3			

評価方法 （基準）	各課題及びレポート（80%),授業への参加度（20%）により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関での多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説しながらインタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	７号館４階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本語総合Ｒ	科目名（英文）	Comprehensive Japanese R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鎌田　美保
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：E○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,DP8◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△0：DP8○		
科目ナンバリング	RRE1331a1		

授業概要・目的	発表に適したレジュメの作成方法を学ぶ。 アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	資料を読み、内容を理解し、他者にわかりやすく発表できる。 発表に適した資料を作成することができる 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	様々な文章を読み、その内容をレジュメにまとめ、口頭で発表する。 課題のフィードバックは授業中に行う。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 レジュメ作成について	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
2	トピック１	他者にわかりやすいレジュメ	
3	トピック２-1	文章を読み、レジュメを作成する	レジュメ作成
4	トピック 2-２	作成したレジュメを用い、発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
5	トピック 2-３	作成したレジュメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる
6	トピック 3-1	文章を読み、レジュメを作成する	レジュメ作成
7	トピック 3-2	作成したレジュメを用い、発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
8	トピック 3-3	作成したレジュメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる
9	トピック 4-１	ABD について	
10	トピック４－２	本を読み、発表用資料を作成する	授業で使用した語彙を復習し、覚える
11	トピック４－３	資料を用い、発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
12	トピック５－１	文章を読み、レジュメを作成する	レジュメ作成
13	トピック５－２	作成したレジュメを用い、発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
14	トピック５－３	作成したレジュメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる
15	まとめ	これまでの授業のふりかえり、今後に向けて	

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、発表 40%で判断する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
担当者の研究室等	鎌田講師室（２号館２階）
備考	事前事後学習時間の目安は毎週１時間。

科目名	専門日本語Ｒ	科目名（英文）	Japanese for Specific Purposes R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩谷　尚子
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：E○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,DP8◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△0：DP8○		
科目ナンバリング	RRE1332a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、E メールの書き方、自己 PR の書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。 ハンドアウトを使用する。
科目学習の効果（資格）	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の説明､様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習
2	E メールの書き方１	E メールの基本	E メールで使われる形式、表現等の復習
3	E メールの書き方２	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習
4	E メールの書き方３	依頼メール１	依頼メールに必要な語彙、表現の復習
5	E メールの書き方４	依頼メール２	依頼メールの書き方の復習
6	E メールの書き方５	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールで必要な語彙、表現の復習
7	話し方１	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習
8	話し方２	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習
9	話し方３	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習
10	自己 PR１	自己 PR とは何か	自己 PR で必要な項目を復習
11	自己 PR２	自己 PR 例の検討、修正１	自己 PR で必要な語彙、表現の復習
12	自己 PR３	自己 PR 例の検討、修正２	自己 PR で必要な語彙、表現の復習
13	自己 PR４	自分の自己 PR を書く１	自己 PR で必要な形式、書き方の復習
14	自己 PR５	自分の自己 PR を書く２	自己 PR の書き方の復習
15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

関連科目：専門日本語ＦⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み、課題の提出物等（40%）、定期試験（60%）により総合的に判断する。
学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。 またその際に必要な表現をしっかり確認してください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3)事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。

科目名	日本語会話Ｒ	科目名（英文）	Japanese Conversation R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加藤　恵美子
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：E○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,DP8◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△0：DP8○		
科目ナンバリング	RRE1333a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 オンライン授業になった場合は授業中はカメラを ON にすることを求めます。 カメラのない学生は、必ず事前に用意をしておくこと。 課題のフィードバックは授業中に行う。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
13	発表準備１	発表資料の作成	発表資料の作成（残り）
14	発表準備２	発表資料の修正	発表練習（文体に気を付ける）
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 口頭発表は、最終授業日に行なう。

科目名	社会科・地歴科教育法Ⅰ	科目名（英文）	Geography and History Education Method Ⅰ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	次橋　秀樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	社会科教育の意義や目的、課題について、歴史的な経緯をふまえて理解する。そのうえで、中学校社会科で扱う地理的分野・歴史的分野の授業を行うために必要な知識・授業構成方法・教育方法を学び、学習指導案を作成し、模擬授業を行う。 模擬授業について、参加者全員で討議・批評を行うことを通して、授業者が自ら授業を改善していくための基礎的な力量を身に付ける。
到達目標	・学習指導要領に示されている社会科の目標や内容を理解する。 ・情報通信技術の活用も含めて、適切な教材や教育方法、評価方法を考え、それを指導案として表現し、中学校における具体的な授業場面を想定ながら授業を行うことができる。 ・授業の実施と振り返りや共同的に行われる授業研究を通して、授業改善に取り組むことができる。
授業方法と留意点	模擬授業やグループ・ワーク、討論を多く行うので、とくに積極的な発言及び講義参加姿勢が望まれる。 『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)　解説　社会編』『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)　解説　社会編』は購入もしくは文部科学省 HP よりダウンロードし、手元ですぐに確認できるようにしておくこと。 中学生のときの社会科教科書・資料集・地図帳やノートをなるべく手元に置いておくこと。 教科書は指定しない。必要な資料については授業ごとに Teams 上で共有する。
科目学習の効果（資格）	中学校教員免許（社会科） 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の概要と評価方法について 社会科で育てたい資質・能力について	事前に既修の「教師論」「教育原理」を復習しておく（3 時間）。事後学習については授業終了時に指示する（1 時間）。
2	よい授業とはどんな授業か	江戸末期以降から現代までの教育制度の変遷について学ぶ。	事前にこれまで自分が経験した社会科の授業についてまとめておく（1 時間）。事後に興味をもった構成要素に関連する実践資料を読む（3 時間）
3	社会科教育の歴史(1)	戦後の学力観の変化と指導要領改訂の変遷を学ぶ。	事前に指示された資料を読み、発問を考えておく（3 時間）。事後については授業終了時に指示する（1 時間）。
4	社会科教育の歴史(2)	地理・歴史科学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前に社会科学習指導要領の変遷について調べ、まとめておく（2 時間）。事後については授業終了時に指示する（1 時間）。
5	歴史的分野の授業とその構成方法	地理・歴史科学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前に「学習指導要領 解説」を熟読しておく（1 時間）。 事後に、学習指導案例を自ら探して検討する（2 時間）。
6	地理的分野の授業とその構成方法	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	事前に「学習指導要領 解説」を通読しておく（1 時間）。 事後に、学習指導案例を自ら探して検討する（2 時間）。
7	社会科の評価方法	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	事前に定期テスト問題や入試問題についての情報を集めつつ、社会科・地歴科におけるテストについて振り返っておく（1 時間）。 事後、興味を持った実践について調べる（2 時間）。
8	模擬授業(1)	歴史的分野「原始・古代の日本と世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
9	模擬授業(2)	歴史的分野「中世の日本と世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
10	模擬授業(3)	歴史的分野「近世の世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
11	模擬授業(4)	歴史的分野「近世の日本」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
12	模擬授業(5)	地理的分野「日本の地域構成」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
13	模擬授業(6)	地理的分野「九州地方／中国・四国地方」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
14	模擬授業(7)	地理的分野「近畿地方」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
15	模擬授業(8)	地理的分野「中部地方／関東地方」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振

				り返りを行う（2 時間）。

関連科目	社会科教育法Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領(平成 29 年告示)	文部科学省	東山書房
2	中学校学習指導要領(平成 29 年告示)　解説　社会編	文部科学省	東洋館出版社
3			

評価方法 （基準）	成果物としての指導案（50%）とコメントカードなどの授業内で指示する提出課題（50%）で評価を行う。 提出されたコメントカードの記述に対しては、次回授業内でコメントもしくはプリントにてフィードバックを行う。 出席回数が 2/3 以上の者を評価の対象とする。
学生への メッセージ	皆さんのお手本になるような優れた授業が先人たちによって開発されてたくさんあるということと、一方で絶対的に優れた授業というものはないということを知ってもらいたいと思っています。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	

科目名	社会科・地歴科教育法Ⅱ	科目名（英文）	Geography and History Education Method II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	次橋　秀樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	中学校社会科で扱う地理的分野・歴史的分野の授業を行うために必要な知識・授業構成方法・教育方法を学び、学習指導案を作成し、模擬授業を行う。 模擬授業について、参加者全員で討議・批評を行うことを通して、授業者が自ら授業を改善していくための基礎的な力量を身に付ける。
到達目標	・学習指導要領に示されている社会科の目標や内容を理解する。 ・カリキュラム・マネジメントの観点から社会科の学習を捉えることができる。 ・情報通信技術の活用も含めて、適切な教材や教育方法、評価方法を考え、それを指導案として表現し、中学校における具体的な授業場面を想定ながら授業を行うことができる。 ・授業の実施と振り返りや共同的に行われる授業研究を通して、授業改善に取り組むことができる。
授業方法と留意点	模擬授業やグループ・ワーク、討論を多く行うので、とくに積極的な発言及び講義参加姿勢が望まれる。 『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)　解説　社会編』『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)　解説　社会編』は購入もしくは文部科学省 HP よりダウンロードし、手元ですぐに確認できるようにしておくこと。 中学生のときの社会科教科書・資料集・地図帳やノートをなるべく手元に置いておくこと。 教科書は指定しない。必要な資料については授業ごとに Teams 上で共有する。
科目学習の効果（資格）	中学校教員免許（社会科） 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目区分：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含めることが必要な事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の概要と評価方法について 社会科の特性を生かした教材・教具、発問の検討	事前に社会科教育法Ⅰの第7回目までの学習内容を復習しておく（2 時間）。事後学習については授業終了時に指示する（1 時間）。
2	授業実践検討	優れた授業を言語化する	事前にこれまで自分が経験した授業についてまとめておく（1 時間）。事後課題については授業内で指示する（1 時間）。
3	概念中心カリキュラム	国際バカロレアの教育方法の検討	事前課題なし。事後課題については授業内で指示する（2 時間）。
4	教科横断的な学びのあり方	他教科や総合的な学習の時間との連携	事前に「カリキュラム・マネジメント」と「教科横断的な学び」について調べておく（2 時間）。事後課題については授業内で指示する（1 時間）。
5	模擬授業(1)	地理的分野「東北地方／北海道地方」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
6	模擬授業(2)	地理的分野「アジア／アフリカ」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
7	模擬授業(3)	地理的分野「ヨーロッパ」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
8	模擬授業(4)	地理的分野「北アメリカ」の模擬授業の実施と検討	全員が当該分野の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
9	模擬授業(5)	地理的分野「南アメリカ／オセアニア」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
10	模擬授業(6)	歴史的分野「近代の世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
11	模擬授業(7)	歴史的分野「近代の日本」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
12	模擬授業(8)	歴史的分野「現代の世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
13	模擬授業(9)	歴史的分野「現代の日本」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
14	模擬授業(10)	歴史的分野「文化史」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
15	授業の振り返り	補足的事項の解説及び授業全体の振り返り	事後、各自において本授業全体の振り返りを行う（4 時間）。

<table>
<tr><td>関連科目</td><td>社会科教育法 I</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>中学校学習指導要領(平成 29 年告示)』</td><td>文部科学省</td><td>東山書房</td></tr>
<tr><td>2</td><td>中学校学習指導要領(平成 29 年告示)　解説　社会編</td><td>文部科学省</td><td>東洋館出版社</td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>成果物としての指導案（50%）とコメントカードなどの授業内で指示する提出課題（50%）で評価を行う。
提出されたコメントカードの記述に対しては、次回授業内でコメントもしくはプリントにてフィードバックを行う。
出席回数が 2/3 以上の者を評価の対象とする。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>自ら教材を見つけることで、社会科の授業の可能性の広がりや面白さを共有できたらと思っています。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>7 号館 2 階　非常勤講師室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td></td></tr>
</table>

科目名	社会科・公民科教育法Ⅰ	科目名（英文）	Civic Education Method I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	田中　曜次
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本講義は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、中学社会科、高校公民科の学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな授業方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、可能な方法・範囲での模擬授業の実践を行い、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるようにしていきます。まずは「教育実習」で生徒を失望させないきちんとした授業ができるよう、知識と意欲、そして責任をもって授業に参加してください。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 （１）中学社会科（地理、歴史、公民分野）、高校公民科の教師として必要な「知識」「技術・スキル」を確実に身につける。 （２）中学社会科、高校公民科の教師として、高い「授業実践力」をつける。 （３）社会科・公民科の授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」をするための力をつける。
授業方法と留意点	まず本授業では社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲・方法で履修者全員に模擬授業を行ってもらうよう「実践的な授業」を目指します。模擬授業の実践では、授業準備、指導案の作成、教材研究は必ず行ってもらいます。本講義では教師としての自覚もあわせて養成するため、授業への積極的な参加、そして各々の模擬授業の準備やそのふりかえりに積極的に取り組んでください。
科目学習の効果（資格）	中学校１種「社会」、高校１種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科・公民科教育の課題について考えてくること。 ※それぞれの学習指導要領の総則部分を読んでおく。
2	中学校指導要領（社会）、高校指導要領（公民）にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手及びダウンロードした学習指導要領（中学：社会科、高校：公民科）の事前読了。 ※指導要領の要約
3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（１）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※前時の事前授業まとめと配布資料の要約
4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（２）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（３）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
6	教育方法と技術（１）：ミニ模擬授業案作成	板書の方法・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター（パワーポイントやインターネット）を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業のミニ模擬授業案の作成	新聞記事の検索、及びミニ模擬授業案の作成
7	教育方法と技術（２）：ミニ模擬授業案作成案作成	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取りれたミニ模擬授業案を作成する。	ディベート準備。ミニ模擬授業案の作成
8	学習指導案の書き方（１）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（１）：各自が作成した学習指導案をもとに、作成のヒントを説明する。	学習指導案の作成。
9	学習指導案の書き方（２）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（２）：各自が作成した学習指導案をもとに、作成する上での留意点について説明する。	学習指導案の作成。
10	模擬授業（１）	模擬授業の実践と指導（１）	模擬授業の準備。
11	模擬授業（２）	模擬授業の実践と指導（２）	模擬授業の準備。
12	模擬授業（３）	模擬授業の実践と指導（３）	模擬授業の準備。
13	模擬授業（４）	模擬授業の実践と指導（４）	模擬授業の準備。
14	成績評価の方法、及び社会科試験の作成について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。また、定期試験作成についても学ぶ。	※事前配布資料の要約、及び、定期試験問題作成のシュミレーションを行う（事前課題）。
15	総括ー社会科、公民科の指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	各自、社会科教師としての自分の課題について考え、まとめてくること。

関連科目	社会科・公民科教育法Ⅰ、社会科・公民科教育法Ⅱは「Ⅰ→Ⅱ」と連続して受講することが望ましい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領解説社会編	文部科学省	日本文教出版
2	高等学校学習指導要領解説公民編	文部科学省	日本文教出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3
評価方法 （基準）	事前学習課題の提出（30%）、模擬授業（50%）、各種課題（20%）等により、総合的に評価する。
学生への メッセージ	中学社会科学習指導要領(最新年度版)を第一回目の授業開始までに購入あるいは文部科学省ホームページよりダウンロードし印刷しておくこと。これがないと授業参加や事前学習課題等に取り組むことができません。購入方法については書店、オンライン書店等を利用してください。購入についての質問等はメールアドレスまで。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。 事前・事後学習総時間数はおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	社会科・公民科教育法Ⅱ	科目名（英文）	Civic Education Method II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	田中　曜次
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本講義は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、模擬授業の実践を中心に参加型の授業法を取り入れて、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるよう、互いに刺激し、批評しあう機会をもうけます。また、近年、選挙年齢が 18 歳に引き下げられたことによる子どもたちへの政治教育（主権者教育）の重要性が改めて問われています。とりわけ公民科では政治や経済問題を取り扱うことが多く、子どもたちに政治の主体として意識を涵養するための教育（市民性教育、シティズンシップ教育）をどのように実践できるのかについても考えていきます。具体的には政府が作成した政治教育副教材の分析や学校現場での実践例の分析などを行います。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 （1）中学社会科（地理、歴史、公民分野）、高校公民科の教師として必要な「知識」を確実に身につける。 （2）中学社会科、高校公民科の教師として、高い「授業実践力」をつける。 （3）授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」の力をつける。 （4）政治教育、市民性教育（シティズンシップ教育）についての理解を深め、指導案を作成し、授業実践ができるようになる。
授業方法と留意点	まず社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲で履修者全員に模擬授業を実践してもらうような「実践型・参加型の授業」を目指します。また模擬授業の実践では、それぞれの模擬授業終了後は必ず全員で意見交換を行い、授業内容に対する問題点と課題点を整理します。ここでのコメント力を鍛えることも重要な目標です。指示した授業準備は必ず行ってください。教師としての自覚もあわせて養成するため、遅刻・無断欠席については厳しく対応します。
科目学習の効果（資格）	中学校１種「社会」、高校１種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科教育の課題について考えてくること。
2	中学校指導要領（社会）、高校指導要領（公民）にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手した学習指導要領（中学：社会科、高校：公民科）の事前読了。 ※指導要領の要約
3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（1）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（2）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（3）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
6	教育方法と技術（1）：ミニ模擬授業	板書・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター（パワーポイントやインターネット）を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業をミニ模擬授業で実演する。	新聞記事の検索。
7	教育方法と技術（2）：ミニ模擬授業	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取りれたミニ模擬授業を実演する。	ディベート準備。
8	学習指導案の書き方（1）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（1）：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
9	学習指導案の書き方（2）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（2）：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
10	模擬授業（1）	模擬授業の実践と指導（1）	模擬授業の準備。
11	模擬授業（2）	模擬授業の実践と指導（2）	模擬授業の準備。
12	政治教育（市民性教育）（1）	政治教育副教材の分析	各自、政治教育副教材を分担し、担当箇所を要約する。
13	政治教育（市民性教育）（2）	実践事例分析	政治教育実践例についてまとめ、発表。
14	成績評価の方法、及び試験問題の作成について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。また、定期試験問題作成について学ぶ。	※事前配布資料の要約、及び定期試験問題作成（事前課題）
15	総括ー社会科・公民科の指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	社会科教師としての自分の課題について考えてくること。

関連科目	原則として社会科・公民科教育法Ⅰを既に履修していること。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領解説社会編	文部科学省	日本文教出版
2	高等学校学習指導要領解説公民編	文部科学省	日本文教出版
3			

<table>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>課題・レポート（３０％）、模擬授業（５０％）、平常点：授業への貢献度等（20%）。
出席については全体の 80%以上の出席（15 回中 12 回以上）が必須。
出席率が 80%に満たない者は成績評価の対象外となる場合があります。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>本講義は学生の皆さんの主体的な授業への関与が求められます。一般的な講義に見られるような、教員が一方的に授業を進めていくスタイルではありません。学生の皆さんが授業をつくっていくことになります。ですので、宿題やレポート作成など、授業運営に欠かせない作業を怠ると自分自身はもちろんのこと、周囲に多大な迷惑がかかります。毎時間予習・復習を怠ることなく、責任と意欲を持って講義に出席して下さい。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>7 号館 2 階　非常勤講師室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。
中学社会科、高校公民科の学習指導要領の入手方法については改めて説明します（前期社会科公民科教育法Ⅰで購入済みの者は購入の必要なし）。
事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。</td></tr>
</table>

科目名	道徳教育の研究	科目名（英文）	Studies of Moral Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	谷口　雄一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	この授業では、中学校において「特別の教科　道徳」（以下、道徳科）の授業を行うために必要な基本的な知識を習得した上で、生徒の実態や教材の特性に応じた適切な指導法を選択して学習指導案を作成できるようになることを目的としています。 授業担当者は小学校での約 15 年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を受ける」立場からではなく「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	受講者が、道徳教育の必要性や歴史、現状と課題等についての基本的な知識を身に付け、中学校の道徳科の様々な指導法の特徴と課題について理解し、適切な発問を構成し、学習指導案を作成できるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	本授業は道徳科の授業づくりについて実践的に学ぶ内容のため対面で行います。具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話を通して道徳教育や道徳科の授業についての学びを進めていきます。また、後半には、学習指導案作成等の演習や受講者のみなさんによる模擬授業等を適宜取り入れます。 そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、道徳科の授業づくりについて多面的・多角的に考えることができる
科目学習の効果（資格）	中学校教諭１種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：道徳の理論及び指導法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス： 道徳科の授業について考える	・現在、我が国においてどのような道徳教育が行われているかを確認する。 ・正しさを決める４つのアプローチについて概観する。	（事前）自身が学校教育においてが受けてきた道徳教育がどのようなものであったかを思い出しておく。 （事後）テキスト 2. の P.8～17 を精読しておく。
2	日本の道徳教育の歴史	・明治から現在に至るまでの我が国の道徳教育の歴史を概観する。 ・道徳教育に存在する信念対立について考える。	（事前）テキスト 1. の P.6～12 を精読しておく。 （事後）日本の道徳教育の歴史や信念対立について整理しておく。
3	よい道徳教育とは何か	・よい道徳教育について、生徒の道徳性の発達や教師の職能成長という観点から考える。	（事前）テキスト 1. の P.12～25 を精読しておく。 （事後）道徳科の授業や道徳教育の方法と生徒の道徳性の発達、教師自身の成長との関係について整理しておく。
4	道徳の授業の多様な指導方法の特徴	・道徳科の授業のねらいに基づく８類型について概観し、多様な指導方法の特徴について考える。	（事前）テキスト 1. の P.26～35 及びテキスト 2. の P.26～29 を精読しておく。 （事後）道徳科の授業のねらいに基づく８類型について整理しておく。
5	道徳の授業の発問の構成法	・「特別の教科　道徳」の目標や内容について確認し、ねらいに基づく発問の構成法について考える。	（事前）テキスト 1. の P.36～48 及びテキスト 2. の P.30～33 を精読しておく。 （事後）ねらいに基づく発問の構成法について整理しておく。
6	道徳の授業の学習指導案の作成法	・「特別の教科　道徳」のねらいに沿った授業を計画的に進めるための学習指導案の作成方法について考える。	（事前）テキスト 1. の P.49～58 及びテキスト 2. の P.34～37 を精読しておく。 （事後）道徳科の授業の学習指導案の作成方法について整理しておく。
7	道徳の授業の評価	・「特別の教科　道徳」における評価の内容や方法について考える。	（事前）テキスト 1. の P.59～68 及びテキスト 2. の P.38～41 を精読しておく。 （事後）道徳科の授業の評価の内容や方法について整理しておく。
8	各授業類型のねらいと発問の特徴	・教材の特性を踏まえた教材分析の方法について概観し、授業類型のそれぞれのねらいと特徴について考える。	（事前）テキスト 1. の P.71～85 及びテキスト 2. の P.42～45 を精読しておく。 （事後）教材分析の方法や授業構成について度整理しておく。
9	教材分析の視点	・教材に描かれている人物や事象等を図式化することで道徳的な問題を明確化する教材分析の方法について概観する。	（事前）テキスト 1. の P.86～95 及びテキスト 2. の P.46～49 を精読しておく。 （事後）教材分析の方法について整理するとともに、自身が選択した教材について分析しておく。
10	発問分析による授業づくりの視点	・発問の特徴について概観し、発問分析に基づく授業改善の方法について考える。	（事前）テキスト 1. の P.96～106 及びテキスト 2. の P.50～53 を精読しておく。 （事後）問題解決的な学習や発問分析に基づく授業改善の方法について整理しておく。
11	授業づくりの実際①： カリキュラム・マネジメント、 テーマ発問	・カリキュラム・マネジメントに基づく道徳科の授業やテーマ発問を取り入れた道徳科の授業について、実践事例をもとに概観する。	（事前）テキスト 1. の P.107～130 及びテキスト 2. の P.54～57 を精読しておく。 （事後）カリキュラム・マネジメントに基づく道徳科の授業やテーマ発問を取り入れた道徳科の授業について整理しておく。
12	授業づくりの実際②： 問題解決的な学習、探究型学習	・問題解決的な学習を取り入れた道徳科の授業や探究型学習を取り入れた道徳科の授業について、実践事例をもとに概観する。	（事前）テキスト 1. の P.131～152 及びテキスト 2. の P.58～61 を精読しておく。 （事後）問題解決的な学習を取り入れた道徳科の授業や探究型学習を取り入れた道徳科の授業について整理しておく。
13	学習指導案の作成	・これまでの学修をふまえ、第９回で選択し教材分析した教材を用いた道徳科の授業について、学習指導案を作成する。	（事前）テキスト 2. の P.62～65 を精読しておく。 （事後）模擬授業と事後検討会の準備をしておく。
14	模擬授業と事後検討会①	・模擬授業を行い、授業改善のための事後検討会を行う。	（事前）テキスト 2. の P.66～69 を精読しておく。 （事後）模擬授業と事後検討会の準備をしておく。

	15	模擬授業と事後検討会② まとめ： 道徳科の授業について再び考える	・模擬授業を行い、授業改善のための検討を行う。 ・道徳科の授業づくりについてまとめる。	（事前）模擬授業と事後検討会の準備をしておく。 （事後）「よい道徳科の授業」について考えをまとめる。

関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみることが大切です。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	道徳科　初めての授業づくり	吉田誠・木原一彰　編著	大学教育出版
2	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　特別の教科　道徳編	文部科学省	教育出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　特別の教科　道徳編	文部科学省	廣済堂あかつき
2	『道徳教育』PLUS　考え、議論する道徳をつくる新発問パターン大全集	『道徳教育』編集部	明治図書出版
3			

評価方法 （基準）	毎回の授業の終わりに書いてもらう OPP シート（One Page Portfolio シート）の内容や授業中の学習の様子（30%）、作成した道徳科学習指導案（20%）、学期末試験の結果（50%）等をもとに、総合的に評価します。 また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。
学生へのメッセージ	授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク、模擬授業等を適宜取り入れます。受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。
担当者の研究室等	7 号館 4 階(谷口研究室)
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	特別活動の理論と方法	科目名（英文）	Theories and Methods for Special Activities
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松浦　正典
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	特別活動の理論と指導法については、学校における様々な構成・場面での集団活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい学級生活・学校生活の実現を目指す特別活動の意義、目標及び内容を理解し、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。 総合的な学習（探求）の時間の理論と指導法については、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を探求的な学びの過程を通して行い、よりよく課題を解決し、自己の生き方について考えていくための資質・能力の育成をめざし、指導計画の作成、学習指導や評価の考え方、留意点を理解する。
到達目標	1　教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。 2　特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。 3　合意形成に向けた学級での話合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。 4　総合的な学習（探求）の時間の意義と教育課程において果たす役割、目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点、年間指導計画を作成することの重要性について理解している。 5　主体的・対話的で深い学びを実現する総合的な学習（探求）の時間の単元計画を作成することの重要性、探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立て、児童及び生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点を理解している。
授業方法と留意点	講義はテキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにすすめるが、ソロワーク、グループワークを取り入れる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や自ら問いを見いだし、課題を立て、情報を整理分析して、まとめ表現することが求められる総合的な学習の時間を指導しなければならない教員の立場に立って、集団をファシリテートできるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカション・コーディネーション・プレゼンテーションへの積極的な参加を求める。
科目学習の効果（資格）	教職科目　特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法は、 教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション･特別活動及び総合的な学習（探求）の時間の意義と課題	学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量	特別活動テキスト第１章、講義資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習をする（2時間）。
2	特別活動の目標・内容・方法	教科外活動としての位置づけ、特別活動の３つの内容、方法としての集団活動・体験活動	特別活動テキスト第２章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習する（2時間）。
3	学級活動･ホームルーム活動１	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり ワーク：学級活動の年間計画の作成	特別活動テキスト第３章第１節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
4	学級活動･ホームルーム活動２	学級活動の実際と合意形成 グループワーク：学級開きと年間計画の作成	特別活動テキスト第３章第１節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
5	生徒会活動・児童会活動	生徒会（児童会）活動の歴史・目標・内容。 学級経営に役立つワーク	特別活動テキスト第３章第２節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習をするをする（2時間）。
6	学校行事	学校行事の歴史・種類・内容・観点 グループワーク：学校行事の思い出	特別活動テキスト第3章第３節を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
7	特別活動の指導計画の作成にあたっての配慮事項	グループに分かれ、担当の箇所についてまとめ、プレゼンをする。（ABDによる）	教科書第４章第１節を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2時間)。
8	特別活動の内容の取扱いについての配慮事項	グループに分かれ、担当の箇所についてまとめ、プレゼンをする。（ABDによる）	教科書第４章第２節を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2時間)。
9	特別活動の歴史	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、時代背景のと関係 個別ワーク：戦後の特別活動の歴史をまとめる	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2時間)。
10	外国における特別活動 特別活動の指導を担当する教師	諸外国ではどのような特別活動が行われているか理解する。 個別ワーク：特別活動を指導する教師に必要な力	特別活動テキスト第４章第４節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
11	総合的な学習（探求）の時間の目標・内容・原理	総合的な学習（探求）の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理 グループワーク：総合的な学習の思い出	総合的な学習の時間のテキスト第１･2･3 章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
12	総合的な学習（探求）の時間の指導計画	全体計画、年間計画、単元計画の作成 グループワーク：総合的な学習の時間の年間計画作成　1	総合的な学習の時間のテキスト第５章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
13	探求的な学習の過程について	生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び グループワーク：総合的な学習の時間の年間計画作成　2	総合的な学習の時間のテキスト第2･7章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
14	総合的な学習（探求）の時間の評価	カリキュラムマネージメントの考え方による全体計画、年間計画、単元計画の評価、生徒の学習状況の評価 グループワーク：総合的な学習の時間の年間計画について発表	総合的な学習の時間のテキスト第 5･6・8 章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
15	補足とまとめ／最終レポートについて	補足を行うとともに全学習事項について再度振り返り整理する。 個別ワーク：総合的な学習の時間を指導する教師に必要な力	・第１回目から１４回目までの配布資料に目を通して全体を復習しておく。 ・課題に沿ったレポートを作成する。

関連科目	すべての教職科目と関連するが、特に、教師論、教育心理学で学習したことと関連づけるともに、教育方法論、生徒指導論、道徳教育論、教育社会学などの学習につなげることが大切である。
教科書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>中学校学習指導要領解説　特別活動編　平成２９年告示</td><td>文部科学省</td><td>東山書房</td></tr><tr><td>2</td><td>中学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編　平成２９年告示</td><td>文部科学省</td><td>東山書房</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>高等学校学習指導要領解説　特別活動編　平成２９年告示</td><td>文部科学省</td><td>東京書籍</td></tr><tr><td>2</td><td>高等学校学習指導要領　総合的な探求の時間編　平成２９年告示</td><td>文部科学省</td><td>学校図書</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
評価方法 （基準）	授業への参加状況及び課題（40%）、中間レポート（30%）、最終レポート（30%）を総合的に評価する。
学生への メッセージ	学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだということが言われる。子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するということに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 7 号館 3F 松浦研究室
備考	授業外学習総時間を 60 時間とする。

科目名	教師論	科目名（英文）	Teacher Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日　素明
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や求められる資質能力とは何か」「教職の専門性は何によって担保されるのか」「教師の職務とは何か」「教師の身分や身分保障はどのようになっているのか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づき関連するテーマについて議論を通して理解を深めます。
到達目標	学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分はどのような教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。
授業方法と留意点	講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション（LTD；Learning Through Discussion）等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 教職への道	科目概要について説明 自らの学校・生徒体験、心に残る教師等についてのふりかえり 教職課程の履修動機 教師になることの意味	本科目のシラバスの熟読
2	教職の成立とその意義	公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成	戦前の教員養成制度に関する配布資料
3	教師教育と教職の専門性（１）	教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立	戦後の教員養成制度に関する配布資料
4	教師教育と教職の専門性（２）	教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験	教員免許制度に関する配布資料
5	教師教育と教職の専門性（３）	教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系	学び続ける教師に関する配布資料
6	教師教育と教職の専門性（４）	法定研修 教員の自己研修	教員研修体系に関する配布資料
7	文献・映像に基づく教師像の探究（１）	戦前・戦後の教師像 憧れの教師	教師像に関する配布資料
8	文献・映像に基づく教師像の探究（２）	「不良教師」と「熱血教師」（文献・映像に基づく教師像の探究） レポートに基づくグループワーク	「不良教師」と「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出
9	文献・映像に基づく教師像の探究（３）	「人間教師」と「プロ教師」（文献・映像に基づく教師像の探究） レポートに基づくグループワーク	「人間教師」と「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出
10	文献・映像に基づく教師像の探究（４）	教師としての資質能力のあり方	教師に求められる資質能力についての議論に関する配布資料
11	教員の役割・職務（１）	学校・教室における指導者の視点からみた教員の役割・職務	授業・カリキュラムと教師に関する配布資料
12	教員の役割・職務（２）	学校組織の構成員の視点からみた教員の役割・職務	教職員構成と校務分掌に関する配布資料
13	教員の役割・職務（３）	学校内外の連携の視点からみた教員の役割・職務（チーム学校運営への対応を含む）	「チーム学校」の考え方と学校運営の実践に関する配布資料
14	教員の役割・職務（４）	教員の任用と身分 教員の服務と身分保障	教員の任用・服務等に関する配布資料
15	教員の役割・職務（５）	教員の勤務条件 教員のメンタルヘルス、バーンアウト	教員の勤務実態とメンタルヘルスに関する配布資料

関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験 60%、レポート 30%、グループワークにおけるピアレビュー10%。定期試験を受験しなかった場合は評定は出ません。
学生へのメッセージ	教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることになります。教養をもとに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。 遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。

担当者の 研究室等	7 号館 3 階　朝日研究室
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。

科目名	教師論	科目名（英文）	Teacher Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日　素明
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や求められる資質能力とは何か」「教職の専門性は何によって担保されるのか」「教師の職務とは何か」「教師の身分や身分保障はどのようになっているのか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づき関連するテーマについて議論を通して理解を深めます。
到達目標	学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分はどのような教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。
授業方法と留意点	講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション（LTD；Learning Through Discussion）等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 教職への道	科目概要について説明 自らの学校・生徒体験、心に残る教師等についてのふりかえり 教職課程の履修動機 教師になることの意味	本科目のシラバスの熟読
2	教職の成立とその意義	公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成	戦前の教員養成制度に関する配布資料
3	教師教育と教職の専門性（１）	教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立	戦後の教員養成制度に関する配布資料
4	教師教育と教職の専門性（２）	教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験	教員免許制度に関する配布資料
5	教師教育と教職の専門性（３）	教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系	学び続ける教師に関する配布資料
6	教師教育と教職の専門性（４）	法定研修 教員の自己研修	教員研修体系に関する配布資料
7	文献・映像に基づく教師像の探究（１）	戦前・戦後の教師像 憧れの教師	教師像に関する配布資料
8	文献・映像に基づく教師像の探究（２）	「不良教師」と「熱血教師」（文献・映像に基づく教師像の探究） レポートに基づくグループワーク	「不良教師」と「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出
9	文献・映像に基づく教師像の探究（３）	「人間教師」と「プロ教師」（文献・映像に基づく教師像の探究） レポートに基づくグループワーク	「人間教師」と「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出
10	文献・映像に基づく教師像の探究（４）	教師としての資質能力のあり方	教師に求められる資質能力についての議論に関する配布資料
11	教員の役割・職務（１）	学校・教室における指導者の視点からみた教員の役割・職務	授業・カリキュラムと教師に関する配布資料
12	教員の役割・職務（２）	学校組織の構成員の視点からみた教員の役割・職務	教職員構成と校務分掌に関する配布資料
13	教員の役割・職務（３）	学校内外の連携の視点からみた教員の役割・職務（チーム学校運営への対応を含む）	「チーム学校」の考え方と学校運営の実践に関する配布資料
14	教員の役割・職務（４）	教員の任用と身分 教員の服務と身分保障	教員の任用・服務等に関する配布資料
15	教員の役割・職務（５）	教員の勤務条件 教員のメンタルヘルス、バーンアウト	教員の勤務実態とメンタルヘルスに関する配布資料

関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験 60%、レポート 30%、グループワークにおけるピアレビュー10%。定期試験を受験しなかった場合は評定は出ません。
学生へのメッセージ	教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることになります。教養をもとに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。 遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。

担当者の 研究室等	7 号館 3 階　朝日研究室
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。

科目名	教師論	科目名（英文）	Teacher Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日　素明
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や求められる資質能力とは何か」「教職の専門性は何によって担保されるのか」「教師の職務とは何か」「教師の身分や身分保障はどのようになっているのか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づき関連するテーマについて議論を通して理解を深めます。
到達目標	学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分はどのような教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。
授業方法と留意点	講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション（LTD；Learning Through Discussion）等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 教職への道	科目概要について説明 自らの学校・生徒体験、心に残る教師等についてのふりかえり 教職課程の履修動機 教師になることの意味	本科目のシラバスの熟読
2	教職の成立とその意義	公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成	戦前の教員養成制度に関する配布資料
3	教師教育と教職の専門性（１）	教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立	戦後の教員養成制度に関する配布資料
4	教師教育と教職の専門性（２）	教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験	教員免許制度に関する配布資料
5	教師教育と教職の専門性（３）	教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系	学び続ける教師に関する配布資料
6	教師教育と教職の専門性（４）	法定研修 教員の自己研修	教員研修体系に関する配布資料
7	文献・映像に基づく教師像の探究（１）	戦前・戦後の教師像 憧れの教師	教師像に関する配布資料
8	文献・映像に基づく教師像の探究（２）	「不良教師」と「熱血教師」（文献・映像に基づく教師像の探究） レポートに基づくグループワーク	「不良教師」と「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出
9	文献・映像に基づく教師像の探究（３）	「人間教師」と「プロ教師」（文献・映像に基づく教師像の探究） レポートに基づくグループワーク	「人間教師」と「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出
10	文献・映像に基づく教師像の探究（４）	教師としての資質能力のあり方	教師に求められる資質能力についての議論に関する配布資料
11	教員の役割・職務（１）	学校・教室における指導者の視点からみた教員の役割・職務	授業・カリキュラムと教師に関する配布資料
12	教員の役割・職務（２）	学校組織の構成員の視点からみた教員の役割・職務	教職員構成と校務分掌に関する配布資料
13	教員の役割・職務（３）	学校内外の連携の視点からみた教員の役割・職務（チーム学校運営への対応を含む）	「チーム学校」の考え方と学校運営の実践に関する配布資料
14	教員の役割・職務（４）	教員の任用と身分 教員の服務と身分保障	教員の任用・服務等に関する配布資料
15	教員の役割・職務（５）	教員の勤務条件 教員のメンタルヘルス、バーンアウト	教員の勤務実態とメンタルヘルスに関する配布資料

関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験 60%、レポート 30%、グループワークにおけるピアレビュー10%。定期試験を受験しなかった場合は評定は出ません。
学生へのメッセージ	教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることになります。教養をもとに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。 遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。

担当者の 研究室等	7 号館 3 階　朝日研究室
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。

科目名	教育経営論	科目名（英文）	Studies of Educational Administration
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日　素明
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目では、現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識、および学校や教育行政の組織構造･機能・関係に関する基礎的知識を身につけ、経営の観点から理解するとともに、そこに内在する課題を理解します。そのために、公教育システムに関してなじみの深い事象を参照し、その原理や構造・機能、それに関する政策や法制度、理論や論争、実態や課題を検討していきます。
到達目標	私たちにとってはあたりまえで意識することもないような、学校教育を中心とした公教育システムのあり方について視野が広がり、理解が深まります。例えば「学校では何を学ぶのか」「学校ではどのように教えられるのか」という内容・方法的な事柄についても、さまざまな制度やその運用によって規定されている様子がわかるなど、教育の環境や条件についての関心が高まり、直接的な行為だけに回収されない教育の奥行きや広がりが理解できるようになります。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義のほか、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション（LTD；Learning Through Discussion）等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 ウェブ上で資料配布、課題提示・レポート提出をすることがあります。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上選択必修であり、可能な限り修得することが望ましい科目 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 公教育とは	授業概要、方法としてのLTDについて説明 教育における「公」と「私」 公教育の成立・展開	シラバス、テキスト第1章を読んでくる。
2	教育権の構造	「教育をする権利」「教育を受ける権利」「学習する権利」	テキスト第6章を読んでくる。
3	教育を受ける権利の保障	教育権論争について簡単なグループワーク 公教育の制度原理	教育権についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。
4	学校体系のしくみ	段階性、系統性 学校体系の類型 学校の種類と設置者	テキスト第4章を読んでくる。
5	学校体系の現代的課題	「義務制」「無償制」にかかわって簡単なグループワーク 選別・分離と接続・統合	教育の制度原理についての配布飼料を読み、レポート提出を済ませておく。
6	教育条件整備の法制度と新しい動向	「選抜・選別」について簡単なグループワーク 公教育を支える諸条件とは 条件整備はどのようになされるか	学校の機能に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。
7	中央教育行政の組織構造	各省庁・審議会	テキスト第8章を読んでくる。
8	地方教育行政の組織構造	教育行政の原則 教育委員会のしくみとはたらき 首長部局と教育委員会	テキスト第9章を読んでくる。
9	中央 - 地方教育行政の関係構造	教育委員会制度論の新動向に関して簡単なグループワーク 監督行政と指導行政 教育行政関係の新しい動向	教育委員会制度の動向に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。
10	指導行政と教育内容行政	学習指導要領、研究指定・研究開発、教科書行政	テキスト第11章を読んでくる。
11	教育課程経営	学力低下論争をめぐって簡単なグループワーク カリキュラムマネジメント 学力論争と教育評価論	学力低下論争に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第15章を読んでくる。
12	人事行政と教職員管理	教職員の資格・身分・服務管理、教育労働管理	テキスト第10章を読んでくる。
13	学校の組織管理と組織編制	教職員配置、学校・学級の「適正規模」「適正配置」 学校評議員制度、学校運営協議会制度	テキスト第16章、第19章を読んでくる。
14	学校経営の組織構造	学校の「適正規模」「適正配置」にかかわって簡単なグループワーク 学校の組織特性、学校経営の組織と過程（学校と地域との連携含む）	学校統廃合に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第14章を読んでくる。
15	学校の安全管理と安全教育	安全管理の領域 安全教育の方法	テキスト第18章を読んでくる。

関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育社会学」「教師論」「教育課程論」に関連する事項を含みます。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公教育経営概説　（改訂版）	堀内孜	学術図書出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			
評価方法 （基準）	定期試験 60%、レポート 30%、グループワークにおけるピアレビュー10%。定期試験を受験しなかった場合は評価をしません。
学生への メッセージ	教員採用試験で頻出の教育法規については授業中に折に触れ解説しますが、採用試験ではそれを基本としてさらに幅広い知識、深い理解と応用力が要求されます。本科目は採用試験対策のための講義ではありませんので、各自が自主的に採用試験受験準備に取り組んでください。 遅刻・早退等は厳禁です。専門職業人・教師としての資質が問われます。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　朝日研究室
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。

科目名	教育経営論	科目名（英文）	Studies of Educational Administration
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日　素明
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目では、現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識、および学校や教育行政の組織構造･機能・関係に関する基礎的知識を身につけ、経営の観点から理解するとともに、そこに内在する課題を理解します。そのために、公教育システムに関してなじみの深い事象を参照し、その原理や構造・機能、それに関する政策や法制度、理論や論争、実態や課題を検討していきます。
到達目標	私たちにとってはあたりまえで意識することもないような、学校教育を中心とした公教育システムのあり方について視野が広がり、理解が深まります。例えば「学校では何を学ぶのか」「学校ではどのように教えられるのか」という内容・方法的な事柄についても、さまざまな制度やその運用によって規定されている様子がわかるなど、教育の環境や条件についての関心が高まり、直接的な行為だけに回収されない教育の奥行きや広がりが理解できるようになります。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義のほか、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション（LTD；Learning Through Discussion）等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 ウェブ上で資料配布、課題提示・レポート提出をすることがあります。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上選択必修であり、可能な限り修得することが望ましい科目 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 公教育とは	授業概要、方法としてのLTDについて説明 教育における「公」と「私」 公教育の成立・展開	シラバス、テキスト第1章を読んでくる。
2	教育権の構造	「教育をする権利」「教育を受ける権利」「学習する権利」	テキスト第6章を読んでくる。
3	教育を受ける権利の保障	教育権論争について簡単なグループワーク 公教育の制度原理	教育権についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。
4	学校体系のしくみ	段階性、系統性 学校体系の類型 学校の種類と設置者	テキスト第4章を読んでくる。
5	学校体系の現代的課題	「義務制」「無償制」にかかわって簡単なグループワーク 選別・分離と接続・統合	教育の制度原理についての配布飼料を読み、レポート提出を済ませておく。
6	教育条件整備の法制度と新しい動向	「選抜・選別」について簡単なグループワーク 公教育を支える諸条件とは 条件整備はどのようになされるか	学校の機能に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。
7	中央教育行政の組織構造	各省庁・審議会	テキスト第8章を読んでくる。
8	地方教育行政の組織構造	教育行政の原則 教育委員会のしくみとはたらき 首長部局と教育委員会	テキスト第9章を読んでくる。
9	中央 - 地方教育行政の関係構造	教育委員会制度論の新動向に関して簡単なグループワーク 監督行政と指導行政 教育行政関係の新しい動向	教育委員会制度の動向に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。
10	指導行政と教育内容行政	学習指導要領、研究指定・研究開発、教科書行政	テキスト第11章を読んでくる。
11	教育課程経営	学力低下論争をめぐって簡単なグループワーク カリキュラムマネジメント 学力論争と教育評価論	学力低下論争に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第15章を読んでくる。
12	人事行政と教職員管理	教職員の資格・身分・服務管理、教育労働管理	テキスト第10章を読んでくる。
13	学校の組織管理と組織編制	教職員配置、学校・学級の「適正規模」「適正配置」 学校評議員制度、学校運営協議会制度	テキスト第16章、第19章を読んでくる。
14	学校経営の組織構造	学校の「適正規模」「適正配置」にかかわって簡単なグループワーク 学校の組織特性、学校経営の組織と過程（学校と地域との連携含む）	学校統廃合に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第14章を読んでくる。
15	学校の安全管理と安全教育	安全管理の領域 安全教育の方法	テキスト第18章を読んでくる。

関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育社会学」「教師論」「教育課程論」に関連する事項を含みます。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公教育経営概説　（改訂版）	堀内孜	学術図書出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			
評価方法 （基準）	定期試験 60%、レポート 30%、グループワークにおけるピアレビュー10%。定期試験を受験しなかった場合は評価をしません。
学生への メッセージ	教員採用試験で頻出の教育法規については授業中に折に触れ解説しますが、採用試験ではそれを基本としてさらに幅広い知識、深い理解と応用力が要求されます。本科目は採用試験対策のための講義ではありませんので、各自が自主的に採用試験受験準備に取り組んでください。 遅刻・早退等は厳禁です。専門職業人・教師としての資質が問われます。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　朝日研究室
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。

科目名	教育社会学	科目名（英文）	Sociology of Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	竹中　祐二
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	生物としてのヒトが社会の一員としての人間になる過程を理解する上で欠くことのできない、極めて重要な概念が「社会化」であるが、E.デュルケムは方法的社会化・系統的社会化作用として教育を位置付けている。人間にとって、「社会化としての教育」が本質的なものである一方、「制度としての教育」は、時代や文化による影響を色濃く受けるものでもある。この授業では、教育というものの、そもそも、あるいは今、「あるべき姿」というものについて、社会との関わりから捉え直すことを目的とする。
到達目標	①「近代化」との関わりから、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせた上で、文章によって解答することができる。 ②時代や文化を超えて普遍的である特徴を押さえて、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせた上で、文章によって解答することができる。 ③今日的な特徴を押さえて、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせた上で、文章によって解答することができる。 ④教育制度の歴史的変遷や、今日の学校と地域社会や関係機関との連携を踏まえつつ、教育に関わる主体の役割や特徴を、文章によって説明することができる。
授業方法と留意点	・本授業では指定している教科書を購入し、事前に講義で扱うテーマに該当する部分（章）を読み、内容を理解した上で授業に臨んで下さい（教科書に記載のない事項の場合、別途資料を配付します）。 ・授業では、教科書（および配付資料）に記載のない事柄についての追加説明や、記載のある事柄を掘り下げる説明を行います。 ・授業後には、教科書に記載している問題を中心に、復習課題を配信します。 ・各回授業の初めに、復習課題と前回授業に対する振り返り・質疑応答を行います。 ・いずれかの回で、(予告した上で) 収録済講義動画を
科目学習の効果（資格）	（１）高等学校教諭１種免許状　　（２）中学校教諭１種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	制度としての教育①	教育内容や教育方法の変遷を学び、それらが社会と深く関わっていることについて学習する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。 事後課題：配信する復習課題に回答すると共に、授業内で気になった点について追加学習をする。
2	制度としての教育②	階層再生産のメカニズムといった、近代化の所産と教育のあり方について学習する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。 事後課題：配信する復習課題に回答すると共に、授業内で気になった点について追加学習をする。
3	制度としての教育③	主に義務教育課程について、その概要について学ぶと共に、教育をめぐる平等について学習する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。 事後課題：配信する復習課題に回答すると共に、授業内で気になった点について追加学習をする。
4	制度としての教育④	高校ならびに大学への進学率上昇と、その背後に潜む諸問題について学習する。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。事後、必ず授業内容について復習を行い、内容について要約する。
5	社会における教育者の意義①	重要な他者／一般化された他者としての教育者の役割、あるいはそのオルタナティブについて学習する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。 事後課題：配信する復習課題に回答すると共に、授業内で気になった点について追加学習をする。
6	社会における教育者の意義②	今日の子どもの権利をめぐる諸議論に関わって教育が果たすべき役割について考察すると共に、非対称的な関係が構造的にもたらす教育の逆機能についても学習する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。 事後課題：配信する復習課題に回答すると共に、授業内で気になった点について追加学習をする。
7	社会における教育者の意義③	子どもにとっての学校が持つ意味を踏まえながら、教師と子どもの関係および学校現場における両者の相互作用について学習する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。 事後課題：配信する復習課題に回答すると共に、授業内で気になった点について追加学習をする。
8	日本における教育環境の変遷①	学校現場への理解から、非行・不登校・いじめ問題について学習する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。 事後課題：配信する復習課題に回答すると共に、授業内で気になった点について追加学習をする。
9	日本における教育環境の変遷②	トラッキングやメリトクラシーの問題から、日本におけるキャリア教育について学習する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。 事後課題：配信する復習課題に回答すると共に、授業内で気になった点について追加学習をする。
10	日本における教育環境の変遷③	特別活動や部活動の検討を通して、教師と子どもそれぞれが今日置かれている教育環境について学習する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。 事後課題：配信する復習課題に回答すると共に、授業内で気になった点について追加学習をする。

	11	日本における教育環境の変遷④	今日的な課題のうち、マイノリティ教育に対する教育の意義や実践例について考察する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。 事後課題：配信する復習課題に回答すると共に、授業内で気になった点について追加学習をする。
	12	日本における教育環境の変遷⑤	今日的な課題のうち、ジェンダー教育に対する教育の意義や実践例について考察する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。 事後課題：配信する復習課題に回答すると共に、授業内で気になった点について追加学習をする。
	13	学級経営における多機関連携①	「チーム学校」論の概要について学び、子どもが安全・安心に学ぶことのできる権利を多角的に保障することの意義と方向性、それらが提起されてきた今日の社会背景について学ぶ。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。 事後課題：配信する復習課題に回答すると共に、授業内で気になった点について追加学習をする。
	14	学級経営における多機関連携②	スクールソーシャルワーク実践を軸とする「チーム学校」論の視点から、「登下校の見守り活動」等の具体例を通して、子どもの安全・安心を制度的に保障することの意義やポイントについて学ぶと共に、主体である子ども自身の関わり方について学ぶ。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。 事後課題：配信する復習課題に回答すると共に、授業内で気になった点について追加学習をする。
	15	総括	総括②：本科目を通じて学習した内容について振り返り、専門職をはじめとするそれぞれの立場から社会の中で教育を達成することの意義について再考し、理解を深める。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。 事後課題：配信する復習課題に回答すると共に、授業内で気になった点について追加学習をする。

関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教育実習Ⅰ」「教職実践演習」「各教科教育法」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	現場で使える教育社会学	中村高康・松岡亮二	ミネルヴァ書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	現代教育社会学	岩井八郎、近藤博之	有斐閣ブックス
2	よくわかる教育社会学	酒井朗・中村高康・多賀太	ミネルヴァ書房
3	教育の社会学〔新版〕	苅谷剛彦・濱名陽子・木村涼子・酒井朗	有斐閣

評価方法（基準）	授業後課題（45%）・期末レポート課題（55%） ※試験は実施しない予定ではあるが状況により変更する場合がある。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	3 号館 3 階・竹中研究室
備考	本授業は総授業時間（30 時間）に加えて、各回の事前事後学習（課題・レポートの作成も含めて）に各 2 時間（全 15 回×4 時間＝60 時間）を要する。

科目名	教育社会学	科目名（英文）	Sociology of Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	竹中　祐二
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	生物としてのヒトが社会の一員としての人間になる過程を理解する上で欠くことのできない、極めて重要な概念が「社会化」であるが、E.デュルケムは方法的社会化・系統的社会化作用として教育を位置付けている。人間にとって、「社会化としての教育」が本質的なものである一方、「制度としての教育」は、時代や文化による影響を色濃く受けるものでもある。この授業では、教育というものの、そもそも、あるいは今、「あるべき姿」というものについて、社会との関わりから捉え直すことを目的とする。
到達目標	①「近代化」との関わりから、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせた上で、文章によって解答することができる。 ②時代や文化を超えて普遍的である特徴を押さえて、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせた上で、文章によって解答することができる。 ③今日的な特徴を押さえて、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせた上で、文章によって解答することができる。 ④教育制度の歴史的変遷や、今日の学校と地域社会や関係機関との連携を踏まえつつ、教育に関わる主体の役割や特徴を、文章によって説明することができる。
授業方法と留意点	・本授業では指定している教科書を購入し、事前に講義で扱うテーマに該当する部分（章）を読み、内容を理解した上で授業に臨んで下さい（教科書に記載のない事項の場合、別途資料を配付します）。 ・授業では、教科書（および配付資料）に記載のない事柄についての追加説明や、記載のある事柄を掘り下げる説明を行います。 ・授業後には、教科書に記載している問題を中心に、復習課題を配信します。 ・各回授業の初めに、復習課題と前回授業に対する振り返り・質疑応答を行います。 ・いずれかの回で、(予告した上で) 収録済講義動画を
科目学習の効果（資格）	（１）高等学校教諭１種免許状　　（２）中学校教諭１種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	制度としての教育①	教育内容や教育方法の変遷を学び、それらが社会と深く関わっていることについて学習する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。 事後課題：配信する復習課題に回答すると共に、授業内で気になった点について追加学習をする。
2	制度としての教育②	階層再生産のメカニズムといった、近代化の所産と教育のあり方について学習する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。 事後課題：配信する復習課題に回答すると共に、授業内で気になった点について追加学習をする。
3	制度としての教育③	主に義務教育課程について、その概要について学ぶと共に、教育をめぐる平等について学習する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。 事後課題：配信する復習課題に回答すると共に、授業内で気になった点について追加学習をする。
4	制度としての教育④	高校ならびに大学への進学率上昇と、その背後に潜む諸問題について学習する。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。事後、必ず授業内容について復習を行い、内容について要約する。
5	社会における教育者の意義①	重要な他者／一般化された他者としての教育者の役割、あるいはそのオルタナティブについて学習する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。 事後課題：配信する復習課題に回答すると共に、授業内で気になった点について追加学習をする。
6	社会における教育者の意義②	今日の子どもの権利をめぐる諸議論に関わって教育が果たすべき役割について考察すると共に、非対称的な関係が構造的にもたらす教育の逆機能についても学習する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。 事後課題：配信する復習課題に回答すると共に、授業内で気になった点について追加学習をする。
7	社会における教育者の意義③	子どもにとっての学校が持つ意味を踏まえながら、教師と子どもの関係および学校現場における両者の相互作用について学習する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。 事後課題：配信する復習課題に回答すると共に、授業内で気になった点について追加学習をする。
8	日本における教育環境の変遷①	学校現場への理解から、非行・不登校・いじめ問題について学習する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。 事後課題：配信する復習課題に回答すると共に、授業内で気になった点について追加学習をする。
9	日本における教育環境の変遷②	トラッキングやメリトクラシーの問題から、日本におけるキャリア教育について学習する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。 事後課題：配信する復習課題に回答すると共に、授業内で気になった点について追加学習をする。
10	日本における教育環境の変遷③	特別活動や部活動の検討を通して、教師と子どもそれぞれが今日置かれている教育環境について学習する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。 事後課題：配信する復習課題に回答すると共に、授業内で気になった点について追加学習をする。

	11	日本における教育環境の変遷④	今日的な課題のうち、マイノリティ教育に対する教育の意義や実践例について考察する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。 事後課題：配信する復習課題に回答すると共に、授業内で気になった点について追加学習をする。
	12	日本における教育環境の変遷⑤	今日的な課題のうち、ジェンダー教育に対する教育の意義や実践例について考察する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。 事後課題：配信する復習課題に回答すると共に、授業内で気になった点について追加学習をする。
	13	学級経営における多機関連携①	「チーム学校」論の概要について学び、子どもが安全・安心に学ぶことのできる権利を多角的に保障することの意義と方向性、それらが提起されてきた今日の社会背景について学ぶ。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。 事後課題：配信する復習課題に回答すると共に、授業内で気になった点について追加学習をする。
	14	学級経営における多機関連携②	スクールソーシャルワーク実践を軸とする「チーム学校」論の視点から、「登下校の見守り活動」等の具体例を通して、子どもの安全・安心を制度的に保障することの意義やポイントについて学ぶと共に、主体である子ども自身の関わり方について学ぶ。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。 事後課題：配信する復習課題に回答すると共に、授業内で気になった点について追加学習をする。
	15	総括	総括②：本科目を通じて学習した内容について振り返り、専門職をはじめとするそれぞれの立場から社会の中で教育を達成することの意義について再考し、理解を深める。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。 事後課題：配信する復習課題に回答すると共に、授業内で気になった点について追加学習をする。

関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教育実習Ⅰ」「教職実践演習」「各教科教育法」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	現場で使える教育社会学	中村高康・松岡亮二	ミネルヴァ書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	現代教育社会学	岩井八郎、近藤博之	有斐閣ブックス
2	よくわかる教育社会学	酒井朗・中村高康・多賀太	ミネルヴァ書房
3	教育の社会学〔新版〕	苅谷剛彦・濱名陽子・木村涼子・酒井朗	有斐閣

評価方法（基準）	授業後課題（45%）・期末レポート課題（55%） ※試験は実施しない予定ではあるが状況により変更する場合がある。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	3 号館 3 階・竹中研究室
備考	本授業は総授業時間（30 時間）に加えて、各回の事前事後学習（課題・レポートの作成も含めて）に各 2 時間（全 15 回×4 時間＝60 時間）を要する。

科目名	教育心理学	科目名（英文）	Educational Psychology
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉田　佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	学校での教育活動において教師の果たす役割は大きい。学習の質を高めるために，教師が学習者を理解し，さまざまな形で援助していくためにはどうすればよいのか。それを考えていくにあたって必要な基礎的な知識を身につけ，日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について，心理学的に説明し，考えることができるようになることを目標とする。
到達目標	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について，基礎的な知識を身につけ，各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。
授業方法と留意点	講義中心で行う。事前に資料を moodle 上で配付するので，各自入手しておくこと。 必要に応じて，簡易実験やグループディスカッション等を行う。
科目学習の効果（資格）	教員免許状取得上必修，免許法施行規則に定められた「教育の基礎的理解に関する科目」１０単位のうち２単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	発達と教育と心理学と１	教育に対して心理学ができること，発達と教育	テキスト第０章１，配付資料による本時の予習と復習
2	発達と教育と心理学と２	発達の要因，主な発達理論の概観	テキスト第８章１，配付資料による本時の予習と復習
3	こどもの発達１	乳幼児期……運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第８章２・第９章，配付資料による本時の予習と復習
4	こどもの発達２	児童期……運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第８章２・第 10 章・第 11 章，配付資料による本時の予習と復習
5	こどもの発達３	青年期……運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第８章２・第 10 章・第 11 章・第 12 章，配付資料による本時の予習と復習
6	学習を支える認知機能１	思考……人間の思考の特徴，メタ認知の機能と発達	テキスト第７章１，配付資料による本時の予習と復習
7	学習を支える認知機能２	言語……言語の機能，言語理解と言語産出とその発達	テキスト第 11 章，配付資料による本時の予習と復習
8	学習を支える認知機能３	記憶……記憶のメカニズムと発達	テキスト第４章・第５章，配付資料による本時の予習と復習
9	こどもの学び１	さまざまな学習①……学習とは何か，主な学習理論の概観，条件づけ	テキスト第１章，配付資料による本時の予習と復習
10	こどもの学び２	さまざまな学習②……観察学習，自己制御学習	テキスト第１章・第６章，配付資料による本時の予習と復習
11	学習を支える動機づけ１	意欲とは何か……動機づけ過程，動機づけ理論	テキスト第２章・第３章，配付資料による本時の予習と復習
12	学習を支える動機づけ２	さまざまな意欲……外発的動機づけ・内発的動機づけ，その他の視点，意欲の発達	テキスト第２章・第３章，配付資料による本時の予習と復習
13	学習を支える動機づけ３	意欲を育む……こどもの発達と意欲，意欲を育む教育のあり方，学習と評価	テキスト第２章・第３章，配付資料による本時の予習と復習
14	学校における人間関係	教師-生徒の関係，生徒-生徒の関係，教師-教師の関係，集団としての学級	テキスト第０章２・第１０章，配付資料による本時の予習と復習
15	個に応じた教育	個人差の理解と教育……ＡＴＩ，学習方略	テキスト第０章３・第６章・第７章２，配付資料による本時の予習と復習

関連科目	教職課程におけるすべての科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	絶対役立つ教育心理学―実践の理論，理論を実践―	藤田哲也（編著）	ミネルヴァ書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト 30%，期末試験 70%
学生へのメッセージ	これまで受けてきた教育を思い出してください。また心理学の用語の中には、日常的に遣われているのとやや異なる意味で用いられるものがあることに留意してください。
担当者の研究室等	７号館３階（吉田研究室）
備考	Teams コード 火曜５限：zjj0tqu 木曜１限：2ykhkk8 木曜５限：9lu9lyl 金曜５限：hiwxh3c Moodle コース名と登録キー 火曜５限：2023 教育心理学（火５）　あるいは　23 教心（火 5）　2023EPTUE5 木曜１限：2023 教育心理学（木１）　あるいは　23 教心（木 1）　2023EPTHU1

	木曜５限：2023 教育心理学（木５） あるいは 23 教心（木５） 2023EPTHU5 金曜５限：2023 教育心理学（金５） あ

科目名	教育心理学	科目名（英文）	Educational Psychology
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉田　佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	学校での教育活動において教師の果たす役割は大きい。学習の質を高めるために，教師が学習者を理解し，さまざまな形で援助していくためにはどうすればよいのか。それを考えていくにあたって必要な基礎的な知識を身につけ，日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について，心理学的に説明し，考えることができるようになることを目標とする。
到達目標	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について，基礎的な知識を身につけ，各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。
授業方法と留意点	講義中心で行う。事前に資料を moodle 上で配付するので，各自入手しておくこと。 必要に応じて，簡易実験やグループディスカッション等を行う。
科目学習の効果（資格）	教員免許状取得上必修，免許法施行規則に定められた「教育の基礎的理解に関する科目」１０単位のうち２単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	発達と教育と心理学と１	教育に対して心理学ができること，発達と教育	テキスト第０章１，配付資料による本時の予習と復習
2	発達と教育と心理学と２	発達の要因，主な発達理論の概観	テキスト第８章１，配付資料による本時の予習と復習
3	こどもの発達１	乳幼児期……運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第８章２・第９章，配付資料による本時の予習と復習
4	こどもの発達２	児童期……運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第８章２・第 10 章・第 11 章，配付資料による本時の予習と復習
5	こどもの発達３	青年期……運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第８章２・第 10 章・第 11 章・第 12 章，配付資料による本時の予習と復習
6	学習を支える認知機能１	思考……人間の思考の特徴，メタ認知の機能と発達	テキスト第７章１，配付資料による本時の予習と復習
7	学習を支える認知機能２	言語……言語の機能，言語理解と言語産出とその発達	テキスト第 11 章，配付資料による本時の予習と復習
8	学習を支える認知機能３	記憶……記憶のメカニズムと発達	テキスト第４章・第５章，配付資料による本時の予習と復習
9	こどもの学び１	さまざまな学習①……学習とは何か，主な学習理論の概観，条件づけ	テキスト第１章，配付資料による本時の予習と復習
10	こどもの学び２	さまざまな学習②……観察学習，自己制御学習	テキスト第１章・第６章，配付資料による本時の予習と復習
11	学習を支える動機づけ１	意欲とは何か……動機づけ過程，動機づけ理論	テキスト第２章・第３章，配付資料による本時の予習と復習
12	学習を支える動機づけ２	さまざまな意欲……外発的動機づけ・内発的動機づけ，その他の視点，意欲の発達	テキスト第２章・第３章，配付資料による本時の予習と復習
13	学習を支える動機づけ３	意欲を育む……こどもの発達と意欲，意欲を育む教育のあり方，学習と評価	テキスト第２章・第３章，配付資料による本時の予習と復習
14	学校における人間関係	教師-生徒の関係，生徒-生徒の関係，教師-教師の関係，集団としての学級	テキスト第０章２・第１０章，配付資料による本時の予習と復習
15	個に応じた教育	個人差の理解と教育……ＡＴＩ，学習方略	テキスト第０章３・第６章・第７章２，配付資料による本時の予習と復習

関連科目	教職課程におけるすべての科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	絶対役立つ教育心理学―実践の理論，理論を実践―	藤田哲也（編著）	ミネルヴァ書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト 30%，期末試験 70%
学生へのメッセージ	これまで受けてきた教育を思い出してください。また心理学の用語の中には、日常的に遣われているのとやや異なる意味で用いられるものがあることに留意してください。
担当者の研究室等	７号館３階（吉田研究室）
備考	Teams コード 火曜５限：zjj0tqu 木曜１限：2ykhkk8 木曜５限：9lu9lyl 金曜５限：hiwxh3c Moodle コース名と登録キー 火曜５限：2023 教育心理学（火５）　あるいは　23 教心（火 5）　2023EPTUE5 木曜１限：2023 教育心理学（木１）　あるいは　23 教心（木 1）　2023EPTHU1

	木曜５限：2023 教育心理学（木５） あるいは 23 教心（木５） 2023EPTHU5 金曜５限：2023 教育心理学（金５） あ

科目名	教育心理学	科目名（英文）	Educational Psychology
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉田　佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	学校での教育活動において教師の果たす役割は大きい。学習の質を高めるために，教師が学習者を理解し，さまざまな形で援助していくためにはどうすればよいのか。それを考えていくにあたって必要な基礎的な知識を身につけ，日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について，心理学的に説明し，考えることができるようになることを目標とする。
到達目標	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について，基礎的な知識を身につけ，各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。
授業方法と留意点	講義中心で行う。事前に資料を moodle 上で配付するので，各自入手しておくこと。 必要に応じて，簡易実験やグループディスカッション等を行う。
科目学習の効果（資格）	教員免許状取得上必修，免許法施行規則に定められた「教育の基礎的理解に関する科目」１０単位のうち２単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	発達と教育と心理学と１	教育に対して心理学ができること，発達と教育	テキスト第０章１，配付資料による本時の予習と復習
2	発達と教育と心理学と２	発達の要因，主な発達理論の概観	テキスト第８章１，配付資料による本時の予習と復習
3	こどもの発達１	乳幼児期……運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第８章２・第９章，配付資料による本時の予習と復習
4	こどもの発達２	児童期……運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第８章２・第 10 章・第 11 章，配付資料による本時の予習と復習
5	こどもの発達３	青年期……運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第８章２・第 10 章・第 11 章・第 12 章，配付資料による本時の予習と復習
6	学習を支える認知機能１	思考……人間の思考の特徴，メタ認知の機能と発達	テキスト第７章１，配付資料による本時の予習と復習
7	学習を支える認知機能２	言語……言語の機能，言語理解と言語産出とその発達	テキスト第 11 章，配付資料による本時の予習と復習
8	学習を支える認知機能３	記憶……記憶のメカニズムと発達	テキスト第４章・第５章，配付資料による本時の予習と復習
9	こどもの学び１	さまざまな学習①……学習とは何か，主な学習理論の概観，条件づけ	テキスト第１章，配付資料による本時の予習と復習
10	こどもの学び２	さまざまな学習②……観察学習，自己制御学習	テキスト第１章・第６章，配付資料による本時の予習と復習
11	学習を支える動機づけ１	意欲とは何か……動機づけ過程，動機づけ理論	テキスト第２章・第３章，配付資料による本時の予習と復習
12	学習を支える動機づけ２	さまざまな意欲……外発的動機づけ・内発的動機づけ，その他の視点，意欲の発達	テキスト第２章・第３章，配付資料による本時の予習と復習
13	学習を支える動機づけ３	意欲を育む……こどもの発達と意欲，意欲を育む教育のあり方，学習と評価	テキスト第２章・第３章，配付資料による本時の予習と復習
14	学校における人間関係	教師-生徒の関係，生徒-生徒の関係，教師-教師の関係，集団としての学級	テキスト第０章２・第１０章，配付資料による本時の予習と復習
15	個に応じた教育	個人差の理解と教育……ＡＴＩ，学習方略	テキスト第０章３・第６章・第７章２，配付資料による本時の予習と復習

関連科目	教職課程におけるすべての科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	絶対役立つ教育心理学―実践の理論，理論を実践―	藤田哲也（編著）	ミネルヴァ書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト 30%，期末試験 70%
学生へのメッセージ	これまで受けてきた教育を思い出してください。また心理学の用語の中には、日常的に遣われているのとやや異なる意味で用いられるものがあることに留意してください。
担当者の研究室等	７号館３階（吉田研究室）
備考	Teams コード 火曜５限：zjj0tqu 木曜１限：2ykhkk8 木曜５限：9lu9lyl 金曜５限：hiwxh3c Moodle コース名と登録キー 火曜５限：2023 教育心理学（火５）　あるいは　23 教心（火 5）　2023EPTUE5 木曜１限：2023 教育心理学（木１）　あるいは　23 教心（木 1）　2023EPTHU1

	木曜５限：2023 教育心理学（木５） あるいは 23 教心（木５） 2023EPTHU5 金曜５限：2023 教育心理学（金５） あ

科目名	特別支援教育論	科目名（英文）	Studies of Special Needs Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松浦　正典
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	通常の学級にも在籍している発達障害や知的障害をはじめとする様々な障害者等により特別な支援を必要とする子ども達が授業において学習活動に参加している。学実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身につけていけるよう、子どもの学習上または生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の職員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。
到達目標	①インクルーシブ教育システムにおける特別支援教育に関する理念や仕組みについて理解する。 ②視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱・発達障害を含むさまざまな障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について理解する。 ③発達障害や知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする児童・生徒の心身の発達、心理的特性、障害の場合はその特性について理解する。 ④個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成する意義と方法について理解する。 ⑤管理職・特別支援教育コーディネーターをはじめとするチーム学校、関係諸機関や家庭、保護者と連携しながら支援体制を構築することの必要性について理解する。 ⑥貧困・LGBT などの理由により、特別の支援を必要とする子供たちに対する支援方法について理解する。 ⑦ICT の活用により、障害の疑似体験をしたり、支援に役立つ学習アプリを実際に操作したりする。
授業方法と留意点	1　授業は対面式で行う。状況によってはオンラインで行うこともありうる。ICT ツールは Teams を使用する。 2　講義資料等は「ファイル」に各授業回別のフォルダをつくり、そこに掲載する。プリントアウトするなどして各自で管理すること。 3　Teams で「課題」の提出を求めるので遅滞なく提出すること。
科目学習の効果（資格）	教職科目 特別支援教育論は、教員免許（小学校・中学校・高等学校）取得上必修科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	特別支援教育を学ぶ意義と本授業のガイダンス	・なぜ特別支援教育学を学ばなければならないか理解する。・クループ学習のやり方について説明を聞き、グループ分けを行う。	・授業計画及び教科書第１章を読み、今後の学習について見通しを持つ（２時間）・グループでの役割に応じて４回目授業での発表準備を進める（２時間）
2	特別支援教育の歴史と現行制度について	・特殊教育・特別支援教育の歴史の概要を知る。 ・特別支援教育を支える仕組みについて理解する。	・教科書第２章をよく読み、質問をまとめておく。（２時間）・グループでの役割に応じて４回目の授業での発表準備を進める（２時間）
3	支援システムの構築と法的整備	・校内支援システムの構築や他職種等の連携を知り、チーム学校について理解する。	・教科書第３章をよく読み、質問をまとめておく。（２時間）・ペアでの役割に応じて、４回目の授業での発表の資料をＡ４一枚程度(両面可）にまとめる。（２時間）
4	視覚障害・聴覚障害について	・視覚障害・聴覚障害の概要・必要な支援・教育について教えあう。 ・見え方紹介アプリの活用	・教科書第１１章をよく読むとともに、自分の担当部分をペアに説明する準備を行う。（２時間）・講義やペア学習、教科書を元に学習内容をまとめる。（２時間）
5	肢体不自由・病弱・身体虚弱・重度重複について	・肢体不自由・病弱・身体虚弱・重度重複の概要・必要な支援・教育について理解する。	・教科書第１０章をよく読み、疑問点をまとめておく。（２時間）・グループでの役割に応じて、７回目の授業での発表資料をＡ４二枚以内（両面可）にまとめる。（２時間）
6	情緒障害・言語障害について	・情緒障害・言語障害の概要及びタイプ、指導・支援方法等について学ぶ。	・教科書第８章をよく読み、疑問点をまとめておく。（２時間）・講義や教科書を元に学習内容をまとめる（２時間）
7	知的障害・発達障害について（１）	・知的障害・発達障害についてグループで発表を行い、質疑応答をする。・障害別に担当者が集まり、お互いの内容を補完し、疑問点を解決する。	・教科書６・７・９章などを参考に自分の担当部分についてよく伝わるようにまとめておく。担当以外の部分についても教科書を読んで概要を理解しておく。（２時間）授業で学んだことを整理し、発表資料を訂正しておく。（２時間）
8	知的障害・発達障害について（２）	・資料をもとにグループ発表を行う。代表者にまとめの発表をしてもらい、感想をまとめる。 ・学習支援アプリの操作・体験	・自分の発表部分について、よく伝わるように練習をしておく。教科書を読んで概要を理解しておく。（２時間）授業で学んだことを整理し、教科書を再読する。（２時間）
9	LGBT 等特別な教育的支援が必要な子どもの理解と指導・支援	・学習困難・ギフテッド・ＬＧＢＴ・不登校・いじめなど教育的支援が必要な児童ついて学び、学級での支援の方法について理解する。	・教科書第１２章をよく読み、疑問点をまとめておく。（２時間）・講義や教科書を元に学習内容をまとめる（２時間）
10	個別の指導計画と個別の教育支援計画	・ICF モデル・特別支援教育への転換について知る。 ・合理的配慮と個別の支援計画・個別の指導計画について理解し、実際に個別の指導計画を作成してみる。	・教科書第５章をよく読み、疑問点をまとめておく。（２時間）・講義や教科書を元に学習内容をまとめる（２時間）
11	通常学級での特別支援教育（小・中学校）	・授業のユニバーサルデザインで目指すものとユニバーサルデザインの概要について理解する。	・第２回の授業内容について教科書やノートで復習しておく（２時間）・講義や教科書を元に学習内容をまとめる（２時間）
12	通常学級での特別支援教育（高等学校）	・京都府や大阪府にある高等学校で行われている先進的な特別支援教育について理解する。	・京都府や大阪府にある高等学校で行われている先進的な特別支援教育についてネット等で調べる（２時間）・講義を元に学習内容をまとめる（２時間）
13	保護者との連携・専門機関・地域との連携	・特別な教育的支援を必要とする子どもや親を支える専門機関の種類と役割を理解する ・地域での生活を送るうえでの支援と課題を理解する。	・教科書第１３章・１４章をよく読み、疑問点をまとめておく。（２時間）・教科書と講義を元に学習内容をまとめる（２時間）
14	早期支援と就労支援	・早期発見システムについて学び、早期支援について考える。	・教科書第１５・第１６章をよく読み、疑問点をまとめておく。（２時間）・講義や教科書を元に学習内

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><td></td><td></td><td>・進路支援・就労支援の実際を知り、問題点を明らかにする。</td><td>容をまとめる（２時間）</td></tr>
<tr><td>15</td><td>発達障害等に対する指導技法　まとめ</td><td>・特別支援教育学の講義全体を見直し、課題と解決方法について、自分なりの考えを持つ。</td><td>・配布した資料に目を通しておく。今まで学習した内容を教科書やノートで振り返る。(2 時間)
・今までの学修をふりかえる（２時間）・当日出題される課題に取り組み、提出する。</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td>教職科目全般と関連性をもつ。特に、教師論、教育心理学、特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法、教育方法論、教育課程論、教育社会学、教育相談での学習内容と関連させて理解を深めることが大切である。</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>はじめての特別支援教育　教職を目指す大学生のために</td><td>柘植雅義他</td><td>有斐閣アルマ</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>みんなで考える特別支援教育</td><td>梅永雄二他</td><td>北樹出版</td></tr>
<tr><td>2</td><td>特別支援学校幼稚部教育要領小学校・中学部学習指導要領　平成２９年４月告示</td><td>文部科学省</td><td>海文堂出版</td></tr>
<tr><td>3</td><td>中学校学習指導要領（平成２９年告示）総則編</td><td>文部科学省</td><td>海文堂出版</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>授業への参加状況【課題等】(40%)、中間レポート（30%)、最終レポート（30%）を総合的に評価する。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>本科目を受講することで、障害のある児童生徒をはじめ、特別な支援を必要とする児童生徒への理解が進み、1 人ひとりの教育ニーズに応じた教育が展開できるようになってほしい。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>寝屋川キャンパス７号館３階松浦研究室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>授業外総学習時間を 60 時間とする。</td></tr>
</table>

科目名	教育課程論	科目名（英文）	Studies of Curriculum Development
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鎌田　祥輝
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本講義では教育課程（カリキュラム）とは何かについて考える。教育課程（カリキュラム）はどのような目的から、どのような内容で編成されているのかについての歴史的経緯を考察する。同時に学校教育システムとの関わりから、その意義や役割を理解する。そして、日本における学習指導要領の変遷や戦前・戦後のカリキュラムの実践的開発を知るとともに、これからのカリキュラム開発の課題について考える。
到達目標	（1）学校教育における教育課程の意義について理解する。 （2）将来、教職に就いた際、適切な教育課程（カリキュラム）を計画・編成し、かつ、実践、評価する力が身につく。
授業方法と留意点	テキストや資料を中心に授業を進める講義形式が基本となる。扱うテーマによってはグループワークを導入するなど、学生一人一人の授業への主体的な参加が求められる。 事後課題として、コメントカードの提出を毎回求める。各授業のはじめにコメント返し・フィードバックを行う。 現行学習指導要領（本文・解説）は文部科学省 HP よりダウンロードすること。
科目学習の効果（資格）	教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	教育課程とは何か	オリエンテーション 学校教育のもつ機能について	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する（1 時間）
2	日本における教育課程の歴史的変遷（1）	戦前から戦後、経験主義～系統主義：高度経済成長期の教育課程変遷について	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する（1 時間）
3	日本における教育課程の歴史的変遷（2）	1970 年代以降、「ゆとり」への標榜から「生きる力」、そして現在までの教育課程変遷について	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する（1 時間）
4	教育課程（カリキュラム）の概念と構造、および教育課程編成について	教育課程の編成要素（内部要因と外部要因）について	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する（1 時間）
5	教育評価（1）	子どもたちの発達段階にふさわしい評価の方法とその特質について	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する（1 時間）
6	教育評価（2）	教育課程評価について	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する（1 時間）
7	「総合的な学習（探究）の時間」について	導入の背景とそのねらいについて	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する（1 時間）
8	新しい教育課程（1）	「キャリア教育」について事例分析と学生グループによるワーク、および発表を予定	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する（1 時間）
9	新しい教育課程（2）	「アクティブラーニング」について、その意義・目的と実践事例について	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する（1 時間）
10	新しい教育課程（3）	「社会に開かれた教育課程」と地域との連携について	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する（1 時間）
11	教育課程と教育改革（1）	特色のある学校作り：小中高編（学生グループによるワーク、および発表を予定）	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する（1 時間）
12	教育課程と教育改革（2）	カリキュラム・マネジメントについて、その意義と目的	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する（1 時間）
13	教育課程と教育格差（1）	学力格差と学力低下問題について（学生グループによるワーク、および発表を予定）	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する（1 時間）
14	教育課程と教育格差（2）	教育格差に抗する学校の取り組みについて（学生グループによるワーク、および発表を予定）	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する（1 時間）
15	総括：教育課程をめぐる諸問題	海外の学校教育課程の動向、および、キー・コンピテンシー（OECD）について	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する（1 時間） 定期試験に向けた準備をする（45 時間）

関連科目	教職科目全般と関連がある。他の教職科目と重なる点や特徴を整理していくことが重要。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新しい時代の教育課程（第 4 版）	田中耕治ほか	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新しい教育評価入門（増補版）	西岡加名恵ほか	有斐閣
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験（60%）：教育課程にまつわる基礎的知識の修得、および教育課程計画・編成に関わる歴史・論点・現代的課題に関する理解を問う。 小課題・コメントカード（40%）：毎回の授業後に、授業内容のキーワードについて振り返り、考察する課題を提示する。 評価基準は講義内で提示する。
学生へのメッセージ	コメントカード、期末課題等の提出物は期日までに提出すること。
担当者の	7 号館 3 階　鎌田研究室

研究室等	
備考	2009 年度以前入学生は、（高校）教免取得上選択 授業計画に記載している授業テーマは、授業の進捗状況や学生の関心に応じて変更することがある。 授業で用いる資料等については，適宜印刷し，配布する。 事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	教育課程論	科目名（英文）	Studies of Curriculum Development
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鎌田　祥輝
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本講義では教育課程（カリキュラム）とは何かについて考える。教育課程（カリキュラム）はどのような目的から、どのような内容で編成されているのかについての歴史的経緯を考察する。同時に学校教育システムとの関わりから、その意義や役割を理解する。そして、日本における学習指導要領の変遷や戦前・戦後のカリキュラムの実践的開発を知るとともに、これからのカリキュラム開発の課題について考える。
到達目標	（1）学校教育における教育課程の意義について理解する。 （2）将来、教職に就いた際、適切な教育課程（カリキュラム）を計画・編成し、かつ、実践、評価する力が身につく。
授業方法と留意点	テキストや資料を中心に授業を進める講義形式が基本となる。扱うテーマによってはグループワークを導入するなど、学生一人一人の授業への主体的な参加が求められる。 事後課題として、コメントカードの提出を毎回求める。各授業のはじめにコメント返し・フィードバックを行う。 現行学習指導要領（本文・解説）は文部科学省 HP よりダウンロードすること。
科目学習の効果（資格）	教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	教育課程とは何か	オリエンテーション 学校教育のもつ機能について	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する（1 時間）
2	日本における教育課程の歴史的変遷（1）	戦前から戦後、経験主義～系統主義：高度経済成長期の教育課程変遷について	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する（1 時間）
3	日本における教育課程の歴史的変遷（2）	1970 年代以降、「ゆとり」への標榜から「生きる力」、そして現在までの教育課程変遷について	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する（1 時間）
4	教育課程（カリキュラム）の概念と構造、および教育課程編成について	教育課程の編成要素（内部要因と外部要因）について	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する（1 時間）
5	教育評価（1）	子どもたちの発達段階にふさわしい評価の方法とその特質について	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する（1 時間）
6	教育評価（2）	教育課程評価について	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する（1 時間）
7	「総合的な学習（探究）の時間」について	導入の背景とそのねらいについて	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する（1 時間）
8	新しい教育課程（1）	「キャリア教育」について事例分析と学生グループによるワーク、および発表を予定	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する（1 時間）
9	新しい教育課程（2）	「アクティブラーニング」について、その意義・目的と実践事例について	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する（1 時間）
10	新しい教育課程（3）	「社会に開かれた教育課程」と地域との連携について	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する（1 時間）
11	教育課程と教育改革（1）	特色のある学校作り：小中高編（学生グループによるワーク、および発表を予定）	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する（1 時間）
12	教育課程と教育改革（2）	カリキュラム・マネジメントについて、その意義と目的	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する（1 時間）
13	教育課程と教育格差（1）	学力格差と学力低下問題について（学生グループによるワーク、および発表を予定）	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する（1 時間）
14	教育課程と教育格差（2）	教育格差に抗する学校の取り組みについて（学生グループによるワーク、および発表を予定）	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する（1 時間）
15	総括：教育課程をめぐる諸問題	海外の学校教育課程の動向、および、キー・コンピテンシー（OECD）について	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する（1 時間） 定期試験に向けた準備をする（45 時間）

関連科目	教職科目全般と関連がある。他の教職科目と重なる点や特徴を整理していくことが重要。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新しい時代の教育課程（第 4 版）	田中耕治ほか	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新しい教育評価入門（増補版）	西岡加名恵ほか	有斐閣
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験（60%）：教育課程にまつわる基礎的知識の修得、および教育課程計画・編成に関わる歴史・論点・現代的課題に関する理解を問う。 小課題・コメントカード（40%）：毎回の授業後に、授業内容のキーワードについて振り返り、考察する課題を提示する。 評価基準は講義内で提示する。
学生へのメッセージ	コメントカード、期末課題等の提出物は期日までに提出すること。
担当者の	7 号館 3 階　鎌田研究室

研究室等	
備考	2009 年度以前入学生は、（高校）教免取得上選択 授業計画に記載している授業テーマは、授業の進捗状況や学生の関心に応じて変更することがある。 授業で用いる資料等については，適宜印刷し，配布する。 事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	教育課程論	科目名（英文）	Studies of Curriculum Development
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鎌田　祥輝
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本講義では教育課程（カリキュラム）とは何かについて考える。教育課程（カリキュラム）はどのような目的から、どのような内容で編成されているのかについての歴史的経緯を考察する。同時に学校教育システムとの関わりから、その意義や役割を理解する。そして、日本における学習指導要領の変遷や戦前・戦後のカリキュラムの実践的開発を知るとともに、これからのカリキュラム開発の課題について考える。
到達目標	（1）学校教育における教育課程の意義について理解する。 （2）将来、教職に就いた際、適切な教育課程（カリキュラム）を計画・編成し、かつ、実践、評価する力が身につく。
授業方法と留意点	テキストや資料を中心に授業を進める講義形式が基本となる。扱うテーマによってはグループワークを導入するなど、学生一人一人の授業への主体的な参加が求められる。 事後課題として、コメントカードの提出を毎回求める。各授業のはじめにコメント返し・フィードバックを行う。 現行学習指導要領（本文・解説）は文部科学省 HP よりダウンロードすること。
科目学習の効果（資格）	教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	教育課程とは何か	オリエンテーション 学校教育のもつ機能について	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する（1 時間）
2	日本における教育課程の歴史的変遷（1）	戦前から戦後、経験主義～系統主義：高度経済成長期の教育課程変遷について	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する（1 時間）
3	日本における教育課程の歴史的変遷（2）	1970 年代以降、「ゆとり」への標榜から「生きる力」、そして現在までの教育課程変遷について	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する（1 時間）
4	教育課程（カリキュラム）の概念と構造、および教育課程編成について	教育課程の編成要素（内部要因と外部要因）について	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する（1 時間）
5	教育評価（1）	子どもたちの発達段階にふさわしい評価の方法とその特質について	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する（1 時間）
6	教育評価（2）	教育課程評価について	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する（1 時間）
7	「総合的な学習（探究）の時間」について	導入の背景とそのねらいについて	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する（1 時間）
8	新しい教育課程（1）	「キャリア教育」について事例分析と学生グループによるワーク、および発表を予定	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する（1 時間）
9	新しい教育課程（2）	「アクティブラーニング」について、その意義・目的と実践事例について	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する（1 時間）
10	新しい教育課程（3）	「社会に開かれた教育課程」と地域との連携について	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する（1 時間）
11	教育課程と教育改革（1）	特色のある学校作り：小中高編（学生グループによるワーク、および発表を予定）	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する（1 時間）
12	教育課程と教育改革（2）	カリキュラム・マネジメントについて、その意義と目的	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する（1 時間）
13	教育課程と教育格差（1）	学力格差と学力低下問題について（学生グループによるワーク、および発表を予定）	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する（1 時間）
14	教育課程と教育格差（2）	教育格差に抗する学校の取り組みについて（学生グループによるワーク、および発表を予定）	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する（1 時間）
15	総括：教育課程をめぐる諸問題	海外の学校教育課程の動向、および、キー・コンピテンシー（OECD）について	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する（1 時間） 定期試験に向けた準備をする（45 時間）

関連科目	教職科目全般と関連がある。他の教職科目と重なる点や特徴を整理していくことが重要。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新しい時代の教育課程（第 4 版）	田中耕治ほか	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新しい教育評価入門（増補版）	西岡加名恵ほか	有斐閣
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験（60%）：教育課程にまつわる基礎的知識の修得、および教育課程計画・編成に関わる歴史・論点・現代的課題に関する理解を問う。 小課題・コメントカード（40%）：毎回の授業後に、授業内容のキーワードについて振り返り、考察する課題を提示する。 評価基準は講義内で提示する。
学生へのメッセージ	コメントカード、期末課題等の提出物は期日までに提出すること。
担当者の	7 号館 3 階　鎌田研究室

研究室等	
備考	2009 年度以前入学生は、（高校）教免取得上選択 授業計画に記載している授業テーマは、授業の進捗状況や学生の関心に応じて変更することがある。 授業で用いる資料等については，適宜印刷し，配布する。 事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	道徳教育論	科目名（英文）	Studies of Moral Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	谷口　雄一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	この授業では、中学校において「特別の教科　道徳」（以下、道徳科）の授業を行うために必要な基本的な知識を習得した上で、生徒の実態や教材の特性に応じた適切な指導法を選択して学習指導案を作成できるようになることを目的としています。 授業担当者は小学校での約 15 年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を受ける」立場からではなく「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	受講者が、道徳教育の必要性や歴史、現状と課題等についての基本的な知識を身に付け、中学校の道徳科の様々な指導法の特徴と課題について理解し、適切な発問を構成し、学習指導案を作成できるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	本授業は道徳科の授業づくりについて実践的に学ぶ内容のため対面で行います。具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話を通して道徳教育や道徳科の授業についての学びを進めていきます。また、後半には、学習指導案作成等の演習や受講者のみなさんによる模擬授業等を適宜取り入れます。 そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、道徳科の授業づくりについて多面的・多角的に考えることができる
科目学習の効果（資格）	中学校教諭１種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：道徳の理論及び指導法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス： 道徳科の授業について考える	・現在、我が国においてどのような道徳教育が行われているかを確認する。 ・正しさを決める４つのアプローチについて概観する。	（事前）自身が学校教育においてが受けてきた道徳教育がどのようなものであったかを思い出しておく。 （事後）テキスト 2. の P.8～17 を精読しておく。
2	日本の道徳教育の歴史	・明治から現在に至るまでの我が国の道徳教育の歴史を概観する。 ・道徳教育に存在する信念対立について考える。	（事前）テキスト 1. の P.6～12 を精読しておく。 （事後）日本の道徳教育の歴史や信念対立について整理しておく。
3	よい道徳教育とは何か	・よい道徳教育について、生徒の道徳性の発達や教師の職能成長という観点から考える。	（事前）テキスト 1. の P.12～25 を精読しておく。 （事後）道徳科の授業や道徳教育の方法と生徒の道徳性の発達、教師自身の成長との関係について整理しておく。
4	道徳の授業の多様な指導方法の特徴	・道徳科の授業のねらいに基づく８類型について概観し、多様な指導方法の特徴について考える。	（事前）テキスト 1. の P.26～35 及びテキスト 2. の P.26～29 を精読しておく。 （事後）道徳科の授業のねらいに基づく８類型について整理しておく。
5	道徳の授業の発問の構成法	・「特別の教科　道徳」の目標や内容について確認し、ねらいに基づく発問の構成法について考える。	（事前）テキスト 1. の P.36～48 及びテキスト 2. の P.30～33 を精読しておく。 （事後）ねらいに基づく発問の構成法について整理しておく。
6	道徳の授業の学習指導案の作成法	・「特別の教科　道徳」のねらいに沿った授業を計画的に進めるための学習指導案の作成方法について考える。	（事前）テキスト 1. の P.49～58 及びテキスト 2. の P.34～37 を精読しておく。 （事後）道徳科の授業の学習指導案の作成方法について整理しておく。
7	道徳の授業の評価	・「特別の教科　道徳」における評価の内容や方法について考える。	（事前）テキスト 1. の P.59～68 及びテキスト 2. の P.38～41 を精読しておく。 （事後）道徳科の授業の評価の内容や方法について整理しておく。
8	各授業類型のねらいと発問の特徴	・教材の特性を踏まえた教材分析の方法について概観し、授業類型のそれぞれのねらいと特徴について考える。	（事前）テキスト 1. の P.71～85 及びテキスト 2. の P.42～45 を精読しておく。 （事後）教材分析の方法や授業構成について度整理しておく。
9	教材分析の視点	・教材に描かれている人物や事象等を図式化することで道徳的な問題を明確化する教材分析の方法について概観する。	（事前）テキスト 1. の P.86～95 及びテキスト 2. の P.46～49 を精読しておく。 （事後）教材分析の方法について整理するとともに、自身が選択した教材について分析しておく。
10	発問分析による授業づくりの視点	・発問の特徴について概観し、発問分析に基づく授業改善の方法について考える。	（事前）テキスト 1. の P.96～106 及びテキスト 2. の P.50～53 を精読しておく。 （事後）問題解決的な学習や発問分析に基づく授業改善の方法について整理しておく。
11	授業づくりの実際①： カリキュラム・マネジメント、 テーマ発問	・カリキュラム・マネジメントに基づく道徳科の授業やテーマ発問を取り入れた道徳科の授業について、実践事例をもとに概観する。	（事前）テキスト 1. の P.107～130 及びテキスト 2. の P.54～57 を精読しておく。 （事後）カリキュラム・マネジメントに基づく道徳科の授業やテーマ発問を取り入れた道徳科の授業について整理しておく。
12	授業づくりの実際②： 問題解決的な学習、探究型学習	・問題解決的な学習を取り入れた道徳科の授業や探究型学習を取り入れた道徳科の授業について、実践事例をもとに概観する。	（事前）テキスト 1. の P.131～152 及びテキスト 2. の P.58～61 を精読しておく。 （事後）問題解決的な学習を取り入れた道徳科の授業や探究型学習を取り入れた道徳科の授業について整理しておく。
13	学習指導案の作成	・これまでの学修をふまえ、第９回で選択し教材分析した教材を用いた道徳科の授業について、学習指導案を作成する。	（事前）テキスト 2. の P.62～65 を精読しておく。 （事後）模擬授業と事後検討会の準備をしておく。
14	模擬授業と事後検討会①	・模擬授業を行い、授業改善のための事後検討会を行う。	（事前）テキスト 2. の P.66～69 を精読しておく。 （事後）模擬授業と事後検討会の準備をしておく。

	15	模擬授業と事後検討会② まとめ： 道徳科の授業について再び考える	・模擬授業を行い、授業改善のための検討を行う。 ・道徳科の授業づくりについてまとめる。	（事前）模擬授業と事後検討会の準備をしておく。 （事後）「よい道徳科の授業」について考えをまとめる。

関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみることが大切です。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	道徳科　初めての授業づくり	吉田誠・木原一彰　編著	大学教育出版
2	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　特別の教科　道徳編	文部科学省	教育出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　特別の教科　道徳編	文部科学省	廣済堂あかつき
2	『道徳教育』PLUS　考え、議論する道徳をつくる新発問パターン大全集	『道徳教育』編集部	明治図書出版
3			

評価方法 （基準）	毎回の授業の終わりに書いてもらう OPP シート（One Page Portfolio シート）の内容や授業中の学習の様子（30%）、作成した道徳科学習指導案（20%）、学期末試験の結果（50%）等をもとに、総合的に評価します。 また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。
学生へのメッセージ	授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク、模擬授業等を適宜取り入れます。受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。
担当者の研究室等	7 号館 4 階(谷口研究室)
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法	科目名（英文）	Methodolgy of Special Activities and Integrated Studies
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松浦　正典
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	特別活動の理論と指導法については、学校における様々な構成・場面での集団活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい学級生活・学校生活の実現を目指す特別活動の意義、目標及び内容を理解し、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。 総合的な学習（探求）の時間の理論と指導法については、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を探求的な学びの過程を通して行い、よりよく課題を解決し、自己の生き方について考えていくための資質・能力の育成をめざし、指導計画の作成、学習指導や評価の考え方、留意点を理解する。
到達目標	1　教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。 2　特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。 3　合意形成に向けた学級での話合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。 4　総合的な学習（探求）の時間の意義と教育課程において果たす役割、目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点、年間指導計画を作成することの重要性について理解している。 5　主体的・対話的で深い学びを実現する総合的な学習（探求）の時間の単元計画を作成することの重要性、探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立て、児童及び生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点を理解している。
授業方法と留意点	講義はテキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにすすめるが、ソロワーク、グループワークを取り入れる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や自ら問いを見いだし、課題を立て、情報を整理分析して、まとめ表現することが求められる総合的な学習の時間を指導しなければならない教員の立場に立って、集団をファシリテートできるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカション・コーディネーション・プレゼンテーションへの積極的な参加を求める。
科目学習の効果（資格）	教職科目　特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法は、 教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション･特別活動及び総合的な学習（探求）の時間の意義と課題	学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量	特別活動テキスト第１章、講義資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習をする（2時間）。
2	特別活動の目標・内容・方法	教科外活動としての位置づけ、特別活動の３つの内容、方法としての集団活動・体験活動	特別活動テキスト第２章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習する（2時間）。
3	学級活動･ホームルーム活動１	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり ワーク：学級活動の年間計画の作成	特別活動テキスト第３章第１節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
4	学級活動･ホームルーム活動２	学級活動の実際と合意形成 グループワーク：学級開きと年間計画の作成	特別活動テキスト第３章第１節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
5	生徒会活動・児童会活動	生徒会（児童会）活動の歴史・目標・内容。 学級経営に役立つワーク	特別活動テキスト第３章第２節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習をするをする（2時間）。
6	学校行事	学校行事の歴史・種類・内容・観点 グループワーク：学校行事の思い出	特別活動テキスト第3章第３節を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
7	特別活動の指導計画の作成にあたっての配慮事項	グループに分かれ、担当の箇所についてまとめ、プレゼンをする。（ABDによる）	教科書第４章第１節を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2時間)。
8	特別活動の内容の取扱いについての配慮事項	グループに分かれ、担当の箇所についてまとめ、プレゼンをする。（ABDによる）	教科書第４章第２節を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2時間)。
9	特別活動の歴史	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、時代背景のと関係 個別ワーク：戦後の特別活動の歴史をまとめる	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2時間)。
10	外国における特別活動 特別活動の指導を担当する教師	諸外国ではどのような特別活動が行われているか理解する。 個別ワーク：特別活動を指導する教師に必要な力	特別活動テキスト第４章第４節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
11	総合的な学習（探求）の時間の目標・内容・原理	総合的な学習（探求）の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理 グループワーク：総合的な学習の思い出	総合的な学習の時間のテキスト第１･2･3 章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
12	総合的な学習（探求）の時間の指導計画	全体計画、年間計画、単元計画の作成 グループワーク：総合的な学習の時間の年間計画作成　1	総合的な学習の時間のテキスト第５章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
13	探求的な学習の過程について	生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び グループワーク：総合的な学習の時間の年間計画作成　2	総合的な学習の時間のテキスト第2･7章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
14	総合的な学習（探求）の時間の評価	カリキュラムマネージメントの考え方による全体計画、年間計画、単元計画の評価、生徒の学習状況の評価 グループワーク：総合的な学習の時間の年間計画について発表	総合的な学習の時間のテキスト第 5･6・8 章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
15	補足とまとめ／最終レポートについて	補足を行うとともに全学習事項について再度振り返り整理する。 個別ワーク：総合的な学習の時間を指導する教師に必要な力	・第１回目から１４回目までの配布資料に目を通して全体を復習しておく。 ・課題に沿ったレポートを作成する。

関連科目	すべての教職科目と関連するが、特に、教師論、教育心理学で学習したことと関連づけるともに、教育方法論、生徒指導論、道徳教育論、教育社会学などの学習につなげることが大切である。
教科書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>中学校学習指導要領解説　特別活動編　平成２９年告示</td><td>文部科学省</td><td>東山書房</td></tr><tr><td>2</td><td>中学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編　平成２９年告示</td><td>文部科学省</td><td>東山書房</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>高等学校学習指導要領解説　特別活動編　平成２９年告示</td><td>文部科学省</td><td>東京書籍</td></tr><tr><td>2</td><td>高等学校学習指導要領　総合的な探求の時間編　平成２９年告示</td><td>文部科学省</td><td>学校図書</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
評価方法 （基準）	授業への参加状況及び課題（40%）、中間レポート（30%）、最終レポート（30%）を総合的に評価する。
学生への メッセージ	学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだということが言われる。子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するということに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 7 号館 3F 松浦研究室
備考	授業外学習総時間を 60 時間とする。

科目名	教育方法論	科目名（英文）	Studies of Educational Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松浦　正典
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教職課程「教育の方法及び技術」に対応する科目である。教師に求められる教育の方法と技術に関する基礎的・基本的な知識と技能を身につけていくことを目指して授業を行う。内容としては、教育の方法と技術にに関する歴史的変遷に触れ、、現代求められている「主体的・対話的で深い学び」についてる理解を深める。この授業を通してそれぞれが理想とする授業像・教師像を持ち、教員採用試験を突破できる基礎力を築く。 また、授業形態としては、講義のほかにペア学習・グループに分かれてのアクティブラーニングを取り入れ、教える側にも立ち、学修を進める。
到達目標	１　教育方法の基礎的理論と実践について理解している ２　これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現な　ど）を理解する。 ３　授業を行う上での基礎的な技術を身につける。 ４子供たちの情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法を理解する。 ５実物投影機やプレゼンテーションソフト等を活用し、模擬授業を行う。
授業方法と留意点	１　授業は対面式で行う。ICT ツールは Teams を使用する。 ２　講義資料等は「ファイル」により各授業回別のフォルダを作り、そこに掲載する。電子ファイルとして、もしくはプリントアウトして各自で管理すること。 ３　Teams で「課題」の提出を求めるので遅滞なく提出すること。なお、発表資料は発表の１週間前までに提出すること。
科目学習の効果（資格）	教職科目　教育方法論は、 教員免許（小学校・中学校・高等学校）取得上必修科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、教職科目「教育方法論」について・授業経験の振り返り	授業のオリエンテーション 講義：今、なぜ教育方法の学なのか・教育方法学の論点と課題 記憶に残る教師・授業について体験を発表する	教科書序章・第３章、講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2 時間）教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する。（２時間）
2	学習とは何か（学習論）	講義：学習をめぐる３つの理論、学習理論にもとづく学習方法、学習における他者の役割・アクティブラーニングについて理解する。 個人学習：担当する教育学者を決める（海外１・日本１　計２名）	教科書第５章、講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2 時間）教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（２時間）。
3	子どもたちは何を学ぶのか（教育目標・内容論）	講義：教育目標に関する基本的な考え方、教育目標と内容、教材・教具の違いについて理解する。 個人学習：担当する教育学者について教科書の内容他をまとめる	教科書第４章、講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく（2 時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する。（２時間）
4	欧米における授業の歴史（教授論の歴史①）	講義：近代以前の教育、近代教育思想と教授学の成立、教育学の体系化と授業の組織化、カリキュラム研究の成立と展開について理解する。 グループ学習：情報交換をする。	教科書第１章、講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2 時間）教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する。情報交換の準備を進める。（２時間）
5	日本における授業の歴史（教授論の歴史②）	講義：古代から近世の教育、近代学校制度と授業の成立、授業の定型化、授業改造の試みについて理解する。 グループ学習：情報交換をする。	教科書第２章、講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2 時間）発表の準備を進める。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する。（２時間）
6	学力をどう高めるか（学力論）	・講義：学力をどうとらえるか、「できる学力」を高める、「分かる学力」を高めるについて理解する。	教科書第６章をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2 時間）教科書・発表資料を参考に学習内容を整理する。（２時間）
7	授業をどうデザインするか（設計・デザイン論）	グループ発表・講義：授業のデザイン、教科内容と子どもの学び、対話的・協同的な学び合い、学びのための指導・支援について理解する。 グループ学習：グループに分かれ担当する模擬授業の内容を決める。	教科書第７章をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2 時間）教科書・発表資料を参考に学習内容を整理する。（２時間）
8	8　教育の道具・素材・環境（教材論）	講義：教材づくりの発想、メディアとしての教材、教材概念の拡張、学習環境としての時空間について理解する。 グループ学習：模擬授業の準備をする	教科書第８章をよく読んでおく。(2 時間）教科書・発表資料を参考に学習内容を整理する。(2 時間）
9	何をどう評価するか（評価論）	グループ発表・講義：指導要録における教育評価観の変遷、目標に準拠した評価の意義と展開、形成的評価と自己評価、パフォーマンス評価とポートフォリオ評価、教育評価論としての「実践記録」について理解する。 グループ学習：模擬授業の準備をする	教科書第９章をよく読んでおく。(2 時間）教科書・発表資料を参考に学習内容を整理する。(2 時間）
10	教科外教育活動を構想する	グループ発表・講義：教科外活動の分野と方法、教育外活動の今日的な課題について理解する。 グループ学習：模擬授業を行う	教科書１０章をよく読んで、疑問点をまとめておく（2 時間）。教科書・発表資料を参考に学習内容を整理する。（２時間）
11	教育におけるＩＣＴの活用について考える	講義：令和の日本型教育、GIGA スクール構想について理解することで ICT を活用した学びの意義・実践を知る。 グループ学習：模擬授業を行う	講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2 時間）講義資料を参考に学習内容を整理する。（２時間）。

	12	インクルーシブな授業をつくる（インクルーシブ教育論）	講義：ICF への転換と特殊教育から特別支援教育への転換、特別支援教育の理念と合理的配慮の考え方、授業における合理的配慮について理解する。 グループ学習：模擬授業を行う	講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2時間）講義資料を参考に学習内容を整理する。（２時間）
	13	今求められている学力を育てるために（１）	・なぜフィンランドの教育は世界中から注目されたかを理解する。 ・学習指導と学級経営の関係を理解する。	講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(２時間）講義資料を参考に学習内容を整理する。(2時間）
	14	今求められている学力を育てるために（２）	PISA の問題を実際に解くことにより、今求められている学力を体験的に知る。	講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(２時間）講義資料を参考に学習内容を整理する。(2時間）
	15	まとめ～学び続ける教員像をめぐって	講義：すぐれた教師・理想の教師になるために何をしていけばよいのか２つの教師モデル等から理解する。	教科書第１１章、講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2時間）教科書・講義資料を参考に学習内容を整理し、最終レポートを作成・提出する。（2時間）

関連科目	教職科目全般と関連性をもつ。特に、「教師論」「教育原理」「教育心理学」での既習内容と関連させて理解を深めることが大切である。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新しい時代の教育方法　改訂版	田中耕治他	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領（平成２９年度版）解説　総則編	文部科学省	東山書房
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加状況【課題等】(40%)、レポート（30%）、最終レポート（30%）により総合的に評価する。
学生へのメッセージ	「授業に参加するだけ」という受動的な構えを取るのではなく、教育諸課題に敏感に反応し、教育の方法的視点でどのように対処すべきかを常に考える癖をつけるようにしてください。
担当者の研究室等	７号館３階(松浦研究室)
備考	授業外総学習時間を 60 時間とする。

科目名	教育方法論	科目名（英文）	Studies of Educational Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松浦　正典
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教職課程「教育の方法及び技術」に対応する科目である。教師に求められる教育の方法と技術に関する基礎的・基本的な知識と技能を身につけていくことを目指して授業を行う。内容としては、教育の方法と技術にに関する歴史的変遷に触れ、、現代求められている「主体的・対話的で深い学び」についてる理解を深める。この授業を通してそれぞれが理想とする授業像・教師像を持ち、教員採用試験を突破できる基礎力を築く。 また、授業形態としては、講義のほかにペア学習・グループに分かれてのアクティブラーニングを取り入れ、教える側にも立ち、学修を進める。
到達目標	１　教育方法の基礎的理論と実践について理解している ２　これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現な　ど）を理解する。 ３　授業を行う上での基礎的な技術を身につける。 ４子供たちの情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法を理解する。 ５実物投影機やプレゼンテーションソフト等を活用し、模擬授業を行う。
授業方法と留意点	１　授業は対面式で行う。ICT ツールは Teams を使用する。 ２　講義資料等は「ファイル」により各授業回別のフォルダを作り、そこに掲載する。電子ファイルとして、もしくはプリントアウトして各自で管理すること。 ３　Teams で「課題」の提出を求めるので遅滞なく提出すること。なお、発表資料は発表の１週間前までに提出すること。
科目学習の効果（資格）	教職科目　教育方法論は、 教員免許（小学校・中学校・高等学校）取得上必修科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、教職科目「教育方法論」について・授業経験の振り返り	授業のオリエンテーション 講義：今、なぜ教育方法の学なのか・教育方法学の論点と課題 記憶に残る教師・授業について体験を発表する	教科書序章・第３章、講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2 時間）教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する。（２時間）
2	学習とは何か（学習論）	講義：学習をめぐる３つの理論、学習理論にもとづく学習方法、学習における他者の役割・アクティブラーニングについて理解する。 個人学習：担当する教育学者を決める（海外１・日本１　計２名）	教科書第５章、講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2 時間）教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（２時間）。
3	子どもたちは何を学ぶのか（教育目標・内容論）	講義：教育目標に関する基本的な考え方、教育目標と内容、教材・教具の違いについて理解する。 個人学習：担当する教育学者について教科書の内容他をまとめる	教科書第４章、講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく（2 時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する。（２時間）
4	欧米における授業の歴史（教授論の歴史①）	講義：近代以前の教育、近代教育思想と教授学の成立、教育学の体系化と授業の組織化、カリキュラム研究の成立と展開について理解する。 グループ学習：情報交換をする。	教科書第１章、講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2 時間）教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する。情報交換の準備を進める。（２時間）
5	日本における授業の歴史（教授論の歴史②）	講義：古代から近世の教育、近代学校制度と授業の成立、授業の定型化、授業改造の試みについて理解する。 グループ学習：情報交換をする。	教科書第２章、講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2 時間）発表の準備を進める。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する。（２時間）
6	学力をどう高めるか（学力論）	・講義：学力をどうとらえるか、「できる学力」を高める、「分かる学力」を高めるについて理解する。	教科書第６章をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2 時間）教科書・発表資料を参考に学習内容を整理する。（２時間）
7	授業をどうデザインするか（設計・デザイン論）	グループ発表・講義：授業のデザイン、教科内容と子どもの学び、対話的・協同的な学び合い、学びのための指導・支援について理解する。 グループ学習：グループに分かれ担当する模擬授業の内容を決める。	教科書第７章をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2 時間）教科書・発表資料を参考に学習内容を整理する。（２時間）
8	8　教育の道具・素材・環境（教材論）	講義：教材づくりの発想、メディアとしての教材、教材概念の拡張、学習環境としての時空間について理解する。 グループ学習：模擬授業の準備をする	教科書第８章をよく読んでおく。(2 時間）教科書・発表資料を参考に学習内容を整理する。(2 時間）
9	何をどう評価するか（評価論）	グループ発表・講義：指導要録における教育評価観の変遷、目標に準拠した評価の意義と展開、形成的評価と自己評価、パフォーマンス評価とポートフォリオ評価、教育評価論としての「実践記録」について理解する。 グループ学習：模擬授業の準備をする	教科書第９章をよく読んでおく。(2 時間）教科書・発表資料を参考に学習内容を整理する。(2 時間）
10	教科外教育活動を構想する	グループ発表・講義：教科外活動の分野と方法、教育外活動の今日的な課題について理解する。 グループ学習：模擬授業を行う	教科書１０章をよく読んで、疑問点をまとめておく（2 時間）。教科書・発表資料を参考に学習内容を整理する。（２時間）
11	教育におけるＩＣＴの活用について考える	講義：令和の日本型教育、GIGA スクール構想について理解することで ICT を活用した学びの意義・実践を知る。 グループ学習：模擬授業を行う	講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2 時間）講義資料を参考に学習内容を整理する。（２時間）。

	12	インクルーシブな授業をつくる（インクルーシブ教育論）	講義：ICF への転換と特殊教育から特別支援教育への転換、特別支援教育の理念と合理的配慮の考え方、授業における合理的配慮について理解する。 グループ学習：模擬授業を行う	講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2時間）講義資料を参考に学習内容を整理する。（２時間）
	13	今求められている学力を育てるために（１）	・なぜフィンランドの教育は世界中から注目されたかを理解する。 ・学習指導と学級経営の関係を理解する。	講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(２時間）講義資料を参考に学習内容を整理する。(2時間）
	14	今求められている学力を育てるために（２）	PISA の問題を実際に解くことにより、今求められている学力を体験的に知る。	講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(２時間）講義資料を参考に学習内容を整理する。(2時間）
	15	まとめ～学び続ける教員像をめぐって	講義：すぐれた教師・理想の教師になるために何をしていけばよいのか２つの教師モデル等から理解する。	教科書第１１章、講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2時間）教科書・講義資料を参考に学習内容を整理し、最終レポートを作成・提出する。（2時間）

関連科目	教職科目全般と関連性をもつ。特に、「教師論」「教育原理」「教育心理学」での既習内容と関連させて理解を深めることが大切である。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新しい時代の教育方法　改訂版	田中耕治他	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領（平成２９年度版）解説　総則編	文部科学省	東山書房
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加状況【課題等】(40%)、レポート（30%）、最終レポート（30%）により総合的に評価する。
学生へのメッセージ	「授業に参加するだけ」という受動的な構えを取るのではなく、教育諸課題に敏感に反応し、教育の方法的視点でどのように対処すべきかを常に考える癖をつけるようにしてください。
担当者の研究室等	７号館３階(松浦研究室)
備考	授業外総学習時間を 60 時間とする。

科目名	教育方法論	科目名（英文）	Studies of Educational Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松浦　正典
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教職課程「教育の方法及び技術」に対応する科目である。教師に求められる教育の方法と技術に関する基礎的・基本的な知識と技能を身につけていくことを目指して授業を行う。内容としては、教育の方法と技術にに関する歴史的変遷に触れ、、現代求められている「主体的・対話的で深い学び」についてる理解を深める。この授業を通してそれぞれが理想とする授業像・教師像を持ち、教員採用試験を突破できる基礎力を築く。 また、授業形態としては、講義のほかにペア学習・グループに分かれてのアクティブラーニングを取り入れ、教える側にも立ち、学修を進める。
到達目標	１　教育方法の基礎的理論と実践について理解している ２　これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現な　ど）を理解する。 ３　授業を行う上での基礎的な技術を身につける。 ４子供たちの情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法を理解する。 ５実物投影機やプレゼンテーションソフト等を活用し、模擬授業を行う。
授業方法と留意点	１　授業は対面式で行う。ICT ツールは Teams を使用する。 ２　講義資料等は「ファイル」により各授業回別のフォルダを作り、そこに掲載する。電子ファイルとして、もしくはプリントアウトして各自で管理すること。 ３　Teams で「課題」の提出を求めるので遅滞なく提出すること。なお、発表資料は発表の１週間前までに提出すること。
科目学習の効果（資格）	教職科目　教育方法論は、 教員免許（小学校・中学校・高等学校）取得上必修科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、教職科目「教育方法論」について・授業経験の振り返り	授業のオリエンテーション 講義：今、なぜ教育方法の学なのか・教育方法学の論点と課題 記憶に残る教師・授業について体験を発表する	教科書序章・第３章、講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2 時間）教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する。（２時間）
2	学習とは何か（学習論）	講義：学習をめぐる３つの理論、学習理論にもとづく学習方法、学習における他者の役割・アクティブラーニングについて理解する。 個人学習：担当する教育学者を決める（海外１・日本１　計２名）	教科書第５章、講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2 時間）教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（２時間）。
3	子どもたちは何を学ぶのか（教育目標・内容論）	講義：教育目標に関する基本的な考え方、教育目標と内容、教材・教具の違いについて理解する。 個人学習：担当する教育学者について教科書の内容他をまとめる	教科書第４章、講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく（2 時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する。（２時間）
4	欧米における授業の歴史（教授論の歴史①）	講義：近代以前の教育、近代教育思想と教授学の成立、教育学の体系化と授業の組織化、カリキュラム研究の成立と展開について理解する。 グループ学習：情報交換をする。	教科書第１章、講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2 時間）教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する。情報交換の準備を進める。（２時間）
5	日本における授業の歴史（教授論の歴史②）	講義：古代から近世の教育、近代学校制度と授業の成立、授業の定型化、授業改造の試みについて理解する。 グループ学習：情報交換をする。	教科書第２章、講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2 時間）発表の準備を進める。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する。（２時間）
6	学力をどう高めるか（学力論）	・講義：学力をどうとらえるか、「できる学力」を高める、「分かる学力」を高めるについて理解する。	教科書第６章をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2 時間）教科書・発表資料を参考に学習内容を整理する。（２時間）
7	授業をどうデザインするか（設計・デザイン論）	グループ発表・講義：授業のデザイン、教科内容と子どもの学び、対話的・協同的な学び合い、学びのための指導・支援について理解する。 グループ学習：グループに分かれ担当する模擬授業の内容を決める。	教科書第７章をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2 時間）教科書・発表資料を参考に学習内容を整理する。（２時間）
8	8　教育の道具・素材・環境（教材論）	講義：教材づくりの発想、メディアとしての教材、教材概念の拡張、学習環境としての時空間について理解する。 グループ学習：模擬授業の準備をする	教科書第８章をよく読んでおく。(2 時間）教科書・発表資料を参考に学習内容を整理する。(2 時間）
9	何をどう評価するか（評価論）	グループ発表・講義：指導要録における教育評価観の変遷、目標に準拠した評価の意義と展開、形成的評価と自己評価、パフォーマンス評価とポートフォリオ評価、教育評価論としての「実践記録」について理解する。 グループ学習：模擬授業の準備をする	教科書第９章をよく読んでおく。(2 時間）教科書・発表資料を参考に学習内容を整理する。(2 時間）
10	教科外教育活動を構想する	グループ発表・講義：教科外活動の分野と方法、教育外活動の今日的な課題について理解する。 グループ学習：模擬授業を行う	教科書１０章をよく読んで、疑問点をまとめておく（2 時間）。教科書・発表資料を参考に学習内容を整理する。（２時間）
11	教育におけるＩＣＴの活用について考える	講義：令和の日本型教育、GIGA スクール構想について理解することで ICT を活用した学びの意義・実践を知る。 グループ学習：模擬授業を行う	講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2 時間）講義資料を参考に学習内容を整理する。（２時間）。

	12	インクルーシブな授業をつくる（インクルーシブ教育論）	講義：ICF への転換と特殊教育から特別支援教育への転換、特別支援教育の理念と合理的配慮の考え方、授業における合理的配慮について理解する。 グループ学習：模擬授業を行う	講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2時間）講義資料を参考に学習内容を整理する。（２時間）
	13	今求められている学力を育てるために（１）	・なぜフィンランドの教育は世界中から注目されたかを理解する。 ・学習指導と学級経営の関係を理解する。	講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(２時間）講義資料を参考に学習内容を整理する。(2時間）
	14	今求められている学力を育てるために（２）	PISA の問題を実際に解くことにより、今求められている学力を体験的に知る。	講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(２時間）講義資料を参考に学習内容を整理する。(2時間）
	15	まとめ～学び続ける教員像をめぐって	講義：すぐれた教師・理想の教師になるために何をしていけばよいのか２つの教師モデル等から理解する。	教科書第１１章、講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2時間）教科書・講義資料を参考に学習内容を整理し、最終レポートを作成・提出する。（2時間）

関連科目	教職科目全般と関連性をもつ。特に、「教師論」「教育原理」「教育心理学」での既習内容と関連させて理解を深めることが大切である。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新しい時代の教育方法　改訂版	田中耕治他	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領（平成２９年度版）解説　総則編	文部科学省	東山書房
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加状況【課題等】(40%)、レポート（30%）、最終レポート（30%）により総合的に評価する。
学生へのメッセージ	「授業に参加するだけ」という受動的な構えを取るのではなく、教育諸課題に敏感に反応し、教育の方法的視点でどのように対処すべきかを常に考える癖をつけるようにしてください。
担当者の研究室等	７号館３階(松浦研究室)
備考	授業外総学習時間を 60 時間とする。

科目名	生徒指導論（進路指導を含む）	科目名（英文）	Studies of Guidance and Counceling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西村　晃一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	生徒指導、進路指導は、学校教育をすすめるうえで重要な役割を占めています。非行、いじめ、不登校、学級崩壊、受験競争、進路のミスマッチなど、生徒指導・進路指導上の諸問題については、その解決の重要性が認識されています。本科目では、生徒指導・進路指導・キャリア教育の意義について理解を深め、実践を進める方法原理について基礎的な知識を獲得し、教職員や関係機関と協力して解決・改善を目指そうとする素養を養います。
到達目標	学生は、生徒指導、進路指導、キャリア教育の意義と原理を理解し、学校の教育活動の核にこれを据え、全ての教職員および関係機関等と協力し、組織的に実践を進めていくために必要な知識やスキルを学び、さまざまな問題事象を適切に捉え対処する基礎力を身につけることができます。
授業方法と留意点	対面授業で、プレゼンテーションソフトを用いた講義を中心に進めます。また時折、レポートを課します。 Teams を通してテキスト・資料の配布や、レポート課題の提示等行います。 「事前・事後学習課題」はすべて事前課題です。事後課題については別途、指示します。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：生徒指導の理論及び方法、進路指導及びキャリア教育の理論及び方法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 教育課程と生徒指導・進路指導	科目概要について説明 自分の生徒指導上の体験のふりかえり	テキスト pp. 3-6、pp. 25-32、pp. 80-100
2	生徒指導の目標と意義	生徒指導の目標と意義	テキスト pp. 6-17
3	生徒指導の実践	生徒指導の実践課題と領域	テキスト pp. 17-24
4	生徒指導の理論	発達に関する理論 生徒指導における治療的支援に関する理論 相談理論など	テキスト pp. 32-42
5	生徒理解の進め方（１）	生徒理解の意義と目的 生徒理解の方法	テキスト pp. 43-52
6	生徒理解の進め方（２）	生徒の自己理解の支援 教師の生徒認知のありよう	テキスト pp. 52-62
7	学級経営の進め方（１）	学級経営の意義 学級集団の役割・機能	テキスト pp. 63-68
8	学級経営の進め方（２）	学級集団の力学 学級経営の方法	テキスト pp. 68-79
9	生徒指導上の諸問題の理解と対応	生徒指導上の諸問題とは 最近の諸問題の動向 諸問題にどう対応するか	生徒指導上の諸問題に関する配布資料
10	学校の生徒指導・進路指導体制と連携・協力	学校における指導体制 家庭との連携 専門機関との連携	テキスト pp. 116-131
11	生徒の進路・キャリアに関する実態と課題	進路選択の実態と課題 キャリア適応 青少年の勤労観・職業観 勤労観・職業観の形成と変容	テキスト pp. 176-195
12	進路指導・キャリア教育の目標と意義	進路指導・キャリア教育の意義 進路指導・キャリア教育の現代社会的課題	テキスト pp. 135-159
13	進路指導・キャリア教育の理論	キャリア発達に関する諸理論 キャリアカウンセリングに関する理論	キャリア発達理論に関する配布資料
14	進路指導における「ガイダンスの機能」	ガイダンスを活かした指導	テキスト pp. 220-223
15	学校教育における進路指導の実践展開	進路指導実践の展開モデル	テキスト pp. 196-220、pp. 223-234

関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教師論」「教育心理学」「特別活動の理論と方法」「教育経営論」に関連する事柄を含みます。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	生徒指導提要	文部科学省	東洋館出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）	文部科学省	
2	高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）	文部科学省	
3	生徒指導提要	文部科学省	

評価方法（基準）	定期試験 60%、レポート 40%。定期試験を受験しなかった場合、評価はしません。
学生へのメッセージ	生徒指導、進路指導を学ぶ原資になる自らの体験は大事です。さらに自らの体験を対象化して考える習慣をつけましょう。そのために、基礎的な知識をしっかりと身につけてください。 授業への遅刻、無断欠席・早退等は厳禁です。生徒指導を行おうとする者としての適格性が問われます。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　西村研究室

備考	必ず自分が履修登録をした曜日時限の Teams コード登録をしてください。自分が履修登録した曜日時限以外の Teams コード登録をしたものは成績評価対象外です（全欠席扱いとし、単位認定しません）。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。

科目名	教育相談（カウンセリングの基礎を含む）	科目名（英文）	School Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田　佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的

教育相談は，幼児児童生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら，集団の中で適応的に生活する力を育み，個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児児童生徒の発達の状況に即しつつ，個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え，支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義，理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。

特に，学校における教育相談に焦点を当て，教師が行う教育相談活動の基本的な考え方や教育相談に必要なスキルを身につけるために，教育相談のもつ今日的な意義を解説し，カウンセリングの基礎知識及びその実践的な手法を紹介する。併せて生徒理解と“問題”への対応について，実践的な取り組み方を考える。

到達目標

教育相談の基本的な考え方、カウンセリングの基礎、生徒理解と“問題”への対応についての知識を得ることができる。その上で、生徒を援助するための具体的な方法について考えることができる。

授業方法と留意点

講義と演習を組み合わせて行う。演習は，グループごとに取り組んだ課題について発表するものとする。

科目学習の効果（資格）

教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」４単位のうち２単位を充足。
【免許法施行規則に定める科目区分】
科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
各科目に含める必要事項：教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	教育相談とは何か	教育相談の意義，教師としての立場，カウンセリングマインド	テキスト第１講，配付資料を用いた予習・復習
2	カウンセリングの基礎	カウンセリングの基本的な考え方，カウンセリングの技法	テキスト第２講・第３講，配付資料を用いた予習・復習
3	グループ発表の準備	グループワーク（アイスブレイク含む）	検討したいテーマについてよく考えておく グループ発表の準備
4	学校教育相談の全体像	校内での役割分担と協力体制，専門機関との連携とその方法	テキスト第 10 講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
5	学校におけるカウンセリング活動１	カウンセリング活動のいろいろ(1)……治療的カウンセリング活動，予防的カウンセリング活動	テキスト第２講，第 10 講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
6	学校におけるカウンセリング活動２	カウンセリング活動のいろいろ(2)……開発的カウンセリング活動	テキスト第２講・第 10 講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
7	パーソナリティ理解	パーソナリティを理解するために，パーソナリティ理解をゆがめるもの	テキスト第 11 講・第 12 講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
8	“問題”の理解と対応１	“問題”とは何か，その原因・背景と対応，適応過程	テキスト第９講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
9	“問題”の理解と対応２	ストレス，欲求不満，葛藤	テキスト第９講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
10	心の発達と“問題”	青年期の発達（認知，自己意識，道徳性，仲間関係等）	テキスト第９講，配付資料を用いた予習・復習 教育心理学の復習 グループ発表の準備
11	相談援助活動の実際１	不登校……その理解と対応（グループ発表）	テキスト第４講，配付資料を用いた予習・復習
12	相談援助活動の実際２	いじめ……その理解と対応（グループ発表）	テキスト第４講，配付資料を用いた予習・復習
13	相談援助活動の実際３	授業崩壊・学級崩壊……その理解と対応（グループ発表）	テキスト第５講，配付資料を用いた予習・復習
14	相談援助活動の実際４	反社会的行動……その理解と対応（グループ発表）	テキスト第７講，配付資料を用いた予習・復習
15	これからの教育相談	新たな課題，教師のメンタルヘルス，さらなる連携	テキスト第 15 講，配付資料を用いた予習・復習

関連科目

教職課程の科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかる！教職エクササイズ３　教育相談	森田健宏・吉田佐治子（編著）	ミネルヴァ書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

グループ発表 50%，期末試験 50%

学生へのメッセージ

これまでの学校での「困った」経験を思い出してみてください。

担当者の研究室等

７号館３階（吉田研究室）

備考

グループ発表について，他の受講者からの評価をまとめたものを次回授業時に配付します。
グループ内ではピア評価を行います。

	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。 Teams コード 月曜 2 限：h5qc12z 火曜 2 限：g2v4wfo 木曜 1 限：akuou5b 木曜 4 限：hckt2t2 Moodle コース名と登録キー 月曜 2 限：2023 教育相談（月 2）あるいは　23 教育相談（月 2）　2023ECMON2 火曜 2 限：2023 教育相談（火 2）あるいは　23 教育相談

科目名	教育相談（カウンセリングの基礎を含む）	科目名（英文）	School Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田　佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的

教育相談は，幼児児童生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら，集団の中で適応的に生活する力を育み，個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児児童生徒の発達の状況に即しつつ，個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え，支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義，理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。

特に，学校における教育相談に焦点を当て，教師が行う教育相談活動の基本的な考え方や教育相談に必要なスキルを身につけるために，教育相談のもつ今日的な意義を解説し，カウンセリングの基礎知識及びその実践的な手法を紹介する。併せて生徒理解と“問題”への対応について，実践的な取り組み方を考える。

到達目標

教育相談の基本的な考え方、カウンセリングの基礎、生徒理解と“問題”への対応についての知識を得ることができる。その上で、生徒を援助するための具体的な方法について考えることができる。

授業方法と留意点

講義と演習を組み合わせて行う。演習は，グループごとに取り組んだ課題について発表するものとする。

科目学習の効果（資格）

教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」４単位のうち２単位を充足。
【免許法施行規則に定める科目区分】
科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
各科目に含める必要事項：教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	教育相談とは何か	教育相談の意義，教師としての立場，カウンセリングマインド	テキスト第１講，配付資料を用いた予習・復習
2	カウンセリングの基礎	カウンセリングの基本的な考え方，カウンセリングの技法	テキスト第２講・第３講，配付資料を用いた予習・復習
3	グループ発表の準備	グループワーク（アイスブレイク含む）	検討したいテーマについてよく考えておく グループ発表の準備
4	学校教育相談の全体像	校内での役割分担と協力体制，専門機関との連携とその方法	テキスト第 10 講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
5	学校におけるカウンセリング活動１	カウンセリング活動のいろいろ(1)……治療的カウンセリング活動，予防的カウンセリング活動	テキスト第２講，第 10 講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
6	学校におけるカウンセリング活動２	カウンセリング活動のいろいろ(2)……開発的カウンセリング活動	テキスト第２講・第 10 講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
7	パーソナリティ理解	パーソナリティを理解するために，パーソナリティ理解をゆがめるもの	テキスト第 11 講・第 12 講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
8	“問題”の理解と対応１	“問題”とは何か，その原因・背景と対応，適応過程	テキスト第９講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
9	“問題”の理解と対応２	ストレス，欲求不満，葛藤	テキスト第９講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
10	心の発達と“問題”	青年期の発達（認知，自己意識，道徳性，仲間関係等）	テキスト第９講，配付資料を用いた予習・復習 教育心理学の復習 グループ発表の準備
11	相談援助活動の実際１	不登校……その理解と対応（グループ発表）	テキスト第４講，配付資料を用いた予習・復習
12	相談援助活動の実際２	いじめ……その理解と対応（グループ発表）	テキスト第４講，配付資料を用いた予習・復習
13	相談援助活動の実際３	授業崩壊・学級崩壊……その理解と対応（グループ発表）	テキスト第５講，配付資料を用いた予習・復習
14	相談援助活動の実際４	反社会的行動……その理解と対応（グループ発表）	テキスト第７講，配付資料を用いた予習・復習
15	これからの教育相談	新たな課題，教師のメンタルヘルス，さらなる連携	テキスト第 15 講，配付資料を用いた予習・復習

関連科目

教職課程の科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかる！教職エクササイズ３　教育相談	森田健宏・吉田佐治子（編著）	ミネルヴァ書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

グループ発表 50%，期末試験 50%

学生へのメッセージ

これまでの学校での「困った」経験を思い出してみてください。

担当者の研究室等

７号館３階（吉田研究室）

備考

グループ発表について，他の受講者からの評価をまとめたものを次回授業時に配付します。
グループ内ではピア評価を行います。

	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。 Teams コード 月曜 2 限：h5qc12z 火曜 2 限：g2v4wfo 木曜 1 限：akuou5b 木曜 4 限：hckt2t2 Moodle コース名と登録キー 月曜 2 限：2023 教育相談（月 2）あるいは　23 教育相談（月 2）　2023ECMON2 火曜 2 限：2023 教育相談（火 2）あるいは　23 教育相談

科目名	教育相談（カウンセリングの基礎を含む）	科目名（英文）	School Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田　佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的

教育相談は，幼児児童生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら，集団の中で適応的に生活する力を育み，個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児児童生徒の発達の状況に即しつつ，個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え，支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義，理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。

特に，学校における教育相談に焦点を当て，教師が行う教育相談活動の基本的な考え方や教育相談に必要なスキルを身につけるために，教育相談のもつ今日的な意義を解説し，カウンセリングの基礎知識及びその実践的な手法を紹介する。併せて生徒理解と“問題”への対応について，実践的な取り組み方を考える。

到達目標

教育相談の基本的な考え方、カウンセリングの基礎、生徒理解と“問題”への対応についての知識を得ることができる。その上で、生徒を援助するための具体的な方法について考えることができる。

授業方法と留意点

講義と演習を組み合わせて行う。演習は，グループごとに取り組んだ課題について発表するものとする。

科目学習の効果（資格）

教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」４単位のうち２単位を充足。
【免許法施行規則に定める科目区分】
科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
各科目に含める必要事項：教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	教育相談とは何か	教育相談の意義，教師としての立場，カウンセリングマインド	テキスト第１講，配付資料を用いた予習・復習
2	カウンセリングの基礎	カウンセリングの基本的な考え方，カウンセリングの技法	テキスト第２講・第３講，配付資料を用いた予習・復習
3	グループ発表の準備	グループワーク（アイスブレイク含む）	検討したいテーマについてよく考えておく グループ発表の準備
4	学校教育相談の全体像	校内での役割分担と協力体制，専門機関との連携とその方法	テキスト第 10 講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
5	学校におけるカウンセリング活動１	カウンセリング活動のいろいろ(1)……治療的カウンセリング活動，予防的カウンセリング活動	テキスト第２講，第 10 講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
6	学校におけるカウンセリング活動２	カウンセリング活動のいろいろ(2)……開発的カウンセリング活動	テキスト第２講・第 10 講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
7	パーソナリティ理解	パーソナリティを理解するために，パーソナリティ理解をゆがめるもの	テキスト第 11 講・第 12 講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
8	“問題”の理解と対応１	“問題”とは何か，その原因・背景と対応，適応過程	テキスト第９講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
9	“問題”の理解と対応２	ストレス，欲求不満，葛藤	テキスト第９講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
10	心の発達と“問題”	青年期の発達（認知，自己意識，道徳性，仲間関係等）	テキスト第９講，配付資料を用いた予習・復習 教育心理学の復習 グループ発表の準備
11	相談援助活動の実際１	不登校……その理解と対応（グループ発表）	テキスト第４講，配付資料を用いた予習・復習
12	相談援助活動の実際２	いじめ……その理解と対応（グループ発表）	テキスト第４講，配付資料を用いた予習・復習
13	相談援助活動の実際３	授業崩壊・学級崩壊……その理解と対応（グループ発表）	テキスト第５講，配付資料を用いた予習・復習
14	相談援助活動の実際４	反社会的行動……その理解と対応（グループ発表）	テキスト第７講，配付資料を用いた予習・復習
15	これからの教育相談	新たな課題，教師のメンタルヘルス，さらなる連携	テキスト第 15 講，配付資料を用いた予習・復習

関連科目

教職課程の科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかる！教職エクササイズ３　教育相談	森田健宏・吉田佐治子（編著）	ミネルヴァ書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

グループ発表 50%，期末試験 50%

学生へのメッセージ

これまでの学校での「困った」経験を思い出してみてください。

担当者の研究室等

７号館３階（吉田研究室）

備考

グループ発表について，他の受講者からの評価をまとめたものを次回授業時に配付します。
グループ内ではピア評価を行います。

	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。 Teams コード 月曜 2 限：h5qc12z 火曜 2 限：g2v4wfo 木曜 1 限：akuou5b 木曜 4 限：hckt2t2 Moodle コース名と登録キー 月曜 2 限：2023 教育相談（月 2）あるいは　23 教育相談（月 2）　2023ECMON2 火曜 2 限：2023 教育相談（火 2）あるいは　23 教育相談

科目名	工業科教育法Ⅰ	科目名（英文）	Engineering Education Ⅰ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	福岡　優
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	工業科教育法Ⅰでは、工業教育の意義・役割・目標や教育関連法規、歴史と現状などについて学び、工業高等学校教員として必要な基礎的知識の修得と課題対応能力の向上を図る。 授業担当者の工業高等学校教諭、校長としての経験や教育センター指導主事の経験を活かし、実践力を育成する授業を行う。
到達目標	工業高等学校において教育を行うために必要な基礎的知識や技能を得ることができる。
授業方法と留意点	パワーポイントを併用した講義を行い、毎回レポートの提出を求める。質疑応答等についても対面講義の中で行い、実践的な能力の向上を図る。 また、小テストも実施する。
科目学習の効果（資格）	高等学校教諭一種免許状(工業)を得るために必要。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	工業教育の意義・歴史・法令関係 〈意義・役割・目標・内容等〉	オリエンテーション。 工業教育の意義・役割について解説する。	参考書等による事前学修（2時間） 授業終了時に示す課題についてレポートの作成（2時間）
2	工業教育の意義・歴史・法令関係 〈意義・役割・目標・内容等〉	工業教育の目標やその内容、適正年齢等について解説する。	参考書等による事前学修（2時間） 授業終了時に示す課題についてレポートの作成（2時間）
3	工業教育の意義・歴史・法令関係 〈意義・役割・目標・内容等〉	工業教育における技術者倫理の育成について解説する。	参考書等による事前学修（2時間） 授業終了時に示す課題についてレポートの作成（2時間）
4	工業教育の意義・歴史・法令関係 〈教育関係法令〉	教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する（日本国憲法、教育基本法等）。	参考書等による事前学修（2時間） 授業終了時に示す課題についてレポートの作成（2時間）
5	工業教育の意義・歴史・法令関係 〈教育関係法令〉	教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する（新旧教育基本法の比較等）。	参考書等による事前学修（2時間） 授業終了時に示す課題についてレポートの作成（2時間）
6	工業教育の意義・歴史・法令関係 〈教育関係法令〉	教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する（学校教育法等）。	参考書等による事前学修（2時間） 授業終了時に示す課題についてレポートの作成（2時間）
7	工業教育の意義・歴史・法令関係 〈教育関係法令〉	教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する（学校教育法施行規則、地教行法等）。	参考書等による事前学修（2時間） 授業終了時に示す課題についてレポートの作成（2時間）
8	工業教育の意義・歴史・法令関係 〈教育関係法令〉	教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する。（高等学校学習指導要領総則関係）。	参考書等による事前学修（2時間） 授業終了時に示す課題についてレポートの作成（2時間）
9	工業教育の意義・歴史・法令関係 〈教育関係法令〉	教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する（工業高等学校の目標等）。	参考書等による事前学修（2時間） 授業終了時に示す課題についてレポートの作成（2時間）
10	工業教育の意義・歴史・法令関係 〈工業高校発展の歴史と現状〉	教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する（高等学校学習指導要領解説工業編）。	参考書等による事前学修（2時間） 授業終了時に示す課題についてレポートの作成（2時間）
11	工業教育の意義・歴史・法令関係 〈工業高校発展の歴史と現状〉	日本の工業高校歴史と現在の状況について解説する（明治時代初期の工業の教育等）。	参考書等による事前学修（2時間） 授業終了時に示す課題についてレポートの作成（2時間）
12	工業教育の意義・歴史・法令関係 〈工業高校発展の歴史と現状〉	日本の工業高校歴史と現在の状況について解説する（明治時代中期以降の工業の教育等）。	参考書等による事前学修（2時間） 授業終了時に示す課題についてレポートの作成（2時間）
13	工業教育の意義・歴史・法令関係 〈工業高校発展の歴史と現状〉	日本の工業高校歴史と現在の状況について解説する（大正時代以降の工業の教育の歴史、現在の状況等）。	参考書等による事前学修（2時間） 授業終了時に示す課題についてレポートの作成（2時間）
14	工業教育の意義・歴史・法令関係 〈工業高校発展の歴史と現状〉	工業高等学校の学科の種類とその特徴を解説し、専門高校の全体像を把握する。	参考書等による事前学修（2時間） 授業終了時に示す課題についてレポートの作成（2時間）
15	教科・工業の内容関係 〈教科・工業の共通科目〉	工業技術基礎および課題研究の指導内容・方法について解説し、教材等について研究協議を行う。 工業科教育法Ⅰで学習したことをまとめる。	参考書等による事前学修（2時間） 授業終了時に示す課題についてレポートの作成（2時間）

関連科目	教職に関連する科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	高等学校学習指導要領	文部科学省	
	2	高等学校学習指導要領解説工業編	文部科学省	
	3	新しい観点と実践に基づく工業科教育法の研究	池守滋、佐藤弘幸、中村豊久	実教出版株式会社
評価方法 （基準）	提出物 70%、小テスト 30%により評価する。			
学生への メッセージ	工業科教育に必要な科目です。主体的な学びを期待します。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室、図書館			
備考	連絡は１１号館 1F 教務課へ			

科目名	工業科教育法Ⅱ	科目名（英文）	Engineering Education II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	福岡　優
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	工業科教育法Ⅱでは外国や専門学校における工業教育、さらに、工業高等学校における学習指導・学習指導計画の作成から授業の進め方と成績評価・授業改善、進路指導等について学び、工業高等学校教員として必要な基礎的知識の修得を図る。 授業担当者の工業高等学校教諭、校長としての経験や教育センター指導主事の経験を活かし、実践力を育成する授業を行う。
到達目標	工業高等学校において教育を行うために必要な基礎的知識や技能を得ることができる。
授業方法と留意点	パワーポイントを併用した講義を行い、模擬授業も行う。
科目学習の効果（資格）	高等学校教諭一種免許状(工業)を得るために必要。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	外国の技術・工業教育について	外国の技術・工業教育の具体例を説明する（韓国）。	参考書等による事前学修（2時間） 授業終了時に示す課題についてのレポート作成（2時間）
2	外国の技術・工業教育について	外国の技術・工業教育の具体例を説明する（アメリカ）。	参考書等による事前学修（2時間） 授業終了時に示す課題についてのレポート作成（2時間）
3	外国の技術・工業教育について	外国の技術・工業教育の具体例を説明する（ドイツ）。	参考書等による事前学修（2時間） 授業終了時に示す課題についてのレポート作成（2時間）
4	専修学校について	専修学校等などの工業教育の内容について説明する。	参考書等による事前学修（2時間） 授業終了時に示す課題についてのレポート作成（2時間）
5	教材・教具と報告書について	工業高等学校における教材・教具と報告書について解説する。	参考書等による事前学修（2時間） 授業終了時に示す課題についてのレポート作成（2時間）
6	安全教育について	工業高等学校における安全教育について解説する。	参考書等による事前学修（2時間） 授業終了時に示す課題についてのレポート作成（2時間）
7	授業と学習指導案について	工業高等学校における授業と学習指導案について解説する。	参考書等による事前学修（2時間） 授業終了時に示す課題についてのレポート作成（2時間）
8	学習指導案の作成、評価規準、教材の活用について	工業高等学校における学習指導案の作成、評価規準、教材の活用について解説する。	参考書等による事前学修（2時間） 学習指導案の作成（2時間）
9	模擬授業１と評価および意見交換	工業各分野に関する科目の模擬授業を実施し、研究協議を行う。	模擬授業の研究協議について事後学修（4時間）
10	模擬授業２と評価および意見交換	工業各分野に関する科目の模擬授業を実施し、研究協議を行う。	模擬授業の研究協議について事後学修（4時間）
11	模擬授業３と評価および意見交換	工業各分野に関する科目の模擬授業を実施し、研究協議を行う。	模擬授業の研究協議について事後学修（4時間）
12	模擬授業４と評価および意見交換	工業各分野に関する科目の模擬授業を実施し、研究協議を行う。	模擬授業の研究協議について事後学修（4時間)）
13	模擬授業５と評価および意見交換	工業各分野に関する科目の模擬授業を実施し、研究協議を行う。	模擬授業の研究協議について事後学修（4時間）
14	模擬授業６と評価および意見交換	工業各分野に関する科目の模擬授業を実施し、研究協議を行う。	模擬授業の研究協議について事後学修（4時間）
15	工業科教育法Ⅱのまとめ	工業高校における工業教育について研究協議を行う。	参考書等で事前学習（4時間）

関連科目	教職に関連する科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	高等学校学習指導要領	文部科学省	
2	高等学校学習指導要領解説工業編	文部科学省	
3	「新しい観点と実践に基づく工業科教育法の研究」	池守滋、佐藤弘幸、中村豊久	実教出版株式会社

評価方法（基準）	提出物 50%、模擬授業 50%により評価する。
学生へのメッセージ	工業科教育に必要な科目です。主体的な学びを期待します。
担当者の研究室等	非常勤講師室、図書館
備考	連絡は１１号館 1F 教務課へ

科目名	数学科教育法Ⅰ	科目名（英文）	Method of Mathematics Teaching I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小林　俊公
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	数学科教育法Ⅰでは、高等学校数学科教員を目指す学生の意識を高め、実際に教育を担当できうるための基礎的な実践能力の育成をめざす。「カリキュラム・教育目標・目的・方法・内容・評価・教授及び学習に関する理論」をとらえ、数学教育における教育の方法や技術の修得に重点を置く。また、問題発見力と解決のための「情報活用法」を体得するべく、グループ学習を重視し、マイクロティーチング・プレゼンテーションを通して「教えるもの」と「学ぶもの」の相互の立場を経験し、自己の教育観・教育力の基礎的基盤の確立を目指す。
到達目標	（1）現行の学習指導要領を踏まえて、学習目標をたて、指導案を作成し、高等学校数学科の科目内容に関する３０分程度のマイクロティーチングを行うことができる。 （2）相互評価・自己評価を通じて、現在の自分を見つめ直し、教育観・教育力を育むことができる。
授業方法と留意点	講義形式の授業だけでなく、15回の授業の後半でのマイクロティーチングにおいてはグループ学習・活動を実施する。 自らが発見した課題に積極的に取り組むことにより学ぶ「メタ学習」を根本におく。 加えて、レポートの提出を求める。ビデオ、教材提示装置等視聴覚器材を用いた講義も行う。 課題の提出と返却に Moodle を利用するので、Moodle のコースへの登録を忘れず行うこと。
科目学習の効果（資格）	「創造型人材育成教育（数学教育）を実践しうる教育者」となるための基礎・基本の確立ができる。(高等学校一種免許（数学)) 数学科教育法Ⅰの内容は数学科教育法Ⅱへつながる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	本授業のねらいと展開	本教科科目の内容、特徴、 学び方、ガイダンス、 全体の展望、学習の進め方	課題レポート
2	教育と評価(1)	「評価」観の変遷から新しい「学力」観におけるメタ認知・メタ学習における評価について考える。	課題レポート
3	教育と評価(2)	教育における指導と評価を一体化させる方法を考え、「教育改善のための評価法」に統合する。	課題レポート
4	数学教育の目的と目標	教授の概念を学び、教授論の歴史的展開から教授メディアの発展及び学習理論について学ぶ。	課題レポート
5	新しい学力観	数学的な見方・考え方に関わる教授法に関する知識を、学習理論に結びつけ、新しい「学力」観について考える。	課題レポート
6	生きる力(1)	近接校種等の総合的な学習の時間における教育のあり方を学び、先進的な実践校の内容と、その分析をおこなう。	課題レポート
7	生きる力(2)	教授法・学習理論をメタ学習・数学教育の観点から教育の現場で役立つ力とする。	課題レポート
8	学級崩壊・学力崩壊	近接校種の教育の現場の状況を知り、各自の目指す校種に至るまでの現状を知る。特に小学校低学年における学級崩壊の実状を考察して、各自の教育観をたてる。	課題レポート
9	学習指導要領(1)	学習指導要領制定の経緯、変遷の経過に、それぞれの時代の求められた教育観がいかに反映されたかを学ぶ。	課題レポート
10	学習指導要領(2)	高等学校の学習指導要領について学び、その目標や内容について知り、教科書の分析法や、授業・指導の組織化の方法について学ぶ。	課題レポート
11	数学科教授計画	授業の設計法を体系的に学ぶ。目標の分析法や、授業・指導の組織化の方法について学び、その知識を援用して学習指導案にまとめる。	課題レポート
12	マイクロティーチングの方法	教育機器と教授メデイア、 教授メデイアの発展と現状、 チャート・カード・OHP などの活用について。	課題レポート
13	マイクロティーチング(プレゼンテーション)・グループ学習(1)	各自の求める数学教育について、「30 分間のマイクロティーチング」にまとめ、実践する。	課題レポート
14	マイクロティーチング(プレゼンテーション)・グループ学習(2)	グループ員各々のマイクロティーチングを「学ぶものの立場」、「同僚（教えるもの）としての立場」で相互評価し、「教えるもの」としての自己評価を加えて総合的にまとめる。	課題レポート
15	マイクロティーチング(プレゼンテーション)・グループ学習(3)	マイクロティーチングの相互評価と自己評価の発表と検討により、自己の教育力・評価力育成のための方法を体得する。	課題レポート

関連科目	本科目を学ぶまでに開講されている他の教職関連科目、一般教養科目をあらかじめ履修しておくことが望ましい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	高等学校学習指導要領（平成３０年告示）解説　数		学校図書

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><td></td><td>学編　理数編</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td>高等学校学習指導要領（平成３０年告示）解説　総則編</td><td></td><td>東洋館出版社</td></tr>
<tr><td>3</td><td>中学校学習指導要領（平成２９年告示）解説　数学編</td><td></td><td>日本文教出版</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>バズ式セッションを中心に展開(グループ員との連携が必須・特に欠席時)。マイクロティーチング(模擬授業)は必須。レポートの提出を求める。
マイクロティーチングと評価のまとめで50%、レポートと日常学習状況(出席状況を含む)の評価を50%とする。
マイクロティーチングについては、COVID-19 感染対策状況により、レポート等への変更もあり得る。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>将来教員をめざす学生の切磋琢磨の場として、プレゼンテーション能力の育成をはかり、グループ活動においては、新しい教材開発など積極的な活動を求める。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>５号館１階　数学研究室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>事前・事後学習には、それぞれ毎回２時間を目安に、十分時間をかけて取り組むこと。
課題レポートは採点して返却し、適宜講義中に解説する。</td></tr>
</table>

科目名	数学科教育法Ⅱ	科目名（英文）	Method of Mathematics Teaching II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小林　俊公
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	数学科教育法 II では、高等学校数学科教員を目指す学生が実際に教育を担当できうるための基盤となる実践力の育成をめざす。数学科教育法 I でまとめあげた各自の「教える立場に立ったときの心構え・知識」と、体験したマイクロティーチングを礎にして、生きる力を知的な側面から支える「確かな学力」を育成し、生徒の学習意欲を高め、自ら学び自ら考える力などを育成できるプロジェクトをたて、教育コースウェアを研究・開発し、バズ式セッション・グループ活動・他者評価・自己評価、相互評価などで実践的な学びを展開する。
到達目標	高等学校数学科の科目内容に関して、学習目標・内容・評価を含む指導計画をたて、学習指導案（指導細案）を作成し、約５０分のマイクロティーチング（模擬授業）を行うことができる。
授業方法と留意点	授業では、講義だけでなくグループ学習・活動を取り入れ、学ぶ意欲を維持し自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決し、プレゼンテーションする資質や能力を涵養する。 課題の提出と返却に Moodle を利用するので、Moodle のコースへの登録を忘れず行うこと。
科目学習の効果（資格）	「創造型人材育成教育（数学教育）を実践しうる教育者」となるための基盤力が涵養できる。(高等学校一種免許（数学)) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	本授業のねらいと展開	本教科科目の内容、特徴、 学び方、ガイダンス、 全体の展望、学習の進め方。	課題レポート
2	生きる力と確かな学力、学力観(1)	高等学校教科「数学」や専門教科「理数」において、生徒の学習意欲を高め、生きる力を支える「確かな学力」について考える。	課題レポート
3	生きる力と確かな学力、学力観(2)	「生徒が数学的な見方・考え方が好きだと思うこと」とは、また「授業以外に学ぶ習慣を体得できる種々の方策」とはについて考える。	課題レポート
4	生きる力と確かな学力、学力観(3)	「生活の中での数学の有効性を体験し、論理的に考える態度の育成」とは、また「人やものと関わる力を高めるための体験」とはどのようなものであるかを考える。	課題レポート
5	生きる力と確かな学力、学力観(4)	身近な事象から、どのような数学的知識が引き出されているか具体例を挙げ、数学的思考の構成過程を振り返って、当初の事象にどのように活用されているかを考える。	課題レポート
6	高等学校の数学教育開発プロジェクト(1)	高等学校普通教科数学「Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、A、B、数学活用」や専門科目「理数」の各々について、その理念と意義及び目標・内容について理解する。	課題レポート
7	高等学校の数学教育開発プロジェクト(2)	理解の過程で各自が持った問題意識でテーマをたて「自分が求める数学教育」を設定し、各自のたてた学力観から教授モデルや評価のあり方についてさらに考えをすすめる。	課題レポート
8	高等学校の数学教育開発プロジェクト(3)	自ら学び自ら考える力や表現力を身につけさせることができる「各自の行いたい教育コースウェア」を開発するプロジェクトを考察する。	課題レポート
9	高等学校の数学教育開発プロジェクト(4)	教育目標・目的、内容・方法、評価について考え、教育課程、年間指導計画、単元計画、本時の学習についての学習指導案・学習指導細案・ワークシート・板書計画・評価法をまとめ上げる。	課題レポート
10	バズ式セッション、模擬授業・評価(1)	グループ活動として、各自の開発した教育コースウェアについてバズ式セッションで討議する。	課題レポート
11	バズ式セッション、模擬授業・評価(2)	討議の結果をフィードバックして各自の考えた教育コースウェアを修正し、「50 分間の模擬授業」を行う。	課題レポート
12	バズ式セッション、模擬授業・評価(3)	各自の考えた「評価規準」「評価基準」「ルーブリック」等で評価を行い、観点別評価を実践する。	課題レポート
13	バズ式セッション、模擬授業・評価(4)	実践により各々のプロジェクト型問題解決学習を完結し、一人ひとりの「Plan-Do-Check-Action のサイクル」をシステマティックに組み上げる。	課題レポート
14	バズ式セッション、模擬授業・評価(5)	教育者としての基盤を確立し、自己の教育力（授業改善力・評価力等）育成のための方法を体得する。	課題レポート
15	まとめ	高等学校教科「数学」の学習指導要領について体系的な知識を身につけ、「生きる力」や「確かな学力」について考えを	課題レポート

			まとめ、各自の「学力観」を立てる。	

関連科目	本科目を学ぶまでに数学科教育法 Ⅰ を履修すること。他の教職関連科目、一般教養科目などもあらかじめ履修しておくことが望ましい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	高等学校学習指導要領（平成３０年告示）解説　数学編　理数編		
2	高等学校学習指導要領（平成３０年告示）解説　総則編		
3	中学校学習指導要領（平成２９年告示）解説　数学編		

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	マイクロティーチング（模擬授業）は必須。授業への参画（受講態度、平常点）、課題提出、課題解決の経過等の日常学習状況の評価が 50%、マイクロティーチングと評価のまとめで 50%とする。 マイクロティーチングについては、COVID-19 感染対策状況により、レポート等への変更もあり得る。
学生への メッセージ	生徒の自己実現を支援する高等学校数学科の教員を目指すという目的意識を持ち、常に問題を発見し問題解決・課題解決に情熱を傾け、日々の課題を着実に解決し、自ら継続的に問題（課題）解決のための取り組みを日常的に行う学生の受講を希望する。
担当者の 研究室等	５号館１階　数学研究室
備考	事前・事後学習には、それぞれ毎回２時間を目安に、十分時間をかけて取り組むこと。 課題レポートは採点して返却し、適宜講義中に解説する。

科目名	数学科教育法Ⅲ	科目名（英文）	Method of Mathematics Teaching III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	富永　雅
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	・数学科教育法Ⅲでは，中学校数学科教員を目指す学生の意識を高め，実際に教育を担当できうるための基礎的な実践能力の育成をめざす。 ・中学生の実態を捉え、「カリキュラム・教育目標・目的・方法・内容・評価・教授及び学習に関する理論」に関する知識を展開し，数学教育における教育の方法や技術の修得に重点を置く。 ・問題発見力と解決のための「情報活用法」を体得するべく，グループ学習を重視し，プレゼンテーション・模擬授業を通して「教えるもの」と「学ぶもの」の相互の立場を経験し，自己の教育観・教育力の基礎的基盤の確立を目指す。 ・校種間の連携も考え、特に、小学校の学習・指導についても学ぶ。
到達目標	・中学校学習指導の理解 ・数学的な活動の理解と体得 ・授業力の理解とその育成 ・模擬授業の基礎力 ・評価と評定についての理解
授業方法と留意点	受講生数によっては、グループ学習・活動を実施することもある。 設定した課題（学習単元の指導法など）に積極的に取り組む。 成果として、発表・レポートの提出を求める。
科目学習の効果（資格）	「創造型人材育成教育（数学教育）を実践しうる教育者」となるための基礎・基本の確立ができる。（中学校一種免許（数学）） 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法　（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	本授業のねらいと展開	本教科科目の内容、特徴、学び方、全体の展望、学習の進め方。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180 分） 次回の内容を確認する（60 分）
2	数学教育の目的と目標 学習指導案	学習指導要領から目標などを学ぶ。 典型的な学習指導案の作成について学ぶ。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180 分） 次回の内容を確認する（60 分）
3	数学教科書比較（1）	学習指導要領などを基に教科書の分析法や，授業・指導の組織化の方法について学ぶ。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180 分） 次回の内容を確認する（60 分）
4	数学教科書比較(2)	教科書を比較することから数学指導における注意点を認識し、その指導法について考える。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180 分） 次回の内容を確認する（60 分）
5	数学教育の歴史(1)	数学教育体制がどのように始められ変遷してきたか学ぶ。 また、数学教育史から現代数学教育を見つめなおす。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180 分） 次回の内容を確認する（60 分）
6	数学教育の歴史(2)	学習指導要領の下、戦後の数学教育の発展に考察する。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180 分） 次回の内容を確認する（60 分）
7	数学科教授計画	授業の設計法を体系的に学ぶ。目標の分析法や，授業・指授業の設計法を体系的に学び、その知識を援用して学習指導案にまとめる。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180 分） 次回の内容を確認する（60 分）
8	数学教材とその応用（１）	（発展的内容を含む）などの数学教材の一分野を基にその指導についての現状を知る。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180 分） 次回の内容を確認する（60 分）
9	数学教材とその応用（２）	（発展的内容を含む）などの数学教材の一分野を基に教育・指導観を吟味する。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180 分） 次回の内容を確認する（60 分）
10	教科書比較・模擬授業に関わる考察（1）	各自の発表に関して、該当単元設置の目的，注意点についてまとめ、発表する。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180 分） 次回の内容を確認する（60 分）
11	教科書比較・模擬授業委に関わる考察（２）	相互の準備状況について意見交換を行い，発表に備える。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180 分） 次回の内容を確認する（60 分）
12	模擬授業（・プレゼンテーション）・グループ学習(1)	各自の求める数学教育像の一つとして，「15 分間の模擬授業」をまとめ，実践する。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180 分） 次回の内容を確認する（60 分）
13	模擬授業（・プレゼンテーション）・グループ学習(2)	グループ員各々の模擬授業を「学ぶものの立場」,「同僚（教えるもの）としての立場」で相互評価し，自己評価を加えて総合的にまとめる。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180 分） 次回の内容を確認する（60 分）
14	模擬授業（・プレゼンテーション）・グループ学習(3)	模擬授業の相互評価と自己評価の発表と検討により，自己の教育力・評価力育成のための方法を体得する。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180 分） 次回の内容を確認する（60 分）
15	まとめ	具体的な問題を取り上げ、学習してきた内容を基に、その指導法について考察する。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（240 分）

関連科目	本科目を学ぶまでに開講されている他の教職関連科目，一般教養科目を予め履修されておくことが望ましい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中等数学科教育法序論	黒田恭史	共立出版

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 （基準）	○ 模擬授業関係を含む発表（30%） ○ 受講生同士の連携など（10%） ○ 学習状況・レポート（60%） ※模擬授業関係を含む発表は必須 ※受講人数によってはグループ分けを行う
学生への メッセージ	○ まずは、教育実習に対応できる教科指導法を身につける。 ○ 将来教員をめざす学生の切磋琢磨の場として，プレゼンテーション能力の育成をはかり，新しい教材開発など積極的な活動を求める。
担当者の 研究室等	対応は、当該講義内が中心となります。 ただし、連絡を取る必要がある場合は、指定メールを利用してお問い合わせください。
備考	○ 授業においては、ICT ツール Moodle を用いることがあります。 ○事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	数学科教育法Ⅳ	科目名（英文）	Method of Mathematics Teaching IV
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	富永　雅
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	数学科教育法Ⅳでは，中学校数学科教員を目指す学生が実際に教科教育を担当できうるための基盤となる実践力の育成をめざす。 数学科教育法Ⅰ，Ⅱ，Ⅲで培ってきた各自の「教える立場に立ったときの心構え・知識」と，体験したマイクロティーチングを礎にして，生きる力を知的な側面から支える「確かな学力」を育成するための教育コースウェアを研究・開発する。 バズ式セッション・グループ活動を学習形態に取り入れ，生徒の学習意欲を高め，自ら学び自ら考える力を育てる。 これらを行うにあたり，高度化された教科内容あるいは教科横断的教科内容を自ら設定する。 受講生は，それらを自己評価，あるいは相互に評価し合い，より完成度の高い授業を構築する。
到達目標	・中学校学習指導要領（数学）の内容の体得 ・数学的な活動を含んだ教育教育についての理解 ・学習指導案の作成力 ・マイクロティーチグの実践力 ・各領域における一層の理解（高度化された教育内容・教科横断的学習を含む）
授業方法と留意点	学ぶ意欲を維持し自分で課題を見つけ，自ら学び，主体的に判断し，行動し，よりよく問題解決し，プレゼンテーションする資質や能力の涵養を目指す。
科目学習の効果（資格）	「創造型人材育成教育（数学教育）を実践しうる教育者」となるための基盤力が涵養できる。（中学校一種免許（数学）） 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法　（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	本授業のねらいと展開	本教科科目の内容、特徴、 学び方、全体の展望、学習の進め方	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180 分） 次回の内容を確認する（60 分）
2	・テーマ決め （含:学習指導要領の概括）	中・高等学校数学の学習内容を改めて概括、領域の確認を行う。 発展教材例を参考に、本授業を通しての自身のテーマを設定する。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180 分） 次回の内容を確認する（60 分）
3	数学教材の応用	例示されたテーマで本授業の進め方を知り、各テーマのこれから進め方について確認する。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180 分） 次回の内容を確認する（60 分）
4	数学設定テーマ内容深化（１）	設定内容における数学的内容を深める。（第１グループ）	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180 分） 次回の内容を確認する（60 分）
5	数学設定テーマ内容深化（２）	設定内容における数学的内容を深める。（第２グループ）	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180 分） 次回の内容を確認する（60 分）
6	数学設定テーマと学校数学教材（１）	学校数学（学習指導要領・教科書）への設定テーマの応用について考察する。（第１グループ）	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180 分） 次回の内容を確認する（60 分）
7	数学設定テーマと学校数学教材（２）	学校数学（学習指導要領・教科書）への設定テーマの応用について考察する。（第２グループ）	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180 分） 次回の内容を確認する（60 分）
8	数学科指導案作成	これまでの学びを基に、テーマに沿って授業内容を構成する。 （予備発表を行うこともある）	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180 分） 次回の内容を確認する（60 分）
9	数学教材（論理的思考１）	数学的論理について学習する。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180 分） 次回の内容を確認する（60 分）
10	数学設定テーマの最終発表（１）	設定テーマでの数学教材発表（評価も取り入れる予定）を行い、その学習内容・指導の在り方、問題点を確認し、深みある吟味を行い、まとめにつなげる。（第１グループ）	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180 分） 次回の内容を確認する（60 分）
11	数学設定テーマの最終発表（２）	設定テーマでの数学教材発表（評価も取り入れる予定）を行い、その学習内容・指導の在り方、問題点を確認し、深みある吟味を行い、まとめにつなげる。（第２グループ）	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180 分） 次回の内容を確認する（60 分）
12	数学教材（論理的思考２）	証明法について学習する。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180 分） 次回の内容を確認する（60 分）
13	数学設定テーマ報告書について（１）	設定テーマで報告書を作成し、その内容について、討議なども可能な限り行い修正の後、完成に近づける。（第１グループ）	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180 分） 次回の内容を確認する（60 分）
14	数学設定テーマ報告書について（２）	設定テーマで報告書を作成し、その内容について、討議なども可能な限り行い修正の後、完成に近づける。（第２グループ）	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180 分） 次回の内容を確認する（60 分）
15	まとめ	数学教育に必要な体系的な知識を身につけ、「生きる力」や「確かな学力」についても考慮し、教育者としての基盤を確立、自己の教育力（授業改善力・評価力等）育成のための方法を体得する。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（240 分）

関連科目	本科目を学ぶまでに数学科教育法Ⅲを履修すること。他の教職関連科目，一般教養科目なども予め履修しておくことが望ましい。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中等数学科教育法序論	黒田 恭史	共立出版
2			
3			

評価方法 （基準）	○ 模擬授業関係を含む発表（30%） ○ 受講生同士の連携など（10%） ○ 学習状況・レポート（60%） ※模擬授業関係を含む発表は必須 ※受講人数によってはグループ分けを行う
学生への メッセージ	生徒の自己実現を支援する中学校・高等学校数学科の教員を目指すという目的意識を持ち，常に問題を発見し、問題解決・課題解決に情熱を傾け，日々の課題を着実に解決し，自ら継続的に問題（課題）解決のための取り組みを日常的におこなう学生の受講を希望する。
担当者の 研究室等	当該講義内での対応が中心となります。 ただし、連絡を取る必要がある場合は、別途記した指定メールを利用してお問い合わせください。
備考	○ 授業においては、ICT ツール Moodle を用いることがあります。 ○事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	英語科教育法Ⅰ	科目名（英文）	English Teaching Methods Ⅰ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	松田　早恵
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	学習者が第二言語・外国語を習得するプロセスについて基礎的な内容を理解し、授業指導に生かせるようにする。また、中学校及び高等学校における年間を通した学習到達目標に基づく評価の在り方、観点別学習状況の評価に基づく各単元における評価規準の設定、さらに評定への総括のしかたについて理解する。さらに、中学校および高等学校における３つの資質・能力を踏まえた「５つの領域」の指導および領域統合型の言語活動に関する基本的な知識と技能を身に付けるとともに、様々な教材や ICT の活用方法を学び、生徒の特性や習熟度に応じた指導についても考える。
到達目標	中学校及び高等学校における英語の学習指導に関する知識と授業指導および学習評価の基礎を身につけた上で、授業観察、授業体験、模擬授業などの学習形態を通して、実際の授業の組み立て方や学習指導案の作成方法を学ぶ。また、言語能力の測定や評価の方法を理解する。
授業方法と留意点	・スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの４つの基本スキルの指導、授業の準備や分析、評価などを演習を通して学ぶ。 ・理論を学び、グループで具体的な指導のスキルを練習すると共に、各々で短い授業を企画し、実技で発表する。
科目学習の効果（資格）	英語教員免許(中・高) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 　各科目に含めることが必要な事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第二言語習得と英語教育	第二言語習得とは 英語教授法の種類	第 7 章、第 8 章
2	語彙指導	語彙とは 語彙学習活動と評価	第 19 章
3	リーディング指導	リーディングとは リーディング活動と評価	第 12 章
4	リーディング指導	多読とは 多読活動と評価、	第 12 章
5	ライティング指導	ライティングとは ライティング活動と評価	第 13 章
6	リスニング指導	リスニングとは リスニング活動と評価	第 10 章
7	スピーキング指導	スピーキングとは スピーキング活動と評価	第 11 章
8	模擬授業と分析（1）	単独領域模擬授業	第 10～13 章、第 19 章、第 20 章
9	領域統合型指導	領域統合型活動と評価	第 10～13 章、第 19 章、第 20 章
10	学習者要因	学習者要因とは 種類とその影響	第 4 章
11	測定と評価	測定と評価の種類と方法	第 15 章
12	ICT を用いた活動	ICT を用いた活動例の紹介、実践	第 16 章
13	模擬授業と分析（2）	領域統合型模擬授業	第 10～13 章、第 19 章、第 20 章
14	模擬授業と分析（3）	領域統合型模擬授業	第 10～13 章、第 19 章、第 20 章
15	総括	求められる英語教師像 教師の役割	第 5 章

関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教職総合演習」「各教科教育法」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Sunshine English Course 1		開隆堂
2	Sunshine English Course 2		開隆堂
3	Sunshine English Course 3		開隆堂

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新学習指導要領にもとづく英語科教育法	望月昭彦編著	大修館書店
2	英語 4 技能評価の理論と実践	望月昭彦・深澤真・印南洋・小泉利恵〔編著〕	大修館書店
3	英語リーディングの科学－読めたつもりの謎を解く	卯城祐司〔編著〕	研究社

評価方法（基準）	①小テスト・レポート（50%） ②模擬授業（学習指導案作成・実技・実技分析）（50%）
学生へのメッセージ	英語教師が知っておくべき知識を広い分野でカバーした科目となりますので情報量が膨大ですが、全体像を把握してもらう入門コースとなります。興味を持った分野があれば、さらに文献を読み込み、勉強をしてください。英語教員には広い知識と高い英語力が必要です。普段から 4 技能をバランスよく伸ばす努力をしてください。一緒に頑張りましょう！ ★教材共有、連絡用などに使いますので、Teams への参加をお願いします。 ★Sunshine English Course1,2,3（中学英語教科書）は模擬授業ですぐに使いますので必ず購入してください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	英語科教育法Ⅱ	科目名（英文）	English Teaching Methods II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	齋藤　安以子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	外国語としての英語を学習する過程をデザインする立場に身をおき、教材や機器を効果的に用いて学習者に合ったさまざまな学習指導案を作成したり、実際に実技を行ったりしながら教授法を学ぶ。自己の実技を録画したものを用いて改善点を見出し、改訂版の授業を行う。小中高といった校種や教科の壁を越えて連携ができるよう、他者の学習指導案や授業について建設的なディスカッションを行い、多様な授業を創る方法を理解する。なお、学習指導案の個別指導は課外にも行う。
到達目標	・中学校および高等学校における３つの資質・能力を踏まえた「５つの領域」(「聞く」「読む」「話す（やりとり)」「話す(発表)」及び「書く」)の指導および各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法の指導について基本的な知識と技能を身に付け、複数の領域を統合した言語活動の指導方法を身に付ける。 ・教材や ICT の活用方法を知るとともに、英語による授業展開や ALT 等とのティーム・ティーチングの方法について理解する。さらに、生徒の特性や習熟度に応じた指導について理解する。 ・学年ごとのカリキュラムを考え、ユニットや個々の授業時間の学習目標を設定できるようになる。 ・模擬授業を分析し、授業展開のオプションを検討できるようになる。
授業方法と留意点	・スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの４つの基本スキルの指導、授業の準備や分析、評価などを演習を通して学ぶ。 ・理論を学び、グループで具体的な指導のスキルを練習すると共に、各々で短い授業を企画し、実技で発表する。 ・2023 年度は、第 8・9 回以外にも ICT を履修生自身が扱う練習を行う。模擬授業は「対面、およびオンライン授業を企画・実施」とする。オンライン模擬授業の回には教員役も生徒役もオンラインに接続し、互いにどう見えるのか、対面模擬授業との差を体験し、改善点を考える。 ・連絡・教
科目学習の効果（資格）	英語教員免許（中・高） 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	「５つの領域」と領域統合型の言語活動の指導 英語の発音指導	基本母音と子音・機材の利用について	発音記号の復習（読み方・聞き分け・調音の仕組み）
2	小学校における外国語活動と英語・文字に関する指導	小学校での外国語活動の実例紹介	基本的な英文法の復習と教員としての英語のモデル音読の練習（１）
3	中学校の英語の検定教科書と高校入試	検定教科書と入試問題の分析	基本的な英文法の復習と教員としての英語のモデル音読の練習（２）
4	教材研究と学習指導案の作成（１） 英語の音声的な特徴に関する指導	中学校の検定教科書を用いた音声指導案の作成	基本的な英文法の復習と教員としての英語のモデル音読の練習（３）
5	学習者間のやりとりを増やす学習活動デザイン:英語でのインタラクション	リスニング力の向上の方法に関して学ぶ 中学校で学ぶ語彙・文法を用いた対話例の作成	公立高校の入試問題を解く（１）
6	模擬授業と分析（１） 音声言語を中心とする学習活動	指導上の留意点・生徒の発話を引き出す方法	公立高校の入試問題を解く（２）
7	高校の英語の検定教科書と大学入試	ライティングの指導法・方法論に関して高等学校の検定教科書を分析する	検定教科書の付属教材を自分で解いてみる（１）
8	教材研究と学習指導案作成（２） ICT 等の活用	指導案作成	検定教科書の付属教材を自分で解いてみる（２）
9	ICT 活用と教授言語：学習言語のみによる授業展開と、日本語併用の場合の比較	板書と ICT の演習	センター入試の前年度の問題を自分で解いてみる
10	模擬授業と分析（２） 教員１人で ICT 機器を使う場合	自分で企画した授業をクラスで実践する 分析と改善	空き教室の黒板とホワイトボードで板書の練習（１）
11	生徒の特性や習熟度に応じた指導と評価	指導案の展開バリエーションを増やす	空き教室の黒板とホワイトボードで板書の練習（２）
12	教材研究と学習指導案作成（３） ALT 等とのティーム・ティーチング	自分で企画した授業をクラスで実践する 分析と改善	授業の練習
13	演劇を応用した言語活動	易しい英語の脚本を用いたスキット指導を学ぶ ドラマ手法を会話練習に応用する	授業の練習
14	模擬授業と分析（３）教員２人の場合	自分で企画した授業をクラスで実践する 分析と改善	授業の練習
15	これからの英語教育がめざすもの	討論と発表、筆記テスト	復習

関連科目	教職科目全般 英語科目全般
教科書	

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 新学習指導要領にもとづく英語科教育法　第３版（ISBN: 9784469246216） / 望月　昭彦　編著 / 大修館書店 2 / The History of the English Language (ISBN:9780194233972) / Brigit Viney / Oxford UP 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 学習指導要領　（文部科学省 HP） / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	日本の検定教科書を使って中学・高校で英語科目を教えるに充分な英語の知識と運用力を前提とした、 （１）模擬授業　　100（レッスンプラン作成　30%・授業時間中に行う実技　40%・模擬授業に関するレポート　30%） （２）筆記テスト　100 上記項目の両方の評価がいずれも 100 点満点中の 60 点以上で合格とする。
学生への メッセージ	・教育実習時に中高生にわかりやすくワクワクする授業を自力で立案・実施できるようになるには、「先生になりたい」気持ちだけでは足りません。言語に関する正確な知識と高い運用能力が必須です。教職課程の授業は全回、全力で予習・復習し、授業時間以外にも辞書をひいて英語を読み、英語の文法、語彙、スペル、発音等、基礎から復習をしてください。3 年次終わりまでに英検準 1 級レベルに到達しましょう。 ・担当者は、日本の小学校に英語活動が導入された時期に数年間、ALT や小学校教諭と小学校で教えたり、寝屋川市・大東市・教員免許更新講習などで教員研修の講師を務めたりしました。英国で日本語教育経験もあります。日本の中学・高校の教員専修免許を取得、採用試験合格。
担当者の 研究室等	7 号館 4 階（齋藤研究室）
備考	・履修前に、学習指導要領を、文部科学省のＨＰで読んでおくこと。 ・日々、学校教育や言語学習をめぐるニュースに目を向けよう。 ・事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	英語科教育法Ⅲ	科目名（英文）	English Teaching Methods III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	齋藤　安以子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	中学校や高等学校の英語教員をめざすうえで、押さえておくべき英語科教育の基礎について理論的側面と実践的側面から学ぶ。特に ①リーディングとライティングの指導、 ②文字と文法に関する指導、 ③語彙・表現に関する指導 に焦点をあてて、学習指導要領の「３つの資質・能力」(「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力等」) を踏まえた目標の設定方法と指導計画の立て方、学習到達目標に基づいた授業の組み立て方と学習指導案の作成方法、観点別学習状況の評価方法や評価規準の設定方法、などを修得し、それらを実践する力を養う。
到達目標	英語科教育に関する基礎的内容を押さえ、リーディングとライティングの指導法、文字と文法の指導法、語彙・表現の指導法を修得する。受講生は授業観察や授業体験を通じて実際の授業の展開を理解し、さらに自分で作成した学習指導案に基づいた模擬授業を行うことによって実践的な力を養う。
授業方法と留意点	・理論を学び、グループで具体的な指導のスキルを練習すると共に、各々で短い授業を企画し、実技で発表する。 ・各自が授業指導案を作成する際は、担当者が随時添削など個別指導を行う。 留意点： ・毎回の授業で予習・参加・復習が必須。全回出席を前提に授業が進む。 ・ブロークンではなく正確な英語を話したり書いたりするためのトレーニングを、授業外でも各自行う。 ・「学習者」と「授業を創る側」の両方の立場で、自分が大学で受講中の授業を分析的に見る。 ・教授法を学ぶ前段階として必要な英文法・語彙の習得が足り
科目学習の効果（資格）	英語教員免許（中・高） 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	学習者と英語教員 音声指導（１）＋指導案作成	カリキュラムとシラバス 調音の仕組み	鏡を見て自分の発声を観察する・いろいろな音を聞き分ける
2	学習指導要領と英語教授法 音声指導（２）＋指導案作成	カリキュラムとシラバス 英語の音と日本語の音のちがい	音の出し方を他人に説明する練習をする
3	第２言語習得と英語教育 音声指導（３）＋模擬授業	イントネーション	意識的な音の出し方を練習する
4	リーディング指導:リーディング指導の目標	読むことの指導	英語で書かれた文章を読む自分をモニターする
5	リーディング指導:指導方法と評価方法	読むことの指導と評価	英語で書かれた文章を読む自分をモニターする
6	ライティング指導:ライティング指導の目標 文字の指導	書くことの指導	日常生活の中から、質問のバリエーションを広げる
7	ライティング指導:指導方法と評価方法	書くことの指導と評価	広告や雑誌・新聞などを教材の材料として注意深く見る
8	教材研究と指導案作成の基礎	教材の作りやすさと使いやすさ	糊とはさみで教材を作る
9	指導案作成と模擬授業（1）：リーディング指導	授業づくり 使えるものは何でも使ってみよう：学校の機器を使って、学習活動のバリエーションを増やす	校内にあるさまざまな教具や機器を探す
10	指導案作成と模擬授業（2）：ライティング指導	授業づくり 授業の狙いと機器の価値：実際に教室の機器や学内の設備を使って、教科書の価値を高める教え方・学び方を考える	校内にあるさまざまな教具や機器が授業でどのように使われているか調査する
11	文字の指導	文字の指導方法 ディスレクシアの理解と教育現場での対応	復習 調査
12	文法の指導	文法の指導方法	復習 調査
13	語彙・表現の指導	語彙・表現の指導方法 自分で企画した授業をクラスで分析する	復習 調査
14	指導案作成と模擬授業	文字・文法の指導、語彙・表現の指導を含めた授業づくり	復習
15	英語教育の展望	・社会が要請する外国語教育について、報道記事を元に考え、討論する ・筆記テスト ・今学期の自分の変化を語る・今後の目	これまでの自分の学習を振り返る

			標と到達のための手がかりを探す	

関連科目	・教職科目全般 ・英語科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新学習指導要領にもとづく英語科教育法　第３版 ISBN:9784469246216	望月　昭彦　編著	大修館書店
2	The History of the English Language (ISBN: 978-0-19-423397)	Brigit Viney	Oxford UP
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	学習指導要領　（文部科学省 HP）		
2			
3			

評価方法 （基準）	日本の検定教科書を使って中学・高校で英語科目を教えるに充分な英語の知識と運用力を前提とした、 （１）模擬授業　100（レッスンプラン作成　30%・15 回の授業時間中に行う実技　40%・模擬授業に関するレポート　30%） （２）筆記テスト　100 上記項目の両方の評価がいずれも 100 点満点の 60 点以上で合格とする。
学生への メッセージ	・大好きな科目、大好きな学校 で働きたい、と思うなら、責任を持って教えられる人になるため、貪欲に知識を増やし、妥協せず能力を磨いていきましょう。 ・昨年度は、みなさんと同じ科目を過去に履修して卒業後に高校・大学教員になった卒業生たちにも授業にゲストで来ていただきました。今年もそんな機会が作れたらいいなあ、と思っています。
担当者の 研究室等	７号館４階(齋藤研究室)
備考	・履修前に、学習指導要領を、文部科学省のＨＰで読んでおくこと。 ・日々、学校教育や言語学習をめぐるニュースに目を向けよう。 ・事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	英語科教育法Ⅳ	科目名（英文）	English Teaching Methods IV
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	松田　早恵
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	現在の英語教育学界は、小学校への英語教育導入を始め、高等学校への英語による英語授業への展開等、目まぐるしい動きを見せている。それに対応できるように、新たな英語教育へ向けて、英語教授法や授業の運営スキル等を身につけることが、この授業の目標である。主に、リスニング、スピーキング、ライティング、文法・語彙・表現、異文化理解に関する指導というテーマに焦点をおいて、これらのことを理解し、授業指導に生かすことができるようになることを目指す。
到達目標	本授業は３つのことを行う。第１に、教科書を講読しながら、リスニング、スピーキング、ライティング、文法・語彙・表現、異文化理解に関する指導に関する理論を学び、知識を身につける。第２に、これらの知識を基に創意あふれる授業を計画し、その学習指導案が書けるようになる。第３に、模擬授業を行い、自分のパフォーマンスを客観的に見返し、またクラスメートからのコメントを参考にし、自分の教授のスキルの弱点を克服することを学ぶ。学習指導案の個人指導は課外時間に行う。充実した教育実習を行うことができるように万全の準備をする。
授業方法と留意点	・スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの４つの基本スキルの指導、授業の準備や分析、評価などを演習を通して学ぶ。 ・理論を学び、グループで具体的な指導のスキルを練習すると共に、各々で短い授業を企画し、実技で発表する。
科目学習の効果（資格）	英語教員免許(中・高) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 　各科目に含めることが必要な事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	英語教育の基礎理論	英語科教育法とは 英語科教育法の目的	序章
2	英語教育の基礎理論	英語教育と英語教育学	第１章
3	英語教育の基礎理論	英語の国際化と日本の英語教育	第２章
4	英語教育の基礎理論	学習指導要領	第３章
5	英語教育の実践編	リスニングの指導：教材研究及び学習指導案作成	第 10 章
6	英語教育の実践編	リスニング：教科書を使った模擬授業	第 10 章
7	英語教育の実践編	スピーキングの指導：教材研究及び学習指導案作成	第 11 章
8	英語教育の実践編	スピーキング：教科書を使った模擬授業	第 11 章
9	英語教育の実践編	ライティングの指導：教材研究及び学習指導案作成	第 13 章
10	英語教育の実践編	ライティングの指導：教科書を使った模擬授業	第 13 章
11	英語教育の実践編	文法の指導：教材研究及び学習指導案作成	第 18 章
12	英語教育の実践編	文法の指導：教科書を使った模擬授業	第 18 章
13	英語教育の実践編	語彙・表現の指導：教材研究及び学習指導案作成	第 19 章
14	英語教育の実践編	語彙・表現：教科書を使った模擬授業	第 19 章
15	英語教育の実践編及びまとめ	異文化理解の指導及びまとめ	第２章、第９章

関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教職総合演習」「各教科教育法」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Sunshine English Course 1		開隆堂
2	Sunshine English Course 2		開隆堂
3	Sunshine English Course 3		開隆堂

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	英語多読・多聴指導マニュアル	高瀬敦子	大修館書店
2	シャドーイング・音読と英語コミュニケーションの科学	門田修平	コスモピア
3	英語指導における効果的な誤り訂正：第二言語習得研究の見地から	白井知彦	大修館書店

評価方法（基準）	①小テスト・レポート（50%） ②模擬授業（学習指導案作成・実技・実技分析）（50%）
学生へのメッセージ	英語教師が知っておくべき知識を広い分野でカバーした科目となりますので情報量が膨大ですが、全体像を把握してもらう入門コースとなります。興味を持った分野があれば、さらに文献を読み込み、勉強をしてください。英語教員には広い知識と高い英語力が必要です。普段から４技能をバランスよく伸ばす努力をしてください。一緒に頑張りましょう！ ★教材共有、連絡用などに使いますので、Teams への参加をお願いします。 ★Sunshine English Course1,2,3（中学英語教科書）は模擬授業ですぐに使いますので必ず購入してください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	商業科教育法	科目名（英文）	Business Education Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年	授業担当者	久井　孝則
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	前期は、高等学校の商業教育全般についての理論・制度・実践を学びます。中心的なテーマのひとつは、高等学校教育の多様性と商業高校の教育課程の特徴について理解すること。いまひとつは、現代の経済社会が求めている職業能力や経営リテラシーを明らかにし、それを獲得するためのビジネス教育の内容や方法について理解することです。 後期は、受講生全員が学習指導案を作成した上で模擬授業を行います。模擬授業において生徒役の学生は授業を受けながら、同時に評価者として評価シートを記入し、授業終了後、履修者全員で良かった点と改善すべき点を合評することによって、授業展開の適否について考えます。この過程を通じて、授業者は教育実習の心構えや資質・能力が形成されるとともに、生徒役の学生は授業の観察眼を養い、自らの授業展開に役立てることができます。
到達目標	①商業科教員としての基本的かつ幅広い知識を習得する。 ②学習指導計画の立案ならびに模擬授業を行い、実践的な能力を体得する。 ③ビジネス教育のあり方について考え、将来の方向性について理解を深める。
授業方法と留意点	前期は、商業教育の目的、商業教育の歴史、教育課程の変遷、現行学習指導要領における教科･科目の構造について学びます。 後期は、高等学校学習指導要領に基づき、高等学校における商業教育について、その目的や内容、指導計画の作成、指導方法について理解を深め、実践力を身につけることによって、商業科教員としての資質を養います。
科目学習の効果（資格）	本講座は、高等学校教職員免許状「商業」を取得するための必修科目です。商業高校では、様々な分野の専門科目(ビジネス基礎・マーケティング・簿記・情報処理・総合実践など）を担当する可能性があり、そのための基本的な知識・技能を習得することができます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	前期のガイダンス「授業の進め方」	授業の進め方及び自己申告表の記入	
2	商業教育の意義と必要性	(1)商業教育の基本理念 (2)商業教育で育む資質・能力 (3)商業科担当教員への期待	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくること(60 分)
3	我が国における商業教育の歩み	(1)明治期の商業教育 (2)大正期・昭和 20(1945)年以前の商業教育 (3)新教育制度と商業教育 (4)科目構成、科目名の変遷	〔事前〕 教科書の当該章を熟読してくること。(60 分)
4	高等学校学習指導要領と商業教育	(1)学習指導要領の法的位置づけ (2)学習指導要領の理念 (3)時代の進展等と商業科の改善 (4)商業科の構造 (5)商業科の学習指導を考える文脈	〔事前〕 教科書の当該章を熟読してくること。また平成 30 年 3 月告示の新学習指導要領について調べてくること(90 分)
5	商業科の教育課程の編成と実施	(1)教育課程の意義 (2)専門性の深化 (3)カリキュラム・マネジメント (4)専門学科における各教科・科目の履修 (5)文科省検定済教科用図書等の使用義務 (6)職業資格とのつながり (7)各学科で育成する人材像と教育課程	〔事前〕 教科書の当該章を熟読してくること。また出身高校の教育課程をインターネットで検索し、プリントアウトして持参すること。(90 分)
6	商業科の学習指導	(1)商業科教育における学習指導の理念と方向性 (2)商業科教育における主体的・対話的で深い学び	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくること(60 分)
7	各分野の学習指導①	(1)基礎的科目 (2)マーケティング分野 (3)マネジメント分野	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくること(60 分)
8	各分野の学習指導②	(1)会計分野 (2)ビジネス情報分野 (3)総合的科目	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくること(60 分)
9	指導計画の理念と作成	(1)指導計画の意義と作成 (2)指導計画の実施・評価・改善	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくること(60 分)
10	学習評価の理念と実際	(1)評価の目的 (2)目標に準拠した評価と評価の観点 (3)評価方法の工夫	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくること(60 分)
11	魅力ある商業教育①	(1)これからの商業科教育	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくること(60 分)
12	魅力ある商業教育②	(1)体系的な商業教育の意義	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくること(60 分)
13	魅力ある商業教育③	(1)魅力あるの商業教育を目指して	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくること(60 分)
14	商業教育推進のしくみ	「公益財団法人全商協会の事業展開」	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくること(60 分)
15	前期のまとめ	前期の講義を振り返り、商業教育についてそれぞれのレポートを作成	〔事前〕これまでの講義ノート等に目を通しておく(60 分)

関連科目	大学の経営学部や経営情報学部で学ぶ専門科目は、商業科の専門科目として活かせる魅力があります。 簿記、会計、原価計算、管理会計、情報処理、電子商取引、経営学、経済学、マーケティング、民法、会社法、ベンチャービジネス論など、幅広く履修しておくことが大切です。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	商業科教育論	日本商業教育学会	実教出版株式会社
2			
3			

参考書

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 高等学校学習指導要領解説 商業編 最新版 / 文部科学省 / 実教出版 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	課題・レポート５０％ 、 授業への参加度（学習意欲、事前学習、発表等） ５０％とし、 総合的に判断して評価する。
学生への メッセージ	商業科教員採用試験では、日本商工会議所簿記検定２級程度の問題が出題されるので、在学中の取得を目指して欲しい。また、新聞やインターネットの政治・経済や教育に関する記事を日頃から読み、社会の変化に興味・関心を持ち、幅広いビジネスに関する知識を有する商業科教員を目指そう。
担当者の 研究室等	全学教育機構
備考	質問等はメール等で対応します。 課題については、随時評価します。 事後学習については、特に表記していませんが、事前学習と合わせた総時間は 120 時間程度です。

科目名	社会科教育法Ⅰ【地歴分野】	科目名（英文）	Social Studies Teaching Methods I (Geography and History)
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	次橋　秀樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	社会科教育の意義や目的、課題について、歴史的な経緯をふまえて理解する。そのうえで、中学校社会科で扱う地理的分野・歴史的分野の授業を行うために必要な知識・授業構成方法・教育方法を学び、学習指導案を作成し、模擬授業を行う。 模擬授業について、参加者全員で討議・批評を行うことを通して、授業者が自ら授業を改善していくための基礎的な力量を身に付ける。
到達目標	・学習指導要領に示されている社会科の目標や内容を理解する。 ・情報通信技術の活用も含めて、適切な教材や教育方法、評価方法を考え、それを指導案として表現し、中学校における具体的な授業場面を想定ながら授業を行うことができる。 ・授業の実施と振り返りや共同的に行われる授業研究を通して、授業改善に取り組むことができる。
授業方法と留意点	模擬授業やグループ・ワーク、討論を多く行うので、とくに積極的な発言及び講義参加姿勢が望まれる。 『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)　解説　社会編』『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)　解説　社会編』は購入もしくは文部科学省 HP よりダウンロードし、手元ですぐに確認できるようにしておくこと。 中学生のときの社会科教科書・資料集・地図帳やノートをなるべく手元に置いておくこと。 教科書は指定しない。必要な資料については授業ごとに Teams 上で共有する。
科目学習の効果（資格）	中学校教員免許（社会科） 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の概要と評価方法について 社会科で育てたい資質・能力について	事前に既修の「教師論」「教育原理」を復習しておく（3 時間）。事後学習については授業終了時に指示する（1 時間）。
2	よい授業とはどんな授業か	江戸末期以降から現代までの教育制度の変遷について学ぶ。	事前にこれまで自分が経験した社会科の授業についてまとめておく（1 時間）。事後に興味をもった構成要素に関連する実践資料を読む（3 時間）
3	社会科教育の歴史(1)	戦後の学力観の変化と指導要領改訂の変遷を学ぶ。	事前に指示された資料を読み、発問を考えておく（3 時間）。事後については授業終了時に指示する（1 時間）。
4	社会科教育の歴史(2)	地理・歴史科学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前に社会科学習指導要領の変遷について調べ、まとめておく（2 時間）。事後については授業終了時に指示する（1 時間）。
5	歴史的分野の授業とその構成方法	地理・歴史科学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前に「学習指導要領 解説」を熟読しておく（1 時間）。 事後に、学習指導案例を自ら探して検討する（2 時間）。
6	地理的分野の授業とその構成方法	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	事前に「学習指導要領 解説」を通読しておく（1 時間）。 事後に、学習指導案例を自ら探して検討する（2 時間）。
7	社会科の評価方法	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	事前に定期テスト問題や入試問題についての情報を集めつつ、社会科・地歴科におけるテストについて振り返っておく（1 時間）。 事後、興味を持った実践について調べる（2 時間）。
8	模擬授業(1)	歴史的分野「原始・古代の日本と世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
9	模擬授業(2)	歴史的分野「中世の日本と世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
10	模擬授業(3)	歴史的分野「近世の世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
11	模擬授業(4)	歴史的分野「近世の日本」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
12	模擬授業(5)	地理的分野「日本の地域構成」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
13	模擬授業(6)	地理的分野「九州地方／中国・四国地方」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
14	模擬授業(7)	地理的分野「近畿地方」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
15	模擬授業(8)	地理的分野「中部地方／関東地方」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作

				成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。

関連科目	社会科教育法Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領(平成 29 年告示)	文部科学省	東山書房
2	中学校学習指導要領(平成 29 年告示)　解説　社会編	文部科学省	東洋館出版社
3			

評価方法 （基準）	成果物としての指導案（50%）とコメントカードなどの授業内で指示する提出課題（50%）で評価を行う。 提出されたコメントカードの記述に対しては、次回授業内でコメントもしくはプリントにてフィードバックを行う。 出席回数が 2/3 以上の者を評価の対象とする。
学生への メッセージ	皆さんのお手本になるような優れた授業が先人たちによって開発されてたくさんあるということと、一方で絶対的に優れた授業というものはないということを知ってもらいたいと思っています。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	

科目名	社会科教育法Ⅱ【地歴分野】	科目名（英文）	Social Studies Teaching Methods II (Geography and History)
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	次橋　秀樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	中学校社会科で扱う地理的分野・歴史的分野の授業を行うために必要な知識・授業構成方法・教育方法を学び、学習指導案を作成し、模擬授業を行う。 模擬授業について、参加者全員で討議・批評を行うことを通して、授業者が自ら授業を改善していくための基礎的な力量を身に付ける。
到達目標	・学習指導要領に示されている社会科の目標や内容を理解する。 ・カリキュラム・マネジメントの観点から社会科の学習を捉えることができる。 ・情報通信技術の活用も含めて、適切な教材や教育方法、評価方法を考え、それを指導案として表現し、中学校における具体的な授業場面を想定ながら授業を行うことができる。 ・授業の実施と振り返りや共同的に行われる授業研究を通して、授業改善に取り組むことができる。
授業方法と留意点	模擬授業やグループ・ワーク、討論を多く行うので、とくに積極的な発言及び講義参加姿勢が望まれる。 『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)　解説　社会編』『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)　解説　社会編』は購入もしくは文部科学省 HP よりダウンロードし、手元ですぐに確認できるようにしておくこと。 中学生のときの社会科教科書・資料集・地図帳やノートをなるべく手元に置いておくこと。 教科書は指定しない。必要な資料については授業ごとに Teams 上で共有する。
科目学習の効果（資格）	中学校教員免許（社会科） 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目区分：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含めることが必要な事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の概要と評価方法について 社会科の特性を生かした教材・教具、発問の検討	事前に社会科教育法Ⅰの第7回目までの学習内容を復習しておく（2 時間）。事後学習については授業終了時に指示する（1 時間）。
2	授業実践検討	優れた授業を言語化する	事前にこれまで自分が経験した授業についてまとめておく（1 時間）。事後課題については授業内で指示する（1 時間）。
3	概念中心カリキュラム	国際バカロレアの教育方法の検討	事前課題なし。事後課題については授業内で指示する（2 時間）。
4	教科横断的な学びのあり方	他教科や総合的な学習の時間との連携	事前に「カリキュラム・マネジメント」と「教科横断的な学び」について調べておく（2 時間）。事後課題については授業内で指示する（1 時間）。
5	模擬授業(1)	地理的分野「東北地方／北海道地方」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
6	模擬授業(2)	地理的分野「アジア／アフリカ」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
7	模擬授業(3)	地理的分野「ヨーロッパ」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
8	模擬授業(4)	地理的分野「北アメリカ」の模擬授業の実施と検討	全員が当該分野の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
9	模擬授業(5)	地理的分野「南アメリカ／オセアニア」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
10	模擬授業(6)	歴史的分野「近代の世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
11	模擬授業(7)	歴史的分野「近代の日本」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
12	模擬授業(8)	歴史的分野「現代の世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
13	模擬授業(9)	歴史的分野「現代の日本」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
14	模擬授業(10)	歴史的分野「文化史」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
15	授業の振り返り	補足的事項の解説及び授業全体の振り返り	事後、各自において本授業全体の振り返りを行う（4 時間）。

関連科目	社会科教育法 I
教科書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>中学校学習指導要領(平成 29 年告示)』</td><td>文部科学省</td><td>東山書房</td></tr><tr><td>2</td><td>中学校学習指導要領(平成 29 年告示)　解説　社会編</td><td>文部科学省</td><td>東洋館出版社</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
評価方法 （基準）	成果物としての指導案（50%）とコメントカードなどの授業内で指示する提出課題（50%）で評価を行う。 提出されたコメントカードの記述に対しては、次回授業内でコメントもしくはプリントにてフィードバックを行う。 出席回数が 2/3 以上の者を評価の対象とする。
学生への メッセージ	自ら教材を見つけることで、社会科の授業の可能性の広がりや面白さを共有できたらと思っています。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	

科目名	社会科教育法Ⅲ【公民分野】	科目名（英文）	Social Studies Teaching Methods III (Civics)
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	田中　曜次
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本講義は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、中学社会科、高校公民科の学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな授業方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、可能な方法・範囲での模擬授業の実践を行い、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるようにしていきます。まずは「教育実習」で生徒を失望させないきちんとした授業ができるよう、知識と意欲、そして責任をもって授業に参加してください。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 （１）中学社会科（地理、歴史、公民分野）、高校公民科の教師として必要な「知識」「技術・スキル」を確実に身につける。 （２）中学社会科、高校公民科の教師として、高い「授業実践力」をつける。 （３）社会科・公民科の授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」をするための力をつける。
授業方法と留意点	まず本授業では社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲・方法で履修者全員に模擬授業を行ってもらうよう「実践的な授業」を目指します。模擬授業の実践では、授業準備、指導案の作成、教材研究は必ず行ってもらいます。本講義では教師としての自覚もあわせて養成するため、授業への積極的な参加、そして各々の模擬授業の準備やそのふりかえりに積極的に取り組んでください。
科目学習の効果（資格）	中学校１種「社会」、高校１種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科・公民科教育の課題について考えてくること。 ※それぞれの学習指導要領の総則部分を読んでおく。
2	中学校指導要領（社会）、高校指導要領（公民）にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手及びダウンロードした学習指導要領（中学：社会科、高校：公民科）の事前読了。 ※指導要領の要約
3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（１）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※前時の事前授業まとめと配布資料の要約
4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（２）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（３）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
6	教育方法と技術（１）：ミニ模擬授業案作成	板書の方法・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター（パワーポイントやインターネット）を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業のミニ模擬授業案の作成	新聞記事の検索、及びミニ模擬授業案の作成
7	教育方法と技術（２）：ミニ模擬授業案作成案作成	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取りれたミニ模擬授業案を作成する。	ディベート準備。ミニ模擬授業案の作成
8	学習指導案の書き方（１）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（１）：各自が作成した学習指導案をもとに、作成のヒントを説明する。	学習指導案の作成。
9	学習指導案の書き方（２）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（２）：各自が作成した学習指導案をもとに、作成する上での留意点について説明する。	学習指導案の作成。
10	模擬授業（１）	模擬授業の実践と指導（１）	模擬授業の準備。
11	模擬授業（２）	模擬授業の実践と指導（２）	模擬授業の準備。
12	模擬授業（３）	模擬授業の実践と指導（３）	模擬授業の準備。
13	模擬授業（４）	模擬授業の実践と指導（４）	模擬授業の準備。
14	成績評価の方法、及び社会科試験の作成について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。また、定期試験作成についても学ぶ。	※事前配布資料の要約、及び、定期試験問題作成のシュミレーションを行う（事前課題）。
15	総括ー社会科、公民科の指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	各自、社会科教師としての自分の課題について考え、まとめてくること。

関連科目	社会科・公民科教育法Ⅰ、社会科・公民科教育法Ⅱは「Ⅰ→Ⅱ」と連続して受講することが望ましい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領解説社会編	文部科学省	日本文教出版
2	高等学校学習指導要領解説公民編	文部科学省	日本文教出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3
評価方法 （基準）	事前学習課題の提出（30%）、模擬授業（50%）、各種課題（20%）等により、総合的に評価する。
学生への メッセージ	中学社会科学習指導要領(最新年度版)を第一回目の授業開始までに購入あるいは文部科学省ホームページよりダウンロードし印刷しておくこと。これがないと授業参加や事前学習課題等に取り組むことができません。購入方法については書店、オンライン書店等を利用してください。購入についての質問等はメールアドレスまで。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。 事前・事後学習総時間数はおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	社会科教育法Ⅳ【公民分野】	科目名（英文）	Social Studies Teaching Methods Ⅳ (Civics)
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	田中　曜次
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本講義は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、模擬授業の実践を中心に参加型の授業法を取り入れて、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるよう、互いに刺激し、批評しあう機会をもうけます。また、近年、選挙年齢が 18 歳に引き下げられたことによる子どもたちへの政治教育（主権者教育）の重要性が改めて問われています。とりわけ公民科では政治や経済問題を取り扱うことが多く、子どもたちに政治の主体として意識を涵養するための教育（市民性教育、シティズンシップ教育）をどのように実践できるのかについても考えていきます。具体的には政府が作成した政治教育副教材の分析や学校現場での実践例の分析などを行います。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 （1）中学社会科（地理、歴史、公民分野）、高校公民科の教師として必要な「知識」を確実に身につける。 （2）中学社会科、高校公民科の教師として、高い「授業実践力」をつける。 （3）授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」の力をつける。 （4）政治教育、市民性教育（シティズンシップ教育）についての理解を深め、指導案を作成し、授業実践ができるようになる。
授業方法と留意点	まず社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲で履修者全員に模擬授業を実践してもらうような「実践型・参加型の授業」を目指します。また模擬授業の実践では、それぞれの模擬授業終了後は必ず全員で意見交換を行い、授業内容に対する問題点と課題点を整理します。ここでのコメント力を鍛えることも重要な目標です。指示した授業準備は必ず行ってください。教師としての自覚もあわせて養成するため、遅刻・無断欠席については厳しく対応します。
科目学習の効果（資格）	中学校１種「社会」、高校１種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科教育の課題について考えてくること。
2	中学校指導要領（社会）、高校指導要領（公民）にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手した学習指導要領（中学：社会科、高校：公民科）の事前読了。 ※指導要領の要約
3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（1）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（2）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（3）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
6	教育方法と技術（1）：ミニ模擬授業	板書・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター（パワーポイントやインターネット）を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業をミニ模擬授業で実演する。	新聞記事の検索。
7	教育方法と技術（2）：ミニ模擬授業	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取りれたミニ模擬授業を実演する。	ディベート準備。
8	学習指導案の書き方（1）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（1）：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
9	学習指導案の書き方（2）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（2）：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
10	模擬授業（1）	模擬授業の実践と指導（1）	模擬授業の準備。
11	模擬授業（2）	模擬授業の実践と指導（2）	模擬授業の準備。
12	政治教育（市民性教育）（1）	政治教育副教材の分析	各自、政治教育副教材を分担し、担当箇所を要約する。
13	政治教育（市民性教育）（2）	実践事例分析	政治教育実践例についてまとめ、発表。
14	成績評価の方法、及び試験問題の作成について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。また、定期試験問題作成について学ぶ。	※事前配布資料の要約、及び定期試験問題作成（事前課題）
15	総括ー社会科・公民科の指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	社会科教師としての自分の課題について考えてくること。

関連科目	原則として社会科・公民科教育法Ⅰを既に履修していること。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領解説社会編	文部科学省	日本文教出版
2	高等学校学習指導要領解説公民編	文部科学省	日本文教出版
3			

<table>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>課題・レポート（３０％）、模擬授業（５０％）、平常点：授業への貢献度等（20%）。
出席については全体の 80%以上の出席（15 回中 12 回以上）が必須。
出席率が 80%に満たない者は成績評価の対象外となる場合があります。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>本講義は学生の皆さんの主体的な授業への関与が求められます。一般的な講義に見られるような、教員が一方的に授業を進めていくスタイルではありません。学生の皆さんが授業をつくっていくことになります。ですので、宿題やレポート作成など、授業運営に欠かせない作業を怠ると自分自身はもちろんのこと、周囲に多大な迷惑がかかります。毎時間予習・復習を怠ることなく、責任と意欲を持って講義に出席して下さい。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>7 号館 2 階　非常勤講師室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。
中学社会科、高校公民科の学習指導要領の入手方法については改めて説明します（前期社会科公民科教育法Ⅰで購入済みの者は購入の必要なし）。
事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。</td></tr>
</table>

科目名	教育実習Ⅰ	科目名（英文）	Teaching Practice Ⅰ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	朝日　素明.鎌田　祥輝.谷口　雄一.西村　晃一.松浦　正典.吉田　佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	３年次前期終了後にクラス編成が行われる。クラスごと各担当者が指導する。（１）教育実習の実際についての情報を提供する。それらに基づき、受講者は、演習や実習を行う。（２）教育実習校における実習に必要な教育実践の基本を理解して、教科指導、学級・ホームルーム経営、生徒指導等の実際について有効な指導計画を立案し、効果的な指導をできるようにする。（３）教育実習の現状と課題についての認識を深めるとともに、教育実習生としての基本的心がまえについて理解を深める。
到達目標	教育実習の目的や意義、内容等を理解し、教育実習へ向けての充分な準備ができるようになる。そのことにより、自信をもって教育実習に臨めるようになる。
授業方法と留意点	講義（体験報告を含む）、演習（文献購読、発表、討議を含む）、実習（指導案作成、模擬授業を含む）を行う。対面授業を基本とする。実習生として主体的・能動的な姿勢・態度で参加すること。
科目学習の効果（資格）	教員免許状取得上必修，免許法施行規則に定められた「教育実習」５単位あるいは３単位のうち「教育実習に係る事前及び事後指導」１単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】教育実践に関する科目 各科目に含めることが必要な事項：教育実習（教育実習に係る事前及び事後指導）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	教育実習の意義、教育実習への準備と心がまえ等	教育実習の意義と目的、実習の形態と内容について 事前準備の必要性、教育実習の心がまえと教育実習の基本となる事項について	授業時に指示する
2	実習中の勤務の要領	学校の一日、一週間の流れ、学校の組織と運営の概要について	授業時に指示する
3	授業の方法と技術	授業のスタイルとスキル、教材研究、学習評価の観点について	授業時に指示する
4	授業の記録と評価	授業研究の意義、授業分析の方法、授業評価について	授業時に指示する
5	生徒理解・生徒指導と学級・ホームルーム経営	生徒理解・生徒指導の方法、個別指導・集団指導、学級・ホームルームの指導について	授業時に指示する
6	学校における人権教育	人権教育の現状と課題について、学校保健と安全指導について	授業時に指示する
7	特別支援教育の現状と課題	障がいの種類と配慮事項、障がい児理解と交流教育について	授業時に指示する
8	指導案の作成（１）	授業の準備と配慮事項、学習指導案の書き方、教科指導の学習指導案、板書計画の作成	授業時に指示する
9	指導案の作成（２）	学級（ホームルーム）活動等の指導案について	授業時に指示する
10	模擬授業（１）	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
11	模擬授業（２）	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
12	模擬授業（３）	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
13	模擬授業（４）	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
14	教育実習の実際（１）	教職フォーラムへの出席、教育実習体験発表の聴講と討議	授業時に指示する
15	教育実習の実際（２）	教育実習総括講義への出席、教育実習の課題テーマについて討議	授業時に指示する

関連科目：教職課程で学んだ全科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『新編　教育実習の常識』	教育実習を考える会	蒼丘書林
2			
3			

評価方法（基準）	授業における積極性・貢献度（30%）、模擬授業（40%）、提出物（30%）によって総合的に評価します。
学生へのメッセージ	教育実習はこれまで学んできたことの総まとめです。よい実習ができるよう、充分に準備してください。
担当者の研究室等	吉田研究室・松浦研究室・西村研究室・朝日研究室；寝屋川キャンパス７号館３階 谷口研究室・鎌田研究室；寝屋川キャンパス７号館４階
備考	教職フォーラム（10月最終土曜日）、教育実習総括講義（11月最終土曜日）には必ず出席すること。 ポータルシステムを通して連絡・呼出、資料配布、課題提示・提出を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を必ずすること。 担当者により、授業の具体的な内容・方法が若干異なる場合がある。

	事前・事後学習総時間はおおよそ 30 時間程度となる。

科目名	職業指導Ⅰ	科目名（英文）	Vocational Guidance I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野　武
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	職業教育や進路指導においては、職業構造や職種・業種内容について学んだり資格取得や技能訓練などを促進したりするばかりでなく、社会や産業構造の変化の中で自分はいかに生きていくかという「生き方の設計」について学ぶことが重要です。本科目を通して学生は、キャリア教育の理論と実践について理解を深めるとともに、経済社会・産業界の変化と職業指導に与える影響などについて知見を広め、「生き方の設計」の指導者としての資質能力の基礎を身につけます。
到達目標	職業教育の理論への理解を深めることを講義の目標とします。
授業方法と留意点	講義と受講生による報告・討議を織り交ぜて進めます。 講義では都度課題を提示し、その内容を元に受講者間で意見を出し合っていただきます。
科目学習の効果（資格）	商業科における職業指導の基礎知識が身に付きます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・授業概要の説明、職業の定義、職業指導の概念整理	事前学習：本科目のシラバスを熟読すること（１時間） 事後学習：年間の学びの計画を立てること（３時間）
2	職業指導の基礎理論	・職業指導における基本的な考え方、手法	事前学習：職業指導及びキャリアの基礎理論について調べておくこと（２時間） 事後学習：職業指導に関する資料を熟読すること（２時間）
3	職業指導の歴史①	・アメリカ・ヨーロッパを中心に職業指導の経緯を知る	事前学習：欧米の職業指導に関して調査すること（３時間） 事後学習：講義の内容を振り返ること（１時間）
4	日本の産業構造の変化	・日本の産業、雇用事情の変化を知る	事前学習：日本の産業の変遷について市調べておくこと（３時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（１時間）
5	職業指導の歴史②	・日本の戦後の教育改革について	事前学習：日本の戦後の教育改革について調べておくこと（２時間） 事後学習：配布資料を熟読し、講義内容を振り返ること(２時間)
6	日本型雇用と職業指導	・日本における雇用システムの変容と職業指導の関わり	事前学習：日本型雇用について発表資料を作成すること（３時間） 事後学習：発表及びディスカッションの内容を振り返ること（１時間）
7	新規高卒就職システム	・新規高卒労働市場の変容と現状	事前学習：高卒労働市場に関して調べておくこと（２時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（２時間）
8	高等学校における職業指導	・各種学校における職業指導の在り方について	事前学習：高校の職業指導の事例について調査・発表資料を作成すること（３時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（１時間）
9	「労働すること」を考える	・仕事をすることの意義を考える	事前学習：仕事をする意味について意見をまとめておくこと（２時間） 事後学習：自らの労働観について考えること（２時間）
10	職業指導の領域	・学校、家庭、地域コミュニティ、公的機関等職業指導がなされる「場」について考える	事前学習：職業指導領域に関する資料を事前に熟読すること（２時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（２時間）
11	キャリア教育の基礎理論①	・キャリアデザインにおける基礎理論を知る	事前学習：自己について考えておくこと（２時間） 事後学習：キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること（２時間）
12	キャリア教育の基礎理論②	・キャリアデザインにおける基礎理論を知る	事前学習：児童・生徒の発達について考えてくこと（３時間） 事後学習：キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること（１時間）。
13	授業内容立案	・高校生向けの職業指導・キャリア教育に関する授業内容を立案する	事前学習：高校でのキャリア供養行くの事例について調べておくこと（１時間） 事後学習：模擬授業の準備をすること（３時間）
14	模擬授業	・講義 13 で立案した内容で模擬授業を実施	事前学習：模擬授業の準備をすること（２時間） 事後学習：他者及び自らの発表内容を振り返ること（２時間）
15	講義の振り返り	・講義の振り返り、最終レポートの提出	事前学習：前期のレポートを作成すること（３時間） 事後学習：講義全体を振り返ること（１時間） ）

関連科目	教職科目全般。特に「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。また「特別活動論」にも近接します。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3
評価方法 （基準）	講義内での課題、提出物、レポート、授業への積極的参加、レポートの提出状況およびその内容、報告や討議の内容も加味して、成績を判定します。 平常点(30%)、(授業課題 20%)、期末レポート(50%) また、前期最終時にレポートを実施します。
学生への メッセージ	「職業指導」について学ぶとともに、自らの勤労観・職業観を養い、経済社会・産業界の状況に対応して自らの進路を切り開いていってください。 特に後期は就職活動と並行しての受講となるので、自らの経験と照らし合わせながら、高校生に対する指導について考えてみてください。 なお。講義は科目担当者の人材業界での業務経験・及び起業経験を元にしたお話も交えて進行します。
担当者の 研究室等	水野講師室（７号館３階）
備考	

科目名	職業指導Ⅱ	科目名（英文）	Vocational Guidance II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	水野　武
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	職業教育や進路指導においては、職業構造や職種・業種内容について学んだり資格取得や技能訓練などを促進したりするばかりでなく、社会や産業構造の変化の中で自分はいかに生きていくかという「生き方の設計」について学ぶことが重要です。本科目を通して学生は、キャリア教育の理論と実践について理解を深めるとともに、経済社会・産業界の変化とそれが職業指導に与える影響などについて知見を広め、「生き方の設計」の指導者としての資質能力の基礎を身につけます。
到達目標	職業教育の理論、面談する際の技法への理解を深めることを講義の目標とします。
授業方法と留意点	講義と受講生による報告・討議を織り交ぜて進めます。 講義では都度課題を提示し、その内容を元に受講者間で話し合いを行って頂きます。 尚、遅刻等は厳禁です。
科目学習の効果（資格）	商業科における職業指導の基礎知識が身に付く

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・授業概要の説明	事前学習：本科目のシラバスを再度熟読すること（１時間）。 事後学習：後期の学習計画を立てること（３時間）
2	商業教育と職業指導	・商業高校における職業指導の事例を知る	事前学習：商業高校の職業指導事例に関すして調査すること（２時間）。 事後学習：講義の内容を振り返ること（２時間）
3	工業教育と職業指導	・工業高校における職業指導の事例を知る	事前学習：工業高校の職業指導事例に関すして調査すること（２時間）。 事後学習：講義の内容を振り返ること（２時間）
4	普通科高校と職業指導	・普通科高校における職業指導について	事前学習：普通課高校の職業指導事例に関すして調査すること（２時間） 事後学習：講義の内容を振り返ること（２時間）
5	フリーターとニートについて	グループ（またはペア）でフリーター・ニート対策を考える	事前学習：フリーター・ニート問題に関して調査し、ディスカッションできるよう準備すること（２時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（２時間）
6	職業指導・キャリア教育の実例	・地方も含めた職業指導の事例紹介	事前学習：発表の準備をすること（２時間） 事後学習：他者及び自らの発表の内容を振り返ること（２時間）
7	キャリアデザインとは何か	キャリアデザインとは何かを考える	事前学習：自らの人生の節目について考えること（２時間） 事前学習：講義内容を振り返ること（２時間）
8	高校生の就業力について 職業適性とは何か	・新規高卒者に求められる基本的な能力 ・職業適性、アセスメントについて	事前学習：大卒と高卒の就職システムの違いについて調査すること（２時間） 事後学習：自らの適性の活かし方を考えること（２時間）。
9	人権教育としての職業指導	・職業指導の国際基準、ハンディキャップがある生徒への職業指導	事前学習：ILO の提唱する「人間らしい働き方」について調査すること（２時間） 事後学習：配布資料を精読すること（２時間）
10	未来の働き方を考える	・日本の課題、それにより想像される未来における働き方を考える	事前学習:AI による仕事の代替可能性について調査すること（２時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（２時間）
11	就業力向上企画を立案①	高校生の就業力向上のための企画・授業を考える	事前学習：発表の準備をすること（３時間） 事後学習：他者及び自らの発表内容を振り返ること（１時間）
12	就業力向上計画立案②	１１回目で考えた内容を発表する	事前学習：発表の準備をすること（３時間） 事後学習：他者及び自らの発表内容を振り返ること（１時間）
13	キャリアカウンセリング理論①	自己概念・環境との相互作用・学習理論からのアプローチ	事前学習：キャリアカウンセリングとは何かについて調べておくこと（２時間） 事後学習：講義の内容について振り返ること（１時間）
14	キャリアカウンセリング理論②	カウンセリングマインドについて	事前学習：キャリアカウンセリングとは何かについて調べておくこと（１時間） 事後学習：講義の内容について振り返ること（２時間）
15	まとめ/講義の振り返り	提出物の確認、授業内容に関する質疑応答	事前学習：期末レポートを作成すること（４時間） 事後学習：講義全体を振り返ること（２時間）

関連科目：教職科目全般。特に「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。「特別活動論」にも近接します。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3
評価方法 （基準）	レポートを実施します。その他、授業への積極的参加、その他課題の提出状況およびその内容、報告や討議の内容も加味して、成績を判定します。 平常点(20%)、調査・プレゼンテーション課題(30%)、期末レポート(50%)
学生への メッセージ	「職業指導」について学ぶとともに、自らの勤労観・職業観を養い、経済社会・産業界の状況に対応して自らの進路を切り開いていってください。 後期は就職活動と並行しての受講となるので、自らの経験と照らし合わせながら、高校生に対する指導について考えてみてください。 なお、講義では担当者の実務経験にもとづいて議論を進めることもあります。
担当者の 研究室等	水野講師室（７号館３階）
備考	

科目名	教育原理	科目名（英文）	Educational Principles
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口　雄一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育は誰もが経験していて、誰でも教育について語ることができます。しかし、「教育とは一体何だろう？」と問われるとどうでしょうか。答えに困ってしまう人が多いのではないでしょうか。 この授業では、「教育とは一体何だろう？」という問いを念頭に置きながら、教育について歴史的・思想的に考察します。そして、これまでの教育や学校の営みがどのように理解され、変わってきたのかを考えていきます。 これらの学習を通して、受講者一人一人が教育について自分なりの考えを深められるようにします。 授業担当者は小学校での約 15 年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を「受ける」立場からではなく 、生徒と一緒に「創る」立場からの能動的な学びを期待します。
到達目標	教育の基本概念を歴史的・思想的に理解することや教育の現状と課題について理解することを通して、受講者が教育について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。
授業方法と留意点	本授業は「教育とは何か？」という本質的な問いについて受講者のみなさん一人お一人が考え、自身の教育観を再構築していけるようにします。具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話やグループワークなどを通して教育についての学びを進めていきます。 そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、教育について多面的・多角的に考えることができるように配慮します。
科目学習の効果（資格）	（1）高等学校教諭１種免許状　（2）中学校教諭１種免許状　の取得　（3）学芸員資格　の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス： 教育について考える	本科目の位置づけについて考えるとともに、教育の基本概念を考えることの意味を考える。	（事前）テキストP.3を精読しておく。 （事後）「教育とは一体何だろう」という問いについて自分の考えをまとめておく。
2	教育の基礎理論①： 教育の必要性	なぜ、人間だけが教育を行うのか考える。	（事前）テキストP.59～63を精読しておく。 （事後）教育の必要性について自分の考えを整理しておく。
3	教育の基礎理論②： 教育の目的	前回の授業をふまえ、「人間が人間になるために」とはどういうことか、教育の目的について考える。	（事前）テキストP.59～63を精読しておく。 （事後）教育の目的について自分の考えを整理しておく。
4	教育の基礎理論③： 子どもの発見	「子ども」という言葉の意味や子どもをめぐる問題について考える。	（事前）テキストP.76～85を精読しておく。 （事後）子ども観や子どもをめぐる問題について自分の考えを整理しておく。
5	教育の基礎理論④： 教師とは何か	教師という職業や、その教育的役割について考える。	（事前）テキストP.69～73を精読しておく。 （事後）教師の教育的役割について自分の考えを整理しておく。
6	教育の基礎理論⑤： 近代の学校の誕生	近代の学校はどのように誕生し、普及してきたのかを概観する。	（事前）テキストP.93～97を精読しておく。 （事後）近代の学校や学校教育の広がりについて整理しておく。
7	教育の基礎理論⑥： 家庭と教育	家庭において子どもはどう扱われてきたのか、家庭における教育は子どもの成長にどのような影響を与えるのかについて概説する。	（事前）テキストP.86～90を精読しておく。 （事後）家庭における教育について整理しておく。
8	西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ　その１	「教育とは何か」について、コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの教育思想から考察する。	（事前）コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの人物像について調べる。 （事後）4名の教育思想について整理しておく。
9	西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ　その２	前回取り上げた教育思想家 4 名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。	（事前）第8回で取り上げた4名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物 1 名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 （事後）授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。
10	西洋の教育思想②：フレーベル・デューイ・モンテッソーリ　その１	「教育とは何か」について、フレーベル・デューイ・モンテッソーリの教育思想から考察する。	（事前）フレーベル・デューイ・モンテッソーリの人物像について調べる。 （事後））3名の教育思想について整理しておく。
11	西洋の教育思想②：フレーベル・デューイ・モンテッソーリ　その２	前回取り上げた教育思想家 4 名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。	（事前）第 10 回で取り上げた 3 名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物 1 名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 （事後）授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。
12	現代の教育理論： 20 世紀の教育理論	20 世紀の教育についての諸理論について概観し、考察を加える。	（事前）テキストP.29～32を精読しておく。 （事後）授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。
13	現在の教育課題①： 学力問題	現在の教育課題の一つである学力をめぐる問題について概観し、考察を加える。	（事前）テキストP.50～54を精読しておく。 （事後）学力問題について整理しておく。
14	現在の教育課題②： 生涯学習の思想	現在の教育課題の一つである生涯学習について概観し、考察を加える。	（事前）テキストP.147～151を精読しておく。 （事後）生涯学習の思想について整理しておく。
15	まとめ： 今後の教育について考える	教育についてまとめるとともに、今後の教育について考える。	（事前）テキストP.169～178を精読しておく。 （事後）「どのような教員になりたいのか」について自分の考えをまとめる。

<table>
<tr><td>関連科目</td><td>教職科目全体と関連がありますので、他の科目の学習内容と関連付けながら考えてみることが大切です。</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>哲学する教育原理</td><td>伊藤潔志　編著</td><td>教育情報出版</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>中学校学習指導要領（平成 29 年告示）</td><td>文部科学省</td><td>東山書房</td></tr>
<tr><td>2</td><td>高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）</td><td>文部科学省</td><td>東山書房</td></tr>
<tr><td>3</td><td>哲学する学校経営</td><td>伊藤潔志　編著</td><td>教育情報出版</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>毎回の授業の終わりに書いてもらう OPP シート（One Page Portfolio シート）の内容や授業中の学習の様子（60%）や学期末試験の結果（40%）等をもとに総合的に評価します。
また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク等を適宜取り入れます。受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>寝屋川キャンパス 7 号館 4 階（谷口研究室）</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。</td></tr>
</table>

科目名	教育原理	科目名（英文）	Educational Principles
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口　雄一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育は誰もが経験していて、誰でも教育について語ることができます。しかし、「教育とは一体何だろう？」と問われるとどうでしょうか。答えに困ってしまう人が多いのではないでしょうか。 この授業では、「教育とは一体何だろう？」という問いを念頭に置きながら、教育について歴史的・思想的に考察します。そして、これまでの教育や学校の営みがどのように理解され、変わってきたのかを考えていきます。 これらの学習を通して、受講者一人一人が教育について自分なりの考えを深められるようにします。 授業担当者は小学校での約 15 年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を「受ける」立場からではなく 、生徒と一緒に「創る」立場からの能動的な学びを期待します。
到達目標	教育の基本概念を歴史的・思想的に理解することや教育の現状と課題について理解することを通して、受講者が教育について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。
授業方法と留意点	本授業は「教育とは何か？」という本質的な問いについて受講者のみなさん一人お一人が考え、自身の教育観を再構築していけるようにします。具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話やグループワークなどを通して教育についての学びを進めていきます。 そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、教育について多面的・多角的に考えることができるように配慮します。
科目学習の効果（資格）	（1）高等学校教諭１種免許状　（2）中学校教諭１種免許状　の取得　（3）学芸員資格　の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス： 教育について考える	本科目の位置づけについて考えるとともに、教育の基本概念を考えることの意味を考える。	（事前）テキストP.3を精読しておく。 （事後）「教育とは一体何だろう」という問いについて自分の考えをまとめておく。
2	教育の基礎理論①： 教育の必要性	なぜ、人間だけが教育を行うのか考える。	（事前）テキストP.59～63を精読しておく。 （事後）教育の必要性について自分の考えを整理しておく。
3	教育の基礎理論②： 教育の目的	前回の授業をふまえ、「人間が人間になるために」とはどういうことか、教育の目的について考える。	（事前）テキストP.59～63を精読しておく。 （事後）教育の目的について自分の考えを整理しておく。
4	教育の基礎理論③： 子どもの発見	「子ども」という言葉の意味や子どもをめぐる問題について考える。	（事前）テキストP.76～85を精読しておく。 （事後）子ども観や子どもをめぐる問題について自分の考えを整理しておく。
5	教育の基礎理論④： 教師とは何か	教師という職業や、その教育的役割について考える。	（事前）テキストP.69～73を精読しておく。 （事後）教師の教育的役割について自分の考えを整理しておく。
6	教育の基礎理論⑤： 近代の学校の誕生	近代の学校はどのように誕生し、普及してきたのかを概観する。	（事前）テキストP.93～97を精読しておく。 （事後）近代の学校や学校教育の広がりについて整理しておく。
7	教育の基礎理論⑥： 家庭と教育	家庭において子どもはどう扱われてきたのか、家庭における教育は子どもの成長にどのような影響を与えるのかについて概説する。	（事前）テキストP.86～90を精読しておく。 （事後）家庭における教育について整理しておく。
8	西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ　その１	「教育とは何か」について、コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの教育思想から考察する。	（事前）コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの人物像について調べる。 （事後）4名の教育思想について整理しておく。
9	西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ　その２	前回取り上げた教育思想家 4 名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。	（事前）第8回で取り上げた4名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物 1 名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 （事後）授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。
10	西洋の教育思想②：フレーベル・デューイ・モンテッソーリ　その１	「教育とは何か」について、フレーベル・デューイ・モンテッソーリの教育思想から考察する。	（事前）フレーベル・デューイ・モンテッソーリの人物像について調べる。 （事後））3名の教育思想について整理しておく。
11	西洋の教育思想②：フレーベル・デューイ・モンテッソーリ　その２	前回取り上げた教育思想家 4 名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。	（事前）第 10 回で取り上げた 3 名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物 1 名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 （事後）授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。
12	現代の教育理論： 20 世紀の教育理論	20 世紀の教育についての諸理論について概観し、考察を加える。	（事前）テキストP.29～32を精読しておく。 （事後）授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。
13	現在の教育課題①： 学力問題	現在の教育課題の一つである学力をめぐる問題について概観し、考察を加える。	（事前）テキストP.50～54を精読しておく。 （事後）学力問題について整理しておく。
14	現在の教育課題②： 生涯学習の思想	現在の教育課題の一つである生涯学習について概観し、考察を加える。	（事前）テキストP.147～151を精読しておく。 （事後）生涯学習の思想について整理しておく。
15	まとめ： 今後の教育について考える	教育についてまとめるとともに、今後の教育について考える。	（事前）テキストP.169～178を精読しておく。 （事後）「どのような教員になりたいのか」について自分の考えをまとめる。

<table>
<tr><td>関連科目</td><td>教職科目全体と関連がありますので、他の科目の学習内容と関連付けながら考えてみることが大切です。</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>哲学する教育原理</td><td>伊藤潔志　編著</td><td>教育情報出版</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>中学校学習指導要領（平成 29 年告示）</td><td>文部科学省</td><td>東山書房</td></tr>
<tr><td>2</td><td>高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）</td><td>文部科学省</td><td>東山書房</td></tr>
<tr><td>3</td><td>哲学する学校経営</td><td>伊藤潔志　編著</td><td>教育情報出版</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>毎回の授業の終わりに書いてもらう OPP シート（One Page Portfolio シート）の内容や授業中の学習の様子（60%）や学期末試験の結果（40%）等をもとに総合的に評価します。
また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク等を適宜取り入れます。受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>寝屋川キャンパス 7 号館 4 階（谷口研究室）</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。</td></tr>
</table>

科目名	教育原理	科目名（英文）	Educational Principles
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口　雄一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育は誰もが経験していて、誰でも教育について語ることができます。しかし、「教育とは一体何だろう？」と問われるとどうでしょうか。答えに困ってしまう人が多いのではないでしょうか。 この授業では、「教育とは一体何だろう？」という問いを念頭に置きながら、教育について歴史的・思想的に考察します。そして、これまでの教育や学校の営みがどのように理解され、変わってきたのかを考えていきます。 これらの学習を通して、受講者一人一人が教育について自分なりの考えを深められるようにします。 授業担当者は小学校での約 15 年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を「受ける」立場からではなく 、生徒と一緒に「創る」立場からの能動的な学びを期待します。
到達目標	教育の基本概念を歴史的・思想的に理解することや教育の現状と課題について理解することを通して、受講者が教育について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。
授業方法と留意点	本授業は「教育とは何か？」という本質的な問いについて受講者のみなさん一人お一人が考え、自身の教育観を再構築していけるようにします。具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話やグループワークなどを通して教育についての学びを進めていきます。 そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、教育について多面的・多角的に考えることができるように配慮します。
科目学習の効果（資格）	（1）高等学校教諭１種免許状　（2）中学校教諭１種免許状　の取得　（3）学芸員資格　の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス： 教育について考える	本科目の位置づけについて考えるとともに、教育の基本概念を考えることの意味を考える。	（事前）テキストP.3を精読しておく。 （事後）「教育とは一体何だろう」という問いについて自分の考えをまとめておく。
2	教育の基礎理論①： 教育の必要性	なぜ、人間だけが教育を行うのか考える。	（事前）テキストP.59～63を精読しておく。 （事後）教育の必要性について自分の考えを整理しておく。
3	教育の基礎理論②： 教育の目的	前回の授業をふまえ、「人間が人間になるために」とはどういうことか、教育の目的について考える。	（事前）テキストP.59～63を精読しておく。 （事後）教育の目的について自分の考えを整理しておく。
4	教育の基礎理論③： 子どもの発見	「子ども」という言葉の意味や子どもをめぐる問題について考える。	（事前）テキストP.76～85を精読しておく。 （事後）子ども観や子どもをめぐる問題について自分の考えを整理しておく。
5	教育の基礎理論④： 教師とは何か	教師という職業や、その教育的役割について考える。	（事前）テキストP.69～73を精読しておく。 （事後）教師の教育的役割について自分の考えを整理しておく。
6	教育の基礎理論⑤： 近代の学校の誕生	近代の学校はどのように誕生し、普及してきたのかを概観する。	（事前）テキストP.93～97を精読しておく。 （事後）近代の学校や学校教育の広がりについて整理しておく。
7	教育の基礎理論⑥： 家庭と教育	家庭において子どもはどう扱われてきたのか、家庭における教育は子どもの成長にどのような影響を与えるのかについて概説する。	（事前）テキストP.86～90を精読しておく。 （事後）家庭における教育について整理しておく。
8	西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ　その１	「教育とは何か」について、コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの教育思想から考察する。	（事前）コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの人物像について調べる。 （事後）4名の教育思想について整理しておく。
9	西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ　その２	前回取り上げた教育思想家 4 名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。	（事前）第8回で取り上げた4名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物 1 名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 （事後）授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。
10	西洋の教育思想②：フレーベル・デューイ・モンテッソーリ　その１	「教育とは何か」について、フレーベル・デューイ・モンテッソーリの教育思想から考察する。	（事前）フレーベル・デューイ・モンテッソーリの人物像について調べる。 （事後））3名の教育思想について整理しておく。
11	西洋の教育思想②：フレーベル・デューイ・モンテッソーリ　その２	前回取り上げた教育思想家 4 名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。	（事前）第 10 回で取り上げた 3 名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物 1 名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 （事後）授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。
12	現代の教育理論： 20 世紀の教育理論	20 世紀の教育についての諸理論について概観し、考察を加える。	（事前）テキストP.29～32を精読しておく。 （事後）授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。
13	現在の教育課題①： 学力問題	現在の教育課題の一つである学力をめぐる問題について概観し、考察を加える。	（事前）テキストP.50～54を精読しておく。 （事後）学力問題について整理しておく。
14	現在の教育課題②： 生涯学習の思想	現在の教育課題の一つである生涯学習について概観し、考察を加える。	（事前）テキストP.147～151を精読しておく。 （事後）生涯学習の思想について整理しておく。
15	まとめ： 今後の教育について考える	教育についてまとめるとともに、今後の教育について考える。	（事前）テキストP.169～178を精読しておく。 （事後）「どのような教員になりたいのか」について自分の考えをまとめる。

<table>
<tr><td>関連科目</td><td>教職科目全体と関連がありますので、他の科目の学習内容と関連付けながら考えてみることが大切です。</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>哲学する教育原理</td><td>伊藤潔志　編著</td><td>教育情報出版</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>中学校学習指導要領（平成 29 年告示）</td><td>文部科学省</td><td>東山書房</td></tr>
<tr><td>2</td><td>高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）</td><td>文部科学省</td><td>東山書房</td></tr>
<tr><td>3</td><td>哲学する学校経営</td><td>伊藤潔志　編著</td><td>教育情報出版</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>毎回の授業の終わりに書いてもらう OPP シート（One Page Portfolio シート）の内容や授業中の学習の様子（60%）や学期末試験の結果（40%）等をもとに総合的に評価します。
また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク等を適宜取り入れます。受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>寝屋川キャンパス 7 号館 4 階（谷口研究室）</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。</td></tr>
</table>

科目名	教育における情報通信技術の活用	科目名（英文）	
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	橋本　はる美.栢木　紀哉
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育現場における情報通信技術の活用について、その歴史的経緯と今後のあり方について理解し、情報モラルと情報活用能力を活用した指導方法、評価方法などについて学修することで、担当教員に必要となる基礎的知識や資質を養う。また、情報通信技術を用いて模擬授業を行い、授業を展開できる能力を身につけることを目指す。
到達目標	教育現場における情報通信技術の活用と意義を理解し、教員に求められる幅広い知識を身につけるとともに、情報通信技術を活用した教育指導技術の向上を図る。また、授業研究、教材設計、指導計画の作成を通して、授業での情報通信技術の活用や授業準備、学習評価などで必要となる技能について身につける。さらに、ディスカッションや模擬授業などを通して実践的な指導方法を修得する。
授業方法と留意点	授業研究、教材設計、指導計画の作成を通して、授業での情報通信技術の活用や授業準備、学習評価などで必要となる技能について身につける。さらに、ディスカッションや模擬授業などを通して実践的な指導方法を修得する。
科目学習の効果（資格）	【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：情報通信技術を活用した教育の理論及び方法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	情報通信技術の歴史的経緯 教育現場における情報通信技術の活用のあり方	事前：情報通信技術とは何かを調べる（120 分） 事後：これまでに受けた授業で情報通信技術を使った例と簡単な説明を考える（120 分）
2	教育分野で情報通信技術を活用するための意義と役割	デジタル教材や遠隔授業などの活用事例の紹介 情報セキュリティとデータの活用、校務の活用への推進	事前：情報通信技術を活用した授業事例のメリットと課題を書き出す（120 分） 事後：デジタル教材や遠隔授業についてまとめる（120 分）
3	情報セキュリティ、情報モラル、情報活用能力の内容	ICT 環境と情報セキュリティ 情報モラルの教育 オフィスソフトの活用	事前：大学の ICT 環境と教育ツールについてまとめる（120 分） 事後：授業で出された課題の取り組み（120 分）
4	ICT環境の整備と教育データの活用	学習者の多様性に対応するためのツールや機能の活用 教育データ等を使った指導や学習評価への活用	事前：アクセシビリティについて調べる（120 分） 事後：授業で出された課題の取り組み（120 分）
5	デジタル教材と遠隔授業の研究	情報通信技術を活用した教材と指導法の作成 遠隔授業への活用	事前：デジタル教材の内容を計画する（120 分） 事後：作成したデジタル教材の修正をする（120 分）
6	デジタル教材の研究（グループ）	情報通信技術を活用した教材と指導法の検討	事前：指導法を作成する（120 分） 事後：作成した指導法の見直しをする（120 分）
7	模擬授業（グループ）	情報通信技術を活用した指導の実践	事前：模擬授業の練習をする（120 分） 事後：模擬授業を振り返る（120 分）
8	模擬授業の振り返り	情報通信技術を活用した教材と模擬授業の評価	事前：模擬授業の課題を考える（120 分） 事後：模擬授業の振り返りと課題（120 分）
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	情報リテラシー科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	改訂 4 版 情報モラル＆情報セキュリティ	㈱富士通ラーニングメディア	FOM 出版
2	ICT 活用指導力アップ　教育の情報化　教員になるための情報教育入門	梅田恭子他	実教出版
3	ICT 活用の理論と実践　DX 時代の教師をめざして	稲垣忠・佐藤和紀	北大路書房

評価方法（基準）	授業中の課題とレポート（60%）、授業中に作成した教材と模擬授業（40%）をもとに総合して評価する
学生へのメッセージ	各自の IT スキルを使って教育にどれだけ活用するかが重要ですので、主体的に学習に取り組んでください。
担当者の研究室等	橋本はる美（11 号館 8 階橋本研究室） 栢木紀哉（11 号館 6 階非常勤講師室）
備考	Moodle コース[登録キー] 金曜日 2 限目：　2023 教育における情報通信技術の活用（金 2）　[kin2] 金曜日 3 限目：　2023 教育における情報通信技術の活用（金 3）　[kin3]

科目名	教育における情報通信技術の活用	科目名（英文）	
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	橋本　はる美
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育現場における情報通信技術の活用について、その歴史的経緯と今後のあり方について理解し、情報モラルと情報活用能力を活用した指導方法、評価方法などについて学修することで、担当教員に必要となる基礎的知識や資質を養う。また、情報通信技術を用いて模擬授業を行い、授業を展開できる能力を身につけることを目指す。
到達目標	教育現場における情報通信技術の活用と意義を理解し、教員に求められる幅広い知識を身につけるとともに、情報通信技術を活用した教育指導技術の向上を図る。また、授業研究、教材設計、指導計画の作成を通して、授業での情報通信技術の活用や授業準備、学習評価などで必要となる技能について身につける。さらに、ディスカッションや模擬授業などを通して実践的な指導方法を修得する。
授業方法と留意点	授業研究、教材設計、指導計画の作成を通して、授業での情報通信技術の活用や授業準備、学習評価などで必要となる技能について身につける。さらに、ディスカッションや模擬授業などを通して実践的な指導方法を修得する。
科目学習の効果（資格）	【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：情報通信技術を活用した教育の理論及び方法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	情報通信技術の歴史的経緯 教育現場における情報通信技術の活用のあり方	事前：情報通信技術とは何かを調べる（120 分） 事後：これまでに受けた授業で情報通信技術を使った例と簡単な説明を考える（120 分）
2	教育分野で情報通信技術を活用するための意義と役割	デジタル教材や遠隔授業などの活用事例の紹介 情報セキュリティとデータの活用、校務の活用への推進	事前：情報通信技術を活用した授業事例のメリットと課題を書き出す（120 分） 事後：デジタル教材や遠隔授業についてまとめる（120 分）
3	情報セキュリティ、情報モラル、情報活用能力の内容	ICT 環境と情報セキュリティ 情報モラルの教育 オフィスソフトの活用	事前：大学の ICT 環境と教育ツールについてまとめる（120 分） 事後：授業で出された課題の取り組み（120 分）
4	ICT 環境の整備と教育データの活用	学習者の多様性に対応するためのツールや機能の活用 教育データ等を使った指導や学習評価への活用	事前：アクセシビリティについて調べる（120 分） 事後：授業で出された課題の取り組み（120 分）
5	デジタル教材と遠隔授業の研究	情報通信技術を活用した教材と指導法の作成 遠隔授業への活用	事前：デジタル教材の内容を計画する（120 分） 事後：作成したデジタル教材の修正をする（120 分）
6	デジタル教材の研究（グループ）	情報通信技術を活用した教材と指導法の検討	事前：指導法を作成する（120 分） 事後：作成した指導法の見直しをする（120 分）
7	模擬授業（グループ）	情報通信技術を活用した指導の実践	事前：模擬授業の練習をする（120 分） 事後：模擬授業を振り返る（120 分）
8	模擬授業の振り返り	情報通信技術を活用した教材と模擬授業の評価	事前：模擬授業の課題を考える（120 分） 事後：模擬授業の振り返りと課題（120 分）
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	情報リテラシー科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	改訂 4 版 情報モラル＆情報セキュリティ	㈱富士通ラーニングメディア	FOM 出版
2	ICT 活用指導力アップ　教育の情報化　教員になるための情報教育入門	梅田恭子他	実教出版
3	ICT 活用の理論と実践　DX 時代の教師をめざして	稲垣忠・佐藤和紀	北大路書房

評価方法（基準）	授業中の課題とレポート（60%）、授業中に作成した教材と模擬授業（40%）をもとに総合して評価する
学生へのメッセージ	各自の IT スキルを使って教育にどれだけ活用するかが重要ですので、主体的に学習に取り組んでください。
担当者の研究室等	橋本はる美（11 号館 8 階橋本研究室）
備考	

科目名	身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	科目名（英文）	Neighborhood Crime Prevention
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中沼　丈晃
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	私は、地域における防犯を研究し、自分自身も、研究室の学生とともに、青パト（青色回転灯をつけた自主防犯パトロールカー）で毎日、子どもの見守り活動を行っている。そうした研究者として、普段一番接する学生に、犯罪の実態を知ってもらい、少しの注意と手間で犯罪から身を守れることをわかってほしくて、この講義を開講することとした。加えて、それほど気負わなくても、防犯ボランティアとして社会貢献できる方法があることも紹介したいと考えている。 学科の学習・教育目標との対応：工学部[A], 理工学部 [II]
到達目標	この授業を通じて学生には、自分と家族の身近でどんな犯罪が起きているか知り、どのような対策が必要かわかるようになることが期待される。防犯ボランティアへの参加の動機づけが大きくなればなおよい。
授業方法と留意点	とにかく実際の事件を取り上げて、加害者の視点、被害者の視野、発生した場所・時間の特徴、警察や行政、学校、ボランティアの動きを具体的に説明する。そして、いま推奨されている防犯対策を紹介する。
科目学習の効果（資格）	各自が自分で、家庭で防犯対策をして、犯罪から身を守れるようになってもらうのが第一である。防犯ボランティア参加の動機づけにもなるだろう。職業では、当然、警察官の仕事の視点がわかる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	昨年起きた犯罪はどのような特徴があったのか？	昨年起きた具体的な犯罪例を取り上げて、どのような人・物が、どういう理由でねらわれているのか探る。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
2	犯罪にはどのような種類があり、どうやって数えるのか？	刑法上は同じ窃盗でも、ひったくり、自転車盗、車上ねらいなどさまざまな手口がある。１件の窃盗でも、起きた数、警察に届けられた数、検挙された数がある。こうした手口の分け方や数の数え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
3	犯罪はなぜ起こるのか？どうやって減らすのか？	悪い人がいるから犯罪が起こるのか、すきがある人がいるから犯罪が起こるのか、犯罪が起きやすい場所・時間があるから犯罪が起こるのか、それぞれの理屈を確かめてみる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
4	大阪の治安はどのくらい悪いのか？どのように防犯対策を進めているのか？	大阪府は、他の都道府県に比べてどのような犯罪が多いのか、人口の多さを考慮するとどうなのか説明する。「オール大阪」で街頭犯罪ワースト１を返上する取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
5	街頭犯罪－－ひったくり、自転車盗、車上・部品ねらいを中心に	一番身近な街頭犯罪について、どういう人・物が、どういった状況でねらわれているのか、どういう人が犯罪を行っているのか説明する。ついで、ひったくり防止カバー、シリンダー錠などの防犯対策の効果について紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
6	住宅への空き巣、忍び込み、居空き	泥棒は、空き巣に入る家をどのように物色し、どうやって侵入し、何を盗んでいくのか解説する。最近の防犯住宅、防犯マンションの取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
7	性犯罪－－街頭での強制わいせつ、痴漢、公然わいせつ	大阪府は性犯罪が深刻な自治体である。犯罪者は、どんな人・場所をねらって性犯罪に及ぶのか説明する。女性の学生が今日からすべき防犯対策を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
8	子どもをねらった犯罪	子どもに対する犯罪について、過去に大きな社会問題になった殺傷事件から、日常的に起きているわいせつ、声かけ、つきまといまで、実態を具体的に説明する。そして、子どもの安全を守るために各地で行われている取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
9	ストーカー、DV（配偶者からの暴力）	ストーカーや DV は、個人間の問題に関わるので、対応の判断が難しい。しかし、大きな事件につながれば、対応の遅さ、まずさが批判されやすい。過去の事件の経緯を紹介して、深刻な問題への展開を防ぐために現在行われている対策を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
10	詐欺－－高齢者をねらった振り込め、オレオレ、リフォーム詐欺など	昨年、急激に増え、手口が次々と変わる高齢者をねらった詐欺を取り上げる。背景にどのような組織があるのか、どうして防犯が難しいのか、実例に即して説明する。若い私たちにできる協力も紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
11	サイバー犯罪－－子どもや学生が巻き込まれるネット犯罪	子どもが巻き込まれる出会い系サイトやネットゲームでのなりすまし、大学生も被害を受けている偽サイトでのショッピング詐欺、ネットバンクでの ID、パスワード盗難など、身近なサイバー犯罪を取り上げる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）

	12	違法ドラッグの実態と対策	違法ドラッグについて、その危険性、販売の実態、取締の方法を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
	13	防犯カメラの普及と効果	急速に普及した防犯カメラについて、普及の背景と経緯、技術の進歩、個人情報・プライバシーとの関係、防犯効果の考え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
	14	防犯ボランティアの活動	近年の犯罪対策の最大の特徴は、民間のボランティア団体の活性化である。地域での子ども見守り隊、青パト活動、学生防犯ボランティアなど、最近の各地、各世代の防犯ボランティアの活動を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
	15	まとめ	全体のまとめを通じて、身近な犯罪を未然に防ぐには何が必要か結論を探る。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）

関連科目	法学部「刑事政策」「経済刑法」「地域防犯政策」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	期末課題(70%)、講義毎回の確認ペーパー(30%)の合計によって評価する。
学生へのメッセージ	勉強以前に、自分、家族、まちを身近な犯罪から守るために、ぜひこの講義を受講してほしいと願っている。そして、できるところからでよいので、講義で知った防犯対策をしてもらいたい。警察官志望者には、近年、警察でも人気の仕事になりつつある防犯の実務がわかるという意味で、興味を持ってもらえると思う。
担当者の研究室等	11 号館 9 階 中沼研究室
備考	講義毎回の課題正解の提示などは Teams を通じて行う。

科目名	マーケティングと歴史	科目名（英文）	Marketing and History
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武居　奈緒子
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	この講義では、マーケティングを歴史的に考察することを目的としています。特にマーケティングの発想を踏まえ、呉服商の経営活動について説明していきます。
到達目標	マーケティングと歴史に関する基本的知識を修得し、活用できることを目指します。
授業方法と留意点	講義形式、出席率80%以上を成績評価の対象とする。
科目学習の効果（資格）	マーケティング的発想で社会を見る眼が養えます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	マーケティングについて解説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングに関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
2	製品政策	ヒット商品はどのようにして作られるのかについて考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、製品政策に関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
3	価格政策	価格の設定方法について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、価格政策に関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
4	流通チャネル政策	商品はどのような経路をたどって販売されるのかについて考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、流通チャネル政策に関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
5	販売促進政策	商品のアピールの仕方について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、販売促進政策に関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
6	マーケティングのＳＴＰアプローチ	市場細分化について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、ＳＴＰアプローチに関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
7	消費行動	消費者の購買意思決定過程について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費行動に関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
8	マーケティングの歴史的研究と三井越後屋	マーケティングにおける歴史的研究と三井越後屋の商法について説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、三井越後屋に関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
9	呉服商の流通機構	呉服商の流通機構について、概説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、呉服商の流通機構に関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
10	越後屋の仕入機構（１）	三井越後屋の絹の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
11	越後屋の仕入機構（２）	三井越後屋の木綿の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
12	いとう松坂屋、大丸屋の仕入機構	いとう松坂屋や大丸屋の仕入機構について、概説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、いとう松坂屋・大丸屋の仕入機構に関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
13	呉服商から百貨店へ	呉服商から百貨店への変遷について概説します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店化に関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
14	百貨店業態の成立	百貨店について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店業態に関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
15	まとめ	全体のまとめをします。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングと歴史の総復習をしておきましょう。(所要時間１時間)

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大規模呉服商の流通革新と進化ー三井越後屋における商品仕入れ体制の変遷ー	武居　奈緒子	千倉書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	史料が語る三井のあゆみ	三井文庫編	吉川弘文館
2	消費行動　新版	武居　奈緒子	晃洋書房
3			

評価方法	期末レポート（80%）、中間レポート（20%）

（基準）	
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	11 号館８階　武居教授室
備考	

科目名	全学部生のための刑事法	科目名（英文）	Introduction to Criminal Law
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小野　晃正
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	・全国的にみて大学生活を通じて学生による犯罪現象が散見される。 ・たとえば、保護責任者遺棄致死事案（サークル仲間の酩酊学生放置）、あるいは、未成年者誘拐や児童福祉法違反（SNS 上での出会い）、職業安定法違反（バイトでの風俗あっせん）、ストーカー行為規制法違反（25 通程度のメッセージ送信）、偽造と詐欺（定期券改ざん・闇バイトを通じた各種犯罪への関与）、偽計業務妨害（カンニング・飲食店備品に対する悪戯・バズリを狙う悪質動画作成）の事案など枚挙にいとまがない。 ・これらの犯罪は、おそらく大学生当人は犯罪だと思って実行したものでないであろう。しかし、こうした犯罪知識を身につけておかなければ知らぬ間に罪人とされ、実名報道により学生本人の将来の芽を摘み取ることになりかねない。 ・他方、これらの犯罪の被害者になりかねない学生も相当数いるであろう。犯罪被害者になったとき、迅速な対処法が被害を軽減するが、こうした知識を身につける機会が全学生にあまりない。 本講座では、「転ばぬ先の杖」として学生時代に身につけておくべき犯罪とその被害対処法を提供し、全学生に安全な学生生活と社会人となった後も有用な刑事法教育を提供することを目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、 ・刑法の謙抑性、罪刑法定主義、犯罪の成立要件および刑罰制度について説明できる ・薬物犯罪をはじめとする学生にとくに身近な犯罪現象の内容について説明できる ・犯罪被害者となった場合の対処方法について説明できる ようになることが期待される。
授業方法と留意点	・講義形式で行う（社会情勢上、その変更が必要な場合は遅滞なく連絡する）。 ・本講義は、ICT ツールとして Microsoft 社の teams を用いる。 ・課題提示や資料配布などは Microsoft 社 teams を通じて行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。 ・近時、刑事法の改正が相次いでいるので、最新の六法（有斐閣『ポケット六法』や『判例六法』、または、三省堂『デイリー六法』もしくは『模範小六法』の最新版がのぞましい）を
科目学習の効果（資格）	・「刑法総論」および「刑法各論」をしっかり受講すれば、法学検定、地方公務員上級職採用試験、労働基準監督官採用試験（大卒）、裁判所事務官採用試験、および、司法書士試験で出題される「刑法総論」の問題を確実に処理することができるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 刑法とは何か	・授業の進め方と文献紹介 ・刑法の意義 ・刑法の機能 ・刑法学とは何か	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間
2	刑法の基礎	・古典学派と近代学派 ・わが国の刑法思想 ・刑罰の正当化根拠（なぜ国家による死刑をはじめとする刑罰執行は正当化されるのか）	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間
3	刑法の解釈	・罪刑法定主義 ・刑法の法源 ・刑法の解釈	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間
4	犯罪の基本概念	・犯罪の成立要件	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間
5	薬物犯罪	・覚せい剤取締法 ・大麻取締法 ・向精神薬取締法	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間
6	カンニング行為と偽計業務妨害	・阪大入試問題漏洩事件 ・明治大学替え玉入試事件 ・京大 2 次試験問題ヤフー知恵袋漏洩事件 ・大学入試共通テスト問題漏洩事件	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間
7	飲み会と保護責任者遺棄罪	・飲み会において生じうる犯罪現象	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間
8	定期券の偽造と詐欺罪	・有価証券偽造罪と詐欺罪の関係	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間
9	ストーカー行為規制法	・ストーカーにならないために ・ストーカーの被害者にならないために	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間
10	DV とデート DV	・違法性とは何か ・正当行為と正当業務行為	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間
11	性犯罪、家出と未成年者誘拐罪および児童福祉法違反	・各種性犯罪 ・家出と誘拐の関連	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間
12	少年犯罪と「特定少年」制度の発足	・少年法の厳罰化 ・20 歳未満の実名報道	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間
13	犯罪被害者救済①	・告訴と被害届 ・証拠保全の重要性	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間
14	犯罪被害者救済②	・被害者に対する種々の救済制度 ・被害者の実名報道と被害者バッシング問題	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間

	15	まとめ	これまでの講義内容の総復習	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間

関連科目	刑事法概論、刑法各論、経済刑法、現代社会と刑事法、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	入門刑事法（第8版）	三井誠	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	開講時に各種判例・補助教材を紹介する		
2			
3			

評価方法 （基準）	・形成的評価を行うため、各回講義後に、Microsoft 社 teams を通じて Microsoft　forms から課題を配信する。各回の課題の得点を合算して評価対象とする（講義の理解度5%＋課題の得点95%）。定期試験は実施しない。
学生への メッセージ	・法律学の学習は予習よりも問題演習を中心とした復習が効果的です。 ・刑事事件に関心なる人はぜひ受講してください。 ・新聞、テレビ、ラジオ、ネットなど媒体は問いませんが、刑法に関する面白いネタがたくさん落ちていますので、なるべくニュースに接するようにしましょう。
担当者の 研究室等	11号館10階　小野教授室
備考	

科目名	現代韓国論	科目名（英文）	Contemporary Korean Society
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中　悟
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	日本社会に生きる者にとって、似通っているようで異なる、また異なっているようで似通っている、そんな存在である韓国。本授業では、日韓関係の変遷を手がかりとし、現代の韓国社会における変化を中長期的な視点から理解することを目指す。
到達目標	本授業を通じて、現代韓国社会についての理解を深めていく。具体的には、次の各項目を目標とする。 ・韓国現代史について、とりわけポスト冷戦時代の日韓関係史を軸として、概観できるようになる。 ・ポスト「バブル経済」時代における日本社会についての理解を踏まえて、ポスト「民主化」の時代における韓国社会についての理解を深める。
授業方法と留意点	１．韓国現代史の基礎的事実関係を踏まえつつ、基本的には教科書に基づいて授業を進める。 ２．授業は、①講義、②Moodle を通じたレジュメの配信および課題等の提出、という２つの手段を適宜組み合わせて行なう。 ３．授業進度の調整によって、授業の進行スケジュールに変更が生じる可能性がある。 ４．本授業に関するフィードバックは、必要に応じて授業内で行なうこととする。
科目学習の効果（資格）	韓国現代史および現代の日韓関係に関する基礎的な理解

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の目指すところ、テキストの内容について概説する。 （「まえがき」「プロローグ」についてはここで取り上げる。）	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
2	第Ⅰ部　相互信頼から相互不信へ	第１章　盧泰愚来日と天皇訪韓構想（１）	［事前学習］配布レジュメの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
3	第Ⅰ部　相互信頼から相互不信へ	第１章　盧泰愚来日と天皇訪韓構想（２）	［事前学習］配布レジュメの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
4	第Ⅰ部　相互信頼から相互不信へ	第２章　慰安婦問題の展開（１）	［事前学習］テキストの関連部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
5	第Ⅰ部　相互信頼から相互不信へ	第２章　慰安婦問題の展開（２）	［事前学習］テキストの関連部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
6	第Ⅰ部　相互信頼から相互不信へ	第３章　村山談話と靖国問題（１）	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
7	第Ⅰ部　相互信頼から相互不信へ	第３章　村山談話と靖国問題（２）	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
8	第Ⅰ部　相互信頼から相互不信へ	第４章　「小春日和」の時代	［事前学習］テキストの関連部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
9	第Ⅱ部　対立激化への展開	第５章　領土問題の相克と定着化（１）	［事前学習］テキストの関連部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
10	第Ⅱ部　対立激化への展開	第５章　領土問題の相克と定着化（２）	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
11	第Ⅱ部　対立激化への展開	第６章　民主党政権と李明博政権（１）	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
12	第Ⅱ部　対立激化への展開	第６章　民主党政権と李明博政権（２） 第７章　外交争点としての「慰安婦」問題（１）	［事前学習］テキストの関連部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
13	第Ⅱ部　対立激化への展開	第７章　外交争点としての「慰安婦」問題（２）	［事前学習］テキストの関連部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
14	第Ⅱ部　対立激化への展開	第８章　文在寅政権の転換	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
15	「平成時代の日韓関係」から何が見えるのか	韓国現代史と現代韓国社会 （講義のまとめと補遺）	［事前学習］提示する資料を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］提示した資料を参照しながら、テキス

				トを読み返しておくこと（目安時間：60 分）

関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	平成時代の日韓関係―楽観から悲観への三〇年―	木村幹・田中悟・金容民〔編著〕	ミネルヴァ書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	韓国愛憎	木村幹	中公新書
2	日韓歴史認識問題とは何か	木村幹	ミネルヴァ書房
3			

評価方法 （基準）	定期試験は実施せず、授業内で提示する課題に対する提出物に基づく総合評価（100%）を実施する。 （課題の提示および提出は、Moodle を通じて行なう。）
学生への メッセージ	韓国語の能力は不要です。
担当者の 研究室等	7 号館 4 階　田中研究室
備考	・授業のスケジュール・進行形式については、出席者の状況によって調整する可能性もある。 ・なお、2019 年度まで開講していた「現代韓国事情」を履修し、単位を取得済みの者は、本講義を履修することはできない。

科目名	役立つ金融知力	科目名（英文）	Financial Literacy
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大西　史一
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	自分が歩みたい人生の実現を、人生 100 年にも迫り長期化する老後を、お金の面から支えるには、早くから長期的な資産形成に取り組み、単に「貯める（貯蓄）」だけではなく、貯めたお金を上手に「殖やす（投資）」ことが必要です。また、投資は「自己責任」が原則であり、取引にかかわるリスクやトラブルから自己防衛するための知識も重要です。 早ければ社会人になってすぐ、自分で自分の年金（確定拠出年金）の運用を始めなければなりません。何で、どのように運用するか…決められますか？　若年層の長期的資産形成を促すため、NISA 制度も改正されるなど政府の取り組みも本格化しています。経済的に自立し、将来安定した生活を送るためにも、金融に関する知識や情報を正しく理解し、各自の生活設計に合う適切な取引を選択、実践するスキルや判断力（＝金融リテラシー）を若いうちから身につけておくことが必要です。 本講義では、社会人としても知っておくべき金融・経済に関する理解を深めるとともに、資産形成に最低限必要な基礎知識の習得を目指します。
到達目標	ライフステージの重要な意思決定の場面で、的確な行動やより良い判断へと導くリテラシーを養うことを目標に、金融やその背景となる経済知識について、基礎的な内容から実務の入口までをわかりやすく解説します。 具体的には ①金融や市場のさまざまな働きを知り、社会や自分との関わりについて理解を深めることができる ②金融リテラシーを習得し、自ら主体的に判断し活用していく能力が身につく ③自己のライフプランに基づく資金計画を作成し、課題を発見して適切な解決策を考えることができる 以上を到達目標とします。
授業方法と留意点	基本的に対面による講義形式で授業を進めます。各回のテーマ毎にレジュメを配布します。 授業では、重要と思われるところを積極的に聴き取りメモをとり、「なぜ」と自分の頭で考える訓練をしてください。 また、日頃から、経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。 課題への参加や提出物は期限を厳守してください。
科目学習の効果（資格）	日々、刻々と変わるマーケットを理解し、中長期の経済トレンドを理解することができる可能性があります。 金融商品の基礎知識を取得することにより、少なからず将来の資産形成に役立つことでしょう。 また、ファイナンシャルプランナー資格（民間資格）や、ファイナンシャル・プランニング技能士（国家資格）の資格にも役立つでしょう。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 金融知力リテラシーの必要性	講義内容と成績評価等について説明した後、これからの時代、「金融リテラシー（知力）」を身につけなければならない必要性について説明します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
2	金融・経済の基礎①	是非とも知っておいていただきたい金融と経済の基本について説明します。また、マーケットの視点で注目度の高い経済統計などの話もします。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
3	金融・経済の基礎②	物価と金利の関係や、金融政策や財政政策など経済と金融のかかわり、そして世界経済・日本経済の実情とその将来を解説します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
4	ライフプランニング①	ライフプラン上の夢や希望をかなえるには、お金の問題が常に関わります。ライフイベント表・キャッシュフロー表作成の重要性を解説します。	自分の夢、今後の人生における最優先課題を考えてみる。
5	ライフプランニング②	人生に不可欠な「三大資金」を理解し、ライフプラン実現のために必要な資金計画の大切さを解説します	課題①として、大学卒業後のライフイベントを設定し、キャッシュフロー表を作成してもらいます。
6	金融商品の基礎／貯蓄型商品	金融所品の特性について説明した後、預貯金などの貯蓄型商品の種類、特徴とリスク、金利について解説します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
7	リスクとリターン	投資は利益（リターン）をあげることを目的とする行為ですが、必ずリスクを伴います。このリスクとリターンの関係や、リスクの低減手法、いわゆるリスクマネジメントについて解説します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
8	株式の基礎①	株式投資の魅力とリスクについて説明します。また、実際の取引の仕組みや、株式投資を行う際に留意点などについて解説します。 ※アセットクラス：資産クラス、資産の種類のこと	課題②として、株式投資ゲームに参加してもらいます。
9	株式の基礎②	株価の要因について説明します。また、株価のファンダメンタルズ分析手法や、株価チャート、テクニカル分析の基礎についても紹介します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
10	債券の基礎①	債券とは何かから始め、多岐にわたる種類や特徴・リスクを説明します。また、利回りや”格付け”についても学びます。	財務省のＨＰで２０年度予算の概要を確認
11	債券の基礎②	債券の利率と利回り、債券価格と金利の関係について学びます。合わせて、現在のわが国の財政構造などの時事問題を理解してもらいます。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
12	投資信託について	皆さんにとって最も身近になる金融商品です。投資信託の仕組みや特長、メリットとリスク、効率的な商品選択を紹介	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。

			します。	
	13	外為市場・外貨建て商品について	外国為替市場の仕組みや取引について解説した後、代表的な外貨建て商品をリスクも併せて紹介します。	日経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
	14	証券化商・デリバティブ／セーフティネット	派生商品の概要について紹介します。そのあと、預金者および投資家を保護するための法令等について説明します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
	15	講義のまとめ	これまでの講義を振り返り、ポイントを整理します。定期試験対策としての位置づけでもあります。	必ずレジュメを復習し、理解できるようにしてください。

関連科目	民法、会社法、経済学、国際経済、経営学、経営戦略、会計学　など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	金融経済と資産運用の基礎	日興リサーチセンター	ブイツーソリューション
2			
3			

評価方法 （基準）	定期試験　：　６０％ 課題①キャッシュフロー表　：　２５％ 課題②株式投資ゲーム参加　：　１０％ 講義への取り組み姿勢　：　５％
学生へのメッセージ	長年の実務経験をベースに、より実践的かつ現実的な話を、体験談も踏まえて分かりやすくお伝えしたいと思っています。 皆さんのこれからの時代は、金融・経済の知識、そして金融商品の知識があるのとないのとでは、将来の人生設計が大きく変わる可能性があります。是非、資産形成について一緒に学んでいきましょう。 なお、授業計画は変更される場合があります
担当者の研究室等	11 号館 1 階（教務課）
備考	オフィスアワー　：　授業の前後に対応します。 その他、質問等は　onishi_fumikazu3@nrc.nikko.co.jp　までメールをしてください。 この講義は、ＳＭＢＣ日興証券グループによる「寄附講座」です。

科目名	SDGｓで読み解く淀川流域	科目名（英文）	The Yodo-gawa river region and SDGs
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石田　裕子.赤澤　春彦.朝田　康禎.郭　進.加嶋　章博.小林　健治.後藤　和子.鳥谷部　壌.中塚　華奈.増田　知也
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	この科目は、琵琶湖の源流域から大阪湾までの淀川流域に着目し、人々の多様な暮らしや経済・文化・環境等について、SDGs の視点から学びを深め,、淀川流域の多様性と持続可能な発展を考える教養科目です。本科目は、今、多くの企業からも注目を集めている SDGs について、淀川流域を素材としながら、グローバルに考え行動するという社会人・企業人として必要な教養を身に付けることを目的とします。
到達目標	(1) 大阪をはじめとする関西地域の暮らしと密接な関わりを持つ淀川流域について、いかなる社会的課題が存在するかを、第三者に分かりやすく説明できる。 (2) SDGs について理解を深め、上記 (1) の社会的課題について、SDGs との関連性を説明できる。 (3) 地域のニーズや社会的課題を発見し、本講義で得られた知見を基に、その解決策を検討することができる。
授業方法と留意点	この授業では、摂南大学の近傍を流れる「淀川」の社会・歴史・文化・経済・環境等について、SDGs(2030 年までの世界の目標)との関連性を意識しながら、学部の垣根を越えて、地域の課題を学びます。 毎回の授業は、基本的に教科書に沿って行われます。なお、理解促進のために、必要に応じて、レジュメあるいは補足資料を配布します。
科目学習の効果（資格）	大学生に必要な教養の知識が身につき、それを基に地域の社会的課題について討議できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス―淀川流域のいま・過去・未来とＳＤＧｓ	科目全体のガイダンス(担当:朝田康禎)	事前：教科書[序章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
2	巨椋池遊水地化構想による淀川流域の治水と環境保全	将来の淀川流域の洪水対策としてできることは何か？[関連 SDGs １３・６](担当：石田裕子)	事前：教科書[第１章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
3	淀川左岸地域を中心とした水辺整備と流域連携活動	水辺を楽しく利用するためにはどうすればいいか？[関連 SDGs９・１７](担当：石田裕子)	事前：教科書[第２章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
4	淀川流域の洪水対策	淀川上流に新たなダムは必要なのか？[関連 SDGs７・１６](担当：鳥谷部壌)	事前：教科書[第４章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
5	些細なことで豊かになる淀川流域の生活	なぜ人は水辺に集まるのか？[関連 SDG １５](担当：小林健治)	事前：教科書[第７章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
6	淀川水系にみる文化と観光の経済学	文化と経済の相乗効果とは？[関連 SDGs ３・１２](担当：後藤和子)	事前：教科書[第６章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
7	地域資源としての淀川の記憶	淀川の風景遺産とは何だろう？[関連 SDG １１](担当：加嶋章博)	事前：教科書[第８章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
8	文化の「みち」としての淀川	淀川流域の歴史的・文化的背景について考える[関連 SDG4、11](担当：赤澤春彦)	事前：教科書[第９章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
9	淀川流域の地域文化財	淀川流域の文化遺産をいかに活用すべきか？[関連 SDG4、11](担当：赤澤春彦)	事前：教科書[第９章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
10	所得格差と教育問題	淀川の左岸と右岸とでどう違う？[関連 SDGs１・４・１１](担当：八木紀一郎)	事前：教科書[第 11 章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
11	都市農業の歴史的遺産と公益的機能	淀川流域の都市農業の特徴とは？[関連 SDG２](担当：中塚華奈)	事前：教科書[第 10 章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
12	人口移動や通勤流動でみる地域経済	淀川は人の流れや経済にどのような影響を与えるのか？[関連 SDG５](担当：朝田康禎)	事前：教科書[第 12 章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
13	産業連関分析	淀川流域における３市（門真市・寝屋川市・枚方市）の経済・産業構造はどう違うのか？[関連 SDGs８・９](担当：郭進)	事前：教科書[第 13 章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
14	住民が主役の広報戦略	淀川流域の魅力を発信するにはどうすれば良いか？[関連 SDG１７](担当：増田知也)	事前：教科書[第 14 章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
15	プラスチックごみの発生源抑制対策	大阪湾はお魚よりもプラスチックごみのほうが多いって本当？[関連 SDGs14・１2](担当：鳥谷部壌)	事前：教科書[第 15 章]を読んでおくこと 事後：講義内容の総復習・レポート課題に取り組む

関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	SDGs で読み解く淀川流域――近畿の水源から地球の未来を考えよう	後藤和子・鳥谷部壌編著	昭和堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法	第 2 回目～15 回目までの授業内で実施される理解度確認（クイズ or 簡単な小レポートなど）（いずれも 5 点満点、14 回分で計 70 点）と、期末の

（基準）	レポート（30 点）の合計 100 点満点で評価する。なお、期末のレポートは、最終回の授業時に各担当教員によって提示される課題一覧の中から、いずれか１つを選択し、A4２枚程度のレポート作成に取り組む。
学生へのメッセージ	今、企業や地方自治体からも注目を集め、全世界で取り組んでいる SDGs について、身近な地域を素材に一緒に考えましょう。就活や社会人となってからも、この経験はきっと役に立つはずです。他学部の教員から、多様な視点を学べるのも魅力です。
担当者の研究室等	１号館３階　都市環境工学科　石田研究室 １号館７階　経済学部　後藤研究室、郭研究室、朝田研究室
備考	SDGs の 17 の目標とその内容は次の通り。SDG1（貧困をなくそう）、SDG2（飢餓をゼロに）、SDG3（すべての人に健康と福祉を）、SDG4（質の高い教育をみんなに）、SDG5（ジェンダー平等を実現しよう）、SDG6（安全な水とトイレを世界中に）、SDG7（エネルギーをみんなに そしてクリーンに）、SDG8（働きがいも経済成長も）、SDG9（産業と技術革新の基盤をつくろう）、SDG10（人や国の不平等をなくそう）、SDG11（住み続けられるまちづくりを）、SDG12（つくる責任 つかう責任）、SDG13

科目名	使えるデータサイエンス	科目名（英文）	Useful Data Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久保　貞也.朝田　康禎.植杉　大.片田　喜章.橋本　はる美.牧野　幸志
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	これからの社会では実務のさまざまな場面でデータを適切に扱い、分析するデータサイエンスのスキルが重視される。データサイエンスのスキルはどの分野でも重要視されている「情報を扱う力」であり、すべての学生が対象となる。 ビジネスの現場では顧客情報の分析による、商品開発やサービスの提案などにおける意思決定プロセスなどでも大きな力を発揮する。これからの進路を決めたり、日常の行動で判断にも役立つものとなる。 本科目では理系・文系に関わらず大学生から社会人において役立つデータ収集と分析スキルを基礎から学べる状況を作り、さらに AI を含む実践的な応用についても多方面の事例を通じてわかりやすく学ぶ。
到達目標	この講義の到達目標は以下の通りである。 （1）現代社会でのデータサイエンスの重要性と限界を説明できる （2）データサイエンスのために必要な EXCEL 等汎用ソフトの基礎的な操作法を身に付けている （3）インターンシップや卒業研究レベルのデータ分析の手順が設計できる
授業方法と留意点	本科目ではすべての学部学生が興味を持てるように、心理学、経済学、工学、教育学などの多方面の教員によるオムニバス形式で講義、演習を行う。実際に PC を操作してデータ収集、データ分析を行うため、毎回の出席が必要である。
科目学習の効果（資格）	社会で役立つ実践的なデータ処理能力、AI を活用する力、卒業研究、調査報告書作成、分析ソフトウェアの操作

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	データサイエンスが必要とされる理由(オリエンテーション)	開講にあたってのポイント説明、受講生の期待調査、 Society 5.0 時代のデータの価値について S 科　久保准教授	事前の学修進展度 学修ノートの作成
2	データ活用の最新事例	データサイエンスを学ぶためのハード、ソフト両面の説明、AI を前提とした社会のあり方 S 科　久保准教授	データサイエンスの事例を調べる 学修ノートの作成
3	データ分析の準備	Excel によるデータ整理、基本統計量からわかる事柄 S 科　牧野准教授	Excel の操作に関する復習 学修ノートの作成
4	Excel でできるデータ分析	ピボットテーブルの有効活用 S 科　橋本講師	Excel の操作に関する復習 学修ノートの作成
5	Excel でできる統計分析	データの関係がわかる関数 S 科　橋本講師	Excel の操作に関する復習 学修ノートの作成
6	オープンデータの収集と活用	RESAS（地域経済分析システム）によるオープンデータの分析 W 科　植杉教授	RESAS の操作 学修ノートの作成
7	Excel で行える高度な分析	Excel によるオープンデータの研究活動への活用方法 W 科　朝田准教授	オープンデータの事例を調べる 学修ノートの作成
8	商品企画につながる分析実習	統計分析ソフトウェア（SPSS)によるデータ整理 S 科　牧野准教授	統計学に関する予習・復習 学修ノートの作成
9	優良顧客を見つける方法	SPSS による統計分析の実習 S 科　牧野准教授	学修ノートの作成
10	データから相性を評価する	ビジネスデータ分析の実際 S 科　牧野准教授	学修ノートの作成
11	スマホでできるアンケート調査	GoogleForms の便利な使い方 S 科　牧野准教授	GoogleForms について調べる 学修ノートの作成
12	データの整理から分析までの連動	オープンデータから FileMaker Pro での整理、R での統計分析の実習 S 科　久保准教授	FileMaker の事例について調べる 学修ノートの作成
13	ロボティクスで利用されるデータ	ロボットを動かすデータ処理 E 科　片田准教授	学修ノートの作成
14	広告効果のデータ分析	FileMaker Pro によるフィールドワークノートづくり S 科　久保准教授	学修ノートの作成
15	データサイエンスの知識を今後に活かす	スモールグループディスカッション（ELSI、データの活用、人間中心の新しい社会） S 科　久保准教授	ELSI について調べる 学修ノートの整理 事後の学修進展度

関連科目	データサイエンス展開

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3
評価方法 （基準）	授業での課題　70%、事前事後の学修進展度（アンケート）　15%、学修ノート　15%、以上を総合して 60%以上を合格とする。なお、無断欠席が 20%以上の場合は成績評価の対象外とするので注意すること。
学生への メッセージ	商品企画や心理テスト、世論調査などわたしたちの普段の生活でデータは分析され、活用されています。みなさんが「自分の専門」プラス「データサイエンス」の力をつけると大きな可能性が拓けます。日常生活から研究活動、ビジネスの現場でも活用できるデータサイエンスを総合大学ならではの環境で学びましょう。 授業への遅刻は実習参加の妨げになるため十分注意してください。
担当者の 研究室等	11 号館 7 階 久保准教授室、牧野准教授室、11 号館 8 階 橋本講師室、1 号館 7 階 植杉教授室、朝田准教授室、1 号館 4 階 片田准教授室
備考	

科目名	ダイバーシティとコミュニケーション	科目名（英文）	Diversity and Communication
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井　三恵
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、以下の４点を理解することが期待される。 １）グローバル社会では、日本人の従来の常識では予測のつかない疑問点が溢れていることを知り、ジェンダー視点で俯瞰する。 ２）「境界線」も一つの視野では理解できないことから、ジェンダーの基本的理解はもちろん、主な思潮を通して社会を読む。 ３）さまざまな差異を理解するためには、ダイバーシティ（多様性）を尊重し、受け入れ、積極的に活かすことが大切であることを事例を通して学ぶ。 ４）日常生活やビジネスの場面でのコミュニケーションの必要性を理解し、アサーティブコミュニケーションの理論を知る。 なお、講義は担当講師の民間企業社員、自治体職員として業務経験及び、NPO 法人の理事、高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。 SDGs-5
到達目標	ダイバーシティ理解に欠かせないコミュニケーション手法の一つであるアサーティブネス理論を中心に理解を促進させ、そのスキルを学ぶことによって社会生活に活かすことを目標とする。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。
科目学習の効果（資格）	・ダイバーシティマネジメントにおける社員教育の在り方を理解することができる。 ・2019 年度までの入学生で「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」を取得希望者にとっては、「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・ダイバーシティの世界へようこそ ・政策提言へ向けて	・事前学修：ダイバーシティに関して、調べること（１時間） ・事後学修：身近なダイバーシティに対する気づきに関してレポートを作成すること（３時間）
2	ダイバーシティと境界線	・ウチとソトの感覚	・事前学修：私たちの周りにある伝統や習慣について箇条書きにしてくること（２時間） ・事後学修：SDGs＃５がなぜ日本に問われているのか、その理由について、具体的数字を入れてレポートを書くこと（２時間）
3	ジェンダー視点	・フェミニズム×女性学＋男性学＝人間学 ・ジェンダーギャップ指数 ・シモーヌ・ド・ボーボワール ・性別役割分業観	・事前学修：フェミニズムの歴史的背景を理解し、近年話題のエコフェミニズムについて調べること（２時間） ・事後学修：日本が抱える問題　について、具体的数字を入れてレポートを書くこと（２時間）
4	日本の近代化	・大正期の白樺派と女権拡張運動 ・明治の落とし物 ・第５次男女共同参画基本計画	・事前学修：明治・大正・昭和の歴史年表を作成すること（２時間） ・事後学修第五次男女共同参画基本計画を読み、興味関心をもった項目についてレポートを書くこと（２時間）
5	国際統計比較	・ジェンダーギャップ、・ジェンダーエンパワーメント指数などのデータから日本をみる	・事前学修：国際的統計から、日本の置かれた位置を確認し、何が問題であるか考えること（２時間） ・事後学修：国際的統計から理解できたことに関してレポートを作成すること（２時間）
6	性役割の形成①	・性役割と発達段階における「刷り込み」 ・性自認 ・GID と SOGI と人権	・事前学修：性役割を理解し、幼児期から振り返ること（２時間） ・事後学修：テキスト P40～52 と、授業を受けて理解できたことなどをまとめたレポートを作成（２時間）
7	性役割の形成②	・性自認と家族 ・親役割 ・性的指向	・事前学修：ハラスメントの事例を一つ探し、具体的内容をレポートする　　準備をすること（２時間） ・事後学修：結婚と母性信仰に関して、レポートを作成（２時間）
8	「らしさ」とセクシャル・ポリティクス	・６名の女性に関するグループワークとプレゼン ・セクシュアリティ	・事前学修：６名の女性に関するプレゼン（２時間） ・事後学修：６名の女性から学んだことのレポート作成（２時間）
9	ワークライフバランスとビジネス組織	・ジェンダーマネジメント ・働き方改革	・事前学修：日本と世界を比較しながら、女性労働について考えること（２時間） ・事後学修：M 字型労働力率曲線の底を上げるための提言レポートを作成 　　すること（２時間）
10	アサーティブコミュニケーション①	・アサーティブとは何か ・世界中でアサーティブネスが用いられる理由	・事前学修：アサーティブネスについて調べること（２時間） ・事後学修：アサーティブネススキルを用いて問題解決事例を考える（２時間）
11	アサーティブコミュニケーション②	・スキルの必要性を理解し、身に付けることを試みる	・事前学修：アサーティブネス理論を実生活に活かす事例を考えること（２時間） ・事後学修：ワークシート#11（２時間）
12	リプロダクティブ・ヘルス＆ライツ	・リプロの正しい意味を理解する ・リプロの歴史と現状の課題を確認する ・DV、デート DV について現状を理解す	・事前学修：リプロの意味と現状を調べる（２時間） ・事後学修：ワークシート#12（２時間）

		る	
13	DV とデート DV	・企業比較から政策提言へ	・事前学修：DV とデート DV に関してレポートを作成（２時間） ・事後学修：ワークシート#13（２時間）
14	プレゼンテーション	・政策提言プレゼンテーション ・自由討議	・事前学修：事例研究した内容をプレゼンテーションできるよう練習すること（２時間） ・事後学修各プレゼンテーションについての報告書作成（２時間）
15	まとめ	・まとめ	・事前学修：まとめのワークシート（２時間） ・事後学修：ダイバーシティ・マネジメントが必要である理由について述べられるようまとめること（２時間）

関連科目：2019 年度以前入学生の「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンス科目」の「共通」分野に位置している科目である。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	共に学ぶ女性学	石井三恵	泉文堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ジェンダーで学ぶ社会学	伊藤公男	世界思想社
2	よくわかるジェンダー・スタディーズ	木村 涼子 他	ミネルヴァ書房
3	性と法律	角田 由紀子	岩波新書

評価方法（基準）	ロールプレイ（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	みなさんの身近に存在している不思議を解き明かすカギが女性学、フェミニズム、ジェンダー論、そしてダイバーシティにあります。私たちは生まれも育ちも異なることから考え方も異なるように、外国の方にもにそれが当てはまり、みな同じ問題を抱えています。社会的弱者と呼ばれる私たちの身近な事例を通して、人としての生きる権利とは何かを考えてみませんか。
担当者の研究室等	石井教授室（７号館５階）
備考	予習・復習に毎回２時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。

科目名	データサイエンス展開	科目名（英文）	Data Scicence Applications
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	伊藤　譲.諏訪　晴彦.石井　三恵.新居　英志
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	IT・インターネットの利用が日常化し人とのつながりが増えるとともに、デジタル情報やデータの影響を受ける場面が飛躍的に増加している。今後のデジタル駆動社会においては情報化・デジタル化の特徴を理解した上で、生活を豊かにしていく「データリテラシー」を身に付けていることが必要となっている。 本科目では、政策、衣食住、ものづくり、イベント広告、まちづくりの広範な分野における数理・データサイエンス・AI とデジタル技術の実践例を通じて、これらが社会や産業、日常生活の基盤になりつつあることを学ぶ。また、高度情報社会において、データを駆使し諸問題を解決する、また価値を創造する人材の素養を涵養する。
到達目標	(1) 数理・データサイエンス・AI が、Society5.0（データ駆動型社会）やインダストリー4.0 の基盤となっていること、それが自らの生活と密接に結びつくことを理解し説明できる。 (2) 数理・データサイエンス・AI が対象とする「データの活用領域」 は広範にわたり「社会で活用されているデータ」が社会や日常生活の課題解決に不可欠であることを理解し説明できる。 (3) 数理・データサイエンス・AI は様々な適用領域の知見と組み合わせることにより、価値創出するものであることを理解し説明できる。 (4) 数理・データサイエンス・AI は万能ではなく、その活用への留意事項（個人情報、データ倫理、AI 社会原則等）や、情報のセキュリティ・漏洩等などデータを守る上での留意事項の重要性を理解し説明できる。
授業方法と留意点	・産官学のさまざま分野の講師によるオムニバス形式である（12 回分）。 （外部から講師を招聘するため，日程やテーマが変更となることがある。） ・事前学習として、関連動画を視聴（もしくは資料を精読）し興味や関心、講師への質問をレポートとしてまとめる。 ・事後学修では授業で理解したことをまとめ、到達目標の(1)から(4)の達成度を自己分析・評価する。 ・事前事後学習のレポートはすべて ICT ツールを利用する。
科目学習の効果（資格）	・AI・データサイエンスの実際を様々な分野の実務家や研究者から学ぶことで、視野を広め、今後の自身のキャリア形成や就職活動に役立てることができる。 ・数理・データサイエンス・AI の関連資格への興味を拡大することができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	大学人としてのデータサイエンス	本講義の目的と概要 オリエンテーション グループワークの概説	事後学修：レポート（1 時間）
2	データ駆動社会	・Society5.0 概論 ・オープンデータ活用 ・デジタルトランスフォーメーション（DX）	事前学習：動画視聴／資料精読，課題レポート（1 時間） 事後学修：レポート（1 時間）
3	サイバーセキュリティ	サイバー攻撃と防御の最前線、データ駆動や AI による最先端のセキュリティ技術を学ぶ。	事前学習：動画視聴／資料精読，課題レポート（1 時間） 事後学修：レポート（1 時間）
4	食サービス×データサイエンス	食品産業におけるデータ分析やデータサイエンスの利活用を学ぶ。	事前学習：動画視聴／資料精読，課題レポート（1 時間） 事後学修：レポート（1 時間）
5	ものづくり×データサイエンス	ものづくりの設計や製造現場におけるデータサイエンスや AI 技術の利活用を学ぶ。	事前学習：動画視聴／資料精読，課題レポート（1 時間） 事後学修：レポート（1 時間）
6	イベント×データサイエンス	イベント企画におけるデジタル技術の利活用を学ぶ。	事前学習：動画視聴／資料精読，課題レポート（1 時間） 事後学修：レポート（1 時間）
7	数理・データサイエンス・AI を知る	・数理・データサイエンス・AI のメリット・デメリットをグループワークで学ぶ。	事前学習：動画視聴／資料精読，課題レポート（1 時間） 事後学修：レポート（1 時間）
8	広告×データサイエンス	広告業界における SNS マーケティングなどデジタル技術・データサイエンスの利活用を学ぶ。	事前学習：動画視聴／資料精読，課題レポート（1 時間） 事後学修：レポート（1 時間）
9	言語×データサイエンス	言語とデータ化、テキストマイニングの仕組みと技術を学ぶ。	事前学習：動画視聴／資料精読，課題レポート（1 時間） 事後学修：レポート（1 時間）
10	まちづくり×データサイエンス	地方創生など新たなまちづくりにおけるデータ分析の利活用を学ぶ。	事前学習：動画視聴／資料精読，課題レポート（1 時間） 事後学修：レポート（1 時間）
11	ヘルスケア×データサイエンス	医薬品開発やヘルスケアにおけるデータサイエンスの利活用を学ぶ。	事前学習：動画視聴／資料精読，課題レポート（1 時間） 事後学修：レポート（1 時間）
12	スポーツ×データサイエンス	選手のコンディションや戦況分析などスポーツ科学におけるデータ分析の利活用を学ぶ。	事前学習：動画視聴／資料精読，課題レポート（1 時間） 事後学修：レポート（1 時間）
13	衣料×データサイエンス	顧客のニーズに即応する衣料品開発と製造におけるデータサイエンスの利活用を学ぶ。	事前学習：動画視聴／資料精読，課題レポート（1 時間） 事後学修：レポート（1 時間）
14	政策×データサイエンス	サイバー空間における大規模人口シミュレーション技術を用いた選挙や年金などの制度設計を学ぶ。	事前学習：動画視聴／資料精読，課題レポート（1 時間） 事後学修：レポート（1 時間）
15	社会人としてのデータサイエンス	社会人として身につけておくべき DX 思考、情報倫理、協働姿勢などをグループワークで学ぶ。	事前学習：動画視聴／資料精読，課題レポート（1 時間） 事後学修：レポート（1 時間）

関連科目	情報系科目すべて
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 （基準）	・事前課題レポート 30%、事後課題レポート 60%、受講態度（質問や意見を述べる）10%で評価する。 ・なお「出席率 80%以上」を成績評価の前提とする。
学生への メッセージ	社会で注目されている AI・データサイエンス活用の最前線で活躍している講師陣から学んでください。社会に対する視野を広げることができ、就職活動においても選択肢を増やすことになり有利です。
担当者の 研究室等	7 号館 2F 非常勤講師室 1 号館 4F 諏訪教授室、7 号館 3F 石井教授室、1 号館 3F 伊藤教授室
備考	

科目名	コンピュータビジョン入門	科目名（英文）	Introduction to Computer Vision
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	寺内　睦博
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	われわれの視覚機能をコンピュータを使って実現する分野がコンピュータビジョンである。外界から入力される画像や映像から物体認識をしたり、状況を理解させたりすることをプログラムで実現するものである。このためにプログラミングの基礎から始めて、各種の画像処理の手法をプログラム作成を通じて学ぶ。さらに機械学習の初歩的な課題に取り組み、その仕組みを知ることを目的とする。
到達目標	プログラミングの基礎スキルを獲得し、それに基づいて各種の画像処理手法や機械学習の仕組みを学び、自分でプログラミングする素養を身につけること。
授業方法と留意点	毎回、パソコンを使用してプログラムを作成します。初歩的なプログラムの作成から始めて、徐々にステップアップします。欠席した場合には自分でフォローアップしないとついてこれなくなりますので注意が必要です。
科目学習の効果（資格）	基本的なプログラムの作成を通してプログラミングを学び、基本情報処理試験の基礎技能を養います。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション： コンピュータビジョンとは python ことはじめ	授業概要 画像処理と OpenCV python プログラミングの方法	自分でコンピュータビジョンについて調べる。 課題の完成
2	python 入門（1）	式、配列、データ構造、プログラム構造	授業内容の予習 課題の完成
3	python 入門（2）	制御構造	授業内容の予習 課題の完成
4	python 入門（3）	関数	授業内容の予習 課題の完成
5	python 入門（4）	アルゴリズム	授業内容の予習 課題の完成
6	OpenCV プラグらミング（1）	画像入力装置と静止画・動画フォーマット デジタル画像と配列	授業内容の予習 課題の完成
7	OpenCV プラグらミング（2）	色空間 濃淡変換	授業内容の予習 課題の完成
8	OpenCV プラグらミング（3）	フィルタ処理	授業内容の予習 課題の完成
9	OpenCV プラグらミング（4）	２値画像とモルフォロジ演算	授業内容の予習 課題の完成
10	OpenCV プラグらミング（5）	形状特徴の抽出	授業内容の予習 課題の完成
11	OpenCV プラグらミング（6）	画像の合成	授業内容の予習 課題の完成
12	OpenCV プラグらミング（7）	画像の差分	授業内容の予習 課題の完成
13	OpenCV プラグらミング（8）	幾何学変換	授業内容の予習 課題の完成
14	機械学習プログラミング(1)	ディープラーニング結果の利用(1)	授業内容の予習 課題の完成
15	機械学習プログラミング(2)	ディープラーニング結果の利用(2)	授業内容の予習 課題の完成

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	OpenCV による画像処理入門（改訂第３版）	小枝、上田、中村	講談社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内課題(80%)、プロジェクト課題(20%)
学生へのメッセージ	われわれの視覚情報処理を知ることは、脳のしくみを知ることにつながります。プログラミングは創造的な活動のひとつです。文系理系に関わらず、興味のある人の参加を待っています。
担当者の研究室等	寺内准教授室（１１号館１０階）
備考	

科目名	SDGs に学ぶ世界の課題	科目名（英文）	Learning Global Issues from SDGs
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊藤　譲.大川　謙蔵.大塚　正人.喜多　大三.佐藤　大作.白鳥　武
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	この科目は，学部の枠を越えた教養応用科目で，大学教養入門・実践のステップアップの講座としての位置づけられています. 科目のテーマである SDG s （持続可能な開発目標）とは，国連が定めた 2030 年までに達成を目指す 17 の目標で，わが国でもビジネス界のキーワードのひとつになっています. つまり，この科目は SDG s の全体像を主体的に学ぶ，本格的なアクティブラーニング型教養科目です．反転学習により獲得した基礎知識をグループワーク，ＡＢＤと振り返りにより生きた知識として定着させます．さらに，法学，経済学，環境工学，建築学，農学のその分野の第一人者の講義・問題提起から討議を深め，獲得した知識を生きた教養として身に付けることができます．このような流れを通じて，大学生として必要な，SDGs を理解するための教養（特に，社会，経済，環境等）を身につけ，その知識をもとに考え，自分の意見を持ち，討議ができるようになります.
到達目標	(1)世界の目標 SDGs(2030 年までの世界の目標)について知り，説明と討議をすることができる. (2)現代世界の課題について知り、SDGs との関係を説明することができる. (3)課題に対して、自ら主体的に取り組むことができる. (4)自分やチームの考えが効果的に伝わるプレゼンテーションをすることができる.
授業方法と留意点	ABD 読書法と様々な ICT ツールを活用するなど，アクティブラーニングの手法を駆使するので，極めて密度の高い授業となります．授業開始時には，事前学習における知識の定着を確認するため，ICT ツールによるクイズ，ミニプレゼンを行い，中盤から後半部で各テーマをとりあげます．学生は解説時にはメモをとり，主としてグループワークにより課題に取り組みます．授業最後には，振り返りシートに授業のふりかえりをまとめます．また，授業資料の管理状態も評価対象です.
科目学習の効果（資格）	社会課題を議論するための教養として SDGs（2030 年までの世界の目標）を知る．自分たちが未来を創る主体であると感じられるようになる．ABD による SDGs の主体的学び、各分野における第一人者によるテーマの解説、多様なメンバーとの討論により、自分の考えを持ち、討論ができるようになる.

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、授業の進め方	事前アンケート 科目の特徴、どのような力が身につくのかを知る CHAP１を協働でサマリ作成体験 リレープレゼン 振り返りシート	事後：CHAP１を復習して、復習シートを作成する
2	SDGs とは何か①	理解度確認テスト CHAP2 リレープレゼン、対話 理解度確認テスト、振り返りシート	事前：CHAP2 を学び、ABD サマリを作成する
3	SDGs とは何か②	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 理解度確認テスト、振り返りシート	事前：Moodle に掲載の資料を読み、ABD サマリを作成しておくこと
4	SDGs とは何か③	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 理解度確認テスト、振り返りシート	事前：Moodle に掲載の資料を読み、ABD サマリを作成しておくこと
5	気候変動に関する諸問題１	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 理解度確認テスト、振り返りシート	事前１：目標 13 を学び，ABD サマリを作成する 事前 2：下記動画を視聴し，関連する話題に関して説明できるようになっておくこと. ・気候変動とは https://www.youtube.com/watch?v=WVLDtd5nviw
6	気候変動に関する諸問題２	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 理解度確認テスト、振り返りシート	事前１：目標 16、10（特に 10.2,10.3）、4（特に 4.5,4.7）、6（特に 6.3、6.6）、11（11.1,11.2）を学び，ADB サマリを作成する 事前 2：以下の動画、資料等から複雑に絡み合った「負の連鎖」を理解し、複数の阻害問題の相互関係を俯瞰し、図にまとめてみること。 https://www.ff-ainu.or.jp/web/learn/culture/history/files/syougakusei.pdf
7	日本の食文化１	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート	事前１：目標 2、3 を学び、ABD サマリを作成する。 事前 2：日本の食文化１の動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。
8	日本の食文化２	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前１：CHAP3 を学び、ABD サマリを作成する。 事前２：日本の食文化２の動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。 事後：第１回レポート
9	地球共生デザインを考えるⅠ： 少数民族を巡る地球共生阻害問題群を考える～その１	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前１：16、10（特に 10.2,10.3）、5（特に 5.1,5.2）、6（特に 6.3、6.6）、11（11.1,11.2）の ABD サマリを作成する。 事前２:【資料 S】で相関図の導き方を学び、【地球共生デザイン予習課題書 A-カナダ】の動画、資料複数から複雑に絡み合った「負の連鎖」を理解し、複数の阻害問題の相互関係を俯瞰し、相関図にまとめてみること。その上で阻害問題を解決するプロジェクト提案を考えて PPT1 枚にまとめること。
10	地球共生デザインを考えるⅡ： 少数民族を巡る地球共生阻害問題群を考える～そ	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前１:目標:16、10(特に 10.2,10.3)、4(特に 4.5,4.7)、6（特に 6.3、6.6）、11（11.1,11.2）の ADB サマリを作成する 事前 2:前回も使った【資料 S】で相関図の導き方を学び、

		の２		【地球共生デザイン予習課題書 B-日本のアイヌ】の動画、資料複数から複雑に絡み合った「負の連鎖」を理解し、複数の阻害問題の相互関係を俯瞰し、相関図にまとめてみること。その上で阻害問題を解決するプロジェクト提案を考えて PPT1 枚にまとめること。
	11	日本の国際貢献と法整備支援１	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前１：目標 6、9、13 を学び、ABD サマリを作成する。 事前２：以下の Web 記事を読み、法制度と法整備の必要性について、の概要を把握しておくこと。 https://www.moj.go.jp/housouken/houso_lta_lta.html
	12	日本の国際貢献と法整備支援２	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート	事前１：目標 16、11、10 を学び、ABD サマリを作成する。 事前２：以下の Web 記事の初めの段落と第三の「私見」を読み、当時の社会状況を理解しておくこと。 https://www.moj.go.jp/content/001311759.pdf
	13	SDGs と ESG 投資１	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート	事前１：目標:8,9,12,17 を学び、ABD サマリを作成する 事前２：ESG 投資とは何かを理解する。 https://www.youtube.com/watch?v=IZJSFYtfCFE https://www.youtube.com/watch?v=9oIVX_sD76c
	14	SDGs と ESG 投資１	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前１：CHAP5 を学び、ABD サマリを作成する 事前２：SDGs 達成にために ESG 投資が果たす役割について理解する。 https://www.youtube.com/watch?v=VnCeFZYVPY8&t=436s https://www.youtube.com/watch?v=f71tA61EpUc 事後：第２回レポート
	15	成果発表	理解度確認テスト 全体を通しての学びの整理、共有、プレゼンテーション、振り返り 事後アンケート	事前：SDGs1-17 の復習 事後：第２回レポート

関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「SDGs の考え方と取り組みが、これ一冊でしっかりわかる教科書」(1680 円＋税)	バウンド	技術評論社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	・理解度確認クイズ（個人：10%） ・事前・事後学習課題・ABD サマリ（個人：15%） ・取組み姿勢（チーム：20%） ・成果発表・プレゼンテーション１回（チーム：10%） ・振り返りシート（個人：20%）、・レポート２回（個人：20%）、・授業資料管理（個人：5%） ※以上の合計で 60%以上の学生を合格とする。また、出席率 80%未満は成績評価の対象としない。期末試験は実施しない。
学生への メッセージ	この授業では，摂南大学のすべての学生が，学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います．この授業を履修することで，大学生として SDGs 実現のために必要な幅広い教養，コミュニケーション力，ファシリテーション力，学習方法が身に付き，さらに学部，学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう．
担当者の 研究室等	大塚教授（薬学部 11 号館 5F)、久保教授・学事顧問（７号館８F)、伊藤教授（１号館３F)、喜多教授（農学部１８号館２F)、白鳥准教授（１２号館７階)、佐藤准教授（１号館３F)、田中准教授（１号館７F)、大川准教授（11 号館 9F)
備考	この科目はアクティブラーニング入学式～キックオフセミナー～大学教養入門～大学教養実践からつながる科目で，教養を身につけながら学習法を修得することを目指しています．

科目名	SDGs に学ぶ世界の課題	科目名（英文）	Learning Global Issues from SDGs
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊藤　譲.大川　謙蔵.大塚　正人.喜多　大三.佐藤　大作.白鳥　武
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	この科目は，学部の枠を越えた教養応用科目で，大学教養入門・実践のステップアップの講座としての位置づけられています. 科目のテーマである SDGｓ（持続可能な開発目標）とは，国連が定めた 2030 年までに達成を目指す 17 の目標で，わが国でもビジネス界のキーワードのひとつになっています. つまり，この科目は SDGｓの全体像を主体的に学ぶ，本格的なアクティブラーニング型教養科目です．反転学習により獲得した基礎知識をグループワーク，ＡＢＤと振り返りにより生きた知識として定着させます．さらに，法学，経済学，環境工学，建築学，農学のその分野の第一人者の講義・問題提起から討議を深め，獲得した知識を生きた教養として身に付けることができます．このような流れを通じて，大学生として必要な，SDGs を理解するための教養（特に，社会，経済，環境等）を身につけ，その知識をもとに考え，自分の意見を持ち，討議ができるようになります.
到達目標	(1)世界の目標 SDGs(2030 年までの世界の目標)について知り，説明と討議をすることができる. (2)現代世界の課題について知り、SDGs との関係を説明することができる. (3)課題に対して、自ら主体的に取り組むことができる. (4)自分やチームの考えが効果的に伝わるプレゼンテーションをすることができる.
授業方法と留意点	ABD 読書法と様々な ICT ツールを活用するなど，アクティブラーニングの手法を駆使するので，極めて密度の高い授業となります．授業開始時には，事前学習における知識の定着を確認するため，ICT ツールによるクイズ，ミニプレゼンを行い，中盤から後半部で各テーマをとりあげます．学生は解説時にはメモをとり，主としてグループワークにより課題に取り組みます．授業最後には，振り返りシートに授業のふりかえりをまとめます．また，授業資料の管理状態も評価対象です.
科目学習の効果（資格）	社会課題を議論するための教養として SDGs（2030 年までの世界の目標）を知る．自分たちが未来を創る主体であると感じられるようになる．ABD による SDGs の主体的学び、各分野における第一人者によるテーマの解説、多様なメンバーとの討論により、自分の考えを持ち、討論ができるようになる.

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、授業の進め方	事前アンケート 科目の特徴、どのような力が身につくのかを知る CHAP１を協働でサマリ作成体験 リレープレゼン 振り返りシート	事後：CHAP１を復習して、復習シートを作成する
2	SDGs とは何か	理解度確認テスト CHAP2 リレープレゼン、対話 理解度確認テスト、振り返りシート	事前：CHAP2 を学び、ABD サマリを作成する
3	気候変動に関する諸問題１	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1：目標 13 を学び，ABD サマリを作成する 事前 2：下記動画を視聴し，関連する話題に関して説明できるようになっておくこと. ・気候変動とは https://www.youtube.com/watch?v=WVLDtd5nviw
4	気候変動に関する諸問題２	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1：目標 14，15 を学び，ADB サマリを作成する 事前 2：下記動画を視聴し，関連する話題に関して説明できるようになっておくこと. ・適応と緩和 https://www.youtube.com/watch?v=dTF9YoQPZjE
5	地球共生デザインを考えるⅠ： 少数民族を巡る地球共生阻害問題群を考える～その１	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1：16、10（特に 10.2,10.3）、5（特に 5.1,5.2）、6（特に 6.3、6.6）、11（11.1,11.2）の ABD サマリを作成する。 事前 2：【資料 S】で相関図の導き方を学び、【地球共生デザイン予習課題書 A-カナダ】の動画、資料複数から複雑に絡み合った「負の連鎖」を理解し、複数の阻害問題の相互関係を俯瞰し、相関図にまとめてみること。その上で阻害問題を解決するプロジェクト提案を考えて PPT1 枚にまとめること。
6	地球共生デザインを考えるⅡ： 少数民族を巡る地球共生阻害問題群を考える～その２	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 理解度確認テスト、振り返りシート	事前１：目標：16、10（特に 10.2,10.3）、4（特に 4.5,4.7）、6（特に 6.3、6.6）、11（11.1,11.2）の ADB サマリを作成する 事前 2：前回も使った【資料 S】で相関図の導き方を学び、【地球共生デザイン予習課題書 B-日本のアイヌ】の動画、資料複数から複雑に絡み合った「負の連鎖」を理解し、複数の阻害問題の相互関係を俯瞰し、相関図にまとめてみること。その上で阻害問題を解決するプロジェクト提案を考えて PPT1 枚にまとめること。
7	日本の食文化１	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート	事前１：目標 2、3 を学び、ABD サマリを作成する。 事前 2：日本の食文化１の動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。
8	日本の食文化２	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前１：CHAP3 を学び、ABD サマリを作成する。 事前２：日本の食文化２の動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。 事後：第１回レポート
9	日本の国際貢献と法整備支援１	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前 1：目標 16、11、10 を学び、ABD サマリを作成する。 事前 2：以下の Web 記事の初めの段落と第三の「私見」を読み、当時の社会状況を理解しておくこと。 https://www.moj.go.jp/content/001311759.pdf
10	日本の国際貢献と法整備支援２	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前 1：目標 16、11、10 を学び、ABD サマリを作成する。 事前 2：以下の Web 記事の初めの段落と第三の「私見」を読み、当時の社会状況を理解しておくこと。 https://www.moj.go.jp/content/001311759.pdf

	11	食糧安全保障１	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前１：目標２（2.4,2.c）を学び、ABD サマリを作成する 事前２：食料安全保障とバイオ燃料の関連性を理解する。（※日本語字幕を選択する。） The State of Food Security and Nutrition in the World 2020 : https://www.youtube.com/watch?v=64KLuGzGxEQ&ab_channel=FoodandAgricultureOrganizationoftheUnitedNations Introduction t
	12	食糧安全保障２	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート	事前１：目標：2（2.4,2.c）を学び、ABD サマリを作成する 事前２：フードロスとその日本の現状について理解する。 （※日本語字幕を選択する。） REDUCE THE FOOD LOSS : https://www.youtube.com/watch?v=60rb07dGHNQ&ab_channel=Cauz.jp, London's rubbish problem : https://www.youtube.com/watch?v=ccR2zK6yn8o&ab_channel=BBCLondon
	13	SDGs と ESG 投資１	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート	事前１：目標:8,9,12,17 を学び、ABD サマリを作成する 事前２：ESG 投資とは何かを理解する。 https://www.youtube.com/watch?v=IZJSFYtfCFE https://www.youtube.com/watch?v=9oIVX_sD76c
	14	SDGs と ESG 投資１	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前１：CHAP5 を学び、ABD サマリを作成する 事前２：SDGs 達成にために ESG 投資が果たす役割について理解する。 https://www.youtube.com/watch?v=VnCeFZYVPY8&t=436s https://www.youtube.com/watch?v=f71tA61EpUc 事後：第２回レポート
	15	成果発表	理解度確認テスト 全体を通しての学びの整理、共有、 プレゼンテーション、振り返り 事後アンケート	事前：SDGs1-17 の復習 事後：第２回レポート

関連科目：摂南大学で開講されている科目のすべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「SDGs の考え方と取り組みが、これ一冊でしっかりわかる教科書」（1680 円＋税）	バウンド	技術評論社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

・理解度確認クイズ（個人：10%）
・事前・事後学習課題・ABD サマリ（個人：15%）
・取組み姿勢（チーム：20%）
・成果発表・プレゼンテーション１回（チーム：10%）
・振り返りシート（個人：20%）、・レポート２回（個人：20%）、・授業資料管理（個人：5%）
※以上の合計で 60%以上の学生を合格とする。また、出席率 80%未満は成績評価の対象としない。期末試験は実施しない。

学生へのメッセージ：この授業では，摂南大学のすべての学生が，学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います．この授業を履修することで，大学生として SDGs 実現のために必要な幅広い教養，コミュニケーション力，ファシリテーション力，学習方法が身に付き，さらに学部，学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう．

担当者の研究室等：大塚教授（薬学部 11 号館 5F）、久保教授・学事顧問（７号館８F）、伊藤教授（１号館３F）、喜多教授（農学部１８号館２F）、白鳥准教授（１２号館７階）、佐藤准教授（１号館３F）、田中准教授（１号館７F）、大川准教授（11 号館 9F）

備考：この科目はアクティブラーニング入学式～キックオフセミナー～大学教養入門～大学教養実践からつながる科目で，教養を身につけながら学習法を修得することを目指しています．

科目名	まちづくり入門	科目名（英文）	introduction to Urban Planning
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	熊谷　樹一郎.池内　淳子.石田　裕子.伊藤　譲.稲地　秀介.上野山　裕士.久保　貞也.中塚　華奈.野長瀬　裕二.野村　佳子.増田　知也
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	これからの社会において「まち」の役割は重要になっている。まちを発展、維持していくために行政、団体、民間企業などさまざまな主体が計画を立て、課題を克服する活動を続けている。さらに今後は市民、学生が新たな担い手として期待されている。本講義では文理それぞれの観点から講演者を招き実践的な活動について知るとともに、大学の幅広い学術的知見を活用して摂南大学生が貢献するまちづくりの在り方を学び、検討を行う。
到達目標	（１）まちづくりの課題を多面的に理解できる （２）大学生が行えるまちづくりの可能性と限界を理解する （３）主体性と責任を持ってまちづくりに参加する知識と意識を持っている
授業方法と留意点	本授業ではまちづくりに関係する多才な講師によって構成される。行政経験者、民間での実務経験、コンサルティング経験者、および、市民活動の主催や支援、社会貢献の実行者などがそれぞれの専門的知見から「まちづくりとはなにか」を講義する。毎回の授業に予習と復習のための主体的な学びを設定する。
科目学習の効果（資格）	学生として大学の知識、技術を総動員して地域問題解決に当たる姿勢を理解する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	大学がまちづくりに関わる意義 国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり（１）	オリエンテーション 都市計画とまちづくり 理工学部都市環境工学科　熊谷教授	事前：シラバスを読み、自分にとっての学修ポイントを検討する 事後：授業担当者から指示する
2	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり（２）	交通とまちづくり 京阪ホールディングス枚方市駅周辺開発室　部長　大浅田 寛 氏 他	授業担当者から指示する
3	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり（３）	都心とまちづくり 大阪市立大学大学院都市経営研究科 佐藤 道彦 教授 （元堺市副市長、元大阪市都市調整局長）	授業担当者から指示する
4	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり（４）	グループ発表、討論会 理工学部都市環境工学科　熊谷教授	授業担当者から指示する
5	民間団体が関わるまちづくり（１）	産業とまちづくり 経済学部　野長瀬教授	授業担当者から指示する
6	民間団体が関わるまちづくり（２）	商業とまちづくり 経営学部　久保准教授	授業担当者から指示する
7	民間団体が関わるまちづくり（３）	空き家とまちづくり 理工学部住環境デザイン学科　稲地准教授	授業担当者から指示する
8	民間団体が関わるまちづくり（４）	観光とまちづくり 経済学部　野村教授	授業担当者から指示する
9	民間団体が関わるまちづくり（５）	グループ発表、討論会 理工学部都市環境工学科　熊谷教授	授業担当者から指示する
10	市民（大学生）が関わるまちづくり（１）	まちづくりの担い手としての市民 法学部　増田講師	授業担当者から指示する
11	市民（大学生）が関わるまちづくり（２）	福祉とまちづくり 現代社会学部　上野山講師	授業担当者から指示する
12	市民（大学生）が関わるまちづくり（３）	都市農業とまちづくり 農学部　中塚准教授	授業担当者から指示する
13	市民（大学生）が関わるまちづくり（４）	親水活動とまちづくり 理工学部都市環境工学科　石田教授	授業担当者から指示する
14	市民（大学生）が関わるまちづくり（５）	防災とまちづくり 理工学部建築学科　池内教授	授業担当者から指示する
15	大学生がまちづくりで担う役割	グループ発表、討論会 C科　熊谷教授	事前：これまでの講義の振り返り 事後：振り返りレポート

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	原則として、80%以上の授業参加が評価の対象となります。加えて、各回の事後レポートがすべて提出されていることも評価の前提条件となります。提出された事後レポートの採点結果を100%とした上で、総合評価されます。
学生へのメッセージ	ソーシャル・イノベーションを成立させるためには広い視野と深い洞察が必要となります。受講生による総合大学の社会貢献活動が実践的なものになるように多面的に学修してください。

担当者の 研究室等	1号館4階 熊谷教授室 1号館7階　野長瀬教授室（経済学部）　野村教授室（経済学部）
備考	

科目名	グローバル・シチズンシップ海外実習（入門）	科目名（英文）	Overseas Study for Global Citizenship(Introductory)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田　美保
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的

本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の必修科目の一つである。GCMP は、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン（地球市民）の育成を目指す副専攻である。GCMP は、国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)目標 4.7 「2030 年までに.持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得するようにする」に資するものである。

本科目の受講生は、グローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのいずれかに参加する。派遣先により現地での実習内容は異なるが、「グローバル・シティズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ。受講生には、この授業で得られた反省点を帰国後の各学部での学び、副専攻課程での学び、特に後の海外実習（応用）での学びに生かすことが期待される。

なお、本科目は単独で履修することもできるが、主としてグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の履修者を想定し、GCMP の必修科目「グローバル・シチズンシップ海外実習（入門）」と「海外語学研修」は目標や学習内容を共有する。

到達目標

・派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有している。
・派遣先の主要な社会課題について、課題の概要、解決への取り組み、また日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。
・派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。
・事前・事後授業等を含めた訓練により、外国語運用能力を向上させる。派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。TOEIC（英語の場合）の得点アップなど、客観的指標での成果も得る。
・英語力または現地言語の能力が不十分、現地事情の理解が不十分などの理由で、「理想とするレベルでの相互理解や信頼関係の構築には至らなかった」という挫折体験も得る。挫折体験と、その体験を帰国後の学びに生かすための計画を自身の言葉で説明できる。

※以上に加え、各派遣先に特化した到達目標を設定する場合がある。

授業方法と留意点

・事前授業、現地派遣、事後授業の 3 つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5 限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合（アルバイト、旅行等）による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。
・グローバル・シチズンシップ副専攻課

科目学習の効果（資格）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	事前授業①	留学に向けての動機付け	なし
2	事前授業②	参加者間で仲間意識を作る	レポート提出
3	現地実習	詳細は説明会、事前授業時に提示	現地講師の指示により
4	事後授業	留学での学びのふりかえり	レポート提出
5	成果報告会	留学での成果を披露	
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目

グローバル・シチズンシップ論（入門）、グローバル・シチズンシップ論（応用）、グローバル・シチズンシップ海外実習（応用）、Topics in Global Citizenship（EMI）、摂南大学 PBL プロジェクトⅠなど

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

事前授業評価　30%　（規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合）
現地活動評価　４０％　（現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価、テストスコア等の評価を総合）
事後授業評価　３０％　（成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価）

学生へのメッセージ

在学中に一度は海外に行きましょう。いけるなら二度行きましょう。二度行けるなら、グローバル・シチズンシップ副専攻の入門、応用の実習で二度行きましょう。

担当者の研究室等

鎌田講師室（２号館２階）

備考	

科目名	グローバル・シチズンシップ論（入門）	科目名（英文）	Global Citizenship (Introductory)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	大塚　正人.鎌田　美保
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	一つの地球社会に対して、未来を創る担い手として参画する市民、これからの多様化する社会において主体的に活動する市民を育成するという取組みをグローバル・シチズンシップ教育(GCED)という。これは、地球社会という国の枠組みを超えた概念であり、近年は日本だけではなく、他国においても注目され、徐々に基礎教育等に導入され始めている。 この科目は、グローバル・シチズンシップ副専攻課程修了のための必修科目である。当該副専攻課程を履修する最初の学期に履修することが望ましい。 受講者は、グローバル・シチズンシップ(GC)および GCE)の基礎的な概念を理解し、これらの概念が必要とされるに至ったグローバルな歴史的背景と、現在まで続く課題について、基礎的な知識を獲得する。また獲得した知識と理解について、説明できるようになることを目的とする。 　この講義は、GC と GCED に＜ついて＞の授業であると同時に、授業自体が GCED の一環である。GCED では、一方的な講義ではなく、受講生の主体的な学習と対話による学びが重視される。受講生には、この講義を通じて GCED を体験的に学びつつ、自らが GCED のファシリテーターとなり、この授業の内外で GCED の実践者となってゆく姿勢が求められる。
到達目標	到達目標は以下の通りである ●グローバル時代に必要な知識が習得されている ●グローバルな環境下で成功できるスキルを身につけている ●世界とつながっている 具体的には以下のようなコンピテンシーが求められる ●異なる文化、地域にいる人々への共感、深い共感 ●人的、制度的、規範的相互依存への理解 ●自分の行動が他者に影響しているという意識（ローカルがグローバルに与える影響） ●世界を知り、探求していく力 ●様々な視点を咀嚼する力 ●行動力 ●アイディアを共有していくこと ●グローバルまたは多文化環境において専門性を適用していく力
授業方法と留意点	●いわゆる「実習」ではなく、知識と理解を身につけることを主目標とする授業であるが、アクティブ・ラーニングは GCED の根幹である。 ●教員からの一方向の情報伝達は最小限に留め、受講する学生が自ら資料を読み、考え、他の学生および教員と対話しながら知識をつけ、理解を深めてゆく。 ●反転授業を授業方法として採用しているため、毎回の講義の事前学習は必須である。 ●学生には、自律的な予習・事前課題の遂行と復習、情報検索やファクトチェック、ディスカッションと質疑への積極的な参加が求められる。 ●教員によるファシ
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション（1）	オリエンテーション、受講上の注意、スケジュール確認ほか チーム・ビルディング	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う
2	イントロダクション（2）	チーム・ビルディング	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う
3	「グローバル・シチズンシップ」の概念（1） ５つの P の１つ目：People 人間、貧困問題、飢餓問題について、(その１)	事前に ABD 読書法でテキストを読んで要約しサマリーシートを作成してくる（事前課題）。講義では相互にプレゼンテーションして内容共有・理解する。。	【事前課題】指定された教材の割り当てられた部分を ABD 読書法にて読み、サマリーを B5 用紙 5 枚に作成してくる。
4	「グローバル・シチズンシップ」の概念（1） ５つの P の１つ目ーPeople 人間、貧困問題、飢餓問題について、(その２)	与えられた課題に関して自ら資料を情報検索し、ファクトチェック、それらをまとめ、考察し、発表、討論する。 課題に関するグローバル・シチズンシップを身につけて、自らの具体的な行動変容について考察する。	【事後課題】講義内で配られるプリントをその日のうちに仕上げて、Moodle に写真をアップロードする。
5	「グローバル・シチズンシップ」の概念（2） ５つの P の１つ目：People 人間、ジェンダー問題について、多様性とは？、水の問題について（その１）	事前に ABD 読書法でテキストを読んで要約しサマリーシートを作成してくる（事前課題）。講義では相互にプレゼンテーションして内容共有・理解する。。	【事前課題】指定された教材の割り当てられた部分を ABD 読書法にて読み、サマリーを B5 用紙 5 枚に作成してくる。
6	「グローバル・シチズンシップ」の概念（2） ５つの P の１つ目：People 人間、ジェンダー問題について、多様性とは？、水の問題について（その２）	与えられた課題に関して自ら資料を情報検索し、ファクトチェック、それらをまとめ、考察し、発表、討論する。 課題に関するグローバル・シチズンシップを身につけて、自らの具体的な行動変容について考察する。	【事後課題】講義内で配られるプリントをその日のうちに仕上げて、Moodle に写真をアップロードする。
7	「グローバル・シチズンシップ」の概念（3） ５つの P の２つ目：Prosperity 豊かさ、まち(都市）の抱える問題について、持続可能な消費と生産について（その１）	事前に ABD 読書法でテキストを読んで要約しサマリーシートを作成してくる（事前課題）。講義では相互にプレゼンテーションして内容共有・理解する。。	【事前課題】指定された教材の割り当てられた部分を ABD 読書法にて読み、サマリーを B5 用紙 5 枚に作成してくる。
8	「グローバル・シチズンシップ」の概念（3）	与えられた課題に関して自ら資料を情報検索し、ファクトチェック、それらを	【事後課題】講義内で配られるプリントをその日のうちに仕上げて、Moodle に写真をアップロードす

	５つのＰの２つ目：Prosperity 豊かさ、まち(都市）の抱える問題について、持続可能な消費と生産について（その２）	まとめ、考察し、発表、討論する。課題に関するグローバル・シチズンシップを身につけて、自らの具体的な行動変容について考察する。	る。
9	「グローバル・シチズンシップ」の概念（４）５つのＰの２つ目：Prosperity 豊かさ、社会基盤の問題について、人権等の不平等に関する問題について（その１）	事前に ABD 読書法でテキストを読んで要約しサマリーシートを作成してくる（事前課題）。講義では相互にプレゼンテーションして内容共有・理解する。。	【事前課題】指定された教材の割り当てられた部分を ABD 読書法にて読み、サマリーを B5 用紙５枚に作成してくる。
10	「グローバル・シチズンシップ」の概念（４）５つのＰの２つ目：Prosperity 豊かさ、社会基盤の問題について、人権等の不平等に関する問題について（その２）	与えられた課題に関して自ら資料を情報検索し、ファクトチェック、それらをまとめ、考察し、発表、討論する。課題に関するグローバル・シチズンシップを身につけて、自らの具体的な行動変容について考察する。	【事後課題】講義内で配られるプリントをその日のうちに仕上げて、Moodle に写真をアップロードする。
11	「グローバル・シチズンシップ」の概念（５）５つの Ｐ の３つ目：Planet 地球、気候変動の問題について、水産資源の問題について（その１）	事前に ABD 読書法でテキストを読んで要約しサマリーシートを作成してくる（事前課題）。講義では相互にプレゼンテーションして内容共有・理解する。。	【事前課題】指定された教材の割り当てられた部分を ABD 読書法にて読み、サマリーを B5 用紙５枚に作成してくる。
12	「グローバル・シチズンシップ」の概念（５）５つの Ｐ の３つ目：Planet 地球、気候変動の問題について、水産資源の問題について（その２）	与えられた課題に関して自ら資料を情報検索し、ファクトチェック、それらをまとめ、考察し、発表、討論する。課題に関するグローバル・シチズンシップを身につけて、自らの具体的な行動変容について考察する。	【事後課題】講義内で配られるプリントをその日のうちに仕上げて、Moodle に写真をアップロードする。
13	「グローバル・シチズンシップ」の概念（６）５つのＰの４，５番目:Peace 平和と、Partnership パートナーシップ、争いのない平和を知ることといろいろな形で,みんなが協力し合う大切さを知ること（その１）	事前に ABD 読書法でテキストを読んで要約しサマリーシートを作成してくる（事前課題）。講義では相互にプレゼンテーションして内容共有・理解する。。	【事前課題】指定された教材の割り当てられた部分を ABD 読書法にて読み、サマリーを B5 用紙５枚に作成してくる。
14	「グローバル・シチズンシップ」の概念（６）５つのＰの４，５番目:Peace 平和と、Partnership パートナーシップ、争いのない平和を知ることといろいろな形で,みんなが協力し合う大切さを知ること（その２）	与えられた課題に関して自ら資料を情報検索し、ファクトチェック、それらをまとめ、考察し、発表、討論する。課題に関するグローバル・シチズンシップを身につけて、自らの具体的な行動変容について考察する。	【事後課題】講義内で配られるプリントをその日のうちに仕上げて、Moodle に写真をアップロードする。
15	総括	授業全体の振り返りワーク	【事後課題】講義内で配られるプリントをその日のうちに仕上げて、Moodle に写真をアップロードする。

関連科目	SDGs で学ぶ世界の課題、グローバル・シチズンシップ論（応用）、グローバル・シチズンシップ海外実習（入門）、グローバル・シチズンシップ海外実習（応用）、Topics in Global Citizenship (EMI)、摂南大学 PBL プロジェクトⅠなど

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	知っていますか？SDGs　ユニセフとめざす２０３０年のゴール	日本ユニセフ協会	さ・え・ら書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	SDGs 時代の教育	北村友人他	学文社
2	SDGs 時代の学びづくり	かながわ開発教育センター	明石書店
3	貧しい人を助ける理由	デイビッド・ヒューム	日本評論社

評価方法（基準）	平常評価　８０％　（小テスト、平常の提出物、グループワークや質疑への貢献を総合的に評価する） プレゼンテーション課題　２０％　（作成過程を含む）
学生へのメッセージ	グローバル・シチズンシップ副専攻で価値ある学びの場を一緒につくりましょう。
担当者の研究室等	摂南大学枚方キャンパス薬学部Ⅰ号館５階生命融合化学分野
備考	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックにかける時間、自発的な英語のトレーニングや、グローバル教育センター主催の学習イベントに参加する時間等も全て合算し、週平均で４時間程度、総計で６０時間程度の授業外学修時間を確保すること。

科目名	グローバル・シチズンシップ論（応用）	科目名（英文）	Global Citizenship (Advanced)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	大塚　正人.鎌田　美保
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	グローバル・シチズンシップ副専攻課程修了のための必修科目である。グローバル・シチズンシップ論（入門）履修後に履修することが望ましい。 本科目はグローバル・シチズンシップ論（入門）で学んだ知識や概念等をもとに、世界や日本国内における社会課題に目を向け、課題解決のために必要なことを学び、解決に向けて実践していく科目である。授業自体がグローバル・シチズンシップ教育の一環であり、受講者自身が授業を通じ体験的に学び、実践者として行動していく姿勢が求められる。
到達目標	・世界や日本国内に存在する社会課題について、歴史的背景、現状等が理解できる ・さまざまな分野での実践者の経験から学び、実践上の留意点を理解できる ・関心ある社会課題について分析し、課題解決の方策の提案ができる
授業方法と留意点	・いわゆる一方的な講義ではなく、学んだことをもとにグループでディスカッションしたり、関心のある課題について調査、発表するなど、主体的に取り組む形式が多い。 ・取り扱う課題により、外部講師を招聘し、実践に関する講義やワークショップ等も実施する。 ・本科目は 2023 年度後期 90 分授業ｘ２・３コマの集中講義で実施される予定である。授業予定日は 9 月 30 日、10 月 7 日、10 月 14 日、10 月 21 日、11 月 4 日、11 月 11 日、11 月 18 日、11 月 26 日。（変更する場合はポータルサイト等で連絡する） 初回授業以降は
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション①	授業概要、受講方法、注意点の確認 日本におけるグローバルシチズンシップ、SDGｓ	指定された教材の読解、課題を行う
2	イントロダクション②	日本におけるグローバルシチズンシップ、SDGｓ	指定された教材の読解、課題を行う
3	グローバルシチズンシップと地球（Planet）気候変動と自然の豊かさを守る①	ゲストレクチャー	指定された教材の読解、課題を行う
4	グローバルシチズンシップと地球（Planet）気候変動と自然の豊かさを守る②	ゲストレクチャーから学んだことをまとめ、日々の生活を振り返る、日常の中で実践できることを考え、アクションプランを作成する	指定された教材の読解、課題を行う
5	グローバルシチズンシップと地球（Planet）エシカル消費①	ゲストレクチャー	指定された教材の読解、課題を行う
6	グローバルシチズンシップと地球（Planet）エシカル消費②	ゲストレクチャーから学んだことをまとめ、日々の生活を振り返る、日常の中で実践できることを考え、アクションプランを作成する	指定された教材の読解、課題を行う
7	グローバルシチズンシップと人間（People）ジェンダー平等と多様性①	ゲストレクチャー	指定された教材の読解、課題を行う
8	グローバルシチズンシップと人間（People）ジェンダー平等と多様性②	ゲストレクチャーから学んだことをまとめ、日々の生活を振り返る、日常の中で実践できることを考え、アクションプランを作成する	指定された教材の読解、課題を行う
9	グローバルシチズンシップと人間（People）貧困①	ゲストレクチャー	指定された教材の読解、課題を行う
10	グローバルシチズンシップと人間（People）貧困②	ゲストレクチャーから学んだことをまとめ、日々の生活を振り返る、日常の中で実践できることを考え、アクションプランを作成する	指定された教材の読解、課題を行う
11	グローバルシチズンシップと繁栄（Prosperity）働きがいと経済成長①	ゲストレクチャー	指定された教材の読解、課題を行う
12	グローバルシチズンシップと繁栄（Prosperity）働きがいと経済成長②	ゲストレクチャーから学んだことをまとめ、日々の生活を振り返る、日常の中で実践できることを考え、アクションプランを作成する	指定された教材の読解、課題を行う
13	事業アイディアを考える①	これまでの学びを生かし、自ら課題と感じたことの解決に向けてグループで活動を行う	指定された教材の読解、課題を行う
14	事業アイディアを考える②	同上	指定された教材の読解、課題を行う
15	まとめ	全体のまとめ、ふりかえり	指定された教材の読解、課題を行う

関連科目	グローバル・シチズンシップ論（入門）、グローバル・シチズンシップ海外実習、摂南大学 PBL プロジェクトなど

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	知っていますか？SDGs　ユニセフとめざす２０３０	日本ユニセフ協会	さ・え・ら書房

	年のゴール			
	2			
	3			

評価方法 （基準）	平常点 40%、発表 30%、期末レポート 30%
学生への メッセージ	身近な場所で自ら行動が起こせるきっかけになればと思っています。受講生同士の関わりからも多くのことも学んでもらいたいと思いますので、積極的に参加してください。
担当者の 研究室等	摂南大学枚方キャンパス薬学部Ｉ号館５階生命融合化学分野
備考	

科目名	Topics in Global Citizenship (EMI)	科目名（英文）	Topics in Global Citizenship (EMI)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	カーティス　チュウ
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	This course is compulsory for those who are taking the Global Citizenship Minor Program. The main goal of this course is for students to understand the necessary knowledge, skills, and attitudes to become a global citizen. Students are expected to have learned basic concepts of global citizenship in グローバル・シチズンシップ論（入門）. This course discusses several specific topics on SDGs, human rights and equality, war and peace, politics and citizenship, economic justice, global environment, and cultural rights. Students will also be empowered and encouraged to take on the responsibilities of global citizenship. Through a problem posing approach, students will be challenged to rethink about dominant ideologies and how they contradict with the ideas of global citizenship. Additionally, there will be opportunities to engage in discussions with students in a foreign country, which will allow students to learn perspectives from those who have with different cultural values. This course will also be using collaborative online international learning (COIL) to learn together with students in different countries.
到達目標	1. Increase intercultural communicative competency with opportunities to communicate across cultures. 2. Increase knowledge of both historical and recent global events. 3. Acquire necessary skills and behaviors to become a global citizen. 4. Acquire proper attitude to become responsible to the global environment. 5. Improve problem solving ability to tackle global issues. 6. Improve ability to communicate about serious issues using English.
授業方法と留意点	This course will be taught entirely in English, and the reading materials will also be in English. Students are often required to research for information to expand their knowledge, so that discussions in class will be more informative and in depth. The c
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Course introduction.	Introduction to course outline and materials	
2	Global citizenship and Sustainable Development Goals (SDGs)	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of global citizenship
3	Global citizenship and Sustainable Development Goals (SDGs)	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of SDGs
4	Human rights and equality	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of human rights
5	War and peace Collaboration with students at Fayetteville State University (date might change)	Lecture, pair work, group work, Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
6	War and peace Collaboration with students at Fayetteville State University (date might change)	Lecture, pair work, group work, Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
7	War and peace Collaboration with students at Fayetteville State University (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
8	War and peace Collaboration with students at Fayetteville State University (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
9	Politics and the role of citizens	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of citizens participating in politics 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
10	Economic justice	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of economic justice

			3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
11	Global environment	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of local environmental issues
12	Collaboration with Australian and Indonesian students (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
13	Collaboration with Australian and Indonesian students (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
14	Collaboration with Australian and Indonesian students (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
15	Collaboration with Australian and Indonesian students (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)

関連科目：グローバル・シチズンシップ論（入門）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Global Citizenship: Engage in the Politics of a Changing World 【※注意 この教科書は大学のブックセンターで取扱いません。担当教員の指示する方法で購入して下さい。不明の時は教員まで連絡して下さい】	Julie Knutson	Nomad Press
2			
3			

評価方法（基準）
Attendance and participation: 30%
Completion of assignments: 30%
Presentations: 40%

学生へのメッセージ
Students are encouraged to use English in the classroom to share your ideas with each other.

We will be doing online exchanges with students in different countries in this course. This will be an interesting collaboration, so let's look forward to learning together. If you are not confident in your English skills, I will support you so please do not worry.

担当者の研究室等：カーティス講師室（２号館２階）

備考：

科目名	グローバル・シチズンシップ海外実習（応用）	科目名（英文）	Overseas Study for Global Citizenship (Advanced)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田　美保
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の必修科目の一つである。GCMP は、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン（地球市民）の育成を目指す副専攻である。GCMP は、国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)目標 4.7 「2030 年までに.持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得するようにする」に資するものである。 本科目を履修する学生は「グローバル・シチズンシップ海外実習（入門）」または同等の科目を履修済でなければならない。履修者は、グローバル教育センターが主催する海外派遣プログラムのいずれかに参加し、これまでの副専攻および各学部での学びを生かした応用レベルの活動を行う。派遣先により現地での実習内容は異なるが、「グローバル・シティズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ。受講生には、この科目での学びを GCMP の集大成とする成果報告を行い、各学部での卒業研究や進路決定に活用することが期待される。 なお、事前に承認された活動（例：協定校への長期留学を利用した社会貢献プロジェクト）の成果報告をもって本科目の単位を認定する場合がある。
到達目標	・派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有し、当該の派遣プログラムの主題となる社会課題との関連を説明できる。 ・当該の派遣プログラムの主題となる社会課題について、課題の概要と解決への取り組みを実体験に基づいて説明できる。また、日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。 ・派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通を行い、相互理解と信頼関係を築く。 ・異なる言語、文化が混在するチームで課題に取り組み、必要に応じてリーダーシップをとる経験を得る。 ・副専攻履修の開始時から継続的な訓練を行って身につけた外国語運用能力をさらに向上させる。帰国後の TOEIC（英語の場合）の得点アップなど、客観的指標での成果も得る。 ・挫折や失敗の経験も含めた成果を、副専攻を新たに履修する後輩学生への助言として還元し、自身の卒業研究や進路決定に生かす。 ※以上に加え、各派遣先に特化した到達目標を設定する場合がある。
授業方法と留意点	・事前授業、現地派遣、事後授業の 3 つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5 限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合（アルバイト、旅行等）による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。 ・年度末にあたる 2～3 月に現地派遣さ
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	年間スケジュールは概ね次の通りである。募集説明会～事前授業～現地派遣～事後授業のサイクルが、年間 2 回実施される。（　）内は同一年度の二サイクル目で、現地派遣が年度末の 2～3 月になる場合のスケジュールである。 ・募集説明会：4 月中旬　(9 月下旬～10 月上旬) ・事前授業 10 回：6 月中下旬～7 月下旬　(11 月～2 月) ・現地派遣：2 週間程度　8 月中旬～9 月上中旬　(2 月中下旬～3 月下旬) ・事後授業 5 回 (成果報告会含む)：9 月～10 月中旬　(3 月～4 月下旬) 【注意】新型コロナウィルス拡大の	派遣先では、安全と健康を最優先しつつ、団体行動、ルール順守が求められる。応用レベルに相応しい成果報告につなげられるよう、積極的に行動し、メモ、写真、動画などを可能な限り残す。	事前授業では、応用レベルの参加者に相応しい「地球市民」概念の理解、派遣先の社会事情と課題について自ら学び準備をする姿勢が求められる。SDGs 関連のワークショップ、グローバル教育センターが提供する語学トレーニングのプログラムにおいてもリーダーシップをとることが期待される。 事後授業では、現地で得られた体験と情報を時間をかけて振り返り、自身にとっての最大の成果は何であったかを特定し、今後の学びにどう生かすかを考えるワークショップを行う。ワークショップに基づき、各自の成果報告書（レポート）および小グループ
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	

<table>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>事前授業評価　30％　（規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合）
現地活動評価　４０％　（現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価、テストスコア等の評価を総合）
事後授業評価　３０％　（成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価）</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td></td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>鎌田講師室（２号館２階）</td></tr>
<tr><td>備考</td><td></td></tr>
</table>

科目名	大学教養基礎Ⅰ	科目名（英文）	
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	上野山　裕士.フーパー　トッド.増田　知也.若城　康伸
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	摂南大学のなかでもとくに文系学科における学びについて、対話、グループワーク、プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニング手法を用いて理解を深める。大学教養基礎Ⅰでは、法学部、経済学部、国際学部における学びを取り上げる。この講義を通じて履修者は、摂南大学における学修方法を体得するとともに、学修者自身の関心事を明確にすることが期待される。
到達目標	①摂南大学法学部、経済学部、国際学部における学びの概要を理解し、その特徴を説明することができる。 ②アクティブ・ラーニング手法の体験を通じて、摂南大学における主体的な学びの手法を理解し、実践することができる。 ③自らの学術的な関心事を口頭および文章を用いて表現することができる。
授業方法と留意点	PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、グループでの対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどのアクティブ・ラーニング手法を積極的に取り入れた授業を実施する。受講生には、それらに主体的に参画することを求める。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方についての説明、グループの決定、本講義における学びの方法について対話的に考える	【事前】事前配布資料を熟読する 【事後】本講義における学びの方法を復習する
2	法学部における学びについて（オンデマンド）	法学部教員による学部および講義担当者の専門領域を中心とした学部における学びについての紹介	【事前】法学部について調べる 【事後】講義内容のポイント、自身の関心事を整理し、事前学修シートを作成する
3	経済学部における学びについて（オンデマンド）	経済学部教員による学部および講義担当者の専門領域を中心とした学部における学びについての紹介	【事前】経済学部について調べる 【事後】講義内容のポイント、自身の関心事を整理し、事前学修シートを作成する
4	国際学部における学びについて（オンデマンド）	国際学部教員による学部および講義担当者の専門領域を中心とした学部における学びについての紹介	【事前】国際学部について調べる 【事後】講義内容のポイント、自身の関心事を整理し、事前学修シートを作成する
5	法学部における学びについてグループで考える①	教員からの話題提供（問いかけ）とグループでの調査および対話	【事前】オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる　【事後】調査および対話内容の整理
6	法学部における学びについてグループで考える②	教員からの話題提供（問いかけ）とグループでの調査および対話	【事前】オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる　【事後】調査および対話内容の整理
7	経済学部における学びについてグループで考える①	教員からの話題提供（問いかけ）とグループでの調査および対話	【事前】オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる　【事後】調査および対話内容の整理
8	経済学部における学びについてグループで考える②	教員からの話題提供（問いかけ）とグループでの調査および対話	【事前】オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる　【事後】調査および対話内容の整理
9	国際学部における学びについてグループで考える①	教員からの話題提供（問いかけ）とグループでの調査および対話	【事前】オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる　【事後】調査および対話内容の整理
10	国際学部における学びについてグループで考える②	教員からの話題提供（問いかけ）とグループでの調査および対話	【事前】オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる　【事後】調査および対話内容の整理
11	プレゼンテーションに向けたポスター作成	グループとして学びのテーマを１つ選定し、発表用のポスターを作成する	【事前】ポスター作成に向けた準備 【事後】ポスター発表会に向けた準備
12	ポスター発表会､ふりかえり①	グループごとに選定したテーマについて発表、教室全体で対話を行い、ここまでの授業のふりかえりを行う	【事前】成果報告会の準備　【事後】成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
13	ポスター発表会､ふりかえり②	グループごとに選定したテーマについて発表、教室全体で対話を行い、ここまでの授業のふりかえりを行う	【事前】成果報告会の準備　【事後】成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
14	学びレポートの作成（オンデマンド）	グループで取り上げたテーマのなかからさらに学術的関心事を絞り込み、文献等を用いてレポートを作成する	【事前】レポート作成に向けた情報収集 【事後】レポート記載内容のふりかえり
15	レポートに対するフィードバック（オンデマンド）	受講生から提出された学びレポートを踏まえた総括的講義	【事前】各学部における学びの内容の復習 【事後】授業全体のふりかえり

関連科目	大学教養基礎Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	グループワークおよびポスター発表会への参画度合い（ピア評価；15%）、グループで作成するポスター（25%）のほか、個人で作成する事前学修シート（30%）、学びレポート（20%）、ふりかえりシート（10%）の内容を総合的に評価し、60%以上を合格とする。評価にあたっては、成果物の内容に加えて、ルーブリック表などを用いた担当教員による評価、プロジェクトメンバーによるピア評価を積極的に取り入れる。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	3 号館 3 階　上野山研究室 １号館７階　若城研究室
備考	・本講義ではオンデマンド授業と対面授業を実施します。対面授業は、2023 年 9 月 5 日（火）、6 日（水）の 1 限～5 限に開講し、履修者はこの

	対面授業にすべての時間、出席することが必須となります。 ・本講義は、教養科目「大学教養入門」(1年次開講）を履修または修得済の１、2年次学生（農学部生は修得済の2年次）のみ履修することができます。 ・講義の性質上、履修者は、ファシリテーターとしての基礎的な素養を身につけていることが期待されます。

科目名	大学教養入門	科目名（英文）	Introduction to Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	寺内　睦博.石井　三恵.坂口　有芸.堀田　裕子
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TKY1458a1,L 科：LKY1360a1,D 科・S 科：IKY1367a1,J 科：JKY1369a1,W 科：WKY1348a1		

授業概要・目的	本科目は学部の枠を越えた教養入門科目です．本科目の目的は，大学生としての教養を身につけるスタートラインに立つことにあり，自らが主体的に知識を獲得し，対話を通して理解を深め，表現するための技術等を修得することです．授業では教養の入門書を用いて ABD（アクティブ・ブック・ダイアログ）読書法や協働学習の習慣を身につけるとともに，チームワーク能力，コミュニケーション能力等を身につけることを目指します．
到達目標	(1)大学生に必要な教養の基礎知識を身につけている． (2)ABD による読書法を身につけている． (3)チームワーク能力を身につけ，対話を通じた協働学習をすることができる． (4)SDG s と UNAI について基礎的な知識を身につけている． (5)読書が好きで、意義を理解して読書習慣を身につけている． (6)コミュニケーション能力を身につけ，自分の考えを相手に伝え，相手の考えを理解することができる． (7)自主的，計画的に学ぶ学習習慣を身につけている．
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で，自ら主体的に，仲間と対話を通して理解を深め，表現するための技術を修得します．教養の入門書として一般書を教材として，ABD（アクティブ・ブック・ダイアログ）読書法や ICT ツールを活用して，読書，対話，発表等の協働学習による学びを体験します．この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を一方的に伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることが特徴です．したがって，諸君が積極的に参加することが大切です．
科目学習の効果（資格）	大学生に必要な教養の基礎知識，ABD 法等のアクティブ・ラーニングによる協働学習の方法，自主学習の習慣などが身につく． 学習における ICT ツールの活用方法を知ることができる．

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 『おとなの教養』序章　私たちはどこから来て、何処へ行くのか	アイスブレイク 事前アンケート 本科目で，どのような力が身につくのか 「教養とは何か？」、理解度確認クイズ、振り返り ABD の体験	事前学習：『おとなの教養』　序章を読む(1.5 時間以上)
2	教養入門：第一章　宗教	教科書の紹介，概要 チーム作り，授業の約束事 ABD による学習の進め方の説明 ABD 法に挑戦「第一章 宗教」 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習：教科書　第一章を読む(1.5 時間以上)
3	教養入門:第三章　人類の旅路	解説 協働学習，対話 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習：教科書　第三章を読む(1.5 時間以上)
4	教養入門:第四章　人間と病気	解説 協働学習，対話 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習:教科書　第四章を読み事前学習シートを作成する(1.5 時間以上)
5	教養入門：第五章　経済	解説 協働学習，対話 理解度確認クイズ，振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習:教科書　第五章を読事前学習シートを作成する(1.5 時間以上)
6	教養入門：中間成果発表	ポスター作成の説明 プレゼン、質疑応答 振り返り	事前学習：中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案（3 時間以上） 事後学習：第１回レポート
7	世界を知る教養:国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGs の概要 SDG s とは何か 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習:SDGs とは何か,指定した資料を調べる（3 時間以上）
8	世界を知る教養:国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDG s を考える ワールドカフェ方式対話 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習：SDG s とは何か，図書館，ネット等で調べる．自分の意見を持つ．（1.5 時間以上）
9	世界を知る教養:国連アカデミックインパクト	国連の役割と歴史 本学の取り組み 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習：UNAI とは何かを調べる 事後学習：第２回レポート
10	自分を知る教養：岸見著『アドラー性格を変える心理学』 序章　「性格は変わらない」は本当か？ 第一章 虚栄心・嫉妬・憎しみ	教科書の紹介、はじめに 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習：『アドラー性格を変える心理学』序章・第一章を読み事前学習シートを作成するむ(1.5 時間以上)
11	自分を知る教養： 第二章 控え目・不安・臆病	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習:教科書　第二章を読み事前学習シートを作成するむ(1.5 時間以上)
12	自分を知る教養： 第三章 快活・かたくな・気分屋	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習:教科書　第三章を読み事前学習シートを作成するむ(1.5 時間以上)
13	自分を知る教養： 第四章 怒り・悲しみ・羞恥心	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ，振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習:教科書　第四章を読み事前学習シートを作成するむ(1.5 時間以上)
14	自分を知る教養:中間成果発表	ポスター作成 発表・質疑応答 振り返り	事前学習：中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案（3 時間以上） 事後学習：第３回レポート

				（2 時間以上）
	15	大学教養入門：まとめ	グループワーク「教養とは何か？」 事後アンケート	事後学習：第４回レポート （2 時間以上）

関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	おとなの教養	池上彰	NHK 出版
2	アドラー性格を変える心理学	岸見一郎	NHK 出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法
（基準）

・授業への取り組み 15%
・プレゼン 15%
・レポート 20%
・振り返りシート 15%
・クイズ 15%
・事前学習シート 15%
・ファイリング 15%

以上の評価点の合計で 60%以上を合格とする．期末試験は実施しない．
なお，原則として出席率 80%以上の学生を合格者の対象とする．

学生への メッセージ	この科目は摂南大学独自の教養科目です．授業では，すべての学部の学生が，学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います．この授業を履修することで，大学生としてふさわしい教養の基礎と学習方法が身に付き，さらに学部，学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう．
担当者の 研究室等	寺内睦博（11 号館 10F）、石井三恵（７号館５F），坂口有芸（７号館５F），堀田裕子（３号館３F）
備考	この科目は，入学式～キックオフセミナーからつながる科目です．教養を身につけながら学習法を身につけることを目指しています．また，学部や学科を越えた多くの友人を見つけることもできます．

科目名	大学教養実践	科目名（英文）	Practical Learning of Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	寺内　睦博.石井　三恵.鎌田　美保.坂口　有芸.新居　英志.森　亜貴
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TKY1458a1,L 科：LKY1360a1,D 科・S 科：IKY1367a1,J 科：JKY1369a1,W 科：WKY1348a1		

授業概要・目的	この科目は，チームで協働して読書を行い，プレゼンテーションと対話を通じて，学びを深める形式で学ぶ学部の枠を越えた教養実践科目です．前期開講の大学教養入門のステップアップの講座としての位置づけです． 本科目の目的は，大学生として必要な教養として，文学，社会学や経済学の入門的知識を身につけ，その知識をもとに協働学習により社会課題の解決を体験します．そして，知識としての教養を実社会での実践にむすびつけることを目指します．
到達目標	(1)大学生として必要な教養レベルを身につけ，実践的に討議することができている． (2)ABD による読書法の基礎（要約，プレゼンテーション，対話）を身に付けている． (3)自分が知りたいと思うことのテーマ設定ができる． (4)チームワーク能力やリーダーシップを身に付けている． (5)わかりやすいプレゼンテーションを行うことができる． (6)テーマにそった対話（感想，質疑応答）を行うことができる． (7)自主学習の習慣を身に付けている．
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で，自ら主体的に，仲間と対話を通して理解を深め，表現するための技術等を修得します．大学生として必要な教養を身につけ，身につけた教養，知識をもとに，社会課題の解決策を協働学習により検討します．この科目では，これまでの授業とは異なり，教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるので，諸君が積極的に参加することが大切です．
科目学習の効果（資格）	大学生に必要な教養の知識が身につき,それを元に社会課題について討議できる．ABD や QFT 等の協働学習の方法が身につく．

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 私たちはいま、どこにいるのか？	アイスブレイク 事前アンケート 授業のルール 解説（教科書、ABD とは） 協働学習（p.18-47：要約，プレゼン，対話），振り返りシート	『おとなの教養２』序章を読み，事前学習シートを作成する。
2	私たちはいま、どこにいるのか？： 第一章「AI とビッグデータ」	チーム分け，役割分担，確認試験 解説（振り返りシート） 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習（要約，プレゼン，対話） 振り返りシート	教科書第一章を読み，事前学習シートを作成する．
3	私たちはいま、どこにいるのか？： 第二章「キャッシュレス社会と仮想通貨」	解説（事前学習シート）、確認試験 協働学習（要約，プレゼン，対話） 振り返りシート	教科書第二章を読み，事前学習シートを作成する．
4	私たちはいま、どこにいるのか？： 第三章「想像の共同体」	解説（事前学習シート）、確認試験 協働学習（要約，プレゼン，対話） 投票と表彰，振り返りシート	教科書第三章を読み，事前学習シートを作成する． ポスター・プレゼンの準備を行う（2 時間程度）
5	私たちはいま、どこにいるのか？ 中間発表１回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答，評価 振り返りシート	教科書第四章～六章を読み，事前学習シートを作成する． 事後学習：第１回レポート
6	このパンデミックで人類の未来はどう変わるのか？： 第一章「独裁国家はパンデミックに強いのか」	解説，確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明協働学習（要約・プレゼン・対話） 振り返りシート	『コロナ後の世界』第一章を読み，事前学習シートを作成する．
7	このパンデミックで人類の未来はどう変わるのか？： 第二章「AI で人類はレジリエントになれる」	QFT（質問づくり） 協働学習（要約・プレゼン・対話） 振り返りシート	教科書第二章を読み，事前学習シートを作成する．
8	このパンデミックで人類の未来はどう変わるのか？： 第三章「ロックダウンで生まれた新しい働き方」	解説，確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明協働学習（要約・プレゼン・対話） 振り返りシート	教科書第三章を読み，事前学習シートを作成する．
9	このパンデミックで人類の未来はどう変わるのか？： 第四章「認知バイアスが感染症対策を遅らせた」	解説，確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明協働学習（要約・プレゼン・対話） 振り返りシート	教科書第四章を読み，事前学習シートを作成する．
10	このパンデミックで人類の未来はどう変わるのか？ 中間発表２回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答，評価 振り返りシート	ポスター・プレゼンの準備を行う（2 時間程度） 事後学習：第２回レポート
11	教養として文学作品に触れる：『星の王子さま』	解説，確認試験 要約・プレゼン・対話の要点の説明 協働学習（要約，プレゼン，対話） 振り返りシート	『星の王子さま』1～10 章を読み，事前学習シート（要約、感想）を作成する（2 時間程度）
12	教養として文学作品に触れる：『星の王子さま』	解説，確認試験 要約・プレゼン・対話の要点の説明 協働学習（要約，プレゼン，対話） 振り返りシート	教科書 11～20 章を読み，事前学習シートを作成する
13	教養として文学作品に触れる：『星の王子さま』	解説，確認試験 協働学習（要約，プレゼン，対話）	教科書 21～27 章を読み，事前学習シートを作成する

	振り返りシート		
14	教養として文学作品に触れる：『星の王子さま』	解説，確認試験 協働学習（要約，プレゼン，対話） QFT（中間発表のテーマ出し） 振り返りシート	教科書あとがきを読み，事前学習シートを作成する
15	教養として文学作品に触れる：中間発表3回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答，評価 振り返りシート 事後アンケート	ポスター・プレゼンの準備を行う（2時間程度） 事後学習：第3回レポート

関連科目

摂南大学で開講されている科目のすべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	おとなの教養2	池上彰	NHK出版
2	星の王子さま	サン＝テグジュペリ	新潮文庫
3	コロナ後の世界	大野和基（編）	文春新書

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

・授業への取り組み15%
・プレゼン15%
・レポート20%
・振り返りシート15%
・クイズ15%
・事前学習シート15%
・ファイリング15%

以上の評価点の合計で60%以上を合格とする．期末試験は実施しない．
なお，成績評価の対象は原則として出席率80%以上の学生とする．

学生へのメッセージ

この授業では，すべての学部の学生が，学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います．この授業を履修することで，大学生としてふさわしい教養の基礎，コミュニケーション力，ファシリテーション力，と学習方法が身に付き，さらに学部，学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう．

担当者の研究室等

寺内睦博（11号館10F），石井三恵（7号館5F），鎌田美保（2号館2F），坂口有芸（7号館5F），新居英志（7号館5F），森亜貴（ラーニングセンター）

備考

この科目は前期の大学教養入門と同じスタイルの教養を学びながら学習法を身につけることを期待した科目です．また，学部や学科を越えた多くの友人を見つけてください．この授業は原則的に対面で実施します．やむを得ず、遠隔授業やハイブリッドで実施する場合も顔が見えることを出席の条件とします．

科目名	就職実践基礎	科目名（英文）	Practical Math for Employment Exams
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡　亮太
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のものですので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。 講師は広告出版業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	授業は基本的に数的能力をメインに学習します。授業は基本的に実践形式で、様々な問題を解いていきます。Input 量が多いので、予習・復習が大切です。
科目学習の効果（資格）	社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション･実力テスト	講座の目的・意義の確認、実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30 分)・実力テストを復習しておくこと(目安：30 分)
2	数的思考①	割合の活用①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
3	数的思考②	割合の活用②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
4	数的思考③	速度算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
5	数的思考④	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
6	数的思考⑤	場合の数と確率①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
7	数的思考⑥	場合の数と確率②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	資料解釈①	表の読み取り①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
10	資料解釈②	表の読み取り②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
11	資料解釈③	表の読み取り③	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
12	論理推論①	命題・順序・位置関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
13	論理推論②	金銭問題・内訳・平均・対応関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
14	論理推論③	濃度と密度・複数選択・整数問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安：2.5 時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発、数的能力開発

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト（30%）、中間テスト（20%）、期末テスト（40%）、SmartSPI（10%）
学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことをできるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。 また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　教育イノベーションセンター
備考	

科目名	就職実践基礎	科目名（英文）	Practical Math for Employment Exams
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡　亮太
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のものですので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。 講師は広告出版業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	授業は基本的に数的能力をメインに学習します。授業は基本的に実践形式で、様々な問題を解いていきます。Input 量が多いので、予習・復習が大切です。
科目学習の効果（資格）	社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション･実力テスト	講座の目的・意義の確認、実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30 分)・実力テストを復習しておくこと(目安：30 分)
2	数的思考①	割合の活用①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
3	数的思考②	割合の活用②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
4	数的思考③	速度算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
5	数的思考④	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
6	数的思考⑤	場合の数と確率①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
7	数的思考⑥	場合の数と確率②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	資料解釈①	表の読み取り①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
10	資料解釈②	表の読み取り②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
11	資料解釈③	表の読み取り③	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
12	論理推論①	命題・順序・位置関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
13	論理推論②	金銭問題・内訳・平均・対応関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
14	論理推論③	濃度と密度・複数選択・整数問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安：2.5 時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発、数的能力開発

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト（30%）、中間テスト（20%）、期末テスト（40%）、SmartSPI（10%）
学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことをできるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。 また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　教育イノベーションセンター
備考	

科目名	就職実践基礎	科目名（英文）	Practical Math for Employment Exams
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	津村　忠.森　亜貴
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	社会人に必要とされる基礎学力の修得を目指し総合的に学習します。基礎学力の中でも数的能力・言語能力は社会人として仕事をする上で必須のもので、早めに取り組むことを推奨します。この授業では、数的能力・言語能力を幅広く扱いますが、特に日常生活・仕事での活用頻度が高く、かつ採用試験での高いハードルとなる「数的能力の強化」をメインに取り組みます。 講師は広告出版業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達すること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	基礎数学をメインに学習します。授業は実践形式で、様々な問題にチャレンジした上で解説を聴講し理解を深めます。採用試験（SPI や玉手箱等の総合適性検査）対応力をつけるために、予習・復習を確実に行い疑問を残さないよう心がけてください。
科目学習の効果（資格）	社会で必要とされる数的能力・言語能力を獲得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション･実力テスト	講座の目的・意義の確認、実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30 分)・実力テストを復習しておくこと(目安：30 分)
2	数的思考①	割合の活用①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
3	数的思考②	割合の活用②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
4	数的思考③	速度算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
5	数的思考④	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
6	数的思考⑤	場合の数と確率①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
7	数的思考⑥	場合の数と確率②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	資料解釈①	言語理解 表の読み取り①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
10	資料解釈②	表の読み取り②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
11	資料解釈③	表の読み取り③	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
12	論理推論①	命題・順序・位置関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
13	論理推論②	金銭問題・内訳・平均・対応関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
14	論理推論③	濃度と密度・複数選択・整数問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安：2.5 時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発、数的能力開発

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト（30%）、中間テスト（20%）、期末テスト（40%）、SmartSPI（10%）
学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことができるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。 また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　教育イノベーションセンター
備考	

科目名	就職実践基礎	科目名（英文）	Practical Math for Employment Exams
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	津村　忠
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	社会人に必要とされる基礎学力の修得を目指し総合的に学習します。基礎学力の中でも数的能力・言語能力は社会人として仕事をする上で必須のもので、早めに取り組むことを推奨します。この授業では、数的能力・言語能力を幅広く扱いますが、特に日常生活・仕事での活用頻度が高く、かつ採用試験での高いハードルとなる「数的能力の強化」をメインに取り組みます。 講師は広告出版業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達すること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	基礎数学をメインに学習します。授業は実践形式で、様々な問題にチャレンジした上で解説を聴講し理解を深めます。採用試験（SPI や玉手箱等の総合適性検査）対応力をつけるために、予習・復習を確実に行い疑問を残さないよう心がけてください。
科目学習の効果（資格）	社会で必要とされる数的能力・言語能力を獲得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション･実力テスト	講座の目的・意義の確認、実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30 分)・実力テストを復習しておくこと(目安：30 分)
2	数的思考①	割合の活用①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
3	数的思考②	割合の活用②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
4	数的思考③	速度算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
5	数的思考④	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
6	数的思考⑤	場合の数と確率①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
7	数的思考⑥	場合の数と確率②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	資料解釈①	言語理解 表の読み取り①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
10	資料解釈②	表の読み取り②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
11	資料解釈③	表の読み取り③	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
12	論理推論①	命題・順序・位置関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
13	論理推論②	金銭問題・内訳・平均・対応関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
14	論理推論③	濃度と密度・複数選択・整数問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安：2.5 時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発、数的能力開発

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト（30%）、中間テスト（20%）、期末テスト（40%）、SmartSPI（10%）
学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことができるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。 また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　教育イノベーションセンター
備考	

科目名	就職実践基礎	科目名（英文）	Practical Math for Employment Exams
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	津村　忠
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	社会人に必要とされる基礎学力の修得を目指し総合的に学習します。基礎学力の中でも数的能力・言語能力は社会人として仕事をする上で必須のもので、早めに取り組むことを推奨します。この授業では、数的能力・言語能力を幅広く扱いますが、特に日常生活・仕事での活用頻度が高く、かつ採用試験での高いハードルとなる「数的能力の強化」をメインに取り組みます。 講師は広告出版業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達すること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	基礎数学をメインに学習します。授業は実践形式で、様々な問題にチャレンジした上で解説を聴講し理解を深めます。採用試験（SPI や玉手箱等の総合適性検査）対応力をつけるために、予習・復習を確実に行い疑問を残さないよう心がけてください。
科目学習の効果（資格）	社会で必要とされる数的能力・言語能力を獲得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション･実力テスト	講座の目的・意義の確認、実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30 分)・実力テストを復習しておくこと(目安：30 分)
2	数的思考①	割合の活用①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
3	数的思考②	割合の活用②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
4	数的思考③	速度算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
5	数的思考④	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
6	数的思考⑤	場合の数と確率①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
7	数的思考⑥	場合の数と確率②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	資料解釈①	言語理解 表の読み取り①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
10	資料解釈②	表の読み取り②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
11	資料解釈③	表の読み取り③	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
12	論理推論①	命題・順序・位置関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
13	論理推論②	金銭問題・内訳・平均・対応関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
14	論理推論③	濃度と密度・複数選択・整数問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安：2.5 時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発、数的能力開発

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト（30%）、中間テスト（20%）、期末テスト（40%）、SmartSPI（10%）
学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことができるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。 また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　教育イノベーションセンター
備考	

科目名	インターンシップ	科目名（英文）	Internship
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井　三恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		
科目ナンバリング	JCA3347a1		

授業概要・目的	この科目を通じて、学生は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に　1）仕事の社会における役割　2）仕事の成果とは　3）仕事の責任と充実感　を直接肌で感じること　が期待される。 前期の講義では事前学修として、ビジネス組織のあり方、マナーや常識を習得する。 なお、講義では担当者の民間企業、自治体、NPO 法人での業務及び海外を含む高等教育での教育ならびに経営の経験に基づいて議論を進めることもある。 SDG s 4-4 SDG s 8-6
到達目標	就職活動の流れとインターンシプの位置づけ、意義について説明することができる。 インターンシップへ意欲的に自信を持って参加するためのマナーと心がまえを身につける。 インターンシップ先出の実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択しや可能性について主体的に考えることができる。 講義や実習を通じて、職業観を形成し、それを他者に伝えることができる。(DP1)
授業方法と留意点	インターンシップの現場につながる講義（演習を含む）であることから、能動的に、真摯に参加することを求める。
科目学習の効果（資格）	インターンシップへ行く目的を理解し、その準備ができる。 企業等、実務の現場で実習を行うことで、自らの職業観の形成ができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	インターンシップとは	・授業オリエンテーション ・学生と社会人の違いを理解する ・インターンシップの目的を考える ※以降、スーツ着用、またはそれに準じる洋装	・事前学修：インターンシップとは何かについて考えること(0.5 時間) ・事後学修：配付した資料を見直して講義を振り返ること（0.5 時間）
2	企業組織・ビジネスの理解	・組織の形態を知る ・ビジネスへの理解を深める	・事前学修：自らの興味のあるビジネスについて調べておくこと(0.5 時間) ・事後学修：配付した資料を見直して講義を振り返ること(0.5 時間)
3	実習参加企業について	・産業の分類を知る ・業種、内容、インターン時期等、インターン受入企業等の組織について知る	・事前学修：興味のある会社や自治体などの組織について調べること（0.5 時間） ・事後学修：インターン受入企業等の組織のリストに目を通し、希望する実習先を吟味すること(0.5 時間)
4	効果的なプレゼンテーションとは	・効果的なプレゼンテーションの仕方、注意点などを知る	・事前学修：効果的なプレゼンテーションについて考えること(0.5 時間) ・事後学修：配付された資料を見直し講義を振り返ること(0.5 時間)
5	課題のプレゼンテーション①	・第４回目の課題をプレゼンテーションする	・事前学修：第４回目の課題について、プレゼンテーションの準備をすること(0.5 時間) ・事後学修：プレゼンテーションのポイントをまとめる（0.5 時間）
6	社会人のマナー①	・社会人としての心構えを知る ・身だしなみ	・事前学修:マナーがなぜ大切なのかを考えること(0.5 時間) ・事後学修：配付されたテキストを精読すること(0.5 時間)
7	社会人のマナー②	・文書でのコミュニケーション	・事前学修：効果的なコミュニケーションについて考えること(0.5 時間) ・事後学修：授業以降は丁寧なメールを心がけ、文書での適切な発信方法を試みること（0.5 時間）
8	社会人のマナー③	・口頭でのコミュニケーション	・事前学修：効果的なコミュニケーションについて考えること(0.5 時間) ・事後学修：マナーの大切さを再度考えること(0.5 時間)
9	履歴書を記入する	・インターンシップ用の履歴書を記入する	・事前学修：履歴書を書く準備をしておくこと(0.5 時間) ・事後学修：講義を振り返り、履歴書を下書きすること(0.5 時間)
10	グループワーク①	・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う	・事前学修:グループ内の自分の役割を考えること(0.5 時間) ・事後学修:グループで課題に取り組むこと(0.5 時間)
11	グループワーク②	・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う	・事前学修：グループでプレゼンテーションを行う準備をすること(0.5 時間) ・事後学修：自グループ及び他グループのプレゼンテーションを振り返ること(0.5 時間)
12	事前訪問について	・事前訪問のマナーと準備について	・事前学修：インターン先の企業等の組織のことをもう一度調べること(0.5 時間) ・事後学修：訪問時のマナーについておさらいをすること(0.5 時間)
13	課題のプレゼンテーション②	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	・事前学修:プレゼンテーションの準備をすること(0.5 時間) ・事後学修：プレゼンテーションの内容を内省すること(0.5 時間)

	14	課題のプレゼンテーション③	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	・事前学修:プレゼンテーションの準備をすること(0.5時間) ・事後学修：プレゼンテーションの内容を内省すること(0.5時間)
	15	振り返りとまとめ	・授業を振り返る ・インターンシップの目的を再考する	・事前学修：インターンシップⅠで学んだことをまとめること (0.5時間) ・事後学修：インターンシップで何を身につけたいかをもう一度考えること(0.5時間)
	16	直前学修① 6月17日(土)　3限(予定)	・インターンシップの心構え ・今後のスケジュールの確認 ※スーツ着用、またはそれに準じる洋装	・事前学修：社会人を意識したスーツを着用し、身だしなみを自分なりに整えてくること(0.5時間)
	17	直前学修② 6月17日(土)　4限(予定)	・報告書の書き方、注意点/マナー ・身だしなみの最終確認 ・グループワークとプレゼンテーション	・事前学修：マナーについて考えること(0.5時間) ・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
	18	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
	19	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
	20	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
	21	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
	22	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
	23	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
	24	体験報告書の作成	・報告書提出 ・インターンシップ担当教員における報告書チェックと指導 ・(担当教員への提出と教務課へ電子データを提出)	・事後学修：直前学習②の通りに報告書を作成し、提出前に必ず推敲を行い、提出期限を厳守すること(0.5時間)
	25	事後学修① 9月 16 日(土)　3限(予定)	・インターンシップ体験報告(個人発表)及びプレゼン指導 ※この回以降、スーツ着用、またはそれに準じる洋装	・事前学修：個人発表要のスライドを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(0.5時間)
	26	事後学修② 9月 16 日(土)　4限(予定)	・インターンシップ体験報告(個人発表)及びプレゼン指導	・事前学修：個人発表要のスライドを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(0.5時間)
	27	事後学修③ 9月 30 日(土)　3限(予定)	・事後学修①②で選出されたグループ代表による体験報告	・事前学修：代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(0.5時間) ・事後学修：聴講者は他者の発表を振り返ること(0.5時間)
	28	事後学修④ 9月 30 日(土)　4限(予定)	・事後学修①②で選出されたグループ代表による体験報告	・事前学修：代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(0.5時間) ・事後学修：聴講者は他者の発表を振り返ること(0.5時間)
	29	事後学修⑤ 10月7日(土)　3限(予定)	・インターンシップ全体を振り返る(実習記録簿の提出)	・事前学修:実習記録簿を見直してくること(0.5時間)
	30	事後学修⑥ 10月7日(土)　4限(予定)	・インターンシップ全体を振り返る	・事後学修：インターンシップの講義の全体を振り返り、今後のキャリア形成にどのように活かしたいのかについて考えること(0.5時間)

関連科目	キャリアデザインⅠ・キャリアデザインⅡ・キャリアデザインⅢ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	平常点30%、提出物・プレゼンテーション等50%、企業からの評価表20%、を総合的に評価する。

学生への メッセージ	インターシップの流れは以下のとおりである。 ※４月下旬にリスト公開→５月上旬に希望企業等の組織の絞り込み→５月下旬に就職部から受け入れ可否の回答→６月末頃に事前訪問→８月上旬からインターンシップ開始（予定） ※インターンシップ先の都合により、日程等スケジュールが変更する場合もある。 また、COVID-19 の影響により先方都合で実習が中止になることもある。
担当者の 研究室等	石井三恵（７号館５F)、坂口有芸（７号館５F）
備考	教科書・・・必要に応じてレジュメを配布 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示 服　装・・・立ち居振る舞いを学ぶために、原則、スーツ着用が好ましい。 ※予習・復習に毎回２時間以上取り組むこと。グループワーク、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。 ※インターンシップ先の都合により、インターンシップ参加期間等の日程が変更される場合もある。

科目名	商業科教育法	科目名（英文）	Business Education Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年	授業担当者	久井　孝則
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	前期は、高等学校の商業教育全般についての理論・制度・実践を学びます。中心的なテーマのひとつは、高等学校教育の多様性と商業高校の教育課程の特徴について理解すること。いまひとつは、現代の経済社会が求めている職業能力や経営リテラシーを明らかにし、それを獲得するためのビジネス教育の内容や方法について理解することです。 後期は、受講生全員が学習指導案を作成した上で模擬授業を行います。模擬授業において生徒役の学生は授業を受けながら、同時に評価者として評価シートを記入し、授業終了後、履修者全員で良かった点と改善すべき点を合評することによって、授業展開の適否について考えます。この過程を通じて、授業者は教育実習の心構えや資質・能力が形成されるとともに、生徒役の学生は授業の観察眼を養い、自らの授業展開に役立てることができます。
到達目標	①商業科教員としての基本的かつ幅広い知識を習得する。 ②学習指導計画の立案ならびに模擬授業を行い、実践的な能力を体得する。 ③ビジネス教育のあり方について考え、将来の方向性について理解を深める。
授業方法と留意点	前期は、商業教育の目的、商業教育の歴史、教育課程の変遷、現行学習指導要領における教科･科目の構造について学びます。 後期は、高等学校学習指導要領に基づき、高等学校における商業教育について、その目的や内容、指導計画の作成、指導方法について理解を深め、実践力を身につけることによって、商業科教員としての資質を養います。
科目学習の効果（資格）	本講座は、高等学校教職員免許状「商業」を取得するための必修科目です。商業高校では、様々な分野の専門科目(ビジネス基礎・マーケティング・簿記・情報処理・総合実践など）を担当する可能性があり、そのための基本的な知識・技能を習得することができます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	前期のガイダンス「授業の進め方」	授業の進め方及び自己申告表の記入	
2	商業教育の意義と必要性	(1)商業教育の基本理念 (2)商業教育で育む資質・能力 (3)商業科担当教員への期待	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくること(60 分)
3	我が国における商業教育の歩み	(1)明治期の商業教育 (2)大正期・昭和 20(1945)年以前の商業教育 (3)新教育制度と商業教育 (4)科目構成、科目名の変遷	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくること。(60 分)
4	高等学校学習指導要領と商業教育	(1)学習指導要領の法的位置づけ (2)学習指導要領の理念 (3)時代の進展等と商業科の改善 (4)商業科の構造 (5)商業科の学習指導を考える文脈	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくること。また平成30年3月告示の新学習指導要領について調べてくること(90 分)
5	商業科の教育課程の編成と実施	(1)教育課程の意義 (2)専門性の深化 (3)カリキュラム・マネジメント (4)専門学科における各教科･科目の履修 (5)文科省検定済教科用図書等の使用義務 (6)職業資格とのつながり (7)各学科で育成する人材像と教育課程	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくること。また出身高校の教育課程をインターネットで検索し、プリントアウトして持参すること。(90 分)
6	商業科の学習指導	(1)商業科教育における学習指導の理念と方向性 (2)商業科教育における主体的･対話的で深い学び	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくること(60 分)
7	各分野の学習指導①	(1)基礎的科目 (2)マーケティング分野 (3)マネジメント分野	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくること(60 分)
8	各分野の学習指導②	(1)会計分野 (2)ビジネス情報分野 (3)総合的科目	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくること(60 分)
9	指導計画の理念と作成	(1)指導計画の意義と作成 (2)指導計画の実施・評価・改善	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくること(60 分)
10	学習評価の理念と実際	(1)評価の目的 (2)目標に準拠した評価と評価の観点(3)評価方法の工夫	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくること(60 分)
11	魅力ある商業教育①	(1)これからの商業科教育	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくること(60 分)
12	魅力ある商業教育②	(1)体系的な商業教育の意義	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくること(60 分)
13	魅力ある商業教育③	(1)魅力あるの商業教育を目指して	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくること(60 分)
14	商業教育推進のしくみ	「公益財団法人全商協会の事業展開」	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくること(60 分)
15	前期のまとめ	前期の講義を振り返り、商業教育についてそれぞれのレポートを作成	〔事前〕これまでの講義ノート等に目を通しておく(60 分)
16	ガイダンス「模擬授業演習の進め方」	後期の授業の進め方及び模擬授業の進め方	
17	学習指導計画の作成「学習指導計画案の作成①」	(1)学力などの実態を踏まえた授業設計の方法 (2)情報機器および教材の活用	〔事前〕学習指導案の素案を作成してくること(90 分)
18	学習指導計画の作成「学習指導計画案の作成②」)	(1)評価の観点、学習評価の方法 (2)情報機器および教材の活用	〔事前〕学習指導案の完成版を作成してくること(90 分)
19	基礎的科目「ビジネス基礎」の模擬授業	1)模擬授業 (2)評価表・自由感想表の作成	〔事前〕当該科目の学習指導案を作成し、模擬授業のシミュレーションをしてくること(60 分)

		(3)発表	
20	基礎的科目「基礎的科目の教育の進め方」	(1)基本的視点と指導法	〔事前〕前回の模擬授業のレポートを書いてくること(60 分)
21	ビジネス情報分野「情報処理」の模擬授業	(1)模擬授業 (2)評価表・自由感想表の作成 (3)発表	〔事前〕当該科目の学習指導案を作成し、模擬授業のシミュレーションをしてくること(60 分)
22	ビジネス情報分野「ビジネス情報分野の教育の進め方	(1)基本的視点と指導法	〔事前〕前回の模擬授業のレポートを書いてくること(60 分)
23	会計分野「簿記」の模擬授業	(1)模擬授業 (2)評価表・自由感想表の作成 (3)発表	〔事前〕当該科目の学習指導案を作成し、模擬授業のシミュレーションをしてくること(60 分)
24	会計分野「会計分野の教育の進め方」	(1)基本的視点と指導法	〔事前〕当該科目の学習指導案を作成し、模擬授業のシミュレーションをしてくること(60 分)
25	ビジネス経済分野「経済活動と法」の模擬授業	(1)模擬授業 (2)評価表・自由感想表の作成 (3)発表	〔事前〕当該科目の学習指導案を作成し、模擬授業のシミュレーションをしてくること(60 分)
26	ビジネス経済分野「ビジネス経済分野の教育の進め方」	(1)基本的視点と指導法	〔事前〕前回の模擬授業のレポートを書いてくること(60 分)
27	マーケティング分野「マーケティング」の模擬授業	(1)模擬授業 (2)評価表・自由感想表の作成 (3)発表	〔事前〕当該科目の学習指導案を作成し、模擬授業のシミュレーションをしてくること(60 分)
28	マーケティング分野「マーケティング分野の教育の進め方」	(1)基本的視点と指導法	〔事前〕前回の模擬授業のレポートを書いてくること(60 分)
29	総合的科目「総合的科目の教育の進め方」	(1)基本的視点と指導法	〔事前〕当該科目の内容について調べてくること(60 分)
30	後期のまとめ	商業科教育法を学んで感じたこと、及び自身が描く教員像について発表する	〔事前〕商業科教育法のまとめ(発表資料)を作成してくること(60 分)

関連科目

大学の経営学部や経営情報学部で学ぶ専門科目は、商業科の専門科目として活かせる魅力があります。
簿記、会計、原価計算、管理会計、情報処理、電子商取引、経営学、経済学、マーケティング、民法、会社法、ベンチャービジネス論など、幅広く履修しておくことが大切です。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	商業科教育論	日本商業教育学会	実教出版株式会社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	高等学校学習指導要領解説 商業編 最新版	文部科学省	実教出版
2			
3			

評価方法（基準）

課題・レポート５０％ 、 授業への参加度（学習意欲、事前学習、発表等） ５０％とし、 総合的に判断して評価する。

学生へのメッセージ

商業科教員採用試験では、日本商工会議所簿記検定２級程度の問題が出題されるので、在学中の取得を目指して欲しい。また、新聞やインターネットの政治・経済や教育に関する記事を日頃から読み、社会の変化に興味・関心を持ち、幅広いビジネスに関する知識を有する商業科教員を目指そう。

担当者の研究室等

全学教育機構

備考

質問等はメール等で対応します。
課題については、随時評価します。
事後学習については、特に表記していませんが、事前学習と合わせた総時間は 120 時間程度です。

科目名	情報科教育法	科目名（英文）	Instruction Method for Information and Communication Science
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年	授業担当者	小林　正樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	高等学校普通教科「情報」の教員免許を取得するために必修となる講義である。「情報科」成立の経緯および教科内容について理解し、情報教育のあり方について、学習目標、指導方法、評価方法などの視点から考え、担当教員に必要となる基礎的知識や資質を養う。また、指導案の作成、模擬授業の実施を通して、授業を展開できる能力を身につけることを目指す。
到達目標	教科「情報」の教育目標や位置づけについて知り、教員に求められる幅広い知識を身につけるとともに教育指導技術の向上を図る。また、教科「情報」の授業を行う上で必要となる技能について、授業研究、教材設計、指導計画の作成を通して身につける。さらに、ディスカッションや模擬授業などを通して実践的な指導方法を修得する。
授業方法と留意点	テキストおよび配付資料を中心に、スライドを使って説明を行う。教員免許に関する科目であり、意見交換を行いながら学習指導案、学習教材などを作成するため、主体的・積極的な受講を求める。
科目学習の効果（資格）	教科「情報」の免許科目 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目区分：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含めることが必要な事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、情報技術の進展と情報教育の役割	配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（150分） 次回の内容を確認する（90分）
2	情報教育の意義と役割	情報教育の実践と教育の情報化、共通教科情報科と専門教科情報科について	配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（150分） 次回の内容を確認する（90分）
3	共通教科情報科の構成	共通必履修科目「情報Ⅰ」と選択科目「情報Ⅱ」の内容構成	配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（150分） 次回の内容を確認する（90分）
4	共通必履修科目「情報Ⅰ」の内容	「情報Ⅰ」で何を学ぶか、教育方法	配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（150分） 次回の内容を確認する（90分）
5	共通必履修科目「情報Ⅰ」の学習内容（1）	情報社会の問題解決の学習内容	情報社会の問題解決について調べまとめる（150分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（90分）
6	共通必履修科目「情報Ⅰ」の学習内容（2）	コミュニケーションと情報デザインの学習内容	コミュニケーションと情報デザインについて調べまとめる（150分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（90分）
7	共通必履修科目「情報Ⅰ」の学習内容（3）	コンピュータとプログラミングの学習内容	コンピュータとプログラミングについて調べまとめる（150分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（90分）
8	共通必履修科目「情報Ⅰ」の学習内容（4）	情報通信ネットワークとデータの活用の学習内容	情報通信ネットワークとデータの活用について調べまとめる（150分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（90分）
9	情報教育の指導方法（1）	年間指導計画書の作成、学習目標の明確化	年間指導計画の作成、学習目標の明確化についてまとめる（150分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（90分）
10	情報教育の指導方法（2）	課題分析の方法、進め方	課題分析の方法についてまとめる（150分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（90分）
11	情報教育の指導方法（3）	評価の目的と対象、評価対象の具体化	評価の目的と対象についてまとめる（150分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（90分）
12	情報教育の指導方法（4）	学習課題に応じた評価方法の種類と特徴	学習課題に応じた評価方法についてまとめる（150分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（90分）
13	模擬授業：情報Ⅰ（1）	学習目標の明確化、学習指導案の書き方	学習目標の明確化、学習指導案の作成をする（150分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（90分）
14	模擬授業：情報Ⅰ（2）	教材研究の方法、授業分析	模擬授業の準備をする（150分） 教材研究、授業分析を行う（90分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（60分）
15	前期のまとめと学力診断テスト	前半の振り返り、確認テストと解説	前半の内容を整理する（180分）
16	選択科目「情報Ⅱ」の内容	「情報Ⅱ」で何を学ぶか、教育方法	配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（150分） 次回の内容を確認する（90分）
17	選択科目「情報Ⅱ」の学習内容（1）	情報社会の進展と情報技術の学習内容	情報社会の進展と情報技術について調べまとめる(150分) 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（90分）
18	選択科目「情報Ⅱ」の学	コミュニケーションとコンテンツの学習	コミュニケーションとコンテンツについて調べまとめ

		習内容（２）	内容	る（150 分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（90 分）
	19	選択科目「情報Ⅱ」の学習内容（３）	情報とデータサイエンスの学習内容	情報とデータサイエンスについて調べまとめる（150 分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（90 分）
	20	選択科目「情報Ⅱ」の学習内容（４）	情報システムとプログラミングの学習内容	情報システムとプログラミングについて調べまとめる（150 分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（90 分）
	21	選択科目「情報Ⅱ」の学習内容（５）	情報と情報技術を活用した問題発見・解決の探求の学習内容	情報と情報技術を活用した問題発見・解決の探求について調べまとめる（150 分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（90 分）
	22	模擬授業：情報Ⅱ（１）	学習目標の明確化、学習指導案の作成	学習目標の明確化、学習指導案の作成をする（150 分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（90 分）
	23	模擬授業：情報Ⅱ（２）	教材研究、授業分析	模擬授業の準備をする（150 分） 教材研究、授業分析を行う（90 分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（60 分）
	24	模擬授業の展開（１）	学習目標の明確化、学習指導案の作成、教材研究	学習目標の明確化、学習指導案の作成をする（150 分） 教材研究を行う（90 分）
	25	模擬授業の展開（２）	相互評価、模擬授業の振り返り	模擬授業の振り返りをする（150 分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（90 分）
	26	専門教科情報科の構成	専門教科情報科の内容構成、教育方法、共通教科情報科との差異	配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（150 分） 次回の内容を確認する（90 分）
	27	魅力ある授業の展開（１）	学習意欲を高める方法、内発的動機付けと外発的動機付け	配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（150 分） 次回の内容を確認する（90 分）
	28	魅力ある授業の展開（２）	学習者の協同と活動、ワークショップとプロジェクト学習	配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（150 分） 次回の内容を確認する（90 分）
	29	魅力ある授業の展開（３）	ICT 活用の実際、授業の記録・分析の方法	配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（150 分） 次回の内容を確認する（90 分）
	30	全体のまとめと学力診断テスト	全体の振り返り、確認テストと解説、これからの教師に求められる授業力	後半の内容を整理する（180 分）

関連科目	情報関連科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	情Ｉ706　図説情報Ｉ	監修：渡辺美智子	実教出版
2	情 I706　図説情報Ｉ　学習ノート	実教出版編修部	実教出版
3	高等学校学習指導要領（平成３０年告示）解説　情報編	文部科学省	開隆堂出版

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ICT 活用指導力アップ！教育の情報化−教員になるための情報教育入門−	監修：　梅田恭子、齋藤ひとみ	実教出版
2			
3			

評価方法 （基準）	学習指導案などの成果物等（50%）、学力診断テスト（40%）、授業への取組姿勢（10%）をもとに総合的に評価 演習が中心となるため、継続的な授業への出席が必要です。
学生への メッセージ	学習者に対して授業を行うためには、周到な準備が必要になります。目的意識を持ち積極的に授業に出席して下さい。
担当者の 研究室等	11 号館 8 階（小林研究室）
備考	必要に応じて資料を配布します。 授業に関する質疑応答は、メールを使用します。

科目名	職業指導	科目名（英文）	Vocational Guidance
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	水野　武
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	職業教育や進路指導においては、職業構造や職種・業種内容について学んだり資格取得や技能訓練などを促進したりするばかりでなく、社会や産業構造の変化の中で自分はいかに生きていくかという「生き方の設計」について学ぶことが重要です。本科目を通して学生は、キャリア教育の理論と実践について理解を深めるとともに、経済社会・産業界の変化と職業指導に与える影響などについて知見を広め、「生き方の設計」の指導者としての資質能力の基礎を身につけます。
到達目標	職業教育の理論、面談する際の技法への理解を深めることを講義の目標とします。
授業方法と留意点	講義と受講生による報告・討議を織り交ぜて進めます。 講義では都度課題を提示し、その内容を元に受講者間で話し合いを行って頂きます。 尚、遅刻等は厳禁です。
科目学習の効果（資格）	工業科における職業指導に関する基礎知識が身に付く

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・授業概要の説明、職業の定義、職業指導の概念整理	事前学習:本科目のシラバスを熟読すること(１時間)。 事後学習：年間の学びの計画を立てること（３時間）
2	職業指導の基礎理論	・職業指導における基本的な考え方、手法	事前学習：職業指導及びキャリアの基礎理論について調べておくこと（２時間） 事後学習：職業指導に関する資料を熟読すること（２時間)。
3	職業指導の歴史①	・アメリカ・ヨーロッパを中心に職業指導の経緯を知る	事前学習：欧米の職業指導に関して調査すること（３時間)。 事後学習：講義の内容を振り返ること（１時間）
4	日本の産業構造の変化	・日本の産業、雇用事情の変化を知る	事前学習：日本の産業の変遷について市調べておくこと（３時間)。 事後学習：講義内容を振り返ること（１時間）
5	職業指導の歴史②	・日本の戦後の教育改革について	事前学習：日本の戦後の教育改革について調べておくこと（２時間)。 事後学習：配布資料を熟読し、講義内容を振り返ること(２時間)
6	日本型雇用と職業指導	・日本における雇用システムの変容と職業指導の関わり	事前学習：日本型雇用について発表資料を作成すること（３時間)。 事後学習：発表及びディスカッションの内容を振り返ること（１時間）
7	新規高卒就職システム	・新規高卒労働市場の変容と現状	事前学習：高卒労働市場に関して調べておくこと（２時間)。 事後学習：講義内容を振り返ること（２時間）
8	高等学校における職業指導	・各種学校における職業指導の在り方について	事前学習：高校の職業指導の事例について調査・発表資料を作成すること（３時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（１時間）
9	「労働すること」を考える	・仕事をすることの意義を考える	事前学習：仕事をする意味について意見をまとめておくこと（２時間） 事後学習:自らの労働観について考えること(２時間)。
10	職業指導の領域	・学校、家庭、地域コミュニティ、公的機関等職業指導がなされる「場」について考える	事前学習：職業指導領域に関する資料を事前に熟読すること（２時間)。 事後学習：講義内容を振り返ること（２時間）
11	キャリア教育の基礎理論①	・キャリアデザインにおける基礎理論を知る	事前学習：自己について考えておくこと（２時間） 事後学習：キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること（２時間)。
12	キャリア教育の基礎理論②	・キャリアデザインにおける基礎理論を知る	事前学習:児童・生徒の発達について考えてくこと（３時間） 事後学習：キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること（１時間)。
13	授業内容立案	・高校生向けの職業指導・キャリア教育に関する授業内容を立案する	事前学習：高校でのキャリア教育の事例について調べておくこと（１時間） 事後学習：模擬授業の準備をすること（３時間)。
14	模擬授業①	・講義 13 で立案した内容で模擬授業を実施	事前学習：模擬授業の準備をすること（２時間)。 事後学習:他者及び自らの発表内容を振り返ること(２時間)
15	講義の振り返り	・講義の振り返り、前期の中間レポートの提出	事前学習：前期のレポートを作成すること（３時間)。 事後学習：講義全体を振り返ること（１時間）
16	オリエンテーション	・後期授業概要の説明	事前学習：本科目のシラバスを再度熟読すること（１時間)。 事後学習：後期の学習計画を立てること（３時間）
17	商業教育と職業指導	・商業高校における職業指導について	事前学習：商業高校の職業指導事例に関すして調査すること（２時間)。 事後学習：講義の内容を振り返ること（２時間）
18	工業教育と職業指導	・工業高校における職業指導について	事前学習：工業高校の職業指導事例に関すして調査すること（２時間)。 事後学習：講義の内容を振り返ること（２時間）
19	普通科高校と職業指導	・普通科高校における職業指導について	事前学習：普通課高校の職業指導事例に関すして調査すること（２時間)。 事後学習：講義の内容を振り返ること（２時間）

	20	フリーターとニートについて	・グループ（またはペア）でフリーター・ニート対策を考える	事前学習：フリーター・ニート問題に関して調査し、ディスカッションできるよう準備すること（２時間）。 事後学習：講義内容を振り返ること（２時間）
	21	職業指導･キャリア教育の実例	・地方も含めた職業指導の事例紹介	事前学習：発表の準備をすること（２時間）。 事後学習：他者及び自らの発表の内容を振り返ること（２時間）
	22	キャリアデザインとは何か	・キャリアデザインとは何かを考える	事前学習：自らの人生の節目について考えること（２時間）。 事前学習：講義内容を振り返ること（２時間）
	23	高校生の就業力について 職業適性とは何か	・新規高卒者が求められる就業力について ・職業適性、各種アセスメントについて	事前学習：大卒と高卒の就職システムの違いについて調査すること（２時間） 事後学習：自らの適性の活かし方を考えること（２時間）。
	24	人権教育としての職業指導	・職業指導の国際基準、ハンディキャップがある生徒への職業指導	事前学習：ILO の提唱する「人間らしい働き方」について調査すること（２時間） 事後学習：配布資料を精読すること（２時間）。
	25	未来の働き方を考える	・日本の課題、それにより想像される未来においての働き方を考える	事前学習：AI による仕事の代替可能性について調査すること（２時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（２時間）。
	26	就業力向上企画を立案①	・高校生の就業力向上のための企画・授業を考える	事前学習：発表の準備をすること（３時間）。 事後学習:他者及び自らの発表内容を振り返ること（１時間）
	27	就業力向上企画を立案②	・２６回目で考えた内容を発表する	事前学習：発表の準備をすること（３時間）。 事後学習:他者及び自らの発表内容を振り返ること（１時間）
	28	キャリアカウンセリング理論①	・自己概念・環境との相互作用・学習理論からのアプローチ	事前学習：キャリアカウンセリングとは何かについて調べておくこと（２時間） 事後学習：講義の内容について振り返ること（１時間）
	29	キャリアカウンセリング理論②	・カウンセリングマインドを知る	事前学習：キャリアカウンセリングとは何かについて調べておくこと（１時間） 事後学習：講義の内容について振り返ること（２時間）
	30	まとめ/講義の振り返り	・提出物の確認、授業内容に関する質疑応答	事前学習：期末レポートを作成すること（４時間）。 事後学習：講義全体を振り返ること（２時間）

関連科目	教職科目全般。特に「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。また「特別活動論」にも近接します。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	講義内での課題、提出物、レポート、授業への積極的参加、レポートの提出状況およびその内容も加味して、成績を判定します。 平常点(30%)、授業課題(10%)、中間レポート(30%)、期末レポート(30%)
学生への メッセージ	「職業指導」について学ぶとともに、自らの勤労観・職業観を養い、経済社会・産業界の状況に対応して自らの進路を切り開いていってください。特に後期は就職活動と並行しての受講となるので、自らの経験と照らし合わせながら、高校生に対する指導について考えてみてください。 なお、講義は担当者の人材業界での業務・及び起業経験に基づいたお話も交えて進行します。
担当者の 研究室等	水野講師室（７号館３階）
備考	

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小山　昇
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・ 目的	法学基礎演習Ⅰは、主として、 　法学部における勉学のためのガイダンス、法学部生として身につけるべき基本的能力を引き出すとともに、法学部生として学習意欲を高めること、有意義な学生生活が送れるように様々な支援をすること、などが目的となります。 　法学基礎演習Ⅰでは、図書館の利用方法、研究倫理教育、環境教育などの学部合同授業のほか、法律を勉強していくうえで必要な基礎的知識として、「法律と言葉」をテーマとして検討します。
到達目標	学生には法律の理解に最低限必要な知識としての「言葉」及び「法律用語」を理解していることを説明できるようになることが期待されます。
授業方法と 留意点	新入生共通教材の「First Year Study Guide」を使った指導の後、演習の主たるテーマである「法律と言葉」について資料を使って検討します。最後に、「総合課題」としてレポートの提出を求めます。なお、対面授業が実施できない状況になったときは、「Microsoft Teams」及び「WebFolder」を利用することにしますが、その場合はPortalで周知します。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	１．学部共通の図書館利用指導、研究倫理及び環境についての教育 ２．「First Year Study Guide」を使った指導 ３．法令・判例の入手方法の指導 ４．六法の使い方、読み方の指導 ５．法律を学ぶ基礎として必要な「法律と言葉」について問題とその検討 　１については、各１回程度、２については、２回程度 　３・４・５については、１１回程度を使いますが、５ではディスカッションを中心に行います。 　１の合同授業以外については、配付する資料を検討し、事後にはゼミでの結果を復習することを重視して、各授業時間ごとに２時間程度の学習をして下さい。
関連科目	法学部で開講されている授業科目
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 必要な資料を配付します。 / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 適宜、紹介します。 / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	授業での「発言状況」(60%)及び最後に提示する「総合課題」のレポート(40%)を合計して評価します。
学生への メッセージ	１年次のゼミは大学生活にとって初めてかつ重要な出会いの場となります。まずは挨拶など声をかけることから始めて下さい。
担当者の 研究室等	11号館９階　小山教授室
備考	レポートは、授業やＳＨの時間、またメールなどを使ってフィードバックします。質問なども、授業やＳＨの時間のほかメールも積極的に利用して下さい。

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	高間　佐知子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・ 目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として３つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （１）ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）、⑤その他、学生生活に必要なノウハウを学びます。
到達目標	この授業を通じて学生には、学生生活に慣れてもらうことで、大学生として学習を進めるにあたっての不安を解消し、さらに、法学部生に必要となる基礎的能力を身につけることを期待します。
授業方法と 留意点	皆さんでディスカッションしながら疑問点を解決していきます。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	・授業テーマ 大学生・法学部生に必要なものは何か ・授業内容 学生生活で必要となってくる知識やノウハウを身につける。具体的には、レポートの書き方、図書館の利用、パソコンの利用といったすべての授業で必要なことを学ぶ。さらに、法学部生として、六法の使い方・読み方を学んだり、裁判傍聴などで裁判実務を学んだり、法的な素養も養ってもらう。 ・事前学習および事後学習 事後的な復習を行い、疑問点は早めに解決して分からないことをそのままにしないように心掛けること。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	演習での参加態度として、プレゼンテーションの内容（40%）やディスカッションでの発言（30%）などを判断材料にして、どれほど演習の時間を自分で有意義なものにしているか（30%）を評価します。
学生への メッセージ	最初は誰もが不安に思い、分からないことの方が多いと思います。まずは大学生活に慣れるように、そして法学部生として大学で学ぶ上で必要なスキルを身につけましょう。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階
備考	事前・事後学習課題とそれに要する時間はそれぞれ 1 時間 30 分を目安とする。 課題の解説は次の回の授業で行う。

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小島　俊朗
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	法学基礎演習の目的は、主として３つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスを行うこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力を引き出して訓練するとともに、これからの法学部生活を送るに当たって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるように様々な支援をすることです。
到達目標	この演習を通じて学生には、次の目標を達成することが期待されます。 ①法学部における学習の基本や法律的なものの考え方を理解すること ②大学生活になじむこと ③大学４年間を計画的に過ごすための基礎を固めること
授業方法と留意点	演習は参加重視ですので毎回必ず出席してください。法学基礎演習に限らず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。当ゼミ独自のテーマでは、皆さんのプレゼンテーションの後に質疑応答の時間を設けます。皆さんが主役ですので積極的に発言してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	本学共通教材の「first year study guide」を使用して大学生活を送るうえで知っておくべきことを学ぶほか、当ゼミ独自では、「社会でおきていることに関心を持とう」というテーマで、世論を二分しているような種々の社会問題について考えます。 授業計画に応じたテーマにつき、事前・事後の学習を行い、理解を深めることが重要です。
関連科目	憲法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（５0%）、レポートの内容（20 点）、及び課題発表（３0%）によって評価します。平常点は、ゼミでの積極的な発言と参加状況、レポートの提出状況を重視します。
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法が分からないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となります。良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　小島教授室
備考	課題発表は、質疑応答の後に、良かった点、改善・工夫を要する点などにつきコメントします。レポートについても適宜講評を行います。 重要なことは自ら学習する姿勢を身に着けることです。したがって、授業計画に応じたテーマにつき、事前・事後の学習を少なくとも毎回各 30 分程度行うように心掛けて下さい。

科目名	法学基礎演習Ｉ	科目名（英文）	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	河原　匡見
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・ 目的	法学基礎演習Ｉ・ＩＩの目的は、主として３つあります。（1）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（2）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（3）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （1）ガイダンスでは、図書館の利用方法、六法や法学参考文献の利用のしかた、法学専門講義の履修についての心構え、パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）、その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。 （2）法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の４年間を意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。たとえば、 新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める、みなさんが関心をもっていることがらについて議論する、法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する、ディベートをおこなう、裁判所見学など学外研修を実施するなどです。みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそうよう努力します。 （3）学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。たとえば、公務員試験対策、税理士や裁判所職員などの法律専門職、就職への心構え、大学院進学、海外留学など、早い段階から準備をしたほうがよいことがらについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。 以上のように、今後４年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。
到達目標	この演習を通じて学生には、大学生としての勉強のしかたや日々の過ごしかたなどを学んで、安全で有意義な大学生活を送れるようになることと、２年次後期から履修が始まる「専門演習」に備えて演習形式の学習法に慣れることが期待される。
授業方法と 留意点	「対面方式」で実施します。新入生共通教材の「フレッシュマンズ・スタディガイド」を使った指導と、法律の理解の前提になる社会問題への関心の醸成を進めていきます。また、法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時メールなどで受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、事後 学習課題	詳細は、第１回目の演習で説明しますが、概ねＩでは、大学での学業生活に慣れることを主眼に据えていきます。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	平常点（学習姿勢７０％および課題提出３０％）により評価します。
学生への メッセージ	法学基礎演習の担当教員は、クラス担任のようなものです。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　河原教授室
備考	課題レポートは、その課題内容により、提出した次の回に講評を加えることがあります。 事前事後学習を重視して、各 2 時間程度行ってください。

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中　敦
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・ 目的	・本演習及び後期の法学基礎演習Ⅱを通じ、通年で共通する授業内容としては、（１）法学部における勉学のためのガイダンスを行うこと、（２）法学部生として身に付けるべき基本的能力を引き出して訓練するとともに、これからの法学部生活を送るに当たって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすること、の３つがあると考えられる。 ・本授業では、まずは大学生活に親しんでもらうという観点から、学生の希望も聞きつつ授業を行ってきたい。特に本演習では、導入的に、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④その他、学生生活に必要な事項について学ぶ。
到達目標	この授業を通じて学生には、大学生としての生活に慣れ、自発的に学ぶ姿勢を身に付けるとともに、人前で自分の意見を述べる発表力を付けることが期待される。
授業方法と 留意点	・授業に出席して議論に積極的に参加することを重視する。無断欠席・無断遅刻は慎んでほしい。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡をいただきたい。 ・本演習の授業内容に限らず、学生生活全般にわたる質問や疑問であっても、随時受け付けるので、気軽に相談してほしい。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、事後 学習課題	・授業概要で示した演習の目的を踏まえ、具体的に次のような授業内容を予定している。なお、このほか、随時１年共通の合同授業が行われることもある。 （１）については、学内施設の案内を行うほか、FIRST YEAR STUDY GUIDE を用いて説明を行ったりする。 （２）については、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④その他、学生生活に必要な事項について学ぶ。 （３）については、学生からの希望なども踏まえ、適宜行っていきたい。 ・学習は、授業の外、事前学習と事後学習を行う。授業内容によっても違うが、各２時間は行ってほしい。どのような学習をするかについては、Teams や授業の際に指示する。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	授業における態度（遅刻せずきちんと出席しているか、議論に積極的に参加しているか、事前事後の学習をして授業に対応できているか。５０％）及び、Teams 上での小テストや課題（５０％）で評価する。欠席・遅刻が多かったり、授業態度が良好でない場合には、別途レポートを課すことがある。
学生への メッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートを切ってください。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　田中教授室
備考	コロナをめぐる情勢、学生の理解度、授業の進行等によっては、授業の方法、順序、内容を変更することがある。

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中沼　丈晃
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	演習（ゼミ）は大学独特の勉強の形式で、教員と少人数の学生の間で議論（ディスカッション）をしたり、発表（プレゼンテーション）をしたりする。法学基礎演習では、卒業まで4年間続く演習の形式でどういった努力が必要か、課題に取り組みながら学ぶ。
到達目標	この演習を通じて学生には、①課題について自分の考えをまとめて、発言する、②他の学生の考えを聴いて、メモをとる、③そのメモをもとに質問をしたり、意見を述べたりすることが期待される。
授業方法と留意点	課題について下調べをして、自分の考えをまとめ、他の学生との間で議論を行う（ディスカッション）。同様に、発表を行う（プレゼンテーション）。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	学生間で話し合う、発表しあう課題は、自分の地元の特色といった身近な事柄から、政治・経済・社会の時事に関することまで広く扱う。事前の下調べが不可欠である。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	演習時限の全出席を前提とする。課題の下調べ(30%)、発表(40%)、議論への貢献度(30%)の合計によって評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11号館9階　中沼教授室
備考	課題の下調べに各回1時間ほどが必要になる。 発表の質疑応答や議論の記録をとり、学生に共有する。

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浮田　徹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・ 目的	法学部生としての基礎的な能力を養います。またそれだけでなく、大学生として、将来の社会人として生きていけるような基礎力を身につけるきっかけを創り出します。
到達目標	この演習を通じて学生は、大学生としての基礎的なコミュニケーション能力、文献検索能力、プレゼンテーション能力を培います。 また、４年間の大学生活のスタート地点の講義として、また卒業後の人生も含めた過ごし方の基礎を作って行けるようになることが期待されます。
授業方法と 留意点	演習形式で行います。個人での作業だけでなくグループワークも行いますのでコミュニケーション能力を高める必要があります。 プレゼンテーションも行ってもらいます。。 基本的にはレポートで替えられるものではありませんので毎回の出席が前提です。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	まず ・自分が何を考えているのか ・自分は何を話しているのか ・他人が何を意図しているのか ・他人が何を伝えようとしているのか を実感出来るよう、具体的なコミュニケーション、文章理解、報告などを実践します。 具体的には開講時、そして講義の途中に決めていく部分も多くなります。
関連科目	法学部開講科目
教科書	
参考書	
評価方法 （基準）	出席を前提として、当日演習中に作成する課題(60%)、事後の課題(40%)で評価します。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　浮田准教授室
備考	事前学習としては、演習時に使用する素材に関する文献を読むことになります（30 分)、事後学習としては当日の演習に関する課題を課すのでその作成を行います(60 分)。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	石井　信輝
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・ 目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として３つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （１）ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）、⑤その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。 （２）法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の４年間を意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。たとえば、 ①新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める、②みなさんが関心をもっていることがらについて議論する、③法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する、④ディベートをおこなう、⑤裁判所見学など学外研修を実施するなどです。みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそうよう努力します。 （３）学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。たとえば、①公務員試験対策、②税理士や裁判所職員などの法律専門職、③就職への心構え、④大学院進学、⑤海外留学など、早い段階から準備をしたほうがよいことがらについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。 以上のように、法学基礎演習は、少人数教育の強みを生かし、教員が学生のみなさんに親身に接するなかで、個々の希望にできるだけ対応しながら、今後４年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。
到達目標	この授業を通じて学生には、法学・政治学・法政策学を今後学んでいく上で必要と思われる基本的素養を修得することが期待される。
授業方法と 留意点	ＩFirst year study guide を用いるが、必要に応じて資料を配布する。授業中に提示した課題を解決するため、および事前・事後の学習のためにICTツールを活用していただく場合もあります。対面による授業を原則とします。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	授業テーマ：決められたテーマについて報告、ディスカッションを行う予定ですが、詳細は受講生と相談しながら決めていきたいと思います。 内容・方法：演習（決められたテーマについて報告、ディスカッションを行う） 事前・事後学習課題：必要に応じてその都度指示する
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	平常点（授業に参加する態度 30%、課題 50%、プレゼンテーション 20%）により評価します。欠席・遅刻が多い場合には、レポートを課す場合もあります。
学生への メッセージ	意欲的に取り組んでください。 法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　石井教授室
備考	各回に１時間程度、すなわち半期で 15 時間程度を目安に、事前・事後の学習を行ってください。 課題の解説については、次の回の授業で行う。

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	島田　良一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として３つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （１）ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）、⑤その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。 （２）法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の４年間を意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。たとえば、 ①新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める、②みなさんが関心をもっていることがらについて議論する、③法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する、④ディベートをおこなうなどです。みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそうよう努力します。 （３）学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。たとえば、①公務員試験対策、②税理士や裁判所職員などの法律専門職、③就職への心構え、④大学院進学、⑤海外留学など、早い段階から準備をしたほうがよいことがらについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。 以上のように、法学基礎演習は、少人数教育の強みを生かし、教員が学生のみなさんに親身に接するなかで、個々の希望にできるだけ対応しながら、今後４年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。
到達目標	この授業を通じて学生には、法学を学んでいく上で必要と思われる基本的素養を修得することが期待されます。
授業方法と留意点	受講生にはグループワークの形でプレゼンテーションやディベートなどに積極的・主体的に取り組んでもらうことになります。 したがって、遅刻・無断欠席は厳禁です。 なお、授業は原則として対面形式で行いますが、今後の新型コロナ禍の状況に鑑み、大学から指示があった場合にはオンライン形式に切り替えることになります。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	上述したように、この授業ではプレゼンテーションやディベートなどを通して学生に主体的に授業に取り組んでもらいます。 したがって、事前・事後学習についても、その準備やその後の振り返りにそれぞれ 30 分程度は要することになるかと思われます。 なお、疑問点などがある場合は、次回以降の授業の中で回答します。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	ディベートやプレゼンテーションなどの内容（50%）、ディベートやプレゼンテーションなどにおける発言・取り組みの姿勢・態度（50%）。 ただし、欠席・遅刻が多い場合には単位不認定となる場合があるのでくれぐれも注意してください。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館９階　島田准教授室
備考	

科目名	法学基礎演習 I	科目名（英文）	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	家本　真実
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・ 目的	これから法学部で 4 年間を過ごすことになる学生の皆さんにとって必要な知識と能力の基礎作りをするのが、このゼミの目的です。たとえば、社会で起きている出来事について、それが一体どういうことなのか、なぜその出来事が起きているのか、また問題があるのならどのような解決が考えられるか、といったことを考えていただくことは、法や政治を学ぶにあたって重要なことです。そして様々なことについて自ら考える力は、これから皆さんが社会人として生活するにあたっても必須であり、役立つことです。 したがってこのゼミでは、自分で情報を調べたり、ゼミの他の学生と話し合ったりして、物事を理解するための方法と、理解することの重要性を学んでいただきたいと思います。
到達目標	このゼミを通じて、学生の皆さんには、様々なツールを使って、自らの力で物事を理解することができるようになることが期待されます。
授業方法と 留意点	教員から講義をおこなう部分と、ゼミ生の皆さんが自ら考え、議論したり作業するといった活動をしていただく部分とが混在することになりますが、ゼミ生の皆さんが個別に作業したり、またはグループで議論したり作業する時間のほうが、割合としては多くなります。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、事後 学習課題	時事問題や最近話題になった法的問題や判決、法律を扱ったドラマや映画を題材として取り上げる予定です。 ゼミ中におこなう活動や議論の準備として、事前に読んでくるべき資料をお渡ししたり、課題を課したりすることがありますので、各自（またはグループで)、ゼミ前後にいくらか時間を費やしていただく必要があります。
関連科目	法学基礎演習 II
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	ゼミ中の受講姿勢や活動の内容（80%)、提出された課題（20%）を評価の対象としますので、出席はすべての回について必須です。無断遅刻・欠席は即、単位が取れなくなるものとお考えください。
学生への メッセージ	とにかくゼミには毎回出席していただくこと、これが第一です。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　家本准教授室
備考	課題については、次の回で講評をおこないます。 事前・事後学習に要する総時間数の目安：60 時間

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	城内　明
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	本演習では、受講生が選択したテーマにつき、ディベートを行います。 本演習は、グループワークの中で、議論のあり方を学び、興味関心あるテーマに取り組む中で、調査研究の手法(図書館の使い方、文献検索の方法等）を体得し、研究倫理の基礎(引用・参照文献の示し方)及びプレゼンテーションの手法を学ぶことを目的とします。
到達目標	この授業を通じて学生には、法学部生として学ぶべき基本的な倫理・知識・手法を身に付けることを期待します。
授業方法と留意点	基本的にグループワークとなります。 グループに分かれての作業が中心となりますので、遅刻・欠席のないよう、くれぐれも注意して下さい。どうしても遅刻・欠席せざるを得ない場合は、教員及びグループの仲間への連絡を忘れないようにして下さい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	本演習では、初回に決定したディベートテーマについて、2 回のディベート大会を開催します。 2 グループに分かれ、それぞれ所定の立場から、ディベートテーマに係る調査・研究し、ディベート大会に備えてください。 事前事後の学習課題については、適宜指示します。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	報告内容（40%)およびグループでの作業への貢献度、発言内容等(60%)を総合評価します。 なお、遅刻・欠席が多い学生については、特別に課題を課すこともありますのでご注意ください。
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　城内准教授室
備考	本演習のために、計 20 時間程度の事前・事後学習時間が必要となります。

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小野　晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として３つあります。 （１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと （２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること （３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （１）ガイダンスでは、 ①図書館の利用方法 ②六法や法学参考文献の利用のしかた ③法学専門講義の履修についての心構え ④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方） ⑤その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。 （２）法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の４年間を意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。 たとえば、 ①新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める ②みなさんが関心をもっていることがらについて議論する ③法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する ④ディベートをおこなう などです。 みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそうよう努力します。 （３）学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。 たとえば、 ①公務員試験対策 ②税理士や裁判所職員などの法律専門職 ③就職への心構え ④大学院進学 ⑤海外留学 など、早い段階から準備をしたほうがよいことがらについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。 以上のように、法学基礎演習は、少人数教育の強みを生かし、教員が学生のみなさんに親身に接するなかで、個々の希望にできるだけ対応しながら、今後４年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。
到達目標	この演習を通じて学生には、 「・図書館を通じて法学の文献を取捨選択できる ・判例データベースを用いて判例を検索できる」 ようになることが期待される。
授業方法と留意点	・演習（ゼミ）形式（反転授業）で行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答を行う。 ・法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	法的な問題について、プレゼンテーションやディベートなどを行う。
関連科目	専門科目全般
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / ※開講時に指示する。 / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / ※開講時に指示する。 / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	・ディスカッションへの参加度（50%）と貢献度（50%）によって評価する。
学生へのメッセージ	・学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。 ・また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。 ・どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　小野教授室
備考	・事後学習として、演習で扱った内容についてノートにまとめるなど、毎回２時間以上の復習に取り組むこと。 ・レポート課題に対するフィードバックは翌週の授業内にて行う。

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	萩原　佐織
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・ 目的	法学基礎演習Ⅰのおもな授業内容として、 （1）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、 （2）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、 （3）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることの3点を上げることができます。 個々の細かな知識を覚えることも大事ですが、むしろこの演習ではこれから学習していく法律学の全体像を大まかにとらえ、2 年次以降の専門的な学習に対応できる基礎力を養うことが重要になります。
到達目標	大学生活が始まったばかりで多々不安な点があるかと思います。この演習を通じて学生には、そうした不安をいち早く払拭し、法律学の勉強に専念できる体制を整えることが期待される。
授業方法と 留意点	演習では、課題はもちろんのこと、出席して行う演習内活動（平常点）も重視します。無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、原則として、事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。演習では、図書館利用案内等、法学部共通のプログラムのほか、数名で構成するグループによる判例研究等のプレゼンテーション並びにその準備としてのグループワーク、その題材に基づくディベートやディスカッションを中心に行いま
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	前期は大学生活に慣れることを目標に、みんなで大学生の基本的スキルを身につけたいと思います。大学生活が始まったばかりで、色々分からないことや不安なことがあるかと思いますので、それらの不安を払拭してサポートすることを念頭に置いています。また、大学内に友人や知人が未だ少ない時期だと思います。そのため、ゼミ生同士がお互いを知り、今後 4 年間学生生活をともにする仲間を見つけられるように、自己紹介や、互いにコミュニケーションが図れるような機会を多く設ける予定です。 演習の具体的な内容としては、パワーポイントを用いた自己紹介、パワーポイント・ワードの使い方やレポートの書き方の講習、大学生活についてのアドヴァイス、簡単な法律に関する課題・レポートや発表を予定しています。また、図書館で文献を探したり、オンラインジャーナルやオンライン判例検索を用いた判例・論文等の入手方法についても学び、実際に入手した資料を用いてグループワークや発表を行います。 予習事項は、毎回その都度指定しますが、各自の発表に備えて Word やパワーポイント資料を作成したり、設定テーマに関連する文献を図書館やオンラインジャーナル等で調べて読み込んでおくこと、発表準備を行うこと等が挙げられます。 また、復習事項は、ゼミ内に教員より個別に指導された内容、例えば、発表資料の修正、文献の追加検索や入手です。Teams 上で提出し返却された課題については、そこに示されたフィードバックの指示に従って復習を行って下さい。 事前・事後学習の時間は、それぞれ 2 時間、プレゼンテーション前は 3 時間を想定しています。
関連科目	法学部の専門科目のすべてにかかわります。
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	演習内におけるプレゼンテーション準備やディベート・ディスカッション等の平常点（60%）、プレゼンテーションやレポート・課題（40%）で評価します。また、欠席・遅刻が多い場合には、レポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。
学生への メッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　萩原准教授室
備考	判例研究等のプレゼンテーションの際には、準備段階から、Word や Power Point の使い方、論文・判例等の各種文献検索や判例研究の仕方を含め、適時、演習内において指導する。 また、プレゼンテーション終了後は、その場でそのフィードバックを行い、次回のプレゼンテーションに還元できるように努める。 なお、レポート等のフィードバックは、後日、添削・評価してから、演習内及び Teams において行うものとする。

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大川　謙蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・ 目的	法学部生としての基礎的な能力を養います。またそれだけでなく、大学生として、将来の社会人として生きていけるような基礎力を身につけるきっかけを創り出します。
到達目標	この演習を通じて学生には、大学生としての基礎的なコミュニケーション能力、文献検索能力、プレゼンテーション能力を付けることが期待されます。 また、４年間の大学生活のスタート地点の講義として、また卒業後の人生も含めた過ごし方の基礎を作ってもらいます。
授業方法と 留意点	演習形式で行います。基本的にはレポートで替えられるものではありませんので毎回の出席が前提です。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	まず ・自分が何を考えているのか ・自分は何を話しているのか ・他人が何を意図しているのか ・他人が何を伝えようとしているのか を実感出来るよう、具体的なコミュニケーション、文章理解、報告などを実践します。 具体的には開講時、そして講義の途中に決めていく部分も多くなります。
関連科目	法学部開講科目
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	ゼミへの取り組み方から、教員により評価をいたします。具体的には、課題に対する対応・提出内容（40 点）、ゼミでの発言等の積極性（40 点）、自らのアピール（20 点）の予定です。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　大川准教授室
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の３つから成り立っています。 予習内容としては、演習で与えられる課題を個人で準備を行う必要があります。その準備を 90 分を基準として行う必要があります。 復習として、課題に対し、中間報告及び最終報告の内容を正確に押さえる必要があります。その為に 90 分を基準として行う必要があります。 学生主体の演習を目指しています。各実施状況については各自の報告時及びメールで確認します。 演習での縦の人間関係も重視しております。コンパなどで、就活などの情報も先輩から後輩へと伝えていくこと

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松島　裕一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱのおもな授業内容として、（1）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（2）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（3）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることの3点を上げることができます。 個々の細かな知識を覚えることも大事ですが、むしろこの演習ではこれから学習していく法律学の全体像を大まかにとらえ、2 年次以降の専門的な学習に対応できる基礎力を養うことが重要になります。
到達目標	この演習を通じて学生には、法律学の勉強に専念できる体制を整え、一刻も早く大学生活に慣れることが期待される。
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	前期は大学生活に慣れることを目標に、みんなで大学生の基本的スキルを身につけたいと思います。時おり簡単な課題を出しますので、それを提出してください。具体的には毎年パワーポイントを用いた報告会を行っていますので、今年も皆さんにもそれに取り組んでもらうことになると思います（あるいは、文献講読になるかもしれません）。 なお、パワポ、レジュメ作成などの事前の課題の取り組みに 60 分程度、またゼミで学習したことの振り返りに 60 分程度が必要となります。グループワークやディスカッションを行いますので、無断欠席・遅刻は他のゼミ生の迷惑になります。その点は注意してください。
関連科目	法学部の専門科目のすべてにかかわります。
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	毎回の出席を当然の前提とし、ゼミ中での発言（ディスカッション・ディベート）、レポートなどの提出物、レジュメ・報告の出来などを総合的に判断して成績評価を行います（100%）。欠席・遅刻が多い場合には、単位取得を認めないこともあります。
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　松島准教授室
備考	何かしら書籍を購入してもらうことになるかもしれませんので、そのつもりでゼミに臨んでください。

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	増田　知也
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	この授業では、法学部で勉強する上で必要な、基礎的な知識・技能を身につけることを目指す。法学・政治学に関わるテーマを設定し、グループごとに情報収集、発表、議論を行う。適切な情報の入手方法、分かりやすい発表資料の作り方、建設的な議論の仕方について学ぶ。
到達目標	この授業を通じて学生には、多様な情報を基に自分の意見を形成し、他者との議論を通じて一段階上の結論を導くことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	グループワークを中心に授業を進行する。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	1. ガイダンス 大学生活について、授業の進め方、情報機器の使い方、情報の入手方法などについてガイダンスを行う。 2. テーマの設定 法学・政治学に関わるテーマをいくつか提示し、グループごとに取り組むテーマを選択する。 3. 情報収集 図書館、インターネットなどを駆使して、テーマについての情報を集め、グループとしての結論を出す。 4. プレゼンテーション グループごとに成果を発表し、質問や意見を出し合い、更に理解を深める。 事前・事後学習課題 グループで選んだテーマについての情報収集を行う（4 時間）
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	到達目標の達成度 60% 、グループ活動への貢献 20%、積極的発言 10%、プレゼンテーション 10%
学生へのメッセージ	大学では、高校までとは勉強の仕方が 180 度変わります。正解のない問題に取り組む難しさと楽しさを感じてもらえればと思います。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　増田講師室
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	和田　泰一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・ 目的	一般的に大学生の教養とされている文献の読解能力や論理的思考力・判断力・表現力の基礎を身につけることが目的です。学生の皆さん一人一人が、自分が興味を持っている問題について主体的に考え、議論し、問題解決への糸口をつかめるような主体的・対話的で深いアクティブ・ラーニングの場を提供します。 また授業の受け方やレポートの書き方など、大学生活を送る上で必要な事柄についても授業します。
到達目標	この授業を通じて学生は、大学生の教養として必要な書物・新聞記事・評論などを読んで基本的な知識・技能を獲得するとともに、その要点やメリット・デメリットをまとめ、望ましい解決策について他者と討議し、他者に対してそれを明確に発表するという論理的思考力・判断力・表現力を育成することが期待されます。 またグループディスカッション・プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを通じて主体的・対話的で深い学びを行うなかで、学習や仕事に対する意欲や積極的な人間性を育み、社会において良好で協調性のある人間関係を構築する
授業方法と 留意点	ABD（Active Book Dialogue, アクティブ・ブック・ダイアローグ）というアクティブ・ラーニングの方法を用いて、政治問題に関する文献の読解・グループディスカッション・プレゼンテーションを毎回全員が行います。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	・授業テーマ・内容 教養文献の読解や議論、発表を通じて、その内容を正確に理解し、他者と討議してその内容を吟味し、他者にわかるようにその内容・解決策を発表することによって、基本的な日本語読解能力と論理的思考力・判断力・表現力を修得することができます。 ・授業方法 学生の皆さんの興味・関心を考慮しながら、教養文献をその場で毎回輪読・議論・発表する ABD（Active Book Dialogue, アクティブ・ブック・ダイアローグ）というアクティブ・ラーニングの方法を用います。短い時間で日本語の文章を読み、その要点を的確に理解することは、就職試験や公務員試験の「文章読解」で求められる能力でもあり、社会人になった後のマニュアル・資料の読解にも必ず必要な能力です。またグループディスカッションやプレゼンテーションは、仕事で問題が発生したときにその原因を的確に把握し、他者と望ましい解決策を討議し、最善と判断した改善策を他者に論理的に説得するためにも必要な能力です。 ・事前、事後学習課題 事前学習…その場で教養文献を読んでもらうので、必要ありません。 事後学習…文献全体をもう一度読み直し、内容を理解しておくこと（60 分～90 分程度）。
関連科目	法学基礎演習Ⅱ
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	授業でのグループディスカッション（50%）とプレゼンテーション（50%）で評価します。
学生への メッセージ	大学生活に慣れるべく、毎回出席してください。またさまざまな分野の教養文献を読み、自分の興味・関心を広げていってください。
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 11 号館 10 階　和田研究室
備考	グループディスカッションでは教員も適宜参加し、助言を与えます。プレゼンテーションでは毎回その内容について全員に助言と短評を与えます。

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	本多　康作
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として３つあります。 （１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと （２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること （３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （１）ガイダンスでは、 ①図書館の利用方法 ②六法や法学参考文献の利用のしかた ③法学専門講義の履修についての心構え ④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方） ⑤その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。 （２）法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の４年間を意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。 たとえば、 ①新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める ②みなさんが関心をもっていることがらについて議論する ③法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する ④ディベートをおこなう などです。 みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそうよう努力します。 （３）学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。 たとえば、 ①公務員試験対策 ②税理士や裁判所職員などの法律専門職 ③就職への心構え ④大学院進学 ⑤海外留学 など、早い段階から準備をしたほうがよいことがらについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。 以上のように、法学基礎演習は、少人数教育の強みを生かし、教員が学生のみなさんに親身に接するなかで、個々の希望にできるだけ対応しながら、今後４年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。
到達目標	この演習を通じて学生には、 「・図書館を通じて法学の文献を取捨選択できる ・判例データベースを用いて判例を検索できる」 ようになることが期待される。
授業方法と留意点	・演習（ゼミ）形式（反転授業）で行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答を行う。 ・法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	法的な問題について、プレゼンテーションやディベートなどを行う。
関連科目	専門科目全般
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / ※開講時に指示する。 / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / ※開講時に指示する。 / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	・ディスカッションへの参加度（50%）と貢献度（50%）によって評価する。
学生へのメッセージ	・学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。 ・また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。 ・どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の研究室等	11 号館９階
備考	・事後学習として、演習で扱った内容についてノートにまとめるなど、毎回２時間以上の復習に取り組むこと。 ・レポート課題に対するフィードバックは翌週の授業内にて行う。

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	寺山　洋一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・ 目的	本法学基礎演習Ⅰでは、大学生としての学業生活に慣れ親しむことを主眼に置いています。 その目的は、次のとおり、主に３つあります。 ①　法学部における修学のためのガイダンス（Guidance）を行うこと。 ②　法学部の学生としての基本的な能力を引き出すとともに、 向学心を養いつつ、基礎的なスキル（Skill）を高めること。 ③　大学生としての実りある諸活動を支援し、推し進めること。 法学基礎演習Ⅰは、少人数教育の強みを活かし、担当教員が、ぞれぞれの受講者の将来の抱負に寄り添いつつ、実りある学業生活のための道筋を示すことを目指しています。
到達目標	法学基礎演習Ⅰを通じ、これからの法学の学修に向けて、基本的な素養や基礎的なスキルを修得することが期待されます。
授業方法と 留意点	当初は、新入生共通の教材 「First Year Study Guide」 を用いるとともに、 社会的に重要視される問題や主要な課題への関心の醸成を進めます。 その後、ゼミ（演習）形式で、グループワークや全体討議などに主体的に取り組むことになります。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	１　ガイダンスでは、主に、次の事柄を行います。 ①　図書館の利用方法 ②　六法全書や法学参考文献などの利用の仕方 ③　法学専門講義の履修に当たっての心構え ④　パソコンの使い方（特に法学部の学生として必要な使い方） ⑤　その他として、学業生活をめぐる助言・指導 を行います。 ２　法学部の学生として身に付けるべき基本的な素養とは、「読む・書く・聴く・話す」という、 ロジカルな「思考力」及び「表現力」です。 こうした素養を身に付けるための第一歩として、例えば、 ①　ニュース記事を通じて、現代社会に関する情報を入手すること、 ②　法学や政治学への関心を高めるような文献や資料を読み込むこと、 ③　受講者が関心や疑問を抱いている社会的な事象について対話を進めること など、受講者の励みとなるものを想定しています。 また、法律を読む際の基礎的なスキルとして、法律用語などについても解説します。 ３　受講者の実りある諸活動の支援・推進として、次のような事柄について相談に応じます。 ①　（国家・地方）公務員、裁判所職員、国会職員などの役割や働き方 ②　国家資格などの法律専門職の役割や働き方 ③　就職に際しての心構え ④　大学院への進学、海外への留学 また、将来の抱負に有益となる助言なども行います。
関連科目	法学概論、日本国憲法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	法律をスラスラ読むための６つの秘訣　令和５年度版	テラボ	斉家書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	移りゆく雇用・労働六法　令和５年度版	テラボ	斉家書房
2			
3			

評価方法 （基準）	主体的に参画する意欲・姿勢を重視します。 毎回の出席を前提として、おおむね、調べもの等への取組姿勢やグループにおける傾聴・発言内容（３５％）、全体討議における傾聴、発言内容（３５％）、テーマごとのレポート（３０％）を、総合的に判断して評価を行います。 欠席・遅刻する場合には、事前に担当教員に連絡を取ってください。 無断の欠席・遅刻に対しては厳正に対処し、場合に応じて、単位を認めないことがあり得ます。
学生への メッセージ	１年次の法学基礎演習Ⅰは、大学生になって初めての大切な出会いの場となります。 まずは、爽やかな挨拶などの声掛けから始め、お互いの信頼関係を築いていきましょう。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　寺山教授室
備考	授業中、追加的な調べもの、レポート作成の準備を行うことがあります。 各自、PC・スマートフォン等の電子機器を持ち込んでも差し支えありません。 授業前の下調べに２時間程度を、授業後の振返りに２時間程度を要します。

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小山　昇
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・ 目的	法学基礎演習Ⅱは、 　前期の法学基礎演習Ⅰで学んだことを基礎として、さらに 　２年次以降の法学部での勉学のために、法学部生として身につけるべき基本的能力を確認し、さらに学習意欲を高めることが目的となります。 　法学基礎演習Ⅱでは、ラーニングセンターの見学などの学部合同授業の他、 　社会で議論される問題を設定して賛成・反対に分かれて討論することが中心となります。
到達目標	学生には、「取り上げた社会問題」をテーマとする討論を通して、培うべき「法的なものの考え方」を理解し説明できるようになることが期待されます。
授業方法と 留意点	後期の授業は、問題を提示して（自分の考えとは関係なく）賛成・反対に分かれてディベートもしくはディスカッションを行います。それぞれの立場をとる理由を事前に考えてゼミに臨んで下さい。最後に、「総合課題」としてレポートの提出を求めます。なお、対面授業が実施できない状況になったときは、「Teams」及び「WebFolder」を利用しますが、その場合はPortalで周知します。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	１．学部合同授業、ラーニングセンターの体験学習など：２回程度 ２．討論する問題の提示と提示された問題についての討論 　　：提示とやり方の説明を加えて１３回程度 　事前に提示した問題について、各授業時間ごとに２時間程度の事前の「問題の検討」と「見直し」をして下さい。
関連科目	法学部で開講されている授業科目
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 必要な資料を配付します。 / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 適宜、紹介します。 / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	討論での「発言状況」と「発言の明確性」(60%)及び最後に提示する「総合課題」のレポート(40%)を合計して評価します。
学生への メッセージ	設定する問題に対して賛成・反対のどちらの立場でも理由を述べて発言ができるように、社会問題に関心を持って下さい。ネットニュースや新聞などのチェックも忘れないで下さい。
担当者の 研究室等	11号館９階　小山教授室
備考	質問などは、授業・ＳＨの時間のほかメールも積極的に利用してください。課題なども、適宜、SHやPortalを利用してフィードバックします。

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	高間　佐知子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・ 目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として３つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （１）ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方)、⑤その他、学生生活に必要なノウハウを学びます。
到達目標	この授業を通じて学生には、大学生として学習するうえで必要となる基礎的能力を身につけることが期待されます。
授業方法と 留意点	ゼミ生の皆さんが行う報告をもとにして問題点を掘り下げていきます。題材は、裁判例や ニュースなどを中心に、なるべくゼミ生の皆さんが興味関心のあるものにしぼります。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	・授業のテーマ 新聞記事やニュースを法律の視点で眺める ・授業内容および方法 新聞記事やニュースなどから法律が絡んでくるものを見つけ出すことから始める。そして、実際に関連する法律は何か検討する中で、法律知識も身につけていく。また、裁判傍聴などをすることで実際に法律問題がどのように解決され、裁判がどのように進められているかを学ぶ機会も作りたい。その他に具体的な内容はできる限りゼミ生の皆さんの意見を取り入れて実施する予定である。 ・事前学習および事後学習 報告をするにあたって事前準備はしっかりと行い、報告資料の作成を行ってもらう。また、復習としてレポート課題に取り組んでもらうこともある。
関連科目	法学関連科目、社会科学全般
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	演習での参加態度として、プレゼンテーションの内容（40%）やディスカッションでの発言（30%）などを判断材料にして、どれほど演習の時間を自分で有意義なものにしているか（30%）といった点を評価します。
学生への メッセージ	大学生活にも慣れてくる頃だと思いますが、改めて自分なりに目標を見つけて頑張ってください。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階
備考	

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小島　俊朗
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・ 目的	法学基礎演習の目的は、主として３つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活を送るに当たって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるよう様々な支援をすることです。
到達目標	この演習を通じて学生には、次の目標を達成することが期待されます。 ①法学部における学習の基本や法律的なものの考え方を理解すること。 ②大学生活になじむこと。 ③大学４年間を計画的に過ごすための基礎を固めること。
授業方法と 留意点	演習は、参加重視です。毎回必ず参加して、無断不参加・無断遅刻は慎んでください。やむをえず不参加・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習に限らず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。当ゼミ独自のテーマでは、皆さんのプレゼンテーションの後に質疑応答やディスカッションの時間を設けます。皆さんが主役ですので積極的に発言してください。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	裁判所見学などの法学部共通プログラム（実施未定）のほか、憲法制定の沿革や法令解釈の仕方などを学びます。また、当ゼミは「自分の言葉で説明してみよう」を中心テーマとして掲げ、皆さんに効果的なプレゼンテーションをするにはどうしたらよいのかを考えてもらいます。資料は提供しますが、一方的なお話ではなく、他のゼミ生を参加させるように工夫してください。授業計画に応じたテーマにつき、事前・事後の学習を行い、理解を深めることが重要です。
関連科目	憲法、民法
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	平常点（５０%）、レポート内容及び課題発表（50%）によって評価します。平常点は、ゼミでの積極的な発言、出席状況とレポート提出状況を重視します。
学生への メッセージ	法学基礎演習の担当教員は、皆さんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法が分からないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な友人となります。良好な関係を築いてください。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　小島教授室
備考	課題発表は、質疑応答の後に、良かった点、改善・工夫を要する点などにつきコメントします。レポートについても適宜講評を行います。 重要なことは自ら学習する姿勢を身に着けることです。したがって、授業計画に応じたテーマにつき、事前・事後の学習を少なくとも毎回各 30 分程度行うように心掛けて下さい。

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	河原　匡見
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・ 目的	法学基礎演習の目的は、主として３つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （１）ガイダンスでは、図書館の利用方法、六法や法学参考文献の利用のしかた、法学専門講義の履修についての心構え、パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）、その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。 （２）法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の４年間を意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。たとえば、 新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める、みなさんが関心をもっていることがらについて議論する、法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する、ディベートをおこなう、裁判所見学など学外研修を実施するなどです。みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそうよう努力します。 （３）学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。たとえば、公務員試験対策、税理士や裁判所職員などの法律専門職、就職への心構え、大学院進学、海外留学など、早い段階から準備をしたほうがよいことがらについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。 以上のように、今後４年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。
到達目標	この演習を通じて学生には、大学生としての勉強のしかたや日々の過ごしかたなどを学んで、安全で有意義な大学生活を送れるようになることと、２年次後期から履修が始まる「専門演習」に備えて演習形式の学習法に慣れることが期待される。
授業方法と 留意点	「対面式」で実施します。演習は、少人数教育の強みを生かすもので出席してディスカッションに参加することが重要です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	詳細は、第１回目の演習で説明しますが、概ねⅡでは、法学部の演習形式による学習に慣れることを主眼に据えていきます。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	平常点（ディスカッションへの参加などの学習姿勢７０％および課題提出３０％）により評価します。なお、欠席・遅刻が多い場合には、レポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。
学生への メッセージ	法学基礎演習の担当教員は、クラス担任のようなものです。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　河原教授室
備考	課題レポートは、報告してもらった後で講評します。 特に事後学習を重視して、各授業時間ごとに２時間程度の見直しをしてください。

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中　敦
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・ 目的	・本演習及び前期の法学基礎演習Ⅰを通じ、通年で共通する授業内容としては、(１)法学部における勉学のためのガイダンスを行うこと、(２)法学部生として身に付けるべき基本的能力を引き出して訓練するとともに、これからの法学部生活を送るに当たって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすること、の３つがあると考えられる。 ・本演習は、法学基礎演習Ⅰで行った授業を踏まえ、さらに法律に関する基礎知識及び法的な考え方を習得するために、法学の学習をより深めていきたいと考える。
到達目標	この授業を通じて学生には、授業の目的欄に記載したとおり、法学部学生として身に付けておくべき基本的な姿勢を習得するとともに、次年度の専門演習に備え、①判例を調査し、判示事項や判決内容などを検討できるようになること、②法的観点を見出して、自分の見解を述べ、他の意見を聞いて議論ができるようになることが期待される。
授業方法と 留意点	・授業に出席して議論に積極的に参加することを重視する。無断欠席は慎んでほしい。やむをえず欠席するときには、できるだけ事前に教員まで連絡をいただきたい。授業に際しては、必ず六法を手元に用意しておくこと。 ・本演習の授業内容に限らず、学生生活全般にわたる質問や疑問であっても、随時受け付けるので、気軽に相談してほしい。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ】 ・法学基礎演習Ⅰと同じく、自分の意見の発表力を高めることを内容とするが、発表等の際には、条文等を音読させたうえ、内容を確認することも行う。これは、法律に慣れるとともに、文章の理解能力を高めるためのものである。 ・１５回の授業は、共通授業を除いて、大きく分けて次のように行うことを考えている。 ①第１回は、導入及び授業についての要望を聞く。その後要望等を踏まえ、ゼミに必要となる基本事項の説明や適宜の話題に関する講義等を行う。 ②前半では、法学検定の基礎編（法律一般）の問題を回答してもらう（６回程度)。問題は、Teams によって事前に送付する。単なる正解の確認にとどまらず、なぜそのように考えるのか、あるいはこれに関連する分野、問題についても講義を行ったり、学生とのあるいは学生同士での議論を行ったりする。 ③後半では、法律をめぐる問題あるいは時の判例を中心に、議論を行っていきたい。 【事前・事後学習課題】 本授業では、事前学習及び事後学習に各２時間を充てることが求められる。事前学習は、事前に指示することもあるが、指示の有無にかかわらず、当日の授業を踏まえ、自ら考えて行うことも必要である。法学検定の問題については、授業できちんと回答できるように予習を行っておくこと。事後学習は、当日の授業の復習のほか、教員から指示を受けた事項の学習や課題を提出することもある。 【六法の準備】 事前・事後の学習に当っては六法を参照し、指示した授業には、六法を持参すること。六法は、ポケット六法等を準備すること（最新版の令和５年版を推奨する)。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業における態度（遅刻せずきちんと出席しているか、議論に積極的に参加しているか、事前事後の学習をして授業に対応できているか。５０％）及び、Teams 上での小テストや課題（５０％）で評価する。欠席・遅刻が多かったり、授業態度が良好でない場合には、別途レポートを課することがある。
学生への メッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任なので、学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となることと思います。良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活を送ってください。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　田中教授室
備考	コロナをめぐる情勢、学生の理解度、授業の進行によっては、授業の方法、順序、内容を変更することがある。

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中沼　丈晃
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	演習（ゼミ）は大学独特の勉強の形式で、教員と少人数の学生の間で議論（ディスカッション）をしたり、発表（プレゼンテーション）をしたりする。法学基礎演習では、卒業まで４年間続く演習の形式でどういった努力が必要か、課題に取り組みながら学ぶ。
到達目標	この演習を通じて学生には、①課題について自分の考えをまとめて、発言する、②他の学生の考えを聴いて、メモをとる、③そのメモをもとに質問をしたり、意見を述べたりすることが期待される。
授業方法と留意点	課題について下調べをして、自分の考えをまとめ、他の学生との間で議論を行う（ディスカッション）。同様に、発表を行う（プレゼンテーション）。＊遠隔の場合、zoom で行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	学生間で話し合う、発表しあう課題は、自分の小中高校生時代の経験といった身近な事柄から、政治・経済・社会の時事に関することまで広く扱う。事前の下調べが不可欠である。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	演習時限の全出席を前提とする。課題の下調べ(30%)、発表(40%)、議論への貢献度(30%)の合計によって評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 9 階　中沼教授室
備考	課題の下調べに各回 1 時間ほどが必要になる。 発表の質疑応答や議論の記録をとり、学生に共有する。

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浮田　徹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	前期に引き続き、法学部生としての基礎的な能力を養います。またそれだけでなく、大学生として、将来の社会人として生きていけるような基礎力を身につけるきっかけを創り出します。
到達目標	この講義を通じて学生には、前期に引き続き大学生としての基礎的なコミュニケーション能力、文献検索能力、プレゼンテーション能力を培い、４年間の大学生活のスタート地点の講義として、また卒業後の人生も含めた過ごし方の基礎を作れるようになることが期待される。
授業方法と留意点	演習形式で行います。基本的にはレポートで替えられるものではありませんので毎回の出席が前提です。 個別の学習だけでなくグループワークを用いて行いますのでコミュニケーション能力が必要となります。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	まず ・自分が何を考えているのか ・自分は何を話しているのか ・他人が何を意図しているのか ・他人が何を伝えようとしているのか を実感出来るよう、具体的なコミュニケーション、文章理解、報告などを実践します。 具体的には開講時、そして講義の途中に決めていく部分も多くなります。
関連科目	法学部開講科目
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	出席を前提として、当日演習中に作成する課題(60%)、事後の課題(40%)で評価します。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 9 階　浮田准教授室
備考	事前学習としては、演習時に使用する素材に関する文献を読むことになります（30 分)、事後学習としては当日の演習に関する課題を課すのでその作成を行います(60 分)。

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	石井　信輝
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・ 目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として３つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （１）ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）、⑤その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。 （２）法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の４年間を意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。たとえば、 ①新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める、②みなさんが関心をもっていることがらについて議論する、③法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する、④ディベートをおこなう、⑤裁判所見学など学外研修を実施するなどです。みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそうよう努力します。 （３）学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。たとえば、①公務員試験対策、②税理士や裁判所職員などの法律専門職、③就職への心構え、④大学院進学、⑤海外留学など、早い段階から準備をしたほうがよいことがらについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。 以上のように、法学基礎演習は、少人数教育の強みを生かし、教員が学生のみなさんに親身に接するなかで、個々の希望にできるだけ対応しながら、今後４年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。
到達目標	この授業を通じて学生には、法学・政治学・法政策学を学んでいく上で必要と思われる基本的素養を修得することが期待される。
授業方法と 留意点	First year study guide を用いるが、必要に応じて資料を配布する。授業中に提示した課題を解決するため、および事前・事後の学習のために ICT ツールを活用していただく場合もあります。対面による授業を原則とします。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、事後 学習課題	授業テーマ：決められたテーマについて報告、ディスカッションを行う予定ですが、詳細は受講生と相談しながら決めていきたいと思います。 内容・方法：演習（決められたテーマについて報告、ディスカッションを行う） 事前・事後学習課題：必要に応じてその都度指示する
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	平常点（授業に参加する態度 30%、課題 50%、プレゼンテーション 20%）により評価します。欠席・遅刻が多い場合には、レポートを課す場合もあります。
学生への メッセージ	意欲的に取り組んでください。 法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　石井教授室
備考	各回に１時間程度、すなわち半期で 15 時間程度を目安に、事前・事後の学習を行ってください。 課題の解説は次の回の授業で行う。

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	島田　良一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・ 目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として３つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （１）ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）、⑤その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。 （２）法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の４年間を意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。たとえば、 ①新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める、②みなさんが関心をもっていることがらについて議論する、③法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する、④ディベートをおこなうなどです。みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそうよう努力します。 （３）学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。たとえば、①公務員試験対策、②税理士や裁判所職員などの法律専門職、③就職への心構え、④大学院進学、⑤海外留学など、早い段階から準備をしたほうがよいことがらについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。 以上のように、法学基礎演習は、少人数教育の強みを生かし、教員が学生のみなさんに親身に接するなかで、個々の希望にできるだけ対応しながら、今後４年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。
到達目標	この授業を通じて学生には、法学を学んでいく上で必要と思われる基本的素養を修得することが期待されます。
授業方法と 留意点	受講生にはグループワークの形でプレゼンテーションやディベートなどに積極的・主体的に取り組んでもらうことになります。 したがって、遅刻・無断欠席は厳禁です。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、事後 学習課題	上述したように、この授業ではプレゼンテーションやディベートなどを通して学生に主体的に授業に取り組んでもらいます。 したがって、事前・事後学習についても、授業テーマによって若干異なることになりますが、プレゼンテーションの場合であってもディベートの場合であっても、その準備やその後の振り返りにそれぞれ 30 分程度は要することになるかと思われます。 なお、プレゼンテーションやディベートの後には講評をするかたちでフィードバックを行います。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	ディベートやプレゼンテーションなどの内容（50%）、ディベートやプレゼンテーションなどにおける発言・取り組みの姿勢・態度（50%）。 ただし、欠席・遅刻が多い場合には単位不認定となる場合があるのでくれぐれも注意してください。
学生への メッセージ	初回の授業は対面で行いますが、その後については、受講生の意見も聴きながら、諸般の状況を踏まえて決めたいと思います。
担当者の 研究室等	11 号館９階　島田准教授室
備考	

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	家本　真実
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	これから法学部で 4 年間を過ごすことになる学生の皆さんにとって必要な知識と能力の基礎作りをするのが、このゼミの目的です。たとえば、社会で起きている出来事について、それが一体どういうことなのか、なぜその出来事が起きているのか、また問題があるのならどのような解決が考えられるか、といったことを考えていただくことは、法学、政治学を学ぶにあたって重要なことです。そして様々なことについて自ら考える力は、これから皆さんが社会人として生活するにあたっても必須であり、役立つことです。 したがってこのゼミでは、法学基礎演習Ⅰに引き続き、自分で情報を調べたり、ゼミの他の学生と話し合ったりして、物事を理解するための方法と、理解することの重要性を学ぶとともに、それらを他の人に伝えることを学んでいただきたいと思います。
到達目標	このゼミを通じて、学生の皆さんには、様々なツールを使って、自らの力で物事を理解することができるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	教員から講義をおこなう部分と、ゼミ生の皆さんが自ら考え、議論したり作業するといった活動をしていただく部分とが混在することになりますが、ゼミ生の皆さんが個別に作業したり、またはグループで議論したり作業する時間のほうが、割合としては多くなります。 なお、後期のゼミの実施方法等については、こちらから皆さんにメールをお送りして、また前期から使用している Moodle を使用して、詳細についてお知らせしますので、そちらをご確認ください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	前期の法学基礎演習Ⅰに引き続き、時事問題や判決、法律を扱ったドラマや映画を題材として取り上げる予定ですが、前期に比べて、1 つのことをより掘り下げて理解する能力を身につけていただくことに重きを置くことを考えています。 ゼミ中におこなう活動や議論の準備として、事前に読んでくるべき資料をお渡ししたり、課題を課したりすることがありますので、各自またはグループで、ゼミ前後にいくらか時間を費やしていただく必要があります。
関連科目	法学基礎演習Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	ゼミ中の受講姿勢や活動の内容（80%）、提出された課題（20%）を評価の対象とします。
学生へのメッセージ	とにかくゼミには毎回出席していただくこと、これが第一です。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　家本准教授室
備考	課題については、次の回で講評をおこないます。 事前・事後学習に要する総時間数の目安：60 時間

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	城内　明
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	本演習では、受講生が選択したテーマにつき、ディベートを行います。 本演習は、グループワークの中で、議論のあり方を学び、興味関心あるテーマに取り組む中で、調査研究の手法(図書館の使い方、文献検索の方法等）を体得し、研究倫理の基礎(引用・参照文献の示し方)及びプレゼンテーションの手法を学ぶことを目的とします。
到達目標	この授業を通じて学生には、法学部生として学ぶべき基本的な倫理・知識・手法を身に付けることを期待します。
授業方法と留意点	基本的にグループワークとなります。 グループに分かれての作業が中心となりますので、遅刻・欠席のないよう、くれぐれも注意して下さい。どうしても遅刻・欠席せざるを得ない場合は、教員及びグループの仲間への連絡を忘れないようにして下さい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	本演習では、初回に決定したディベートテーマについて、2 回のディベート大会を開催します。 2 グループに分かれ、それぞれ所定の立場から、ディベートテーマに係る調査・研究し、ディベート大会に備えてください。 事前事後の学習課題については、適宜指示します。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	報告内容（40%)およびグループでの作業への貢献度、発言内容等(60%)を総合評価します。 なお、遅刻・欠席が多い学生については、特別に課題を課すこともありますのでご注意ください。
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　城内准教授室
備考	本演習のために、計 20 時間程度の事前・事後学習時間が必要となります。

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小野　晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的

法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として３つあります。
（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと
（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること
（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。

（１）ガイダンスでは、
①図書館の利用方法
②六法や法学参考文献の利用のしかた
③法学専門講義の履修についての心構え
④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）
⑤その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。

（２）法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の４年間を意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。
たとえば、
①新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める
②みなさんが関心をもっていることがらについて議論する
③法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する
④ディベートをおこなう
などです。
みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそうよう努力します。

（３）学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。
たとえば、
①公務員試験対策
②税理士や裁判所職員などの法律専門職
③就職への心構え
④大学院進学
⑤海外留学
など、早い段階から準備をしたほうがよいことがらについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。

以上のように、法学基礎演習は、少人数教育の強みを生かし、教員が学生のみなさんに親身に接するなかで、個々の希望にできるだけ対応しながら、今後４年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。

到達目標

この演習を通じて学生には、
「・図書館を通じて法学の文献を取捨選択できる
　・判例データベースを用いて判例を検索できる」
ようになることが期待される。

授業方法と留意点

・演習（ゼミ）形式（反転授業）で行う。
・教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答を行う。
・法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。

授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題

法的な問題について、プレゼンテーションやディベートなどを行う。

関連科目

専門科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	※開講時に指示する。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	※開講時に指示する。		
2			
3			

評価方法（基準）

・ディスカッションへの参加度（50%）と貢献度（50%）によって評価する。

学生へのメッセージ

・学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。
・また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。
・どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。

担当者の研究室等

11 号館 10 階　小野教授室

備考

・事後学習として、演習で扱った内容についてノートにまとめるなど、毎回２時間以上の復習に取り組むこと。
・レポート課題に対するフィードバックは翌週の授業内にて行う。

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	萩原　佐織
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・ 目的	法学基礎演習Ⅱのおもな授業内容として、 （１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、 （２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、 （３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることの３点を上げることができます。 個々の細かな知識を覚えることも大事ですが、むしろこの演習ではこれから学習していく法律学の全体像を大まかにとらえ、2 年次以降の専門的な学習に対応できる基礎力を養うことが重要になります。
到達目標	法学基礎演習Ⅰでは「大学生」としての基本スキルを身に着けることが目標でしたが、この法学基礎演習Ⅱを通じて学生には、「法学部生」としての基本スキルを身に着けることが期待されます。具体的に、学生には、法令や判例の調べ方、法律文献の引用の仕方などを習得することが期待されます。
授業方法と 留意点	演習では課題はもちろんのこと、出席して行う演習内活動（平常点）も重視します。無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、原則として、事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。演習では、大阪地方裁判所における裁判所見学、学習支援センター見学、SMART-SPI 説明会等の法学部共通プログラムのほか、数名で構成するグループによる判例研究等のプレゼンテーション及びその準備であるグループワーク
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	後期は、より詳細なレポートの書き方やプレゼンの仕方（レジュメやパワーポイントの作り方など）を、みんなで身につけていきます。裁判所見学やスマート SPI の講習会等も予定されています。裁判所見学で得た知識・感想のレポートやプレゼンテーション、そしてグループでの発表など課題をいくつか出しますので、みんなで協力しながら頑張りましょう。 演習の具体的な内容としては、Word や Power　Point を用いた法律に関する時事問題、判例やテーマ研究の発表、Word/Power Point の使い方やレポートの書き方の講習、大学生活についてのアドヴァイス、簡単な法律に関する課題・レポート等を予定しています。また、図書館で文献を探したり、オンラインジャーナルやオンライン判例検索を用いた判例・論文等の入手方法についても学び、実際に入手した資料を用いてグループワーク、グループ発表又は個人発表を行います。また、後期においては、模擬法廷を利用した模擬裁判等も予定しています。 予習事項は、毎回その都度指定しますが、各自の発表に備えて Word や Power Point 資料を作成したり、設定テーマに関連する文献を調べて読み込んでおくこと、発表準備を行うこと等が挙げられます。 また、復習事項は、ゼミ内で教員より個別に指導された内容、例えば、発表資料の修正、文献の追加検索・入手及びその読込みです。Teams 上で提出し返却された課題については、そこに示されたフィードバックの指示に従って復習を行って下さい。 事前・事後学習の時間は、それぞれ 2 時間、プレゼンテーション前は 3 時間を想定しています。
関連科目	法学部の専門科目のすべてにかかわります。
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	演習内におけるプレゼンテーション準備やディベート・ディスカッション等の平常点（60%）、プレゼンテーションやレポート（40%）で評価します。また、欠席・遅刻が多い場合には、レポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。
学生への メッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　萩原准教授室
備考	判例研究等のプレゼンテーションの際には、準備段階から、Word や Power Point の使い方、論文・判例等の各種文献検索や判例研究の仕方を含め、適時、演習内において指導する。 また、プレゼンテーション終了後は、その場でそのフィードバックを行い、次回のプレゼンテーションに還元できるように努める。 なお、レポート等のフィードバックは、後日、添削・評価してから、演習内及び Teams において行うものとする。

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大川　謙蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	前期に引き続き、法学部生としての基礎的な能力を養います。またそれだけでなく、大学生として、将来の社会人として生きていけるような基礎力を身につけるきっかけを創り出します。
到達目標	前期に引き続き、この演習を通じて学生には、大学生としての基礎的なコミュニケーション能力、文献検索能力、プレゼンテーション能力を付けることが期待されます。 また、４年間の大学生活のスタート地点の講義として、また卒業後の人生も含めた過ごし方の基礎を作ってもらいます。
授業方法と留意点	演習形式で行います。基本的にはレポートで替えられるものではありませんので毎回の出席が前提です。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	まず ・自分が何を考えているのか ・自分は何を話しているのか ・他人が何を意図しているのか ・他人が何を伝えようとしているのか を実感出来るよう、具体的なコミュニケーション、文章理解、報告などを実践します。 具体的には開講時、そして講義の途中に決めていく部分も多くなります。
関連科目	法学部開講科目
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	成績は、ゼミにおける各学生の、ゼミへの取り組み（30%）、得られた知識に基づく報告（30%）、得られた知見に基づく対応・行動（30%）、個人的 PR（10%）の視点から、判断を行う。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 9 階　大川准教授室
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の３つから成り立っています。 予習内容としては、演習で与えられる課題を個人で準備を行う必要があります。その準備を 90 分を基準として行う必要があります。 復習として、課題に対し、中間報告及び最終報告の内容を正確に押さえる必要があります。その為に 90 分を基準として行う必要があります。 学生主体の演習を目指しています。各実施状況については各自の報告時及びメールで確認します。 演習での縦の人間関係も重視しております。コンパなどで、就活などの情報も先輩から後輩へと伝えていくこと

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松島　裕一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・ 目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱのおもな授業内容として、（1）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（2）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（3）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることの 3 点を上げることができます。 個々の細かな知識を覚えることも大事ですが、むしろこの演習ではこれから学習していく法律学の全体像を大まかにとらえ、2 年次以降の専門的な学習に対応できる基礎力を養うことが重要になります。
到達目標	この演習を通じて学生には、「法学部生」としての基本スキルを身に着けることが期待される。具体的には、法令や判例の調べ方、法律文献の引用の仕方などを習得することがこの演習の目標です。
授業方法と 留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、事後 学習課題	後期はおもに次の二つの活動を行う予定です。いずれも事前・事後の学習が必要となります。 ①裁判所見学に向けて、裁判所の仕組みや判例の読み方などをみんなで学習します。また、裁判所見学終了後にレポート課題を出しますので、そのための基本的な知識（基本的なレポートの書き方や参照文献の探し方など）を習得します。 ②憲法あるいは民法の教科書や判例集を全員で購読します。具体的には該当箇所をグループで報告してもらい、それに基づいてディスカッションを行います。課題図書は全員で話し合って決める予定ですが、必ず 1 冊読み終えることを目標とします。 なお、パワポ、レジュメ作成などの事前の課題の取り組みに 60 分程度、またゼミで学習したことの振り返りに 60 分程度が必要となります。グループワークやディスカッションを行いますので、無断欠席・遅刻は他のゼミ生の迷惑になります。その点は注意してください。
関連科目	法学部のすべての科目
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	毎回の出席を当然の前提とし、ゼミ中での発言（ディスカッション・ディベート）、レポートなどの提出物、レジュメ・報告の出来などを総合的に判断して成績評価を行います（100%）。欠席・遅刻が多い場合には、単位取得を認めないこともあります。
学生への メッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　松島准教授室
備考	何かしら書籍を購入してもらうことになるかもしれませんので、そのつもりでゼミに臨んでください。

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	増田　知也
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	この授業では、法学部で勉強する上で必要な、基礎的な知識・技能を身につけることを目指す。法学基礎演習Ⅰで学んだことを基盤に、批判的読書の方法と、優れたレポートの作成法を学ぶ。
到達目標	この演習を通じて学生には、文献を活用しながら、自分の考えを自分の言葉で、論理的な文章にまとめることができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義と実習を組み合わせて授業を進行する。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	1. レポート作成法概論 優れたレポートを作成するための文献調査の方法と、論理的な文章の書き方について学ぶ。 2. 文献調査 個別に設定したテーマに関連する文献を読み、文献調査メモを作成する。 3. プレゼンテーション 文献の要約と疑問点を発表し、議論を行う。 4. レポート作成 これまで学んだことを生かして、実際にレポートを作成する。 事前・事後学習課題 選んだテーマについての情報収集を行う（4 時間）
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	レポート 60% 、実習課題 20%、積極的発言 10%、プレゼンテーション 10%
学生へのメッセージ	参考文献を引き写すだけでは良いレポートになりません。情報を上手く消化して、自分の言葉で表現する力を身につけてほしいと思います。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　増田講師室
備考	

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	和田　泰一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・ 目的	一般的に大学生の教養とされている文献の読解能力や論理的思考力・判断力・表現力の基礎を身につけることが目的です。学生の皆さん一人一人が、自分が興味を持っている問題について主体的に考え、議論し、問題解決への糸口をつかめるような主体的・対話的で深いアクティブ・ラーニングの場を提供します。 また授業の受け方やレポートの書き方など、大学生活を送る上で必要な事柄についても授業します。
到達目標	この授業を通じて学生は、大学生の教養として必要な書物・新聞記事・評論などを読んで基本的な知識・技能を獲得するとともに、その要点やメリット・デメリットをまとめ、望ましい解決策について他者と討議し、他者に対してそれを明確に発表するという論理的思考力・判断力・表現力を育成することが期待されます。 またグループディスカッション・プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを通じて主体的・対話的で深い学びを行うなかで、学習や仕事に対する意欲や積極的な人間性を育み、社会において良好で協調性のある人間関係を構築する
授業方法と 留意点	ABD（Active Book Dialogue, アクティブ・ブック・ダイアローグ）というアクティブ・ラーニングの方法を用いて、教養文献の読解・グループディスカッション・プレゼンテーションを毎回全員が行います。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	・授業テーマ・内容 教養文献の読解や議論、発表を通じて、その内容を正確に理解し、他者と討議してその内容を吟味し、他者にわかるようにその内容・解決策を発表することによって、基本的な日本語読解能力と論理的思考力・判断力・表現力を修得することができます。 ・授業方法 学生の皆さんの興味・関心を考慮しながら、教養文献をその場で毎回輪読・議論・発表する ABD（Active Book Dialogue, アクティブ・ブック・ダイアローグ）というアクティブ・ラーニングの方法を用います。短い時間で日本語の文章を読み、その要点を的確に理解することは、就職試験や公務員試験の「文章読解」で求められる能力でもあり、社会人になった後のマニュアル・資料の読解にも必ず必要な能力です。またグループディスカッションやプレゼンテーションは、仕事で問題が発生したときにその原因を的確に把握し、望ましい解決策について他者と討議し、最善と判断した改善策を他者に論理的に説得するためにも必要な能力です。 ・事前、事後学習課題 事前学習…その場で教養文献を読んでもらうので、必要ありません。 事後学習…文献全体をもう一度読み直し、内容を理解しておくこと（60 分～90 分程度）。
関連科目	法学基礎演習Ⅰ、プレ専門演習
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	授業でのグループディスカッション（50%）とプレゼンテーション（50%）で評価します。
学生への メッセージ	大学生活に慣れるべく、毎回出席してください。またさまざまな分野の教養文献を読み、自分の興味・関心を広げていってください。
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 11 号館 10 階　和田研究室
備考	グループディスカッションでは教員も適宜参加し、助言を与えます。プレゼンテーションでは毎回その内容について全員に助言と短評を与えます。

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	本多　康作
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・ 目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として３つあります。 （１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと （２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること （３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （１）ガイダンスでは、 ①図書館の利用方法 ②六法や法学参考文献の利用のしかた ③法学専門講義の履修についての心構え ④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方） ⑤その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。 （２）法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の４年間を意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。 たとえば、 ①新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める ②みなさんが関心をもっていることがらについて議論する ③法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する ④ディベートをおこなう などです。 みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそうよう努力します。 （３）学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。 たとえば、 ①公務員試験対策 ②税理士や裁判所職員などの法律専門職 ③就職への心構え ④大学院進学 ⑤海外留学 など、早い段階から準備をしたほうがよいことがらについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。 以上のように、法学基礎演習は、少人数教育の強みを生かし、教員が学生のみなさんに親身に接するなかで、個々の希望にできるだけ対応しながら、今後４年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。
到達目標	この演習を通じて学生には、 「・図書館を通じて法学の文献を取捨選択できる ・判例データベースを用いて判例を検索できる」 ようになることが期待される。
授業方法と 留意点	・演習（ゼミ）形式（反転授業）で行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答を行う。 ・法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	法的な問題について、プレゼンテーションやディベートなどを行う。
関連科目	専門科目全般
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / ※開講時に指示する。 / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / ※開講時に指示する。 / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	・ディスカッションへの参加度（50%）と貢献度（50%）によって評価する。
学生への メッセージ	・学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。 ・また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。 ・どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の 研究室等	11 号館９階
備考	・事後学習として、演習で扱った内容についてノートにまとめるなど、毎回２時間以上の復習に取り組むこと。 ・レポート課題に対するフィードバックは翌週の授業内にて行う。

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	寺山　洋一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・ 目的	本法学基礎演習Ⅱでは、法学部のゼミ（演習）形式に慣れ親しむことを主眼に置いています。 その目的は、法学基礎演習Ⅰに引き続き、次のとおり、主に２つあります。 ①　法学部の学生としての基本的な能力を引き出すとともに、 向学心を養いつつ、基礎的なスキル（Skill）を高めること。 ②　大学生としての実りある諸活動を支援し、推し進めること。 法学基礎演習Ⅱは、少人数教育の強みを活かし、担当教員が、ぞれぞれの受講者の将来の抱負に寄り添いつつ、実りある学業生活のための道筋を示すことを目指しています。
到達目標	法学基礎演習Ⅱを通じ、これからの法学の学修に向けて、基本的な素養や基礎的なスキルを修得することが期待されます。
授業方法と 留意点	法学基礎演習Ⅱでは、法学基礎演習Ⅰを踏まえ、ゼミ（演習）形式で、グループワークや全体討議などに主体的に取り組むことになります。
授業テーマ・ 内容、方法・事前、 事後 学習課題	１　法学部の学生として身に付けるべき基本的な素養とは、「読む・書く・聴く・話す」という、 ロジカルな「思考力」及び「表現力」です。 こうした素養を身に付けるための第一歩として、例えば、 ①　ニュース記事を通じて、現代社会に関する最新の情報を入手すること、 ②　法学や政治学への関心を高めるような文献や資料を読み込むこと、 ③　受講者が関心や疑問を抱いている社会的な事象について対話を進めること など、受講者の励みとなるものを想定しています。 また、法律を読む際の基礎的なスキルとして、法律用語などについても解説します。 ２　受講者の実りある諸活動の支援・推進として、次のような事柄について相談に応じます。 ①　（国家・地方）公務員、裁判所職員、国会職員などの役割や働き方 ②　国家資格などの法律専門職の役割や働き方 ③　就職に際しての心構え ④　大学院への進学、海外への留学 また、将来の抱負に有益となる助言なども行います。
関連科目	法学概論、日本国憲法
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 【電子】 法律が面白くなる切り札５選　令和５年度版 / テラボ / 斉家書房 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 【電子】 移りゆく福祉六法　令和５年度版 / テラボ / 斉家書房 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	主体的に参画する意欲・姿勢を重視します。 毎回の出席を前提として、おおむね、調べもの等への取組姿勢やグループにおける傾聴・発言内容（３５％）、全体討議における傾聴、発言内容（３５％）、テーマごとのレポート（３０％）を、総合的に判断して評価を行います。 欠席・遅刻する場合には、事前に担当教員に連絡を取ってください。 無断の欠席・遅刻に対しては厳正に対処し、場合に応じて、単位を認めないことがあり得ます。
学生への メッセージ	１年次の法学基礎演習Ⅰ及びⅡは、大学生になって初めての大切な出会いの場となります。 まずは、清々しい雑談などから始め、お互いの信頼関係を築いていきましょう。
担当者の 研究室等	11 号館９階　寺山教授室
備考	授業中、追加的な調べもの、レポート作成の準備を行うことがあります。 各自、PC・スマートフォン等の電子機器を持ち込んでも差し支えありません。 授業前の下調べに２時間程度を、授業後の振返り及びレポートの準備に２時間程度を要します。

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小山　昇
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	プレ専門演習は、具体的には、民法の基礎知識の中でも身近な「親族法」について、通常は講義されない「戸籍法」の視点から検討します。
到達目標	この演習を通じて学生には、「親族法」と「戸籍法」についての基本的な知識を説明できることが期待されます。
授業方法と留意点	「戸籍法」から「親族法」についての基本的な知識を理解するために、資料を提示してそれに問題を設定します。特に、戸籍法や親族法の条文の意味をどのように捉えるのか、また理解すべきなのかを検討しますが、設定した問題についてディスカッションも行います。最後に、まとめとして「総合課題」のレポートを求めます。なお、対面授業が実施できない状況になったときは、「Microsoft Teams」及び「WebFolder」を利用しますが、その場合はPortal で周知します。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	１．プレ専門演習の進め方 ２．「家族法」､「親族法」､「旧親族法」とは何か ３．「親族関係及び氏」と「戸籍」について １、２については、それぞれ１回程度 ３については、１３回程度を使って行う。 事前・事後学習の具体的な方法については適宜指示しますが、配付する資料を事前に熟読し、復習にも力点を置いて、各授業時間ごとに２時間程度の学習を求めます。
関連科目	民法総則、親族法、相続法
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 必要な資料を配付します。 / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 適宜、紹介します。 / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	各授業での「発言状況」(60%)及び「総合課題」のレポート(40%)を合計して評価します。
学生へのメッセージ	親族法における「戸籍」、また「戸籍制度」が持つ意義、問題点を考えて下さい。
担当者の研究室等	11 号館９階　小山教授室
備考	レポートは、ＳＨの時間やポータルを使ってフィードバックします。質問等は、授業のほかＳＨの時間やメールも利用して下さい。

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	高間　佐知子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	法律学の基礎的な知識を深めつつ、判例の探し方や読み方といった法学部生に必要なスキルを向上させていくことを目的とします。
到達目標	この授業を通じて学生には、判例を通して法律がどのように使われていくのか、また実際に生じている法律問題を正しく理解し、法的な判断ができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	まずは一緒に判例の探し方や読み方を身につけ、次に自分の力で判例を調べてプレゼンテーションを行います。報告に対する質疑応答など自由に発言してもらうことで理解を深めます。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	授業テーマ「判例から法律を学ぶ」 ・ゼミ内容 ゼミ生が興味関心のある法律分野の判例を自分で選んでもらいます。とは言え、まだ自分の中で興味のあるものが何か、よく分からない方が多いでしょう。様々な法律に触れることで自分の関心が向くものを探るのもいいと思います。 ・授業方法 判例についてプレゼンテーションを行い、質疑応答など自由に発言してもらいます。 ・指導方法 ゼミ生の皆さんが行う報告をもとにして問題点を掘り下げていきます。題材は、ゼミ生の皆さんが興味関心のある裁判例とします。 ・事前事後学習 プレゼンテーションの準備など必要に応じて予習は行ってください。ただ判例を読むだけでなく、内容を分かりやすく説明できるようにしましょう。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	プレゼンテーションの内容（40%）、ディスカッションでの発言（40%）、どれほど演習の時間を自分で有意義なものにしているか（20%）という点を評価します。
学生へのメッセージ	演習の時間を自分にとって意味のあるものにしてください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小島　俊朗
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	専門演習の導入教育ですので、税の世界に馴染んで頂く内容としています。私たちの社会生活や経済活動が税とどのように関係しているのかを学習します。税は税法という観点からだけではなく、国家財政のようなマクロの世界から企業の経営や投資の判断などのミクロの世界まで、多種多様な世界に関係しています。税を通して社会を見てみましょう。
到達目標	この演習を通じて学生には、次の目標を達成することが期待されます。 ①日常生活と税とのつながりを理解できるようになること ②租税法の基本的考え方に慣れること ③法令解釈・適用の基本を理解すること
授業方法と留意点	様々な視点から税を捉え、日常生活との関わりや税の機能等について考えるとともに、租税法の概要が理解できるようにします。課題発表（プレゼンテーション）の後に、内在する税法上の基本問題を取り上げ、ディスカッションを行います。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	講義、課題発表、ビデオ鑑賞、判例解説、社会人体験ゲーム等により、様々な視点から税を捉え、日常生活との関わりや税の機能等について考えるとともに、租税法の概要が理解できるようにします。毎回のテーマについて事前学習し、積極的に発言出来るよう心掛けてください。
関連科目	所得税法、消費税法などの租税法、財政学、憲法
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 税法入門 / 金子宏ほか / 有斐閣 2 / 民事法入門 / 野村豊弘 / 有斐閣アルマ 3 / / /
評価方法（基準）	平常点（50%）、課題発表の内容（30%）、及びレポート内容（20%）の合計で評価します。なお、ゼミでの積極的発言や貢献、出席状況やレポートの提出状況は平常点に反映させます。
学生へのメッセージ	租税法は社会人となってからも役に立つ実学の代表格です。税の世界に興味を持って頂きたいと思います。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　小島教授室
備考	授業計画に応じたテーマにつき、事前・事後の学習を少なくとも毎回各 30 分程度行うように心掛けて下さい。専門演習ⅠⅡとは異なり、税と社会との関りに関心を持って頂くことが目的ですので、ゼミで取り上げた内容以外も幅広く学習して下さい。

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	河原　匡見
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	2 年後期から始まる専門演習での学習にスムーズに入っていけるように指導します。すなわち、法学基礎演習Ⅰが大学生としての勉学のために、そして法学基礎演習Ⅱが法学部教育のために、それぞれにスムーズに入っていけるよう設置された科目であるのに対して、プレ専門演習は、専門演習での学習に向けてのいわば助走的な内容のゼミとなります。
到達目標	この演習を通じて学生には、専門演習での学習に向けて、社会科学の演習で必要となる社会情報の取得や演習スタイルの学習のための準備の仕方そして１５名以下程度の少人数の中での報告形式に慣れることが期待されます。
授業方法と留意点	学生による報告が主体の形式で行います。「対面方式」によるゼミを実施します。具体的には、課題を出して、それに対してレポートの提出によって報告してもらうというスタイルが基本です。課題については、すでに募集要項の中で示した当ゼミの趣旨に沿った内容になります。各自で、学習・調査し、それをレポートで報告してもらいます。なお、授業時間以外での活動は特に予定していませんが、報告（レポート作成）のための時間は各自必要となります。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	この演習では、社会科学分野の専門学習を念頭に置いたテーマを設定します。特に、国内外の政治・社会問題の動きをみる眼を養うための、すなわち国の内外でいかなる問題が起き、いかなる課題に直面しているか、そしてそれにどう向き合っていくかを考察していきます。演習での報告テーマについては、主に教員からジャンルやイシューについて提示していきますが、演習参加者の希望なども取り入れたいと思います。報告に際しては、事前の学習が必要なのは言うまでもありませんが、事後についても演習で得られたコメントや質問を参考に、さらに報告内容をブラッシュアップしてもらいたいと思っています。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	学習への参加姿勢５０％および課題報告の内容５０％により評価します。
学生へのメッセージ	国内外の政治や社会の動き（時事問題）に関心がある人に向いているゼミです。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　河原教授室
備考	事前・事後学習は、各授業時間ごとに１時間程度行ってください。但し、発表前の場合は、発表の準備に必要な時間でさらに上乗せが必要です。

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中　敦
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・ 目的	・専門演習の準備として、民法の基本的な事項一般について理解することを目的とする。具体的には、民法を通観する教科書を用いて、民法及びこれに関連する法律について学習する。 ・その他、学生からの意見も聞きつつ、適宜民事法に関する講義等も行う。
到達目標	この授業を通じて学生には、民法全般について学び、民法とはどのような法律であるのかという法の趣旨を理解し、後期の専門演習で民事に関する法律を勉強するに当たって必要となる基礎知識を習得できるようになることが期待される。
授業方法と 留意点	・基本的には教科書に基づいて講義をするが、適宜質問をしたり学生と議論することを考えている。事前にＴｅａｍｓを通じて送付するレジュメや資料は、必ず事前に十分に検討しておくこと。 ・授業には、上記資料等や六法（ポケット六法等、最新の令和５年版を推奨する）を必ず持参すること。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、事後 学習課題	・民法は、全体の構造を知れば部分が理解できるし、部分がわかれば全体像も見えてくるといわれているので、まず全体を知ることが重要である。この授業では、教科書を通読することを中心に、民法全般（総則、物権、債権、親族、相続）について一通りの知識を習得する。授業を充実したものにするためには、十分な事前学習及び事後学習が求められる。事前学習及び事後学習には、それぞれ２時間を充てるものとする。 ・授業スケジュールの詳細、課題の提出、その他授業で必要な事項については、授業又はTeamsにおいて事前に伝える。
関連科目	民法の各専門科目
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 民事法入門　第８版補訂版 / 野村豊弘 / 有斐閣 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	授業における態度（遅刻せずきちんと出席しているか、議論に積極的に参加しているか、事前事後の学習をして授業に対応できているか。５０％）及び、Teams 上での小テストや課題（５０％）で評価する。欠席・遅刻が多かったり、授業態度が良好でない場合には、別途レポートを課することがある。
学生への メッセージ	自分で学ぶ姿勢が何より大事です。事前学習と事後学習は、きちんと行ってください。民法すべてを学習した達成感は、何物にも代えがたいものとなることでしょう。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　田中教授室
備考	コロナをめぐる情勢、学生の理解度、授業の進行によっては、授業の方法、順序、内容を変更することがある。

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中沼　丈晃
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	家庭・学校・地域に関わる身近な社会問題について、「自分が当事者だったらどう思うのか、どうするのか」という視点を大事にして、演習生全員で真剣に議論をする。
到達目標	この演習を通じて学生には、①「自分が当事者だったらどう思うのか、どうするのか」という感情移入の姿勢を身につけ、②「人それぞれ」では済ませず、価値観が異なる人と「どう折り合いをつけるのか」考えて議論できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	まちづくりや企業研修などで使われる「ワークショップ」の手法を体験してもらえるように進める。演習生みんなで意見を出し、作業をし、議論をするので、能動的な参加が求められる。＊遠隔の場合、Zoom で行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	多くの人が関わる、少なくとも身近で見聞きする社会問題を取り上げて議論をする。ひとつのテーマを４回ほどで検討し、議論し、演習としての結論を出すのに、みんなで努力する。テーマは演習生と相談して決めるが、家庭では「家事・育児・介護の男女間負担差」「夫婦別姓」「不妊治療」、学校では「学級崩壊」「いじめ」「部活動」、地域では「子どもの深夜徘徊」「性犯罪の防止」「ゴミ屋敷や空き家の問題」などを考えている。議論のための下調べなどの準備が必須になる。
関連科目	専門演習、卒業研究。
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	演習時限の全出席を前提とする。ワークショップへの貢献度(50%)、ワークショップの成果物(50%)の合計によって評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 9 階　中沼教授室
備考	ワークショップの下調べに各回１時間ほどが必要になる。 議論の推移と結果を整理して全員で共有する。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浮田　徹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	専門演習に入る前の導入となります。しかし専門演習に継続するわけではないので 15 回で一つの区切りとなるような内容となります。
到達目標	この講義を通じて学生には、とにかく、議論における発言するという力を身につけられるようになることが期待される。
授業方法と留意点	出席は前提です。ディベートの中での発言が必須です。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	ビデオ、文献などをきっかけとして議論してもらいます。 文献は事前に渡すことになりますので読んできてもらいます。 発言の振り返りもしてもらいます。
関連科目	法学部開講科目
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	出席を前提として、発言回数・内容（60%）、振り返りペーパー(40%)で評価します。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 9 階　浮田准教授室
備考	事前学習としては、演習時に使用する素材に関する文献を読むことになります（30 分）、事後学習としては当日の演習に関する課題を課すのでその作成を行います(60 分)。

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	石井　信輝
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	「プレ専門演習」は、2年次後期からはじまる「専門演習Ⅰ」、3年次の「専門演習Ⅱ」、および4年次の「卒業研究」につながる演習である。したがって、この分野についての興味を高め、２年半かけて深く学ぶための準備を行うことが本演習の目的である。
到達目標	この授業を通じて学生には、スポーツ活動に関する諸問題を検討し関連する知見を身につけることが期待される。
授業方法と留意点	教科書は特に用いないが、必要に応じて資料を配布する。授業中に提示した課題を解決するため、および事前・事後の学習のために ICT ツールを活用していただく場合もあります。対面による授業を原則とします。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	・授業テーマ：「スポーツ活動を多面的に学ぶ」 ・方法と内容：スポーツに関係する資料輪読、レポートの作成、作成したレポートのプレゼンテーション、およびディスカッションを行う。 ・授業の都度指示する課題に対する予習と復習
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加を前提とし、各回の取り組み（与えられた課題の完成度 50%、プレゼンテーションの内容 20%、ディスカッションでの発言 30%）で評価する。
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んでください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　石井教授室
備考	各回に 1 時間程度、すなわち半期で 15 時間程度を目安に、事前・事後の学習を行ってください。

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	島田　良一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	新聞やテレビ、インターネットなどから得られる刑事事件に関する記事や専門文献、判例などを使いながら、刑事法（刑法・刑事訴訟法・刑事政策・少年法）についての理解を深めていく。
到達目標	この演習を通じて学生には、刑事法に関する基礎的な知識を修得するとともに、議論やプレゼンテーションをする力を身につけることが期待される。
授業方法と留意点	主にグループワークの形でプレゼンテーションやディベートなどを行う。 なお、遅刻・無断欠席は厳禁とする。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	オーソドックスなところでいえば、例えば、毎回担当者を決め、レジュメやPowerPointを使って各々興味のあるテーマについてプレゼンテーションをしてもらい、その後、全体で討議をするといったかたちになりますが、なにしろ半期15コマしかないことから、なにをどのようにやっていくかは受講生と相談して決めていく予定です。 したがって、事前・事後学習についても、授業テーマによって若干異なることになりますが、プレゼンテーションの場合であってもディベートの場合であっても、その準備やその後の振り返りにそれぞれ30分程度は要することになるかと思います。
関連科目	刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑法総論、刑法各論、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事政策、現代社会と刑事法、経済刑法、刑事法概論
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	ディベートやプレゼンテーションなどの内容（50%）、ディベートやプレゼンテーションなどにおける発言・取り組みの姿勢・態度（50%）。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11号館9階　島田准教授室
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	家本　真実
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・ 目的	私たちは普段、様々な事柄に対して自分なりの意見をもっています。こうした意見は、他の人と類似のものとなることもあれば、正反対と言ってもいいものになることもありますが、そもそも１つのことに対して多種多様な意見が存在することや、自分のものを含むそれらの意見がどのような過程を経て形成されるのかを、特別に意識することはあまりないと思います。しかし、ちょっとした意見の食い違いが大きな問題に発展するということも往々にして起こります。したがって、自分の意見がいったいどんなふうに他の人に受け取られるのか、また他の人の意見の趣旨がどのようなものなのかを理解する、または理解するよう努めることは重要です。 そこで、このゼミでは、特定のトピックについて調べるなどして自分の意見をある程度固めたうえで、ゼミ生の皆さんで話し合うことを通じて、ご自分の意見をもつための材料を収集する術を学んだり、ご自分の意見を見つめ直したりすることの重要性に気付いていただきたく思っています。
到達目標	このゼミを通じて、学生の皆さんには、ご自分の意見を形成してそれをより的確に表現し、他の人の意見を理解するための基礎体力を得ることが期待されます。
授業方法と 留意点	教員から講義をおこなう部分と、ゼミ生の皆さんが自ら考え、議論したり作業するといった活動をしていただく部分とが混在することになりますが、ゼミ生の皆さんが個別に作業したり、またはグループで議論したり作業する時間のほうが、割合としては多くなります。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	あることについて自分の意見を形づくるためには、そもそもその対象となる事柄についてある程度の知識を得る必要が出てきます。したがって、学生の皆さんには、一定のテーマについて調べていただいたり、それについて発表していただいたりして、ご自分の意見をもつ過程をしっかり感じていただくことにしたいと考えています。 ゼミ中におこなう活動や議論の準備として、事前に読んでくるべき資料をお渡ししたり、課題を課すことがありますので、各自、ゼミ前後にいくらか時間を費やしていただく必要があります。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	ゼミ中の受講姿勢や議論の内容（80%）、課題・提出物（20%）を評価の対象とします。
学生への メッセージ	このゼミで、向上心をもって、自ら行動する力をつけていただくきっかけにしていただければと思います。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　家本准教授室
備考	課題については、次の回で講評をおこないます。 事前・事後学習の総時間数の目安：60 時間

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	城内　明
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・ 目的	「民法を深く学ぼう　－法的議論への招待－」 法律討論会を実施します(2 回)。
到達目標	本授業の受講生には、民法的なセンスを身に付け、問題解決能力及びプレゼンテーション能力を向上させることが期待されます。
授業方法と 留意点	法律討論会は、2～3 名のグループに分かれて競うこととなります。準備も、グループ毎の作業となりますので、無断欠席等は絶対にしないようにして下さい。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	法律討論会では、2～3 名のグループ毎に、設問にどう答えるかを検討し、10 分で読める長さの文章(立論)を書き上げます(事前の学習課題)。討論会当日は､各グループが用意した立論を 10 分の持ち時間で読み上げ､直後に､この立論に対する質疑を同じく 10 分間行います｡審査員(城内)が立論の論理性・質問に対する回答の的確性・立論及び質疑に臨む態度等を総合評価し、グループ毎の順位を決めます。この他、良い質問については質問賞（個人賞）もあります。討論会翌週には全員で検討会を開きます。他のグループが何を考えて立論したのか等、疑問をぶつけあいましょう(事後の学習課題)。
関連科目	民法・消費者法
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	準備作業への貢献度(60%)と、討論会当日の活躍(40%)を総合評価します(100%)。
学生への メッセージ	法律討論会は、本気になって取り組めば、さまざまな成果を得られます。何より楽しいです!! 一緒にがんばりましょう!!
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　城内准教授室
備考	

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小野　晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・ 目的	・指導方針 1　このプレ専門演習は，２年次後期の「専門演習Ⅰ」、３年次の「専門演習Ⅱ」、そして４年次の「卒業研究」にかかる導入教育として位置づけられています。 2　そこで、本演習では１年次において刑事法概論の講義で習得した基本事項のうち，参加者各自が興味や関心を抱いた個別テーマに関する裁判例（判例）や学説を調べて報告してもらいます。 3　もっとも、こうした報告作業は、少なくとも法学系の論述問題でまともな答案を書くことができない人にはなかなか難しいのも事実です。そのため、この演習では、発表の前提ともいえる、刑事法に関する論述問題の答案作成方法も学習します。 4　また、発表に際し、どのようにして判例や文献を調べればよいのかというリーガル・リサーチの手法も本格的に学習する予定です。図書館や法学データベースの使用方法も適宜指導します。
到達目標	この演習を通じて学生には、 「・刑法の論点を抽出できる ・論点に対する判例や裁判例を調査できる ・論点に対する学説を調査できる ・論点に対して私見を展開できる」 ようになることが期待される。
授業方法と 留意点	・演習（ゼミ）形式（反転授業）で行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答を行う。 ・法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。 ・刑法の論点に関して個別にプレゼンテーションを行った上で、参加者全員でディベートを行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	・ゼミ内容 　この演習では，刑法（罪刑法定主義、刑法総論〈全犯罪共通の成立要件の検討），刑法各論〈各種個別犯罪〔殺人・強盗・放火等〕の成立要件論〉)、および、刑事学・犯罪学（犯罪原因論，受刑者と出所者の処遇問題，死刑を含めた刑罰の有効性と正当性，犯罪被害者救済策）を主な検討対象とします。 ・授業内容 　刑事法に関する事例問題（論述式）の答案作成方法 　刑事法領域の裁判例や学説の研究調査方法（リーガル・リサーチ） 　個別テーマの報告 ・授業時間以外での活動 　学生の希望があれば、刑務所や少年院などの施設訪問を長期休暇時に行うことがあります。
関連科目	刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、現代社会と刑事法、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	※開講時に指示する		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	刑法の争点（第３版）	西田＝山口＝佐伯ほか	有斐閣
2	判例プラクティス刑法Ⅰ（第２版）	成瀬＝安田ほか	信山社
3	判例プラクティス刑法Ⅱ	成瀬＝安田ほか	信山社

評価方法 （基準）	評価方法 　プレゼンテーション（50%）とディベートへの参加度（50%）によって評価する。 以下の点をとくに重視します。 ①発表時に問題提起を適切にしているか（発表姿勢)。 ②提起した問題に関連する判例や先行研究（学説）を十分に、かつ、主体的に調査しているか（主体的学習)。 ③異説に配慮しつつ、自らの考察を適切かつ説得力をもって展開できているか（論理性)。
学生への メッセージ	日常の犯罪報道などに興味のある学生はふるってご参加ください。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　小野教授室
備考	事前学習として、演習テーマの予習に毎回２時間以上の予習に取り組むこと。 事後学習として、演習テーマの内容についてノートにまとめるなど、毎回２時間以上の復習に取り組むこと。

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	萩原　佐織
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・ 目的	当該民事法ゼミでは、例えば民法等の実体法に基づき発生する権利につき紛争が生じ、裁判所等で解決されるべき場合に、その方法や当事者が従うべきルール等につき、具体的な事案や判例をもとに追求することを最終目標としています。ただし、2 年次の段階では民事訴訟等が未履修ですので、まずは民法等の復習ならびに発展問題を取り扱い、私人の権利、ならびに私人間の権利の衝突・紛争の態様につき学んでもらいたいと思います。
到達目標	プレ専門演習では、法律全般について広く学んだ基礎演習とは異なり、民事法にフォーカスして、より具体的に学んでいきます。この演習を通じて学生には、研究テーマの設定、判例研究・判例発表の方法等を、しっかり身に付けることが期待されます。また、これからともに過ごすゼミ仲間とより良い関係が築けるよう、最初は、グループ発表とし、スポーツ交流等も交え、良い雰囲気のゼミ作りをまずは目指したいと考えています。 後半は、2・3 名でのグループ発表や個人発表を行い、社会科学系の学問における発表の仕方を身に付けるとともに、人前
授業方法と 留意点	【授業内容】 前半は、ゼミでの発表の仕方（論文・判例・その他の資料等の見つけ方、配布資料の作成方法等）につき指導を行う。後半は、2, 3 人のグループでの研究発表を予定。なお、発表毎に質疑応答を行うので、他のグループの研究発表時にも、積極的な参加姿勢を要する。1 学期内に、各グループとも、2, 3 回程研究発表を行う機会を有するが、発表毎に構成員を変更し、ゼミ生同士が、より多くのコミュニケーションを、それぞれのメンバーととることができるように考慮している。そこから研究発表にも、より良い知の化学反応が生じること
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	授業は、民事事件に関する判例等の研究発表を中心として行う。学期初めに、各グループの発表日時を決めるので、各グループは、構成員同士で話し合って発表テーマを決定し、発表に備え、事前に準備すること。事前準備においては、研究対象となる判例や論文等の資料を探し読み込むこと（インプット）はもちろん、どのように発表すれば他人により分かり易く伝えることができるのか、その発表内容や方法（アウトプット）についても熟慮すること。 発表形式は、次の 2 つの方法のいずれかのうち、そのテーマに適したものを用いて行う： １．資料作成技能重視型： 発表時には、研究内容を、板書やパワーポイント等を用いて説明するとともに、配布資料を配布すること。配布資料は、①研究対象となる事案・争点・判例や学説の流れ・解説等を記載したものと、②研究対象となる事案の判決（判旨・判決理由）を記載したもの、の 2 点を別個に用意する。まず、発表者が、配布資料①に基づき、事案・争点等の説明を行った後、ゼミ全体でディスカッションし、その後、配布資料②を用いて、当該事案の判決につき、再度論議を行う。 2. コミュニケーション技能重視型： 3 人でグループを組み、各自原告・被告・裁判官役の立場に立ち、主に判決全文を用いて、それぞれの主張を述べ合い、裁判を体現する。当事者役は各審級の判決全文から自己の主張を練り、裁判官役は両当事者の見解を聞いたうえで、判決文や判例解説等を基に、それらに対する事実認定や法的見解を述べる。1 審から、上訴を含め、確定判決まで、裁判の一連の流れを再現する。ただし、その結論については、必ずしも使用した素材と同一になる必要はなく、各当事者役の主張内容や裁判官役の判断次第で、当人が妥当と考える結論が導き出されれば良い。模擬法廷を利用して模擬裁判を行う。 予習事項は、毎回その都度指定しますが、各自の発表に備えて Word/Power Point 資料や配布レジュメを作成したり、設定テーマに関連する文献を調べて熟読しておくこと、発表準備を行うこと等が挙げられます。 また、復習事項は、ゼミ内で教員より個別に指導された内容、例えば、発表資料の修正、文献の追加検索・入手やその読込みです。Teams 上で提出し返却された課題については、そこに示されたフィードバックの指示に従って復習を行って下さい。 事前・事後学習の時間は、それぞれ 2 時間、プレゼンテーション前は 3 時間を想定しています。
関連科目	民事法全般
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	演習内におけるプレゼンテーション準備やディベート・ディスカッション等の平常点（60%）、プレゼンテーションやレポート・課題（40%）で評価します。ゼミへの参加意欲ならびにその体現、自身の研究発表への取組み方ならびにその成果、そして他のゼミ生の発表における質疑応答等を、総合的に判断して評価する。欠席・遅刻が多い場合には、レポート課題等を課します。レポート課題等の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。
学生へ のメッセージ	最初は、グループ発表で、ゼミでの発表方法やディスカッションの仕方等に慣れていってもらえればと思います。皆が気軽に話し合えるような良い雰囲気のゼミになれるといいですね。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　萩原准教授室
備考	判例研究等のプレゼンテーションの際には、準備段階から、Word や Power Point の使い方、論文・判例等の各種文献検索や判例研究の仕方を含め、適時、演習内において指導する。 また、プレゼンテーション終了後は、その場でそのフィードバックを行い、次回のプレゼンテーションに還元できるように努める。なお、レポート等のフィードバックは、後日、添削・評価してから、演習内及び Teams において行うものとする。

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大川　謙蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・ 目的	本演習では、ゼミ生全員で最低限での法の意味、とりわけ民法の意味・制度について把握できるようになることを目的としている。 そのために、ゼミ生全員の協力の下で、どのような社会的問題が存在し、法律がどのような対応をしているのかを理解していく。社会状況を知ることにより、自分が社会においてどのような立場に立ち、またどのようなことをすべきかなど、多くの点を考える糸口を得られると考えている。
到達目標	この演習を通じて学生には、ディベートなどを駆使して、人前で話すための技術や留意点を体感し、人に伝えるための方法を身につけ、その後に一つの判例を使って全員でじっくりその内容を読み込み、その内容を理解できるようになることが期待される。
授業方法と 留意点	２年前期の予定としては、①学生によるテーマせってに基づくディベートにより、プレゼンテーション能力の涵養、②判例を具体的に読み、法制度を具体的に理解していくことを予定している。 ただし、あくまで予定であり、話し合いなどで変更はありうる。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	3 年次で、①グループによる判例報告、②個人の判例報告を予定しているため、その前提となる知識及び経験を涵養する予定である。ただし、あくまで予定であり、話し合いなどで変更はありうる。 また、3 年次で他大学との法的問題に対する合宿討論会を行う予定である。この場において、他大学のゼミの前においてプレゼンテーションを行い、その内容についての議論を行い、場合により反論を行う技術が求められる。ゼミではこれらの内容を涵養するよう指導を行う。 判例の入手方法、レジュメの作成方法などについては、適宜指摘をしていく。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	成績は､演習で出される課題に対して､情報等を準備しているかどうか及びそのためのグループ活動に積極的に参加しているかどうか(30%)、並びに、その課題の報告等に対して、どのような役割を演じているのか及び質疑応答等において積極的に対応しているかどうか(70%)、で判断を行う。
学生への メッセージ	学生主体のゼミを目指しています。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　大川准教授室
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の３つから成り立っています。 予習内容としては､演習で与えられる課題をグループとして演習外でも準備を行う必要があります。その準備を 90 分を基準として行う必要があります。 復習として、課題に対する報告内容に対して、教員より応用的課題を与えるので、それに対して 90 分を基準として行う必要があります。

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松島　裕一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・ 目的	プレゼミでは法律学全般にかかわる初歩的な事項を学習していきます。具体的には、皆さんが興味をもちそうな文庫や新書などを選んで、それを全員で講読する予定です。また、ゼミで習得した知識を用いてディベートを実施するつもりです。
到達目標	このゼミを通じて学生には、次の２つのことが期待されます。第一に、法学部生としての教養を習得すること。第二に、報告を通じてレジュメやパワーポイントの作り方、ネットを利用した資料収集の方法、ディスカッションやディベートの仕方を身につけること。
授業方法と 留意点	文献講読を基調にしつつ、必要に応じてニュースや判例を調べてもらい、それに基づいてみんなでディスカッションを行います。必要に応じて教員（松島）がゼミの内容を補足するために講義やDVD鑑賞を行います。
授業テーマ・ 内容、方法・事前、 事後 学習課題	事前の予習（課題図書の熟読など）を前提にして、ゼミでは報告とディベートを行うつもりです。どの文献を取り上げるかは、皆さんの希望を取り入れて決定したいと思います。 まず事前の活動として、課題図書の該当箇所を読んできてもらいます。また必要に応じて、レジュメなどの作成が必要となります（これらの事前学習に60分以上）。また、ゼミ終了後に学習した内容を振り返ってください（事後学習60分以上）。このゼミ全体の活動を通じて、ゼミ生の皆さんには「本を読む」習慣を身に着けてほしいと思います。
関連科目	法哲学総論、法哲学各論、法思想史
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	毎回の出席を前提として、課題への取り組みやゼミ中での発言（ディスカッション・ディベートなど）を総合的に判断して成績評価を行います（100%）。なお、無断欠席・遅刻が度重なる場合は単位取得を認めないので、十分に注意してください。
学生への メッセージ	ゼミは学習の場であるとともに、教員と学生および学生相互の交流の場であるとも思っています。学生の希望があれば、さまざまなゼミの行事（コンパや合宿など）も実施する予定ですので、積極的に参加してほしいと思います。
担当者の 研究室等	11号館9階　松島准教授室
備考	課題図書は未定ですが、何かしら購入してもらうことになるので、そのつもりでゼミに臨んでください。

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	増田　知也
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・ 目的	「自治体政策への提言」をテーマとする。特定の社会問題に対する政策立案という体験を通して、地方自治についての理解を深め、調査・研究方法の基礎を身につけてもらう。4～5 人程度のグループを作り、政策提言をしてもらう。取り上げるテーマはグループごとに決定する。
到達目標	この演習を通じて学生には、社会問題を認識し、原因を分析した上で、適切な政策を立案し、それを分かりやすく人に伝えることができることが期待される。
授業方法と 留意点	グループワークを中心に授業を進行する。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	1. 問題発見 取り上げるテーマを見つけるため、報道や雑誌・書籍などを頼りに、社会問題を見つける。 社会問題について、その背景と現状を明らかにする。 2. 問題分析 取り上げたテーマについて、問題発生の原因を明らかにする。 その際、文献調査を行った上で、現地調査やインタビュー調査を実施する。 3. 政策立案 原因を踏まえた上で、その解決のための政策を立案する。 複数の案を立てた上で、メリット・デメリットを比較し、最適な政策パッケージを提案する。 4. 政策提言 立案した政策をプレゼンテーションする。 事前・事後学習課題 グループで選んだテーマについての情報収集を行う（4 時間）
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 自治体政策への提言：学生参加の意義と現実 / 今川晃 / 北樹出版 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	グループワークへの貢献 60%、プレゼンテーション 40%
学生への メッセージ	夏休みに開催される、「全国大学政策フォーラム in 登別」での入賞を目標にします。まずは、政策立案の楽しさを体験してみてください。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　増田講師室
備考	

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	和田　泰一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・ 目的	専門演習Ⅰでどの領域に進んでもいいように、政治問題・社会問題に関する文献の読解能力や論理的思考力・判断力・表現力の基礎を身につけることが目的です。学生の皆さん一人一人が、自分が興味を持っている政治問題・社会問題について主体的に考え、議論し、問題解決への糸口をつかめるような主体的・対話的で深いアクティブ・ラーニングの場を提供します。
到達目標	この授業を通じて学生は、政治問題・社会問題に関する書物・新聞記事・評論などを読んで基本的な知識・技能を獲得するとともに、その要点やメリット・デメリットをまとめ、望ましい解決策について他者と討議し、他者に対してそれを明確に発表するという論理的思考力・判断力・表現力を育成することが期待されます。 またグループディスカッション・プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを通じて主体的・対話的で深い学びを行うなかで、学習や仕事に対する意欲や積極的な人間性を育み、社会において良好で協調性のある人間関係を構築す
授業方法と 留意点	ABD（Active Book Dialogue，アクティブ・ブック・ダイアローグ）というアクティブ・ラーニングの方法を用いて、教養文献の読解・グループディスカッション・プレゼンテーションを毎回全員が行います。
授業テーマ・ 内容、方法･事前、事後 学習課題	・授業テーマ・内容 政治問題・社会問題に関する文献の読解や議論、発表を通じて、その内容を正確に理解し、他者と討議して望ましい解決策を判断し、他者にわかるようにその内容・解決策を発表することによって、基本的な日本語読解能力と論理的思考力・判断力・表現力を修得することができます。 どの学問領域に進んでもいいように学問的基礎を固め、自分が関心のある問題の領域を定めることができるようにします。 ・授業方法 学生の皆さんの興味・関心・卒業論文のテーマを考慮しながら、政治問題・社会問題についての文献をその場で毎回輪読・議論・発表する ABD（Active Book Dialogue，アクティブ・ブック・ダイアローグ）というアクティブ・ラーニングの方法を用います。短い時間で日本語の文章を読み、その要点を的確に理解することは、就職試験や公務員試験の「文章読解」で求められる能力でもあり、社会人になった後のマニュアル・資料の読解にも必ず必要な能力です。またグループディスカッションやプレゼンテーションは、仕事で問題が発生したときにその原因を的確に把握し、他者と望ましい解決策を討議し、最善と判断した改善策を他者に論理的に説得するためにも必要な能力です。 ・事前、事後学習課題 事前学習…その場で政治問題に関する文献を読んでもらうので、必要ありません。 事後学習…文献全体をもう一度読み直し、内容を理解しておくこと（60 分～90 分程度）。
関連科目	法学基礎演習Ⅱ、専門演習Ⅰ
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	授業でのグループディスカッション（50%）とプレゼンテーション（50%）で評価します。
学生への メッセージ	この時期に自分が関心のある学問領域を定めてどの専門演習に進みたいかを決定し、その領域に関する参考文献の読解や資料・データの収集を自主的に行うようにしてください。
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 11 号館 10 階　和田研究室
備考	グループディスカッションでは教員も適宜参加し、助言を与えます。プレゼンテーションでは毎回その内容について全員に助言と短評を与えます。

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	本多　康作
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・ 目的	このプレ専門演習は、2年次後期の「専門演習Ⅰ」、3年次の「専門演習Ⅱ」、そして4年次の「卒業研究」にかかる導入教育として位置づけられています。そこで本演習では、「専門演習」に入る前に、言葉と法をキーワードに、古典的なテキスト（本の一部や論文）を輪読し、テキストを読むという行為について改めて考えてみたいと思います。
到達目標	この演習を通じて学生には、テキストを読むという行為について反省し、改めて考えるようになることが期待される。
授業方法と 留意点	テキストを輪読します。授業の最初に、テキストの担当個所（担当頁）を決め、毎回、複数名の方に担当箇所について資料を作成したうえで報告ないし説明してもらいます。担当者の説明の後に、参加者からの質問に担当者に回答してもらい、テキストへの理解を深めていきたいと思います。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	法学のテキストに限らず、言葉や法に関係する古典的なテキストを参加者全員で輪読していきます。実際に読むテキストは、いくつかの候補を私が示したうえで、参加者と相談し決めたいと思います。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / ※開講時に指示する / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	平常点（出席、ゼミへの参加態度）と、担当回のパフォーマンスで評価します。担当回のパフォーマンスとは、担当個所の資料作成とそれに基づく報告、報告に対する参加者からの質問への回答の仕方です。なお担当回の無断欠席は大幅な減点となります。注意してください。
学生への メッセージ	古典的なテキストを一緒に読んでみようという方を歓迎します。
担当者の 研究室等	11号館9階
備考	事前学習として、演習テーマの予習に毎回2時間以上の予習に取り組むこと。 事後学習として、演習テーマの内容についてノートにまとめるなど、毎回2時間以上の復習に取り組むこと。

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	寺山　洋一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・ 目的	本プレ専門演習では、「『働く』の根っこを考える」に主眼を置いています。 現代が直面する、「働く」 をめぐる諸課題について、ゼミ生が幾つかのグループに分かれた上で、ぞれぞれ、ICT ツールを用いて調べ、他者と話し合いながら、考え抜く力を養います。 プレ専門演習は、専門演習（後期）に向けた助走的な内容（contents）となりますが、専門演習に直に（directly）接続するものではなく、プレ専門演習としての手応えを感じられるよう配意します。
到達目標	就職に向けて、また、就職（起業）後において、「働く」 に関する種々の課題に直面した場合、自らの調査などを通じて、ある程度の着想を得た上で、他者の意見にも耳を傾けつつ、さらに自らの立ち位置や道筋を練り上げられるようになることが期待されます。
授業方法と 留意点	「働く」 に関する諸課題について、１テーマごとに、各グループで1～２回、ゼミ生全体で２～３回かけて重層的に議論を深めます。 その後、各々、自らの立場と所見をレポート（A4）に取りまとめます。 以上を、３～４セットほど繰り返します。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	テーマごとに、幾つかのグループ（経営者、従業員、上司・部下・同僚、法律家など）に分かれて、テーマに関する現状、課題及び対応策について、ICT ツール等を用いて調べます。 グループ内で押し並べて検討した後、他のグループも交えて全体で討議しながら、自らの立場と所見を考え抜きます。 大括りのテーマ群（関連性のある幾つかのテーマを束ねた柱建て）として、次のような事柄が考えられます。 １　少子高齢社会と今後の雇用の方向 ２　非正規雇用 ３　尋常でない職場 ４　問題を抱える従業員 ５　仕事と生活の調和 ６　自立した働き方 グループ内での調べものや打合せ、全体討議が主体となります。 雇用・労働関係の法律等について、適時、教員から補足説明をするとともに、各自のレポート作成に際して助言を行います。
関連科目	民法（債権法）、労働保護法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	【電子】 人事労務関係法　令和５年度版	テラボ	斉家書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	【電子】 移りゆく雇用・労働六法　令和５年度版	テラボ	斉家書房
2			
3			

評価方法 （基準）	主体的に参画する意欲・姿勢を重視します。 調べもの等への取組姿勢やグループにおける傾聴・発言内容（３０％）、全体討議における傾聴、発言内容（３０％）、テーマごとのレポート（４０％）を、総合的に判断して評価を行います。 各自が主体的に参画するゼミであり、お互いの信頼関係を損ねることとなる、無断の欠席・遅刻に対しては厳正に対処します。
学生への メッセージ	プレ専門演習は、ゼミ生と教員との「学びの場」であるとともに、ゼミ生同士の「信頼関係の礎」で成り立っています。 むやみに私見にこだわらず、他者の意見を傾聴し、立場が異なってもお互いに励まし応援する姿勢が求められます。 プレ専門演習を、ムリ・ムダ・ムラのない良質な機会として育みましょう。
担当者の 研究室等	11 号館９階　寺山教授室
備考	授業中、追加的な調べもの、レポート作成の準備を行うことがあります。 各自、PC・スマートフォン等の電子機器を持ち込んでも差し支えありません。 授業前の下調べに２時間程度を、授業後の振返り及びレポート作成の準備に２時間程度を要します。

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	河原　匡見
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	私たちは日頃、さまざまなメディアを通じて氾濫する情報の中で生活しており、必要な情報を取捨選択し、かつそれを正しく読み取っていくことが求められています。そういう『みる眼』を養っていくことを目的とした演習です。特に、新聞あるいはテレビから発信される情報との“大人のつきあい方”を模索していきます。
到達目標	この演習を通じて学生には、国内外の情報に積極的に接していくとともに、マスメディアなどによって氾濫するさまざまな情報を的確に読み取り、自分にとって必要な情報を取捨選択できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	「対面式」で実施します。学生によるプレゼンテーションおよびそれに対するディスカッションを行います。毎回欠かさず出席することが求められます。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	政治や社会の動きをみる眼を養うことがテーマです。マスメディアのもつ特性やその発信するさまざまな情報についての基本的な視点を、実際の素材を用いながら学び考えていきます。3 年生の専門演習Ⅱでの学習を進めていくための必須となる社会情報の基礎分析力を養います。なお、演習の中で適宜、予習あるいは復習の課題を提示します。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	演習での勉学姿勢、特にディスカッションへの参加など（５０％）、およびプレゼンテーションによる発表の内容（５０％）により評価します。
学生へのメッセージ	演習では、積極的な参加が必要です。演習は、みなさんが、生来の資質を伸ばしたり、未知の可能性を見出したりするための、いわば知的な『共同訓練の場』といえます。ですから、演習に対しては、しっかりとした勉学の目的と意志をもって参加するようにしてください。演習によってどのような知識や思考方法が身に付くか、どのような新たな才能や可能性を見いだせるか、その成果は、みなさんの演習に対する積極さ如何に大きく関わってきます。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　河原教授室
備考	事前・事後学習は、各授業時間ごとに１時間程度行ってください。但し、発表前の場合は、発表の準備に必要な時間をさらに上乗せすることが必要となります。

科目名	専門演習Ｉ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中　敦
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・ 目的	・民法をはじめとする民事法の基礎的知識を確認し、深めることを目的とするゼミである。民事法は、財産と家族という我々の日常生活に関する一連の法であって、現実の生活と密接に関係している。典型的な裁判例等を素材とすることにより、民事法の基礎的知識を習得することを目標とする。なお、授業期間中に重要な判例が出た場合には、適宜紹介していきたい。 ・授業担当者は、大阪高裁・地裁、東京地裁等の裁判官として３９年間勤務し、また、広島家庭裁判所長を経験するなど、財産法や家族法に関する民事事件、家事事件に数多く携わってきた。授業では、法理論にとどまらず、実務経験を踏まえた話をしていきたい。
到達目標	この授業を通じて学生には、３年次以降に自主的な学習をするために必要となる、民事法に関する基礎的な知識や、ゼミにおける発表準備、発表、議論に関する基本的なやり方を習得することが期待される。
授業方法と 留意点	・民事上の権利の発生・消滅に関する法（実体法）を中心に、基礎的事項と全体像を確認した上、重要な法律問題について検討・討論する。民事法は、財産と家族という日常的・現実的なことを扱う法であるため、現実の生活と関連づけて法律問題を検討することが重要である。 ・授業には、上記資料等や六法（ポケット六法等、最新の令和５年版を推奨する）を必ず持参すること。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	・授業の前半は、ガイダンス等の後、約６回にわたり、法学検定基礎問題（民法）の問題抜粋に解答をしてもらう。ここでは、単に正解を出すだけではなく、民法の知識を再確認すべく、学生との質疑応答や必要な講義も行いたい。 ・後半では、様子をみた上で、法律に関する問題についてグループで議論をしたり、判例百選等から選んだ判例を検討していったり、模擬法廷を使用したりする授業も考えている。 ・本演習では、各授業につき各２時間の事前及び事後の学習が求められる。事前学習は、上記問題の回答のための準備、教員から示された課題の検討など、事後学習は、当日の授業の復習とともに、教員から指摘された事項などについても検討すること等が考えられるが、それぞれが、その内容を自ら見出すことが求められる。授業やTeamsによって適宜知らせることもあるので、注意すること。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	授業における態度（遅刻せずきちんと出席しているか、議論に積極的に参加しているか、事前事後の学習をして授業に対応できているか。５０％）及び、Teams 上での小テストや課題（５０％）で評価する。欠席・遅刻が多かったり、授業態度が良好でない場合には、別途レポートを課すことがある。
学生への メッセージ	本演習は、卒業までの２年半継続し、今後の大学生活で大きな位置を占めるものとなるであろう専門演習の最初です。積極的に課題に取り組み、議論や質問をしつつ、気軽に話し合えるようなゼミにしていきましょう。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　田中教授室
備考	課題については、原則として（別途Ｔｅａｍｓ上示することもある)、直近の次の授業で解説する。コロナをめぐる情勢、学生の理解度、授業の進行によっては、授業の方法、内容を変更することがある。

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中沼　丈晃
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	卒業研究につながる演習の最初の段階である。地域活動に参加して、現場を観察する。関係者の方に聞き取り調査をする。自分たちの行っている活動を学外の方に説明する。読書で知識を得て、それをまとめる。この４つの力をバランスよく養っていきたい。
到達目標	この演習を通じて学生には、①地域活動に参加して、協力して行動し、観察・聴き取り記録をとれるようになること、②活動の内容・目標・課題を説明できるようになること、③読書を通じて知識を整理できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	地域活動に参加しての参与観察、聞き取り調査（ともにフィールドワーク）、学外の方への活動報告（プレゼンテーション）、仲間との活動の企画と振り返り（ディスカッション）が特徴の演習である。さまざまな立場、価値観の人たちとの交流を楽しんでほしい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	演習で扱う分野は、地域防犯、自治会の地域活動、小学校と地域との関係、地域での児童福祉・青少年健全育成の４つである。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	演習時限の全出席を前提とする。活動記録(40%)、企画・振り返りへの貢献度(20%)、読書ノート(40%)の合計によって評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 9 階　中沼教授室
備考	記録簿への記入、ノート整理などで各回 1～2 時間ほどが必要になる。定期的に記録簿とノートの提出を求め、点検する。 個人面談をして、地域活動参加の意志確認をし、参加の感想や今後の希望も聴く。それに対して助言を行う。

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浮田　徹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	卒業研究につながる法学部の演習科目を行っていくにあたっての基礎的な力を身につけることを目的とします。
到達目標	この講義を通じて学生には、問題発見・レジュメ作成・報告に関する基礎的な力を身につけられるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	個々人の力にある程度の差があることを前提としつつすべてのメンバーが基礎力を身につけていく経験を積んでいける機会を得られるようにするため、原則として出席して積極的に参加することが必要です。 報告はグループで行いますので、グループワークが基本となります。報告ではプレゼンテーション能力を培います。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	テーマを決めていく段階から自主性を重んじますので開講後決定します。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	参加を前提として、報告に対する取り組みと現場でのプレゼンテーション（60%）、ふり返りのペーパー（40%）で評価します
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 9 階　浮田准教授室
備考	事前学習としては、報告者は事前の準備(４時間程度)、それ以外は報告者から提示される文献を読む（30 分）、事後学習としては当日の報告に関する課題を課すのでその作成を行います(60 分)。

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	石井　信輝
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	「専門演習Ⅰ」は、3年次の「専門演習Ⅱ」と、４年次の「卒業研究」につながる演習であり、専門分野を２年半かけて深く学ぶための準備を行うためにある。したがって、この準備を完了することが専門演習Ⅰの目的である。
到達目標	この授業を通じて学生には、スポーツ活動を多面的（主に法学・政治学・法政策学）に学び関連する知見を身につけることが期待される。
授業方法と留意点	必要に応じて資料を配布する。教科書を用いる場合もある。授業中に提示した課題を解決するため、および事前・事後の学習のためにICTツールを活用していただく場合もあります。対面による授業を原則とします。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	・授業テーマ：｢スポーツ活動を多面的に学ぶ｣ ・方法と内容：スポーツに関係する資料輪読、レポートの作成、作成したレポートのプレゼンテーション、およびディスカッションを行う。 ・授業の都度指示する課題に対する予習と復習
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加を前提とし、各回の取り組み（与えられた課題の完成度50%、プレゼンテーションの内容20%、ディスカッションでの発言30%）で評価する。
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んでください。
担当者の研究室等	11号館10階　石井教授室
備考	各回に1時間程度、すなわち半期で15時間程度を目安に、事前・事後の学習を行ってください。

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	島田　良一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	刑事法（刑法・刑事訴訟法・刑事政策・少年法）をめぐる諸問題について、受講者の報告をもとに全体で討議する。
到達目標	この演習を通じて学生には、刑事法に関する十分な知識を修得することが期待される。
授業方法と留意点	主にグループワークの形でプレゼンテーションやディベートなどを行う。 なお、遅刻・無断欠席は厳禁とする。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	専門文献、資料、判例、報道記事などを素材に刑事手続に関する基礎的な知識を習得するとともに、毎回、報告者を設定し、その報告テーマについて議論を行うほか、状況に応じてディベート等も行いたいと考える。 事前の学習課題としては、議論の準備など（資料の読み込み、レジュメの作成など）。 事後の学習課題としては、議論において教員や他のゼミ生に指摘された点の確認など。 事前、事後学習ともに１～２時間／日を要する。
関連科目	刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑法総論、刑法各論、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事政策、現代社会と刑事法、経済刑法、刑事法概論
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	プレゼンテーションなどの内容（50%）、プレゼンテーションなどにおける発言・取り組みの姿勢・態度（50%）。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 9 階　島田准教授室
備考	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	家本　真実
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・ 目的	日頃、意識して「議論する」ということはあまりないかもしれませんが、日常生活において他の人と意見が異なることは多々あると思います。そのようなときに、話し合いによって自分の意見を相手方に理解してもらい、また相手方の意見を理解するということ、つまり相手方と「議論する」ことによって、お互いにとって納得できる合意を得ることが可能になります。そうして何らかの合意を得ることが必要な場面には、友人や家族などとの生活においてだけではなく、将来的には仕事をするうえでも遭遇することになります。そこでこのゼミでは、「議論する」ことに焦点を当てて、どうやって議論をしていくのか、相手に自分の意見を理解してもらうためにはどう話すべきなのか、また相手の意見を理解することがどれだけ重要なのか、といったことを少しずつ学んでいきたいと思います。 ３年次におこなう模擬裁判においても議論をすることがメインとなりますので、専門演習Ⅰはその準備期間という位置付けでもあります。
到達目標	このゼミを通じて、学生の皆さんには、議論を通して、他人の考えを理解し、問題がある場合にはどのような解決を見出すことができるかを考えることができるようになることが期待されます。
授業方法と 留意点	毎回、2-3 人 1 グループを報告者として、一定のテーマについて基礎となる報告をおこなっていただきます。そのうえで、全員で、このテーマについて議論をしていただきます。したがって、報告者は、議論をおこなうことができるようなテーマを選択し、それについて基礎的な情報を提供することを目的としてレジュメを準備していただくとともに、報告当日の議論において司会を務めていただきます。 報告を聞く側の皆さんには、他人事のように報告を聞くのではなく、積極的に議論に参加するという姿勢をもって臨んでいただきたく思います。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	初回から数回は、報告にあたって必要な準備の方法などについて学びます。その後、各々の報告に移っていきたいと思います。皆さんが気楽に話せる内容を報告のテーマとしていただいて、とにかく自分の意見を口に出す、また自分の意見を他の人に理解してもらえるように話す、という練習をしていただきたいと思います。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法 （基準）	ゼミでの報告における準備や司会進行の様子、議論への参加の姿勢（80%）、課題・提出物（20%）を評価の対象とします。
学生への メッセージ	議論をすることによって、お互いの考え方を知り、理解しあうことにつながると思いますので、こうした活動を通じて、学生間での交流を深めてもらいたいと考えています。また、皆さんからゼミの内容についての提案があれば、できる限り取り入れていきたいと考えています。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　家本准教授室
備考	報告内容については随時、課題については次の回で講評をおこないます。 事前・事後学習の総時間数の目安：60 時間

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	城内　明
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	民法を深く学ぶ　－判例を読む－ 2年後期は、民法の判例研究を行います。 1月には、ゼミ内で法律討論会も実施します。
到達目標	この授業を通じて学生には、判例を正確に読む力、判例を批判的に検討する力、論理的に議論を構築する力を身に付けることが期待されます。
授業方法と留意点	判例研究では、2～3人のグループ毎に一つの判例を担当し、2週間をかけ報告します。 法律討論会に向けての準備作業では、3～4人のグループ毎に、問題を検討し、回答(立論)を作り上げます。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	判例報告の報告者には、2週間のゼミを有意義なものとするために必要な準備が求められます。 報告者以外のゼミ員も、事前に検討判例を読み、報告に対しては、積極的に質問・意見を述べることが求められます。 法律討論会では、討論会当日までに立論を完成させ、積極的に議論に参加することが求められます。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	報告の内容（40%）及びゼミに臨む態度（60%）を総合評価します。
学生へのメッセージ	ゼミの仲間は、一生の仲間です。「自分さえ良ければ」ではなく、皆で高めあい「学問」しましょう。
担当者の研究室等	11号館10階　城内准教授室
備考	報告準備等の事前学習の所要時間は20時間程度を想定しています。 グループワークが主となりますので、遅刻・欠席は、グループの仲間の迷惑になることをご理解ください。無断欠席は論外です。厳しく対処しますので、ご注意ください。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小野　晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・ 目的	・指導方針 1　この専門演習Ⅰは、3年次の「専門演習Ⅱ」、そして4年次の「卒業研究」にかかる導入教育として位置づけられています。 2　そこで、本演習では1年次において刑事法概論の講義で習得した基本事項のうち，参加者各自が興味や関心を抱いた個別テーマに関する裁判例（判例）や学説を調べて報告してもらいます。 3　もっとも、こうした報告作業は、少なくとも法学系の論述問題でまともな答案を書くことができない人にはなかなか難しいのも事実です。そのため、この演習では、発表の前提ともいえる、刑事法に関する論述問題の答案作成方法も学習します。 4　また、発表に際し、どのようにして判例や文献を調べればよいのかというリーガル・リサーチの手法も本格的に学習する予定です。図書館や法学データベースの使用方法も適宜指導します。
到達目標	この演習を通じて学生には、 「・刑法の論点を抽出できる ・論点に対する判例や裁判例を調査できる ・論点に対する学説を調査できる ・論点に対して私見を展開できる」 ようになることが期待される。
授業方法と 留意点	・演習（ゼミ）形式（反転授業）で行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答を行う。 ・法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。 ・刑法の論点に関して個別にプレゼンテーションを行った上で、参加者全員でディベートを行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	・ゼミ内容 　この演習では，刑法（罪刑法定主義、刑法総論〈全犯罪共通の成立要件の検討)，刑法各論〈各種個別犯罪〔殺人・強盗・放火等〕の成立要件論))、および、刑事学・犯罪学（犯罪原因論，受刑者と出所者の処遇問題，死刑を含めた刑罰の有効性と正当性，犯罪被害者救済策）を主な検討対象とします。 ・授業内容 　刑事法に関する事例問題（論述式）の答案作成方法 　刑事法領域の裁判例や学説の研究調査方法（リーガル・リサーチ） 　個別テーマの報告
関連科目	刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、現代社会と刑事法、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	※開講時に指示する		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	刑法の争点（第3版）	西田＝山口＝佐伯	有斐閣
2	判例プラクティス刑法Ⅰ（第2版）	成瀬＝安田	信山社
3	判例プラクティス刑法Ⅱ	成瀬＝安田	信山社

評価方法 （基準）	評価方法 　プレゼンテーション（50%）とディベートへの参加度（50%）によって評価する。 以下の点をとくに重視します。 ①発表時に問題提起を適切にしているか（発表姿勢)。 ②提起した問題に関連する判例や先行研究（学説）を十分に、かつ、主体的に調査しているか（主体的学習)。 ③異説に配慮しつつ、自らの考察を適切かつ説得力をもって展開できているか（論理性)。
学生への メッセージ	日常の犯罪報道などに興味のある学生はふるってご参加ください。
担当者の 研究室等	11号館10階　小野教授室
備考	事前学習として、演習テーマの予習に毎回2時間以上の予習に取り組むこと。 事後学習として、演習テーマの内容についてノートにまとめるなど、毎回2時間以上の復習に取り組むこと。

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	萩原　佐織
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・ 目的	当該民事法ゼミでは、例えば民法等の実体法に基づき発生する権利につき紛争が生じ、裁判所等で解決されるべき場合に、その方法や当事者が従うべきルール等につき、具体的な事案や判例をもとに追求することを最終目標としています。ただし、2 年次の段階では民事訴訟等が未履修ですので、まずは民法等の復習ならびに発展問題を取り扱い、私人の権利、ならびに私人間の権利の衝突・紛争の態様につき学んでもらいたいと思います。
到達目標	専門演習Ⅰでは、民事法にフォーカスして、より具体的に学んでいきます。この演習を通じて学生には、これから２年半続くゼミの出発点として、研究テーマの設定、判例研究・判例発表の方法等を、しっかり身に付けることが期待される。また、これから２年半をともに過ごすゼミ仲間とより良い関係が築けるよう、最初は、グループ発表とし、スポーツ交流等も交え、良い雰囲気のゼミ作りをまずは目指したいと考えています。 後半は、2・3 名でのグループ発表や個人発表を行い、社会科学系の学問における発表の仕方を身に付けるとともに、人前で発
授業方法と 留意点	【授業内容】 前半は、ゼミでの発表の仕方（論文・判例・その他の資料等の見つけ方、配布資料の作成方法等）につき指導を行う。後半は、2，3 人のグループでの研究発表を予定。なお、発表毎に質疑応答を行うので、他のグループの研究発表時にも、積極的な参加姿勢を要する。1 学期内に、各グループとも、3 回程研究発表を行う機会を有するが、発表毎に構成員を変更し、ゼミ生同士が、より多くのコミュニケーションを、それぞれのメンバーととることができるように考慮している。そこから研究発表にも、より良い知の化学反応が生じることを期待
授業テーマ・ 内容、方法･事前、 事後 学習課題	授業は、民事事件に関する判例等の研究発表を中心として行う。学期初めに、各グループの発表日時を決めるので、各グループは、構成員同士で話し合って発表テーマを決定し、発表に備え、事前に準備すること。事前準備においては、研究対象となる判例や論文等の資料を探し読み込むこと（インプット）はもちろん、どのように発表すれば他人により分かり易く伝えることができるのか、その発表内容や方法（アウトプット）についても熟慮すること。 発表形式は、次の２つの方法のいずれかのうち、そのテーマに適したものを用いて行う： １．資料作成技能重視型： 発表時には、研究内容を、板書やパワーポイント等を用いて説明するとともに、配布資料を配布すること。配布資料は、①研究対象となる事案・争点・判例や学説の流れ・解説等を記載したものと、②研究対象となる事案の判決（判旨・判決理由）を記載したもの、の２点を別個に用意する。まず、発表者が、配布資料①に基づき、事案・争点等の説明を行った後、ゼミ全体でディスカッションし、その後、配布資料②を用いて、当該事案の判決につき、再度論議を行う。 2．コミュニケーション技能重視型： 3 人でグループを組み、各自原告・被告・裁判官役の立場に立ち、主に判決全文を用いて、それぞれの主張を述べ合い、裁判を体現する。当事者役は各審級の判決全文から自己の主張を練り、裁判官役は両当事者の見解を聞いたうえで、判決文や判例解説等を基に、それらに対する事実認定や法的見解を述べる。1 審から、上訴を含め、確定判決まで、裁判の一連の流れを再現する。ただし、その結論については、必ずしも使用した素材と同一になる必要はなく、各当事者役の主張内容や裁判官役の判断次第で、当人が妥当と考える結論が導き出されれば良い。模擬法廷を利用した模擬裁判を予定している。 予習事項は、毎回その都度指定しますが、各自の発表に備えてパワーポイント資料を作成したり、設定テーマに関連する文献を調べて熟読しておくこと、発表準備を行うこと等が挙げられます。 また、復習事項は、ゼミ内で教員より個別に指導された内容、例えば、発表資料の修正、文献の追加検索や入手です。Teams 上で提出し返却された課題については、そこに示されたフィードバックの指示に従って復習を行って下さい。 事前・事後学習の時間は、それぞれ２時間を想定しています。ただし、発表前は、個人やグループの進捗状況により、ゼミ時間外に個別で又はグループで集まって準備をすることもあり得ます。その場合、事前学習時間は、通常より長くなる可能性があります。
関連科目	民事法全般
教科書	
参考書	
評価方法 （基準）	演習内におけるプレゼンテーション準備やディベート・ディスカッション等の平常点（60%）、プレゼンテーションやレポート（40%）で評価します。ゼミへの参加意欲ならびにその体現、自身の研究発表への取組み方ならびにその成果、そして他のゼミ生の発表における質疑応答等を、総合的に判断して評価する。欠席・遅刻が多い場合には、レポート課題等を課します。レポート課題等の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。
学生への メッセージ	最初は、グループ発表で、ゼミでの発表方法やディスカッションの仕方等に慣れていってもらえればと思います。このメンバーで卒業までの２年半を過ごすことになるので、皆が気軽に話し合えるような良い雰囲気のゼミになれるといいですね。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　萩原准教授室
備考	判例研究等のプレゼンテーションの際には、準備段階から、Word や Power Point の使い方、論文・判例等の各種文献検索や判例研究の仕方を含め、適時、演習内において指導する。 また、プレゼンテーション終了後は、その場でそのフィードバックを行い、次回のプレゼンテーションに還元できるように努める。なお、レポート等のフィードバックは、後日、添削・評価してから、演習内及び Teams において行うものとする。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大川　謙蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・ 目的	本演習では、ゼミ生全員で最低限での法の意味、とりわけ民法の意味・制度について把握できるようになることを目的としている。 そのために、ゼミ生全員の協力の下で、どのような社会的問題が存在し、法律がどのような対応をしているのかを理解していく。社会状況を知ることにより、自分が社会においてどのような立場に立ち、またどのようなことをすべきかなど、多くの点を考える糸口を得られると考えている。
到達目標	本演習を通じて、学生にはディベートなどを駆使して、人前で話すための技術や留意点を体感し、人に伝えるための方法を身につけ、その後に一つの判例を使って全員でじっくりその内容を読み込むようになることが期待される。ただし、学生の目標等に合わせて、柔軟に対応する予定である。
授業方法と 留意点	２年後期の予定としては、①学生によるテーマ設定に基づくディベートにより、プレゼンテーション能力の涵養、②判例を具体的に読み、法制度を具体的に理解していくことを予定している。 ただし、あくまで予定であり、話し合いなどで変更はありうる。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	3 年次で、①グループによる判例報告、②個人の判例報告を予定しているため、その前提となる知識及び経験を涵養する予定である。ただし、あくまで予定であり、話し合いなどで変更はありうる。 また、3 年次で他大学との法的問題に対する合宿討論会を行う予定である。この場において、他大学のゼミの前においてプレゼンテーションを行い、その内容についての議論を行い、場合により反論を行う技術が求められる。ゼミではこれらの内容を涵養するよう指導を行う。 判例の入手方法、レジュメの作成方法などについては、適宜指摘をしていく。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	成績は、学期末に教員が用紙を渡すので、各ゼミ生が自己採点を行う。採点を行うに当たり、その評価に見合う事実、経験、結果等を自己で示す必要がある。すなわち、自分で自分を客観的に評価する能力が必要とされる。その自己評価書を元に評価を行う。 評価項目は、ゼミへの取り組み（20%）、得られた知識（20%）、得られた経験（20%）、今後の課題（20%）、個人的 PR（20%）をもとに判断を行う。
学生への メッセージ	学生主体のゼミを目指しています。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　大川准教授室
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の３つから成り立っています。 予習内容としては、演習で与えられる課題を個人で準備を行う必要があります。その準備を 90 分を基準として行う必要があります。 復習として、課題に対し、中間報告及び最終報告の内容を正確に押さえる必要があります。その為に 90 分を基準として行う必要があります。 学生主体の演習を目指しています。各実施状況については各自の報告時及びメールで確認します。 演習での縦の人間関係も重視しております。コンパなどで、就活などの情報も先輩から後輩へと伝えていくこと

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松島　裕一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	専門演習Ⅰでは法哲学・法思想史の基本的な事項を学習していきます。具体的には法哲学・法思想史の入門書ないしそれに類するものを全員で講読する予定です。また、ゼミで習得した知識を用いてディベートを実施するつもりです。
到達目標	このゼミを通じて学生には、次の２つのことが期待されます。第一に、法哲学・法思想史の基礎知識を習得すること。第二に、報告を通じてレジュメやパワーポイントの作り方、ネットを利用した資料収集の方法、ディスカッションやディベートの仕方を身につけること。
授業方法と留意点	文献講読を基調にしつつ、必要に応じてニュースや判例を調べてもらい、それに基づいてみんなでディスカッションを行います。必要に応じて教員（松島）がゼミの内容を補足するために講義やDVD鑑賞を行います。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	事前の予習（課題図書の熟読など）を前提にして、ゼミでは報告とディベートを行うつもりです。どの文献を取り上げるかは、皆さんの希望を取り入れて決定したいと思います。 まず事前の活動として、課題図書の該当箇所を読んできてもらいます。必要に応じて、レジュメなどの作成が必要となります（これらの事前学習に60分以上）。また、ゼミ終了後に学習した内容を振り返ってください（事後学習60分以上）。このゼミ全体の活動を通じて、「本を読む」習慣を身に着けてほしいと思います。
関連科目	法哲学総論、法哲学各論、法思想史
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	毎回の出席を前提として、課題への取り組みやゼミ中での発言（ディスカッション・ディベートなど）を総合的に判断して成績評価を行います（100%）。なお無断欠席・遅刻が度重なる場合は単位取得を認めないので、十分に注意してください。
学生へのメッセージ	専門演習は学習の場であるとともに、教員と学生および学生相互の交流の場であるとも思っています。学生の希望があれば、さまざまなゼミの行事（コンパや合宿など）も実施する予定ですので、積極的に参加してほしいと思います。
担当者の研究室等	11号館9階　松島准教授室
備考	課題図書は未定ですが、何かしら購入してもらうことになるので、そのつもりでゼミに臨んでください。

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	増田　知也
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・ 目的	「地域における問題発見」をテーマとする。5 人程度のグループを作り、特定の地域における問題を自分たちで発見することを目指す。調査方法としては、文献調査、フィールド調査、インタビュー調査を組み合わせて行う。
到達目標	この演習を通じて学生には、地域における問題を発見し、調査によってその原因を明確にし、調査結果を分かりやすく人に伝えることができるようになることが期待される。
授業方法と 留意点	Active Book Dialogue による文献講読と、グループワークによる政策立案を組み合わせて実施する。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	1. 文献講読 文献の内容を分担してまとめ、発表し、議論を行う。 2. 事例の選定 調査の利便性も考慮しつつ、対象となる地域を選定する。 3. 事例研究 リサーチ・クエスチョンを立て、文献調査、フィールド調査、インタビュー調査によって結論を導く。 4. プレゼンテーション 研究成果を発表し、意見交換をすることで理解を深める。 事前・事後学習課題 グループで選んだテーマについての情報収集（4 時間）
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	グループワークへの貢献 60％ 、プレゼンテーション 40％
学生への メッセージ	楽しく深く学べるゼミにしたいと思います。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　増田講師室
備考	

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	和田　泰一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・ 目的	専門演習Ⅱに備えるべく、政治問題に関する文献の読解能力や論理的思考力・判断力・表現力の基礎を身につけることが目的です。学生の皆さん一人一人が、自分が興味を持っている政治問題について主体的に考え、議論し、問題解決への糸口をつかめるような主体的・対話的で深いアクティブ・ラーニングの場を提供します。
到達目標	この授業を通じて学生は、政治問題に関する書物・新聞記事・評論などを読んで基本的な政治的知識・技能を獲得するとともに、その要点やメリット・デメリットをまとめ、望ましい解決策について他者と討議し、他者に対してそれを明確に発表するという論理的思考力・判断力・表現力を育成することが期待されます。 またグループディスカッション・プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを通じて主体的・対話的で深い学びを行うなかで、学習や仕事に対する意欲や積極的な人間性を育み、社会において良好で協調性のある人間関係を構築する仕
授業方法と 留意点	ABD（Active Book Dialogue，アクティブ・ブック・ダイアローグ）というアクティブ・ラーニングの方法を用いて、政治問題に関する文献の読解・グループディスカッション・プレゼンテーションを毎回全員が行います。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	・授業テーマ・内容 政治問題に関する文献の読解や議論、発表を通じて、その内容を正確に理解し、他者と討議して望ましい解決策を判断し、他者にわかるようにその内容・解決策を発表することによって、基本的な日本語読解能力と論理的思考力・判断力・表現力を修得することができます。 卒業論文が作成できるように学問的基礎を固め、自分が関心のある政治問題の領域・テーマを定めることができるようにします。 ・授業方法 学生の皆さんの興味･関心･卒業論文のテーマを考慮しながら､政治問題についての文献をその場で毎回輪読･議論･発表する ABD（Active Book Dialogue，アクティブ・ブック・ダイアローグ）というアクティブ・ラーニングの方法を用います。短い時間で日本語の文章を読み、その要点を的確に理解することは、就職試験や公務員試験の「文章読解」で求められる能力でもあり、社会人になった後のマニュアル・資料の読解にも必ず必要な能力です。またグループディスカッションやプレゼンテーションは、仕事で問題が発生したときにその原因を的確に把握し、他者と望ましい解決策を討議し、最善と判断した改善策を他者に論理的に説得するためにも必要な能力です。 ・事前、事後学習課題 事前学習…その場で政治問題に関する文献を読んでもらうので、必要ありません。 事後学習…文献全体をもう一度読み直し、内容を理解しておくこと（60 分～90 分程度)。
関連科目	プレ専門演習、専門演習Ⅱ
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	授業でのグループディスカッション（50%）とプレゼンテーション（50%）で評価します。
学生への メッセージ	就職活動が始まると卒業論文の作成に時間を取ることができなくなってしまいます。この時期に卒業論文の領域・テーマを定め、参考文献の読解や資料・データの収集を自主的に行うようにしてください。
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 11 号館 10 階　和田研究室
備考	グループディスカッションでは教員も適宜参加し、助言を与えます。プレゼンテーションでは毎回その内容について全員に助言と短評を与えます。

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	本多　康作
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・ 目的	・指導方針 1　この専門演習Ⅰは、3年次の「専門演習Ⅱ」、そして4年次の「卒業研究」にかかる導入教育として位置づけられています。 2　そこで、本演習では「独占禁止法」や「保険法」の講義で習得した基本事項、あるいは「法学一般（特に基礎法学)」の基本事項から、参加者各自が興味や関心を抱いた個別テーマに関する裁判例（判例）や学説を調べて報告してもらいます。
到達目標	この演習を通じて学生には、 「・独占禁止法や保険法等の論点を抽出できる ・論点に対する判例や裁判例を調査できる ・論点に対する学説を調査できる ・論点に対して私見を展開できる」 ようになることが期待される。
授業方法と 留意点	・演習（ゼミ）形式（反転授業）で行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答を行う。 ・法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。 ・独占禁止法や保険法等の論点に関して個別にプレゼンテーションを行った上で、参加者全員でディベートを行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	・ゼミ内容 　この演習では、独占禁止法、保険法、法学一般（特に基礎法学の論点）を主な検討対象とします。 ・授業内容 　経済法領域の裁判例や学説の研究調査方法（リーガル・リサーチ） 　個別テーマの報告
関連科目	独占禁止法、保険法など
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / ※開講時に指示する / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	評価方法 　プレゼンテーション（50%）とディベートへの参加度（50%）によって評価する。 以下の点をとくに重視します。 ①発表時に問題提起を適切にしているか（発表姿勢)。 ②提起した問題に関連する判例や先行研究（学説）を十分に、かつ、主体的に調査しているか（主体的学習)。 ③異説に配慮しつつ、自らの考察を適切かつ説得力をもって展開できているか（論理性)。
学生への メッセージ	法制度と市場システムなど、法現象と経済現象との関係に興味のある学生はふるってご参加ください。
担当者の 研究室等	11号館9階
備考	事前学習として、演習テーマの予習に毎回2時間以上の予習に取り組むこと。 事後学習として、演習テーマの内容についてノートにまとめるなど、毎回2時間以上の復習に取り組むこと。

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	寺山　洋一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・ 目的	本専門演習Ⅰでは、「多様性（Diversity）のある働き方」に主眼を置いています。 通常、「多様な働き方」というフレーズを耳にしますと、「働く＝雇用」という考え方を前提として、テレワーク（Telework、Remote Work）やフレックスタイム制、短時間正社員などが思い起こされます。 しかし、この専門演習Ⅰでは、このような雇用関係に基づいた手狭な「多様」ではなく、より裾野の広い「多様性」に目線の位置を動かします。 具体的には、兼業・副業、アウトソーシング（Outsourcing）、フリーランス（Freelance）、小規模事業主なども含めた、「多様性」のある働き方を扱います。 専門演習Ⅰは、３年次の専門演習Ⅱ、４年次の卒業研究につながり、立法に関する専門分野を深く学ぶための助走（running-up）の期間となります。
到達目標	就職に向けて、また、就職（起業）後において、「働き方」に関する迷いや悩みに直面した場合、自らの調査などを通じて、ある程度の着想を得た上で、他者の意見にも耳を傾けつつ、さらに自らの立ち位置や道筋を練り上げられるようになることが期待されます。
授業方法と 留意点	「多様性のある働き方」に関する諸課題について、１テーマごとに、各グループで 1～２回、ゼミ生全体で２～３回かけて重層的に議論を深めます。 その後、各々、自らの立場と所見をレポート（A4）に取りまとめます。 以上を、３～４セットほど繰り返します。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	「多様性のある働き方」に関するテーマごとに、幾つかのグループ（経営者、従業員、上司・部下・同僚、法律家など）に分かれて、テーマに関する現状、課題及び対応策について、ICT ツール等を用いて調べます。 グループ内で押し並べて検討した後、他のグループも交えて全体で討議しながら、自らの立場と所見を考え抜きます。 大括りのテーマ群（関連性のある幾つかのテーマを束ねた柱建て）として、次のような事柄が考えられます。 ① ICT（Information and Communication Technology）の進展とこれからの働き方 ② 兼業・副業 ③ アウトソーシング（Outsourcing） ④ フリーランス（Freelance） ⑤ 小規模事業主 殊に④については、先の第２１０回国会（臨時会）において、政府が、フリーランスを保護するための新法の国会提出を見送りました。仮に、当該法律案が、第２１１回（常会）に上程されて成立した場合には、その立法過程をフォローします。 グループ内での調べものや意見交換、全体討議が主体となります。 関連する法律等について、適時、教員から補足説明をするとともに、各自のレポート作成に際して助言を行います。
関連科目	民法（債権法）、労働保護法
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 【電子】 人事労務関係法　令和５年度版 / テラボ / 斉家書房 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 【電子】 移りゆく雇用・労働六法　令和５年度版 / テラボ / 斉家書房 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	主体的に参画する意欲・姿勢を重視します。 調べもの等への取組姿勢やグループにおける傾聴・発言内容（３０％）、全体討議における傾聴、発言内容（３０％）、テーマごとのレポート（４０％）を総合的に評価します。 各自が主体的に参画するゼミであり、お互いの信頼関係を損ねることとなる、無断の欠席・遅刻に対しては、厳正に対処します。
学生への メッセージ	専門演習Ⅰは、ゼミ生と教員との「学びの場」であるとともに、ゼミ生同士の「信頼関係の礎」で成り立っています。 むやみに私見にこだわらず、他者の意見・感想を傾聴し、立場が異なってもお互いに励まし応援する姿勢が求められます。 専門演習を、ムリ・ムダ・ムラのない良質な機会として育てましょう。
担当者の 研究室等	11 号館９階　寺山教授室
備考	授業中、追加的な調べもの、レポート作成の準備を行うことがあります。 各自、PC・スマートフォン等の電子機器を持ち込んでも差し支えありません。 授業前の下調べに２時間程度を、授業後の振返り及びレポート作成の準備に２時間程度を要します。

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	河原　匡見
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	専門演習Ⅱでは、国の内外の社会において現実に生じている動きをきちんと把握し分析し、それをより深く理解できるようにトレーニングを進めていきます。特に、本演習では、社会における「紛争」や「論争」などを題材としていきたいと思います。また、学問に直接関係することだけでなく、広く学生生活全般に関すること、あるいは一般社会の問題についても議論し合っていければと思います。
到達目標	この演習を通じて学生には、個人あるいはグループで、特に関心のある問題について、資料を収集し分析するなどの検討を行い、それを他人の前で口頭で発表できるようになることと、その検討内容を決められた形式・分量に則してレポート化して、期限までにまとめあげることができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	「対面式」で実施します。学生による課題報告（プレゼンテーション）およびそれに対するディスカッションを対面式で行います。毎回欠かさず出席することが求められます。具体的には、課題を出して、それに対してレポートの提出によって報告してもらうというスタイルが基本です。課題については、すでに募集要項の中で示した当ゼミの趣旨に沿った内容になります。各自で、学習・調査し、それをレポートで報告してもらいます。なお、授業時間以外での活動は特に予定していませんが、報告（レポート作成）のための時間は各自必要となります。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	専門演習Ⅱでは、国の内外の社会におけるさまざまな政治的社会的諸現象が実際にどのように発生し、どのような状態にあるのか、きちんと把握するとともに、より深く理解していく上での分析能力の養成を目指していきます。特に、前期は国際社会や国内社会のさまざまな局面やレベルにおける「紛争」や「対立」あるいは「論争」を題材としていきたいと思います。前期の前半は主に、世界各地の「紛争」についての理解を深めることに重点をおきます。前期の後半は、日々動きの激しい国内外の諸問題を題材とし、それを把握するトレーニングに重点をおきたいと思います。後期は、夏季休暇中に各自で作成した課題レポートを個別発表して、それに関するディスカッションを行っていき、各問題に対する理解と考察を深めていきます。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	学習への参加姿勢に対する評価（５０％）および課題レポートの内容に対する評価（５０％）の合計により評価します。
学生へのメッセージ	専門演習Ⅱは、2 年後期の専門演習Ⅰで培った情報の基礎分析力がベースとなる演習活動です。そしてそれは、みなさんが、生来の資質を伸ばしたり、未知の可能性を見出したりするための、いわば知的な『共同訓練の場』です。ですから、演習に対しては、しっかりとした勉学の目的と意志をもって参加するようにしてください。演習によってどのような知識や思考方法が身に付くか、どのような新たな才能や可能性を見い出せるか、それは、演習に対する積極さ如何に大きく関わってきます。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　河原教授室
備考	事前・事後学習は、各授業時間ごとに１時間程度行ってください。但し、発表前の場合は、発表の準備に必要な時間をさらに上乗せすることが必要となります。

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	田中　敦
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・ 目的	・専門演習Ⅰで学んだことを踏まえ、不法行為、契約、担保物権、民事執行等の民事法に関する判例を学習することによって、民事法等についての知識を確実なものとする。実社会において必要な知識を深めるだけでなく、発表準備等を通じ、宅建、司法書士等の資格取得に対応する法的基礎も得るようにする。 ・学生は、本演習を通じて自らが研究の対象としたいテーマを見つけていくことになる。 ・教員は、学生のテーマ探しや発表の準備に関しては、適宜助言を行っていきたい。
到達目標	この授業を通じて学生には、自らが選んだ民事法に関する特定の課題や裁判例について必要な調査を行い、これをまとめてレジュメ等を作成し、これを教員や学生の前で発表できるようになること、実社会でも役に立つ一定の法的知識及び法的なものの考え方を身に付けること及び、民法の分野では宅建試験に合格できる程度の水準に達するようになることが期待される。
授業方法と 留意点	・裁判例や文献を調査・検討して、その中で各自が関心を有する題材・課題を探し出し、レポートの作成と授業での発表等を通じて、卒業研究に繋がる準備を進めていく。前期・後期においてそれぞれ最低１回は報告を担当してもらうことを考えている。前期は２名１組で、後期は１名で報告をしてもらう。学生は、このゼミを通じて、将来卒業研究において研究対象としたいと考えるテーマを見つけていくことになる。 ・教員は、学生のテーマ探し及び発表の準備に当たり、適宜助言を行っていきたい。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	・発表者は、基礎的文献、判例百選、判例プラクティス等から選んだ題材について、レジュメ等を作成し、事前に配布の上、授業において発表を行う。事前学習では、発表者に限らず各自が題材、レジュメについて事前の検討を行い、当日は、発表を契機に、さらに討論を重ねていく。こうした学習によって、ゼミ生全員が法的な思考に磨きをかけていくことを目指す。 ・この演習では、各授業につき各２時間の事前及び事後の学習が求められる。事前学習は、発表者から事前に提出されたレジュメ等を検討し、疑問点等を見つけておくこと、事後学習は、当日の授業の復習とともに、授業で教員から指摘された事項などについても検討すること。 ・授業には、上記資料等や六法（ポケット六法等、最新の令和５年版を推奨する）を必ず持参すること。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	授業における態度（きちんと発表したか、遅刻せずきちんと出席しているか、議論に積極的に参加しているか、事前事後の学習をして授業に対応できているか。６０％）及び、Teams 上での小テストや課題（４０％）で評価する。欠席・遅刻が多かったり、授業態度が良好でない場合には、別途レポートを課することがある。
学生への メッセージ	これからいよいよ演習が本格化します。授業内容を踏まえ、自分が関心を有するテーマ、ゼミ内で議論をしたいと思うテーマ、そして、自分が研究するテーマを探していってください。そのための助言もいたします。専門演習Ⅰを通じ、ゼミ生同士の交流も深まったことと思います。引き続き、ゼミ内での親睦を図っていきましょう。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　田中教授室
備考	コロナをめぐる情勢、学生の理解度、授業の進行によっては、授業の方法、内容を変更することがある。

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	中沼　丈晃
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	卒業研究につながる演習の第ニ段階である。地域活動に参加して、現場を観察する。関係者の方に聞き取り調査をする。自分たちの行っている活動を学外の方に説明する。読書で知識を得て、それをまとめる。この４つの力をバランスよく養っていきたい。
到達目標	この演習を通じて学生には、①地域活動に参加して、協力して行動し、観察・聴き取り記録をとれるようになること、②活動の内容・目標・課題を説明できるようになること、③読書を通じて知識を整理できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	地域活動に参加しての参与観察、聞き取り調査（ともにフィールドワーク）、学外の方への活動報告（プレゼンテーション）、仲間との活動の企画と振り返り（ディスカッション）が特徴の演習である。さまざまな立場、価値観の人たちとの交流を楽しんでほしい。＊遠隔の場合、zoomで行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	演習で扱う分野は、地域防犯、自治会の地域活動、小学校と地域との関係、地域での児童福祉・青少年健全育成の４つである。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	演習時限の全出席を前提とする。活動記録(30%)、企画・振り返りへの貢献度(40%)、読書ノート(30%)の合計によって評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 9 階　中沼教授室
備考	記録簿への記入、ノート整理などで各回 1～2 時間ほどが必要になる。定期的に記録簿とノートの提出を求め、点検する。 個人面談をして、地域活動参加の意志確認をし、参加の感想や今後の希望も聴く。それに対して助言を行う。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	浮田　徹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	卒業研究につながる法学部の演習科目を行っていくにあたっての基礎的な力を身につけることを目的とします。
到達目標	この講義を通じて学生には、問題発見・レジュメ作成・報告に関する基礎的な力を身につけられるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	個々人の力にある程度の差があることを前提としつつすべてのメンバーが基礎力を身につけていく経験を積んでいける機会を得られるようにするため、原則として出席して積極的に参加することが必要です。 報告はグループで行いますので、グループワークが基本となります。報告ではプレゼンテーション能力を培います。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	テーマを決めていく段階から自主性を重んじますので開講後決定します。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	参加を前提として、報告に対する取り組みと現場でのプレゼンテーション（60%）、ふり返りのペーパー（40%）で評価します
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 9 階　浮田准教授室
備考	事前学習としては、報告者は事前の準備(４時間程度)、それ以外は報告者から提示される文献を読む（30 分）、事後学習としては当日の報告に関する課題を課すのでその作成を行います(60 分)。

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	石井　信輝
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	スポーツ活動を多面的な学問領域（主に、法学・政治学・法政策学）から検討し、知見の獲得を図る。卒業研究題目の決定と、必要な資料・文献の収集および予備調査への導入を図る。
到達目標	この授業を通じて学生には、次年に作成する卒業研究の題目決定と、作成を遂行するための基本的な能力を養うことが期待される。
授業方法と留意点	専門演習Ⅰの授業において行った報告を更に掘り下げるとともに、卒業研究における各自のテーマを決定する。また、論文作成に必要な資料・文献の収集を行うとともに、必要であれば予備調査を実施する。各自が能動的に取り組むことが必要となります。授業中に提示した課題を解決するため、および事前・事後の学習のためにICTツールを活用していただく場合もあります。対面による授業を原則とします。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	授業テーマ：スポーツ活動を多面的な学問領域（主に、法学・政治学・法政策学）から検討し、知見の獲得を図る。 授業内容：専門演習Ⅰの授業で行った報告を更に掘り下げるとともに、卒業研究における各自のテーマを決定する。また、論文作成に必要な資料・文献の収集を行うとともに、必要であれば予備調査を実施する。 事前事後学習課題：授業中に指示した課題の実行
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	各回の取り組み（30%）、与えられた課題の完成度（70%）をもとに評価する。
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んで下さい。
担当者の研究室等	11号館10階　石井教授室
備考	各回に1時間程度、すなわち通年で30時間程度を目安に、事前・事後の学習を行ってください。

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	島田　良一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	刑事法（刑法・刑事訴訟法・刑事政策・少年法）をめぐる諸問題について、受講者の報告をもとに全体で討議する。
到達目標	この演習を通じて学生には、刑事法に関する十分な知識を修得することが期待される。
授業方法と留意点	主に、グループワークの形でプレゼンテーションやディベートなどを行う。 なお、遅刻・無断欠席は厳禁とする。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	専門文献、資料、判例、報道記事などを素材に刑事手続に関する基礎的な知識を習得するとともに、毎回、報告者を設定し、その報告テーマについて議論を行う（対面方式・オンライン方式)。 事前の学習課題としては、議論の準備など（資料の読み込み、レジュメの作成など)。 事後の学習課題としては、議論において教員や他のゼミ生に指摘された点の確認など。 事前、事後学習ともに１～２時間／日を要する。
関連科目	刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑法総論、刑法各論、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事政策、現代社会と刑事法、経済刑法、刑事法概論
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	全体討議・報告等における発言・態度等（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 9 階　島田准教授室
備考	

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	家本　真実
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・ 目的	法は、社会における最低限のルール・道徳であるといわれます。この演習では、現在、社会で起きている問題や議論されている事柄を通して、現行の法律がどのようなものであるか、そしてどうあるべきかを考えることによって、法に対する知識をより広い視野をもって深めていく機会にしていただきたいと思います。 前期は、報告者グループがおこなう何らかの法的・政治的問題や課題についての報告を基に、皆で議論していただきます。単に個人的な考え方や意見を述べるだけでなく、根拠を示しながら、どのように問題を捉えるべきなのかを議論する力をつけていただきたいと思っています。 後期においては、前期で培った議論・説得する力を存分に発揮しつつ、法を実践的に学ぶために、模擬裁判をおこなっていただく予定です。
到達目標	このゼミを通じて、学生の皆さんには、議論や模擬裁判を通して、他人の考えを理解し、問題がある場合にはどのような解決を見出すことができるかを考えることができるようになることが期待されます。
授業方法と 留意点	前期はおもに、2-3 人を 1 グループとする報告者に議論の基礎となる報告をしていただいたうえで、皆さんで議論していただくというかたちをとります。報告者は、報告前に集まって、共同でレジュメを作成し、報告や議論の進行について考えてください。そのうえで、報告の数日前までにその概要を担当教員に知らせてください。報告者以外の方々には、積極的に議論に参加されることを望みます。こうして議論をおこなうことによって、違う意見を持つ人々をどう説得するか、またどう折り合いをつけるのかを学ぶことにもなるでしょう。 後期は、模擬裁判
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	前期は、グループでの報告と、それを基にした議論をおこなっていただきたいと思います。1 人につき、2-3 回、報告をする機会があると思いますが、そのうち少なくとも 1 度は、民事事件の判例を報告のテーマとしていただき、当事者双方の主張、そしてそれらに対する裁判所の判断について検討・議論していただきたいと思います。2 度目以降の報告については、民事事件に限らず、法律や政治に関連のある事柄について報告していただくというふうにしていきたいと考えています。 後期は 4 年生とともに、模擬裁判をおこなっていただきます。刑事裁判手続きや裁判員制度に関して学んだうえで、模擬裁判で題材とする事案の検討をおこない、検察チームや弁護チームの弁論や尋問を作成するという作業と模擬裁判の実施が、後期のゼミの大半を占めることになります。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	ゼミでの報告における準備や司会進行の様子、議論への参加の姿勢（80%）、課題・提出物（20%）を評価の対象とします。
学生への メッセージ	ともに議論をし、模擬裁判をおこなうことによって、お互いの考え方を知り、理解しあうことにつながると思います。こうした活動を通じて、学生間で交流を深めてもらえれば、と考えています。また、皆さんからゼミの内容についての提案があれば、できる限り取り入れていきたいと考えています。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　家本准教授室
備考	報告内容については随時、課題については次の回で講評をおこないます。 事前・事後学習の総時間数の目安：120 時間

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	城内　明
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・ 目的	【民法総合演習】 本演習では，受講生の法的問題解決能力の向上を目的として，現実に，今，社会で問題となっている，民法(債権法)・消費者法にかかわる最新の事例・判例の検討を行います。夏にはインターカレッジの法律討論会、12 月には神戸学院大学で開催される法律討論会にも参加予定です。
到達目標	この授業を通じて学生には、民法、特に財産法分野の基本的知識の理解を確実にすることを期待します。
授業方法と 留意点	前期は、まず論理的に読み、書き、議論するための基礎トレーニングを行います。前期終盤から後期にかけては法律討論会がメインとなります。本演習は，民法の基礎知識を前提とします。特に、民法総則、債権法、不法行為法、契約法、消費者と法の授業内容は、直接関連するため、履修が必要です。後期も判例研究に加え、12 月初めの法律討論会(神戸学院大学法学部主催)に向けた準備を行います。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	民法総合演習 前期前半の基礎トレーニングは、個人単位での作業となります。夏のインカレ、冬の神戸学院の討論会に向けて、重要なトレーニングですので、がんばってください。なお、欠席した場合は、同等の作業を、宿題として次回ゼミ時に提出してもらいますので、ご注意ください。法律討論会は、全員の参加が前提です。全員で取り組んで、はじめて勝てる立論が完成します。無断欠席は仲間に迷惑をかけることになりますので、絶対にしないように。(以上の作業にかかる時間は、目安として毎週 60 分程度です。)
関連科目	民法科目全般
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	授業時の態度(50%)、討論会に臨む姿勢(50%)を総合評価します(100%)。
学生への メッセージ	ゼミは皆で作るものです。徹底的に学び、議論し、思いっきり遊んで、良いゼミをつくっていきましょう。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　城内准教授室
備考	自分がチームの一員であることを自覚し、責任をもって行動するようにして下さい。

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	小野　晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・ 目的	・指導方針 1　この専門演習Ⅱは，2年次後期の「専門演習Ⅰ」にひきつづき、4年次の「卒業研究」にかかる導入教育として位置づけられています。 2　そこで、本演習では1年次において刑事法概論の講義で習得した基本事項のうち，参加者各自が興味や関心を抱いた個別テーマに関する裁判例（判例）や学説を調べて報告してもらいます。 3　もっとも、こうした報告作業は、少なくとも法学系の論述問題でまともな答案を書くことができない人にはなかなか難しいのも事実です。そのため、この演習では、発表の前提ともいえる、刑事法に関する論述問題の答案作成方法も学習します。 4　また、発表に際し、どのようにして判例や文献を調べればよいのかというリーガル・リサーチの手法も本格的に学習する予定です。図書館や法学データベースの使用方法も適宜指導します。
到達目標	この演習を通じて学生には、 「・刑法の論点を抽出できる ・論点に対する判例や裁判例を調査できる ・論点に対する学説を調査できる ・論点に対して私見を展開できる」 ようになることが期待される。
授業方法と 留意点	・演習（ゼミ）形式（反転授業）で行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答を行う。 ・法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。 ・刑法の論点に関して個別にプレゼンテーションを行った上で、参加者全員でディベートを行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	・ゼミ内容 　この演習では，刑法（罪刑法定主義、刑法総論〈全犯罪共通の成立要件の検討），刑法各論〈各種個別犯罪〔殺人・強盗・放火等〕の成立要件論)）、および、刑事学・犯罪学（犯罪原因論，受刑者と出所者の処遇問題，死刑を含めた刑罰の有効性と正当性，犯罪被害者救済策）を主な検討対象とします。 ・授業内容 　刑事法に関する事例問題（論述式）の答案作成方法 　刑事法領域の裁判例や学説の研究調査方法（リーガル・リサーチ） 　個別テーマの報告
関連科目	刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、現代社会と刑事法、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	※開講時に指示する		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	刑法の争点（第3版）	西田＝山口＝佐伯	有斐閣
2	判例プラクティス刑法Ⅰ（第2版）	成瀬＝安田	信山社
3	判例プラクティス刑法Ⅱ	成瀬＝安田	信山社

評価方法 （基準）	評価方法 　プレゼンテーション（50%）とディベートへの参加度（50%）によって評価する。 以下の点をとくに重視します。 ①発表時に問題提起を適切にしているか（発表姿勢)。 ②提起した問題に関連する判例や先行研究（学説）を十分に、かつ、主体的に調査しているか（主体的学習)。 ③異説に配慮しつつ、自らの考察を適切かつ説得力をもって展開できているか（論理性)。
学生への メッセージ	日常の犯罪報道などに興味のある学生はふるってご参加ください。
担当者の 研究室等	11号館10階　小野教授室
備考	事前学習として、演習テーマの予習に毎回2時間以上の予習に取り組むこと。 事後学習として、演習テーマの内容についてノートにまとめるなど、毎回2時間以上の復習に取り組むこと。

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	萩原　佐織
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・ 目的	当該民事法ゼミでは、例えば民法等の実体法に基づき発生する権利につき紛争が生じ、裁判所等で解決されるべき場合に、その方法や当事者が従うべきルール等につき、具体的な事案や判例をもとに追求することを最終目標としています。それゆえ、既に民法が良く理解できている方は、民法で学んだことを裁判という場にシフトさせ、より深く発展的に学び、他方、民法をまだ良く理解できていないという方は、裁判という角度から、もう一度民法を見つめ直す機会に利用して下さい。皆さんのご希望があれば民法・民事訴訟法以外に、民事執行・保全法や倒産法を研究対象とすることも可能です。
到達目標	この授業を通じて学生には、前期は、2 年次より更に内容的に専門的かつ興味深い研究テーマを探求するための手法や思考方法を身に付けるため、2 年次とは異なり個人発表を中心とする。また、研究テーマに関するディスカッションをより活発化させ、他人と議論することで自分の研究テーマをより掘り下げて考えることができるようし、かつ、自分の意見を、自分とは意見の異なる相手にも論理的に説明するスキルを磨くようになることが期待される。 この授業を通じて学生には、後期は、個人の判例研究発表の傍ら、卒業研究で取り組みたいと思う
授業方法と 留意点	【授業内容】 3 年次は、2 年次とは異なり、基本的には個人発表と質疑応答が中心となり、内容もより深いものとなります。発表では、自分が特に興味を有するテーマを取り上げることから、回を重ねるごとにその分野における知識が集積され、卒業研究で取り扱いたいと思う課題・問題意識に繋がることと思います。レポート課題等の提出及び各演習の事前・事後学習等に Teams を利用するので、演習前後に必ずチェックするようにしてください。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	授業は、民事事件に関する判例等の研究発表を中心として行う。学期初めに、各グループの発表日時を決めるので、各グループは、構成員同士で話し合って発表テーマを決定し、発表に備え、事前に準備すること。事前準備においては、研究対象となる判例や論文等の資料を探し読み込むこと（インプット）はもちろん、どのように発表すれば他人により分かり易く伝えることができるのか、その発表内容や方法（アウトプット）についても熟慮すること。 発表形式は、次の 2 つの方法のいずれかのうち、そのテーマに適したものを用いて行う： 1．資料作成技能重視型： 発表時には、研究内容を、板書やパワーポイント等を用いて説明するとともに、配布資料を配布すること。配布資料は、①研究対象となる事案・争点・判例や学説の流れ・解説等を記載したものと、②研究対象となる事案の判決（判旨・判決理由）を記載したもの、の 2 点を別個に用意する。まず、発表者が、配布資料①に基づき、事案・争点等の説明を行った後、ゼミ全体でディスカッションし、その後、配布資料②を用いて、当該事案の判決につき、再度論議を行う。 2．コミュニケーション技能重視型： 3 人でグループを組み、各自原告・被告・裁判官役の立場に立ち、主に判決全文を用いて、それぞれの主張を述べ合い、裁判を体現する。当事者役は各審級の判決全文から自己の主張を練り、裁判官役は両当事者の見解を聞いたうえで、判決文や判例解説等を基に、それらに対する事実認定や法的見解を述べる。1 審から、上訴を含め、確定判決まで、裁判の一連の流れを再現する。ただし、その結論については、必ずしも使用した素材と同一になる必要はなく、各当事者役の主張内容や裁判官役の判断次第で、当人が妥当と考える結論が導き出されれば良い。 予習事項は、毎回その都度指定しますが、各自の発表に備えてパワーポイント資料を作成したり、設定テーマに関連する文献を調べて熟読しておくこと、発表準備を行うこと等が挙げられます。 また、復習事項は、ゼミ内で教員より個別に指導された内容、例えば、発表資料の修正、文献の追加検索・入手やその読込みです。Teams 上で提出し返却された課題については、そこに示されたフィードバックの指示に従って復習を行って下さい。 事前・事後学習の時間は、それぞれ 2 時間を想定しています。ただし、発表前は、個人やグループの進捗状況により、ゼミ時間外に個別で又はグループで集まって準備をすることもあり得ます。その場合、事前学習時間は、通常より長くなる可能性があります。
関連科目	民事法全般
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	演習内におけるプレゼンテーション準備やディベート･ディスカッション等の平常点(60%)、プレゼンテーションやレポート･課題(40%)で評価します。ゼミへの参加意欲ならびにその体現、自身の研究発表への取組み方ならびにその成果、そして他のゼミ生の発表における質疑応答等を、総合的に判断して評価する。欠席・遅刻が多い場合には、レポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。
学生への メッセージ	3 年次の専門演習は、2 年半に及ぶゼミの中でも一番充実して学べる時期ですので、将来のために、この時間を有意義に活かしてください。また、普段の友達の輪とはまた少し違うゼミ仲間から得られるものも多いと思いますので、全員が声をかけ合えられるような和気あいあいとしたゼミになってくれればと思います。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　萩原准教授室
備考	判例研究等のプレゼンテーションの際には、準備段階から、Word や Power Point の使い方、論文・判例等の各種文献検索や判例研究の仕方を含め、適時、演習内において指導する。 また、プレゼンテーション終了後は、その場でそのフィードバックを行い、次回のプレゼンテーションに還元できるように努める。なお、レポート等のフィードバックは、後日、添削・評価してから、演習内及び Teams において行うものとする。

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	大川　謙蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・ 目的	本演習では卒業までに、ゼミ生全員で少なくとも民法の制度については詳細に把握できることを目的としている。 そのために、ゼミ生全員の協力の下で、どのような社会的問題が存在し、法律がどのような対応をしているのかを把握していく。社会状況を知ることにより、自分が社会においてどのような立場に立ち、またどのようなことをすべきかなど、多くの点を考える糸口を得られると考えている。
到達目標	この授業を通じて学生には、3年次には、2年次に引き続き、判例を各班で分担して全員の前で報告することを予定している。そのためには、班での役割分担、各自に割り当てられた課題への対応が必要となる。それらの課題の割り振り方、課題への対応の方法を身にくようになることが期待される。 具体的には、判例から問題点（論点）を班で確認および抽出できること、それを報告するために必要となる知識をいかに得るかということ、個人での資料収集等の仕方、ならびにそれを文章化してレジュメ等にまとめるための技術を得るようになることが期待され
授業方法と 留意点	3年次では、①グループによる判例報告、②個人の判例報告を予定している。ただし、あくまで予定であり、話し合いなどで変更はありうる。 また、他大学との法的問題に対する合宿討論会を行う予定である。この場において、他大学のゼミの前においてプレゼンテーションを行い、その内容についての議論を行い、場合により反論を行う技術が求められる。ゼミではこれらの内容を涵養するよう指導を行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、事後 学習課題	テーマは、教員の方で最新の判例等をいくつか提示し、学生により取捨選択をしてもらう予定である。グループ活動では、各班で意見をまとめ、それを全員の前で報告する必要がある。その為に、ゼミにおいても準備期間を設けるほか、ゼミ外の時間においても、各自で自ら準備期間等を設ける必要がある。 なお、判例の入手方法、レジュメの作成方法などについては、適宜指摘をしていく。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	成績は、学期末に教員が用紙を渡すので、各ゼミ生が自己採点を行う。採点を行うに当たり、その評価に見合う事実、経験、結果等を自己で示す必要がある。すなわち、自分で自分を客観的に評価する能力が必要とされる。その自己評価書を元に評価を行う。 評価項目は、ゼミへの取り組み（20%）、得られた知識（20%）、得られた経験（20%）、今後の課題（20%）、個人的PR（20%）をもとに判断を行う。
学生への メッセージ	学生主体のゼミを目指している。 そのため、新ゼミ生自体（次の年度のゼミ生）の獲得もゼミ生自身で行い、そのためのガイダンス等において自ら本ゼミの説明を行う必要があるます。それにより、縦の人間関係も形成され、就活などの情報も先輩から後輩へと伝えていくことができると考えている
担当者の 研究室等	11号館9階　大川准教授室
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の３つから成り立っています。 予習内容としては、演習で与えられる課題を個人で準備を行う必要があります。その準備を90分を基準として行う必要があります。 復習として、課題に対し、中間報告及び最終報告の内容を正確に押さえる必要があります。その為に90分を基準として行う必要があります。 学生主体の演習を目指しています。各実施状況については各自の報告時及びメールで確認します。 演習での縦の人間関係も重視しております。コンパなどで、就活などの情報も先輩から後輩へと伝えていくこと

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	松島　裕一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	専門演習Ⅰに引き続き、この専門演習Ⅱでも法哲学・法思想史の専門的な事項を学習していきます。具体的には法哲学・法思想史の専門書ないしそれに類するものを全員で講読する予定です。また、ゼミで習得した知識を用いてディベートを実施するつもりです。
到達目標	このゼミを通じて学生には、次の２つのことが期待されます。第一に、法哲学・法思想史の専門知識を習得すること。第二に、報告を通じてレジュメやパワーポイントの作り方、ネットを利用した資料収集の方法、ディスカッションやディベートの仕方を身につけること。
授業方法と留意点	文献講読を基調にしつつ、必要に応じてニュースや判例を調べてもらい、それに基づいてみんなでディスカッションを行います。必要に応じて教員（松島）がゼミの内容を補足するために講義やDVD鑑賞を行います。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	事前の予習（課題図書の読解など）を前提にして、ゼミでは報告とディベートを行うつもりです。どの文献を取り上げるかは、皆さんの希望を取り入れて決定したいと思います。 まず事前の活動として、課題図書の該当箇所を読んできてもらいます。必要に応じて、レジュメなどの作成が必要となります（これらの事前学習に60分以上）。また、ゼミ終了後に学習した内容を振り返ってください（事後学習60分以上）。 さらに後期のゼミでは次年度の卒業研究を見据え、自分の興味をもったテーマにかんして文献調査を行ってもらいます（あるいは、全体で共通のテーマを決めて、卒論執筆の準備作業に取り組んでもらうかもしれません）。
関連科目	法哲学総論、法哲学各論、法思想史
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	毎回の出席を前提として、課題への取り組みやゼミ中での発言（ディスカッション・ディベートなど）を総合的に判断して成績評価を行います（100%）。なお、無断欠席・遅刻が度重なる場合は単位取得を認めないので、十分に注意してください。
学生へのメッセージ	専門演習は学習の場であるとともに、教員と学生および学生相互の交流の場であるとも思っています。学生の希望があれば、さまざまなゼミの行事（コンパや合宿など）も実施する予定ですので、積極的に参加してほしいと思います。
担当者の研究室等	11号館9階　松島准教授室
備考	課題図書は未定ですが、何かしら購入してもらうことになるので、そのつもりでゼミに臨んでください。

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	増田　知也
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・ 目的	3つのグループに分かれて、文献講読とグループワークを隔週で行います。 ファシリテーション班：ファシリテーション技法を学びつつ、グループワークのファシリテーターとして活動する 政策提言班：政策立案の方法を学びつつ、政策立案コンテストにチャレンジする 広報班：広報理論を学びつつ、ゼミの情報発信を担う
到達目標	この演習を通じて学生には、地域における問題の本質をつかみ、不特定多数の読み手に興味を持ってもらえるような形で表現することができるようになることが期待される。
授業方法と 留意点	文献講読とグループワークを隔週で交互に行います。基本はグループごとに進行し、各回の最後に進捗報告、最終回の授業で成果発表を行います。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	1. 文献講読 文献の内容を分担してまとめ、発表し、議論を行う。 2. ファシリテーション班の活動 他の2つのグループの活動を支援し、活発な議論を促す。 3. 政策提言班の活動 政策立案コンテストでの受賞を目指し、質の高い政策提言を行う。 4. 広報班の活動 ゼミの活動を学内外に発信し、多様な人々とのコミュニケーションを促進する。 事前・事後学習課題 グループで選んだテーマについての情報収集（4時間）
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	グループワークへの貢献60％ 、プレゼンテーション40％
学生へのメッセージ	
担当者の 研究室等	11号館10階　増田講師室
備考	

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	和田　泰一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・ 目的	卒業研究に備えるべく、政治問題に関する文献の読解能力や論理的思考力・判断力・表現力の基礎を身につけることが目的です。学生の皆さん一人一人が、自分が興味を持っている政治問題について主体的に考え、議論し、問題解決への糸口をつかめるような主体的・対話的で深いアクティブ・ラーニングの場を提供します。 また卒業論文の書き方や資料収集の仕方についても授業します。
到達目標	この授業を通じて学生は、政治問題に関する書物・新聞記事・評論などを読んで基本的な政治的知識・技能を獲得するとともに、その要点やメリット・デメリットをまとめ、望ましい解決策について他者と討議し、他者に対してそれを明確に発表するという論理的思考力・判断力・表現力を育成することが期待されます。 またグループディスカッション・プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを通じて主体的・対話的で深い学びを行うなかで、学習や仕事に対する意欲や積極的な人間性を育み、社会において良好で協調性のある人間関係を構築する仕
授業方法と 留意点	ABD（Active Book Dialogue，アクティブ・ブック・ダイアローグ）というアクティブ・ラーニングの方法を用いて、政治問題に関する文献の読解・グループディスカッション・プレゼンテーションを毎回全員が行います。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	・授業テーマ・内容 政治問題に関する文献の読解や議論、発表を通じて、その問題の内容を正確に理解し、他者と討議して望ましい解決策を判断し、他者にわかるようにその内容・解決策を発表することによって、基本的な日本語読解能力と論理的思考力・判断力・表現力を修得することができます。卒業論文が作成できるように学問的基礎を固め、自分が関心のある政治問題の領域を定めることができるようにします。 ・授業方法 ①前半 学生の皆さんの興味･関心･卒業論文のテーマを考慮しながら､政治問題についての文献をその場で毎回輪読･議論･発表する ABD（Active Book Dialogue，アクティブ・ブック・ダイアローグ）というアクティブ・ラーニングの方法を用います。短い時間で日本語の文章を読み、その要点を的確に理解することは、就職試験や公務員試験の「文章読解」で求められる能力でもあり、社会人になった後のマニュアル・資料の読解にも必ず必要な能力です。またグループディスカッションやプレゼンテーションは、仕事で問題が発生したときにその原因を的確に把握し、他者と望ましい解決策を討議し、最善と判断した改善策を他者に論理的に説得するためにも必要な能力です。 ②後半 自分の卒業論文のテーマを定め、その目次・内容・結論について全員が発表し、それを吟味・討議する時間を取ることにします。自主的な参考文献の読解や資料・データの収集が求められます。 ・事前、事後学習課題 事前学習…その場で政治問題に関する文献を読んでもらうので、必要ありません。 事後学習…文献全体をもう一度読み直し、内容を理解しておくこと(60 分～90 分程度)。
関連科目	専門演習Ⅰ、卒業研究

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業でのグループディスカッション（50%）とプレゼンテーション（50%）で評価します。
学生への メッセージ	就職活動が始まると卒業論文の作成に時間を取ることができなくなってしまいます。この時期に卒業論文のテーマを明確に定め、参考文献の読解や資料・データの収集を自主的に行うようにしてください。
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 11 号館 10 階　和田研究室
備考	グループディスカッションでは教員も適宜参加し、助言を与えます。プレゼンテーションではその内容について全員に助言と短評を与えます。また学生の皆さんの卒業論文のテーマについては教員も極力調査し、その参考文献を読破し、助言を与えます。

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	萩原　守
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	この授業は、翌年度に提出される予定の卒業論文のテーマを幅広く探っていくための演習である。そのため、参加学生各自が、自分の問題関心に応じて、論文・書籍・判例・ウェブページ等を読んできて、全員の前で口頭発表を行う。テーマが決められない学生がおれば、参考用に教員が提示したアジアや日本の法制史等に関する日本語の概説書の中から自分で選んで読み、それを要約・発表するという形で学んでもらう。授業の目的は、法学の学習範囲を特定の狭いテーマのみに限定して考えることなく、より幅広い知識や問題関心を養うことである。その上で卒業論文のテーマを獲得することが最終的な目的である。
到達目標	この演習を通じて学生には、法学を幅広く理解できるようになることが期待される。すなわち、社会と法との関わり等について、より幅広い問題関心を持てるようになることが求められる。そしてその結果、卒業論文のテーマを獲得することが到達目標となる。
授業方法と留意点	最初の数回を除いて、演習形式で授業を進める。参加者各自が論文・書籍・判例・ウェブページ等を選んで読解・要約・発表し、全員で議論を行う。各自の担当回数は臨機応変でいきたい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	法学に関する問題関心の絞り込み。各自の問題関心に応じて、交代で論文・書籍・判例・ウェブページ等を読解・要約してきてもらい、全員の前で口頭発表してもらう。そして全員で質疑応答を繰り返す過程で、各自の卒業論文のテーマを少しずつ絞り込んでいく。そのために、発表準備と発表後の再調査を繰り返す必要がある。
関連科目	日本法制史、東洋法制史、法と社会、比較法史
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	口頭発表と質疑応答への参加度等から総合的に判断するが、演習科目なので、当然出席がその全ての前提条件となる。
学生へのメッセージ	あまり難しく考えすぎることなく、幅広く法と社会の理解にチャレンジしてほしい。
担当者の研究室等	11 号館の 10 階にある萩原研究室
備考	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国環境ハンドブック 2005-2006 年版	中国環境問題研究会	蒼々社
2	台湾女性史入門	台湾女性史入門編纂委員会	人文書院
3	体感するモンゴル現代史	萩原守	南船北馬舎

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	小山　昇
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・ 目的	国際私法を中心として、国際取引法・国籍法を含めた分野の諸問題を具体化して論文を完成させることが目的となります。卒業研究は、３年次終了時に提出を求めたテーマを卒業研究論文として完成させることを目指しますが、具体的に検討した結果、さらに興味を持って探求したいと考える別のテーマを見出すことは妨げません。就職後に仕事で必要な知識に関するテーマに変更することも可能です。
到達目標	学生には、この演習を通じて国際私法、国籍法、国際取引法の分野から各自が選んだテーマを論文として完成させたとき、その論文がその分野において「基本的な水準」に達していることを説明できるようになることが期待されます。
授業方法と 留意点	各自の卒業研究テーマについて現時点での分野及びテーマの確認を行い、その後、各自の年間計画の提出を求めます。学内での個別指導となりますが、対面授業ができない状況のときは、「Teams」及び「WebFolder」を利用することにしますが、その場合は、Portal を通じて全員に周知します。 文献資料の蒐集や論文作成についての注意点は、テーマごとの指導として日時等を指定した個別指導になりますので、そのために各自の年間計画を作成してください。論文構成については、適宜、プレゼンテーションなどによる報告を求めるこ
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	１．３年次最後のレポートで提出したテーマについて、卒業研究論文としてどのように具体化すべきかを検討することから始めます。検討結果によってはテーマの変更も可能ですが、明確な理由を示す必要があります。 ２．決定したテーマについて、まず、必要な文献や判例を調査し、その蒐集と読解を通して論文の構成や目次をレポートとして提出することを求めます。論文の目次、その他具体的な論文構成は、遅くとも１０月中旬までに提出すること。 ３．検討・修正を加えた後に下書きを作成し、その報告を適宜受けながら訂正を加えて論文の完成を目指します。 下書きの完成時期は、１２月下旬とします。 ４．論文提出期間に入った１月の段階で最終稿を提出し、最後の推敲を経てその確認後、教務課への提出を許可します。 事前事後の学習は、卒業研究の進捗に合わせてその都度具体的に指示しますが、少なくとも２時間以上のテーマについての熟考と資料の熟読そして見直しが必要です。
関連科目	国際私法総論・各論、国際取引法
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 特に、指定しない。 / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 適宜、紹介します。 / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	卒業研究論文について、そのテーマと論述方法の関係及びその理解度を中心に、作成過程と下書きなどの原稿及び完成した論文を総合して評価します。この評価については、１０項目について基準を定めた「ルーブリック評価表」を用います。
学生への メッセージ	就活と卒業研究を両立するために、必ず達成できる年間計画を立てて下さい。
担当者の 研究室等	11 号館９階　小山教授室
備考	論文の下書き原稿などについては「WebFolder」を使って指導することもあります。

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	小島　俊朗
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	租税法に関する問題をテーマとした論文を完成させます。税に関係するテーマなら何でも結構ですので幅広く考えてください。
到達目標	この研究を通じて学生には、論理的思考力と比較衡量する力が備わることが期待されます。 「はじめに」のところで問題意識を明らかにし、本文では論理的な展開を行い、結論を導き出します。最後に、自分の見解や提言を簡潔に書いて「おわりに」で結びます。税に関するものである限りテーマは自由ですが、感想文ではないので、法的な論理展開が行われていなければなりません。そして、自分なりの結論を導いてください。
授業方法と留意点	【授業内容】 各自の選んだテーマについて個別指導を行いますが、就職活動も重なりますので、計画的に進めることが重要です。また、卒業論文発表会のためのプレゼンテーションやパワーポイント資料の作成についても指導します。 集合指導を適宜実施します。論文の個別指導は、Teams に提出された原稿を基に行いますので、原稿の提出がないと論文の完成は困難です。提出期限を守って計画的に進めて下さい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	各自の選択したテーマに応じて指導します。また、どのような問題意識を持ち、どのような観点から論じるのか、考えをまとめる機会として、中間発表会を適宜の時期に開催します。 12 月初旬に開催される卒業論文発表会を念頭において､各人の進行状況に応じた個別面談を行い､論文らしい内容となるように指導します。
関連科目	租税法全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	租税法	金子宏	弘文堂
2	DHC コンメンタール	武田昌輔	第一法規出版
3			

評価方法（基準）	卒業論文の内容だけでなく、論文作成段階における取組姿勢や原稿の提出状況などを含めたルーブリック評価を行います。卒業論文の審査においては、発想力（20%）、論理性（50%）、結論の妥当性（30%）の総合評価となります。ネット情報を安易に使うことのないようにしてください。努力の形跡がないものはそれ相応の評価となります。
学生へのメッセージ	文献を読み、考え、更に文章を書く作業は社会人になった場合に、必ず役に立ちます。余裕を持って時間をかけて論文を完成させてください。 文章力に問題のある学生が少なくありません。提出する前によく見直してください。また、いわゆるコピペした文章が少なくありません。出典を明らかにしないで引用することは不正行為ですので厳禁です。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　小島教授室
備考	フィードバックの必要があれば、個別指導に際して適宜コメントしていきます。 選んだテーマにつき、進捗度に応じた学習が必要です。研究課題であるので、個別指導の際には事前・事後の準備・学習を少なくとも毎回各 1 時間程度行うように心掛けて下さい。

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	河原　匡見
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	卒業研究においては、大学生活の、さらには小学校以来現在に至るまでの、いわば学生生活の最後の総まとめとしての卒業研究を、一定水準以上の内容を伴って完成できるよう指導していきたいと思います。また、学問に直接関係することだけでなく、広く学生生活全般に関すること、あるいは一般社会の問題についても議論し合っていければと思います。
到達目標	この演習を通じて学生には、各自関心のあるテーマについて、資料を収集し分析を行うなど研究を進めて、定められた期限までに決められた形式・分量に則してまとめ上げ提出できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	「対面式」で原則実施しますが、就職活動などの関係で出席のタイミングが合わない人に対しては、当分の間「Teams を用いたオンライン方式」も併用します。前期は個人指導を主体として、論文の枠組み検討と資料収集の作業状況の確認を並行して行い、夏期休暇前には、草稿の作成に入れるように指導していきます。そして、後期には、みなさんの論文作成の進行状況にもよりますが、可能であれば各自の草稿を基に、演習参加者全体でディスカッションを行う集団指導を中心に進めていきたいと考えています。また、12 月頃に開催される、法学部の「卒業
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	本演習の目的は、定められた期限までに、一定の水準以上の卒業研究を確実に完成させることです。長い論文を作成する作業は、喩えて言うならば、一歩一歩頂を目指して歩みを進めていく『登山』の如きものでしょう。したがって、実質的には約１０ヶ月間の指導によって、上記の目的を達成するために、幾つかの研究の進展段階（提出課題）を設定し、それを一つ一つ達成することによって順々に論文を完成させていくという指導方法をとります。各自、卒業研究のテーマを絞り、考究していくためには、常に積極的に関心のある問題に関する情報および資料・文献を収集しその読解に努めることが要求されます。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	卒業研究演習での論文作成指導状況（２０％）および提出された論文（卒業研究）の内容（８０％）に基づいて評価します。なお、論文の内容の評価については、ゼミで策定したルーブリック表に基づいて行います。また、法学部主催の「卒業研究発表会」にて報告した場合には、その分を加味して評価します。
学生へのメッセージ	４年生は、就職活動などの進路決定にともなう作業もあります。研究論文は、就活後に始めるのではなく、早めに着手する（書き始める）ことが肝要です。両者を並行して進めていきましょう。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　河原教授室
備考	この演習では卒業研究を進めるための事前・事後学習が必要です。目安は総時間数で６０時間です。もちろん選んだテーマ次第でそれ以上の場合もあります。 卒業研究の作成は、これまでの勉学の集大成というだけでなく、みなさんがこれからの人生のさまざまな局面において、どれだけ自信をもって諸事に臨んでいけるかその可能性を示唆してくれるものです。納得のいく内容のものを仕上げるよう頑張りましょう。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	鳥谷部　壌
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	法学部の国際法ゼミ修了者として備えておくべき素養を養うことを目的とします。
到達目標	この授業を通して学生は、法学部の卒業研究として十分な水準の論文を完成させることができることが期待されます。
授業方法と留意点	ゼミの進め方としては、基本的には、グループワークを通じ、ディスカッションを積み重ねることで、自身が設定したテーマを深化させていきます。研究の進ちょくを定期的に教員に報告してもらい、研究をより良くするために、適宜、必要な助言やアドバイスを行います。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	国際法に関連する諸問題を調べ、討論し、論文にまとめてもらいます。 具体的な予定としては、10 月下旬までに全員が卒業論文をひと通り書き終えます。11 月中に卒業論文発表会の準備に取り組みます。12 月に予定される卒業論文発表会で発表を行います。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	完成した卒業論文の内容によって評価します。卒業研究の評価はゼミで策定したルーブリック表に基づいて行います。 評価項目：卒業論文の内容（70%）、卒業論文への取組の態度（30%）
学生へのメッセージ	論文を書くことは、人生と同じで、楽しみと苦労の連続です。新たな発見に喜びを感じる瞬間があれば、壁にぶつかって立ち行かなくなることもあります。そうしたとき、仲間からのアドバイスが道を開くきっかけを提供してくれるかもしれません。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　鳥谷部研究室
備考	事前学習として、資料の読解とそのまとめなど、毎回 2 時間以上の予習に取り組んでください。 事後学習として、論文の加筆・修正に毎回 2 時間以上の復習に取り組んでください。

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	石井　信輝
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	卒業研究の題目を決定し、関連する資料・文献を収集し、必要に応じて調査を実施することによって、卒業研究を完成させる。修得した法学・政治学・法政策学の知識を文字で的確に表現するための一助とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、自ら決定した卒業研究のテーマについて、これまでに修得した法学・政治学・法政策学の知識を文字で的確に表現するとともに、将来社会人として自ら考え行動することができる能力を養うことが期待される。
授業方法と留意点	各自が決定した題目に沿って、卒業研究を推敲し、完成させる。能動的に活動するよう、留意してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	授業テーマ：卒業研究の完成。 内容・方法：各自が決定した題目に沿って、卒業研究を推敲し、完成させる。卒業研究の完成に必要となる資料を収集し、整理する。 学習課題：卒業研究の完成に向けての資料収集、論文の推敲、およびその完成等についてその都度指示する。公開での卒業研究発表会を行う予定である。
関連科目	専門演習
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	卒業研究の内容（７０％）と取り組む姿勢（３０％）をもとに評価する。なお、卒業論文はゼミで策定したルーブリックにより評価する。
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んでください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　石井教授室
備考	各回に 1 時間程度、自身の設定したテーマに沿って、事前・事後の学習を行ってください。

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	中沼　丈晃
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	1 年半の演習の蓄積に基礎を置く研究である。分野を絞って読書や記事を読みながら課題を明確にし、地域活動を通じての参与観察、聞き取り調査で得られた知見に基づいて結論を出せるように研究を進める。
到達目標	この研究を通じて学生には、①ぼんやりとした自分の問題意識を他人と議論できる課題にする、②地域活動に参加して、その課題の視点で現場を見て、話を聴く、③現場での知見を蓄積する、④他人と議論をして、知見から自分が言いたいことを文章にすることが期待される。
授業方法と留意点	書籍・記事からの情報収集、参与観察と聴き取り調査（ともにフィールドワーク）、研究室内での定期報告（プレゼンテーション）、仲間との活動の企画と振り返り（ディスカッション）を、他人に見える形で記録に残し蓄積する。継続的でこまめな作業が必要になる。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	研究で扱う分野は、地域防犯、自治会の地域活動、小学校と地域との関係、地域での児童福祉・青少年健全育成の４つである。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	研究時限の全出席を前提とする。定期報告(30%)と、卒業論文(50%)、卒業研究発表(20%)の合計によって評価する。評価は研究室で策定したルーブリック表に基づいて行う予定。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 9 階　中沼教授室
備考	情報収集、観察・聴き取り調査記録、定期報告の準備で各回 1～3 時間ほどが必要になる。 個人面談をして、地域活動参加の意志確認をし、参加の感想や今後の希望も聴く。それに対して助言を行う。 卒業研究発表に対しては、担当教員のみならず、地域活動の世話役や行政実務家からも意見をいただく。

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	浮田　徹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・ 目的	法学部憲法ゼミ修了者として備えておくべき素養を培います。 法学部の卒業研究として十分な水準の論文を完成させるとともに、 他のゼミ生との共同作業が中心となりますので、コミュニケーション能力も求められます。
到達目標	この授業を通じて学生は、問題発見・分析・文献検索についての能力、論文作成についても法学部修了者として不足のない力を身につけられるようになることが期待される。
授業方法と 留意点	個別もしくはグループ単位で卒業研究を進めます。 基本はグループワークを通じ、ディスカッションを重ねることでテーマを深化させていくため、積極的な参加が必須です。 卒業研究報告会に限らず定期的な報告会も行うため、プレゼンテーション能力を磨くことも必要となります。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	憲法に関連する諸問題を調べ、討論し、論文にまとめる。 テーマ自体は該当年度のはじめに決定します。 設定されたテーマにつき、グループでより詳細なテーマを決定して進めていきます。 論文を完成後、公開の発表会を行います。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	「卒業研究の評価はゼミで策定したルーブリック表に基づいて行う」
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	11 号館９階　浮田准教授室
備考	卒業研究は講義以外の時間に作成する割合が多くなります。最低限事前(２時間)、事後（２時間）程度は必要になります。 卒業論文は公開の発表会を行います。

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	島田　良一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	刑事法をめぐる諸問題について研究・考察を行い、その内容に関する卒業論文を作成する。
到達目標	この卒業研究を通じて学生には、とりわけ刑事法に関して、法学部で学んだ者としてふさわしいレベルの知識・思考力・表現力を修得することが期待される。 （12 月初旬に法学部全体での卒業研究報告会が予定されているので、そこでの報告に堪えうるような論文の作成を目指す)。
授業方法と留意点	3 年次までの専門演習において設定した各自の卒論テーマについて、ディスカッションやプレゼンテーションなども行いながら、さらに掘り下げて研究・考察を行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	卒業論文作成指導を行う。 事前学習としては、文献・資料等の読み込み・要約（1 時間／日） 事後学習としては、卒業論文提出後にゼミで卒業論文の検討会を行う予定（2～3 時間程度）
関連科目	刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑法総論、刑法各論、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事政策、現代社会と刑事法、経済刑法、刑事法概論
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	卒業論文の出来によって評価する（ゼミで策定したルーブリックにより評価する：内容・構成力 50%、文章力 30%、資料収集の程度 20%)。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 9 階　島田准教授室
備考	

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	家本　真実
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・ 目的	法は、社会における最低限のルール・道徳であるといわれます。この演習では、現在、社会で起きている問題を通して、現行の法律がどのようなものであるか、そしてどうあるべきかを考えることによって、法に対する知識をより広い視野をもって深めていく機会にしていただきたいと思います。 卒業研究においては、とくに裁判員制度に焦点をあてて、裁判員制度がいったいどういう制度なのか、市民が司法に参加する意義などを調査したうえで、後期中に模擬裁判をおこない、模擬裁判での経験から、一般の市民が司法に参加するにあたってどのような課題が問題点があるのかを探るというかたちでより深く法の世界を探求していただきたいと思います。
到達目標	この卒業研究を通じて、学生の皆さんには、履修している学生同士の議論や模擬裁判の実施を通して、他人の考えを理解し、問題がある場合にはどのような解決を見出すことができるかを考えることができるようになることが期待されます。
授業方法と 留意点	卒業論文作成の指導をおこないます。資料の収集、論文の書き方などを学んだうえで、グループで議論しながら各自の分担を考えていただき、各自の担当部分について個別指導をおこないます。また、模擬裁判の実施にあたって、チームで議論しながら主張を練り上げ、書面を作成していただきます。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	前期中はおもに、卒業論文作成のベースとなる知識を得るために、裁判員制度や市民の司法参加に関して調査をおこなっていただきます。2-3 人で 1 つのテーマを担当し、毎回事前に担当するテーマについて調査をおこない、報告のうえ、各回終了後に適宜再調査をおこない、卒業論文の基盤をつくりあげていただきます（事前・事後学習として毎週 3～4 時間程度)。 後期は 3 年生とともに模擬裁判をおこなっていただくとともに、卒業論文を仕上げたうえで、その成果を発表していただきます。模擬裁判に関しては、事案の検討をおこない、検察チームや弁護チームの弁論や尋問を作成し、添削を受けて訂正するという作業をおこなっていただきます。また、同時に、卒業論文を執筆し、添削を受けて訂正する作業を継続しておこなっていただきます。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	おもに、模擬裁判に対する取り組み（50%）と、卒業研究に対して取り組む姿勢や卒業論文の審査結果（50%）により評価します。 なお、評価はゼミで策定したルーブリック表に基づいておこないます。
学生への メッセージ	ともに議論をし、模擬裁判において様々な役割を担うことによって、他人の考え方を知り、理解しあうことにつながると思います。こうした活動を通じて、学生間で交流を深めていただきたいと考えています。また皆さんからゼミの内容についての提案があれば、できる限り取り入れていきたいと考えています。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　家本准教授室
備考	模擬裁判や卒業論文完成に向けて提出される書面については、随時添削、講評をおこないます。 事前・事後学習の総時間数の目安：60 時間

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	城内　明
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	法学部に学んだ集大成として、質の高い卒業研究の完成を目標とします。 研究内容は、学部主催の卒研報告会、ないし 3 年城内ゼミ学生を対象としたゼミ内報告会のいずれかで報告してもらいます。
到達目標	この演習を通じて学生には、法学部に学んだ集大成として、質の高い卒業研究を完成することが期待されます。
授業方法と留意点	研究テーマは、3 年時の演習で担当した判例等を参考に、自由に選択していただいて構いません。テーマに基づき、個別に課題を与え、完成まで個人指導し、12 月第 1 週までの論文完成を目指します。受講生は、就職活動に忙しい時期であっても、メール・LINE 等で、最低週 1 回の連絡を欠かさないようにして下さい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	卒業論文の作成指導。 論文指導は、指導前の十分な準備、指導に従って行う適切な作業があって、はじめて有効なものとなります。 十分な事前学習・事後学習を心がけて下さい。所要時間として、週に 90 分、年間で 60 時間程度が目安となります。ただし、論文は、自分が納得いくまで考え抜くことに意義があります。特に、最終段階(11 月半ば～12 月頭)では、論文に集中する時間が必要となりますので、予定の調整をお願いします。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 新たな法学の基礎教育 / 福沢一吉 / 弘文堂 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	論文の内容(50%)、論文に臨む態度(50%)により評価する。 卒業研究の評価はゼミで策定したルーブリック表に基づいて行う。
学生へのメッセージ	4 年間の集大成です。良い論文を仕上げましょう。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　城内准教授室
備考	教員との連絡は欠かさないようにして下さい。 なお、論文を書くにあたっては、論理的な文章を書く必要があります。教科書欄に指定した本(「新たな法学の基礎教育」)は、論理的な文章を書くための基本を分かりやすく説明したもので、参考になると思います。

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	小野　晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・ 目的	法学部ディプロマポリシーに基づき、刑事法学（主として、刑法総論、刑法各論、および、刑事政策）に関する争点を履修者各自の興味に応じて取り上げ、これに関する判例および学説を主体的に研究・調査したうえで、自らの考察を展開する一方で、多用な見解に配慮しつつ、説得力ある論文（卒業論文）の作成することを目的とする。 ＊なお、12 月から 2 月の間に開催される予定である法学部主催の卒業研究発表会で卒業研究の成果を口頭で質疑を交えつつ報告してもらうことも目的としている。
到達目標	この演習を通じて学生には、法学士を得るのにふさわしい研究水準の公開報告を遂行したうえで、最終的に研究論文を完成できるようになることが期待される。
授業方法と 留意点	専門演習において設定した各自の卒論テーマについてさらに掘り下げて研究する。 ・構成員の進路状況を鑑み、本授業は各人個別に行うこともある。 ・教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答を行う。 ・法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	卒業論文の作成に必要な判例検索や文献リサーチの方法および社会科学系論文の作成方法に関する指導を個別に行う。
関連科目	法学概論、刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、少年法、刑事政策など
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 刑法の争点 / 西田典之＝山口厚＝佐伯仁志 / 有斐閣 2 / 判例プラクティス刑法Ⅰ（第 2 版） / 成瀬幸典＝安田拓人ほか / 信山社 3 / 判例プラクティス刑法Ⅱ / 成瀬幸典＝安田拓人ほか / 信山社
評価方法 （基準）	卒業論文の採点は、以下の①から⑤まで項目について、ルーブリック評価【到達度評価＝A（よくできている）、B（平凡）、C（あまりできていない）】を用いて行う。 ①問題提起を適切にしいるか（配点 20%） ②提起した問題に関連する判例や先行研究（学説）を十分に、かつ、主体的に調査しているか（配点 20%） ③異説に配慮しつつ、自らの考察を適切かつ説得力をもって展開できているか（配点 20%） ④自説の見解がどこまで妥当性をもつかについて、射程を考えて規範や結論を導いているか（配点 20%）
学生への メッセージ	法学系の論文は、指導教員とのコミュニケーションを取りつつ作成するのが一般です。いつでも遠慮無く作成についてご相談ください。 学生の手に届きにくい代表的な和書文献およびドイツ語文献を研究室に備えていますので、必要な方は声を掛けてください。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　小野教授室
備考	事前学習として、判例や学説調査など、毎回 2 時間以上の予習に取り組むこと。 事後学習として、論文の修正に毎回 2 時間以上の復習に取り組むこと。

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	萩原　佐織
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・ 目的	当該民事法ゼミでは、例えば民法等の実体法に基づき発生する権利につき争いが生じ、裁判所で解決されるべき場合に、その方法や当事者が従うべきルール等につき、具体的な事案や判例をもとに追求します。それゆえ、既に民法が良く理解できている方は、民法で学んだことを裁判という場にシフトさせ、より深く発展的に学び、他方、民法をまだ良く理解できていないという方は、裁判という角度から、もう一度民法を見つめ直す機会に利用して下さい。皆さんのご希望があれば民法や民事訴訟法以外に、民事保全執行法や倒産法をテーマにすることも可能です。
到達目標	初めての論文執筆となるため、この演習を通じて学生には、論文構成、章立て、脚注の付け方、文献目録の作成方法等、社会科学系の論文の書き方につき学び、また、それに対応する Word の各機能の使い方を習得することが期待される。 後半は、この演習を通じて学生には、実際に各研究テーマに従った卒業研究論文を執筆していくうえで、深い思考力・探求力・問題解決能力を養うことが期待される。
授業方法と 留意点	【授業内容】 前期は、卒業論文の書き方（論文構成、判例・参考文献等の探し方、Word の機能の使い方、目次・脚注・参考文献目録の作成方法等）につき指導を行った後、それぞれの内容に従い、個別に指導する。後期は、個別指導の傍ら、互いの進捗状況を参考にしたり、また執筆者の考えを明確化させ、かつ内容を深化させるために、中間発表ならびに最終報告会（法学部全体の卒論発表会をも含む）を行う予定。卒業論文に関する課題の提出及び事前・事後学習等に Teams を利用するので、必ずチェックするようにしてください。演習時間内にチ
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	前期は、下記２つを支柱とする；１つ目は、①卒業研究論文の書き方や、②Word 機能の使い方等、卒業研究執筆にあたり、基本的な事項の指導。2 つ目は、研究テーマの確定、ならびに論文の大まかな構成の作成、につき指導すること。但し、これまでのゼミにおいて、既に研究テーマが確定していたり、十分な判例や参考文献等を収集済みの学生に対しては、個別に、具体的な論文執筆指導を行う。 後期は、各自の執筆の進捗状況に差があるため、個別具体的な論文執筆指導を中心とする。指導方法としては、その週に執筆した部分につき事前に Teams に提出した上で、各自５分程度発表し、その後、質疑応答・フィードバック等を行う。また、互いの進捗状況を参考にしたり、執筆者の考えを明確化させ、かつ内容を深化させるため、法学部卒業研究発表会等にて中間発表を行う。 なお、法学部卒業研究発表会における代表者以外の全員が、12 月・1 月における専門演習 II、専門演習Ⅰ、法学基礎演習Ⅱ又は個別に設けた日時において、各自卒業研究の発表及び質疑応答を行う予定。 進捗予定としては、おおよそ 11 月中旬の一通り執筆を終えた段階で、本文全体を提出し、11 月後半は中間発表に向けた Power Point 資料の作成、12 月は表紙・目次・参考文献目録の作成、1 月は校正を中心とする。 予習事項としては、設定テーマに関連する文献を調べ、それらの文献を入手し、読み込んでおくこと。後期は、その上で、得られた情報や知識をもとに、卒業研究の執筆や発表準備を進めること。 復習事項としては、ゼミ内で指摘された事由につき、更なる文献の検索・入手やその読込み、内容の修正等を行うこと。Teams 上で提出し返却された課題については、そこに示されたフィードバックの指示に従って復習を行うこと。 事前・事後学習に要する時間は、卒業研究の進捗状況に基づき、演習時又は Teams 上において、個別に指導する。 原則として、テーマ選択、文献収集、執筆等に関し、事前・事後学習は、各 2 時間を予定する。
関連科目	民法全般、民事訴訟法、民事保全執行法、倒産法等
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	卒業研究への取り組み方等の平常点（20%）、提出された論文（50%）、並びに研究発表会等における発表及び発表資料（パワーポイント等）（30%）を総合的に審査し評価します。なお、卒業研究の評価はゼミで策定したルーブリック表に基づいて行うものとします。
学生への メッセージ	初めて書く論文ですので、最初は戸惑うかもしれませんが、例年、ゼミ生同士が相談または助け合い、その過程において、友情を深めているような気がます。また、それぞれ提出し終えたときの達成感で輝く顔が印象的です。学生最後の年ですので、有意義な実り多き 1 年にしてください。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　萩原准教授室
備考	卒業研究の成果を公表する場として、12 月における法学部卒業研究発表会で、ゼミ代表者が発表する他、12 月・1 月における専門演習 II、専門演習Ⅰ、法学基礎演習Ⅱ又は個別に設けた日時において、代表者を除く他の全てのゼミ生が各自卒業研究の発表及び質疑応答を行う予定。発表形式は、原則として、Power Point にて行うこととする。 なお、卒業研究執筆時においては、演習時又は Teams 上の課題として、個別的に各卒業研究及びその進捗状況をチェックし、フィードバックを行うものとする。各章ごとに、各自、演習内で各５分

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	大川　謙蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・ 目的	本演習では卒業までに、ゼミ生全員で少なくとも民法の制度について詳細に把握できることを目的としている。 そのために、ゼミ生全員の協力の下で、どのような社会的問題が存在し、法律がどのような対応をしているのかを把握していく。社会状況を知ることにより、自分が社会においてどのような立場に立ち、またどのようなことをすべきかなど、多くの点を考える糸口を得られると考えている。
到達目標	この演習を通じて学生には、2 年次・3 年次演習で得られた知識・経験を駆使し、個人で問題を設定し、卒業論文を作成する。そのためには、これまで全員で行ってきた作業を個人で担当することとなる。中間報告として、各自の問題に対する視点の報告（レジュメや発表方法など）を行い、最終的に論文に仕上げ、文章表現の難しさを知ること、そして、法的問題を個人で分析し自己の考えを述べることを通じて、社会問題全体に対しても、感想ではなく、知識や情報を獲得しそれを駆使して自己の意見を述べられるようにすることが期待される。
授業方法と 留意点	卒業論文を作成するために、各自でテーマを決定する必要がある。そのテーマについて、適宜演習で報告を行い、他のゼミ生との議論を行う予定である。その為の報告準備等も行う必要がある。各自のテーマについて、他のゼミ生の意見を反映させることも求められる。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	卒業論文のテーマをいかに設定するか、その内容を定期的にいかに報告するか（中間報告）、それを文章化するに当たり、いかに読み手（この場合は教員）を説得させるか、および、それを論文にいかにまとめるか、それらについて各自で試行錯誤することが必要となる。 卒業研究ゼミでは、その論文の作成に関するルールから始まり、その内容や問題提起の方法を全員で確認し、そして、文章化することを予定している。 その際に、全学への公開講座として、研究内容を 3 年生と 4 年生との合同講座で発表を行い、ゼミ以外の先生や学生からの意見を聞きつつ、客観的に研究の意義を確認する。これは、全ゼミについて共通の事である。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	成績は、演習で出される課題に対して、個人で指定された資料等を使用して正確に準備できているかどうか（10%）、並びに、その課題である卒論の完成内容で判断を行う（90%）。 具体的には、卒業研究の評価はゼミで策定したルーブリック表に基づいて行う。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　大川准教授室
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の３つから成り立っています。 予習内容としては、演習で与えられる課題を個人で準備を行う必要があります。その準備を 90 分を基準として行う必要があります。 復習として、課題に対し、中間報告及び最終報告の内容を正確に押さえる必要があります。その為に 90 分を基準として行う必要があります。 学生主体の演習を目指しています。各実施状況については各自の報告時及びメールで確認します。 演習での縦の人間関係も重視しております。コンパなどで、就活などの情報も先輩から後輩へと伝えていくこと

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	松島　裕一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	前年度に決定したテーマに基づいて、実際に卒業論文を執筆してもらいます。前年度の専門演習 II で真面目に課題に取り組んでいればそれほど困難はないとは思いますが、いざ卒論を書き始めてみると苦労の連続かもしれません。自分なりに四苦八苦しながら卒業論文を書き上げることがこの卒業研究の目的です。
到達目標	このゼミを通じて学生には、次の２つのことが期待されます。第一に、自分の興味関心に基づいたオリジナルの論文を執筆できるようになること。第二に、卒業論文の執筆作業を通じて、図書館やネットを利用した資料収集の方法、参照文献の参照指示方法などを身につけること。
授業方法と留意点	対面での実施を予定しています。毎回個別に課題を課しますので、その課題に真摯に取り組み、卒業論文を書き上げてください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	各人が決定したテーマにしたがって資料収集を行い、実際に卒業論文執筆の作業を進めてもらいます。各人の進捗状況に応じて個別に指示を出します。 具体的な予定としては 10 月下旬頃までに全員が卒論をひと通り書き終え、11 月中に卒業論文発表会の準備に取り組みます（各人の卒論の要点をパワポにまとめる)。そして 12 月（予定）の卒業論文発表会本番に臨みます。
関連科目	法哲学総論、法哲学各論、法思想史
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	卒業研究の評価はゼミで策定したルーブリック表に基づいて行います（100%)。具体的には卒業論文完成に至るまでの取り組み（教員の指示に従い資料や判例などが調査できているか、途中経過をしっかり説明できるか等）や、卒業論文の出来（脚注や形式は指示に従っているか、論文に独自性があるか等）を重視します。
学生へのメッセージ	みんなで笑って卒業できるように頑張りましょう！　教員（松島）も精いっぱい努力しますので、学生の皆さんも頑張ってください。
担当者の研究室等	11 号 9 階　松島准教授室
備考	教員の指示に従い、各回、決められた分量の文章を事前に執筆してもらいます（この事前学習に 60 分以上)。また、事後に文章の訂正や追加の資料収集を行なってもらいます（この事後学習に 60 分以上)。

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	増田　知也
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・ 目的	法学部での学び、そしてゼミでの学びの集大成として、卒業研究を行い、論文にまとめます。 研究とは、未知の事柄について問い（リサーチ・クエスチョン）を立て、データを集め、分析し、結果を解釈し、出た答えを報告するという一連の過程です。どうしても「論文を書く」ということだけに注目してしまいがちですが、研究成果が出なくては論文は書けない、ということは重要です。計画的に研究を進めていきましょう。
到達目標	この演習を通じて学生には、関連する分野の基礎知識を身につけた上で、狭く深く、設定したテーマについて誰よりも詳しくなり、研究を遂行し論文を完成させるための研究方法、論文執筆法を身につけ、結論ありきではなく、現時点で得られた情報から何が言えるのか、という科学的な態度を身につけることが期待される。
授業方法と 留意点	各自で研究を進めつつ、定期的に報告し、意見交換をする
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【研究テーマ】 地方自治や地域政策に関連するテーマを各自で設定する 【スケジュール】 4 月　研究計画書を元に面談し、研究テーマを確定する 5 月　文献調査を行う 6 月　文献調査の結果を元に「先行研究のレビュー」を執筆 7 月　データ収集と分析の方法を検討する 夏期休暇：フィールドワークなどにより、データ収集を行う 9 月　集めたデータを分析し、「結果」を執筆 10 月　結果を出すに至った「対象と方法」を執筆 11 月　結果を解釈し、「結論」を執筆 12 月　「背景と問い」「課題と展望」を執筆し、論文を完成させる 【論文の構成】 背景と問い 　なぜ問う必要があるのか？ 　何を問うのか？ 先行研究のレビュー 　現時点でどこまで答えが出ているのか？（理論や仮説） 対象と方法 　何を研究対象としたのか？（データや事例の詳細） 　どのような方法で研究したのか？（データ収集・分析の方法） 結果 　データ分析によって得られたものは何か？（客観的） 結論 　結果を元に問いに対してどのような答えを導くことができるか？（主観的） 課題と展望 　明らかにできなかったこと、更に研究すべきことは何か？ 【事前・事後学習課題】 各自調査・執筆を進めた上で、週ごとに研究ノートを作成する（4 時間程度）
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	卒業研究の評価はゼミで策定したルーブリック表に基づいて行う。 論文としての基本的ルールを守ること　40% 問いと方法と答えの妥当性　20% オリジナリティ　20% 学術的意義　10% 社会的意義　10%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　増田講師室
備考	

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	和田　泰一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・ 目的	卒業論文を完成すべく、政治問題に関する文献の読解能力や論理的思考力・判断力・表現力を身につけることが目的です。学生の皆さん一人一人が、自分の卒業論文のテーマについて主体的に考え、議論し、問題解決への糸口をつかめるような主体的・対話的で深いアクティブ・ラーニングの場を提供します。 また卒業論文の内容や書き方については個別に指導していきます。
到達目標	この授業を通じて学生は、自分の卒業論文のテーマに関する書物・新聞記事・評論などを読んで知識・技能を獲得するとともに、その要点やメリット・デメリットをまとめ、望ましい解決策について他者と討議し、他者に対してそれを明確に発表するという論理的思考力・判断力・表現力を育成することが期待されます。 またグループディスカッション・プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを通じて主体的・対話的で深い学びを行うなかで、学習や仕事に対する意欲や積極的な人間性を育み、社会において良好で協調性のある人間関係を構築する仕
授業方法と 留意点	各自が自分の卒業論文のテーマに関する文献の収集・読解を行い、卒業論文のディスカッション・プレゼンテーションを行います。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	・授業テーマ・内容 自分の卒業論文のテーマに関する文献の収集・読解・議論・発表を通じて、その問題の内容を正確に理解し、他者と討議して望ましい解決策を判断し、他者にわかるようにその内容・解決策を発表することによって、基本的な日本語読解能力と論理的思考力・判断力・表現力を修得することができます。 卒業論文が作成できるように実際に資料収集・読解・執筆・グループディスカッション・プレゼンテーションを行います。 ・授業方法 各自が自分の卒業論文のテーマに関する文献を収集・読解・要約し、卒業論文の一部を執筆する時間をとります。教員は、学生の皆さん一人一人のテーマに沿いつつ、個別指導の形式で助言・評価をしていきます。 また卒業論文の進捗状況・内容について全員が適宜プレゼンテーションを行い、ディスカッションを通じてより整合性・妥当性のある卒業論文を完成させていきます。 ・事前、事後学習課題 事前学習…授業で自分が行う資料収集・読解・執筆について各自が主体的にその計画を立てておくこと （週 7 時間程度）。 事後学習…卒業論文の執筆を自宅でも計画的に進めておくこと（週 14 時間程度）。
関連科目	専門演習Ⅱ
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	授業でのプレゼンテーションと卒業論文で評価します。 卒業研究の評価は、ゼミで策定したルーブリック表に基づいて行います。
学生への メッセージ	就職活動で忙しいでしょうが、卒業論文の制作も継続的に行ってください。自分の卒業論文のテーマに関する参考文献の読解や資料・データの収集を自主的に行うようにしてください。 メールで随時卒論を送ってください。
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 11 号館 10 階　和田研究室
備考	卒業論文の制作では教員も積極的に参加し、助言を与えます。プレゼンテーションではその内容について全員に助言と短評を与えます。 また学生の皆さんの卒業論文のテーマについては教員も極力調査し、その参考文献を読破し、助言を与えます。

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	笛木　淳
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・ 目的	公法（憲法，行政法，地方自治法）における様々な課題から１つのテーマを選択し，関連文献・判例を読みこなし，自ら立てた問いに対して説得的な答えを提示することにより，卒業研究・卒業論文を完成させる。 完成した研究を，パワーポイントスライドにまとめて，分かりやすくプレゼンテーションを行う。
到達目標	学生には，次の３点を達成することが期待される。 （１）テーマに関連する文献・裁判例の調査・収集を網羅的に行うことができる。 （２）既往の研究をもとに問いを立て，様々な資料を整理したうえで，論理的に構成・論証を行うことで問いへの説得的な回答の提示を行うことができる。 （３）完成させた研究のポイントをスライド資料等にまとめ，他者に分かりやすくプレゼンテーションできる。
授業方法と 留意点	・専門演習 II までに設定・深掘りしてきた各自のテーマについて，さらなる調査・議論を行う。 ・他の学生及び教員の前での定期的な報告，ディスカッション，指導を行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	・前期： 判例・学説の資料収集方法，論文の構成，目次・脚注等の作成方法を，各学生のテーマに応じて個別に指導する。 ・後期 卒業論文の添削，パワーポイントスライドによるプレゼン資料作成の指導等を行う。 年末に行われる卒業研究報告会に向けて，ゼミ内でプレゼンのコンペを実施し，各自の研究・プレゼン能力を磨いていく。
関連科目	憲法，行政法総論，行政法各論，地方自治法
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	卒業論文の内容（テーマ設定の明確性，文献収集の適切性，構成の論理性／論証の説得性など）。 詳細はゼミでルーブリック表を作成し，これに基づいて行う。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	11 号館 9 階
備考	

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	田中　敦
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	専門演習Ⅰ、Ⅱにおける発表の経験、実績を踏まえ、各自が選択した研究テーマに関し、卒業論文を作成、提出する。
到達目標	この演習を通じて学生は、自らが選択したテーマについて研究し、その成果を卒業論文として作成、提出する過程において、今後実社会に出たときに求められる企画、調査・分析、文章作成の能力を習得することが期待される。
授業方法と留意点	１年間を通じて卒業論文作成のための準備を行う。就職活動も並行するなどの諸事情に照らし、基本的には個別指導が中心となるが、一定の間隔で、適宜全員が参加するゼミ形式による中間報告、討論を行う。通年とはいえ、執筆に使える時間は意外に短い。計画的な進行に努めてほしい。 なお、自己の卒業論文の完成に集中すべきことはいうまでもないが、他のゼミ生の取り組みに対しても、適宜の助言や意見交換、討論等を積極的に行ってほしい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	各自が選択決定した研究テーマについて、それぞれの進捗状況に応じ、卒業論文を完成させるための個別指導が中心になる。とはいえ、互いの進捗状況や共通する課題や問題などについて、情報を交換したり相談し合ったりするために、一堂に集まる機会も必要と考えられる。そのため、適宜、ゼミ形式での授業を行う。また、中間発表や卒業論文発表会も行う。 授業の前後には、授業でいかなる指導を受けるか、教員に確認する事項や疑問点などを事前に準備する事前学習と、授業で受けた指導内容などを改めて確認して論文に反映させる事後学習とが必要である。 具体的な授業の進め方については、第一回授業において学生からの意見も聴いた上で決定したい。
関連科目	民事法全般
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	卒業論文の評価は、ゼミで策定したルーブリック表に基づいて行う評価（８０％）と、演習における姿勢（討論への参加状況、参加の姿勢等２０％）とを総合して行う。
学生へのメッセージ	卒業論文の作成は、就職活動と並行して行われるため、大変かと思いますが、早め早めに準備作業を行ってください。論文作成作業で得られたものは、社会に出てからも必ず役に立つことと思います。また、特定のテーマを掘り下げて論文を完成させたという達成感は、何物にも代えがたいものになることでしょう。
担当者の研究室等	１１号館１０階　田中教授室
備考	授業の機会を有効に活用するためには、十分な事前事後の学修が必要です。それぞれ２時間を目安として行ってください。

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	本多　康作
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・ 目的	法学部ディプロマポリシーに基づき、「独占禁止法」ないし「保険法」、さらには「法学一般（特に基礎法学）」に関する争点を履修者各自の興味に応じて取り上げ、これに関する判例ないし学説を主体的に研究・調査したうえで、自らの考察を展開する一方で、多用な見解に配慮しつつ、説得力ある論文（卒業論文）の作成を目的とする。 ＊なお、12 月から 2 月の間に開催される予定である法学部主催の卒業研究発表会で卒業研究の成果を口頭で質疑を交えつつ報告してもらうことも目的としている。
到達目標	この演習を通じて学生には、法学士を得るのにふさわしい研究水準の公開報告を遂行したうえで、最終的に研究論文を完成できるようになることが期待される。
授業方法と 留意点	専門演習において設定した各自の卒論テーマについてさらに掘り下げて研究する。 ・構成員の進路状況を鑑み、本授業は各人個別に行うこともある。 ・教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答を行う。 ・法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	卒業論文の作成に必要な判例検索や文献リサーチの方法および社会科学系論文の作成方法に関する指導を個別に行う。
関連科目	法学概論、独占禁止法、保険法など
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	卒業論文の採点は、以下の①から⑤まで項目について、ルーブリック評価（到達度評価＝A（よくできている）、B（平凡）、C（あまりできていない）を用いて行う。 ①問題提起を適切にしいるか（配点 20%） ②提起した問題に関連する判例や先行研究（学説）を十分に、かつ、主体的に調査しているか（配点 20%） ③異説に配慮しつつ、自らの考察を適切かつ説得力をもって展開できているか（配点 20%） ④自説の見解がどこまで妥当性をもつかについて、射程を考えて規範や結論を導いているか（配点 20%）
学生への メッセージ	法学系の論文は、指導教員とのコミュニケーションを取りつつ作成するのが一般です。いつでも遠慮無く作成についてご相談ください。 学生の手に届きにくい代表的な和書文献および外国語文献を研究室に備えていますので、必要な方は声を掛けてください。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階
備考	事前学習として、判例や学説調査など、毎回 2 時間以上の予習に取り組むこと。 事後学習として、論文の修正に毎回 2 時間以上の復習に取り組むこと。

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	高間　佐知子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	卒業論文の作成に向けて必要なスキルや知識を習得し、卒業論文の完成を目指すことを目的とします。
到達目標	各自の論文テーマに関する専門的な参考文献を自分で検索することができ、参考文献をもとにして適切に論文を執筆することができるようにします。
授業方法と留意点	各自で設定した卒論のテーマに従って参考文献の収集を行い、卒論の執筆作業を行います。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	・授業テーマ 卒業論文の執筆 ・内容及び方法 数回の期限を設定して、論文執筆を進めていきます。期限ごとに教員が内容をチェックして修正等を促します。すべてのゼミ生がある程度執筆できた時点で中間報告として、ゼミ内で報告会を実施し、必要な修正を行う。また、卒論報告会へ参加することで他の学生や教員からの質問を受けることで論文の精度を確認する。 ・事前事後学習課題 事前に卒論に必要な参考文献を調査検討を行ってもらい、教員のチェックに基づいて事後的に追加調査を行ってもらいます。
関連科目	専門演習Ⅱ、法律科目全般
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	卒業研究の評価はゼミで策定したルーブリック表に基づいて行う。 内訳として、演習内における締切りの遵守（10%）、規定に従った論文の作成（20%）、著作権への適切な対処（40%）、私見の論理構成（20%）、参考文献の量（10%）によって評価する。
学生へのメッセージ	自分で設定したテーマについて深く追求し、期限を守って適切な論文を執筆しましょう。
担当者の研究室等	11 号館 10 階
備考	

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	寺山　洋一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・ 目的	法学部ディプロマポリシーに基づき、雇用・労働及び社会保障に関する法律並びに法学一般に関する諸問題について、履修者各自の関心に沿って卒業研究のテーマを設けた上で、それに関する判例・学説の調査や立法的な情報収集を通じ、自らの考察を展開するとともに、多角的な立場に配慮しつつ、説得力ある卒業論文を作成することを目的とします。 併せて、12 月から翌年２月までの間に開催される法学部主催の卒業研究発表会において、卒業研究の成果について、口頭で質疑を交えつつ報告することを目的とします。
到達目標	この演習を通じ、ゼミ生には、法学士を得るにふさわしい研究水準の公開報告を行った上で、最終的に研究論文を完成できるようになることが期待されます。
授業方法と 留意点	専門演習で念頭に置いた各自の研究テーマについて、さらに掘り下げて研究します。 各自の研究テーマを深堀りするため、個別の質疑応答やグループでの打合せ、全体討議などを行います。 ゼミ生それぞれの進路状況を踏まえて、個別に論文指導を行うことがあります。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	卒業論文の作成に際し、必要な判例検索、文献リサーチ及び立法的な情報収集の方法並びに社会科学系論文の作成方法について、個別に指導を行います。
関連科目	法学概論、憲法、民法、刑法、労働保護法、労働組合法、社会保障法など
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 開講時に説明します / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 開講時に説明します / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	卒業研究について、各自のテーマと論述方法との関係及びその理解度を中心に、その作成の過程及び下書き等の原稿（50%）並びに完成した論文（50%)を併せて評価します。 後者の卒業論文に対する評価は、以下の①から⑤まで項目について、ルーブリック評価【到達度評価＝A（よくできている)、B（平凡)、C（あまりできていない)】を用いて行います。 ①　問題提起を適切にしているか（配点 20%） ②　提起した問題に関連する判例、先行研究（学説）及び立法的な経緯を十分に、かつ、主体的に調査しているか（配点２
学生への メッセージ	法学系の論文の作成に当たっては、担当教員とのコミュニケーションを図りつつ行うのが標準的です。 随時、遠慮なく相談してください。
担当者の 研究室等	11 号館９階　寺山教授室
備考	事前学習として、判例・学説の調査や立法的な情報取集など、毎回２時間以上の予習に取り組むこと。 事後学習として、論文原稿の草稿及び修文などについて、毎回２時間以上の復習に取り組むこと。

科目名	海外語学研修	科目名（英文）	Overseas Language Training
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	カーティス　チュウ.担当者未定
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎,DP8△		
科目ナンバリング	JEN2333c1		

授業概要・ 目的	本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の必修科目の一つである。GCMP は、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン（地球市民）の育成を目指す副専攻である。GCMP は、国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)目標 4.7 「2030 年までに.持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得するようにする」に資するものである。 本科目の受講生は、グローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのいずれかに参加する。派遣先により現地での実習内容は異なるが、「グローバル・シティズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ。受講生には、この授業で得られた反省点を帰国後の各学部での学び、副専攻課程での学び、特に後の海外実習（応用）での学びに生かすことが期待される。 なお、本科目は単独で履修することもできるが、主としてグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の履修者を想定し、GCMP の必修科目「グローバル・シチズンシップ海外実習（入門)」と「海外語学研修」は目標や学習内容を共有する。
到達目標	・派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有している。 ・派遣先の主要な社会課題について、課題の概要、解決への取り組み、また日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。 ・派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。 ・事前・事後授業等を含めた訓練により、外国語運用能力を向上させる。派遣先の人々と、英語、
授業方法と 留意点	・事前授業、現地派遣、事後授業の 3 つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5 限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合（アルバイト、旅行等）による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。 ・グローバル・シチズンシップ副専攻課
授業テーマ・ 内容､方法･事前、事後 学習課題	年間スケジュールは概ね次の通りである。募集説明会～事前授業～現地派遣～事後授業のサイクルが、年間 2 回実施される。(　) 内は同一年度の二サイクル目で、現地派遣が年度末の 2～3 月になる場合のスケジュールである。 ・募集説明会：4 月中旬　(9 月下旬～10 月上旬) ・事前授業 10 回：6 月中下旬～7 月下旬　(11 月～2 月) ・現地派遣：2 週間程度　8 月中旬～9 月上中旬　(2 月中下旬～3 月下旬) ・事後授業 5 回（成果報告会含む)：9 月～10 月中旬　(3 月～4 月下旬) 【注意】新型コロナウィルス拡大の影響により、海外に渡航できない場合は、オンラインプログラムでの実施になる予定です。 詳細は随時ポータルサイトで連絡します。 本科目を受講する学生は、まずグローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのうちいずれかに参加申し込みをしなくてはならない。各派遣プログラムは日程、実習内容、参加費用などいずれも異なる。また、所属学部によっては選択できないプログラムもある。また、年度末の 2～3 月に現地派遣されるプログラムの場合は、単位認定の年度は翌年度となる。募集説明会に出席し、不明の点があれば問い合わせ、早めに計画を立てることが重要である。 事前授業では、「地球市民」の概念を理解し、派遣先の社会事情と課題について自ら情報収集をして問いをたて、現地での実習から最大限の成果を得られるよう準備する。国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)についてのワークショップ等を行う。語学力をはじめ、現地で必要となる技能について、自主的な訓練計画を立て、実行する。英語力に関しては、グローバル教育センターが提供する英語ワークショップである ECW(English Conversation Workshop)、学習支援センターでの英語チュータリング、ATR-CALL の英語 e-learning サービスなど、学内の学習資源を積極的に利用する。 派遣先では安全と健康が最優先であり、団体行動、ルール順守が求められる。そのいっぽうで、指示された行動をただ遂行するにとどまってはいけない。成功体験や挫折体験は自分の能力の限界に挑戦しなければ得られない。現地の事情について一つでも多くのことを知り、現地の人と一人でも多く知り合い、少しでも深く互いに理解し合えるように行動する。成果報告につなげられるよう、メモ、写真、動画などを可能な限り残す。何らかの資料が手に入れば整理して持ち帰る。 事後授業では、現地で得られた体験と情報を時間をかけて振り返り、自身にとっての最大の成果は何であったかを特定し、今後の学びにどう生かすかを考えるワークショップを行う。ワークショップに基づき、各自の成果報告書（レポート）および小グループでの成果報告プレゼンテーションを作成する。第三者にとって興味深く、分かりやすい成果報告を目指す。
関連科目	グローバル・シチズンシップ論（入門)、グローバル・シチズンシップ論（応用)、グローバル・シチズンシップ海外実習（応用）、Topics in Global Citizenship (EMI)、摂南大学 PBL プロジェクトⅠなど

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	事前授業評価　30%　（規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合） 現地活動評価　４０％　（現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価、テストスコア等の評価を総合） 事後授業評価　３０％　（成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価）
学生への メッセージ	在学中に一度は海外に行きましょう。いけるなら二度行きましょう。二度行けるなら、グローバル・シチズンシップ副専攻の入門、応用の実習で二度行きましょう。

担当者の 研究室等	各海外派遣プログラムに関する相談、グローバル・シチズンシップ副専攻プログラム全体に関する相談は 3 号館 1 階グローバル教育センターまで
備考	

科目名	地域と私	科目名（英文）	Introduction to Regional Science
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上野山　裕士
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：A○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TLO1452a1,L 科：LLO1354a1,D 科・S 科：ILO1361a1,P 科：YLO1417a2,J 科：JLO1363a1,W 科：WLO1342a1,N 科：NLO1343a1		

授業概要・目的	地域に関わるさまざまな視点を学び、それについて他者と対話することを通じて、受講生一人ひとりがこれから地域とどのように向き合い、どのように行動していくかを考えていきます。 本講義は、対話、グループワーク、プレゼンテーションを積極的に取り入れながら進めます。
到達目標	・地域のことを学ぶ意義を理解する。 ・地域が抱えるさまざまな課題を把握する。 ・グループ内で相互理解を図りながら活動できる。 ・グループにおける自分の役割を理解しながら活動できる。 ・地域の担い手としての自覚を持ち、自身と地域との今後の関わり方を具体的に描くことができる。
授業方法と留意点	グループでの対話や発表、レポートの作成といったグループワークが中心の授業です。 グループワークで学習を進めてますので、グループのメンバーに迷惑がかからないよう責任のある行動をしてください。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	講義は基本的に土曜日に不定期開催します。なお、講義の日程は変更となる場合があります。 ＜４月８日（土）１～３限＞ 第１回　「地域と私」への取り組み方；オリエンテーション 授業の進め方／ひとこと自己紹介 第２回　地域との関わり方　～『調査されるという迷惑』を読む～ グループディスカッション／教室内での共有 第３回　地域のいまとその担い手 地域福祉の視点から概説／グループディスカッション／教室内での共有 ＜５月２０日（土）１～３限＞ 第４回　インタビューにチャレンジ　～聴く、掘り下げる、まとめる～ グループづくり／グループ内での相互インタビュー／インタビューで聴いた内容をメモする 第５回　質的データの分析にチャレンジ メモの内容を整理する／分析する 第６回　「身近な地域の課題解決・魅力磨き」をグループ、教室でシェアしよう 「身近な地域の課題解決・魅力磨き」について教室内プレゼンテーション&ディスカッション ＜６月３日（土）１，２限＞ 第７回　地域に関するテーマを選定しよう 「『地域』に関する文献の整理」についてのグループ内プレゼンテーション／グループで取り組むテーマの決定／グループワークの実施スケジュールの検討 第８回　グループワークについてシェアしよう グループワークテーマの教室内での共有・対話 ＜６月１７日（土）１，２限＞ 第９回　グループワークの中間報告会 第 10 回　グループワークに「具体的な地域」の視点を盛り込もう 「地域福祉」の実践事例から考える／選定したテーマを「具体的な地域」から考える ＜７月１日（土）１，２限＞ 第 11 回　グループワークに「担い手」の視点を盛り込もう テーマごとに「登場人物」を考える 第 12 回　大学生は地域のためになにができるかを考えよう 地域と学生の協働的実践について概説／地域の担い手としての大学生の可能性／地域の担い手としての大学生の強みと弱みについて考える 個人ワーク／グループディスカッション／教室内での共有 ＜７月１５日（土）１～３限＞ 第 13 回　最終報告会① 第 14 回　最終報告会② 第 15 回　講義のふりかえり
関連科目	ソーシャル・イノベーション副専攻科目群

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	学びレポート（個人ワーク）30% 「身近な地域の課題解決・魅力磨き」「『地域』に関する文献の整理」成果物（個人ワーク）20% 学びのグループワークレポート 30% 最終報告会でのプレゼンテーション　20%（ルーブリック評価）

	なお、60%で合格とする。
学生への メッセージ	地域で起きていることを自分ごとにしていくための基礎を形成する授業です。また、副専攻科目を履修していくうえでの、基本的な学びができる科目でもあります。基本をしっかり身につけ、さらに学びを深めるためにも、主体的な学びの姿勢を期待します。
担当者の 研究室等	３号館３階　上野山研究室
備考	

科目名	地域貢献実践演習	科目名（英文）	Practical Training for Social Innovation
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野　武.植杉　大.坂口　有芸.橋本　はる美
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：A○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TLO3457a1,L 科：LLO3366a1,D 科・S 科：ILO3366a1,P 科：YLO3422a2,J 科：JLO3368a1,W 科：WLO347a1,N 科：NLO3348a1		

授業概要・ 目的	この科目はソーシャル・イノベーション副専攻過程における実践科目です。4 月・5 月の半ばまではこれまでの講義やフィールドワークで見つけた学びを総合的に活かして、地域の課題により深く関与し、課題の解決を導くための計画策定から、実施、検証に至るまでを主体的に学ぶための準備を行います。５月後半（予定）からは連携先ご担当者様と密に連携しながら、課題の抽出、要因の理解、活動計画の立案を行い、課題解決・低減に向けて実践を行います。現地で実践と振り返りを繰り返しながら、当初立てた目標達成に向けた知識と技術の向上と責任ある行動を続けられる姿勢の確立を目的とします。 SDGs 全般
到達目標	①これまで学んだ理論を実践に結びつけて、考察し行動することができる。 ②課題派遣から解決までの PDCA サイクルを回すことができる ③チームで活動することができる ④チーム内での役割を理解し協調的な行動ができる。 ⑤連携先の多様性、独自性などを理解した上で、解決策を提示することができる。
授業方法と 留意点	4 月・５月までは座学とディスカッションを行うため、講義内で課題が出ることもある。 また前期の途中より各連携先のフィールドに赴き、活動を行う。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	1.オリエンテーション/副専攻修了者のイメージ、受講方法　：4 月 19 日（水）6 限 ※２回目以降の講義の日時は初回の講義にて提示する。なお開講曜日は水曜日６限を予定しているが履修学生の時間割次第で変更になることもある。 2.連携先様によるプレゼンテーションと質疑応答 3.S 科　橋本先生　公開情報を表計算ソフトで分析する/回帰分析、相関分析、平均の比較などを行う 4.W 科 植杉先生　オンライン・データベースを活用した分析手法を学ぶ 5.プレゼンテーション連携先について調べたことを報告 7.以降は　現地に赴き、実践を繰り返す。 ※概ね３週間に一回、全員で集合し途中経過の報告会を行う。日時に関しては担当教員の指示に従うこと。 ※12 月末（日時未定）に成果報告会を行う
関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻課程関連科目
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	課題提出物　30% 活動の取り組み状況　50% 最終報告等　20%
学生への メッセージ	副専攻で学修した成果を実践勝つっどうで発揮しつつ、更に成長できるように主体的に取り組んでくんでほしい。
担当者の 研究室等	７号館３階 １号館７階植杉研究室
備考	

科目名	地域実習	科目名（英文）	Introductory Training for Regional Study
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	朝田　康禎.古矢　篤史
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・ 目的	地域での課題を発見し、それを解決できる力を養うには、まず「地域」というものを体験を通じ理解することから始まります。本科目は、ソーシャルイノベーション副専攻課程１年次の必修科目で、主としてフィールドワークを中心に授業を実施します。また、本科目は２年次の「摂南大学 PBL プロジェクト」、３年次の「地域貢献実践演習」等の基礎となる科目として位置づけしています。地域の人々とのコミュニケーションや協働を通じて、目標の設定から達成までの過程を体験学習により学び、地域での課題等について理解を図ります。 【重要】第１回授業は４月 11 日（火）６時限（18:20）にあります（教室は新学期に案内されます）。この日に出席できない場合は事前に Teams のチャット機能で担当教員に連絡してください。
到達目標	①地域での実態を理解する。 ②チームで働く意義を理解する。 ③役割行動のあり方について理解する。 ④地域の方々とのコミュニケーションができるようになる。
授業方法と 留意点	教室での授業とグループワーク、フィールドワークです。通年授業なので毎週、教室で授業があるのではなく、詳しいスケジュールは第１回授業で案内します。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【重要】第１回授業は４月 11 日（火）６時限（18:20）にあります（教室は新学期に案内されます）。この日の授業で前期の班決めなどをしますので、必ず出席してください。もし、出席できない時は必ず事前に Teams のチャット機能で担当教員に連絡してください。また、授業の性質上、授業開始後、2～3 回たってから参加するということもできません。授業開始後、欠席が続いたままの場合は単位認定できませんので、必ず初回から出席してください。 【授業内容】 1 チーム 10 名以内のチームを作り、地域での活動に取り組みます。 1. 年間計画を作成する。 2. 役割を決める。 3. 地域等で活動を行う。 4. 活動報告をまとめ、ふりかえる。 5. スケジュール管理をする。 6. 課題があれば、チームで話し合い解決に導く。 　上記の 1～6 の活動を通じて自分たちの計画を自ら評価したり改善したりしながら、当初に設定した目標を達成できるよう、チームで協力して計画を実行していきます。第１回授業はで詳しい内容やスケジュールを説明し、受講者がどの取組内容に参加するかなどを決定します。この授業の実習先は寝屋川市の社会教育施設を予定しています。社会教育施設とは図書館、博物館、体育館、ホールなど市民なら誰でも学習にいくことのできる公的施設のことです。このような施設に実習にいくことによって市民が社会教育に参加する意義や運営の課題などを学んでいきます。 【前期】 開講時間はいずれも６時間目です。通年授業なので毎週教室で授業があるのではなく、前期は２週間に１回程度です。実習や実習先挨拶以外の日は学内教室での授業です。具体的な日にちは調整中ですので、第１回授業で案内します。 第１回「ガイダンス（授業概要の説明)」 第２回「寝屋川市の現状を考える(1)」 第３回「寝屋川市の現状を考える(2)」 第４回「寝屋川市まちあるき」(学外) 第５回「社会教育とは(1)」 第６回「社会教育とは(2)」 第７回「まちあるき報告会」 第８回「実習先挨拶」(学外) 第９回「実習先挨拶の結果報告とそのふりかえり」 第 10 回～第 18 回　「実習」(学外)（主に夏季休暇中に行います） 【後期】 後期の詳しい日程・発表方法等は改めてお知らせします。 第 19 回「実習ふりかえり(1)」 第 20 回「実習ふりかえり(2)」 第 21 回「全体報告会」
関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻課程科目
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	提出物（20%）、活動への参画の程度（40%）、最終報告プレゼンテーション（20%）、最終レポート（20%）
学生への メッセージ	地域創生の第一歩を踏み出してみましょう！
担当者の 研究室等	朝田研究室　1 号館 7 階
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	村瀬　憲昭
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・ 目的	市役所（町役場）の職員、自治会の役職者、市民（町民）などの組織・活動グループと学生が直接関わることで、学生の社会人基礎力やプロジェクトの推進・運営などの人間力の向上を図る。プロジェクトを推進し、活動的に行動する経験を基本に就業力の向上を目指す。また、学生のレベルや必要に応じて担当教員が必要な情報の収集方法や、技術の習得方法について指導を行う。実践で習得するものは「段取り」といわれるもので、プロジェクトの中長期的な役割や仕事について、締め切りを設定し、そこから逆算して、いつ何をやるべきか、仕事の道筋を立てる知識と技術、仕事全体をひとつひとつの細かいタスクに分割し、そこで必要な時間をゴール（締切日）から逆算する。 ①調査：地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。 ②企画：具体案を立て、評価（実現可能性、コスト、実施期間、有効性）を行い、詳細な実施計画を立てる。 ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。 ④実施：実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中に実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う ⑤結果報告：プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。 なお、担当教員は国際協力・地域開発に関する実務経験を活かして、これらのプロジェクト運営に関する指導を行う。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。
授業方法と 留意点	基本的には対面授業とするが、オンライン授業になった場合は、ICT ツールを活用した遠隔授業とする。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	社会人として必要な「主体性・実行力・課題発見力・発言力」を連携先との協働作業によって実践的に学ぶ。仕事全体をひとつひとつの細かいタスクに分割し、そこで必要な時間をゴール（締切日）から逆算することで、これらのタスクをいつこなすべきなのかを明確にし、仕事を前倒しでやる習慣を身につける。 具体的には①優先順位を付け、作業手順決定する、②仕事の全体像を把握する、③仕事の準備と計画など。役割分担された内容について、各グループで責任を持って実施し、自分たちで評価・改善ができるようにする。グループをまとめる役割の人は、リーダーシップ能力、その他の人はサポート者の重要性を体感する。 活動対象の地方自治体： 大阪府寝屋川市、交野市、和歌山県すさみ町 SDG s ゴール：9・11・17
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	参加態度 40%、企画力 20%、コミュニケーション能力 20%、発表能力 20%で評価する。
学生への メッセージ	仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要が求められる。
担当者の 研究室等	1 号館 7 階　村瀬研究室
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	村瀬　憲昭
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1～TT01465a1,L科:LT01366a1～LT01370a1,D科・S科:IT01371a1～IT01375a1,J科:JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	市役所（町役場）の職員、自治会の役職者、市民（町民）などの組織・活動グループと学生が直接関わることで、学生の社会人基礎力やプロジェクトの推進・運営などの人間力の向上を図る。プロジェクトを推進し、活動的に行動する経験を基本に就業力の向上を目指す。また、学生のレベルや必要に応じて担当教員が必要な情報の収集方法や、技術の習得方法について指導を行う。実践で習得するものは「段取り」といわれるもので、プロジェクトの中長期的な役割や仕事について、締め切りを設定し、そこから逆算して、いつ何をやるべきか、仕事の道筋を立てる知識と技術、仕事全体をひとつひとつの細かいタスクに分割し、そこで必要な時間をゴール（締切日）から逆算する。 ①調査：地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。 ②企画：具体案を立て、評価（実現可能性、コスト、実施期間、有効性）を行い、詳細な実施計画を立てる。 ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。 ④実施：実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中に実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う ⑤結果報告：プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。 なお、担当教員は国際協力・地域開発に関する実務経験を活かして、これらのプロジェクト運営に関する指導を行う。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。
授業方法と留意点	基本的には対面授業とするが、オンライン授業になった場合は、ICT ツールを活用した遠隔授業とする。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	社会人として必要な「主体性・実行力・課題発見力・発言力」を連携先との協働作業によって実践的に学ぶ。仕事全体をひとつひとつの細かいタスクに分割し、そこで必要な時間をゴール（締切日）から逆算することで、これらのタスクをいつこなすべきなのかを明確にし、仕事を前倒しでやる習慣を身につける。 具体的には①優先順位を付け、作業手順決定する、②仕事の全体像を把握する、③仕事の準備と計画など。役割分担された内容について、各グループで責任を持って実施し、自分たちで評価・改善ができるようにする。グループをまとめる役割の人は、リーダーシップ能力、その他の人はサポート者の重要性を体感する。 活動対象の地方自治体： 大阪府寝屋川市、交野市、和歌山県すさみ町 SDGｓゴール：9・11・17
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	参加態度 40%、企画力 20%、コミュニケーション能力 20%、発表能力 20%で評価する。
学生へのメッセージ	仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要が求められる。
担当者の研究室等	1 号館 7 階　村瀬研究室
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田　裕子
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1～TT01465a1,L科:LT01366a1～LT01370a1,D科・S科:IT01371a1～IT01375a1,J科:JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	授業概要：摂南大学が進める淀川水系の総合研究の実践的な担い手として、寝屋川市内での子どもたちへの環境学習支援および淀川水系での流域連携活動を実施する。流域内の様々な団体と連携し、河川での親水活動や交流会を通じて、流域住民、一般市民へ環境問題や流域の諸問題について普及・啓発する。 目的：寝屋川市自然体験学習室の活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 地域の子どもたちの環境学習支援プログラムの企画・実践の手法を体得する。また、流域連携活動を通じて、淀川水系を中心とした環境保全と河川管理について問題を理解するとともに、その解決策について考察する。特に、淀川水系での環境保全活動や水辺再生の現場を題材に学習・調査を進める。プ ロジェクト全
授業方法と留意点	連携内容・方法：自然体験学習室では、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や淀川愛好会に所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。 留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト 内容： １．寝屋川市自然体験学習室における環境学習支援 ２．点野水辺再生地区を中心とした水辺再生学習の実施 ３．淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 ４．天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 ５．環境保全活動（天然アユ復活、木津川での伝統工法を用いた環境改善）の学習 ６．い い川・いい川づくりワークショップ等での発表 方法：授業のうち半分（月１回）は原則として平常授業期間内の土曜日１・２限に行い、自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。 他の半分（月１回）は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。 学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト（6月）、近畿水環境交流会（8月）、いい川・いい川づくりワークショップ（9-11月）を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。 授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。 事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポート課題を課す。
関連科目	自然・都市環境論、流域・沿岸域工学（以上、C科） 科学技術教養C 教養特別講義「SDGｓで読み解く淀川流域」
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	授業（イベントを含む）に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。(60%) 水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。(40%)
学生へのメッセージ	子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみなさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。
担当者の研究室等	1号館3階　石田研究室
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田　裕子
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科:TT01461a1～TT01465a1,L 科:LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科:IT01371a1～IT01375a1,J 科:JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・ 目的	授業概要：摂南大学が進める淀川水系の総合研究の実践的な担い手として、寝屋川市内での子どもたちへの環境学習支援および淀川水系での流域連携活動を実施する。流域内の様々な団体と連携し、河川での親水活動や交流会を通じて、流域住民、一般市民へ環境問題や流域の諸問題について普及・啓発する。 目的：寝屋川市自然体験学習室の活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 地域の子どもたちの環境学習支援プログラムの企画・実践の手法を体得する。また、流域連携活動を通じて、淀川水系を中心とした環境保全と河川管理について問題を理解するとともに、その解決策について考察する。特に、淀川水系での環境保全活動や水辺再生の現場を題材に学習・調査を進める。プ ロジェクト全
授業方法と 留意点	連携内容・方法：自然体験学習室では、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や淀川愛好会に所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。 留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト 内容： １．寝屋川市自然体験学習室における環境学習支援 ２．点野水辺再生地区を中心とした水辺再生学習の実施 ３．淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 ４．天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 ５．環境保全活動（天然アユ復活、木津川での伝統工法を用いた環境改善）の学習 ６．い い川・いい川づくりワークショップ等での発表 方法：授業のうち半分（月 1 回）は原則として平常授業期間内の土曜日 1・2 限に行い、自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9 月と 12 月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。 他の半分（月 1 回）は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。 学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト（6 月）、近畿水環境交流会（8 月）、いい川・いい川づくりワークショップ（9-11 月）を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。 授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。 事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポート課題を課す。
関連科目	自然・都市環境論、流域・沿岸域工学（以上、C 科） 科学技術教養 C 教養特別講義「SDG s で読み解く淀川流域」
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	授業（イベントを含む）に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。(60%) 水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。(40%)
学生への メッセージ	子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみなさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。
担当者の 研究室等	1 号館 3 階　石田研究室
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田　美保
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TTO1461a1～TTO1465a1,L科：LTO1366a1～LTO1370a1,D科・S科：ITO1371a1～ITO1375a1,J科：JTO1374a～1JTO1378a1,W科：WTO1352a1～WTO1356a1		

授業概要・目的	寝屋川市や周辺地域には、工場などで働く外国人が多くいます。その人たちがよりよい生活を送るには何が必要なのか。受け入れ側である地域の人たちがどのよう意識を持ち、どう関わればいいのかを考え、様々な文化の人たちが共生していくための活動を考え、実践します。(プロジェクト参加にあたり、外国語力は不問です)
到達目標	①多文化共生をめぐる課題や外国人住民、外国人労働者がかかえる現状と課題を理解し、課題を自分事としてとらえることができる。 ②多文化共生をめぐる課題や外国人住民、外国人労働者がかかえる課題の解決に向けて、具体的な行動計画を立てたうえで、提案し、実施することができる。 ③異なる文化的背景を持つ多様な人々と対話し、相手の意見を尊重しながら、自身の考えを構築し、説明し、一定の合意形成を図ることができる。
授業方法と留意点	グループでの活動が中心となり、外部機関（寝屋川市国際交流協会）とも連携し、活動を行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【内容】 ・多文化共生の現状と課題 ・やさしい日本語 ・在住外国人との交流、インタビュー活動 ・箕面市国際交流協会見学 ・寝屋川市国際交流協会多文化共生フェスタへの参加 【方法】 ・多文化共生の現状と課題、やさしい日本語：講義+演習形式 ・その他の内容：グループで話し合い、活動を行う 【事後学習】 受講生には活動日誌を配布する。ミーティングおよび各活動後に話し合いや活動の内容、感想、反省点を記録すること。 プロジェクト終了時に最終レポートを提出してもらう。レポートはプロジェクトを通して学んだこと、自身が貢献できた点、不足していた点を振り返るものとする。
関連科目	グローバル・シチズンシップ論（入門）、グローバルシチズンシップ論（応用）
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	各活動への貢献度 60%、活動日誌・最終レポート 40%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	鎌田講師室（２号館２階）
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田　美保
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TTO1461a1～TTO1465a1,L科：LTO1366a1～LTO1370a1,D科・S科：ITO1371a1～ITO1375a1,J科：JTO1374a～1JTO1378a1,W科：WTO1352a1～WTO1356a1		

授業概要・目的	寝屋川市や周辺地域には、工場などで働く外国人が多くいます。その人たちがよりよい生活を送るには何が必要なのか。受け入れ側である地域の人たちがどのよう意識を持ち、どう関わればいいのかを考え、様々な文化の人たちが共生していくための活動を考え、実践します。(プロジェクト参加にあたり、外国語力は不問です)
到達目標	①多文化共生をめぐる課題や外国人住民、外国人労働者がかかえる現状と課題を理解し、課題を自分事としてとらえることができる。 ②多文化共生をめぐる課題や外国人住民、外国人労働者がかかえる課題の解決に向けて、具体的な行動計画を立てたうえで、提案し、実施することができる。 ③異なる文化的背景を持つ多様な人々と対話し、相手の意見を尊重しながら、自身の考えを構築し、説明し、一定の合意形成を図ることができる。
授業方法と留意点	グループでの活動が中心となり、外部機関（寝屋川市国際交流協会）とも連携し、活動を行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【内容】 ・多文化共生の現状と課題 ・やさしい日本語 ・在住外国人との交流、インタビュー活動 ・箕面市国際交流協会見学 ・寝屋川市国際交流協会多文化共生フェスタへの参加 【方法】 ・多文化共生の現状と課題、やさしい日本語：講義+演習形式 ・その他の内容：グループで話し合い、活動を行う 【事後学習】 受講生には活動日誌を配布する。ミーティングおよび各活動後に話し合いや活動の内容、感想、反省点を記録すること。 プロジェクト終了時に最終レポートを提出してもらう。レポートはプロジェクトを通して学んだこと、自身が貢献できた点、不足していた点を振り返るものとする。
関連科目	グローバル・シチズンシップ論（入門）、グローバルシチズンシップ論（応用）
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	各活動への貢献度 60%、活動日誌・最終レポート 40%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	鎌田講師室（２号館２階）
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	朝田　康禎
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	プロジェクト名：音楽イベントを創ろう！ 【概要】 寝屋川市の地域交流センターであるアルカスホールの自主事業を企画から実施まで担当する。2023 年度は，観客数 50-60 名程度の比較的小規模なコンサートについて，スタッフのご指導のもと，企画から出演者との交渉・経理・準備・実施・事後処理までを行う。 【目的】 アルカスホールでは，毎年自主事業としてさまざまなイベントを企画・運営している。学生の発想・感覚を活かしたものにしたいとのことから，企画段階から学生の参画が求められている。指定管理者が行う自主事業運営に興味をもつ学生と現場スタッフが協働で事業を企画し，運営を行うことにより，企業がもつノウハウを学生が学ぶとともに，学生などの若い世代が参加できる自主事業を実現する。
到達目標	【PBL プロジェクト到達目標（共通)】 本プロジェクトでは，参加メンバー・学外の連携先との協働を通して，「主体性を持って前向きに取り組む力」，「自分とは異なった価値観を受け入れる力」，「課題を発見し，解決する力」を身につけるとともに，新しい価値の創造を目指す。 上記に加えて，本プロジェクトでは以下のことも到達目標とする。 １．市民のニーズを把握した上で自由な発想に基づき，新しい音楽イベントを企画・運営する。 ２．十分な準備を行った上でイベントを成功に導く。 ３．イベント後の処理を適切に行う。
授業方法と留意点	連携先や学生同士など，人と関わりながら学ぶことが中心となる。積極的に関わることが求められる。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業計画】 ４月　ご挨拶 ５月　企画会議 ６月　自主事業内容の決定および出演交渉 ７月　中間報告会 寝屋川市に報告，寝屋川市広報に記事掲載依頼 ８月　チラシのデザイン作業 ９月　チラシの印刷・配付およびチケット作成 10 月　ポスターセッション チケット発売開始 11 月　打ち合わせ（出演者，舞台スタッフ，学生関係者） 12 月　最終報告会 準備および本番 この他に「基礎講座」全９回を受講すること これらの活動を通じて，以下のことを身につける。 １．イベントがどのように企画・運営されているのか，体験的に知る。 ２．企画したイベントが実行されるまでのスケジュール管理を身につける。 ３．連携先・出演者との交渉をする中で，社会人として必要なマナーを身につける。 ４．メンバー及び連携先とのディスカッションを通じて，「質の高い意思決定」ができるようになる。 ５．他のイベント等に応用可能な一般的な知識を得る。
関連科目	すべての科目
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	普段のグループワークへの参加状況・貢献度（50%）、フィールドワーク当日の参加状況・貢献度（30%）、発表会における評価（20%）を総合して判断する。
学生へのメッセージ	みなさまが一からイベントを創り上げていくプロジェクトです。イベントの成功はみなさまにかかっています。主体的に取り組んでくださることを望みます。
担当者の研究室等	１号館７階（朝田）
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	朝田　康禎
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	プロジェクト名：音楽イベントを創ろう！ 【概要】 寝屋川市の地域交流センターであるアルカスホールの自主事業を企画から実施まで担当する。2023 年度は，観客数 50-60 名程度の比較的小規模なコンサートについて，スタッフのご指導のもと，企画から出演者との交渉・経理・準備・実施・事後処理までを行う。 【目的】 アルカスホールでは，毎年自主事業としてさまざまなイベントを企画・運営している。学生の発想・感覚を活かしたものにしたいとのことから，企画段階から学生の参画が求められている。指定管理者が行う自主事業運営に興味をもつ学生と現場スタッフが協働で事業を企画し，運営を行うことにより，企業がもつノウハウを学生が学ぶとともに，学生などの若い世代が参加できる自主事業を実現する。
到達目標	【PBL プロジェクト到達目標（共通）】 本プロジェクトでは，参加メンバー・学外の連携先との協働を通して，「主体性を持って前向きに取り組む力」，「自分とは異なった価値観を受け入れる力」，「課題を発見し，解決する力」を身につけるとともに，新しい価値の創造を目指す。 上記に加えて，本プロジェクトでは以下のことも到達目標とする。 １．市民のニーズを把握した上で自由な発想に基づき，新しい音楽イベントを企画・運営する。 ２．十分な準備を行った上でイベントを成功に導く。 ３．イベント後の処理を適切に行う。
授業方法と留意点	連携先や学生同士など，人と関わりながら学ぶことが中心となる。積極的に関わることが求められる。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業計画】 ４月　ご挨拶 ５月　企画会議 ６月　自主事業内容の決定および出演交渉 ７月　中間報告会 寝屋川市に報告，寝屋川市広報に記事掲載依頼 ８月　チラシのデザイン作業 ９月　チラシの印刷・配付およびチケット作成 10 月　ポスターセッション チケット発売開始 11 月　打ち合わせ（出演者，舞台スタッフ，学生関係者） 12 月　最終報告会 準備および本番 この他に「基礎講座」全９回を受講すること これらの活動を通じて，以下のことを身につける。 １．イベントがどのように企画・運営されているのか，体験的に知る。 ２．企画したイベントが実行されるまでのスケジュール管理を身につける。 ３．連携先・出演者との交渉をする中で，社会人として必要なマナーを身につける。 ４．メンバー及び連携先とのディスカッションを通じて，「質の高い意思決定」ができるようになる。 ５．他のイベント等に応用可能な一般的な知識を得る。
関連科目	すべての科目
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	普段のグループワークへの参加状況・貢献度（50%）、フィールドワーク当日の参加状況・貢献度（30%）、発表会における評価（20%）を総合して判断する。
学生へのメッセージ	みなさまが一からイベントを創り上げていくプロジェクトです。イベントの成功はみなさまにかかっています。主体的に取り組んでくださることを望みます。
担当者の研究室等	１号館７階（朝田）
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	増田　知也
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TTO1461a1～TTO1465a1,L科：LTO1366a1～LTO1370a1,D科・S科：ITO1371a1～ITO1375a1,J科：JTO1374a～1JTO1378a1,W科：WTO1352a1～WTO1356a1		

授業概要・目的	自治会等において、LINEによる情報共有が主流となりつつあるが、全員が活用できていない状況がある。本プロジェクトでは、学生が中心となってLINE等のSNS活用方法の説明会を開催し、地域コミュニティのデジタル化および世代間の交流を実現することを目指す。 SNS という新たなコミュニケーションの方法を活用することにより、コロナ禍における地域活動の閉塞状況を打開し、地域コミュニティの活性化につなげることが目的である。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。
授業方法と留意点	定期的に会議を開催し、プロジェクトの進捗や課題について確認しながら、プロジェクトの目的達成を目指す。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	4月　オリエンテーション 5月　寝屋川市・自治会との打ち合わせ 6～7月　説明会準備 8～9月　説明会実施 10月　ポスターセッション 11月　最終報告会準備 12月　最終報告会 説明会では、SNS の使い方やセキュリティについてプレゼンテーションを行った上で、参加者との座談会形式で SNS の使い方に親しんでもらう。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	主体性　25% 協調性　25% 課題発見・解決力　25% プロジェクトへの貢献　25%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11号館10階
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	増田　知也
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TTO1461a1～TTO1465a1,L科：LTO1366a1～LTO1370a1,D科・S科：ITO1371a1～ITO1375a1,J科：JTO1374a～1JTO1378a1,W科：WTO1352a1～WTO1356a1		

授業概要・目的	自治会等において、LINEによる情報共有が主流となりつつあるが、全員が活用できていない状況がある。本プロジェクトでは、学生が中心となってLINE等のSNS活用方法の説明会を開催し、地域コミュニティのデジタル化および世代間の交流を実現することを目指す。 SNS という新たなコミュニケーションの方法を活用することにより、コロナ禍における地域活動の閉塞状況を打開し、地域コミュニティの活性化につなげることが目的である。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。
授業方法と留意点	定期的に会議を開催し、プロジェクトの進捗や課題について確認しながら、プロジェクトの目的達成を目指す。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	4月　オリエンテーション 5月　寝屋川市・自治会との打ち合わせ 6～7月　説明会準備 8～9月　説明会実施 10月　ポスターセッション 11月　最終報告会準備 12月　最終報告会 説明会では、SNS の使い方やセキュリティについてプレゼンテーションを行った上で、参加者との座談会形式で SNS の使い方に親しんでもらう。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	主体性　25% 協調性　25% 課題発見・解決力　25% プロジェクトへの貢献　25%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11号館10階
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	小林　基
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・ 目的	枚方市東部地域は、大都市圏内の近郊住宅地に隣接しながらも、美しい農地や里山景観を残している。一方、高齢化と人口減少による地域衰退も危惧され、現地の人々により地域を活性化する必要があるという認識が生じている。 このプロジェクトでは、今後の当該地域の社会経済の持続的な発展に資することを目指し、2025年日本国際博覧会（「大阪・関西万博」）および「ひらかた万博」の時期に合わせて当該地域の魅力を発信するため、以下の二点を目的として設定する。 （1）枚方市東部地域における多様な地域資源を探索し、フィールドワークと実体験を通じてその魅力を自分なりに再発見し、表現する。 （2）当該地域の魅力を国内の他地域の人々および海外からの来訪者に向けて発信するために妥当な方策を提案する。
到達目標	（1）主体的に課題を設定し調査から報告までに至る計画を立て、実行する姿勢・能力を身に付ける。 （2）チームワークに必要な能力（リーダーシップ／フォロワーシップ、スケジューリング／リスケジューリング、メンバーや教員、協力先との調整能力等）を身に付ける。 （3）現地での体験・観察・聞き取りを通じて、自らの言葉で地域の魅力を発見し、表現（報告）することができる。 （4）現地の課題や条件および現地の人々が積み上げてきた成果を踏まえ、具体性・実現可能性のある企画を提案できる。 （5）
授業方法と 留意点	本授業は、おおまかに（1）学内での事前準備、（2）フィールドワーク、（3）成果の共有および企画提案、（4）成果発表の準備、（5）成果発表の五つのフェーズによって構成される。前期・後期と一連のサイクルを繰り返すことにより報告・提案内容をブラッシュアップしてゆく。 なお、場合によっては、複数の日程にわたり同じフェーズを繰り返す場合、同日に複数のフェーズが行われる場合、一つのフェーズを二回以上に分けて行う場合など、臨機応変にプロセスを再編することもある。 （1）事前準備［学内］
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	授業テーマごとの実施回数や日程については、進度や現地との交渉などを勘案し、柔軟かつ臨機応変に決定する。 【前期】 （1）オリエンテーション 授業の概要説明や自己紹介・アイスブレーク、グループ分け等を行う。事前・事後学習：枚方東部についての情報収集、各自扱いたいテーマを検討しておく。 （2）テーマ設定、フィールドワークの準備 グループごとの課題設定とフィールドワークの準備にとりかかる。事前・事後学習：枚方東部についての情報収集、各自扱いたいテーマを検討しておく。 （3）フィールドワーク（インタビュー、散策、各種活動への参加等） フィールドワークを実施する。事前・事後学習：現地についての情報収集、メンバー間・現地とのスケジュールの共有、成果についてのメモ作成 （4）成果の共有と方策の提案 フィールドワークの成果を共有し、整理しておく。成果を踏まえ、提案についてのアイデアをまとめる。事前・事後学習：成果についてのメモ作成、検討したい提案についてのアイデアを各自考えておく。 （5）発表資料作成 グループごとに提案内容を検討し発表資料を作成する。事前・事後学習：発表のリハーサル （6）中間発表会 グループごとに成果を報告する。事前・事後学習：発表のリハーサル、聴衆からのフィードバックをまとめる。 【夏季休暇期間～後期】 （1）フィールドワークの準備

<table>
<tr><td></td><td>グループごとの課題の調整とフィールドワークの準備にとりかかる。事前・事後学習：枚方東部についての情報収集、各自扱いたいテーマを検討しておく。

（2）フィールドワーク

フィールドワークを実施する。事前・事後学習：現地についての情報収集、メンバー間・現地とのスケジュールの共有、成果についてのメモ作成

（3）提案のブラッシュアップと発表資料作成

成果を踏まえ、提案についてのアイデアを改良する。事前・事後学習：成果についてのメモ作成、提案の改善についてを各自検討しておく。

（4）大学祭での発表

グループごとに成果を報告する。事前・事後学習：発表のリハーサル、聴衆からのフィードバックをまとめる。

（5）最終発表会

グループごとに成果を報告する。事前・事後学習：発表のリハーサル、聴衆からのフィードバックをまとめる。</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td></td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>（1）グループワークへの貢献度（40%）：フィールドワーク、ディスカッション、成果物の制作から発表に至るプロセスへの積極的な参加。

（2）成果報告・企画・制作物の完成度（60%）：テーマ設定と報告・提案内容および方法の妥当性、具体性、実現可能性、調査の精度、表現の工夫・巧みさ、オリジナリティ。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>本授業は履修生が主体となり、自らプロジェクトを動かす気持ちで積極的に参加・貢献することに期待している。教員はサポートに徹し、履修生の希望にできる限り答えたいと考えている。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>寝屋川キャンパス７号館５階　小林研究室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td></td></tr>
</table>

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	小林　基
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・ 目的	枚方市東部地域は、大都市圏内の近郊住宅地に隣接しながらも、美しい農地や里山景観を残している。一方、高齢化と人口減少による地域衰退も危惧され、現地の人々により地域を活性化する必要があるという認識が生じている。 このプロジェクトでは、今後の当該地域の社会経済の持続的な発展に資することを目指し、2025年日本国際博覧会（「大阪・関西万博」）および「ひらかた万博」の時期に合わせて当該地域の魅力を発信するため、以下の二点を目的として設定する。 （1）枚方市東部地域における多様な地域資源を探索し、フィールドワークと実体験を通じてその魅力を自分なりに再発見し、表現する。 （2）当該地域の魅力を国内の他地域の人々および海外からの来訪者に向けて発信するために妥当な方策を提案する。
到達目標	（1）主体的に課題を設定し調査から報告までに至る計画を立て、実行する姿勢・能力を身に付ける。 （2）チームワークに必要な能力（リーダーシップ／フォロワーシップ、スケジューリング／リスケジューリング、メンバーや教員、協力先との調整能力等）を身に付ける。 （3）現地での体験・観察・聞き取りを通じて、自らの言葉で地域の魅力を発見し、表現（報告）することができる。 （4）現地の課題や条件および現地の人々が積み上げてきた成果を踏まえ、具体性・実現可能性のある企画を提案できる。 （5）
授業方法と 留意点	本授業は、おおまかに（1）学内での事前準備、（2）フィールドワーク、（3）成果の共有および企画提案、（4）成果発表の準備、（5）成果発表の五つのフェーズによって構成される。前期・後期と一連のサイクルを繰り返すことにより報告・提案内容をブラッシュアップしてゆく。 なお、場合によっては、複数の日程にわたり同じフェーズを繰り返す場合、同日に複数のフェーズが行われる場合、一つのフェーズを二回以上に分けて行う場合など、臨機応変にプロセスを再編することもある。 （1）事前準備［学内］
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	授業テーマごとの実施回数や日程については、進度や現地との交渉などを勘案し、柔軟かつ臨機応変に決定する。 【前期】 （1）オリエンテーション 授業の概要説明や自己紹介・アイスブレーク、グループ分け等を行う。事前・事後学習：枚方東部についての情報収集、各自扱いたいテーマを検討しておく。 （2）テーマ設定、フィールドワークの準備 グループごとの課題設定とフィールドワークの準備にとりかかる。事前・事後学習：枚方東部についての情報収集、各自扱いたいテーマを検討しておく。 （3）フィールドワーク（インタビュー、散策、各種活動への参加等） フィールドワークを実施する。事前・事後学習：現地についての情報収集、メンバー間・現地とのスケジュールの共有、成果についてのメモ作成 （4）成果の共有と方策の提案 フィールドワークの成果を共有し、整理しておく。成果を踏まえ、提案についてのアイデアをまとめる。事前・事後学習：成果についてのメモ作成、検討したい提案についてのアイデアを各自考えておく。 （5）発表資料作成 グループごとに提案内容を検討し発表資料を作成する。事前・事後学習：発表のリハーサル （6）中間発表会 グループごとに成果を報告する。事前・事後学習：発表のリハーサル、聴衆からのフィードバックをまとめる。 【夏季休暇期間～後期】 （1）フィールドワークの準備

<table>
<tr><td></td><td>グループごとの課題の調整とフィールドワークの準備にとりかかる。事前・事後学習：枚方東部についての情報収集、各自扱いたいテーマを検討しておく。

（2）フィールドワーク

フィールドワークを実施する。事前・事後学習：現地についての情報収集、メンバー間・現地とのスケジュールの共有、成果についてのメモ作成

（3）提案のブラッシュアップと発表資料作成

成果を踏まえ、提案についてのアイデアを改良する。事前・事後学習：成果についてのメモ作成、提案の改善についてを各自検討しておく。

（4）大学祭での発表

グループごとに成果を報告する。事前・事後学習：発表のリハーサル、聴衆からのフィードバックをまとめる。

（5）最終発表会

グループごとに成果を報告する。事前・事後学習：発表のリハーサル、聴衆からのフィードバックをまとめる。</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td></td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>（1）グループワークへの貢献度（40%）：フィールドワーク、ディスカッション、成果物の制作から発表に至るプロセスへの積極的な参加。

（2）成果報告・企画・制作物の完成度（60%）：テーマ設定と報告・提案内容および方法の妥当性、具体性、実現可能性。調査の精度、表現の工夫・巧みさ、オリジナリティ。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>本授業は履修生が主体となり、自らプロジェクトを動かす気持ちで積極的に参加・貢献することに期待している。教員はサポートに徹し、履修生の希望にできる限り答えたいと考えている。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>寝屋川キャンパス７号館５階　小林研究室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td></td></tr>
</table>

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野　武
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	「門真市子ども LOBBY」は、子どもたちの日常に寄り添う居場所になることを目的とする施設である。本プロジェクトは、施設を利用する子どもたち及び不登校児童に対して、大学生は何ができるのかについて考え、支援の実践を行うプロジェクトであり、活動内容は参加できる曜日・時間帯に子どもたちと一緒に遊び、学習を行うための居場所を作ること、イベントの準備やお手伝いを行うことである。 門真市子ども LOBBY を利用する子どもには、彼ら彼女らの日常に寄り添い一緒に遊ぶ、考える、学ぶことをしてくれる大人・大学生が必要であり、大学生の皆さんには活動を通して、子どもたちにとって「お手本＝ロールモデル」となることが期待される。
到達目標	■PBL プロジェクト到達目標(共通) 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけると共に、新しい価値の想像を目指す。 ■「子どもの居場所で大学生ができることを考える」プロジェクトの到達目標 ・貧困問題への理解等、社会状況の理解できる ・メンバーおよび子どもたちと相互受容できる関係を築く ・子どもたちの非認知能力の向上に務める
授業方法と留意点	現地での活動を必ず内省すること。 能動的に参加すること。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	４月：連携先さまとの顔合わせ ５月：門真市の子どもの現状および子ども政策について学ぶ(仮)、活動にあたっての諸研修 ６月・７月：子ども lobby での子ども支援活動 ７月：中間報告（PBL 基礎講座内でここまでの活動を振り返る） ８月・９月：子ども lobby での子ども支援活動 １０月：子ども lobby でのハロウィンイベントの企画立案と実施(仮) １１月：子ども lobby での子ども支援活動 １２月：クリスマスイベントの企画立案と実施(仮)、最終報告会
関連科目	地域貢献実践演習など副専攻科目。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	日々の活動 40%,アセスメントの受検 10%, 中間報告 20% ,最終報告 30%
学生へのメッセージ	地域に貢献できるようにメンバー全員で知恵を絞って進めていきましょう。
担当者の研究室等	水野講師室（７号館３階）
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野　武
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TTO1461a1～TTO1465a1,L科：LTO1366a1～LTO1370a1,D科・S科：ITO1371a1～ITO1375a1,J科：JTO1374a～1JTO1378a1,W科：WTO1352a1～WTO1356a1		

授業概要・目的	「門真市子ども LOBBY」は、子どもたちの日常に寄り添う居場所になることを目的とする施設である。本プロジェクトは、施設を利用する子どもたち及び不登校児童に対して、大学生は何ができるのかについて考え、支援の実践を行うプロジェクトであり、活動内容は参加できる曜日・時間帯に子どもたちと一緒に遊び、学習を行うための居場所を作ること、イベントの準備やお手伝いを行うことである。 門真市子ども LOBBY を利用する子どもには、彼ら彼女らの日常に寄り添い一緒に遊ぶ、考える、学ぶことをしてくれる大人・大学生が必要であり、大学生の皆さんには活動を通して、子どもたちにとって「お手本＝ロールモデル」となることが期待される。
到達目標	■PBL プロジェクト到達目標(共通) 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけると共に、新しい価値の想像を目指す。 ■「子どもの居場所で大学生ができることを考える」プロジェクトの到達目標 ・貧困問題への理解等、社会状況の理解できる ・メンバーおよび子どもたちと相互受容できる関係を築く ・子どもたちの非認知能力の向上に務める
授業方法と留意点	現地での活動を必ず内省すること。 能動的に参加すること。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	４月：連携先さまとの顔合わせ ５月：門真市の子どもの現状および子ども政策について学ぶ(仮)、活動にあたっての諸研修 ６月・７月：子ども lobby での子ども支援活動 ７月：中間報告（PBL 基礎講座内でここまでの活動を振り返る） ８月・９月：子ども lobby での子ども支援活動 １０月：子ども lobby でのハロウィンイベントの企画立案と実施(仮) １１月：子ども lobby での子ども支援活動 １２月：クリスマスイベントの企画立案と実施(仮)、最終報告会
関連科目	地域貢献実践演習など副専攻科目。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	日々の活動 40%,アセスメントの受検 10%, 中間報告 20% ,最終報告 30%
学生へのメッセージ	地域に貢献できるようにメンバー全員で知恵を絞って進めていきましょう。
担当者の研究室等	水野講師室（７号館３階）
備考	